科目名	Intensive English W/R　I	開講年度	2025
担当者	正田　久美	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	TOEIC スコアアップに向けた英語力としての語彙・文法・読解の基本的スキルの強化		
授業の目的及び概要	本授業は 1 週間に 2 回行われ、①全体的な英語力強化と②TOEIC テストでのスコアアップを目的とします。 ①では、英語の理解に必要とされる高頻度語 1,500 語と基本的な文法項目の受容的知識の定着を図ります。授業では、教科書並びに e-Learning 教材からのインプットにより知識を蓄え、演習問題やアウトプット活動を通じて知識を定着させ、単文や構造が明快な重文・複文であれば読み取れる、聞き取れるようになることを目指します。 ②では、TOEIC 問題演習に取り組むことで、①で身に付けた知識をテストで使える知識へと昇華していきます。また、就業力 育成の観点から論理的思考力や幅広い視野を育み、国際通用力を図る基準として TOEIC を位置づけ、国際社会で使える英語技能を備えた英語運用能力を身に付けます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本授業の学修到達目標は、語彙・文法・長文・アウトプットに関してそれぞれ以下のように設定します。 【文法・語彙】 １．文章中に表れる授業で扱った文法・語彙に気づき、その意味が分かる。 ２．各授業で行われる高頻度語に関する小テストにおいて、70%以上正答することができる。 ３．授業で扱った文法・語彙・教科書内容に関する明示的知識を問うテストにおいて、70%以上正答することができる。 ３．授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を身に付け、他者に説明することができる。 ４．授業で扱った文法・語彙を使って、正しい文法・語法で文章やパッセージを作成することができる。 【長文】 １．授業で扱った文法・語彙で構成されたまとまりのある文章を理解し、その要約をすることができる。 ２．授業で扱った文法・語彙のみで構成されたまとまりのある文章を理解し、自分の意見を交えながら他者に伝えることができる。 【アウトプット】 １．授業で扱った語彙・文章を正確に英語らしく発音することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストおよび課題で出される e-Learning について授業内でのフィードバックを行う。 レビュークイズについても授業のなかでフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	＜全クラス共通＞ ①Everyday English Grammar＜Fourth Edition＞、水島孝司、南雲堂、2024 年 ②[改訂版] TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル 500、西谷敦子ほか、朝日出版社、2025 年（通年）	ISBN	①9784523179597 ②9784255157320（通年）

参考書	なし	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	70	
	その他の内容	①レビュークイズ：40%（20%×2 回） ②e-Learning 学修：10% ③TOEIC：20%（共通目標達成で 10%、発展目標達成で 10%）	
この科目の受講にあたって	グローバルな社会で活躍するためには、コミュニケーションツールとしての英語力が必要です。また、実践的な英語力を身につけるためには、常に英語に触れる環境が必要です。授業では、英語の基本的能力を身につける学修で英語力の基本を固めつつ、読解演習を通して応用力を培います。毎回の授業では多くの課題が出されます。e-Learning 学修による語彙の増強、英文法の確認や TOEIC 問題の予習・復習など、課内だけでなく課外での学修を進めることで、自学自修の習慣を身につけてください。授業では積極的に参加し、発言してください。 学修の成果を測るため、各学期に実施される TOEIC IP テストを受験します。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション：授業概要、評価方法、授業の進め方の説明	事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２回	対面	イントロダクション：授業概要、評価方法、授業の進め方の説明	事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第３回	対面	英文法演習（1）：U.1 be 動詞、U.3 be 動詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第４回	対面	TOEIC 演習（1）：U. L-1：人物が写っている写真	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第５回	対面	英文法演習（2）：U.2 一般動詞、U.5 一般動詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第６回	対面	TOEIC 演習（2）：U. R-1 品詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第７回	対面	英文法演習（3）：U.16 形容詞、U.17 副詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第８回	対面	TOEIC 演習（3）： U. L-2 人が写っていない写真	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第９回	対面	英文法演習（4）：U.22 不定詞、U.24 分詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１０回	対面	TOEIC 演習（4）：U. R-2 動詞の形 1（能動態・受動態）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１１回	対面	英文法演習（5）：U.23 動名詞、U.24 分詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認	2 時間

			し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、中間レビュークイズ（英文法）の準備	
第１２回	対面	TOEIC 演習（5）：U. L-3 疑問詞疑問文	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、中間レビュークイズ（TOEIC）の準備	2 時間
第１３回	対面	中間レビュークイズ（英文法）	事前学修：中間レビュークイズ（英文法）に向けた復習 事後学修：小テストの準備	2 時間
第１４回	対面	中間レビュークイズ（TOEIC）	事前学修：中間レビュークイズ（TOEIC）に向けた復習 事後学修：小テストの準備	2 時間
第１５回	対面	中間レビュークイズ（英文法）見直し 英文法演習（6）：U.13 名詞・冠詞、U.14 代名詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：中間レビュークイズ（英文法）の復習、小テストの準備	2 時間
第１６回	対面	中間レビュークイズ（TOEIC）見直し TOEIC 演習（6）：U. R-3 動詞の形 2（時制・その他）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：中間レビュークイズ（TOEIC）の復習、小テストの準備	2 時間
第１７回	対面	英文法演習（7）：U.15 前置詞、U.20 接続詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１８回	対面	TOEIC 演習（7）：U. L-4 Yes/No 疑問文・その他の疑問文	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１９回	対面	英文法演習（8）：U.11・12 助動詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２０回	対面	TOEIC 演習（8）：U. R-4 前置詞・接続詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２１回	対面	英文法演習（9）：U.21 受け身（受動態）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２２回	対面	TOEIC 演習（9）：U. L-5 平叙文・意外な応答	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２３回	対面	英文法演習（10）：U.25 現在完了	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、期末レビュークイズ（英文法）に向けた復習	2 時間
第２４回	対面	TOEIC 演習（10）：U. R-5 代名詞・関係代名詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、期末レビュークイズ（TOEIC）に向けた復習	2 時間
第２５回	対面	期末レビュークイズ（英文法）	事前学修：期末レビュークイズ（英文法）に向けた復習	2 時間
第２６回	対面	期末レビュークイズ（TOEIC）	事前学修：期末レビュークイズ（TOEIC）に向けた復習	2 時間
第２７回	対面	期末レビュークイズ（英文法）の見直し	事後学修：期末レビュークイズ（英文法）の見直しと結果に応じた復習、春学期学修内容（英文法）の総復習	2 時間
第２８回	対面	期末レビュークイズ（TOEIC）の見直し	事後学修：期末レビュークイズ（TOEIC）の見直しと結果に応じた復習、春学期学修内容（TOEIC）の総復習	2 時間

第２９回	オンデマンド	期末レビュークイズ（英文法）に向けたポイント解説・復習	事後学修：期末レビュークイズ（英文法）に向けた復習	2 時間
第３０回	オンデマンド	期末レビュークイズ（TOEIC）に向けたポイント解説・復習	事後学修：期末レビュークイズ（TOEIC）に向けた復習	2 時間

科目名	Intensive English W/R　I	開講年度	2025
担当者	土田　智佳子	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	TOEIC スコアアップに向けた英語力としての語彙・文法・読解の基本的スキルの強化		
授業の目的及び概要	本授業は 1 週間に 2 回行われ、①全体的な英語力強化と②TOEIC テストでのスコアアップを目的とします。 ①では、英語の理解に必要とされる高頻度語 1,500 語と基本的な文法項目の受容的知識の定着を図ります。授業では、教科書並びに e-Learning 教材からのインプットにより知識を蓄え、演習問題やアウトプット活動を通じて知識を定着させ、単文や構造が明快な重文・複文であれば読み取れる、聞き取れるようになることを目指します。 ②では、TOEIC 問題演習に取り組むことで、①で身に付けた知識をテストで使える知識へと昇華していきます。また、就業力 育成の観点から論理的思考力や幅広い視野を育み、国際通用力を図る基準として TOEIC を位置づけ、国際社会で使える英語技能を備えた英語運用能力を身に付けます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本授業の学修到達目標は、語彙・文法・長文・アウトプットに関してそれぞれ以下のように設定します。 【文法・語彙】 １．文章中に表れる授業で扱った文法・語彙に気づき、その意味が分かる。 ２．各授業で行われる高頻度語に関する小テストにおいて、70%以上正答することができる。 ３．授業で扱った文法・語彙・教科書内容に関する明示的知識を問うテストにおいて、70%以上正答することができる。 ３．授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を身に付け、他者に説明することができる。 ４．授業で扱った文法・語彙を使って、正しい文法・語法で文章やパッセージを作成することができる。 【長文】 １．授業で扱った文法・語彙で構成されたまとまりのある文章を理解し、その要約をすることができる。 ２．授業で扱った文法・語彙のみで構成されたまとまりのある文章を理解し、自分の意見を交えながら他者に伝えることができる。 【アウトプット】 １．授業で扱った語彙・文章を正確に英語らしく発音することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストおよび課題で出される e-Learning について授業内でのフィードバックを行う。 レビュークイズについても授業のなかでフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	＜全クラス共通＞ ①Everyday English Grammar＜Fourth Edition＞、水島孝司、南雲堂、2024 年 ②[改訂版] TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル 500、西谷敦子ほか、朝日出版社、2025 年（通年）	ISBN	①9784523179597 ②9784255157320（通年）

参考書	なし	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	70	
	その他の内容	①レビュークイズ：40%（20%×2 回） ②e-Learning 学修：10% ③TOEIC：20%（共通目標達成で 10%、発展目標達成で 10%）	
この科目の受講にあたって	グローバルな社会で活躍するためには、コミュニケーションツールとしての英語力が必要です。また、実践的な英語力を身につけるためには、常に英語に触れる環境が必要です。授業では、英語の基本的能力を身につける学修で英語力の基本を固めつつ、読解演習を通して応用力を培います。毎回の授業では多くの課題が出されます。e-Learning 学修による語彙の増強、英文法の確認や TOEIC 問題の予習・復習など、課内だけでなく課外での学修を進めることで、自学自修の習慣を身につけてください。授業では積極的に参加し、発言してください。 学修の成果を測るため、各学期に実施される TOEIC IP テストを受験します。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション：授業概要、評価方法、授業の進め方の説明	事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２回	対面	イントロダクション：授業概要、評価方法、授業の進め方の説明	事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第３回	対面	英文法演習（1）：U.1 be 動詞、U.3 be 動詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第４回	対面	TOEIC 演習（1）：U. L-1：人物が写っている写真	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第５回	対面	英文法演習（2）：U.2 一般動詞、U.5 一般動詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第６回	対面	TOEIC 演習（2）：U. R-1 品詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第７回	対面	英文法演習（3）：U.16 形容詞、U.17 副詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第８回	対面	TOEIC 演習（3）： U. L-2 人が写っていない写真	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第９回	対面	英文法演習（4）：U.22 不定詞、U.24 分詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１０回	対面	TOEIC 演習（4）：U. R-2 動詞の形 1（能動態・受動態）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１１回	対面	英文法演習（5）：U.23 動名詞、U.24 分詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認	2 時間

			し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、中間レビュークイズ（英文法）の準備	
第１２回	対面	TOEIC 演習（5）：U. L-3 疑問詞疑問文	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、中間レビュークイズ（TOEIC）の準備	2 時間
第１３回	対面	中間レビュークイズ（英文法）	事前学修：中間レビュークイズ（英文法）に向けた復習 事後学修：小テストの準備	2 時間
第１４回	対面	中間レビュークイズ（TOEIC）	事前学修：中間レビュークイズ（TOEIC）に向けた復習 事後学修：小テストの準備	2 時間
第１５回	対面	中間レビュークイズ（英文法）見直し 英文法演習（6）：U.13 名詞・冠詞、U.14 代名詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：中間レビュークイズ（英文法）の復習、小テストの準備	2 時間
第１６回	対面	中間レビュークイズ（TOEIC）見直し TOEIC 演習（6）：U. R-3 動詞の形 2（時制・その他）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：中間レビュークイズ（TOEIC）の復習、小テストの準備	2 時間
第１７回	対面	英文法演習（7）：U.15 前置詞、U.20 接続詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１８回	対面	TOEIC 演習（7）：U. L-4 Yes/No 疑問文・その他の疑問文	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１９回	対面	英文法演習（8）：U.11・12 助動詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２０回	対面	TOEIC 演習（8）：U. R-4 前置詞・接続詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２１回	対面	英文法演習（9）：U.21 受け身（受動態）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２２回	対面	TOEIC 演習（9）：U. L-5 平叙文・意外な応答	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２３回	対面	英文法演習（10）：U.25 現在完了	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、期末レビュークイズ（英文法）に向けた復習	2 時間
第２４回	対面	TOEIC 演習（10）：U. R-5 代名詞・関係代名詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、期末レビュークイズ（TOEIC）に向けた復習	2 時間
第２５回	対面	期末レビュークイズ（英文法）	事前学修：期末レビュークイズ（英文法）に向けた復習	2 時間
第２６回	対面	期末レビュークイズ（TOEIC）	事前学修：期末レビュークイズ（TOEIC）に向けた復習	2 時間
第２７回	対面	期末レビュークイズ（英文法）の見直し	事後学修：期末レビュークイズ（英文法）の見直しと結果に応じた復習、春学期学修内容（英文法）の総復習	2 時間
第２８回	対面	期末レビュークイズ（TOEIC）の見直し	事後学修：期末レビュークイズ（TOEIC）の見直しと結果に応じた復習、春学期学修内容（TOEIC）の総復習	2 時間

第２９回	オンデマンド	期末レビュークイズ（英文法）に向けたポイント解説・復習	事後学修：期末レビュークイズ（英文法）に向けた復習	2 時間
第３０回	オンデマンド	期末レビュークイズ（TOEIC）に向けたポイント解説・復習	事後学修：期末レビュークイズ（TOEIC）に向けた復習	2 時間

科目名	Intensive English W/R　I	開講年度	2025
担当者	森元　奈菜	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	TOEIC スコアアップに向けた英語力としての語彙・文法・読解の基本的スキルの強化		
授業の目的及び概要	本授業は 1 週間に 2 回行われ、①全体的な英語力強化と②TOEIC テストでのスコアアップを目的とします。 ①では、英語の理解に必要とされる高頻度語 1,500 語と基本的な文法項目の受容的知識の定着を図ります。授業では、教科書並びに e-Learning 教材からのインプットにより知識を蓄え、演習問題やアウトプット活動を通じて知識を定着させ、単文や構造が明快な重文・複文であれば読み取れる、聞き取れるようになることを目指します。 ②では、TOEIC 問題演習に取り組むことで、①で身に付けた知識をテストで使える知識へと昇華していきます。また、就業力 育成の観点から論理的思考力や幅広い視野を育み、国際通用力を図る基準として TOEIC を位置づけ、国際社会で使える英語技能を備えた英語運用能力を身に付けます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本授業の学修到達目標は、語彙・文法・長文・アウトプットに関してそれぞれ以下のように設定します。 【文法・語彙】 １．文章中に表れる授業で扱った文法・語彙に気づき、その意味が分かる。 ２．各授業で行われる高頻度語に関する小テストにおいて、70%以上正答することができる。 ３．授業で扱った文法・語彙・教科書内容に関する明示的知識を問うテストにおいて、70%以上正答することができる。 ３．授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を身に付け、他者に説明することができる。 ４．授業で扱った文法・語彙を使って、正しい文法・語法で文章やパッセージを作成することができる。 【長文】 １．授業で扱った文法・語彙で構成されたまとまりのある文章を理解し、その要約をすることができる。 ２．授業で扱った文法・語彙のみで構成されたまとまりのある文章を理解し、自分の意見を交えながら他者に伝えることができる。 【アウトプット】 １．授業で扱った語彙・文章を正確に英語らしく発音することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストおよび課題で出される e-Learning について授業内でのフィードバックを行う。 レビュークイズについても授業のなかでフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	＜全クラス共通＞ ①Everyday English Grammar＜Fourth Edition＞、水島孝司、南雲堂、2024 年 ②[改訂版] TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル 500、西谷敦子ほか、朝日出版社、2025 年（通年）	ISBN	①9784523179597 ②9784255157320（通年）

参考書	なし	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	70	
	その他の内容	①レビュークイズ：40%（20%×2 回） ②e-Learning 学修：10% ③TOEIC：20%（共通目標達成で 10%、発展目標達成で 10%）	
この科目の受講にあたって	グローバルな社会で活躍するためには、コミュニケーションツールとしての英語力が必要です。また、実践的な英語力を身につけるためには、常に英語に触れる環境が必要です。授業では、英語の基本的能力を身につける学修で英語力の基本を固めつつ、読解演習を通して応用力を培います。毎回の授業では多くの課題が出されます。e-Learning 学修による語彙の増強、英文法の確認や TOEIC 問題の予習・復習など、課内だけでなく課外での学修を進めることで、自学自修の習慣を身につけてください。授業では積極的に参加し、発言してください。 学修の成果を測るため、各学期に実施される TOEIC IP テストを受験します。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション：授業概要、評価方法、授業の進め方の説明	事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２回	対面	イントロダクション：授業概要、評価方法、授業の進め方の説明	事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第３回	対面	英文法演習（1）：U.1 be 動詞、U.3 be 動詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第４回	対面	TOEIC 演習（1）：U. L-1：人物が写っている写真	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第５回	対面	英文法演習（2）：U.2 一般動詞、U.5 一般動詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第６回	対面	TOEIC 演習（2）：U. R-1 品詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第７回	対面	英文法演習（3）：U.16 形容詞、U.17 副詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第８回	対面	TOEIC 演習（3）： U. L-2 人が写っていない写真	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第９回	対面	英文法演習（4）：U.22 不定詞、U.24 分詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１０回	対面	TOEIC 演習（4）：U. R-2 動詞の形 1（能動態・受動態）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１１回	対面	英文法演習（5）：U.23 動名詞、U.24 分詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認	2 時間

			し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、中間レビュークイズ（英文法）の準備	
第１２回	対面	TOEIC 演習（5）：U. L-3 疑問詞疑問文	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、中間レビュークイズ（TOEIC）の準備	2 時間
第１３回	対面	中間レビュークイズ（英文法）	事前学修：中間レビュークイズ（英文法）に向けた復習 事後学修：小テストの準備	2 時間
第１４回	対面	中間レビュークイズ（TOEIC）	事前学修：中間レビュークイズ（TOEIC）に向けた復習 事後学修：小テストの準備	2 時間
第１５回	対面	中間レビュークイズ（英文法）見直し 英文法演習（6）：U.13 名詞・冠詞、U.14 代名詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：中間レビュークイズ（英文法）の復習、小テストの準備	2 時間
第１６回	対面	中間レビュークイズ（TOEIC）見直し TOEIC 演習（6）：U. R-3 動詞の形 2（時制・その他）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：中間レビュークイズ（TOEIC）の復習、小テストの準備	2 時間
第１７回	対面	英文法演習（7）：U.15 前置詞、U.20 接続詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１８回	対面	TOEIC 演習（7）：U. L-4 Yes/No 疑問文・その他の疑問文	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１９回	対面	英文法演習（8）：U.11・12 助動詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２０回	対面	TOEIC 演習（8）：U. R-4 前置詞・接続詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２１回	対面	英文法演習（9）：U.21 受け身（受動態）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２２回	対面	TOEIC 演習（9）：U. L-5 平叙文・意外な応答	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２３回	対面	英文法演習（10）：U.25 現在完了	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、期末レビュークイズ（英文法）に向けた復習	2 時間
第２４回	対面	TOEIC 演習（10）：U. R-5 代名詞・関係代名詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、期末レビュークイズ（TOEIC）に向けた復習	2 時間
第２５回	対面	期末レビュークイズ（英文法）	事前学修：期末レビュークイズ（英文法）に向けた復習	2 時間
第２６回	対面	期末レビュークイズ（TOEIC）	事前学修：期末レビュークイズ（TOEIC）に向けた復習	2 時間
第２７回	対面	期末レビュークイズ（英文法）の見直し	事後学修：期末レビュークイズ（英文法）の見直しと結果に応じた復習、春学期学修内容（英文法）の総復習	2 時間
第２８回	対面	期末レビュークイズ（TOEIC）の見直し	事後学修：期末レビュークイズ（TOEIC）の見直しと結果に応じた復習、春学期学修内容（TOEIC）の総復習	2 時間

第２９回	オンデマンド	期末レビュークイズ（英文法）に向けたポイント解説・復習	事後学修：期末レビュークイズ（英文法）に向けた復習	2 時間
第３０回	オンデマンド	期末レビュークイズ（TOEIC）に向けたポイント解説・復習	事後学修：期末レビュークイズ（TOEIC）に向けた復習	2 時間

科目名	Intensive English W/R　I	開講年度	2025
担当者	岩男　久仁子	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	TOEIC スコアアップに向けた英語力としての語彙・文法・読解の基本的スキルの強化		
授業の目的及び概要	本授業は 1 週間に 2 回行われ、①全体的な英語力強化と②TOEIC テストでのスコアアップを目的とします。 ①では、英語の理解に必要とされる高頻度語 1,500 語と基本的な文法項目の受容的知識の定着を図ります。授業では、教科書並びに e-Learning 教材からのインプットにより知識を蓄え、演習問題やアウトプット活動を通じて知識を定着させ、単文や構造が明快な重文・複文であれば読み取れる、聞き取れるようになることを目指します。 ②では、TOEIC 問題演習に取り組むことで、①で身に付けた知識をテストで使える知識へと昇華していきます。また、就業力 育成の観点から論理的思考力や幅広い視野を育み、国際通用力を図る基準として TOEIC を位置づけ、国際社会で使える英語技能を備えた英語運用能力を身に付けます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本授業の学修到達目標は、語彙・文法・長文・アウトプットに関してそれぞれ以下のように設定します。 【文法・語彙】 １．文章中に表れる授業で扱った文法・語彙に気づき、その意味が分かる。 ２．各授業で行われる高頻度語に関する小テストにおいて、70%以上正答することができる。 ３．授業で扱った文法・語彙・教科書内容に関する明示的知識を問うテストにおいて、70%以上正答することができる。 ３．授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を身に付け、他者に説明することができる。 ４．授業で扱った文法・語彙を使って、正しい文法・語法で文章やパッセージを作成することができる。 【長文】 １．授業で扱った文法・語彙で構成されたまとまりのある文章を理解し、その要約をすることができる。 ２．授業で扱った文法・語彙のみで構成されたまとまりのある文章を理解し、自分の意見を交えながら他者に伝えることができる。 【アウトプット】 １．授業で扱った語彙・文章を正確に英語らしく発音することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストおよび課題で出される e-Learning について授業内でのフィードバックを行う。 レビュークイズについても授業のなかでフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	＜全クラス共通＞ ①Everyday English Grammar＜Fourth Edition＞、水島孝司、南雲堂、2024 年 ②[改訂版] TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル 500、西谷敦子ほか、朝日出版社、2025 年（通年）	ISBN	①9784523179597 ②9784255157320（通年）

参考書	なし	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	70	
	その他の内容	①レビュークイズ：40%（20%×2 回） ②e-Learning 学修：10% ③TOEIC：20%（共通目標達成で 10%、発展目標達成で 10%）	
この科目の受講にあたって	グローバルな社会で活躍するためには、コミュニケーションツールとしての英語力が必要です。また、実践的な英語力を身につけるためには、常に英語に触れる環境が必要です。授業では、英語の基本的能力を身につける学修で英語力の基本を固めつつ、読解演習を通して応用力を培います。毎回の授業では多くの課題が出されます。e-Learning 学修による語彙の増強、英文法の確認や TOEIC 問題の予習・復習など、課内だけでなく課外での学修を進めることで、自学自修の習慣を身につけてください。授業では積極的に参加し、発言してください。 学修の成果を測るため、各学期に実施される TOEIC IP テストを受験します。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション：授業概要、評価方法、授業の進め方の説明	事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２回	対面	イントロダクション：授業概要、評価方法、授業の進め方の説明	事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第３回	対面	英文法演習（1）：U.1 be 動詞、U.3 be 動詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第４回	対面	TOEIC 演習（1）：U. L-1：人物が写っている写真	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第５回	対面	英文法演習（2）：U.2 一般動詞、U.5 一般動詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第６回	対面	TOEIC 演習（2）：U. R-1 品詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第７回	対面	英文法演習（3）：U.16 形容詞、U.17 副詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第８回	対面	TOEIC 演習（3）： U. L-2 人が写っていない写真	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第９回	対面	英文法演習（4）：U.22 不定詞、U.24 分詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１０回	対面	TOEIC 演習（4）：U. R-2 動詞の形 1（能動態・受動態）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１１回	対面	英文法演習（5）：U.23 動名詞、U.24 分詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認	2 時間

			し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、中間レビュークイズ（英文法）の準備	
第１２回	対面	TOEIC 演習（5）：U. L-3 疑問詞疑問文	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、中間レビュークイズ（TOEIC）の準備	2 時間
第１３回	対面	中間レビュークイズ（英文法）	事前学修：中間レビュークイズ（英文法）に向けた復習 事後学修：小テストの準備	2 時間
第１４回	対面	中間レビュークイズ（TOEIC）	事前学修：中間レビュークイズ（TOEIC）に向けた復習 事後学修：小テストの準備	2 時間
第１５回	対面	中間レビュークイズ（英文法）見直し 英文法演習（6）：U.13 名詞・冠詞、U.14 代名詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：中間レビュークイズ（英文法）の復習、小テストの準備	2 時間
第１６回	対面	中間レビュークイズ（TOEIC）見直し TOEIC 演習（6）：U. R-3 動詞の形 2（時制・その他）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：中間レビュークイズ（TOEIC）の復習、小テストの準備	2 時間
第１７回	対面	英文法演習（7）：U.15 前置詞、U.20 接続詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１８回	対面	TOEIC 演習（7）：U. L-4 Yes/No 疑問文・その他の疑問文	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１９回	対面	英文法演習（8）：U.11・12 助動詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２０回	対面	TOEIC 演習（8）：U. R-4 前置詞・接続詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２１回	対面	英文法演習（9）：U.21 受け身（受動態）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２２回	対面	TOEIC 演習（9）：U. L-5 平叙文・意外な応答	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２３回	対面	英文法演習（10）：U.25 現在完了	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、期末レビュークイズ（英文法）に向けた復習	2 時間
第２４回	対面	TOEIC 演習（10）：U. R-5 代名詞・関係代名詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、期末レビュークイズ（TOEIC）に向けた復習	2 時間
第２５回	対面	期末レビュークイズ（英文法）	事前学修：期末レビュークイズ（英文法）に向けた復習	2 時間
第２６回	対面	期末レビュークイズ（TOEIC）	事前学修：期末レビュークイズ（TOEIC）に向けた復習	2 時間
第２７回	対面	期末レビュークイズ（英文法）の見直し	事後学修：期末レビュークイズ（英文法）の見直しと結果に応じた復習、春学期学修内容（英文法）の総復習	2 時間
第２８回	対面	期末レビュークイズ（TOEIC）の見直し	事後学修：期末レビュークイズ（TOEIC）の見直しと結果に応じた復習、春学期学修内容（TOEIC）の総復習	2 時間

第２９回	オンデマンド	期末レビュークイズ（英文法）に向けたポイント解説・復習	事後学修：期末レビュークイズ（英文法）に向けた復習	2 時間
第３０回	オンデマンド	期末レビュークイズ（TOEIC）に向けたポイント解説・復習	事後学修：期末レビュークイズ（TOEIC）に向けた復習	2 時間

科目名	Intensive English W/R　I	開講年度	2025
担当者	中山　周作	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	TOEIC スコアアップに向けた英語力としての語彙・文法・読解の基本的スキルの強化		
授業の目的及び概要	本授業は 1 週間に 2 回行われ、①全体的な英語力強化と②TOEIC テストでのスコアアップを目的とします。 ①では、英語の理解に必要とされる高頻度語 1,500 語と基本的な文法項目の受容的知識の定着を図ります。授業では、教科書並びに e-Learning 教材からのインプットにより知識を蓄え、演習問題やアウトプット活動を通じて知識を定着させ、単文や構造が明快な重文・複文であれば読み取れる、聞き取れるようになることを目指します。 ②では、TOEIC 問題演習に取り組むことで、①で身に付けた知識をテストで使える知識へと昇華していきます。また、就業力 育成の観点から論理的思考力や幅広い視野を育み、国際通用力を図る基準として TOEIC を位置づけ、国際社会で使える英語技能を備えた英語運用能力を身に付けます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本授業の学修到達目標は、語彙・文法・長文・アウトプットに関してそれぞれ以下のように設定します。 【文法・語彙】 １．文章中に表れる授業で扱った文法・語彙に気づき、その意味が分かる。 ２．各授業で行われる高頻度語に関する小テストにおいて、70%以上正答することができる。 ３．授業で扱った文法・語彙・教科書内容に関する明示的知識を問うテストにおいて、70%以上正答することができる。 ３．授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を身に付け、他者に説明することができる。 ４．授業で扱った文法・語彙を使って、正しい文法・語法で文章やパッセージを作成することができる。 【長文】 １．授業で扱った文法・語彙で構成されたまとまりのある文章を理解し、その要約をすることができる。 ２．授業で扱った文法・語彙のみで構成されたまとまりのある文章を理解し、自分の意見を交えながら他者に伝えることができる。 【アウトプット】 １．授業で扱った語彙・文章を正確に英語らしく発音することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストおよび課題で出される e-Learning について授業内でのフィードバックを行う。 レビュークイズについても授業のなかでフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	＜全クラス共通＞ ①Everyday English Grammar＜Fourth Edition＞、水島孝司、南雲堂、2024 年 ②[改訂版] TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル 500、西谷敦子ほか、朝日出版社、2025 年（通年）	ISBN	①9784523179597 ②9784255157320（通年）

参考書	なし	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	70	
	その他の内容	①レビュークイズ：40%（20%×2 回） ②e-Learning 学修：10% ③TOEIC：20%（共通目標達成で 10%、発展目標達成で 10%）	
この科目の受講にあたって	グローバルな社会で活躍するためには、コミュニケーションツールとしての英語力が必要です。また、実践的な英語力を身につけるためには、常に英語に触れる環境が必要です。授業では、英語の基本的能力を身につける学修で英語力の基本を固めつつ、読解演習を通して応用力を培います。毎回の授業では多くの課題が出されます。e-Learning 学修による語彙の増強、英文法の確認や TOEIC 問題の予習・復習など、課内だけでなく課外での学修を進めることで、自学自修の習慣を身につけてください。授業では積極的に参加し、発言してください。 学修の成果を測るため、各学期に実施される TOEIC IP テストを受験します。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション：授業概要、評価方法、授業の進め方の説明	事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２回	対面	イントロダクション：授業概要、評価方法、授業の進め方の説明	事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第３回	対面	英文法演習（1）：U.1 be 動詞、U.3 be 動詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第４回	対面	TOEIC 演習（1）：U. L-1：人物が写っている写真	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第５回	対面	英文法演習（2）：U.2 一般動詞、U.5 一般動詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第６回	対面	TOEIC 演習（2）：U. R-1 品詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第７回	対面	英文法演習（3）：U.16 形容詞、U.17 副詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第８回	対面	TOEIC 演習（3）： U. L-2 人が写っていない写真	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第９回	対面	英文法演習（4）：U.22 不定詞、U.24 分詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１０回	対面	TOEIC 演習（4）：U. R-2 動詞の形 1（能動態・受動態）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１１回	対面	英文法演習（5）：U.23 動名詞、U.24 分詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認	2 時間

			し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、中間レビュークイズ（英文法）の準備	
第１２回	対面	TOEIC 演習（5）：U. L-3 疑問詞疑問文	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、中間レビュークイズ（TOEIC）の準備	2 時間
第１３回	対面	中間レビュークイズ（英文法）	事前学修：中間レビュークイズ（英文法）に向けた復習 事後学修：小テストの準備	2 時間
第１４回	対面	中間レビュークイズ（TOEIC）	事前学修：中間レビュークイズ（TOEIC）に向けた復習 事後学修：小テストの準備	2 時間
第１５回	対面	中間レビュークイズ（英文法）見直し 英文法演習（6）：U.13 名詞・冠詞、U.14 代名詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：中間レビュークイズ（英文法）の復習、小テストの準備	2 時間
第１６回	対面	中間レビュークイズ（TOEIC）見直し TOEIC 演習（6）：U. R-3 動詞の形 2（時制・その他）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：中間レビュークイズ（TOEIC）の復習、小テストの準備	2 時間
第１７回	対面	英文法演習（7）：U.15 前置詞、U.20 接続詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１８回	対面	TOEIC 演習（7）：U. L-4 Yes/No 疑問文・その他の疑問文	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１９回	対面	英文法演習（8）：U.11・12 助動詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２０回	対面	TOEIC 演習（8）：U. R-4 前置詞・接続詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２１回	対面	英文法演習（9）：U.21 受け身（受動態）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２２回	対面	TOEIC 演習（9）：U. L-5 平叙文・意外な応答	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２３回	対面	英文法演習（10）：U.25 現在完了	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、期末レビュークイズ（英文法）に向けた復習	2 時間
第２４回	対面	TOEIC 演習（10）：U. R-5 代名詞・関係代名詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、期末レビュークイズ（TOEIC）に向けた復習	2 時間
第２５回	対面	期末レビュークイズ（英文法）	事前学修：期末レビュークイズ（英文法）に向けた復習	2 時間
第２６回	対面	期末レビュークイズ（TOEIC）	事前学修：期末レビュークイズ（TOEIC）に向けた復習	2 時間
第２７回	対面	期末レビュークイズ（英文法）の見直し	事後学修：期末レビュークイズ（英文法）の見直しと結果に応じた復習、春学期学修内容（英文法）の総復習	2 時間
第２８回	対面	期末レビュークイズ（TOEIC）の見直し	事後学修：期末レビュークイズ（TOEIC）の見直しと結果に応じた復習、春学期学修内容（TOEIC）の総復習	2 時間

第２９回	オンデマンド	期末レビュークイズ（英文法）に向けたポイント解説・復習	事後学修：期末レビュークイズ（英文法）に向けた復習	2 時間
第３０回	オンデマンド	期末レビュークイズ（TOEIC）に向けたポイント解説・復習	事後学修：期末レビュークイズ（TOEIC）に向けた復習	2 時間

科目名	Intensive English W/R　I	開講年度	2025
担当者	岩男　久仁子	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	TOEIC スコアアップに向けた英語力としての語彙・文法・読解の基本的スキルの強化		
授業の目的及び概要	この授業は、語彙、文法、およびリーディング力を向上させることによって TOEIC スコアアップを目指します。具体的には、授業ではまず語彙の強化と文法に関する正しい知識の修得を図り、現代社会の多様なテーマについて書かれた英語記事のリーディングを通して英文を読むことに慣れ、キーワードやキーフレーズを見つけ出したり、文法知識の定着とアウトプットの繰り返しによってより正確に読解できるようになることを目的とします。また、就業力育成の観点から論理的思考力や幅広い視野を育み、国際通用力を図る基準として TOEIC を位置づけ、国際社会で使える英語技能を備えた英語運用能力を身に付けます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	語彙の強化や文法を正しく理解することで、様々な分野の英文を読む能力を養成します。また基礎的な英文構造についての理解に基づいて問題演習を繰り返し、修得した語彙や文法知識を使い英文を読み解く力を養います。授業を通して、① 英語の基礎的レベルを徹底的に理解し、それらの知識（文法／語彙）を用いて基本的な英文を書けるようになる、② 多様な英文を読み、語彙の拡張と英文の構造・内容を理解できる、③TOEIC スコアを向上させる、ことを目標とします。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストおよび課題について授業内でのフィードバックを行う。レビュークイズについても授業のなかでフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	Good Grammar, Better Communication 、 Joan McConnell・山内圭、成美堂、2022 年	ISBN	9784791972494
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	50
	その他の内容	①中間レビュークイズ：20% ②期末レビュークイズ：20% ③1 月 TOEIC IP テスト：10%
この科目の受講にあたって	グローバルな社会で活躍するためには、コミュニケーションツールとしての英語力が必要です。また、実践的な英語力を身につけるためには、常に英語に触れる環境が必要です。授業では、英語の基本的能力を身につける学修で英語力の基本を固めつつ、読解演習を通して応用力を培	

	います。毎回の授業では多くの課題が出されます。語彙の増強、英文法の確認やリーディング問題の予習・復習など、課内だけでなく課外での学修を進めることで、自学自修の習慣を身につけてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	オンデマンド	オリエンテーション：授業概要、評価方法、授業の進め方の説明	事後学修：テキスト「英文法の基礎知識」熟読	2 時間
第２回	オンデマンド	オリエンテーション：授業概要、評価方法、授業の進め方の説明	事後学修：テキスト「本書の使い方」熟読	2 時間
第３回	オンデマンド	英文法演習（1）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後演習：授業内容の復習	2 時間
第４回	オンデマンド	リーディング演習（1）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後演習：授業内容の復習	2 時間
第５回	オンデマンド	英文法演習（2）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後演習：授業内容の復習	2 時間
第６回	オンデマンド	リーディング演習（2）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後演習：授業内容の復習	2 時間
第７回	オンデマンド	英文法演習（3）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後演習：授業内容の復習	2 時間
第８回	オンデマンド	リーディング演習（3）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後演習：授業内容の復習	2 時間
第９回	オンデマンド	英文法演習（4）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後演習：授業内容の復習	2 時間
第１０回	オンデマンド	リーディング演習（4）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後演習：授業内容の復習	2 時間
第１１回	オンデマンド	英文法演習（5）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後演習：授業内容の復習	2 時間
第１２回	オンデマンド	リーディング演習（5）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後演習：授業内容の復習	2 時間
第１３回	オンデマンド	中間レビュークイズ（英文法）	事前学修：中間レビュークイズ（英文法）に向けた復習	2 時間
第１４回	オンデマンド	中間レビュークイズ（リーディング）	事前学修：中間レビュークイズ（リーディング）に向けた復習	2 時間
第１５回	オンデマンド	中間レビュークイズ（英文法）見直し 英文法演習（6）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後演習：中間レビュークイズ（英文法）の見直しと結果に応じた復習、授業内容の復習	2 時間
第１６回	オンデマンド	中間レビュークイズ（リーディング）見直し リーディング演習（6）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後演習：中間レビュークイズ（リーディング）の見直しと結果に応じた復習、授業内容の復習	2 時間
第１７回	オンデマンド	英文法演習（7）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後演習：授業内容の復習	2 時間

第１８回	オンデマンド	リーディング演習（7）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後演習：授業内容の復習	2 時間
第１９回	オンデマンド	英文法演習（8）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後演習：授業内容の復習	2 時間
第２０回	オンデマンド	リーディング演習（8）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後演習：授業内容の復習	2 時間
第２１回	オンデマンド	英文法演習（9）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後演習：授業内容の復習	2 時間
第２２回	オンデマンド	リーディング演習（9）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後演習：授業内容の復習	2 時間
第２３回	オンデマンド	英文法演習（10）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後演習：授業内容の復習	2 時間
第２４回	オンデマンド	リーディング演習（10）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後演習：授業内容の復習	2 時間
第２５回	オンデマンド	期末レビュークイズ（英文法）	事前学修：期末レビュークイズ（英文法）に向けた復習	2 時間
第２６回	オンデマンド	期末レビュークイズ（リーディング）	事前学修：期末レビュークイズ（リーディング）に向けた復習	2 時間
第２７回	オンデマンド	期末レビュークイズ（英文法）の見直し	事後学修：期末レビュークイズ（英文法）の見直しと結果に応じた復習	2 時間
第２８回	オンデマンド	期末レビュークイズ（リーディング）の見直し	事後学修：期末レビュークイズ（リーディング）の見直しと結果に応じた復習	2 時間
第２９回	オンデマンド	学修内容（英文法）の総復習	事後学修：学修内容（英文法）の総復習	2 時間
第３０回	オンデマンド	学修内容（リーディング）の総復習	事後学修：学修内容（リーディング）の総復習	2 時間

科目名	Intensive English W/R　Ⅱ	開講年度	2025
担当者	中山　周作	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	TOEIC スコアアップに向けた英語力としての語彙・文法・読解の基本的スキルの強化		
授業の目的及び概要	本授業は 1 週間に 2 回行われ、①全体的な英語力強化と②TOEIC テストでのスコアアップを目的とします。 ①では、英語の理解に必要とされる高頻度語 1,500 語と基本的な文法項目の受容的知識の定着を図ります。授業では、教科書並びに e-Learning 教材からのインプットにより知識を蓄え、演習問題やアウトプット活動を通じて知識を定着させ、単文や構造が明快な重文・複文であれば読み取れる、聞き取れるようになることを目指します。 ②では、TOEIC 問題演習に取り組むことで、①で身に付けた知識をテストで使える知識へと昇華していきます。また、就業力 育成の観点から論理的思考力や幅広い視野を育み、国際通用力を図る基準として TOEIC を位置づけ、国際社会で使える英語技能を備えた英語運用能力を身に付けます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本授業の学修到達目標は、語彙・文法・長文・アウトプットに関してそれぞれ以下のように設定します。 【文法・語彙】 １．文章中に表れる授業で扱った文法・語彙に気づき、その意味が分かる。 ２．各授業で行われる高頻度語に関する小テストにおいて、70%以上正答することができる。 ３．授業で扱った文法・語彙・教科書内容に関する明示的知識を問うテストにおいて、70%以上正答することができる。 ３．授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を身に付け、他者に説明することができる。 ４．授業で扱った文法・語彙を使って、正しい文法・語法で文章やパッセージを作成することができる。 【長文】 １．授業で扱った文法・語彙で構成されたまとまりのある文章を理解し、その要約をすることができる。 ２．授業で扱った文法・語彙のみで構成されたまとまりのある文章を理解し、自分の意見を交えながら他者に伝えることができる。 【アウトプット】 １．授業で扱った語彙・文章を正確に英語らしく発音することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストおよび課題で出される e-Learning について授業内でのフィードバックを行う。レビュークイズについても授業のなかでフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	授業では以下の 2 冊のテキストを併用します。クラスによって使用するテキストがことなるため注意してください。 ＜クラスによって異なる＞ ①Let's Output in Basic English、佐藤臨太郎、金星堂、2020 年 ②English Switch、Robert Hickling・臼倉美里、金星	ISBN	①9784764741089 ②9784764740129 ③9784255157320

	堂、2016 年 ＜全クラス共通＞ ③[改訂版] TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル 500、西谷敦子ほか、朝日出版社、2025 年（通年）		
参考書	なし	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	70
	その他の内容	①レビュークイズ：40%（20%×2 回） ②e-Learning 学修：10% ③TOEIC：20%（共通目標達成で 10%、発展目標達成で 10%）
この科目の受講にあたって	グローバルな社会で活躍するためには、コミュニケーションツールとしての英語力が必要です。また、実践的な英語力を身につけるためには、常に英語に触れる環境が必要です。授業では、英語の基本的能力を身につける学修で英語力の基本を固めつつ、読解演習を通して応用力を培います。毎回の授業では多くの課題が出されます。e-Learning 学修による語彙の増強、英文法の確認や TOEIC 問題の予習・復習など、課内だけでなく課外での学修を進めることで、自学自修の習慣を身につけてください。授業では積極的に参加し、発言してください。 学修の成果を測るため、各学期に実施される TOEIC IP テストを受験します。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション：授業概要、評価方法、授業の進め方の説明（英文法演習については、クラスレベルによって授業計画が異なる場合があります。詳細は第 1 回授業にて周知いたします。）	事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２回	対面	イントロダクション：授業概要、評価方法、授業の進め方の説明	事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第３回	対面	英文法演習（1）：U.2［現在形・現在進行形/過去形・過去進行形］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第４回	対面	TOEIC 演習（1）：U. L-6 機能別疑問文	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第５回	対面	英文法演習（2）：U.4&5［現在（過去）完了形・現在完了進行形］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第６回	対面	TOEIC 演習（2）：U. R-6 長文穴埋め問題	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第７回	対面	英文法演習（3）：U.7［受動態］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第８回	対面	TOEIC 演習（3）： U. L-7 「依頼・要求」	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む）	2 時間

			事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	
第９回	対面	英文法演習（4）：U.6［助動詞］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１０回	対面	TOEIC 演習（4）：U. R-5 代名詞・関係代名詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１１回	対面	英文法演習（5）：U.8［不定詞］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、中間レビュークイズ（英文法）の準備	2 時間
第１２回	対面	TOEIC 演習（5）：U. L-8 「問題点」・「提案・助言」・「申し出」	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、中間レビュークイズ（TOEIC）の準備	2 時間
第１３回	対面	中間レビュークイズ（英文法）	事前学修：中間レビュークイズ（英文法）に向けた復習 事後学修：小テストの準備	2 時間
第１４回	対面	中間レビュークイズ（TOEIC）	事前学修：中間レビュークイズ（TOEIC）に向けた復習 事後学修：小テストの準備	2 時間
第１５回	対面	中間レビュークイズ（英文法）見直し 英文法演習（6）：U.9［動名詞］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：中間レビュークイズ（英文法）の復習、小テストの準備	2 時間
第１６回	対面	中間レビュークイズ（TOEIC）見直し TOEIC 演習（6）：U. R-8 E メール・手紙	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：中間レビュークイズ（TOEIC）の復習、小テストの準備	2 時間
第１７回	対面	英文法演習（7）：U.14&15［関係代名詞］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１８回	対面	TOEIC 演習（7）：U. L-9 「目的」・「次の行動」・「意図」	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１９回	対面	英文法演習（8）：U.11［接続詞］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２０回	対面	TOEIC 演習（8）：U. R-9 告知・社内回覧	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２１回	対面	英文法演習（9）：U.10［現在・過去分詞］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２２回	対面	TOEIC 演習（9）：U. L-10 録音メッセージ・アナウンス	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２３回	対面	英文法演習（10）：U.12&13［比較表現］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、期末レビュークイズ（英文法）に向けた復習	2 時間
第２４回	対面	TOEIC 演習（10）：U. R-11 ダブルパッセージ	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、期末レビュークイズ（TOEIC）に向けた復習	2 時間
第２５回	対面	期末レビュークイズ（英文法）	事前学修：期末レビュークイズ（英文法）に向けた復習	2 時間

第２６回	対面	期末レビュークイズ（TOEIC）	事前学修：期末レビュークイズ（TOEIC）に向けた復習	2 時間
第２７回	対面	期末レビュークイズ（英文法）の見直し	事後学修：期末レビュークイズ（英文法）の見直しと結果に応じた復習、春学期学修内容（英文法）の総復習	2 時間
第２８回	対面	期末レビュークイズ（TOEIC）の見直し	事後学修：期末レビュークイズ（TOEIC）の見直しと結果に応じた復習、春学期学修内容（TOEIC）の総復習	2 時間
第２９回	オンデマンド	期末レビュークイズ（英文法）に向けたポイント解説・復習	事後学修：期末レビュークイズ（英文法）に向けた復習	2 時間
第３０回	オンデマンド	期末レビュークイズ（TOEIC）に向けたポイント解説・復習	事後学修：期末レビュークイズ（TOEIC）に向けた復習	2 時間

科目名	Intensive English W/R　Ⅱ	開講年度	2025
担当者	岩本　朱未	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	TOEIC スコアアップに向けた英語力としての語彙・文法・読解の基本的スキルの強化		
授業の目的及び概要	本授業は 1 週間に 2 回行われ、①全体的な英語力強化と②TOEIC テストでのスコアアップを目的とします。 ①では、英語の理解に必要とされる高頻度語 1,500 語と基本的な文法項目の受容的知識の定着を図ります。授業では、教科書並びに e-Learning 教材からのインプットにより知識を蓄え、演習問題やアウトプット活動を通じて知識を定着させ、単文や構造が明快な重文・複文であれば読み取れる、聞き取れるようになることを目指します。 ②では、TOEIC 問題演習に取り組むことで、①で身に付けた知識をテストで使える知識へと昇華していきます。また、就業力 育成の観点から論理的思考力や幅広い視野を育み、国際通用力を図る基準として TOEIC を位置づけ、国際社会で使える英語技能を備えた英語運用能力を身に付けます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本授業の学修到達目標は、語彙・文法・長文・アウトプットに関してそれぞれ以下のように設定します。 【文法・語彙】 １．文章中に表れる授業で扱った文法・語彙に気づき、その意味が分かる。 ２．各授業で行われる高頻度語に関する小テストにおいて、70%以上正答することができる。 ３．授業で扱った文法・語彙・教科書内容に関する明示的知識を問うテストにおいて、70%以上正答することができる。 ３．授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を身に付け、他者に説明することができる。 ４．授業で扱った文法・語彙を使って、正しい文法・語法で文章やパッセージを作成することができる。 【長文】 １．授業で扱った文法・語彙で構成されたまとまりのある文章を理解し、その要約をすることができる。 ２．授業で扱った文法・語彙のみで構成されたまとまりのある文章を理解し、自分の意見を交えながら他者に伝えることができる。 【アウトプット】 １．授業で扱った語彙・文章を正確に英語らしく発音することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストおよび課題で出される e-Learning について授業内でのフィードバックを行う。レビュークイズについても授業のなかでフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	授業では以下の 2 冊のテキストを併用します。クラスによって使用するテキストがことなるため注意してください。 ＜クラスによって異なる＞ ①Let's Output in Basic English、佐藤臨太郎、金星堂、2020 年 ②English Switch、Robert Hickling・臼倉美里、金星	ISBN	①9784764741089 ②9784764740129 ③9784255157320

	堂、2016 年 ＜全クラス共通＞ ③[改訂版] TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル 500、西谷敦子ほか、朝日出版社、2025 年（通年）		
参考書	なし	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	70
	その他の内容	①レビュークイズ：40%（20%×2 回） ②e-Learning 学修：10% ③TOEIC：20%（共通目標達成で 10%、発展目標達成で 10%）
この科目の受講にあたって	グローバルな社会で活躍するためには、コミュニケーションツールとしての英語力が必要です。また、実践的な英語力を身につけるためには、常に英語に触れる環境が必要です。授業では、英語の基本的能力を身につける学修で英語力の基本を固めつつ、読解演習を通して応用力を培います。毎回の授業では多くの課題が出されます。e-Learning 学修による語彙の増強、英文法の確認や TOEIC 問題の予習・復習など、課内だけでなく課外での学修を進めることで、自学自修の習慣を身につけてください。授業では積極的に参加し、発言してください。 学修の成果を測るため、各学期に実施される TOEIC IP テストを受験します。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション：授業概要、評価方法、授業の進め方の説明（英文法演習については、クラスレベルによって授業計画が異なる場合があります。詳細は第 1 回授業にて周知いたします。）	事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２回	対面	イントロダクション：授業概要、評価方法、授業の進め方の説明	事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第３回	対面	英文法演習（1）：U.2［現在形・現在進行形/過去形・過去進行形］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第４回	対面	TOEIC 演習（1）：U. L-6 機能別疑問文	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第５回	対面	英文法演習（2）：U.4&5［現在（過去）完了形・現在完了進行形］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第６回	対面	TOEIC 演習（2）：U. R-6 長文穴埋め問題	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第７回	対面	英文法演習（3）：U.7［受動態］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第８回	対面	TOEIC 演習（3）： U. L-7 「依頼・要求」	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む）	2 時間

			事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	
第９回	対面	英文法演習（4）：U.6［助動詞］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１０回	対面	TOEIC 演習（4）：U. R-5 代名詞・関係代名詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１１回	対面	英文法演習（5）：U.8［不定詞］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、中間レビュークイズ（英文法）の準備	2 時間
第１２回	対面	TOEIC 演習（5）：U. L-8 「問題点」・「提案・助言」・「申し出」	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、中間レビュークイズ（TOEIC）の準備	2 時間
第１３回	対面	中間レビュークイズ（英文法）	事前学修：中間レビュークイズ（英文法）に向けた復習 事後学修：小テストの準備	2 時間
第１４回	対面	中間レビュークイズ（TOEIC）	事前学修：中間レビュークイズ（TOEIC）に向けた復習 事後学修：小テストの準備	2 時間
第１５回	対面	中間レビュークイズ（英文法）見直し 英文法演習（6）：U.9［動名詞］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：中間レビュークイズ（英文法）の復習、小テストの準備	2 時間
第１６回	対面	中間レビュークイズ（TOEIC）見直し TOEIC 演習（6）：U. R-8 E メール・手紙	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：中間レビュークイズ（TOEIC）の復習、小テストの準備	2 時間
第１７回	対面	英文法演習（7）：U.14&15［関係代名詞］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１８回	対面	TOEIC 演習（7）：U. L-9 「目的」・「次の行動」・「意図」	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１９回	対面	英文法演習（8）：U.11［接続詞］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２０回	対面	TOEIC 演習（8）：U. R-9 告知・社内回覧	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２１回	対面	英文法演習（9）：U.10［現在・過去分詞］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２２回	対面	TOEIC 演習（9）：U. L-10 録音メッセージ・アナウンス	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２３回	対面	英文法演習（10）：U.12&13［比較表現］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、期末レビュークイズ（英文法）に向けた復習	2 時間
第２４回	対面	TOEIC 演習（10）：U. R-11 ダブルパッセージ	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、期末レビュークイズ（TOEIC）に向けた復習	2 時間
第２５回	対面	期末レビュークイズ（英文法）	事前学修：期末レビュークイズ（英文法）に向けた復習	2 時間

第２６回	対面	期末レビュークイズ（TOEIC）	事前学修：期末レビュークイズ（TOEIC）に向けた復習	2 時間
第２７回	対面	期末レビュークイズ（英文法）の見直し	事後学修：期末レビュークイズ（英文法）の見直しと結果に応じた復習、春学期学修内容（英文法）の総復習	2 時間
第２８回	対面	期末レビュークイズ（TOEIC）の見直し	事後学修：期末レビュークイズ（TOEIC）の見直しと結果に応じた復習、春学期学修内容（TOEIC）の総復習	2 時間
第２９回	オンデマンド	期末レビュークイズ（英文法）に向けたポイント解説・復習	事後学修：期末レビュークイズ（英文法）に向けた復習	2 時間
第３０回	オンデマンド	期末レビュークイズ（TOEIC）に向けたポイント解説・復習	事後学修：期末レビュークイズ（TOEIC）に向けた復習	2 時間

科目名	Intensive English W/R　Ⅱ	開講年度	2025
担当者	中西　亮太	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	TOEIC スコアアップに向けた英語力としての語彙・文法・読解の基本的スキルの強化		
授業の目的及び概要	本授業は 1 週間に 2 回行われ、①全体的な英語力強化と②TOEIC テストでのスコアアップを目的とします。 ①では、英語の理解に必要とされる高頻度語 1,500 語と基本的な文法項目の受容的知識の定着を図ります。授業では、教科書並びに e-Learning 教材からのインプットにより知識を蓄え、演習問題やアウトプット活動を通じて知識を定着させ、単文や構造が明快な重文・複文であれば読み取れる、聞き取れるようになることを目指します。 ②では、TOEIC 問題演習に取り組むことで、①で身に付けた知識をテストで使える知識へと昇華していきます。また、就業力 育成の観点から論理的思考力や幅広い視野を育み、国際通用力を図る基準として TOEIC を位置づけ、国際社会で使える英語技能を備えた英語運用能力を身に付けます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本授業の学修到達目標は、語彙・文法・長文・アウトプットに関してそれぞれ以下のように設定します。 【文法・語彙】 １．文章中に表れる授業で扱った文法・語彙に気づき、その意味が分かる。 ２．各授業で行われる高頻度語に関する小テストにおいて、70%以上正答することができる。 ３．授業で扱った文法・語彙・教科書内容に関する明示的知識を問うテストにおいて、70%以上正答することができる。 ３．授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を身に付け、他者に説明することができる。 ４．授業で扱った文法・語彙を使って、正しい文法・語法で文章やパッセージを作成することができる。 【長文】 １．授業で扱った文法・語彙で構成されたまとまりのある文章を理解し、その要約をすることができる。 ２．授業で扱った文法・語彙のみで構成されたまとまりのある文章を理解し、自分の意見を交えながら他者に伝えることができる。 【アウトプット】 １．授業で扱った語彙・文章を正確に英語らしく発音することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストおよび課題で出される e-Learning について授業内でのフィードバックを行う。レビュークイズについても授業のなかでフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	授業では以下の 2 冊のテキストを併用します。クラスによって使用するテキストがことなるため注意してください。 ＜クラスによって異なる＞ ①Let's Output in Basic English、佐藤臨太郎、金星堂、2020 年 ②English Switch、Robert Hickling・臼倉美里、金星	ISBN	①9784764741089 ②9784764740129 ③9784255157320

	堂、2016 年 ＜全クラス共通＞ ③[改訂版] TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル 500、西谷敦子ほか、朝日出版社、2025 年（通年）		
参考書	なし	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	70
	その他の内容	①レビュークイズ：40%（20%×2 回） ②e-Learning 学修：10% ③TOEIC：20%（共通目標達成で 10%、発展目標達成で 10%）
この科目の受講にあたって	グローバルな社会で活躍するためには、コミュニケーションツールとしての英語力が必要です。また、実践的な英語力を身につけるためには、常に英語に触れる環境が必要です。授業では、英語の基本的能力を身につける学修で英語力の基本を固めつつ、読解演習を通して応用力を培います。毎回の授業では多くの課題が出されます。e-Learning 学修による語彙の増強、英文法の確認や TOEIC 問題の予習・復習など、課内だけでなく課外での学修を進めることで、自学自修の習慣を身につけてください。授業では積極的に参加し、発言してください。 学修の成果を測るため、各学期に実施される TOEIC IP テストを受験します。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション：授業概要、評価方法、授業の進め方の説明（英文法演習については、クラスレベルによって授業計画が異なる場合があります。詳細は第 1 回授業にて周知いたします。）	事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２回	対面	イントロダクション：授業概要、評価方法、授業の進め方の説明	事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第３回	対面	英文法演習（1）：U.2［現在形・現在進行形/過去形・過去進行形］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第４回	対面	TOEIC 演習（1）：U. L-6 機能別疑問文	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第５回	対面	英文法演習（2）：U.4&5［現在（過去）完了形・現在完了進行形］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第６回	対面	TOEIC 演習（2）：U. R-6 長文穴埋め問題	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第７回	対面	英文法演習（3）：U.7［受動態］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第８回	対面	TOEIC 演習（3）： U. L-7 「依頼・要求」	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む）	2 時間

			事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	
第９回	対面	英文法演習（4）：U.6［助動詞］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１０回	対面	TOEIC 演習（4）：U. R-5 代名詞・関係代名詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１１回	対面	英文法演習（5）：U.8［不定詞］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、中間レビュークイズ（英文法）の準備	2 時間
第１２回	対面	TOEIC 演習（5）：U. L-8 「問題点」・「提案・助言」・「申し出」	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、中間レビュークイズ（TOEIC）の準備	2 時間
第１３回	対面	中間レビュークイズ（英文法）	事前学修：中間レビュークイズ（英文法）に向けた復習 事後学修：小テストの準備	2 時間
第１４回	対面	中間レビュークイズ（TOEIC）	事前学修：中間レビュークイズ（TOEIC）に向けた復習 事後学修：小テストの準備	2 時間
第１５回	対面	中間レビュークイズ（英文法）見直し 英文法演習（6）：U.9［動名詞］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：中間レビュークイズ（英文法）の復習、小テストの準備	2 時間
第１６回	対面	中間レビュークイズ（TOEIC）見直し TOEIC 演習（6）：U. R-8 E メール・手紙	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：中間レビュークイズ（TOEIC）の復習、小テストの準備	2 時間
第１７回	対面	英文法演習（7）：U.14&15［関係代名詞］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１８回	対面	TOEIC 演習（7）：U. L-9 「目的」・「次の行動」・「意図」	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１９回	対面	英文法演習（8）：U.11［接続詞］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２０回	対面	TOEIC 演習（8）：U. R-9 告知・社内回覧	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２１回	対面	英文法演習（9）：U.10［現在・過去分詞］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２２回	対面	TOEIC 演習（9）：U. L-10 録音メッセージ・アナウンス	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２３回	対面	英文法演習（10）：U.12&13［比較表現］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、期末レビュークイズ（英文法）に向けた復習	2 時間
第２４回	対面	TOEIC 演習（10）：U. R-11 ダブルパッセージ	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、期末レビュークイズ（TOEIC）に向けた復習	2 時間
第２５回	対面	期末レビュークイズ（英文法）	事前学修：期末レビュークイズ（英文法）に向けた復習	2 時間

第２６回	対面	期末レビュークイズ（TOEIC）	事前学修：期末レビュークイズ（TOEIC）に向けた復習	2 時間
第２７回	対面	期末レビュークイズ（英文法）の見直し	事後学修：期末レビュークイズ（英文法）の見直しと結果に応じた復習、春学期学修内容（英文法）の総復習	2 時間
第２８回	対面	期末レビュークイズ（TOEIC）の見直し	事後学修：期末レビュークイズ（TOEIC）の見直しと結果に応じた復習、春学期学修内容（TOEIC）の総復習	2 時間
第２９回	オンデマンド	期末レビュークイズ（英文法）に向けたポイント解説・復習	事後学修：期末レビュークイズ（英文法）に向けた復習	2 時間
第３０回	オンデマンド	期末レビュークイズ（TOEIC）に向けたポイント解説・復習	事後学修：期末レビュークイズ（TOEIC）に向けた復習	2 時間

科目名	Intensive English W/R　Ⅱ	開講年度	2025
担当者	伊藤　美幸	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	TOEIC スコアアップに向けた英語力としての語彙・文法・読解の基本的スキルの強化		
授業の目的及び概要	本授業は 1 週間に 2 回行われ、①全体的な英語力強化と②TOEIC テストでのスコアアップを目的とします。 ①では、英語の理解に必要とされる高頻度語 1,500 語と基本的な文法項目の受容的知識の定着を図ります。授業では、教科書並びに e-Learning 教材からのインプットにより知識を蓄え、演習問題やアウトプット活動を通じて知識を定着させ、単文や構造が明快な重文・複文であれば読み取れる、聞き取れるようになることを目指します。 ②では、TOEIC 問題演習に取り組むことで、①で身に付けた知識をテストで使える知識へと昇華していきます。また、就業力 育成の観点から論理的思考力や幅広い視野を育み、国際通用力を図る基準として TOEIC を位置づけ、国際社会で使える英語技能を備えた英語運用能力を身に付けます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本授業の学修到達目標は、語彙・文法・長文・アウトプットに関してそれぞれ以下のように設定します。 【文法・語彙】 １．文章中に表れる授業で扱った文法・語彙に気づき、その意味が分かる。 ２．各授業で行われる高頻度語に関する小テストにおいて、70%以上正答することができる。 ３．授業で扱った文法・語彙・教科書内容に関する明示的知識を問うテストにおいて、70%以上正答することができる。 ３．授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を身に付け、他者に説明することができる。 ４．授業で扱った文法・語彙を使って、正しい文法・語法で文章やパッセージを作成することができる。 【長文】 １．授業で扱った文法・語彙で構成されたまとまりのある文章を理解し、その要約をすることができる。 ２．授業で扱った文法・語彙のみで構成されたまとまりのある文章を理解し、自分の意見を交えながら他者に伝えることができる。 【アウトプット】 １．授業で扱った語彙・文章を正確に英語らしく発音することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストおよび課題で出される e-Learning について授業内でのフィードバックを行う。レビュークイズについても授業のなかでフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	授業では以下の 2 冊のテキストを併用します。クラスによって使用するテキストがことなるため注意してください。 ＜クラスによって異なる＞ ①Let's Output in Basic English、佐藤臨太郎、金星堂、2020 年 ②English Switch、Robert Hickling・臼倉美里、金星	ISBN	①9784764741089 ②9784764740129 ③9784255157320

	堂、2016 年 ＜全クラス共通＞ ③[改訂版] TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル 500、西谷敦子ほか、朝日出版社、2025 年（通年）		
参考書	なし	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	70
	その他の内容	①レビュークイズ：40%（20%×2 回） ②e-Learning 学修：10% ③TOEIC：20%（共通目標達成で 10%、発展目標達成で 10%）
この科目の受講にあたって	グローバルな社会で活躍するためには、コミュニケーションツールとしての英語力が必要です。また、実践的な英語力を身につけるためには、常に英語に触れる環境が必要です。授業では、英語の基本的能力を身につける学修で英語力の基本を固めつつ、読解演習を通して応用力を培います。毎回の授業では多くの課題が出されます。e-Learning 学修による語彙の増強、英文法の確認や TOEIC 問題の予習・復習など、課内だけでなく課外での学修を進めることで、自学自修の習慣を身につけてください。授業では積極的に参加し、発言してください。 学修の成果を測るため、各学期に実施される TOEIC IP テストを受験します。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション：授業概要、評価方法、授業の進め方の説明（英文法演習については、クラスレベルによって授業計画が異なる場合があります。詳細は第 1 回授業にて周知いたします。）	事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２回	対面	イントロダクション：授業概要、評価方法、授業の進め方の説明	事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第３回	対面	英文法演習（1）：U.2［現在形・現在進行形/過去形・過去進行形］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第４回	対面	TOEIC 演習（1）：U. L-6 機能別疑問文	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第５回	対面	英文法演習（2）：U.4&5［現在（過去）完了形・現在完了進行形］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第６回	対面	TOEIC 演習（2）：U. R-6 長文穴埋め問題	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第７回	対面	英文法演習（3）：U.7［受動態］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第８回	対面	TOEIC 演習（3）： U. L-7 「依頼・要求」	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む）	2 時間

			事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	
第９回	対面	英文法演習（4）：U.6［助動詞］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１０回	対面	TOEIC 演習（4）：U. R-5 代名詞・関係代名詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１１回	対面	英文法演習（5）：U.8［不定詞］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、中間レビュークイズ（英文法）の準備	2 時間
第１２回	対面	TOEIC 演習（5）：U. L-8 「問題点」・「提案・助言」・「申し出」	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、中間レビュークイズ（TOEIC）の準備	2 時間
第１３回	対面	中間レビュークイズ（英文法）	事前学修：中間レビュークイズ（英文法）に向けた復習 事後学修：小テストの準備	2 時間
第１４回	対面	中間レビュークイズ（TOEIC）	事前学修：中間レビュークイズ（TOEIC）に向けた復習 事後学修：小テストの準備	2 時間
第１５回	対面	中間レビュークイズ（英文法）見直し 英文法演習（6）：U.9［動名詞］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：中間レビュークイズ（英文法）の復習、小テストの準備	2 時間
第１６回	対面	中間レビュークイズ（TOEIC）見直し TOEIC 演習（6）：U. R-8 E メール・手紙	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：中間レビュークイズ（TOEIC）の復習、小テストの準備	2 時間
第１７回	対面	英文法演習（7）：U.14&15［関係代名詞］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１８回	対面	TOEIC 演習（7）：U. L-9 「目的」・「次の行動」・「意図」	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１９回	対面	英文法演習（8）：U.11［接続詞］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２０回	対面	TOEIC 演習（8）：U. R-9 告知・社内回覧	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２１回	対面	英文法演習（9）：U.10［現在・過去分詞］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２２回	対面	TOEIC 演習（9）：U. L-10 録音メッセージ・アナウンス	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２３回	対面	英文法演習（10）：U.12&13［比較表現］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、期末レビュークイズ（英文法）に向けた復習	2 時間
第２４回	対面	TOEIC 演習（10）：U. R-11 ダブルパッセージ	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、期末レビュークイズ（TOEIC）に向けた復習	2 時間
第２５回	対面	期末レビュークイズ（英文法）	事前学修：期末レビュークイズ（英文法）に向けた復習	2 時間

第２６回	対面	期末レビュークイズ（TOEIC）	事前学修：期末レビュークイズ（TOEIC）に向けた復習	2 時間
第２７回	対面	期末レビュークイズ（英文法）の見直し	事後学修：期末レビュークイズ（英文法）の見直しと結果に応じた復習、春学期学修内容（英文法）の総復習	2 時間
第２８回	対面	期末レビュークイズ（TOEIC）の見直し	事後学修：期末レビュークイズ（TOEIC）の見直しと結果に応じた復習、春学期学修内容（TOEIC）の総復習	2 時間
第２９回	オンデマンド	期末レビュークイズ（英文法）に向けたポイント解説・復習	事後学修：期末レビュークイズ（英文法）に向けた復習	2 時間
第３０回	オンデマンド	期末レビュークイズ（TOEIC）に向けたポイント解説・復習	事後学修：期末レビュークイズ（TOEIC）に向けた復習	2 時間

科目名	Intensive English W/R　Ⅱ	開講年度	2025
担当者	本多　善	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	TOEIC スコアアップに向けた英語力としての語彙・文法・読解の基本的スキルの強化		
授業の目的及び概要	本授業は 1 週間に 2 回行われ、①全体的な英語力強化と②TOEIC テストでのスコアアップを目的とします。 ①では、英語の理解に必要とされる高頻度語 1,500 語と基本的な文法項目の受容的知識の定着を図ります。授業では、教科書並びに e-Learning 教材からのインプットにより知識を蓄え、演習問題やアウトプット活動を通じて知識を定着させ、単文や構造が明快な重文・複文であれば読み取れる、聞き取れるようになることを目指します。 ②では、TOEIC 問題演習に取り組むことで、①で身に付けた知識をテストで使える知識へと昇華していきます。また、就業力 育成の観点から論理的思考力や幅広い視野を育み、国際通用力を図る基準として TOEIC を位置づけ、国際社会で使える英語技能を備えた英語運用能力を身に付けます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本授業の学修到達目標は、語彙・文法・長文・アウトプットに関してそれぞれ以下のように設定します。 【文法・語彙】 １．文章中に表れる授業で扱った文法・語彙に気づき、その意味が分かる。 ２．各授業で行われる高頻度語に関する小テストにおいて、70%以上正答することができる。 ３．授業で扱った文法・語彙・教科書内容に関する明示的知識を問うテストにおいて、70%以上正答することができる。 ３．授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を身に付け、他者に説明することができる。 ４．授業で扱った文法・語彙を使って、正しい文法・語法で文章やパッセージを作成することができる。 【長文】 １．授業で扱った文法・語彙で構成されたまとまりのある文章を理解し、その要約をすることができる。 ２．授業で扱った文法・語彙のみで構成されたまとまりのある文章を理解し、自分の意見を交えながら他者に伝えることができる。 【アウトプット】 １．授業で扱った語彙・文章を正確に英語らしく発音することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストおよび課題で出される e-Learning について授業内でのフィードバックを行う。レビュークイズについても授業のなかでフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	授業では以下の 2 冊のテキストを併用します。クラスによって使用するテキストがことなるため注意してください。 ＜クラスによって異なる＞ ①Let's Output in Basic English、佐藤臨太郎、金星堂、2020 年 ②English Switch、Robert Hickling・臼倉美里、金星	ISBN	①9784764741089 ②9784764740129 ③9784255157320

	堂、2016 年 ＜全クラス共通＞ ③[改訂版] TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル 500、西谷敦子ほか、朝日出版社、2025 年（通年）		
参考書	なし	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	70
	その他の内容	①レビュークイズ：40%（20%×2 回） ②e-Learning 学修：10% ③TOEIC：20%（共通目標達成で 10%、発展目標達成で 10%）
この科目の受講にあたって	グローバルな社会で活躍するためには、コミュニケーションツールとしての英語力が必要です。また、実践的な英語力を身につけるためには、常に英語に触れる環境が必要です。授業では、英語の基本的能力を身につける学修で英語力の基本を固めつつ、読解演習を通して応用力を培います。毎回の授業では多くの課題が出されます。e-Learning 学修による語彙の増強、英文法の確認や TOEIC 問題の予習・復習など、課内だけでなく課外での学修を進めることで、自学自修の習慣を身につけてください。授業では積極的に参加し、発言してください。 学修の成果を測るため、各学期に実施される TOEIC IP テストを受験します。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション：授業概要、評価方法、授業の進め方の説明（英文法演習については、クラスレベルによって授業計画が異なる場合があります。詳細は第 1 回授業にて周知いたします。）	事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２回	対面	イントロダクション：授業概要、評価方法、授業の進め方の説明	事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第３回	対面	英文法演習（1）：U.2［現在形・現在進行形/過去形・過去進行形］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第４回	対面	TOEIC 演習（1）：U. L-6 機能別疑問文	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第５回	対面	英文法演習（2）：U.4&5［現在（過去）完了形・現在完了進行形］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第６回	対面	TOEIC 演習（2）：U. R-6 長文穴埋め問題	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第７回	対面	英文法演習（3）：U.7［受動態］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第８回	対面	TOEIC 演習（3）： U. L-7 「依頼・要求」	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む）	2 時間

			事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	
第９回	対面	英文法演習（4）：U.6［助動詞］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１０回	対面	TOEIC 演習（4）：U. R-5 代名詞・関係代名詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１１回	対面	英文法演習（5）：U.8［不定詞］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、中間レビュークイズ（英文法）の準備	2 時間
第１２回	対面	TOEIC 演習（5）：U. L-8 「問題点」・「提案・助言」・「申し出」	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、中間レビュークイズ（TOEIC）の準備	2 時間
第１３回	対面	中間レビュークイズ（英文法）	事前学修：中間レビュークイズ（英文法）に向けた復習 事後学修：小テストの準備	2 時間
第１４回	対面	中間レビュークイズ（TOEIC）	事前学修：中間レビュークイズ（TOEIC）に向けた復習 事後学修：小テストの準備	2 時間
第１５回	対面	中間レビュークイズ（英文法）見直し 英文法演習（6）：U.9［動名詞］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：中間レビュークイズ（英文法）の復習、小テストの準備	2 時間
第１６回	対面	中間レビュークイズ（TOEIC）見直し TOEIC 演習（6）：U. R-8 E メール・手紙	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：中間レビュークイズ（TOEIC）の復習、小テストの準備	2 時間
第１７回	対面	英文法演習（7）：U.14&15［関係代名詞］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１８回	対面	TOEIC 演習（7）：U. L-9 「目的」・「次の行動」・「意図」	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１９回	対面	英文法演習（8）：U.11［接続詞］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２０回	対面	TOEIC 演習（8）：U. R-9 告知・社内回覧	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２１回	対面	英文法演習（9）：U.10［現在・過去分詞］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２２回	対面	TOEIC 演習（9）：U. L-10 録音メッセージ・アナウンス	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２３回	対面	英文法演習（10）：U.12&13［比較表現］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、期末レビュークイズ（英文法）に向けた復習	2 時間
第２４回	対面	TOEIC 演習（10）：U. R-11 ダブルパッセージ	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、期末レビュークイズ（TOEIC）に向けた復習	2 時間
第２５回	対面	期末レビュークイズ（英文法）	事前学修：期末レビュークイズ（英文法）に向けた復習	2 時間

第２６回	対面	期末レビュークイズ（TOEIC）	事前学修：期末レビュークイズ（TOEIC）に向けた復習	2 時間
第２７回	対面	期末レビュークイズ（英文法）の見直し	事後学修：期末レビュークイズ（英文法）の見直しと結果に応じた復習、春学期学修内容（英文法）の総復習	2 時間
第２８回	対面	期末レビュークイズ（TOEIC）の見直し	事後学修：期末レビュークイズ（TOEIC）の見直しと結果に応じた復習、春学期学修内容（TOEIC）の総復習	2 時間
第２９回	オンデマンド	期末レビュークイズ（英文法）に向けたポイント解説・復習	事後学修：期末レビュークイズ（英文法）に向けた復習	2 時間
第３０回	オンデマンド	期末レビュークイズ（TOEIC）に向けたポイント解説・復習	事後学修：期末レビュークイズ（TOEIC）に向けた復習	2 時間

科目名	Intensive English W/R　Ⅱ	開講年度	2025
担当者	岩男　久仁子	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	TOEIC スコアアップに向けた英語力としての語彙・文法・読解の基本的スキルの強化		
授業の目的及び概要	この授業は、語彙、文法、およびリーディング力を向上させることによって TOEIC スコアアップを目指します。具体的には、授業ではまず語彙の強化と文法に関する正しい知識の修得を図り、現代社会の多様なテーマについて書かれた英語記事のリーディングを通して英文を読むことに慣れ、キーワードやキーフレーズを見つけ出したり、文法知識の定着とアウトプットの繰り返しによってより正確に読解できるようになることを目的とします。また、就業力育成の観点から論理的思考力や幅広い視野を育み、国際通用力を図る基準として TOEIC 位置づけ、国際社会で使える英語技能を備えた英語運用能力を身に付けます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	語彙の強化や文法を正しく理解することで、様々な分野の英文を読む能力を養成します。また基礎的な英文構造についての理解に基づいて問題演習を繰り返し、修得した語彙や文法知識を使い英文を読み解く力を養います。授業を通して、①英語の基礎的レベルを徹底的に理解するだけではなく、それらの知識（文法／語彙）を用いて複雑な英文が書けるようになる、②多様な英文を読み、語彙の拡張と英文の構造・内容を理解できる、③TOEIC スコアを向上させる、ことを目標とします。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストおよび課題で出される e-Learning について授業内でのフィードバックを行う。レビュークイズについても授業のなかでフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①NEW GATEWAY TO THE TOEIC® L&R TEST　新 イラスト・図解で学ぶ TOEIC® L&R テスト はじめの一歩，仲川 浩世他，金星堂，2021 年	ISBN	①9784764741263
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	20
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	50
その他の内容	①中間レビュークイズ 20% ②期末レビュークイズ 20% ③7 月 TOEIC IP テスト 10%

この科目の受講に	グローバルな社会で活躍するためには、コミュニケーションツールとしての英語力が必要です。また、実践的な英語力を身につけるためには、常に英語に触れる環境が必要です。授業では、

あたって	英語の基本的能力を身につける学修で英語力の基本を固めつつ、読解演習を通して応用力を培います。毎回の授業では多くの課題が出されます。語彙の増強、英文法の確認やリーディング問題の予習・復習など、課内だけでなく課外での学修を進めることで、自学自修の習慣を身につけてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	オンデマンド	オリエンテーション：授業概要、評価方法、授業の進め方の説明	事後学修：テキスト「本書の構成・TOEIC L&R Test について」熟読	2 時間
第２回	オンデマンド	オリエンテーション：授業概要、評価方法、授業の進め方の説明	事後学修：テキスト「本書の構成・TOEIC L&R Test について」熟読	2 時間
第３回	オンデマンド	英文法演習（1）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習	2 時間
第４回	オンデマンド	リーディング演習（1）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習	2 時間
第５回	オンデマンド	英文法演習（2）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習	2 時間
第６回	オンデマンド	リーディング演習（2）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習	2 時間
第７回	オンデマンド	英文法演習（3）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習	2 時間
第８回	オンデマンド	リーディング演習（3）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習	2 時間
第９回	オンデマンド	英文法演習（4）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習	2 時間
第１０回	オンデマンド	リーディング演習（4）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習	2 時間
第１１回	オンデマンド	英文法演習（5）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習	2 時間
第１２回	オンデマンド	リーディング演習（5）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習	2 時間
第１３回	オンデマンド	中間レビュークイズ（英文法）	事前学修：中間レビュークイズ（英文法）に向けた復習	2 時間
第１４回	オンデマンド	中間レビュークイズ（リーディング）	事前学修：中間レビュークイズ（リーディング）に向けた復習	2 時間
第１５回	オンデマンド	中間レビュークイズ（英文法）見直し 英文法演習（6）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：中間レビュークイズ（英文法）の見直しと結果に応じた復習、授業内容の復習	2 時間
第１６回	オンデマンド	中間レビュークイズ（リーディング）見直し リーディング演習（6）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：中間レビュークイズ（リーディング）の見直しと結果に応じた復習、授業内容の復習	2 時間
第１７回	オンデマンド	英文法演習（7）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む）	2 時間

			事後学修：授業内容の復習	
第１８回	オンデマンド	リーディング演習（7）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習	2 時間
第１９回	オンデマンド	英文法演習（8）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習	2 時間
第２０回	オンデマンド	リーディング演習（8）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習	2 時間
第２１回	オンデマンド	英文法演習（9）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習	2 時間
第２２回	オンデマンド	リーディング演習（9）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習	2 時間
第２３回	オンデマンド	英文法演習（10）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習	2 時間
第２４回	オンデマンド	リーディング演習（10）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習	2 時間
第２５回	オンデマンド	期末レビュークイズ（英文法）	事前学修：期末レビュークイズ（英文法）に向けた復習	2 時間
第２６回	オンデマンド	期末レビュークイズ（リーディング）	事前学修：期末レビュークイズ（リーディング）に向けた復習	2 時間
第２７回	オンデマンド	期末レビュークイズ（英文法）の見直し	事後学修：期末レビュークイズ（英文法）の見直しと結果に応じた復習	2 時間
第２８回	オンデマンド	期末レビュークイズ（リーディング）の見直し	事後学修：期末レビュークイズ（リーディング）の見直しと結果に応じた復習	2 時間
第２９回	オンデマンド	学修内容（英文法）の総復習	事後学修：学修内容（英文法）の総復習	2 時間
第３０回	オンデマンド	学修内容（リーディング）の総復習	事後学修：学修内容（リーディング）の総復習	2 時間

科目名	Intensive English L/S　I	開講年度	2025
担当者	スコット・アレキサンダー	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語の聴解、会話、文法、語彙を中心に、基礎知識の強化と運営力の養成		
授業の目的及び概要	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。特に、「意味が分かる単語」（受容語彙、passive vocabulary）を「会話で使える単語」（産出語彙、active vocabulary）へ変更することに重点を置く。基本語彙・表現・文型などを練習し、ロールプレイなどのアクティビティなどで実際に使って、スピーキング技能をしっかり身に付ける。また、PROGOS （AI によるスピーキング・テスト）などの評価によって、自分のスピーキング力のレベルを把握し、目標をたて、モティベーションが付く。また、アイスブレーキング、ペアワーク、グループワークなどを多用する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。PROGOS （AI によるスピーキング・テスト）などの評価によって、学生は自分のスピーキング力のレベルを CEFR の分析の細目（Range 表現の幅 / Accuracy 正確さ / Fluency 流暢さ /Interaction やりとり / Coherence 一貫性 / Phonology 音韻（＝言語の音声））で把握し、目標を立てて向上を目指す。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	レポートは、添削した上で返却します。小テストは、採点した上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	World Voices 2, ABAX	ISBN	9781785470684
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	15
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	55
その他の内容	PROGOS: 15% （受験：10%, A1 以上到達：5%） Review Quiz 1: 20% Review Quiz 2: 20%

この科目の受講にあたって	授業には、必ず英和辞典もしくは、電子辞書を持参すること。 授業中は、携帯電話、スマートフォン、及び通信機能を持つ機器のアプリ使用は、一切禁止する。（カバンのなかにしまった状態。）

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第１回	対面	Course Outline / Orientation; (first part); Unit 1: You	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	２時間
第２回	対面	Unit 1: You; Introducing yourself	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	２時間
第３回	対面	Unit 1: You; Introducing your hometown	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	２時間
第４回	対面	Unit 1: You; poster presentations (between 2 and 4 minutes); PROGOS practice End-of-Unit Common Assignment 1	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	２時間
第５回	対面	Unit 2: Home; Making requests	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	２時間
第６回	対面	Unit 2: Home; Helping	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	２時間
第７回	対面	Unit 2: Home; Talk about where things are	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	２時間
第８回	対面	Unit 2: Home; poster presentations (between 2 and 4 minutes); PROGOS practice End-of-Unit Common Assignment 2	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	２時間
第９回	対面	Unit 3: Daily Life; Asking for permission	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	２時間
第１０回	対面	Unit 3: Daily Life; Review and Preparation for Review Quiz	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	２時間
第１１回	対面	Review Quiz 1 (Speaking Test)	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	２時間
第１２回	対面	Unit 3: Daily Life; Giving permission; Review Quiz Feedback	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	２時間
第１３回	対面	Unit 3: Daily Life; poster presentations (between 2 and 4 minutes); PROGOS practice End-of-Unit Common Assignment 3	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	２時間
第１４回	対面	Unit 4: Neighborhood; Embedded questions	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	２時間
第１５回	対面	Unit 4: Neighborhood; Answering embedded questions	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	２時間
第１６回	対面	Unit 4: Neighborhood; Declining	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	２時間
第１７回	対面	Unit 4: Neighborhood; poster presentations (between 2 and 4 minutes); PROGOS practice End-of-Unit Common Assignment 4	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	２時間

第１８回	対面	Unit 5: Work; Opinions & politely disagreeing	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間
第１９回	対面	Unit 5: Work; Disagreeing more firmly	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間
第２０回	オンデマンド	Review of Previous Material and Preparation for Review Quiz Video Lesson with related assessment material on Learning Portal	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間
第２１回	対面	Unit 5: Work; Getting others' opinions	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間
第２２回	対面	Unit 5: Work; poster presentations (between 2 and 4 minutes) End-of-Unit Common Assignment 5	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間
第２３回	対面	Unit 6: Free Time; Inviting people PROGOS Mock Test (Using Free Application)	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間
第２４回	対面	Unit 6: Free Time; Conditions Official PROGOS Testing Period	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間
第２５回	オンデマンド	Review and Preparation for Review Quiz; Unit 6 Video Lesson with related assessment material on Learning Portal	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間
第２６回	対面	Unit 6: Free Time; poster presentations (between 2 and 4 minutes) End-of-Unit Common Assignment 6	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間
第２７回	対面	Review Units 1~6	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間
第２８回	対面	レビュークイズ２Review Quiz 2 (Written/Listening Test)	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間
第２９回	対面	Review Quiz 2 Feedback	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間
第３０回	対面	まとめ (Summary / Reflection on the course)	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間

科目名	Intensive English L/S　I	開講年度	2025
担当者	カー・クリス	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語の聴解、会話、文法、語彙を中心に、基礎知識の強化と運営力の養成		
授業の目的及び概要	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。特に、「意味が分かる単語」（受容語彙、passive vocabulary）を「会話で使える単語」（産出語彙、active vocabulary）へ変更することに重点を置く。基本語彙・表現・文型などを練習し、ロールプレイなどのアクティビティなどで実際に使って、スピーキング技能をしっかり身に付ける。また、PROGOS （AI によるスピーキング・テスト）などの評価によって、自分のスピーキング力のレベルを把握し、目標をたて、モティベーションが付く。また、アイスブレーキング、ペアワーク、グループワークなどを多用する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。PROGOS （AI によるスピーキング・テスト）などの評価によって、学生は自分のスピーキング力のレベルを CEFR の分析の細目（Range 表現の幅 / Accuracy 正確さ / Fluency 流暢さ /Interaction やりとり / Coherence 一貫性 / Phonology 音韻（＝言語の音声））で把握し、目標を立てて向上を目指す。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	レポートは、添削した上で返却します。小テストは、採点した上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	World Voices 2, ABAX	ISBN	9781785470684
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	15
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	55
その他の内容	PROGOS: 15% （受験：10%, A1 以上到達：5%） Review Quiz 1: 20% Review Quiz 2: 20%

この科目の受講にあたって
授業には、必ず英和辞典もしくは、電子辞書を持参すること。 授業中は、携帯電話、スマートフォン、及び通信機能を持つ機器のアプリ使用は、一切禁止する。（カバンのなかにしまった状態。）

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第１回	対面	Course Outline / Orientation; (first part); Unit 1: You	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間
第２回	対面	Unit 1: You; Introducing yourself	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間
第３回	対面	Unit 1: You; Introducing your hometown	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間
第４回	対面	Unit 1: You; poster presentations (between 2 and 4 minutes); PROGOS practice End-of-Unit Common Assignment 1	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間
第５回	対面	Unit 2: Home; Making requests	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間
第６回	対面	Unit 2: Home; Helping	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間
第７回	対面	Unit 2: Home; Talk about where things are	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間
第８回	対面	Unit 2: Home; poster presentations (between 2 and 4 minutes); PROGOS practice End-of-Unit Common Assignment 2	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間
第９回	対面	Unit 3: Daily Life; Asking for permission	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間
第１０回	対面	Unit 3: Daily Life; Review and Preparation for Review Quiz	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間
第１１回	対面	Review Quiz 1 (Speaking Test)	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間
第１２回	対面	Unit 3: Daily Life; Giving permission; Review Quiz Feedback	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間
第１３回	対面	Unit 3: Daily Life; poster presentations (between 2 and 4 minutes); PROGOS practice End-of-Unit Common Assignment 3	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間
第１４回	対面	Unit 4: Neighborhood; Embedded questions	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間
第１５回	対面	Unit 4: Neighborhood; Answering embedded questions	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間
第１６回	対面	Unit 4: Neighborhood; Declining	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間
第１７回	対面	Unit 4: Neighborhood; poster presentations (between 2 and 4 minutes); PROGOS practice End-of-Unit Common Assignment 4	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間

第１８回	対面	Unit 5: Work; Opinions & politely disagreeing	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間
第１９回	対面	Unit 5: Work; Disagreeing more firmly	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間
第２０回	オンデマンド	Review of Previous Material and Preparation for Review Quiz Video Lesson with related assessment material on Learning Portal	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間
第２１回	対面	Unit 5: Work; Getting others' opinions	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間
第２２回	対面	Unit 5: Work; poster presentations (between 2 and 4 minutes) End-of-Unit Common Assignment 5	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間
第２３回	対面	Unit 6: Free Time; Inviting people PROGOS Mock Test (Using Free Application)	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間
第２４回	対面	Unit 6: Free Time; Conditions Official PROGOS Testing Period	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間
第２５回	オンデマンド	Review and Preparation for Review Quiz; Unit 6 Video Lesson with related assessment material on Learning Portal	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間
第２６回	対面	Unit 6: Free Time; poster presentations (between 2 and 4 minutes) End-of-Unit Common Assignment 6	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間
第２７回	対面	Review Units 1~6	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間
第２８回	対面	レビュークイズ２Review Quiz 2 (Written/Listening Test)	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間
第２９回	対面	Review Quiz 2 Feedback	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間
第３０回	対面	まとめ (Summary / Reflection on the course)	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間

科目名	Intensive English L/S　I	開講年度	2025
担当者	バンティング　ジャネット	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語の聴解、会話、文法、語彙を中心に、基礎知識の強化と運営力の養成		
授業の目的及び概要	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。特に、「意味が分かる単語」（受容語彙、passive vocabulary）を「会話で使える単語」（産出語彙、active vocabulary）へ変更することに重点を置く。基本語彙・表現・文型などを練習し、ロールプレイなどのアクティビティなどで実際に使って、スピーキング技能をしっかり身に付ける。また、PROGOS （AI によるスピーキング・テスト）などの評価によって、自分のスピーキング力のレベルを把握し、目標をたて、モティベーションが付く。また、アイスブレーキング、ペアワーク、グループワークなどを多用する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。PROGOS （AI によるスピーキング・テスト）などの評価によって、学生は自分のスピーキング力のレベルを CEFR の分析の細目（Range 表現の幅 / Accuracy 正確さ / Fluency 流暢さ /Interaction やりとり / Coherence 一貫性 / Phonology 音韻（＝言語の音声））で把握し、目標を立てて向上を目指す。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	レポートは、添削した上で返却します。小テストは、採点した上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	World Voices 2, ABAX	ISBN	9781785470684
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	15
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	55
その他の内容	PROGOS: 15% （受験：10%, A1 以上到達：5%） Review Quiz 1: 20% Review Quiz 2: 20%

この科目の受講にあたって
授業には、必ず英和辞典もしくは、電子辞書を持参すること。 授業中は、携帯電話、スマートフォン、及び通信機能を持つ機器のアプリ使用は、一切禁止する。（カバンのなかにしまった状態。）

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第１回	対面	Course Outline / Orientation; (first part); Unit 1: You	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	２時間
第２回	対面	Unit 1: You; Introducing yourself	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	２時間
第３回	対面	Unit 1: You; Introducing your hometown	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	２時間
第４回	対面	Unit 1: You; poster presentations (between 2 and 4 minutes); PROGOS practice End-of-Unit Common Assignment 1	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	２時間
第５回	対面	Unit 2: Home; Making requests	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	２時間
第６回	対面	Unit 2: Home; Helping	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	２時間
第７回	対面	Unit 2: Home; Talk about where things are	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	２時間
第８回	対面	Unit 2: Home; poster presentations (between 2 and 4 minutes); PROGOS practice End-of-Unit Common Assignment 2	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	２時間
第９回	対面	Unit 3: Daily Life; Asking for permission	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	２時間
第１０回	対面	Unit 3: Daily Life; Review and Preparation for Review Quiz	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	２時間
第１１回	対面	Review Quiz 1 (Speaking Test)	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	２時間
第１２回	対面	Unit 3: Daily Life; Giving permission; Review Quiz Feedback	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	２時間
第１３回	対面	Unit 3: Daily Life; poster presentations (between 2 and 4 minutes); PROGOS practice End-of-Unit Common Assignment 3	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	２時間
第１４回	対面	Unit 4: Neighborhood; Embedded questions	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	２時間
第１５回	対面	Unit 4: Neighborhood; Answering embedded questions	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	２時間
第１６回	対面	Unit 4: Neighborhood; Declining	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	２時間
第１７回	対面	Unit 4: Neighborhood; poster presentations (between 2 and 4 minutes); PROGOS practice End-of-Unit Common Assignment 4	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	２時間

第１８回	対面	Unit 5: Work; Opinions & politely disagreeing	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間
第１９回	対面	Unit 5: Work; Disagreeing more firmly	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間
第２０回	オンデマンド	Review of Previous Material and Preparation for Review Quiz Video Lesson with related assessment material on Learning Portal	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間
第２１回	対面	Unit 5: Work; Getting others' opinions	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間
第２２回	対面	Unit 5: Work; poster presentations (between 2 and 4 minutes) End-of-Unit Common Assignment 5	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間
第２３回	対面	Unit 6: Free Time; Inviting people PROGOS Mock Test (Using Free Application)	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間
第２４回	対面	Unit 6: Free Time; Conditions Official PROGOS Testing Period	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間
第２５回	オンデマンド	Review and Preparation for Review Quiz; Unit 6 Video Lesson with related assessment material on Learning Portal	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間
第２６回	対面	Unit 6: Free Time; poster presentations (between 2 and 4 minutes) End-of-Unit Common Assignment 6	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間
第２７回	対面	Review Units 1~6	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間
第２８回	対面	レビュークイズ２Review Quiz 2 (Written/Listening Test)	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間
第２９回	対面	Review Quiz 2 Feedback	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間
第３０回	対面	まとめ (Summary / Reflection on the course)	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間

科目名	Intensive English L/S　I	開講年度	2025
担当者	ミルズ・ジョナサン	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語の聴解、会話、文法、語彙を中心に、基礎知識の強化と運営力の養成		
授業の目的及び概要	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。特に、「意味が分かる単語」（受容語彙、passive vocabulary）を「会話で使える単語」（産出語彙、active vocabulary）へ変更することに重点を置く。基本語彙・表現・文型などを練習し、ロールプレイなどのアクティビティなどで実際に使って、スピーキング技能をしっかり身に付ける。また、PROGOS （AI によるスピーキング・テスト）などの評価によって、自分のスピーキング力のレベルを把握し、目標をたて、モティベーションが付く。また、アイスブレーキング、ペアワーク、グループワークなどを多用する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。PROGOS （AI によるスピーキング・テスト）などの評価によって、学生は自分のスピーキング力のレベルを CEFR の分析の細目（Range 表現の幅 / Accuracy 正確さ / Fluency 流暢さ /Interaction やりとり / Coherence 一貫性 / Phonology 音韻（＝言語の音声））で把握し、目標を立てて向上を目指す。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	レポートは、添削した上で返却します。小テストは、採点した上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	World Voices 2, ABAX	ISBN	9781785470684
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	15
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	55
	その他の内容	PROGOS: 15% （受験：10%, A1 以上到達：5%） Review Quiz 1: 20% Review Quiz 2: 20%
この科目の受講にあたって	授業には、必ず英和辞典もしくは、電子辞書を持参すること。 授業中は、携帯電話、スマートフォン、及び通信機能を持つ機器のアプリ使用は、一切禁止する。（カバンのなかにしまった状態。）	

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第１回	対面	Course Outline / Orientation; (first part); Unit 1: You	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	２時間
第２回	対面	Unit 1: You; Introducing yourself	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	２時間
第３回	対面	Unit 1: You; Introducing your hometown	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	２時間
第４回	対面	Unit 1: You; poster presentations (between 2 and 4 minutes); PROGOS practice End-of-Unit Common Assignment 1	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	２時間
第５回	対面	Unit 2: Home; Making requests	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	２時間
第６回	対面	Unit 2: Home; Helping	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	２時間
第７回	対面	Unit 2: Home; Talk about where things are	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	２時間
第８回	対面	Unit 2: Home; poster presentations (between 2 and 4 minutes); PROGOS practice End-of-Unit Common Assignment 2	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	２時間
第９回	対面	Unit 3: Daily Life; Asking for permission	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	２時間
第１０回	対面	Unit 3: Daily Life; Review and Preparation for Review Quiz	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	２時間
第１１回	対面	Review Quiz 1 (Speaking Test)	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	２時間
第１２回	対面	Unit 3: Daily Life; Giving permission; Review Quiz Feedback	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	２時間
第１３回	対面	Unit 3: Daily Life; poster presentations (between 2 and 4 minutes); PROGOS practice End-of-Unit Common Assignment 3	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	２時間
第１４回	対面	Unit 4: Neighborhood; Embedded questions	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	２時間
第１５回	対面	Unit 4: Neighborhood; Answering embedded questions	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	２時間
第１６回	対面	Unit 4: Neighborhood; Declining	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	２時間
第１７回	対面	Unit 4: Neighborhood; poster presentations (between 2 and 4 minutes); PROGOS practice End-of-Unit Common Assignment 4	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	２時間

第１８回	対面	Unit 5: Work; Opinions & politely disagreeing	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間
第１９回	対面	Unit 5: Work; Disagreeing more firmly	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間
第２０回	オンデマンド	Review of Previous Material and Preparation for Review Quiz Video Lesson with related assessment material on Learning Portal	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間
第２１回	対面	Unit 5: Work; Getting others' opinions	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間
第２２回	対面	Unit 5: Work; poster presentations (between 2 and 4 minutes) End-of-Unit Common Assignment 5	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間
第２３回	対面	Unit 6: Free Time; Inviting people PROGOS Mock Test (Using Free Application)	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間
第２４回	対面	Unit 6: Free Time; Conditions Official PROGOS Testing Period	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間
第２５回	オンデマンド	Review and Preparation for Review Quiz; Unit 6 Video Lesson with related assessment material on Learning Portal	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間
第２６回	対面	Unit 6: Free Time; poster presentations (between 2 and 4 minutes) End-of-Unit Common Assignment 6	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間
第２７回	対面	Review Units 1~6	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間
第２８回	対面	レビュークイズ２Review Quiz 2 (Written/Listening Test)	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間
第２９回	対面	Review Quiz 2 Feedback	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間
第３０回	対面	まとめ (Summary / Reflection on the course)	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間

科目名	Intensive English L/S　I	開講年度	2025
担当者	ミルズ・ジョナサン	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語の聴解、会話、文法、語彙を中心に、基礎知識の強化と運営力の養成		
授業の目的及び概要	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。特に、「意味が分かる単語」（受容語彙、passive vocabulary）を「会話で使える単語」（産出語彙、active vocabulary）へ変更することに重点を置く。基本語彙・表現・文型などを練習し、ロールプレイなどのアクティビティなどで実際に使って、スピーキング技能をしっかり身に付ける。また、PROGOS （AI によるスピーキング・テスト）などの評価によって、自分のスピーキング力のレベルを把握し、目標をたて、モティベーションが付く。また、アイスブレーキング、ペアワーク、グループワークなどを多用する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。PROGOS （AI によるスピーキング・テスト）などの評価によって、学生は自分のスピーキング力のレベルを CEFR の分析の細目（Range 表現の幅 / Accuracy 正確さ / Fluency 流暢さ /Interaction やりとり / Coherence 一貫性 / Phonology 音韻（＝言語の音声））で把握し、目標を立てて向上を目指す。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	レポートは、添削した上で返却します。小テストは、採点した上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	World Voices 2, ABAX	ISBN	9781785470684
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	15
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	55
その他の内容	PROGOS: 15% （受験：10%, A1 以上到達：5%） Review Quiz 1: 20% Review Quiz 2: 20%

この科目の受講にあたって
授業には、必ず英和辞典もしくは、電子辞書を持参すること。 授業中は、携帯電話、スマートフォン、及び通信機能を持つ機器のアプリ使用は、一切禁止する。（カバンのなかにしまった状態。）

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第１回	対面	Course Outline / Orientation; (first part); Unit 1: You	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	２時間
第２回	対面	Unit 1: You; Introducing yourself	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	２時間
第３回	対面	Unit 1: You; Introducing your hometown	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	２時間
第４回	対面	Unit 1: You; poster presentations (between 2 and 4 minutes); PROGOS practice End-of-Unit Common Assignment 1	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	２時間
第５回	対面	Unit 2: Home; Making requests	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	２時間
第６回	対面	Unit 2: Home; Helping	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	２時間
第７回	対面	Unit 2: Home; Talk about where things are	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	２時間
第８回	対面	Unit 2: Home; poster presentations (between 2 and 4 minutes); PROGOS practice End-of-Unit Common Assignment 2	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	２時間
第９回	対面	Unit 3: Daily Life; Asking for permission	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	２時間
第１０回	対面	Unit 3: Daily Life; Review and Preparation for Review Quiz	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	２時間
第１１回	対面	Review Quiz 1 (Speaking Test)	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	２時間
第１２回	対面	Unit 3: Daily Life; Giving permission; Review Quiz Feedback	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	２時間
第１３回	対面	Unit 3: Daily Life; poster presentations (between 2 and 4 minutes); PROGOS practice End-of-Unit Common Assignment 3	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	２時間
第１４回	対面	Unit 4: Neighborhood; Embedded questions	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	２時間
第１５回	対面	Unit 4: Neighborhood; Answering embedded questions	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	２時間
第１６回	対面	Unit 4: Neighborhood; Declining	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	２時間
第１７回	対面	Unit 4: Neighborhood; poster presentations (between 2 and 4 minutes); PROGOS practice End-of-Unit Common Assignment 4	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	２時間

第１８回	対面	Unit 5: Work; Opinions & politely disagreeing	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間
第１９回	対面	Unit 5: Work; Disagreeing more firmly	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間
第２０回	オンデマンド	Review of Previous Material and Preparation for Review Quiz Video Lesson with related assessment material on Learning Portal	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間
第２１回	対面	Unit 5: Work; Getting others' opinions	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間
第２２回	対面	Unit 5: Work; poster presentations (between 2 and 4 minutes) End-of-Unit Common Assignment 5	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間
第２３回	対面	Unit 6: Free Time; Inviting people PROGOS Mock Test (Using Free Application)	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間
第２４回	対面	Unit 6: Free Time; Conditions Official PROGOS Testing Period	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間
第２５回	オンデマンド	Review and Preparation for Review Quiz; Unit 6 Video Lesson with related assessment material on Learning Portal	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間
第２６回	対面	Unit 6: Free Time; poster presentations (between 2 and 4 minutes) End-of-Unit Common Assignment 6	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間
第２７回	対面	Review Units 1~6	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間
第２８回	対面	レビュークイズ２Review Quiz 2 (Written/Listening Test)	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間
第２９回	対面	Review Quiz 2 Feedback	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間
第３０回	対面	まとめ (Summary / Reflection on the course)	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例２時間程度）を完成すること。	2 時間

科目名	Intensive English L/S　I	開講年度	2025
担当者	ウェザビ・マーティン	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語の聴解、会話、文法、語彙を中心に、基礎知識の強化と運営力の養成		
授業の目的及び概要	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。特に、「意味が分かる単語」（受容語彙、passive vocabulary）を「会話で使える単語」（産出語彙、active vocabulary）へ変更することに重点を置く。基本語彙・表現・文型などを練習し、ロールプレイなどのアクティビティなどで実際に使って、スピーキング技能をしっかり身に付ける。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	レポートは、添削した上で返却します。小テストは、採点した上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	World Voices 1, ABAX,　Alastair Graham, 2021 年	ISBN	9781785470677
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	15
授業期間中の小テスト、レポート課題等	45
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	40
その他の内容	Review Quiz 1: 20% Review Quiz 2: 20%

この科目の受講にあたって	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	オンデマンド	Orientation	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第２回	オンデマンド	Unit 1: You (1) Introducing yourself	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、	１時間

			課題（通例１時間程度）を完成すること。	
第３回	オンデマンド	Unit 1: You (2) Introducing your hometown	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第４回	オンデマンド	Unit 1: You (3) Introductions	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第５回	オンデマンド	Unit 1: You (4) Introductions	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第６回	オンデマンド	Unit 2: Home (1) Making requests	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第７回	オンデマンド	Unit 2: Home (2) Making requests	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第８回	オンデマンド	Unit 2: Home (3) Helping	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第９回	オンデマンド	Unit 3: Home (4) Taking about where things are	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第１０回	オンデマンド	Unit 3: Daily life (1) Asking for permission	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第１１回	オンデマンド	Unit 3: Daily life (2) Asking for permission	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第１２回	オンデマンド	Unit 3: Daily life (3) Giving permission	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第１３回	オンデマンド	Unit 3: Daily life (4) Giving Permission	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第１４回	オンデマンド	Unit 4: Neighborhood (1) Embedded questions	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第１５回	オンデマンド	Review Quiz 1 (Units 1-8)	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第１６回	オンデマンド	Review Quiz 1 - Feedback (Returned quiz, check and explain answers)	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第１７回	オンデマンド	Unit 4: Neighborhood (2) Embedded questions	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第１８回	オンデマンド	Unit 4: Neighborhood (3) Answering embedded questions	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第１９回	オンデマンド	Unit 4: Neighborhood (4) Answering embedded questions	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第２０回	オンデマンド	Unit 5: Work (1) Opinions and politely disagreeing	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第２１回	オンデマンド	Unit 5: Work (2) Disagreeing more firmly	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、	１時間

			課題（通例１時間程度）を完成すること。	
第２２回	オンデマンド	Unit 5: Work (3) Getting others' opinions	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第２３回	オンデマンド	Unit 5: Work (4) Getting others' opinions	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第２４回	オンデマンド	Unit 6: Free time (1) Conditions	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第２５回	オンデマンド	Unit 6: Free time (2) Conditions	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第２６回	オンデマンド	Unit 6: Free time (3) Popular activies	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第２７回	オンデマンド	Unit 6: Free time (4) Popular activities	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第２８回	オンデマンド	レビュークイズ２のための復習	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第２９回	オンデマンド	レビュークイズ２	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第３０回	オンデマンド	まとめ (Review Quiz 2 – feedback / Reflection on the course)	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間

科目名	Intensive English L/S Ⅱ	開講年度	2025
担当者	ウェザビ・マーティン	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語の聴解、会話、文法、語彙を中心に、基礎知識の強化と運営力の養成		
授業の目的及び概要	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。特に、「意味が分かる単語」（受容語彙、passive vocabulary）を「会話で使える単語」（産出語彙、active vocabulary）へ変更することに重点を置く。基本語彙・表現・文型などを練習し、ロールプレイなどのアクティビティなどで実際に使って、スピーキング技能をしっかり身に付ける。また、PROGOS （AI によるスピーキング・テスト）などの評価によって、自分のスピーキング力のレベルを把握し、目標をたて、モティベーションが付く。また、アイスブレーキング、ペアワーク、グループワークなどを多用する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。PROGOS （AI によるスピーキング・テスト）などの評価によって、学生は自分のスピーキング力のレベルを CEFR の分析の細目（Range 表現の幅 / Accuracy 正確さ / Fluency 流暢さ /Interaction やりとり / Coherence 一貫性 / Phonology 音韻（＝言語の音声））で把握し、目標を立てて向上を目指す。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	レポートは、添削した上で返却します。小テストは、採点した上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	Alistair Graham-Marr, World Voices 2, ABAX	ISBN	9781785470684
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	15
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	55
その他の内容	PROGOS: 15%（受験：10%, A1 以上到達：5%） Review Quiz 1: 20% Review Quiz 2: 20%

この科目の受講にあたって	
	授業には、必ず英和辞典もしくは、電子辞書を持参すること。 授業中は、携帯電話、スマートフォン、及び通信機能を持つ機器のアプリ使用は、一切禁止する。（カバンのなかにしまった状態。）

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第１回	対面	Orientation; Unit 7: Food and drink; Describing foods and drinks	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第２回	対面	Unit 7: Food and drink; Describing rules	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第３回	対面	Unit 7: Food and drink; Describing dishes of different countries	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第４回	対面	Unit 7: Food and drink; poster presentations (between 2 and 4 minutes); PROGOS practice End-of-Unit Common Assignment 7	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第５回	対面	Unit 8: Travel; Talking about typical vacation activities	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第６回	対面	Unit 8: Travel; Describing places that you've been to	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第７回	対面	Unit 8: Travel; Talking about holiday and vacation activities	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第８回	対面	Unit 8: Travel; Making suggestions and recommendations	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第９回	対面	Unit 8: Travel; poster presentations (between 2 and 4 minutes); PROGOS practice End-of-Unit Common Assignment 8	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第１０回	対面	Unit 9: Education; Describing academic study	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第１１回	対面	Unit 9: Education Review and Preparation for Review Quiz; Talking about school subjects and academic study; Review	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第１２回	対面	Review Quiz 1 (Speaking Test)	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第１３回	対面	Unit 9: Education; Review Quiz Feedback; Using follow-up questions	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第１４回	対面	Unit 9: Education; poster presentations (between 2 and 4 minutes); PROGOS practice End-of-Unit Common Assignment 9	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第１５回	対面	Unit 10: Health; Talking about health and physical condition	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第１６回	対面	Unit 10: Health; Using medical words and words describing health	フィードバック： 採点されたテストの答え合わせ、解説	１時間
第１７回	対面	Unit 10: Health; Discussing common health problems	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第１８回	対面	Unit 10: Health; poster presentations (between 2 and 4 minutes); PROGOS pr	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、	１時間

		actice End-of-Unit Common Assignment 10	課題（通例１時間程度）を完成すること。	
第１９回	対面	Unit 11: Numbers and prices; Understanding numbers and prices	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第２０回	オンデマンド	On Demand lesson; Review of Previous Material and Preparation for Review Quiz Video Lesson with related assessment material on Learning Portal	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第２１回	対面	Unit 11: Numbers and prices; Talking about numbers and currencies Official PROGOS Testing Period	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第２２回	対面	Unit 11: Numbers and prices; Making suggestions and recommendations	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第２３回	対面	Unit 11: Numbers and prices; poster presentations (between 2 and 4 minutes) End-of-Unit Common Assignment 11	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第２４回	対面	Unit 12: People; Describing people	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第２５回	オンデマンド	On Demand lesson; Review and Preparation for Review Quiz; Unit 12: People; Offering sympathy Video Lesson with related assessment material on Learning Portal	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第２６回	対面	Unit 12 People; Using adjectives to describe people	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第２７回	対面	Unit 12 People; poster presentations (between 2 and 4 minutes) End-of-Unit Common Assignment 12	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第２８回	対面	Review Quiz 2 (Written/Listening Test)	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第２９回	対面	Review Quiz 2 - Feedback; (Return corrected quiz, check and explain answers)	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第３０回	対面	General Summary; Overall reflection on and review of the course	総括	１時間

科目名	Intensive English L/S Ⅱ	開講年度	2025
担当者	カー・クリス	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語の聴解、会話、文法、語彙を中心に、基礎知識の強化と運営力の養成		
授業の目的及び概要	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。特に、「意味が分かる単語」（受容語彙、passive vocabulary）を「会話で使える単語」（産出語彙、active vocabulary）へ変更することに重点を置く。基本語彙・表現・文型などを練習し、ロールプレイなどのアクティビティなどで実際に使って、スピーキング技能をしっかり身に付ける。また、PROGOS （AI によるスピーキング・テスト）などの評価によって、自分のスピーキング力のレベルを把握し、目標をたて、モティベーションが付く。また、アイスブレーキング、ペアワーク、グループワークなどを多用する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。PROGOS （AI によるスピーキング・テスト）などの評価によって、学生は自分のスピーキング力のレベルを CEFR の分析の細目（Range 表現の幅 / Accuracy 正確さ / Fluency 流暢さ /Interaction やりとり / Coherence 一貫性 / Phonology 音韻（＝言語の音声））で把握し、目標を立てて向上を目指す。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	レポートは、添削した上で返却します。小テストは、採点した上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	Alistair Graham-Marr, World Voices 2, ABAX	ISBN	9781785470684
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	15
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	55
その他の内容	PROGOS: 15%（受験：10%, A1 以上到達：5%） Review Quiz 1: 20% Review Quiz 2: 20%

この科目の受講にあたって	
	授業には、必ず英和辞典もしくは、電子辞書を持参すること。 授業中は、携帯電話、スマートフォン、及び通信機能を持つ機器のアプリ使用は、一切禁止する。（カバンのなかにしまった状態。）

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第１回	対面	Orientation; Unit 7: Food and drink; Describing foods and drinks	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第２回	対面	Unit 7: Food and drink; Describing rules	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第３回	対面	Unit 7: Food and drink; Describing dishes of different countries	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第４回	対面	Unit 7: Food and drink; poster presentations (between 2 and 4 minutes); PROGOS practice End-of-Unit Common Assignment 7	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第５回	対面	Unit 8: Travel; Talking about typical vacation activities	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第６回	対面	Unit 8: Travel; Describing places that you've been to	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第７回	対面	Unit 8: Travel; Talking about holiday and vacation activities	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第８回	対面	Unit 8: Travel; Making suggestions and recommendations	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第９回	対面	Unit 8: Travel; poster presentations (between 2 and 4 minutes); PROGOS practice End-of-Unit Common Assignment 8	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第１０回	対面	Unit 9: Education; Describing academic study	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第１１回	対面	Unit 9: Education Review and Preparation for Review Quiz; Talking about school subjects and academic study; Review	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第１２回	対面	Review Quiz 1 (Speaking Test)	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第１３回	対面	Unit 9: Education; Review Quiz Feedback; Using follow-up questions	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第１４回	対面	Unit 9: Education; poster presentations (between 2 and 4 minutes); PROGOS practice End-of-Unit Common Assignment 9	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第１５回	対面	Unit 10: Health; Talking about health and physical condition	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第１６回	対面	Unit 10: Health; Using medical words and words describing health	フィードバック： 採点されたテストの答え合わせ、解説	１時間
第１７回	対面	Unit 10: Health; Discussing common health problems	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第１８回	対面	Unit 10: Health; poster presentations (between 2 and 4 minutes); PROGOS pr	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、	１時間

		actice End-of-Unit Common Assignment 10	課題（通例１時間程度）を完成すること。	
第１９回	対面	Unit 11: Numbers and prices; Understanding numbers and prices	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第２０回	オンデマンド	On Demand lesson; Review of Previous Material and Preparation for Review Quiz Video Lesson with related assessment material on Learning Portal	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第２１回	対面	Unit 11: Numbers and prices; Talking about numbers and currencies Official PROGOS Testing Period	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第２２回	対面	Unit 11: Numbers and prices; Making suggestions and recommendations	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第２３回	対面	Unit 11: Numbers and prices; poster presentations (between 2 and 4 minutes) End-of-Unit Common Assignment 11	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第２４回	対面	Unit 12: People; Describing people	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第２５回	オンデマンド	On Demand lesson; Review and Preparation for Review Quiz; Unit 12: People; Offering sympathy Video Lesson with related assessment material on Learning Portal	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第２６回	対面	Unit 12 People; Using adjectives to describe people	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第２７回	対面	Unit 12 People; poster presentations (between 2 and 4 minutes) End-of-Unit Common Assignment 12	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第２８回	対面	Review Quiz 2 (Written/Listening Test)	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第２９回	対面	Review Quiz 2 - Feedback; (Return corrected quiz, check and explain answers)	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第３０回	対面	General Summary; Overall reflection on and review of the course	総括	１時間

科目名	Intensive English L/S Ⅱ	開講年度	2025
担当者	バンティング　ジャネット	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語の聴解、会話、文法、語彙を中心に、基礎知識の強化と運営力の養成		
授業の目的及び概要	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。特に、「意味が分かる単語」（受容語彙、passive vocabulary）を「会話で使える単語」（産出語彙、active vocabulary）へ変更することに重点を置く。基本語彙・表現・文型などを練習し、ロールプレイなどのアクティビティなどで実際に使って、スピーキング技能をしっかり身に付ける。また、PROGOS （AI によるスピーキング・テスト）などの評価によって、自分のスピーキング力のレベルを把握し、目標をたて、モティベーションが付く。また、アイスブレーキング、ペアワーク、グループワークなどを多用する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。PROGOS （AI によるスピーキング・テスト）などの評価によって、学生は自分のスピーキング力のレベルを CEFR の分析の細目（Range 表現の幅 / Accuracy 正確さ / Fluency 流暢さ /Interaction やりとり / Coherence 一貫性 / Phonology 音韻（＝言語の音声））で把握し、目標を立てて向上を目指す。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	レポートは、添削した上で返却します。小テストは、採点した上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	Alistair Graham-Marr, World Voices 2, ABAX	ISBN	9781785470684
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	15
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	55
その他の内容	PROGOS: 15%（受験：10%, A1 以上到達：5%） Review Quiz 1: 20% Review Quiz 2: 20%

この科目の受講にあたって	
	授業には、必ず英和辞典もしくは、電子辞書を持参すること。 授業中は、携帯電話、スマートフォン、及び通信機能を持つ機器のアプリ使用は、一切禁止する。（カバンのなかにしまった状態。）

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第１回	対面	Orientation; Unit 7: Food and drink; Describing foods and drinks	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第２回	対面	Unit 7: Food and drink; Describing rules	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第３回	対面	Unit 7: Food and drink; Describing dishes of different countries	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第４回	対面	Unit 7: Food and drink; poster presentations (between 2 and 4 minutes); PROGOS practice End-of-Unit Common Assignment 7	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第５回	対面	Unit 8: Travel; Talking about typical vacation activities	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第６回	対面	Unit 8: Travel; Describing places that you've been to	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第７回	対面	Unit 8: Travel; Talking about holiday and vacation activities	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第８回	対面	Unit 8: Travel; Making suggestions and recommendations	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第９回	対面	Unit 8: Travel; poster presentations (between 2 and 4 minutes); PROGOS practice End-of-Unit Common Assignment 8	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第１０回	対面	Unit 9: Education; Describing academic study	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第１１回	対面	Unit 9: Education Review and Preparation for Review Quiz; Talking about school subjects and academic study; Review	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第１２回	対面	Review Quiz 1 (Speaking Test)	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第１３回	対面	Unit 9: Education; Review Quiz Feedback; Using follow-up questions	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第１４回	対面	Unit 9: Education; poster presentations (between 2 and 4 minutes); PROGOS practice End-of-Unit Common Assignment 9	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第１５回	対面	Unit 10: Health; Talking about health and physical condition	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第１６回	対面	Unit 10: Health; Using medical words and words describing health	フィードバック： 採点されたテストの答え合わせ、解説	１時間
第１７回	対面	Unit 10: Health; Discussing common health problems	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第１８回	対面	Unit 10: Health; poster presentations (between 2 and 4 minutes); PROGOS pr	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、	１時間

		actice End-of-Unit Common Assignment 10	課題（通例１時間程度）を完成すること。	
第１９回	対面	Unit 11: Numbers and prices; Understanding numbers and prices	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第２０回	オンデマンド	On Demand lesson; Review of Previous Material and Preparation for Review Quiz Video Lesson with related assessment material on Learning Portal	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第２１回	対面	Unit 11: Numbers and prices; Talking about numbers and currencies Official PROGOS Testing Period	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第２２回	対面	Unit 11: Numbers and prices; Making suggestions and recommendations	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第２３回	対面	Unit 11: Numbers and prices; poster presentations (between 2 and 4 minutes) End-of-Unit Common Assignment 11	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第２４回	対面	Unit 12: People; Describing people	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第２５回	オンデマンド	On Demand lesson; Review and Preparation for Review Quiz; Unit 12: People; Offering sympathy Video Lesson with related assessment material on Learning Portal	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第２６回	対面	Unit 12 People; Using adjectives to describe people	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第２７回	対面	Unit 12 People; poster presentations (between 2 and 4 minutes) End-of-Unit Common Assignment 12	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第２８回	対面	Review Quiz 2 (Written/Listening Test)	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第２９回	対面	Review Quiz 2 - Feedback; (Return corrected quiz, check and explain answers)	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第３０回	対面	General Summary; Overall reflection on and review of the course	総括	１時間

科目名	Intensive English L/S Ⅱ	開講年度	2025
担当者	ミルズ・ジョナサン	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語の聴解、会話、文法、語彙を中心に、基礎知識の強化と運営力の養成		
授業の目的及び概要	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。特に、「意味が分かる単語」（受容語彙、passive vocabulary）を「会話で使える単語」（産出語彙、active vocabulary）へ変更することに重点を置く。基本語彙・表現・文型などを練習し、ロールプレイなどのアクティビティなどで実際に使って、スピーキング技能をしっかり身に付ける。また、PROGOS （AI によるスピーキング・テスト）などの評価によって、自分のスピーキング力のレベルを把握し、目標をたて、モティベーションが付く。また、アイスブレーキング、ペアワーク、グループワークなどを多用する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。PROGOS （AI によるスピーキング・テスト）などの評価によって、学生は自分のスピーキング力のレベルを CEFR の分析の細目（Range 表現の幅 / Accuracy 正確さ / Fluency 流暢さ /Interaction やりとり / Coherence 一貫性 / Phonology 音韻（＝言語の音声））で把握し、目標を立てて向上を目指す。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	レポートは、添削した上で返却します。小テストは、採点した上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	Alistair Graham-Marr, World Voices 2, ABAX	ISBN	9781785470684
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	15
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	55
その他の内容	PROGOS: 15%（受験：10%, A1 以上到達：5%） Review Quiz 1: 20% Review Quiz 2: 20%

この科目の受講にあたって	
	授業には、必ず英和辞典もしくは、電子辞書を持参すること。 授業中は、携帯電話、スマートフォン、及び通信機能を持つ機器のアプリ使用は、一切禁止する。（カバンのなかにしまった状態。）

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第１回	対面	Orientation; Unit 7: Food and drink; Describing foods and drinks	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第２回	対面	Unit 7: Food and drink; Describing rules	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第３回	対面	Unit 7: Food and drink; Describing dishes of different countries	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第４回	対面	Unit 7: Food and drink; poster presentations (between 2 and 4 minutes); PROGOS practice End-of-Unit Common Assignment 7	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第５回	対面	Unit 8: Travel; Talking about typical vacation activities	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第６回	対面	Unit 8: Travel; Describing places that you've been to	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第７回	対面	Unit 8: Travel; Talking about holiday and vacation activities	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第８回	対面	Unit 8: Travel; Making suggestions and recommendations	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第９回	対面	Unit 8: Travel; poster presentations (between 2 and 4 minutes); PROGOS practice End-of-Unit Common Assignment 8	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第１０回	対面	Unit 9: Education; Describing academic study	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第１１回	対面	Unit 9: Education Review and Preparation for Review Quiz; Talking about school subjects and academic study; Review	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第１２回	対面	Review Quiz 1 (Speaking Test)	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第１３回	対面	Unit 9: Education; Review Quiz Feedback; Using follow-up questions	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第１４回	対面	Unit 9: Education; poster presentations (between 2 and 4 minutes); PROGOS practice End-of-Unit Common Assignment 9	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第１５回	対面	Unit 10: Health; Talking about health and physical condition	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第１６回	対面	Unit 10: Health; Using medical words and words describing health	フィードバック： 採点されたテストの答え合わせ、解説	１時間
第１７回	対面	Unit 10: Health; Discussing common health problems	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第１８回	対面	Unit 10: Health; poster presentations (between 2 and 4 minutes); PROGOS pr	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、	１時間

		actice End-of-Unit Common Assignment 10	課題（通例１時間程度）を完成すること。	
第１９回	対面	Unit 11: Numbers and prices; Understanding numbers and prices	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第２０回	オンデマンド	On Demand lesson; Review of Previous Material and Preparation for Review Quiz Video Lesson with related assessment material on Learning Portal	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第２１回	対面	Unit 11: Numbers and prices; Talking about numbers and currencies Official PROGOS Testing Period	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第２２回	対面	Unit 11: Numbers and prices; Making suggestions and recommendations	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第２３回	対面	Unit 11: Numbers and prices; poster presentations (between 2 and 4 minutes) End-of-Unit Common Assignment 11	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第２４回	対面	Unit 12: People; Describing people	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第２５回	オンデマンド	On Demand lesson; Review and Preparation for Review Quiz; Unit 12: People; Offering sympathy Video Lesson with related assessment material on Learning Portal	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第２６回	対面	Unit 12 People; Using adjectives to describe people	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第２７回	対面	Unit 12 People; poster presentations (between 2 and 4 minutes) End-of-Unit Common Assignment 12	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第２８回	対面	Review Quiz 2 (Written/Listening Test)	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第２９回	対面	Review Quiz 2 - Feedback; (Return corrected quiz, check and explain answers)	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第３０回	対面	General Summary; Overall reflection on and review of the course	総括	１時間

科目名	Intensive English L/S Ⅱ	開講年度	2025
担当者	ウェザビ・マーティン	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語の聴解、会話、文法、語彙を中心に、基礎知識の強化と運営力の養成		
授業の目的及び概要	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。特に、「意味が分かる単語」（受容語彙、passive vocabulary）を「会話で使える単語」（産出語彙、active vocabulary）へ変更することに重点を置く。基本語彙・表現・文型などを練習し、ロールプレイなどのアクティビティなどで実際に使って、スピーキング技能をしっかり身に付ける。また、PROGOS （AI によるスピーキング・テスト）などの評価によって、自分のスピーキング力のレベルを把握し、目標をたて、モティベーションが付く。また、アイスブレーキング、ペアワーク、グループワークなどを多用する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。PROGOS （AI によるスピーキング・テスト）などの評価によって、学生は自分のスピーキング力のレベルを CEFR の分析の細目（Range 表現の幅 / Accuracy 正確さ / Fluency 流暢さ /Interaction やりとり / Coherence 一貫性 / Phonology 音韻（＝言語の音声））で把握し、目標を立てて向上を目指す。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	レポートは、添削した上で返却します。小テストは、採点した上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	Alistair Graham-Marr, World Voices 2, ABAX	ISBN	9781785470684
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	15
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	55
その他の内容	PROGOS: 15%（受験：10%, A1 以上到達：5%） Review Quiz 1: 20% Review Quiz 2: 20%

この科目の受講にあたって	
	授業には、必ず英和辞典もしくは、電子辞書を持参すること。 授業中は、携帯電話、スマートフォン、及び通信機能を持つ機器のアプリ使用は、一切禁止する。（カバンのなかにしまった状態。）

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第１回	対面	Orientation; Unit 7: Food and drink; Describing foods and drinks	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第２回	対面	Unit 7: Food and drink; Describing rules	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第３回	対面	Unit 7: Food and drink; Describing dishes of different countries	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第４回	対面	Unit 7: Food and drink; poster presentations (between 2 and 4 minutes); PROGOS practice End-of-Unit Common Assignment 7	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第５回	対面	Unit 8: Travel; Talking about typical vacation activities	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第６回	対面	Unit 8: Travel; Describing places that you've been to	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第７回	対面	Unit 8: Travel; Talking about holiday and vacation activities	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第８回	対面	Unit 8: Travel; Making suggestions and recommendations	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第９回	対面	Unit 8: Travel; poster presentations (between 2 and 4 minutes); PROGOS practice End-of-Unit Common Assignment 8	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第１０回	対面	Unit 9: Education; Describing academic study	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第１１回	対面	Unit 9: Education Review and Preparation for Review Quiz; Talking about school subjects and academic study; Review	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第１２回	対面	Review Quiz 1 (Speaking Test)	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第１３回	対面	Unit 9: Education; Review Quiz Feedback; Using follow-up questions	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第１４回	対面	Unit 9: Education; poster presentations (between 2 and 4 minutes); PROGOS practice End-of-Unit Common Assignment 9	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第１５回	対面	Unit 10: Health; Talking about health and physical condition	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第１６回	対面	Unit 10: Health; Using medical words and words describing health	フィードバック： 採点されたテストの答え合わせ、解説	１時間
第１７回	対面	Unit 10: Health; Discussing common health problems	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第１８回	対面	Unit 10: Health; poster presentations (between 2 and 4 minutes); PROGOS pr	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、	１時間

		actice End-of-Unit Common Assignment 10	課題（通例１時間程度）を完成すること。	
第１９回	対面	Unit 11: Numbers and prices; Understanding numbers and prices	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第２０回	オンデマンド	On Demand lesson; Review of Previous Material and Preparation for Review Quiz Video Lesson with related assessment material on Learning Portal	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第２１回	対面	Unit 11: Numbers and prices; Talking about numbers and currencies Official PROGOS Testing Period	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第２２回	対面	Unit 11: Numbers and prices; Making suggestions and recommendations	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第２３回	対面	Unit 11: Numbers and prices; poster presentations (between 2 and 4 minutes) End-of-Unit Common Assignment 11	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第２４回	対面	Unit 12: People; Describing people	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第２５回	オンデマンド	On Demand lesson; Review and Preparation for Review Quiz; Unit 12: People; Offering sympathy Video Lesson with related assessment material on Learning Portal	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第２６回	対面	Unit 12 People; Using adjectives to describe people	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第２７回	対面	Unit 12 People; poster presentations (between 2 and 4 minutes) End-of-Unit Common Assignment 12	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第２８回	対面	Review Quiz 2 (Written/Listening Test)	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第２９回	対面	Review Quiz 2 - Feedback; (Return corrected quiz, check and explain answers)	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第３０回	対面	General Summary; Overall reflection on and review of the course	総括	１時間

科目名	Intensive English L/S Ⅱ	開講年度	2025
担当者	ウェザビ・マーティン	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語の聴解、会話、文法、語彙を中心に、基礎知識の強化と運営力の養成		
授業の目的及び概要	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。特に、「意味が分かる単語」（受容語彙、passive vocabulary）を「会話で使える単語」（産出語彙、active vocabulary）へ変更することに重点を置く。基本語彙・表現・文型などを練習し、ロールプレイなどのアクティビティなどで実際に使って、スピーキング技能をしっかり身に付ける。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	レポートは、添削した上で返却します。小テストは、採点した上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	World Voices 1, ABAX, Alastair Graham, 2021 年	ISBN	9781785470677
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	15
授業期間中の小テスト、レポート課題等	45
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	40
その他の内容	Review Quiz 1: 20% Review Quiz 2: 20%

この科目の受講にあたって	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	オンデマンド	Course Outline Introductions	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第２回	オンデマンド	Unit 1 You - Learning outcomes, Warming up, Monologue Listening, Culture	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、	１時間

		Note, Speaking: Pair work Dictation, Dialogue Listening	課題（通例１時間程度）を完成すること。	
第３回	オンデマンド	Orientation; Unit 1: You	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第４回	オンデマンド	Unit 2 Home　- Learning outcomes, Warming up, Monologue Listening, Culture Note, Speaking: Pair work Dictation, Dialogue Listening	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第５回	オンデマンド	Unit 2 Home - Speaking Practice: Conversation, Listening: linking, Speaking: Mini-Talks, Vocabulary + Grammar, Presentation	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第６回	オンデマンド	Unit 3 Daily Life - Outcomes, Warming up, Monologue Listening, Culture Note, Speaking: Pair work Dictation, Dialogue Listening	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第７回	オンデマンド	Unit 3 Daily Life - Speaking: Conversation, Listening: linking, Speaking: Mini-Talks, Vocabulary + Grammar, Presentation	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第８回	オンデマンド	Unit 4 Neighborhood - Outcomes, Warming up, Monologue Listening, Culture Note, Speaking: Pair work Dictation, Dialogue Listening	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第９回	オンデマンド	Unit 4 Neighborhood - Speaking: Conversation, Listening: linking, Speaking: Mini-Talks, Vocabulary + Grammar, Presentation	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第１０回	オンデマンド	Unit 5 Work　- Learning outcomes, Warming up, Monologue Listening, Culture Note, Speaking: Pair work Dictation, Dialogue Listening	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第１１回	オンデマンド	Unit 5 Work - Speaking Practice: Conversation, Listening: linking, Speaking: Mini-Talks, Vocabulary + Grammar, Presentation	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第１２回	オンデマンド	Unit 6 Free Time - Outcomes, Warming up, Monologue Listening, Culture Note, Speaking: Pair work Dictation, Dialogue Listening	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第１３回	オンデマンド	Unit 6 Free Time - Speaking: Conversation, Listening: linking, Speaking: Mini-Talks, Vocabulary + Grammar, Presentation	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第１４回	オンデマンド	Review Units 7~12 - Information Exchange Units 1~6 Reading Practice Unit 1~6	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第１５回	オンデマンド	レビュークイズ１ Review Quiz 1 Units 1~6	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第１６回	オンデマンド	レビュークイズ１のフィードバック Unit 7 Food + Drink - Outcomes, Warming up, Monologue Listening, Culture Note, Speaking: Pair work Dictation, D	フィードバック： 採点されたテストの答え合わせ、解説	１時間

		ialogue Listening		
第１７回	オンデマンド	Unit 7 Food + Drink – Speaking: Conversation, Listening: linking, Speaking: Mini-Talks, Vocabulary + Grammar, Presentation	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第１８回	オンデマンド	Unit 8 Travel – Learning outcomes, Warming up, Monologue Listening, Culture Note, Speaking: Pair work Dictation, Dialogue Listening	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第１９回	オンデマンド	Unit 8 Travel – Speaking Practice: Conversation, Listening: linking, Speaking: Mini-Talks, Vocabulary + Grammar, Presentation	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第２０回	オンデマンド	Unit 9 Education – Outcomes, Warming up, Monologue Listening, Culture Note, Speaking: Pair work Dictation, Dialogue Listening	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第２１回	オンデマンド	Unit 9 Education – Speaking: Conversation, Listening: linking, Speaking: Mini-Talks, Vocabulary + Grammar, Presentation	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第２２回	オンデマンド	Unit 10 Health – Outcomes, Warming up, Monologue Listening, Culture Note, Speaking: Pair work Dictation, Dialogue Listening	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第２３回	オンデマンド	Unit 10 Health – Speaking Practice: Conversation, Listening: linking, Speaking: Mini-Talks, Vocabulary + Grammar, Presentation	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第２４回	オンデマンド	Unit 11 Numbers+Prices Outcomes, Warming up, Monologue Listening, Culture Note, Speaking: Pair work Dictation, Dialogue Listening	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第２５回	オンデマンド	Unit 11 Numbers + Prices – Speaking: Conversation, Listening: linking, Speaking: Mini-Talks, Vocabulary + Grammar, Presentation	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第２６回	オンデマンド	Unit 12 People – Outcomes, Warming up, Monologue Listening, Culture Note, Speaking: Pair work Dictation, Dialogue Listening	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第２７回	オンデマンド	Unit 12 People – Speaking Practice: Conversation, Listening: linking, Speaking: Mini-Talks, Vocabulary + Grammar, Presentation Review Units 7~12 – Information Exchange Units 7~12; Reading Practice Unit 7~12	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第２８回	オンデマンド	レビュークイズ２ Review Quiz 2 Units 7~12	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第２９回	オンデマンド	レビュークイズ２のフィードバック：採点されたテストの答え合わせ、解説 Review Quiz 2 – Feedback (Return corrected quiz, check and explain answers)	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例１時間程度）を完成すること。	１時間
第３０回	オンデ	まとめ 、総括 General Summary	総括	１時間

	マンド	Overall reflection on and review of t he course		

科目名	Advanced English W/R　I	開講年度	2025
担当者	正田　久美	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	TOEIC スコアアップに向けた英語力としての語彙・文法・読解・聴解の基本的スキルの強化		
授業の目的及び概要	本授業は 1 週間に 2 回行われ、①全体的な英語力強化と②TOEIC テストでのスコアアップを目的とします。①では、英語の理解に必要とされる高頻度語 3,000 語と基本的な文法項目の受容的知識の定着を図ります。授業では、教科書並びに e-Learning 教材からのインプットにより知識を蓄え、演習問題やアウトプット活動を通じて知識を定着させ、単文や構造が明快な重文・複文であれば読み取れる、聞き取れるようになることを目指します。 ②では、TOEIC 問題演習に取り組むことで、①で身に付けた知識をテストで使える知識へと昇華していきます。また、就業力育成の観点から論理的思考力や幅広い視野を育み、国際通用力を図る基準として TOEIC を位置づけ、国際社会で使える英語技能を備えた英語運用能力を身に付けます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本授業の学修到達目標は、語彙・文法・長文・アウトプットに関してそれぞれ以下のように設定します。 【文法・語彙】 １．文章中に表れる授業で扱った文法・語彙に気づき、その意味が分かる。 ２．授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を問うテストにおいて、70%以上正答することができる。 ３．授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を身に付け、他者に説明することができる。 ４．授業で扱った文法・語彙を使って、正しい文法・語法で文章やパッセージを作成することができる。 【長文】 １．授業で扱った文法・語彙で構成されたまとまりのある文章を理解し、その要約をすることができる。 ２．授業で扱った文法・語彙のみで構成されたまとまりのある文章を理解し、自分の意見を交えながら他者に伝えることができる。 【アウトプット】 １．授業で扱った語彙・文章を正確に英語らしく発音することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストおよび課題で出される e-Learning について授業内でのフィードバックを行う。レビュークイズについても授業のなかでフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	授業では以下の 2 冊のテキストを併用します。クラスによって使用するテキストが異なるものがあるため注意してください。 ＜クラスによって異なる＞ ① Good Reading、Better Grammar、Joan McConnell・山内圭、成美堂、2018 年 ② Reading Steps、Robert Hickling・臼倉美里、金星堂、2015 年 ＜全クラス共通＞	ISBN	①9784791934188 ②9784764739925 ③9784255156378（通年）

	③TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング:レベル600、西谷敦子・伊藤恵一・夜久容子、朝日出版社、2025年（通年）		
参考書	なし	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	70	
	その他の内容	①レビュークイズ：40%（20%×2回） ②e-Learning学修：10% ③TOEIC：20%（共通目標達成で10%、発展目標達成で10%）	
この科目の受講にあたって	グローバルな社会で活躍するためには、コミュニケーションツールとしての英語力が必要です。また、実践的な英語力を身につけるためには、常に英語に触れる環境が必要です。授業では、英語の基本的能力を身につける学修で英語力の基本を固めつつ、読解演習を通して応用力を培います。毎回の授業では多くの課題が出されます。e-Learning学修による語彙の増強、英文法の確認やリーディング問題の予習・復習など、課内だけでなく課外での学修を進めることで、自学自修の習慣を身につけてください。授業では積極的に参加し、発言してください。 学修成果の確認・評価のため、各学期に実施されるTOEIC IPテストを受験します。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション:授業概要、評価方法、授業の進め方の説明（文法演習については、クラスレベルによって授業計画が異なる場合があります。詳細は第1回授業にて周知いたします。）	事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第2回	対面	イントロダクション:授業概要、評価方法、授業の進め方の説明	事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第3回	対面	文法演習（1）： Ch.1&5［文型・形容詞・副詞］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第4回	対面	TOEIC リスニング演習（1）： Part 1　写真描写問題：概要と基本戦略 Unit　L-1：人物が写っている写真	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第5回	対面	文法演習（2）： Ch.2&11［現在形・過去形・進行形と未来形］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第6回	対面	TOEIC リーディング演習（1）： Part 5　短文穴埋め問題:概要と基本戦略 Unit R-1：品詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第7回	対面	文法演習（3）： Ch.12［完了形］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第8回	対面	TOEIC リスニング演習（2）： Part 1　写真描写問題：概要と基本戦略 Unit　L-2：人物が写っていない写真	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第9回	対面	文法演習（4）：	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認	2時間

		Ch.4［接続詞・前置詞］	し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	
第１０回	対面	TOEIC リーディング演習（2）： Part 5　短文穴埋め問題：概要と基本戦略 Unit R-2：動詞の形(1)能動態 vs 受動態、分詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１１回	対面	文法演習（5）： Ch.14［態］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、中間レビュークイズ（文法）の準備	2 時間
第１２回	対面	TOEIC リスニング演習（3）： Part 2　応答問題：概要と基本戦略 Unit　L-3：疑問詞疑問文	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、中間レビュークイズ（TOEIC リスニング・リーディング）の準備	2 時間
第１３回	対面	中間レビュークイズ（文法）	事前学修：中間レビュークイズ（文法）に向けた復習	2 時間
第１４回	対面	中間レビュークイズ（TOEIC リスニング・リーディング）	事前学修：中間レビュークイズ（TOEIC リスニング・リーディング）に向けた復習	2 時間
第１５回	対面	文法演習（６）： Ch.6［助動詞］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：中間レビュークイズ（文法）の復習、小テストの準備	2 時間
第１６回	対面	TOEIC リーディング演習（3） Part 5　短文穴埋め問題：概要と基本戦略 Unit R-3：動詞の形(2)時制・その他	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：中間レビュークイズ（TOEIC リスニング・リーディング）の復習、小テストの準備	2 時間
第１７回	対面	文法演習（７）： Ch.8［不定詞］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１８回	対面	TOEIC リスニング演習（４） Part 2　応答問題：概要と基本戦略 Unit　L-4：Yes/No 疑問文・その他の疑問文	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１９回	対面	文法演習（８）： Ch.7［動名詞］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２０回	対面	TOEIC リーディング演習（4） Part 5　短文穴埋め問題：概要と基本戦略 Unit R-4：前置詞・接続詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２１回	対面	文法演習（９）： Ch.13［関係代名詞・関係副詞］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２２回	対面	TOEIC リスニング演習（５） Part 2　応答問題：概要と基本戦略 Unit　L-5：平叙文・意外な応答	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２３回	対面	文法演習（１０）： Ch.10［分詞］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２４回	対面	TOEIC リーディング演習（5）： Part 5　短文穴埋め問題：概要と基本戦略 Unit R-5：代名詞・関係代名詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２５回	対面	期末レビュークイズ（文法）	事前学修 期末レビュークイズ（文法）に向けた復習	2 時間
第２６回	対面	期末レビュークイズ(TOEICリーディング・リスニング)	事前学修 期末レビュークイズ（TOEIC リーディング・リスニング）に向けた復習	2 時間
第２７回	対面	期末レビュークイズ（文法）見直しと総復習	事後学修 期末レビュークイズ（文法）の復習	2 時間

第２８回	対面	期末レビュークイズ(TOEICリーディング・リスニング）見直しと総復習	事後学修 期末レビュークイズ（TOEIC リーディング・リスニング）の復習	2 時間
第２９回	オンデマンド	期末レビュークイズ（文法）に向けたポイント解説・復習	事後学修 期末レビュークイズ（文法）に向けた復習	2 時間
第３０回	オンデマンド	期末レビュークイズ(TOEICリーディング・リスニング）に向けたポイント解説・復習	事後学修 期末レビュークイズ（TOEIC リーディング・リスニング）に向けた復習	2 時間

科目名	Advanced English W/R　I	開講年度	2025
担当者	宮﨑　寛	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	TOEIC スコアアップに向けた英語力としての語彙・文法・読解・聴解の基本的スキルの強化		
授業の目的及び概要	本授業は 1 週間に 2 回行われ、①全体的な英語力強化と②TOEIC テストでのスコアアップを目的とします。①では、英語の理解に必要とされる高頻度語 3,000 語と基本的な文法項目の受容的知識の定着を図ります。授業では、教科書並びに e-Learning 教材からのインプットにより知識を蓄え、演習問題やアウトプット活動を通じて知識を定着させ、単文や構造が明快な重文・複文であれば読み取れる、聞き取れるようになることを目指します。 ②では、TOEIC 問題演習に取り組むことで、①で身に付けた知識をテストで使える知識へと昇華していきます。また、就業力育成の観点から論理的思考力や幅広い視野を育み、国際通用力を図る基準として TOEIC を位置づけ、国際社会で使える英語技能を備えた英語運用能力を身に付けます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本授業の学修到達目標は、語彙・文法・長文・アウトプットに関してそれぞれ以下のように設定します。 【文法・語彙】 １．文章中に表れる授業で扱った文法・語彙に気づき、その意味が分かる。 ２．授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を問うテストにおいて、70%以上正答することができる。 ３．授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を身に付け、他者に説明することができる。 ４．授業で扱った文法・語彙を使って、正しい文法・語法で文章やパッセージを作成することができる。 【長文】 １．授業で扱った文法・語彙で構成されたまとまりのある文章を理解し、その要約をすることができる。 ２．授業で扱った文法・語彙のみで構成されたまとまりのある文章を理解し、自分の意見を交えながら他者に伝えることができる。 【アウトプット】 １．授業で扱った語彙・文章を正確に英語らしく発音することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストおよび課題で出される e-Learning について授業内でのフィードバックを行う。レビュークイズについても授業のなかでフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	授業では以下の 2 冊のテキストを併用します。クラスによって使用するテキストが異なるものがあるため注意してください。 ＜クラスによって異なる＞ ① Good Reading、Better Grammar、Joan McConnell・山内圭、成美堂、2018 年 ② Reading Steps、Robert Hickling・臼倉美里、金星堂、2015 年 ＜全クラス共通＞	ISBN	①9784791934188 ②9784764739925 ③9784255156378（通年）

	③TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング:レベル600、西谷敦子・伊藤恵一・夜久容子、朝日出版社、2025年（通年）		
参考書	なし	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	70	
	その他の内容	①レビュークイズ：40%（20%×2回） ②e-Learning学修：10% ③TOEIC：20%（共通目標達成で10%、発展目標達成で10%）	
この科目の受講にあたって	グローバルな社会で活躍するためには、コミュニケーションツールとしての英語力が必要です。また、実践的な英語力を身につけるためには、常に英語に触れる環境が必要です。授業では、英語の基本的能力を身につける学修で英語力の基本を固めつつ、読解演習を通して応用力を培います。毎回の授業では多くの課題が出されます。e-Learning学修による語彙の増強、英文法の確認やリーディング問題の予習・復習など、課内だけでなく課外での学修を進めることで、自学自修の習慣を身につけてください。授業では積極的に参加し、発言してください。 学修成果の確認・評価のため、各学期に実施されるTOEIC IPテストを受験します。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション:授業概要、評価方法、授業の進め方の説明（文法演習については、クラスレベルによって授業計画が異なる場合があります。詳細は第1回授業にて周知いたします。）	事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第2回	対面	イントロダクション:授業概要、評価方法、授業の進め方の説明	事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第3回	対面	文法演習（1）： Ch.1&5［文型・形容詞・副詞］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第4回	対面	TOEIC リスニング演習（1）： Part 1　写真描写問題：概要と基本戦略 Unit　L-1：人物が写っている写真	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第5回	対面	文法演習（2）： Ch.2&11［現在形・過去形・進行形と未来形］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第6回	対面	TOEIC リーディング演習（1）： Part 5　短文穴埋め問題:概要と基本戦略 Unit R-1：品詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第7回	対面	文法演習（3）： Ch.12［完了形］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第8回	対面	TOEIC リスニング演習（2）： Part 1　写真描写問題：概要と基本戦略 Unit　L-2：人物が写っていない写真	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第9回	対面	文法演習（4）：	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認	2時間

		Ch.4［接続詞・前置詞］	し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	
第１０回	対面	TOEIC リーディング演習（2）： Part 5　短文穴埋め問題：概要と基本戦略 Unit R-2：動詞の形(1)能動態 vs 受動態、分詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１１回	対面	文法演習（5）： Ch.14［態］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、中間レビュークイズ（文法）の準備	2 時間
第１２回	対面	TOEIC リスニング演習（3）： Part 2　応答問題：概要と基本戦略 Unit　L-3：疑問詞疑問文	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、中間レビュークイズ（TOEIC リスニング・リーディング）の準備	2 時間
第１３回	対面	中間レビュークイズ（文法）	事前学修：中間レビュークイズ（文法）に向けた復習	2 時間
第１４回	対面	中間レビュークイズ（TOEIC リスニング・リーディング）	事前学修：中間レビュークイズ（TOEIC リスニング・リーディング）に向けた復習	2 時間
第１５回	対面	文法演習（６）： Ch.6［助動詞］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：中間レビュークイズ（文法）の復習、小テストの準備	2 時間
第１６回	対面	TOEIC リーディング演習（3） Part 5　短文穴埋め問題：概要と基本戦略 Unit R-3：動詞の形(2)時制・その他	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：中間レビュークイズ（TOEIC リスニング・リーディング）の復習、小テストの準備	2 時間
第１７回	対面	文法演習（７）： Ch.8［不定詞］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１８回	対面	TOEIC リスニング演習（４） Part 2　応答問題：概要と基本戦略 Unit　L-4：Yes/No 疑問文・その他の疑問文	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１９回	対面	文法演習（８）： Ch.7［動名詞］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２０回	対面	TOEIC リーディング演習（4） Part 5　短文穴埋め問題：概要と基本戦略 Unit R-4：前置詞・接続詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２１回	対面	文法演習（９）： Ch.13［関係代名詞・関係副詞］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２２回	対面	TOEIC リスニング演習（５） Part 2　応答問題：概要と基本戦略 Unit　L-5：平叙文・意外な応答	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２３回	対面	文法演習（１０）： Ch.10［分詞］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２４回	対面	TOEIC リーディング演習（5）： Part 5　短文穴埋め問題：概要と基本戦略 Unit R-5：代名詞・関係代名詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２５回	対面	期末レビュークイズ（文法）	事前学修 期末レビュークイズ（文法）に向けた復習	2 時間
第２６回	対面	期末レビュークイズ(TOEICリーディング・リスニング)	事前学修 期末レビュークイズ（TOEIC リーディング・リスニング）に向けた復習	2 時間
第２７回	対面	期末レビュークイズ（文法）見直しと総復習	事後学修 期末レビュークイズ（文法）の復習	2 時間

第２８回	対面	期末レビュークイズ(TOEICリーディング・リスニング）見直しと総復習	事後学修 期末レビュークイズ（TOEIC リーディング・リスニング）の復習	2 時間
第２９回	オンデマンド	期末レビュークイズ（文法）に向けたポイント解説・復習	事後学修 期末レビュークイズ（文法）に向けた復習	2 時間
第３０回	オンデマンド	期末レビュークイズ(TOEICリーディング・リスニング）に向けたポイント解説・復習	事後学修 期末レビュークイズ（TOEIC リーディング・リスニング）に向けた復習	2 時間

科目名	Advanced English W/R　I	開講年度	2025
担当者	岩男　久仁子	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	TOEIC スコアアップに向けた英語力としての語彙・文法・読解・聴解の基本的スキルの強化		
授業の目的及び概要	本授業は 1 週間に 2 回行われ、①全体的な英語力強化と②TOEIC テストでのスコアアップを目的とします。①では、英語の理解に必要とされる高頻度語 3,000 語と基本的な文法項目の受容的知識の定着を図ります。授業では、教科書並びに e-Learning 教材からのインプットにより知識を蓄え、演習問題やアウトプット活動を通じて知識を定着させ、単文や構造が明快な重文・複文であれば読み取れる、聞き取れるようになることを目指します。 ②では、TOEIC 問題演習に取り組むことで、①で身に付けた知識をテストで使える知識へと昇華していきます。また、就業力育成の観点から論理的思考力や幅広い視野を育み、国際通用力を図る基準として TOEIC を位置づけ、国際社会で使える英語技能を備えた英語運用能力を身に付けます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本授業の学修到達目標は、語彙・文法・長文・アウトプットに関してそれぞれ以下のように設定します。 【文法・語彙】 １．文章中に表れる授業で扱った文法・語彙に気づき、その意味が分かる。 ２．授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を問うテストにおいて、70%以上正答することができる。 ３．授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を身に付け、他者に説明することができる。 ４．授業で扱った文法・語彙を使って、正しい文法・語法で文章やパッセージを作成することができる。 【長文】 １．授業で扱った文法・語彙で構成されたまとまりのある文章を理解し、その要約をすることができる。 ２．授業で扱った文法・語彙のみで構成されたまとまりのある文章を理解し、自分の意見を交えながら他者に伝えることができる。 【アウトプット】 １．授業で扱った語彙・文章を正確に英語らしく発音することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストおよび課題で出される e-Learning について授業内でのフィードバックを行う。レビュークイズについても授業のなかでフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	授業では以下の 2 冊のテキストを併用します。クラスによって使用するテキストが異なるものがあるため注意してください。 ＜クラスによって異なる＞ ① Good Reading、Better Grammar、Joan McConnell・山内圭、成美堂、2018 年 ② Reading Steps、Robert Hickling・臼倉美里、金星堂、2015 年 ＜全クラス共通＞	ISBN	①9784791934188 ②9784764739925 ③9784255156378（通年）

	③TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング:レベル600、西谷敦子・伊藤恵一・夜久容子、朝日出版社、2025年（通年）		
参考書	なし	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	70	
	その他の内容	①レビュークイズ：40%（20%×2回） ②e-Learning学修：10% ③TOEIC：20%（共通目標達成で10%、発展目標達成で10%）	
この科目の受講にあたって	グローバルな社会で活躍するためには、コミュニケーションツールとしての英語力が必要です。また、実践的な英語力を身につけるためには、常に英語に触れる環境が必要です。授業では、英語の基本的能力を身につける学修で英語力の基本を固めつつ、読解演習を通して応用力を培います。毎回の授業では多くの課題が出されます。e-Learning学修による語彙の増強、英文法の確認やリーディング問題の予習・復習など、課内だけでなく課外での学修を進めることで、自学自修の習慣を身につけてください。授業では積極的に参加し、発言してください。 学修成果の確認・評価のため、各学期に実施されるTOEIC IPテストを受験します。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション:授業概要、評価方法、授業の進め方の説明（文法演習については、クラスレベルによって授業計画が異なる場合があります。詳細は第1回授業にて周知いたします。）	事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第2回	対面	イントロダクション:授業概要、評価方法、授業の進め方の説明	事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第3回	対面	文法演習（1）： Ch.1&5［文型・形容詞・副詞］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第4回	対面	TOEIC リスニング演習（1）： Part 1　写真描写問題：概要と基本戦略 Unit　L-1：人物が写っている写真	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第5回	対面	文法演習（2）： Ch.2&11［現在形・過去形・進行形と未来形］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第6回	対面	TOEIC リーディング演習（1）： Part 5　短文穴埋め問題:概要と基本戦略 Unit R-1：品詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第7回	対面	文法演習（3）： Ch.12［完了形］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第8回	対面	TOEIC リスニング演習（2）： Part 1　写真描写問題：概要と基本戦略 Unit　L-2：人物が写っていない写真	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第9回	対面	文法演習（4）：	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認	2時間

		Ch.4［接続詞・前置詞］	し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	
第１０回	対面	TOEIC リーディング演習（2）： Part 5　短文穴埋め問題：概要と基本戦略 Unit R-2：動詞の形(1)能動態 vs 受動態、分詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１１回	対面	文法演習（5）： Ch.14［態］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、中間レビュークイズ（文法）の準備	2 時間
第１２回	対面	TOEIC リスニング演習（3）： Part 2　応答問題：概要と基本戦略 Unit　L-3：疑問詞疑問文	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、中間レビュークイズ（TOEIC リスニング・リーディング）の準備	2 時間
第１３回	対面	中間レビュークイズ（文法）	事前学修：中間レビュークイズ（文法）に向けた復習	2 時間
第１４回	対面	中間レビュークイズ（TOEIC リスニング・リーディング）	事前学修：中間レビュークイズ（TOEIC リスニング・リーディング）に向けた復習	2 時間
第１５回	対面	文法演習（６）： Ch.6［助動詞］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：中間レビュークイズ（文法）の復習、小テストの準備	2 時間
第１６回	対面	TOEIC リーディング演習（3） Part 5　短文穴埋め問題：概要と基本戦略 Unit R-3：動詞の形(2)時制・その他	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：中間レビュークイズ（TOEIC リスニング・リーディング）の復習、小テストの準備	2 時間
第１７回	対面	文法演習（７）： Ch.8［不定詞］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１８回	対面	TOEIC リスニング演習（４） Part 2　応答問題：概要と基本戦略 Unit　L-4：Yes/No 疑問文・その他の疑問文	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１９回	対面	文法演習（８）： Ch.7［動名詞］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２０回	対面	TOEIC リーディング演習（4） Part 5　短文穴埋め問題：概要と基本戦略 Unit R-4：前置詞・接続詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２１回	対面	文法演習（９）： Ch.13［関係代名詞・関係副詞］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２２回	対面	TOEIC リスニング演習（５） Part 2　応答問題：概要と基本戦略 Unit　L-5：平叙文・意外な応答	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２３回	対面	文法演習（１０）： Ch.10［分詞］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２４回	対面	TOEIC リーディング演習（5）： Part 5　短文穴埋め問題：概要と基本戦略 Unit R-5：代名詞・関係代名詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２５回	対面	期末レビュークイズ（文法）	事前学修 期末レビュークイズ（文法）に向けた復習	2 時間
第２６回	対面	期末レビュークイズ(TOEICリーディング・リスニング)	事前学修 期末レビュークイズ（TOEIC リーディング・リスニング）に向けた復習	2 時間
第２７回	対面	期末レビュークイズ（文法）見直しと総復習	事後学修 期末レビュークイズ（文法）の復習	2 時間

第２８回	対面	期末レビュークイズ(TOEICリーディング・リスニング）見直しと総復習	事後学修 期末レビュークイズ（TOEIC リーディング・リスニング）の復習	2 時間
第２９回	オンデマンド	期末レビュークイズ（文法）に向けたポイント解説・復習	事後学修 期末レビュークイズ（文法）に向けた復習	2 時間
第３０回	オンデマンド	期末レビュークイズ(TOEICリーディング・リスニング）に向けたポイント解説・復習	事後学修 期末レビュークイズ（TOEIC リーディング・リスニング）に向けた復習	2 時間

科目名	Advanced English W/R　I	開講年度	2025
担当者	宋　南先	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	TOEIC スコアアップに向けた英語力としての語彙・文法・読解・聴解の基本的スキルの強化		
授業の目的及び概要	本授業は 1 週間に 2 回行われ、①全体的な英語力強化と②TOEIC テストでのスコアアップを目的とします。①では、英語の理解に必要とされる高頻度語 3,000 語と基本的な文法項目の受容的知識の定着を図ります。授業では、教科書並びに e-Learning 教材からのインプットにより知識を蓄え、演習問題やアウトプット活動を通じて知識を定着させ、単文や構造が明快な重文・複文であれば読み取れる、聞き取れるようになることを目指します。 ②では、TOEIC 問題演習に取り組むことで、①で身に付けた知識をテストで使える知識へと昇華していきます。また、就業力育成の観点から論理的思考力や幅広い視野を育み、国際通用力を図る基準として TOEIC を位置づけ、国際社会で使える英語技能を備えた英語運用能力を身に付けます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本授業の学修到達目標は、語彙・文法・長文・アウトプットに関してそれぞれ以下のように設定します。 【文法・語彙】 １．文章中に表れる授業で扱った文法・語彙に気づき、その意味が分かる。 ２．授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を問うテストにおいて、70%以上正答することができる。 ３．授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を身に付け、他者に説明することができる。 ４．授業で扱った文法・語彙を使って、正しい文法・語法で文章やパッセージを作成することができる。 【長文】 １．授業で扱った文法・語彙で構成されたまとまりのある文章を理解し、その要約をすることができる。 ２．授業で扱った文法・語彙のみで構成されたまとまりのある文章を理解し、自分の意見を交えながら他者に伝えることができる。 【アウトプット】 １．授業で扱った語彙・文章を正確に英語らしく発音することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストおよび課題で出される e-Learning について授業内でのフィードバックを行う。レビュークイズについても授業のなかでフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	授業では以下の 2 冊のテキストを併用します。クラスによって使用するテキストが異なるものがあるため注意してください。 ＜クラスによって異なる＞ ① Good Reading、Better Grammar、Joan McConnell・山内圭、成美堂、2018 年 ② Reading Steps、Robert Hickling・臼倉美里、金星堂、2015 年 ＜全クラス共通＞	ISBN	①9784791934188 ②9784764739925 ③9784255156378（通年）

	③TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング:レベル600、西谷敦子・伊藤恵一・夜久容子、朝日出版社、2025年（通年）		
参考書	なし	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	70	
	その他の内容	①レビュークイズ：40%（20%×2回） ②e-Learning学修：10% ③TOEIC：20%（共通目標達成で10%、発展目標達成で10%）	
この科目の受講にあたって	グローバルな社会で活躍するためには、コミュニケーションツールとしての英語力が必要です。また、実践的な英語力を身につけるためには、常に英語に触れる環境が必要です。授業では、英語の基本的能力を身につける学修で英語力の基本を固めつつ、読解演習を通して応用力を培います。毎回の授業では多くの課題が出されます。e-Learning学修による語彙の増強、英文法の確認やリーディング問題の予習・復習など、課内だけでなく課外での学修を進めることで、自学自修の習慣を身につけてください。授業では積極的に参加し、発言してください。 学修成果の確認・評価のため、各学期に実施されるTOEIC IPテストを受験します。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション:授業概要、評価方法、授業の進め方の説明（文法演習については、クラスレベルによって授業計画が異なる場合があります。詳細は第1回授業にて周知いたします。）	事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第2回	対面	イントロダクション:授業概要、評価方法、授業の進め方の説明	事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第3回	対面	文法演習（1）： Ch.1&5［文型・形容詞・副詞］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第4回	対面	TOEIC リスニング演習（1）： Part 1　写真描写問題：概要と基本戦略 Unit　L-1：人物が写っている写真	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第5回	対面	文法演習（2）： Ch.2&11［現在形・過去形・進行形と未来形］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第6回	対面	TOEIC リーディング演習（1）： Part 5　短文穴埋め問題:概要と基本戦略 Unit R-1：品詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第7回	対面	文法演習（3）： Ch.12［完了形］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第8回	対面	TOEIC リスニング演習（2）： Part 1　写真描写問題：概要と基本戦略 Unit　L-2：人物が写っていない写真	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第9回	対面	文法演習（4）：	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認	2時間

		Ch.4［接続詞・前置詞］	し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	
第１０回	対面	TOEIC リーディング演習（2）： Part 5　短文穴埋め問題：概要と基本戦略 Unit R-2：動詞の形(1)能動態 vs 受動態、分詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１１回	対面	文法演習（5）： Ch.14［態］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、中間レビュークイズ（文法）の準備	2 時間
第１２回	対面	TOEIC リスニング演習（3）： Part 2　応答問題：概要と基本戦略 Unit　L-3：疑問詞疑問文	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、中間レビュークイズ（TOEIC リスニング・リーディング）の準備	2 時間
第１３回	対面	中間レビュークイズ（文法）	事前学修：中間レビュークイズ（文法）に向けた復習	2 時間
第１４回	対面	中間レビュークイズ（TOEIC リスニング・リーディング）	事前学修：中間レビュークイズ（TOEIC リスニング・リーディング）に向けた復習	2 時間
第１５回	対面	文法演習（６）： Ch.6［助動詞］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：中間レビュークイズ（文法）の復習、小テストの準備	2 時間
第１６回	対面	TOEIC リーディング演習（3） Part 5　短文穴埋め問題：概要と基本戦略 Unit R-3：動詞の形(2)時制・その他	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：中間レビュークイズ（TOEIC リスニング・リーディング）の復習、小テストの準備	2 時間
第１７回	対面	文法演習（７）： Ch.8［不定詞］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１８回	対面	TOEIC リスニング演習（４） Part 2　応答問題：概要と基本戦略 Unit　L-4：Yes/No 疑問文・その他の疑問文	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１９回	対面	文法演習（８）： Ch.7［動名詞］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２０回	対面	TOEIC リーディング演習（4） Part 5　短文穴埋め問題：概要と基本戦略 Unit R-4：前置詞・接続詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２１回	対面	文法演習（９）： Ch.13［関係代名詞・関係副詞］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２２回	対面	TOEIC リスニング演習（５） Part 2　応答問題：概要と基本戦略 Unit　L-5：平叙文・意外な応答	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２３回	対面	文法演習（１０）： Ch.10［分詞］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２４回	対面	TOEIC リーディング演習（5）： Part 5　短文穴埋め問題：概要と基本戦略 Unit R-5：代名詞・関係代名詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２５回	対面	期末レビュークイズ（文法）	事前学修 期末レビュークイズ（文法）に向けた復習	2 時間
第２６回	対面	期末レビュークイズ(TOEICリーディング・リスニング)	事前学修 期末レビュークイズ（TOEIC リーディング・リスニング）に向けた復習	2 時間
第２７回	対面	期末レビュークイズ（文法）見直しと総復習	事後学修 期末レビュークイズ（文法）の復習	2 時間

第２８回	対面	期末レビュークイズ(TOEICリーディング・リスニング）見直しと総復習	事後学修 期末レビュークイズ（TOEIC リーディング・リスニング）の復習	2 時間
第２９回	オンデマンド	期末レビュークイズ（文法）に向けたポイント解説・復習	事後学修 期末レビュークイズ（文法）に向けた復習	2 時間
第３０回	オンデマンド	期末レビュークイズ(TOEICリーディング・リスニング）に向けたポイント解説・復習	事後学修 期末レビュークイズ（TOEIC リーディング・リスニング）に向けた復習	2 時間

科目名	Advanced English W/R　I	開講年度	2025
担当者	中西　亮太	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	TOEIC スコアアップに向けた英語力としての語彙・文法・読解・聴解の基本的スキルの強化		
授業の目的及び概要	本授業は 1 週間に 2 回行われ、①全体的な英語力強化と②TOEIC テストでのスコアアップを目的とします。①では、英語の理解に必要とされる高頻度語 3,000 語と基本的な文法項目の受容的知識の定着を図ります。授業では、教科書並びに e-Learning 教材からのインプットにより知識を蓄え、演習問題やアウトプット活動を通じて知識を定着させ、単文や構造が明快な重文・複文であれば読み取れる、聞き取れるようになることを目指します。 ②では、TOEIC 問題演習に取り組むことで、①で身に付けた知識をテストで使える知識へと昇華していきます。また、就業力育成の観点から論理的思考力や幅広い視野を育み、国際通用力を図る基準として TOEIC を位置づけ、国際社会で使える英語技能を備えた英語運用能力を身に付けます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本授業の学修到達目標は、語彙・文法・長文・アウトプットに関してそれぞれ以下のように設定します。 【文法・語彙】 １．文章中に表れる授業で扱った文法・語彙に気づき、その意味が分かる。 ２．授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を問うテストにおいて、70%以上正答することができる。 ３．授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を身に付け、他者に説明することができる。 ４．授業で扱った文法・語彙を使って、正しい文法・語法で文章やパッセージを作成することができる。 【長文】 １．授業で扱った文法・語彙で構成されたまとまりのある文章を理解し、その要約をすることができる。 ２．授業で扱った文法・語彙のみで構成されたまとまりのある文章を理解し、自分の意見を交えながら他者に伝えることができる。 【アウトプット】 １．授業で扱った語彙・文章を正確に英語らしく発音することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストおよび課題で出される e-Learning について授業内でのフィードバックを行う。レビュークイズについても授業のなかでフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	授業では以下の 2 冊のテキストを併用します。クラスによって使用するテキストが異なるものがあるため注意してください。 ＜クラスによって異なる＞ ① Good Reading、Better Grammar、Joan McConnell・山内圭、成美堂、2018 年 ② Reading Steps、Robert Hickling・臼倉美里、金星堂、2015 年 ＜全クラス共通＞	ISBN	①9784791934188 ②9784764739925 ③9784255156378（通年）

	③TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング:レベル600、西谷敦子・伊藤恵一・夜久容子、朝日出版社、2025年（通年）		
参考書	なし	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	70	
	その他の内容	①レビュークイズ：40%（20%×2回） ②e-Learning学修：10% ③TOEIC：20%（共通目標達成で10%、発展目標達成で10%）	
この科目の受講にあたって	グローバルな社会で活躍するためには、コミュニケーションツールとしての英語力が必要です。また、実践的な英語力を身につけるためには、常に英語に触れる環境が必要です。授業では、英語の基本的能力を身につける学修で英語力の基本を固めつつ、読解演習を通して応用力を培います。毎回の授業では多くの課題が出されます。e-Learning学修による語彙の増強、英文法の確認やリーディング問題の予習・復習など、課内だけでなく課外での学修を進めることで、自学自修の習慣を身につけてください。授業では積極的に参加し、発言してください。 学修成果の確認・評価のため、各学期に実施されるTOEIC IPテストを受験します。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション:授業概要、評価方法、授業の進め方の説明（文法演習については、クラスレベルによって授業計画が異なる場合があります。詳細は第1回授業にて周知いたします。）	事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第2回	対面	イントロダクション:授業概要、評価方法、授業の進め方の説明	事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第3回	対面	文法演習（1）： Ch.1&5［文型・形容詞・副詞］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第4回	対面	TOEIC リスニング演習（1）： Part 1　写真描写問題：概要と基本戦略 Unit　L-1：人物が写っている写真	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第5回	対面	文法演習（2）： Ch.2&11［現在形・過去形・進行形と未来形］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第6回	対面	TOEIC リーディング演習（1）： Part 5　短文穴埋め問題:概要と基本戦略 Unit R-1：品詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第7回	対面	文法演習（3）： Ch.12［完了形］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第8回	対面	TOEIC リスニング演習（2）： Part 1　写真描写問題：概要と基本戦略 Unit　L-2：人物が写っていない写真	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第9回	対面	文法演習（4）：	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認	2時間

		Ch.4［接続詞・前置詞］	し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	
第１０回	対面	TOEIC リーディング演習（2）： Part 5　短文穴埋め問題：概要と基本戦略 Unit R-2：動詞の形(1)能動態 vs 受動態、分詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１１回	対面	文法演習（5）： Ch.14［態］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、中間レビュークイズ（文法）の準備	2 時間
第１２回	対面	TOEIC リスニング演習（3）： Part 2　応答問題：概要と基本戦略 Unit　L-3：疑問詞疑問文	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、中間レビュークイズ（TOEIC リスニング・リーディング）の準備	2 時間
第１３回	対面	中間レビュークイズ（文法）	事前学修：中間レビュークイズ（文法）に向けた復習	2 時間
第１４回	対面	中間レビュークイズ（TOEIC リスニング・リーディング）	事前学修：中間レビュークイズ（TOEIC リスニング・リーディング）に向けた復習	2 時間
第１５回	対面	文法演習（６）： Ch.6［助動詞］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：中間レビュークイズ（文法）の復習、小テストの準備	2 時間
第１６回	対面	TOEIC リーディング演習（3） Part 5　短文穴埋め問題：概要と基本戦略 Unit R-3：動詞の形(2)時制・その他	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：中間レビュークイズ（TOEIC リスニング・リーディング）の復習、小テストの準備	2 時間
第１７回	対面	文法演習（７）： Ch.8［不定詞］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１８回	対面	TOEIC リスニング演習（４） Part 2　応答問題：概要と基本戦略 Unit　L-4：Yes/No 疑問文・その他の疑問文	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１９回	対面	文法演習（８）： Ch.7［動名詞］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２０回	対面	TOEIC リーディング演習（4） Part 5　短文穴埋め問題：概要と基本戦略 Unit R-4：前置詞・接続詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２１回	対面	文法演習（９）： Ch.13［関係代名詞・関係副詞］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２２回	対面	TOEIC リスニング演習（５） Part 2　応答問題：概要と基本戦略 Unit　L-5：平叙文・意外な応答	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２３回	対面	文法演習（１０）： Ch.10［分詞］	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２４回	対面	TOEIC リーディング演習（5）： Part 5　短文穴埋め問題：概要と基本戦略 Unit R-5：代名詞・関係代名詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２５回	対面	期末レビュークイズ（文法）	事前学修 期末レビュークイズ（文法）に向けた復習	2 時間
第２６回	対面	期末レビュークイズ(TOEICリーディング・リスニング)	事前学修 期末レビュークイズ（TOEIC リーディング・リスニング）に向けた復習	2 時間
第２７回	対面	期末レビュークイズ（文法）見直しと総復習	事後学修 期末レビュークイズ（文法）の復習	2 時間

第２８回	対面	期末レビュークイズ(TOEICリーディング・リスニング）見直しと総復習	事後学修 期末レビュークイズ（TOEIC リーディング・リスニング）の復習	2 時間
第２９回	オンデマンド	期末レビュークイズ（文法）に向けたポイント解説・復習	事後学修 期末レビュークイズ（文法）に向けた復習	2 時間
第３０回	オンデマンド	期末レビュークイズ(TOEICリーディング・リスニング）に向けたポイント解説・復習	事後学修 期末レビュークイズ（TOEIC リーディング・リスニング）に向けた復習	2 時間

科目名	Advanced English W/R　I	開講年度	2025
担当者	本多　真	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	TOEIC スコアアップに向けた、パラグラフリーディングを駆使した英語読解力とアウトプットを通したリスニング力の強化、語彙・表現力の増強		
授業の目的及び概要	英語のパラグラフリーディングの基本を学び、アウトプットの繰り返しによるリスニング力の強化を図ります。構造を意識して英文を読むことによって文章を逐次日本語に訳すことなく英文の一部または全体を読み取る読解力の修得を目指します。同時に、リスニング演習を通して聞き取る力を鍛え、語彙・英語表現力の向上を図ります。また、就業力育成の観点から論理的思考力や幅広い視野を育み、国際通用力を図る基準として TOEIC を位置づけ、国際社会で使える英語技能を備えた英語運用能力を身に付けます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本授業の学修到達目標は、語彙・文法・長文・アウトプットに関してそれぞれ以下のように設定します。 【文法・語彙】 １．文章中に表れる授業で扱った文法・語彙に気づき、その意味が分かる。 ２．授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を問うテストにおいて、60%以上正答することができる。 ３．授業で扱った文法・語彙を使って、正しい文法・語法で文章やパッセージを作成することができる。 【長文】 １．授業で扱った文法・語彙で構成されたまとまりのある文章を理解し、その要約をすることができる。 【アウトプット】 １．授業で扱った語彙・文章を正確に英語らしく発音することができる		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストおよび課題について授業内でのフィードバックを行う。レビュークイズについても授業のなかでフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	Read Well, Write Better、Joan McConnell・武田修一・山内圭・成美堂、2016 年	ISBN	9784791947874
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	20
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	60

	その他の内容	①中間レビュークイズ：30% ②期末レビュークイズ：30%
この科目の受講にあたって	グローバルな社会で活躍するためには、コミュニケーションツールとしての英語力が必要です。また、実践的な英語力を身につけるためには、常に英語に触れる環境が必要です。授業では、英語の基本的能力を身につける学修で英語力の基本を固めつつ、読解演習を通して応用力を培います。毎回の授業では多くの課題が出されます。語彙の増強、英文法の確認やリーディング問題の予習・復習など、課内だけでなく課外での学修を進めることで、自学自修の習慣を身につけてください。授業では積極的に参加し、発言してください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	オンデマンド	オリエンテーション：授業概要、評価方法、授業の進め方の説明	事後学修 リーディング演習：各 Unit「Reading Skills & Strategies」通読	2 時間
第２回	オンデマンド	オリエンテーション：授業概要、評価方法、授業の進め方の説明	事後学修 リスニング演習：テキスト「本書の使い方」熟読	2 時間
第３回	オンデマンド	リーディング演習：Unit 1（Poor Litte Laika）	事後学修 リーディング演習：Unit 1（Poor Litte Laika）語彙・精読復習	2 時間
第４回	オンデマンド	リスニング演習：Unit 1（Part 1：写真描写問題）	事後学修 リスニング演習：Unit 1（Part 1：写真描写問題）語彙・音声復習	2 時間
第５回	オンデマンド	リーディング演習：Unit 2（Where Did That Idiom Come From?）	事後学修 リーディング演習：Unit 2（Where Did That Idiom Come From?）語彙・精読復習	2 時間
第６回	オンデマンド	リスニング演習：Unit 2（Part 1：写真描写問題）	事後学修 リスニング演習：Unit 2（Part 1：写真描写問題）語彙・音声復習	2 時間
第７回	オンデマンド	リーディング演習：Unit 3（Heroes from the Canine Kingdom）	事後学修 リーディング演習：Unit 3（Heroes from the Canine Kingdom）語彙・精読復習	2 時間
第８回	オンデマンド	リスニング演習：Unit 3（Part 2：応答問題）	事後学修 リスニング演習：Unit 3（Part 2：応答問題）語彙・音声復習	2 時間
第９回	オンデマンド	リーディング演習：Unit 4（Pack Carefully!）	事後学修 リーディング演習：Unit 4（Pack Carefully!）語彙・精読復習	2 時間
第１０回	オンデマンド	リスニング演習：リスニング演習：Unit 4（Part 2：応答問題）	事後学修 リスニング演習：Unit 4（Part 2：応答問題）語彙・音声復習	2 時間
第１１回	オンデマンド	リーディング演習：Unit 5（The Many Lives of Yoshikok Yamaguchi）	事後学修 リーディング演習：Unit 5（The Many Lives of Yoshikok Yamaguchi）語彙・精読復習 中間レビュークイズ（リーディング）に向けた復習	2 時間
第１２回	オンデマンド	リスニング演習：Unit 5（Part 2：応答問題）	事後学修 リスニング演習：Unit 5（Part 2：応答問題）語彙・音声復習 中間レビュークイズ（リスニング）に向けた復習	2 時間
第１３回	オンデマンド	中間レビュークイズ（リーディング）	事前学習 中間レビュークイズ（リーディング）に向けた復習	2 時間
第１４回	オンデマンド	中間レビュークイズ（リスニング）	事前学修 中間レビュークイズ（リスニング）に向けた復習	2 時間
第１５回	オンデマンド	中間レビュークイズ（リーディング）見直し リーディング演習：Unit 6（Taxation in	事後学修 中間レビュークイズ（リーディング）の復習 リーディング演習：Unit 6（Taxation in the 21st	2 時間

		the 21st Century)	Century) 語彙・精読復習	
第16回	オンデマンド	中間レビュークイズ (リスニング) 見直し リスニング演習：Unit 6 (Part 2：応答問題)	事後学修 中間レビュークイズ (リスニング) の復習 リスニング演習：Unit 6 (Part 2：応答問題) 語彙・音声復習	2時間
第17回	オンデマンド	リーディング演習：Unit 7 (The Unusual Secretary... or Secretaries?)	事後学修 リーディング演習：Unit 7 (The Unusual Secretary... or Secretaries?) 語彙・精読復習	2時間
第18回	オンデマンド	リスニング演習：Unit 7 (Part 2：応答問題)	事後学修 リスニング演習：Unit 7 (Part 2：応答問題) 語彙・音声復習	2時間
第19回	オンデマンド	リーディング演習：Unit 8 (Mother Complex)	事後学修 リーディング演習：Unit 8 (Mother Complex) 語彙・精読復習	2時間
第20回	オンデマンド	リスニング演習：Unit 8 (Part 2：応答問題)	事後学修 リスニング演習：Unit 8 (Part 2：応答問題) 語彙・音声復習	2時間
第21回	オンデマンド	リーディング演習：Unit 9 (The Death of the Newspaper)	事後学修 リーディング演習：Unit 9 (The Death of the Newspaper) 語彙・精読復習	2時間
第22回	オンデマンド	リスニング演習：Unit 9 (Part 2：応答問題)	事後学修 リスニング演習：Unit 9 (Part 2：応答問題) 語彙・音声復習	2時間
第23回	オンデマンド	期末レビュークイズ (リーディング) に向けたポイント解説・復習	事後学修 期末レビュークイズ (リーディング) に向けた復習	2時間
第24回	オンデマンド	期末レビュークイズ (リスニング) に向けたポイント解説・復習	事後学修 期末レビュークイズ (リスニング) に向けた復習	2時間
第25回	オンデマンド	リーディング演習：Unit 10 (The Great Escape: Over, Under, or Through the Berlin Wall)	事後学修 リーディング演習：Unit 10 (The Great Escape: Over, Under, or Through the Berlin Wall) 語彙・精読復習 期末レビュークイズ (リーディング) に向けた復習	2時間
第26回	オンデマンド	リスニング演習：Unit 10 (Part 3：会話問題)	事後学修 リスニング演習：Unit 10 (Part 3：会話問題) 語彙・音声復習	2時間
第27回	オンデマンド	期末レビュークイズ (リーディング)	事前学修 期末レビュークイズ (リーディング) に向けた復習	2時間
第28回	オンデマンド	期末レビュークイズ (リスニング)	事前学修 期末レビュークイズ (リスニング) に向けた復習	2時間
第29回	オンデマンド	期末レビュークイズ (リーディング) 見直しと総復習	事後学修 期末レビュークイズ (リーディング) の復習	2時間
第30回	オンデマンド	期末レビュークイズ (リスニング) 見直しと総復習	事後学修 期末レビュークイズ (リスニング) の復習	2時間

科目名	Advanced English W/R　Ⅱ	開講年度	2025
担当者	中山　周作	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	TOEIC スコアアップに向けた英語力としての語彙・文法・読解・聴解の基本的スキルの強化		
授業の目的及び概要	本授業は 1 週間に 2 回行われ、①全体的な英語力強化と②TOEIC テストでのスコアアップを目的とします。①では、英語の理解に必要とされる高頻度語 3,000 語と基本的な文法項目の受容的知識の定着を図ります。授業では、教科書並びに e-Learning 教材からのインプットにより知識を蓄え、演習問題やアウトプット活動を通じて知識を定着させ、単文や構造が明快な重文・複文であれば読み取れる、聞き取れるようになることを目指します。 ②では、TOEIC 問題演習に取り組むことで、①で身に付けた知識をテストで使える知識へと昇華していきます。また、就業力育成の観点から論理的思考力や幅広い視野を育み、国際通用力を図る基準として TOEIC を位置づけ、国際社会で使える英語技能を備えた英語運用能力を身に付けます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本授業の学修到達目標は、語彙・文法・長文・アウトプットに関してそれぞれ以下のように設定します。 【文法・語彙】 １．文章中に表れる授業で扱った文法・語彙に気づき、その意味が分かる。 ２．授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を問うテストにおいて、70%以上正答することができる。 ３．授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を身に付け、他者に説明することができる。 ４．授業で扱った文法・語彙を使って、正しい文法・語法で文章やパッセージを作成することができる。 ５．前学期に学修した文法・語彙を使って文章を作ることができる。 【長文】 １．授業で扱った文法・語彙で構成されたまとまりのある文章を理解し、その要約をすることができる。 ２．授業で扱った文法・語彙のみで構成されたまとまりのある文章を理解し、自分の意見を交えながら他者に伝えることができる。 【アウトプット】 １．授業で扱った語彙・文章を正確に英語らしく発音することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストおよび課題で出される e-Learning について授業内でのフィードバックを行う。レビュークイズについても授業のなかでフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	授業では以下の 2 冊のテキストを併用します。クラスによって使用するテキストが異なるものがあるため注意してください。 ＜クラスによって異なる＞ ① Success with Reading Book 2、池田　真生子・清水　綾香・Zachary Fillingham・Owain Mckimm・Judy Majewski、成美堂、2020 年 ② Success with Reading Book 1、池田　真生子・	ISBN	①9784791972029 ②9784791972012 ③9784255156378（通年）

	清水　綾香　・　Michelle Witte　・　Zachary Fillingham　・　Gregory John Bahlmann、成美堂、2020年 ＜全クラス共通＞ ③TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング:レベル600、西谷敦子・伊藤恵一・夜久容子、朝日出版社、2025年（通年）		
参考書	なし	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	70
	その他の内容	①レビュークイズ：40%（20%×2回） ②e-Learning学修：10% ③10月TOEIC IPテスト：10%（共通目標達成で5%、発展目標達成で5%） ④1月TOEIC IPテスト：10%（共通目標達成で5%、発展目標達成で5%）
この科目の受講にあたって	グローバルな社会で活躍するためには、コミュニケーションツールとしての英語力が必要です。また、実践的な英語力を身につけるためには、常に英語に触れる環境が必要です。授業では、英語の基本的能力を身につける学修で英語力の基本を固めつつ、読解演習を通して応用力を培います。毎回の授業では多くの課題が出されます。e-Learning学修による語彙の増強、英文法の確認やリーディング問題の予習・復習など、課内だけでなく課外での学修を進めることで、自学自修の習慣を身につけてください。授業では積極的に参加し、発言してください。 学修成果の確認・評価のため、各学期に実施されるTOEIC IPテストを受験します。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション:授業概要、評価方法、授業の進め方の説明（文法演習については、クラスレベルによって授業計画が異なる場合があります。詳細は第1回授業にて周知いたします。）	事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第2回	対面	イントロダクション:授業概要、評価方法、授業の進め方の説明	事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第3回	対面	文法演習（1）: U.1 The Pencil	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第4回	対面	TOEICリスニング演習（1）: Part 2　応答問題：概要と基本戦略 Unit　L-6：機能別疑問文	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第5回	対面	文法演習（2）: U.2 Running Marathons	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第6回	対面	TOEICリーディング演習（1） Part 6　長文穴埋め問題:概要と基本戦略 Unit R-6：長文穴埋め問題	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間

第7回	対面	文法演習（3）： U.3 Superstition	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第8回	対面	TOEIC リスニング演習（2）： Part 3　会話問題：概要と基本戦略 Unit　L-7：目的・懸念・次の行動	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第9回	対面	文法演習（4）： U.4 the Printing Press	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１０回	対面	TOEIC リーディング演習（2）： Part 7　読解問題：概要と基本戦略 Unit R-7：広告・チャット	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１１回	対面	文法演習（5）： U.5 How safe is Air Travel?	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、中間レビュークイズ（文法）の準備	2 時間
第１２回	対面	TOEIC リスニング演習（3）： Part 3　会話問題：概要と基本戦略 Unit　L-8：言及・問題点・提案	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、中間レビュークイズ（TOEIC リスニング・リーディング）の準備	2 時間
第１３回	対面	中間レビュークイズ（文法）	事前学修：中間レビュークイズ（文法）に向けた復習	2 時間
第１４回	対面	中間レビュークイズ（TOEIC リスニング・リーディング）	事前学修：中間レビュークイズ（TOEIC リスニング・リーディング）に向けた復習	2 時間
第１５回	対面	文法演習（6）： U.6 Jazz Music	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１６回	対面	TOEIC リーディング演習（3）： Part 7　読解問題：概要と基本戦略 Unit R-8：E メール・手紙	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：中間レビュークイズ（TOEIC リスニング・リーディング）の復習、小テストの準備	2 時間
第１７回	対面	文法演習（7）： U.7 Inflation	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１８回	対面	TOEIC リスニング演習（4）： Part 3　会話問題：概要と基本戦略 Unit　L-9：申し出・依頼・意図	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１９回	対面	文法演習（8） U.8 The Word ”Hello”	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２０回	対面	TOEIC リーディング演習（4）： Part 7　読解問題：概要と基本戦略 Unit R-9：告知・社内回覧	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２１回	対面	文法演習（9）： U.9 Trans Fats	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２２回	対面	TOEIC リスニング演習（5）： Part 4　説明文問題：概要と基本戦略 Unit　L-12：グラフィック(図表)問題	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２３回	対面	文法演習（１０）： U.10 Braille	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、期末レビュークイズ（文法）の準備	2 時間
第２４回	対面	TOEIC リーディング演習（5）： Part 7　読解問題：概要と基本戦略 Unit R-11：ダブルパッセージ	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、期末レビュークイズ（TOEIC リスニング・リーディング）の準備	2 時間

第２５回	対面	期末レビュークイズ（文法）	事前学修：期末レビュークイズ（文法）に向けた復習	2 時間
第２６回	対面	期末レビュークイズ（TOEIC リスニング・リーディング）	事前学修：期末レビュークイズ（TOEIC リスニング・リーディング）に向けた復習	2 時間
第２７回	対面	期末レビュークイズ（文法）見直しと総復習	事後学修：期末レビュークイズ（文法）の復習	2 時間
第２８回	対面	期末レビュークイズ（TOEIC リスニング・リーディング）見直しと総復習	事後学修：期末レビュークイズ（TOEIC リスニング・リーディング）の復習	2 時間
第２９回	オンデマンド	期末レビュークイズ（文法）に向けたポイント解説・復習	事後学修：期末レビュークイズ（文法）に向けた復習	2 時間
第３０回	オンデマンド	期末レビュークイズ（TOEIC リスニング・リーディング）に向けたポイント解説・復習	事後学修：期末レビュークイズ（TOEIC リスニング・リーディング）に向けた復習	2 時間

科目名	Advanced English W/R　Ⅱ	開講年度	2025
担当者	土田　智佳子	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	TOEIC スコアアップに向けた英語力としての語彙・文法・読解・聴解の基本的スキルの強化		
授業の目的及び概要	本授業は 1 週間に 2 回行われ、①全体的な英語力強化と②TOEIC テストでのスコアアップを目的とします。①では、英語の理解に必要とされる高頻度語 3,000 語と基本的な文法項目の受容的知識の定着を図ります。授業では、教科書並びに e-Learning 教材からのインプットにより知識を蓄え、演習問題やアウトプット活動を通じて知識を定着させ、単文や構造が明快な重文・複文であれば読み取れる、聞き取れるようになることを目指します。 ②では、TOEIC 問題演習に取り組むことで、①で身に付けた知識をテストで使える知識へと昇華していきます。また、就業力育成の観点から論理的思考力や幅広い視野を育み、国際通用力を図る基準として TOEIC を位置づけ、国際社会で使える英語技能を備えた英語運用能力を身に付けます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本授業の学修到達目標は、語彙・文法・長文・アウトプットに関してそれぞれ以下のように設定します。 【文法・語彙】 １．文章中に表れる授業で扱った文法・語彙に気づき、その意味が分かる。 ２．授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を問うテストにおいて、70%以上正答することができる。 ３．授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を身に付け、他者に説明することができる。 ４．授業で扱った文法・語彙を使って、正しい文法・語法で文章やパッセージを作成することができる。 ５．前学期に学修した文法・語彙を使って文章を作ることができる。 【長文】 １．授業で扱った文法・語彙で構成されたまとまりのある文章を理解し、その要約をすることができる。 ２．授業で扱った文法・語彙のみで構成されたまとまりのある文章を理解し、自分の意見を交えながら他者に伝えることができる。 【アウトプット】 １．授業で扱った語彙・文章を正確に英語らしく発音することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストおよび課題で出される e-Learning について授業内でのフィードバックを行う。レビュークイズについても授業のなかでフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	授業では以下の 2 冊のテキストを併用します。クラスによって使用するテキストが異なるものがあるため注意してください。 ＜クラスによって異なる＞ ① Success with Reading Book 2、池田　真生子・清水　綾香・Zachary Fillingham・Owain Mckimm・Judy Majewski、成美堂、2020 年 ② Success with Reading Book 1、池田　真生子・	ISBN	①9784791972029 ②9784791972012 ③9784255156378（通年）

	清水　綾香　・　Michelle Witte　・　Zachary Fillingham　・　Gregory John Bahlmann、成美堂、2020年 ＜全クラス共通＞ ③TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング:レベル600、西谷敦子・伊藤恵一・夜久容子、朝日出版社、2025年（通年）		
参考書	なし	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	70
	その他の内容	①レビュークイズ：40%（20%×2回） ②e-Learning学修：10% ③10月TOEIC IPテスト：10%（共通目標達成で5%、発展目標達成で5%） ④1月TOEIC IPテスト：10%（共通目標達成で5%、発展目標達成で5%）
この科目の受講にあたって	グローバルな社会で活躍するためには、コミュニケーションツールとしての英語力が必要です。また、実践的な英語力を身につけるためには、常に英語に触れる環境が必要です。授業では、英語の基本的能力を身につける学修で英語力の基本を固めつつ、読解演習を通して応用力を培います。毎回の授業では多くの課題が出されます。e-Learning学修による語彙の増強、英文法の確認やリーディング問題の予習・復習など、課内だけでなく課外での学修を進めることで、自学自修の習慣を身につけてください。授業では積極的に参加し、発言してください。 学修成果の確認・評価のため、各学期に実施されるTOEIC IPテストを受験します。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション:授業概要、評価方法、授業の進め方の説明（文法演習については、クラスレベルによって授業計画が異なる場合があります。詳細は第1回授業にて周知いたします。）	事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第2回	対面	イントロダクション:授業概要、評価方法、授業の進め方の説明	事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第3回	対面	文法演習（1）: U.1 The Pencil	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第4回	対面	TOEICリスニング演習（1）: Part 2　応答問題：概要と基本戦略 Unit　L-6：機能別疑問文	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第5回	対面	文法演習（2）: U.2 Running Marathons	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第6回	対面	TOEICリーディング演習（1） Part 6　長文穴埋め問題:概要と基本戦略 Unit R-6：長文穴埋め問題	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間

第7回	対面	文法演習（3）： U.3 Superstition	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第8回	対面	TOEIC リスニング演習（2）： Part 3　会話問題：概要と基本戦略 Unit　L-7：目的・懸念・次の行動	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第9回	対面	文法演習（4）： U.4 the Printing Press	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１０回	対面	TOEIC リーディング演習（2）： Part 7　読解問題：概要と基本戦略 Unit R-7：広告・チャット	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１１回	対面	文法演習（5）： U.5 How safe is Air Travel?	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、中間レビュークイズ（文法）の準備	2 時間
第１２回	対面	TOEIC リスニング演習（3）： Part 3　会話問題：概要と基本戦略 Unit　L-8：言及・問題点・提案	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、中間レビュークイズ（TOEIC リスニング・リーディング）の準備	2 時間
第１３回	対面	中間レビュークイズ（文法）	事前学修：中間レビュークイズ（文法）に向けた復習	2 時間
第１４回	対面	中間レビュークイズ（TOEIC リスニング・リーディング）	事前学修：中間レビュークイズ（TOEIC リスニング・リーディング）に向けた復習	2 時間
第１５回	対面	文法演習（6）： U.6 Jazz Music	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１６回	対面	TOEIC リーディング演習（3）： Part 7　読解問題：概要と基本戦略 Unit R-8：E メール・手紙	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：中間レビュークイズ（TOEIC リスニング・リーディング）の復習、小テストの準備	2 時間
第１７回	対面	文法演習（7）： U.7 Inflation	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１８回	対面	TOEIC リスニング演習（4）： Part 3　会話問題：概要と基本戦略 Unit　L-9：申し出・依頼・意図	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１９回	対面	文法演習（8） U.8 The Word ”Hello”	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２０回	対面	TOEIC リーディング演習（4）： Part 7　読解問題：概要と基本戦略 Unit R-9：告知・社内回覧	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２１回	対面	文法演習（9）： U.9 Trans Fats	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２２回	対面	TOEIC リスニング演習（5）： Part 4　説明文問題：概要と基本戦略 Unit　L-12：グラフィック(図表)問題	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２３回	対面	文法演習（１０）： U.10 Braille	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、期末レビュークイズ（文法）の準備	2 時間
第２４回	対面	TOEIC リーディング演習（5）： Part 7　読解問題：概要と基本戦略 Unit R-11：ダブルパッセージ	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、期末レビュークイズ（TOEIC リスニング・リーディング）の準備	2 時間

第２５回	対面	期末レビュークイズ（文法）	事前学修：期末レビュークイズ（文法）に向けた復習	2 時間
第２６回	対面	期末レビュークイズ（TOEIC リスニング・リーディング）	事前学修：期末レビュークイズ（TOEIC リスニング・リーディング）に向けた復習	2 時間
第２７回	対面	期末レビュークイズ（文法）見直しと総復習	事後学修：期末レビュークイズ（文法）の復習	2 時間
第２８回	対面	期末レビュークイズ（TOEIC リスニング・リーディング）見直しと総復習	事後学修：期末レビュークイズ（TOEIC リスニング・リーディング）の復習	2 時間
第２９回	オンデマンド	期末レビュークイズ（文法）に向けたポイント解説・復習	事後学修：期末レビュークイズ（文法）に向けた復習	2 時間
第３０回	オンデマンド	期末レビュークイズ（TOEIC リスニング・リーディング）に向けたポイント解説・復習	事後学修：期末レビュークイズ（TOEIC リスニング・リーディング）に向けた復習	2 時間

科目名	Advanced English W/R Ⅱ	開講年度	2025
担当者	本多　善	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	TOEIC スコアアップに向けた英語力としての語彙・文法・読解・聴解の基本的スキルの強化		
授業の目的及び概要	本授業は 1 週間に 2 回行われ、①全体的な英語力強化と②TOEIC テストでのスコアアップを目的とします。①では、英語の理解に必要とされる高頻度語 3,000 語と基本的な文法項目の受容的知識の定着を図ります。授業では、教科書並びに e-Learning 教材からのインプットにより知識を蓄え、演習問題やアウトプット活動を通じて知識を定着させ、単文や構造が明快な重文・複文であれば読み取れる、聞き取れるようになることを目指します。 ②では、TOEIC 問題演習に取り組むことで、①で身に付けた知識をテストで使える知識へと昇華していきます。また、就業力育成の観点から論理的思考力や幅広い視野を育み、国際通用力を図る基準として TOEIC を位置づけ、国際社会で使える英語技能を備えた英語運用能力を身に付けます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本授業の学修到達目標は、語彙・文法・長文・アウトプットに関してそれぞれ以下のように設定します。 【文法・語彙】 １．文章中に表れる授業で扱った文法・語彙に気づき、その意味が分かる。 ２．授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を問うテストにおいて、70%以上正答することができる。 ３．授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を身に付け、他者に説明することができる。 ４．授業で扱った文法・語彙を使って、正しい文法・語法で文章やパッセージを作成することができる。 ５．前学期に学修した文法・語彙を使って文章を作ることができる。 【長文】 １．授業で扱った文法・語彙で構成されたまとまりのある文章を理解し、その要約をすることができる。 ２．授業で扱った文法・語彙のみで構成されたまとまりのある文章を理解し、自分の意見を交えながら他者に伝えることができる。 【アウトプット】 １．授業で扱った語彙・文章を正確に英語らしく発音することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストおよび課題で出される e-Learning について授業内でのフィードバックを行う。レビュークイズについても授業のなかでフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	授業では以下の 2 冊のテキストを併用します。クラスによって使用するテキストが異なるものがあるため注意してください。 ＜クラスによって異なる＞ ① Success with Reading Book 2、池田　真生子・清水　綾香・Zachary Fillingham・Owain Mckimm・Judy Majewski、成美堂、2020 年 ② Success with Reading Book 1、池田　真生子・	ISBN	①9784791972029 ②9784791972012 ③9784255156378（通年）

	清水　綾香　・　Michelle Witte　・　Zachary Fillingham　・　Gregory John Bahlmann、成美堂、2020年 ＜全クラス共通＞ ③TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング:レベル600、西谷敦子・伊藤恵一・夜久容子、朝日出版社、2025年（通年）		
参考書	なし	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	70
	その他の内容	①レビュークイズ：40%（20%×2回） ②e-Learning学修：10% ③10月TOEIC IPテスト：10%（共通目標達成で5%、発展目標達成で5%） ④1月TOEIC IPテスト：10%（共通目標達成で5%、発展目標達成で5%）
この科目の受講にあたって	グローバルな社会で活躍するためには、コミュニケーションツールとしての英語力が必要です。また、実践的な英語力を身につけるためには、常に英語に触れる環境が必要です。授業では、英語の基本的能力を身につける学修で英語力の基本を固めつつ、読解演習を通して応用力を培います。毎回の授業では多くの課題が出されます。e-Learning学修による語彙の増強、英文法の確認やリーディング問題の予習・復習など、課内だけでなく課外での学修を進めることで、自学自修の習慣を身につけてください。授業では積極的に参加し、発言してください。 学修成果の確認・評価のため、各学期に実施されるTOEIC IPテストを受験します。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション:授業概要、評価方法、授業の進め方の説明（文法演習については、クラスレベルによって授業計画が異なる場合があります。詳細は第1回授業にて周知いたします。）	事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第2回	対面	イントロダクション:授業概要、評価方法、授業の進め方の説明	事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第3回	対面	文法演習（1）: U.1 The Pencil	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第4回	対面	TOEICリスニング演習（1）: Part 2　応答問題：概要と基本戦略 Unit　L-6：機能別疑問文	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第5回	対面	文法演習（2）: U.2 Running Marathons	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第6回	対面	TOEICリーディング演習（1） Part 6　長文穴埋め問題:概要と基本戦略 Unit R-6：長文穴埋め問題	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間

第7回	対面	文法演習（3）： U.3 Superstition	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第8回	対面	TOEIC リスニング演習（2）： Part 3　会話問題：概要と基本戦略 Unit　L-7：目的・懸念・次の行動	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第9回	対面	文法演習（4）： U.4 the Printing Press	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１０回	対面	TOEIC リーディング演習（2）： Part 7　読解問題：概要と基本戦略 Unit R-7：広告・チャット	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１１回	対面	文法演習（5）： U.5 How safe is Air Travel?	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、中間レビュークイズ（文法）の準備	2 時間
第１２回	対面	TOEIC リスニング演習（3）： Part 3　会話問題：概要と基本戦略 Unit　L-8：言及・問題点・提案	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、中間レビュークイズ（TOEIC リスニング・リーディング）の準備	2 時間
第１３回	対面	中間レビュークイズ（文法）	事前学修：中間レビュークイズ（文法）に向けた復習	2 時間
第１４回	対面	中間レビュークイズ（TOEIC リスニング・リーディング）	事前学修：中間レビュークイズ（TOEIC リスニング・リーディング）に向けた復習	2 時間
第１５回	対面	文法演習（6）： U.6 Jazz Music	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１６回	対面	TOEIC リーディング演習（3）： Part 7　読解問題：概要と基本戦略 Unit R-8：E メール・手紙	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：中間レビュークイズ（TOEIC リスニング・リーディング）の復習、小テストの準備	2 時間
第１７回	対面	文法演習（7）： U.7 Inflation	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１８回	対面	TOEIC リスニング演習（4）： Part 3　会話問題：概要と基本戦略 Unit　L-9：申し出・依頼・意図	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１９回	対面	文法演習（8） U.8 The Word ”Hello”	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２０回	対面	TOEIC リーディング演習（4）： Part 7　読解問題：概要と基本戦略 Unit R-9：告知・社内回覧	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２１回	対面	文法演習（9）： U.9 Trans Fats	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２２回	対面	TOEIC リスニング演習（5）： Part 4　説明文問題：概要と基本戦略 Unit　L-12：グラフィック(図表)問題	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２３回	対面	文法演習（１０）： U.10 Braille	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、期末レビュークイズ（文法）の準備	2 時間
第２４回	対面	TOEIC リーディング演習（5）： Part 7　読解問題：概要と基本戦略 Unit R-11：ダブルパッセージ	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、期末レビュークイズ（TOEIC リスニング・リーディング）の準備	2 時間

第２５回	対面	期末レビュークイズ（文法）	事前学修：期末レビュークイズ（文法）に向けた復習	2 時間
第２６回	対面	期末レビュークイズ（TOEIC リスニング・リーディング）	事前学修：期末レビュークイズ（TOEIC リスニング・リーディング）に向けた復習	2 時間
第２７回	対面	期末レビュークイズ（文法）見直しと総復習	事後学修：期末レビュークイズ（文法）の復習	2 時間
第２８回	対面	期末レビュークイズ（TOEIC リスニング・リーディング）見直しと総復習	事後学修：期末レビュークイズ（TOEIC リスニング・リーディング）の復習	2 時間
第２９回	オンデマンド	期末レビュークイズ（文法）に向けたポイント解説・復習	事後学修：期末レビュークイズ（文法）に向けた復習	2 時間
第３０回	オンデマンド	期末レビュークイズ（TOEIC リスニング・リーディング）に向けたポイント解説・復習	事後学修：期末レビュークイズ（TOEIC リスニング・リーディング）に向けた復習	2 時間

科目名	Advanced English W/R　Ⅱ	開講年度	2025
担当者	中西　亮太	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	TOEIC スコアアップに向けた英語力としての語彙・文法・読解・聴解の基本的スキルの強化		
授業の目的及び概要	本授業は 1 週間に 2 回行われ、①全体的な英語力強化と②TOEIC テストでのスコアアップを目的とします。①では、英語の理解に必要とされる高頻度語 3,000 語と基本的な文法項目の受容的知識の定着を図ります。授業では、教科書並びに e-Learning 教材からのインプットにより知識を蓄え、演習問題やアウトプット活動を通じて知識を定着させ、単文や構造が明快な重文・複文であれば読み取れる、聞き取れるようになることを目指します。 ②では、TOEIC 問題演習に取り組むことで、①で身に付けた知識をテストで使える知識へと昇華していきます。また、就業力育成の観点から論理的思考力や幅広い視野を育み、国際通用力を図る基準として TOEIC を位置づけ、国際社会で使える英語技能を備えた英語運用能力を身に付けます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本授業の学修到達目標は、語彙・文法・長文・アウトプットに関してそれぞれ以下のように設定します。 【文法・語彙】 １．文章中に表れる授業で扱った文法・語彙に気づき、その意味が分かる。 ２．授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を問うテストにおいて、70%以上正答することができる。 ３．授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を身に付け、他者に説明することができる。 ４．授業で扱った文法・語彙を使って、正しい文法・語法で文章やパッセージを作成することができる。 ５．前学期に学修した文法・語彙を使って文章を作ることができる。 【長文】 １．授業で扱った文法・語彙で構成されたまとまりのある文章を理解し、その要約をすることができる。 ２．授業で扱った文法・語彙のみで構成されたまとまりのある文章を理解し、自分の意見を交えながら他者に伝えることができる。 【アウトプット】 １．授業で扱った語彙・文章を正確に英語らしく発音することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストおよび課題で出される e-Learning について授業内でのフィードバックを行う。レビュークイズについても授業のなかでフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	授業では以下の 2 冊のテキストを併用します。クラスによって使用するテキストが異なるものがあるため注意してください。 ＜クラスによって異なる＞ ① Success with Reading Book 2、池田　真生子・清水　綾香・Zachary Fillingham・Owain Mckimm・Judy Majewski、成美堂、2020 年 ② Success with Reading Book 1、池田　真生子・	ISBN	①9784791972029 ②9784791972012 ③9784255156378（通年）

	清水　綾香　・　Michelle Witte　・　Zachary Fillingham　・　Gregory John Bahlmann、成美堂、2020年 ＜全クラス共通＞ ③TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング:レベル600、西谷敦子・伊藤恵一・夜久容子、朝日出版社、2025年（通年）		
参考書	なし	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	70
	その他の内容	①レビュークイズ：40%（20%×2回） ②e-Learning学修：10% ③10月TOEIC IPテスト：10%（共通目標達成で5%、発展目標達成で5%） ④1月TOEIC IPテスト：10%（共通目標達成で5%、発展目標達成で5%）
この科目の受講にあたって	グローバルな社会で活躍するためには、コミュニケーションツールとしての英語力が必要です。また、実践的な英語力を身につけるためには、常に英語に触れる環境が必要です。授業では、英語の基本的能力を身につける学修で英語力の基本を固めつつ、読解演習を通して応用力を培います。毎回の授業では多くの課題が出されます。e-Learning学修による語彙の増強、英文法の確認やリーディング問題の予習・復習など、課内だけでなく課外での学修を進めることで、自学自修の習慣を身につけてください。授業では積極的に参加し、発言してください。 学修成果の確認・評価のため、各学期に実施されるTOEIC IPテストを受験します。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション:授業概要、評価方法、授業の進め方の説明（文法演習については、クラスレベルによって授業計画が異なる場合があります。詳細は第1回授業にて周知いたします。）	事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第2回	対面	イントロダクション:授業概要、評価方法、授業の進め方の説明	事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第3回	対面	文法演習（1）: U.1 The Pencil	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第4回	対面	TOEICリスニング演習（1）: Part 2　応答問題：概要と基本戦略 Unit　L-6：機能別疑問文	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第5回	対面	文法演習（2）: U.2 Running Marathons	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第6回	対面	TOEICリーディング演習（1） Part 6　長文穴埋め問題:概要と基本戦略 Unit R-6：長文穴埋め問題	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間

第7回	対面	文法演習（3）： U.3 Superstition	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第8回	対面	TOEIC リスニング演習（2）： Part 3　会話問題：概要と基本戦略 Unit　L-7：目的・懸念・次の行動	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第9回	対面	文法演習（4）： U.4 the Printing Press	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１０回	対面	TOEIC リーディング演習（2）： Part 7　読解問題：概要と基本戦略 Unit R-7：広告・チャット	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１１回	対面	文法演習（5）： U.5 How safe is Air Travel?	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、中間レビュークイズ（文法）の準備	2 時間
第１２回	対面	TOEIC リスニング演習（3）： Part 3　会話問題：概要と基本戦略 Unit　L-8：言及・問題点・提案	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、中間レビュークイズ（TOEIC リスニング・リーディング）の準備	2 時間
第１３回	対面	中間レビュークイズ（文法）	事前学修：中間レビュークイズ（文法）に向けた復習	2 時間
第１４回	対面	中間レビュークイズ（TOEIC リスニング・リーディング）	事前学修：中間レビュークイズ（TOEIC リスニング・リーディング）に向けた復習	2 時間
第１５回	対面	文法演習（6）： U.6 Jazz Music	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１６回	対面	TOEIC リーディング演習（3）： Part 7　読解問題：概要と基本戦略 Unit R-8：E メール・手紙	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：中間レビュークイズ（TOEIC リスニング・リーディング）の復習、小テストの準備	2 時間
第１７回	対面	文法演習（7）： U.7 Inflation	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１８回	対面	TOEIC リスニング演習（4）： Part 3　会話問題：概要と基本戦略 Unit　L-9：申し出・依頼・意図	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１９回	対面	文法演習（8） U.8 The Word ”Hello”	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２０回	対面	TOEIC リーディング演習（4）： Part 7　読解問題：概要と基本戦略 Unit R-9：告知・社内回覧	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２１回	対面	文法演習（9）： U.9 Trans Fats	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２２回	対面	TOEIC リスニング演習（5）： Part 4　説明文問題：概要と基本戦略 Unit　L-12：グラフィック(図表)問題	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２３回	対面	文法演習（１０）： U.10 Braille	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、期末レビュークイズ（文法）の準備	2 時間
第２４回	対面	TOEIC リーディング演習（5）： Part 7　読解問題：概要と基本戦略 Unit R-11：ダブルパッセージ	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、期末レビュークイズ（TOEIC リスニング・リーディング）の準備	2 時間

第２５回	対面	期末レビュークイズ（文法）	事前学修：期末レビュークイズ（文法）に向けた復習	2 時間
第２６回	対面	期末レビュークイズ（TOEIC リスニング・リーディング）	事前学修：期末レビュークイズ（TOEIC リスニング・リーディング）に向けた復習	2 時間
第２７回	対面	期末レビュークイズ（文法）見直しと総復習	事後学修：期末レビュークイズ（文法）の復習	2 時間
第２８回	対面	期末レビュークイズ（TOEIC リスニング・リーディング）見直しと総復習	事後学修：期末レビュークイズ（TOEIC リスニング・リーディング）の復習	2 時間
第２９回	オンデマンド	期末レビュークイズ（文法）に向けたポイント解説・復習	事後学修：期末レビュークイズ（文法）に向けた復習	2 時間
第３０回	オンデマンド	期末レビュークイズ（TOEIC リスニング・リーディング）に向けたポイント解説・復習	事後学修：期末レビュークイズ（TOEIC リスニング・リーディング）に向けた復習	2 時間

科目名	Advanced English W/R　Ⅱ	開講年度	2025
担当者	伊藤　美幸	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	TOEIC スコアアップに向けた英語力としての語彙・文法・読解・聴解の基本的スキルの強化		
授業の目的及び概要	本授業は 1 週間に 2 回行われ、①全体的な英語力強化と②TOEIC テストでのスコアアップを目的とします。①では、英語の理解に必要とされる高頻度語 3,000 語と基本的な文法項目の受容的知識の定着を図ります。授業では、教科書並びに e-Learning 教材からのインプットにより知識を蓄え、演習問題やアウトプット活動を通じて知識を定着させ、単文や構造が明快な重文・複文であれば読み取れる、聞き取れるようになることを目指します。 ②では、TOEIC 問題演習に取り組むことで、①で身に付けた知識をテストで使える知識へと昇華していきます。また、就業力育成の観点から論理的思考力や幅広い視野を育み、国際通用力を図る基準として TOEIC を位置づけ、国際社会で使える英語技能を備えた英語運用能力を身に付けます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本授業の学修到達目標は、語彙・文法・長文・アウトプットに関してそれぞれ以下のように設定します。 【文法・語彙】 １．文章中に表れる授業で扱った文法・語彙に気づき、その意味が分かる。 ２．授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を問うテストにおいて、70%以上正答することができる。 ３．授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を身に付け、他者に説明することができる。 ４．授業で扱った文法・語彙を使って、正しい文法・語法で文章やパッセージを作成することができる。 ５．前学期に学修した文法・語彙を使って文章を作ることができる。 【長文】 １．授業で扱った文法・語彙で構成されたまとまりのある文章を理解し、その要約をすることができる。 ２．授業で扱った文法・語彙のみで構成されたまとまりのある文章を理解し、自分の意見を交えながら他者に伝えることができる。 【アウトプット】 １．授業で扱った語彙・文章を正確に英語らしく発音することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストおよび課題で出される e-Learning について授業内でのフィードバックを行う。レビュークイズについても授業のなかでフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	授業では以下の 2 冊のテキストを併用します。クラスによって使用するテキストが異なるものがあるため注意してください。 ＜クラスによって異なる＞ ① Success with Reading Book 2、池田　真生子・清水　綾香・Zachary Fillingham・Owain Mckimm・Judy Majewski、成美堂、2020 年 ② Success with Reading Book 1、池田　真生子・	ISBN	①9784791972029 ②9784791972012 ③9784255156378（通年）

	清水　綾香　・　Michelle Witte　・　Zachary Fillingham　・　Gregory John Bahlmann、成美堂、2020年 ＜全クラス共通＞ ③TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング:レベル600、西谷敦子・伊藤恵一・夜久容子、朝日出版社、2025年（通年）		
参考書	なし	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	70
	その他の内容	①レビュークイズ：40%（20%×2回） ②e-Learning学修：10% ③10月TOEIC IPテスト：10%（共通目標達成で5%、発展目標達成で5%） ④1月TOEIC IPテスト：10%（共通目標達成で5%、発展目標達成で5%）
この科目の受講にあたって	グローバルな社会で活躍するためには、コミュニケーションツールとしての英語力が必要です。また、実践的な英語力を身につけるためには、常に英語に触れる環境が必要です。授業では、英語の基本的能力を身につける学修で英語力の基本を固めつつ、読解演習を通して応用力を培います。毎回の授業では多くの課題が出されます。e-Learning学修による語彙の増強、英文法の確認やリーディング問題の予習・復習など、課内だけでなく課外での学修を進めることで、自学自修の習慣を身につけてください。授業では積極的に参加し、発言してください。 学修成果の確認・評価のため、各学期に実施されるTOEIC IPテストを受験します。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション:授業概要、評価方法、授業の進め方の説明（文法演習については、クラスレベルによって授業計画が異なる場合があります。詳細は第1回授業にて周知いたします。）	事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第2回	対面	イントロダクション:授業概要、評価方法、授業の進め方の説明	事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第3回	対面	文法演習（1）: U.1 The Pencil	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第4回	対面	TOEICリスニング演習（1）: Part 2　応答問題：概要と基本戦略 Unit　L-6：機能別疑問文	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第5回	対面	文法演習（2）: U.2 Running Marathons	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第6回	対面	TOEICリーディング演習（1） Part 6　長文穴埋め問題:概要と基本戦略 Unit R-6：長文穴埋め問題	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間

第7回	対面	文法演習（3）： U.3 Superstition	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第8回	対面	TOEIC リスニング演習（2）： Part 3　会話問題：概要と基本戦略 Unit　L-7：目的・懸念・次の行動	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第9回	対面	文法演習（4）： U.4 the Printing Press	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１０回	対面	TOEIC リーディング演習（2）： Part 7　読解問題：概要と基本戦略 Unit R-7：広告・チャット	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１１回	対面	文法演習（5）： U.5 How safe is Air Travel?	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、中間レビュークイズ（文法）の準備	2 時間
第１２回	対面	TOEIC リスニング演習（3）： Part 3　会話問題：概要と基本戦略 Unit　L-8：言及・問題点・提案	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、中間レビュークイズ（TOEIC リスニング・リーディング）の準備	2 時間
第１３回	対面	中間レビュークイズ（文法）	事前学修：中間レビュークイズ（文法）に向けた復習	2 時間
第１４回	対面	中間レビュークイズ（TOEIC リスニング・リーディング）	事前学修：中間レビュークイズ（TOEIC リスニング・リーディング）に向けた復習	2 時間
第１５回	対面	文法演習（6）： U.6 Jazz Music	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１６回	対面	TOEIC リーディング演習（3）： Part 7　読解問題：概要と基本戦略 Unit R-8：E メール・手紙	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：中間レビュークイズ（TOEIC リスニング・リーディング）の復習、小テストの準備	2 時間
第１７回	対面	文法演習（7）： U.7 Inflation	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１８回	対面	TOEIC リスニング演習（4）： Part 3　会話問題：概要と基本戦略 Unit　L-9：申し出・依頼・意図	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第１９回	対面	文法演習（8） U.8 The Word ”Hello”	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２０回	対面	TOEIC リーディング演習（4）： Part 7　読解問題：概要と基本戦略 Unit R-9：告知・社内回覧	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２１回	対面	文法演習（9）： U.9 Trans Fats	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２２回	対面	TOEIC リスニング演習（5）： Part 4　説明文問題：概要と基本戦略 Unit　L-12：グラフィック(図表)問題	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第２３回	対面	文法演習（１０）： U.10 Braille	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、期末レビュークイズ（文法）の準備	2 時間
第２４回	対面	TOEIC リーディング演習（5）： Part 7　読解問題：概要と基本戦略 Unit R-11：ダブルパッセージ	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、期末レビュークイズ（TOEIC リスニング・リーディング）の準備	2 時間

第２５回	対面	期末レビュークイズ（文法）	事前学修：期末レビュークイズ（文法）に向けた復習	2 時間
第２６回	対面	期末レビュークイズ（TOEIC リスニング・リーディング）	事前学修：期末レビュークイズ（TOEIC リスニング・リーディング）に向けた復習	2 時間
第２７回	対面	期末レビュークイズ（文法）見直しと総復習	事後学修：期末レビュークイズ（文法）の復習	2 時間
第２８回	対面	期末レビュークイズ（TOEIC リスニング・リーディング）見直しと総復習	事後学修：期末レビュークイズ（TOEIC リスニング・リーディング）の復習	2 時間
第２９回	オンデマンド	期末レビュークイズ（文法）に向けたポイント解説・復習	事後学修：期末レビュークイズ（文法）に向けた復習	2 時間
第３０回	オンデマンド	期末レビュークイズ（TOEIC リスニング・リーディング）に向けたポイント解説・復習	事後学修：期末レビュークイズ（TOEIC リスニング・リーディング）に向けた復習	2 時間

科目名	Advanced English W/R　Ⅱ	開講年度	2025
担当者	本多　真	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	TOEIC スコアアップに向けた、パラグラフリーディングを駆使した英語読解力とアウトプットを通したリスニング力の強化、語彙・表現力の増強		
授業の目的及び概要	英語のパラグラフリーディングの基本を学び、アウトプットの繰り返しによるリスニング力の強化を図ります。構造を意識して英文を読むことによって文章を逐次日本語に訳すことなく英文の一部または全体を読み取る読解力の修得を目指します。同時に、リスニング演習を通して聞き取る力を鍛え、語彙・英語表現力の向上を図ります。また、就業力育成の観点から論理的思考力や幅広い視野を育み、国際通用力を図る基準として TOEIC を位置づけ、国際社会で使える英語技能を備えた英語運用能力を身に付けます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本授業の学修到達目標は、語彙・文法・長文・アウトプットに関してそれぞれ以下のように設定します。 【文法・語彙】 １．文章中に表れる授業で扱った文法・語彙に気づき、その意味が分かる。 ２．授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を問うテストにおいて、60%以上正答することができる。 ３．授業で扱った文法・語彙を使って、正しい文法・語法で文章やパッセージを作成することができる。 【長文】 １．授業で扱った文法・語彙で構成されたまとまりのある文章を理解し、その要約をすることができる。 【アウトプット】 １．授業で扱った語彙・文章を正確に英語らしく発音することができる		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストおよび課題について授業内でのフィードバックを行う。レビュークイズについても授業のなかでフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	THE HIGH ROAD TO THE TOEIC® LISTENING AND READING TEST 全パート横断型 TOEIC® LISTENING AND READING テスト総合対策、川幸治他、金星堂、2017 年	ISBN	9784764740457
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	60

	その他の内容	①中間レビュークイズ：30% ②期末レビュークイズ：30%
この科目の受講にあたって	グローバルな社会で活躍するためには、コミュニケーションツールとしての英語力が必要です。また、実践的な英語力を身につけるためには、常に英語に触れる環境が必要です。授業では、英語の基本的能力を身につける学修で英語力の基本を固めつつ、読解演習を通して応用力を培います。毎回の授業では多くの課題が出されます。語彙の増強、英文法の確認やリーディング問題の予習・復習など、課内だけでなく課外での学修を進めることで、自学自修の習慣を身につけてください。授業では積極的に参加し、発言してください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	オンデマンド	オリエンテーション:授業概要、評価方法、授業の進め方の説明	【事後学修】リーディング演習：テキスト「TOEIC L&R テストについて」熟読	2 時間
第２回	オンデマンド	オリエンテーション:授業概要、評価方法、授業の進め方の説明	【事後学修】リーディング演習：テキスト「TOEIC L&R テストについて」熟読	2 時間
第３回	オンデマンド	リーディング演習：Unit 6 Part 5（品詞①）・Part 6 （代名詞②）・Part 7（答えを推測する問題①）	【事後学修】Unit 6 Part 5（品詞①）・Part 6（代名詞②）・Part 7（答えを推測する問題①）語彙・精読復習	2 時間
第４回	オンデマンド	リスニング演習：Unit 6 Part 1（光景：現在進行形が使われるパターン）・Part 2（WH 疑問文⑤）・Part３（顧客との取引の流れをおさえる）・Part 4（未来に起こることに注意する）	【事後学修】Unit 6 Part 1（光景：現在進行形が使わるパターン）・Part 2（WH 疑問文⑤）・Part 3（顧客との取引の流れをおさえる）・Part 4（未来に起こることに注意する）語彙・音声復習	2 時間
第５回	オンデマンド	リーディング演習:Unit 1 Part 5(時制)・Part 6 （時制①）・Part 7（「目的」は冒頭からつかむ ）	【事後学修】Unit 1 Part 5（時制）・Part 6（時制①）・Part 7（「目的」は冒頭からつかむ）語彙・精読復習	2 時間
第６回	オンデマンド	リスニング演習：Unit 1 Part 1（人物の動作：1 人のパターン）・Part 2（WH 疑問文①）・Part 3（会話の冒頭分は特に集中する）・Part 4（言い換えに注意する）	【事後学修】Unit 1 Part 1（人物の動作：1 人のパターン）・Part 2（WH 疑問文①）・Part 3（会話の冒頭部分は特に集中する）・Part 4（言い換えに注意する）語彙・音声復習	2 時間
第７回	オンデマンド	リーディング演習：Unit 2 Part 5（主述の一致）・Part 6（時制②）・Part 7（文書の目的を問う問題 ①）	【事後学修】Unit 2 Part 5（主述の一致）・Part 6（時制②）・Part 7（文書の目的を問う問題①）語彙・精読復習	2 時間
第８回	オンデマンド	リスニング演習：Unit 2 Part 1（人物の位置・場所： 1 人のパターン）・Part 2（WH 疑問文②）・Part 3 （レストランで使われる表現を覚える）・Part 4（話し手と聞き手を意識する）	【事後学修】Unit 2 Part 1（人物の位置・場所：1 人のパターン）・Part 2（WH 疑問文②）・Part 3（レストランで使われる表現を覚える）・Part 4（話し手と聞き手を意識する）語彙・音声復習	2 時間
第９回	オンデマンド	リーディング演習：Unit 3 Part 5（能動態・受動態）・Part 6（接続表現①）・Part 7（NOT 問題①）	【事後学修】Unit 3 Part 5（能動態・受動態）・Part 6（接続表現①）・Part 7（NOT 問題①）語彙・精読復習	2 時間
第１０回	オンデマンド	リスニング演習：Unit 3 Part 1（光景・受動態が使われるパターン）・Part 2（WH 疑問文③）・Part 3（ 話題を意識する）・Part 4（ニュースは冒頭をしっかり聞く）	【事後学修】Unit 3 Part 1（光景・受動態が使われるパターン）・Part 2（WH 疑問文③）・Part 3（話題を意識する）・Part 4（ニュースは冒頭をしっかり聞く）語彙・音声復習	2 時間
第１１回	オンデマンド	リーディング演習：Unit 4 Part 5（動名詞・不定詞）・Part 6（接続表現②）・Part 7（文を挿入する問題）	【事後学修】Unit 4 Part 5（動名詞・不定詞）・Part 6（接続表現②）・Part 7（文を挿入する問題）語彙・精読復習、中間レビュークイズ（リーディング）に向けた復習	2 時間
第１２回	オンデマンド	リスニング演習：Unit 4 Part 1（人物の動作：2 人のパターン）・Part 2（WH 疑問文④）・Part 3（場所をイメージする）・Part 4（図表問題は情報を関連づける）	【事後学修】Unit 4 Part 1（人物の動作：2 人のパターン）・Part 2（WH 疑問文④）・Part 3（場所をイメージする）・Part 4（図表問題は情報を関連づける）語彙・音声復習、中間レビュークイズ（リスニング）に向けた復習	2 時間

第１３回	オンデマンド	中間レビュークイズ（リーディング）	【事後学修】Unit 4 Part 1（人物の動作：2 人のパターン）・Part 2（WH 疑問文④）・Part 3（場所をイメージする）・Part 4（図表問題は情報を関連づける）語彙・音声復習、中間レビュークイズ（リスニング）に向けた復習	2 時間
第１４回	オンデマンド	中間レビュークイズ（リスニング）	【事前学習】中間レビュークイズ（リスニング）に向けた復習	2 時間
第１５回	オンデマンド	中間レビュークイズ（リーディング）見直し リーディング演習：Unit 5 Part 5（代名詞）・Part 6 （代名詞①）・Part 7（答えを推測する問題①）	【事後学修】中間レビュークイズ（リーディング）の復習、Unit 5 Part 5（代名詞）・Part 6（代名詞①）・Part 7（答えを推測する問題①）語彙・精読復習	2 時間
第１６回	オンデマンド	中間レビュークイズ（リスニング）見直し リスニング演習：Unit 5 Part 1（人物の位置・場所：2 人のパターン）・Part 2（WH 疑問文⑤）・Part 3（店内での会話のパターンを覚える）・Part 4（ポイントをしぼって待つ）	【事後学修】中間レビュークイズ（リスニング）の復習、Unit 5 Part 1（人物の位置・場所：2 人のパターン）・Part 2（WH 疑問文⑤）・Part 3（店内での会話のパターンを覚える）・Part 4（ポイントをしぼって待つ）語彙・音声復習	2 時間
第１７回	オンデマンド	リーディング演習:Unit 9 Part 5(比較)・Part6 （文選択①）・Part 7（文書の目的を問う問題②）	【事後学修】Unit 9 Part 5（比較）・Part 6（文選択①）・Part 7（文書の目的を問う問題②）語彙・精読復習	2 時間
第１８回	オンデマンド	リスニング演習：Unit 9 Part 1（光景：位置関係の表現パターン）・Part 2（Yes / No 疑問文③）・Part３（広告の予算や効果をおさえる）・Part 4（注目を集める表現に注意する）	【事後学修】Unit 9 Part 1（光景：位置関係の表現パターン）・Part 2（Yes / No 疑問文③）・Part 3（広告の予算や効果をおさえる）・Part 4（注目を集める表現に注意する）語彙・音声復習	2 時間
第１９回	オンデマンド	リーディング演習：Unit 10 Part 5（前置詞）・Part 6（文選択②）・Part 7（意図問題②）	【事後学修】Unit 10 Part 5（前置詞）・Part 6（文選択②）・Part 7（意図問題②）語彙・精読復習	2 時間
第２０回	オンデマンド	リスニング演習：Unit 10 Part 1（「人物の動作」身に着けている表現パターン）・Part 2（付加疑問文）Part 3（会話の変換点をつかむ）・Part 4（会議の目的をとらえる）	【事後学修】Unit 10 Part 1（「人物の動作」身に着けている表現パターン）・Part 2（付加疑問文）・Part３（会話の変換点をつかむ）・Part 4（会議の目的をとらえる）語彙・音声復習	2 時間
第２１回	オンデマンド	期末レビュークイズ（リーディング）に向けたポイント解説・復習	【事後学修】期末レビュークイズ（リーディング）に向けた復習	2 時間
第２２回	オンデマンド	期末レビュークイズ（リスニング）に向けたポイント解説・復習	【事後学修】期末レビュークイズ（リスニング）に向けた復習	2 時間
第２３回	オンデマンド	リーディング演習：Unit 11 Part 5（接続詞）・Part 6（時制③）・Part 7（NOT 問題②）	【事後学修】Unit 11 Part 5（接続詞）・Part 6（時制③）・Part 7（NOT 問題②）語彙・精読復習	2 時間
第２４回	オンデマンド	リスニング演習：Unit 11 Part 1（「人物の動作」抽象的な言い換えパターン）・Part 2（否定疑問文）・Part3（「トラブル」⇒「解決」の流れをおさえる）・Part4（聞こえた情報をイメージに変換する）	事後学修：Unit 11 Part 1（「人物の動作」抽象的な言い換えパターン）・Part 2（否定疑問文）・Part３（「トラブル」⇒「解決」の流れをおさえる）・Part 4（聞こえた情報をイメージに変換する）語彙・音声復習	2 時間
第２５回	オンデマンド	リーディング演習：Unit 13 Part 5（関係代名詞）・Part 6（接続表現③）・Part 7（答えを推測する問題②）	事後学修：Unit 13 Part 5（関係代名詞）・Part 6（接続表現③）・Part 7（答えを推測する問題②）語彙・精読復習、期末レビュークイズ（リーディング）に向けた復習	2 時間
第２６回	オンデマンド	リスニング演習：Unit 13 Part 1（人物の動作：推測するパターン）・Part 2（提案・勧誘）・Part 3（「意図問題」は設問を先に読む）・Part 4（次に取るべき行動を聞き取る）	【事後学修】Unit 13 Part 1（人物の動作：推測するパターン）・Part 2（提案・勧誘）・Part 3（「意図問題」は設問を先に読む）・Part 4（次に取るべき行動を聞き取る）語彙・音声復習、期末レビュークイズ（リスニング）に向けた復習	2 時間
第２７回	オンデ	期末レビュークイズ（リーディング）	【事前学修】期末レビュークイズ（リーディング）に向けた復習	2 時間

	マンド			
第２８回	オンデマンド	期末レビュークイズ（リスニング）	【事前学修】期末レビュークイズ（リスニング）に向けた復習	2 時間
第２９回	オンデマンド	期末レビュークイズ（リーディング）見直しと総復習	【事後学修】期末レビュークイズ（リーディング）の復習	2 時間
第３０回	オンデマンド	期末レビュークイズ（リスニング）見直しと総復習	【事後学修】期末レビュークイズ（リスニング）の復習	2 時間

科目名	Advanced English L/S　I	開講年度	2025
担当者	ヒエタラヒティ・エレキ	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語のスピーキング力・対話力に重点を置きながら、総合的な英語運用能力の向上を図る。		
授業の目的及び概要	「Advanced English L/S 」は 1 年次の必修英語「Intensive English L/S」で習得したスキルをさらに発展させる科目です。海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。特に、「意味が分かる単語」（受容語彙、passive vocabulary）を「会話で使える単語」（産出語彙、active vocabulary）へ変更することに重点を置く。基本語彙・表現・文型などを練習し、ロールプレイなどのアクティビティなどで実際に使って、スピーキング技能をしっかり身に付ける。また、PROGOS （AI によるスピーキング・テスト）などの評価によって、自分のスピーキング力のレベルを把握し、目標をたて、モティベーションが付く。また、アイスブレーキング、ペアワーク、グループワークなどを多用する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。PROGOS （AI によるスピーキング・テスト）などの評価によって、学生は自分のスピーキング力のレベルを CEFR の分析の細目（Range 表現の幅 / Accuracy 正確さ / Fluency 流暢さ /Interaction やりとり / Coherence 一貫性 / Phonology 音韻（＝言語の音声））で把握し、目標を立てて向上を目指す。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	小テストおよびレビュークイズは、採点した上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	Alastair Graham-Marr et al., Communication Spotlight (3rd Ed.): High Beginner, ABAX, 2019.	ISBN	9781009040679
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	15
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	55
	その他の内容	PROGOS：15%（受験：10%, A1 以上到達：5%） レビュークイズ１：20% レビュークイズ２：20%
この科目の受講にあたって	授業には、必ず英和辞典もしくは、電子辞書を持参すること。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	コースの説明	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（２時間程度）を完成すること。	2 時間
第２回	対面	Unit 0: What's your major? (1)	教科書の内容（第０章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第３回	対面	Unit 0: What's your major? (2) Looking over the course	教科書の内容（第０章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第４回	対面	Unit 0: What's your major? (3) Linking sounds	教科書の内容（第０章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第５回	対面	Unit 0: What's your major? (4) Confirmation: Classroom English, asking questions	教科書の内容（第０章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第６回	対面	Unit 1: I like action movies (1)	教科書の内容（第１章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第７回	対面	Unit 1: I like action movies (2) Talking about likes and dislikes	教科書の内容（第１章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第８回	対面	Unit 1: I like action movies (3) Sentence stress	教科書の内容（第１章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第９回	対面	Unit 1: I like action movies (4) Confirmation: asking for repetition	教科書の内容（第１章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第１０回	対面	Unit 2: How much is that? (1)	教科書の内容（第２章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第１１回	対面	Unit 2: How much is that? (2) Fluency with money and prices	教科書の内容（第２章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第１２回	対面	Unit 2: How much is that? (3) Weak vowels	教科書の内容（第２章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第１３回	対面	レビュークイズ１のための復習	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第１４回	対面	Unit 2: How much is that? (4) Confirmation: asking questions	教科書の内容（第２章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第１５回	対面	レビュークイズ１	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第１６回	対面	Unit 3: Is that your cousin? (1)	教科書の内容（第３章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第１７回	対面	Unit 3: Is that your cousin? (2) Describing your family	教科書の内容（第３章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第１８回	対面	Unit 3: Is that your cousin? (3) Sentence stress	教科書の内容（第３章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間

第１９回	対面	Unit 3: Is that your cousin? (4) Confirmation: repeating key information	教科書の内容（第４章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２０回	対面	Unit 4: How was your weekend? (1)	教科書の内容（第４章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２１回	対面	Unit 4: How was your weekend? (2) Talking about things you did	教科書の内容（第４章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２２回	対面	Unit 4: How was your weekend? (3) Disappearing sounds	教科書の内容（第４章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２３回	対面	Unit 4: How was your weekend? (4) Involvement: Asking questions	教科書の内容（第４章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２４回	対面	Unit 5: What did you do? (1)	教科書の内容（第５章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２５回	対面	Unit 5: What did you do? (2) Describing occupations	教科書の内容（第５章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２６回	対面	レビュークイズ２のための復習	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２７回	対面	Unit 5: What did you do? (3) Sentence stress	教科書の内容（第５章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２８回	対面	レビュークイズ２	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２９回	オンデマンド	まとめ（１）	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第３０回	オンデマンド	まとめ（２）およびレビュークイズのフィードバック	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間

科目名	Advanced English L/S　I	開講年度	2025
担当者	スコット・アレキサンダー	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語のスピーキング力・対話力に重点を置きながら、総合的な英語運用能力の向上を図る。		
授業の目的及び概要	「Advanced English L/S 」は 1 年次の必修英語「Intensive English L/S」で習得したスキルをさらに発展させる科目です。海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。特に、「意味が分かる単語」（受容語彙、passive vocabulary）を「会話で使える単語」（産出語彙、active vocabulary）へ変更することに重点を置く。基本語彙・表現・文型などを練習し、ロールプレイなどのアクティビティなどで実際に使って、スピーキング技能をしっかり身に付ける。また、PROGOS （AI によるスピーキング・テスト）などの評価によって、自分のスピーキング力のレベルを把握し、目標をたて、モティベーションが付く。また、アイスブレーキング、ペアワーク、グループワークなどを多用する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。PROGOS （AI によるスピーキング・テスト）などの評価によって、学生は自分のスピーキング力のレベルを CEFR の分析の細目（Range 表現の幅 / Accuracy 正確さ / Fluency 流暢さ /Interaction やりとり / Coherence 一貫性 / Phonology 音韻（＝言語の音声））で把握し、目標を立てて向上を目指す。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	小テストおよびレビュークイズは、採点した上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	Alastair Graham-Marr et al., Communication Spotlight (3rd Ed.): High Beginner, ABAX, 2019.	ISBN	9781009040679
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	15
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	55
	その他の内容	PROGOS：15%（受験：10%, A1 以上到達：5%） レビュークイズ１：20% レビュークイズ２：20%
この科目の受講にあたって	授業には、必ず英和辞典もしくは、電子辞書を持参すること。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	コースの説明	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（２時間程度）を完成すること。	2 時間
第２回	対面	Unit 0: What's your major? (1)	教科書の内容（第０章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第３回	対面	Unit 0: What's your major? (2) Looking over the course	教科書の内容（第０章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第４回	対面	Unit 0: What's your major? (3) Linking sounds	教科書の内容（第０章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第５回	対面	Unit 0: What's your major? (4) Confirmation: Classroom English, asking questions	教科書の内容（第０章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第６回	対面	Unit 1: I like action movies (1)	教科書の内容（第１章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第７回	対面	Unit 1: I like action movies (2) Talking about likes and dislikes	教科書の内容（第１章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第８回	対面	Unit 1: I like action movies (3) Sentence stress	教科書の内容（第１章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第９回	対面	Unit 1: I like action movies (4) Confirmation: asking for repetition	教科書の内容（第１章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第１０回	対面	Unit 2: How much is that? (1)	教科書の内容（第２章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第１１回	対面	Unit 2: How much is that? (2) Fluency with money and prices	教科書の内容（第２章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第１２回	対面	Unit 2: How much is that? (3) Weak vowels	教科書の内容（第２章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第１３回	対面	レビュークイズ１のための復習	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第１４回	対面	Unit 2: How much is that? (4) Confirmation: asking questions	教科書の内容（第２章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第１５回	対面	レビュークイズ１	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第１６回	対面	Unit 3: Is that your cousin? (1)	教科書の内容（第３章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第１７回	対面	Unit 3: Is that your cousin? (2) Describing your family	教科書の内容（第３章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第１８回	対面	Unit 3: Is that your cousin? (3) Sentence stress	教科書の内容（第３章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間

第１９回	対面	Unit 3: Is that your cousin? (4) Confirmation: repeating key information	教科書の内容（第４章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２０回	対面	Unit 4: How was your weekend? (1)	教科書の内容（第４章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２１回	対面	Unit 4: How was your weekend? (2) Talking about things you did	教科書の内容（第４章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２２回	対面	Unit 4: How was your weekend? (3) Disappearing sounds	教科書の内容（第４章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２３回	対面	Unit 4: How was your weekend? (4) Involvement: Asking questions	教科書の内容（第４章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２４回	対面	Unit 5: What did you do? (1)	教科書の内容（第５章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２５回	対面	Unit 5: What did you do? (2) Describing occupations	教科書の内容（第５章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２６回	対面	レビュークイズ２のための復習	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２７回	対面	Unit 5: What did you do? (3) Sentence stress	教科書の内容（第５章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２８回	対面	レビュークイズ２	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２９回	オンデマンド	まとめ（１）	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第３０回	オンデマンド	まとめ（２）およびレビュークイズのフィードバック	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間

科目名	Advanced English L/S　I	開講年度	2025
担当者	ルーデンクロー・クリス	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語のスピーキング力・対話力に重点を置きながら、総合的な英語運用能力の向上を図る。		
授業の目的及び概要	「Advanced English L/S 」は 1 年次の必修英語「Intensive English L/S」で習得したスキルをさらに発展させる科目です。海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。特に、「意味が分かる単語」（受容語彙、passive vocabulary）を「会話で使える単語」（産出語彙、active vocabulary）へ変更することに重点を置く。基本語彙・表現・文型などを練習し、ロールプレイなどのアクティビティなどで実際に使って、スピーキング技能をしっかり身に付ける。また、PROGOS （AI によるスピーキング・テスト）などの評価によって、自分のスピーキング力のレベルを把握し、目標をたて、モティベーションが付く。また、アイスブレーキング、ペアワーク、グループワークなどを多用する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。PROGOS （AI によるスピーキング・テスト）などの評価によって、学生は自分のスピーキング力のレベルを CEFR の分析の細目（Range 表現の幅 / Accuracy 正確さ / Fluency 流暢さ /Interaction やりとり / Coherence 一貫性 / Phonology 音韻（＝言語の音声））で把握し、目標を立てて向上を目指す。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	小テストおよびレビュークイズは、採点した上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	Alastair Graham-Marr et al., Communication Spotlight (3rd Ed.): High Beginner, ABAX, 2019.	ISBN	9781009040679
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	15
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	55
	その他の内容	PROGOS：15%（受験：10%, A1 以上到達：5%） レビュークイズ１：20% レビュークイズ２：20%
この科目の受講にあたって	授業には、必ず英和辞典もしくは、電子辞書を持参すること。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	コースの説明	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（２時間程度）を完成すること。	2 時間
第２回	対面	Unit 0: What's your major? (1)	教科書の内容（第０章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第３回	対面	Unit 0: What's your major? (2) Looking over the course	教科書の内容（第０章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第４回	対面	Unit 0: What's your major? (3) Linking sounds	教科書の内容（第０章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第５回	対面	Unit 0: What's your major? (4) Confirmation: Classroom English, asking questions	教科書の内容（第０章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第６回	対面	Unit 1: I like action movies (1)	教科書の内容（第１章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第７回	対面	Unit 1: I like action movies (2) Talking about likes and dislikes	教科書の内容（第１章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第８回	対面	Unit 1: I like action movies (3) Sentence stress	教科書の内容（第１章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第９回	対面	Unit 1: I like action movies (4) Confirmation: asking for repetition	教科書の内容（第１章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第１０回	対面	Unit 2: How much is that? (1)	教科書の内容（第２章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第１１回	対面	Unit 2: How much is that? (2) Fluency with money and prices	教科書の内容（第２章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第１２回	対面	Unit 2: How much is that? (3) Weak vowels	教科書の内容（第２章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第１３回	対面	レビュークイズ１のための復習	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第１４回	対面	Unit 2: How much is that? (4) Confirmation: asking questions	教科書の内容（第２章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第１５回	対面	レビュークイズ１	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第１６回	対面	Unit 3: Is that your cousin? (1)	教科書の内容（第３章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第１７回	対面	Unit 3: Is that your cousin? (2) Describing your family	教科書の内容（第３章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第１８回	対面	Unit 3: Is that your cousin? (3) Sentence stress	教科書の内容（第３章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間

第１９回	対面	Unit 3: Is that your cousin? (4) Confirmation: repeating key information	教科書の内容（第４章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２０回	対面	Unit 4: How was your weekend? (1)	教科書の内容（第４章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２１回	対面	Unit 4: How was your weekend? (2) Talking about things you did	教科書の内容（第４章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２２回	対面	Unit 4: How was your weekend? (3) Disappearing sounds	教科書の内容（第４章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２３回	対面	Unit 4: How was your weekend? (4) Involvement: Asking questions	教科書の内容（第４章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２４回	対面	Unit 5: What did you do? (1)	教科書の内容（第５章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２５回	対面	Unit 5: What did you do? (2) Describing occupations	教科書の内容（第５章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２６回	対面	レビュークイズ２のための復習	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２７回	対面	Unit 5: What did you do? (3) Sentence stress	教科書の内容（第５章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２８回	対面	レビュークイズ２	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２９回	オンデマンド	まとめ（１）	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第３０回	オンデマンド	まとめ（２）およびレビュークイズのフィードバック	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間

科目名	Advanced English L/S　I	開講年度	2025
担当者	シラブ　アナスタシア	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語のスピーキング力・対話力に重点を置きながら、総合的な英語運用能力の向上を図る。		
授業の目的及び概要	「Advanced English L/S 」は 1 年次の必修英語「Intensive English L/S」で習得したスキルをさらに発展させる科目です。海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。特に、「意味が分かる単語」（受容語彙、passive vocabulary）を「会話で使える単語」（産出語彙、active vocabulary）へ変更することに重点を置く。基本語彙・表現・文型などを練習し、ロールプレイなどのアクティビティなどで実際に使って、スピーキング技能をしっかり身に付ける。また、PROGOS （AI によるスピーキング・テスト）などの評価によって、自分のスピーキング力のレベルを把握し、目標をたて、モティベーションが付く。また、アイスブレーキング、ペアワーク、グループワークなどを多用する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。PROGOS （AI によるスピーキング・テスト）などの評価によって、学生は自分のスピーキング力のレベルを CEFR の分析の細目（Range 表現の幅 / Accuracy 正確さ / Fluency 流暢さ /Interaction やりとり / Coherence 一貫性 / Phonology 音韻（＝言語の音声））で把握し、目標を立てて向上を目指す。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	小テストおよびレビュークイズは、採点した上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	Alastair Graham-Marr et al., Communication Spotlight (3rd Ed.): High Beginner, ABAX, 2019.	ISBN	9781009040679
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	15
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	55
	その他の内容	PROGOS：15%（受験：10%, A1 以上到達：5%） レビュークイズ１：20% レビュークイズ２：20%
この科目の受講にあたって	授業には、必ず英和辞典もしくは、電子辞書を持参すること。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	コースの説明	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（２時間程度）を完成すること。	2 時間
第２回	対面	Unit 0: What's your major? (1)	教科書の内容（第０章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第３回	対面	Unit 0: What's your major? (2) Looking over the course	教科書の内容（第０章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第４回	対面	Unit 0: What's your major? (3) Linking sounds	教科書の内容（第０章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第５回	対面	Unit 0: What's your major? (4) Confirmation: Classroom English, asking questions	教科書の内容（第０章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第６回	対面	Unit 1: I like action movies (1)	教科書の内容（第１章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第７回	対面	Unit 1: I like action movies (2) Talking about likes and dislikes	教科書の内容（第１章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第８回	対面	Unit 1: I like action movies (3) Sentence stress	教科書の内容（第１章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第９回	対面	Unit 1: I like action movies (4) Confirmation: asking for repetition	教科書の内容（第１章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第１０回	対面	Unit 2: How much is that? (1)	教科書の内容（第２章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第１１回	対面	Unit 2: How much is that? (2) Fluency with money and prices	教科書の内容（第２章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第１２回	対面	Unit 2: How much is that? (3) Weak vowels	教科書の内容（第２章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第１３回	対面	レビュークイズ１のための復習	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第１４回	対面	Unit 2: How much is that? (4) Confirmation: asking questions	教科書の内容（第２章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第１５回	対面	レビュークイズ１	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第１６回	対面	Unit 3: Is that your cousin? (1)	教科書の内容（第３章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第１７回	対面	Unit 3: Is that your cousin? (2) Describing your family	教科書の内容（第３章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第１８回	対面	Unit 3: Is that your cousin? (3) Sentence stress	教科書の内容（第３章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間

第１９回	対面	Unit 3: Is that your cousin? (4) Confirmation: repeating key information	教科書の内容（第４章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２０回	対面	Unit 4: How was your weekend? (1)	教科書の内容（第４章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２１回	対面	Unit 4: How was your weekend? (2) Talking about things you did	教科書の内容（第４章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２２回	対面	Unit 4: How was your weekend? (3) Disappearing sounds	教科書の内容（第４章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２３回	対面	Unit 4: How was your weekend? (4) Involvement: Asking questions	教科書の内容（第４章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２４回	対面	Unit 5: What did you do? (1)	教科書の内容（第５章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２５回	対面	Unit 5: What did you do? (2) Describing occupations	教科書の内容（第５章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２６回	対面	レビュークイズ２のための復習	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２７回	対面	Unit 5: What did you do? (3) Sentence stress	教科書の内容（第５章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２８回	対面	レビュークイズ２	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２９回	オンデマンド	まとめ（１）	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第３０回	オンデマンド	まとめ（２）およびレビュークイズのフィードバック	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間

科目名	Advanced English L/S　I	開講年度	2025
担当者	ボイキン　舞	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語のスピーキング力・対話力に重点を置きながら、総合的な英語運用能力の向上を図る。		
授業の目的及び概要	「Advanced English L/S 」は 1 年次の必修英語「Intensive English L/S」で習得したスキルをさらに発展させる科目です。海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。特に、「意味が分かる単語」（受容語彙、passive vocabulary）を「会話で使える単語」（産出語彙、active vocabulary）へ変更することに重点を置く。基本語彙・表現・文型などを練習し、ロールプレイなどのアクティビティなどで実際に使って、スピーキング技能をしっかり身に付ける。また、PROGOS （AI によるスピーキング・テスト）などの評価によって、自分のスピーキング力のレベルを把握し、目標をたて、モティベーションが付く。また、アイスブレーキング、ペアワーク、グループワークなどを多用する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。PROGOS （AI によるスピーキング・テスト）などの評価によって、学生は自分のスピーキング力のレベルを CEFR の分析の細目（Range 表現の幅 / Accuracy 正確さ / Fluency 流暢さ /Interaction やりとり / Coherence 一貫性 / Phonology 音韻（＝言語の音声））で把握し、目標を立てて向上を目指す。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	小テストおよびレビュークイズは、採点した上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	Alastair Graham-Marr et al., Communication Spotlight (3rd Ed.): High Beginner, ABAX, 2019.	ISBN	9781009040679
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	15
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	55
	その他の内容	PROGOS：15%（受験：10%, A1 以上到達：5%） レビュークイズ１：20% レビュークイズ２：20%
この科目の受講にあたって	授業には、必ず英和辞典もしくは、電子辞書を持参すること。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	コースの説明	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（２時間程度）を完成すること。	2 時間
第２回	対面	Unit 0: What's your major? (1)	教科書の内容（第０章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第３回	対面	Unit 0: What's your major? (2) Looking over the course	教科書の内容（第０章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第４回	対面	Unit 0: What's your major? (3) Linking sounds	教科書の内容（第０章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第５回	対面	Unit 0: What's your major? (4) Confirmation: Classroom English, asking questions	教科書の内容（第０章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第６回	対面	Unit 1: I like action movies (1)	教科書の内容（第１章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第７回	対面	Unit 1: I like action movies (2) Talking about likes and dislikes	教科書の内容（第１章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第８回	対面	Unit 1: I like action movies (3) Sentence stress	教科書の内容（第１章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第９回	対面	Unit 1: I like action movies (4) Confirmation: asking for repetition	教科書の内容（第１章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第１０回	対面	Unit 2: How much is that? (1)	教科書の内容（第２章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第１１回	対面	Unit 2: How much is that? (2) Fluency with money and prices	教科書の内容（第２章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第１２回	対面	Unit 2: How much is that? (3) Weak vowels	教科書の内容（第２章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第１３回	対面	レビュークイズ１のための復習	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第１４回	対面	Unit 2: How much is that? (4) Confirmation: asking questions	教科書の内容（第２章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第１５回	対面	レビュークイズ１	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第１６回	対面	Unit 3: Is that your cousin? (1)	教科書の内容（第３章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第１７回	対面	Unit 3: Is that your cousin? (2) Describing your family	教科書の内容（第３章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第１８回	対面	Unit 3: Is that your cousin? (3) Sentence stress	教科書の内容（第３章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間

第１９回	対面	Unit 3: Is that your cousin? (4) Confirmation: repeating key information	教科書の内容（第４章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２０回	対面	Unit 4: How was your weekend? (1)	教科書の内容（第４章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２１回	対面	Unit 4: How was your weekend? (2) Talking about things you did	教科書の内容（第４章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２２回	対面	Unit 4: How was your weekend? (3) Disappearing sounds	教科書の内容（第４章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２３回	対面	Unit 4: How was your weekend? (4) Involvement: Asking questions	教科書の内容（第４章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２４回	対面	Unit 5: What did you do? (1)	教科書の内容（第５章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２５回	対面	Unit 5: What did you do? (2) Describing occupations	教科書の内容（第５章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２６回	対面	レビュークイズ２のための復習	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２７回	対面	Unit 5: What did you do? (3) Sentence stress	教科書の内容（第５章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２８回	対面	レビュークイズ２	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２９回	オンデマンド	まとめ（１）	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第３０回	オンデマンド	まとめ（２）およびレビュークイズのフィードバック	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間

科目名	Advanced English L/S　I	開講年度	2025
担当者	ハモンズ・ジョアンナ	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語のスピーキング力・対話力に重点を置きながら、総合的な英語運用能力の向上を図る。		
授業の目的及び概要	「Advanced English L/S 」は１年次の必修英語「Intensive English L/S」で習得したスキルをさらに発展させる科目です。海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。特に、「意味が分かる単語」（受容語彙、passive vocabulary）を「会話で使える単語」（産出語彙、active vocabulary）へ変更することに重点を置く。基本語彙・表現・文型などを練習し、ロールプレイなどのアクティビティなどで実際に使って、スピーキング技能をしっかり身に付ける。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	小テストやレビュークイズは、採点した上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	”Interchange 5/E Intro Full Contact A with Digital Pack”, Jack C. Richards et al., Cambridge University Press, 2017.	ISBN	9781009040594
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	15
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	45
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	40
	その他の内容	レビュークイズ１：20% レビュークイズ２：20%
この科目の受講にあたって	授業には、必ず英和辞典もしくは、電子辞書を持参すること。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	オンデマンド	コースの説明	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（２時間程度）を完成すること。	2 時間

第２回	オンデマンド	Unit 1: What's your name? (1) Greetings and leave-takings; names and titles of address; numbers 0-10; phone numbers and e-mail addresses	教科書の内容（第１章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第３回	オンデマンド	Unit 1: What's your name? (2) Introducing yourself and your friends	教科書の内容（第１章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第４回	オンデマンド	Unit 1: What's your name? (3) Asking for names and phone numbers	教科書の内容（第１章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第５回	オンデマンド	Unit 2: Where are my keys? (1) Possessions, classroom objects, personal items and locations in a room	教科書の内容（第２章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第６回	オンデマンド	Unit 2: Where are my keys? (2) Naming objects	教科書の内容（第２章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第７回	オンデマンド	Unit 2: Where are my keys? (3) Asking for and giving the locations of objects	教科書の内容（第２章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第８回	オンデマンド	Unit 3: Where are you from? (1) Cities and countries; adjectives of personality and appearance; numbers and ages	教科書の内容（第３章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第９回	オンデマンド	Unit 3: Where are you from? (2) Talking about cites and countries; asking for and giving information about place of origin, nationality, first language, and age	教科書の内容（第３章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第１０回	オンデマンド	Unit 3: Where are you from? (3) Describing people	教科書の内容（第３章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第１１回	オンデマンド	Unit 4: Is this coat yours? (1) Clothing; colors; weather and seasons	教科書の内容（第４章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第１２回	オンデマンド	Unit 4: Is this coat yours? (2) Asking about and describing clothing and colors	教科書の内容（第４章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第１３回	オンデマンド	レビュークイズ１のための復習	教科書の内容（第４章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第１４回	オンデマンド	Unit 4: Is this coat yours? (3) Talking about the weather and seasons; finding the owners of objects	教科書の内容（第４章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第１５回	オンデマンド	レビュークイズ１	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第１６回	オンデマンド	Unit 5: What time is it? (1) Clock time; times of the day; everyday activities	教科書の内容（第５章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第１７回	オンデマンド	Unit 5: What time is it? (2) Asking for and telling the time	教科書の内容（第５章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第１８回	オンデマンド	Unit 5: What time is it? (3) Asking about and describing current activities	教科書の内容（第５章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第１９回	オンデマンド	Unit 6: I ride my bike to school. (1) Transportation; family relationships;	教科書の内容（第６章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこ	2 時間

		daily routines; days of the week	と。また、課題を完成すること。	
第２０回	オンデマンド	Unit 6: I ride my bike to school. (2) Asking for and giving information about how people go to work or school	教科書の内容（第６章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２１回	オンデマンド	Unit 6: I ride my bike to school. (3) Talking about family members; describing daily and weekly routines	教科書の内容（第６章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２２回	オンデマンド	Unit 7: Does it have a view? (1) Houses and apartments; room; furniture	教科書の内容（第７章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２３回	オンデマンド	Unit 7: Does it have a view? (2) Asking about and describing houses and apartments	教科書の内容（第７章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２４回	オンデマンド	Unit 7: Does it have a view? (3) Talking about the furniture in a room	教科書の内容（第７章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２５回	オンデマンド	Unit 8: Where do you work? (1) Jobs and workplaces	教科書の内容（第８章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２６回	オンデマンド	レビュークイズ２のための復習	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２７回	オンデマンド	Unit 8: Where do you work? (2) Asking for and giving information about work; giving opinions about jobs	教科書の内容（第８章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２８回	オンデマンド	レビュークイズ２	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２９回	オンデマンド	まとめ（１）	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第３０回	オンデマンド	まとめ（２）およびレビュークイズのフィードバック	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間

科目名	Advanced English L/S Ⅱ	開講年度	2025
担当者	スコット・アレキサンダー	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語のスピーキング力・対話力に重点を置きながら、総合的な英語運用能力の向上を図る。		
授業の目的及び概要	「Advanced English L/S 」は 1 年次の必修英語「Intensive English L/S」で習得したスキルをさらに発展させる科目です。海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。特に、「意味が分かる単語」（受容語彙、passive vocabulary）を「会話で使える単語」（産出語彙、active vocabulary）へ変更することに重点を置く。基本語彙・表現・文型などを練習し、ロールプレイなどのアクティビティなどで実際に使って、スピーキング技能をしっかり身に付ける。また、PROGOS （AI によるスピーキング・テスト）などの評価によって、自分のスピーキング力のレベルを把握し、目標をたて、モティベーションが付く。また、アイスブレーキング、ペアワーク、グループワークなどを多用する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。PROGOS （AI によるスピーキング・テスト）などの評価によって、学生は自分のスピーキング力のレベルを CEFR の分析の細目（Range 表現の幅 / Accuracy 正確さ / Fluency 流暢さ /Interaction やりとり / Coherence 一貫性 / Phonology 音韻（＝言語の音声））で把握し、目標を立てて向上を目指す。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	小テストおよびレビュークイズは、採点した上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	Alastair Graham-Marr et al., Communication Spotlight 3rd Edition: High Beginner, ABAX, 2019	ISBN	978-1-78547-078-3
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	15
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	55
	その他の内容	PROGOS：15%（受験：10%, A1 以上到達：5%） レビュークイズ１：20% レビュークイズ２：20%
この科目の受講にあたって	授業には、必ず英和辞典もしくは、電子辞書を持参すること。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	コースの説明	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	１時間
第２回	対面	Unit 8: I liked science in school (1)	教科書の内容（第８章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第３回	対面	Unit 8: I like science at school (2) Talking about school subjects you like	教科書の内容（第８章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第４回	対面	Unit 8: I liked science at school (3) Blended sounds	教科書の内容（第３章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第５回	対面	Unit 8: I liked science at school Paraphrasing	教科書の内容（第８章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第６回	対面	Unit 9: It's easy to make (1)	教科書の内容（第９章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第７回	対面	Unit 9: It's easy to make (2) Giving instructions, decribing how to cook	教科書の内容（第９章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第８回	対面	Unit 9: It's easy to make (3) Weak Vowels	教科書の内容（第９章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第９回	対面	Unit 9: It's easy to make (4) Compensation: asking for help and circumlocution	教科書の内容（第９章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第１０回	対面	Unit 10: What are you doing? (1)	教科書の内容（第１０章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第１１回	対面	Unit 10: What are you doing? (2) Describing current actions	教科書の内容（第１０章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第１２回	対面	Unit 10: What are you doing? (3) Sentence stress	教科書の内容（第１０章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第１３回	対面	レビュークイズ１のための復習	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第１４回	対面	Unit 10: What are you doing? (4) Confirmation: Repetition and paraphrasing	教科書の内容（第１０章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第１５回	対面	レビュークイズ１	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第１６回	対面	Unit 11: What are you going to do? (1)	教科書の内容（第１１章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第１７回	対面	Unit 11: What are you going to do? (2) Talking about the future	教科書の内容（第１１章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第１８回	対面	Unit 11: What are you going to do? (3) Describing current actions	教科書の内容（第１１章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間

第１９回	対面	Unit 11: What are you going to do? (3) Casual English: gonna	教科書の内容（第１１章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２０回	対面	Unit 11: What are you going to do? (4) Involvement: Asking questions	教科書の内容（第１４章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２１回	対面	Unit 12: It's red in the middle (1)	教科書の内容（第１２章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２２回	対面	Unit 12: It's red in the middle (2) Describing food: fruits and vegetables	教科書の内容（第１２章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２３回	対面	Unit 12: It's red in the middle (3) Sentence stress	教科書の内容（第１２章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２４回	対面	Unit 12: It's red in the middle (4) Compensation: asking for help and circumlocution	教科書の内容（第１２章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２５回	対面	Unit 13: How long is it? (4)	教科書の内容（第１３章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２６回	対面	レビュークイズ２のための復習	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２７回	対面	Unit 13: How long is it? (2) Fluence with large numbers	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２８回	対面	レビュークイズ２	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２９回	オンデマンド	まとめ（１）	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第３０回	オンデマンド	まとめ（２）およびレビュークイズのフィードバック	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間

科目名	Advanced English L/S Ⅱ	開講年度	2025
担当者	ルーデンクロー・クリス	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語のスピーキング力・対話力に重点を置きながら、総合的な英語運用能力の向上を図る。		
授業の目的及び概要	「Advanced English L/S 」は 1 年次の必修英語「Intensive English L/S」で習得したスキルをさらに発展させる科目です。海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。特に、「意味が分かる単語」（受容語彙、passive vocabulary）を「会話で使える単語」（産出語彙、active vocabulary）へ変更することに重点を置く。基本語彙・表現・文型などを練習し、ロールプレイなどのアクティビティなどで実際に使って、スピーキング技能をしっかり身に付ける。また、PROGOS （AI によるスピーキング・テスト）などの評価によって、自分のスピーキング力のレベルを把握し、目標をたて、モティベーションが付く。また、アイスブレーキング、ペアワーク、グループワークなどを多用する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。PROGOS （AI によるスピーキング・テスト）などの評価によって、学生は自分のスピーキング力のレベルを CEFR の分析の細目（Range 表現の幅 / Accuracy 正確さ / Fluency 流暢さ /Interaction やりとり / Coherence 一貫性 / Phonology 音韻（＝言語の音声））で把握し、目標を立てて向上を目指す。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	小テストおよびレビュークイズは、採点した上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	Alastair Graham-Marr et al., Communication Spotlight 3rd Edition: High Beginner, ABAX, 2019	ISBN	978-1-78547-078-3
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	15
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	55
	その他の内容	PROGOS：15%（受験：10%, A1 以上到達：5%） レビュークイズ１：20% レビュークイズ２：20%
この科目の受講にあたって	授業には、必ず英和辞典もしくは、電子辞書を持参すること。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	コースの説明	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	１時間
第２回	対面	Unit 8: I liked science in school (1)	教科書の内容（第８章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第３回	対面	Unit 8: I like science at school (2) Talking about school subjects you like	教科書の内容（第８章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第４回	対面	Unit 8: I liked science at school (3) Blended sounds	教科書の内容（第３章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第５回	対面	Unit 8: I liked science at school Paraphrasing	教科書の内容（第８章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第６回	対面	Unit 9: It's easy to make (1)	教科書の内容（第９章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第７回	対面	Unit 9: It's easy to make (2) Giving instructions, decribing how to cook	教科書の内容（第９章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第８回	対面	Unit 9: It's easy to make (3) Weak Vowels	教科書の内容（第９章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第９回	対面	Unit 9: It's easy to make (4) Compensation: asking for help and circumlocution	教科書の内容（第９章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第１０回	対面	Unit 10: What are you doing? (1)	教科書の内容（第１０章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第１１回	対面	Unit 10: What are you doing? (2) Describing current actions	教科書の内容（第１０章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第１２回	対面	Unit 10: What are you doing? (3) Sentence stress	教科書の内容（第１０章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第１３回	対面	レビュークイズ１のための復習	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第１４回	対面	Unit 10: What are you doing? (4) Confirmation: Repetition and paraphrasing	教科書の内容（第１０章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第１５回	対面	レビュークイズ１	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第１６回	対面	Unit 11: What are you going to do? (1)	教科書の内容（第１１章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第１７回	対面	Unit 11: What are you going to do? (2) Talking about the future	教科書の内容（第１１章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第１８回	対面	Unit 11: What are you going to do? (3) Describing current actions	教科書の内容（第１１章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間

第１９回	対面	Unit 11: What are you going to do? (3) Casual English: gonna	教科書の内容（第１１章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２０回	対面	Unit 11: What are you going to do? (4) Involvement: Asking questions	教科書の内容（第１４章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２１回	対面	Unit 12: It's red in the middle (1)	教科書の内容（第１２章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２２回	対面	Unit 12: It's red in the middle (2) Describing food: fruits and vegetables	教科書の内容（第１２章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２３回	対面	Unit 12: It's red in the middle (3) Sentence stress	教科書の内容（第１２章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２４回	対面	Unit 12: It's red in the middle (4) Compensation: asking for help and circumlocution	教科書の内容（第１２章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２５回	対面	Unit 13: How long is it? (4)	教科書の内容（第１３章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２６回	対面	レビュークイズ２のための復習	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２７回	対面	Unit 13: How long is it? (2) Fluence with large numbers	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２８回	対面	レビュークイズ２	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２９回	オンデマンド	まとめ（１）	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第３０回	オンデマンド	まとめ（２）およびレビュークイズのフィードバック	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間

科目名	Advanced English L/S Ⅱ	開講年度	2025
担当者	カー・クリス	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語のスピーキング力・対話力に重点を置きながら、総合的な英語運用能力の向上を図る。		
授業の目的及び概要	「Advanced English L/S 」は 1 年次の必修英語「Intensive English L/S」で習得したスキルをさらに発展させる科目です。海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。特に、「意味が分かる単語」（受容語彙、passive vocabulary）を「会話で使える単語」（産出語彙、active vocabulary）へ変更することに重点を置く。基本語彙・表現・文型などを練習し、ロールプレイなどのアクティビティなどで実際に使って、スピーキング技能をしっかり身に付ける。また、PROGOS （AI によるスピーキング・テスト）などの評価によって、自分のスピーキング力のレベルを把握し、目標をたて、モティベーションが付く。また、アイスブレーキング、ペアワーク、グループワークなどを多用する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。PROGOS （AI によるスピーキング・テスト）などの評価によって、学生は自分のスピーキング力のレベルを CEFR の分析の細目（Range 表現の幅 / Accuracy 正確さ / Fluency 流暢さ /Interaction やりとり / Coherence 一貫性 / Phonology 音韻（＝言語の音声））で把握し、目標を立てて向上を目指す。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	小テストおよびレビュークイズは、採点した上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	Alastair Graham-Marr et al., Communication Spotlight 3rd Edition: High Beginner, ABAX, 2019	ISBN	978-1-78547-078-3
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	15
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	55
	その他の内容	PROGOS：15%（受験：10%, A1 以上到達：5%） レビュークイズ１：20% レビュークイズ２：20%
この科目の受講にあたって	授業には、必ず英和辞典もしくは、電子辞書を持参すること。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	コースの説明	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	１時間
第２回	対面	Unit 8: I liked science in school (1)	教科書の内容（第８章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第３回	対面	Unit 8: I like science at school (2) Talking about school subjects you like	教科書の内容（第８章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第４回	対面	Unit 8: I liked science at school (3) Blended sounds	教科書の内容（第３章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第５回	対面	Unit 8: I liked science at school Paraphrasing	教科書の内容（第８章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第６回	対面	Unit 9: It's easy to make (1)	教科書の内容（第９章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第７回	対面	Unit 9: It's easy to make (2) Giving instructions, decribing how to cook	教科書の内容（第９章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第８回	対面	Unit 9: It's easy to make (3) Weak Vowels	教科書の内容（第９章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第９回	対面	Unit 9: It's easy to make (4) Compensation: asking for help and circumlocution	教科書の内容（第９章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第１０回	対面	Unit 10: What are you doing? (1)	教科書の内容（第１０章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第１１回	対面	Unit 10: What are you doing? (2) Describing current actions	教科書の内容（第１０章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第１２回	対面	Unit 10: What are you doing? (3) Sentence stress	教科書の内容（第１０章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第１３回	対面	レビュークイズ１のための復習	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第１４回	対面	Unit 10: What are you doing? (4) Confirmation: Repetition and paraphrasing	教科書の内容（第１０章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第１５回	対面	レビュークイズ１	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第１６回	対面	Unit 11: What are you going to do? (1)	教科書の内容（第１１章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第１７回	対面	Unit 11: What are you going to do? (2) Talking about the future	教科書の内容（第１１章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第１８回	対面	Unit 11: What are you going to do? (3) Describing current actions	教科書の内容（第１１章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間

第１９回	対面	Unit 11: What are you going to do? (3) Casual English: gonna	教科書の内容（第１１章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２０回	対面	Unit 11: What are you going to do? (4) Involvement: Asking questions	教科書の内容（第１４章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２１回	対面	Unit 12: It's red in the middle (1)	教科書の内容（第１２章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２２回	対面	Unit 12: It's red in the middle (2) Describing food: fruits and vegetables	教科書の内容（第１２章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２３回	対面	Unit 12: It's red in the middle (3) Sentence stress	教科書の内容（第１２章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２４回	対面	Unit 12: It's red in the middle (4) Compensation: asking for help and circumlocution	教科書の内容（第１２章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２５回	対面	Unit 13: How long is it? (4)	教科書の内容（第１３章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２６回	対面	レビュークイズ２のための復習	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２７回	対面	Unit 13: How long is it? (2) Fluence with large numbers	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２８回	対面	レビュークイズ２	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２９回	オンデマンド	まとめ（１）	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第３０回	オンデマンド	まとめ（２）およびレビュークイズのフィードバック	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間

科目名	Advanced English L/S Ⅱ	開講年度	2025
担当者	アンダーソン・テリー	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語のスピーキング力・対話力に重点を置きながら、総合的な英語運用能力の向上を図る。		
授業の目的及び概要	「Advanced English L/S 」は 1 年次の必修英語「Intensive English L/S」で習得したスキルをさらに発展させる科目です。海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。特に、「意味が分かる単語」（受容語彙、passive vocabulary）を「会話で使える単語」（産出語彙、active vocabulary）へ変更することに重点を置く。基本語彙・表現・文型などを練習し、ロールプレイなどのアクティビティなどで実際に使って、スピーキング技能をしっかり身に付ける。また、PROGOS （AI によるスピーキング・テスト）などの評価によって、自分のスピーキング力のレベルを把握し、目標をたて、モティベーションが付く。また、アイスブレーキング、ペアワーク、グループワークなどを多用する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。PROGOS （AI によるスピーキング・テスト）などの評価によって、学生は自分のスピーキング力のレベルを CEFR の分析の細目（Range 表現の幅 / Accuracy 正確さ / Fluency 流暢さ /Interaction やりとり / Coherence 一貫性 / Phonology 音韻（＝言語の音声））で把握し、目標を立てて向上を目指す。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	小テストおよびレビュークイズは、採点した上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	Alastair Graham-Marr et al., Communication Spotlight 3rd Edition: High Beginner, ABAX, 2019	ISBN	978-1-78547-078-3
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	15
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	55
	その他の内容	PROGOS：15%（受験：10%, A1 以上到達：5%） レビュークイズ１：20% レビュークイズ２：20%
この科目の受講にあたって	授業には、必ず英和辞典もしくは、電子辞書を持参すること。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	コースの説明	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	１時間
第２回	対面	Unit 8: I liked science in school (1)	教科書の内容（第８章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第３回	対面	Unit 8: I like science at school (2) Talking about school subjects you like	教科書の内容（第８章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第４回	対面	Unit 8: I liked science at school (3) Blended sounds	教科書の内容（第３章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第５回	対面	Unit 8: I liked science at school Paraphrasing	教科書の内容（第８章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第６回	対面	Unit 9: It's easy to make (1)	教科書の内容（第９章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第７回	対面	Unit 9: It's easy to make (2) Giving instructions, decribing how to cook	教科書の内容（第９章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第８回	対面	Unit 9: It's easy to make (3) Weak Vowels	教科書の内容（第９章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第９回	対面	Unit 9: It's easy to make (4) Compensation: asking for help and circumlocution	教科書の内容（第９章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第１０回	対面	Unit 10: What are you doing? (1)	教科書の内容（第１０章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第１１回	対面	Unit 10: What are you doing? (2) Describing current actions	教科書の内容（第１０章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第１２回	対面	Unit 10: What are you doing? (3) Sentence stress	教科書の内容（第１０章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第１３回	対面	レビュークイズ１のための復習	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第１４回	対面	Unit 10: What are you doing? (4) Confirmation: Repetition and paraphrasing	教科書の内容（第１０章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第１５回	対面	レビュークイズ１	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第１６回	対面	Unit 11: What are you going to do? (1)	教科書の内容（第１１章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第１７回	対面	Unit 11: What are you going to do? (2) Talking about the future	教科書の内容（第１１章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第１８回	対面	Unit 11: What are you going to do? (3) Describing current actions	教科書の内容（第１１章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間

第１９回	対面	Unit 11: What are you going to do? (3) Casual English: gonna	教科書の内容（第１１章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２０回	対面	Unit 11: What are you going to do? (4) Involvement: Asking questions	教科書の内容（第１４章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２１回	対面	Unit 12: It's red in the middle (1)	教科書の内容（第１２章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２２回	対面	Unit 12: It's red in the middle (2) Describing food: fruits and vegetables	教科書の内容（第１２章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２３回	対面	Unit 12: It's red in the middle (3) Sentence stress	教科書の内容（第１２章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２４回	対面	Unit 12: It's red in the middle (4) Compensation: asking for help and circumlocution	教科書の内容（第１２章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２５回	対面	Unit 13: How long is it? (4)	教科書の内容（第１３章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２６回	対面	レビュークイズ２のための復習	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２７回	対面	Unit 13: How long is it? (2) Fluence with large numbers	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２８回	対面	レビュークイズ２	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２９回	オンデマンド	まとめ（１）	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第３０回	オンデマンド	まとめ（２）およびレビュークイズのフィードバック	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間

科目名	Advanced English L/S Ⅱ	開講年度	2025
担当者	ハモンズ・ジョアンナ	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語のスピーキング力・対話力に重点を置きながら、総合的な英語運用能力の向上を図る。		
授業の目的及び概要	「Advanced English L/S 」は 1 年次の必修英語「Intensive English L/S」で習得したスキルをさらに発展させる科目です。海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。特に、「意味が分かる単語」（受容語彙、passive vocabulary）を「会話で使える単語」（産出語彙、active vocabulary）へ変更することに重点を置く。基本語彙・表現・文型などを練習し、ロールプレイなどのアクティビティなどで実際に使って、スピーキング技能をしっかり身に付ける。また、PROGOS （AI によるスピーキング・テスト）などの評価によって、自分のスピーキング力のレベルを把握し、目標をたて、モティベーションが付く。また、アイスブレーキング、ペアワーク、グループワークなどを多用する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。PROGOS （AI によるスピーキング・テスト）などの評価によって、学生は自分のスピーキング力のレベルを CEFR の分析の細目（Range 表現の幅 / Accuracy 正確さ / Fluency 流暢さ /Interaction やりとり / Coherence 一貫性 / Phonology 音韻（＝言語の音声））で把握し、目標を立てて向上を目指す。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	小テストおよびレビュークイズは、採点した上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	Alastair Graham-Marr et al., Communication Spotlight 3rd Edition: High Beginner, ABAX, 2019	ISBN	978-1-78547-078-3
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	15
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	55
	その他の内容	PROGOS：15%（受験：10%, A1 以上到達：5%） レビュークイズ１：20% レビュークイズ２：20%
この科目の受講にあたって	授業には、必ず英和辞典もしくは、電子辞書を持参すること。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	コースの説明	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	１時間
第２回	対面	Unit 8: I liked science in school (1)	教科書の内容（第８章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第３回	対面	Unit 8: I like science at school (2) Talking about school subjects you like	教科書の内容（第８章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第４回	対面	Unit 8: I liked science at school (3) Blended sounds	教科書の内容（第３章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第５回	対面	Unit 8: I liked science at school Paraphrasing	教科書の内容（第８章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第６回	対面	Unit 9: It's easy to make (1)	教科書の内容（第９章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第７回	対面	Unit 9: It's easy to make (2) Giving instructions, decribing how to cook	教科書の内容（第９章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第８回	対面	Unit 9: It's easy to make (3) Weak Vowels	教科書の内容（第９章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第９回	対面	Unit 9: It's easy to make (4) Compensation: asking for help and circumlocution	教科書の内容（第９章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第１０回	対面	Unit 10: What are you doing? (1)	教科書の内容（第１０章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第１１回	対面	Unit 10: What are you doing? (2) Describing current actions	教科書の内容（第１０章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第１２回	対面	Unit 10: What are you doing? (3) Sentence stress	教科書の内容（第１０章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第１３回	対面	レビュークイズ１のための復習	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第１４回	対面	Unit 10: What are you doing? (4) Confirmation: Repetition and paraphrasing	教科書の内容（第１０章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第１５回	対面	レビュークイズ１	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第１６回	対面	Unit 11: What are you going to do? (1)	教科書の内容（第１１章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第１７回	対面	Unit 11: What are you going to do? (2) Talking about the future	教科書の内容（第１１章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間
第１８回	対面	Unit 11: What are you going to do? (3) Describing current actions	教科書の内容（第１１章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	２時間

第１９回	対面	Unit 11: What are you going to do? (3) Casual English: gonna	教科書の内容（第１１章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２０回	対面	Unit 11: What are you going to do? (4) Involvement: Asking questions	教科書の内容（第１４章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２１回	対面	Unit 12: It's red in the middle (1)	教科書の内容（第１２章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２２回	対面	Unit 12: It's red in the middle (2) Describing food: fruits and vegetables	教科書の内容（第１２章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２３回	対面	Unit 12: It's red in the middle (3) Sentence stress	教科書の内容（第１２章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２４回	対面	Unit 12: It's red in the middle (4) Compensation: asking for help and circumlocution	教科書の内容（第１２章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２５回	対面	Unit 13: How long is it? (4)	教科書の内容（第１３章）と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２６回	対面	レビュークイズ２のための復習	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２７回	対面	Unit 13: How long is it? (2) Fluence with large numbers	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２８回	対面	レビュークイズ２	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２９回	オンデマンド	まとめ（１）	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第３０回	オンデマンド	まとめ（２）およびレビュークイズのフィードバック	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間

科目名	Advanced English L/S Ⅱ	開講年度	2025
担当者	ハモンズ・ジョアンナ	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語の聴解、会話、文法、語彙を中心に、広い知識と確かな運用力の養成		
授業の目的及び概要	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。特に、「意味が分かる単語」（受容語彙、passive vocabulary）を「会話で使える単語」（産出語彙、active vocabulary）へ変更することに重点を置く。基本語彙・表現・文型などを練習し、ロールプレイなどのアクティビティなどで実際に使って、スピーキング技能をしっかり身に付ける。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	レポートは、添削した上で返却します。小テストは、採点した上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	Interchange 5/E Level 1 Full Contact B with Digital Pack, Jack C. Richards et al., Cambridge University Press, 2017	ISBN	9781009040686
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	15
授業期間中の小テスト、レポート課題等	45
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	40
その他の内容	レビュークイズ１：20% レビュークイズ２：20%

この科目の受講にあたって	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	オンデマンド	コースの説明	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間

第２回	オンデマンド	Unit 9: What does she look like? (1) Appearance and dress; clothing and clothing styles; people	教科書（第９章）の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第３回	オンデマンド	Unit 9: What does she look like? (2) Asking about and describing people's appearance.	教科書（第９章）の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第４回	オンデマンド	Unit 9: What does she look like? (3) Identifying people	教科書（第９章）の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第５回	オンデマンド	Unit 10: Have you ever been there? (1) Past experiences; unusual experiences.	教科書（第１０章）の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第６回	オンデマンド	Unit 10: Have you ever been there? (2) Describing past experiences	教科書（第１０章）の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第７回	オンデマンド	Unit 10: Have you every been there? (3) Exchanging information about past experiences and events	教科書（第１０章）の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第８回	オンデマンド	Unit 11: It's a really nice city. (1) Cities; hometowns; countries	教科書（第１１章）の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第９回	オンデマンド	Unit 11: It's a really nice city. (2) Asking about and describing cities	教科書（第１１章）の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第１０回	オンデマンド	Unit 11: It's a really nice city. (3) Asking for and giving suggestions; talking about travel.	教科書（第１１章）の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第１１回	オンデマンド	Unit 12: It's important to get rest. (1) Health problems; medication and remedies; products in a pharmacy	教科書（第１２章）の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第１２回	オンデマンド	Unit 12: It's important to get rest. (2) Talking about health problems; asking for and giving advice	教科書（第１２章）の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第１３回	オンデマンド	レビュークイズ１のための復習	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第１４回	オンデマンド	Unit 12: It's important to get rest (3) Making requests; asking for and giving suggestions	教科書（第１２章）の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第１５回	オンデマンド	レビュークイズ１	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第１６回	オンデマンド	Unit 13: What would you like? (1)	教科書（第１３章）の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第１７回	オンデマンド	Unit 13: What would you like? (2) Expressing likes and dislikes	教科書（第１３章）の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第１８回	オンデマンド	Unit 13: What would you like? (3) Agreeing and disagreeing; ordering a meal	教科書（第１３章）の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第１９回	オンデ	Unit 14: It's the coldest city. (1)	教科書（第１４章）の内容と、授業を取ったメモをし	2 時間

	マンド	World geography and facts	っかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	
第２０回	オンデマンド	Unit 14: It's the coldest city. (2) Describing countries; making comparisons	教科書（第１４章）の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２１回	オンデマンド	Unit 14: It's the coldest city! (3) Expressing opinions; taking about distances and measurements	教科書（第１４章）の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２２回	オンデマンド	Unit 15: What are you doing later? (1) Invitations and excuses; free-time activities; telephone messages	教科書（第１５章）の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２３回	オンデマンド	Unit 15: What are you doing later? (1) Invitations and excuses: free-time activities; telephone messages	教科書（第１５章）の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２４回	オンデマンド	Unit 15: What are you doing later? (3) Accepting and refusing invitations; giving reasons	教科書（第１５章）の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２５回	オンデマンド	Unit 16: How have you changed? (1) Life changes; plans and hopes for the future	教科書（第１６章）の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２６回	オンデマンド	レビュークイズ２のための復習	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２７回	オンデマンド	Unit 16: How have you changed? (2) Exchanging personal information; describing changes; taking about the future	教科書（第１６章）の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２８回	オンデマンド	レビュークイズ２	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第２９回	オンデマンド	まとめ（１）	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間
第３０回	オンデマンド	まとめ（２）およびレビュークイズのフィードバック	教科書の内容と、授業を取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成すること。	2 時間

科目名	日本語１	開講年度	2025
担当者	チャン　クォック　ヒエップ	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる。		
授業の目的及び概要	本科目は、受講生の日本語運用能力レベル別のクラス編成を行う。 日本語２の学修と合わせて、大学での豊かな人間関係を構築すること、高いレベルのクラスにおいては、大学での専門の学修において、確かな知識を獲得し、大学での学修に必要な日本語運用能力へと向上させることを目的とする。 そのために、特に大学での専門学修に必要な読みの能力の基礎を築き、積極的にディスカッションなどに参加できるようになることを目指す。具体的には、以下の学修を行う。 ①一般書のさまざまな話題について書かれた文章の内容把握、筆者の意図把握、例と意見の区別など、読む上での着眼点の着目等、読む活動で必要なスキルを身につける。 ②読んだものを踏まえて、自分なりの考えを他の人に伝える練習を行う。 ③また、聴解の練習を通して、日常的な場面に加えて幅広い場面で、自然に近いスピードの、まとまりのある会話やニュースを聞いて、話の流れや内容、登場人物の関係を理解したり、要旨を把握したりすることができることを目指す。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は以下のとおりである。 ①簡潔な事実関係のテクストで、自分の専門分野や興味の範囲内のものは、十分に主題を理解できる。毎日や普段の仕事上の話題について、簡単な事実関係の情報を理解できる。もし、だいたいが耳慣れた発音で、明瞭に話されていれば、一般的なメッセージも具体的な詳細も理解できる。 ②一連の別々になっている要素を一つの流れに結びつけることによって、自分の関心が及ぶ身近な話題について結束性のある簡単なテクストを書くことができる。 ③自分の関心のあるさまざまな話題のうちのどれかについて、ほどほどの流暢さで、ある程度の長さの、簡単な記述やプレゼンテーションができる。 ④自分の関心や専門分野に関連した、身近な日常的および非日常的な問題について、自信を持って話し合いをすることができる。情報を交換、チェックし、確認できる。あまり日常的でない状況にも対処し、問題の在処を説明できる。映画、書籍、音楽などの抽象的な文化的話題について、自分の考えを表現できる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	宿題を添削して返す。また、確認テストを実施後には授業内でフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスによって使用する教科書が異なります。購入する際は、間違えないように気を付けてください。 【１クラス】 ①テーマ別仲間とわいわい学ぶ日本語 [A2+-B1]，亀田 美保，研究社，2023 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N3，前坊 香菜子他，アルク，2016 【２クラス】	ISBN	【１クラス】 ①978-4327384913 ②978-4757428577 【２クラス】 ①978-4327384913 ②978-4757428577 【３クラス】 ①978-4863923959

	①テーマ別仲間とわいわい学ぶ日本語 [A2+~B1]，亀田 美保，研究社，2023 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N3，前坊 香菜子他，アルク，2016 【３クラス】 ①日本語 N2 文法・読解まるごとマスター(日本語能力試験・日本留学試験読解対策シリーズ)，水谷信子他，J リサーチ出版，2018 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N2，前坊 香菜子他，アルク，2016 【４クラス】 ①日本語 N2 文法・読解まるごとマスター(日本語能力試験・日本留学試験読解対策シリーズ)，水谷信子他，J リサーチ出版，2018 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N2，前坊 香菜子他，アルク，2016 【５クラス】 ①日本語 N2 文法・読解まるごとマスター(日本語能力試験・日本留学試験読解対策シリーズ)，水谷信子他，J リサーチ出版，2018 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N2，前坊 香菜子他，アルク，2016 【６クラス】 ①日本語 N2 文法・読解まるごとマスター(日本語能力試験・日本留学試験読解対策シリーズ)，水谷信子他，J リサーチ出版，2018 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N2，前坊 香菜子他，アルク，2016 【７クラス】 ①日本語能力試験 N1 読解 必修パターン（日本語能力試験必修パターンシリーズ)，氏原 庸子他，J リサーチ出版，2015 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N1，前坊 香菜子他，アルク，2019		②978-4757428560 【４クラス】 ①978-4863923959 ②978-4757428560 【５クラス】 ①978-4863923959 ②978-4757428560 【６クラス】 ①978-4863923959 ②978-4757428560 【７クラス】 ①978-486392249
参考書	—	ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	5
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	60
	その他の内容	宿題：13% 期末復習テスト：30% JLPT：10% ハーフ模試/実力テスト：7%
この科目の受講にあたって	授業の中で読んだものを踏まえて、考えて話し合ったり、他の資料などと合わせて、自分なりの考えを発表したりする練習もします。特に大学のゼミの授業で自分の考えをしっかり言えるようになるためにも、日本語の授業の中で積極的に取り組み、練習をしてください。また、授業で使う教材で出てきた言葉や日常生活でよく聞く言葉は、確実に覚えて、言葉も増やしていってください。目標は１年間で 5000 語です！ ７月と１２月にある日本語能力試験（JLPT）を必ず受験してください。学期中に JLPT 合格に向けた JLPT 模試も実施します。必ず受験し、合格に向けた学修をしましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス（授業の進め方、成績付与の方法等の説明） 語彙アセスメントテスト	事前学修：アセスメントテストの準備	1 時間
第２回	対面	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第３回	対面	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第４回	対面	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第５回	対面	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第６回	対面	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第７回	対面	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第８回	対面	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第９回	対面	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１０回	対面	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１１回	対面	1．小テスト 2．中間テストに向けた復習①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１２回	オンデマンド	1．小テスト 2．中間テストに向けた復習②	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１３回	対面	中間テストの実施	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１４回	対面	1．小テスト 2．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１５回	対面	1．小テスト 2．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１６回	対面	1．小テスト 2．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備 確認テストに向けた学修	4 時間
第１７回	対面	1．小テスト 2．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間

第１８回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、中間テストの準備	2 時間
第１９回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２０回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２１回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備 確認テストに向けた学修	4 時間
第２２回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２３回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２４回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２５回	対面	１．小テスト ２．聴解・ディスカッション・ミニレポート	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２６回	対面	１．小テスト ２．聴解・ディスカッション・ミニレポート	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２７回	対面	１．小テスト ２．聴解・ディスカッション・ミニレポート	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２８回	対面	１．小テスト ２．学期末復習テストに向けた振り返り①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２９回	オンデマンド	１．小テスト ２．学期末復習テストに向けた振り返り②	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、定期試験テストの準備	2 時間
第３０回	対面	学期末復習テスト	学期末復習テストに向けた勉強	4 時間

科目名	日本語１	開講年度	2025
担当者	ソンダ　サンジャヤ	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる。		
授業の目的及び概要	本科目は、受講生の日本語運用能力レベル別のクラス編成を行う。 日本語２の学修と合わせて、大学での豊かな人間関係を構築すること、高いレベルのクラスにおいては、大学での専門の学修において、確かな知識を獲得し、大学での学修に必要な日本語運用能力へと向上させることを目的とする。 そのために、特に大学での専門学修に必要な読みの能力の基礎を築き、積極的にディスカッションなどに参加できるようになることを目指す。具体的には、以下の学修を行う。 ①一般書のさまざまな話題について書かれた文章の内容把握、筆者の意図把握、例と意見の区別など、読む上での着眼点の着目等、読む活動で必要なスキルを身につける。 ②読んだものを踏まえて、自分なりの考えを他の人に伝える練習を行う。 ③また、聴解の練習を通して、日常的な場面に加えて幅広い場面で、自然に近いスピードの、まとまりのある会話やニュースを聞いて、話の流れや内容、登場人物の関係を理解したり、要旨を把握したりすることができることを目指す。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は以下のとおりである。 ①簡潔な事実関係のテクストで、自分の専門分野や興味の範囲内のものは、十分に主題を理解できる。毎日や普段の仕事上の話題について、簡単な事実関係の情報を理解できる。もし、だいたいが耳慣れた発音で、明瞭に話されていれば、一般的なメッセージも具体的な詳細も理解できる。 ②一連の別々になっている要素を一つの流れに結びつけることによって、自分の関心が及ぶ身近な話題について結束性のある簡単なテクストを書くことができる。 ③自分の関心のあるさまざまな話題のうちのどれかについて、ほどほどの流暢さで、ある程度の長さの、簡単な記述やプレゼンテーションができる。 ④自分の関心や専門分野に関連した、身近な日常的および非日常的な問題について、自信を持って話し合いをすることができる。情報を交換、チェックし、確認できる。あまり日常的でない状況にも対処し、問題の在処を説明できる。映画、書籍、音楽などの抽象的な文化的話題について、自分の考えを表現できる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	宿題を添削して返す。また、確認テストを実施後には授業内でフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスによって使用する教科書が異なります。購入する際は、間違えないように気を付けてください。 【１クラス】 ①テーマ別仲間とわいわい学ぶ日本語 [A2+-B1]，亀田 美保，研究社，2023 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N3，前坊 香菜子他，アルク，2016 【２クラス】	ISBN	【１クラス】 ①978-4327384913 ②978-4757428577 【２クラス】 ①978-4327384913 ②978-4757428577 【３クラス】 ①978-4863923959

	①テーマ別仲間とわいわい学ぶ日本語 [A2+~B1]，亀田 美保，研究社，2023 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N3，前坊 香菜子他，アルク，2016 【３クラス】 ①日本語 N2 文法・読解まるごとマスター(日本語能力試験・日本留学試験読解対策シリーズ)，水谷信子他，J リサーチ出版，2018 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N2，前坊 香菜子他，アルク，2016 【４クラス】 ①日本語 N2 文法・読解まるごとマスター(日本語能力試験・日本留学試験読解対策シリーズ)，水谷信子他，J リサーチ出版，2018 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N2，前坊 香菜子他，アルク，2016 【５クラス】 ①日本語 N2 文法・読解まるごとマスター(日本語能力試験・日本留学試験読解対策シリーズ)，水谷信子他，J リサーチ出版，2018 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N2，前坊 香菜子他，アルク，2016 【６クラス】 ①日本語 N2 文法・読解まるごとマスター(日本語能力試験・日本留学試験読解対策シリーズ)，水谷信子他，J リサーチ出版，2018 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N2，前坊 香菜子他，アルク，2016 【７クラス】 ①日本語能力試験 N1 読解 必修パターン（日本語能力試験必修パターンシリーズ)，氏原 庸子他，J リサーチ出版，2015 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N1，前坊 香菜子他，アルク，2019		②978-4757428560 【４クラス】 ①978-4863923959 ②978-4757428560 【５クラス】 ①978-4863923959 ②978-4757428560 【６クラス】 ①978-4863923959 ②978-4757428560 【７クラス】 ①978-486392249
参考書	—	ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	5
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	60
	その他の内容	宿題：13% 期末復習テスト：30% JLPT：10% ハーフ模試/実力テスト：7%
この科目の受講にあたって	授業の中で読んだものを踏まえて、考えて話し合ったり、他の資料などと合わせて、自分なりの考えを発表したりする練習もします。特に大学のゼミの授業で自分の考えをしっかり言えるようになるためにも、日本語の授業の中で積極的に取り組み、練習をしてください。また、授業で使う教材で出てきた言葉や日常生活でよく聞く言葉は、確実に覚えて、言葉も増やしていってください。目標は１年間で 5000 語です！ ７月と１２月にある日本語能力試験（JLPT）を必ず受験してください。学期中に JLPT 合格に向けた JLPT 模試も実施します。必ず受験し、合格に向けた学修をしましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス（授業の進め方、成績付与の方法等の説明） 語彙アセスメントテスト	事前学修：アセスメントテストの準備	1 時間
第２回	対面	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第３回	対面	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第４回	対面	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第５回	対面	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第６回	対面	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第７回	対面	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第８回	対面	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第９回	対面	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１０回	対面	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１１回	対面	1．小テスト 2．中間テストに向けた復習①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１２回	オンデマンド	1．小テスト 2．中間テストに向けた復習②	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１３回	対面	中間テストの実施	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１４回	対面	1．小テスト 2．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１５回	対面	1．小テスト 2．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１６回	対面	1．小テスト 2．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備 確認テストに向けた学修	4 時間
第１７回	対面	1．小テスト 2．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間

第１８回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、中間テストの準備	2 時間
第１９回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２０回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２１回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備 確認テストに向けた学修	4 時間
第２２回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２３回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２４回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２５回	対面	１．小テスト ２．聴解・ディスカッション・ミニレポート	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２６回	対面	１．小テスト ２．聴解・ディスカッション・ミニレポート	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２７回	対面	１．小テスト ２．聴解・ディスカッション・ミニレポート	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２８回	対面	１．小テスト ２．学期末復習テストに向けた振り返り①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２９回	オンデマンド	１．小テスト ２．学期末復習テストに向けた振り返り②	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、定期試験テストの準備	2 時間
第３０回	対面	学期末復習テスト	学期末復習テストに向けた勉強	4 時間

科目名	日本語１	開講年度	2025
担当者	李　光曦	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる。		
授業の目的及び概要	本科目は、受講生の日本語運用能力レベル別のクラス編成を行う。 日本語２の学修と合わせて、大学での豊かな人間関係を構築すること、高いレベルのクラスにおいては、大学での専門の学修において、確かな知識を獲得し、大学での学修に必要な日本語運用能力へと向上させることを目的とする。 そのために、特に大学での専門学修に必要な読みの能力の基礎を築き、積極的にディスカッションなどに参加できるようになることを目指す。具体的には、以下の学修を行う。 ①一般書のさまざまな話題について書かれた文章の内容把握、筆者の意図把握、例と意見の区別など、読む上での着眼点の着目等、読む活動で必要なスキルを身につける。 ②読んだものを踏まえて、自分なりの考えを他の人に伝える練習を行う。 ③また、聴解の練習を通して、日常的な場面に加えて幅広い場面で、自然に近いスピードの、まとまりのある会話やニュースを聞いて、話の流れや内容、登場人物の関係を理解したり、要旨を把握したりすることができることを目指す。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は以下のとおりである。 ①簡潔な事実関係のテクストで、自分の専門分野や興味の範囲内のものは、十分に主題を理解できる。毎日や普段の仕事上の話題について、簡単な事実関係の情報を理解できる。もし、だいたいが耳慣れた発音で、明瞭に話されていれば、一般的なメッセージも具体的な詳細も理解できる。 ②一連の別々になっている要素を一つの流れに結びつけることによって、自分の関心が及ぶ身近な話題について結束性のある簡単なテクストを書くことができる。 ③自分の関心のあるさまざまな話題のうちのどれかについて、ほどほどの流暢さで、ある程度の長さの、簡単な記述やプレゼンテーションができる。 ④自分の関心や専門分野に関連した、身近な日常的および非日常的な問題について、自信を持って話し合いをすることができる。情報を交換、チェックし、確認できる。あまり日常的でない状況にも対処し、問題の在処を説明できる。映画、書籍、音楽などの抽象的な文化的話題について、自分の考えを表現できる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	宿題を添削して返す。また、確認テストを実施後には授業内でフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスによって使用する教科書が異なります。購入する際は、間違えないように気を付けてください。 【１クラス】 ①テーマ別仲間とわいわい学ぶ日本語 [A2+-B1]，亀田 美保，研究社，2023 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N3，前坊 香菜子他，アルク，2016 【２クラス】	ISBN	【１クラス】 ①978-4327384913 ②978-4757428577 【２クラス】 ①978-4327384913 ②978-4757428577 【３クラス】 ①978-4863923959

	①テーマ別仲間とわいわい学ぶ日本語 [A2+~B1]，亀田 美保，研究社，2023 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N3，前坊 香菜子他，アルク，2016 【３クラス】 ①日本語 N2 文法・読解まるごとマスター(日本語能力試験・日本留学試験読解対策シリーズ)，水谷信子他，J リサーチ出版，2018 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N2，前坊 香菜子他，アルク，2016 【４クラス】 ①日本語 N2 文法・読解まるごとマスター(日本語能力試験・日本留学試験読解対策シリーズ)，水谷信子他，J リサーチ出版，2018 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N2，前坊 香菜子他，アルク，2016 【５クラス】 ①日本語 N2 文法・読解まるごとマスター(日本語能力試験・日本留学試験読解対策シリーズ)，水谷信子他，J リサーチ出版，2018 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N2，前坊 香菜子他，アルク，2016 【６クラス】 ①日本語 N2 文法・読解まるごとマスター(日本語能力試験・日本留学試験読解対策シリーズ)，水谷信子他，J リサーチ出版，2018 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N2，前坊 香菜子他，アルク，2016 【７クラス】 ①日本語能力試験 N1 読解 必修パターン（日本語能力試験必修パターンシリーズ)，氏原 庸子他，J リサーチ出版，2015 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N1，前坊 香菜子他，アルク，2019		②978-4757428560 【４クラス】 ①978-4863923959 ②978-4757428560 【５クラス】 ①978-4863923959 ②978-4757428560 【６クラス】 ①978-4863923959 ②978-4757428560 【７クラス】 ①978-486392249
参考書	—	ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	5
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	60
	その他の内容	宿題：13% 期末復習テスト：30% JLPT：10% ハーフ模試/実力テスト：7%
この科目の受講にあたって	授業の中で読んだものを踏まえて、考えて話し合ったり、他の資料などと合わせて、自分なりの考えを発表したりする練習もします。特に大学のゼミの授業で自分の考えをしっかり言えるようになるためにも、日本語の授業の中で積極的に取り組み、練習をしてください。また、授業で使う教材で出てきた言葉や日常生活でよく聞く言葉は、確実に覚えて、言葉も増やしていってください。目標は１年間で 5000 語です！ ７月と１２月にある日本語能力試験（JLPT）を必ず受験してください。学期中に JLPT 合格に向けた JLPT 模試も実施します。必ず受験し、合格に向けた学修をしましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス（授業の進め方、成績付与の方法等の説明） 語彙アセスメントテスト	事前学修：アセスメントテストの準備	1 時間
第２回	対面	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第３回	対面	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第４回	対面	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第５回	対面	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第６回	対面	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第７回	対面	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第８回	対面	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第９回	対面	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１０回	対面	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１１回	対面	1．小テスト 2．中間テストに向けた復習①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１２回	オンデマンド	1．小テスト 2．中間テストに向けた復習②	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１３回	対面	中間テストの実施	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１４回	対面	1．小テスト 2．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１５回	対面	1．小テスト 2．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１６回	対面	1．小テスト 2．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備 確認テストに向けた学修	4 時間
第１７回	対面	1．小テスト 2．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間

第１８回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、中間テストの準備	2 時間
第１９回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２０回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２１回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備 確認テストに向けた学修	4 時間
第２２回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２３回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２４回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２５回	対面	１．小テスト ２．聴解・ディスカッション・ミニレポート	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２６回	対面	１．小テスト ２．聴解・ディスカッション・ミニレポート	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２７回	対面	１．小テスト ２．聴解・ディスカッション・ミニレポート	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２８回	対面	１．小テスト ２．学期末復習テストに向けた振り返り①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２９回	オンデマンド	１．小テスト ２．学期末復習テストに向けた振り返り②	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、定期試験テストの準備	2 時間
第３０回	対面	学期末復習テスト	学期末復習テストに向けた勉強	4 時間

科目名	日本語１	開講年度	2025
担当者	井ノ口　智佳	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる。		
授業の目的及び概要	本科目は、受講生の日本語運用能力レベル別のクラス編成を行う。 日本語２の学修と合わせて、大学での豊かな人間関係を構築すること、高いレベルのクラスにおいては、大学での専門の学修において、確かな知識を獲得し、大学での学修に必要な日本語運用能力へと向上させることを目的とする。 そのために、特に大学での専門学修に必要な読みの能力の基礎を築き、積極的にディスカッションなどに参加できるようになることを目指す。具体的には、以下の学修を行う。 ①一般書のさまざまな話題について書かれた文章の内容把握、筆者の意図把握、例と意見の区別など、読む上での着眼点の着目等、読む活動で必要なスキルを身につける。 ②読んだものを踏まえて、自分なりの考えを他の人に伝える練習を行う。 ③また、聴解の練習を通して、日常的な場面に加えて幅広い場面で、自然に近いスピードの、まとまりのある会話やニュースを聞いて、話の流れや内容、登場人物の関係を理解したり、要旨を把握したりすることができることを目指す。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は以下のとおりである。 ①簡潔な事実関係のテクストで、自分の専門分野や興味の範囲内のものは、十分に主題を理解できる。毎日や普段の仕事上の話題について、簡単な事実関係の情報を理解できる。もし、だいたいが耳慣れた発音で、明瞭に話されていれば、一般的なメッセージも具体的な詳細も理解できる。 ②一連の別々になっている要素を一つの流れに結びつけることによって、自分の関心が及ぶ身近な話題について結束性のある簡単なテクストを書くことができる。 ③自分の関心のあるさまざまな話題のうちのどれかについて、ほどほどの流暢さで、ある程度の長さの、簡単な記述やプレゼンテーションができる。 ④自分の関心や専門分野に関連した、身近な日常的および非日常的な問題について、自信を持って話し合いをすることができる。情報を交換、チェックし、確認できる。あまり日常的でない状況にも対処し、問題の在処を説明できる。映画、書籍、音楽などの抽象的な文化的話題について、自分の考えを表現できる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	宿題を添削して返す。また、確認テストを実施後には授業内でフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスによって使用する教科書が異なります。購入する際は、間違えないように気を付けてください。 【１クラス】 ①テーマ別仲間とわいわい学ぶ日本語 [A2+-B1]，亀田 美保，研究社，2023 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N3，前坊 香菜子他，アルク，2016 【２クラス】	ISBN	【１クラス】 ①978-4327384913 ②978-4757428577 【２クラス】 ①978-4327384913 ②978-4757428577 【３クラス】 ①978-4863923959

	①テーマ別仲間とわいわい学ぶ日本語 [A2+~B1]，亀田 美保，研究社，2023 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N3，前坊 香菜子他，アルク，2016 【３クラス】 ①日本語 N2 文法・読解まるごとマスター(日本語能力試験・日本留学試験読解対策シリーズ)，水谷信子他，J リサーチ出版，2018 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N2，前坊 香菜子他，アルク，2016 【４クラス】 ①日本語 N2 文法・読解まるごとマスター(日本語能力試験・日本留学試験読解対策シリーズ)，水谷信子他，J リサーチ出版，2018 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N2，前坊 香菜子他，アルク，2016 【５クラス】 ①日本語 N2 文法・読解まるごとマスター(日本語能力試験・日本留学試験読解対策シリーズ)，水谷信子他，J リサーチ出版，2018 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N2，前坊 香菜子他，アルク，2016 【６クラス】 ①日本語 N2 文法・読解まるごとマスター(日本語能力試験・日本留学試験読解対策シリーズ)，水谷信子他，J リサーチ出版，2018 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N2，前坊 香菜子他，アルク，2016 【７クラス】 ①日本語能力試験 N1 読解 必修パターン（日本語能力試験必修パターンシリーズ)，氏原 庸子他，J リサーチ出版，2015 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N1，前坊 香菜子他，アルク，2019		②978-4757428560 【４クラス】 ①978-4863923959 ②978-4757428560 【５クラス】 ①978-4863923959 ②978-4757428560 【６クラス】 ①978-4863923959 ②978-4757428560 【７クラス】 ①978-486392249
参考書	—	ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	5
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	60
	その他の内容	宿題：13% 期末復習テスト：30% JLPT：10% ハーフ模試/実力テスト：7%
この科目の受講にあたって	授業の中で読んだものを踏まえて、考えて話し合ったり、他の資料などと合わせて、自分なりの考えを発表したりする練習もします。特に大学のゼミの授業で自分の考えをしっかり言えるようになるためにも、日本語の授業の中で積極的に取り組み、練習をしてください。また、授業で使う教材で出てきた言葉や日常生活でよく聞く言葉は、確実に覚えて、言葉も増やしていってください。目標は１年間で 5000 語です！ ７月と１２月にある日本語能力試験（JLPT）を必ず受験してください。学期中に JLPT 合格に向けた JLPT 模試も実施します。必ず受験し、合格に向けた学修をしましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス（授業の進め方、成績付与の方法等の説明） 語彙アセスメントテスト	事前学修：アセスメントテストの準備	1 時間
第２回	対面	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第３回	対面	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第４回	対面	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第５回	対面	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第６回	対面	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第７回	対面	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第８回	対面	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第９回	対面	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１０回	対面	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１１回	対面	1．小テスト 2．中間テストに向けた復習①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１２回	オンデマンド	1．小テスト 2．中間テストに向けた復習②	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１３回	対面	中間テストの実施	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１４回	対面	1．小テスト 2．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１５回	対面	1．小テスト 2．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１６回	対面	1．小テスト 2．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備 確認テストに向けた学修	4 時間
第１７回	対面	1．小テスト 2．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間

第１８回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、中間テストの準備	2 時間
第１９回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２０回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２１回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備 確認テストに向けた学修	4 時間
第２２回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２３回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２４回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２５回	対面	１．小テスト ２．聴解・ディスカッション・ミニレポート	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２６回	対面	１．小テスト ２．聴解・ディスカッション・ミニレポート	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２７回	対面	１．小テスト ２．聴解・ディスカッション・ミニレポート	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２８回	対面	１．小テスト ２．学期末復習テストに向けた振り返り①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２９回	オンデマンド	１．小テスト ２．学期末復習テストに向けた振り返り②	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、定期試験テストの準備	2 時間
第３０回	対面	学期末復習テスト	学期末復習テストに向けた勉強	4 時間

科目名	日本語１	開講年度	2025
担当者	片岡　浩史	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる。		
授業の目的及び概要	本科目は、受講生の日本語運用能力レベル別のクラス編成を行う。 日本語２の学修と合わせて、大学での豊かな人間関係を構築すること、高いレベルのクラスにおいては、大学での専門の学修において、確かな知識を獲得し、大学での学修に必要な日本語運用能力へと向上させることを目的とする。 そのために、特に大学での専門学修に必要な読みの能力の基礎を築き、積極的にディスカッションなどに参加できるようになることを目指す。具体的には、以下の学修を行う。 ①一般書のさまざまな話題について書かれた文章の内容把握、筆者の意図把握、例と意見の区別など、読む上での着眼点の着目等、読む活動で必要なスキルを身につける。 ②読んだものを踏まえて、自分なりの考えを他の人に伝える練習を行う。 ③また、聴解の練習を通して、日常的な場面に加えて幅広い場面で、自然に近いスピードの、まとまりのある会話やニュースを聞いて、話の流れや内容、登場人物の関係を理解したり、要旨を把握したりすることができることを目指す。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は以下のとおりである。 ①簡潔な事実関係のテクストで、自分の専門分野や興味の範囲内のものは、十分に主題を理解できる。毎日や普段の仕事上の話題について、簡単な事実関係の情報を理解できる。もし、だいたいが耳慣れた発音で、明瞭に話されていれば、一般的なメッセージも具体的な詳細も理解できる。 ②一連の別々になっている要素を一つの流れに結びつけることによって、自分の関心が及ぶ身近な話題について結束性のある簡単なテクストを書くことができる。 ③自分の関心のあるさまざまな話題のうちのどれかについて、ほどほどの流暢さで、ある程度の長さの、簡単な記述やプレゼンテーションができる。 ④自分の関心や専門分野に関連した、身近な日常的および非日常的な問題について、自信を持って話し合いをすることができる。情報を交換、チェックし、確認できる。あまり日常的でない状況にも対処し、問題の在処を説明できる。映画、書籍、音楽などの抽象的な文化的話題について、自分の考えを表現できる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	宿題を添削して返す。また、確認テストを実施後には授業内でフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスによって使用する教科書が異なります。購入する際は、間違えないように気を付けてください。 【１クラス】 ①テーマ別仲間とわいわい学ぶ日本語 [A2+-B1]，亀田 美保，研究社，2023 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N3，前坊 香菜子他，アルク，2016 【２クラス】	ISBN	【１クラス】 ①978-4327384913 ②978-4757428577 【２クラス】 ①978-4327384913 ②978-4757428577 【３クラス】 ①978-4863923959

	①テーマ別仲間とわいわい学ぶ日本語 [A2+~B1]，亀田 美保，研究社，2023 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N3，前坊 香菜子他，アルク，2016 【３クラス】 ①日本語 N2 文法・読解まるごとマスター(日本語能力試験・日本留学試験読解対策シリーズ)，水谷信子他，J リサーチ出版，2018 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N2，前坊 香菜子他，アルク，2016 【４クラス】 ①日本語 N2 文法・読解まるごとマスター(日本語能力試験・日本留学試験読解対策シリーズ)，水谷信子他，J リサーチ出版，2018 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N2，前坊 香菜子他，アルク，2016 【５クラス】 ①日本語 N2 文法・読解まるごとマスター(日本語能力試験・日本留学試験読解対策シリーズ)，水谷信子他，J リサーチ出版，2018 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N2，前坊 香菜子他，アルク，2016 【６クラス】 ①日本語 N2 文法・読解まるごとマスター(日本語能力試験・日本留学試験読解対策シリーズ)，水谷信子他，J リサーチ出版，2018 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N2，前坊 香菜子他，アルク，2016 【７クラス】 ①日本語能力試験 N1 読解 必修パターン（日本語能力試験必修パターンシリーズ)，氏原 庸子他，J リサーチ出版，2015 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N1，前坊 香菜子他，アルク，2019		②978-4757428560 【４クラス】 ①978-4863923959 ②978-4757428560 【５クラス】 ①978-4863923959 ②978-4757428560 【６クラス】 ①978-4863923959 ②978-4757428560 【７クラス】 ①978-486392249
参考書	—	ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	5
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	60
	その他の内容	宿題：13% 期末復習テスト：30% JLPT：10% ハーフ模試/実力テスト：7%
この科目の受講にあたって	授業の中で読んだものを踏まえて、考えて話し合ったり、他の資料などと合わせて、自分なりの考えを発表したりする練習もします。特に大学のゼミの授業で自分の考えをしっかり言えるようになるためにも、日本語の授業の中で積極的に取り組み、練習をしてください。また、授業で使う教材で出てきた言葉や日常生活でよく聞く言葉は、確実に覚えて、言葉も増やしていってください。目標は１年間で 5000 語です！ ７月と１２月にある日本語能力試験（JLPT）を必ず受験してください。学期中に JLPT 合格に向けた JLPT 模試も実施します。必ず受験し、合格に向けた学修をしましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス（授業の進め方、成績付与の方法等の説明） 語彙アセスメントテスト	事前学修：アセスメントテストの準備	1 時間
第２回	対面	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第３回	対面	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第４回	対面	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第５回	対面	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第６回	対面	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第７回	対面	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第８回	対面	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第９回	対面	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１０回	対面	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１１回	対面	1．小テスト 2．中間テストに向けた復習①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１２回	オンデマンド	1．小テスト 2．中間テストに向けた復習②	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１３回	対面	中間テストの実施	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１４回	対面	1．小テスト 2．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１５回	対面	1．小テスト 2．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１６回	対面	1．小テスト 2．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備 確認テストに向けた学修	4 時間
第１７回	対面	1．小テスト 2．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間

第１８回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、中間テストの準備	2 時間
第１９回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２０回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２１回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備 確認テストに向けた学修	4 時間
第２２回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２３回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２４回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２５回	対面	１．小テスト ２．聴解・ディスカッション・ミニレポート	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２６回	対面	１．小テスト ２．聴解・ディスカッション・ミニレポート	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２７回	対面	１．小テスト ２．聴解・ディスカッション・ミニレポート	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２８回	対面	１．小テスト ２．学期末復習テストに向けた振り返り①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２９回	オンデマンド	１．小テスト ２．学期末復習テストに向けた振り返り②	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、定期試験テストの準備	2 時間
第３０回	対面	学期末復習テスト	学期末復習テストに向けた勉強	4 時間

科目名	日本語１	開講年度	2025
担当者	福本　有希	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる。		
授業の目的及び概要	本科目は、受講生の日本語運用能力レベル別のクラス編成を行う。 日本語２の学修と合わせて、大学での豊かな人間関係を構築すること、高いレベルのクラスにおいては、大学での専門の学修において、確かな知識を獲得し、大学での学修に必要な日本語運用能力へと向上させることを目的とする。 そのために、特に大学での専門学修に必要な読みの能力の基礎を築き、積極的にディスカッションなどに参加できるようになることを目指す。具体的には、以下の学修を行う。 ①一般書のさまざまな話題について書かれた文章の内容把握、筆者の意図把握、例と意見の区別など、読む上での着眼点の着目等、読む活動で必要なスキルを身につける。 ②読んだものを踏まえて、自分なりの考えを他の人に伝える練習を行う。 ③また、聴解の練習を通して、日常的な場面に加えて幅広い場面で、自然に近いスピードの、まとまりのある会話やニュースを聞いて、話の流れや内容、登場人物の関係を理解したり、要旨を把握したりすることができることを目指す。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は以下のとおりである。 ①簡潔な事実関係のテクストで、自分の専門分野や興味の範囲内のものは、十分に主題を理解できる。毎日や普段の仕事上の話題について、簡単な事実関係の情報を理解できる。もし、だいたいが耳慣れた発音で、明瞭に話されていれば、一般的なメッセージも具体的な詳細も理解できる。 ②一連の別々になっている要素を一つの流れに結びつけることによって、自分の関心が及ぶ身近な話題について結束性のある簡単なテクストを書くことができる。 ③自分の関心のあるさまざまな話題のうちのどれかについて、ほどほどの流暢さで、ある程度の長さの、簡単な記述やプレゼンテーションができる。 ④自分の関心や専門分野に関連した、身近な日常的および非日常的な問題について、自信を持って話し合いをすることができる。情報を交換、チェックし、確認できる。あまり日常的でない状況にも対処し、問題の在処を説明できる。映画、書籍、音楽などの抽象的な文化的話題について、自分の考えを表現できる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	宿題を添削して返す。また、確認テストを実施後には授業内でフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスによって使用する教科書が異なります。購入する際は、間違えないように気を付けてください。 【１クラス】 ①テーマ別仲間とわいわい学ぶ日本語 [A2+-B1]，亀田 美保，研究社，2023 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N3，前坊 香菜子他，アルク，2016 【２クラス】	ISBN	【１クラス】 ①978-4327384913 ②978-4757428577 【２クラス】 ①978-4327384913 ②978-4757428577 【３クラス】 ①978-4863923959

	①テーマ別仲間とわいわい学ぶ日本語 [A2+~B1]，亀田 美保，研究社，2023 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N3，前坊 香菜子他，アルク，2016 【３クラス】 ①日本語 N2 文法・読解まるごとマスター(日本語能力試験・日本留学試験読解対策シリーズ)，水谷信子他，J リサーチ出版，2018 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N2，前坊 香菜子他，アルク，2016 【４クラス】 ①日本語 N2 文法・読解まるごとマスター(日本語能力試験・日本留学試験読解対策シリーズ)，水谷信子他，J リサーチ出版，2018 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N2，前坊 香菜子他，アルク，2016 【５クラス】 ①日本語 N2 文法・読解まるごとマスター(日本語能力試験・日本留学試験読解対策シリーズ)，水谷信子他，J リサーチ出版，2018 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N2，前坊 香菜子他，アルク，2016 【６クラス】 ①日本語 N2 文法・読解まるごとマスター(日本語能力試験・日本留学試験読解対策シリーズ)，水谷信子他，J リサーチ出版，2018 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N2，前坊 香菜子他，アルク，2016 【７クラス】 ①日本語能力試験 N1 読解 必修パターン（日本語能力試験必修パターンシリーズ)，氏原 庸子他，J リサーチ出版，2015 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N1，前坊 香菜子他，アルク，2019		②978-4757428560 【４クラス】 ①978-4863923959 ②978-4757428560 【５クラス】 ①978-4863923959 ②978-4757428560 【６クラス】 ①978-4863923959 ②978-4757428560 【７クラス】 ①978-486392249
参考書	—	ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	5
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	60
	その他の内容	宿題：13% 期末復習テスト：30% JLPT：10% ハーフ模試/実力テスト：7%
この科目の受講にあたって	授業の中で読んだものを踏まえて、考えて話し合ったり、他の資料などと合わせて、自分なりの考えを発表したりする練習もします。特に大学のゼミの授業で自分の考えをしっかり言えるようになるためにも、日本語の授業の中で積極的に取り組み、練習をしてください。また、授業で使う教材で出てきた言葉や日常生活でよく聞く言葉は、確実に覚えて、言葉も増やしていってください。目標は１年間で 5000 語です！ ７月と１２月にある日本語能力試験（JLPT）を必ず受験してください。学期中に JLPT 合格に向けた JLPT 模試も実施します。必ず受験し、合格に向けた学修をしましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス（授業の進め方、成績付与の方法等の説明） 語彙アセスメントテスト	事前学修：アセスメントテストの準備	1 時間
第２回	対面	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第３回	対面	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第４回	対面	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第５回	対面	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第６回	対面	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第７回	対面	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第８回	対面	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第９回	対面	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１０回	対面	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１１回	対面	1．小テスト 2．中間テストに向けた復習①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１２回	オンデマンド	1．小テスト 2．中間テストに向けた復習②	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１３回	対面	中間テストの実施	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１４回	対面	1．小テスト 2．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１５回	対面	1．小テスト 2．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１６回	対面	1．小テスト 2．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備 確認テストに向けた学修	4 時間
第１７回	対面	1．小テスト 2．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間

第１８回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、中間テストの準備	2 時間
第１９回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２０回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２１回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備 確認テストに向けた学修	4 時間
第２２回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２３回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２４回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２５回	対面	１．小テスト ２．聴解・ディスカッション・ミニレポート	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２６回	対面	１．小テスト ２．聴解・ディスカッション・ミニレポート	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２７回	対面	１．小テスト ２．聴解・ディスカッション・ミニレポート	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２８回	対面	１．小テスト ２．学期末復習テストに向けた振り返り①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２９回	オンデマンド	１．小テスト ２．学期末復習テストに向けた振り返り②	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、定期試験テストの準備	2 時間
第３０回	対面	学期末復習テスト	学期末復習テストに向けた勉強	4 時間

科目名	日本語１	開講年度	2025
担当者	橋本　凜	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる。		
授業の目的及び概要	本科目は、受講生の日本語運用能力レベル別のクラス編成を行う。 日本語２の学修と合わせて、大学での豊かな人間関係を構築すること、高いレベルのクラスにおいては、大学での専門の学修において、確かな知識を獲得し、大学での学修に必要な日本語運用能力へと向上させることを目的とする。 そのために、特に大学での専門学修に必要な読みの能力の基礎を築き、積極的にディスカッションなどに参加できるようになることを目指す。具体的には、以下の学修を行う。 ①一般書のさまざまな話題について書かれた文章の内容把握、筆者の意図把握、例と意見の区別など、読む上での着眼点の着目等、読む活動で必要なスキルを身につける。 ②読んだものを踏まえて、自分なりの考えを他の人に伝える練習を行う。 ③また、聴解の練習を通して、日常的な場面に加えて幅広い場面で、自然に近いスピードの、まとまりのある会話やニュースを聞いて、話の流れや内容、登場人物の関係を理解したり、要旨を把握したりすることができることを目指す。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は以下のとおりである。 ①簡潔な事実関係のテクストで、自分の専門分野や興味の範囲内のものは、十分に主題を理解できる。毎日や普段の仕事上の話題について、簡単な事実関係の情報を理解できる。もし、だいたいが耳慣れた発音で、明瞭に話されていれば、一般的なメッセージも具体的な詳細も理解できる。 ②一連の別々になっている要素を一つの流れに結びつけることによって、自分の関心が及ぶ身近な話題について結束性のある簡単なテクストを書くことができる。 ③自分の関心のあるさまざまな話題のうちのどれかについて、ほどほどの流暢さで、ある程度の長さの、簡単な記述やプレゼンテーションができる。 ④自分の関心や専門分野に関連した、身近な日常的および非日常的な問題について、自信を持って話し合いをすることができる。情報を交換、チェックし、確認できる。あまり日常的でない状況にも対処し、問題の在処を説明できる。映画、書籍、音楽などの抽象的な文化的話題について、自分の考えを表現できる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	宿題を添削して返す。また、確認テストを実施後には授業内でフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスによって使用する教科書が異なります。購入する際は、間違えないように気を付けてください。 【１クラス】 ①テーマ別仲間とわいわい学ぶ日本語 [A2+-B1]，亀田 美保，研究社，2023 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N3，前坊 香菜子他，アルク，2016 【２クラス】	ISBN	【１クラス】 ①978-4327384913 ②978-4757428577 【２クラス】 ①978-4327384913 ②978-4757428577 【３クラス】 ①978-4863923959

	①テーマ別仲間とわいわい学ぶ日本語 [A2+~B1]，亀田 美保，研究社，2023 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N3，前坊 香菜子他，アルク，2016 【３クラス】 ①日本語 N2 文法・読解まるごとマスター(日本語能力試験・日本留学試験読解対策シリーズ)，水谷信子他，J リサーチ出版，2018 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N2，前坊 香菜子他，アルク，2016 【４クラス】 ①日本語 N2 文法・読解まるごとマスター(日本語能力試験・日本留学試験読解対策シリーズ)，水谷信子他，J リサーチ出版，2018 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N2，前坊 香菜子他，アルク，2016 【５クラス】 ①日本語 N2 文法・読解まるごとマスター(日本語能力試験・日本留学試験読解対策シリーズ)，水谷信子他，J リサーチ出版，2018 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N2，前坊 香菜子他，アルク，2016 【６クラス】 ①日本語 N2 文法・読解まるごとマスター(日本語能力試験・日本留学試験読解対策シリーズ)，水谷信子他，J リサーチ出版，2018 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N2，前坊 香菜子他，アルク，2016 【７クラス】 ①日本語能力試験 N1 読解 必修パターン（日本語能力試験必修パターンシリーズ)，氏原 庸子他，J リサーチ出版，2015 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N1，前坊 香菜子他，アルク，2019		②978-4757428560 【４クラス】 ①978-4863923959 ②978-4757428560 【５クラス】 ①978-4863923959 ②978-4757428560 【６クラス】 ①978-4863923959 ②978-4757428560 【７クラス】 ①978-486392249
参考書	—	ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	5
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	60
	その他の内容	宿題：13% 期末復習テスト：30% JLPT：10% ハーフ模試/実力テスト：7%
この科目の受講にあたって	授業の中で読んだものを踏まえて、考えて話し合ったり、他の資料などと合わせて、自分なりの考えを発表したりする練習もします。特に大学のゼミの授業で自分の考えをしっかり言えるようになるためにも、日本語の授業の中で積極的に取り組み、練習をしてください。また、授業で使う教材で出てきた言葉や日常生活でよく聞く言葉は、確実に覚えて、言葉も増やしていってください。目標は１年間で 5000 語です！ ７月と１２月にある日本語能力試験（JLPT）を必ず受験してください。学期中に JLPT 合格に向けた JLPT 模試も実施します。必ず受験し、合格に向けた学修をしましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス（授業の進め方、成績付与の方法等の説明） 語彙アセスメントテスト	事前学修：アセスメントテストの準備	1 時間
第２回	対面	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第３回	対面	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第４回	対面	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第５回	対面	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第６回	対面	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第７回	対面	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第８回	対面	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第９回	対面	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１０回	対面	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１１回	対面	1．小テスト 2．中間テストに向けた復習①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１２回	オンデマンド	1．小テスト 2．中間テストに向けた復習②	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１３回	対面	中間テストの実施	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１４回	対面	1．小テスト 2．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１５回	対面	1．小テスト 2．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１６回	対面	1．小テスト 2．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備 確認テストに向けた学修	4 時間
第１７回	対面	1．小テスト 2．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間

第１８回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、中間テストの準備	2 時間
第１９回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２０回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２１回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備 確認テストに向けた学修	4 時間
第２２回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２３回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２４回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２５回	対面	１．小テスト ２．聴解・ディスカッション・ミニレポート	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２６回	対面	１．小テスト ２．聴解・ディスカッション・ミニレポート	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２７回	対面	１．小テスト ２．聴解・ディスカッション・ミニレポート	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２８回	対面	１．小テスト ２．学期末復習テストに向けた振り返り①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２９回	オンデマンド	１．小テスト ２．学期末復習テストに向けた振り返り②	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、定期試験テストの準備	2 時間
第３０回	対面	学期末復習テスト	学期末復習テストに向けた勉強	4 時間

科目名	日本語１	開講年度	2025
担当者	楊　子涵	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる。		
授業の目的及び概要	本科目は、受講生の日本語運用能力レベル別のクラス編成を行う。 日本語２の学修と合わせて、大学での豊かな人間関係を構築すること、高いレベルのクラスにおいては、大学での専門の学修において、確かな知識を獲得し、大学での学修に必要な日本語運用能力へと向上させることを目的とする。 そのために、特に大学での専門学修に必要な読みの能力の基礎を築き、積極的にディスカッションなどに参加できるようになることを目指す。具体的には、以下の学修を行う。 ①一般書のさまざまな話題について書かれた文章の内容把握、筆者の意図把握、例と意見の区別など、読む上での着眼点の着目等、読む活動で必要なスキルを身につける。 ②読んだものを踏まえて、自分なりの考えを他の人に伝える練習を行う。 ③また、聴解の練習を通して、日常的な場面に加えて幅広い場面で、自然に近いスピードの、まとまりのある会話やニュースを聞いて、話の流れや内容、登場人物の関係を理解したり、要旨を把握したりすることができることを目指す。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は以下のとおりである。 ①簡潔な事実関係のテクストで、自分の専門分野や興味の範囲内のものは、十分に主題を理解できる。毎日や普段の仕事上の話題について、簡単な事実関係の情報を理解できる。もし、だいたいが耳慣れた発音で、明瞭に話されていれば、一般的なメッセージも具体的な詳細も理解できる。 ②一連の別々になっている要素を一つの流れに結びつけることによって、自分の関心が及ぶ身近な話題について結束性のある簡単なテクストを書くことができる。 ③自分の関心のあるさまざまな話題のうちのどれかについて、ほどほどの流暢さで、ある程度の長さの、簡単な記述やプレゼンテーションができる。 ④自分の関心や専門分野に関連した、身近な日常的および非日常的な問題について、自信を持って話し合いをすることができる。情報を交換、チェックし、確認できる。あまり日常的でない状況にも対処し、問題の在処を説明できる。映画、書籍、音楽などの抽象的な文化的話題について、自分の考えを表現できる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	宿題を添削して返す。また、確認テストを実施後には授業内でフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	なし	ISBN	なし（プリントを授業内配布）
参考書	—	ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	5
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15
	成果発表（口頭・実技）	0

	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	60
	その他の内容	その他（内容） 宿題：13% 期末復習テスト：30% JLPT：10% ハーフ模試/実力テスト：7%
この科目の受講にあたって	授業の中で読んだものを踏まえて、考えて話し合ったり、他の資料などと合わせて、自分なりの考えを発表したりする練習もします。特に大学のゼミの授業で自分の考えをしっかり言えるようになるためにも、日本語の授業の中で積極的に取り組み、練習をしてください。また、授業で使う教材で出てきた言葉や日常生活でよく聞く言葉は、確実に覚えて、言葉も増やしていってください。目標は１年間で 5000 語です！ ７月と１２月にある日本語能力試験（JLPT）を必ず受験してください。学期中に JLPT 合格に向けた JLPT 模試も実施します。必ず受験し、合格に向けた学修をしましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	オンデマンド	ガイダンス（授業の進め方、成績付与の方法等の説明）	事前学修：プレイスメントテストの準備	1 時間
第２回	オンデマンド	プレイスメントテストの実施	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第３回	オンデマンド	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第４回	オンデマンド	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第５回	オンデマンド	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第６回	オンデマンド	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第７回	オンデマンド	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第８回	オンデマンド	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第９回	オンデマンド	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１０回	オンデマンド	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１１回	オンデマンド	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１２回	オンデ	1．小テスト	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント	2 時間

	マンド	2．読解 3．パラフレーズ演習	事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	
第１３回	オンデマンド	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１４回	オンデマンド	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１５回	オンデマンド	1．小テスト 2．中間試験範囲の振り返り①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１６回	オンデマンド	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備 確認テストに向けた学修	4 時間
第１７回	オンデマンド	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１８回	オンデマンド	1．小テスト 2．中間試験範囲の振り返り②	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、中間テストの準備	2 時間
第１９回	オンデマンド	中間テスト	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２０回	オンデマンド	1．小テスト 2．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２１回	オンデマンド	1．小テスト 2．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備 確認テストに向けた学修	4 時間
第２２回	オンデマンド	1．小テスト 2．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２３回	オンデマンド	1．小テスト 2．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２４回	オンデマンド	1．小テスト 2．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２５回	オンデマンド	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２６回	オンデマンド	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２７回	オンデマンド	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２８回	オンデマンド	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２９回	オンデマンド	1．小テスト 2．定期試験範囲に向けた振り返り①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、定期試験テストの準備	2 時間
第３０回	オンデマンド	定期試験範囲に向けた振り返り②	事後学修：定期試験に向けた勉強	4 時間

科目名	日本語２	開講年度	2025
担当者	福本　有希	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる。		
授業の目的及び概要	本科目は、受講生の日本語運用能力レベル別のクラス編成を行う。 日本語１の学修と合わせて、大学での豊かな人間関係を構築すること、高いレベルのクラスにおいては、大学での専門の学修において、確かな知識を獲得し、大学での学修に必要な日本語運用能力へと向上させることを目的とする。 そのために、日本語の文法を学修し、日本語で表現したり、日本語を聞いて理解できるようになるための基礎を築き、他者と円滑なコミュニケーションが取れるようになることを目指す。 具体的には、以下の学修を行う。 ①クラスに応じて、N3、N2、N1 の文法を学修し、それを使って表現できるようにする。 ②また、聴解の練習を通して、日常的な場面に加えて幅広い場面で、自然に近いスピードの、まとまりのある会話やニュースを聞いて、話の流れや内容、登場人物の関係を理解したり、要旨を把握したりすることができることを目指す。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は以下のとおりである。 ①自分の専門分野の技術的な議論も含めて、標準語で話されれば、抽象的な話題でも具体的な話題でも、内容的にも言語的にもかなり複雑な話の要点を理解できる。 ②もし話題がそれなりに身近なもので、話の方向性がなんらかの標識で明示的に示されていれば、長い話や複雑な議論の流れでも理解できる。 ③自分の関心のある分野に関連した広範囲な話題について、明確かつ詳細に記述、プレゼンテーションができる。事項を細くしながら、関連事例を挙げて、主張を強化、展開することができる。 ④母語話者を相手に、お互いにストレスを感じさせることなく、普通の対話や関係が維持できる程度に、流暢に自然に対話できる。個人的に重要な出来事や経験を強調して、関連説明をし、根拠を示して自分の見方をはっきりと説明し、主張・維持できる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	宿題を添削して返す。また、中間テストを実施後には授業内でフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスによって使用する教科書が異なります。購入する際は、間違えないように気を付けてください。 【１クラス】 ①テーマ別仲間とわいわい学ぶ日本語 [A2+~B1]，亀田 美保，研究社，2023 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N3，前坊 香菜子他，アルク，2016 【２クラス】 ①テーマ別仲間とわいわい学ぶ日本語 [A2+~B1]，亀田 美保，研究社，2023 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N3，前坊 香菜子	ISBN	【１クラス】 ①978-4327384913 ②978-4757428577 【２クラス】 ①978-4327384913 ②978-4757428577 【３クラス】 ①978-4757418905 ②978-4757420526 【４クラス】

	他，アルク，2016 【３クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500，友松 悦子，アルク，2010 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳，友松 悦子，アルク，2011 【４クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500，友松 悦子，アルク，2010 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳，友松 悦子，アルク，2011 【５クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500，友松 悦子，アルク，2010 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳，友松 悦子，アルク，2011 【６クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500，友松 悦子，アルク，2010 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳，友松 悦子，アルク，2011 【７クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500，友松 悦子，アルク，2010 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳，友松 悦子，アルク，2011		①978-4757418905 ②978-4757420526 【５クラス】 ①978-4757418905 ②978-4757420526 【６クラス】 ①978-4757418905 ②978-4757420526 【７クラス】 ①978-475741890
参考書	学生が購入する教科書の他に、各クラスで補助的に使う教材や演習問題をプリントで配布する	ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	5
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	60
	その他の内容	その他（内容） 宿題：13% 期末復習テスト：30% JLPT：10% ハーフ模試/実力テスト：7%
この科目の受講にあたって	必ず合格できるように、毎回の課題に取り組み、復習を確実に行い試験で合格点を取りましょう。 また、JLPT に合格できるように準備をして、７月と１２月に行われている JLPT を必ず受験してください。学期中に JLPT 合格に向けた JLPT 模試も実施します。必ず受験し、合格に向けた学修をしましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス（授業の進め方、スケジュール、成績配分等について説明） アセスメントテスト	事前学修：次回授業内容についての文法や語彙の意味を調べておく。小テストの準備	１時間

第２回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第３回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第４回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第５回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第６回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第７回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第８回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第９回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１０回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１１回	対面	１．小テスト ２．中間テストに向けての振り返り①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１２回	オンデマンド	１．小テスト ２．中間テストに向けての振り返り②	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１３回	対面	中間テストの実施	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１４回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	4 時間
第１５回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１６回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１７回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１８回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１９回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２０回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間

第２１回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２２回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２３回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２４回	対面	１．小テスト ２．JLPT 模試	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２５回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２６回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２７回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２８回	対面	１．小テスト ２．学期末テストに向けた復習①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２９回	オンデマンド	１．小テスト ２．学期末テストに向けた復習①	学期末テストのための学修	2 時間
第３０回	対面	学期末復習テストの実施	学期末テストのための学修	4 時間

科目名	日本語２	開講年度	2025
担当者	ソンダ　サンジャヤ	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる。		
授業の目的及び概要	本科目は、受講生の日本語運用能力レベル別のクラス編成を行う。 日本語１の学修と合わせて、大学での豊かな人間関係を構築すること、高いレベルのクラスにおいては、大学での専門の学修において、確かな知識を獲得し、大学での学修に必要な日本語運用能力へと向上させることを目的とする。 そのために、日本語の文法を学修し、日本語で表現したり、日本語を聞いて理解できるようになるための基礎を築き、他者と円滑なコミュニケーションが取れるようになることを目指す。 具体的には、以下の学修を行う。 ①クラスに応じて、N3、N2、N1 の文法を学修し、それを使って表現できるようにする。 ②また、聴解の練習を通して、日常的な場面に加えて幅広い場面で、自然に近いスピードの、まとまりのある会話やニュースを聞いて、話の流れや内容、登場人物の関係を理解したり、要旨を把握したりすることができることを目指す。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は以下のとおりである。 ①自分の専門分野の技術的な議論も含めて、標準語で話されれば、抽象的な話題でも具体的な話題でも、内容的にも言語的にもかなり複雑な話の要点を理解できる。 ②もし話題がそれなりに身近なもので、話の方向性がなんらかの標識で明示的に示されていれば、長い話や複雑な議論の流れでも理解できる。 ③自分の関心のある分野に関連した広範囲な話題について、明確かつ詳細に記述、プレゼンテーションができる。事項を細くしながら、関連事例を挙げて、主張を強化、展開することができる。 ④母語話者を相手に、お互いにストレスを感じさせることなく、普通の対話や関係が維持できる程度に、流暢に自然に対話できる。個人的に重要な出来事や経験を強調して、関連説明をし、根拠を示して自分の見方をはっきりと説明し、主張・維持できる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	宿題を添削して返す。また、中間テストを実施後には授業内でフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスによって使用する教科書が異なります。購入する際は、間違えないように気を付けてください。 【１クラス】 ①テーマ別仲間とわいわい学ぶ日本語 [A2+~B1]，亀田 美保，研究社，2023 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N3，前坊 香菜子他，アルク，2016 【２クラス】 ①テーマ別仲間とわいわい学ぶ日本語 [A2+~B1]，亀田 美保，研究社，2023 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N3，前坊 香菜子	ISBN	【１クラス】 ①978-4327384913 ②978-4757428577 【２クラス】 ①978-4327384913 ②978-4757428577 【３クラス】 ①978-4757418905 ②978-4757420526 【４クラス】

	他，アルク，2016 【３クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500，友松 悦子，アルク，2010 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳，友松 悦子，アルク，2011 【４クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500，友松 悦子，アルク，2010 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳，友松 悦子，アルク，2011 【５クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500，友松 悦子，アルク，2010 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳，友松 悦子，アルク，2011 【６クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500，友松 悦子，アルク，2010 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳，友松 悦子，アルク，2011 【７クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500，友松 悦子，アルク，2010 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳，友松 悦子，アルク，2011		①978-4757418905 ②978-4757420526 【５クラス】 ①978-4757418905 ②978-4757420526 【６クラス】 ①978-4757418905 ②978-4757420526 【７クラス】 ①978-475741890
参考書	学生が購入する教科書の他に、各クラスで補助的に使う教材や演習問題をプリントで配布する	ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	5
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	60
	その他の内容	その他（内容） 宿題：13% 期末復習テスト：30% JLPT：10% ハーフ模試/実力テスト：7%
この科目の受講にあたって	必ず合格できるように、毎回の課題に取り組み、復習を確実に行い試験で合格点を取りましょう。 また、JLPT に合格できるように準備をして、７月と１２月に行われている JLPT を必ず受験してください。学期中に JLPT 合格に向けた JLPT 模試も実施します。必ず受験し、合格に向けた学修をしましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス（授業の進め方、スケジュール、成績配分等について説明） アセスメントテスト	事前学修：次回授業内容についての文法や語彙の意味を調べておく。小テストの準備	１時間

第２回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第３回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第４回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第５回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第６回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第７回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第８回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第９回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１０回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１１回	対面	１．小テスト ２．中間テストに向けての振り返り①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１２回	オンデマンド	１．小テスト ２．中間テストに向けての振り返り②	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１３回	対面	中間テストの実施	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１４回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	4 時間
第１５回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１６回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１７回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１８回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１９回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２０回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間

第２１回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２２回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２３回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２４回	対面	１．小テスト ２．JLPT 模試	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２５回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２６回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２７回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２８回	対面	１．小テスト ２．学期末テストに向けた復習①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２９回	オンデマンド	１．小テスト ２．学期末テストに向けた復習①	学期末テストのための学修	2 時間
第３０回	対面	学期末復習テストの実施	学期末テストのための学修	4 時間

科目名	日本語２	開講年度	2025
担当者	井ノ口　智佳	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる。		
授業の目的及び概要	本科目は、受講生の日本語運用能力レベル別のクラス編成を行う。 日本語１の学修と合わせて、大学での豊かな人間関係を構築すること、高いレベルのクラスにおいては、大学での専門の学修において、確かな知識を獲得し、大学での学修に必要な日本語運用能力へと向上させることを目的とする。 そのために、日本語の文法を学修し、日本語で表現したり、日本語を聞いて理解できるようになるための基礎を築き、他者と円滑なコミュニケーションが取れるようになることを目指す。 具体的には、以下の学修を行う。 ①クラスに応じて、N3、N2、N1 の文法を学修し、それを使って表現できるようにする。 ②また、聴解の練習を通して、日常的な場面に加えて幅広い場面で、自然に近いスピードの、まとまりのある会話やニュースを聞いて、話の流れや内容、登場人物の関係を理解したり、要旨を把握したりすることができることを目指す。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は以下のとおりである。 ①自分の専門分野の技術的な議論も含めて、標準語で話されれば、抽象的な話題でも具体的な話題でも、内容的にも言語的にもかなり複雑な話の要点を理解できる。 ②もし話題がそれなりに身近なもので、話の方向性がなんらかの標識で明示的に示されていれば、長い話や複雑な議論の流れでも理解できる。 ③自分の関心のある分野に関連した広範囲な話題について、明確かつ詳細に記述、プレゼンテーションができる。事項を細くしながら、関連事例を挙げて、主張を強化、展開することができる。 ④母語話者を相手に、お互いにストレスを感じさせることなく、普通の対話や関係が維持できる程度に、流暢に自然に対話できる。個人的に重要な出来事や経験を強調して、関連説明をし、根拠を示して自分の見方をはっきりと説明し、主張・維持できる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	宿題を添削して返す。また、中間テストを実施後には授業内でフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスによって使用する教科書が異なります。購入する際は、間違えないように気を付けてください。 【１クラス】 ①テーマ別仲間とわいわい学ぶ日本語 [A2+~B1]，亀田 美保，研究社，2023 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N3，前坊 香菜子他，アルク，2016 【２クラス】 ①テーマ別仲間とわいわい学ぶ日本語 [A2+~B1]，亀田 美保，研究社，2023 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N3，前坊 香菜子	ISBN	【１クラス】 ①978-4327384913 ②978-4757428577 【２クラス】 ①978-4327384913 ②978-4757428577 【３クラス】 ①978-4757418905 ②978-4757420526 【４クラス】

	他，アルク，2016 【３クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500，友松 悦子，アルク，2010 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳，友松 悦子，アルク，2011 【４クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500，友松 悦子，アルク，2010 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳，友松 悦子，アルク，2011 【５クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500，友松 悦子，アルク，2010 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳，友松 悦子，アルク，2011 【６クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500，友松 悦子，アルク，2010 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳，友松 悦子，アルク，2011 【７クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500，友松 悦子，アルク，2010 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳，友松 悦子，アルク，2011		①978-4757418905 ②978-4757420526 【５クラス】 ①978-4757418905 ②978-4757420526 【６クラス】 ①978-4757418905 ②978-4757420526 【７クラス】 ①978-475741890
参考書	学生が購入する教科書の他に、各クラスで補助的に使う教材や演習問題をプリントで配布する	ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	5
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	60
	その他の内容	その他（内容） 宿題：13% 期末復習テスト：30% JLPT：10% ハーフ模試/実力テスト：7%
この科目の受講にあたって	必ず合格できるように、毎回の課題に取り組み、復習を確実に行い試験で合格点を取りましょう。 また、JLPT に合格できるように準備をして、７月と１２月に行われている JLPT を必ず受験してください。学期中に JLPT 合格に向けた JLPT 模試も実施します。必ず受験し、合格に向けた学修をしましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス（授業の進め方、スケジュール、成績配分等について説明） アセスメントテスト	事前学修：次回授業内容についての文法や語彙の意味を調べておく。小テストの準備	１時間

第２回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第３回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第４回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第５回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第６回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第７回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第８回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第９回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１０回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１１回	対面	１．小テスト ２．中間テストに向けての振り返り①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１２回	オンデマンド	１．小テスト ２．中間テストに向けての振り返り②	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１３回	対面	中間テストの実施	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１４回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	4 時間
第１５回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１６回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１７回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１８回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１９回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２０回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間

第２１回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２２回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２３回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２４回	対面	１．小テスト ２．JLPT 模試	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２５回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２６回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２７回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２８回	対面	１．小テスト ２．学期末テストに向けた復習①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２９回	オンデマンド	１．小テスト ２．学期末テストに向けた復習①	学期末テストのための学修	2 時間
第３０回	対面	学期末復習テストの実施	学期末テストのための学修	4 時間

科目名	日本語２	開講年度	2025
担当者	李　光曦	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる。		
授業の目的及び概要	本科目は、受講生の日本語運用能力レベル別のクラス編成を行う。 日本語１の学修と合わせて、大学での豊かな人間関係を構築すること、高いレベルのクラスにおいては、大学での専門の学修において、確かな知識を獲得し、大学での学修に必要な日本語運用能力へと向上させることを目的とする。 そのために、日本語の文法を学修し、日本語で表現したり、日本語を聞いて理解できるようになるための基礎を築き、他者と円滑なコミュニケーションが取れるようになることを目指す。 具体的には、以下の学修を行う。 ①クラスに応じて、N3、N2、N1 の文法を学修し、それを使って表現できるようにする。 ②また、聴解の練習を通して、日常的な場面に加えて幅広い場面で、自然に近いスピードの、まとまりのある会話やニュースを聞いて、話の流れや内容、登場人物の関係を理解したり、要旨を把握したりすることができることを目指す。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は以下のとおりである。 ①自分の専門分野の技術的な議論も含めて、標準語で話されれば、抽象的な話題でも具体的な話題でも、内容的にも言語的にもかなり複雑な話の要点を理解できる。 ②もし話題がそれなりに身近なもので、話の方向性がなんらかの標識で明示的に示されていれば、長い話や複雑な議論の流れでも理解できる。 ③自分の関心のある分野に関連した広範囲な話題について、明確かつ詳細に記述、プレゼンテーションができる。事項を細くしながら、関連事例を挙げて、主張を強化、展開することができる。 ④母語話者を相手に、お互いにストレスを感じさせることなく、普通の対話や関係が維持できる程度に、流暢に自然に対話できる。個人的に重要な出来事や経験を強調して、関連説明をし、根拠を示して自分の見方をはっきりと説明し、主張・維持できる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	宿題を添削して返す。また、中間テストを実施後には授業内でフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスによって使用する教科書が異なります。購入する際は、間違えないように気を付けてください。 【１クラス】 ①テーマ別仲間とわいわい学ぶ日本語 [A2+~B1]，亀田 美保，研究社，2023 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N3，前坊 香菜子他，アルク，2016 【２クラス】 ①テーマ別仲間とわいわい学ぶ日本語 [A2+~B1]，亀田 美保，研究社，2023 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N3，前坊 香菜子	ISBN	【１クラス】 ①978-4327384913 ②978-4757428577 【２クラス】 ①978-4327384913 ②978-4757428577 【３クラス】 ①978-4757418905 ②978-4757420526 【４クラス】

	他，アルク，2016 【３クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500，友松 悦子，アルク，2010 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳，友松 悦子，アルク，2011 【４クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500，友松 悦子，アルク，2010 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳，友松 悦子，アルク，2011 【５クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500，友松 悦子，アルク，2010 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳，友松 悦子，アルク，2011 【６クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500，友松 悦子，アルク，2010 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳，友松 悦子，アルク，2011 【７クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500，友松 悦子，アルク，2010 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳，友松 悦子，アルク，2011		①978-4757418905 ②978-4757420526 【５クラス】 ①978-4757418905 ②978-4757420526 【６クラス】 ①978-4757418905 ②978-4757420526 【７クラス】 ①978-475741890
参考書	学生が購入する教科書の他に、各クラスで補助的に使う教材や演習問題をプリントで配布する	ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	5
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	60
	その他の内容	その他（内容） 宿題：13% 期末復習テスト：30% JLPT：10% ハーフ模試/実力テスト：7%
この科目の受講にあたって	必ず合格できるように、毎回の課題に取り組み、復習を確実に行い試験で合格点を取りましょう。 また、JLPT に合格できるように準備をして、７月と１２月に行われている JLPT を必ず受験してください。学期中に JLPT 合格に向けた JLPT 模試も実施します。必ず受験し、合格に向けた学修をしましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス（授業の進め方、スケジュール、成績配分等について説明） アセスメントテスト	事前学修：次回授業内容についての文法や語彙の意味を調べておく。小テストの準備	１時間

第２回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第３回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第４回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第５回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第６回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第７回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第８回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第９回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１０回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１１回	対面	１．小テスト ２．中間テストに向けての振り返り①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１２回	オンデマンド	１．小テスト ２．中間テストに向けての振り返り②	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１３回	対面	中間テストの実施	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１４回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	4 時間
第１５回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１６回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１７回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１８回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１９回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２０回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間

第２１回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２２回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２３回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２４回	対面	１．小テスト ２．JLPT 模試	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２５回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２６回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２７回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２８回	対面	１．小テスト ２．学期末テストに向けた復習①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２９回	オンデマンド	１．小テスト ２．学期末テストに向けた復習①	学期末テストのための学修	2 時間
第３０回	対面	学期末復習テストの実施	学期末テストのための学修	4 時間

科目名	日本語２	開講年度	2025
担当者	李　光曦	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる。		
授業の目的及び概要	本科目は、受講生の日本語運用能力レベル別のクラス編成を行う。 日本語１の学修と合わせて、大学での豊かな人間関係を構築すること、高いレベルのクラスにおいては、大学での専門の学修において、確かな知識を獲得し、大学での学修に必要な日本語運用能力へと向上させることを目的とする。 そのために、日本語の文法を学修し、日本語で表現したり、日本語を聞いて理解できるようになるための基礎を築き、他者と円滑なコミュニケーションが取れるようになることを目指す。 具体的には、以下の学修を行う。 ①クラスに応じて、N3、N2、N1 の文法を学修し、それを使って表現できるようにする。 ②また、聴解の練習を通して、日常的な場面に加えて幅広い場面で、自然に近いスピードの、まとまりのある会話やニュースを聞いて、話の流れや内容、登場人物の関係を理解したり、要旨を把握したりすることができることを目指す。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は以下のとおりである。 ①自分の専門分野の技術的な議論も含めて、標準語で話されれば、抽象的な話題でも具体的な話題でも、内容的にも言語的にもかなり複雑な話の要点を理解できる。 ②もし話題がそれなりに身近なもので、話の方向性がなんらかの標識で明示的に示されていれば、長い話や複雑な議論の流れでも理解できる。 ③自分の関心のある分野に関連した広範囲な話題について、明確かつ詳細に記述、プレゼンテーションができる。事項を細くしながら、関連事例を挙げて、主張を強化、展開することができる。 ④母語話者を相手に、お互いにストレスを感じさせることなく、普通の対話や関係が維持できる程度に、流暢に自然に対話できる。個人的に重要な出来事や経験を強調して、関連説明をし、根拠を示して自分の見方をはっきりと説明し、主張・維持できる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	宿題を添削して返す。また、中間テストを実施後には授業内でフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスによって使用する教科書が異なります。購入する際は、間違えないように気を付けてください。 【１クラス】 ①テーマ別仲間とわいわい学ぶ日本語 [A2+~B1]，亀田 美保，研究社，2023 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N3，前坊 香菜子他，アルク，2016 【２クラス】 ①テーマ別仲間とわいわい学ぶ日本語 [A2+~B1]，亀田 美保，研究社，2023 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N3，前坊 香菜子	ISBN	【１クラス】 ①978-4327384913 ②978-4757428577 【２クラス】 ①978-4327384913 ②978-4757428577 【３クラス】 ①978-4757418905 ②978-4757420526 【４クラス】

	他，アルク，2016 【３クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500，友松 悦子，アルク，2010 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳，友松 悦子，アルク，2011 【４クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500，友松 悦子，アルク，2010 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳，友松 悦子，アルク，2011 【５クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500，友松 悦子，アルク，2010 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳，友松 悦子，アルク，2011 【６クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500，友松 悦子，アルク，2010 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳，友松 悦子，アルク，2011 【７クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500，友松 悦子，アルク，2010 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳，友松 悦子，アルク，2011		①978-4757418905 ②978-4757420526 【５クラス】 ①978-4757418905 ②978-4757420526 【６クラス】 ①978-4757418905 ②978-4757420526 【７クラス】 ①978-475741890
参考書	学生が購入する教科書の他に、各クラスで補助的に使う教材や演習問題をプリントで配布する	ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	5
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	60
	その他の内容	その他（内容） 宿題：13% 期末復習テスト：30% JLPT：10% ハーフ模試/実力テスト：7%
この科目の受講にあたって	必ず合格できるように、毎回の課題に取り組み、復習を確実に行い試験で合格点を取りましょう。 また、JLPT に合格できるように準備をして、７月と１２月に行われている JLPT を必ず受験してください。学期中に JLPT 合格に向けた JLPT 模試も実施します。必ず受験し、合格に向けた学修をしましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス（授業の進め方、スケジュール、成績配分等について説明） アセスメントテスト	事前学修：次回授業内容についての文法や語彙の意味を調べておく。小テストの準備	１時間

第２回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第３回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第４回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第５回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第６回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第７回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第８回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第９回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１０回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１１回	対面	１．小テスト ２．中間テストに向けての振り返り①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１２回	オンデマンド	１．小テスト ２．中間テストに向けての振り返り②	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１３回	対面	中間テストの実施	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１４回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	4 時間
第１５回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１６回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１７回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１８回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１９回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２０回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間

第２１回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２２回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２３回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２４回	対面	１．小テスト ２．JLPT 模試	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２５回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２６回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２７回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２８回	対面	１．小テスト ２．学期末テストに向けた復習①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２９回	オンデマンド	１．小テスト ２．学期末テストに向けた復習①	学期末テストのための学修	2 時間
第３０回	対面	学期末復習テストの実施	学期末テストのための学修	4 時間

科目名	日本語２	開講年度	2025
担当者	河﨑　絵美	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる。		
授業の目的及び概要	本科目は、受講生の日本語運用能力レベル別のクラス編成を行う。 日本語１の学修と合わせて、大学での豊かな人間関係を構築すること、高いレベルのクラスにおいては、大学での専門の学修において、確かな知識を獲得し、大学での学修に必要な日本語運用能力へと向上させることを目的とする。 そのために、日本語の文法を学修し、日本語で表現したり、日本語を聞いて理解できるようになるための基礎を築き、他者と円滑なコミュニケーションが取れるようになることを目指す。 具体的には、以下の学修を行う。 ①クラスに応じて、N3、N2、N1 の文法を学修し、それを使って表現できるようにする。 ②また、聴解の練習を通して、日常的な場面に加えて幅広い場面で、自然に近いスピードの、まとまりのある会話やニュースを聞いて、話の流れや内容、登場人物の関係を理解したり、要旨を把握したりすることができることを目指す。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は以下のとおりである。 ①自分の専門分野の技術的な議論も含めて、標準語で話されれば、抽象的な話題でも具体的な話題でも、内容的にも言語的にもかなり複雑な話の要点を理解できる。 ②もし話題がそれなりに身近なもので、話の方向性がなんらかの標識で明示的に示されていれば、長い話や複雑な議論の流れでも理解できる。 ③自分の関心のある分野に関連した広範囲な話題について、明確かつ詳細に記述、プレゼンテーションができる。事項を細くしながら、関連事例を挙げて、主張を強化、展開することができる。 ④母語話者を相手に、お互いにストレスを感じさせることなく、普通の対話や関係が維持できる程度に、流暢に自然に対話できる。個人的に重要な出来事や経験を強調して、関連説明をし、根拠を示して自分の見方をはっきりと説明し、主張・維持できる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	宿題を添削して返す。また、中間テストを実施後には授業内でフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスによって使用する教科書が異なります。購入する際は、間違えないように気を付けてください。 【１クラス】 ①テーマ別仲間とわいわい学ぶ日本語 [A2+~B1]，亀田 美保，研究社，2023 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N3，前坊 香菜子他，アルク，2016 【２クラス】 ①テーマ別仲間とわいわい学ぶ日本語 [A2+~B1]，亀田 美保，研究社，2023 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N3，前坊 香菜子	ISBN	【１クラス】 ①978-4327384913 ②978-4757428577 【２クラス】 ①978-4327384913 ②978-4757428577 【３クラス】 ①978-4757418905 ②978-4757420526 【４クラス】

	他，アルク，2016 【３クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500，友松 悦子，アルク，2010 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳，友松 悦子，アルク，2011 【４クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500，友松 悦子，アルク，2010 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳，友松 悦子，アルク，2011 【５クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500，友松 悦子，アルク，2010 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳，友松 悦子，アルク，2011 【６クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500，友松 悦子，アルク，2010 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳，友松 悦子，アルク，2011 【７クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500，友松 悦子，アルク，2010 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳，友松 悦子，アルク，2011		①978-4757418905 ②978-4757420526 【５クラス】 ①978-4757418905 ②978-4757420526 【６クラス】 ①978-4757418905 ②978-4757420526 【７クラス】 ①978-475741890
参考書	学生が購入する教科書の他に、各クラスで補助的に使う教材や演習問題をプリントで配布する	ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	5
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	60
	その他の内容	その他（内容） 宿題：13% 期末復習テスト：30% JLPT：10% ハーフ模試/実力テスト：7%
この科目の受講にあたって	必ず合格できるように、毎回の課題に取り組み、復習を確実に行い試験で合格点を取りましょう。 また、JLPT に合格できるように準備をして、７月と１２月に行われている JLPT を必ず受験してください。学期中に JLPT 合格に向けた JLPT 模試も実施します。必ず受験し、合格に向けた学修をしましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス（授業の進め方、スケジュール、成績配分等について説明） アセスメントテスト	事前学修：次回授業内容についての文法や語彙の意味を調べておく。小テストの準備	１時間

第２回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第３回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第４回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第５回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第６回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第７回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第８回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第９回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１０回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１１回	対面	１．小テスト ２．中間テストに向けての振り返り①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１２回	オンデマンド	１．小テスト ２．中間テストに向けての振り返り②	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１３回	対面	中間テストの実施	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１４回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	4 時間
第１５回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１６回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１７回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１８回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１９回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２０回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間

第２１回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２２回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２３回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２４回	対面	１．小テスト ２．JLPT 模試	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２５回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２６回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２７回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２８回	対面	１．小テスト ２．学期末テストに向けた復習①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２９回	オンデマンド	１．小テスト ２．学期末テストに向けた復習①	学期末テストのための学修	2 時間
第３０回	対面	学期末復習テストの実施	学期末テストのための学修	4 時間

科目名	日本語２	開講年度	2025
担当者	片岡　浩史	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる。		
授業の目的及び概要	本科目は、受講生の日本語運用能力レベル別のクラス編成を行う。 日本語１の学修と合わせて、大学での豊かな人間関係を構築すること、高いレベルのクラスにおいては、大学での専門の学修において、確かな知識を獲得し、大学での学修に必要な日本語運用能力へと向上させることを目的とする。 そのために、日本語の文法を学修し、日本語で表現したり、日本語を聞いて理解できるようになるための基礎を築き、他者と円滑なコミュニケーションが取れるようになることを目指す。 具体的には、以下の学修を行う。 ①クラスに応じて、N3、N2、N1 の文法を学修し、それを使って表現できるようにする。 ②また、聴解の練習を通して、日常的な場面に加えて幅広い場面で、自然に近いスピードの、まとまりのある会話やニュースを聞いて、話の流れや内容、登場人物の関係を理解したり、要旨を把握したりすることができることを目指す。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は以下のとおりである。 ①自分の専門分野の技術的な議論も含めて、標準語で話されれば、抽象的な話題でも具体的な話題でも、内容的にも言語的にもかなり複雑な話の要点を理解できる。 ②もし話題がそれなりに身近なもので、話の方向性がなんらかの標識で明示的に示されていれば、長い話や複雑な議論の流れでも理解できる。 ③自分の関心のある分野に関連した広範囲な話題について、明確かつ詳細に記述、プレゼンテーションができる。事項を細くしながら、関連事例を挙げて、主張を強化、展開することができる。 ④母語話者を相手に、お互いにストレスを感じさせることなく、普通の対話や関係が維持できる程度に、流暢に自然に対話できる。個人的に重要な出来事や経験を強調して、関連説明をし、根拠を示して自分の見方をはっきりと説明し、主張・維持できる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	宿題を添削して返す。また、中間テストを実施後には授業内でフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスによって使用する教科書が異なります。購入する際は、間違えないように気を付けてください。 【１クラス】 ①テーマ別仲間とわいわい学ぶ日本語 [A2+~B1]，亀田 美保，研究社，2023 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N3，前坊 香菜子他，アルク，2016 【２クラス】 ①テーマ別仲間とわいわい学ぶ日本語 [A2+~B1]，亀田 美保，研究社，2023 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N3，前坊 香菜子	ISBN	【１クラス】 ①978-4327384913 ②978-4757428577 【２クラス】 ①978-4327384913 ②978-4757428577 【３クラス】 ①978-4757418905 ②978-4757420526 【４クラス】

	他，アルク，2016 【３クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500，友松 悦子，アルク，2010 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳，友松 悦子，アルク，2011 【４クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500，友松 悦子，アルク，2010 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳，友松 悦子，アルク，2011 【５クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500，友松 悦子，アルク，2010 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳，友松 悦子，アルク，2011 【６クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500，友松 悦子，アルク，2010 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳，友松 悦子，アルク，2011 【７クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500，友松 悦子，アルク，2010 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳，友松 悦子，アルク，2011		①978-4757418905 ②978-4757420526 【５クラス】 ①978-4757418905 ②978-4757420526 【６クラス】 ①978-4757418905 ②978-4757420526 【７クラス】 ①978-475741890
参考書	学生が購入する教科書の他に、各クラスで補助的に使う教材や演習問題をプリントで配布する	ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	5
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	60
	その他の内容	その他（内容） 宿題：13% 期末復習テスト：30% JLPT：10% ハーフ模試/実力テスト：7%
この科目の受講にあたって	必ず合格できるように、毎回の課題に取り組み、復習を確実に行い試験で合格点を取りましょう。 また、JLPT に合格できるように準備をして、７月と１２月に行われている JLPT を必ず受験してください。学期中に JLPT 合格に向けた JLPT 模試も実施します。必ず受験し、合格に向けた学修をしましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス（授業の進め方、スケジュール、成績配分等について説明） アセスメントテスト	事前学修：次回授業内容についての文法や語彙の意味を調べておく。小テストの準備	１時間

第２回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第３回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第４回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第５回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第６回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第７回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第８回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第９回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１０回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１１回	対面	１．小テスト ２．中間テストに向けての振り返り①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１２回	オンデマンド	１．小テスト ２．中間テストに向けての振り返り②	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１３回	対面	中間テストの実施	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１４回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	4 時間
第１５回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１６回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１７回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１８回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１９回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２０回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間

第２１回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２２回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２３回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２４回	対面	１．小テスト ２．JLPT 模試	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２５回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２６回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２７回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２８回	対面	１．小テスト ２．学期末テストに向けた復習①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２９回	オンデマンド	１．小テスト ２．学期末テストに向けた復習①	学期末テストのための学修	2 時間
第３０回	対面	学期末復習テストの実施	学期末テストのための学修	4 時間

科目名	日本語２	開講年度	2025
担当者	馬　花力	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる。		
授業の目的及び概要	本科目は、受講生の日本語運用能力レベル別のクラス編成を行う。 日本語１の学修と合わせて、大学での豊かな人間関係を構築すること、高いレベルのクラスにおいては、大学での専門の学修において、確かな知識を獲得し、大学での学修に必要な日本語運用能力へと向上させることを目的とする。 そのために、日本語の文法を学修し、日本語で表現したり、日本語を聞いて理解できるようになるための基礎を築き、他者と円滑なコミュニケーションが取れるようになることを目指す。 具体的には、以下の学修を行う。 ①クラスに応じて、N3、N2、N1 の文法を学修し、それを使って表現できるようにする。 ②また、聴解の練習を通して、日常的な場面に加えて幅広い場面で、自然に近いスピードの、まとまりのある会話やニュースを聞いて、話の流れや内容、登場人物の関係を理解したり、要旨を把握したりすることができることを目指す。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は以下のとおりである。 ①自分の専門分野の技術的な議論も含めて、標準語で話されれば、抽象的な話題でも具体的な話題でも、内容的にも言語的にもかなり複雑な話の要点を理解できる。 ②もし話題がそれなりに身近なもので、話の方向性がなんらかの標識で明示的に示されていれば、長い話や複雑な議論の流れでも理解できる。 ③自分の関心のある分野に関連した広範囲な話題について、明確かつ詳細に記述、プレゼンテーションができる。事項を細くしながら、関連事例を挙げて、主張を強化、展開することができる。 ④母語話者を相手に、お互いにストレスを感じさせることなく、普通の対話や関係が維持できる程度に、流暢に自然に対話できる。個人的に重要な出来事や経験を強調して、関連説明をし、根拠を示して自分の見方をはっきりと説明し、主張・維持できる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	宿題を添削して返す。また、中間テストを実施後には授業内でフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	なし（プリントを授業内配布）	ISBN	なし
参考書	学生が購入する教科書の他に、各クラスで補助的に使う教材や演習問題をプリントで配布する	ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	5
授業期間中の小テスト、レポート課題等	15
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	20
【定期試験】レポート試験	0

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	60
	その他の内容	その他（内容） 宿題：13% 期末復習テスト：30% JLPT：10% ハーフ模試/実力テスト：7%
この科目の受講にあたって	必ず合格できるように、毎回の課題に取り組み、復習を確実に行い試験で合格点を取りましょう。 また、JLPT に合格できるように準備をして、７月と１２月に行われている JLPT を必ず受験してください。学期中に JLPT 合格に向けた JLPT 模試も実施します。必ず受験し、合格に向けた学修をしましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	オンデマンド	ガイダンス（授業の進め方、スケジュール、成績配分等について説明）	事前学修：次回授業内容についての文法や語彙の意味を調べておく。小テストの準備	1 時間
第２回	オンデマンド	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第３回	オンデマンド	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第４回	オンデマンド	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第５回	オンデマンド	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第６回	オンデマンド	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第７回	オンデマンド	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第８回	オンデマンド	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第９回	オンデマンド	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１０回	オンデマンド	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１１回	オンデマンド	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１２回	オンデマンド	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１３回	オンデマンド	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間

第１４回	オンデマンド	１．小テスト ２．中間テストに向けた振り返り①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	4 時間
第１５回	オンデマンド	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１６回	オンデマンド	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：中間試験に関する復習 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１７回	オンデマンド	１．小テスト ２．中間テストに向けた振り返り②	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：中間テストの準備	2 時間
第１８回	オンデマンド	中間テスト	事後学修：中間テストの振り返り 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１９回	オンデマンド	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２０回	オンデマンド	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２１回	オンデマンド	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２２回	オンデマンド	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２３回	オンデマンド	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２４回	オンデマンド	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２５回	オンデマンド	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２６回	オンデマンド	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２７回	オンデマンド	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２８回	オンデマンド	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２９回	オンデマンド	定期試験に向けた振り返り①	定期試験のための学修	2 時間
第３０回	オンデマンド	定期試験に向けた振り返り②	定期試験に向けた振り返り	4 時間

科目名	日本語３	開講年度	2025
担当者	尹　恵彦	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常的な場面で使われる日本語をある程度理解することができる。		
授業の目的及び概要	本科目は、受講生の日本語レベルに応じて、クラス分けを行い実施する。日本語 V と併せて、きわめて日常的で身近な話題や個人的に関心のある事柄について、自分自身のことについて話せる、他者の助けも借りながら必要な情報を求め、得た情報を活用するということができるようになることを目的としている。そのため、授業では、読む、書く、聞く、話すといったスキルを総合的に向上させると同時に、表現したり読みとるために必要な文法を学修する。大学での学修やひいては大学卒業後に日本での就労も視野に入れ、継続的に日本語を学修する上での基礎を築く。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①非常によく用いられる、日常的、もしくは仕事関連の言葉で書かれた、具体的で身近な事柄なら、短い簡単なテクストが理解できる。 ②「そして」「しかし」「なぜなら」などの簡単な接続詞でつなげた、家族、生活環境、学歴、現在または最近の仕事について、簡単な句や文を連ねて書くことができる。 ③もし必要がある場合に相手が助けてくれれば、予め決まっているような状況、短い会話でなら、比較的容易に対話ができる。余り苦労しなくても日常での簡単なやり取りができる。予測可能な日常の状況ならば、身近な話題についての考えや情報を交換し、質問に答えることができる。 ④ゆっくりとはっきりと話されれば、具体的で身近な話題や最も直接的な話題（自分・家族・買い物・地理・仕事）など予測可能な日常の事柄に関する句や表現を聞いて理解し、必要な情報を取り出すことができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	適宜授業内でフィードバックを実施する		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	【１クラス】 ①テーマ別仲間とわいわい学ぶ日本語［A2+~B1］ ②キクタン日本語 日本語能力試験 N3 【２クラス】 ①テーマ別仲間とわいわい学ぶ日本語［A2+~B1］ ②キクタン日本語 日本語能力試験 N3 【３クラス】 ①日本語 N2 文法・読解まるごとマスター（日本語能力試験・日本留学試験読解対策シリーズ） ②キクタン日本語 日本語能力試験 N2 【４クラス】 ①日本語 N2 文法・読解まるごとマスター（日本語能力試験・日本留学試験読解対策シリーズ） ②キクタン日本語 日本語能力試験 N2 【５クラス】 ①日本語 N2 文法・読解まるごとマスター	ISBN	【１クラス】 ①978-4327384913 ②978-4757428577 【２クラス】 ①978-4327384913 ②978-4757428577 【３クラス】 ①978-4863923959 ②978-4757428560 【４クラス】 ①978-4863923959 ②978-4757428560 【５クラス】 ①978-4863923959 ②978-4757428560

	（日本語能力試験・日本留学試験読解対策シリーズ） ②キクタン日本語 日本語能力試験 N2 【６クラス】 ①日本語 N2 文法・読解まるごとマスター （日本語能力試験・日本留学試験読解対策シリーズ） ②キクタン日本語 日本語能力試験 N2 【７クラス】 ①日本語能力試験 N1 読解 必修パターン （日本語能力試験必修パターンシリーズ ②キクタン日本語 日本語能力試験 N1		【６クラス】 ①978-4863923959 ②978-4757428560 【７クラス】 ①978-486392249
参考書	—	ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	5
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	30
	その他（%）	30
	その他の内容	①JLPT 受験 18% ②ハーフ模試（５月実施）7% ③宿題 13%
この科目の受講にあたって	文法の規則を覚えたり、書かれているものを見てわかるるだけでは外国語で交流できるようになりません。話すためには、文法や言葉を知っていて、それを使う方法も知っていることが必要です。授業で学んだことを、授業外でも積極的に使ってみましょう。 また、中間テストが学期中に１回ある。確実に日々の学修を行い、小テスト、課題、中間・定期テストで点数を取ることが科目合格につながります。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス 授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事後学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	1.5 時間
第２回	対面	１．小テスト ２．文法 unit01 文法 1-3	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第３回	対面	１．小テスト ２．文法 unit01 文法 7・8 unit02 文法 9	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第４回	対面	１．小テスト ２．文法 unit02 文法 10-12	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第５回	対面	１．小テスト ２．文法 unit03 文法 19-21	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第６回	対面	１．小テスト ２．文法 unit03 文法 22-25	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第７回	対面	１．小テスト ２．文法 unit03 文法 26-28	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第８回	対面	１．小テスト ２．文法 unit03 文法 29-32	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの	2 時間

			準備	
第９回	対面	１．小テスト ２．文法 unit04 文法 33-36	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１０回	対面	１．小テスト ２．文法 unit04 文法 34-37.	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１１回	対面	１．小テスト ２．文法 unit05 文法 38-42	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１２回	対面	１．小テスト ２．文法 unit05 文法 43-45	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１３回	対面	１．小テスト ２．unit06 文法 46-51	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１４回	オンデマンド	中間総括（中間テストに向けた振り返り）	事後学修：中間テストに向けた振り返り問題演習 事前学修：中間テストの準備	2 時間
第１５回	対面	１．小テスト ２．unit06 文法 52-55	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１６回	対面	中間総括（中間テストに向けた振り返り）	事後学修：中間テストに向けた振り返り復習プリント 事前学修：中間テストにむけた準備	2 時間
第１７回	対面	中間テスト	事後学修：授業内での学修項目のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１８回	対面	JLPT 練習問題①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１９回	対面	JLPT 練習問題②	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２０回	対面	JLPT 練習問題③	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２１回	対面	JLPT 練習問題④	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２２回	対面	JLPT 練習問題⑤	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２３回	対面	JLPT 練習問題⑥	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２４回	対面	JLPT 練習問題⑦	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２５回	対面	JLPT 練習問題⑧	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２６回	対面	文法まとめ演習①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２７回	対面	文法まとめ演習②	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間

第２８回	対面	文法まとめ演習③	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２９回	対面	総括（定期試験に向けた振り返り）	事後学修：授業内での学修項目の定期試験にむけた復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、定期試験の準備	2 時間
第３０回	オンデマンド	総括（定期試験に向けた振り返り）	事後学修：定期試験の準備（120 分）	4 時間

科目名	日本語３	開講年度	2025
担当者	大前　晶子	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常的な場面で使われる日本語をある程度理解することができる。		
授業の目的及び概要	本科目は、受講生の日本語レベルに応じて、クラス分けを行い実施する。日本語 V と併せて、きわめて日常的で身近な話題や個人的に関心のある事柄について、自分自身のことについて話せる、他者の助けも借りながら必要な情報を求め、得た情報を活用するということができるようになることを目的としている。そのため、授業では、読む、書く、聞く、話すといったスキルを総合的に向上させると同時に、表現したり読みとるために必要な文法を学修する。大学での学修やひいては大学卒業後に日本での就労も視野に入れ、継続的に日本語を学修する上での基礎を築く。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①非常によく用いられる、日常的、もしくは仕事関連の言葉で書かれた、具体的で身近な事柄なら、短い簡単なテクストが理解できる。 ②「そして」「しかし」「なぜなら」などの簡単な接続詞でつなげた、家族、生活環境、学歴、現在または最近の仕事について、簡単な句や文を連ねて書くことができる。 ③もし必要がある場合に相手が助けてくれれば、予め決まっているような状況、短い会話でなら、比較的容易に対話ができる。余り苦労しなくても日常での簡単なやり取りができる。予測可能な日常の状況ならば、身近な話題についての考えや情報を交換し、質問に答えることができる。 ④ゆっくりとはっきりと話されれば、具体的で身近な話題や最も直接的な話題（自分・家族・買い物・地理・仕事）など予測可能な日常の事柄に関する句や表現を聞いて理解し、必要な情報を取り出すことができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	適宜授業内でフィードバックを実施する		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	【１クラス】 ①テーマ別仲間とわいわい学ぶ日本語［A2+~B1］ ②キクタン日本語 日本語能力試験 N3 【２クラス】 ①テーマ別仲間とわいわい学ぶ日本語［A2+~B1］ ②キクタン日本語 日本語能力試験 N3 【３クラス】 ①日本語 N2 文法・読解まるごとマスター（日本語能力試験・日本留学試験読解対策シリーズ） ②キクタン日本語 日本語能力試験 N2 【４クラス】 ①日本語 N2 文法・読解まるごとマスター（日本語能力試験・日本留学試験読解対策シリーズ） ②キクタン日本語 日本語能力試験 N2 【５クラス】 ①日本語 N2 文法・読解まるごとマスター	ISBN	【１クラス】 ①978-4327384913 ②978-4757428577 【２クラス】 ①978-4327384913 ②978-4757428577 【３クラス】 ①978-4863923959 ②978-4757428560 【４クラス】 ①978-4863923959 ②978-4757428560 【５クラス】 ①978-4863923959 ②978-4757428560

	（日本語能力試験・日本留学試験読解対策シリーズ） ②キクタン日本語 日本語能力試験 N2 【６クラス】 ①日本語 N2 文法・読解まるごとマスター （日本語能力試験・日本留学試験読解対策シリーズ） ②キクタン日本語 日本語能力試験 N2 【７クラス】 ①日本語能力試験 N1 読解 必修パターン （日本語能力試験必修パターンシリーズ ②キクタン日本語 日本語能力試験 N1		【６クラス】 ①978-4863923959 ②978-4757428560 【７クラス】 ①978-486392249
参考書	—	ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	5
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	30
	その他（%）	30
	その他の内容	①JLPT 受験 18% ②ハーフ模試（５月実施）7% ③宿題 13%
この科目の受講にあたって	文法の規則を覚えたり、書かれているものを見てわかるるだけでは外国語で交流できるようになりません。話すためには、文法や言葉を知っていて、それを使う方法も知っていることが必要です。授業で学んだことを、授業外でも積極的に使ってみましょう。 また、中間テストが学期中に１回ある。確実に日々の学修を行い、小テスト、課題、中間・定期テストで点数を取ることが科目合格につながります。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス 授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事後学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	1.5 時間
第２回	対面	１．小テスト ２．文法 unit01 文法 1-3	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第３回	対面	１．小テスト ２．文法 unit01 文法 7・8 unit02 文法 9	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第４回	対面	１．小テスト ２．文法 unit02 文法 10-12	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第５回	対面	１．小テスト ２．文法 unit03 文法 19-21	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第６回	対面	１．小テスト ２．文法 unit03 文法 22-25	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第７回	対面	１．小テスト ２．文法 unit03 文法 26-28	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第８回	対面	１．小テスト ２．文法 unit03 文法 29-32	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの	2 時間

			準備	
第９回	対面	１．小テスト ２．文法 unit04 文法 33-36	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１０回	対面	１．小テスト ２．文法 unit04 文法 34-37.	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１１回	対面	１．小テスト ２．文法 unit05 文法 38-42	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１２回	対面	１．小テスト ２．文法 unit05 文法 43-45	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１３回	対面	１．小テスト ２．unit06 文法 46-51	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１４回	オンデマンド	中間総括（中間テストに向けた振り返り）	事後学修：中間テストに向けた振り返り問題演習 事前学修：中間テストの準備	2 時間
第１５回	対面	１．小テスト ２．unit06 文法 52-55	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１６回	対面	中間総括（中間テストに向けた振り返り）	事後学修：中間テストに向けた振り返り復習プリント 事前学修：中間テストにむけた準備	2 時間
第１７回	対面	中間テスト	事後学修：授業内での学修項目のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１８回	対面	JLPT 練習問題①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１９回	対面	JLPT 練習問題②	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２０回	対面	JLPT 練習問題③	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２１回	対面	JLPT 練習問題④	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２２回	対面	JLPT 練習問題⑤	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２３回	対面	JLPT 練習問題⑥	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２４回	対面	JLPT 練習問題⑦	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２５回	対面	JLPT 練習問題⑧	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２６回	対面	文法まとめ演習①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２７回	対面	文法まとめ演習②	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間

第２８回	対面	文法まとめ演習③	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２９回	対面	総括（定期試験に向けた振り返り）	事後学修：授業内での学修項目の定期試験にむけた復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、定期試験の準備	2 時間
第３０回	オンデマンド	総括（定期試験に向けた振り返り）	事後学修：定期試験の準備（120 分）	4 時間

科目名	日本語３	開講年度	2025
担当者	楊　子涵	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常的な場面で使われる日本語をある程度理解することができる。		
授業の目的及び概要	本科目は、受講生の日本語レベルに応じて、クラス分けを行い実施する。日本語 V と併せて、きわめて日常的で身近な話題や個人的に関心のある事柄について、自分自身のことについて話せる、他者の助けも借りながら必要な情報を求め、得た情報を活用するということができるようになることを目的としている。そのため、授業では、読む、書く、聞く、話すといったスキルを総合的に向上させると同時に、表現したり読みとるために必要な文法を学修する。大学での学修やひいては大学卒業後に日本での就労も視野に入れ、継続的に日本語を学修する上での基礎を築く。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①非常によく用いられる、日常的、もしくは仕事関連の言葉で書かれた、具体的で身近な事柄なら、短い簡単なテクストが理解できる。 ②「そして」「しかし」「なぜなら」などの簡単な接続詞でつなげた、家族、生活環境、学歴、現在または最近の仕事について、簡単な句や文を連ねて書くことができる。 ③もし必要がある場合に相手が助けてくれれば、予め決まっているような状況、短い会話でなら、比較的容易に対話ができる。余り苦労しなくても日常での簡単なやり取りができる。予測可能な日常の状況ならば、身近な話題についての考えや情報を交換し、質問に答えることができる。 ④ゆっくりとはっきりと話されれば、具体的で身近な話題や最も直接的な話題（自分・家族・買い物・地理・仕事）など予測可能な日常の事柄に関する句や表現を聞いて理解し、必要な情報を取り出すことができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	適宜授業内でフィードバックを実施する		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	【１クラス】 ①テーマ別仲間とわいわい学ぶ日本語［A2+˜B1］ ②キクタン日本語 日本語能力試験 N3 【２クラス】 ①テーマ別仲間とわいわい学ぶ日本語［A2+˜B1］ ②キクタン日本語 日本語能力試験 N3 【３クラス】 ①日本語 N2 文法・読解まるごとマスター（日本語能力試験・日本留学試験読解対策シリーズ） ②キクタン日本語 日本語能力試験 N2 【４クラス】 ①日本語 N2 文法・読解まるごとマスター（日本語能力試験・日本留学試験読解対策シリーズ） ②キクタン日本語 日本語能力試験 N2 【５クラス】 ①日本語 N2 文法・読解まるごとマスター	ISBN	【１クラス】 ①978-4327384913 ②978-4757428577 【２クラス】 ①978-4327384913 ②978-4757428577 【３クラス】 ①978-4863923959 ②978-4757428560 【４クラス】 ①978-4863923959 ②978-4757428560 【５クラス】 ①978-4863923959 ②978-4757428560

	（日本語能力試験・日本留学試験読解対策シリーズ） ②キクタン日本語 日本語能力試験 N2 【６クラス】 ①日本語 N2 文法・読解まるごとマスター （日本語能力試験・日本留学試験読解対策シリーズ） ②キクタン日本語 日本語能力試験 N2 【７クラス】 ①日本語能力試験 N1 読解 必修パターン （日本語能力試験必修パターンシリーズ ②キクタン日本語 日本語能力試験 N1		【６クラス】 ①978-4863923959 ②978-4757428560 【７クラス】 ①978-486392249
参考書	—	ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	5
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	30
	その他（%）	30
	その他の内容	①JLPT 受験 18% ②ハーフ模試（５月実施）7% ③宿題 13%
この科目の受講にあたって	文法の規則を覚えたり、書かれているものを見てわかるるだけでは外国語で交流できるようになりません。話すためには、文法や言葉を知っていて、それを使う方法も知っていることが必要です。授業で学んだことを、授業外でも積極的に使ってみましょう。 また、中間テストが学期中に１回ある。確実に日々の学修を行い、小テスト、課題、中間・定期テストで点数を取ることが科目合格につながります。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス 授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事後学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	1.5 時間
第２回	対面	１．小テスト ２．文法 unit01 文法 1-3	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第３回	対面	１．小テスト ２．文法 unit01 文法 7・8 unit02 文法 9	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第４回	対面	１．小テスト ２．文法 unit02 文法 10-12	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第５回	対面	１．小テスト ２．文法 unit03 文法 19-21	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第６回	対面	１．小テスト ２．文法 unit03 文法 22-25	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第７回	対面	１．小テスト ２．文法 unit03 文法 26-28	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第８回	対面	１．小テスト ２．文法 unit03 文法 29-32	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの	2 時間

			準備	
第９回	対面	１．小テスト ２．文法 unit04 文法 33-36	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１０回	対面	１．小テスト ２．文法 unit04 文法 34-37.	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１１回	対面	１．小テスト ２．文法 unit05 文法 38-42	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１２回	対面	１．小テスト ２．文法 unit05 文法 43-45	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１３回	対面	１．小テスト ２．unit06 文法 46-51	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１４回	オンデマンド	中間総括（中間テストに向けた振り返り）	事後学修：中間テストに向けた振り返り問題演習 事前学修：中間テストの準備	2 時間
第１５回	対面	１．小テスト ２．unit06 文法 52-55	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１６回	対面	中間総括（中間テストに向けた振り返り）	事後学修：中間テストに向けた振り返り復習プリント 事前学修：中間テストにむけた準備	2 時間
第１７回	対面	中間テスト	事後学修：授業内での学修項目のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１８回	対面	JLPT 練習問題①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１９回	対面	JLPT 練習問題②	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２０回	対面	JLPT 練習問題③	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２１回	対面	JLPT 練習問題④	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２２回	対面	JLPT 練習問題⑤	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２３回	対面	JLPT 練習問題⑥	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２４回	対面	JLPT 練習問題⑦	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２５回	対面	JLPT 練習問題⑧	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２６回	対面	文法まとめ演習①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２７回	対面	文法まとめ演習②	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間

第２８回	対面	文法まとめ演習③	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２９回	対面	総括（定期試験に向けた振り返り）	事後学修：授業内での学修項目の定期試験にむけた復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、定期試験の準備	2 時間
第３０回	オンデマンド	総括（定期試験に向けた振り返り）	事後学修：定期試験の準備（120 分）	4 時間

科目名	日本語３	開講年度	2025
担当者	柳　東汶	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常的な場面で使われる日本語をある程度理解することができる。		
授業の目的及び概要	本科目は、受講生の日本語レベルに応じて、クラス分けを行い実施する。日本語 V と併せて、きわめて日常的で身近な話題や個人的に関心のある事柄について、自分自身のことについて話せる、他者の助けも借りながら必要な情報を求め、得た情報を活用するということができるようになることを目的としている。そのため、授業では、読む、書く、聞く、話すといったスキルを総合的に向上させると同時に、表現したり読みとるために必要な文法を学修する。大学での学修やひいては大学卒業後に日本での就労も視野に入れ、継続的に日本語を学修する上での基礎を築く。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①非常によく用いられる、日常的、もしくは仕事関連の言葉で書かれた、具体的で身近な事柄なら、短い簡単なテクストが理解できる。 ②「そして」「しかし」「なぜなら」などの簡単な接続詞でつなげた、家族、生活環境、学歴、現在または最近の仕事について、簡単な句や文を連ねて書くことができる。 ③もし必要がある場合に相手が助けてくれれば、予め決まっているような状況、短い会話でなら、比較的容易に対話ができる。余り苦労しなくても日常での簡単なやり取りができる。予測可能な日常の状況ならば、身近な話題についての考えや情報を交換し、質問に答えることができる。 ④ゆっくりとはっきりと話されれば、具体的で身近な話題や最も直接的な話題（自分・家族・買い物・地理・仕事）など予測可能な日常の事柄に関する句や表現を聞いて理解し、必要な情報を取り出すことができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	適宜授業内でフィードバックを実施する		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	【１クラス】 ①テーマ別仲間とわいわい学ぶ日本語［A2+˜B1］ ②キクタン日本語 日本語能力試験 N3 【２クラス】 ①テーマ別仲間とわいわい学ぶ日本語［A2+˜B1］ ②キクタン日本語 日本語能力試験 N3 【３クラス】 ①日本語 N2 文法・読解まるごとマスター（日本語能力試験・日本留学試験読解対策シリーズ） ②キクタン日本語 日本語能力試験 N2 【４クラス】 ①日本語 N2 文法・読解まるごとマスター（日本語能力試験・日本留学試験読解対策シリーズ） ②キクタン日本語 日本語能力試験 N2 【５クラス】 ①日本語 N2 文法・読解まるごとマスター	ISBN	【１クラス】 ①978-4327384913 ②978-4757428577 【２クラス】 ①978-4327384913 ②978-4757428577 【３クラス】 ①978-4863923959 ②978-4757428560 【４クラス】 ①978-4863923959 ②978-4757428560 【５クラス】 ①978-4863923959 ②978-4757428560

	（日本語能力試験・日本留学試験読解対策シリーズ） ②キクタン日本語 日本語能力試験 N2 【６クラス】 ①日本語 N2 文法・読解まるごとマスター （日本語能力試験・日本留学試験読解対策シリーズ） ②キクタン日本語 日本語能力試験 N2 【７クラス】 ①日本語能力試験 N1 読解 必修パターン （日本語能力試験必修パターンシリーズ ②キクタン日本語 日本語能力試験 N1		【６クラス】 ①978-4863923959 ②978-4757428560 【７クラス】 ①978-486392249
参考書	—	ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	5
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	30
	その他（%）	30
	その他の内容	①JLPT 受験 18% ②ハーフ模試（５月実施）7% ③宿題 13%
この科目の受講にあたって	文法の規則を覚えたり、書かれているものを見てわかるるだけでは外国語で交流できるようになりません。話すためには、文法や言葉を知っていて、それを使う方法も知っていることが必要です。授業で学んだことを、授業外でも積極的に使ってみましょう。 また、中間テストが学期中に１回ある。確実に日々の学修を行い、小テスト、課題、中間・定期テストで点数を取ることが科目合格につながります。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス 授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事後学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	1.5 時間
第２回	対面	１．小テスト ２．文法 unit01 文法 1-3	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第３回	対面	１．小テスト ２．文法 unit01 文法 7・8 unit02 文法 9	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第４回	対面	１．小テスト ２．文法 unit02 文法 10-12	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第５回	対面	１．小テスト ２．文法 unit03 文法 19-21	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第６回	対面	１．小テスト ２．文法 unit03 文法 22-25	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第７回	対面	１．小テスト ２．文法 unit03 文法 26-28	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第８回	対面	１．小テスト ２．文法 unit03 文法 29-32	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの	2 時間

			準備	
第９回	対面	１．小テスト ２．文法 unit04 文法 33-36	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１０回	対面	１．小テスト ２．文法 unit04 文法 34-37.	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１１回	対面	１．小テスト ２．文法 unit05 文法 38-42	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１２回	対面	１．小テスト ２．文法 unit05 文法 43-45	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１３回	対面	１．小テスト ２．unit06 文法 46-51	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１４回	オンデマンド	中間総括（中間テストに向けた振り返り）	事後学修：中間テストに向けた振り返り問題演習 事前学修：中間テストの準備	2 時間
第１５回	対面	１．小テスト ２．unit06 文法 52-55	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１６回	対面	中間総括（中間テストに向けた振り返り）	事後学修：中間テストに向けた振り返り復習プリント 事前学修：中間テストにむけた準備	2 時間
第１７回	対面	中間テスト	事後学修：授業内での学修項目のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１８回	対面	JLPT 練習問題①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１９回	対面	JLPT 練習問題②	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２０回	対面	JLPT 練習問題③	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２１回	対面	JLPT 練習問題④	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２２回	対面	JLPT 練習問題⑤	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２３回	対面	JLPT 練習問題⑥	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２４回	対面	JLPT 練習問題⑦	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２５回	対面	JLPT 練習問題⑧	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２６回	対面	文法まとめ演習①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２７回	対面	文法まとめ演習②	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間

第２８回	対面	文法まとめ演習③	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２９回	対面	総括（定期試験に向けた振り返り）	事後学修：授業内での学修項目の定期試験にむけた復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、定期試験の準備	2 時間
第３０回	オンデマンド	総括（定期試験に向けた振り返り）	事後学修：定期試験の準備（120 分）	4 時間

科目名	日本語３	開講年度	2025
担当者	柳　東汶	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常的な場面で使われる日本語をある程度理解することができる。		
授業の目的及び概要	本科目は、受講生の日本語レベルに応じて、クラス分けを行い実施する。日本語 V と併せて、きわめて日常的で身近な話題や個人的に関心のある事柄について、自分自身のことについて話せる、他者の助けも借りながら必要な情報を求め、得た情報を活用するということができるようになることを目的としている。そのため、授業では、読む、書く、聞く、話すといったスキルを総合的に向上させると同時に、表現したり読みとるために必要な文法を学修する。大学での学修やひいては大学卒業後に日本での就労も視野に入れ、継続的に日本語を学修する上での基礎を築く。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①非常によく用いられる、日常的、もしくは仕事関連の言葉で書かれた、具体的で身近な事柄なら、短い簡単なテクストが理解できる。 ②「そして」「しかし」「なぜなら」などの簡単な接続詞でつなげた、家族、生活環境、学歴、現在または最近の仕事について、簡単な句や文を連ねて書くことができる。 ③もし必要がある場合に相手が助けてくれれば、予め決まっているような状況、短い会話でなら、比較的容易に対話ができる。余り苦労しなくても日常での簡単なやり取りができる。予測可能な日常の状況ならば、身近な話題についての考えや情報を交換し、質問に答えることができる。 ④ゆっくりとはっきりと話されれば、具体的で身近な話題や最も直接的な話題（自分・家族・買い物・地理・仕事）など予測可能な日常の事柄に関する句や表現を聞いて理解し、必要な情報を取り出すことができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	適宜授業内でフィードバックを実施する		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	【１クラス】 ①テーマ別仲間とわいわい学ぶ日本語［A2+~B1］ ②キクタン日本語 日本語能力試験 N3 【２クラス】 ①テーマ別仲間とわいわい学ぶ日本語［A2+~B1］ ②キクタン日本語 日本語能力試験 N3 【３クラス】 ①日本語 N2 文法・読解まるごとマスター（日本語能力試験・日本留学試験読解対策シリーズ） ②キクタン日本語 日本語能力試験 N2 【４クラス】 ①日本語 N2 文法・読解まるごとマスター（日本語能力試験・日本留学試験読解対策シリーズ） ②キクタン日本語 日本語能力試験 N2 【５クラス】 ①日本語 N2 文法・読解まるごとマスター	ISBN	【１クラス】 ①978-4327384913 ②978-4757428577 【２クラス】 ①978-4327384913 ②978-4757428577 【３クラス】 ①978-4863923959 ②978-4757428560 【４クラス】 ①978-4863923959 ②978-4757428560 【５クラス】 ①978-4863923959 ②978-4757428560

	（日本語能力試験・日本留学試験読解対策シリーズ） ②キクタン日本語 日本語能力試験 N2 【６クラス】 ①日本語 N2 文法・読解まるごとマスター （日本語能力試験・日本留学試験読解対策シリーズ） ②キクタン日本語 日本語能力試験 N2 【７クラス】 ①日本語能力試験 N1 読解 必修パターン （日本語能力試験必修パターンシリーズ ②キクタン日本語 日本語能力試験 N1		【６クラス】 ①978-4863923959 ②978-4757428560 【７クラス】 ①978-486392249
参考書	—	ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	5
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	30
	その他（%）	30
	その他の内容	①JLPT 受験 18% ②ハーフ模試（５月実施）7% ③宿題 13%
この科目の受講にあたって	文法の規則を覚えたり、書かれているものを見てわかるるだけでは外国語で交流できるようになりません。話すためには、文法や言葉を知っていて、それを使う方法も知っていることが必要です。授業で学んだことを、授業外でも積極的に使ってみましょう。 また、中間テストが学期中に１回ある。確実に日々の学修を行い、小テスト、課題、中間・定期テストで点数を取ることが科目合格につながります。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス 授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事後学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	1.5 時間
第２回	対面	１．小テスト ２．文法 unit01 文法 1-3	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第３回	対面	１．小テスト ２．文法 unit01 文法 7・8 unit02 文法 9	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第４回	対面	１．小テスト ２．文法 unit02 文法 10-12	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第５回	対面	１．小テスト ２．文法 unit03 文法 19-21	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第６回	対面	１．小テスト ２．文法 unit03 文法 22-25	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第７回	対面	１．小テスト ２．文法 unit03 文法 26-28	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第８回	対面	１．小テスト ２．文法 unit03 文法 29-32	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの	2 時間

			準備	
第９回	対面	１．小テスト ２．文法 unit04 文法 33-36	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１０回	対面	１．小テスト ２．文法 unit04 文法 34-37.	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１１回	対面	１．小テスト ２．文法 unit05 文法 38-42	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１２回	対面	１．小テスト ２．文法 unit05 文法 43-45	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１３回	対面	１．小テスト ２．unit06 文法 46-51	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１４回	オンデマンド	中間総括（中間テストに向けた振り返り）	事後学修：中間テストに向けた振り返り問題演習 事前学修：中間テストの準備	2 時間
第１５回	対面	１．小テスト ２．unit06 文法 52-55	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１６回	対面	中間総括（中間テストに向けた振り返り）	事後学修：中間テストに向けた振り返り復習プリント 事前学修：中間テストにむけた準備	2 時間
第１７回	対面	中間テスト	事後学修：授業内での学修項目のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１８回	対面	JLPT 練習問題①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１９回	対面	JLPT 練習問題②	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２０回	対面	JLPT 練習問題③	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２１回	対面	JLPT 練習問題④	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２２回	対面	JLPT 練習問題⑤	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２３回	対面	JLPT 練習問題⑥	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２４回	対面	JLPT 練習問題⑦	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２５回	対面	JLPT 練習問題⑧	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２６回	対面	文法まとめ演習①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２７回	対面	文法まとめ演習②	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間

第２８回	対面	文法まとめ演習③	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２９回	対面	総括（定期試験に向けた振り返り）	事後学修：授業内での学修項目の定期試験にむけた復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、定期試験の準備	2 時間
第３０回	オンデマンド	総括（定期試験に向けた振り返り）	事後学修：定期試験の準備（120 分）	4 時間

科目名	日本語３	開講年度	2025
担当者	荻田　朋子	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常的な場面で使われる日本語をある程度理解することができる。		
授業の目的及び概要	本科目は、受講生の日本語レベルに応じて、クラス分けを行い実施する。日本語 V と併せて、きわめて日常的で身近な話題や個人的に関心のある事柄について、自分自身のことについて話せる、他者の助けも借りながら必要な情報を求め、得た情報を活用するということができるようになることを目的としている。そのため、授業では、読む、書く、聞く、話すといったスキルを総合的に向上させると同時に、表現したり読みとるために必要な文法を学修する。大学での学修やひいては大学卒業後に日本での就労も視野に入れ、継続的に日本語を学修する上での基礎を築く。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①非常によく用いられる、日常的、もしくは仕事関連の言葉で書かれた、具体的で身近な事柄なら、短い簡単なテクストが理解できる。 ②「そして」「しかし」「なぜなら」などの簡単な接続詞でつなげた、家族、生活環境、学歴、現在または最近の仕事について、簡単な句や文を連ねて書くことができる。 ③もし必要がある場合に相手が助けてくれれば、予め決まっているような状況、短い会話でなら、比較的容易に対話ができる。余り苦労しなくても日常での簡単なやり取りができる。予測可能な日常の状況ならば、身近な話題についての考えや情報を交換し、質問に答えることができる。 ④ゆっくりとはっきりと話されれば、具体的で身近な話題や最も直接的な話題（自分・家族・買い物・地理・仕事）など予測可能な日常の事柄に関する句や表現を聞いて理解し、必要な情報を取り出すことができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	適宜授業内でフィードバックを実施する		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	【１クラス】 ①テーマ別仲間とわいわい学ぶ日本語［A2+˜B1］ ②キクタン日本語 日本語能力試験 N3 【２クラス】 ①テーマ別仲間とわいわい学ぶ日本語［A2+˜B1］ ②キクタン日本語 日本語能力試験 N3 【３クラス】 ①日本語 N2 文法・読解まるごとマスター（日本語能力試験・日本留学試験読解対策シリーズ） ②キクタン日本語 日本語能力試験 N2 【４クラス】 ①日本語 N2 文法・読解まるごとマスター（日本語能力試験・日本留学試験読解対策シリーズ） ②キクタン日本語 日本語能力試験 N2 【５クラス】 ①日本語 N2 文法・読解まるごとマスター	ISBN	【１クラス】 ①978-4327384913 ②978-4757428577 【２クラス】 ①978-4327384913 ②978-4757428577 【３クラス】 ①978-4863923959 ②978-4757428560 【４クラス】 ①978-4863923959 ②978-4757428560 【５クラス】 ①978-4863923959 ②978-4757428560

	（日本語能力試験・日本留学試験読解対策シリーズ） ②キクタン日本語 日本語能力試験 N2 【６クラス】 ①日本語 N2 文法・読解まるごとマスター （日本語能力試験・日本留学試験読解対策シリーズ） ②キクタン日本語 日本語能力試験 N2 【７クラス】 ①日本語能力試験 N1 読解 必修パターン （日本語能力試験必修パターンシリーズ ②キクタン日本語 日本語能力試験 N1		【６クラス】 ①978-4863923959 ②978-4757428560 【７クラス】 ①978-486392249
参考書	—	ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	5
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	30
	その他（%）	30
	その他の内容	①JLPT 受験 18% ②ハーフ模試（５月実施）7% ③宿題 13%
この科目の受講にあたって	文法の規則を覚えたり、書かれているものを見てわかるるだけでは外国語で交流できるようになりません。話すためには、文法や言葉を知っていて、それを使う方法も知っていることが必要です。授業で学んだことを、授業外でも積極的に使ってみましょう。 また、中間テストが学期中に１回ある。確実に日々の学修を行い、小テスト、課題、中間・定期テストで点数を取ることが科目合格につながります。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス 授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事後学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	1.5 時間
第２回	対面	１．小テスト ２．文法 unit01 文法 1-3	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第３回	対面	１．小テスト ２．文法 unit01 文法 7・8 unit02 文法 9	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第４回	対面	１．小テスト ２．文法 unit02 文法 10-12	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第５回	対面	１．小テスト ２．文法 unit03 文法 19-21	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第６回	対面	１．小テスト ２．文法 unit03 文法 22-25	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第７回	対面	１．小テスト ２．文法 unit03 文法 26-28	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第８回	対面	１．小テスト ２．文法 unit03 文法 29-32	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの	2 時間

			準備	
第９回	対面	１．小テスト ２．文法 unit04 文法 33-36	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１０回	対面	１．小テスト ２．文法 unit04 文法 34-37.	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１１回	対面	１．小テスト ２．文法 unit05 文法 38-42	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１２回	対面	１．小テスト ２．文法 unit05 文法 43-45	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１３回	対面	１．小テスト ２．unit06 文法 46-51	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１４回	オンデマンド	中間総括（中間テストに向けた振り返り）	事後学修：中間テストに向けた振り返り問題演習 事前学修：中間テストの準備	2 時間
第１５回	対面	１．小テスト ２．unit06 文法 52-55	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１６回	対面	中間総括（中間テストに向けた振り返り）	事後学修：中間テストに向けた振り返り復習プリント 事前学修：中間テストにむけた準備	2 時間
第１７回	対面	中間テスト	事後学修：授業内での学修項目のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１８回	対面	JLPT 練習問題①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１９回	対面	JLPT 練習問題②	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２０回	対面	JLPT 練習問題③	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２１回	対面	JLPT 練習問題④	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２２回	対面	JLPT 練習問題⑤	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２３回	対面	JLPT 練習問題⑥	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２４回	対面	JLPT 練習問題⑦	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２５回	対面	JLPT 練習問題⑧	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２６回	対面	文法まとめ演習①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２７回	対面	文法まとめ演習②	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間

第２８回	対面	文法まとめ演習③	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２９回	対面	総括（定期試験に向けた振り返り）	事後学修：授業内での学修項目の定期試験にむけた復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、定期試験の準備	2 時間
第３０回	オンデマンド	総括（定期試験に向けた振り返り）	事後学修：定期試験の準備（120 分）	4 時間

科目名	日本語３	開講年度	2025
担当者	李　光曦	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常的な場面で使われる日本語をある程度理解することができる。		
授業の目的及び概要	本科目は、受講生の日本語レベルに応じて、クラス分けを行い実施する。日本語Ⅴと併せて、きわめて日常的で身近な話題や個人的に関心のある事柄について、自分自身のことについて話せる、他者の助けも借りながら必要な情報を求め、得た情報を活用するということができるようになることを目的としている。そのため、授業では、読む、書く、聞く、話すといったスキルを総合的に向上させると同時に、表現したり読みとるために必要な文法を学修する。大学での学修やひいては大学卒業後に日本での就労も視野に入れ、継続的に日本語を学修する上での基礎を築く。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①非常によく用いられる、日常的、もしくは仕事関連の言葉で書かれた、具体的で身近な事柄なら、短い簡単なテクストが理解できる。 ②「そして」「しかし」「なぜなら」などの簡単な接続詞でつなげた、家族、生活環境、学歴、現在または最近の仕事について、簡単な句や文を連ねて書くことができる。 ③もし必要がある場合に相手が助けてくれれば、予め決まっているような状況、短い会話でなら、比較的容易に対話ができる。余り苦労しなくても日常での簡単なやり取りができる。予測可能な日常の状況ならば、身近な話題についての考えや情報を交換し、質問に答えることができる。 ④ゆっくりとはっきりと話されれば、具体的で身近な話題や最も直接的な話題（自分・家族・買い物・地理・仕事）など予測可能な日常の事柄に関する句や表現を聞いて理解し、必要な情報を取り出すことができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	適宜授業内でフィードバックを実施する		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	【１クラス】 ①テーマ別仲間とわいわい学ぶ日本語［A2+~B1］ ②キクタン日本語 日本語能力試験 N3 【２クラス】 ①テーマ別仲間とわいわい学ぶ日本語［A2+~B1］ ②キクタン日本語 日本語能力試験 N3 【３クラス】 ①日本語 N2 文法・読解まるごとマスター（日本語能力試験・日本留学試験読解対策シリーズ） ②キクタン日本語 日本語能力試験 N2 【４クラス】 ①日本語 N2 文法・読解まるごとマスター（日本語能力試験・日本留学試験読解対策シリーズ） ②キクタン日本語 日本語能力試験 N2 【５クラス】 ①日本語 N2 文法・読解まるごとマスター	ISBN	【１クラス】 ①978-4327384913 ②978-4757428577 【２クラス】 ①978-4327384913 ②978-4757428577 【３クラス】 ①978-4863923959 ②978-4757428560 【４クラス】 ①978-4863923959 ②978-4757428560 【５クラス】 ①978-4863923959 ②978-4757428560

	（日本語能力試験・日本留学試験読解対策シリーズ） ②キクタン日本語 日本語能力試験 N2 【６クラス】 ①日本語 N2 文法・読解まるごとマスター （日本語能力試験・日本留学試験読解対策シリーズ） ②キクタン日本語 日本語能力試験 N2 【７クラス】 ①日本語能力試験 N1 読解 必修パターン （日本語能力試験必修パターンシリーズ ②キクタン日本語 日本語能力試験 N1		【６クラス】 ①978-4863923959 ②978-4757428560 【７クラス】 ①978-486392249
参考書	—	ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	5
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	30
	その他（%）	30
	その他の内容	①JLPT 受験 18% ②ハーフ模試（５月実施）7% ③宿題 13%
この科目の受講にあたって	文法の規則を覚えたり、書かれているものを見てわかるるだけでは外国語で交流できるようになりません。話すためには、文法や言葉を知っていて、それを使う方法も知っていることが必要です。授業で学んだことを、授業外でも積極的に使ってみましょう。 また、中間テストが学期中に１回ある。確実に日々の学修を行い、小テスト、課題、中間・定期テストで点数を取ることが科目合格につながります。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス 授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事後学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	1.5 時間
第２回	対面	１．小テスト ２．文法 unit01 文法 1-3	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第３回	対面	１．小テスト ２．文法 unit01 文法 7・8 unit02 文法 9	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第４回	対面	１．小テスト ２．文法 unit02 文法 10-12	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第５回	対面	１．小テスト ２．文法 unit03 文法 19-21	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第６回	対面	１．小テスト ２．文法 unit03 文法 22-25	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第７回	対面	１．小テスト ２．文法 unit03 文法 26-28	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第８回	対面	１．小テスト ２．文法 unit03 文法 29-32	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの	2 時間

			準備	
第９回	対面	１．小テスト ２．文法 unit04 文法 33-36	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１０回	対面	１．小テスト ２．文法 unit04 文法 34-37.	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１１回	対面	１．小テスト ２．文法 unit05 文法 38-42	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１２回	対面	１．小テスト ２．文法 unit05 文法 43-45	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１３回	対面	１．小テスト ２．unit06 文法 46-51	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１４回	オンデマンド	中間総括（中間テストに向けた振り返り）	事後学修：中間テストに向けた振り返り問題演習 事前学修：中間テストの準備	2 時間
第１５回	対面	１．小テスト ２．unit06 文法 52-55	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１６回	対面	中間総括（中間テストに向けた振り返り）	事後学修：中間テストに向けた振り返り復習プリント 事前学修：中間テストにむけた準備	2 時間
第１７回	対面	中間テスト	事後学修：授業内での学修項目のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１８回	対面	JLPT 練習問題①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１９回	対面	JLPT 練習問題②	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２０回	対面	JLPT 練習問題③	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２１回	対面	JLPT 練習問題④	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２２回	対面	JLPT 練習問題⑤	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２３回	対面	JLPT 練習問題⑥	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２４回	対面	JLPT 練習問題⑦	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２５回	対面	JLPT 練習問題⑧	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２６回	対面	文法まとめ演習①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２７回	対面	文法まとめ演習②	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間

第２８回	対面	文法まとめ演習③	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２９回	対面	総括（定期試験に向けた振り返り）	事後学修：授業内での学修項目の定期試験にむけた復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、定期試験の準備	2 時間
第３０回	オンデマンド	総括（定期試験に向けた振り返り）	事後学修：定期試験の準備（120 分）	4 時間

科目名	日本語３	開講年度	2025
担当者	楊　子涵	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常的な場面で使われる日本語をある程度理解することができる。		
授業の目的及び概要	本科目は、受講生の日本語レベルに応じて、クラス分けを行い実施する。日本語 V と併せて、きわめて日常的で身近な話題や個人的に関心のある事柄について、自分自身のことについて話せる、他者の助けも借りながら必要な情報を求め、得た情報を活用するということができるようになることを目的としている。そのため、授業では、読む、書く、聞く、話すといったスキルを総合的に向上させると同時に、表現したり読みとるために必要な文法を学修する。大学での学修やひいては大学卒業後に日本での就労も視野に入れ、継続的に日本語を学修する上での基礎を築く。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①非常によく用いられる、日常的、もしくは仕事関連の言葉で書かれた、具体的で身近な事柄なら、短い簡単なテクストが理解できる。 ②「そして」「しかし」「なぜなら」などの簡単な接続詞でつなげた、家族、生活環境、学歴、現在または最近の仕事について、簡単な句や文を連ねて書くことができる。 ③もし必要がある場合に相手が助けてくれれば、予め決まっているような状況、短い会話でなら、比較的容易に対話ができる。余り苦労しなくても日常での簡単なやり取りができる。予測可能な日常の状況ならば、身近な話題についての考えや情報を交換し、質問に答えることができる。 ④ゆっくりとはっきりと話されれば、具体的で身近な話題や最も直接的な話題（自分・家族・買い物・地理・仕事）など予測可能な日常の事柄に関する句や表現を聞いて理解し、必要な情報を取り出すことができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	適宜授業内でフィードバックを実施する		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスによって使用するテキストが異なります。第一回目のガイダンス等で案内しますので、購入の際は間違えないように気を付けてください。 ①クラス　友松 悦子(2010)『どんな時どう使う日本語表現 500 改訂版』アルク 友松 悦子(2011)『改定版 どんな時どう使う日本語表現 500　短文完成練習帳』アルク ②クラス　友松 悦子(2010)『どんな時どう使う日本語表現 500 改訂版』アルク 友松 悦子(2011)『改定版 どんな時どう使う日本語表現 500　短文完成練習帳』アルク ③クラス　目黒真実 (2009) 友松 悦子(2010)『どんな時どう使う日本語表現 500 改訂版』アルク 友松 悦子(2011)『改定版 どんな時どう使う日本語表現 500　短文完成練習帳』アルク ④クラス　目黒真実 (2010) 友松 悦子(2010)『どんな	ISBN	ISBN ①978-4757418905 978-4757420526 ②978-4757418905 978-4757420526 ③978-4757418905 978-4757420526 ④978-4757418905 978-4757420526 ⑤978-4893588173

	時どう使う日本語表現 500 改訂版』アルク 友松 悦子(2011)『改定版 どんな時どう使う日本語表現 500　短文完成練習帳』アルク ⑤クラス　独立行政法人国際交流基金(2012)『日本語能力試験公式問題集 N1 』凡人社 そのほかプリント配布		
参考書	—	ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	5
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	30
	その他（%）	30
	その他の内容	①JLPT 受験 10% ②ハーフ模試（５月実施）7% ③宿題 13%
この科目の受講にあたって	文法の規則を覚えたり、書かれているものを見てわかるるだけでは外国語で交流できるようになりません。話すためには、文法や言葉を知っていて、それを使う方法も知っていることが必要です。授業で学んだことを、授業外でも積極的に使ってみましょう。 また、中間テストが学期中に１回ある。確実に日々の学修を行い、小テスト、課題、中間・定期テストで点数を取ることが科目合格につながります。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	オンデマンド	ガイダンス 授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事後学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	1.5 時間
第２回	オンデマンド	１．小テスト ２．文法 unit01 文法 1-3	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第３回	オンデマンド	１．小テスト ２．文法 unit01 文法 7・8 unit02 文法 9	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第４回	オンデマンド	１．小テスト ２．文法 unit02 文法 10-12	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第５回	オンデマンド	１．小テスト ２．文法 unit03 文法 19-21	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第６回	オンデマンド	１．小テスト ２．文法 unit03 文法 22-25	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第７回	オンデマンド	１．小テスト ２．文法 unit03 文法 26-28	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第８回	オンデマンド	１．小テスト ２．文法 unit03 文法 29-32	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第９回	オンデマンド	１．小テスト ２．文法 unit04 文法 33-36	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間

第１０回	オンデマンド	１．小テスト ２．文法 unit04 文法 34-37.	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１１回	オンデマンド	１．小テスト ２．文法 unit05 文法 38-42	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１２回	オンデマンド	１．小テスト ２．文法 unit05 文法 43-45	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１３回	オンデマンド	１．小テスト ２．unit06 文法 46-51	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１４回	オンデマンド	中間総括（中間テストに向けた振り返り）	事後学修：中間テストに向けた振り返り問題演習 事前学修：中間テストの準備	2 時間
第１５回	オンデマンド	１．小テスト ２．unit06 文法 52-55	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１６回	オンデマンド	中間総括（中間テストに向けた振り返り）	事後学修：中間テストに向けた振り返り復習プリント 事前学修：中間テストにむけた準備	2 時間
第１７回	オンデマンド	中間テスト	事後学修：授業内での学修項目のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１８回	オンデマンド	JLPT 練習問題①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１９回	オンデマンド	JLPT 練習問題②	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２０回	オンデマンド	JLPT 練習問題③	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２１回	オンデマンド	JLPT 練習問題④	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２２回	オンデマンド	JLPT 練習問題⑤	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２３回	オンデマンド	JLPT 練習問題⑥	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２４回	オンデマンド	JLPT 練習問題⑦	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２５回	オンデマンド	JLPT 練習問題⑧	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２６回	オンデマンド	文法まとめ演習①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２７回	オンデマンド	文法まとめ演習②	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２８回	オンデマンド	文法まとめ演習③	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間

第２９回	オンデマンド	総括（定期試験に向けた振り返り）	事後学修：授業内での学修項目の定期試験にむけた復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、定期試験の準備	2 時間
第３０回	オンデマンド	総括（定期試験に向けた振り返り）	事後学修：定期試験の準備（120 分）	4 時間

科目名	日本語４	開講年度	2025
担当者	権田　彩良	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常的な場面で使われる日本語をある程度理解することができる。		
授業の目的及び概要	本科目は、受講生の日本語レベルに応じて、クラス分けを行い実施する。日本語 V と併せて、きわめて日常的で身近な話題や個人的に関心のある事柄について、自分自身のことについて話せる、他者の助けも借りながら必要な情報を求め、得た情報を活用するということができるようになることを目的としている。そのため、授業では、読む、書く、聞く、話すといったスキルを総合的に向上させると同時に、表現したり読みとるために必要な文法を学修する。大学での学修やひいては大学卒業後に日本での就労も視野に入れ、継続的に日本語を学修する上での基礎を築く。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①非常によく用いられる、日常的、もしくは仕事関連の言葉で書かれた、具体的で身近な事柄なら、短い簡単なテクストが理解できる。 ②「そして」「しかし」「なぜなら」などの簡単な接続詞でつなげた、家族、生活環境、学歴、現在または最近の仕事について、簡単な句や文を連ねて書くことができる。 ③もし必要がある場合に相手が助けてくれれば、予め決まっているような状況、短い会話でなら、比較的容易に対話ができる。余り苦労しなくても日常での簡単なやり取りができる。予測可能な日常の状況ならば、身近な話題についての考えや情報を交換し、質問に答えることができる。 ④ゆっくりとはっきりと話されれば、具体的で身近な話題や最も直接的な話題（自分・家族・買い物・地理・仕事）など予測可能な日常の事柄に関する句や表現を聞いて理解し、必要な情報を取り出すことができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	適宜授業内でフィードバックを実施する		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスによって使用する教科書が異なります。購入する際は、間違えないように気を付けてください。 【１クラス】 ①テーマ別仲間とわいわい学ぶ日本語［A2+~B1］ ②キクタン日本語 日本語能力試験 N3 【２クラス】 ①テーマ別仲間とわいわい学ぶ日本語［A2+~B1］ ②キクタン日本語 日本語能力試験 N3 【３クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳 【４クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳	ISBN	【１クラス】 ①978-4327384913 ②978-4757428577 【２クラス】 ①978-4327384913 ②978-4757428577 【３クラス】 ①978-4757418905 ②978-4757420526 【４クラス】 ①978-4757418905 ②978-4757420526 【５クラス】 ①978-4757418905 ②978-4757420526

	【５クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳 【６クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳 【７クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳		【６クラス】 ①978-4757418905 ②978-4757420526 【７クラス】 ①978-475741890
参考書	—	ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	5
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	30
	その他（%）	30
	その他の内容	①JLPT 受験 18% ②ハーフ模試（５月実施）7% ③宿題 13%
この科目の受講にあたって	文法の規則を覚えたり、書かれているものを見てわかるるだけでは外国語で交流できるようになりません。話すためには、文法や言葉を知っていて、それを使う方法も知っていることが必要です。授業で学んだことを、授業外でも積極的に使ってみましょう。 また、中間テストが学期中に１回ある。確実に日々の学修を行い、小テスト、課題、中間・定期テストで点数を取ることが科目合格につながります。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス 授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事後学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	1.5 時間
第２回	対面	１．小テスト ２．文法 unit01 文法 1-3	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第３回	対面	１．小テスト ２．文法 unit01 文法 7・8 unit02 文法 9	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第４回	対面	１．小テスト ２．文法 unit02 文法 10-12	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第５回	対面	１．小テスト ２．文法 unit03 文法 19-21	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第６回	対面	１．小テスト ２．文法 unit03 文法 22-25	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第７回	対面	１．小テスト ２．文法 unit03 文法 26-28	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間

第８回	対面	１．小テスト ２．文法 unit03 文法 29-32	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第９回	対面	１．小テスト ２．文法 unit04 文法 33-36	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１０回	対面	１．小テスト ２．文法 unit04 文法 34-37.	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１１回	対面	１．小テスト ２．文法 unit05 文法 38-42	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１２回	対面	１．小テスト ２．文法 unit05 文法 43-45	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１３回	対面	１．小テスト ２．unit06 文法 46-51	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１４回	オンデマンド	中間総括（中間テストに向けた振り返り）	事後学修：中間テストに向けた振り返り問題演習 事前学修：中間テストの準備	2 時間
第１５回	対面	１．小テスト ２．unit06 文法 52-55	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１６回	対面	中間総括（中間テストに向けた振り返り）	事後学修：中間テストに向けた振り返り復習プリント 事前学修：中間テストにむけた準備	2 時間
第１７回	対面	中間テスト	事後学修：授業内での学修項目のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１８回	対面	JLPT 練習問題①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１９回	対面	JLPT 練習問題②	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２０回	対面	JLPT 練習問題③	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２１回	対面	JLPT 練習問題④	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２２回	対面	JLPT 練習問題⑤	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２３回	対面	JLPT 練習問題⑥	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２４回	対面	JLPT 練習問題⑦	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２５回	対面	JLPT 練習問題⑧	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２６回	対面	文法まとめ演習①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間

第２７回	対面	文法まとめ演習②	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２８回	対面	文法まとめ演習③	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２９回	対面	総括（定期試験に向けた振り返り）	事後学修：授業内での学修項目の定期試験にむけた復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、定期試験の準備	2 時間
第３０回	オンデマンド	総括（定期試験に向けた振り返り）	事後学修：定期試験の準備（120 分）	4 時間

科目名	日本語４	開講年度	2025
担当者	橋本　凜	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常的な場面で使われる日本語をある程度理解することができる。		
授業の目的及び概要	本科目は、受講生の日本語レベルに応じて、クラス分けを行い実施する。日本語 V と併せて、きわめて日常的で身近な話題や個人的に関心のある事柄について、自分自身のことについて話せる、他者の助けも借りながら必要な情報を求め、得た情報を活用するということができるようになることを目的としている。そのため、授業では、読む、書く、聞く、話すといったスキルを総合的に向上させると同時に、表現したり読みとるために必要な文法を学修する。大学での学修やひいては大学卒業後に日本での就労も視野に入れ、継続的に日本語を学修する上での基礎を築く。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①非常によく用いられる、日常的、もしくは仕事関連の言葉で書かれた、具体的で身近な事柄なら、短い簡単なテクストが理解できる。 ②「そして」「しかし」「なぜなら」などの簡単な接続詞でつなげた、家族、生活環境、学歴、現在または最近の仕事について、簡単な句や文を連ねて書くことができる。 ③もし必要がある場合に相手が助けてくれれば、予め決まっているような状況、短い会話でなら、比較的容易に対話ができる。余り苦労しなくても日常での簡単なやり取りができる。予測可能な日常の状況ならば、身近な話題についての考えや情報を交換し、質問に答えることができる。 ④ゆっくりとはっきりと話されれば、具体的で身近な話題や最も直接的な話題（自分・家族・買い物・地理・仕事）など予測可能な日常の事柄に関する句や表現を聞いて理解し、必要な情報を取り出すことができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	適宜授業内でフィードバックを実施する		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスによって使用する教科書が異なります。購入する際は、間違えないように気を付けてください。 【１クラス】 ①テーマ別仲間とわいわい学ぶ日本語［A2+~B1］ ②キクタン日本語 日本語能力試験 N3 【２クラス】 ①テーマ別仲間とわいわい学ぶ日本語［A2+~B1］ ②キクタン日本語 日本語能力試験 N3 【３クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳 【４クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳	ISBN	【１クラス】 ①978-4327384913 ②978-4757428577 【２クラス】 ①978-4327384913 ②978-4757428577 【３クラス】 ①978-4757418905 ②978-4757420526 【４クラス】 ①978-4757418905 ②978-4757420526 【５クラス】 ①978-4757418905 ②978-4757420526

	【５クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳 【６クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳 【７クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳		【６クラス】 ①978-4757418905 ②978-4757420526 【７クラス】 ①978-475741890
参考書	—	ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	5
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	30
	その他（%）	30
	その他の内容	①JLPT 受験 18% ②ハーフ模試（５月実施）7% ③宿題 13%
この科目の受講にあたって	文法の規則を覚えたり、書かれているものを見てわかるるだけでは外国語で交流できるようになりません。話すためには、文法や言葉を知っていて、それを使う方法も知っていることが必要です。授業で学んだことを、授業外でも積極的に使ってみましょう。 また、中間テストが学期中に１回ある。確実に日々の学修を行い、小テスト、課題、中間・定期テストで点数を取ることが科目合格につながります。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス 授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事後学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	1.5 時間
第２回	対面	１．小テスト ２．文法 unit01 文法 1-3	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第３回	対面	１．小テスト ２．文法 unit01 文法 7・8 unit02 文法 9	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第４回	対面	１．小テスト ２．文法 unit02 文法 10-12	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第５回	対面	１．小テスト ２．文法 unit03 文法 19-21	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第６回	対面	１．小テスト ２．文法 unit03 文法 22-25	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第７回	対面	１．小テスト ２．文法 unit03 文法 26-28	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間

第８回	対面	１．小テスト ２．文法 unit03 文法 29-32	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第９回	対面	１．小テスト ２．文法 unit04 文法 33-36	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１０回	対面	１．小テスト ２．文法 unit04 文法 34-37.	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１１回	対面	１．小テスト ２．文法 unit05 文法 38-42	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１２回	対面	１．小テスト ２．文法 unit05 文法 43-45	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１３回	対面	１．小テスト ２．unit06 文法 46-51	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１４回	オンデマンド	中間総括（中間テストに向けた振り返り）	事後学修：中間テストに向けた振り返り問題演習 事前学修：中間テストの準備	2 時間
第１５回	対面	１．小テスト ２．unit06 文法 52-55	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１６回	対面	中間総括（中間テストに向けた振り返り）	事後学修：中間テストに向けた振り返り復習プリント 事前学修：中間テストにむけた準備	2 時間
第１７回	対面	中間テスト	事後学修：授業内での学修項目のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１８回	対面	JLPT 練習問題①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１９回	対面	JLPT 練習問題②	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２０回	対面	JLPT 練習問題③	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２１回	対面	JLPT 練習問題④	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２２回	対面	JLPT 練習問題⑤	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２３回	対面	JLPT 練習問題⑥	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２４回	対面	JLPT 練習問題⑦	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２５回	対面	JLPT 練習問題⑧	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２６回	対面	文法まとめ演習①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間

第２７回	対面	文法まとめ演習②	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２８回	対面	文法まとめ演習③	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２９回	対面	総括（定期試験に向けた振り返り）	事後学修：授業内での学修項目の定期試験にむけた復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、定期試験の準備	2 時間
第３０回	オンデマンド	総括（定期試験に向けた振り返り）	事後学修：定期試験の準備（120 分）	4 時間

科目名	日本語４	開講年度	2025
担当者	片岡　浩史	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常的な場面で使われる日本語をある程度理解することができる。		
授業の目的及び概要	本科目は、受講生の日本語レベルに応じて、クラス分けを行い実施する。日本語 V と併せて、きわめて日常的で身近な話題や個人的に関心のある事柄について、自分自身のことについて話せる、他者の助けも借りながら必要な情報を求め、得た情報を活用するということができるようになることを目的としている。そのため、授業では、読む、書く、聞く、話すといったスキルを総合的に向上させると同時に、表現したり読みとるために必要な文法を学修する。大学での学修やひいては大学卒業後に日本での就労も視野に入れ、継続的に日本語を学修する上での基礎を築く。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①非常によく用いられる、日常的、もしくは仕事関連の言葉で書かれた、具体的で身近な事柄なら、短い簡単なテクストが理解できる。 ②「そして」「しかし」「なぜなら」などの簡単な接続詞でつなげた、家族、生活環境、学歴、現在または最近の仕事について、簡単な句や文を連ねて書くことができる。 ③もし必要がある場合に相手が助けてくれれば、予め決まっているような状況、短い会話でなら、比較的容易に対話ができる。余り苦労しなくても日常での簡単なやり取りができる。予測可能な日常の状況ならば、身近な話題についての考えや情報を交換し、質問に答えることができる。 ④ゆっくりとはっきりと話されれば、具体的で身近な話題や最も直接的な話題（自分・家族・買い物・地理・仕事）など予測可能な日常の事柄に関する句や表現を聞いて理解し、必要な情報を取り出すことができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	適宜授業内でフィードバックを実施する		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスによって使用する教科書が異なります。購入する際は、間違えないように気を付けてください。 【１クラス】 ①テーマ別仲間とわいわい学ぶ日本語［A2+~B1］ ②キクタン日本語 日本語能力試験 N3 【２クラス】 ①テーマ別仲間とわいわい学ぶ日本語［A2+~B1］ ②キクタン日本語 日本語能力試験 N3 【３クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳 【４クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳	ISBN	【１クラス】 ①978-4327384913 ②978-4757428577 【２クラス】 ①978-4327384913 ②978-4757428577 【３クラス】 ①978-4757418905 ②978-4757420526 【４クラス】 ①978-4757418905 ②978-4757420526 【５クラス】 ①978-4757418905 ②978-4757420526

	【５クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳 【６クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳 【７クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳		【６クラス】 ①978-4757418905 ②978-4757420526 【７クラス】 ①978-475741890
参考書	—	ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	5
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	30
	その他（%）	30
	その他の内容	①JLPT 受験 18% ②ハーフ模試（５月実施）7% ③宿題 13%
この科目の受講にあたって	文法の規則を覚えたり、書かれているものを見てわかるるだけでは外国語で交流できるようになりません。話すためには、文法や言葉を知っていて、それを使う方法も知っていることが必要です。授業で学んだことを、授業外でも積極的に使ってみましょう。 また、中間テストが学期中に１回ある。確実に日々の学修を行い、小テスト、課題、中間・定期テストで点数を取ることが科目合格につながります。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス 授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事後学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	1.5 時間
第２回	対面	１．小テスト ２．文法 unit01 文法 1-3	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第３回	対面	１．小テスト ２．文法 unit01 文法 7・8 unit02 文法 9	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第４回	対面	１．小テスト ２．文法 unit02 文法 10-12	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第５回	対面	１．小テスト ２．文法 unit03 文法 19-21	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第６回	対面	１．小テスト ２．文法 unit03 文法 22-25	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第７回	対面	１．小テスト ２．文法 unit03 文法 26-28	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間

第８回	対面	１．小テスト ２．文法 unit03 文法 29-32	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第９回	対面	１．小テスト ２．文法 unit04 文法 33-36	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１０回	対面	１．小テスト ２．文法 unit04 文法 34-37.	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１１回	対面	１．小テスト ２．文法 unit05 文法 38-42	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１２回	対面	１．小テスト ２．文法 unit05 文法 43-45	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１３回	対面	１．小テスト ２．unit06 文法 46-51	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１４回	オンデマンド	中間総括（中間テストに向けた振り返り）	事後学修：中間テストに向けた振り返り問題演習 事前学修：中間テストの準備	2 時間
第１５回	対面	１．小テスト ２．unit06 文法 52-55	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１６回	対面	中間総括（中間テストに向けた振り返り）	事後学修：中間テストに向けた振り返り復習プリント 事前学修：中間テストにむけた準備	2 時間
第１７回	対面	中間テスト	事後学修：授業内での学修項目のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１８回	対面	JLPT 練習問題①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１９回	対面	JLPT 練習問題②	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２０回	対面	JLPT 練習問題③	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２１回	対面	JLPT 練習問題④	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２２回	対面	JLPT 練習問題⑤	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２３回	対面	JLPT 練習問題⑥	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２４回	対面	JLPT 練習問題⑦	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２５回	対面	JLPT 練習問題⑧	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２６回	対面	文法まとめ演習①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間

第２７回	対面	文法まとめ演習②	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２８回	対面	文法まとめ演習③	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２９回	対面	総括（定期試験に向けた振り返り）	事後学修：授業内での学修項目の定期試験にむけた復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、定期試験の準備	2 時間
第３０回	オンデマンド	総括（定期試験に向けた振り返り）	事後学修：定期試験の準備（120 分）	4 時間

科目名	日本語４	開講年度	2025
担当者	ウン　テワンダ	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常的な場面で使われる日本語をある程度理解することができる。		
授業の目的及び概要	本科目は、受講生の日本語レベルに応じて、クラス分けを行い実施する。日本語 V と併せて、きわめて日常的で身近な話題や個人的に関心のある事柄について、自分自身のことについて話せる、他者の助けも借りながら必要な情報を求め、得た情報を活用するということができるようになることを目的としている。そのため、授業では、読む、書く、聞く、話すといったスキルを総合的に向上させると同時に、表現したり読みとるために必要な文法を学修する。大学での学修やひいては大学卒業後に日本での就労も視野に入れ、継続的に日本語を学修する上での基礎を築く。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①非常によく用いられる、日常的、もしくは仕事関連の言葉で書かれた、具体的で身近な事柄なら、短い簡単なテクストが理解できる。 ②「そして」「しかし」「なぜなら」などの簡単な接続詞でつなげた、家族、生活環境、学歴、現在または最近の仕事について、簡単な句や文を連ねて書くことができる。 ③もし必要がある場合に相手が助けてくれれば、予め決まっているような状況、短い会話でなら、比較的容易に対話ができる。余り苦労しなくても日常での簡単なやり取りができる。予測可能な日常の状況ならば、身近な話題についての考えや情報を交換し、質問に答えることができる。 ④ゆっくりとはっきりと話されれば、具体的で身近な話題や最も直接的な話題（自分・家族・買い物・地理・仕事）など予測可能な日常の事柄に関する句や表現を聞いて理解し、必要な情報を取り出すことができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	適宜授業内でフィードバックを実施する		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスによって使用する教科書が異なります。購入する際は、間違えないように気を付けてください。 【１クラス】 ①テーマ別仲間とわいわい学ぶ日本語［A2+~B1］ ②キクタン日本語 日本語能力試験 N3 【２クラス】 ①テーマ別仲間とわいわい学ぶ日本語［A2+~B1］ ②キクタン日本語 日本語能力試験 N3 【３クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳 【４クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳	ISBN	【１クラス】 ①978-4327384913 ②978-4757428577 【２クラス】 ①978-4327384913 ②978-4757428577 【３クラス】 ①978-4757418905 ②978-4757420526 【４クラス】 ①978-4757418905 ②978-4757420526 【５クラス】 ①978-4757418905 ②978-4757420526

	【５クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳 【６クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳 【７クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳		【６クラス】 ①978-4757418905 ②978-4757420526 【７クラス】 ①978-475741890
参考書	—	ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	5
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	30
	その他（%）	30
	その他の内容	①JLPT 受験 18% ②ハーフ模試（５月実施）7% ③宿題 13%
この科目の受講にあたって	文法の規則を覚えたり、書かれているものを見てわかるるだけでは外国語で交流できるようになりません。話すためには、文法や言葉を知っていて、それを使う方法も知っていることが必要です。授業で学んだことを、授業外でも積極的に使ってみましょう。 また、中間テストが学期中に１回ある。確実に日々の学修を行い、小テスト、課題、中間・定期テストで点数を取ることが科目合格につながります。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス 授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事後学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	1.5 時間
第２回	対面	１．小テスト ２．文法 unit01 文法 1-3	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第３回	対面	１．小テスト ２．文法 unit01 文法 7・8 unit02 文法 9	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第４回	対面	１．小テスト ２．文法 unit02 文法 10-12	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第５回	対面	１．小テスト ２．文法 unit03 文法 19-21	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第６回	対面	１．小テスト ２．文法 unit03 文法 22-25	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第７回	対面	１．小テスト ２．文法 unit03 文法 26-28	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間

第８回	対面	１．小テスト ２．文法 unit03 文法 29-32	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第９回	対面	１．小テスト ２．文法 unit04 文法 33-36	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１０回	対面	１．小テスト ２．文法 unit04 文法 34-37.	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１１回	対面	１．小テスト ２．文法 unit05 文法 38-42	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１２回	対面	１．小テスト ２．文法 unit05 文法 43-45	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１３回	対面	１．小テスト ２．unit06 文法 46-51	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１４回	オンデマンド	中間総括（中間テストに向けた振り返り）	事後学修：中間テストに向けた振り返り問題演習 事前学修：中間テストの準備	2 時間
第１５回	対面	１．小テスト ２．unit06 文法 52-55	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１６回	対面	中間総括（中間テストに向けた振り返り）	事後学修：中間テストに向けた振り返り復習プリント 事前学修：中間テストにむけた準備	2 時間
第１７回	対面	中間テスト	事後学修：授業内での学修項目のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１８回	対面	JLPT 練習問題①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１９回	対面	JLPT 練習問題②	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２０回	対面	JLPT 練習問題③	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２１回	対面	JLPT 練習問題④	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２２回	対面	JLPT 練習問題⑤	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２３回	対面	JLPT 練習問題⑥	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２４回	対面	JLPT 練習問題⑦	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２５回	対面	JLPT 練習問題⑧	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２６回	対面	文法まとめ演習①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間

第２７回	対面	文法まとめ演習②	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２８回	対面	文法まとめ演習③	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２９回	対面	総括（定期試験に向けた振り返り）	事後学修：授業内での学修項目の定期試験にむけた復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、定期試験の準備	2 時間
第３０回	オンデマンド	総括（定期試験に向けた振り返り）	事後学修：定期試験の準備（120 分）	4 時間

科目名	日本語４	開講年度	2025
担当者	馬　花力	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常的な場面で使われる日本語をある程度理解することができる。		
授業の目的及び概要	本科目は、受講生の日本語レベルに応じて、クラス分けを行い実施する。日本語 V と併せて、きわめて日常的で身近な話題や個人的に関心のある事柄について、自分自身のことについて話せる、他者の助けも借りながら必要な情報を求め、得た情報を活用するということができるようになることを目的としている。そのため、授業では、読む、書く、聞く、話すといったスキルを総合的に向上させると同時に、表現したり読みとるために必要な文法を学修する。大学での学修やひいては大学卒業後に日本での就労も視野に入れ、継続的に日本語を学修する上での基礎を築く。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①非常によく用いられる、日常的、もしくは仕事関連の言葉で書かれた、具体的で身近な事柄なら、短い簡単なテクストが理解できる。 ②「そして」「しかし」「なぜなら」などの簡単な接続詞でつなげた、家族、生活環境、学歴、現在または最近の仕事について、簡単な句や文を連ねて書くことができる。 ③もし必要がある場合に相手が助けてくれれば、予め決まっているような状況、短い会話でなら、比較的容易に対話ができる。余り苦労しなくても日常での簡単なやり取りができる。予測可能な日常の状況ならば、身近な話題についての考えや情報を交換し、質問に答えることができる。 ④ゆっくりとはっきりと話されれば、具体的で身近な話題や最も直接的な話題（自分・家族・買い物・地理・仕事）など予測可能な日常の事柄に関する句や表現を聞いて理解し、必要な情報を取り出すことができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	適宜授業内でフィードバックを実施する		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスによって使用する教科書が異なります。購入する際は、間違えないように気を付けてください。 【１クラス】 ①テーマ別仲間とわいわい学ぶ日本語［A2+~B1］ ②キクタン日本語 日本語能力試験 N3 【２クラス】 ①テーマ別仲間とわいわい学ぶ日本語［A2+~B1］ ②キクタン日本語 日本語能力試験 N3 【３クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳 【４クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳	ISBN	【１クラス】 ①978-4327384913 ②978-4757428577 【２クラス】 ①978-4327384913 ②978-4757428577 【３クラス】 ①978-4757418905 ②978-4757420526 【４クラス】 ①978-4757418905 ②978-4757420526 【５クラス】 ①978-4757418905 ②978-4757420526

	【５クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳 【６クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳 【７クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳		【６クラス】 ①978-4757418905 ②978-4757420526 【７クラス】 ①978-475741890
参考書	—	ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	5
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	30
	その他（%）	30
	その他の内容	①JLPT 受験 18% ②ハーフ模試（５月実施）7% ③宿題 13%
この科目の受講にあたって	文法の規則を覚えたり、書かれているものを見てわかるるだけでは外国語で交流できるようになりません。話すためには、文法や言葉を知っていて、それを使う方法も知っていることが必要です。授業で学んだことを、授業外でも積極的に使ってみましょう。 また、中間テストが学期中に１回ある。確実に日々の学修を行い、小テスト、課題、中間・定期テストで点数を取ることが科目合格につながります。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス 授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事後学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	1.5 時間
第２回	対面	１．小テスト ２．文法 unit01 文法 1-3	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第３回	対面	１．小テスト ２．文法 unit01 文法 7・8 unit02 文法 9	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第４回	対面	１．小テスト ２．文法 unit02 文法 10-12	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第５回	対面	１．小テスト ２．文法 unit03 文法 19-21	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第６回	対面	１．小テスト ２．文法 unit03 文法 22-25	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第７回	対面	１．小テスト ２．文法 unit03 文法 26-28	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間

第８回	対面	１．小テスト ２．文法 unit03 文法 29-32	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第９回	対面	１．小テスト ２．文法 unit04 文法 33-36	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１０回	対面	１．小テスト ２．文法 unit04 文法 34-37.	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１１回	対面	１．小テスト ２．文法 unit05 文法 38-42	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１２回	対面	１．小テスト ２．文法 unit05 文法 43-45	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１３回	対面	１．小テスト ２．unit06 文法 46-51	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１４回	オンデマンド	中間総括（中間テストに向けた振り返り）	事後学修：中間テストに向けた振り返り問題演習 事前学修：中間テストの準備	2 時間
第１５回	対面	１．小テスト ２．unit06 文法 52-55	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１６回	対面	中間総括（中間テストに向けた振り返り）	事後学修：中間テストに向けた振り返り復習プリント 事前学修：中間テストにむけた準備	2 時間
第１７回	対面	中間テスト	事後学修：授業内での学修項目のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１８回	対面	JLPT 練習問題①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１９回	対面	JLPT 練習問題②	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２０回	対面	JLPT 練習問題③	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２１回	対面	JLPT 練習問題④	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２２回	対面	JLPT 練習問題⑤	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２３回	対面	JLPT 練習問題⑥	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２４回	対面	JLPT 練習問題⑦	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２５回	対面	JLPT 練習問題⑧	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２６回	対面	文法まとめ演習①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間

第２７回	対面	文法まとめ演習②	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２８回	対面	文法まとめ演習③	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２９回	対面	総括（定期試験に向けた振り返り）	事後学修：授業内での学修項目の定期試験にむけた復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、定期試験の準備	2 時間
第３０回	オンデマンド	総括（定期試験に向けた振り返り）	事後学修：定期試験の準備（120 分）	4 時間

科目名	日本語４	開講年度	2025
担当者	柳　東汶	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常的な場面で使われる日本語をある程度理解することができる。		
授業の目的及び概要	本科目は、受講生の日本語レベルに応じて、クラス分けを行い実施する。日本語 V と併せて、きわめて日常的で身近な話題や個人的に関心のある事柄について、自分自身のことについて話せる、他者の助けも借りながら必要な情報を求め、得た情報を活用するということができるようになることを目的としている。そのため、授業では、読む、書く、聞く、話すといったスキルを総合的に向上させると同時に、表現したり読みとるために必要な文法を学修する。大学での学修やひいては大学卒業後に日本での就労も視野に入れ、継続的に日本語を学修する上での基礎を築く。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①非常によく用いられる、日常的、もしくは仕事関連の言葉で書かれた、具体的で身近な事柄なら、短い簡単なテクストが理解できる。 ②「そして」「しかし」「なぜなら」などの簡単な接続詞でつなげた、家族、生活環境、学歴、現在または最近の仕事について、簡単な句や文を連ねて書くことができる。 ③もし必要がある場合に相手が助けてくれれば、予め決まっているような状況、短い会話でなら、比較的容易に対話ができる。余り苦労しなくても日常での簡単なやり取りができる。予測可能な日常の状況ならば、身近な話題についての考えや情報を交換し、質問に答えることができる。 ④ゆっくりとはっきりと話されれば、具体的で身近な話題や最も直接的な話題（自分・家族・買い物・地理・仕事）など予測可能な日常の事柄に関する句や表現を聞いて理解し、必要な情報を取り出すことができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	適宜授業内でフィードバックを実施する		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスによって使用する教科書が異なります。購入する際は、間違えないように気を付けてください。 【１クラス】 ①テーマ別仲間とわいわい学ぶ日本語［A2+~B1］ ②キクタン日本語 日本語能力試験 N3 【２クラス】 ①テーマ別仲間とわいわい学ぶ日本語［A2+~B1］ ②キクタン日本語 日本語能力試験 N3 【３クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳 【４クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳	ISBN	【１クラス】 ①978-4327384913 ②978-4757428577 【２クラス】 ①978-4327384913 ②978-4757428577 【３クラス】 ①978-4757418905 ②978-4757420526 【４クラス】 ①978-4757418905 ②978-4757420526 【５クラス】 ①978-4757418905 ②978-4757420526

	【５クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳 【６クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳 【７クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳		【６クラス】 ①978-4757418905 ②978-4757420526 【７クラス】 ①978-475741890
参考書	—	ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	5
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	30
	その他（%）	30
	その他の内容	①JLPT 受験 18% ②ハーフ模試（５月実施）7% ③宿題 13%
この科目の受講にあたって	文法の規則を覚えたり、書かれているものを見てわかるるだけでは外国語で交流できるようになりません。話すためには、文法や言葉を知っていて、それを使う方法も知っていることが必要です。授業で学んだことを、授業外でも積極的に使ってみましょう。 また、中間テストが学期中に１回ある。確実に日々の学修を行い、小テスト、課題、中間・定期テストで点数を取ることが科目合格につながります。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス 授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事後学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	1.5 時間
第２回	対面	１．小テスト ２．文法 unit01 文法 1-3	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第３回	対面	１．小テスト ２．文法 unit01 文法 7・8 unit02 文法 9	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第４回	対面	１．小テスト ２．文法 unit02 文法 10-12	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第５回	対面	１．小テスト ２．文法 unit03 文法 19-21	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第６回	対面	１．小テスト ２．文法 unit03 文法 22-25	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第７回	対面	１．小テスト ２．文法 unit03 文法 26-28	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間

第８回	対面	１．小テスト ２．文法 unit03 文法 29-32	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第９回	対面	１．小テスト ２．文法 unit04 文法 33-36	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１０回	対面	１．小テスト ２．文法 unit04 文法 34-37.	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１１回	対面	１．小テスト ２．文法 unit05 文法 38-42	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１２回	対面	１．小テスト ２．文法 unit05 文法 43-45	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１３回	対面	１．小テスト ２．unit06 文法 46-51	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１４回	オンデマンド	中間総括（中間テストに向けた振り返り）	事後学修：中間テストに向けた振り返り問題演習 事前学修：中間テストの準備	2 時間
第１５回	対面	１．小テスト ２．unit06 文法 52-55	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１６回	対面	中間総括（中間テストに向けた振り返り）	事後学修：中間テストに向けた振り返り復習プリント 事前学修：中間テストにむけた準備	2 時間
第１７回	対面	中間テスト	事後学修：授業内での学修項目のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１８回	対面	JLPT 練習問題①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１９回	対面	JLPT 練習問題②	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２０回	対面	JLPT 練習問題③	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２１回	対面	JLPT 練習問題④	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２２回	対面	JLPT 練習問題⑤	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２３回	対面	JLPT 練習問題⑥	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２４回	対面	JLPT 練習問題⑦	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２５回	対面	JLPT 練習問題⑧	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２６回	対面	文法まとめ演習①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間

第２７回	対面	文法まとめ演習②	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２８回	対面	文法まとめ演習③	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２９回	対面	総括（定期試験に向けた振り返り）	事後学修：授業内での学修項目の定期試験にむけた復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、定期試験の準備	2 時間
第３０回	オンデマンド	総括（定期試験に向けた振り返り）	事後学修：定期試験の準備（120 分）	4 時間

科目名	日本語４	開講年度	2025
担当者	李　光曦	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常的な場面で使われる日本語をある程度理解することができる。		
授業の目的及び概要	本科目は、受講生の日本語レベルに応じて、クラス分けを行い実施する。日本語 V と併せて、きわめて日常的で身近な話題や個人的に関心のある事柄について、自分自身のことについて話せる、他者の助けも借りながら必要な情報を求め、得た情報を活用するということができるようになることを目的としている。そのため、授業では、読む、書く、聞く、話すといったスキルを総合的に向上させると同時に、表現したり読みとるために必要な文法を学修する。大学での学修やひいては大学卒業後に日本での就労も視野に入れ、継続的に日本語を学修する上での基礎を築く。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①非常によく用いられる、日常的、もしくは仕事関連の言葉で書かれた、具体的で身近な事柄なら、短い簡単なテクストが理解できる。 ②「そして」「しかし」「なぜなら」などの簡単な接続詞でつなげた、家族、生活環境、学歴、現在または最近の仕事について、簡単な句や文を連ねて書くことができる。 ③もし必要がある場合に相手が助けてくれれば、予め決まっているような状況、短い会話でなら、比較的容易に対話ができる。余り苦労しなくても日常での簡単なやり取りができる。予測可能な日常の状況ならば、身近な話題についての考えや情報を交換し、質問に答えることができる。 ④ゆっくりとはっきりと話されれば、具体的で身近な話題や最も直接的な話題（自分・家族・買い物・地理・仕事）など予測可能な日常の事柄に関する句や表現を聞いて理解し、必要な情報を取り出すことができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	適宜授業内でフィードバックを実施する		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスによって使用する教科書が異なります。購入する際は、間違えないように気を付けてください。 【１クラス】 ①テーマ別仲間とわいわい学ぶ日本語［A2+~B1］ ②キクタン日本語 日本語能力試験 N3 【２クラス】 ①テーマ別仲間とわいわい学ぶ日本語［A2+~B1］ ②キクタン日本語 日本語能力試験 N3 【３クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳 【４クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳	ISBN	【１クラス】 ①978-4327384913 ②978-4757428577 【２クラス】 ①978-4327384913 ②978-4757428577 【３クラス】 ①978-4757418905 ②978-4757420526 【４クラス】 ①978-4757418905 ②978-4757420526 【５クラス】 ①978-4757418905 ②978-4757420526

	【５クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳 【６クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳 【７クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳		【６クラス】 ①978-4757418905 ②978-4757420526 【７クラス】 ①978-475741890
参考書	—	ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	5
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	30
	その他（%）	30
	その他の内容	①JLPT 受験 18% ②ハーフ模試（５月実施）7% ③宿題 13%
この科目の受講にあたって	文法の規則を覚えたり、書かれているものを見てわかるるだけでは外国語で交流できるようになりません。話すためには、文法や言葉を知っていて、それを使う方法も知っていることが必要です。授業で学んだことを、授業外でも積極的に使ってみましょう。 また、中間テストが学期中に１回ある。確実に日々の学修を行い、小テスト、課題、中間・定期テストで点数を取ることが科目合格につながります。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス 授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事後学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	1.5 時間
第２回	対面	１．小テスト ２．文法 unit01 文法 1-3	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第３回	対面	１．小テスト ２．文法 unit01 文法 7・8 unit02 文法 9	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第４回	対面	１．小テスト ２．文法 unit02 文法 10-12	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第５回	対面	１．小テスト ２．文法 unit03 文法 19-21	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第６回	対面	１．小テスト ２．文法 unit03 文法 22-25	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第７回	対面	１．小テスト ２．文法 unit03 文法 26-28	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間

第８回	対面	１．小テスト ２．文法 unit03 文法 29-32	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第９回	対面	１．小テスト ２．文法 unit04 文法 33-36	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１０回	対面	１．小テスト ２．文法 unit04 文法 34-37.	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１１回	対面	１．小テスト ２．文法 unit05 文法 38-42	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１２回	対面	１．小テスト ２．文法 unit05 文法 43-45	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１３回	対面	１．小テスト ２．unit06 文法 46-51	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１４回	オンデマンド	中間総括（中間テストに向けた振り返り）	事後学修：中間テストに向けた振り返り問題演習 事前学修：中間テストの準備	2 時間
第１５回	対面	１．小テスト ２．unit06 文法 52-55	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１６回	対面	中間総括（中間テストに向けた振り返り）	事後学修：中間テストに向けた振り返り復習プリント 事前学修：中間テストにむけた準備	2 時間
第１７回	対面	中間テスト	事後学修：授業内での学修項目のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１８回	対面	JLPT 練習問題①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１９回	対面	JLPT 練習問題②	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２０回	対面	JLPT 練習問題③	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２１回	対面	JLPT 練習問題④	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２２回	対面	JLPT 練習問題⑤	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２３回	対面	JLPT 練習問題⑥	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２４回	対面	JLPT 練習問題⑦	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２５回	対面	JLPT 練習問題⑧	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２６回	対面	文法まとめ演習①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間

第２７回	対面	文法まとめ演習②	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２８回	対面	文法まとめ演習③	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２９回	対面	総括（定期試験に向けた振り返り）	事後学修：授業内での学修項目の定期試験にむけた復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、定期試験の準備	2 時間
第３０回	オンデマンド	総括（定期試験に向けた振り返り）	事後学修：定期試験の準備（120 分）	4 時間

科目名	日本語４	開講年度	2025
担当者	馬　花力	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常的な場面で使われる日本語をある程度理解することができる。		
授業の目的及び概要	本科目は、受講生の日本語レベルに応じて、クラス分けを行い実施する。日本語 V と併せて、きわめて日常的で身近な話題や個人的に関心のある事柄について、自分自身のことについて話せる、他者の助けも借りながら必要な情報を求め、得た情報を活用するということができるようになることを目的としている。そのため、授業では、読む、書く、聞く、話すといったスキルを総合的に向上させると同時に、表現したり読みとるために必要な文法を学修する。大学での学修やひいては大学卒業後に日本での就労も視野に入れ、継続的に日本語を学修する上での基礎を築く。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①非常によく用いられる、日常的、もしくは仕事関連の言葉で書かれた、具体的で身近な事柄なら、短い簡単なテクストが理解できる。 ②「そして」「しかし」「なぜなら」などの簡単な接続詞でつなげた、家族、生活環境、学歴、現在または最近の仕事について、簡単な句や文を連ねて書くことができる。 ③もし必要がある場合に相手が助けてくれれば、予め決まっているような状況、短い会話でなら、比較的容易に対話ができる。余り苦労しなくても日常での簡単なやり取りができる。予測可能な日常の状況ならば、身近な話題についての考えや情報を交換し、質問に答えることができる。 ④ゆっくりとはっきりと話されれば、具体的で身近な話題や最も直接的な話題（自分・家族・買い物・地理・仕事）など予測可能な日常の事柄に関する句や表現を聞いて理解し、必要な情報を取り出すことができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	適宜授業内でフィードバックを実施する		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスによって使用するテキストが異なります。第一回目のガイダンス等で案内しますので、購入の際は間違えないように気を付けてください。 ①クラス　友松 悦子(2010)『どんな時どう使う日本語表現 500 改訂版』アルク 友松 悦子(2011)『改定版 どんな時どう使う日本語表現 500　短文完成練習帳』アルク ②クラス　友松 悦子(2010)『どんな時どう使う日本語表現 500 改訂版』アルク 友松 悦子(2011)『改定版 どんな時どう使う日本語表現 500　短文完成練習帳』アルク ③クラス　目黒真実 (2009) 友松 悦子(2010)『どんな時どう使う日本語表現 500 改訂版』アルク 友松 悦子(2011)『改定版 どんな時どう使う日本語表現 500　短文完成練習帳』アルク ④クラス　目黒真実 (2010) 友松 悦子(2010)『どんな	ISBN	ISBN ①978-4757418905 978-4757420526 ②978-4757418905 978-4757420526 ③978-4757418905 978-4757420526 ④978-4757418905 978-4757420526 ⑤978-4893588173

	時どう使う日本語表現 500 改訂版』アルク 友松 悦子(2011)『改定版 どんな時どう使う日本語表現 500　短文完成練習帳』アルク ⑤クラス　独立行政法人国際交流基金(2012)『日本語能力試験公式問題集 N1 』凡人社 そのほかプリント配布		
参考書	—	ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	5
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	30
	その他（%）	30
	その他の内容	①JLPT 受験 10% ②ハーフ模試（５月実施）7% ③宿題 13%
この科目の受講にあたって	文法の規則を覚えたり、書かれているものを見てわかるるだけでは外国語で交流できるようになりません。話すためには、文法や言葉を知っていて、それを使う方法も知っていることが必要です。授業で学んだことを、授業外でも積極的に使ってみましょう。 また、中間テストが学期中に１回ある。確実に日々の学修を行い、小テスト、課題、中間・定期テストで点数を取ることが科目合格につながります。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	オンデマンド	ガイダンス 授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事後学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	1.5 時間
第２回	オンデマンド	１．小テスト ２．文法 unit01 文法 1-3	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第３回	オンデマンド	１．小テスト ２．文法 unit01 文法 7・8 unit02 文法 9	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第４回	オンデマンド	１．小テスト ２．文法 unit02 文法 10-12	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第５回	オンデマンド	１．小テスト ２．文法 unit03 文法 19-21	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第６回	オンデマンド	１．小テスト ２．文法 unit03 文法 22-25	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第７回	オンデマンド	１．小テスト ２．文法 unit03 文法 26-28	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第８回	オンデマンド	１．小テスト ２．文法 unit03 文法 29-32	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第９回	オンデマンド	１．小テスト ２．文法 unit04 文法 33-36	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間

第１０回	オンデマンド	１．小テスト ２．文法 unit04 文法 34-37.	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１１回	オンデマンド	１．小テスト ２．文法 unit05 文法 38-42	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１２回	オンデマンド	１．小テスト ２．文法 unit05 文法 43-45	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１３回	オンデマンド	１．小テスト ２．unit06 文法 46-51	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１４回	オンデマンド	中間総括（中間テストに向けた振り返り）	事後学修：中間テストに向けた振り返り問題演習 事前学修：中間テストの準備	2 時間
第１５回	オンデマンド	１．小テスト ２．unit06 文法 52-55	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１６回	オンデマンド	中間総括（中間テストに向けた振り返り）	事後学修：中間テストに向けた振り返り復習プリント 事前学修：中間テストにむけた準備	2 時間
第１７回	オンデマンド	中間テスト	事後学修：授業内での学修項目のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１８回	オンデマンド	JLPT 練習問題①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１９回	オンデマンド	JLPT 練習問題②	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２０回	オンデマンド	JLPT 練習問題③	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２１回	オンデマンド	JLPT 練習問題④	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２２回	オンデマンド	JLPT 練習問題⑤	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２３回	オンデマンド	JLPT 練習問題⑥	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２４回	オンデマンド	JLPT 練習問題⑦	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２５回	オンデマンド	JLPT 練習問題⑧	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２６回	オンデマンド	文法まとめ演習①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２７回	オンデマンド	文法まとめ演習②	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２８回	オンデマンド	文法まとめ演習③	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間

第２９回	オンデマンド	総括（定期試験に向けた振り返り）	事後学修：授業内での学修項目の定期試験にむけた復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、定期試験の準備	2 時間
第３０回	オンデマンド	総括（定期試験に向けた振り返り）	事後学修：定期試験の準備（120 分）	4 時間

科目名	日本語５	開講年度	2025
担当者	赤城　永里子	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、幅広い場面で使われる日本語への理解を目指す。		
授業の目的及び概要	本科目は、JLPT N2 以上を目指す学修者を対象に、レベル別のクラスで、より高度な日本語の運用能力を養成することを目的とする。日本語６での学修と合わせて、大学での専門学修やひいては大学卒業後に日本での就労も視野に入れ、専門分野の書籍の講読や、議論への参加が可能になることを目指し、本科目では①幅広い話題について書かれた新聞や雑誌の記事・解説など、論旨が明快な文章を読んで文章の内容を理解する、②一般的な話題に関する読み物を読んで、話の流れや表現意図を理解する、③読んだものを通して持った自身の意見を、他者に明瞭に伝える等の学修をとおして、「読む・話す・書く」の受容・産出・やりとり能力を向上させる。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は以下のとおりである。 ①適切な参考資料を選択して使いながら、様々な目的やテクストの種類に合わせて、読むスピード、読み方を変えながら独力でかなりのところまで読み解ける。 ②記述とプレゼンテーションを明確かつ体系的に展開できる。要点を見失わずに、関連する詳細情報を付け加えて、内容を補足できる。 ③いろいろな情報や議論をまとめて評価した上で、自分の関心がある専門分野の多様な話題について明瞭で詳細なテクストを書くことができる。 ④一般的、学術的、職業上、もしくは余暇に関する幅広い話題について、流暢に、正確に、そして効果的に言葉を使うことができ、考えと考えの間の関係をはっきりさせることができる。言いたいことが表現できない様子もまずなく、文法も正確でその場にふさわしい丁寧さで自然にコミュニケーションできる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	中間テスト実施後には授業内でフィードバックを行う。 また、提出された宿題は添削をして返却する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスによって使用する教科書が異なります。購入する際は、間違えないように気を付けてください。 【１クラス】 ①日本語 N2 文法・読解まるごとマスター(日本語能力試験・日本留学試験読解対策シリーズ)，水谷信子他，J リサーチ出版，2018 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N2，前坊 香菜子他，アルク，2016 【２クラス】 ①日本語 N2 文法・読解まるごとマスター(日本語能力試験・日本留学試験読解対策シリーズ)，水谷信子他，J リサーチ出版，2018 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N2，前坊 香菜子他，アルク，2016 【３クラス】	ISBN	【１クラス】 ①978-4863923959 ②978-4757428560 【２クラス】 ①978-4863923959 ②978-4757428560 【３クラス】 ①978-4863923959 ②978-4757428560 【４クラス】 ①978-4863922495 ②978-4757433557 【５クラス】 ①978-4863922495

	①日本語 N2 文法・読解まるごとマスター(日本語能力試験・日本留学試験読解対策シリーズ)，水谷信子他，J リサーチ出版，2018 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N2，前坊 香菜子他，アルク，2016 【４クラス】 ①日本語能力試験 N1 読解 必修パターン（日本語能力試験必修パターンシリーズ)，氏原 庸子他，J リサーチ出版，2015 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N1，前坊 香菜子他，アルク，2019 【５クラス】 ①日本語能力試験 N1 読解 必修パターン（日本語能力試験必修パターンシリーズ)，氏原 庸子他，J リサーチ出版，2015 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N1，前坊 香菜子他，アルク，2019 【６クラス】 ①日本語能力試験 N1 読解 必修パターン（日本語能力試験必修パターンシリーズ)，氏原 庸子他，J リサーチ出版，2015 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N1，前坊 香菜子他，アルク，2019		②978-4757433557 【６クラス】 ①978-4863922495 ②978-4757433557
参考書	なし	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	5
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	60
	その他の内容	宿題：13% 期末復習テスト：30% JLPT：10% ハーフ模試/実力テスト：7%
この科目の受講にあたって	授業の到達目標を参考にして、自らの学修計画を作成しましょう。その際 JLPT の受験を必ず目標に入れ、7 月と 12 月の JLPT 試験を必ず受験しましょう。また、授業には必ず出席し「能動的に」受講してください。予習・復習は必須です。 また、テストだけではなく、確実に日々の学修を行い、小テスト、課題で点数を取ることが科目合格につながります。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス 語彙アセスメントテストの実施	事前学修：アセスメントテストの準備、次回授業内容についての宿題、小テストの準備	1 時間
第２回	対面	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第３回	対面	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間

第４回	対面	１．小テスト ２．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第５回	対面	１．小テスト ２．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第６回	対面	１．小テスト ２．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第７回	対面	１．小テスト ２．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第８回	対面	１．小テスト ２．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第９回	対面	１．小テスト ２．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１０回	対面	１．小テスト ２．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１１回	対面	１．小テスト ２．中間テストのための振り返り①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１２回	オンデマンド	１．小テスト ２．中間テストのための振り返り②	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１３回	対面	中間テストの実施	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１４回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	4 時間
第１５回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１６回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事前学修：中間テストに向けた学修	2 時間
第１７回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１８回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１９回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２０回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	2 時間
第２１回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備 確認テストの学修	2 時間
第２２回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２３回	対面	１．小テスト	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント	2 時間

		2．JLPT 練習問題	事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	
第２４回	対面	1．小テスト 2．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２５回	対面	1．小テスト 2．聴解・ディスカッション・ミニレポート	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２６回	対面	1．小テスト 2．聴解・ディスカッション・ミニレポート	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備 確認テストのための学修	2 時間
第２７回	対面	1．小テスト 2．聴解・ディスカッション・ミニレポート	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２８回	対面	1．小テスト 2．学期末復習テストの振り返り①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２９回	オンデマンド	学期末復習テストの振り返り②	事前学修：学期末復習テストの準備	4 時間
第３０回	対面	学期末復習テスト	事前学習：学期末復習テストに向けた勉強	4 時間

科目名	日本語５	開講年度	2025
担当者	井ノ口　智佳	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、幅広い場面で使われる日本語への理解を目指す。		
授業の目的及び概要	本科目は、JLPT N2 以上を目指す学修者を対象に、レベル別のクラスで、より高度な日本語の運用能力を養成することを目的とする。日本語６での学修と合わせて、大学での専門学修やひいては大学卒業後に日本での就労も視野に入れ、専門分野の書籍の講読や、議論への参加が可能になることを目指し、本科目では①幅広い話題について書かれた新聞や雑誌の記事・解説など、論旨が明快な文章を読んで文章の内容を理解する、②一般的な話題に関する読み物を読んで、話の流れや表現意図を理解する、③読んだものを通して持った自身の意見を、他者に明瞭に伝える等の学修をとおして、「読む・話す・書く」の受容・産出・やりとり能力を向上させる。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は以下のとおりである。 ①適切な参考資料を選択して使いながら、様々な目的やテクストの種類に合わせて、読むスピード、読み方を変えながら独力でかなりのところまで読み解ける。 ②記述とプレゼンテーションを明確かつ体系的に展開できる。要点を見失わずに、関連する詳細情報を付け加えて、内容を補足できる。 ③いろいろな情報や議論をまとめて評価した上で、自分の関心がある専門分野の多様な話題について明瞭で詳細なテクストを書くことができる。 ④一般的、学術的、職業上、もしくは余暇に関する幅広い話題について、流暢に、正確に、そして効果的に言葉を使うことができ、考えと考えの間の関係をはっきりさせることができる。言いたいことが表現できない様子もまずなく、文法も正確でその場にふさわしい丁寧さで自然にコミュニケーションできる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	中間テスト実施後には授業内でフィードバックを行う。 また、提出された宿題は添削をして返却する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスによって使用する教科書が異なります。購入する際は、間違えないように気を付けてください。 【１クラス】 ①日本語 N2 文法・読解まるごとマスター(日本語能力試験・日本留学試験読解対策シリーズ)，水谷信子他，J リサーチ出版，2018 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N2，前坊 香菜子他，アルク，2016 【２クラス】 ①日本語 N2 文法・読解まるごとマスター(日本語能力試験・日本留学試験読解対策シリーズ)，水谷信子他，J リサーチ出版，2018 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N2，前坊 香菜子他，アルク，2016 【３クラス】	ISBN	【１クラス】 ①978-4863923959 ②978-4757428560 【２クラス】 ①978-4863923959 ②978-4757428560 【３クラス】 ①978-4863923959 ②978-4757428560 【４クラス】 ①978-4863922495 ②978-4757433557 【５クラス】 ①978-4863922495

	①日本語 N2 文法・読解まるごとマスター(日本語能力試験・日本留学試験読解対策シリーズ)，水谷信子他，J リサーチ出版，2018 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N2，前坊 香菜子他，アルク，2016 【4 クラス】 ①日本語能力試験 N1 読解 必修パターン（日本語能力試験必修パターンシリーズ)，氏原 庸子他，J リサーチ出版，2015 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N1，前坊 香菜子他，アルク，2019 【5 クラス】 ①日本語能力試験 N1 読解 必修パターン（日本語能力試験必修パターンシリーズ)，氏原 庸子他，J リサーチ出版，2015 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N1，前坊 香菜子他，アルク，2019 【6 クラス】 ①日本語能力試験 N1 読解 必修パターン（日本語能力試験必修パターンシリーズ)，氏原 庸子他，J リサーチ出版，2015 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N1，前坊 香菜子他，アルク，2019		②978-4757433557 【6 クラス】 ①978-4863922495 ②978-4757433557
参考書	なし	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	5
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	60
	その他の内容	宿題：13% 期末復習テスト：30% JLPT：10% ハーフ模試/実力テスト：7%
この科目の受講にあたって	授業の到達目標を参考にして、自らの学修計画を作成しましょう。その際 JLPT の受験を必ず目標に入れ、7 月と 12 月の JLPT 試験を必ず受験しましょう。また、授業には必ず出席し「能動的に」受講してください。予習・復習は必須です。 また、テストだけではなく、確実に日々の学修を行い、小テスト、課題で点数を取ることが科目合格につながります。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス 語彙アセスメントテストの実施	事前学修：アセスメントテストの準備、次回授業内容についての宿題、小テストの準備	1 時間
第2回	対面	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第3回	対面	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間

第４回	対面	１．小テスト ２．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第５回	対面	１．小テスト ２．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第６回	対面	１．小テスト ２．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第７回	対面	１．小テスト ２．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第８回	対面	１．小テスト ２．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第９回	対面	１．小テスト ２．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１０回	対面	１．小テスト ２．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１１回	対面	１．小テスト ２．中間テストのための振り返り①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１２回	オンデマンド	１．小テスト ２．中間テストのための振り返り②	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１３回	対面	中間テストの実施	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１４回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	4 時間
第１５回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１６回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事前学修：中間テストに向けた学修	2 時間
第１７回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１８回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１９回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２０回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	2 時間
第２１回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備 確認テストの学修	2 時間
第２２回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２３回	対面	１．小テスト	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント	2 時間

		2．JLPT 練習問題	事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	
第２４回	対面	1．小テスト 2．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２５回	対面	1．小テスト 2．聴解・ディスカッション・ミニレポート	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２６回	対面	1．小テスト 2．聴解・ディスカッション・ミニレポート	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備 確認テストのための学修	2 時間
第２７回	対面	1．小テスト 2．聴解・ディスカッション・ミニレポート	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２８回	対面	1．小テスト 2．学期末復習テストの振り返り①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２９回	オンデマンド	学期末復習テストの振り返り②	事前学修：学期末復習テストの準備	4 時間
第３０回	対面	学期末復習テスト	事前学習：学期末復習テストに向けた勉強	4 時間

科目名	日本語５	開講年度	2025
担当者	柳　東汶	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、幅広い場面で使われる日本語への理解を目指す。		
授業の目的及び概要	本科目は、JLPT N2 以上を目指す学修者を対象に、レベル別のクラスで、より高度な日本語の運用能力を養成することを目的とする。日本語６での学修と合わせて、大学での専門学修やひいては大学卒業後に日本での就労も視野に入れ、専門分野の書籍の講読や、議論への参加が可能になることを目指し、本科目では①幅広い話題について書かれた新聞や雑誌の記事・解説など、論旨が明快な文章を読んで文章の内容を理解する、②一般的な話題に関する読み物を読んで、話の流れや表現意図を理解する、③読んだものを通して持った自身の意見を、他者に明瞭に伝える等の学修をとおして、「読む・話す・書く」の受容・産出・やりとり能力を向上させる。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は以下のとおりである。 ①適切な参考資料を選択して使いながら、様々な目的やテクストの種類に合わせて、読むスピード、読み方を変えながら独力でかなりのところまで読み解ける。 ②記述とプレゼンテーションを明確かつ体系的に展開できる。要点を見失わずに、関連する詳細情報を付け加えて、内容を補足できる。 ③いろいろな情報や議論をまとめて評価した上で、自分の関心がある専門分野の多様な話題について明瞭で詳細なテクストを書くことができる。 ④一般的、学術的、職業上、もしくは余暇に関する幅広い話題について、流暢に、正確に、そして効果的に言葉を使うことができ、考えと考えの間の関係をはっきりさせることができる。言いたいことが表現できない様子もまずなく、文法も正確でその場にふさわしい丁寧さで自然にコミュニケーションできる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	中間テスト実施後には授業内でフィードバックを行う。 また、提出された宿題は添削をして返却する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスによって使用する教科書が異なります。購入する際は、間違えないように気を付けてください。 【１クラス】 ①日本語 N2 文法・読解まるごとマスター(日本語能力試験・日本留学試験読解対策シリーズ)，水谷信子他，J リサーチ出版，2018 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N2，前坊 香菜子他，アルク，2016 【２クラス】 ①日本語 N2 文法・読解まるごとマスター(日本語能力試験・日本留学試験読解対策シリーズ)，水谷信子他，J リサーチ出版，2018 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N2，前坊 香菜子他，アルク，2016 【３クラス】	ISBN	【１クラス】 ①978-4863923959 ②978-4757428560 【２クラス】 ①978-4863923959 ②978-4757428560 【３クラス】 ①978-4863923959 ②978-4757428560 【４クラス】 ①978-4863922495 ②978-4757433557 【５クラス】 ①978-4863922495

	①日本語 N2 文法・読解まるごとマスター(日本語能力試験・日本留学試験読解対策シリーズ)，水谷信子他，J リサーチ出版，2018 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N2，前坊 香菜子他，アルク，2016 【４クラス】 ①日本語能力試験 N1 読解 必修パターン（日本語能力試験必修パターンシリーズ)，氏原 庸子他，J リサーチ出版，2015 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N1，前坊 香菜子他，アルク，2019 【５クラス】 ①日本語能力試験 N1 読解 必修パターン（日本語能力試験必修パターンシリーズ)，氏原 庸子他，J リサーチ出版，2015 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N1，前坊 香菜子他，アルク，2019 【６クラス】 ①日本語能力試験 N1 読解 必修パターン（日本語能力試験必修パターンシリーズ)，氏原 庸子他，J リサーチ出版，2015 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N1，前坊 香菜子他，アルク，2019		②978-4757433557 【６クラス】 ①978-4863922495 ②978-4757433557
参考書	なし	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	5
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	60
	その他の内容	宿題：13% 期末復習テスト：30% JLPT：10% ハーフ模試/実力テスト：7%
この科目の受講にあたって	授業の到達目標を参考にして、自らの学修計画を作成しましょう。その際 JLPT の受験を必ず目標に入れ、7 月と 12 月の JLPT 試験を必ず受験しましょう。また、授業には必ず出席し「能動的に」受講してください。予習・復習は必須です。 また、テストだけではなく、確実に日々の学修を行い、小テスト、課題で点数を取ることが科目合格につながります。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス 語彙アセスメントテストの実施	事前学修：アセスメントテストの準備、次回授業内容についての宿題、小テストの準備	1 時間
第２回	対面	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第３回	対面	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間

第４回	対面	１．小テスト ２．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第５回	対面	１．小テスト ２．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第６回	対面	１．小テスト ２．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第７回	対面	１．小テスト ２．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第８回	対面	１．小テスト ２．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第９回	対面	１．小テスト ２．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１０回	対面	１．小テスト ２．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１１回	対面	１．小テスト ２．中間テストのための振り返り①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１２回	オンデマンド	１．小テスト ２．中間テストのための振り返り②	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１３回	対面	中間テストの実施	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１４回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	4 時間
第１５回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１６回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事前学修：中間テストに向けた学修	2 時間
第１７回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１８回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１９回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２０回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	2 時間
第２１回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備 確認テストの学修	2 時間
第２２回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２３回	対面	１．小テスト	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント	2 時間

		2．JLPT 練習問題	事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	
第２４回	対面	1．小テスト 2．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２５回	対面	1．小テスト 2．聴解・ディスカッション・ミニレポート	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２６回	対面	1．小テスト 2．聴解・ディスカッション・ミニレポート	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備 確認テストのための学修	2 時間
第２７回	対面	1．小テスト 2．聴解・ディスカッション・ミニレポート	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２８回	対面	1．小テスト 2．学期末復習テストの振り返り①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２９回	オンデマンド	学期末復習テストの振り返り②	事前学修：学期末復習テストの準備	4 時間
第３０回	対面	学期末復習テスト	事前学習：学期末復習テストに向けた勉強	4 時間

科目名	日本語５	開講年度	2025
担当者	福本　有希	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、幅広い場面で使われる日本語への理解を目指す。		
授業の目的及び概要	本科目は、JLPT N2 以上を目指す学修者を対象に、レベル別のクラスで、より高度な日本語の運用能力を養成することを目的とする。日本語６での学修と合わせて、大学での専門学修やひいては大学卒業後に日本での就労も視野に入れ、専門分野の書籍の講読や、議論への参加が可能になることを目指し、本科目では①幅広い話題について書かれた新聞や雑誌の記事・解説など、論旨が明快な文章を読んで文章の内容を理解する、②一般的な話題に関する読み物を読んで、話の流れや表現意図を理解する、③読んだものを通して持った自身の意見を、他者に明瞭に伝える等の学修をとおして、「読む・話す・書く」の受容・産出・やりとり能力を向上させる。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は以下のとおりである。 ①適切な参考資料を選択して使いながら、様々な目的やテクストの種類に合わせて、読むスピード、読み方を変えながら独力でかなりのところまで読み解ける。 ②記述とプレゼンテーションを明確かつ体系的に展開できる。要点を見失わずに、関連する詳細情報を付け加えて、内容を補足できる。 ③いろいろな情報や議論をまとめて評価した上で、自分の関心がある専門分野の多様な話題について明瞭で詳細なテクストを書くことができる。 ④一般的、学術的、職業上、もしくは余暇に関する幅広い話題について、流暢に、正確に、そして効果的に言葉を使うことができ、考えと考えの間の関係をはっきりさせることができる。言いたいことが表現できない様子もまずなく、文法も正確でその場にふさわしい丁寧さで自然にコミュニケーションできる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	中間テスト実施後には授業内でフィードバックを行う。 また、提出された宿題は添削をして返却する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスによって使用する教科書が異なります。購入する際は、間違えないように気を付けてください。 【１クラス】 ①日本語 N2 文法・読解まるごとマスター(日本語能力試験・日本留学試験読解対策シリーズ)，水谷信子他，J リサーチ出版，2018 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N2，前坊 香菜子他，アルク，2016 【２クラス】 ①日本語 N2 文法・読解まるごとマスター(日本語能力試験・日本留学試験読解対策シリーズ)，水谷信子他，J リサーチ出版，2018 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N2，前坊 香菜子他，アルク，2016 【３クラス】	ISBN	【１クラス】 ①978-4863923959 ②978-4757428560 【２クラス】 ①978-4863923959 ②978-4757428560 【３クラス】 ①978-4863923959 ②978-4757428560 【４クラス】 ①978-4863922495 ②978-4757433557 【５クラス】 ①978-4863922495

	①日本語 N2 文法・読解まるごとマスター(日本語能力試験・日本留学試験読解対策シリーズ)，水谷信子他，Ｊリサーチ出版，2018 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N2，前坊 香菜子他，アルク，2016 【４クラス】 ①日本語能力試験 N1 読解 必修パターン（日本語能力試験必修パターンシリーズ)，氏原 庸子他，Ｊリサーチ出版，2015 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N1，前坊 香菜子他，アルク，2019 【５クラス】 ①日本語能力試験 N1 読解 必修パターン（日本語能力試験必修パターンシリーズ)，氏原 庸子他，Ｊリサーチ出版，2015 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N1，前坊 香菜子他，アルク，2019 【６クラス】 ①日本語能力試験 N1 読解 必修パターン（日本語能力試験必修パターンシリーズ)，氏原 庸子他，Ｊリサーチ出版，2015 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N1，前坊 香菜子他，アルク，2019		②978-4757433557 【６クラス】 ①978-4863922495 ②978-4757433557
参考書	なし	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	5
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	60
	その他の内容	宿題：13% 期末復習テスト：30% JLPT：10% ハーフ模試/実力テスト：7%
この科目の受講にあたって	授業の到達目標を参考にして、自らの学修計画を作成しましょう。その際 JLPT の受験を必ず目標に入れ、7 月と 12 月の JLPT 試験を必ず受験しましょう。また、授業には必ず出席し「能動的に」受講してください。予習・復習は必須です。 また、テストだけではなく、確実に日々の学修を行い、小テスト、課題で点数を取ることが科目合格につながります。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス 語彙アセスメントテストの実施	事前学修：アセスメントテストの準備、次回授業内容についての宿題、小テストの準備	1 時間
第２回	対面	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第３回	対面	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間

第４回	対面	１．小テスト ２．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第５回	対面	１．小テスト ２．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第６回	対面	１．小テスト ２．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第７回	対面	１．小テスト ２．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第８回	対面	１．小テスト ２．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第９回	対面	１．小テスト ２．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１０回	対面	１．小テスト ２．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１１回	対面	１．小テスト ２．中間テストのための振り返り①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１２回	オンデマンド	１．小テスト ２．中間テストのための振り返り②	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１３回	対面	中間テストの実施	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１４回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	4 時間
第１５回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１６回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事前学修：中間テストに向けた学修	2 時間
第１７回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１８回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１９回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２０回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	2 時間
第２１回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備 確認テストの学修	2 時間
第２２回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２３回	対面	１．小テスト	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント	2 時間

		2．JLPT 練習問題	事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	
第２４回	対面	1．小テスト 2．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２５回	対面	1．小テスト 2．聴解・ディスカッション・ミニレポート	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２６回	対面	1．小テスト 2．聴解・ディスカッション・ミニレポート	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備 確認テストのための学修	2 時間
第２７回	対面	1．小テスト 2．聴解・ディスカッション・ミニレポート	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２８回	対面	1．小テスト 2．学期末復習テストの振り返り①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２９回	オンデマンド	学期末復習テストの振り返り②	事前学修：学期末復習テストの準備	4 時間
第３０回	対面	学期末復習テスト	事前学習：学期末復習テストに向けた勉強	4 時間

科目名	日本語５	開講年度	2025
担当者	李　光曦	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、幅広い場面で使われる日本語への理解を目指す。		
授業の目的及び概要	本科目は、JLPT N2 以上を目指す学修者を対象に、レベル別のクラスで、より高度な日本語の運用能力を養成することを目的とする。日本語６での学修と合わせて、大学での専門学修やひいては大学卒業後に日本での就労も視野に入れ、専門分野の書籍の講読や、議論への参加が可能になることを目指し、本科目では①幅広い話題について書かれた新聞や雑誌の記事・解説など、論旨が明快な文章を読んで文章の内容を理解する、②一般的な話題に関する読み物を読んで、話の流れや表現意図を理解する、③読んだものを通して持った自身の意見を、他者に明瞭に伝える等の学修をとおして、「読む・話す・書く」の受容・産出・やりとり能力を向上させる。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は以下のとおりである。 ①適切な参考資料を選択して使いながら、様々な目的やテクストの種類に合わせて、読むスピード、読み方を変えながら独力でかなりのところまで読み解ける。 ②記述とプレゼンテーションを明確かつ体系的に展開できる。要点を見失わずに、関連する詳細情報を付け加えて、内容を補足できる。 ③いろいろな情報や議論をまとめて評価した上で、自分の関心がある専門分野の多様な話題について明瞭で詳細なテクストを書くことができる。 ④一般的、学術的、職業上、もしくは余暇に関する幅広い話題について、流暢に、正確に、そして効果的に言葉を使うことができ、考えと考えの間の関係をはっきりさせることができる。言いたいことが表現できない様子もまずなく、文法も正確でその場にふさわしい丁寧さで自然にコミュニケーションできる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	中間テスト実施後には授業内でフィードバックを行う。 また、提出された宿題は添削をして返却する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスによって使用する教科書が異なります。購入する際は、間違えないように気を付けてください。 【１クラス】 ①日本語 N2 文法・読解まるごとマスター(日本語能力試験・日本留学試験読解対策シリーズ)，水谷信子他，J リサーチ出版，2018 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N2，前坊 香菜子他，アルク，2016 【２クラス】 ①日本語 N2 文法・読解まるごとマスター(日本語能力試験・日本留学試験読解対策シリーズ)，水谷信子他，J リサーチ出版，2018 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N2，前坊 香菜子他，アルク，2016 【３クラス】	ISBN	【１クラス】 ①978-4863923959 ②978-4757428560 【２クラス】 ①978-4863923959 ②978-4757428560 【３クラス】 ①978-4863923959 ②978-4757428560 【４クラス】 ①978-4863922495 ②978-4757433557 【５クラス】 ①978-4863922495

	①日本語 N2 文法・読解まるごとマスター(日本語能力試験・日本留学試験読解対策シリーズ)，水谷信子他，J リサーチ出版，2018 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N2，前坊 香菜子他，アルク，2016 【４クラス】 ①日本語能力試験 N1 読解 必修パターン（日本語能力試験必修パターンシリーズ)，氏原 庸子他，J リサーチ出版，2015 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N1，前坊 香菜子他，アルク，2019 【５クラス】 ①日本語能力試験 N1 読解 必修パターン（日本語能力試験必修パターンシリーズ)，氏原 庸子他，J リサーチ出版，2015 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N1，前坊 香菜子他，アルク，2019 【６クラス】 ①日本語能力試験 N1 読解 必修パターン（日本語能力試験必修パターンシリーズ)，氏原 庸子他，J リサーチ出版，2015 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N1，前坊 香菜子他，アルク，2019		②978-4757433557 【６クラス】 ①978-4863922495 ②978-4757433557
参考書	なし	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	5
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	60
	その他の内容	宿題：13% 期末復習テスト：30% JLPT：10% ハーフ模試/実力テスト：7%
この科目の受講にあたって	授業の到達目標を参考にして、自らの学修計画を作成しましょう。その際 JLPT の受験を必ず目標に入れ、7 月と 12 月の JLPT 試験を必ず受験しましょう。また、授業には必ず出席し「能動的に」受講してください。予習・復習は必須です。 また、テストだけではなく、確実に日々の学修を行い、小テスト、課題で点数を取ることが科目合格につながります。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス 語彙アセスメントテストの実施	事前学修：アセスメントテストの準備、次回授業内容についての宿題、小テストの準備	1 時間
第２回	対面	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第３回	対面	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間

第４回	対面	１．小テスト ２．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第５回	対面	１．小テスト ２．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第６回	対面	１．小テスト ２．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第７回	対面	１．小テスト ２．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第８回	対面	１．小テスト ２．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第９回	対面	１．小テスト ２．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１０回	対面	１．小テスト ２．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１１回	対面	１．小テスト ２．中間テストのための振り返り①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１２回	オンデマンド	１．小テスト ２．中間テストのための振り返り②	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１３回	対面	中間テストの実施	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１４回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	4 時間
第１５回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１６回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事前学修：中間テストに向けた学修	2 時間
第１７回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１８回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１９回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２０回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	2 時間
第２１回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備 確認テストの学修	2 時間
第２２回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２３回	対面	１．小テスト	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント	2 時間

		2．JLPT 練習問題	事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	
第２４回	対面	1．小テスト 2．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２５回	対面	1．小テスト 2．聴解・ディスカッション・ミニレポート	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２６回	対面	1．小テスト 2．聴解・ディスカッション・ミニレポート	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備 確認テストのための学修	2 時間
第２７回	対面	1．小テスト 2．聴解・ディスカッション・ミニレポート	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２８回	対面	1．小テスト 2．学期末復習テストの振り返り①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２９回	オンデマンド	学期末復習テストの振り返り②	事前学修：学期末復習テストの準備	4 時間
第３０回	対面	学期末復習テスト	事前学習：学期末復習テストに向けた勉強	4 時間

科目名	日本語５	開講年度	2025
担当者	真下　恭子	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、幅広い場面で使われる日本語への理解を目指す。		
授業の目的及び概要	本科目は、JLPT N2 以上を目指す学修者を対象に、レベル別のクラスで、より高度な日本語の運用能力を養成することを目的とする。日本語６での学修と合わせて、大学での専門学修やひいては大学卒業後に日本での就労も視野に入れ、専門分野の書籍の講読や、議論への参加が可能になることを目指し、本科目では①幅広い話題について書かれた新聞や雑誌の記事・解説など、論旨が明快な文章を読んで文章の内容を理解する、②一般的な話題に関する読み物を読んで、話の流れや表現意図を理解する、③読んだものを通して持った自身の意見を、他者に明瞭に伝える等の学修をとおして、「読む・話す・書く」の受容・産出・やりとり能力を向上させる。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は以下のとおりである。 ①適切な参考資料を選択して使いながら、様々な目的やテクストの種類に合わせて、読むスピード、読み方を変えながら独力でかなりのところまで読み解ける。 ②記述とプレゼンテーションを明確かつ体系的に展開できる。要点を見失わずに、関連する詳細情報を付け加えて、内容を補足できる。 ③いろいろな情報や議論をまとめて評価した上で、自分の関心がある専門分野の多様な話題について明瞭で詳細なテクストを書くことができる。 ④一般的、学術的、職業上、もしくは余暇に関する幅広い話題について、流暢に、正確に、そして効果的に言葉を使うことができ、考えと考えの間の関係をはっきりさせることができる。言いたいことが表現できない様子もまずなく、文法も正確でその場にふさわしい丁寧さで自然にコミュニケーションできる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	中間テスト実施後には授業内でフィードバックを行う。 また、提出された宿題は添削をして返却する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスによって使用する教科書が異なります。購入する際は、間違えないように気を付けてください。 【１クラス】 ①日本語 N2 文法・読解まるごとマスター(日本語能力試験・日本留学試験読解対策シリーズ)，水谷信子他，J リサーチ出版，2018 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N2，前坊 香菜子他，アルク，2016 【２クラス】 ①日本語 N2 文法・読解まるごとマスター(日本語能力試験・日本留学試験読解対策シリーズ)，水谷信子他，J リサーチ出版，2018 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N2，前坊 香菜子他，アルク，2016 【３クラス】	ISBN	【１クラス】 ①978-4863923959 ②978-4757428560 【２クラス】 ①978-4863923959 ②978-4757428560 【３クラス】 ①978-4863923959 ②978-4757428560 【４クラス】 ①978-4863922495 ②978-4757433557 【５クラス】 ①978-4863922495

	①日本語 N2 文法・読解まるごとマスター(日本語能力試験・日本留学試験読解対策シリーズ)，水谷信子他，J リサーチ出版，2018 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N2，前坊 香菜子他，アルク，2016 【４クラス】 ①日本語能力試験 N1 読解 必修パターン（日本語能力試験必修パターンシリーズ)，氏原 庸子他，J リサーチ出版，2015 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N1，前坊 香菜子他，アルク，2019 【５クラス】 ①日本語能力試験 N1 読解 必修パターン（日本語能力試験必修パターンシリーズ)，氏原 庸子他，J リサーチ出版，2015 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N1，前坊 香菜子他，アルク，2019 【６クラス】 ①日本語能力試験 N1 読解 必修パターン（日本語能力試験必修パターンシリーズ)，氏原 庸子他，J リサーチ出版，2015 ②キクタン日本語 日本語能力試験 N1，前坊 香菜子他，アルク，2019		②978-4757433557 【６クラス】 ①978-4863922495 ②978-4757433557
参考書	なし	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	5
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	60
	その他の内容	宿題：13% 期末復習テスト：30% JLPT：10% ハーフ模試/実力テスト：7%
この科目の受講にあたって	授業の到達目標を参考にして、自らの学修計画を作成しましょう。その際 JLPT の受験を必ず目標に入れ、7 月と 12 月の JLPT 試験を必ず受験しましょう。また、授業には必ず出席し「能動的に」受講してください。予習・復習は必須です。 また、テストだけではなく、確実に日々の学修を行い、小テスト、課題で点数を取ることが科目合格につながります。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス 語彙アセスメントテストの実施	事前学修：アセスメントテストの準備、次回授業内容についての宿題、小テストの準備	1 時間
第２回	対面	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第３回	対面	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間

第４回	対面	１．小テスト ２．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第５回	対面	１．小テスト ２．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第６回	対面	１．小テスト ２．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第７回	対面	１．小テスト ２．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第８回	対面	１．小テスト ２．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第９回	対面	１．小テスト ２．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１０回	対面	１．小テスト ２．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１１回	対面	１．小テスト ２．中間テストのための振り返り①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１２回	オンデマンド	１．小テスト ２．中間テストのための振り返り②	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１３回	対面	中間テストの実施	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１４回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	4 時間
第１５回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１６回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事前学修：中間テストに向けた学修	2 時間
第１７回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１８回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１９回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２０回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	2 時間
第２１回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備 確認テストの学修	2 時間
第２２回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２３回	対面	１．小テスト	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント	2 時間

		2．JLPT 練習問題	事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	
第２４回	対面	1．小テスト 2．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２５回	対面	1．小テスト 2．聴解・ディスカッション・ミニレポート	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２６回	対面	1．小テスト 2．聴解・ディスカッション・ミニレポート	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備 確認テストのための学修	2 時間
第２７回	対面	1．小テスト 2．聴解・ディスカッション・ミニレポート	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２８回	対面	1．小テスト 2．学期末復習テストの振り返り①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２９回	オンデマンド	学期末復習テストの振り返り②	事前学修：学期末復習テストの準備	4 時間
第３０回	対面	学期末復習テスト	事前学習：学期末復習テストに向けた勉強	4 時間

科目名	日本語５	開講年度	2025
担当者	橋本　凜	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、幅広い場面で使われる日本語への理解を目指す。		
授業の目的及び概要	本科目は、JLPT N2 以上を目指す学修者を対象に、レベル別のクラスで、より高度な日本語の運用能力を養成することを目的とする。日本語６での学修と合わせて、大学での専門学修やひいては大学卒業後に日本での就労も視野に入れ、専門分野の書籍の講読や、議論への参加が可能になることを目指し、本科目では①幅広い話題について書かれた新聞や雑誌の記事・解説など、論旨が明快な文章を読んで文章の内容を理解する、②一般的な話題に関する読み物を読んで、話の流れや表現意図を理解する、③読んだものを通して持った自身の意見を、他者に明瞭に伝える等の学修をとおして、「読む・話す・書く」の受容・産出・やりとり能力を向上させる。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は以下のとおりである。 ①適切な参考資料を選択して使いながら、様々な目的やテクストの種類に合わせて、読むスピード、読み方を変えながら独力でかなりのところまで読み解ける。 ②記述とプレゼンテーションを明確かつ体系的に展開できる。要点を見失わずに、関連する詳細情報を付け加えて、内容を補足できる。 ③いろいろな情報や議論をまとめて評価した上で、自分の関心がある専門分野の多様な話題について明瞭で詳細なテクストを書くことができる。 ④一般的、学術的、職業上、もしくは余暇に関する幅広い話題について、流暢に、正確に、そして効果的に言葉を使うことができ、考えと考えの間の関係をはっきりさせることができる。言いたいことが表現できない様子もまずなく、文法も正確でその場にふさわしい丁寧さで自然にコミュニケーションできる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	中間テスト実施後には授業内でフィードバックを行う。 また、提出された宿題は添削をして返却する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	なし（プリントを授業内配布）	ISBN	なし
参考書	なし	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	5
授業期間中の小テスト、レポート課題等	15
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	20
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	60
その他の内容	宿題：13% 期末復習テスト：30%

		JLPT：10% ハーフ模試/実力テスト：7%
この科目の受講にあたって	授業の到達目標を参考にして、自らの学修計画を作成しましょう。その際 JLPT の受験を必ず目標に入れ、7 月と 12 月の JLPT 試験を必ず受験しましょう。また、授業には必ず出席し「能動的に」受講してください。予習・復習は必須です。 また、テストだけではなく、確実に日々の学修を行い、小テスト、課題で点数を取ることが科目合格につながります。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	オンデマンド	授業の流れ、評価の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	1 時間
第２回	オンデマンド	プレイスメント	事前学修：プレイスメントの準備	2 時間
第３回	オンデマンド	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第４回	オンデマンド	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第５回	オンデマンド	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第６回	オンデマンド	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第７回	オンデマンド	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第８回	オンデマンド	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第９回	オンデマンド	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１０回	オンデマンド	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１１回	オンデマンド	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１２回	オンデマンド	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１３回	オンデマンド	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１４回	オンデマンド	1．小テスト 2．読解	事後学修：中間テストに向けた学修 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	4 時間
第１５回	オンデマンド	中間総括（中間テストに向けた振り返り）	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１６回	オンデマンド	1．小テスト 2．読解	事前学修：中間テストに向けた学修	2 時間

第１７回	オンデマンド	１．小テスト ２．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１８回	オンデマンド	１．小テスト ２．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１９回	オンデマンド	中間テスト	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２０回	オンデマンド	JLPT 練習問題①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２１回	オンデマンド	JLPT 練習問題②	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備 確認テストの学修	2 時間
第２２回	オンデマンド	JLPT 練習問題③	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２３回	オンデマンド	JLPT 練習問題④	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２４回	オンデマンド	JLPT 練習問題⑤	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２５回	オンデマンド	１．小テスト ２．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２６回	オンデマンド	１．小テスト ２．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備 確認テストのための学修	2 時間
第２７回	オンデマンド	１．小テスト ２．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２８回	オンデマンド	１．小テスト ２．確認テスト③のフィードバック ３．ディスカッション	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２９回	オンデマンド	春学期振り返り・定期試験対策	事前学修：定期試験の準備	4 時間
第３０回	オンデマンド	春学期振り返り・定期試験対策	事後学修：定期試験に向けた勉強	4 時間

科目名	日本語６	開講年度	2025
担当者	真下　恭子	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる。		
授業の目的及び概要	本科目は、受講生の日本語運用能力レベル別のクラス編成を行う。 日本語１の学修と合わせて、大学での豊かな人間関係を構築すること、高いレベルのクラスにおいては、大学での専門の学修において、確かな知識を獲得し、大学での学修に必要な日本語運用能力へと向上させることを目的とする。 そのために、日本語の文法を学修し、日本語で表現したり、日本語を聞いて理解できるようになるための基礎を築き、他者と円滑なコミュニケーションが取れるようになることを目指す。 具体的には、以下の学修を行う。 ①クラスに応じて、N3、N2、N1 の文法を学修し、それを使って表現できるようにする。 ②また、聴解の練習を通して、日常的な場面に加えて幅広い場面で、自然に近いスピードの、まとまりのある会話やニュースを聞いて、話の流れや内容、登場人物の関係を理解したり、要旨を把握したりすることができることを目指す。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は以下のとおりである。 ①自分の専門分野の技術的な議論も含めて、標準語で話されれば、抽象的な話題でも具体的な話題でも、内容的にも言語的にもかなり複雑な話の要点を理解できる。 ②もし話題がそれなりに身近なもので、話の方向性がなんらかの標識で明示的に示されていれば、長い話や複雑な議論の流れでも理解できる。 ③自分の関心のある分野に関連した広範囲な話題について、明確かつ詳細に記述、プレゼンテーションができる。事項を細くしながら、関連事例を挙げて、主張を強化、展開することができる。 ④母語話者を相手に、お互いにストレスを感じさせることなく、普通の対話や関係が維持できる程度に、流暢に自然に対話できる。個人的に重要な出来事や経験を強調して、関連説明をし、根拠を示して自分の見方をはっきりと説明し、主張・維持できる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	宿題を添削して返す。また、中間テストを実施後には授業内でフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスによって使用する教科書が異なります。購入する際は、間違えないように気を付けてください。 【１クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500，友松 悦子，アルク，2010 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳，友松 悦子，アルク，2011 【２クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500，友松 悦子，アルク，2010 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短	ISBN	【１クラス】 ①978-4757418905 ②978-4757420526 【２クラス】 ①978-4757418905 ②978-4757420526 【３クラス】 ①978-4757418905 ②978-4757420526 【４クラス】

	文完成練習帳，友松 悦子，アルク，2011 【３クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500，友松 悦子，アルク，2010 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳，友松 悦子，アルク，2011 【４クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500，友松 悦子，アルク，2010 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳，友松 悦子，アルク，2011 【５クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500，友松 悦子，アルク，2010 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳，友松 悦子，アルク，2011 【６クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500，友松 悦子，アルク，2010 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳，友松 悦子，アルク，2011		①978-4757418905 ②978-4757420526 ①978-4757418905 ②978-4757420526 【６クラス】 ①978-4757418905 ②978-4757420526
参考書	学生が購入する教科書の他に、各クラスで補助的に使う教材や演習問題をプリントで配布する	ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	5
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	60
	その他の内容	宿題：13% 期末復習テスト：30% JLPT：10% ハーフ模試/実力テスト：7%
この科目の受講にあたって	必ず合格できるように、毎回の課題に取り組み、復習を確実に行い試験で合格点を取りましょう。 また、JLPT に合格できるように準備をして、７月と１２月に行われている JLPT を必ず受験してください。学期中に JLPT 合格に向けた JLPT 模試も実施します。必ず受験し、合格に向けた学修をしましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス（授業の進め方、スケジュール、成績配分等について説明） アセスメントテスト	事前学修：次回授業内容についての文法や語彙の意味を調べておく。小テストの準備	1 時間
第２回	対面	1．小テスト 2．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第３回	対面	1．小テスト 2．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間

第４回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第５回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第６回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第７回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第８回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第９回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１０回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１１回	対面	１．小テスト ２．中間テストに向けての振り返り①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１２回	オンデマンド	１．小テスト ２．中間テストに向けての振り返り②	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１３回	対面	中間テストの実施	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１４回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	4 時間
第１５回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１６回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１７回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１８回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１９回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２０回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２１回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２２回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間

第２３回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２４回	対面	１．小テスト ２．JLPT 模試	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２５回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２６回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２７回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２８回	対面	１．小テスト ２．学期末テストに向けた復習①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２９回	オンデマンド	１．小テスト ２．学期末テストに向けた復習②	学期末テストのための学修	2 時間
第３０回	対面	学期末復習テストの実施	学期末テストのための学修	4 時間

科目名	日本語６	開講年度	2025
担当者	橋本　凜	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる。		
授業の目的及び概要	本科目は、受講生の日本語運用能力レベル別のクラス編成を行う。 日本語１の学修と合わせて、大学での豊かな人間関係を構築すること、高いレベルのクラスにおいては、大学での専門の学修において、確かな知識を獲得し、大学での学修に必要な日本語運用能力へと向上させることを目的とする。 そのために、日本語の文法を学修し、日本語で表現したり、日本語を聞いて理解できるようになるための基礎を築き、他者と円滑なコミュニケーションが取れるようになることを目指す。 具体的には、以下の学修を行う。 ①クラスに応じて、N3、N2、N1 の文法を学修し、それを使って表現できるようにする。 ②また、聴解の練習を通して、日常的な場面に加えて幅広い場面で、自然に近いスピードの、まとまりのある会話やニュースを聞いて、話の流れや内容、登場人物の関係を理解したり、要旨を把握したりすることができることを目指す。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は以下のとおりである。 ①自分の専門分野の技術的な議論も含めて、標準語で話されれば、抽象的な話題でも具体的な話題でも、内容的にも言語的にもかなり複雑な話の要点を理解できる。 ②もし話題がそれなりに身近なもので、話の方向性がなんらかの標識で明示的に示されていれば、長い話や複雑な議論の流れでも理解できる。 ③自分の関心のある分野に関連した広範囲な話題について、明確かつ詳細に記述、プレゼンテーションができる。事項を細くしながら、関連事例を挙げて、主張を強化、展開することができる。 ④母語話者を相手に、お互いにストレスを感じさせることなく、普通の対話や関係が維持できる程度に、流暢に自然に対話できる。個人的に重要な出来事や経験を強調して、関連説明をし、根拠を示して自分の見方をはっきりと説明し、主張・維持できる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	宿題を添削して返す。また、中間テストを実施後には授業内でフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスによって使用する教科書が異なります。購入する際は、間違えないように気を付けてください。 【１クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500，友松 悦子，アルク，2010 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳，友松 悦子，アルク，2011 【２クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500，友松 悦子，アルク，2010 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短	ISBN	【１クラス】 ①978-4757418905 ②978-4757420526 【２クラス】 ①978-4757418905 ②978-4757420526 【３クラス】 ①978-4757418905 ②978-4757420526 【４クラス】

	文完成練習帳，友松 悦子，アルク，2011 【３クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500，友松 悦子，アルク，2010 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳，友松 悦子，アルク，2011 【４クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500，友松 悦子，アルク，2010 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳，友松 悦子，アルク，2011 【５クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500，友松 悦子，アルク，2010 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳，友松 悦子，アルク，2011 【６クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500，友松 悦子，アルク，2010 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳，友松 悦子，アルク，2011		①978-4757418905 ②978-4757420526 ①978-4757418905 ②978-4757420526 【６クラス】 ①978-4757418905 ②978-4757420526
参考書	学生が購入する教科書の他に、各クラスで補助的に使う教材や演習問題をプリントで配布する	ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	5
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	60
	その他の内容	宿題：13% 期末復習テスト：30% JLPT：10% ハーフ模試/実力テスト：7%
この科目の受講にあたって	必ず合格できるように、毎回の課題に取り組み、復習を確実に行い試験で合格点を取りましょう。 また、JLPT に合格できるように準備をして、７月と１２月に行われている JLPT を必ず受験してください。学期中に JLPT 合格に向けた JLPT 模試も実施します。必ず受験し、合格に向けた学修をしましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス（授業の進め方、スケジュール、成績配分等について説明） アセスメントテスト	事前学修：次回授業内容についての文法や語彙の意味を調べておく。小テストの準備	1 時間
第２回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第３回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間

第４回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第５回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第６回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第７回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第８回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第９回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１０回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１１回	対面	１．小テスト ２．中間テストに向けての振り返り①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１２回	オンデマンド	１．小テスト ２．中間テストに向けての振り返り②	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１３回	対面	中間テストの実施	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１４回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	4 時間
第１５回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１６回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１７回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１８回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１９回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２０回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２１回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２２回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間

第２３回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２４回	対面	１．小テスト ２．JLPT 模試	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２５回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２６回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２７回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２８回	対面	１．小テスト ２．学期末テストに向けた復習①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２９回	オンデマンド	１．小テスト ２．学期末テストに向けた復習②	学期末テストのための学修	2 時間
第３０回	対面	学期末復習テストの実施	学期末テストのための学修	4 時間

科目名	日本語６	開講年度	2025
担当者	橋本　凜	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる。		
授業の目的及び概要	本科目は、受講生の日本語運用能力レベル別のクラス編成を行う。 日本語１の学修と合わせて、大学での豊かな人間関係を構築すること、高いレベルのクラスにおいては、大学での専門の学修において、確かな知識を獲得し、大学での学修に必要な日本語運用能力へと向上させることを目的とする。 そのために、日本語の文法を学修し、日本語で表現したり、日本語を聞いて理解できるようになるための基礎を築き、他者と円滑なコミュニケーションが取れるようになることを目指す。 具体的には、以下の学修を行う。 ①クラスに応じて、N3、N2、N1 の文法を学修し、それを使って表現できるようにする。 ②また、聴解の練習を通して、日常的な場面に加えて幅広い場面で、自然に近いスピードの、まとまりのある会話やニュースを聞いて、話の流れや内容、登場人物の関係を理解したり、要旨を把握したりすることができることを目指す。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は以下のとおりである。 ①自分の専門分野の技術的な議論も含めて、標準語で話されれば、抽象的な話題でも具体的な話題でも、内容的にも言語的にもかなり複雑な話の要点を理解できる。 ②もし話題がそれなりに身近なもので、話の方向性がなんらかの標識で明示的に示されていれば、長い話や複雑な議論の流れでも理解できる。 ③自分の関心のある分野に関連した広範囲な話題について、明確かつ詳細に記述、プレゼンテーションができる。事項を細くしながら、関連事例を挙げて、主張を強化、展開することができる。 ④母語話者を相手に、お互いにストレスを感じさせることなく、普通の対話や関係が維持できる程度に、流暢に自然に対話できる。個人的に重要な出来事や経験を強調して、関連説明をし、根拠を示して自分の見方をはっきりと説明し、主張・維持できる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	宿題を添削して返す。また、中間テストを実施後には授業内でフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスによって使用する教科書が異なります。購入する際は、間違えないように気を付けてください。 【１クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500，友松 悦子，アルク，2010 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳，友松 悦子，アルク，2011 【２クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500，友松 悦子，アルク，2010 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短	ISBN	【１クラス】 ①978-4757418905 ②978-4757420526 【２クラス】 ①978-4757418905 ②978-4757420526 【３クラス】 ①978-4757418905 ②978-4757420526 【４クラス】

	文完成練習帳，友松 悦子，アルク，2011 【３クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500，友松 悦子，アルク，2010 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳，友松 悦子，アルク，2011 【４クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500，友松 悦子，アルク，2010 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳，友松 悦子，アルク，2011 【５クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500，友松 悦子，アルク，2010 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳，友松 悦子，アルク，2011 【６クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500，友松 悦子，アルク，2010 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳，友松 悦子，アルク，2011		①978-4757418905 ②978-4757420526 ①978-4757418905 ②978-4757420526 【６クラス】 ①978-4757418905 ②978-4757420526
参考書	学生が購入する教科書の他に、各クラスで補助的に使う教材や演習問題をプリントで配布する	ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	5
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	60
	その他の内容	宿題：13% 期末復習テスト：30% JLPT：10% ハーフ模試/実力テスト：7%
この科目の受講にあたって	必ず合格できるように、毎回の課題に取り組み、復習を確実に行い試験で合格点を取りましょう。 また、JLPT に合格できるように準備をして、７月と１２月に行われている JLPT を必ず受験してください。学期中に JLPT 合格に向けた JLPT 模試も実施します。必ず受験し、合格に向けた学修をしましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス（授業の進め方、スケジュール、成績配分等について説明） アセスメントテスト	事前学修：次回授業内容についての文法や語彙の意味を調べておく。小テストの準備	1 時間
第２回	対面	1．小テスト 2．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第３回	対面	1．小テスト 2．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間

第４回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第５回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第６回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第７回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第８回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第９回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１０回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１１回	対面	１．小テスト ２．中間テストに向けての振り返り①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１２回	オンデマンド	１．小テスト ２．中間テストに向けての振り返り②	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１３回	対面	中間テストの実施	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１４回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	4 時間
第１５回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１６回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１７回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１８回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１９回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２０回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２１回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２２回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間

第２３回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２４回	対面	１．小テスト ２．JLPT 模試	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２５回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２６回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２７回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２８回	対面	１．小テスト ２．学期末テストに向けた復習①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２９回	オンデマンド	１．小テスト ２．学期末テストに向けた復習②	学期末テストのための学修	2 時間
第３０回	対面	学期末復習テストの実施	学期末テストのための学修	4 時間

科目名	日本語６	開講年度	2025
担当者	赤城　永里子	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる。		
授業の目的及び概要	本科目は、受講生の日本語運用能力レベル別のクラス編成を行う。 日本語１の学修と合わせて、大学での豊かな人間関係を構築すること、高いレベルのクラスにおいては、大学での専門の学修において、確かな知識を獲得し、大学での学修に必要な日本語運用能力へと向上させることを目的とする。 そのために、日本語の文法を学修し、日本語で表現したり、日本語を聞いて理解できるようになるための基礎を築き、他者と円滑なコミュニケーションが取れるようになることを目指す。 具体的には、以下の学修を行う。 ①クラスに応じて、N3、N2、N1 の文法を学修し、それを使って表現できるようにする。 ②また、聴解の練習を通して、日常的な場面に加えて幅広い場面で、自然に近いスピードの、まとまりのある会話やニュースを聞いて、話の流れや内容、登場人物の関係を理解したり、要旨を把握したりすることができることを目指す。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は以下のとおりである。 ①自分の専門分野の技術的な議論も含めて、標準語で話されれば、抽象的な話題でも具体的な話題でも、内容的にも言語的にもかなり複雑な話の要点を理解できる。 ②もし話題がそれなりに身近なもので、話の方向性がなんらかの標識で明示的に示されていれば、長い話や複雑な議論の流れでも理解できる。 ③自分の関心のある分野に関連した広範囲な話題について、明確かつ詳細に記述、プレゼンテーションができる。事項を細くしながら、関連事例を挙げて、主張を強化、展開することができる。 ④母語話者を相手に、お互いにストレスを感じさせることなく、普通の対話や関係が維持できる程度に、流暢に自然に対話できる。個人的に重要な出来事や経験を強調して、関連説明をし、根拠を示して自分の見方をはっきりと説明し、主張・維持できる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	宿題を添削して返す。また、中間テストを実施後には授業内でフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスによって使用する教科書が異なります。購入する際は、間違えないように気を付けてください。 【１クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500，友松 悦子，アルク，2010 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳，友松 悦子，アルク，2011 【２クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500，友松 悦子，アルク，2010 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短	ISBN	【１クラス】 ①978-4757418905 ②978-4757420526 【２クラス】 ①978-4757418905 ②978-4757420526 【３クラス】 ①978-4757418905 ②978-4757420526 【４クラス】

	文完成練習帳，友松 悦子，アルク，2011 【３クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500，友松 悦子，アルク，2010 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳，友松 悦子，アルク，2011 【４クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500，友松 悦子，アルク，2010 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳，友松 悦子，アルク，2011 【５クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500，友松 悦子，アルク，2010 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳，友松 悦子，アルク，2011 【６クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500，友松 悦子，アルク，2010 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳，友松 悦子，アルク，2011		①978-4757418905 ②978-4757420526 ①978-4757418905 ②978-4757420526 【６クラス】 ①978-4757418905 ②978-4757420526
参考書	学生が購入する教科書の他に、各クラスで補助的に使う教材や演習問題をプリントで配布する	ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	5
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	60
	その他の内容	宿題：13% 期末復習テスト：30% JLPT：10% ハーフ模試/実力テスト：7%
この科目の受講にあたって	必ず合格できるように、毎回の課題に取り組み、復習を確実に行い試験で合格点を取りましょう。 また、JLPT に合格できるように準備をして、７月と１２月に行われている JLPT を必ず受験してください。学期中に JLPT 合格に向けた JLPT 模試も実施します。必ず受験し、合格に向けた学修をしましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス（授業の進め方、スケジュール、成績配分等について説明） アセスメントテスト	事前学修：次回授業内容についての文法や語彙の意味を調べておく。小テストの準備	1 時間
第２回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第３回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間

第４回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第５回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第６回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第７回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第８回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第９回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１０回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１１回	対面	１．小テスト ２．中間テストに向けての振り返り①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１２回	オンデマンド	１．小テスト ２．中間テストに向けての振り返り②	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１３回	対面	中間テストの実施	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１４回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	4 時間
第１５回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１６回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１７回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１８回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１９回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２０回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２１回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２２回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間

第２３回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２４回	対面	１．小テスト ２．JLPT 模試	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２５回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２６回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２７回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２８回	対面	１．小テスト ２．学期末テストに向けた復習①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２９回	オンデマンド	１．小テスト ２．学期末テストに向けた復習②	学期末テストのための学修	2 時間
第３０回	対面	学期末復習テストの実施	学期末テストのための学修	4 時間

科目名	日本語６	開講年度	2025
担当者	ソンダ　サンジャヤ	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる。		
授業の目的及び概要	本科目は、受講生の日本語運用能力レベル別のクラス編成を行う。 日本語１の学修と合わせて、大学での豊かな人間関係を構築すること、高いレベルのクラスにおいては、大学での専門の学修において、確かな知識を獲得し、大学での学修に必要な日本語運用能力へと向上させることを目的とする。 そのために、日本語の文法を学修し、日本語で表現したり、日本語を聞いて理解できるようになるための基礎を築き、他者と円滑なコミュニケーションが取れるようになることを目指す。 具体的には、以下の学修を行う。 ①クラスに応じて、N3、N2、N1 の文法を学修し、それを使って表現できるようにする。 ②また、聴解の練習を通して、日常的な場面に加えて幅広い場面で、自然に近いスピードの、まとまりのある会話やニュースを聞いて、話の流れや内容、登場人物の関係を理解したり、要旨を把握したりすることができることを目指す。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は以下のとおりである。 ①自分の専門分野の技術的な議論も含めて、標準語で話されれば、抽象的な話題でも具体的な話題でも、内容的にも言語的にもかなり複雑な話の要点を理解できる。 ②もし話題がそれなりに身近なもので、話の方向性がなんらかの標識で明示的に示されていれば、長い話や複雑な議論の流れでも理解できる。 ③自分の関心のある分野に関連した広範囲な話題について、明確かつ詳細に記述、プレゼンテーションができる。事項を細くしながら、関連事例を挙げて、主張を強化、展開することができる。 ④母語話者を相手に、お互いにストレスを感じさせることなく、普通の対話や関係が維持できる程度に、流暢に自然に対話できる。個人的に重要な出来事や経験を強調して、関連説明をし、根拠を示して自分の見方をはっきりと説明し、主張・維持できる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	宿題を添削して返す。また、中間テストを実施後には授業内でフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスによって使用する教科書が異なります。購入する際は、間違えないように気を付けてください。 【１クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500，友松 悦子，アルク，2010 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳，友松 悦子，アルク，2011 【２クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500，友松 悦子，アルク，2010 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短	ISBN	【１クラス】 ①978-4757418905 ②978-4757420526 【２クラス】 ①978-4757418905 ②978-4757420526 【３クラス】 ①978-4757418905 ②978-4757420526 【４クラス】

	文完成練習帳，友松 悦子，アルク，2011 【３クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500，友松 悦子，アルク，2010 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳，友松 悦子，アルク，2011 【４クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500，友松 悦子，アルク，2010 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳，友松 悦子，アルク，2011 【５クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500，友松 悦子，アルク，2010 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳，友松 悦子，アルク，2011 【６クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500，友松 悦子，アルク，2010 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳，友松 悦子，アルク，2011		①978-4757418905 ②978-4757420526 ①978-4757418905 ②978-4757420526 【６クラス】 ①978-4757418905 ②978-4757420526
参考書	学生が購入する教科書の他に、各クラスで補助的に使う教材や演習問題をプリントで配布する	ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	5
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	60
	その他の内容	宿題：13% 期末復習テスト：30% JLPT：10% ハーフ模試/実力テスト：7%
この科目の受講にあたって	必ず合格できるように、毎回の課題に取り組み、復習を確実に行い試験で合格点を取りましょう。 また、JLPT に合格できるように準備をして、７月と１２月に行われている JLPT を必ず受験してください。学期中に JLPT 合格に向けた JLPT 模試も実施します。必ず受験し、合格に向けた学修をしましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス（授業の進め方、スケジュール、成績配分等について説明） アセスメントテスト	事前学修：次回授業内容についての文法や語彙の意味を調べておく。小テストの準備	1 時間
第２回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第３回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間

第４回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第５回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第６回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第７回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第８回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第９回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１０回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１１回	対面	１．小テスト ２．中間テストに向けての振り返り①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１２回	オンデマンド	１．小テスト ２．中間テストに向けての振り返り②	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１３回	対面	中間テストの実施	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１４回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	4 時間
第１５回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１６回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１７回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１８回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１９回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２０回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２１回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２２回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間

第２３回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２４回	対面	１．小テスト ２．JLPT 模試	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２５回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２６回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２７回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２８回	対面	１．小テスト ２．学期末テストに向けた復習①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２９回	オンデマンド	１．小テスト ２．学期末テストに向けた復習②	学期末テストのための学修	2 時間
第３０回	対面	学期末復習テストの実施	学期末テストのための学修	4 時間

科目名	日本語６	開講年度	2025
担当者	井ノ口　智佳	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる。		
授業の目的及び概要	本科目は、受講生の日本語運用能力レベル別のクラス編成を行う。 日本語１の学修と合わせて、大学での豊かな人間関係を構築すること、高いレベルのクラスにおいては、大学での専門の学修において、確かな知識を獲得し、大学での学修に必要な日本語運用能力へと向上させることを目的とする。 そのために、日本語の文法を学修し、日本語で表現したり、日本語を聞いて理解できるようになるための基礎を築き、他者と円滑なコミュニケーションが取れるようになることを目指す。 具体的には、以下の学修を行う。 ①クラスに応じて、N3、N2、N1 の文法を学修し、それを使って表現できるようにする。 ②また、聴解の練習を通して、日常的な場面に加えて幅広い場面で、自然に近いスピードの、まとまりのある会話やニュースを聞いて、話の流れや内容、登場人物の関係を理解したり、要旨を把握したりすることができることを目指す。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は以下のとおりである。 ①自分の専門分野の技術的な議論も含めて、標準語で話されれば、抽象的な話題でも具体的な話題でも、内容的にも言語的にもかなり複雑な話の要点を理解できる。 ②もし話題がそれなりに身近なもので、話の方向性がなんらかの標識で明示的に示されていれば、長い話や複雑な議論の流れでも理解できる。 ③自分の関心のある分野に関連した広範囲な話題について、明確かつ詳細に記述、プレゼンテーションができる。事項を細くしながら、関連事例を挙げて、主張を強化、展開することができる。 ④母語話者を相手に、お互いにストレスを感じさせることなく、普通の対話や関係が維持できる程度に、流暢に自然に対話できる。個人的に重要な出来事や経験を強調して、関連説明をし、根拠を示して自分の見方をはっきりと説明し、主張・維持できる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	宿題を添削して返す。また、中間テストを実施後には授業内でフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスによって使用する教科書が異なります。購入する際は、間違えないように気を付けてください。 【１クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500，友松 悦子，アルク，2010 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳，友松 悦子，アルク，2011 【２クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500，友松 悦子，アルク，2010 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短	ISBN	【１クラス】 ①978-4757418905 ②978-4757420526 【２クラス】 ①978-4757418905 ②978-4757420526 【３クラス】 ①978-4757418905 ②978-4757420526 【４クラス】

	文完成練習帳，友松 悦子，アルク，2011 【３クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500，友松 悦子，アルク，2010 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳，友松 悦子，アルク，2011 【４クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500，友松 悦子，アルク，2010 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳，友松 悦子，アルク，2011 【５クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500，友松 悦子，アルク，2010 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳，友松 悦子，アルク，2011 【６クラス】 ①どんなときどう使う日本語表現文型 500，友松 悦子，アルク，2010 ②改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型 500 短文完成練習帳，友松 悦子，アルク，2011		①978-4757418905 ②978-4757420526 ①978-4757418905 ②978-4757420526 【６クラス】 ①978-4757418905 ②978-4757420526
参考書	学生が購入する教科書の他に、各クラスで補助的に使う教材や演習問題をプリントで配布する	ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	5
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	60
	その他の内容	宿題：13% 期末復習テスト：30% JLPT：10% ハーフ模試/実力テスト：7%
この科目の受講にあたって	必ず合格できるように、毎回の課題に取り組み、復習を確実に行い試験で合格点を取りましょう。 また、JLPT に合格できるように準備をして、７月と１２月に行われている JLPT を必ず受験してください。学期中に JLPT 合格に向けた JLPT 模試も実施します。必ず受験し、合格に向けた学修をしましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス（授業の進め方、スケジュール、成績配分等について説明） アセスメントテスト	事前学修：次回授業内容についての文法や語彙の意味を調べておく。小テストの準備	1 時間
第２回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第３回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間

第４回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第５回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第６回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第７回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第８回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第９回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１０回	対面	１．小テスト ２．文法項目の導入・練習	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１１回	対面	１．小テスト ２．中間テストに向けての振り返り①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１２回	オンデマンド	１．小テスト ２．中間テストに向けての振り返り②	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１３回	対面	中間テストの実施	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１４回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	4 時間
第１５回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１６回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１７回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１８回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１９回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２０回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２１回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２２回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間

第２３回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２４回	対面	１．小テスト ２．JLPT 模試	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２５回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２６回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２７回	対面	１．小テスト ２．JLPT 練習問題	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２８回	対面	１．小テスト ２．学期末テストに向けた復習①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２９回	オンデマンド	１．小テスト ２．学期末テストに向けた復習②	学期末テストのための学修	2 時間
第３０回	対面	学期末復習テストの実施	学期末テストのための学修	4 時間

科目名	日本語６	開講年度	2025
担当者	赤城　永里子	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、幅広い場面で使われる日本語への理解を目指す。		
授業の目的及び概要	本科目は、JLPT N2 以上を目指す学修者を対象に、レベル別のクラスで、より高度な日本語の運用能力を養成することを目的とする。日本語６での学修と合わせて、大学での専門学修やひいては大学卒業後に日本での就労も視野に入れ、専門分野の書籍の講読や、議論への参加が可能になることを目指し、本科目では①幅広い話題について書かれた新聞や雑誌の記事・解説など、論旨が明快な文章を読んで文章の内容を理解する、②一般的な話題に関する読み物を読んで、話の流れや表現意図を理解する、③読んだものを通して持った自身の意見を、他者に明瞭に伝える等の学修をとおして、「読む・話す・書く」の受容・産出・やりとり能力を向上させる。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は以下のとおりである。 ①適切な参考資料を選択して使いながら、様々な目的やテクストの種類に合わせて、読むスピード、読み方を変えながら独力でかなりのところまで読み解ける。 ②記述とプレゼンテーションを明確かつ体系的に展開できる。要点を見失わずに、関連する詳細情報を付け加えて、内容を補足できる。 ③いろいろな情報や議論をまとめて評価した上で、自分の関心がある専門分野の多様な話題について明瞭で詳細なテクストを書くことができる。 ④一般的、学術的、職業上、もしくは余暇に関する幅広い話題について、流暢に、正確に、そして効果的に言葉を使うことができ、考えと考えの間の関係をはっきりさせることができる。言いたいことが表現できない様子もまずなく、文法も正確でその場にふさわしい丁寧さで自然にコミュニケーションできる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	中間テスト実施後には授業内でフィードバックを行う。 また、提出された宿題は添削をして返却する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	なし（プリントを授業内配布）	ISBN	なし
参考書	なし	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	5
授業期間中の小テスト、レポート課題等	15
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	20
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	60
その他の内容	宿題：13% 期末復習テスト：30%

		JLPT：10% ハーフ模試/実力テスト：7%
この科目の受講にあたって	授業の到達目標を参考にして、自らの学修計画を作成しましょう。その際 JLPT の受験を必ず目標に入れ、7 月と 12 月の JLPT 試験を必ず受験しましょう。また、授業には必ず出席し「能動的に」受講してください。予習・復習は必須です。 また、テストだけではなく、確実に日々の学修を行い、小テスト、課題で点数を取ることが科目合格につながります。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	オンデマンド	授業の流れ、評価の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	1 時間
第２回	オンデマンド	1．小テスト 2．文法	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第３回	オンデマンド	1．小テスト 2．文法	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第４回	オンデマンド	1．小テスト 2．文法	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第５回	オンデマンド	1．小テスト 2．文法	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第６回	オンデマンド	1．小テスト 2．文法	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第７回	オンデマンド	1．小テスト 2．文法	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第８回	オンデマンド	1．小テスト 2．文法	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第９回	オンデマンド	1．小テスト 2．文法	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１０回	オンデマンド	1．小テスト 2．文法	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１１回	オンデマンド	1．小テスト 2．文法	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１２回	オンデマンド	1．小テスト 2．文法	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１３回	オンデマンド	1．小テスト 2．文法	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備 確認テストのための学修	2 時間
第１４回	オンデマンド	中間総括（中間テストに向けた振り返り）	事後学修：中間テストに向けた学修 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	4 時間
第１５回	オンデマンド	1．小テスト 2．文法	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間

第１６回	オンデマンド	中間総括（中間テストに向けた振り返り）	事前学修：中間テストに向けた学修	2 時間
第１７回	オンデマンド	中間テスト	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１８回	オンデマンド	JLPT 練習問題①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１９回	オンデマンド	JLPT 練習問題②	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２０回	オンデマンド	JLPT 練習問題③	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２１回	オンデマンド	JLPT 練習問題④	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備 確認テストの学修	2 時間
第２２回	オンデマンド	１．小テスト ２．文法	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２３回	オンデマンド	JLPT 練習問題⑥	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２４回	オンデマンド	JLPT 練習問題⑦	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２５回	オンデマンド	JLPT 練習問題⑧	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２６回	オンデマンド	１．小テスト ２．文法	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備 確認テストのための学修	2 時間
第２７回	オンデマンド	１．小テスト ２．文法	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２８回	オンデマンド	１．小テスト ２．文法	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２９回	オンデマンド	総括（定期試験に向けた振り返り）	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	4 時間
第３０回	オンデマンド	秋学期振り返り・定期試験対策	事後学修：定期試験に向けた勉強	4 時間

科目名	日本語７	開講年度	2025
担当者	荻田　朋子	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、幅広い場面で使われる日本語への理解を目指す。		
授業の目的及び概要	本科目は、JLPT N2 以上を目指す学修者を対象に、レベル別のクラスで、より高度な日本語の運用能力を養成することを目的とする。日本語８での学修と合わせて、大学での専門学修やひいては大学卒業後に日本での就労も視野に入れ、専門分野の書籍の講読や、議論への参加が可能になることを目指し、本科目では①幅広い話題について書かれた新聞や雑誌の記事・解説など、論旨が明快な文章を読んで文章の内容を理解する、②一般的な話題に関する読み物を読んで、話の流れや表現意図を理解する、③読んだものを通して持った自身の意見を、他者に明瞭に伝える等の学修をとおして、「読む・話す・書く」の受容・産出・やりとり能力を向上させる。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は以下のとおりである。 ①適切な参考資料を選択して使いながら、様々な目的やテクストの種類に合わせて、読むスピード、読み方を変えながら独力でかなりのところまで読み解ける。 ②記述とプレゼンテーションを明確かつ体系的に展開できる。要点を見失わずに、関連する詳細情報を付け加えて、内容を補足できる。 ③いろいろな情報や議論をまとめて評価した上で、自分の関心がある専門分野の多様な話題について明瞭で詳細なテクストを書くことができる。 ④一般的、学術的、職業上、もしくは余暇に関する幅広い話題について、流暢に、正確に、そして効果的に言葉を使うことができ、考えと考えの間の関係をはっきりさせることができる。言いたいことが表現できない様子もまずなく、文法も正確でその場にふさわしい丁寧さで自然にコミュニケーションできる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	中間テスト実施後には授業内でフィードバックを行う。 また、提出された宿題は添削をして返却する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	（１） ①独立行政法人国際交流基金 （2012）『日本語能力試験公式問題集 N2』凡人社 ②独立行政法人国際交流基金 （2018）『日本語能力試験公式問題集 N2 第二集』凡人社 ③前坊 香菜子（2019）『キクタン N2』アルク （２） ①氏原庸子（2015）『日本語能力試験 N1 読解必修パターン』Ｊリサーチ ②前坊 香菜子（2019）『キクタン N1』アルク （３） ①独立行政法人国際交流基金 （2012）『日本語能力試験公式問題集 N2』凡人社 ②独立行政法人国際交流基金 （2018）『日本語能力試験公式問題集 N2 第二集』凡人社	ISBN	（１） ①978-4893588180 ②978-4893589378 ③978-4757428560 （２） ① 978-4863922495 ②978-4757433557 （３） ①978-4893588173 ②978-4893589361 ③978-4757433557

	③前坊 香菜子（2019）『キクタン N1』アルク		
参考書	適宜指示する	ISBN	適宜指示する
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	5	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	28	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	47	
	その他の内容	JLPT 受験（10%） 学期末復習テスト（30%） 実力テスト/ハーフ模試（7%）	
この科目の受講にあたって	本科目を受講する学生は、JLPT の受験が必須です。本科目での学修を通して、N1 の合格を目指しますが、何度も N1 を失敗している学生は、①初級～N2 までの語彙、文法をまず確実に覚えなおしてみてください。N2 までの内容が確実に覚えられていることが N1 合格につながります。学習量は絶対的に必要なものです。授業外での継続的な学習、ニュースや新聞など、積極帝に日本語で読む、聞く等の活動も毎日少しずつ取り入れていきましょう。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス、語彙アセスメントテスト	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第２回	対面	読解①（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる）	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第３回	対面	読解②（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解①	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第４回	対面	読解③（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解②	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第５回	対面	読解④（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解③	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第６回	対面	読解⑤（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解④	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第７回	対面	読解⑥（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解⑤	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第８回	対面	読解⑦（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解⑥	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第９回	対面	読解⑧（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解⑦	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第１０回	対面	読解⑨（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解⑧	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第１１回	対面	前半の復習	中間テストに向けた学修	2 時間

第１２回	オンデマンド	前半の復習	中間テストに向けた学修	4 時間
第１３回	対面	中間テスト	小テストの学習	2 時間
第１４回	対面	JLPT 演習問題１	JLPT 演習問題１の類似問題をする	3 時間
第１５回	対面	JLPT 演習問題２	JLPT 演習問題２類似問題をする	2 時間
第１６回	対面	JLPT 演習問題３	JLPT 演習問題３類似問題をする	6 時間
第１７回	対面	JLPT 模試　読解	小テストの学習	2 時間
第１８回	対面	JLPT 演習問題４	JLPT 演習問題４類似問題をする	2 時間
第１９回	対面	JLPT 演習問題５	JLPT 演習問題５類似問題をする	2 時間
第２０回	対面	JLPT 演習問題６	JLPT 演習問題６類似問題をする	2 時間
第２１回	対面	JLPT 演習問題７	JLPT 演習問題７類似問題をする	2 時間
第２２回	対面	JLPT 演習問題８	JLPT 演習問題８類似問題をする	2 時間
第２３回	対面	JLPT 演習問題９	JLPT 演習問題９類似問題をする	2 時間
第２４回	対面	JLPT 演習問題 10	JLPT 演習問題 10 類似問題をする	2 時間
第２５回	対面	聴解とディスカッション１	小テストの学習 当日学んだ語彙を覚える	2 時間
第２６回	対面	聴解とディスカッション２	小テストの学習 当日学んだ語彙を覚える	2 時間
第２７回	対面	聴解とディスカッション３	小テストの学習 当日学んだ語彙を覚える	2 時間
第２８回	対面	総括（復習テストに向けた振り返り）	復習テストに向けた学修する	2 時間
第２９回	オンデマンド	総括（復習テストに向けた振り返り）	復習テストに向けた学修する	6 時間
第３０回	対面	復習テスト	学期中に学修した語彙を再度覚えなおす	6 時間

科目名	日本語７	開講年度	2025
担当者	楊　子涵	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、幅広い場面で使われる日本語への理解を目指す。		
授業の目的及び概要	本科目は、JLPT N2 以上を目指す学修者を対象に、レベル別のクラスで、より高度な日本語の運用能力を養成することを目的とする。日本語８での学修と合わせて、大学での専門学修やひいては大学卒業後に日本での就労も視野に入れ、専門分野の書籍の講読や、議論への参加が可能になることを目指し、本科目では①幅広い話題について書かれた新聞や雑誌の記事・解説など、論旨が明快な文章を読んで文章の内容を理解する、②一般的な話題に関する読み物を読んで、話の流れや表現意図を理解する、③読んだものを通して持った自身の意見を、他者に明瞭に伝える等の学修をとおして、「読む・話す・書く」の受容・産出・やりとり能力を向上させる。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は以下のとおりである。 ①適切な参考資料を選択して使いながら、様々な目的やテクストの種類に合わせて、読むスピード、読み方を変えながら独力でかなりのところまで読み解ける。 ②記述とプレゼンテーションを明確かつ体系的に展開できる。要点を見失わずに、関連する詳細情報を付け加えて、内容を補足できる。 ③いろいろな情報や議論をまとめて評価した上で、自分の関心がある専門分野の多様な話題について明瞭で詳細なテクストを書くことができる。 ④一般的、学術的、職業上、もしくは余暇に関する幅広い話題について、流暢に、正確に、そして効果的に言葉を使うことができ、考えと考えの間の関係をはっきりさせることができる。言いたいことが表現できない様子もまずなく、文法も正確でその場にふさわしい丁寧さで自然にコミュニケーションできる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	中間テスト実施後には授業内でフィードバックを行う。 また、提出された宿題は添削をして返却する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	（１） ①独立行政法人国際交流基金 （2012）『日本語能力試験公式問題集 N2』凡人社 ②独立行政法人国際交流基金 （2018）『日本語能力試験公式問題集 N2 第二集』凡人社 ③前坊 香菜子（2019）『キクタン N2』アルク （２） ①氏原庸子（2015）『日本語能力試験 N1 読解必修パターン』Ｊリサーチ ②前坊 香菜子（2019）『キクタン N1』アルク （３） ①独立行政法人国際交流基金 （2012）『日本語能力試験公式問題集 N2』凡人社 ②独立行政法人国際交流基金 （2018）『日本語能力試験公式問題集 N2 第二集』凡人社	ISBN	（１） ①978-4893588180 ②978-4893589378 ③978-4757428560 （２） ① 978-4863922495 ②978-4757433557 （３） ①978-4893588173 ②978-4893589361 ③978-4757433557

	③前坊 香菜子（2019）『キクタン N1』アルク		
参考書	適宜指示する	ISBN	適宜指示する
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	5	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	28	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	47	
	その他の内容	JLPT 受験（10%） 学期末復習テスト（30%） 実力テスト/ハーフ模試（7%）	
この科目の受講にあたって	本科目を受講する学生は、JLPT の受験が必須です。本科目での学修を通して、N1 の合格を目指しますが、何度も N1 を失敗している学生は、①初級～N2 までの語彙、文法をまず確実に覚えなおしてみてください。N2 までの内容が確実に覚えられていることが N1 合格につながります。学習量は絶対的に必要なものです。授業外での継続的な学習、ニュースや新聞など、積極帝に日本語で読む、聞く等の活動も毎日少しずつ取り入れていきましょう。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス、語彙アセスメントテスト	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第２回	対面	読解①（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる）	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第３回	対面	読解②（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解①	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第４回	対面	読解③（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解②	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第５回	対面	読解④（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解③	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第６回	対面	読解⑤（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解④	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第７回	対面	読解⑥（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解⑤	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第８回	対面	読解⑦（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解⑥	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第９回	対面	読解⑧（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解⑦	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第１０回	対面	読解⑨（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解⑧	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第１１回	対面	前半の復習	中間テストに向けた学修	2 時間

第１２回	オンデマンド	前半の復習	中間テストに向けた学修	4 時間
第１３回	対面	中間テスト	小テストの学習	2 時間
第１４回	対面	JLPT 演習問題１	JLPT 演習問題１の類似問題をする	3 時間
第１５回	対面	JLPT 演習問題２	JLPT 演習問題２類似問題をする	2 時間
第１６回	対面	JLPT 演習問題３	JLPT 演習問題３類似問題をする	6 時間
第１７回	対面	JLPT 模試　読解	小テストの学習	2 時間
第１８回	対面	JLPT 演習問題４	JLPT 演習問題４類似問題をする	2 時間
第１９回	対面	JLPT 演習問題５	JLPT 演習問題５類似問題をする	2 時間
第２０回	対面	JLPT 演習問題６	JLPT 演習問題６類似問題をする	2 時間
第２１回	対面	JLPT 演習問題７	JLPT 演習問題７類似問題をする	2 時間
第２２回	対面	JLPT 演習問題８	JLPT 演習問題８類似問題をする	2 時間
第２３回	対面	JLPT 演習問題９	JLPT 演習問題９類似問題をする	2 時間
第２４回	対面	JLPT 演習問題 10	JLPT 演習問題 10 類似問題をする	2 時間
第２５回	対面	聴解とディスカッション１	小テストの学習 当日学んだ語彙を覚える	2 時間
第２６回	対面	聴解とディスカッション２	小テストの学習 当日学んだ語彙を覚える	2 時間
第２７回	対面	聴解とディスカッション３	小テストの学習 当日学んだ語彙を覚える	2 時間
第２８回	対面	総括（復習テストに向けた振り返り）	復習テストに向けた学修する	2 時間
第２９回	オンデマンド	総括（復習テストに向けた振り返り）	復習テストに向けた学修する	6 時間
第３０回	対面	復習テスト	学期中に学修した語彙を再度覚えなおす	6 時間

科目名	日本語７	開講年度	2025
担当者	李　光曦	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、幅広い場面で使われる日本語への理解を目指す。		
授業の目的及び概要	本科目は、JLPT N2 以上を目指す学修者を対象に、レベル別のクラスで、より高度な日本語の運用能力を養成することを目的とする。日本語８での学修と合わせて、大学での専門学修やひいては大学卒業後に日本での就労も視野に入れ、専門分野の書籍の講読や、議論への参加が可能になることを目指し、本科目では①幅広い話題について書かれた新聞や雑誌の記事・解説など、論旨が明快な文章を読んで文章の内容を理解する、②一般的な話題に関する読み物を読んで、話の流れや表現意図を理解する、③読んだものを通して持った自身の意見を、他者に明瞭に伝える等の学修をとおして、「読む・話す・書く」の受容・産出・やりとり能力を向上させる。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は以下のとおりである。 ①適切な参考資料を選択して使いながら、様々な目的やテクストの種類に合わせて、読むスピード、読み方を変えながら独力でかなりのところまで読み解ける。 ②記述とプレゼンテーションを明確かつ体系的に展開できる。要点を見失わずに、関連する詳細情報を付け加えて、内容を補足できる。 ③いろいろな情報や議論をまとめて評価した上で、自分の関心がある専門分野の多様な話題について明瞭で詳細なテクストを書くことができる。 ④一般的、学術的、職業上、もしくは余暇に関する幅広い話題について、流暢に、正確に、そして効果的に言葉を使うことができ、考えと考えの間の関係をはっきりさせることができる。言いたいことが表現できない様子もまずなく、文法も正確でその場にふさわしい丁寧さで自然にコミュニケーションできる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	中間テスト実施後には授業内でフィードバックを行う。 また、提出された宿題は添削をして返却する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	（１） ①独立行政法人国際交流基金 （2012）『日本語能力試験公式問題集 N2』凡人社 ②独立行政法人国際交流基金 （2018）『日本語能力試験公式問題集 N2 第二集』凡人社 ③前坊 香菜子（2019）『キクタン N2』アルク （２） ①氏原庸子（2015）『日本語能力試験 N1 読解必修パターン』Ｊリサーチ ②前坊 香菜子（2019）『キクタン N1』アルク （３） ①独立行政法人国際交流基金 （2012）『日本語能力試験公式問題集 N2』凡人社 ②独立行政法人国際交流基金 （2018）『日本語能力試験公式問題集 N2 第二集』凡人社	ISBN	（１） ①978-4893588180 ②978-4893589378 ③978-4757428560 （２） ① 978-4863922495 ②978-4757433557 （３） ①978-4893588173 ②978-4893589361 ③978-4757433557

	③前坊 香菜子（2019）『キクタン N1』アルク		
参考書	適宜指示する	ISBN	適宜指示する
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	5	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	28	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	47	
	その他の内容	JLPT 受験（10%） 学期末復習テスト（30%） 実力テスト/ハーフ模試（7%）	
この科目の受講にあたって	本科目を受講する学生は、JLPT の受験が必須です。本科目での学修を通して、N1 の合格を目指しますが、何度も N1 を失敗している学生は、①初級～N2 までの語彙、文法をまず確実に覚えなおしてみてください。N2 までの内容が確実に覚えられていることが N1 合格につながります。学習量は絶対的に必要なものです。授業外での継続的な学習、ニュースや新聞など、積極帝に日本語で読む、聞く等の活動も毎日少しずつ取り入れていきましょう。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス、語彙アセスメントテスト	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第２回	対面	読解①（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる）	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第３回	対面	読解②（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解①	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第４回	対面	読解③（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解②	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第５回	対面	読解④（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解③	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第６回	対面	読解⑤（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解④	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第７回	対面	読解⑥（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解⑤	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第８回	対面	読解⑦（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解⑥	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第９回	対面	読解⑧（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解⑦	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第１０回	対面	読解⑨（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解⑧	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第１１回	対面	前半の復習	中間テストに向けた学修	2 時間

第１２回	オンデマンド	前半の復習	中間テストに向けた学修	4 時間
第１３回	対面	中間テスト	小テストの学習	2 時間
第１４回	対面	JLPT 演習問題１	JLPT 演習問題１の類似問題をする	3 時間
第１５回	対面	JLPT 演習問題２	JLPT 演習問題２類似問題をする	2 時間
第１６回	対面	JLPT 演習問題３	JLPT 演習問題３類似問題をする	6 時間
第１７回	対面	JLPT 模試　読解	小テストの学習	2 時間
第１８回	対面	JLPT 演習問題４	JLPT 演習問題４類似問題をする	2 時間
第１９回	対面	JLPT 演習問題５	JLPT 演習問題５類似問題をする	2 時間
第２０回	対面	JLPT 演習問題６	JLPT 演習問題６類似問題をする	2 時間
第２１回	対面	JLPT 演習問題７	JLPT 演習問題７類似問題をする	2 時間
第２２回	対面	JLPT 演習問題８	JLPT 演習問題８類似問題をする	2 時間
第２３回	対面	JLPT 演習問題９	JLPT 演習問題９類似問題をする	2 時間
第２４回	対面	JLPT 演習問題 10	JLPT 演習問題 10 類似問題をする	2 時間
第２５回	対面	聴解とディスカッション１	小テストの学習 当日学んだ語彙を覚える	2 時間
第２６回	対面	聴解とディスカッション２	小テストの学習 当日学んだ語彙を覚える	2 時間
第２７回	対面	聴解とディスカッション３	小テストの学習 当日学んだ語彙を覚える	2 時間
第２８回	対面	総括（復習テストに向けた振り返り）	復習テストに向けた学修する	2 時間
第２９回	オンデマンド	総括（復習テストに向けた振り返り）	復習テストに向けた学修する	6 時間
第３０回	対面	復習テスト	学期中に学修した語彙を再度覚えなおす	6 時間

科目名	日本語７	開講年度	2025
担当者	柳　東汶	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、幅広い場面で使われる日本語への理解を目指す。		
授業の目的及び概要	本科目は、JLPT N2 以上を目指す学修者を対象に、レベル別のクラスで、より高度な日本語の運用能力を養成することを目的とする。日本語８での学修と合わせて、大学での専門学修やひいては大学卒業後に日本での就労も視野に入れ、専門分野の書籍の講読や、議論への参加が可能になることを目指し、本科目では①幅広い話題について書かれた新聞や雑誌の記事・解説など、論旨が明快な文章を読んで文章の内容を理解する、②一般的な話題に関する読み物を読んで、話の流れや表現意図を理解する、③読んだものを通して持った自身の意見を、他者に明瞭に伝える等の学修をとおして、「読む・話す・書く」の受容・産出・やりとり能力を向上させる。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は以下のとおりである。 ①適切な参考資料を選択して使いながら、様々な目的やテクストの種類に合わせて、読むスピード、読み方を変えながら独力でかなりのところまで読み解ける。 ②記述とプレゼンテーションを明確かつ体系的に展開できる。要点を見失わずに、関連する詳細情報を付け加えて、内容を補足できる。 ③いろいろな情報や議論をまとめて評価した上で、自分の関心がある専門分野の多様な話題について明瞭で詳細なテクストを書くことができる。 ④一般的、学術的、職業上、もしくは余暇に関する幅広い話題について、流暢に、正確に、そして効果的に言葉を使うことができ、考えと考えの間の関係をはっきりさせることができる。言いたいことが表現できない様子もまずなく、文法も正確でその場にふさわしい丁寧さで自然にコミュニケーションできる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	中間テスト実施後には授業内でフィードバックを行う。 また、提出された宿題は添削をして返却する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	（１） ①独立行政法人国際交流基金 （2012）『日本語能力試験公式問題集 N2』凡人社 ②独立行政法人国際交流基金 （2018）『日本語能力試験公式問題集 N2 第二集』凡人社 ③前坊 香菜子（2019）『キクタン N2』アルク （２） ①氏原庸子（2015）『日本語能力試験 N1 読解必修パターン』Ｊリサーチ ②前坊 香菜子（2019）『キクタン N1』アルク （３） ①独立行政法人国際交流基金 （2012）『日本語能力試験公式問題集 N2』凡人社 ②独立行政法人国際交流基金 （2018）『日本語能力試験公式問題集 N2 第二集』凡人社	ISBN	（１） ①978-4893588180 ②978-4893589378 ③978-4757428560 （２） ① 978-4863922495 ②978-4757433557 （３） ①978-4893588173 ②978-4893589361 ③978-4757433557

	③前坊 香菜子（2019）『キクタン N1』アルク		
参考書	適宜指示する	ISBN	適宜指示する
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	5	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	28	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	47	
	その他の内容	JLPT 受験（10%） 学期末復習テスト（30%） 実力テスト/ハーフ模試（7%）	
この科目の受講にあたって	本科目を受講する学生は、JLPT の受験が必須です。本科目での学修を通して、N1 の合格を目指しますが、何度も N1 を失敗している学生は、①初級～N2 までの語彙、文法をまず確実に覚えなおしてみてください。N2 までの内容が確実に覚えられていることが N1 合格につながります。学習量は絶対的に必要なものです。授業外での継続的な学習、ニュースや新聞など、積極帝に日本語で読む、聞く等の活動も毎日少しずつ取り入れていきましょう。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス、語彙アセスメントテスト	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第２回	対面	読解①（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる）	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第３回	対面	読解②（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解①	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第４回	対面	読解③（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解②	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第５回	対面	読解④（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解③	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第６回	対面	読解⑤（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解④	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第７回	対面	読解⑥（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解⑤	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第８回	対面	読解⑦（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解⑥	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第９回	対面	読解⑧（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解⑦	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第１０回	対面	読解⑨（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解⑧	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第１１回	対面	前半の復習	中間テストに向けた学修	2 時間

第１２回	オンデマンド	前半の復習	中間テストに向けた学修	4 時間
第１３回	対面	中間テスト	小テストの学習	2 時間
第１４回	対面	JLPT 演習問題１	JLPT 演習問題１の類似問題をする	3 時間
第１５回	対面	JLPT 演習問題２	JLPT 演習問題２類似問題をする	2 時間
第１６回	対面	JLPT 演習問題３	JLPT 演習問題３類似問題をする	6 時間
第１７回	対面	JLPT 模試　読解	小テストの学習	2 時間
第１８回	対面	JLPT 演習問題４	JLPT 演習問題４類似問題をする	2 時間
第１９回	対面	JLPT 演習問題５	JLPT 演習問題５類似問題をする	2 時間
第２０回	対面	JLPT 演習問題６	JLPT 演習問題６類似問題をする	2 時間
第２１回	対面	JLPT 演習問題７	JLPT 演習問題７類似問題をする	2 時間
第２２回	対面	JLPT 演習問題８	JLPT 演習問題８類似問題をする	2 時間
第２３回	対面	JLPT 演習問題９	JLPT 演習問題９類似問題をする	2 時間
第２４回	対面	JLPT 演習問題 10	JLPT 演習問題 10 類似問題をする	2 時間
第２５回	対面	聴解とディスカッション１	小テストの学習 当日学んだ語彙を覚える	2 時間
第２６回	対面	聴解とディスカッション２	小テストの学習 当日学んだ語彙を覚える	2 時間
第２７回	対面	聴解とディスカッション３	小テストの学習 当日学んだ語彙を覚える	2 時間
第２８回	対面	総括（復習テストに向けた振り返り）	復習テストに向けた学修する	2 時間
第２９回	オンデマンド	総括（復習テストに向けた振り返り）	復習テストに向けた学修する	6 時間
第３０回	対面	復習テスト	学期中に学修した語彙を再度覚えなおす	6 時間

科目名	日本語７	開講年度	2025
担当者	荻田　朋子	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、幅広い場面で使われる日本語への理解を目指す。		
授業の目的及び概要	本科目は、JLPT N2 以上を目指す学修者を対象に、レベル別のクラスで、より高度な日本語の運用能力を養成することを目的とする。日本語８での学修と合わせて、大学での専門学修やひいては大学卒業後に日本での就労も視野に入れ、専門分野の書籍の講読や、議論への参加が可能になることを目指し、本科目では①幅広い話題について書かれた新聞や雑誌の記事・解説など、論旨が明快な文章を読んで文章の内容を理解する、②一般的な話題に関する読み物を読んで、話の流れや表現意図を理解する、③読んだものを通して持った自身の意見を、他者に明瞭に伝える等の学修をとおして、「読む・話す・書く」の受容・産出・やりとり能力を向上させる。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は以下のとおりである。 ①適切な参考資料を選択して使いながら、様々な目的やテクストの種類に合わせて、読むスピード、読み方を変えながら独力でかなりのところまで読み解ける。 ②記述とプレゼンテーションを明確かつ体系的に展開できる。要点を見失わずに、関連する詳細情報を付け加えて、内容を補足できる。 ③いろいろな情報や議論をまとめて評価した上で、自分の関心がある専門分野の多様な話題について明瞭で詳細なテクストを書くことができる。 ④一般的、学術的、職業上、もしくは余暇に関する幅広い話題について、流暢に、正確に、そして効果的に言葉を使うことができ、考えと考えの間の関係をはっきりさせることができる。言いたいことが表現できない様子もまずなく、文法も正確でその場にふさわしい丁寧さで自然にコミュニケーションできる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	中間テスト実施後には授業内でフィードバックを行う。 また、提出された宿題は添削をして返却する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	（１） ①独立行政法人国際交流基金 （2012）『日本語能力試験公式問題集 N2』凡人社 ②独立行政法人国際交流基金 （2018）『日本語能力試験公式問題集 N2 第二集』凡人社 ③前坊 香菜子（2019）『キクタン N2』アルク （２） ①氏原庸子（2015）『日本語能力試験 N1 読解必修パターン』Ｊリサーチ ②前坊 香菜子（2019）『キクタン N1』アルク （３） ①独立行政法人国際交流基金 （2012）『日本語能力試験公式問題集 N2』凡人社 ②独立行政法人国際交流基金 （2018）『日本語能力試験公式問題集 N2 第二集』凡人社	ISBN	（１） ①978-4893588180 ②978-4893589378 ③978-4757428560 （２） ① 978-4863922495 ②978-4757433557 （３） ①978-4893588173 ②978-4893589361 ③978-4757433557

	③前坊 香菜子（2019）『キクタン N1』アルク		
参考書	適宜指示する	ISBN	適宜指示する
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	5	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	28	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	47	
	その他の内容	JLPT 受験（10%） 学期末復習テスト（30%） 実力テスト/ハーフ模試（7%）	
この科目の受講にあたって	本科目を受講する学生は、JLPT の受験が必須です。本科目での学修を通して、N1 の合格を目指しますが、何度も N1 を失敗している学生は、①初級～N2 までの語彙、文法をまず確実に覚えなおしてみてください。N2 までの内容が確実に覚えられていることが N1 合格につながります。学習量は絶対的に必要なものです。授業外での継続的な学習、ニュースや新聞など、積極帝に日本語で読む、聞く等の活動も毎日少しずつ取り入れていきましょう。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス、語彙アセスメントテスト	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第２回	対面	読解①（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる）	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第３回	対面	読解②（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解①	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第４回	対面	読解③（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解②	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第５回	対面	読解④（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解③	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第６回	対面	読解⑤（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解④	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第７回	対面	読解⑥（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解⑤	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第８回	対面	読解⑦（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解⑥	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第９回	対面	読解⑧（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解⑦	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第１０回	対面	読解⑨（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解⑧	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第１１回	対面	前半の復習	中間テストに向けた学修	2 時間

第１２回	オンデマンド	前半の復習	中間テストに向けた学修	4 時間
第１３回	対面	中間テスト	小テストの学習	2 時間
第１４回	対面	JLPT 演習問題１	JLPT 演習問題１の類似問題をする	3 時間
第１５回	対面	JLPT 演習問題２	JLPT 演習問題２類似問題をする	2 時間
第１６回	対面	JLPT 演習問題３	JLPT 演習問題３類似問題をする	6 時間
第１７回	対面	JLPT 模試　読解	小テストの学習	2 時間
第１８回	対面	JLPT 演習問題４	JLPT 演習問題４類似問題をする	2 時間
第１９回	対面	JLPT 演習問題５	JLPT 演習問題５類似問題をする	2 時間
第２０回	対面	JLPT 演習問題６	JLPT 演習問題６類似問題をする	2 時間
第２１回	対面	JLPT 演習問題７	JLPT 演習問題７類似問題をする	2 時間
第２２回	対面	JLPT 演習問題８	JLPT 演習問題８類似問題をする	2 時間
第２３回	対面	JLPT 演習問題９	JLPT 演習問題９類似問題をする	2 時間
第２４回	対面	JLPT 演習問題 10	JLPT 演習問題 10 類似問題をする	2 時間
第２５回	対面	聴解とディスカッション１	小テストの学習 当日学んだ語彙を覚える	2 時間
第２６回	対面	聴解とディスカッション２	小テストの学習 当日学んだ語彙を覚える	2 時間
第２７回	対面	聴解とディスカッション３	小テストの学習 当日学んだ語彙を覚える	2 時間
第２８回	対面	総括（復習テストに向けた振り返り）	復習テストに向けた学修する	2 時間
第２９回	オンデマンド	総括（復習テストに向けた振り返り）	復習テストに向けた学修する	6 時間
第３０回	対面	復習テスト	学期中に学修した語彙を再度覚えなおす	6 時間

科目名	日本語７	開講年度	2025
担当者	荻田　朋子	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、幅広い場面で使われる日本語への理解を目指す。		
授業の目的及び概要	本科目は、JLPT N2 以上を目指す学修者を対象に、レベル別のクラスで、より高度な日本語の運用能力を養成することを目的とする。日本語８での学修と合わせて、大学での専門学修やひいては大学卒業後に日本での就労も視野に入れ、専門分野の書籍の講読や、議論への参加が可能になることを目指し、本科目では①幅広い話題について書かれた新聞や雑誌の記事・解説など、論旨が明快な文章を読んで文章の内容を理解する、②一般的な話題に関する読み物を読んで、話の流れや表現意図を理解する、③読んだものを通して持った自身の意見を、他者に明瞭に伝える等の学修をとおして、「読む・話す・書く」の受容・産出・やりとり能力を向上させる。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は以下のとおりである。 ①適切な参考資料を選択して使いながら、様々な目的やテクストの種類に合わせて、読むスピード、読み方を変えながら独力でかなりのところまで読み解ける。 ②記述とプレゼンテーションを明確かつ体系的に展開できる。要点を見失わずに、関連する詳細情報を付け加えて、内容を補足できる。 ③いろいろな情報や議論をまとめて評価した上で、自分の関心がある専門分野の多様な話題について明瞭で詳細なテクストを書くことができる。 ④一般的、学術的、職業上、もしくは余暇に関する幅広い話題について、流暢に、正確に、そして効果的に言葉を使うことができ、考えと考えの間の関係をはっきりさせることができる。言いたいことが表現できない様子もまずなく、文法も正確でその場にふさわしい丁寧さで自然にコミュニケーションできる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	中間テスト実施後には授業内でフィードバックを行う。 また、提出された宿題は添削をして返却する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	（１） ①独立行政法人国際交流基金 （2012）『日本語能力試験公式問題集 N2』凡人社 ②独立行政法人国際交流基金 （2018）『日本語能力試験公式問題集 N2 第二集』凡人社 ③前坊 香菜子（2019）『キクタン N2』アルク （２） ①氏原庸子（2015）『日本語能力試験 N1 読解必修パターン』Ｊリサーチ ②前坊 香菜子（2019）『キクタン N1』アルク （３） ①独立行政法人国際交流基金 （2012）『日本語能力試験公式問題集 N2』凡人社 ②独立行政法人国際交流基金 （2018）『日本語能力試験公式問題集 N2 第二集』凡人社	ISBN	（１） ①978-4893588180 ②978-4893589378 ③978-4757428560 （２） ① 978-4863922495 ②978-4757433557 （３） ①978-4893588173 ②978-4893589361 ③978-4757433557

	③前坊 香菜子（2019）『キクタン N1』アルク		
参考書	適宜指示する	ISBN	適宜指示する
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	5	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	28	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	47	
	その他の内容	JLPT 受験（10%） 学期末復習テスト（30%） 実力テスト/ハーフ模試（7%）	
この科目の受講にあたって	本科目を受講する学生は、JLPT の受験が必須です。本科目での学修を通して、N1 の合格を目指しますが、何度も N1 を失敗している学生は、①初級～N2 までの語彙、文法をまず確実に覚えなおしてみてください。N2 までの内容が確実に覚えられていることが N1 合格につながります。学習量は絶対的に必要なものです。授業外での継続的な学習、ニュースや新聞など、積極帝に日本語で読む、聞く等の活動も毎日少しずつ取り入れていきましょう。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス、語彙アセスメントテスト	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第２回	対面	読解①（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる）	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第３回	対面	読解②（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解①	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第４回	対面	読解③（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解②	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第５回	対面	読解④（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解③	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第６回	対面	読解⑤（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解④	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第７回	対面	読解⑥（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解⑤	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第８回	対面	読解⑦（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解⑥	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第９回	対面	読解⑧（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解⑦	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第１０回	対面	読解⑨（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解⑧	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第１１回	対面	前半の復習	中間テストに向けた学修	2 時間

第１２回	オンデマンド	前半の復習	中間テストに向けた学修	4 時間
第１３回	対面	中間テスト	小テストの学習	2 時間
第１４回	対面	JLPT 演習問題１	JLPT 演習問題１の類似問題をする	3 時間
第１５回	対面	JLPT 演習問題２	JLPT 演習問題２類似問題をする	2 時間
第１６回	対面	JLPT 演習問題３	JLPT 演習問題３類似問題をする	6 時間
第１７回	対面	JLPT 模試　読解	小テストの学習	2 時間
第１８回	対面	JLPT 演習問題４	JLPT 演習問題４類似問題をする	2 時間
第１９回	対面	JLPT 演習問題５	JLPT 演習問題５類似問題をする	2 時間
第２０回	対面	JLPT 演習問題６	JLPT 演習問題６類似問題をする	2 時間
第２１回	対面	JLPT 演習問題７	JLPT 演習問題７類似問題をする	2 時間
第２２回	対面	JLPT 演習問題８	JLPT 演習問題８類似問題をする	2 時間
第２３回	対面	JLPT 演習問題９	JLPT 演習問題９類似問題をする	2 時間
第２４回	対面	JLPT 演習問題 10	JLPT 演習問題 10 類似問題をする	2 時間
第２５回	対面	聴解とディスカッション１	小テストの学習 当日学んだ語彙を覚える	2 時間
第２６回	対面	聴解とディスカッション２	小テストの学習 当日学んだ語彙を覚える	2 時間
第２７回	対面	聴解とディスカッション３	小テストの学習 当日学んだ語彙を覚える	2 時間
第２８回	対面	総括（復習テストに向けた振り返り）	復習テストに向けた学修する	2 時間
第２９回	オンデマンド	総括（復習テストに向けた振り返り）	復習テストに向けた学修する	6 時間
第３０回	対面	復習テスト	学期中に学修した語彙を再度覚えなおす	6 時間

科目名	日本語７	開講年度	2025
担当者	橋本　凜	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、幅広い場面で使われる日本語への理解を目指す。		
授業の目的及び概要	本科目は、JLPT N2 以上を目指す学修者を対象に、レベル別のクラスで、より高度な日本語の運用能力を養成することを目的とする。日本語６での学修と合わせて、大学での専門学修やひいては大学卒業後に日本での就労も視野に入れ、専門分野の書籍の講読や、議論への参加が可能になることを目指し、本科目では①幅広い話題について書かれた新聞や雑誌の記事・解説など、論旨が明快な文章を読んで文章の内容を理解する、②一般的な話題に関する読み物を読んで、話の流れや表現意図を理解する、③読んだものを通して持った自身の意見を、他者に明瞭に伝える等の学修をとおして、「読む・話す・書く」の受容・産出・やりとり能力を向上させる。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は以下のとおりである。 ①適切な参考資料を選択して使いながら、様々な目的やテクストの種類に合わせて、読むスピード、読み方を変えながら独力でかなりのところまで読み解ける。 ②記述とプレゼンテーションを明確かつ体系的に展開できる。要点を見失わずに、関連する詳細情報を付け加えて、内容を補足できる。 ③いろいろな情報や議論をまとめて評価した上で、自分の関心がある専門分野の多様な話題について明瞭で詳細なテクストを書くことができる。 ④一般的、学術的、職業上、もしくは余暇に関する幅広い話題について、流暢に、正確に、そして効果的に言葉を使うことができ、考えと考えの間の関係をはっきりさせることができる。言いたいことが表現できない様子もまずなく、文法も正確でその場にふさわしい丁寧さで自然にコミュニケーションできる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	中間テスト実施後には授業内でフィードバックを行う。 また、提出された宿題は添削をして返却する。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	資料を配布する	ISBN	なし
参考書	なし	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	10
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	30
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	40
その他の内容	学期末復習テスト：40%

この科目の受講に	授業の到達目標を参考にして、自らの学修計画を作成しましょう。その際 JLPT の受験を必ず目

あたって	標に入れ、7 月と 12 月の JLPT 試験を必ず受験しましょう。また、授業には必ず出席し「能動的に」受講してください。予習・復習は必須です。 また、テストだけではなく、確実に日々の学修を行い、小テスト、課題で点数を取ることが科目合格につながります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	オンデマンド	授業の流れ、評価の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	1 時間
第２回	オンデマンド	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第３回	オンデマンド	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第４回	オンデマンド	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第５回	オンデマンド	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第６回	オンデマンド	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第７回	オンデマンド	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第８回	オンデマンド	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第９回	オンデマンド	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１０回	オンデマンド	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１１回	オンデマンド	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１２回	オンデマンド	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１３回	オンデマンド	JLPT 練習問題①	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１４回	オンデマンド	JLPT 練習問題②	事後学修：中間テストに向けた学修 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	4 時間
第１５回	オンデマンド	JLPT 練習問題③	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１６回	オンデマンド	JLPT 練習問題④	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１７回	オンデ	JLPT 練習問題⑤	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの	2 時間

	マンド		準備	
第１８回	オンデマンド	中間テスト対策	中間テストの準備	2 時間
第１９回	オンデマンド	中間テスト	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２０回	オンデマンド	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２１回	オンデマンド	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備 確認テストの学修	2 時間
第２２回	オンデマンド	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２３回	オンデマンド	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２４回	オンデマンド	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２５回	オンデマンド	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２６回	オンデマンド	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備 確認テストのための学修	2 時間
第２７回	オンデマンド	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２８回	オンデマンド	1．小テスト 2．読解	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２９回	オンデマンド	春学期振り返り・定期試験対策	事前学修：定期試験の準備	4 時間
第３０回	オンデマンド	春学期振り返り・定期試験対策	事後学修：定期試験に向けた勉強	4 時間

科目名	日本語８	開講年度	2025
担当者	荻田　朋子	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、幅広い場面で使われる日本語への理解を目指す。		
授業の目的及び概要	本科目は、JLPT N2 以上を目指す学修者を対象に、レベル別のクラスで、より高度な日本語の運用能力を養成することを目的とする。日本語７での学修と合わせて、大学での専門学修やひいては大学卒業後に日本での就労も視野に入れ、専門分野の書籍の講読や、議論への参加が可能になることを目指し、本科目では①幅広い話題について書かれた新聞や雑誌の記事・解説など、論旨が明快な文章を読んで文章の内容を理解する、②一般的な話題に関する読み物を読んで、話の流れや表現意図を理解する、③読んだものを通して持った自身の意見を、他者に明瞭に伝える等の学修をとおして、「読む・話す・書く」の受容・産出・やりとり能力を向上させる。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は以下のとおりである。 ①適切な参考資料を選択して使いながら、様々な目的やテクストの種類に合わせて、読むスピード、読み方を変えながら独力でかなりのところまで読み解ける。 ②記述とプレゼンテーションを明確かつ体系的に展開できる。要点を見失わずに、関連する詳細情報を付け加えて、内容を補足できる。 ③いろいろな情報や議論をまとめて評価した上で、自分の関心がある専門分野の多様な話題について明瞭で詳細なテクストを書くことができる。 ④一般的、学術的、職業上、もしくは余暇に関する幅広い話題について、流暢に、正確に、そして効果的に言葉を使うことができ、考えと考えの間の関係をはっきりさせることができる。言いたいことが表現できない様子もまずなく、文法も正確でその場にふさわしい丁寧さで自然にコミュニケーションできる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	中間テスト実施後には授業内でフィードバックを行う。 また、提出された宿題は添削をして返却する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	（１） ①友松悦子（2011）『改訂版どんなときどう使う日本語文型 500 N1～N3 の重要表現を網羅』アルク ②友松悦子（2011）『改訂版どんなときどう使う日本語文型 500 短文完成練習帳』アルク③大木理恵 他(2024)『JLPT 聴解 N2 ポイント＆プラクティス』スリーエーネットワーク （２） ①友松悦子（2011）『改訂版どんなときどう使う日本語文型 500 N1～N3 の重要表現を網羅』アルク ②友松悦子（2011）『改訂版どんなときどう使う日本語文型 500 短文完成練習帳』アルク③大木理恵 他(2024)『JLPT 聴解 N2 ポイント＆プラクティス』スリーエーネットワーク （３）	ISBN	（１） ①978-4757418905 ②978-4757420526 ③978-4883199389 （２） ①978-4757418905 ②978-4757420526 ③978-4883199389 （３） ①978-4893588173 ②978-4893589361 （４） ①978-4863922280 資料配布

	①独立行政法人国際交流基金（2012）『日本語能力試験公式問題集 N1』凡人社 ②独立行政法人国際交流基金（2018）『日本語能力試験公式問題集 N1 第二集』凡人社 （４） ①氏原庸子（2015）『日本語能力試験 N1 聴解 必修パターン』Ｊリサーチ 資料配布		
参考書	適宜指示する	ISBN	適宜指示する

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	5
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	28
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	47
	その他の内容	JLPT 受験（10%） 学期末復習テスト（30%） 実力テスト/ハーフ模試（7%）
この科目の受講にあたって	本科目を受講する学生は、JLPT の受験が必須です。本科目での学修を通して、N1 の合格を目指しますが、何度も N1 を失敗している学生は、①初級～N2 までの語彙、文法をまず確実に覚えなおしてみてください。N2 までの内容が確実に覚えられていることが N1 合格につながります。学習量は絶対的に必要なものです。授業外での継続的な学習、ニュースや新聞など、積極帝に日本語で読む、聞く等の活動も毎日少しずつ取り入れていきましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス、語彙アセスメントテスト	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第２回	対面	読解①（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる）	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第３回	対面	読解②（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解①	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第４回	対面	読解③（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解②	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第５回	対面	読解④（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解③	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第６回	対面	読解⑤（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解④	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第７回	対面	読解⑥（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解⑤	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第８回	対面	読解⑦（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解⑥	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間

第９回	対面	読解⑧（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解⑦	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第１０回	対面	読解⑨（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解⑧	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第１１回	対面	前半の復習	中間テストに向けた学修	2 時間
第１２回	オンデマンド	前半の復習	中間テストに向けた学修	4 時間
第１３回	対面	中間テスト	小テストの学習	2 時間
第１４回	対面	JLPT 演習問題１	JLPT 演習問題１の類似問題をする	3 時間
第１５回	対面	JLPT 演習問題２	JLPT 演習問題２類似問題をする	2 時間
第１６回	対面	JLPT 演習問題３	JLPT 演習問題３類似問題をする	6 時間
第１７回	対面	JLPT 模試　読解	小テストの学習	2 時間
第１８回	対面	JLPT 演習問題４	JLPT 演習問題４類似問題をする	2 時間
第１９回	対面	JLPT 演習問題５	JLPT 演習問題５類似問題をする	2 時間
第２０回	対面	JLPT 演習問題６	JLPT 演習問題６類似問題をする	2 時間
第２１回	対面	JLPT 演習問題７	JLPT 演習問題７類似問題をする	2 時間
第２２回	対面	JLPT 演習問題８	JLPT 演習問題８類似問題をする	2 時間
第２３回	対面	JLPT 演習問題９	JLPT 演習問題９類似問題をする	2 時間
第２４回	対面	JLPT 演習問題 10	JLPT 演習問題 10 類似問題をする	2 時間
第２５回	対面	聴解とディスカッション１	小テストの学習 当日学んだ語彙を覚える	2 時間
第２６回	対面	聴解とディスカッション２	小テストの学習 当日学んだ語彙を覚える	2 時間
第２７回	対面	聴解とディスカッション３	小テストの学習 当日学んだ語彙を覚える	2 時間
第２８回	対面	総括（復習テストに向けた振り返り）	復習テストに向けた学修する	2 時間
第２９回	オンデマンド	総括（復習テストに向けた振り返り）	復習テストに向けた学修する	6 時間
第３０回	対面	復習テスト	学期中に学修した語彙を再度覚えなおす	6 時間

科目名	日本語８	開講年度	2025
担当者	馬　花力	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、幅広い場面で使われる日本語への理解を目指す。		
授業の目的及び概要	本科目は、JLPT N2 以上を目指す学修者を対象に、レベル別のクラスで、より高度な日本語の運用能力を養成することを目的とする。日本語７での学修と合わせて、大学での専門学修やひいては大学卒業後に日本での就労も視野に入れ、専門分野の書籍の講読や、議論への参加が可能になることを目指し、本科目では①幅広い話題について書かれた新聞や雑誌の記事・解説など、論旨が明快な文章を読んで文章の内容を理解する、②一般的な話題に関する読み物を読んで、話の流れや表現意図を理解する、③読んだものを通して持った自身の意見を、他者に明瞭に伝える等の学修をとおして、「読む・話す・書く」の受容・産出・やりとり能力を向上させる。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は以下のとおりである。 ①適切な参考資料を選択して使いながら、様々な目的やテクストの種類に合わせて、読むスピード、読み方を変えながら独力でかなりのところまで読み解ける。 ②記述とプレゼンテーションを明確かつ体系的に展開できる。要点を見失わずに、関連する詳細情報を付け加えて、内容を補足できる。 ③いろいろな情報や議論をまとめて評価した上で、自分の関心がある専門分野の多様な話題について明瞭で詳細なテクストを書くことができる。 ④一般的、学術的、職業上、もしくは余暇に関する幅広い話題について、流暢に、正確に、そして効果的に言葉を使うことができ、考えと考えの間の関係をはっきりさせることができる。言いたいことが表現できない様子もまずなく、文法も正確でその場にふさわしい丁寧さで自然にコミュニケーションできる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	中間テスト実施後には授業内でフィードバックを行う。 また、提出された宿題は添削をして返却する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	（１） ①友松悦子（2011）『改訂版どんなときどう使う日本語文型 500 N1～N3 の重要表現を網羅』アルク ②友松悦子（2011）『改訂版どんなときどう使う日本語文型 500 短文完成練習帳』アルク③大木理恵 他(2024)『JLPT 聴解 N2 ポイント＆プラクティス』スリーエーネットワーク （２） ①友松悦子（2011）『改訂版どんなときどう使う日本語文型 500 N1～N3 の重要表現を網羅』アルク ②友松悦子（2011）『改訂版どんなときどう使う日本語文型 500 短文完成練習帳』アルク③大木理恵 他(2024)『JLPT 聴解 N2 ポイント＆プラクティス』スリーエーネットワーク （３）	ISBN	（１） ①978-4757418905 ②978-4757420526 ③978-4883199389 （２） ①978-4757418905 ②978-4757420526 ③978-4883199389 （３） ①978-4893588173 ②978-4893589361 （４） ①978-4863922280 資料配布

	①独立行政法人国際交流基金（2012）『日本語能力試験公式問題集 N1』凡人社 ②独立行政法人国際交流基金（2018）『日本語能力試験公式問題集 N1 第二集』凡人社 （４） ①氏原庸子（2015）『日本語能力試験 N1 聴解 必修パターン』Ｊリサーチ 資料配布		
参考書	適宜指示する	ISBN	適宜指示する

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	5
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	28
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	47
	その他の内容	JLPT 受験（10%） 学期末復習テスト（30%） 実力テスト/ハーフ模試（7%）
この科目の受講にあたって	本科目を受講する学生は、JLPT の受験が必須です。本科目での学修を通して、N1 の合格を目指しますが、何度も N1 を失敗している学生は、①初級～N2 までの語彙、文法をまず確実に覚えなおしてみてください。N2 までの内容が確実に覚えられていることが N1 合格につながります。学習量は絶対的に必要なものです。授業外での継続的な学習、ニュースや新聞など、積極帝に日本語で読む、聞く等の活動も毎日少しずつ取り入れていきましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス、語彙アセスメントテスト	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第２回	対面	読解①（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる）	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第３回	対面	読解②（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解①	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第４回	対面	読解③（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解②	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第５回	対面	読解④（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解③	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第６回	対面	読解⑤（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解④	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第７回	対面	読解⑥（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解⑤	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第８回	対面	読解⑦（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解⑥	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間

第９回	対面	読解⑧（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解⑦	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第１０回	対面	読解⑨（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解⑧	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第１１回	対面	前半の復習	中間テストに向けた学修	2 時間
第１２回	オンデマンド	前半の復習	中間テストに向けた学修	4 時間
第１３回	対面	中間テスト	小テストの学習	2 時間
第１４回	対面	JLPT 演習問題１	JLPT 演習問題１の類似問題をする	3 時間
第１５回	対面	JLPT 演習問題２	JLPT 演習問題２類似問題をする	2 時間
第１６回	対面	JLPT 演習問題３	JLPT 演習問題３類似問題をする	6 時間
第１７回	対面	JLPT 模試　読解	小テストの学習	2 時間
第１８回	対面	JLPT 演習問題４	JLPT 演習問題４類似問題をする	2 時間
第１９回	対面	JLPT 演習問題５	JLPT 演習問題５類似問題をする	2 時間
第２０回	対面	JLPT 演習問題６	JLPT 演習問題６類似問題をする	2 時間
第２１回	対面	JLPT 演習問題７	JLPT 演習問題７類似問題をする	2 時間
第２２回	対面	JLPT 演習問題８	JLPT 演習問題８類似問題をする	2 時間
第２３回	対面	JLPT 演習問題９	JLPT 演習問題９類似問題をする	2 時間
第２４回	対面	JLPT 演習問題 10	JLPT 演習問題 10 類似問題をする	2 時間
第２５回	対面	聴解とディスカッション１	小テストの学習 当日学んだ語彙を覚える	2 時間
第２６回	対面	聴解とディスカッション２	小テストの学習 当日学んだ語彙を覚える	2 時間
第２７回	対面	聴解とディスカッション３	小テストの学習 当日学んだ語彙を覚える	2 時間
第２８回	対面	総括（復習テストに向けた振り返り）	復習テストに向けた学修する	2 時間
第２９回	オンデマンド	総括（復習テストに向けた振り返り）	復習テストに向けた学修する	6 時間
第３０回	対面	復習テスト	学期中に学修した語彙を再度覚えなおす	6 時間

科目名	日本語８	開講年度	2025
担当者	赤城　永里子	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、幅広い場面で使われる日本語への理解を目指す。		
授業の目的及び概要	本科目は、JLPT N2 以上を目指す学修者を対象に、レベル別のクラスで、より高度な日本語の運用能力を養成することを目的とする。日本語７での学修と合わせて、大学での専門学修やひいては大学卒業後に日本での就労も視野に入れ、専門分野の書籍の講読や、議論への参加が可能になることを目指し、本科目では①幅広い話題について書かれた新聞や雑誌の記事・解説など、論旨が明快な文章を読んで文章の内容を理解する、②一般的な話題に関する読み物を読んで、話の流れや表現意図を理解する、③読んだものを通して持った自身の意見を、他者に明瞭に伝える等の学修をとおして、「読む・話す・書く」の受容・産出・やりとり能力を向上させる。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は以下のとおりである。 ①適切な参考資料を選択して使いながら、様々な目的やテクストの種類に合わせて、読むスピード、読み方を変えながら独力でかなりのところまで読み解ける。 ②記述とプレゼンテーションを明確かつ体系的に展開できる。要点を見失わずに、関連する詳細情報を付け加えて、内容を補足できる。 ③いろいろな情報や議論をまとめて評価した上で、自分の関心がある専門分野の多様な話題について明瞭で詳細なテクストを書くことができる。 ④一般的、学術的、職業上、もしくは余暇に関する幅広い話題について、流暢に、正確に、そして効果的に言葉を使うことができ、考えと考えの間の関係をはっきりさせることができる。言いたいことが表現できない様子もまずなく、文法も正確でその場にふさわしい丁寧さで自然にコミュニケーションできる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	中間テスト実施後には授業内でフィードバックを行う。 また、提出された宿題は添削をして返却する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	（１） ①友松悦子（2011）『改訂版どんなときどう使う日本語文型 500 N1～N3 の重要表現を網羅』アルク ②友松悦子（2011）『改訂版どんなときどう使う日本語文型 500 短文完成練習帳』アルク③大木理恵 他(2024)『JLPT 聴解 N2 ポイント＆プラクティス』スリーエーネットワーク （２） ①友松悦子（2011）『改訂版どんなときどう使う日本語文型 500 N1～N3 の重要表現を網羅』アルク ②友松悦子（2011）『改訂版どんなときどう使う日本語文型 500 短文完成練習帳』アルク③大木理恵 他(2024)『JLPT 聴解 N2 ポイント＆プラクティス』スリーエーネットワーク （３）	ISBN	（１） ①978-4757418905 ②978-4757420526 ③978-4883199389 （２） ①978-4757418905 ②978-4757420526 ③978-4883199389 （３） ①978-4893588173 ②978-4893589361 （４） ①978-4863922280 資料配布

	①独立行政法人国際交流基金（2012）『日本語能力試験公式問題集 N1』凡人社 ②独立行政法人国際交流基金（2018）『日本語能力試験公式問題集 N1 第二集』凡人社 （４） ①氏原庸子（2015）『日本語能力試験 N1 聴解 必修パターン』Ｊリサーチ 資料配布		
参考書	適宜指示する	ISBN	適宜指示する

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	5
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	28
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	47
	その他の内容	JLPT 受験（10%） 学期末復習テスト（30%） 実力テスト/ハーフ模試（7%）
この科目の受講にあたって	本科目を受講する学生は、JLPT の受験が必須です。本科目での学修を通して、N1 の合格を目指しますが、何度も N1 を失敗している学生は、①初級～N2 までの語彙、文法をまず確実に覚えなおしてみてください。N2 までの内容が確実に覚えられていることが N1 合格につながります。学習量は絶対的に必要なものです。授業外での継続的な学習、ニュースや新聞など、積極帝に日本語で読む、聞く等の活動も毎日少しずつ取り入れていきましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス、語彙アセスメントテスト	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第２回	対面	読解①（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる）	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第３回	対面	読解②（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解①	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第４回	対面	読解③（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解②	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第５回	対面	読解④（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解③	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第６回	対面	読解⑤（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解④	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第７回	対面	読解⑥（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解⑤	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第８回	対面	読解⑦（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解⑥	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間

第９回	対面	読解⑧（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解⑦	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第１０回	対面	読解⑨（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解⑧	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第１１回	対面	前半の復習	中間テストに向けた学修	2 時間
第１２回	オンデマンド	前半の復習	中間テストに向けた学修	4 時間
第１３回	対面	中間テスト	小テストの学習	2 時間
第１４回	対面	JLPT 演習問題１	JLPT 演習問題１の類似問題をする	3 時間
第１５回	対面	JLPT 演習問題２	JLPT 演習問題２類似問題をする	2 時間
第１６回	対面	JLPT 演習問題３	JLPT 演習問題３類似問題をする	6 時間
第１７回	対面	JLPT 模試　読解	小テストの学習	2 時間
第１８回	対面	JLPT 演習問題４	JLPT 演習問題４類似問題をする	2 時間
第１９回	対面	JLPT 演習問題５	JLPT 演習問題５類似問題をする	2 時間
第２０回	対面	JLPT 演習問題６	JLPT 演習問題６類似問題をする	2 時間
第２１回	対面	JLPT 演習問題７	JLPT 演習問題７類似問題をする	2 時間
第２２回	対面	JLPT 演習問題８	JLPT 演習問題８類似問題をする	2 時間
第２３回	対面	JLPT 演習問題９	JLPT 演習問題９類似問題をする	2 時間
第２４回	対面	JLPT 演習問題 10	JLPT 演習問題 10 類似問題をする	2 時間
第２５回	対面	聴解とディスカッション１	小テストの学習 当日学んだ語彙を覚える	2 時間
第２６回	対面	聴解とディスカッション２	小テストの学習 当日学んだ語彙を覚える	2 時間
第２７回	対面	聴解とディスカッション３	小テストの学習 当日学んだ語彙を覚える	2 時間
第２８回	対面	総括（復習テストに向けた振り返り）	復習テストに向けた学修する	2 時間
第２９回	オンデマンド	総括（復習テストに向けた振り返り）	復習テストに向けた学修する	6 時間
第３０回	対面	復習テスト	学期中に学修した語彙を再度覚えなおす	6 時間

科目名	日本語８	開講年度	2025
担当者	李　光曦	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、幅広い場面で使われる日本語への理解を目指す。		
授業の目的及び概要	本科目は、JLPT N2 以上を目指す学修者を対象に、レベル別のクラスで、より高度な日本語の運用能力を養成することを目的とする。日本語７での学修と合わせて、大学での専門学修やひいては大学卒業後に日本での就労も視野に入れ、専門分野の書籍の講読や、議論への参加が可能になることを目指し、本科目では①幅広い話題について書かれた新聞や雑誌の記事・解説など、論旨が明快な文章を読んで文章の内容を理解する、②一般的な話題に関する読み物を読んで、話の流れや表現意図を理解する、③読んだものを通して持った自身の意見を、他者に明瞭に伝える等の学修をとおして、「読む・話す・書く」の受容・産出・やりとり能力を向上させる。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は以下のとおりである。 ①適切な参考資料を選択して使いながら、様々な目的やテクストの種類に合わせて、読むスピード、読み方を変えながら独力でかなりのところまで読み解ける。 ②記述とプレゼンテーションを明確かつ体系的に展開できる。要点を見失わずに、関連する詳細情報を付け加えて、内容を補足できる。 ③いろいろな情報や議論をまとめて評価した上で、自分の関心がある専門分野の多様な話題について明瞭で詳細なテクストを書くことができる。 ④一般的、学術的、職業上、もしくは余暇に関する幅広い話題について、流暢に、正確に、そして効果的に言葉を使うことができ、考えと考えの間の関係をはっきりさせることができる。言いたいことが表現できない様子もまずなく、文法も正確でその場にふさわしい丁寧さで自然にコミュニケーションできる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	中間テスト実施後には授業内でフィードバックを行う。 また、提出された宿題は添削をして返却する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	（１） ①友松悦子（2011）『改訂版どんなときどう使う日本語文型 500 N1～N3 の重要表現を網羅』アルク ②友松悦子（2011）『改訂版どんなときどう使う日本語文型 500 短文完成練習帳』アルク③大木理恵 他(2024)『JLPT 聴解 N2 ポイント＆プラクティス』スリーエーネットワーク （２） ①友松悦子（2011）『改訂版どんなときどう使う日本語文型 500 N1～N3 の重要表現を網羅』アルク ②友松悦子（2011）『改訂版どんなときどう使う日本語文型 500 短文完成練習帳』アルク③大木理恵 他(2024)『JLPT 聴解 N2 ポイント＆プラクティス』スリーエーネットワーク （３）	ISBN	（１） ①978-4757418905 ②978-4757420526 ③978-4883199389 （２） ①978-4757418905 ②978-4757420526 ③978-4883199389 （３） ①978-4893588173 ②978-4893589361 （４） ①978-4863922280 資料配布

	①独立行政法人国際交流基金（2012）『日本語能力試験公式問題集 N1』凡人社 ②独立行政法人国際交流基金（2018）『日本語能力試験公式問題集 N1 第二集』凡人社 （４） ①氏原庸子（2015）『日本語能力試験 N1 聴解 必修パターン』Ｊリサーチ 資料配布		
参考書	適宜指示する	ISBN	適宜指示する

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	5
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	28
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	47
	その他の内容	JLPT 受験（10%） 学期末復習テスト（30%） 実力テスト/ハーフ模試（7%）
この科目の受講にあたって	本科目を受講する学生は、JLPT の受験が必須です。本科目での学修を通して、N1 の合格を目指しますが、何度も N1 を失敗している学生は、①初級～N2 までの語彙、文法をまず確実に覚えなおしてみてください。N2 までの内容が確実に覚えられていることが N1 合格につながります。学習量は絶対的に必要なものです。授業外での継続的な学習、ニュースや新聞など、積極帝に日本語で読む、聞く等の活動も毎日少しずつ取り入れていきましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス、語彙アセスメントテスト	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第２回	対面	読解①（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる）	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第３回	対面	読解②（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解①	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第４回	対面	読解③（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解②	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第５回	対面	読解④（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解③	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第６回	対面	読解⑤（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解④	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第７回	対面	読解⑥（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解⑤	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第８回	対面	読解⑦（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解⑥	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間

第９回	対面	読解⑧（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解⑦	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第１０回	対面	読解⑨（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解⑧	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第１１回	対面	前半の復習	中間テストに向けた学修	2 時間
第１２回	オンデマンド	前半の復習	中間テストに向けた学修	4 時間
第１３回	対面	中間テスト	小テストの学習	2 時間
第１４回	対面	JLPT 演習問題１	JLPT 演習問題１の類似問題をする	3 時間
第１５回	対面	JLPT 演習問題２	JLPT 演習問題２類似問題をする	2 時間
第１６回	対面	JLPT 演習問題３	JLPT 演習問題３類似問題をする	6 時間
第１７回	対面	JLPT 模試　読解	小テストの学習	2 時間
第１８回	対面	JLPT 演習問題４	JLPT 演習問題４類似問題をする	2 時間
第１９回	対面	JLPT 演習問題５	JLPT 演習問題５類似問題をする	2 時間
第２０回	対面	JLPT 演習問題６	JLPT 演習問題６類似問題をする	2 時間
第２１回	対面	JLPT 演習問題７	JLPT 演習問題７類似問題をする	2 時間
第２２回	対面	JLPT 演習問題８	JLPT 演習問題８類似問題をする	2 時間
第２３回	対面	JLPT 演習問題９	JLPT 演習問題９類似問題をする	2 時間
第２４回	対面	JLPT 演習問題 10	JLPT 演習問題 10 類似問題をする	2 時間
第２５回	対面	聴解とディスカッション１	小テストの学習 当日学んだ語彙を覚える	2 時間
第２６回	対面	聴解とディスカッション２	小テストの学習 当日学んだ語彙を覚える	2 時間
第２７回	対面	聴解とディスカッション３	小テストの学習 当日学んだ語彙を覚える	2 時間
第２８回	対面	総括（復習テストに向けた振り返り）	復習テストに向けた学修する	2 時間
第２９回	オンデマンド	総括（復習テストに向けた振り返り）	復習テストに向けた学修する	6 時間
第３０回	対面	復習テスト	学期中に学修した語彙を再度覚えなおす	6 時間

科目名	日本語８	開講年度	2025
担当者	橋本　凜	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、幅広い場面で使われる日本語への理解を目指す。		
授業の目的及び概要	本科目は、JLPT N2 以上を目指す学修者を対象に、レベル別のクラスで、より高度な日本語の運用能力を養成することを目的とする。日本語７での学修と合わせて、大学での専門学修やひいては大学卒業後に日本での就労も視野に入れ、専門分野の書籍の講読や、議論への参加が可能になることを目指し、本科目では①幅広い話題について書かれた新聞や雑誌の記事・解説など、論旨が明快な文章を読んで文章の内容を理解する、②一般的な話題に関する読み物を読んで、話の流れや表現意図を理解する、③読んだものを通して持った自身の意見を、他者に明瞭に伝える等の学修をとおして、「読む・話す・書く」の受容・産出・やりとり能力を向上させる。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は以下のとおりである。 ①適切な参考資料を選択して使いながら、様々な目的やテクストの種類に合わせて、読むスピード、読み方を変えながら独力でかなりのところまで読み解ける。 ②記述とプレゼンテーションを明確かつ体系的に展開できる。要点を見失わずに、関連する詳細情報を付け加えて、内容を補足できる。 ③いろいろな情報や議論をまとめて評価した上で、自分の関心がある専門分野の多様な話題について明瞭で詳細なテクストを書くことができる。 ④一般的、学術的、職業上、もしくは余暇に関する幅広い話題について、流暢に、正確に、そして効果的に言葉を使うことができ、考えと考えの間の関係をはっきりさせることができる。言いたいことが表現できない様子もまずなく、文法も正確でその場にふさわしい丁寧さで自然にコミュニケーションできる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	中間テスト実施後には授業内でフィードバックを行う。 また、提出された宿題は添削をして返却する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	（１） ①友松悦子（2011）『改訂版どんなときどう使う日本語文型 500 N1～N3 の重要表現を網羅』アルク ②友松悦子（2011）『改訂版どんなときどう使う日本語文型 500 短文完成練習帳』アルク③大木理恵 他(2024)『JLPT 聴解 N2 ポイント＆プラクティス』スリーエーネットワーク （２） ①友松悦子（2011）『改訂版どんなときどう使う日本語文型 500 N1～N3 の重要表現を網羅』アルク ②友松悦子（2011）『改訂版どんなときどう使う日本語文型 500 短文完成練習帳』アルク③大木理恵 他(2024)『JLPT 聴解 N2 ポイント＆プラクティス』スリーエーネットワーク （３）	ISBN	（１） ①978-4757418905 ②978-4757420526 ③978-4883199389 （２） ①978-4757418905 ②978-4757420526 ③978-4883199389 （３） ①978-4893588173 ②978-4893589361 （４） ①978-4863922280 資料配布

	①独立行政法人国際交流基金（2012）『日本語能力試験公式問題集 N1』凡人社 ②独立行政法人国際交流基金（2018）『日本語能力試験公式問題集 N1 第二集』凡人社 （４） ①氏原庸子（2015）『日本語能力試験 N1 聴解 必修パターン』Ｊリサーチ 資料配布		
参考書	適宜指示する	ISBN	適宜指示する

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	5
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	28
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	47
	その他の内容	JLPT 受験（10%） 学期末復習テスト（30%） 実力テスト/ハーフ模試（7%）
この科目の受講にあたって	本科目を受講する学生は、JLPT の受験が必須です。本科目での学修を通して、N1 の合格を目指しますが、何度も N1 を失敗している学生は、①初級～N2 までの語彙、文法をまず確実に覚えなおしてみてください。N2 までの内容が確実に覚えられていることが N1 合格につながります。学習量は絶対的に必要なものです。授業外での継続的な学習、ニュースや新聞など、積極帝に日本語で読む、聞く等の活動も毎日少しずつ取り入れていきましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス、語彙アセスメントテスト	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第２回	対面	読解①（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる）	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第３回	対面	読解②（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解①	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第４回	対面	読解③（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解②	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第５回	対面	読解④（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解③	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第６回	対面	読解⑤（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解④	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第７回	対面	読解⑥（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解⑤	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第８回	対面	読解⑦（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解⑥	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間

第９回	対面	読解⑧（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解⑦	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第１０回	対面	読解⑨（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解⑧	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第１１回	対面	前半の復習	中間テストに向けた学修	2 時間
第１２回	オンデマンド	前半の復習	中間テストに向けた学修	4 時間
第１３回	対面	中間テスト	小テストの学習	2 時間
第１４回	対面	JLPT 演習問題１	JLPT 演習問題１の類似問題をする	3 時間
第１５回	対面	JLPT 演習問題２	JLPT 演習問題２類似問題をする	2 時間
第１６回	対面	JLPT 演習問題３	JLPT 演習問題３類似問題をする	6 時間
第１７回	対面	JLPT 模試　読解	小テストの学習	2 時間
第１８回	対面	JLPT 演習問題４	JLPT 演習問題４類似問題をする	2 時間
第１９回	対面	JLPT 演習問題５	JLPT 演習問題５類似問題をする	2 時間
第２０回	対面	JLPT 演習問題６	JLPT 演習問題６類似問題をする	2 時間
第２１回	対面	JLPT 演習問題７	JLPT 演習問題７類似問題をする	2 時間
第２２回	対面	JLPT 演習問題８	JLPT 演習問題８類似問題をする	2 時間
第２３回	対面	JLPT 演習問題９	JLPT 演習問題９類似問題をする	2 時間
第２４回	対面	JLPT 演習問題 10	JLPT 演習問題 10 類似問題をする	2 時間
第２５回	対面	聴解とディスカッション１	小テストの学習 当日学んだ語彙を覚える	2 時間
第２６回	対面	聴解とディスカッション２	小テストの学習 当日学んだ語彙を覚える	2 時間
第２７回	対面	聴解とディスカッション３	小テストの学習 当日学んだ語彙を覚える	2 時間
第２８回	対面	総括（復習テストに向けた振り返り）	復習テストに向けた学修する	2 時間
第２９回	オンデマンド	総括（復習テストに向けた振り返り）	復習テストに向けた学修する	6 時間
第３０回	対面	復習テスト	学期中に学修した語彙を再度覚えなおす	6 時間

科目名	日本語８	開講年度	2025
担当者	井藁　久美子	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、幅広い場面で使われる日本語への理解を目指す。		
授業の目的及び概要	本科目は、JLPT N2 以上を目指す学修者を対象に、レベル別のクラスで、より高度な日本語の運用能力を養成することを目的とする。日本語７での学修と合わせて、大学での専門学修やひいては大学卒業後に日本での就労も視野に入れ、専門分野の書籍の講読や、議論への参加が可能になることを目指し、本科目では①幅広い話題について書かれた新聞や雑誌の記事・解説など、論旨が明快な文章を読んで文章の内容を理解する、②一般的な話題に関する読み物を読んで、話の流れや表現意図を理解する、③読んだものを通して持った自身の意見を、他者に明瞭に伝える等の学修をとおして、「読む・話す・書く」の受容・産出・やりとり能力を向上させる。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は以下のとおりである。 ①適切な参考資料を選択して使いながら、様々な目的やテクストの種類に合わせて、読むスピード、読み方を変えながら独力でかなりのところまで読み解ける。 ②記述とプレゼンテーションを明確かつ体系的に展開できる。要点を見失わずに、関連する詳細情報を付け加えて、内容を補足できる。 ③いろいろな情報や議論をまとめて評価した上で、自分の関心がある専門分野の多様な話題について明瞭で詳細なテクストを書くことができる。 ④一般的、学術的、職業上、もしくは余暇に関する幅広い話題について、流暢に、正確に、そして効果的に言葉を使うことができ、考えと考えの間の関係をはっきりさせることができる。言いたいことが表現できない様子もまずなく、文法も正確でその場にふさわしい丁寧さで自然にコミュニケーションできる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	中間テスト実施後には授業内でフィードバックを行う。 また、提出された宿題は添削をして返却する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	（１） ①友松悦子（2011）『改訂版どんなときどう使う日本語文型 500 N1～N3 の重要表現を網羅』アルク ②友松悦子（2011）『改訂版どんなときどう使う日本語文型 500 短文完成練習帳』アルク③大木理恵 他(2024)『JLPT 聴解 N2 ポイント＆プラクティス』スリーエーネットワーク （２） ①友松悦子（2011）『改訂版どんなときどう使う日本語文型 500 N1～N3 の重要表現を網羅』アルク ②友松悦子（2011）『改訂版どんなときどう使う日本語文型 500 短文完成練習帳』アルク③大木理恵 他(2024)『JLPT 聴解 N2 ポイント＆プラクティス』スリーエーネットワーク （３）	ISBN	（１） ①978-4757418905 ②978-4757420526 ③978-4883199389 （２） ①978-4757418905 ②978-4757420526 ③978-4883199389 （３） ①978-4893588173 ②978-4893589361 （４） ①978-4863922280 資料配布

	①独立行政法人国際交流基金（2012）『日本語能力試験公式問題集 N1』凡人社 ②独立行政法人国際交流基金（2018）『日本語能力試験公式問題集 N1 第二集』凡人社 （４） ①氏原庸子（2015）『日本語能力試験 N1 聴解 必修パターン』Ｊリサーチ 資料配布		
参考書	適宜指示する	ISBN	適宜指示する

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	5
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	28
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	47
	その他の内容	JLPT 受験（10%） 学期末復習テスト（30%） 実力テスト/ハーフ模試（7%）
この科目の受講にあたって	本科目を受講する学生は、JLPT の受験が必須です。本科目での学修を通して、N1 の合格を目指しますが、何度も N1 を失敗している学生は、①初級～N2 までの語彙、文法をまず確実に覚えなおしてみてください。N2 までの内容が確実に覚えられていることが N1 合格につながります。学習量は絶対的に必要なものです。授業外での継続的な学習、ニュースや新聞など、積極帝に日本語で読む、聞く等の活動も毎日少しずつ取り入れていきましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス、語彙アセスメントテスト	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第２回	対面	読解①（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる）	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第３回	対面	読解②（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解①	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第４回	対面	読解③（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解②	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第５回	対面	読解④（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解③	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第６回	対面	読解⑤（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解④	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第７回	対面	読解⑥（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解⑤	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第８回	対面	読解⑦（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解⑥	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間

第９回	対面	読解⑧（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解⑦	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第１０回	対面	読解⑨（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解⑧	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第１１回	対面	前半の復習	中間テストに向けた学修	2 時間
第１２回	オンデマンド	前半の復習	中間テストに向けた学修	4 時間
第１３回	対面	中間テスト	小テストの学習	2 時間
第１４回	対面	JLPT 演習問題１	JLPT 演習問題１の類似問題をする	3 時間
第１５回	対面	JLPT 演習問題２	JLPT 演習問題２類似問題をする	2 時間
第１６回	対面	JLPT 演習問題３	JLPT 演習問題３類似問題をする	6 時間
第１７回	対面	JLPT 模試　読解	小テストの学習	2 時間
第１８回	対面	JLPT 演習問題４	JLPT 演習問題４類似問題をする	2 時間
第１９回	対面	JLPT 演習問題５	JLPT 演習問題５類似問題をする	2 時間
第２０回	対面	JLPT 演習問題６	JLPT 演習問題６類似問題をする	2 時間
第２１回	対面	JLPT 演習問題７	JLPT 演習問題７類似問題をする	2 時間
第２２回	対面	JLPT 演習問題８	JLPT 演習問題８類似問題をする	2 時間
第２３回	対面	JLPT 演習問題９	JLPT 演習問題９類似問題をする	2 時間
第２４回	対面	JLPT 演習問題 10	JLPT 演習問題 10 類似問題をする	2 時間
第２５回	対面	聴解とディスカッション１	小テストの学習 当日学んだ語彙を覚える	2 時間
第２６回	対面	聴解とディスカッション２	小テストの学習 当日学んだ語彙を覚える	2 時間
第２７回	対面	聴解とディスカッション３	小テストの学習 当日学んだ語彙を覚える	2 時間
第２８回	対面	総括（復習テストに向けた振り返り）	復習テストに向けた学修する	2 時間
第２９回	オンデマンド	総括（復習テストに向けた振り返り）	復習テストに向けた学修する	6 時間
第３０回	対面	復習テスト	学期中に学修した語彙を再度覚えなおす	6 時間

科目名	日本語８	開講年度	2025
担当者	赤城　永里子	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、幅広い場面で使われる日本語への理解を目指す。		
授業の目的及び概要	本科目は、JLPT N2 以上を目指す学修者を対象に、レベル別のクラスで、より高度な日本語の運用能力を養成することを目的とする。大学での専門学修やひいては大学卒業後に日本での就労も視野に入れ、専門分野の書籍の講読や、議論への参加が可能になることを目指し、本科目では①幅広い話題について書かれた新聞や雑誌の記事・解説など、論旨が明快な文章を読んで文章の内容を理解する、②一般的な話題に関する読み物を読んで、話の流れや表現意図を理解する、③読んだものを通して持った自身の意見を、他者に明瞭に伝える等の学修をとおして、「読む・話す・書く」の受容・産出・やりとり能力を向上させる。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は以下のとおりである。 ①適切な参考資料を選択して使いながら、様々な目的やテクストの種類に合わせて、読むスピード、読み方を変えながら独力でかなりのところまで読み解ける。 ②記述とプレゼンテーションを明確かつ体系的に展開できる。要点を見失わずに、関連する詳細情報を付け加えて、内容を補足できる。 ③いろいろな情報や議論をまとめて評価した上で、自分の関心がある専門分野の多様な話題について明瞭で詳細なテクストを書くことができる。 ④一般的、学術的、職業上、もしくは余暇に関する幅広い話題について、流暢に、正確に、そして効果的に言葉を使うことができ、考えと考えの間の関係をはっきりさせることができる。言いたいことが表現できない様子もまずなく、文法も正確でその場にふさわしい丁寧さで自然にコミュニケーションできる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	中間テスト実施後には授業内でフィードバックを行う。 また、提出された宿題は添削をして返却する。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	資料配布	ISBN	なし
参考書	なし	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	10
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	30
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	40
その他の内容	学期末復習テスト：40%

この科目の受講に	授業の到達目標を参考にして、自らの学修計画を作成しましょう。その際 JLPT の受験を必ず目

あたって	標に入れ、7 月と 12 月の JLPT 試験を必ず受験しましょう。また、授業には必ず出席し「能動的に」受講してください。予習・復習は必須です。 また、テストだけではなく、確実に日々の学修を行い、小テスト、課題で点数を取ることが科目合格につながります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	オンデマンド	授業の流れ、評価の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	1 時間
第２回	オンデマンド	1．小テスト 2．文法	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第３回	オンデマンド	1．小テスト 2．文法	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第４回	オンデマンド	1．小テスト 2．文法	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第５回	オンデマンド	1．小テスト 2．文法	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第６回	オンデマンド	1．小テスト 2．文法	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第７回	オンデマンド	1．小テスト 2．文法	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第８回	オンデマンド	1．小テスト 2．文法	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第９回	オンデマンド	中間テストに向けた振り返り	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１０回	オンデマンド	1．小テスト 2．文法	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１１回	オンデマンド	1．小テスト 2．文法	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１２回	オンデマンド	中間テストに向けた振り返り	中間テストの準備	2 時間
第１３回	オンデマンド	中間テスト	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備 確認テストのための学修	2 時間
第１４回	オンデマンド	JLPT 練習問題①	事後学修：中間テストに向けた学修 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	4 時間
第１５回	オンデマンド	JLPT 練習問題②	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１６回	オンデマンド	JLPT 練習問題③	事前学修：中間テストに向けた学修	2 時間
第１７回	オンデマンド	JLPT 練習問題④	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの	2 時間

			準備	
第１８回	オンデマンド	JLPT 練習問題⑤	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第１９回	オンデマンド	１．小テスト ２．文法	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２０回	オンデマンド	１．小テスト ２．文法	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２１回	オンデマンド	１．小テスト ２．文法	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備 確認テストの学修	2 時間
第２２回	オンデマンド	１．小テスト ２．文法	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２３回	オンデマンド	JLPT 練習問題⑥	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２４回	オンデマンド	１．小テスト ２．文法	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２５回	オンデマンド	１．小テスト ２．文法	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２６回	オンデマンド	１．小テスト ２．文法	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備 確認テストのための学修	2 時間
第２７回	オンデマンド	１．小テスト ２．文法	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２８回	オンデマンド	１．小テスト ２．文法	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	2 時間
第２９回	オンデマンド	総括（定期試験に向けた振り返り）	事後学修：授業内での学修項目の復習プリント 事前学修：次回授業内容についての宿題、小テストの準備	4 時間
第３０回	オンデマンド	秋学期振り返り・定期試験対策	事後学修：定期試験に向けた勉強	4 時間

科目名	国際学基礎Ａ	開講年度	2025
担当者	本多　善	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語コミュニケーションコースの学びにむけた国際学の基礎を修得する		
授業の目的及び概要	国際学基礎 A は、英語コミュニケーションコースの学びの目的である、「英語を中心としたコミュニケーション能力」、「世界の諸地域における社会並びに文化の違い」、「異文化理解と多様性の志向」に必要な基本的知識の修得を目的とします。そのためこの授業では、コースの学びの中心となる、①英語、②コミュニケーション、③社会/文化の 3 つの領域の基本的な基礎を修得し、3 つの領域から世界をみる方法を学修します。そして英語コミュニケーションが捉える「国際学」の視点の理解を深めることを目的とします。		
履修条件・留意点	国際学の基礎的知識を修得する「国際学基礎 A」は必修科目です。「国際学基礎 B」と共に 1 年次に全員が履修します。「国際学基礎 A」は、国際通用性のある英語能力を中心としたコミュニケーション能力を修得するとともに、社会や文化の知識を用いて、グローバル・イシュー及び各国・地域の諸課題を把握し、課題解決に向けて取り組む力を身につけるために、外国語発展分野、コミュニケーション分野、社会・文化分野、観光・ホスピタリティ分野の科目を中心に学修する英語コミュニケーションコースの基礎形成に資する科目です。各回で予習に向けたアンケートへの回答、各回の学修定着を図る確認テストが授業外課題として出されますので必ず提出しましょう。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	「国際学基礎 A」および「国際学基礎 B」は、国際学部での多分野からなる複合的な学びを貫く「国際学」の視点（理論）を身につけることを目標とする。 「国際学基礎 A」では、 ・①英語からみる世界、②コミュニケーション、③社会/文化の 3 つの領域の違いを理解し、それら 3 つの領域の基礎となる知識を習得することができる。 ・①英語からみる世界、②コミュニケーション、③社会/文化の 3 つの領域の学びを修得することで、世界をみる「見方」と世界を知る「方法」を身に付けることができる。 ・ペアワーク並びにグループワークを通じて、異なる文化並びに考え方について学修し、協働することができる。 ・国際学基礎 A の 3 つの領域と基本的知識を用いて、2 年進級時に自らの関心や希望進路に沿って、適切にコースを選択することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	予習の確認および予習で示した問題関心のリマインドをおこなうために授業内確認テストをおこないフィードバックを各回で実施する。 ラーニングポータルのテスト機能を用いて実施される各回授業外確認テストの結果を受けて、授業内でフィードバックを実施する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	なし	ISBN	なし
参考書	①鳥飼 玖美子『国際共通語としての英語』講談社現代新書、2011 年 ②高城 玲『大学生のための異文化・国際理解 ：差異と多様性への誘い』丸善出版、2017 年 ③樽本英樹『よくわかる国際社会学[第 2 版] 』ミネルヴァ書房、2016 年	ISBN	①978-4062881043 ②978-4621301258 ③978-4623075911

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	50
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	この科目を修得するコツは、①毎回の授業内容をよく聞きレジュメを完成させること、②次回の授業に向けたアンケートに回答すること、③復習をした上で確認テストを提出すること、3点です。特に確認テストは各回授業の復習内容となっているので視聴し学修すれば必ず高得点を獲得することができます。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション　担当者：本多善 ・英語コミュニケーションコースの「国際学」とは 「国際社会」における英語とコミュニケーションの役割、社会/文化からみる多様性の理解を、①英語、②コミュニケーション、③社会/文化の3領域から考える。 ・国際学部における英語の重要性、3つの専門領域、3領域の修得によって得られる「世界を知る力」、授業全体のガイダンスを説明する。	①　第1回授業の復習並びに確認テストの回答（2時間） ②　ラーニングポータルに提示する教材を読んで次回の授業内課題を予習しアンケートに回答（2時間）	4時間
第2回	対面	英語からみる世界①　担当者：ジョナサン・ミルズ ・〈国際語〉としての英語：「3つの同心円」モデルからその具体的事例を紹介し、グローバル社会における英語の役割を理解する。	①　第2回授業の復習並びに確認テストの回答（2時間） ②　ラーニングポータルに提示する教材を読んで次回の授業内課題を予習しアンケートに回答（2時間）	4時間
第3回	対面	英語からみる世界②　担当者：ジョナサン・ミルズ ・英語圏における英語の事情：英語の歴史、語彙と発音の特徴、現代の英語圏におけるバリエーション等を理解する。	①　第3回授業の復習並びに確認テストの回答（2時間） ②　ラーニングポータルに提示する教材を読んで次回の授業内課題を予習しアンケートに回答（2時間）	4時間
第4回	対面	英語からみる世界③　担当者：ジョナサン・ミルズ ・英語圏以外の英語の事情：英語が他の言語と共存するインドやフィリピン等の英語の事情、日本における英語の使い方と必要性について考える。	①　第4回授業の復習並びに確認テストの回答（2時間） ②　ラーニングポータルに提示する教材を読んで次回の授業内課題を予習しアンケートに回答（2時間）	4時間
第5回	対面	英語からみる世界④　担当者：ジョナサン・ミルズ ・総括。第2～4回の内容を振り返り、理解を深めるためアクティビティ・ディスカッション等を行う。	第5回授業　英語からみる世界④（第2回～4回）の復習並びに確認テスト（4時間）	4時間
第6回	対面	コミュニケーションからみる世界①　担当者：荻田朋子 言語の獲得と言語を用いたコミュニケーションに必要な能力を理解する ・どのように言語（母語）を獲得している	①　第6回授業の復習並びに確認テストの回答（2時間） ②　ラーニングポータルに提示する教材を読んで次回の授業内課題を予習しアンケートに回答（2時間）	4時間

		のか 変形生成文法理論と認知言語学（言語獲得の一理論） 言語相対性仮説（言語と思考がつながっていることを理解する） ・コミュニケーションに関わる能力 言語能力・言語 文法能力、社会言語能力、談話能力、ストラテジー能力		
第７回	対面	コミュニケーションからみる世界②　担当者：荻田朋子 言語・文化間の相違性と普遍性１ ・言語の形式上の違い（日、英、＋留学生の言語） ・言語の表現上の違い（日、英、＋留学生の言語） 言語行動・非言語行動の違い ・コミュニケーションスタイルの違い（日・英＋留学生の文化）	①　第 7 回授業の復習並びに確認テストの回答（2 時間） ②　ラーニングポータルに提示する教材を読んで次回の授業内課題を予習しアンケートに回答（2 時間）	4 時間
第８回	対面	コミュニケーションからみる世界③　担当者：荻田朋子 言語・文化間の相違性と普遍性 3 ・ポライトネス（コミュニケーションにおける対人配慮） 言語・文化・アイデンティティ（言語と文化、言語とアイデンティティのつながりを知る） ・文化的自己とアイデンティティ ・言語とアイデンティティ コミュニケーション調整理論とコードスイッチング（異言語状況でいかにコミュニケーションを調整するか、言語選択をしているかを理解する）	①　第 8 回授業の復習並びに確認テストの回答（2 時間） ②　ラーニングポータルに提示する教材を読んで次回の授業内課題を予習しアンケートに回答（2 時間）	4 時間
第９回	対面	コミュニケーションからみる世界④　担当者：荻田朋子 ・総括。第 6～9 回の内容を振り返り、理解を深めるためアクティビティ・ディスカッション等を行う。	第 9 回授業　コミュニケーションからみる世界④（第 6 回～9 回）の復習並びに確認テスト（4 時間）	4 時間
第１０回	対面	社会/文化からみる世界①　担当者：本多善 世界の民族・文化・宗教の基本を理解する ・民族とは何か（エスニシティを理解する） ・文化とは何か（人の営みを理解する） ・宗教とは何か（世界の宗教とその分布を理解する）	①　第 10 回授業の復習並びに確認テストの回答（2 時間） ②　ラーニングポータルに提示する教材を読んで次回の授業内課題を予習しアンケートに回答（2 時間）	4 時間
第１１回	対面	社会/文化からみる世界②　担当者：本多善 価値観・倫理観の違いから世界を理解する ・個人主義 VS 集団主義 ・性善説 VS 性悪説 ・モノクロニック VS ポリクロニック	①　第 11 回授業の復習並びに確認テストの回答（2 時間） ②　ラーニングポータルに提示する教材を読んで次回の授業内課題を予習しアンケートに回答（2 時間）	4 時間
第１２回	対面	社会/文化からみる世界③　担当者：本多善 グローカリゼーションから世界を考える ・グローバル・シティの機能から世界を読む（ニューヨーク・ロンドン・東京）	①　第 12 回授業の復習並びに確認テストの回答（2 時間） ②　ラーニングポータルに提示する教材を読んで次回の授業内課題を予習しアンケートに回答（2 時間）	4 時間

		・グローバルとローカルの出会い（マクドナルド） フィールドから世界を知る ・英語コミュニケーションコースと海外体験 ・フィールドワークの目的と方法		
第１３回	対面	社会/文化からみる世界④　担当者：本多善 世界の民族･文化･宗教の基本を理解する、価値観・倫理観の違いから世界を理解する、グローカリゼーションから世界を考えるフィールドから世界を知る、の総括	第 13 回授業、社会/文化からみる世界④（第 10 回～12 回）の復習並びに確認テスト（4 時間）	4 時間
第１４回	対面	3 領域から見た世界の理解　担当者：本多善 SDGs　「10. 人や国の不平等をなくすために:国内における多文化共生の課題」をテーマに英語・コミュニケーション、社会/文化の教員による討論と受講生のグループワーク	第 14 回授業の復習並び確認テストの回答（4 時間）	4 時間
第１５回	オンデマンド	これまでのふりかえり　担当者：本多善 「国際社会」における英語とコミュニケーションの役割を理解し、文化的差異に基づく多文化社会の理解を、①英語、②コミュニケーション、③社会/文化領域からふりかえる。英語コミュニケーションにおける、専門を修得する上での基礎となる知識のまとめをおこなう。	これまでのふりかえりと確認テストの回答（4 時間）	4 時間

科目名	国際学基礎Ａ	開講年度	2025
担当者	本多　善	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語コミュニケーションコースの学びにむけた国際学の基礎を修得する		
授業の目的及び概要	国際学基礎 A は、英語コミュニケーションコースの学びの目的である、「英語を中心としたコミュニケーション能力」、「世界の諸地域における社会並びに文化の違い」、「異文化理解と多様性の志向」に必要な基本的知識の修得を目的とします。そのためこの授業では、コースの学びの中心となる、①英語、②コミュニケーション、③社会/文化の 3 つの領域の基本的な基礎を修得し、3 つの領域から世界をみる方法を学修します。そして英語コミュニケーションが捉える「国際学」の視点の理解を深めることを目的とします。		
履修条件・留意点	国際学の基礎的知識を修得する「国際学基礎 A」は必修科目です。「国際学基礎 B」と共に 1 年次に全員が履修します。「国際学基礎 A」は、国際通用性のある英語能力を中心としたコミュニケーション能力を修得するとともに、社会や文化の知識を用いて、グローバル・イシュー及び各国・地域の諸課題を把握し、課題解決に向けて取り組む力を身につけるために、外国語発展分野、コミュニケーション分野、社会・文化分野、観光・ホスピタリティ分野の科目を中心に学修する英語コミュニケーションコースの基礎形成に資する科目です。各回で予習に向けたアンケートへの回答、各回の学修定着を図る確認テストが授業外課題として出されますので必ず提出しましょう。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	「国際学基礎 A」および「国際学基礎 B」は、国際学部での多分野からなる複合的な学びを貫く「国際学」の視点（理論）を身につけることを目標とする。 「国際学基礎 A」では、 ・①英語からみる世界、②コミュニケーション、③社会/文化の 3 つの領域の違いを理解し、それら 3 つの領域の基礎となる知識を習得することができる。 ・①英語からみる世界、②コミュニケーション、③社会/文化の 3 つの領域の学びを修得することで、世界をみる「見方」と世界を知る「方法」を身に付けることができる。 ・ペアワーク並びにグループワークを通じて、異なる文化並びに考え方について学修し、協働することができる。 ・国際学基礎 A の 3 つの領域と基本的知識を用いて、2 年進級時に自らの関心や希望進路に沿って、適切にコースを選択することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	予習の確認および予習で示した問題関心のリマインドをおこなうために授業内確認テストをおこないフィードバックを各回で実施する。 ラーニングポータルのテスト機能を用いて実施される各回授業外確認テストの結果を受けて、授業内でフィードバックを実施する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	なし	ISBN	なし
参考書	①鳥飼 玖美子『国際共通語としての英語』講談社現代新書、2011 年 ②高城 玲『大学生のための異文化・国際理解 ：差異と多様性への誘い』丸善出版、2017 年 ③樽本英樹『よくわかる国際社会学[第 2 版] 』ミネルヴァ書房、2016 年	ISBN	①978-4062881043 ②978-4621301258 ③978-4623075911

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	50
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	この科目を修得するコツは、①毎回の授業内容をよく聞きレジュメを完成させること、②次回の授業に向けたアンケートに回答すること、③復習をした上で確認テストを提出すること、3点です。特に確認テストは各回授業の復習内容となっているので視聴し学修すれば必ず高得点を獲得することができます。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション　担当者：本多善 ・英語コミュニケーションコースの「国際学」とは 「国際社会」における英語とコミュニケーションの役割、社会/文化からみる多様性の理解を、①英語、②コミュニケーション、③社会/文化の3領域から考える。 ・国際学部における英語の重要性、3つの専門領域、3領域の修得によって得られる「世界を知る力」、授業全体のガイダンスを説明する。	①　第1回授業の復習並びに確認テストの回答（2時間） ②　ラーニングポータルに提示する教材を読んで次回の授業内課題を予習しアンケートに回答（2時間）	4時間
第2回	対面	英語からみる世界①　担当者：ジョナサン・ミルズ ・〈国際語〉としての英語：「3つの同心円」モデルからその具体的事例を紹介し、グローバル社会における英語の役割を理解する。	①　第2回授業の復習並びに確認テストの回答（2時間） ②　ラーニングポータルに提示する教材を読んで次回の授業内課題を予習しアンケートに回答（2時間）	4時間
第3回	対面	英語からみる世界②　担当者：ジョナサン・ミルズ ・英語圏における英語の事情：英語の歴史、語彙と発音の特徴、現代の英語圏におけるバリエーション等を理解する。	①　第3回授業の復習並びに確認テストの回答（2時間） ②　ラーニングポータルに提示する教材を読んで次回の授業内課題を予習しアンケートに回答（2時間）	4時間
第4回	対面	英語からみる世界③　担当者：ジョナサン・ミルズ ・英語圏以外の英語の事情：英語が他の言語と共存するインドやフィリピン等の英語の事情、日本における英語の使い方と必要性について考える。	①　第4回授業の復習並びに確認テストの回答（2時間） ②　ラーニングポータルに提示する教材を読んで次回の授業内課題を予習しアンケートに回答（2時間）	4時間
第5回	対面	英語からみる世界④　担当者：ジョナサン・ミルズ ・総括。第2～4回の内容を振り返り、理解を深めるためアクティビティ・ディスカッション等を行う。	第5回授業　英語からみる世界④（第2回～4回）の復習並びに確認テスト（4時間）	4時間
第6回	対面	コミュニケーションからみる世界①　担当者：荻田朋子 言語の獲得と言語を用いたコミュニケーションに必要な能力を理解する ・どのように言語（母語）を獲得している	①　第6回授業の復習並びに確認テストの回答（2時間） ②　ラーニングポータルに提示する教材を読んで次回の授業内課題を予習しアンケートに回答（2時間）	4時間

		のか 変形生成文法理論と認知言語学（言語獲得の一理論） 言語相対性仮説（言語と思考がつながっていることを理解する） ・コミュニケーションに関わる能力 言語能力・言語 文法能力、社会言語能力、談話能力、ストラテジー能力		
第７回	対面	コミュニケーションからみる世界②　担当者：荻田朋子 言語・文化間の相違性と普遍性１ ・言語の形式上の違い（日、英、＋留学生の言語） ・言語の表現上の違い（日、英、＋留学生の言語） 言語行動・非言語行動の違い ・コミュニケーションスタイルの違い（日・英＋留学生の文化）	①　第 7 回授業の復習並びに確認テストの回答（2 時間） ②　ラーニングポータルに提示する教材を読んで次回の授業内課題を予習しアンケートに回答（2 時間）	4 時間
第８回	対面	コミュニケーションからみる世界③　担当者：荻田朋子 言語・文化間の相違性と普遍性 3 ・ポライトネス（コミュニケーションにおける対人配慮） 言語・文化・アイデンティティ（言語と文化、言語とアイデンティティのつながりを知る） ・文化的自己とアイデンティティ ・言語とアイデンティティ コミュニケーション調整理論とコードスイッチング（異言語状況でいかにコミュニケーションを調整するか、言語選択をしているかを理解する）	①　第 8 回授業の復習並びに確認テストの回答（2 時間） ②　ラーニングポータルに提示する教材を読んで次回の授業内課題を予習しアンケートに回答（2 時間）	4 時間
第９回	対面	コミュニケーションからみる世界④　担当者：荻田朋子 ・総括。第 6～9 回の内容を振り返り、理解を深めるためアクティビティ・ディスカッション等を行う。	第 9 回授業　コミュニケーションからみる世界④（第 6 回～9 回）の復習並びに確認テスト（4 時間）	4 時間
第１０回	対面	社会/文化からみる世界①　担当者：本多善 世界の民族・文化・宗教の基本を理解する ・民族とは何か（エスニシティを理解する） ・文化とは何か（人の営みを理解する） ・宗教とは何か（世界の宗教とその分布を理解する）	①　第 10 回授業の復習並びに確認テストの回答（2 時間） ②　ラーニングポータルに提示する教材を読んで次回の授業内課題を予習しアンケートに回答（2 時間）	4 時間
第１１回	対面	社会/文化からみる世界②　担当者：本多善 価値観・倫理観の違いから世界を理解する ・個人主義 VS 集団主義 ・性善説 VS 性悪説 ・モノクロニック VS ポリクロニック	①　第 11 回授業の復習並びに確認テストの回答（2 時間） ②　ラーニングポータルに提示する教材を読んで次回の授業内課題を予習しアンケートに回答（2 時間）	4 時間
第１２回	対面	社会/文化からみる世界③　担当者：本多善 グローカリゼーションから世界を考える ・グローバル・シティの機能から世界を読む（ニューヨーク・ロンドン・東京）	①　第 12 回授業の復習並びに確認テストの回答（2 時間） ②　ラーニングポータルに提示する教材を読んで次回の授業内課題を予習しアンケートに回答（2 時間）	4 時間

		・グローバルとローカルの出会い（マクドナルド） フィールドから世界を知る ・英語コミュニケーションコースと海外体験 ・フィールドワークの目的と方法		
第１３回	対面	社会/文化からみる世界④　担当者：本多善 世界の民族･文化･宗教の基本を理解する、価値観・倫理観の違いから世界を理解する、グローカリゼーションから世界を考えるフィールドから世界を知る、の総括	第 13 回授業、社会/文化からみる世界④（第 10 回～12 回）の復習並びに確認テスト（4 時間）	4 時間
第１４回	対面	3 領域から見た世界の理解　担当者：本多善 SDGs　「10. 人や国の不平等をなくすために:国内における多文化共生の課題」をテーマに英語・コミュニケーション、社会/文化の教員による討論と受講生のグループワーク	第 14 回授業の復習並び確認テストの回答（4 時間）	4 時間
第１５回	オンデマンド	これまでのふりかえり　担当者：本多善 「国際社会」における英語とコミュニケーションの役割を理解し、文化的差異に基づく多文化社会の理解を、①英語、②コミュニケーション、③社会/文化領域からふりかえる。英語コミュニケーションにおける、専門を修得する上での基礎となる知識のまとめをおこなう。	これまでのふりかえりと確認テストの回答（4 時間）	4 時間

科目名	国際学基礎Ａ	開講年度	2025
担当者	本多　善	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語コミュニケーションコースの学びにむけた国際学		
授業の目的及び概要	国際学基礎 A は、英語コミュニケーションコースの学びの目的である、「英語を中心としたコミュニケーション能力」、「世界の諸地域における社会並びに文化の違い」、「異文化理解と多様性の志向」に必要な基本的知識の修得を目的とします。そのためこの授業では、コースの学びの中心となる、①英語、②コミュニケーション、③社会/文化の 3 つの領域の基本的な基礎を修得し、3 つの領域から世界をみる方法を学修します。そして英語コミュニケーションが捉える「国際学」の視点の理解を深めることを目的とします。		
履修条件・留意点	国際学の基礎的知識を修得する「国際学基礎 A（必修科目）」の再履修科目です。「国際学基礎 B」と共に 1 年次に全員が履修します。「国際学基礎 A」は、国際通用性のある英語能力を中心としたコミュニケーション能力を修得するとともに、社会や文化の知識を用いて、グローバル・イシュー及び各国・地域の諸課題を把握し、課題解決に向けて取り組む力を身につけるために、外国語発展分野、コミュニケーション分野、社会・文化分野、観光・ホスピタリティ分野の科目を中心に学修する英語コミュニケーションコースの基礎形成に資する科目です。各回で予習に向けたアンケートへの回答、各回の学修定着を図る確認テストが授業外課題として出されますので必ず提出しましょう。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	「国際学基礎 A」および「国際学基礎 B」は、国際学部での多分野からなる複合的な学びを貫く「国際学」の視点（理論）を身につけることを目標とする。 「国際学基礎 A」では、 ・①英語からみる世界、②コミュニケーション、③社会/文化の 3 つの領域の違いを理解し、それら 3 つの領域の基礎となる知識を習得することができる。 ・①英語からみる世界、②コミュニケーション、③社会/文化の 3 つの領域の学びを修得することで、世界をみる「見方」と世界を知る「方法」を身に付けることができる。 ・国際学基礎 A の 3 つの領域と基本的知識を用いて、2 年進級時に自らの関心や希望進路に沿って、適切にコースを選択することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	予習の確認および予習で示した問題関心のリマインドをおこなうために授業内確認テストをおこないフィードバックを各回で実施する。 ラーニングポータルのテスト機能を用いて実施される各回授業外確認テストの結果を受けて、授業内でフィードバックを実施する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	なし	ISBN	なし
参考書	①鳥飼 玖美子『国際共通語としての英語』講談社現代新書、2011 年 ②高城 玲『大学生のための異文化・国際理解 ：差異と多様性への誘い』丸善出版、2017 年 ③樽本英樹『よくわかる国際社会学[第 2 版] 』ミネルヴァ書房、2016 年	ISBN	①978-4062881043 ②978-4621301258 ③978-4623075911
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	

	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	50
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	この科目を修得するコツは、①毎回の動画視聴、②次回の授業に向けたアンケートの回答、③確認テストの提出の３点です。特に確認テストは各回授業の復習内容となっているので視聴し学修すれば必ず高得点を獲得することができます。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	オンデマンド	イントロダクション　担当者：本多善 ・英語コミュニケーションコースの「国際学」とは 「国際社会」における英語とコミュニケーションの役割、社会/文化からみる多様性の理解を、①英語、②コミュニケーション、③社会/文化の 3 領域から考える。 ・国際学部における英語の重要性、3 つの専門領域、3 領域の修得によって得られる「世界を知る力」、授業全体のガイダンスを説明する。	①　第 1 回授業の復習並びに確認テストの回答（2 時間） ②　ラーニングポータルに提示する教材を読んで次回の授業内課題を予習しアンケートに回答（2 時間）	4 時間
第２回	オンデマンド	英語からみる世界①　担当者：ジョナサン・ミルズ ・〈国際語〉としての英語：「３つの同心円」モデルからその具体的事例を紹介し、グローバル社会における英語の役割を理解する。	①　第 2 回授業の復習並びに確認テストの回答（2 時間） ②　ラーニングポータルに提示する教材を読んで次回の授業内課題を予習しアンケートに回答（2 時間）	4 時間
第３回	オンデマンド	英語からみる世界②　担当者：ジョナサン・ミルズ ・英語圏における英語の事情：英語の歴史、語彙と発音の特徴、現代の英語圏におけるバリエーション等を理解する。	①　第 3 回授業の復習並びに確認テストの回答（2 時間） ②　ラーニングポータルに提示する教材を読んで次回の授業内課題を予習しアンケートに回答（2 時間）	4 時間
第４回	オンデマンド	英語からみる世界③　担当者：ジョナサン・ミルズ ・英語圏以外の英語の事情：英語が他の言語と共存するインドやフィリピン等の英語の事情、日本における英語の使い方と必要性について考える。	①　第 4 回授業の復習並びに確認テストの回答（2 時間） ②　ラーニングポータルに提示する教材を読んで次回の授業内課題を予習しアンケートに回答（2 時間）	4 時間
第５回	オンデマンド	英語からみる世界④　担当者：ジョナサン・ミルズ ・総括。第２～４回の内容を振り返り、理解を深める。	第 5 回授業　英語からみる世界④（第 2 回～第 4 回）の復習並びに確認テストの回答（4 時間）	4 時間
第６回	オンデマンド	コミュニケーションからみる世界①　担当者：赤城永里子 言語の獲得と言語を用いたコミュニケーションに必要な能力を理解する ・どのように言語（母語）を獲得しているのか 変形生成文法理論と認知言語学（言語獲得の一理論）	①　第 6 回授業の復習並びに確認テストの回答（2 時間） ②　ラーニングポータルに提示する教材を読んで次回の授業内課題を予習しアンケートに回答（2 時間）	4 時間

		言語相対性仮説（言語と思考がつながっていることを理解する） ・コミュニケーションに関わる能力 言語能力・言語 文法能力、社会言語能力、談話能力、ストラテジー能力		
第7回	オンデマンド	コミュニケーションからみる世界②　担当者：赤城永里子 言語・文化間の相違性と普遍性１ ・言語の形式上の違い（日、英、＋留学生の言語） ・言語の表現上の違い（日、英、＋留学生の言語） 言語行動・非言語行動の違い ・コミュニケーションスタイルの違い（日・英＋留学生の文化）	①　第 7 回授業の復習並びに確認テストの回答（2 時間） ②　ラーニングポータルに提示する教材を読んで次回の授業内課題を予習しアンケートに回答（2 時間）	4 時間
第8回	オンデマンド	コミュニケーションからみる世界③　担当者：赤城永里子 言語・文化間の相違性と普遍性 3 ・ポライトネス（コミュニケーションにおける対人配慮） 言語・文化・アイデンティティ（言語と文化、言語とアイデンティティのつながりを知る） ・文化的自己とアイデンティティ ・言語とアイデンティティ コミュニケーション調整理論とコードスイッチング（異言語状況でいかにコミュニケーションを調整するか、言語選択をしているかを理解する）	①　第 8 回授業の復習並びに確認テストの回答（2 時間） ②　ラーニングポータルに提示する教材を読んで次回の授業内課題を予習しアンケートに回答（2 時間）	4 時間
第9回	オンデマンド	コミュニケーションからみる世界④　担当者：赤城永里子 ・総括。第 6～9 回の内容を振り返り、理解を深める。	第 9 回授業　コミュニケーションからみる世界④（第 6～9 回）の復習並びに確認テストの回答（4 時間）	4 時間
第１０回	オンデマンド	社会/文化からみる世界①　担当者：本多善 世界の民族・文化・宗教の基本を理解する ・民族とは何か（エスニシティを理解する） ・文化とは何か（人の営みを理解する） ・宗教とは何か（世界の宗教とその分布を理解する）	①　第 10 回授業の復習並びに確認テストの回答（2 時間） ②　ラーニングポータルに提示する教材を読んで次回の授業内課題を予習しアンケートに回答（2 時間）	4 時間
第１１回	オンデマンド	社会/文化からみる世界②　担当者：本多善 価値観・倫理観の違いから世界を理解する ・個人主義 VS 集団主義 ・性善説 VS 性悪説 ・モノクロニック VS ポリクロニック	①　第 11 回授業の復習並びに確認テストの回答（2 時間） ②　ラーニングポータルに提示する教材を読んで次回の授業内課題を予習しアンケートに回答（2 時間）	4 時間
第１２回	オンデマンド	社会/文化からみる世界③　担当者：本多善 グローカリゼーションから世界を考える ・グローバル・シティの機能から世界を読む（ニューヨーク・ロンドン・東京） ・グローバルとローカルの出会い（マクドナルド） フィールドから世界を知る ・英語コミュニケーションコースと海外	①　第 12 回授業の復習並びに確認テストの回答（2 時間） ②　ラーニングポータルに提示する教材を読んで次回の授業内課題を予習しアンケートに回答（2 時間）	4 時間

		体験 ・フィールドワークの目的と方法		
第１３回	オンデマンド	社会/文化からみる世界④　担当者：本多善 世界の民族･文化･宗教の基本を理解する、価値観・倫理観の違いから世界を理解する、グローカリゼーションから世界を考えるフィールドから世界を知る、の総括	第 13 回授業　社会/文化からみる世界④（第 10 回～第 12 回）の復習並びに確認テストの回答（4 時間）	4 時間
第１４回	オンデマンド	3 領域から見た世界の理解　担当者：本多善 SDGs　「10. 人や国の不平等をなくすために:国内における多文化共生の課題」をテーマに英語・コミュニケーション、社会/文化の教員による授業とグループワーク	第 14 回授業　3 領域から見た世界の理解　の復習並び確認テストの回答（4 時間）	4 時間
第１５回	オンデマンド	これまでのふりかえり　担当者：本多善 「国際社会」における英語とコミュニケーションの役割を理解し、文化的差異に基づく多文化社会の理解を、①英語、②コミュニケーション、③社会/文化領域からふりかえる。英語コミュニケーションにおける、専門を修得する上での基礎となる知識のまとめをおこなう。	第 15 回授業　これまでのふりかえり　の復習並びに確認テストの回答（4 時間）	4 時間

科目名	国際学基礎B	開講年度	2025
担当者	菅原　絵美	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	法・政治、経済、経営からアジア太平洋のグローバリゼーションを考える		
授業の目的及び概要	国際学のなかでもアジア太平洋地域のさまざまな課題を法・政治、経済、経営から考察する。具体的には、国際社会とは何か、国家、企業、個人等はどう判断・行動するかを読み解く方法（法・政治、経済、経営の理論）と基礎知識を学ぶ。その後、アジア太平洋地域の課題を、読み解く方法と基礎知識を組み合わせながら考察する。以上を通じて、アジア太平洋コースにおいて学ぶ「国際学」の視点を理解する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	「国際学基礎 A」および「国際学基礎 B」は、国際学部での多分野からなる複合的な学びを貫く「国際学」の視点（理論）を身につけることを目的としています。 ① 国際法、国際政治、国際経済、国際経営の基礎となる理論・知識を修得する。 ② アジア太平洋におけるいくつかの動向を国際政治および経済･経営の基礎知識や理論を用いて理解すること（読み解くこと）ができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業冒頭に前回の授業の振り返り（確認テストの解説及び講評を含む）		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員のうち高砂准教授は、金融機関において営業店や外国部、審査部、経営企画等で 16 年間勤務し、銀行業務全般や国際業務（外国為替リーディング業務、外為与信審査業務、国際経営・貿易相談業務、輸出入貿易書類点検業務）、法務・市場調査・広報等の実務経験を積んできた。本科目では、国際的なマーケットの実態や外国為替相場の特性などについて、こうした実務経験を活かして解説するなど、実践的な教育を行う。		
テキスト	指定なし（事前に各回のレジュメを LP にアップ）	ISBN	N.A.
参考書	授業のなかで適宜紹介する。	ISBN	N.A.

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	10
授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	50
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	授業では、アジア太平洋での具体的な出来事や問題を取り上げながら、「国際社会（グローバル社会）とは何か」「グローバリゼーションとは何か」を考えていきます。 2 年進級時にコースを選択するので、国際学基礎 A・B の視点・内容の違いを理解したうえでコース選択を行いましょう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第１回	対面	イントロダクション（張　雪斌） 政治・経済・経営からの「国際学」とは国際社会と世界(国際社会における国､企業､個人）の動きを政治・経済・ビジネスから把握する。アジア太平洋地域を考える：秩序形成と課題（安全保障、経済（貿易・投資)、人権保障など） 授業の概要、進め方について説明を行う	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。 事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第２回	対面	国際社会の特徴と構造（菅原絵美） 政府がない「社会」のしくみ（分権的構造と規範による秩序維持）国際社会誕生の歴史（ウェストファリア体制まで）	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。 事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第３回	対面	国際社会における国際法の役割①(菅原絵美） 社会における法の機能（規範的機能）：国家等の行為の規制 アジア太平洋地域における国際法の役割	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。 事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第４回	対面	国際社会における国際法の役割②(菅原絵美） 社会における法の機能（社会的機能）：国際社会の秩序維持 アジア太平洋地域における国際法の役割	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。 事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第５回	対面	国際社会の変容(国際政治の視点から)(張　雪斌） ウェストファリア体制移行の国際政治史（現実） 国際政治学として変容の「何」を掴むのか（理論）	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。 事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第６回	対面	国際社会の見方（国際政治の理論）（張　雪斌） リアリズム、リベラリズム、コンストラクティビズムから世界がどう見えてくるのか。	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。 事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第７回	対面	アジア太平洋地域のダイナミズム(国際政治の実践)（張　雪斌） 冷戦後のアジア太平洋地域における多国間協力と大国間競争	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。 事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第８回	対面	国内総生産（GDP）と国民可処分所得 （金子治平） GDP と国民可処分所得の違い、GDP と１人あたり GDP の違いを理解し、豊さを表す指標として適当なものはどれかを検討する。また、世界諸国の GDP や１人あたり GDP を地図上で確認して、アジア太平洋地域をはじめとする先進諸国、開発途上国、後期開発途上国の格差を理解する。	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。 事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第９回	対面	経済と人口（金子治平） 人口転換理論、人口急増による貧困・飢餓問題、人口ボーナス期や人口オーナス期などを理解する。 なぜサブサハラ諸国などで貧困が多いのか。また、アジア太平洋地域の将来の人口はどのように変化すると予測されているのかを理解する。	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。 事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第１０回	対面	食料とエネルギーの世界貿易（金子治平） 穀物、石油、および天然ガスの貿易によって、世界はどのように結びついているのかを理解する。	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。 事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間

		なぜウクライナ紛争でアフリカ諸国の飢餓の深刻化が懸念されているのか。		
第１１回	対面	企業の経営とは（高砂謙二） 経営とは何か 、経営の枠組み、組織における人間への対応を理解する。国際的な経営をする場合に必要なことについて理解する。	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。 事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第１２回	対面	日本企業の海外展開（高砂謙二） アメリカ・日本における経営学の展開、経営学の特徴（「実践性」「学際性」）、学ぶ意義「経営学の内容は身近な現象を扱う」を理解し、日本企業の海外展開の事例から理解する	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。 事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第１３回	対面	企業の社会的責任と SDGs マネジメント（高砂謙二） 企業の社会的責任等の考え方をふまえ、SDGs マネジメント（社会課題解決と経済合理性の同時実現。リスクと同時に未来の市場を創造・獲得するための機会）について理解する。	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。 事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第１４回	対面	アジア太平洋地域の特徴と、そこでの動きを政治、経済、ビジネスから考え、解説する（張　雪斌） 授業のまとめ	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。 事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第１５回	オンデマンド	授業のふりかえり（張　雪斌）　これまでの授業の振り返りを、確認テストの解説を含めて行う。 各パートを 15 分程度の解説動画を作成する。	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。	4 時間

科目名	国際学基礎B	開講年度	2025
担当者	菅原　絵美	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	法・政治、経済、経営からアジア太平洋のグローバリゼーションを考える		
授業の目的及び概要	国際学のなかでもアジア太平洋地域のさまざまな課題を法・政治、経済、経営から考察する。具体的には、国際社会とは何か、国家、企業、個人等はどう判断・行動するかを読み解く方法（法・政治、経済、経営の理論）と基礎知識を学ぶ。その後、アジア太平洋地域の課題を、読み解く方法と基礎知識を組み合わせながら考察する。以上を通じて、アジア太平洋コースにおいて学ぶ「国際学」の視点を理解する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	「国際学基礎 A」および「国際学基礎 B」は、国際学部での多分野からなる複合的な学びを貫く「国際学」の視点（理論）を身につけることを目的としています。 ① 国際法、国際政治、国際経済、国際経営の基礎となる理論・知識を修得する。 ② アジア太平洋におけるいくつかの動向を国際政治および経済･経営の基礎知識や理論を用いて理解すること（読み解くこと）ができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業冒頭に前回の授業の振り返り（確認テストの解説及び講評を含む）		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員のうち高砂准教授は、金融機関において営業店や外国部、審査部、経営企画等で 16 年間勤務し、銀行業務全般や国際業務（外国為替リーディング業務、外為与信審査業務、国際経営・貿易相談業務、輸出入貿易書類点検業務）、法務・市場調査・広報等の実務経験を積んできた。本科目では、国際的なマーケットの実態や外国為替相場の特性などについて、こうした実務経験を活かして解説するなど、実践的な教育を行う。		
テキスト	指定なし（事前に各回のレジュメを LP にアップ）	ISBN	N.A.
参考書	授業のなかで適宜紹介する。	ISBN	N.A.

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	10
授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	50
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	授業では、アジア太平洋での具体的な出来事や問題を取り上げながら、「国際社会（グローバル社会）とは何か」「グローバリゼーションとは何か」を考えていきます。 2 年進級時にコースを選択するので、国際学基礎 A・B の視点・内容の違いを理解したうえでコース選択を行いましょう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第１回	対面	イントロダクション（張　雪斌） 政治・経済・経営からの「国際学」とは国際社会と世界(国際社会における国､企業､個人）の動きを政治・経済・ビジネスから把握する。アジア太平洋地域を考える：秩序形成と課題（安全保障、経済（貿易・投資)、人権保障など） 授業の概要、進め方について説明を行う	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。 事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第２回	対面	国際社会の特徴と構造（菅原絵美） 政府がない「社会」のしくみ（分権的構造と規範による秩序維持）国際社会誕生の歴史（ウェストファリア体制まで）	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。 事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第３回	対面	国際社会における国際法の役割①（菅原絵美） 社会における法の機能（規範的機能）：国家等の行為の規制 アジア太平洋地域における国際法の役割	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。 事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第４回	対面	国際社会における国際法の役割②（菅原絵美） 社会における法の機能（社会的機能）：国際社会の秩序維持 アジア太平洋地域における国際法の役割	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。 事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第５回	対面	国際社会の変容（国際政治の視点から）（張　雪斌） ウェストファリア体制移行の国際政治史（現実） 国際政治学として変容の「何」を掴むのか（理論）	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。 事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第６回	対面	国際社会の見方（国際政治の理論）（張　雪斌） リアリズム、リベラリズム、コンストラクティビズムから世界がどう見えてくるのか。	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。 事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第７回	対面	アジア太平洋地域のダイナミズム（国際政治の実践）（張　雪斌） 冷戦後のアジア太平洋地域における多国間協力と大国間競争	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。 事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第８回	対面	国内総生産（GDP）と国民可処分所得 （金子治平） GDP と国民可処分所得の違い、GDP と１人あたり GDP の違いを理解し、豊さを表す指標として適当なものはどれかを検討する。また、世界諸国の GDP や１人あたり GDP を地図上で確認して、アジア太平洋地域をはじめとする先進諸国、開発途上国、後期開発途上国の格差を理解する。	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。 事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第９回	対面	経済と人口（金子治平） 人口転換理論、人口急増による貧困・飢餓問題、人口ボーナス期や人口オーナス期などを理解する。 なぜサブサハラ諸国などで貧困が多いのか。また、アジア太平洋地域の将来の人口はどのように変化すると予測されているのかを理解する。	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。 事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第１０回	対面	食料とエネルギーの世界貿易（金子治平） 穀物、石油、および天然ガスの貿易によって、世界はどのように結びついているのかを理解する。	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。 事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間

		なぜウクライナ紛争でアフリカ諸国の飢餓の深刻化が懸念されているのか。		
第１１回	対面	企業の経営とは（高砂謙二） 経営とは何か 、経営の枠組み、組織における人間への対応を理解する。国際的な経営をする場合に必要なことについて理解する。	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。 事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第１２回	対面	日本企業の海外展開（高砂謙二） アメリカ・日本における経営学の展開、経営学の特徴（「実践性」「学際性」）、学ぶ意義「経営学の内容は身近な現象を扱う」を理解し、日本企業の海外展開の事例から理解する	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。 事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第１３回	対面	企業の社会的責任と SDGs マネジメント（高砂謙二） 企業の社会的責任等の考え方をふまえ、SDGs マネジメント（社会課題解決と経済合理性の同時実現。リスクと同時に未来の市場を創造・獲得するための機会）について理解する。	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。 事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第１４回	対面	アジア太平洋地域の特徴と、そこでの動きを政治、経済、ビジネスから考え、解説する（張　雪斌） 授業のまとめ	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。 事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第１５回	オンデマンド	授業のふりかえり（張　雪斌）　これまでの授業の振り返りを、確認テストの解説を含めて行う。 各パートを 15 分程度の解説動画で振り返る。	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。	4 時間

科目名	国際学基礎B	開講年度	2025
担当者	菅原　絵美	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	法・政治、経済、経営からアジア太平洋のグローバリゼーションを考える		
授業の目的及び概要	国際学のなかでもアジア太平洋地域のさまざまな課題を法・政治、経済、経営から考察する。具体的には、国際社会とは何か、国家、企業、個人等はどう判断・行動するかを読み解く方法（法・政治、経済、経営の理論）と基礎知識を学ぶ。その後、アジア太平洋地域の課題を、読み解く方法と基礎知識を組み合わせながら考察する。以上を通じて、アジア太平洋コースにおいて学ぶ「国際学」の視点を理解する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	「国際学基礎 A」および「国際学基礎 B」は、国際学部での多分野からなる複合的な学びを貫く「国際学」の視点（理論）を身につけることを目的としています。 ① 国際法、国際政治、国際経済、国際経営の基礎となる理論・知識を修得する。 ② アジア太平洋におけるいくつかの動向を国際政治および経済･経営の基礎知識や理論を用いて理解すること（読み解くこと）ができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業冒頭に前回の授業の振り返り（確認テストの解説及び講評を含む）		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員のうち高砂准教授は、金融機関において営業店や外国部、審査部、経営企画等で 16 年間勤務し、銀行業務全般や国際業務（外国為替リーディング業務、外為与信審査業務、国際経営・貿易相談業務、輸出入貿易書類点検業務）、法務・市場調査・広報等の実務経験を積んできた。本科目では、国際的なマーケットの実態や外国為替相場の特性などについて、こうした実務経験を活かして解説するなど、実践的な教育を行う。		
テキスト	指定なし（事前に各回のレジュメを LP にアップ）	ISBN	N.A.
参考書	授業のなかで適宜紹介する。	ISBN	N.A.

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	10
授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	50
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	授業では、アジア太平洋での具体的な出来事や問題を取り上げながら、「国際社会（グローバル社会）とは何か」「グローバリゼーションとは何か」を考えていきます。 2 年進級時にコースを選択するので、国際学基礎 A・B の視点・内容の違いを理解したうえでコース選択を行いましょう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第１回	オンデマンド	イントロダクション（菅原絵美） 政治・経済・経営からの「国際学」とは国際社会と世界(国際社会における国、企業、個人）の動きを政治・経済・ビジネスから把握する。 アジア太平洋地域を考える：秩序形成と課題（安全保障、経済（貿易・投資)、人権保障など）	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。 事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第２回	オンデマンド	国際社会の特徴と構造（菅原絵美） 政府がない「社会」のしくみ（分権的構造と規範による秩序維持）国際社会誕生の歴史（ウェストファリア体制まで）	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。 事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第３回	オンデマンド	国際社会における国際法の役割①（菅原絵美） 社会における法の機能（規範的機能）：国家等の行為の規制 アジア太平洋地域における国際法の役割	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。 事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第４回	オンデマンド	国際社会における国際法の役割②（菅原絵美） 社会における法の機能（社会的機能）：国際社会の秩序維持 アジア太平洋地域における国際法の役割	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。 事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第５回	オンデマンド	国際社会の変容（国際政治の視点から）（張　雪斌） ウェストファリア体制以降の国際政治史（現実） 国際政治学として変容の「何」を掴むのか（理論）	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。 事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第６回	オンデマンド	国際社会の見方（国際政治の理論）（張　雪斌） リアリズム、リベラリズム、コンストラクティビズムから世界がどう見えてくるのか。	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。 事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第７回	オンデマンド	アジア太平洋地域のダイナミズム（国際政治の実践）（張　雪斌） 冷戦後のアジア太平洋地域における多国間協力と大国間競争	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。 事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第８回	オンデマンド	国内総生産（GDP）と国民可処分所得 （金子治平） GDP と国民可処分所得の違い、GDP と１人あたり GDP の違いを理解し、豊さを表す指標として適当なものはどれかを検討する。また、世界諸国の GDP や１人あたり GDP を地図上で確認して、アジア太平洋地域をはじめとする先進諸国、開発途上国、後期開発途上国の格差を理解する。	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。 事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第９回	オンデマンド	経済と人口（金子治平） 人口転換理論、人口急増による貧困・飢餓問題、人口ボーナス期や人口オーナス期などを理解する。 なぜサブサハラ諸国などで貧困が多いのか。また、アジア太平洋地域の将来の人口はどのように変化すると予測されているのかを理解する。	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。 事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第１０回	オンデマンド	食料とエネルギーの世界貿易（金子治平） 穀物、石油、および天然ガスの貿易によって、世界はどのように結びついているのかを理解する。	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。 事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間

		なぜウクライナ紛争でアフリカ諸国の飢餓の深刻化が懸念されているのか。		
第１１回	オンデマンド	企業の経営とは（高砂謙二） 経営とは何か 、経営の枠組み、組織における人間への対応を理解する。国際的な経営をする場合に必要なことについて理解する。	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。 事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第１２回	オンデマンド	日本企業の海外展開（高砂謙二） アメリカ・日本における経営学の展開、経営学の特徴（「実践性」「学際性」）、学ぶ意義「経営学の内容は身近な現象を扱う」を理解し、日本企業の海外展開の事例から理解する。	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。 事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第１３回	オンデマンド	企業の社会的責任･SDGs マネジメント（高砂謙二） 企業の社会的責任等の考え方をふまえ、SDGs マネジメント（社会課題解決と経済合理性の同時実現。リスクと同時に未来の市場を創造・獲得するための機会）について理解する。	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。 事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第１４回	オンデマンド	アジア太平洋地域の特徴と、そこでの動きを政治、経済、ビジネスから考え、解説する（菅原絵美） 授業のまとめ	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。 事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第１５回	オンデマンド	授業のふりかえり（菅原絵美） これまでの授業の振り返りを、確認テストの解説を含めて行う。	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。。	4 時間

科目名	情報処理基礎	開講年度	2025
担当者	川浪　隆之	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	情報処理と ICT に関する基礎的な知識・スキルの修得、情報リテラシー（情報活用能力）		
授業の目的及び概要	・本科目は、情報処理と ICT（情報通信技術）に関する基礎的な知識とスキル、情報リテラシー（情報活用能力）の修得を目的とします。これら能力は、これからの大学生活を送る上で基本となる「汎用的技能」であり、卒業後の仕事でも必須となる「就業力」といえます。例えば、大学では、特定のテーマについて調査し、レポートを作成後、プレゼンテーションを実施します。また、現代の情報化社会にあっては、あらゆる場面で ICT が利用され、利活用することが求められます。 ・本科目では、PC の基本操作に慣れるとともに、大学生活やビジネス現場で最も使われているワープロ、表計算、プレゼンテーション等の基本ソフトの「使い方」（操作知識とスキル）の基礎を修得します。また、本学の教学システム、関連した SNS（Social Networking Services）・クラウドサービス・メールサービスの利活用、図書館情報システム・インターネットを使った情報の検索方法、コンピュータ、情報通信ネットワーク、情報モラル・情報セキュリティ（IT パスポート出題内容）についても学修します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・本科目の到達目標は、大学４年間及び入社時に最低限必要となる ICT（情報通信技術）・情報処理に関する基礎的な知識とスキル、情報リテラシー（情報活用能力）の修得です。具体的には以下の項目を到達目標とします。 1）PC を操作し、本学の教学システム、関連した SNS やクラウドサービスを適切に利用できる。 2）インターネットを使った適切な情報検索（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等を含む）ができる。 3）情報化社会の特性を踏まえ、情報モラル・情報セキュリティ・個人情報・著作権等について説明できる。 4）キーボードを使って文字入力ができる（5 分間で日本語 300 文字以上）。 5）プレゼンテーションソフト（PowerPoint）を用いて簡易なスライド資料の作成ができる。 6）ワープロソフト（Word）を用いて簡易な文書作成ができる。 7）表計算ソフト（Excel）を用いて、情報を分析評価・整理等するために簡易な集計表やグラフの作成ができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・PC を用いた実技を実施するため、適宜学生の質問等に回答します。 ・教学システムを利用したテストを実施した場合には、受験後、採点結果等をフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	情報リテラシー入門編　Windows10／Office 2019対応型番（FPT1918），FOM，FOM 出版，2020 年	ISBN	9784865104165
参考書	―	ISBN	―

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50
	成果発表（口頭・実技）	0

	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	30
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	ー
この科目の受講にあたって	毎回の授業に出席し課題に取り組めば、PC、タイピング、ワープロ・表計算・プレゼンテーションソフト等に関する基本的な操作スキルを身につけることが可能です。これらスキルの修得には一定の時間と量が必要です。４年間の大学生活だけでなく卒業後の仕事においても必須のスキルとなるため、集中して取り組み修得して下さい。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	1）ガイダンス 2）本学の情報通信機器及び教学システムの概要や基本操作 ・本学 ICT 環境(1)：Learning Portal、Universal Passport、クラウドサービス（Microsoft/Office365）等 ・Windows の操作(1) ・情報セキュリティ・パスワード変更 【テキスト】ウィンドウズ編 STEP1Windows について～STEP6 アプリを操作しよう，STEP10 Windows を終了しよう	○事前学修 ・全 15 回のシラバスをすべて読んで授業計画を確認して下さい。 ・学内システムのパスワードをどのようにするかについて決めてきてください（パスワードは半角英数字記号を利用します）。 ○事後学修 ・以後、本学の教学システムに毎日ログインし、学内の連絡事項を確認してください。 ・自宅 PC から本学の教学システムにアクセスし授業資料をダウンロードし閲覧してください。	4 時間
第２回	対面	1）教学システムの基本操作 ・Windows の操作(2) ・本学 ICT 環境(2)：学修ポートフォリオ、クラウドサービス/SNS Microsoft/Office 365（Outlook、OneDrive 等） 【テキスト】ウィンドウズ編 STEP7 ファイルを上手に管理しよう～STEP9 インターネットを使ってみよう	○事前学修 ・第 1 回の操作を基本としますので、第 1 回の内容を事前に復習して下さい。 ○事後学修 ・自宅 PC にてメール操作や OneDrive 操作して下さい。	4 時間
第３回	対面	1）教学システムの基本操作 ・本学 ICT 環境(3)： 2）Windows の操作(3)・タイピングの基礎 ・Windows の基本操作 ・日本語入力・タイピングの基礎 ・作成ファイルのアップロード 【テキスト】ウィンドウズ編全体	○事前学修 ・テキストの「Windows を使ってみよう」に従って自宅 PC 等で操作して下さい。 ○事後学修 ・授業内で指定してたタイピング課題を作成し、学内システムを通じて提出してください。 ・以後、少なくとも「5 分間で日本語 300 文字以上」を第 12 回目の授業では超えるように、タイピング練習をしてください。	4 時間
第４回	対面	1）情報検索と図書館蔵書検索 2）プレゼンテーションソフトの基本操作(1) 【テキスト】プレゼンテーション編 ・STEP1 PowerPoint について～STEP6 プレゼンテーションを印刷しよう	○事前学修 ・テキストの「プレゼンテーション編」を事前に確認しておきましょう。STEP1～STEP6。 ○事後学修 ・テキストの「プレゼンテーション編」の操作を復習しておきましょう。	4 時間
第５回	対面	1）プレゼンテーションソフトの基本操作(2) 【テキスト】プレゼンテーション編 ・前回の続き ・練習問題 2）情報モラル＆情報セキュリティ 3）タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの「プレゼンテーション編」の練習問題を事前に確認しましょう。 ○事後学修 ・練習問題 1 と 2 を完成させ提出して下さい。	4 時間

第６回	対面	1）ワープロソフトの基本操作(1) 【テキスト】ワープロソフトを活用しよう ・STEP1　Word について～STEP6 長文のレポートを編集しよう 2）情報モラル＆情報セキュリティ 3）タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの「文章作成編」を事前に確認しておきましょう。STEP1～STEP6。 ○事後学修 ・テキストの「文章作成編」の操作を復習しておきましょう。STEP1～STEP6。	4 時間
第７回	対面	1）ワープロソフトの基本操作(2) 【テキスト】ワープロソフトを活用しよう ・前回の続き ・練習問題 1 2）情報モラル＆情報セキュリティ 3）タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの練習問題 1 を事前に確認しておきましょう。 ○事後学修 ・練習問題 1 を完成させ提出して下さい。	4 時間
第８回	対面	1）ワープロソフトの基本操作(3) 【テキスト】ワープロソフトを活用しよう ・練習問題 2 と 3 2）情報モラル＆情報セキュリティ【テキスト】ネット社会で情報を安全に使いこなそう 3）タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの練習問題 2 と 3 を事前に確認しておきましょう。 ○事後学修 ・練習問題 2 と 3 を完成させ提出して下さい。	4 時間
第９回	対面	1）表計算ソフトの基本操作(1) 【テキスト】表計算ソフトを活用しよう STEP1　Excel について～STEP5　表を印刷しよう 2）情報モラル＆情報セキュリティ 3）タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの「表計算編」を事前に確認しておきましょう。 ○事後学修 ・テキストの「表計算編」表計算ソフトを活用しよう STEP1～5 の操作を復習しておきましょう。	4 時間
第１０回	対面	1）表計算ソフトの基本操作(2) 【テキスト】表計算ソフトを活用しよう STEP6　グラフを作成しよう～STEP8　複数のシートを操作しよう 2）情報モラル＆情報セキュリティ 3）タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの「表計算編」を事前に確認しておきましょう。 ○事後学修 ・テキストの「表計算編」表計算ソフトを活用しよう STEP6～8 の操作を復習しておきましょう	4 時間
第１１回	対面	1）表計算ソフトの基本操作(3) 【テキスト】表計算ソフトを活用しよう ・前回の続き ・練習問題 1 と 2 2）情報モラル＆情報セキュリティ 3）タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの練習問題 1 と 2 を事前に確認しておきましょう。 ○事後学修 ・練習問題 1 と 2 を完成させ提出して下さい。	4 時間
第１２回	対面	1）表計算ソフトの基本操作(4) 【テキスト】表計算ソフトを活用しよう ・STEP9　関数を使いこなそう～STEP11 条件付き書式を設定しよう 2）情報モラル＆情報セキュリティ 3）タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの「表計算編」を事前に確認しておきましょう。 ○事後学修 ・テキストの「表計算編」表計算ソフトを活用しよう STEP9～11 の操作を復習しておきましょう	4 時間
第１３回	対面	1）総合演習 1 ・総合演習課題(1) 2）情報モラル＆情報セキュリティ 3）タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストを使って操作を確認しておきましょう ○事後学修 ・総合演習課題(1)を完成させ提出しましょう。	4 時間
第１４回	対面	1）総合演習 2 ・総合演習課題(2) 2）情報モラル＆情報セキュリティ 3）タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストを使って操作を確認しておきましょう ○事後学修 ・総合演習課題(2)を完成させ提出しましょう。	4 時間
第１５回	オンデマンド	1）総合演習 3 ・総合演習課題(3) 2）情報モラル＆情報セキュリティ 3）タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストを使って操作を確認しておきましょう ○事後学修 ・総合演習課題(3)を完成させ提出しましょう。	4 時間

科目名	情報処理基礎	開講年度	2025
担当者	岩見　真希	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	情報処理と ICT に関する基礎的な知識・スキルの修得、情報リテラシー（情報活用能力）		
授業の目的及び概要	・本科目は、情報処理と ICT（情報通信技術）に関する基礎的な知識とスキル、情報リテラシー（情報活用能力）の修得を目的とします。これら能力は、これからの大学生活を送る上で基本となる「汎用的技能」であり、卒業後の仕事でも必須となる「就業力」といえます。例えば、大学では、特定のテーマについて調査し、レポートを作成後、プレゼンテーションを実施します。また、現代の情報化社会にあっては、あらゆる場面で ICT が利用され、利活用することが求められます。 ・本科目では、PC の基本操作に慣れるとともに、大学生活やビジネス現場で最も使われているワープロ、表計算、プレゼンテーション等の基本ソフトの「使い方」（操作知識とスキル）の基礎を修得します。また、本学の教学システム、関連した SNS（Social Networking Services）・クラウドサービス・メールサービスの利活用、図書館情報システム・インターネットを使った情報の検索方法、コンピュータ、情報通信ネットワーク、情報モラル・情報セキュリティ（IT パスポート出題内容）についても学修します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・本科目の到達目標は、大学４年間及び入社時に最低限必要となる ICT（情報通信技術）・情報処理に関する基礎的な知識とスキル、情報リテラシー（情報活用能力）の修得です。具体的には以下の項目を到達目標とします。 1）PC を操作し、本学の教学システム、関連した SNS やクラウドサービスを適切に利用できる。 2）インターネットを使った適切な情報検索（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等を含む）ができる。 3）情報化社会の特性を踏まえ、情報モラル・情報セキュリティ・個人情報・著作権等について説明できる。 4）キーボードを使って文字入力ができる（5 分間で日本語 300 文字以上）。 5）プレゼンテーションソフト（PowerPoint）を用いて簡易なスライド資料の作成ができる。 6）ワープロソフト（Word）を用いて簡易な文書作成ができる。 7）表計算ソフト（Excel）を用いて、情報を分析評価・整理等するために簡易な集計表やグラフの作成ができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・PC を用いた実技を実施するため、適宜学生の質問等に回答します。 ・教学システムを利用したテストを実施した場合には、受験後、採点結果等をフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	情報リテラシー入門編　Windows10／Office 2019対応型番（FPT1918），FOM，FOM 出版，2020 年	ISBN	9784865104165
参考書	―	ISBN	―

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50
	成果発表（口頭・実技）	0

	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	30
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	ー
この科目の受講にあたって	毎回の授業に出席し課題に取り組めば、PC、タイピング、ワープロ・表計算・プレゼンテーションソフト等に関する基本的な操作スキルを身につけることが可能です。これらスキルの修得には一定の時間と量が必要です。４年間の大学生活だけでなく卒業後の仕事においても必須のスキルとなるため、集中して取り組み修得して下さい。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	1）ガイダンス 2）本学の情報通信機器及び教学システムの概要や基本操作 ・本学 ICT 環境(1)：Learning Portal、Universal Passport、クラウドサービス（Microsoft/Office365）等 ・Windows の操作(1) ・情報セキュリティ・パスワード変更 【テキスト】ウィンドウズ編 STEP1Windows について～STEP6 アプリを操作しよう，STEP10 Windows を終了しよう	○事前学修 ・全 15 回のシラバスをすべて読んで授業計画を確認して下さい。 ・学内システムのパスワードをどのようにするかについて決めてきてください（パスワードは半角英数字記号を利用します）。 ○事後学修 ・以後、本学の教学システムに毎日ログインし、学内の連絡事項を確認してください。 ・自宅 PC から本学の教学システムにアクセスし授業資料をダウンロードし閲覧してください。	4 時間
第２回	対面	1）教学システムの基本操作 ・Windows の操作(2) ・本学 ICT 環境(2)：学修ポートフォリオ、クラウドサービス/SNS Microsoft/Office 365（Outlook、OneDrive 等） 【テキスト】ウィンドウズ編 STEP7 ファイルを上手に管理しよう～STEP9 インターネットを使ってみよう	○事前学修 ・第 1 回の操作を基本としますので、第 1 回の内容を事前に復習して下さい。 ○事後学修 ・自宅 PC にてメール操作や OneDrive 操作して下さい。	4 時間
第３回	対面	1）教学システムの基本操作 ・本学 ICT 環境(3)： 2）Windows の操作(3)・タイピングの基礎 ・Windows の基本操作 ・日本語入力・タイピングの基礎 ・作成ファイルのアップロード 【テキスト】ウィンドウズ編全体	○事前学修 ・テキストの「Windows を使ってみよう」に従って自宅 PC 等で操作して下さい。 ○事後学修 ・授業内で指定してたタイピング課題を作成し、学内システムを通じて提出してください。 ・以後、少なくとも「5 分間で日本語 300 文字以上」を第 12 回目の授業では超えるように、タイピング練習をしてください。	4 時間
第４回	対面	1）情報検索と図書館蔵書検索 2）プレゼンテーションソフトの基本操作(1) 【テキスト】プレゼンテーション編 ・STEP1 PowerPoint について～STEP6 プレゼンテーションを印刷しよう	○事前学修 ・テキストの「プレゼンテーション編」を事前に確認しておきましょう。STEP1～STEP6。 ○事後学修 ・テキストの「プレゼンテーション編」の操作を復習しておきましょう。	4 時間
第５回	対面	1）プレゼンテーションソフトの基本操作(2) 【テキスト】プレゼンテーション編 ・前回の続き ・練習問題 2）情報モラル＆情報セキュリティ 3）タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの「プレゼンテーション編」の練習問題を事前に確認しましょう。 ○事後学修 ・練習問題 1 と 2 を完成させ提出して下さい。	4 時間

第６回	対面	1）ワープロソフトの基本操作(1) 【テキスト】ワープロソフトを活用しよう ・STEP1　Word について～STEP6 長文のレポートを編集しよう 2）情報モラル＆情報セキュリティ 3）タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの「文章作成編」を事前に確認しておきましょう。STEP1～STEP6。 ○事後学修 ・テキストの「文章作成編」の操作を復習しておきましょう。STEP1～STEP6。	4 時間
第７回	対面	1）ワープロソフトの基本操作(2) 【テキスト】ワープロソフトを活用しよう ・前回の続き ・練習問題 1 2）情報モラル＆情報セキュリティ 3）タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの練習問題 1 を事前に確認しておきましょう。 ○事後学修 ・練習問題 1 を完成させ提出して下さい。	4 時間
第８回	対面	1）ワープロソフトの基本操作(3) 【テキスト】ワープロソフトを活用しよう ・練習問題 2 と 3 2）情報モラル＆情報セキュリティ【テキスト】ネット社会で情報を安全に使いこなそう 3）タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの練習問題 2 と 3 を事前に確認しておきましょう。 ○事後学修 ・練習問題 2 と 3 を完成させ提出して下さい。	4 時間
第９回	対面	1）表計算ソフトの基本操作(1) 【テキスト】表計算ソフトを活用しよう STEP1　Excel について～STEP5　表を印刷しよう 2）情報モラル＆情報セキュリティ 3）タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの「表計算編」を事前に確認しておきましょう。 ○事後学修 ・テキストの「表計算編」表計算ソフトを活用しよう STEP1～5 の操作を復習しておきましょう。	4 時間
第１０回	対面	1）表計算ソフトの基本操作(2) 【テキスト】表計算ソフトを活用しよう STEP6　グラフを作成しよう～STEP8　複数のシートを操作しよう 2）情報モラル＆情報セキュリティ 3）タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの「表計算編」を事前に確認しておきましょう。 ○事後学修 ・テキストの「表計算編」表計算ソフトを活用しよう STEP6～8 の操作を復習しておきましょう	4 時間
第１１回	対面	1）表計算ソフトの基本操作(3) 【テキスト】表計算ソフトを活用しよう ・前回の続き ・練習問題 1 と 2 2）情報モラル＆情報セキュリティ 3）タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの練習問題 1 と 2 を事前に確認しておきましょう。 ○事後学修 ・練習問題 1 と 2 を完成させ提出して下さい。	4 時間
第１２回	対面	1）表計算ソフトの基本操作(4) 【テキスト】表計算ソフトを活用しよう ・STEP9　関数を使いこなそう～STEP11 条件付き書式を設定しよう 2）情報モラル＆情報セキュリティ 3）タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの「表計算編」を事前に確認しておきましょう。 ○事後学修 ・テキストの「表計算編」表計算ソフトを活用しよう STEP9～11 の操作を復習しておきましょう	4 時間
第１３回	対面	1）総合演習 1 ・総合演習課題(1) 2）情報モラル＆情報セキュリティ 3）タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストを使って操作を確認しておきましょう ○事後学修 ・総合演習課題(1)を完成させ提出しましょう。	4 時間
第１４回	対面	1）総合演習 2 ・総合演習課題(2) 2）情報モラル＆情報セキュリティ 3）タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストを使って操作を確認しておきましょう ○事後学修 ・総合演習課題(2)を完成させ提出しましょう。	4 時間
第１５回	オンデマンド	1）総合演習 3 ・総合演習課題(3) 2）情報モラル＆情報セキュリティ 3）タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストを使って操作を確認しておきましょう ○事後学修 ・総合演習課題(3)を完成させ提出しましょう。	4 時間

科目名	情報処理基礎	開講年度	2025
担当者	宮崎　裕	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	情報処理と ICT に関する基礎的な知識・スキルの修得、情報リテラシー（情報活用能力）		
授業の目的及び概要	・本科目は、情報処理と ICT（情報通信技術）に関する基礎的な知識とスキル、情報リテラシー（情報活用能力）の修得を目的とします。これら能力は、これからの大学生活を送る上で基本となる「汎用的技能」であり、卒業後の仕事でも必須となる「就業力」といえます。例えば、大学では、特定のテーマについて調査し、レポートを作成後、プレゼンテーションを実施します。また、現代の情報化社会にあっては、あらゆる場面で ICT が利用され、利活用することが求められます。 ・本科目では、PC の基本操作に慣れるとともに、大学生活やビジネス現場で最も使われているワープロ、表計算、プレゼンテーション等の基本ソフトの「使い方」（操作知識とスキル）の基礎を修得します。また、本学の教学システム、関連した SNS（Social Networking Services）・クラウドサービス・メールサービスの利活用、図書館情報システム・インターネットを使った情報の検索方法、コンピュータ、情報通信ネットワーク、情報モラル・情報セキュリティ（IT パスポート出題内容）についても学修します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・本科目の到達目標は、大学４年間及び入社時に最低限必要となる ICT（情報通信技術）・情報処理に関する基礎的な知識とスキル、情報リテラシー（情報活用能力）の修得です。具体的には以下の項目を到達目標とします。 1）PC を操作し、本学の教学システム、関連した SNS やクラウドサービスを適切に利用できる。 2）インターネットを使った適切な情報検索（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等を含む）ができる。 3）情報化社会の特性を踏まえ、情報モラル・情報セキュリティ・個人情報・著作権等について説明できる。 4）キーボードを使って文字入力ができる（5 分間で日本語 300 文字以上）。 5）プレゼンテーションソフト（PowerPoint）を用いて簡易なスライド資料の作成ができる。 6）ワープロソフト（Word）を用いて簡易な文書作成ができる。 7）表計算ソフト（Excel）を用いて、情報を分析評価・整理等するために簡易な集計表やグラフの作成ができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・PC を用いた実技を実施するため、適宜学生の質問等に回答します。 ・教学システムを利用したテストを実施した場合には、受験後、採点結果等をフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	情報リテラシー入門編　Windows10／Office 2019対応型番（FPT1918），FOM，FOM 出版，2020 年	ISBN	9784865104165
参考書	―	ISBN	―

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50
	成果発表（口頭・実技）	0

	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	30
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	ー
この科目の受講にあたって	毎回の授業に出席し課題に取り組めば、PC、タイピング、ワープロ・表計算・プレゼンテーションソフト等に関する基本的な操作スキルを身につけることが可能です。これらスキルの修得には一定の時間と量が必要です。４年間の大学生活だけでなく卒業後の仕事においても必須のスキルとなるため、集中して取り組み修得して下さい。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	1）ガイダンス 2）本学の情報通信機器及び教学システムの概要や基本操作 ・本学 ICT 環境(1)：Learning Portal、Universal Passport、クラウドサービス（Microsoft/Office365）等 ・Windows の操作(1) ・情報セキュリティ・パスワード変更 【テキスト】ウィンドウズ編 STEP1Windows について～STEP6 アプリを操作しよう，STEP10 Windows を終了しよう	○事前学修 ・全 15 回のシラバスをすべて読んで授業計画を確認して下さい。 ・学内システムのパスワードをどのようにするかについて決めてきてください（パスワードは半角英数字記号を利用します）。 ○事後学修 ・以後、本学の教学システムに毎日ログインし、学内の連絡事項を確認してください。 ・自宅 PC から本学の教学システムにアクセスし授業資料をダウンロードし閲覧してください。	4 時間
第２回	対面	1）教学システムの基本操作 ・Windows の操作(2) ・本学 ICT 環境(2)：学修ポートフォリオ、クラウドサービス/SNS Microsoft/Office 365（Outlook、OneDrive 等） 【テキスト】ウィンドウズ編 STEP7 ファイルを上手に管理しよう～STEP9 インターネットを使ってみよう	○事前学修 ・第 1 回の操作を基本としますので、第 1 回の内容を事前に復習して下さい。 ○事後学修 ・自宅 PC にてメール操作や OneDrive 操作して下さい。	4 時間
第３回	対面	1）教学システムの基本操作 ・本学 ICT 環境(3)： 2）Windows の操作(3)・タイピングの基礎 ・Windows の基本操作 ・日本語入力・タイピングの基礎 ・作成ファイルのアップロード 【テキスト】ウィンドウズ編全体	○事前学修 ・テキストの「Windows を使ってみよう」に従って自宅 PC 等で操作して下さい。 ○事後学修 ・授業内で指定してたタイピング課題を作成し、学内システムを通じて提出してください。 ・以後、少なくとも「5 分間で日本語 300 文字以上」を第 12 回目の授業では超えるように、タイピング練習をしてください。	4 時間
第４回	対面	1）情報検索と図書館蔵書検索 2）プレゼンテーションソフトの基本操作(1) 【テキスト】プレゼンテーション編 ・STEP1 PowerPoint について～STEP6 プレゼンテーションを印刷しよう	○事前学修 ・テキストの「プレゼンテーション編」を事前に確認しておきましょう。STEP1～STEP6。 ○事後学修 ・テキストの「プレゼンテーション編」の操作を復習しておきましょう。	4 時間
第５回	対面	1）プレゼンテーションソフトの基本操作(2) 【テキスト】プレゼンテーション編 ・前回の続き ・練習問題 2）情報モラル＆情報セキュリティ 3）タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの「プレゼンテーション編」の練習問題を事前に確認しましょう。 ○事後学修 ・練習問題 1 と 2 を完成させ提出して下さい。	4 時間

第６回	対面	1）ワープロソフトの基本操作(1) 【テキスト】ワープロソフトを活用しよう ・STEP1　Word について～STEP6 長文のレポートを編集しよう 2）情報モラル＆情報セキュリティ 3）タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの「文章作成編」を事前に確認しておきましょう。STEP1～STEP6。 ○事後学修 ・テキストの「文章作成編」の操作を復習しておきましょう。STEP1～STEP6。	4 時間
第７回	対面	1）ワープロソフトの基本操作(2) 【テキスト】ワープロソフトを活用しよう ・前回の続き ・練習問題 1 2）情報モラル＆情報セキュリティ 3）タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの練習問題 1 を事前に確認しておきましょう。 ○事後学修 ・練習問題 1 を完成させ提出して下さい。	4 時間
第８回	対面	1）ワープロソフトの基本操作(3) 【テキスト】ワープロソフトを活用しよう ・練習問題 2 と 3 2）情報モラル＆情報セキュリティ【テキスト】ネット社会で情報を安全に使いこなそう 3）タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの練習問題 2 と 3 を事前に確認しておきましょう。 ○事後学修 ・練習問題 2 と 3 を完成させ提出して下さい。	4 時間
第９回	対面	1）表計算ソフトの基本操作(1) 【テキスト】表計算ソフトを活用しよう STEP1　Excel について～STEP5　表を印刷しよう 2）情報モラル＆情報セキュリティ 3）タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの「表計算編」を事前に確認しておきましょう。 ○事後学修 ・テキストの「表計算編」表計算ソフトを活用しよう STEP1～5 の操作を復習しておきましょう。	4 時間
第１０回	対面	1）表計算ソフトの基本操作(2) 【テキスト】表計算ソフトを活用しよう STEP6　グラフを作成しよう～STEP8　複数のシートを操作しよう 2）情報モラル＆情報セキュリティ 3）タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの「表計算編」を事前に確認しておきましょう。 ○事後学修 ・テキストの「表計算編」表計算ソフトを活用しよう STEP6～8 の操作を復習しておきましょう	4 時間
第１１回	対面	1）表計算ソフトの基本操作(3) 【テキスト】表計算ソフトを活用しよう ・前回の続き ・練習問題 1 と 2 2）情報モラル＆情報セキュリティ 3）タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの練習問題 1 と 2 を事前に確認しておきましょう。 ○事後学修 ・練習問題 1 と 2 を完成させ提出して下さい。	4 時間
第１２回	対面	1）表計算ソフトの基本操作(4) 【テキスト】表計算ソフトを活用しよう ・STEP9　関数を使いこなそう～STEP11 条件付き書式を設定しよう 2）情報モラル＆情報セキュリティ 3）タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの「表計算編」を事前に確認しておきましょう。 ○事後学修 ・テキストの「表計算編」表計算ソフトを活用しよう STEP9～11 の操作を復習しておきましょう	4 時間
第１３回	対面	1）総合演習 1 ・総合演習課題(1) 2）情報モラル＆情報セキュリティ 3）タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストを使って操作を確認しておきましょう ○事後学修 ・総合演習課題(1)を完成させ提出しましょう。	4 時間
第１４回	対面	1）総合演習 2 ・総合演習課題(2) 2）情報モラル＆情報セキュリティ 3）タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストを使って操作を確認しておきましょう ○事後学修 ・総合演習課題(2)を完成させ提出しましょう。	4 時間
第１５回	オンデマンド	1）総合演習 3 ・総合演習課題(3) 2）情報モラル＆情報セキュリティ 3）タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストを使って操作を確認しておきましょう ○事後学修 ・総合演習課題(3)を完成させ提出しましょう。	4 時間

科目名	情報処理基礎	開講年度	2025
担当者	岩見　真希	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	情報処理と ICT に関する基礎的な知識・スキルの修得、情報リテラシー（情報活用能力）		
授業の目的及び概要	・本科目は、情報処理と ICT（情報通信技術）に関する基礎的な知識とスキル、情報リテラシー（情報活用能力）の修得を目的とします。これら能力は、これからの大学生活を送る上で基本となる「汎用的技能」であり、卒業後の仕事でも必須となる「就業力」といえます。例えば、大学では、特定のテーマについて調査し、レポートを作成後、プレゼンテーションを実施します。また、現代の情報化社会にあっては、あらゆる場面で ICT が利用され、利活用することが求められます。 ・本科目では、PC の基本操作に慣れるとともに、大学生活やビジネス現場で最も使われているワープロ、表計算、プレゼンテーション等の基本ソフトの「使い方」（操作知識とスキル）の基礎を修得します。また、本学の教学システム、関連した SNS（Social Networking Services）・クラウドサービス・メールサービスの利活用、図書館情報システム・インターネットを使った情報の検索方法、コンピュータ、情報通信ネットワーク、情報モラル・情報セキュリティ（IT パスポート出題内容）についても学修します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・本科目の到達目標は、大学４年間及び入社時に最低限必要となる ICT（情報通信技術）・情報処理に関する基礎的な知識とスキル、情報リテラシー（情報活用能力）の修得です。具体的には以下の項目を到達目標とします。 1）PC を操作し、本学の教学システム、関連した SNS やクラウドサービスを適切に利用できる。 2）インターネットを使った適切な情報検索（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等を含む）ができる。 3）情報化社会の特性を踏まえ、情報モラル・情報セキュリティ・個人情報・著作権等について説明できる。 4）キーボードを使って文字入力ができる（5 分間で日本語 300 文字以上）。 5）プレゼンテーションソフト（PowerPoint）を用いて簡易なスライド資料の作成ができる。 6）ワープロソフト（Word）を用いて簡易な文書作成ができる。 7）表計算ソフト（Excel）を用いて、情報を分析評価・整理等するために簡易な集計表やグラフの作成ができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・PC を用いた実技を実施するため、適宜学生の質問等に回答します。 ・教学システムを利用したテストを実施した場合には、受験後、採点結果等をフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	情報リテラシー入門編　Windows10／Office 2019 対応型番（FPT1918），FOM，FOM 出版，2020 年	ISBN	9784865104165
参考書	―	ISBN	―

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50
	成果発表（口頭・実技）	0

	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	30
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	ー
この科目の受講にあたって	毎回の授業に出席し課題に取り組めば、PC、タイピング、ワープロ・表計算・プレゼンテーションソフト等に関する基本的な操作スキルを身につけることが可能です。これらスキルの修得には一定の時間と量が必要です。４年間の大学生活だけでなく卒業後の仕事においても必須のスキルとなるため、集中して取り組み修得して下さい。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	1）ガイダンス 2）本学の情報通信機器及び教学システムの概要や基本操作 ・本学 ICT 環境(1)：Learning Portal、Universal Passport、クラウドサービス（Microsoft/Office365）等 ・Windows の操作(1) ・情報セキュリティ・パスワード変更 【テキスト】ウィンドウズ編 STEP1Windows について～STEP6 アプリを操作しよう，STEP10 Windows を終了しよう	○事前学修 ・全 15 回のシラバスをすべて読んで授業計画を確認して下さい。 ・学内システムのパスワードをどのようにするかについて決めてきてください（パスワードは半角英数字記号を利用します）。 ○事後学修 ・以後、本学の教学システムに毎日ログインし、学内の連絡事項を確認してください。 ・自宅 PC から本学の教学システムにアクセスし授業資料をダウンロードし閲覧してください。	4 時間
第２回	対面	1）教学システムの基本操作 ・Windows の操作(2) ・本学 ICT 環境(2)：学修ポートフォリオ、クラウドサービス/SNS Microsoft/Office 365（Outlook、OneDrive 等） 【テキスト】ウィンドウズ編 STEP7 ファイルを上手に管理しよう～STEP9 インターネットを使ってみよう	○事前学修 ・第 1 回の操作を基本としますので、第 1 回の内容を事前に復習して下さい。 ○事後学修 ・自宅 PC にてメール操作や OneDrive 操作して下さい。	4 時間
第３回	対面	1）教学システムの基本操作 ・本学 ICT 環境(3)： 2）Windows の操作(3)・タイピングの基礎 ・Windows の基本操作 ・日本語入力・タイピングの基礎 ・作成ファイルのアップロード 【テキスト】ウィンドウズ編全体	○事前学修 ・テキストの「Windows を使ってみよう」に従って自宅 PC 等で操作して下さい。 ○事後学修 ・授業内で指定してたタイピング課題を作成し、学内システムを通じて提出してください。 ・以後、少なくとも「5 分間で日本語 300 文字以上」を第 12 回目の授業では超えるように、タイピング練習をしてください。	4 時間
第４回	対面	1）情報検索と図書館蔵書検索 2）プレゼンテーションソフトの基本操作(1) 【テキスト】プレゼンテーション編 ・STEP1 PowerPoint について～STEP6 プレゼンテーションを印刷しよう	○事前学修 ・テキストの「プレゼンテーション編」を事前に確認しておきましょう。STEP1～STEP6。 ○事後学修 ・テキストの「プレゼンテーション編」の操作を復習しておきましょう。	4 時間
第５回	対面	1）プレゼンテーションソフトの基本操作(2) 【テキスト】プレゼンテーション編 ・前回の続き ・練習問題 2）情報モラル＆情報セキュリティ 3）タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの「プレゼンテーション編」の練習問題を事前に確認しましょう。 ○事後学修 ・練習問題 1 と 2 を完成させ提出して下さい。	4 時間

第６回	対面	1）ワープロソフトの基本操作(1) 【テキスト】ワープロソフトを活用しよう ・STEP1　Word について～STEP6 長文のレポートを編集しよう 2）情報モラル＆情報セキュリティ 3）タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの「文章作成編」を事前に確認しておきましょう。STEP1～STEP6。 ○事後学修 ・テキストの「文章作成編」の操作を復習しておきましょう。STEP1～STEP6。	4 時間
第７回	対面	1）ワープロソフトの基本操作(2) 【テキスト】ワープロソフトを活用しよう ・前回の続き ・練習問題 1 2）情報モラル＆情報セキュリティ 3）タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの練習問題 1 を事前に確認しておきましょう。 ○事後学修 ・練習問題 1 を完成させ提出して下さい。	4 時間
第８回	対面	1）ワープロソフトの基本操作(3) 【テキスト】ワープロソフトを活用しよう ・練習問題 2 と 3 2）情報モラル＆情報セキュリティ【テキスト】ネット社会で情報を安全に使いこなそう 3）タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの練習問題 2 と 3 を事前に確認しておきましょう。 ○事後学修 ・練習問題 2 と 3 を完成させ提出して下さい。	4 時間
第９回	対面	1）表計算ソフトの基本操作(1) 【テキスト】表計算ソフトを活用しよう STEP1　Excel について～STEP5　表を印刷しよう 2）情報モラル＆情報セキュリティ 3）タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの「表計算編」を事前に確認しておきましょう。 ○事後学修 ・テキストの「表計算編」表計算ソフトを活用しよう STEP1～5 の操作を復習しておきましょう。	4 時間
第１０回	対面	1）表計算ソフトの基本操作(2) 【テキスト】表計算ソフトを活用しよう STEP6　グラフを作成しよう～STEP8　複数のシートを操作しよう 2）情報モラル＆情報セキュリティ 3）タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの「表計算編」を事前に確認しておきましょう。 ○事後学修 ・テキストの「表計算編」表計算ソフトを活用しよう STEP6～8 の操作を復習しておきましょう	4 時間
第１１回	対面	1）表計算ソフトの基本操作(3) 【テキスト】表計算ソフトを活用しよう ・前回の続き ・練習問題 1 と 2 2）情報モラル＆情報セキュリティ 3）タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの練習問題 1 と 2 を事前に確認しておきましょう。 ○事後学修 ・練習問題 1 と 2 を完成させ提出して下さい。	4 時間
第１２回	対面	1）表計算ソフトの基本操作(4) 【テキスト】表計算ソフトを活用しよう ・STEP9　関数を使いこなそう～STEP11 条件付き書式を設定しよう 2）情報モラル＆情報セキュリティ 3）タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの「表計算編」を事前に確認しておきましょう。 ○事後学修 ・テキストの「表計算編」表計算ソフトを活用しよう STEP9～11 の操作を復習しておきましょう	4 時間
第１３回	対面	1）総合演習 1 ・総合演習課題(1) 2）情報モラル＆情報セキュリティ 3）タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストを使って操作を確認しておきましょう ○事後学修 ・総合演習課題(1)を完成させ提出しましょう。	4 時間
第１４回	対面	1）総合演習 2 ・総合演習課題(2) 2）情報モラル＆情報セキュリティ 3）タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストを使って操作を確認しておきましょう ○事後学修 ・総合演習課題(2)を完成させ提出しましょう。	4 時間
第１５回	オンデマンド	1）総合演習 3 ・総合演習課題(3) 2）情報モラル＆情報セキュリティ 3）タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストを使って操作を確認しておきましょう ○事後学修 ・総合演習課題(3)を完成させ提出しましょう。	4 時間

科目名	情報処理基礎	開講年度	2025
担当者	岩見　真希	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	情報処理と ICT に関する基礎的な知識・スキルの修得、情報リテラシー（情報活用能力）		
授業の目的及び概要	・本科目は、情報処理と ICT（情報通信技術）に関する基礎的な知識とスキル、情報リテラシー（情報活用能力）の修得を目的とします。これら能力は、これからの大学生活を送る上で基本となる「汎用的技能」であり、卒業後の仕事でも必須となる「就業力」といえます。例えば、大学では、特定のテーマについて調査し、レポートを作成後、プレゼンテーションを実施します。また、現代の情報化社会にあっては、あらゆる場面で ICT が利用され、利活用することが求められます。 ・本科目では、PC の基本操作に慣れるとともに、大学生活やビジネス現場で最も使われているワープロ、表計算、プレゼンテーション等の基本ソフトの「使い方」（操作知識とスキル）の基礎を修得します。また、本学の教学システム、関連した SNS（Social Networking Services）・クラウドサービス・メールサービスの利活用、図書館情報システム・インターネットを使った情報の検索方法、コンピュータ、情報通信ネットワーク、情報モラル・情報セキュリティ（IT パスポート出題内容）についても学修します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・本科目の到達目標は、大学４年間及び入社時に最低限必要となる ICT（情報通信技術）・情報処理に関する基礎的な知識とスキル、情報リテラシー（情報活用能力）の修得です。具体的には以下の項目を到達目標とします。 1）PC を操作し、本学の教学システム、関連した SNS やクラウドサービスを適切に利用できる。 2）インターネットを使った適切な情報検索（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等を含む）ができる。 3）情報化社会の特性を踏まえ、情報モラル・情報セキュリティ・個人情報・著作権等について説明できる。 4）キーボードを使って文字入力ができる（5 分間で日本語 300 文字以上）。 5）プレゼンテーションソフト（PowerPoint）を用いて簡易なスライド資料の作成ができる。 6）ワープロソフト（Word）を用いて簡易な文書作成ができる。 7）表計算ソフト（Excel）を用いて、情報を分析評価・整理等するために簡易な集計表やグラフの作成ができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・PC を用いた実技を実施するため、適宜学生の質問等に回答します。 ・教学システムを利用したテストを実施した場合には、受験後、採点結果等をフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	情報リテラシー入門編　Windows10／Office 2019対応型番（FPT1918），FOM，FOM 出版，2020 年	ISBN	9784865104165
参考書	―	ISBN	―

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50
	成果発表（口頭・実技）	0

	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	30
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	ー
この科目の受講にあたって	毎回の授業に出席し課題に取り組めば、PC、タイピング、ワープロ・表計算・プレゼンテーションソフト等に関する基本的な操作スキルを身につけることが可能です。これらスキルの修得には一定の時間と量が必要です。４年間の大学生活だけでなく卒業後の仕事においても必須のスキルとなるため、集中して取り組み修得して下さい。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	1）ガイダンス 2）本学の情報通信機器及び教学システムの概要や基本操作 ・本学 ICT 環境(1)：Learning Portal、Universal Passport、クラウドサービス（Microsoft/Office365）等 ・Windows の操作(1) ・情報セキュリティ・パスワード変更 【テキスト】ウィンドウズ編 STEP1Windows について～STEP6 アプリを操作しよう，STEP10 Windows を終了しよう	○事前学修 ・全 15 回のシラバスをすべて読んで授業計画を確認して下さい。 ・学内システムのパスワードをどのようにするかについて決めてきてください（パスワードは半角英数字記号を利用します）。 ○事後学修 ・以後、本学の教学システムに毎日ログインし、学内の連絡事項を確認してください。 ・自宅 PC から本学の教学システムにアクセスし授業資料をダウンロードし閲覧してください。	4 時間
第２回	対面	1）教学システムの基本操作 ・Windows の操作(2) ・本学 ICT 環境(2)：学修ポートフォリオ、クラウドサービス/SNS Microsoft/Office 365（Outlook、OneDrive 等） 【テキスト】ウィンドウズ編 STEP7 ファイルを上手に管理しよう～STEP9 インターネットを使ってみよう	○事前学修 ・第 1 回の操作を基本としますので、第 1 回の内容を事前に復習して下さい。 ○事後学修 ・自宅 PC にてメール操作や OneDrive 操作して下さい。	4 時間
第３回	対面	1）教学システムの基本操作 ・本学 ICT 環境(3)： 2）Windows の操作(3)・タイピングの基礎 ・Windows の基本操作 ・日本語入力・タイピングの基礎 ・作成ファイルのアップロード 【テキスト】ウィンドウズ編全体	○事前学修 ・テキストの「Windows を使ってみよう」に従って自宅 PC 等で操作して下さい。 ○事後学修 ・授業内で指定してたタイピング課題を作成し、学内システムを通じて提出してください。 ・以後、少なくとも「5 分間で日本語 300 文字以上」を第 12 回目の授業では超えるように、タイピング練習をしてください。	4 時間
第４回	対面	1）情報検索と図書館蔵書検索 2）プレゼンテーションソフトの基本操作(1) 【テキスト】プレゼンテーション編 ・STEP1 PowerPoint について～STEP6 プレゼンテーションを印刷しよう	○事前学修 ・テキストの「プレゼンテーション編」を事前に確認しておきましょう。STEP1～STEP6。 ○事後学修 ・テキストの「プレゼンテーション編」の操作を復習しておきましょう。	4 時間
第５回	対面	1）プレゼンテーションソフトの基本操作(2) 【テキスト】プレゼンテーション編 ・前回の続き ・練習問題 2）情報モラル＆情報セキュリティ 3）タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの「プレゼンテーション編」の練習問題を事前に確認しましょう。 ○事後学修 ・練習問題 1 と 2 を完成させ提出して下さい。	4 時間

第６回	対面	1）ワープロソフトの基本操作(1) 【テキスト】ワープロソフトを活用しよう ・STEP1　Word について～STEP6 長文のレポートを編集しよう 2）情報モラル＆情報セキュリティ 3）タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの「文章作成編」を事前に確認しておきましょう。STEP1～STEP6。 ○事後学修 ・テキストの「文章作成編」の操作を復習しておきましょう。STEP1～STEP6。	4 時間
第７回	対面	1）ワープロソフトの基本操作(2) 【テキスト】ワープロソフトを活用しよう ・前回の続き ・練習問題 1 2）情報モラル＆情報セキュリティ 3）タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの練習問題 1 を事前に確認しておきましょう。 ○事後学修 ・練習問題 1 を完成させ提出して下さい。	4 時間
第８回	対面	1）ワープロソフトの基本操作(3) 【テキスト】ワープロソフトを活用しよう ・練習問題 2 と 3 2）情報モラル＆情報セキュリティ【テキスト】ネット社会で情報を安全に使いこなそう 3）タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの練習問題 2 と 3 を事前に確認しておきましょう。 ○事後学修 ・練習問題 2 と 3 を完成させ提出して下さい。	4 時間
第９回	対面	1）表計算ソフトの基本操作(1) 【テキスト】表計算ソフトを活用しよう STEP1　Excel について～STEP5　表を印刷しよう 2）情報モラル＆情報セキュリティ 3）タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの「表計算編」を事前に確認しておきましょう。 ○事後学修 ・テキストの「表計算編」表計算ソフトを活用しよう STEP1～5 の操作を復習しておきましょう。	4 時間
第１０回	対面	1）表計算ソフトの基本操作(2) 【テキスト】表計算ソフトを活用しよう STEP6　グラフを作成しよう～STEP8　複数のシートを操作しよう 2）情報モラル＆情報セキュリティ 3）タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの「表計算編」を事前に確認しておきましょう。 ○事後学修 ・テキストの「表計算編」表計算ソフトを活用しよう STEP6～8 の操作を復習しておきましょう	4 時間
第１１回	対面	1）表計算ソフトの基本操作(3) 【テキスト】表計算ソフトを活用しよう ・前回の続き ・練習問題 1 と 2 2）情報モラル＆情報セキュリティ 3）タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの練習問題 1 と 2 を事前に確認しておきましょう。 ○事後学修 ・練習問題 1 と 2 を完成させ提出して下さい。	4 時間
第１２回	対面	1）表計算ソフトの基本操作(4) 【テキスト】表計算ソフトを活用しよう ・STEP9　関数を使いこなそう～STEP11 条件付き書式を設定しよう 2）情報モラル＆情報セキュリティ 3）タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストの「表計算編」を事前に確認しておきましょう。 ○事後学修 ・テキストの「表計算編」表計算ソフトを活用しよう STEP9～11 の操作を復習しておきましょう	4 時間
第１３回	対面	1）総合演習 1 ・総合演習課題(1) 2）情報モラル＆情報セキュリティ 3）タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストを使って操作を確認しておきましょう ○事後学修 ・総合演習課題(1)を完成させ提出しましょう。	4 時間
第１４回	対面	1）総合演習 2 ・総合演習課題(2) 2）情報モラル＆情報セキュリティ 3）タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストを使って操作を確認しておきましょう ○事後学修 ・総合演習課題(2)を完成させ提出しましょう。	4 時間
第１５回	オンデマンド	1）総合演習 3 ・総合演習課題(3) 2）情報モラル＆情報セキュリティ 3）タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストを使って操作を確認しておきましょう ○事後学修 ・総合演習課題(3)を完成させ提出しましょう。	4 時間

科目名	データサイエンス基礎	開講年度	2025
担当者	川浪　隆之	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）		
授業の目的及び概要	・本科目は、学生の数理・データサイエンス・ＡＩへの関心を高め、かつ、数理・データサイエンス・ＡＩを適切に理解し、それを活用する基礎的な能力を育成することを目的とします。 ・数理・データサイエンス・AI に関するリテラシーは、Society 5.0 の実現や SDGs を達成する上で必要となる「汎用的技能」であり、また、卒業後の仕事でも必要となる「就業力」といえます。 ・データや AI に関する法的性質を知り、現代ビジネスの諸課題に取り組み、社会で活躍できる力を育成する上でも数理・データサイエンス・AI に関する基礎的知識やスキルは必須の能力と言えます。 ・本科目では、このような数理・データサイエンス・AI に関する能力の修得に向けて、各オフィスソフトを操作しながら課題に取り組みます。また、社会における実課題や実データを活用する実践的な学修のため、企業等から提供される実課題や実データを活用します。 ・また、情報倫理・情報セキュリティなど、情報の取扱いに係る法規・倫理（IT パスポート出題内容）についても学修します。 ・本科目は「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラム」に準拠しています。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は、数理・データサイエンス・ＡＩに関する能力の修得です。具体的には以下の項目を到達目標とします。 1）社会で起きている変化、社会で活用されているデータ、データ・AI の活用領域、データ・AI 利活用の現場、データ・AI 利活用の最新動向について説明できる。 2）データを読み、説明し、扱うことができる。 3）データ・AI を扱う上での留意事項及びデータを守る上での留意事項、情報倫理・情報セキュリティなど情報の取扱いに係る法規・倫理について説明できる。 4）企業等から提供される実データを活用して、実データを処理・分析し実課題の解決に資する報告資料を作成できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・PC を用いた実技も行いますので、適時学生の質問に答えていきます。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	AI データサイエンスリテラシー入門，吉岡剛志，技術評論社，2022 年	ISBN	9784297130428
参考書	ー	ISBN	ー

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	30
	その他の内容	最終課題
この科目の受講にあたって	・毎回の授業に出席し、課題に取り組めば、「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）」に関する知識や技能を身につける事が可能です。 ・欠席した場合は LearningPortal を確認し、課題がある場合は提出しておきましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	・ガイダンス 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-1　社会で起きている変化 ・情報倫理・情報セキュリティなど、情報の取扱いに係る法規・倫理(※以降、ELSI&S：Ethical, Legal and Social Issues & Security と略記を用いる) ・モデルカリキュラムとの対応：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-1　社会で起きている変化を事前に読んでおきましょう。 ○事後学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-1　社会で起きている変化を復習しておきましょう。	4 時間
第２回	対面	ELSI&S テスト 第１章　1-2　社会で活用されているデータ①、第２章　データリテラシー　2-1　Excel の基本的な操作 ・モデルカリキュラムとの対応：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第１章　1-2　社会で活用されているデータ、第２章　データリテラシー　2-1　Excel の基本的な操作を事前に読んでください。 ○事後学修 第１章　1-2　社会で活用されているデータ、第２章　データリテラシー　2-1　Excel の基本的な操作を復習してください。	4 時間
第３回	対面	ELSI&S テスト 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-2　社会で活用されているデータ②、第２章　データリテラシー　2-2　時系列データの可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-2　社会で活用されているデータ、第２章　データリテラシー　2-2　時系列データの可視化を事前に読んでください。 ○事後学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-2　社会で活用されているデータ、第２章　データリテラシー　2-2　時系列データの可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第４回	対面	ELSI&S テスト 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-3　データ・AI の活用領域、第２章　データリテラシー　2-3　平均の算出とその可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-3　データ・AI の活用領域、第２章　データリテラシー　2-3　平均の算出とその可視化を事前に読んでください。 ○事後学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-3　データ・AI の活用領域、第２章　データリテラシー　2-3　平均の算出とその可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第５回	対面	ELSI&S テスト 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-4　データ・AI 利活用のための技術①、第２章　データリテラシー　2-4　標準偏差の算出とその可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用	ELSI&S テスト ○事前学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-4　データ・AI 利活用のための技術、第２章　データリテラシー　2-4　標準偏差の算出とその可視化とその可視化を事前に読んでください。	4 時間

		されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事後学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-4　データ・AI 利活用のための技術、第 2 章　データリテラシー　2-4　標準偏差の算出とその可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	
第６回	対面	ELSI&S テスト 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-4　データ・AI 利活用のための技術②、第 2 章　データリテラシー　2-5　大量のデータを扱う方法① モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-4　データ・AI 利活用のための技術、第 2 章　データリテラシー　2-5　大量のデータを扱う方法を事前に読んでください。 ○事後学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-4　データ・AI 利活用のための技術、第 2 章　データリテラシー　2-5　大量のデータを扱う方法を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第７回	対面	ELSI&S テスト 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-5　データ・AI 利活用の現場①、第 2 章　データリテラシー　2-5　大量のデータを扱う方法② モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-5　データ・AI 利活用の現場、第 2 章　データリテラシー　2-5　大量のデータを扱う方法を事前に読んでください。 ○事後学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-5　データ・AI 利活用の現場、第 2 章　データリテラシー　2-5　大量のデータを扱う方法を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第８回	対面	ELSI&S テスト 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-5　データ・AI 利活用の現場②、第 2 章　データリテラシー　2-6　基本統計量の算出と箱ひげ図① モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-5　データ・AI 利活用の現場、第 2 章　データリテラシー　2-6　基本統計量の算出と箱ひげ図を事前に読んでください。 ○事後学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-5　データ・AI 利活用の現場、第 2 章　データリテラシー　2-6　基本統計量の算出と箱ひげ図を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第９回	対面	ELSI&S テスト 第 1 章　1-6　データ・AI 利活用の最新動向、第 2 章　データリテラシー　2-6　基本統計量の算出と箱ひげ図② モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第 1 章　1-6　データ・AI 利活用の最新動向、第 2 章　データリテラシー　2-6　基本統計量の算出と箱ひげ図を事前に読んでください。 ○事後学修 第 1 章　1-6　データ・AI 利活用の最新動向、第 2 章　データリテラシー　2-6　基本統計量の算出と箱ひげ図を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第１０回	対面	ELSI&S テスト 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-1①、第 2 章　データリテラシー　2-7　度数分布表とヒストグラムの作成 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-1、第 2 章　データリテラシー　2-7　度数分布表とヒストグラムの作成を事前に読んでください。 ○事後学修 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-1、第 2 章　データリテラシー　2-7　度数分布表とヒストグラムの作成を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第１１回	対面	ELSI&S テスト	○事前学修	4 時間

		第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-1②、第 2 章　データリテラシー　2-8　散布図の作成と相関係数の算出 モデルカリキュラムとの対応（追加資料含む）：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-1、第 2 章　データリテラシー　2-8　散布図の作成と相関係数の算出を事前に読んでください。 〇事後学修 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-1、第 2 章　データリテラシー　2-8　散布図の作成と相関係数の算出を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	
第１２回	対面	ELSI&S テスト 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-2　データを守る上での留意事項、第 2 章　データリテラシー　2-9　定性データの扱い方とクロス集計 ・モデルカリキュラムとの対応（追加資料含む）：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	〇事前学修 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-2　データを守る上での留意事項、第 2 章　データリテラシー　2-9　定性データの扱い方とクロス集計を事前に読んでおきましょう。 〇事後学修 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-2　データを守る上での留意事項、第 2 章　データリテラシー　2-9　定性データの扱い方とクロス集計を復習しておきましょう。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第１３回	対面	・企業等から提供される実データを用いた処理・分析と報告書の作成(1)	〇事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 〇事後学修 出題された課題を完成させてください。	4 時間
第１４回	対面	総合演習（最終課題）	〇事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 〇事後学修 出題された課題を完成させてください。	4 時間
第１５回	オンデマンド	・企業等から提供される実データを用いた処理・分析と報告書の作成(2)	〇事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 〇事後学修 出題された課題を完成させ提出してください。	4 時間

科目名	データサイエンス基礎	開講年度	2025
担当者	岩見　真希	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）		
授業の目的及び概要	・本科目は、学生の数理・データサイエンス・ＡＩへの関心を高め、かつ、数理・データサイエンス・ＡＩを適切に理解し、それを活用する基礎的な能力を育成することを目的とします。 ・数理・データサイエンス・AI に関するリテラシーは、Society 5.0 の実現や SDGs を達成する上で必要となる「汎用的技能」であり、また、卒業後の仕事でも必要となる「就業力」といえます。 ・データや AI に関する法的性質を知り、現代ビジネスの諸課題に取り組み、社会で活躍できる力を育成する上でも数理・データサイエンス・AI に関する基礎的知識やスキルは必須の能力と言えます。 ・本科目では、このような数理・データサイエンス・AI に関する能力の修得に向けて、各オフィスソフトを操作しながら課題に取り組みます。また、社会における実課題や実データを活用する実践的な学修のため、企業等から提供される実課題や実データを活用します。 ・また、情報倫理・情報セキュリティなど、情報の取扱いに係る法規・倫理（IT パスポート出題内容）についても学修します。 ・本科目は「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラム」に準拠しています。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は、数理・データサイエンス・ＡＩに関する能力の修得です。具体的には以下の項目を到達目標とします。 1）社会で起きている変化、社会で活用されているデータ、データ・AI の活用領域、データ・AI 利活用の現場、データ・AI 利活用の最新動向について説明できる。 2）データを読み、説明し、扱うことができる。 3）データ・AI を扱う上での留意事項及びデータを守る上での留意事項、情報倫理・情報セキュリティなど情報の取扱いに係る法規・倫理について説明できる。 4）企業等から提供される実データを活用して、実データを処理・分析し実課題の解決に資する報告資料を作成できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・PC を用いた実技も行いますので、適時学生の質問に答えていきます。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	AI データサイエンスリテラシー入門，吉岡剛志，技術評論社，2022 年	ISBN	9784297130428
参考書	ー	ISBN	ー

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	30
	その他の内容	最終課題
この科目の受講にあたって	・毎回の授業に出席し、課題に取り組めば、「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）」に関する知識や技能を身につける事が可能です。 ・欠席した場合は LearningPortal を確認し、課題がある場合は提出しておきましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	・ガイダンス 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-1　社会で起きている変化 ・情報倫理・情報セキュリティなど、情報の取扱いに係る法規・倫理(※以降、ELSI&S：Ethical, Legal and Social Issues & Security と略記を用いる) ・モデルカリキュラムとの対応：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-1　社会で起きている変化を事前に読んでおきましょう。 ○事後学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-1　社会で起きている変化を復習しておきましょう。	4 時間
第２回	対面	ELSI&S テスト 第１章　1-2　社会で活用されているデータ①、第２章　データリテラシー　2-1　Excel の基本的な操作 ・モデルカリキュラムとの対応：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第１章　1-2　社会で活用されているデータ、第２章　データリテラシー　2-1　Excel の基本的な操作を事前に読んでください。 ○事後学修 第１章　1-2　社会で活用されているデータ、第２章　データリテラシー　2-1　Excel の基本的な操作を復習してください。	4 時間
第３回	対面	ELSI&S テスト 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-2　社会で活用されているデータ②、第２章　データリテラシー　2-2　時系列データの可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-2　社会で活用されているデータ、第２章　データリテラシー　2-2　時系列データの可視化を事前に読んでください。 ○事後学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-2　社会で活用されているデータ、第２章　データリテラシー　2-2　時系列データの可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第４回	対面	ELSI&S テスト 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-3　データ・AI の活用領域、第２章　データリテラシー　2-3　平均の算出とその可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-3　データ・AI の活用領域、第２章　データリテラシー　2-3　平均の算出とその可視化を事前に読んでください。 ○事後学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-3　データ・AI の活用領域、第２章　データリテラシー　2-3　平均の算出とその可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第５回	対面	ELSI&S テスト 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-4　データ・AI 利活用のための技術①、第２章　データリテラシー　2-4　標準偏差の算出とその可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用	ELSI&S テスト ○事前学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-4　データ・AI 利活用のための技術、第２章　データリテラシー　2-4　標準偏差の算出とその可視化とその可視化を事前に読んでください。	4 時間

		されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事後学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-4　データ・AI 利活用のための技術、第 2 章　データリテラシー　2-4　標準偏差の算出とその可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	
第６回	対面	ELSI&S テスト 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-4　データ・AI 利活用のための技術②、第 2 章　データリテラシー　2-5　大量のデータを扱う方法① モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-4　データ・AI 利活用のための技術、第 2 章　データリテラシー　2-5　大量のデータを扱う方法を事前に読んでください。 ○事後学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-4　データ・AI 利活用のための技術、第 2 章　データリテラシー　2-5　大量のデータを扱う方法を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第７回	対面	ELSI&S テスト 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-5　データ・AI 利活用の現場①、第 2 章　データリテラシー　2-5　大量のデータを扱う方法② モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-5　データ・AI 利活用の現場、第 2 章　データリテラシー　2-5　大量のデータを扱う方法を事前に読んでください。 ○事後学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-5　データ・AI 利活用の現場、第 2 章　データリテラシー　2-5　大量のデータを扱う方法を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第８回	対面	ELSI&S テスト 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-5　データ・AI 利活用の現場②、第 2 章　データリテラシー　2-6　基本統計量の算出と箱ひげ図① モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-5　データ・AI 利活用の現場、第 2 章　データリテラシー　2-6　基本統計量の算出と箱ひげ図を事前に読んでください。 ○事後学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-5　データ・AI 利活用の現場、第 2 章　データリテラシー　2-6　基本統計量の算出と箱ひげ図を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第９回	対面	ELSI&S テスト 第 1 章　1-6　データ・AI 利活用の最新動向、第 2 章　データリテラシー　2-6　基本統計量の算出と箱ひげ図② モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第 1 章　1-6　データ・AI 利活用の最新動向、第 2 章　データリテラシー　2-6　基本統計量の算出と箱ひげ図を事前に読んでください。 ○事後学修 第 1 章　1-6　データ・AI 利活用の最新動向、第 2 章　データリテラシー　2-6　基本統計量の算出と箱ひげ図を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第１０回	対面	ELSI&S テスト 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-1①、第 2 章　データリテラシー　2-7　度数分布表とヒストグラムの作成 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-1、第 2 章　データリテラシー　2-7　度数分布表とヒストグラムの作成を事前に読んでください。 ○事後学修 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-1、第 2 章　データリテラシー　2-7　度数分布表とヒストグラムの作成を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第１１回	対面	ELSI&S テスト	○事前学修	4 時間

		第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-1②、第 2 章　データリテラシー　2-8　散布図の作成と相関係数の算出 モデルカリキュラムとの対応（追加資料含む）：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-1、第 2 章　データリテラシー　2-8　散布図の作成と相関係数の算出を事前に読んでください。 〇事後学修 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-1、第 2 章　データリテラシー　2-8　散布図の作成と相関係数の算出を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	
第１２回	対面	ELSI&S テスト 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-2　データを守る上での留意事項、第 2 章　データリテラシー　2-9　定性データの扱い方とクロス集計 ・モデルカリキュラムとの対応（追加資料含む）：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	〇事前学修 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-2　データを守る上での留意事項、第 2 章　データリテラシー　2-9　定性データの扱い方とクロス集計を事前に読んでおきましょう。 〇事後学修 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-2　データを守る上での留意事項、第 2 章　データリテラシー　2-9　定性データの扱い方とクロス集計を復習しておきましょう。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第１３回	対面	・企業等から提供される実データを用いた処理・分析と報告書の作成(1)	〇事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 〇事後学修 出題された課題を完成させてください。	4 時間
第１４回	対面	総合演習（最終課題）	〇事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 〇事後学修 出題された課題を完成させてください。	4 時間
第１５回	オンデマンド	・企業等から提供される実データを用いた処理・分析と報告書の作成(2)	〇事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 〇事後学修 出題された課題を完成させ提出してください。	4 時間

科目名	データサイエンス基礎	開講年度	2025
担当者	宮崎　裕	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）		
授業の目的及び概要	・本科目は、学生の数理・データサイエンス・ＡＩへの関心を高め、かつ、数理・データサイエンス・ＡＩを適切に理解し、それを活用する基礎的な能力を育成することを目的とします。 ・数理・データサイエンス・AI に関するリテラシーは、Society 5.0 の実現や SDGs を達成する上で必要となる「汎用的技能」であり、また、卒業後の仕事でも必要となる「就業力」といえます。 ・データや AI に関する法的性質を知り、現代ビジネスの諸課題に取り組み、社会で活躍できる力を育成する上でも数理・データサイエンス・AI に関する基礎的知識やスキルは必須の能力と言えます。 ・本科目では、このような数理・データサイエンス・AI に関する能力の修得に向けて、各オフィスソフトを操作しながら課題に取り組みます。また、社会における実課題や実データを活用する実践的な学修のため、企業等から提供される実課題や実データを活用します。 ・また、情報倫理・情報セキュリティなど、情報の取扱いに係る法規・倫理（IT パスポート出題内容）についても学修します。 ・本科目は「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラム」に準拠しています。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は、数理・データサイエンス・ＡＩに関する能力の修得です。具体的には以下の項目を到達目標とします。 1）社会で起きている変化、社会で活用されているデータ、データ・AI の活用領域、データ・AI 利活用の現場、データ・AI 利活用の最新動向について説明できる。 2）データを読み、説明し、扱うことができる。 3）データ・AI を扱う上での留意事項及びデータを守る上での留意事項、情報倫理・情報セキュリティなど情報の取扱いに係る法規・倫理について説明できる。 4）企業等から提供される実データを活用して、実データを処理・分析し実課題の解決に資する報告資料を作成できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・PC を用いた実技も行いますので、適時学生の質問に答えていきます。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	AI データサイエンスリテラシー入門，吉岡剛志，技術評論社，2022 年	ISBN	9784297130428
参考書	ー	ISBN	ー

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	30
	その他の内容	最終課題
この科目の受講にあたって	・毎回の授業に出席し、課題に取り組めば、「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）」に関する知識や技能を身につける事が可能です。 ・欠席した場合は LearningPortal を確認し、課題がある場合は提出しておきましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	・ガイダンス 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-1　社会で起きている変化 ・情報倫理・情報セキュリティなど、情報の取扱いに係る法規・倫理(※以降、ELSI&S：Ethical, Legal and Social Issues & Security と略記を用いる) ・モデルカリキュラムとの対応：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-1　社会で起きている変化を事前に読んでおきましょう。 ○事後学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-1　社会で起きている変化を復習しておきましょう。	4 時間
第２回	対面	ELSI&S テスト 第１章　1-2　社会で活用されているデータ①、第２章　データリテラシー　2-1　Excel の基本的な操作 ・モデルカリキュラムとの対応：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第１章　1-2　社会で活用されているデータ、第２章　データリテラシー　2-1　Excel の基本的な操作を事前に読んでください。 ○事後学修 第１章　1-2　社会で活用されているデータ、第２章　データリテラシー　2-1　Excel の基本的な操作を復習してください。	4 時間
第３回	対面	ELSI&S テスト 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-2　社会で活用されているデータ②、第２章　データリテラシー　2-2　時系列データの可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-2　社会で活用されているデータ、第２章　データリテラシー　2-2　時系列データの可視化を事前に読んでください。 ○事後学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-2　社会で活用されているデータ、第２章　データリテラシー　2-2　時系列データの可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第４回	対面	ELSI&S テスト 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-3　データ・AI の活用領域、第２章　データリテラシー　2-3　平均の算出とその可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-3　データ・AI の活用領域、第２章　データリテラシー　2-3　平均の算出とその可視化を事前に読んでください。 ○事後学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-3　データ・AI の活用領域、第２章　データリテラシー　2-3　平均の算出とその可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第５回	対面	ELSI&S テスト 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-4　データ・AI 利活用のための技術①、第２章　データリテラシー　2-4　標準偏差の算出とその可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用	ELSI&S テスト ○事前学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-4　データ・AI 利活用のための技術、第２章　データリテラシー　2-4　標準偏差の算出とその可視化とその可視化を事前に読んでください。	4 時間

		されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事後学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-4　データ・AI 利活用のための技術、第 2 章　データリテラシー　2-4　標準偏差の算出とその可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	
第６回	対面	ELSI&S テスト 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-4　データ・AI 利活用のための技術②、第 2 章　データリテラシー　2-5　大量のデータを扱う方法① モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-4　データ・AI 利活用のための技術、第 2 章　データリテラシー　2-5　大量のデータを扱う方法を事前に読んでください。 ○事後学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-4　データ・AI 利活用のための技術、第 2 章　データリテラシー　2-5　大量のデータを扱う方法を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第７回	対面	ELSI&S テスト 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-5　データ・AI 利活用の現場①、第 2 章　データリテラシー　2-5　大量のデータを扱う方法② モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-5　データ・AI 利活用の現場、第 2 章　データリテラシー　2-5　大量のデータを扱う方法を事前に読んでください。 ○事後学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-5　データ・AI 利活用の現場、第 2 章　データリテラシー　2-5　大量のデータを扱う方法を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第８回	対面	ELSI&S テスト 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-5　データ・AI 利活用の現場②、第 2 章　データリテラシー　2-6　基本統計量の算出と箱ひげ図① モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-5　データ・AI 利活用の現場、第 2 章　データリテラシー　2-6　基本統計量の算出と箱ひげ図を事前に読んでください。 ○事後学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-5　データ・AI 利活用の現場、第 2 章　データリテラシー　2-6　基本統計量の算出と箱ひげ図を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第９回	対面	ELSI&S テスト 第 1 章　1-6　データ・AI 利活用の最新動向、第 2 章　データリテラシー　2-6　基本統計量の算出と箱ひげ図② モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第 1 章　1-6　データ・AI 利活用の最新動向、第 2 章　データリテラシー　2-6　基本統計量の算出と箱ひげ図を事前に読んでください。 ○事後学修 第 1 章　1-6　データ・AI 利活用の最新動向、第 2 章　データリテラシー　2-6　基本統計量の算出と箱ひげ図を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第１０回	対面	ELSI&S テスト 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-1①、第 2 章　データリテラシー　2-7　度数分布表とヒストグラムの作成 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-1、第 2 章　データリテラシー　2-7　度数分布表とヒストグラムの作成を事前に読んでください。 ○事後学修 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-1、第 2 章　データリテラシー　2-7　度数分布表とヒストグラムの作成を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第１１回	対面	ELSI&S テスト	○事前学修	4 時間

		第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-1②、第 2 章　データリテラシー　2-8　散布図の作成と相関係数の算出 モデルカリキュラムとの対応（追加資料含む）：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-1、第 2 章　データリテラシー　2-8　散布図の作成と相関係数の算出を事前に読んでください。 〇事後学修 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-1、第 2 章　データリテラシー　2-8　散布図の作成と相関係数の算出を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	
第１２回	対面	ELSI&S テスト 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-2　データを守る上での留意事項、第 2 章　データリテラシー　2-9　定性データの扱い方とクロス集計 ・モデルカリキュラムとの対応（追加資料含む）：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	〇事前学修 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-2　データを守る上での留意事項、第 2 章　データリテラシー　2-9　定性データの扱い方とクロス集計を事前に読んでおきましょう。 〇事後学修 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-2　データを守る上での留意事項、第 2 章　データリテラシー　2-9　定性データの扱い方とクロス集計を復習しておきましょう。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第１３回	対面	・企業等から提供される実データを用いた処理・分析と報告書の作成(1)	〇事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 〇事後学修 出題された課題を完成させてください。	4 時間
第１４回	対面	総合演習（最終課題）	〇事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 〇事後学修 出題された課題を完成させてください。	4 時間
第１５回	オンデマンド	・企業等から提供される実データを用いた処理・分析と報告書の作成(2)	〇事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 〇事後学修 出題された課題を完成させ提出してください。	4 時間

科目名	データサイエンス基礎	開講年度	2025
担当者	岩見　真希	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）		
授業の目的及び概要	・本科目は、学生の数理・データサイエンス・ＡＩへの関心を高め、かつ、数理・データサイエンス・ＡＩを適切に理解し、それを活用する基礎的な能力を育成することを目的とします。 ・数理・データサイエンス・AI に関するリテラシーは、Society 5.0 の実現や SDGs を達成する上で必要となる「汎用的技能」であり、また、卒業後の仕事でも必要となる「就業力」といえます。 ・データや AI に関する法的性質を知り、現代ビジネスの諸課題に取り組み、社会で活躍できる力を育成する上でも数理・データサイエンス・AI に関する基礎的知識やスキルは必須の能力と言えます。 ・本科目では、このような数理・データサイエンス・AI に関する能力の修得に向けて、各オフィスソフトを操作しながら課題に取り組みます。また、社会における実課題や実データを活用する実践的な学修のため、企業等から提供される実課題や実データを活用します。 ・また、情報倫理・情報セキュリティなど、情報の取扱いに係る法規・倫理（IT パスポート出題内容）についても学修します。 ・本科目は「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラム」に準拠しています。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は、数理・データサイエンス・ＡＩに関する能力の修得です。具体的には以下の項目を到達目標とします。 1）社会で起きている変化、社会で活用されているデータ、データ・AI の活用領域、データ・AI 利活用の現場、データ・AI 利活用の最新動向について説明できる。 2）データを読み、説明し、扱うことができる。 3）データ・AI を扱う上での留意事項及びデータを守る上での留意事項、情報倫理・情報セキュリティなど情報の取扱いに係る法規・倫理について説明できる。 4）企業等から提供される実データを活用して、実データを処理・分析し実課題の解決に資する報告資料を作成できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・PC を用いた実技も行いますので、適時学生の質問に答えていきます。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	AI データサイエンスリテラシー入門，吉岡剛志，技術評論社，2022 年	ISBN	9784297130428
参考書	ー	ISBN	ー

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	30
	その他の内容	最終課題
この科目の受講にあたって	・毎回の授業に出席し、課題に取り組めば、「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）」に関する知識や技能を身につける事が可能です。 ・欠席した場合は LearningPortal を確認し、課題がある場合は提出しておきましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	・ガイダンス 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-1　社会で起きている変化 ・情報倫理・情報セキュリティなど、情報の取扱いに係る法規・倫理(※以降、ELSI&S：Ethical, Legal and Social Issues & Security と略記を用いる) ・モデルカリキュラムとの対応：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-1　社会で起きている変化を事前に読んでおきましょう。 ○事後学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-1　社会で起きている変化を復習しておきましょう。	4 時間
第２回	対面	ELSI&S テスト 第１章　1-2　社会で活用されているデータ①、第２章　データリテラシー　2-1　Excel の基本的な操作 ・モデルカリキュラムとの対応：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第１章　1-2　社会で活用されているデータ、第２章　データリテラシー　2-1　Excel の基本的な操作を事前に読んでください。 ○事後学修 第１章　1-2　社会で活用されているデータ、第２章　データリテラシー　2-1　Excel の基本的な操作を復習してください。	4 時間
第３回	対面	ELSI&S テスト 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-2　社会で活用されているデータ②、第２章　データリテラシー　2-2　時系列データの可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-2　社会で活用されているデータ、第２章　データリテラシー　2-2　時系列データの可視化を事前に読んでください。 ○事後学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-2　社会で活用されているデータ、第２章　データリテラシー　2-2　時系列データの可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第４回	対面	ELSI&S テスト 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-3　データ・AI の活用領域、第２章　データリテラシー　2-3　平均の算出とその可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-3　データ・AI の活用領域、第２章　データリテラシー　2-3　平均の算出とその可視化を事前に読んでください。 ○事後学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-3　データ・AI の活用領域、第２章　データリテラシー　2-3　平均の算出とその可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第５回	対面	ELSI&S テスト 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-4　データ・AI 利活用のための技術①、第２章　データリテラシー　2-4　標準偏差の算出とその可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用	ELSI&S テスト ○事前学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-4　データ・AI 利活用のための技術、第２章　データリテラシー　2-4　標準偏差の算出とその可視化とその可視化を事前に読んでください。	4 時間

		されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事後学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-4　データ・AI 利活用のための技術、第 2 章　データリテラシー　2-4　標準偏差の算出とその可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	
第６回	対面	ELSI&S テスト 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-4　データ・AI 利活用のための技術②、第 2 章　データリテラシー　2-5　大量のデータを扱う方法① モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-4　データ・AI 利活用のための技術、第 2 章　データリテラシー　2-5　大量のデータを扱う方法を事前に読んでください。 ○事後学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-4　データ・AI 利活用のための技術、第 2 章　データリテラシー　2-5　大量のデータを扱う方法を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第７回	対面	ELSI&S テスト 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-5　データ・AI 利活用の現場①、第 2 章　データリテラシー　2-5　大量のデータを扱う方法② モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-5　データ・AI 利活用の現場、第 2 章　データリテラシー　2-5　大量のデータを扱う方法を事前に読んでください。 ○事後学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-5　データ・AI 利活用の現場、第 2 章　データリテラシー　2-5　大量のデータを扱う方法を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第８回	対面	ELSI&S テスト 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-5　データ・AI 利活用の現場②、第 2 章　データリテラシー　2-6　基本統計量の算出と箱ひげ図① モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-5　データ・AI 利活用の現場、第 2 章　データリテラシー　2-6　基本統計量の算出と箱ひげ図を事前に読んでください。 ○事後学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-5　データ・AI 利活用の現場、第 2 章　データリテラシー　2-6　基本統計量の算出と箱ひげ図を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第９回	対面	ELSI&S テスト 第 1 章　1-6　データ・AI 利活用の最新動向、第 2 章　データリテラシー　2-6　基本統計量の算出と箱ひげ図② モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第 1 章　1-6　データ・AI 利活用の最新動向、第 2 章　データリテラシー　2-6　基本統計量の算出と箱ひげ図を事前に読んでください。 ○事後学修 第 1 章　1-6　データ・AI 利活用の最新動向、第 2 章　データリテラシー　2-6　基本統計量の算出と箱ひげ図を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第１０回	対面	ELSI&S テスト 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-1①、第 2 章　データリテラシー　2-7　度数分布表とヒストグラムの作成 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-1、第 2 章　データリテラシー　2-7　度数分布表とヒストグラムの作成を事前に読んでください。 ○事後学修 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-1、第 2 章　データリテラシー　2-7　度数分布表とヒストグラムの作成を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第１１回	対面	ELSI&S テスト	○事前学修	4 時間

		第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-1②、第 2 章　データリテラシー　2-8　散布図の作成と相関係数の算出 モデルカリキュラムとの対応（追加資料含む）：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-1、第 2 章　データリテラシー　2-8　散布図の作成と相関係数の算出を事前に読んでください。 〇事後学修 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-1、第 2 章　データリテラシー　2-8　散布図の作成と相関係数の算出を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	
第１２回	対面	ELSI&S テスト 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-2　データを守る上での留意事項、第 2 章　データリテラシー　2-9　定性データの扱い方とクロス集計 ・モデルカリキュラムとの対応（追加資料含む）：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	〇事前学修 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-2　データを守る上での留意事項、第 2 章　データリテラシー　2-9　定性データの扱い方とクロス集計を事前に読んでおきましょう。 〇事後学修 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-2　データを守る上での留意事項、第 2 章　データリテラシー　2-9　定性データの扱い方とクロス集計を復習しておきましょう。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第１３回	対面	・企業等から提供される実データを用いた処理・分析と報告書の作成(1)	〇事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 〇事後学修 出題された課題を完成させてください。	4 時間
第１４回	対面	総合演習（最終課題）	〇事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 〇事後学修 出題された課題を完成させてください。	4 時間
第１５回	オンデマンド	・企業等から提供される実データを用いた処理・分析と報告書の作成(2)	〇事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 〇事後学修 出題された課題を完成させ提出してください。	4 時間

科目名	データサイエンス基礎	開講年度	2025
担当者	岩見　真希	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）		
授業の目的及び概要	・本科目は、学生の数理・データサイエンス・ＡＩへの関心を高め、かつ、数理・データサイエンス・ＡＩを適切に理解し、それを活用する基礎的な能力を育成することを目的とします。 ・数理・データサイエンス・AI に関するリテラシーは、Society 5.0 の実現や SDGs を達成する上で必要となる「汎用的技能」であり、また、卒業後の仕事でも必要となる「就業力」といえます。 ・データや AI に関する法的性質を知り、現代ビジネスの諸課題に取り組み、社会で活躍できる力を育成する上でも数理・データサイエンス・AI に関する基礎的知識やスキルは必須の能力と言えます。 ・本科目では、このような数理・データサイエンス・AI に関する能力の修得に向けて、各オフィスソフトを操作しながら課題に取り組みます。また、社会における実課題や実データを活用する実践的な学修のため、企業等から提供される実課題や実データを活用します。 ・また、情報倫理・情報セキュリティなど、情報の取扱いに係る法規・倫理（IT パスポート出題内容）についても学修します。 ・本科目は「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラム」に準拠しています。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は、数理・データサイエンス・ＡＩに関する能力の修得です。具体的には以下の項目を到達目標とします。 1）社会で起きている変化、社会で活用されているデータ、データ・AI の活用領域、データ・AI 利活用の現場、データ・AI 利活用の最新動向について説明できる。 2）データを読み、説明し、扱うことができる。 3）データ・AI を扱う上での留意事項及びデータを守る上での留意事項、情報倫理・情報セキュリティなど情報の取扱いに係る法規・倫理について説明できる。 4）企業等から提供される実データを活用して、実データを処理・分析し実課題の解決に資する報告資料を作成できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・PC を用いた実技も行いますので、適時学生の質問に答えていきます。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	AI データサイエンスリテラシー入門，吉岡剛志，技術評論社，2022 年	ISBN	9784297130428
参考書	ー	ISBN	ー

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	30
	その他の内容	最終課題
この科目の受講にあたって	・毎回の授業に出席し、課題に取り組めば、「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）」に関する知識や技能を身につける事が可能です。 ・欠席した場合は LearningPortal を確認し、課題がある場合は提出しておきましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	・ガイダンス 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-1　社会で起きている変化 ・情報倫理・情報セキュリティなど、情報の取扱いに係る法規・倫理(※以降、ELSI&S：Ethical, Legal and Social Issues & Security と略記を用いる) ・モデルカリキュラムとの対応：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-1　社会で起きている変化を事前に読んでおきましょう。 ○事後学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-1　社会で起きている変化を復習しておきましょう。	4 時間
第２回	対面	ELSI&S テスト 第１章　1-2　社会で活用されているデータ①、第２章　データリテラシー　2-1　Excel の基本的な操作 ・モデルカリキュラムとの対応：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第１章　1-2　社会で活用されているデータ、第２章　データリテラシー　2-1　Excel の基本的な操作を事前に読んでください。 ○事後学修 第１章　1-2　社会で活用されているデータ、第２章　データリテラシー　2-1　Excel の基本的な操作を復習してください。	4 時間
第３回	対面	ELSI&S テスト 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-2　社会で活用されているデータ②、第２章　データリテラシー　2-2　時系列データの可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-2　社会で活用されているデータ、第２章　データリテラシー　2-2　時系列データの可視化を事前に読んでください。 ○事後学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-2　社会で活用されているデータ、第２章　データリテラシー　2-2　時系列データの可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第４回	対面	ELSI&S テスト 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-3　データ・AI の活用領域、第２章　データリテラシー　2-3　平均の算出とその可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-3　データ・AI の活用領域、第２章　データリテラシー　2-3　平均の算出とその可視化を事前に読んでください。 ○事後学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-3　データ・AI の活用領域、第２章　データリテラシー　2-3　平均の算出とその可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第５回	対面	ELSI&S テスト 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-4　データ・AI 利活用のための技術①、第２章　データリテラシー　2-4　標準偏差の算出とその可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用	ELSI&S テスト ○事前学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-4　データ・AI 利活用のための技術、第２章　データリテラシー　2-4　標準偏差の算出とその可視化とその可視化を事前に読んでください。	4 時間

		されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事後学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-4　データ・AI 利活用のための技術、第 2 章　データリテラシー　2-4　標準偏差の算出とその可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	
第６回	対面	ELSI&S テスト 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-4　データ・AI 利活用のための技術②、第 2 章　データリテラシー　2-5　大量のデータを扱う方法① モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-4　データ・AI 利活用のための技術、第 2 章　データリテラシー　2-5　大量のデータを扱う方法を事前に読んでください。 ○事後学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-4　データ・AI 利活用のための技術、第 2 章　データリテラシー　2-5　大量のデータを扱う方法を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第７回	対面	ELSI&S テスト 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-5　データ・AI 利活用の現場①、第 2 章　データリテラシー　2-5　大量のデータを扱う方法② モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-5　データ・AI 利活用の現場、第 2 章　データリテラシー　2-5　大量のデータを扱う方法を事前に読んでください。 ○事後学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-5　データ・AI 利活用の現場、第 2 章　データリテラシー　2-5　大量のデータを扱う方法を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第８回	対面	ELSI&S テスト 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-5　データ・AI 利活用の現場②、第 2 章　データリテラシー　2-6　基本統計量の算出と箱ひげ図① モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-5　データ・AI 利活用の現場、第 2 章　データリテラシー　2-6　基本統計量の算出と箱ひげ図を事前に読んでください。 ○事後学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-5　データ・AI 利活用の現場、第 2 章　データリテラシー　2-6　基本統計量の算出と箱ひげ図を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第９回	対面	ELSI&S テスト 第 1 章　1-6　データ・AI 利活用の最新動向、第 2 章　データリテラシー　2-6　基本統計量の算出と箱ひげ図② モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第 1 章　1-6　データ・AI 利活用の最新動向、第 2 章　データリテラシー　2-6　基本統計量の算出と箱ひげ図を事前に読んでください。 ○事後学修 第 1 章　1-6　データ・AI 利活用の最新動向、第 2 章　データリテラシー　2-6　基本統計量の算出と箱ひげ図を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第１０回	対面	ELSI&S テスト 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-1①、第 2 章　データリテラシー　2-7　度数分布表とヒストグラムの作成 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-1、第 2 章　データリテラシー　2-7　度数分布表とヒストグラムの作成を事前に読んでください。 ○事後学修 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-1、第 2 章　データリテラシー　2-7　度数分布表とヒストグラムの作成を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第１１回	対面	ELSI&S テスト	○事前学修	4 時間

		第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-1②、第 2 章　データリテラシー　2-8　散布図の作成と相関係数の算出 モデルカリキュラムとの対応（追加資料含む）：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-1、第 2 章　データリテラシー　2-8　散布図の作成と相関係数の算出を事前に読んでください。 〇事後学修 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-1、第 2 章　データリテラシー　2-8　散布図の作成と相関係数の算出を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	
第１２回	対面	ELSI&S テスト 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-2　データを守る上での留意事項、第 2 章　データリテラシー　2-9　定性データの扱い方とクロス集計 ・モデルカリキュラムとの対応（追加資料含む）：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	〇事前学修 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-2　データを守る上での留意事項、第 2 章　データリテラシー　2-9　定性データの扱い方とクロス集計を事前に読んでおきましょう。 〇事後学修 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-2　データを守る上での留意事項、第 2 章　データリテラシー　2-9　定性データの扱い方とクロス集計を復習しておきましょう。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第１３回	対面	・企業等から提供される実データを用いた処理・分析と報告書の作成(1)	〇事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 〇事後学修 出題された課題を完成させてください。	4 時間
第１４回	対面	総合演習（最終課題）	〇事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 〇事後学修 出題された課題を完成させてください。	4 時間
第１５回	オンデマンド	・企業等から提供される実データを用いた処理・分析と報告書の作成(2)	〇事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 〇事後学修 出題された課題を完成させ提出してください。	4 時間

科目名	ビジネスアプリケーション	開講年度	2025
担当者	岩見　真希	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	ビジネスシーンにおけるオフィスソフトを用いた実践的な ICT 活用能力の涵養		
授業の目的及び概要	この授業では、ビジネスアプリケーションに関する基礎的な知識とスキルを土台に、より実践的な活用能力の修得を目指す。そのために、オフィスソフトを用いて情報を収集し、適切に可視化するための方法を学修する。さらに、加工した情報を用いて検証や分析等を行い、ドキュメントにまとめ上げる能力を身につける。授業において、実践的な課題に取り組むことによって、情報化社会で必要とされる ICT（情報通信技術）活用能力を身につける。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	Microsoft Word，Excel，PowerPoint を用いた実践的な課題に取り組むことによって、情報化社会で必要とされる ICT（情報通信技術）活用能力を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された課題について、随時、授業授業支援システム（Learning Portal）で講評します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／クリッカー等の理解度把握システムの利用		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	よくわかる Microsoft Word 2019 & Microsoft Excel 2019　スキルアップ問題集 ビジネス実践編（FOM 出版），富士通エフ・オー・エム，FOM 出版，2020.	ISBN	978-4-86510-437-0
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	30
授業期間中の小テスト、レポート課題等	70
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって
Microsoft Word，Excel，PowerPoint を用いた実践的な課題を通して、就業力育成のための ICT の活用能力を養成しよう。 この授業のテキストは Windows 版 Microsoft Office の利用を想定して書かれているため、授業時間外に演習する場合は WindowsPC（学内 PC 自習室や図書館も可）を利用すること。 ※Mac 版は操作手順や結果が異なるため対応外。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	授業のガイダンス プロジェクト発足を通知する	【復習】今回の内容を読んで復習すること。課題を提出すること。	4 時間

		・プロジェクト体系図の作成 ・プロジェクト発足を通知するレポートの作成		
第２回	対面	会議の開催を連絡する ・拡販会議の開催を連絡するレポートの作成 ・会議配布資料の作成	【予習】テキストの「会議の開催を連絡する」の部分を読んでおくこと。 【復習】今回の内容を読んで復習すること。課題を提出すること。	4 時間
第３回	対面	行動指針を全従業員に告知する ・行動指針を通知するレポートの作成 ・行動指針を掲げたポスターの作成	【予習】テキストの「行動指針を全従業員に告知する」の部分を読んでおくこと。 【復習】今回の内容を読んで復習すること。課題を提出すること。	4 時間
第４回	対面	セミナー開催をお客様に案内する ・セミナー一覧表の作成 ・セミナー開催を案内するレポートの作成	【予習】テキストの「セミナー開催をお客様に案内する」の部分を読んでおくこと。 【復習】今回の内容を読んで復習すること。課題を提出すること。	4 時間
第５回	対面	セミナー申込者に受講票を送付する ・申し込み者一覧表の作成 ・受講票の作成（差し込み印刷） ・宛名ラベル印刷	【予習】テキストの「セミナー申込者に受講票を送付する」の部分を読んでおくこと。 【復習】今回の内容を読んで復習すること。課題を提出すること。	4 時間
第６回	対面	Web サイトへのアクセス数を集計・分析する ・アクセス数の集計 ・アクセス数の分析	【予習】テキストの「Web サイトへのアクセス数を集計・分析する」の部分を読んでおくこと。 【復習】今回の内容を読んで復習すること。課題を提出すること。	4 時間
第７回	対面	社内研修結果を管理する ・全従業員の成績の集計 ・従業員別の個別分析	【予習】テキストの「社内研修結果を管理する」の部分を読んでおくこと。 【復習】今回の内容を読んで復習すること。課題を提出すること。	4 時間
第８回	対面	イベント売上実績を集計・分析する ・店舗別・商品カテゴリ別の売上集計表の作成 ・目標達成率の算出 ・商品カテゴリ別の売上構成比の比較	【予習】テキストの「イベント売上実績を集計・分析する」の部分を読んでおくこと。 【復習】今回の内容を読んで復習すること。課題を提出すること。	4 時間
第９回	対面	セミナー開催状況を管理する ・マスタ表の作成 ・開催セミナー一覧表の作成	【予習】テキストの「セミナー開催状況を管理する」の部分を読んでおくこと。 【復習】今回の内容を読んで復習すること。課題を提出すること。	4 時間
第１０回	対面	売上見込み・売上実績を集計する ・売上見込みの提出を依頼するレポートの作成 ・売上見込みの集計	【予習】テキストの「売上見込み・売上実績を集計する」の部分を読んでおくこと。 【復習】今回の内容を読んで復習すること。課題を提出すること。	4 時間
第１１回	対面	ポスターの作成	【復習】今回の内容を読んで復習すること。課題を提出すること。	4 時間
第１２回	対面	カタログ冊子の作成	【復習】今回の内容を読んで復習すること。課題を提出すること。	4 時間
第１３回	対面	プレゼンテーションの作成（１）	【復習】今回の内容を読んで復習すること。課題を提出すること。	4 時間
第１４回	対面	プレゼンテーションの作成（２）	【復習】今回の内容を読んで復習すること。課題を提出すること。	4 時間
第１５回	オンデマンド	【総まとめ】 イベント売上実績を集計・分析する ・店舗別の売上実績と売上目標の比較 セミナー開催状況を管理する ・セミナー別の集計 売上見込み・売上実績を集計する ・売上実績の集計	【復習】今回の内容を読んで復習すること。課題を提出すること。	4 時間

科目名	Exam Prep. I	開講年度	2025
担当者	土田　智佳子	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語運用能力の基礎を固め、TOEIC®L&R のスコアの向上を目指す。		
授業の目的及び概要	本科目は、英語の 4 技能を総合的に強化し、TOEIC® Listening & Reading（L&R）テストスコアを 400 点台へ向上させることを目的としています。授業では、TOEIC の頻出語彙の習得や重要文法事項の復習を通じて基礎力を固め、実際の TOEIC で出題される英文読解やリスニング練習を通じて実践的なスキルを向上させます。さらに、毎回の小テストや TOEIC 形式の問題演習、模擬試験を実施し、学習内容の定着状況を定期的に確認します。これにより、受講学生は自身の理解度を把握し、弱点を早期に補強することが可能です。TOEIC のスコアアップには継続的な努力が必要となるため、授業内で TOEIC 勉強法についても指導し、自律的な学習と継続的なスコア向上を支援します。		
履修条件・留意点	＜国際学部生＞入学時の英語プレイスメントテストまたは過去の TOEIC L&R スコアを基にクラス分 けを行い、事前登録を行います。習熟度別クラスとなっているため、事前登録がなく本項目の履修を希望する学生は、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。クラス選択について不明な点がある場合は、演習担当教員に相談してください。 ＜留学生＞ TOEIC スコアアップを目指す留学生の履修を推奨しています。クラス①は Advanced クラス(上級レベル)です。下記のスコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。 ＜経済・経営・法学部生＞ 各クラス数名程度の枠内で履修登録が可能です。本科目の履修を希望する学生は、下記のスコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択し履修してください。 ◆クラス分け：TOEIC スコア/英語プレイスメントテストの目安 クラス１：英語プレイスメントテスト 40 点以上 クラス２：英語プレイスメントテスト 35-39 点 クラス３：英語プレイスメントテスト 30-34 点 クラス４：英語プレイスメントテスト 30 点未満 クラス①(月 3)：留学生 Advanced クラス(TOEIC500 点以上又は英語プレイスメントテスト 40 点以上) クラス②(木 4)：留学生中級クラス(TOEIC500 点未満、英語プレイスメントテスト 40 点未満)		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①～④への取り組みを通じて、TOEIC L&R スコア４００点を目指す。 ①語彙力と文法力の強化 小テスト(TOEIC 頻出単語)において、毎回８０％以上の正答率を達成する。 ②TOEIC に対応したリスニング力の向上 TOEIC リスニングセクション（Part 1-4）全体を通じて、約 50%程度の主要な情報（登場人物の行動、場面の設定、話題の概要など）を理解することができる。 ③TOEIC に対応したリーディング力の向上 TOEIC で出題されるビジネス文書（広告や E メールなど）の形式に慣れ、て約 50%程度の要点（文章の趣旨や主要情報）を理解することができる。 ④自律的な学修 必ず目標スコアを達成するという強い目的意識を持ち、課題を確実にこなし、主体的かつ計画的に学習に取り組む。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストの結果及び課題の提出状況について各自へのフィードバックを行う。		

アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	本科目は習熟度別にクラス編成を行います。 クラスによりテキストが異なるので注意してください。 水１（クラス１～４共通）２冊 1. 書名：TOEIC L&R 200%活用模試、著者：アルク、出版社：アルク 出版年：2022（通年使用） 2. 書名：TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック 著者：ETS 出版社：IIBC 出版年：2019（通年使用） 月３（留学生クラス上級）１冊 TOEIC L&R TEST への総合アプローチ -Pre-Intermediate- 著者 吉塚 弘 ・Graham Skerritt 出版社：成美堂 出版年：2025 木４（留学生クラス中級）１冊 SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST 1 / 4th Edition GOAL500 著者：スタッフォード マーク 出版社：桐原書店 出版年：2017	ISBN	・TOEIC L&R 200%活用模試 9784757439795 ・TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック 9784906033560 ・TOEIC L&R TEST への総合アプローチ-Pre-Intermediate- 9784791973132 ・SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST 1 / 4th Edition GOAL500 9784342552625
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	総括テスト(7 月 TOEIC IP)：40%
この科目の受講にあたって	本科目の受講生は、TOEIC スコアの向上および自身が設定する目標の達成に向けて、毎週約 4 時間程度の自学修（授業内容の復習、小テスト、課題への取り組みおよび予習）を行うことが求められます。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	オリエンテーション・授業概要説明 ＊本科目は習熟度別クラスで構成され、クラスごとに使用するテキストや学修範囲が異なります。 そのため、具体的な授業計画や学修方法については、初回授業で各クラスに応じて説明します。 本シラバスに記載した内容は、あくまで全クラスに共通するおおよその概要となります。 本科目の目的・到達目標・評価方法・授業の進め方を説明します。TOEIC テストの概	事後学修： ・語彙、文法、読解、リスニングの予習（4 時間程度）	4 時間

		要や自学修の進め方を紹介し、受講生が全体像を把握できるようにします。		
第２回	対面	TOEIC イントロダクション・Part 1 導入 TOEIC L&R テストの全体構成（Part 1～Part 7）や出題形式を概説します。Listening Part 1（写真描写問題）の特性を理解し、写真中の人物や物体の基本的記述を学びます。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第３回	対面	Listening（Part 1）・Reading(Part 5 文法語彙問題) Listening Part 1 で求められる語彙・表現を強化し、素早く状況を把握する練習を行います。Reading Part 5 で扱われる基本的な文法・語彙問題を通じて、短い文中での適切な語句選択や品詞判別に慣れます。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第４回	対面	Listening（Part 2）・Reading(Part 5 文法・語彙問題) Listening Part 2（応答問題）のパターンを理解し、質問→答えを素早く結びつける練習を行います。Reading Part 5 で継続して基本文法項目（動詞時制、前置詞、接続詞など）を確認し、解答速度と正確性を向上させます。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第５回	対面	Listening（Part 2）・Reading(Part 5 文法・語彙問題) Listening Part 2 でより多様な質問形式や語彙に触れ、聞き取り範囲を拡大します。Reading Part 5 を繰り返し練習することで、英文処理スピードを向上させ、比較的難易度の高い語彙・文法問題にも対応できる力を養います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第６回	対面	Listening（Part 2）・Reading(Part 5 文法・語彙問題) Listening Part 2 の定着度を図り、正答率の向上を目指します。Reading Part 5 で引き続き文法・語彙力を鍛え、苦手分野の克服に集中します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間
第７回	対面	中間テスト・これまでの復習 中間テストを実施し、Listening Part および Reading Part での理解度を測定します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第８回	対面	Listening（Part 3）・Reading(Part 6) Listening Part 3（会話問題）の形式や特徴を理解し、会話の主題や意図を素早く把握する練習を行います。Reading Part 6（長文補文問題）で、文脈に適した語句や文を補完する力を養います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第９回	対面	Listening（Part 3）・Reading(Part 6) Listening Part 3 でより複雑な会話文を扱い、情報整理能力を高めます。Reading Part 6 を反復練習し、文章全体の流れを捉えて適切な選択肢を選べるようにします。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第１０回	対面	Listening（Part 4）・Reading(Part 7) Listening Part 4（説明文問題）でスピーチやアナウンスを理解し、主要な情報や要	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間

		点を的確に抽出する練習を行います。Reading Part 7（長文読解問題）の基本となる短いパッセージで要点把握や情報検索のスキルを学びます。		
第１１回	対面	Listening（Part 4）・Reading(Part 7) Listening Part 4を継続強化し、長めの話し言葉にも対応できる集中力・理解力を身につけます。Reading Part 7で複数の設問に対応しながら、情報を効率よく読み解く訓練を行います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2時間程度） 次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2時間程度）	4時間
第１２回	対面	Listening（Part 4）・Reading(Part 7)Listening Part 4で高度な内容に慣れ、要点と詳細を区別して理解する力を養います。Reading Part 7でより難易度の高い文書に取り組み、長文読解力・情報処理力を強化します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2時間程度）	4時間
第１３回	対面	期末テスト・これまでの復習 期末テストを実施し、Listening Part および Reading Part の総合力を測定します。テスト後に復習を行い自身の課題を整理します。	事後学修： 期末テストの復習・これまでの総復習（4時間程度）	4時間
第１４回	対面	総復習・まとめ 全パートを総合的に振り返り、TOEIC本番に向けた学習計画やテスト対策のポイントを再確認します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4時間程度）	4時間
第１５回	オンデマンド	オンデマンド授業（総復習・まとめ・フィードバック） オンデマンド形式で追加の復習動画や解説を提供し、各自で弱点補強や復習を行います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（4時間程度）	4時間

科目名	Exam Prep. I	開講年度	2025
担当者	三戸　康世	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語運用能力の基礎を固め、TOEIC®L&R のスコアの向上を目指す。		
授業の目的及び概要	本科目は、英語の 4 技能を総合的に強化し、TOEIC® Listening & Reading（L&R）テストスコアを 400 点台へ向上させることを目的としています。授業では、TOEIC の頻出語彙の習得や重要文法事項の復習を通じて基礎力を固め、実際の TOEIC で出題される英文読解やリスニング練習を通じて実践的なスキルを向上させます。さらに、毎回の小テストや TOEIC 形式の問題演習、模擬試験を実施し、学習内容の定着状況を定期的に確認します。これにより、受講学生は自身の理解度を把握し、弱点を早期に補強することが可能です。TOEIC のスコアアップには継続的な努力が必要となるため、授業内で TOEIC 勉強法についても指導し、自律的な学習と継続的なスコア向上を支援します。		
履修条件・留意点	＜国際学部生＞入学時の英語プレイスメントテストまたは過去の TOEIC L&R スコアを基にクラス分 けを行い、事前登録を行います。習熟度別クラスとなっているため、事前登録がなく本項目の履修を希望する学生は、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。クラス選択について不明な点がある場合は、演習担当教員に相談してください。 ＜留学生＞ TOEIC スコアアップを目指す留学生の履修を推奨しています。クラス①は Advanced クラス(上級レベル)です。下記のスコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。 ＜経済・経営・法学部生＞ 各クラス数名程度の枠内で履修登録が可能です。本科目の履修を希望する学生は、下記のスコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択し履修してください。 ◆クラス分け：TOEIC スコア/英語プレイスメントテストの目安 クラス１：英語プレイスメントテスト 40 点以上 クラス２：英語プレイスメントテスト 35-39 点 クラス３：英語プレイスメントテスト 30-34 点 クラス４：英語プレイスメントテスト 30 点未満 クラス①(月 3)：留学生 Advanced クラス(TOEIC500 点以上又は英語プレイスメントテスト 40 点以上) クラス②(木 4)：留学生中級クラス(TOEIC500 点未満、英語プレイスメントテスト 40 点未満)		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①～④への取り組みを通じて、TOEIC L&R スコア４００点を目指す。 ①語彙力と文法力の強化 小テスト(TOEIC 頻出単語)において、毎回８０％以上の正答率を達成する。 ②TOEIC に対応したリスニング力の向上 TOEIC リスニングセクション（Part 1-4）全体を通じて、約 50%程度の主要な情報（登場人物の行動、場面の設定、話題の概要など）を理解することができる。 ③TOEIC に対応したリーディング力の向上 TOEIC で出題されるビジネス文書（広告や E メールなど）の形式に慣れ、て約 50%程度の要点（文章の趣旨や主要情報）を理解することができる。 ④自律的な学修 必ず目標スコアを達成するという強い目的意識を持ち、課題を確実にこなし、主体的かつ計画的に学習に取り組む。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストの結果及び課題の提出状況について各自へのフィードバックを行う。		

アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、キャリアコンサルタントや米国 CCE 認定グローバルキャリア開発ファシリテーターの資格を有しており、これまでに海外の法律事務所で翻訳・通訳や国内の民間企業でキャリア教育コーディネーター等の業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	本科目は習熟度別にクラス編成を行います。 クラスによりテキストが異なるので注意してください。 水１（クラス１～４共通）２冊 1. 書名：TOEIC L&R 200%活用模試、著者：アルク、出版社：アルク 出版年：2022（通年使用） 2. 書名：TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック 著者：ETS 出版社：IIBC 出版年：2019（通年使用） 月３（留学生クラス上級）１冊 TOEIC L&R TEST への総合アプローチ-Pre-Intermediate- 著者 吉塚 弘 ・Graham Skerritt 出版社：成美堂 出版年：2025 木４（留学生クラス中級）１冊 SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST 1 / 4th Edition GOAL500 著者：スタッフォード マーク 出版社：桐原書店 出版年：2017	ISBN	・TOEIC L&R 200%活用模試 9784757439795 ・TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック 9784906033560 ・TOEIC L&R TEST への総合アプローチ-Pre-Intermediate- 9784791973132 ・SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST 1 / 4th Edition GOAL500 9784342552625
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	20
授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	総括テスト(7 月 TOEIC IP)：40%

この科目の受講にあたって	本科目の受講生は、TOEIC スコアの向上および自身が設定する目標の達成に向けて、毎週約 4 時間程度の自学修（授業内容の復習、小テスト、課題への取り組みおよび予習）を行うことが求められます。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	オリエンテーション・授業概要説明 ＊本科目は習熟度別クラスで構成され、クラスごとに使用するテキストや学修範囲が異なります。 そのため、具体的な授業計画や学修方法については、初回授業で各クラスに応じて説明します。 本シラバスに記載した内容は、あくまで全クラスに共通するおおよその概要となります。 本科目の目的・到達目標・評価方法・授業	事後学修： ・語彙、文法、読解、リスニングの予習（4 時間程度）	4 時間

		の進め方を説明します。TOEIC テストの概要や自学修の進め方を紹介し、受講生が全体像を把握できるようにします。		
第２回	対面	TOEIC イントロダクション・Part 1 導入 TOEIC L&R テストの全体構成（Part 1～Part 7）や出題形式を概説します。Listening Part 1（写真描写問題）の特性を理解し、写真中の人物や物体の基本的記述を学びます。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第３回	対面	Listening（Part 1）・Reading(Part 5 文法語彙問題) Listening Part 1 で求められる語彙・表現を強化し、素早く状況を把握する練習を行います。Reading Part 5 で扱われる基本的な文法・語彙問題を通じて、短い文中での適切な語句選択や品詞判別に慣れます。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第４回	対面	Listening（Part 2）・Reading(Part 5 文法・語彙問題) Listening Part 2（応答問題）のパターンを理解し、質問→答えを素早く結びつける練習を行います。Reading Part 5 で継続して基本文法項目（動詞時制、前置詞、接続詞など）を確認し、解答速度と正確性を向上させます。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第５回	対面	Listening（Part 2）・Reading(Part 5 文法・語彙問題) Listening Part 2 でより多様な質問形式や語彙に触れ、聞き取り範囲を拡大します。Reading Part 5 を繰り返し練習することで、英文処理スピードを向上させ、比較的難易度の高い語彙・文法問題にも対応できる力を養います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第６回	対面	Listening（Part 2）・Reading(Part 5 文法・語彙問題) Listening Part 2 の定着度を図り、正答率の向上を目指します。Reading Part 5 で引き続き文法・語彙力を鍛え、苦手分野の克服に集中します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間
第７回	対面	中間テスト・これまでの復習 中間テストを実施し、Listening Part および Reading Part での理解度を測定します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第８回	対面	Listening（Part 3）・Reading(Part 6) Listening Part 3（会話問題）の形式や特徴を理解し、会話の主題や意図を素早く把握する練習を行います。Reading Part 6（長文補文問題）で、文脈に適した語句や文を補完する力を養います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第９回	対面	Listening（Part 3）・Reading(Part 6) Listening Part 3 でより複雑な会話文を扱い、情報整理能力を高めます。Reading Part 6 を反復練習し、文章全体の流れを捉えて適切な選択肢を選べるようにします。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第１０回	対面	Listening（Part 4）・Reading(Part 7) Listening Part 4（説明文問題）でスピー	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間

		チやアナウンスを理解し、主要な情報や要点を的確に抽出する練習を行います。Reading Part 7（長文読解問題）の基本となる短いパッセージで要点把握や情報検索のスキルを学びます。		
第１１回	対面	Listening（Part 4）・Reading(Part 7) Listening Part 4 を継続強化し、長めの話し言葉にも対応できる集中力・理解力を身につけます。Reading Part 7 で複数の設問に対応しながら、情報を効率よく読み解く訓練を行います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） 次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第１２回	対面	Listening（Part 4）・Reading(Part 7)Listening Part 4 で高度な内容に慣れ、要点と詳細を区別して理解する力を養います。Reading Part 7 でより難易度の高い文書に取り組み、長文読解力・情報処理力を強化します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第１３回	対面	期末テスト・これまでの復習 期末テストを実施し、Listening Part および Reading Part の総合力を測定します。テスト後に復習を行い自身の課題を整理します。	事後学修： 期末テストの復習・これまでの総復習（4 時間程度）	4 時間
第１４回	対面	総復習・まとめ 全パートを総合的に振り返り、TOEIC 本番に向けた学習計画やテスト対策のポイントを再確認します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間
第１５回	オンデマンド	オンデマンド授業（総復習・まとめ・フィードバック） オンデマンド形式で追加の復習動画や解説を提供し、各自で弱点補強や復習を行います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（4 時間程度）	4 時間

科目名	Exam Prep. I	開講年度	2025
担当者	三戸　康世	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語運用能力の基礎を固め、TOEIC®L&R のスコアの向上を目指す。		
授業の目的及び概要	本科目は、英語の 4 技能を総合的に強化し、TOEIC® Listening & Reading（L&R）テストスコアを 400 点台へ向上させることを目的としています。授業では、TOEIC の頻出語彙の習得や重要文法事項の復習を通じて基礎力を固め、実際の TOEIC で出題される英文読解やリスニング練習を通じて実践的なスキルを向上させます。さらに、毎回の小テストや TOEIC 形式の問題演習、模擬試験を実施し、学習内容の定着状況を定期的に確認します。これにより、受講学生は自身の理解度を把握し、弱点を早期に補強することが可能です。TOEIC のスコアアップには継続的な努力が必要となるため、授業内で TOEIC 勉強法についても指導し、自律的な学習と継続的なスコア向上を支援します。		
履修条件・留意点	＜国際学部生＞入学時の英語プレイスメントテストまたは過去の TOEIC L&R スコアを基にクラス分 けを行い、事前登録を行います。習熟度別クラスとなっているため、事前登録がなく本項目の履修を希望する学生は、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。クラス選択について不明な点がある場合は、演習担当教員に相談してください。 ＜留学生＞ TOEIC スコアアップを目指す留学生の履修を推奨しています。クラス①は Advanced クラス(上級レベル)です。下記のスコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。 ＜経済・経営・法学部生＞ 各クラス数名程度の枠内で履修登録が可能です。本科目の履修を希望する学生は、下記のスコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択し履修してください。 ◆クラス分け：TOEIC スコア/英語プレイスメントテストの目安 クラス１：英語プレイスメントテスト 40 点以上 クラス２：英語プレイスメントテスト 35-39 点 クラス３：英語プレイスメントテスト 30-34 点 クラス４：英語プレイスメントテスト 30 点未満 クラス①(月 3)：留学生 Advanced クラス(TOEIC500 点以上又は英語プレイスメントテスト 40 点以上) クラス②(木 4)：留学生中級クラス(TOEIC500 点未満、英語プレイスメントテスト 40 点未満)		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①～④への取り組みを通じて、TOEIC L&R スコア４００点を目指す。 ①語彙力と文法力の強化 小テスト(TOEIC 頻出単語)において、毎回８０％以上の正答率を達成する。 ②TOEIC に対応したリスニング力の向上 TOEIC リスニングセクション（Part 1-4）全体を通じて、約 50%程度の主要な情報（登場人物の行動、場面の設定、話題の概要など）を理解することができる。 ③TOEIC に対応したリーディング力の向上 TOEIC で出題されるビジネス文書（広告や E メールなど）の形式に慣れ、て約 50%程度の要点（文章の趣旨や主要情報）を理解することができる。 ④自律的な学修 必ず目標スコアを達成するという強い目的意識を持ち、課題を確実にこなし、主体的かつ計画的に学習に取り組む。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストの結果及び課題の提出状況について各自へのフィードバックを行う。		

アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、キャリアコンサルタントや米国 CCE 認定グローバルキャリア開発ファシリテーターの資格を有しており、これまでに海外の法律事務所で翻訳・通訳や国内の民間企業でキャリア教育コーディネーター等の業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	本科目は習熟度別にクラス編成を行います。 クラスによりテキストが異なるので注意してください。 水１（クラス１～４共通）２冊 1. 書名：TOEIC L&R 200%活用模試、著者：アルク、出版社：アルク 出版年：2022（通年使用） 2. 書名：TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック 著者：ETS 出版社：IIBC 出版年：2019（通年使用） 月３（留学生クラス上級）１冊 TOEIC L&R TEST への総合アプローチ -Pre-Intermediate- 著者 吉塚 弘 ・Graham Skerritt 出版社：成美堂 出版年：2025 木４（留学生クラス中級）１冊 SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST 1 / 4th Edition GOAL500 著者：スタッフォード マーク 出版社：桐原書店 出版年：2017	ISBN	・TOEIC L&R 200%活用模試 9784757439795 ・TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック 9784906033560 ・TOEIC L&R TEST への総合アプローチ -Pre-Intermediate- 9784791973132 ・SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST 1 / 4th Edition GOAL500 9784342552625
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	総括テスト(7 月 TOEIC IP)：40%
この科目の受講にあたって	本科目の受講生は、TOEIC スコアの向上および自身が設定する目標の達成に向けて、毎週約 4 時間程度の自学修（授業内容の復習、小テスト、課題への取り組みおよび予習）を行うことが求められます。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	オリエンテーション・授業概要説明 ＊本科目は習熟度別クラスで構成され、クラスごとに使用するテキストや学修範囲が異なります。 そのため、具体的な授業計画や学修方法については、初回授業で各クラスに応じて説明します。 本シラバスに記載した内容は、あくまで全クラスに共通するおおよその概要となります。 本科目の目的・到達目標・評価方法・授業	事後学修： ・語彙、文法、読解、リスニングの予習（4 時間程度）	4 時間

		の進め方を説明します。TOEIC テストの概要や自学修の進め方を紹介し、受講生が全体像を把握できるようにします。		
第２回	対面	TOEIC イントロダクション・Part 1 導入 TOEIC L&R テストの全体構成（Part 1～Part 7）や出題形式を概説します。Listening Part 1（写真描写問題）の特性を理解し、写真中の人物や物体の基本的記述を学びます。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第３回	対面	Listening（Part 1）・Reading(Part 5 文法語彙問題) Listening Part 1 で求められる語彙・表現を強化し、素早く状況を把握する練習を行います。Reading Part 5 で扱われる基本的な文法・語彙問題を通じて、短い文中での適切な語句選択や品詞判別に慣れます。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第４回	対面	Listening（Part 2）・Reading(Part 5 文法・語彙問題) Listening Part 2（応答問題）のパターンを理解し、質問→答えを素早く結びつける練習を行います。Reading Part 5 で継続して基本文法項目（動詞時制、前置詞、接続詞など）を確認し、解答速度と正確性を向上させます。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第５回	対面	Listening（Part 2）・Reading(Part 5 文法・語彙問題) Listening Part 2 でより多様な質問形式や語彙に触れ、聞き取り範囲を拡大します。Reading Part 5 を繰り返し練習することで、英文処理スピードを向上させ、比較的難易度の高い語彙・文法問題にも対応できる力を養います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第６回	対面	Listening（Part 2）・Reading(Part 5 文法・語彙問題) Listening Part 2 の定着度を図り、正答率の向上を目指します。Reading Part 5 で引き続き文法・語彙力を鍛え、苦手分野の克服に集中します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間
第７回	対面	中間テスト・これまでの復習 中間テストを実施し、Listening Part および Reading Part での理解度を測定します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第８回	対面	Listening（Part 3）・Reading(Part 6) Listening Part 3（会話問題）の形式や特徴を理解し、会話の主題や意図を素早く把握する練習を行います。Reading Part 6（長文補文問題）で、文脈に適した語句や文を補完する力を養います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第９回	対面	Listening（Part 3）・Reading(Part 6) Listening Part 3 でより複雑な会話文を扱い、情報整理能力を高めます。Reading Part 6 を反復練習し、文章全体の流れを捉えて適切な選択肢を選べるようにします。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第１０回	対面	Listening（Part 4）・Reading(Part 7) Listening Part 4（説明文問題）でスピー	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間

		チやアナウンスを理解し、主要な情報や要点を的確に抽出する練習を行います。Reading Part 7（長文読解問題）の基本となる短いパッセージで要点把握や情報検索のスキルを学びます。		
第１１回	対面	Listening（Part 4）・Reading(Part 7) Listening Part 4を継続強化し、長めの話し言葉にも対応できる集中力・理解力を身につけます。Reading Part 7で複数の設問に対応しながら、情報を効率よく読み解く訓練を行います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2時間程度） 次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2時間程度）	4時間
第１２回	対面	Listening（Part 4）・Reading(Part 7)Listening Part 4で高度な内容に慣れ、要点と詳細を区別して理解する力を養います。Reading Part 7でより難易度の高い文書に取り組み、長文読解力・情報処理力を強化します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2時間程度）	4時間
第１３回	対面	期末テスト・これまでの復習 期末テストを実施し、Listening Part および Reading Part の総合力を測定します。テスト後に復習を行い自身の課題を整理します。	事後学修： 期末テストの復習・これまでの総復習（4時間程度）	4時間
第１４回	対面	総復習・まとめ 全パートを総合的に振り返り、TOEIC本番に向けた学習計画やテスト対策のポイントを再確認します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4時間程度）	4時間
第１５回	オンデマンド	オンデマンド授業（総復習・まとめ・フィードバック） オンデマンド形式で追加の復習動画や解説を提供し、各自で弱点補強や復習を行います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（4時間程度）	4時間

科目名	Exam Prep. I	開講年度	2025
担当者	三戸　康世	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語運用能力の基礎を固め、TOEIC®L&R のスコアの向上を目指す。		
授業の目的及び概要	本科目は、英語の 4 技能を総合的に強化し、TOEIC® Listening & Reading（L&R）テストスコアを 400 点台へ向上させることを目的としています。授業では、TOEIC の頻出語彙の習得や重要文法事項の復習を通じて基礎力を固め、実際の TOEIC で出題される英文読解やリスニング練習を通じて実践的なスキルを向上させます。さらに、毎回の小テストや TOEIC 形式の問題演習、模擬試験を実施し、学習内容の定着状況を定期的に確認します。これにより、受講学生は自身の理解度を把握し、弱点を早期に補強することが可能です。TOEIC のスコアアップには継続的な努力が必要となるため、授業内で TOEIC 勉強法についても指導し、自律的な学習と継続的なスコア向上を支援します。		
履修条件・留意点	＜国際学部生＞入学時の英語プレイスメントテストまたは過去の TOEIC L&R スコアを基にクラス分 けを行い、事前登録を行います。習熟度別クラスとなっているため、事前登録がなく本項目の履修を希望する学生は、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。クラス選択について不明な点がある場合は、演習担当教員に相談してください。 ＜留学生＞ TOEIC スコアアップを目指す留学生の履修を推奨しています。クラス①は Advanced クラス(上級レベル)です。下記のスコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。 ＜経済・経営・法学部生＞ 各クラス数名程度の枠内で履修登録が可能です。本科目の履修を希望する学生は、下記のスコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択し履修してください。 ◆クラス分け：TOEIC スコア/英語プレイスメントテストの目安 クラス１：英語プレイスメントテスト 40 点以上 クラス２：英語プレイスメントテスト 35-39 点 クラス３：英語プレイスメントテスト 30-34 点 クラス４：英語プレイスメントテスト 30 点未満 クラス①(月 3)：留学生 Advanced クラス(TOEIC500 点以上又は英語プレイスメントテスト 40 点以上) クラス②(木 4)：留学生中級クラス(TOEIC500 点未満、英語プレイスメントテスト 40 点未満)		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①～④への取り組みを通じて、TOEIC L&R スコア４００点を目指す。 ①語彙力と文法力の強化 小テスト(TOEIC 頻出単語)において、毎回８０％以上の正答率を達成する。 ②TOEIC に対応したリスニング力の向上 TOEIC リスニングセクション（Part 1-4）全体を通じて、約 50%程度の主要な情報（登場人物の行動、場面の設定、話題の概要など）を理解することができる。 ③TOEIC に対応したリーディング力の向上 TOEIC で出題されるビジネス文書（広告や E メールなど）の形式に慣れ、て約 50%程度の要点（文章の趣旨や主要情報）を理解することができる。 ④自律的な学修 必ず目標スコアを達成するという強い目的意識を持ち、課題を確実にこなし、主体的かつ計画的に学習に取り組む。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストの結果及び課題の提出状況について各自へのフィードバックを行う。		

アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、キャリアコンサルタントや米国 CCE 認定グローバルキャリア開発ファシリテーターの資格を有しており、これまでに海外の法律事務所で翻訳・通訳や国内の民間企業でキャリア教育コーディネーター等の業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	本科目は習熟度別にクラス編成を行います。 クラスによりテキストが異なるので注意してください。 水１（クラス１～４共通）２冊 1. 書名：TOEIC L&R 200%活用模試、著者：アルク、出版社：アルク 出版年：2022（通年使用） 2. 書名：TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック 著者：ETS 出版社：IIBC 出版年：2019（通年使用） 月３（留学生クラス上級）１冊 TOEIC L&R TEST への総合アプローチ-Pre-Intermediate- 著者 吉塚 弘 ・Graham Skerritt 出版社：成美堂 出版年：2025 木４（留学生クラス中級）１冊 SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST 1 / 4th Edition GOAL500 著者：スタッフォード マーク 出版社：桐原書店 出版年：2017	ISBN	・TOEIC L&R 200%活用模試 9784757439795 ・TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック 9784906033560 ・TOEIC L&R TEST への総合アプローチ-Pre-Intermediate- 9784791973132 ・SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST 1 / 4th Edition GOAL500 9784342552625
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	20
授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	総括テスト(7 月 TOEIC IP)：40%

この科目の受講にあたって	本科目の受講生は、TOEIC スコアの向上および自身が設定する目標の達成に向けて、毎週約 4 時間程度の自学修（授業内容の復習、小テスト、課題への取り組みおよび予習）を行うことが求められます。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	オリエンテーション・授業概要説明 ＊本科目は習熟度別クラスで構成され、クラスごとに使用するテキストや学修範囲が異なります。 そのため、具体的な授業計画や学修方法については、初回授業で各クラスに応じて説明します。 本シラバスに記載した内容は、あくまで全クラスに共通するおおよその概要となります。 本科目の目的・到達目標・評価方法・授業	事後学修： ・語彙、文法、読解、リスニングの予習（4 時間程度）	4 時間

		の進め方を説明します。TOEIC テストの概要や自学修の進め方を紹介し、受講生が全体像を把握できるようにします。		
第２回	対面	TOEIC イントロダクション・Part 1 導入 TOEIC L&R テストの全体構成（Part 1～Part 7）や出題形式を概説します。Listening Part 1（写真描写問題）の特性を理解し、写真中の人物や物体の基本的記述を学びます。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第３回	対面	Listening（Part 1）・Reading(Part 5 文法語彙問題) Listening Part 1 で求められる語彙・表現を強化し、素早く状況を把握する練習を行います。Reading Part 5 で扱われる基本的な文法・語彙問題を通じて、短い文中での適切な語句選択や品詞判別に慣れます。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第４回	対面	Listening（Part 2）・Reading(Part 5 文法・語彙問題) Listening Part 2（応答問題）のパターンを理解し、質問→答えを素早く結びつける練習を行います。Reading Part 5 で継続して基本文法項目（動詞時制、前置詞、接続詞など）を確認し、解答速度と正確性を向上させます。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第５回	対面	Listening（Part 2）・Reading(Part 5 文法・語彙問題) Listening Part 2 でより多様な質問形式や語彙に触れ、聞き取り範囲を拡大します。Reading Part 5 を繰り返し練習することで、英文処理スピードを向上させ、比較的難易度の高い語彙・文法問題にも対応できる力を養います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第６回	対面	Listening（Part 2）・Reading(Part 5 文法・語彙問題) Listening Part 2 の定着度を図り、正答率の向上を目指します。Reading Part 5 で引き続き文法・語彙力を鍛え、苦手分野の克服に集中します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間
第７回	対面	中間テスト・これまでの復習 中間テストを実施し、Listening Part および Reading Part での理解度を測定します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第８回	対面	Listening（Part 3）・Reading(Part 6) Listening Part 3（会話問題）の形式や特徴を理解し、会話の主題や意図を素早く把握する練習を行います。Reading Part 6（長文補文問題）で、文脈に適した語句や文を補完する力を養います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第９回	対面	Listening（Part 3）・Reading(Part 6) Listening Part 3 でより複雑な会話文を扱い、情報整理能力を高めます。Reading Part 6 を反復練習し、文章全体の流れを捉えて適切な選択肢を選べるようにします。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第１０回	対面	Listening（Part 4）・Reading(Part 7) Listening Part 4（説明文問題）でスピー	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間

		チやアナウンスを理解し、主要な情報や要点を的確に抽出する練習を行います。Reading Part 7（長文読解問題）の基本となる短いパッセージで要点把握や情報検索のスキルを学びます。		
第１１回	対面	Listening（Part 4）・Reading(Part 7) Listening Part 4 を継続強化し、長めの話し言葉にも対応できる集中力・理解力を身につけます。Reading Part 7 で複数の設問に対応しながら、情報を効率よく読み解く訓練を行います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） 次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第１２回	対面	Listening（Part 4）・Reading(Part 7)Listening Part 4 で高度な内容に慣れ、要点と詳細を区別して理解する力を養います。Reading Part 7 でより難易度の高い文書に取り組み、長文読解力・情報処理力を強化します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第１３回	対面	期末テスト・これまでの復習 期末テストを実施し、Listening Part および Reading Part の総合力を測定します。テスト後に復習を行い自身の課題を整理します。	事後学修： 期末テストの復習・これまでの総復習（4 時間程度）	4 時間
第１４回	対面	総復習・まとめ 全パートを総合的に振り返り、TOEIC 本番に向けた学習計画やテスト対策のポイントを再確認します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間
第１５回	オンデマンド	オンデマンド授業（総復習・まとめ・フィードバック） オンデマンド形式で追加の復習動画や解説を提供し、各自で弱点補強や復習を行います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（4 時間程度）	4 時間

科目名	Exam Prep. I	開講年度	2025
担当者	三戸　康世	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語運用能力の基礎を固め、TOEIC®L&R のスコアの向上を目指す。		
授業の目的及び概要	本科目は、英語の 4 技能を総合的に強化し、TOEIC® Listening & Reading（L&R）テストスコアを 400 点台へ向上させることを目的としています。授業では、TOEIC の頻出語彙の習得や重要文法事項の復習を通じて基礎力を固め、実際の TOEIC で出題される英文読解やリスニング練習を通じて実践的なスキルを向上させます。さらに、毎回の小テストや TOEIC 形式の問題演習、模擬試験を実施し、学習内容の定着状況を定期的に確認します。これにより、受講学生は自身の理解度を把握し、弱点を早期に補強することが可能です。TOEIC のスコアアップには継続的な努力が必要となるため、授業内で TOEIC 勉強法についても指導し、自律的な学習と継続的なスコア向上を支援します。		
履修条件・留意点	＜国際学部生＞入学時の英語プレイスメントテストまたは過去の TOEIC L&R スコアを基にクラス分 けを行い、事前登録を行います。習熟度別クラスとなっているため、事前登録がなく本項目の履修を希望する学生は、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。クラス選択について不明な点がある場合は、演習担当教員に相談してください。 ＜留学生＞ TOEIC スコアアップを目指す留学生の履修を推奨しています。クラス①は Advanced クラス(上級レベル)です。下記のスコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。 ＜経済・経営・法学部生＞ 各クラス数名程度の枠内で履修登録が可能です。本科目の履修を希望する学生は、下記のスコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択し履修してください。 ◆クラス分け：TOEIC スコア/英語プレイスメントテストの目安 クラス１：英語プレイスメントテスト 40 点以上 クラス２：英語プレイスメントテスト 35-39 点 クラス３：英語プレイスメントテスト 30-34 点 クラス４：英語プレイスメントテスト 30 点未満 クラス①(月 3)：留学生 Advanced クラス(TOEIC500 点以上又は英語プレイスメントテスト 40 点以上) クラス②(木 4)：留学生中級クラス(TOEIC500 点未満、英語プレイスメントテスト 40 点未満)		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①～④への取り組みを通じて、TOEIC L&R スコア４００点を目指す。 ①語彙力と文法力の強化 小テスト(TOEIC 頻出単語)において、毎回８０％以上の正答率を達成する。 ②TOEIC に対応したリスニング力の向上 TOEIC リスニングセクション（Part 1-4）全体を通じて、約 50%程度の主要な情報（登場人物の行動、場面の設定、話題の概要など）を理解することができる。 ③TOEIC に対応したリーディング力の向上 TOEIC で出題されるビジネス文書（広告や E メールなど）の形式に慣れ、て約 50%程度の要点（文章の趣旨や主要情報）を理解することができる。 ④自律的な学修 必ず目標スコアを達成するという強い目的意識を持ち、課題を確実にこなし、主体的かつ計画的に学習に取り組む。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストの結果及び課題の提出状況について各自へのフィードバックを行う。		

アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、キャリアコンサルタントや米国 CCE 認定グローバルキャリア開発ファシリテーターの資格を有しており、これまでに海外の法律事務所で翻訳・通訳や国内の民間企業でキャリア教育コーディネーター等の業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	本科目は習熟度別にクラス編成を行います。 クラスによりテキストが異なるので注意してください。 水１（クラス１～４共通）２冊 1. 書名：TOEIC L&R 200%活用模試、著者：アルク、出版社：アルク 出版年：2022（通年使用） 2. 書名：TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック 著者：ETS 出版社：IIBC 出版年：2019（通年使用） 月３（留学生クラス上級）１冊 TOEIC L&R TEST への総合アプローチ -Pre-Intermediate- 著者 吉塚 弘 ・Graham Skerritt 出版社：成美堂 出版年：2025 木４（留学生クラス中級）１冊 SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST 1 / 4th Edition GOAL500 著者：スタッフォード マーク 出版社：桐原書店 出版年：2017	ISBN	・TOEIC L&R 200%活用模試 9784757439795 ・TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック 9784906033560 ・TOEIC L&R TEST への総合アプローチ -Pre-Intermediate- 9784791973132 ・SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST 1 / 4th Edition GOAL500 9784342552625
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	総括テスト(7 月 TOEIC IP)：40%
この科目の受講にあたって	本科目の受講生は、TOEIC スコアの向上および自身が設定する目標の達成に向けて、毎週約 4 時間程度の自学修（授業内容の復習、小テスト、課題への取り組みおよび予習）を行うことが求められます。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	オリエンテーション・授業概要説明 ＊本科目は習熟度別クラスで構成され、クラスごとに使用するテキストや学修範囲が異なります。 そのため、具体的な授業計画や学修方法については、初回授業で各クラスに応じて説明します。 本シラバスに記載した内容は、あくまで全クラスに共通するおおよその概要となります。 本科目の目的・到達目標・評価方法・授業	事後学修： ・語彙、文法、読解、リスニングの予習（4 時間程度）	4 時間

		の進め方を説明します。TOEIC テストの概要や自学修の進め方を紹介し、受講生が全体像を把握できるようにします。		
第２回	対面	TOEIC イントロダクション・Part 1 導入 TOEIC L&R テストの全体構成（Part 1～Part 7）や出題形式を概説します。Listening Part 1（写真描写問題）の特性を理解し、写真中の人物や物体の基本的記述を学びます。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第３回	対面	Listening（Part 1）・Reading(Part 5 文法語彙問題） Listening Part 1 で求められる語彙・表現を強化し、素早く状況を把握する練習を行います。Reading Part 5 で扱われる基本的な文法・語彙問題を通じて、短い文中での適切な語句選択や品詞判別に慣れます。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第４回	対面	Listening（Part 2）・Reading(Part 5 文法・語彙問題） Listening Part 2（応答問題）のパターンを理解し、質問→答えを素早く結びつける練習を行います。Reading Part 5 で継続して基本文法項目（動詞時制、前置詞、接続詞など）を確認し、解答速度と正確性を向上させます。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第５回	対面	Listening（Part 2）・Reading(Part 5 文法・語彙問題） Listening Part 2 でより多様な質問形式や語彙に触れ、聞き取り範囲を拡大します。Reading Part 5 を繰り返し練習することで、英文処理スピードを向上させ、比較的難易度の高い語彙・文法問題にも対応できる力を養います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第６回	対面	Listening（Part 2）・Reading(Part 5 文法・語彙問題） Listening Part 2 の定着度を図り、正答率の向上を目指します。Reading Part 5 で引き続き文法・語彙力を鍛え、苦手分野の克服に集中します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間
第７回	対面	中間テスト・これまでの復習 中間テストを実施し、Listening Part および Reading Part での理解度を測定します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第８回	対面	Listening（Part 3）・Reading(Part 6） Listening Part 3（会話問題）の形式や特徴を理解し、会話の主題や意図を素早く把握する練習を行います。Reading Part 6（長文補文問題）で、文脈に適した語句や文を補完する力を養います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第９回	対面	Listening（Part 3）・Reading(Part 6） Listening Part 3 でより複雑な会話文を扱い、情報整理能力を高めます。Reading Part 6 を反復練習し、文章全体の流れを捉えて適切な選択肢を選べるようにします。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第１０回	対面	Listening（Part 4）・Reading(Part 7） Listening Part 4（説明文問題）でスピー	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間

		チやアナウンスを理解し、主要な情報や要点を的確に抽出する練習を行います。Reading Part 7（長文読解問題）の基本となる短いパッセージで要点把握や情報検索のスキルを学びます。		
第１１回	対面	Listening（Part 4）・Reading(Part 7) Listening Part 4 を継続強化し、長めの話し言葉にも対応できる集中力・理解力を身につけます。Reading Part 7 で複数の設問に対応しながら、情報を効率よく読み解く訓練を行います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） 次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第１２回	対面	Listening（Part 4）・Reading(Part 7)Listening Part 4 で高度な内容に慣れ、要点と詳細を区別して理解する力を養います。Reading Part 7 でより難易度の高い文書に取り組み、長文読解力・情報処理力を強化します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第１３回	対面	期末テスト・これまでの復習 期末テストを実施し、Listening Part および Reading Part の総合力を測定します。テスト後に復習を行い自身の課題を整理します。	事後学修： 期末テストの復習・これまでの総復習（4 時間程度）	4 時間
第１４回	対面	総復習・まとめ 全パートを総合的に振り返り、TOEIC 本番に向けた学習計画やテスト対策のポイントを再確認します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間
第１５回	オンデマンド	オンデマンド授業（総復習・まとめ・フィードバック） オンデマンド形式で追加の復習動画や解説を提供し、各自で弱点補強や復習を行います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（4 時間程度）	4 時間

科目名	Exam Prep. I	開講年度	2025
担当者	ウェザビ・マーティン	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語運用能力の基礎を固め、TOEIC®L&R のスコアの向上を目指す。		
授業の目的及び概要	本科目は、英語の 4 技能を総合的に強化し、TOEIC® Listening & Reading（L&R）テストスコアを 400 点台へ向上させることを目的としています。授業では、TOEIC の頻出語彙の習得や重要文法事項の復習を通じて基礎力を固め、実際の TOEIC で出題される英文読解やリスニング練習を通じて実践的なスキルを向上させます。さらに、毎回の小テストや TOEIC 形式の問題演習、模擬試験を実施し、学習内容の定着状況を定期的に確認します。これにより、受講学生は自身の理解度を把握し、弱点を早期に補強することが可能です。TOEIC のスコアアップには継続的な努力が必要となるため、授業内で TOEIC 勉強法についても指導し、自律的な学習と継続的なスコア向上を支援します。		
履修条件・留意点	＜国際学部生＞入学時の英語プレイスメントテストまたは過去の TOEIC L&R スコアを基にクラス分 けを行い、事前登録を行います。習熟度別クラスとなっているため、事前登録がなく本項目の履修を希望する学生は、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。クラス選択について不明な点がある場合は、演習担当教員に相談してください。 ＜留学生＞ TOEIC スコアアップを目指す留学生の履修を推奨しています。クラス①は Advanced クラス(上級レベル)です。下記のスコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。 ＜経済・経営・法学部生＞ 各クラス数名程度の枠内で履修登録が可能です。本科目の履修を希望する学生は、下記のスコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択し履修してください。 ◆クラス分け：TOEIC スコア/英語プレイスメントテストの目安 クラス１：英語プレイスメントテスト 40 点以上 クラス２：英語プレイスメントテスト 35-39 点 クラス３：英語プレイスメントテスト 30-34 点 クラス４：英語プレイスメントテスト 30 点未満 クラス①(月 3)：留学生 Advanced クラス(TOEIC500 点以上又は英語プレイスメントテスト 40 点以上) クラス②(木 4)：留学生中級クラス(TOEIC500 点未満、英語プレイスメントテスト 40 点未満)		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①～④への取り組みを通じて、TOEIC L&R スコア４００点を目指す。 ①語彙力と文法力の強化 小テスト(TOEIC 頻出単語)において、毎回８０％以上の正答率を達成する。 ②TOEIC に対応したリスニング力の向上 TOEIC リスニングセクション（Part 1-4）全体を通じて、約 50%程度の主要な情報（登場人物の行動、場面の設定、話題の概要など）を理解することができる。 ③TOEIC に対応したリーディング力の向上 TOEIC で出題されるビジネス文書（広告や E メールなど）の形式に慣れ、て約 50%程度の要点（文章の趣旨や主要情報）を理解することができる。 ④自律的な学修 必ず目標スコアを達成するという強い目的意識を持ち、課題を確実にこなし、主体的かつ計画的に学習に取り組む。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストの結果及び課題の提出状況について各自へのフィードバックを行う。		

アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	本科目は習熟度別にクラス編成を行います。 クラスによりテキストが異なるので注意してください。 水１（クラス１～４共通）２冊 1. 書名：TOEIC L&R 200%活用模試、著者：アルク、出版社：アルク 出版年：2022（通年使用） 2. 書名：TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック 著者：ETS 出版社：IIBC 出版年：2019（通年使用） 月３（留学生クラス上級）１冊 TOEIC L&R TEST への総合アプローチ -Pre-Intermediate- 著者 吉塚 弘 ・Graham Skerritt 出版社：成美堂 出版年：2025 木４（留学生クラス中級）１冊 SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST 1 / 4th Edition GOAL500 著者：スタッフォード マーク 出版社：桐原書店 出版年：2017	ISBN	・TOEIC L&R 200%活用模試 9784757439795 ・TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック 9784906033560 ・TOEIC L&R TEST への総合アプローチ-Pre-Intermediate- 9784791973132 ・SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST 1 / 4th Edition GOAL500 9784342552625
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	総括テスト(7 月 TOEIC IP)：40%
この科目の受講にあたって	本科目の受講生は、TOEIC スコアの向上および自身が設定する目標の達成に向けて、毎週約 4 時間程度の自学修（授業内容の復習、小テスト、課題への取り組みおよび予習）を行うことが求められます。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	オリエンテーション・授業概要説明 ＊本科目は習熟度別クラスで構成され、クラスごとに使用するテキストや学修範囲が異なります。 そのため、具体的な授業計画や学修方法については、初回授業で各クラスに応じて説明します。 本シラバスに記載した内容は、あくまで全クラスに共通するおおよその概要となります。 本科目の目的・到達目標・評価方法・授業の進め方を説明します。TOEIC テストの概	事後学修： ・語彙、文法、読解、リスニングの予習（4 時間程度）	4 時間

		要や自学修の進め方を紹介し、受講生が全体像を把握できるようにします。		
第２回	対面	TOEIC イントロダクション・Part 1 導入 TOEIC L&R テストの全体構成（Part 1～Part 7）や出題形式を概説します。Listening Part 1（写真描写問題）の特性を理解し、写真中の人物や物体の基本的記述を学びます。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第３回	対面	Listening（Part 1）・Reading(Part 5 文法語彙問題) Listening Part 1 で求められる語彙・表現を強化し、素早く状況を把握する練習を行います。Reading Part 5 で扱われる基本的な文法・語彙問題を通じて、短い文中での適切な語句選択や品詞判別に慣れます。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第４回	対面	Listening（Part 2）・Reading(Part 5 文法・語彙問題) Listening Part 2（応答問題）のパターンを理解し、質問→答えを素早く結びつける練習を行います。Reading Part 5 で継続して基本文法項目（動詞時制、前置詞、接続詞など）を確認し、解答速度と正確性を向上させます。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第５回	対面	Listening（Part 2）・Reading(Part 5 文法・語彙問題) Listening Part 2 でより多様な質問形式や語彙に触れ、聞き取り範囲を拡大します。Reading Part 5 を繰り返し練習することで、英文処理スピードを向上させ、比較的難易度の高い語彙・文法問題にも対応できる力を養います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第６回	対面	Listening（Part 2）・Reading(Part 5 文法・語彙問題) Listening Part 2 の定着度を図り、正答率の向上を目指します。Reading Part 5 で引き続き文法・語彙力を鍛え、苦手分野の克服に集中します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間
第７回	対面	中間テスト・これまでの復習 中間テストを実施し、Listening Part および Reading Part での理解度を測定します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第８回	対面	Listening（Part 3）・Reading(Part 6) Listening Part 3（会話問題）の形式や特徴を理解し、会話の主題や意図を素早く把握する練習を行います。Reading Part 6（長文補文問題）で、文脈に適した語句や文を補完する力を養います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第９回	対面	Listening（Part 3）・Reading(Part 6) Listening Part 3 でより複雑な会話文を扱い、情報整理能力を高めます。Reading Part 6 を反復練習し、文章全体の流れを捉えて適切な選択肢を選べるようにします。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第１０回	対面	Listening（Part 4）・Reading(Part 7) Listening Part 4（説明文問題）でスピーチやアナウンスを理解し、主要な情報や要	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間

		点を的確に抽出する練習を行います。Reading Part 7（長文読解問題）の基本となる短いパッセージで要点把握や情報検索のスキルを学びます。		
第１１回	対面	Listening（Part 4）・Reading(Part 7) Listening Part 4 を継続強化し、長めの話し言葉にも対応できる集中力・理解力を身につけます。Reading Part 7 で複数の設問に対応しながら、情報を効率よく読み解く訓練を行います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） 次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第１２回	対面	Listening（Part 4）・Reading(Part 7)Listening Part 4 で高度な内容に慣れ、要点と詳細を区別して理解する力を養います。Reading Part 7 でより難易度の高い文書に取り組み、長文読解力・情報処理力を強化します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第１３回	対面	期末テスト・これまでの復習 期末テストを実施し、Listening Part および Reading Part の総合力を測定します。テスト後に復習を行い自身の課題を整理します。	事後学修： 期末テストの復習・これまでの総復習（4 時間程度）	4 時間
第１４回	対面	総復習・まとめ 全パートを総合的に振り返り、TOEIC 本番に向けた学習計画やテスト対策のポイントを再確認します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間
第１５回	オンデマンド	オンデマンド授業（総復習・まとめ・フィードバック） オンデマンド形式で追加の復習動画や解説を提供し、各自で弱点補強や復習を行います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（4 時間程度）	4 時間

科目名	Exam Prep. Ⅱ	開講年度	2025
担当者	土田　智佳子	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語運用能力の基礎を固め、TOEIC®L&R のスコアの向上を目指す。		
授業の目的及び概要	本科目は、英語の 4 技能を総合的に強化し、TOEIC® Listening & Reading（L&R）テストスコアを 400 点台へ向上させることを目的としています。授業では、TOEIC の頻出語彙の習得や重要文法事項の復習を通じて基礎力を固め、実際の TOEIC で出題される英文読解やリスニング練習を通じて実践的なスキルを向上させます。さらに、毎回の小テストや TOEIC 形式の問題演習、模擬試験を実施し、学習内容の定着状況を定期的に確認します。これにより、受講学生は自身の理解度を把握し、弱点を早期に補強することが可能です。TOEIC のスコアアップには継続的な努力が必要となるため、授業内で TOEIC 勉強法についても指導し、自律的な学習と継続的なスコア向上を支援します。		
履修条件・留意点	＜国際学部生＞入学時の英語プレイスメントテストまたは過去の TOEIC L&R スコアを基にクラス分 けを行い、事前登録を行います。習熟度別クラスとなっているため、事前登録がなく本項目の履修を希望する学生は、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。クラス選択について不明な点がある場合は、演習担当教員に相談してください。 ＜留学生＞ TOEIC スコアアップを目指す留学生の履修を推奨しています。クラス①は Advanced クラス(上級レベル)です。下記のスコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。 ＜経済・経営・法学部生＞ 各クラス数名程度の枠内で履修登録が可能です。本科目の履修を希望する学生は、下記のスコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択し履修してください。 ◆クラス分け：TOEIC スコア/英語プレイスメントテストの目安 クラス１：英語プレイスメントテスト 40 点以上 クラス２：英語プレイスメントテスト 35-39 点 クラス３：英語プレイスメントテスト 30-34 点 クラス４：英語プレイスメントテスト 30 点未満 クラス①(月 3)：留学生 Advanced クラス(TOEIC500 点以上又は英語プレイスメントテスト 40 点以上) クラス②(木 4)：留学生中級クラス(TOEIC500 点未満、英語プレイスメントテスト 40 点未満)		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①～④への取り組みを通じて、TOEIC L&R スコア４００点を目指す。 ①語彙力と文法力の強化 小テスト(TOEIC 頻出単語)において、毎回８０％以上の正答率を達成する。 ②TOEIC に対応したリスニング力の向上 TOEIC リスニングセクション（Part 1-4）全体を通じて、約 50%程度の主要な情報（登場人物の行動、場面の設定、話題の概要など）を理解することができる。 ③TOEIC に対応したリーディング力の向上 TOEIC で出題されるビジネス文書（広告や E メールなど）の形式に慣れ、て約 50%程度の要点（文章の趣旨や主要情報）を理解することができる。 ④自律的な学修 必ず目標スコアを達成するという強い目的意識を持ち、課題を確実にこなし、主体的かつ計画的に学習に取り組む。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストの結果及び課題の提出状況について各自へのフィードバックを行う。		

アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	本科目は習熟度別にクラス編成を行います。 クラスによりテキストが異なるので注意してください。 水１（クラス１～４共通）２冊 1. 書名：TOEIC L&R 200%活用模試、著者：アルク、出版社：アルク 出版年：2022（通年使用） 2. 書名：TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック 著者：ETS 出版社：IIBC 出版年：2019（通年使用） 月３（留学生クラス上級）１冊 TOEIC L&R TEST への総合アプローチ -Intermediate- 著者：吉塚　弘/Graham Skerritt/Michael Schauerte 出版社：成美堂　出版年：2022 木４（留学生クラス中級）１冊 SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST 2 / 4th Edition GOAL600 著者：スタッフォード　マーク 出版社：桐原書店 出版年：2017	ISBN	・TOEIC L&R 200%活用模試　9784757439795 ・TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック 9784906033560 ・TOEIC L&R TEST への総合アプローチ -Intermediate- 9784791972531 ・SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST 2 / 4th Edition GOAL600 9784342552632
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	総括テスト(7 月 TOEIC IP)：40%
この科目の受講にあたって	本科目の受講生は、TOEIC スコアの向上および自身が設定する目標の達成に向けて、毎週約 4 時間程度の自学修（授業内容の復習、小テスト、課題への取り組みおよび予習）を行うことが求められます。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	オリエンテーション・授業概要説明 ＊本科目は習熟度別クラスで構成され、クラスごとに使用するテキストや学修範囲が異なります。 そのため、具体的な授業計画や学修方法については、初回授業で各クラスに応じて説明します。 本シラバスに記載した内容は、あくまで全クラスに共通するおおよその概要となります。 本科目の目的・到達目標・評価方法・授業の進め方を説明します。TOEIC テストの概要や自学修の進め方を紹介し、受講生が全	事後学修： ・語彙、文法、読解、リスニングの予習（4 時間程度）	4 時間

		体像を把握できるようにします。		
第2回	対面	TOEIC イントロダクション・Part 1 導入 TOEIC L&R テストの全体構成（Part 1～Part 7）や出題形式を概説します。Listening Part 1（写真描写問題）の特性を理解し、写真中の人物や物体の基本的記述を学びます。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第3回	対面	Listening（Part 1）・Reading(Part 5 文法語彙問題） Listening Part 1 で求められる語彙・表現を強化し、素早く状況を把握する練習を行います。Reading Part 5 で扱われる基本的な文法・語彙問題を通じて、短い文中での適切な語句選択や品詞判別に慣れます。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第4回	対面	Listening（Part 2）・Reading(Part 5 文法・語彙問題） Listening Part 2（応答問題）のパターンを理解し、質問→答えを素早く結びつける練習を行います。Reading Part 5 で継続して基本文法項目（動詞時制、前置詞、接続詞など）を確認し、解答速度と正確性を向上させます。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第5回	対面	Listening（Part 2）・Reading(Part 5 文法・語彙問題） Listening Part 2 でより多様な質問形式や語彙に触れ、聞き取り範囲を拡大します。Reading Part 5 を繰り返し練習することで、英文処理スピードを向上させ、比較的難易度の高い語彙・文法問題にも対応できる力を養います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第6回	対面	Listening（Part 2）・Reading(Part 5 文法・語彙問題） Listening Part 2 の定着度を図り、正答率の向上を目指します。Reading Part 5 で引き続き文法・語彙力を鍛え、苦手分野の克服に集中します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間
第7回	対面	中間テスト・これまでの復習 中間テストを実施し、Listening Part および Reading Part での理解度を測定します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第8回	対面	Listening（Part 3）・Reading(Part 6） Listening Part 3（会話問題）の形式や特徴を理解し、会話の主題や意図を素早く把握する練習を行います。Reading Part 6（長文補文問題）で、文脈に適した語句や文を補完する力を養います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第9回	対面	Listening（Part 3）・Reading(Part 6） Listening Part 3 でより複雑な会話文を扱い、情報整理能力を高めます。Reading Part 6 を反復練習し、文章全体の流れを捉えて適切な選択肢を選べるようにします。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第１０回	対面	Listening（Part 4）・Reading(Part 7） Listening Part 4（説明文問題）でスピーチやアナウンスを理解し、主要な情報や要点を的確に抽出する練習を行います。Rea	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間

		ding Part 7（長文読解問題）の基本となる短いパッセージで要点把握や情報検索のスキルを学びます。		
第１１回	対面	Listening（Part 4）・Reading(Part 7) Listening Part 4を継続強化し、長めの話し言葉にも対応できる集中力・理解力を身につけます。Reading Part 7で複数の設問に対応しながら、情報を効率よく読み解く訓練を行います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2時間程度） 次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2時間程度）	4時間
第１２回	対面	Listening（Part 4）・Reading(Part 7)Listening Part 4で高度な内容に慣れ、要点と詳細を区別して理解する力を養います。Reading Part 7でより難易度の高い文書に取り組み、長文読解力・情報処理力を強化します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2時間程度）	4時間
第１３回	対面	期末テスト・これまでの復習 期末テストを実施し、Listening Part および Reading Part の総合力を測定します。テスト後に復習を行い自身の課題を整理します。	事後学修： 期末テストの復習・これまでの総復習（4時間程度）	4時間
第１４回	対面	総復習・まとめ 全パートを総合的に振り返り、TOEIC本番に向けた学習計画やテスト対策のポイントを再確認します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4時間程度）	4時間
第１５回	オンデマンド	オンデマンド授業（総復習・まとめ・フィードバック） オンデマンド形式で追加の復習動画や解説を提供し、各自で弱点補強や復習を行います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（4時間程度）	4時間

科目名	Exam Prep. Ⅱ	開講年度	2025
担当者	三戸　康世	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語運用能力の基礎を固め、TOEIC®L&R のスコアの向上を目指す。		
授業の目的及び概要	本科目は、英語の 4 技能を総合的に強化し、TOEIC® Listening & Reading（L&R）テストスコアを 400 点台へ向上させることを目的としています。授業では、TOEIC の頻出語彙の習得や重要文法事項の復習を通じて基礎力を固め、実際の TOEIC で出題される英文読解やリスニング練習を通じて実践的なスキルを向上させます。さらに、毎回の小テストや TOEIC 形式の問題演習、模擬試験を実施し、学習内容の定着状況を定期的に確認します。これにより、受講学生は自身の理解度を把握し、弱点を早期に補強することが可能です。TOEIC のスコアアップには継続的な努力が必要となるため、授業内で TOEIC 勉強法についても指導し、自律的な学習と継続的なスコア向上を支援します。		
履修条件・留意点	＜国際学部生＞入学時の英語プレイスメントテストまたは過去の TOEIC L&R スコアを基にクラス分 けを行い、事前登録を行います。習熟度別クラスとなっているため、事前登録がなく本項目の履修を希望する学生は、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。クラス選択について不明な点がある場合は、演習担当教員に相談してください。 ＜留学生＞ TOEIC スコアアップを目指す留学生の履修を推奨しています。クラス①は Advanced クラス(上級レベル)です。下記のスコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。 ＜経済・経営・法学部生＞ 各クラス数名程度の枠内で履修登録が可能です。本科目の履修を希望する学生は、下記のスコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択し履修してください。 ◆クラス分け：TOEIC スコア/英語プレイスメントテストの目安 クラス１：英語プレイスメントテスト 40 点以上 クラス２：英語プレイスメントテスト 35-39 点 クラス３：英語プレイスメントテスト 30-34 点 クラス４：英語プレイスメントテスト 30 点未満 クラス①(月 3)：留学生 Advanced クラス(TOEIC500 点以上又は英語プレイスメントテスト 40 点以上) クラス②(木 4)：留学生中級クラス(TOEIC500 点未満、英語プレイスメントテスト 40 点未満)		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①～④への取り組みを通じて、TOEIC L&R スコア４００点を目指す。 ①語彙力と文法力の強化 小テスト(TOEIC 頻出単語)において、毎回８０％以上の正答率を達成する。 ②TOEIC に対応したリスニング力の向上 TOEIC リスニングセクション（Part 1-4）全体を通じて、約 50%程度の主要な情報（登場人物の行動、場面の設定、話題の概要など）を理解することができる。 ③TOEIC に対応したリーディング力の向上 TOEIC で出題されるビジネス文書（広告や E メールなど）の形式に慣れ、て約 50%程度の要点（文章の趣旨や主要情報）を理解することができる。 ④自律的な学修 必ず目標スコアを達成するという強い目的意識を持ち、課題を確実にこなし、主体的かつ計画的に学習に取り組む。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストの結果及び課題の提出状況について各自へのフィードバックを行う。		

アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、キャリアコンサルタントや米国 CCE 認定グローバルキャリア開発ファシリテーターの資格を有しており、これまでに海外の法律事務所で翻訳・通訳や国内の民間企業でキャリア教育コーディネーター等の業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	本科目は習熟度別にクラス編成を行います。 クラスによりテキストが異なるので注意してください。 水１（クラス１～４共通）２冊 1. 書名：TOEIC L&R 200%活用模試、著者：アルク、出版社：アルク 出版年：2022（通年使用） 2. 書名：TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック 著者：ETS 出版社：IIBC 出版年：2019（通年使用） 月３（留学生クラス上級）１冊 TOEIC L&R TEST への総合アプローチ -Intermediate- 著者：吉塚　弘/Graham Skerritt/Michael Schauerte 出版社：成美堂　出版年：2022 木４（留学生クラス中級）１冊 SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST 2 / 4th Edition GOAL600 著者：スタッフォード マーク 出版社：桐原書店 出版年：2017	ISBN	・TOEIC L&R 200%活用模試　9784757439795 ・TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック 9784906033560 ・TOEIC L&R TEST への総合アプローチ -Intermediate- 9784791972531 ・SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST 2 / 4th Edition GOAL600 9784342552632
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	総括テスト(7 月 TOEIC IP)：40%
この科目の受講にあたって	本科目の受講生は、TOEIC スコアの向上および自身が設定する目標の達成に向けて、毎週約 4 時間程度の自学修（授業内容の復習、小テスト、課題への取り組みおよび予習）を行うことが求められます。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	オリエンテーション・授業概要説明 ＊本科目は習熟度別クラスで構成され、クラスごとに使用するテキストや学修範囲が異なります。 そのため、具体的な授業計画や学修方法については、初回授業で各クラスに応じて説明します。 本シラバスに記載した内容は、あくまで全クラスに共通するおおよその概要となります。 本科目の目的・到達目標・評価方法・授業の進め方を説明します。TOEIC テストの概	事後学修： ・語彙、文法、読解、リスニングの予習（4 時間程度）	4 時間

		要や自学修の進め方を紹介し、受講生が全体像を把握できるようにします。		
第２回	対面	TOEIC イントロダクション・Part 1 導入 TOEIC L&R テストの全体構成（Part 1～Part 7）や出題形式を概説します。Listening Part 1（写真描写問題）の特性を理解し、写真中の人物や物体の基本的記述を学びます。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第３回	対面	Listening（Part 1）・Reading(Part 5 文法語彙問題) Listening Part 1 で求められる語彙・表現を強化し、素早く状況を把握する練習を行います。Reading Part 5 で扱われる基本的な文法・語彙問題を通じて、短い文中での適切な語句選択や品詞判別に慣れます。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第４回	対面	Listening（Part 2）・Reading(Part 5 文法・語彙問題) Listening Part 2（応答問題）のパターンを理解し、質問→答えを素早く結びつける練習を行います。Reading Part 5 で継続して基本文法項目（動詞時制、前置詞、接続詞など）を確認し、解答速度と正確性を向上させます。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第５回	対面	Listening（Part 2）・Reading(Part 5 文法・語彙問題) Listening Part 2 でより多様な質問形式や語彙に触れ、聞き取り範囲を拡大します。Reading Part 5 を繰り返し練習することで、英文処理スピードを向上させ、比較的難易度の高い語彙・文法問題にも対応できる力を養います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第６回	対面	Listening（Part 2）・Reading(Part 5 文法・語彙問題) Listening Part 2 の定着度を図り、正答率の向上を目指します。Reading Part 5 で引き続き文法・語彙力を鍛え、苦手分野の克服に集中します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間
第７回	対面	中間テスト・これまでの復習 中間テストを実施し、Listening Part および Reading Part での理解度を測定します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第８回	対面	Listening（Part 3）・Reading(Part 6) Listening Part 3（会話問題）の形式や特徴を理解し、会話の主題や意図を素早く把握する練習を行います。Reading Part 6（長文補文問題）で、文脈に適した語句や文を補完する力を養います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第９回	対面	Listening（Part 3）・Reading(Part 6) Listening Part 3 でより複雑な会話文を扱い、情報整理能力を高めます。Reading Part 6 を反復練習し、文章全体の流れを捉えて適切な選択肢を選べるようにします。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第１０回	対面	Listening（Part 4）・Reading(Part 7) Listening Part 4（説明文問題）でスピーチやアナウンスを理解し、主要な情報や要	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間

		点を的確に抽出する練習を行います。Reading Part 7（長文読解問題）の基本となる短いパッセージで要点把握や情報検索のスキルを学びます。		
第１１回	対面	Listening（Part 4）・Reading(Part 7) Listening Part 4 を継続強化し、長めの話し言葉にも対応できる集中力・理解力を身につけます。Reading Part 7 で複数の設問に対応しながら、情報を効率よく読み解く訓練を行います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） 次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第１２回	対面	Listening（Part 4）・Reading(Part 7)Listening Part 4 で高度な内容に慣れ、要点と詳細を区別して理解する力を養います。Reading Part 7 でより難易度の高い文書に取り組み、長文読解力・情報処理力を強化します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第１３回	対面	期末テスト・これまでの復習 期末テストを実施し、Listening Part および Reading Part の総合力を測定します。テスト後に復習を行い自身の課題を整理します。	事後学修： 期末テストの復習・これまでの総復習（4 時間程度）	4 時間
第１４回	対面	総復習・まとめ 全パートを総合的に振り返り、TOEIC 本番に向けた学習計画やテスト対策のポイントを再確認します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間
第１５回	オンデマンド	オンデマンド授業（総復習・まとめ・フィードバック） オンデマンド形式で追加の復習動画や解説を提供し、各自で弱点補強や復習を行います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（4 時間程度）	4 時間

科目名	Exam Prep. Ⅱ	開講年度	2025
担当者	三戸　康世	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語運用能力の基礎を固め、TOEIC®L&R のスコアの向上を目指す。		
授業の目的及び概要	本科目は、英語の 4 技能を総合的に強化し、TOEIC® Listening & Reading（L&R）テストスコアを 400 点台へ向上させることを目的としています。授業では、TOEIC の頻出語彙の習得や重要文法事項の復習を通じて基礎力を固め、実際の TOEIC で出題される英文読解やリスニング練習を通じて実践的なスキルを向上させます。さらに、毎回の小テストや TOEIC 形式の問題演習、模擬試験を実施し、学習内容の定着状況を定期的に確認します。これにより、受講学生は自身の理解度を把握し、弱点を早期に補強することが可能です。TOEIC のスコアアップには継続的な努力が必要となるため、授業内で TOEIC 勉強法についても指導し、自律的な学習と継続的なスコア向上を支援します。		
履修条件・留意点	＜国際学部生＞入学時の英語プレイスメントテストまたは過去の TOEIC L&R スコアを基にクラス分 けを行い、事前登録を行います。習熟度別クラスとなっているため、事前登録がなく本項目の履修を希望する学生は、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。クラス選択について不明な点がある場合は、演習担当教員に相談してください。 ＜留学生＞ TOEIC スコアアップを目指す留学生の履修を推奨しています。クラス①は Advanced クラス(上級レベル)です。下記のスコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。 ＜経済・経営・法学部生＞ 各クラス数名程度の枠内で履修登録が可能です。本科目の履修を希望する学生は、下記のスコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択し履修してください。 ◆クラス分け：TOEIC スコア/英語プレイスメントテストの目安 クラス１：英語プレイスメントテスト 40 点以上 クラス２：英語プレイスメントテスト 35-39 点 クラス３：英語プレイスメントテスト 30-34 点 クラス４：英語プレイスメントテスト 30 点未満 クラス①(月 3)：留学生 Advanced クラス(TOEIC500 点以上又は英語プレイスメントテスト 40 点以上) クラス②(木 4)：留学生中級クラス(TOEIC500 点未満、英語プレイスメントテスト 40 点未満)		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①～④への取り組みを通じて、TOEIC L&R スコア４００点を目指す。 ①語彙力と文法力の強化 小テスト(TOEIC 頻出単語)において、毎回８０％以上の正答率を達成する。 ②TOEIC に対応したリスニング力の向上 TOEIC リスニングセクション（Part 1-4）全体を通じて、約 50%程度の主要な情報（登場人物の行動、場面の設定、話題の概要など）を理解することができる。 ③TOEIC に対応したリーディング力の向上 TOEIC で出題されるビジネス文書（広告や E メールなど）の形式に慣れ、て約 50%程度の要点（文章の趣旨や主要情報）を理解することができる。 ④自律的な学修 必ず目標スコアを達成するという強い目的意識を持ち、課題を確実にこなし、主体的かつ計画的に学習に取り組む。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストの結果及び課題の提出状況について各自へのフィードバックを行う。		

アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、キャリアコンサルタントや米国 CCE 認定グローバルキャリア開発ファシリテーターの資格を有しており、これまでに海外の法律事務所で翻訳・通訳や国内の民間企業でキャリア教育コーディネーター等の業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	本科目は習熟度別にクラス編成を行います。 クラスによりテキストが異なるので注意してください。 水１（クラス１～４共通）２冊 1. 書名：TOEIC L&R 200%活用模試、著者：アルク、出版社：アルク 出版年：2022（通年使用） 2. 書名：TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック 著者：ETS 出版社：IIBC 出版年：2019（通年使用） 月３（留学生クラス上級）１冊 TOEIC L&R TEST への総合アプローチ -Intermediate- 著者：吉塚　弘/Graham Skerritt/Michael Schauerte 出版社：成美堂　出版年：2022 木４（留学生クラス中級）１冊 SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST 2 / 4th Edition GOAL600 著者：スタッフォード マーク 出版社：桐原書店 出版年：2017	ISBN	・TOEIC L&R 200%活用模試　9784757439795 ・TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック 9784906033560 ・TOEIC L&R TEST への総合アプローチ -Intermediate- 9784791972531 ・SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST 2 / 4th Edition GOAL600 9784342552632
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	総括テスト(7 月 TOEIC IP)：40%
この科目の受講にあたって	本科目の受講生は、TOEIC スコアの向上および自身が設定する目標の達成に向けて、毎週約 4 時間程度の自学修（授業内容の復習、小テスト、課題への取り組みおよび予習）を行うことが求められます。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	オリエンテーション・授業概要説明 ＊本科目は習熟度別クラスで構成され、クラスごとに使用するテキストや学修範囲が異なります。 そのため、具体的な授業計画や学修方法については、初回授業で各クラスに応じて説明します。 本シラバスに記載した内容は、あくまで全クラスに共通するおおよその概要となります。 本科目の目的・到達目標・評価方法・授業の進め方を説明します。TOEIC テストの概	事後学修： ・語彙、文法、読解、リスニングの予習（4 時間程度）	4 時間

		要や自学修の進め方を紹介し、受講生が全体像を把握できるようにします。		
第２回	対面	TOEIC イントロダクション・Part 1 導入 TOEIC L&R テストの全体構成（Part 1～Part 7）や出題形式を概説します。Listening Part 1（写真描写問題）の特性を理解し、写真中の人物や物体の基本的記述を学びます。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第３回	対面	Listening（Part 1）・Reading(Part 5 文法語彙問題) Listening Part 1 で求められる語彙・表現を強化し、素早く状況を把握する練習を行います。Reading Part 5 で扱われる基本的な文法・語彙問題を通じて、短い文中での適切な語句選択や品詞判別に慣れます。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第４回	対面	Listening（Part 2）・Reading(Part 5 文法・語彙問題) Listening Part 2（応答問題）のパターンを理解し、質問→答えを素早く結びつける練習を行います。Reading Part 5 で継続して基本文法項目（動詞時制、前置詞、接続詞など）を確認し、解答速度と正確性を向上させます。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第５回	対面	Listening（Part 2）・Reading(Part 5 文法・語彙問題) Listening Part 2 でより多様な質問形式や語彙に触れ、聞き取り範囲を拡大します。Reading Part 5 を繰り返し練習することで、英文処理スピードを向上させ、比較的難易度の高い語彙・文法問題にも対応できる力を養います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第６回	対面	Listening（Part 2）・Reading(Part 5 文法・語彙問題) Listening Part 2 の定着度を図り、正答率の向上を目指します。Reading Part 5 で引き続き文法・語彙力を鍛え、苦手分野の克服に集中します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間
第７回	対面	中間テスト・これまでの復習 中間テストを実施し、Listening Part および Reading Part での理解度を測定します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第８回	対面	Listening（Part 3）・Reading(Part 6) Listening Part 3（会話問題）の形式や特徴を理解し、会話の主題や意図を素早く把握する練習を行います。Reading Part 6（長文補文問題）で、文脈に適した語句や文を補完する力を養います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第９回	対面	Listening（Part 3）・Reading(Part 6) Listening Part 3 でより複雑な会話文を扱い、情報整理能力を高めます。Reading Part 6 を反復練習し、文章全体の流れを捉えて適切な選択肢を選べるようにします。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第１０回	対面	Listening（Part 4）・Reading(Part 7) Listening Part 4（説明文問題）でスピーチやアナウンスを理解し、主要な情報や要	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間

		点を的確に抽出する練習を行います。Reading Part 7（長文読解問題）の基本となる短いパッセージで要点把握や情報検索のスキルを学びます。		
第１１回	対面	Listening（Part 4）・Reading(Part 7) Listening Part 4 を継続強化し、長めの話し言葉にも対応できる集中力・理解力を身につけます。Reading Part 7 で複数の設問に対応しながら、情報を効率よく読み解く訓練を行います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） 次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第１２回	対面	Listening（Part 4）・Reading(Part 7)Listening Part 4 で高度な内容に慣れ、要点と詳細を区別して理解する力を養います。Reading Part 7 でより難易度の高い文書に取り組み、長文読解力・情報処理力を強化します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第１３回	対面	期末テスト・これまでの復習 期末テストを実施し、Listening Part および Reading Part の総合力を測定します。テスト後に復習を行い自身の課題を整理します。	事後学修： 期末テストの復習・これまでの総復習（4 時間程度）	4 時間
第１４回	対面	総復習・まとめ 全パートを総合的に振り返り、TOEIC 本番に向けた学習計画やテスト対策のポイントを再確認します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間
第１５回	オンデマンド	オンデマンド授業（総復習・まとめ・フィードバック） オンデマンド形式で追加の復習動画や解説を提供し、各自で弱点補強や復習を行います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（4 時間程度）	4 時間

科目名	Exam Prep. Ⅱ	開講年度	2025
担当者	三戸　康世	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語運用能力の基礎を固め、TOEIC®L&R のスコアの向上を目指す。		
授業の目的及び概要	本科目は、英語の 4 技能を総合的に強化し、TOEIC® Listening & Reading（L&R）テストスコアを 400 点台へ向上させることを目的としています。授業では、TOEIC の頻出語彙の習得や重要文法事項の復習を通じて基礎力を固め、実際の TOEIC で出題される英文読解やリスニング練習を通じて実践的なスキルを向上させます。さらに、毎回の小テストや TOEIC 形式の問題演習、模擬試験を実施し、学習内容の定着状況を定期的に確認します。これにより、受講学生は自身の理解度を把握し、弱点を早期に補強することが可能です。TOEIC のスコアアップには継続的な努力が必要となるため、授業内で TOEIC 勉強法についても指導し、自律的な学習と継続的なスコア向上を支援します。		
履修条件・留意点	＜国際学部生＞入学時の英語プレイスメントテストまたは過去の TOEIC L&R スコアを基にクラス分 けを行い、事前登録を行います。習熟度別クラスとなっているため、事前登録がなく本項目の履修を希望する学生は、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。クラス選択について不明な点がある場合は、演習担当教員に相談してください。 ＜留学生＞ TOEIC スコアアップを目指す留学生の履修を推奨しています。クラス①は Advanced クラス(上級レベル)です。下記のスコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。 ＜経済・経営・法学部生＞ 各クラス数名程度の枠内で履修登録が可能です。本科目の履修を希望する学生は、下記のスコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択し履修してください。 ◆クラス分け：TOEIC スコア/英語プレイスメントテストの目安 クラス１：英語プレイスメントテスト 40 点以上 クラス２：英語プレイスメントテスト 35-39 点 クラス３：英語プレイスメントテスト 30-34 点 クラス４：英語プレイスメントテスト 30 点未満 クラス①(月 3)：留学生 Advanced クラス(TOEIC500 点以上又は英語プレイスメントテスト 40 点以上) クラス②(木 4)：留学生中級クラス(TOEIC500 点未満、英語プレイスメントテスト 40 点未満)		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①～④への取り組みを通じて、TOEIC L&R スコア４００点を目指す。 ①語彙力と文法力の強化 小テスト(TOEIC 頻出単語)において、毎回８０％以上の正答率を達成する。 ②TOEIC に対応したリスニング力の向上 TOEIC リスニングセクション（Part 1-4）全体を通じて、約 50%程度の主要な情報（登場人物の行動、場面の設定、話題の概要など）を理解することができる。 ③TOEIC に対応したリーディング力の向上 TOEIC で出題されるビジネス文書（広告や E メールなど）の形式に慣れ、て約 50%程度の要点（文章の趣旨や主要情報）を理解することができる。 ④自律的な学修 必ず目標スコアを達成するという強い目的意識を持ち、課題を確実にこなし、主体的かつ計画的に学習に取り組む。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストの結果及び課題の提出状況について各自へのフィードバックを行う。		

アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、キャリアコンサルタントや米国 CCE 認定グローバルキャリア開発ファシリテーターの資格を有しており、これまでに海外の法律事務所で翻訳・通訳や国内の民間企業でキャリア教育コーディネーター等の業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	本科目は習熟度別にクラス編成を行います。 クラスによりテキストが異なるので注意してください。 水１（クラス１～４共通）２冊 1. 書名：TOEIC L&R 200%活用模試、著者：アルク、出版社：アルク 出版年：2022（通年使用） 2. 書名：TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック 著者：ETS 出版社：IIBC 出版年：2019（通年使用） 月３（留学生クラス上級）１冊 TOEIC L&R TEST への総合アプローチ -Intermediate- 著者：吉塚　弘/Graham Skerritt/Michael Schauerte 出版社：成美堂　出版年：2022 木４（留学生クラス中級）１冊 SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST 2 / 4th Edition GOAL600 著者：スタッフォード マーク 出版社：桐原書店 出版年：2017	ISBN	・TOEIC L&R 200%活用模試　9784757439795 ・TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック 9784906033560 ・TOEIC L&R TEST への総合アプローチ -Intermediate- 9784791972531 ・SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST 2 / 4th Edition GOAL600 9784342552632
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	総括テスト(7 月 TOEIC IP)：40%
この科目の受講にあたって	本科目の受講生は、TOEIC スコアの向上および自身が設定する目標の達成に向けて、毎週約 4 時間程度の自学修（授業内容の復習、小テスト、課題への取り組みおよび予習）を行うことが求められます。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	オリエンテーション・授業概要説明 ＊本科目は習熟度別クラスで構成され、クラスごとに使用するテキストや学修範囲が異なります。 そのため、具体的な授業計画や学修方法については、初回授業で各クラスに応じて説明します。 本シラバスに記載した内容は、あくまで全クラスに共通するおおよその概要となります。 本科目の目的・到達目標・評価方法・授業の進め方を説明します。TOEIC テストの概	事後学修： ・語彙、文法、読解、リスニングの予習（4 時間程度）	4 時間

		要や自学修の進め方を紹介し、受講生が全体像を把握できるようにします。		
第２回	対面	TOEIC イントロダクション・Part 1 導入 TOEIC L&R テストの全体構成（Part 1～Part 7）や出題形式を概説します。Listening Part 1（写真描写問題）の特性を理解し、写真中の人物や物体の基本的記述を学びます。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第３回	対面	Listening（Part 1）・Reading(Part 5 文法語彙問題) Listening Part 1 で求められる語彙・表現を強化し、素早く状況を把握する練習を行います。Reading Part 5 で扱われる基本的な文法・語彙問題を通じて、短い文中での適切な語句選択や品詞判別に慣れます。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第４回	対面	Listening（Part 2）・Reading(Part 5 文法・語彙問題) Listening Part 2（応答問題）のパターンを理解し、質問→答えを素早く結びつける練習を行います。Reading Part 5 で継続して基本文法項目（動詞時制、前置詞、接続詞など）を確認し、解答速度と正確性を向上させます。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第５回	対面	Listening（Part 2）・Reading(Part 5 文法・語彙問題) Listening Part 2 でより多様な質問形式や語彙に触れ、聞き取り範囲を拡大します。Reading Part 5 を繰り返し練習することで、英文処理スピードを向上させ、比較的難易度の高い語彙・文法問題にも対応できる力を養います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第６回	対面	Listening（Part 2）・Reading(Part 5 文法・語彙問題) Listening Part 2 の定着度を図り、正答率の向上を目指します。Reading Part 5 で引き続き文法・語彙力を鍛え、苦手分野の克服に集中します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間
第７回	対面	中間テスト・これまでの復習 中間テストを実施し、Listening Part および Reading Part での理解度を測定します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第８回	対面	Listening（Part 3）・Reading(Part 6) Listening Part 3（会話問題）の形式や特徴を理解し、会話の主題や意図を素早く把握する練習を行います。Reading Part 6（長文補文問題）で、文脈に適した語句や文を補完する力を養います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第９回	対面	Listening（Part 3）・Reading(Part 6) Listening Part 3 でより複雑な会話文を扱い、情報整理能力を高めます。Reading Part 6 を反復練習し、文章全体の流れを捉えて適切な選択肢を選べるようにします。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第１０回	対面	Listening（Part 4）・Reading(Part 7) Listening Part 4（説明文問題）でスピーチやアナウンスを理解し、主要な情報や要	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間

		点を的確に抽出する練習を行います。Reading Part 7（長文読解問題）の基本となる短いパッセージで要点把握や情報検索のスキルを学びます。		
第１１回	対面	Listening（Part 4）・Reading(Part 7) Listening Part 4を継続強化し、長めの話し言葉にも対応できる集中力・理解力を身につけます。Reading Part 7で複数の設問に対応しながら、情報を効率よく読み解く訓練を行います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2時間程度） 次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2時間程度）	4時間
第１２回	対面	Listening（Part 4）・Reading(Part 7)Listening Part 4で高度な内容に慣れ、要点と詳細を区別して理解する力を養います。Reading Part 7でより難易度の高い文書に取り組み、長文読解力・情報処理力を強化します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2時間程度）	4時間
第１３回	対面	期末テスト・これまでの復習 期末テストを実施し、Listening Part および Reading Part の総合力を測定します。テスト後に復習を行い自身の課題を整理します。	事後学修： 期末テストの復習・これまでの総復習（4時間程度）	4時間
第１４回	対面	総復習・まとめ 全パートを総合的に振り返り、TOEIC本番に向けた学習計画やテスト対策のポイントを再確認します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4時間程度）	4時間
第１５回	オンデマンド	オンデマンド授業（総復習・まとめ・フィードバック） オンデマンド形式で追加の復習動画や解説を提供し、各自で弱点補強や復習を行います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（4時間程度）	4時間

科目名	Exam Prep. Ⅱ	開講年度	2025
担当者	三戸　康世	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語運用能力の基礎を固め、TOEIC®L&R のスコアの向上を目指す。		
授業の目的及び概要	本科目は、英語の 4 技能を総合的に強化し、TOEIC® Listening & Reading（L&R）テストスコアを 400 点台へ向上させることを目的としています。授業では、TOEIC の頻出語彙の習得や重要文法事項の復習を通じて基礎力を固め、実際の TOEIC で出題される英文読解やリスニング練習を通じて実践的なスキルを向上させます。さらに、毎回の小テストや TOEIC 形式の問題演習、模擬試験を実施し、学習内容の定着状況を定期的に確認します。これにより、受講学生は自身の理解度を把握し、弱点を早期に補強することが可能です。TOEIC のスコアアップには継続的な努力が必要となるため、授業内で TOEIC 勉強法についても指導し、自律的な学習と継続的なスコア向上を支援します。		
履修条件・留意点	＜国際学部生＞入学時の英語プレイスメントテストまたは過去の TOEIC L&R スコアを基にクラス分 けを行い、事前登録を行います。習熟度別クラスとなっているため、事前登録がなく本項目の履修を希望する学生は、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。クラス選択について不明な点がある場合は、演習担当教員に相談してください。 ＜留学生＞ TOEIC スコアアップを目指す留学生の履修を推奨しています。クラス①は Advanced クラス(上級レベル)です。下記のスコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。 ＜経済・経営・法学部生＞ 各クラス数名程度の枠内で履修登録が可能です。本科目の履修を希望する学生は、下記のスコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択し履修してください。 ◆クラス分け：TOEIC スコア/英語プレイスメントテストの目安 クラス１：英語プレイスメントテスト 40 点以上 クラス２：英語プレイスメントテスト 35-39 点 クラス３：英語プレイスメントテスト 30-34 点 クラス４：英語プレイスメントテスト 30 点未満 クラス①(月 3)：留学生 Advanced クラス(TOEIC500 点以上又は英語プレイスメントテスト 40 点以上) クラス②(木 4)：留学生中級クラス(TOEIC500 点未満、英語プレイスメントテスト 40 点未満)		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①～④への取り組みを通じて、TOEIC L&R スコア４００点を目指す。 ①語彙力と文法力の強化 小テスト(TOEIC 頻出単語)において、毎回８０％以上の正答率を達成する。 ②TOEIC に対応したリスニング力の向上 TOEIC リスニングセクション（Part 1-4）全体を通じて、約 50%程度の主要な情報（登場人物の行動、場面の設定、話題の概要など）を理解することができる。 ③TOEIC に対応したリーディング力の向上 TOEIC で出題されるビジネス文書（広告や E メールなど）の形式に慣れ、て約 50%程度の要点（文章の趣旨や主要情報）を理解することができる。 ④自律的な学修 必ず目標スコアを達成するという強い目的意識を持ち、課題を確実にこなし、主体的かつ計画的に学習に取り組む。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストの結果及び課題の提出状況について各自へのフィードバックを行う。		

アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、キャリアコンサルタントや米国 CCE 認定グローバルキャリア開発ファシリテーターの資格を有しており、これまでに海外の法律事務所で翻訳・通訳や国内の民間企業でキャリア教育コーディネーター等の業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	本科目は習熟度別にクラス編成を行います。 クラスによりテキストが異なるので注意してください。 水１（クラス１～４共通）２冊 1. 書名：TOEIC L&R 200%活用模試、著者：アルク、出版社：アルク 出版年：2022（通年使用） 2. 書名：TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック 著者：ETS 出版社：IIBC 出版年：2019（通年使用） 月３（留学生クラス上級）１冊 TOEIC L&R TEST への総合アプローチ -Intermediate- 著者：吉塚　弘/Graham Skerritt/Michael Schauerte 出版社：成美堂　出版年：2022 木４（留学生クラス中級）１冊 SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST 2 / 4th Edition GOAL600 著者：スタッフォード マーク 出版社：桐原書店 出版年：2017	ISBN	・TOEIC L&R 200%活用模試　9784757439795 ・TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック 9784906033560 ・TOEIC L&R TEST への総合アプローチ -Intermediate- 9784791972531 ・SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST 2 / 4th Edition GOAL600 9784342552632
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	総括テスト(7 月 TOEIC IP)：40%
この科目の受講にあたって	本科目の受講生は、TOEIC スコアの向上および自身が設定する目標の達成に向けて、毎週約 4 時間程度の自学修（授業内容の復習、小テスト、課題への取り組みおよび予習）を行うことが求められます。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	オリエンテーション・授業概要説明 ＊本科目は習熟度別クラスで構成され、クラスごとに使用するテキストや学修範囲が異なります。 そのため、具体的な授業計画や学修方法については、初回授業で各クラスに応じて説明します。 本シラバスに記載した内容は、あくまで全クラスに共通するおおよその概要となります。 本科目の目的・到達目標・評価方法・授業の進め方を説明します。TOEIC テストの概	事後学修： ・語彙、文法、読解、リスニングの予習（4 時間程度）	4 時間

		要や自学修の進め方を紹介し、受講生が全体像を把握できるようにします。		
第２回	対面	TOEIC イントロダクション・Part 1 導入 TOEIC L&R テストの全体構成（Part 1～Part 7）や出題形式を概説します。Listening Part 1（写真描写問題）の特性を理解し、写真中の人物や物体の基本的記述を学びます。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第３回	対面	Listening（Part 1）・Reading(Part 5 文法語彙問題) Listening Part 1 で求められる語彙・表現を強化し、素早く状況を把握する練習を行います。Reading Part 5 で扱われる基本的な文法・語彙問題を通じて、短い文中での適切な語句選択や品詞判別に慣れます。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第４回	対面	Listening（Part 2）・Reading(Part 5 文法・語彙問題) Listening Part 2（応答問題）のパターンを理解し、質問→答えを素早く結びつける練習を行います。Reading Part 5 で継続して基本文法項目（動詞時制、前置詞、接続詞など）を確認し、解答速度と正確性を向上させます。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第５回	対面	Listening（Part 2）・Reading(Part 5 文法・語彙問題) Listening Part 2 でより多様な質問形式や語彙に触れ、聞き取り範囲を拡大します。Reading Part 5 を繰り返し練習することで、英文処理スピードを向上させ、比較的難易度の高い語彙・文法問題にも対応できる力を養います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第６回	対面	Listening（Part 2）・Reading(Part 5 文法・語彙問題) Listening Part 2 の定着度を図り、正答率の向上を目指します。Reading Part 5 で引き続き文法・語彙力を鍛え、苦手分野の克服に集中します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間
第７回	対面	中間テスト・これまでの復習 中間テストを実施し、Listening Part および Reading Part での理解度を測定します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第８回	対面	Listening（Part 3）・Reading(Part 6) Listening Part 3（会話問題）の形式や特徴を理解し、会話の主題や意図を素早く把握する練習を行います。Reading Part 6（長文補文問題）で、文脈に適した語句や文を補完する力を養います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第９回	対面	Listening（Part 3）・Reading(Part 6) Listening Part 3 でより複雑な会話文を扱い、情報整理能力を高めます。Reading Part 6 を反復練習し、文章全体の流れを捉えて適切な選択肢を選べるようにします。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第１０回	対面	Listening（Part 4）・Reading(Part 7) Listening Part 4（説明文問題）でスピーチやアナウンスを理解し、主要な情報や要	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間

		点を的確に抽出する練習を行います。Reading Part 7（長文読解問題）の基本となる短いパッセージで要点把握や情報検索のスキルを学びます。		
第１１回	対面	Listening（Part 4）・Reading(Part 7) Listening Part 4 を継続強化し、長めの話し言葉にも対応できる集中力・理解力を身につけます。Reading Part 7 で複数の設問に対応しながら、情報を効率よく読み解く訓練を行います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） 次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第１２回	対面	Listening（Part 4）・Reading(Part 7)Listening Part 4 で高度な内容に慣れ、要点と詳細を区別して理解する力を養います。Reading Part 7 でより難易度の高い文書に取り組み、長文読解力・情報処理力を強化します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第１３回	対面	期末テスト・これまでの復習 期末テストを実施し、Listening Part および Reading Part の総合力を測定します。テスト後に復習を行い自身の課題を整理します。	事後学修： 期末テストの復習・これまでの総復習（4 時間程度）	4 時間
第１４回	対面	総復習・まとめ 全パートを総合的に振り返り、TOEIC 本番に向けた学習計画やテスト対策のポイントを再確認します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間
第１５回	オンデマンド	オンデマンド授業（総復習・まとめ・フィードバック） オンデマンド形式で追加の復習動画や解説を提供し、各自で弱点補強や復習を行います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（4 時間程度）	4 時間

科目名	Exam Prep. Ⅱ	開講年度	2025
担当者	ウェザビ・マーティン	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語運用能力の基礎を固め、TOEIC®L&R のスコアの向上を目指す。		
授業の目的及び概要	本科目は、英語の 4 技能を総合的に強化し、TOEIC® Listening & Reading（L&R）テストスコアを 400 点台へ向上させることを目的としています。授業では、TOEIC の頻出語彙の習得や重要文法事項の復習を通じて基礎力を固め、実際の TOEIC で出題される英文読解やリスニング練習を通じて実践的なスキルを向上させます。さらに、毎回の小テストや TOEIC 形式の問題演習、模擬試験を実施し、学習内容の定着状況を定期的に確認します。これにより、受講学生は自身の理解度を把握し、弱点を早期に補強することが可能です。TOEIC のスコアアップには継続的な努力が必要となるため、授業内で TOEIC 勉強法についても指導し、自律的な学習と継続的なスコア向上を支援します。		
履修条件・留意点	＜国際学部生＞入学時の英語プレイスメントテストまたは過去の TOEIC L&R スコアを基にクラス分 けを行い、事前登録を行います。習熟度別クラスとなっているため、事前登録がなく本項目の履修を希望する学生は、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。クラス選択について不明な点がある場合は、演習担当教員に相談してください。 ＜留学生＞ TOEIC スコアアップを目指す留学生の履修を推奨しています。クラス①は Advanced クラス(上級レベル)です。下記のスコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。 ＜経済・経営・法学部生＞ 各クラス数名程度の枠内で履修登録が可能です。本科目の履修を希望する学生は、下記のスコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択し履修してください。 ◆クラス分け：TOEIC スコア/英語プレイスメントテストの目安 クラス１：英語プレイスメントテスト 40 点以上 クラス２：英語プレイスメントテスト 35-39 点 クラス３：英語プレイスメントテスト 30-34 点 クラス４：英語プレイスメントテスト 30 点未満 クラス①(月 3)：留学生 Advanced クラス(TOEIC500 点以上又は英語プレイスメントテスト 40 点以上) クラス②(木 4)：留学生中級クラス(TOEIC500 点未満、英語プレイスメントテスト 40 点未満)		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①～④への取り組みを通じて、TOEIC L&R スコア４００点を目指す。 ①語彙力と文法力の強化 小テスト(TOEIC 頻出単語)において、毎回８０％以上の正答率を達成する。 ②TOEIC に対応したリスニング力の向上 TOEIC リスニングセクション（Part 1-4）全体を通じて、約 50%程度の主要な情報（登場人物の行動、場面の設定、話題の概要など）を理解することができる。 ③TOEIC に対応したリーディング力の向上 TOEIC で出題されるビジネス文書（広告や E メールなど）の形式に慣れ、て約 50%程度の要点（文章の趣旨や主要情報）を理解することができる。 ④自律的な学修 必ず目標スコアを達成するという強い目的意識を持ち、課題を確実にこなし、主体的かつ計画的に学習に取り組む。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストの結果及び課題の提出状況について各自へのフィードバックを行う。		

アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	本科目は習熟度別にクラス編成を行います。 クラスによりテキストが異なるので注意してください。 水１（クラス１～４共通）２冊 1. 書名：TOEIC L&R 200%活用模試、著者：アルク、出版社：アルク 出版年：2022（通年使用） 2. 書名：TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック 著者：ETS 出版社：IIBC 出版年：2019（通年使用） 月３（留学生クラス上級）１冊 TOEIC L&R TEST への総合アプローチ -Intermediate- 著者：吉塚　弘/Graham Skerritt/Michael Schauerte 出版社：成美堂　出版年：2022 木４（留学生クラス中級）１冊 SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST 2 / 4th Edition GOAL600 著者：スタッフォード　マーク 出版社：桐原書店 出版年：2017	ISBN	・TOEIC L&R 200%活用模試　9784757439795 ・TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック 9784906033560 ・TOEIC L&R TEST への総合アプローチ -Intermediate- 9784791972531 ・SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST 2 / 4th Edition GOAL600 9784342552632
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	総括テスト(7 月 TOEIC IP)：40%
この科目の受講にあたって	本科目の受講生は、TOEIC スコアの向上および自身が設定する目標の達成に向けて、毎週約 4 時間程度の自学修（授業内容の復習、小テスト、課題への取り組みおよび予習）を行うことが求められます。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	オリエンテーション・授業概要説明 ＊本科目は習熟度別クラスで構成され、クラスごとに使用するテキストや学修範囲が異なります。 そのため、具体的な授業計画や学修方法については、初回授業で各クラスに応じて説明します。 本シラバスに記載した内容は、あくまで全クラスに共通するおおよその概要となります。 本科目の目的・到達目標・評価方法・授業の進め方を説明します。TOEIC テストの概要や自学修の進め方を紹介し、受講生が全	事後学修： ・語彙、文法、読解、リスニングの予習（4 時間程度）	4 時間

		体像を把握できるようにします。		
第2回	対面	TOEIC イントロダクション・Part 1 導入 TOEIC L&R テストの全体構成（Part 1～Part 7）や出題形式を概説します。Listening Part 1（写真描写問題）の特性を理解し、写真中の人物や物体の基本的記述を学びます。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第3回	対面	Listening（Part 1）・Reading(Part 5 文法語彙問題） Listening Part 1 で求められる語彙・表現を強化し、素早く状況を把握する練習を行います。Reading Part 5 で扱われる基本的な文法・語彙問題を通じて、短い文中での適切な語句選択や品詞判別に慣れます。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第4回	対面	Listening（Part 2）・Reading(Part 5 文法・語彙問題） Listening Part 2（応答問題）のパターンを理解し、質問→答えを素早く結びつける練習を行います。Reading Part 5 で継続して基本文法項目（動詞時制、前置詞、接続詞など）を確認し、解答速度と正確性を向上させます。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第5回	対面	Listening（Part 2）・Reading(Part 5 文法・語彙問題） Listening Part 2 でより多様な質問形式や語彙に触れ、聞き取り範囲を拡大します。Reading Part 5 を繰り返し練習することで、英文処理スピードを向上させ、比較的難易度の高い語彙・文法問題にも対応できる力を養います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第6回	対面	Listening（Part 2）・Reading(Part 5 文法・語彙問題） Listening Part 2 の定着度を図り、正答率の向上を目指します。Reading Part 5 で引き続き文法・語彙力を鍛え、苦手分野の克服に集中します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間
第7回	対面	中間テスト・これまでの復習 中間テストを実施し、Listening Part および Reading Part での理解度を測定します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第8回	対面	Listening（Part 3）・Reading(Part 6） Listening Part 3（会話問題）の形式や特徴を理解し、会話の主題や意図を素早く把握する練習を行います。Reading Part 6（長文補文問題）で、文脈に適した語句や文を補完する力を養います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第9回	対面	Listening（Part 3）・Reading(Part 6） Listening Part 3 でより複雑な会話文を扱い、情報整理能力を高めます。Reading Part 6 を反復練習し、文章全体の流れを捉えて適切な選択肢を選べるようにします。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第１０回	対面	Listening（Part 4）・Reading(Part 7） Listening Part 4（説明文問題）でスピーチやアナウンスを理解し、主要な情報や要点を的確に抽出する練習を行います。Rea	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間

		ding Part 7（長文読解問題）の基本となる短いパッセージで要点把握や情報検索のスキルを学びます。		
第１１回	対面	Listening（Part 4）・Reading(Part 7) Listening Part 4 を継続強化し、長めの話し言葉にも対応できる集中力・理解力を身につけます。Reading Part 7 で複数の設問に対応しながら、情報を効率よく読み解く訓練を行います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） 次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第１２回	対面	Listening（Part 4）・Reading(Part 7)Listening Part 4 で高度な内容に慣れ、要点と詳細を区別して理解する力を養います。Reading Part 7 でより難易度の高い文書に取り組み、長文読解力・情報処理力を強化します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第１３回	対面	期末テスト・これまでの復習 期末テストを実施し、Listening Part および Reading Part の総合力を測定します。テスト後に復習を行い自身の課題を整理します。	事後学修： 期末テストの復習・これまでの総復習（4 時間程度）	4 時間
第１４回	対面	総復習・まとめ 全パートを総合的に振り返り、TOEIC 本番に向けた学習計画やテスト対策のポイントを再確認します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間
第１５回	オンデマンド	オンデマンド授業（総復習・まとめ・フィードバック） オンデマンド形式で追加の復習動画や解説を提供し、各自で弱点補強や復習を行います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（4 時間程度）	4 時間

科目名	Exam Prep. Ⅲ	開講年度	2025
担当者	ウェザビ・マーティン	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	TOEIC 或いは TOEFL 学習素材を活用して英語力を強化し、コミュニケーションに必要な英語運用力の土台を作る。		
授業の目的及び概要	本講義は、英語の 4 技能を総合的に強化し、TOEIC L&R で 450（クラスにより 600）以上、TOEFL クラスについては、Listening/SWE(Structure and Written Expression)/Reading において B1 以上を目標とする。 ・TOEIC 或いは TOEFL テスト形式の問題を解き、対策を学んで、スコアアップを図る。 ・TOEIC 或いは TOEFL スコアアップに必須となる自己学習法を修得する。 ・頻出語彙の強化のため毎回語彙テストを実施し語彙の用法や音声まで修得する。 ・本学担当教員の授業計画のもと、水 2 のクラス 2・3、水 2 のクラス①（留学生＋TOEFL クラス）・クラス②（留学生クラス＋一般学生クラス）は、株式会社アルクの英語講師が授業を実施する。		
履修条件・留意点	この授業科目は、TOEIC®L &R、TOEFL® ITP に対応した科目であり、英語力の向上を目指す学生を対象とします。国際学部生はこれまでの TOEIC スコアを基に事前にクラス分けを実施し事前登録します。また経済・経営・法学部生も履修が可能です。1 年次の必修英語で中級クラスは水 2 クラス 1、初級クラスは水 2 クラス 2、基礎クラスは水 2 クラス 3 を推奨します。また、水 2 クラス②（留学生クラス＋一般学生クラス）は、留学生及び一部クラス分けにより事前登録した学生のクラスです。経済・経営・法・国際学部の留学生の方で英語を学修したい方は、積極的に水 2 クラス②（留学生クラス＋一般学生クラス）を履修しましょう。また、水 2 クラス①（TOEFL、一般学生＋留学生クラス、交換留学を希望する学生）は Advanced クラスとして、TOEFL を学修します。交換留学を目指す学生の方、並びに今後、TOEFL 学修をしたい方、英語力が高い留学生の方は積極的に履修ください。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①～④への取組を通して、TOEIC L&R で 450（クラスにより 600）以上、TOEFL クラスについては、Listening/SWE/Reading において B1 以上を達成する。 ①語彙力と文法力の強化 小テスト(TOEIC 頻出単語)において、毎回８０%以上の正答率を達成する。 ②TOEIC・TOEFL に対応したリスニング力の向上 TOEIC リスニングセクションで、約 60%程度の主要な情報（登場人物の行動、場面の設定、話題の概要など）を理解することができる。 ③TOEIC・TOEFL に対応したリーディング力の向上 TOEIC・TOEFL で出題される文章の形式に慣れて約 60%程度の要点を理解することができる。 ④自立的な学修 必ず目標スコアを達成するという強い目的意識を持ち、課題を着実にこなし、主体的かつ計画的に学修に取り組む。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の確認テストについてフィードバックをおこなう。課題、発表、総括テストについて、各自へのフィードバックを実施する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	当該科目は習熟度別クラスであり、テキストについては第一回目の授業並びに教科書販売リストにおいて、各クラス別に指示する。	ISBN	完全攻略！TOEFL ITP テスト模試 4 回分　改訂

	水2 クラス1・2・3 書名：TOEIC(R) L&R テスト 至高の模試 600 問（通年使用）、著者名：ヒロ前田、出版社：ALC、出版年：2017 書名：TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック（通年使用）、著者：ETS、出版社：IIBC、出版年：2019 水2 クラス①（TOEFL、一般学生＋留学生クラス、交換留学を希望する学生） 書名：完全攻略！TOEFL ITP テスト模試 4 回分 改訂版（通年使用）、著者名：ワーデン，ポール他、出版社：ALC、出版年：2022 書名：完全攻略！完全攻略 TOEFL ITP(R)テストリーディング（通年使用）、著者名：田中真紀子、出版社：ALC、出版年：2016 水2 クラス②（留学生クラス＋一般学生クラス） 書名：【別冊模試・音声 DL 付】TOEIC(R) L&R テスト「直前」模試 3 回分（通年使用）、著者名：テッド 寺倉他、出版社：ALC、出版年： 2019		版 ISBN 9784757426221 完全攻略！完全攻略 TOEFL ITP(R)テストリーディング ISBN 9784757426702 【別冊模試・音声 DL 付】TOEIC(R) L&R テスト「直前」模試 3 回分 ISBN 9784757433540 TOEIC(R) L&R テスト 至高の模試 600 問 ISBN 9784757428997 TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック ISBN 978490603356
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	60
	その他の内容	レビュークイズ：20% TOEIC®L＆R（TOEFL クラスは TOEIC 或いは TOEFL 試験結果）：40%
この科目の受講にあたって	授業中は、教員の指示がない限り、携帯電話、スマートフォン及び通信機能を持つ機器のアプリ使用は、一切禁止する（カバンの中にしまった状態）。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業概要、計画、成績評価についての説明。テキストの内容、学習方法の説明、また一部使用テキストが習熟度により違うため指定教材を説明する。	事後学修： ・至高の模試 TEST1 を初回授業内で説明する3回チャレンジ法の受験1回目のやり方で、時間制限内で受験する（4 時間）	4 時間
第2回	対面	TOEIC イントロダクション Part 1導入	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙復習、Part 1 指定の箇所を自己学習法で練習	4 時間
第3回	対面	語彙テスト①、TOEIC Part 1 自己学習法実践、文法:品詞の形	事後学修： ・語彙のテスト指定範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙復習、Part 1 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第4回	対面	語彙テスト②、TOEIC Part 2導入、文法:品詞の見分け問題	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙復習、Part 2 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間

第５回	対面	語彙テスト③、TOEIC Part 2 自己学習法実践、文法：動詞の形	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲復習、Part２指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第６回	対面	語彙テスト④、TOEIC Part 2 自己学習法実践、文法：本動詞の問題	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part２指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第７回	対面	語彙テスト⑤、TOEIC Part ３ 導入、文法：代名詞の格	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 3 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第８回	対面	語彙テスト⑥、TOEIC Part 3 自己学習法実践、文法：接続詞	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 3 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第９回	対面	語彙テスト⑦、TOEIC Part 3 自己学習法実践、Part 5/6 学習法実践	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 3 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第１０回	対面	語彙テスト⑧、TOEIC Part 4 導入、 Part 5/6 学習法実践	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 4 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第１１回	対面	語彙テスト⑨、TOEIC Part 4 自己学習法実践、Part 7 学習法実践	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 4 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第１２回	対面	語彙テスト⑩、TOEIC Part 4 自己学習法実践、Part 7 学習法実践	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 4 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第１３回	対面	リスニング力全般強化、リーディング速読力強化	事後学修： ・TEST 1 リスニングセクション の総復習	4 時間
第１４回	対面	リーディング速読力強化、レビュークイズ	事後学修： ・TEST 1 リーディングセクションの総復習	4 時間
第１５回	オンデマンド	学習の総まとめ	事後学修： ・至高の模試 TEST １の３回チャレンジ法の受験３回目のやり方で、制限時間内で受験する、間違えた問題を復習する	4 時間

科目名	Exam Prep. Ⅲ	開講年度	2025
担当者	本多　善	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	TOEIC 或いは TOEFL 学習素材を活用して英語力を強化し、コミュニケーションに必要な英語運用力の土台を作る。		
授業の目的及び概要	本講義は、英語の 4 技能を総合的に強化し、TOEIC L&R で 450（クラスにより 600）以上、TOEFL クラスについては、Listening/SWE(Structure and Written Expression)/Reading において B1 以上を目標とする。 ・TOEIC 或いは TOEFL テスト形式の問題を解き、対策を学んで、スコアアップを図る。 ・TOEIC 或いは TOEFL スコアアップに必須となる自己学習法を修得する。 ・頻出語彙の強化のため毎回語彙テストを実施し語彙の用法や音声まで修得する。 ・本学担当教員の授業計画のもと、水 2 のクラス 2・3、水 2 のクラス①（留学生＋TOEFL クラス）・クラス②（留学生クラス＋一般学生クラス）は、株式会社アルクの英語講師が授業を実施する。		
履修条件・留意点	この授業科目は、TOEIC®L &R、TOEFL® ITP に対応した科目であり、英語力の向上を目指す学生を対象とします。国際学部生はこれまでの TOEIC スコアを基に事前にクラス分けを実施し事前登録します。また経済・経営・法学部生も履修が可能です。1 年次の必修英語で中級クラスは水 2 クラス 1、初級クラスは水 2 クラス 2、基礎クラスは水 2 クラス 3 を推奨します。また、水 2 クラス②（留学生クラス＋一般学生クラス）は、留学生及び一部クラス分けにより事前登録した学生のクラスです。経済・経営・法・国際学部の留学生の方で英語を学修したい方は、積極的に水 2 クラス②（留学生クラス＋一般学生クラス）を履修しましょう。また、水 2 クラス①（TOEFL、一般学生＋留学生クラス、交換留学を希望する学生）は Advanced クラスとして、TOEFL を学修します。交換留学を目指す学生の方、並びに今後、TOEFL 学修をしたい方、英語力が高い留学生の方は積極的に履修ください。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①～④への取組を通して、TOEIC L&R で 450（クラスにより 600）以上、TOEFL クラスについては、Listening/SWE/Reading において B1 以上を達成する。 ①語彙力と文法力の強化 小テスト(TOEIC 頻出単語)において、毎回８０%以上の正答率を達成する。 ②TOEIC・TOEFL に対応したリスニング力の向上 TOEIC リスニングセクションで、約 60%程度の主要な情報（登場人物の行動、場面の設定、話題の概要など）を理解することができる。 ③TOEIC・TOEFL に対応したリーディング力の向上 TOEIC・TOEFL で出題される文章の形式に慣れて約 60%程度の要点を理解することができる。 ④自立的な学修 必ず目標スコアを達成するという強い目的意識を持ち、課題を着実にこなし、主体的かつ計画的に学修に取り組む。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の確認テストについてフィードバックをおこなう。課題、発表、総括テストについて、各自へのフィードバックを実施する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	当該科目は習熟度別クラスであり、テキストについては第一回目の授業並びに教科書販売リストにおいて、各クラス別に指示する。	ISBN	完全攻略！TOEFL ITP テスト模試 4 回分　改訂

	水2 クラス1・2・3 書名：TOEIC(R) L&R テスト 至高の模試 600 問（通年使用）、著者名：ヒロ前田、出版社：ALC、出版年：2017 書名：TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック（通年使用）、著者：ETS、出版社：IIBC、出版年：2019 水2 クラス①（TOEFL、一般学生＋留学生クラス、交換留学を希望する学生） 書名：完全攻略！TOEFL ITP テスト模試 4 回分 改訂版（通年使用）、著者名：ワーデン，ポール他、出版社：ALC、出版年：2022 書名：完全攻略！完全攻略 TOEFL ITP(R)テストリーディング（通年使用）、著者名：田中真紀子、出版社：ALC、出版年：2016 水2 クラス②（留学生クラス＋一般学生クラス） 書名：【別冊模試・音声 DL 付】TOEIC(R) L&R テスト「直前」模試 3 回分（通年使用）、著者名：テッド 寺倉他、出版社：ALC、出版年： 2019		版 ISBN 9784757426221 完全攻略！完全攻略 TOEFL ITP(R)テストリーディング ISBN 9784757426702 【別冊模試・音声 DL 付】TOEIC(R) L&R テスト「直前」模試 3 回分 ISBN 9784757433540 TOEIC(R) L&R テスト 至高の模試 600 問 ISBN 9784757428997 TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック ISBN 978490603356
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	60
	その他の内容	レビュークイズ：20% TOEIC®L＆R（TOEFL クラスは TOEIC 或いは TOEFL 試験結果）：40%
この科目の受講にあたって	授業中は、教員の指示がない限り、携帯電話、スマートフォン及び通信機能を持つ機器のアプリ使用は、一切禁止する（カバンの中にしまった状態）。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業概要、計画、成績評価についての説明。テキストの内容、学習方法の説明、また一部使用テキストが習熟度により違うため指定教材を説明する。	事後学修： ・至高の模試 TEST1 を初回授業内で説明する3回チャレンジ法の受験1回目のやり方で、時間制限内で受験する（4 時間）	4 時間
第2回	対面	TOEIC イントロダクション Part 1導入	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙復習、Part 1 指定の箇所を自己学習法で練習	4 時間
第3回	対面	語彙テスト①、TOEIC Part 1 自己学習法実践、文法:品詞の形	事後学修： ・語彙のテスト指定範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙復習、Part 1 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第4回	対面	語彙テスト②、TOEIC Part 2導入、文法:品詞の見分け問題	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙復習、Part 2 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間

第５回	対面	語彙テスト③、TOEIC Part 2 自己学習法実践、文法：動詞の形	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲復習、Part２指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第６回	対面	語彙テスト④、TOEIC Part 2 自己学習法実践、文法：本動詞の問題	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part２指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第７回	対面	語彙テスト⑤、TOEIC Part ３ 導入、文法：代名詞の格	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 3 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第８回	対面	語彙テスト⑥、TOEIC Part 3 自己学習法実践、文法：接続詞	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 3 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第９回	対面	語彙テスト⑦、TOEIC Part 3 自己学習法実践、Part 5/6 学習法実践	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 3 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第１０回	対面	語彙テスト⑧、TOEIC Part 4 導入、 Part 5/6 学習法実践	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 4 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第１１回	対面	語彙テスト⑨、TOEIC Part 4 自己学習法実践、Part 7 学習法実践	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 4 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第１２回	対面	語彙テスト⑩、TOEIC Part 4 自己学習法実践、Part 7 学習法実践	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 4 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第１３回	対面	リスニング力全般強化、リーディング速読力強化	事後学修： ・TEST 1 リスニングセクション の総復習	4 時間
第１４回	対面	リーディング速読力強化、レビュークイズ	事後学修： ・TEST 1 リーディングセクションの総復習	4 時間
第１５回	オンデマンド	学習の総まとめ	事後学修： ・至高の模試 TEST １の３回チャレンジ法の受験３回目のやり方で、制限時間内で受験する、間違えた問題を復習する	4 時間

科目名	Exam Prep. Ⅲ	開講年度	2025
担当者	本多　善	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	TOEIC 或いは TOEFL 学習素材を活用して英語力を強化し、コミュニケーションに必要な英語運用力の土台を作る。		
授業の目的及び概要	本講義は、英語の 4 技能を総合的に強化し、TOEIC L&R で 450（クラスにより 600）以上、TOEFL クラスについては、Listening/SWE(Structure and Written Expression)/Reading において B1 以上を目標とする。 ・TOEIC 或いは TOEFL テスト形式の問題を解き、対策を学んで、スコアアップを図る。 ・TOEIC 或いは TOEFL スコアアップに必須となる自己学習法を修得する。 ・頻出語彙の強化のため毎回語彙テストを実施し語彙の用法や音声まで修得する。 ・本学担当教員の授業計画のもと、水 2 のクラス 2・3、水 2 のクラス①（留学生＋TOEFL クラス）・クラス②（留学生クラス＋一般学生クラス）は、株式会社アルクの英語講師が授業を実施する。		
履修条件・留意点	この授業科目は、TOEIC®L &R、TOEFL® ITP に対応した科目であり、英語力の向上を目指す学生を対象とします。国際学部生はこれまでの TOEIC スコアを基に事前にクラス分けを実施し事前登録します。また経済・経営・法学部生も履修が可能です。1 年次の必修英語で中級クラスは水 2 クラス 1、初級クラスは水 2 クラス 2、基礎クラスは水 2 クラス 3 を推奨します。また、水 2 クラス②（留学生クラス＋一般学生クラス）は、留学生及び一部クラス分けにより事前登録した学生のクラスです。経済・経営・法・国際学部の留学生の方で英語を学修したい方は、積極的に水 2 クラス②（留学生クラス＋一般学生クラス）を履修しましょう。また、水 2 クラス①（TOEFL、一般学生＋留学生クラス、交換留学を希望する学生）は Advanced クラスとして、TOEFL を学修します。交換留学を目指す学生の方、並びに今後、TOEFL 学修をしたい方、英語力が高い留学生の方は積極的に履修ください。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①～④への取組を通して、TOEIC L&R で 450（クラスにより 600）以上、TOEFL クラスについては、Listening/SWE/Reading において B1 以上を達成する。 ①語彙力と文法力の強化 小テスト(TOEIC 頻出単語)において、毎回８０%以上の正答率を達成する。 ②TOEIC・TOEFL に対応したリスニング力の向上 TOEIC リスニングセクションで、約 60%程度の主要な情報（登場人物の行動、場面の設定、話題の概要など）を理解することができる。 ③TOEIC・TOEFL に対応したリーディング力の向上 TOEIC・TOEFL で出題される文章の形式に慣れて約 60%程度の要点を理解することができる。 ④自立的な学修 必ず目標スコアを達成するという強い目的意識を持ち、課題を着実にこなし、主体的かつ計画的に学修に取り組む。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の確認テストについてフィードバックをおこなう。課題、発表、総括テストについて、各自へのフィードバックを実施する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	当該科目は習熟度別クラスであり、テキストについては第一回目の授業並びに教科書販売リストにおいて、各クラス別に指示する。	ISBN	完全攻略！TOEFL ITP テスト模試 4 回分　改訂

	水2 クラス1・2・3 書名：TOEIC(R) L&R テスト 至高の模試 600 問（通年使用）、著者名：ヒロ前田、出版社：ALC、出版年：2017 書名：TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック（通年使用）、著者：ETS、出版社：IIBC、出版年：2019 水2 クラス①（TOEFL、一般学生＋留学生クラス、交換留学を希望する学生） 書名：完全攻略！TOEFL ITP テスト模試 4 回分 改訂版（通年使用）、著者名：ワーデン，ポール他、出版社：ALC、出版年：2022 書名：完全攻略！完全攻略 TOEFL ITP(R)テストリーディング（通年使用）、著者名：田中真紀子、出版社：ALC、出版年：2016 水2 クラス②（留学生クラス＋一般学生クラス） 書名：【別冊模試・音声 DL 付】TOEIC(R) L&R テスト「直前」模試 3 回分（通年使用）、著者名：テッド 寺倉他、出版社：ALC、出版年： 2019		版 ISBN 9784757426221 完全攻略！完全攻略 TOEFL ITP(R)テストリーディング ISBN 9784757426702 【別冊模試・音声 DL 付】TOEIC(R) L&R テスト「直前」模試 3 回分 ISBN 9784757433540 TOEIC(R) L&R テスト 至高の模試 600 問 ISBN 9784757428997 TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック ISBN 978490603356
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	60
	その他の内容	レビュークイズ：20% TOEIC®L＆R（TOEFL クラスは TOEIC 或いは TOEFL 試験結果）：40%
この科目の受講にあたって	授業中は、教員の指示がない限り、携帯電話、スマートフォン及び通信機能を持つ機器のアプリ使用は、一切禁止する（カバンの中にしまった状態）。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業概要、計画、成績評価についての説明。テキストの内容、学習方法の説明、また一部使用テキストが習熟度により違うため指定教材を説明する。	事後学修： ・至高の模試 TEST1 を初回授業内で説明する3回チャレンジ法の受験1回目のやり方で、時間制限内で受験する（4 時間）	4 時間
第2回	対面	TOEIC イントロダクション Part 1 導入	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙復習、Part 1 指定の箇所を自己学習法で練習	4 時間
第3回	対面	語彙テスト①、TOEIC Part 1 自己学習法実践、文法:品詞の形	事後学修： ・語彙のテスト指定範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙復習、Part 1 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第4回	対面	語彙テスト②、TOEIC Part 2 導入、文法:品詞の見分け問題	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙復習、Part 2 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間

第５回	対面	語彙テスト③、TOEIC Part 2 自己学習法実践、文法：動詞の形	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲復習、Part２指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第６回	対面	語彙テスト④、TOEIC Part 2 自己学習法実践、文法：本動詞の問題	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part２指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第７回	対面	語彙テスト⑤、TOEIC Part ３ 導入、文法：代名詞の格	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 3 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第８回	対面	語彙テスト⑥、TOEIC Part 3 自己学習法実践、文法：接続詞	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 3 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第９回	対面	語彙テスト⑦、TOEIC Part 3 自己学習法実践、Part 5/6 学習法実践	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 3 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第１０回	対面	語彙テスト⑧、TOEIC Part 4 導入、 Part 5/6 学習法実践	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 4 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第１１回	対面	語彙テスト⑨、TOEIC Part 4 自己学習法実践、Part 7 学習法実践	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 4 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第１２回	対面	語彙テスト⑩、TOEIC Part 4 自己学習法実践、Part 7 学習法実践	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 4 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第１３回	対面	リスニング力全般強化、リーディング速読力強化	事後学修： ・TEST 1 リスニングセクション の総復習	4 時間
第１４回	対面	リーディング速読力強化、レビュークイズ	事後学修： ・TEST 1 リーディングセクションの総復習	4 時間
第１５回	オンデマンド	学習の総まとめ	事後学修： ・至高の模試 TEST 1の３回チャレンジ法の受験３回目のやり方で、制限時間内で受験する、間違えた問題を復習する	4 時間

科目名	Exam Prep. Ⅲ	開講年度	2025
担当者	本多　善	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	TOEIC 或いは TOEFL 学習素材を活用して英語力を強化し、コミュニケーションに必要な英語運用力の土台を作る。		
授業の目的及び概要	本講義は、英語の 4 技能を総合的に強化し、TOEIC L&R で 450（クラスにより 600）以上、TOEFL クラスについては、Listening/SWE(Structure and Written Expression)/Reading において B1 以上を目標とする。 ・TOEIC 或いは TOEFL テスト形式の問題を解き、対策を学んで、スコアアップを図る。 ・TOEIC 或いは TOEFL スコアアップに必須となる自己学習法を修得する。 ・頻出語彙の強化のため毎回語彙テストを実施し語彙の用法や音声まで修得する。 ・本学担当教員の授業計画のもと、水 2 のクラス 2・3、水 2 のクラス①（留学生＋TOEFL クラス）・クラス②（留学生クラス＋一般学生クラス）は、株式会社アルクの英語講師が授業を実施する。		
履修条件・留意点	この授業科目は、TOEIC®L &R、TOEFL® ITP に対応した科目であり、英語力の向上を目指す学生を対象とします。国際学部生はこれまでの TOEIC スコアを基に事前にクラス分けを実施し事前登録します。また経済・経営・法学部生も履修が可能です。1 年次の必修英語で中級クラスは水 2 クラス 1、初級クラスは水 2 クラス 2、基礎クラスは水 2 クラス 3 を推奨します。また、水 2 クラス②（留学生クラス＋一般学生クラス）は、留学生及び一部クラス分けにより事前登録した学生のクラスです。経済・経営・法・国際学部の留学生の方で英語を学修したい方は、積極的に水 2 クラス②（留学生クラス＋一般学生クラス）を履修しましょう。また、水 2 クラス①（TOEFL、一般学生＋留学生クラス、交換留学を希望する学生）は Advanced クラスとして、TOEFL を学修します。交換留学を目指す学生の方、並びに今後、TOEFL 学修をしたい方、英語力が高い留学生の方は積極的に履修ください。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①～④への取組を通して、TOEIC L&R で 450（クラスにより 600）以上、TOEFL クラスについては、Listening/SWE/Reading において B1 以上を達成する。 ①語彙力と文法力の強化 小テスト(TOEIC 頻出単語)において、毎回８０%以上の正答率を達成する。 ②TOEIC・TOEFL に対応したリスニング力の向上 TOEIC リスニングセクションで、約 60%程度の主要な情報（登場人物の行動、場面の設定、話題の概要など）を理解することができる。 ③TOEIC・TOEFL に対応したリーディング力の向上 TOEIC・TOEFL で出題される文章の形式に慣れて約 60%程度の要点を理解することができる。 ④自立的な学修 必ず目標スコアを達成するという強い目的意識を持ち、課題を着実にこなし、主体的かつ計画的に学修に取り組む。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の確認テストについてフィードバックをおこなう。課題、発表、総括テストについて、各自へのフィードバックを実施する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	当該科目は習熟度別クラスであり、テキストについては第一回目の授業並びに教科書販売リストにおいて、各クラス別に指示する。	ISBN	完全攻略！TOEFL ITP テスト模試 4 回分　改訂

	水2 クラス1・2・3 書名：TOEIC(R) L&R テスト 至高の模試 600 問（通年使用）、著者名：ヒロ前田、出版社：ALC、出版年：2017 書名：TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック（通年使用）、著者：ETS、出版社：IIBC、出版年：2019 水2 クラス①（TOEFL、一般学生＋留学生クラス、交換留学を希望する学生） 書名：完全攻略！TOEFL ITP テスト模試 4 回分 改訂版（通年使用）、著者名：ワーデン，ポール他、出版社：ALC、出版年：2022 書名：完全攻略！完全攻略 TOEFL ITP(R)テストリーディング（通年使用）、著者名：田中真紀子、出版社：ALC、出版年：2016 水2 クラス②（留学生クラス＋一般学生クラス） 書名：【別冊模試・音声 DL 付】TOEIC(R) L&R テスト「直前」模試 3 回分（通年使用）、著者名：テッド 寺倉他、出版社：ALC、出版年： 2019		版 ISBN 9784757426221 完全攻略！完全攻略 TOEFL ITP(R)テストリーディング ISBN 9784757426702 【別冊模試・音声 DL 付】TOEIC(R) L&R テスト「直前」模試 3 回分 ISBN 9784757433540 TOEIC(R) L&R テスト 至高の模試 600 問 ISBN 9784757428997 TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック ISBN 978490603356
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	60
	その他の内容	レビュークイズ：20% TOEIC®L＆R（TOEFL クラスは TOEIC 或いは TOEFL 試験結果）：40%
この科目の受講にあたって	授業中は、教員の指示がない限り、携帯電話、スマートフォン及び通信機能を持つ機器のアプリ使用は、一切禁止する（カバンの中にしまった状態）。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業概要、計画、成績評価についての説明。テキストの内容、学習方法の説明、また一部使用テキストが習熟度により違うため指定教材を説明する。	事後学修： ・至高の模試 TEST1 を初回授業内で説明する3回チャレンジ法の受験1回目のやり方で、時間制限内で受験する（4 時間）	4 時間
第2回	対面	TOEIC イントロダクション Part 1導入	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙復習、Part 1 指定の箇所を自己学習法で練習	4 時間
第3回	対面	語彙テスト①、TOEIC Part 1 自己学習法実践、文法:品詞の形	事後学修： ・語彙のテスト指定範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙復習、Part 1 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第4回	対面	語彙テスト②、TOEIC Part 2導入、文法:品詞の見分け問題	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙復習、Part 2 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間

第５回	対面	語彙テスト③、TOEIC Part 2 自己学習法実践、文法：動詞の形	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲復習、Part２指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第６回	対面	語彙テスト④、TOEIC Part 2 自己学習法実践、文法：本動詞の問題	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part２指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第７回	対面	語彙テスト⑤、TOEIC Part ３ 導入、文法：代名詞の格	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 3 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第８回	対面	語彙テスト⑥、TOEIC Part 3 自己学習法実践、文法：接続詞	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 3 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第９回	対面	語彙テスト⑦、TOEIC Part 3 自己学習法実践、Part 5/6 学習法実践	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 3 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第１０回	対面	語彙テスト⑧、TOEIC Part 4 導入、 Part 5/6 学習法実践	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 4 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第１１回	対面	語彙テスト⑨、TOEIC Part 4 自己学習法実践、Part 7 学習法実践	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 4 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第１２回	対面	語彙テスト⑩、TOEIC Part 4 自己学習法実践、Part 7 学習法実践	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 4 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第１３回	対面	リスニング力全般強化、リーディング速読力強化	事後学修： ・TEST 1 リスニングセクション の総復習	4 時間
第１４回	対面	リーディング速読力強化、レビュークイズ	事後学修： ・TEST 1 リーディングセクションの総復習	4 時間
第１５回	オンデマンド	学習の総まとめ	事後学修： ・至高の模試 TEST １の３回チャレンジ法の受験３回目のやり方で、制限時間内で受験する、間違えた問題を復習する	4 時間

科目名	Exam Prep. Ⅲ	開講年度	2025
担当者	本多　善	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	TOEIC 或いは TOEFL 学習素材を活用して英語力を強化し、コミュニケーションに必要な英語運用力の土台を作る。		
授業の目的及び概要	本講義は、英語の 4 技能を総合的に強化し、TOEIC L&R で 450（クラスにより 600）以上、TOEFL クラスについては、Listening/SWE(Structure and Written Expression)/Reading において B1 以上を目標とする。 ・TOEIC 或いは TOEFL テスト形式の問題を解き、対策を学んで、スコアアップを図る。 ・TOEIC 或いは TOEFL スコアアップに必須となる自己学習法を修得する。 ・頻出語彙の強化のため毎回語彙テストを実施し語彙の用法や音声まで修得する。 ・本学担当教員の授業計画のもと、水 2 のクラス 2・3、水 2 のクラス①（留学生＋TOEFL クラス）・クラス②（留学生クラス＋一般学生クラス）は、株式会社アルクの英語講師が授業を実施する。		
履修条件・留意点	この授業科目は、TOEIC®L &R、TOEFL® ITP に対応した科目であり、英語力の向上を目指す学生を対象とします。国際学部生はこれまでの TOEIC スコアを基に事前にクラス分けを実施し事前登録します。また経済・経営・法学部生も履修が可能です。1 年次の必修英語で中級クラスは水 2 クラス 1、初級クラスは水 2 クラス 2、基礎クラスは水 2 クラス 3 を推奨します。また、水 2 クラス②（留学生クラス＋一般学生クラス）は、留学生及び一部クラス分けにより事前登録した学生のクラスです。経済・経営・法・国際学部の留学生の方で英語を学修したい方は、積極的に水 2 クラス②（留学生クラス＋一般学生クラス）を履修しましょう。また、水 2 クラス①（TOEFL、一般学生＋留学生クラス、交換留学を希望する学生）は Advanced クラスとして、TOEFL を学修します。交換留学を目指す学生の方、並びに今後、TOEFL 学修をしたい方、英語力が高い留学生の方は積極的に履修ください。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①～④への取組を通して、TOEIC L&R で 450（クラスにより 600）以上、TOEFL クラスについては、Listening/SWE/Reading において B1 以上を達成する。 ①語彙力と文法力の強化 小テスト(TOEIC 頻出単語)において、毎回８０%以上の正答率を達成する。 ②TOEIC・TOEFL に対応したリスニング力の向上 TOEIC リスニングセクションで、約 60%程度の主要な情報（登場人物の行動、場面の設定、話題の概要など）を理解することができる。 ③TOEIC・TOEFL に対応したリーディング力の向上 TOEIC・TOEFL で出題される文章の形式に慣れて約 60%程度の要点を理解することができる。 ④自立的な学修 必ず目標スコアを達成するという強い目的意識を持ち、課題を着実にこなし、主体的かつ計画的に学修に取り組む。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の確認テストについてフィードバックをおこなう。課題、発表、総括テストについて、各自へのフィードバックを実施する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	当該科目は習熟度別クラスであり、テキストについては第一回目の授業並びに教科書販売リストにおいて、各クラス別に指示する。	ISBN	完全攻略！TOEFL ITP テスト模試 4 回分　改訂

	水2 クラス1・2・3 書名：TOEIC(R) L&R テスト 至高の模試600問（通年使用）、著者名：ヒロ前田、出版社：ALC、出版年：2017 書名：TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック（通年使用）、著者：ETS、出版社：IIBC、出版年：2019 水2 クラス①（TOEFL、一般学生＋留学生クラス、交換留学を希望する学生） 書名：完全攻略！TOEFL ITP テスト模試4回分 改訂版（通年使用）、著者名：ワーデン，ポール他、出版社：ALC、出版年：2022 書名：完全攻略！完全攻略 TOEFL ITP(R)テストリーディング（通年使用）、著者名：田中真紀子、出版社：ALC、出版年：2016 水2 クラス②（留学生クラス＋一般学生クラス） 書名：【別冊模試・音声 DL 付】TOEIC(R) L&R テスト「直前」模試3回分（通年使用）、著者名：テッド 寺倉他、出版社：ALC、出版年： 2019		版 ISBN 9784757426221 完全攻略！完全攻略 TOEFL ITP(R)テストリーディング ISBN 9784757426702 【別冊模試・音声 DL 付】TOEIC(R) L&R テスト「直前」模試 3 回分 ISBN 9784757433540 TOEIC(R) L&R テスト 至高の模試 600 問 ISBN 9784757428997 TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック ISBN 978490603356
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	60
	その他の内容	レビュークイズ：20% TOEIC®L＆R（TOEFL クラスは TOEIC 或いは TOEFL 試験結果）：40%
この科目の受講にあたって	授業中は、教員の指示がない限り、携帯電話、スマートフォン及び通信機能を持つ機器のアプリ使用は、一切禁止する（カバンの中にしまった状態）。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業概要、計画、成績評価についての説明。テキストの内容、学習方法の説明、また一部使用テキストが習熟度により違うため指定教材を説明する。	事後学修： ・至高の模試 TEST1 を初回授業内で説明する3回チャレンジ法の受験1回目のやり方で、時間制限内で受験する（4時間）	4時間
第2回	対面	TOEIC イントロダクション Part 1導入	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙復習、Part 1指定の箇所を自己学習法で練習	4時間
第3回	対面	語彙テスト①、TOEIC Part 1 自己学習法実践、文法:品詞の形	事後学修： ・語彙のテスト指定範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙復習、Part 1指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4時間
第4回	対面	語彙テスト②、TOEIC Part 2導入、文法:品詞の見分け問題	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙復習、Part 2指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4時間

第５回	対面	語彙テスト③、TOEIC Part 2 自己学習法実践、文法：動詞の形	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲復習、Part２指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第６回	対面	語彙テスト④、TOEIC Part 2 自己学習法実践、文法：本動詞の問題	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part２指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第７回	対面	語彙テスト⑤、TOEIC Part ３ 導入、文法：代名詞の格	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 3 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第８回	対面	語彙テスト⑥、TOEIC Part 3 自己学習法実践、文法：接続詞	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 3 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第９回	対面	語彙テスト⑦、TOEIC Part 3 自己学習法実践、Part 5/6 学習法実践	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 3 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第１０回	対面	語彙テスト⑧、TOEIC Part 4 導入、 Part 5/6 学習法実践	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 4 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第１１回	対面	語彙テスト⑨、TOEIC Part 4 自己学習法実践、Part 7 学習法実践	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 4 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第１２回	対面	語彙テスト⑩、TOEIC Part 4 自己学習法実践、Part 7 学習法実践	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 4 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第１３回	対面	リスニング力全般強化、リーディング速読力強化	事後学修： ・TEST 1 リスニングセクション の総復習	4 時間
第１４回	対面	リーディング速読力強化、レビュークイズ	事後学修： ・TEST 1 リーディングセクションの総復習	4 時間
第１５回	オンデマンド	学習の総まとめ	事後学修： ・至高の模試 TEST 1の３回チャレンジ法の受験３回目のやり方で、制限時間内で受験する、間違えた問題を復習する	4 時間

科目名	世界史概論	開講年度	2025
担当者	中尾　恭三	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	現代世界形成の歴史		
授業の目的及び概要	現代社会の諸問題の形成に関わる歴史の大きな変化、とりわけ地域間・事件間の相関関係の変化に主眼を置き、異なる地域においての文化や文明の成長、とくにその相互間の交流によってそれぞれ変化していく歴史を大局的に捉え、歴史時期において国際社会に大きな影響を与えた代表的な事件の発生原因とその結果を中心に学修する。とくに、以下の２点に対し重点的に考察し説明する。それは、地球上には多様多種な文明や文化が存在し、それぞれ独自の発展変化を歩んできたこと、異なった文化背景をもつ民族間・人種間の絶え間ない移動・交易・交流によって地域、そして世界を形成されていたこと、である。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①シルクロードで代表される歴史上の東西交易、南米からの銀の流れによって地球規模の交流開始などといった歴史の大きな流れをつかむことができる。 ②時代のターニングポイントに重点を置き、時代変化を分析する方法を学ぶことができる。 ③現代社会の諸課題について考えるに際して、歴史的視点を用いることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の講義後、テーマにそった確認小テストを実施するとともに、ラーニング・ポータルのディスカッションやアンケートの機能を使って、学生の反応や質問を収集する。その後、学生の小テスト解答、質問、感想などを紹介しつつ、コメントと課題の解説を行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	『明解歴史総合図説シンフォニア』(四訂版)、帝国書院編集部、帝国書院、2025 年	ISBN	9784807167463
参考書	①『もういちど読む山川世界現代史』, 木谷勤, 山川出版社, 2015 年 ②『世界史年表・地図（2024 年版)』, 亀井高孝ほか, 吉川弘文館, 2024 年 ③『世界史用語集 改訂版』, 全国歴史教育研究協議会, 山川出版社, 2022 年	ISBN	①9784634640689 ②9784642095691 ③9784634033054

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	60
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	30
	その他（%）	0
	その他の内容	0
この科目の受講に	①パソコンを必携すること ②教員の説明を聞いて、自ら思考をすること	

あたって	＊歴史学は年表片手で丸暗記の学問ではない。歴史学は史料のもとで人類の歩みを分析・検討し、流動する現実と未来を見極めようとしている。諸君は授業に積極的に出席し、各々の時代の「何故？」「それで？」について探求してみよう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション：世界史概論って何を学修するのか、地域世界	テキストの指定部分と配布資料を読んで、講義内容を整理する。	1 時間
第２回	対面	近代以前の世界：銀の時代の到来、16、17 世界の地域世界間の交流	テキストの指定部分と配布資料を読んで、講義内容を整理する。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。	4 時間
第３回	対面	近代世界システム（１）：欧州の工業化	テキストの指定部分と配布資料を読んで、講義内容を整理する。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。	4 時間
第４回	対面	近代世界システム（２）：アジアの植民地化	テキストの指定部分と配布資料を読んで、講義内容を整理する。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。	4 時間
第５回	対面	近代世界システム（３）：アジア間貿易の展開	テキストの指定部分とと配布資料を読んで、講義内容を整理する。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。	4 時間
第６回	対面	帝国主義の時代（１）：第一次世界大戦の原因	テキストの指定部分とと配布資料を読んで、講義内容を整理する。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。	4 時間
第７回	対面	帝国主義の時代（２）：ヴェルサイユ体制と民族解放闘争	テキストの指定部分とと配布資料を読んで、講義内容を整理する。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。	4 時間
第８回	対面	国際秩序の変化（１）：世界恐慌と全体主義の台頭	テキストの指定部分と配布資料を読んで、講義内容を整理する。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。	4 時間
第９回	対面	国際秩序の変化（２）：太平洋戦争とアジア諸国の抵抗	テキストの指定部分と配布資料を読んで、講義内容を整理する。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。	4 時間
第１０回	対面	戦後国際秩序の変化（１）：第二次世界大戦後の国際秩序	テキストの指定部分と配布資料を読んで、講義内容を整理する。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。	4 時間
第１１回	対面	戦後国際秩序の変化（２）：植民地の独立と新たな課題	テキストの指定部分と配布資料を読んで、講義内容を整理する。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。	4 時間
第１２回	対面	現代世界の様態（１）：現代世界の多極構造	テキストの指定部分と配布資料を読んで、講義内容を整理する。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。	4 時間
第１３回	対面	現代世界の様態（２）：東アジアの奇跡	テキストの指定部分と配布資料を読んで、講義内容を整理する。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。	5 時間
第１４回	対面	現代世界の様態（３）：グローバル化する現代社会	テキストの指定部分と配布資料を読んで、講義内容を整理する。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。	5 時間
第１５回	オンデマンド	まとめ・期末試験復習	これまでの配布資料を整理したうえ、復習を行う。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。 ＊履修者の理解度を把握しながら、オンデマンド授業の実施時期を含む授業計画の調整することはありうる。	5 時間

科目名	世界史概論	開講年度	2025
担当者	伍　躍	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	現代世界形成の歴史		
授業の目的及び概要	現代社会の諸問題の形成に関わる歴史の大きな変化、とりわけ地域間・事件間の相関関係の変化に主眼を置き、異なる地域においての文化や文明の成長、とくにその相互間の交流によってそれぞれ変化していく歴史を大局的に捉え、歴史時期において国際社会に大きな影響を与えた代表的な事件の発生原因とその結果を中心に学修する。とくに、以下の２点に対し重点的に考察し説明する。それは、地球上には多様多種な文明や文化が存在し、それぞれ独自の発展変化を歩んできたこと、異なった文化背景をもつ民族間・人種間の絶え間ない移動・交易・交流によって地域、そして世界を形成されていたこと、である。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①シルクロードで代表される歴史上の東西交易、南米からの銀の流れによって地球規模の交流開始などといった歴史の大きな流れをつかむことができる。 ②時代のターニングポイントに重点を置き、時代変化を分析する方法を学ぶことができる。 ③現代社会の諸課題について考えるに際して、歴史的視点を用いることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の講義後、テーマにそった確認小テストを実施するとともに、ラーニング・ポータルのディスカッションやアンケートの機能を使って、学生の反応や質問を収集する。その後、学生の小テスト解答、質問、感想などを紹介しつつ、コメントと課題の解説を行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	『明解歴史総合図説シンフォニア』(四訂版)、帝国書院編集部、帝国書院、2025 年	ISBN	9784807167463
参考書	①『もういちど読む山川世界現代史』, 木谷勤, 山川出版社, 2015 年 ②『世界史年表・地図（2024 年版)』, 亀井高孝ほか, 吉川弘文館, 2024 年 ③『世界史用語集 改訂版』, 全国歴史教育研究協議会, 山川出版社, 2022 年	ISBN	①9784634640689 ②9784642095691 ③9784634033054

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	60
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	30
	その他（%）	0
	その他の内容	0
この科目の受講に	①パソコンを必携すること ②教員の説明を聞いて、自ら思考をすること	

あたって	＊歴史学は年表片手で丸暗記の学問ではない。歴史学は史料のもとで人類の歩みを分析・検討し、流動する現実と未来を見極めようとしている。諸君は授業に積極的に出席し、各々の時代の「何故？」「それで？」について探求してみよう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション：世界史概論って何を学修するのか、地域世界	テキストの指定部分と配布資料を読んで、講義内容を整理する。	1 時間
第２回	対面	近代以前の世界：銀の時代の到来、16、17 世界の地域世界間の交流	テキストの指定部分と配布資料を読んで、講義内容を整理する。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。	4 時間
第３回	対面	近代世界システム（１）：欧州の工業化	テキストの指定部分と配布資料を読んで、講義内容を整理する。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。	4 時間
第４回	対面	近代世界システム（２）：アジアの植民地化	テキストの指定部分と配布資料を読んで、講義内容を整理する。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。	4 時間
第５回	対面	近代世界システム（３）：アジア間貿易の展開	テキストの指定部分とと配布資料を読んで、講義内容を整理する。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。	4 時間
第６回	対面	帝国主義の時代（１）：第一次世界大戦の原因	テキストの指定部分とと配布資料を読んで、講義内容を整理する。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。	4 時間
第７回	対面	帝国主義の時代（２）：ヴェルサイユ体制と民族解放闘争	テキストの指定部分とと配布資料を読んで、講義内容を整理する。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。	4 時間
第８回	対面	国際秩序の変化（１）：世界恐慌と全体主義の台頭	テキストの指定部分と配布資料を読んで、講義内容を整理する。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。	4 時間
第９回	対面	国際秩序の変化（２）：太平洋戦争とアジア諸国の抵抗	テキストの指定部分と配布資料を読んで、講義内容を整理する。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。	4 時間
第１０回	対面	戦後国際秩序の変化（１）：第二次世界大戦後の国際秩序	テキストの指定部分と配布資料を読んで、講義内容を整理する。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。	4 時間
第１１回	対面	戦後国際秩序の変化（２）：植民地の独立と新たな課題	テキストの指定部分と配布資料を読んで、講義内容を整理する。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。	4 時間
第１２回	対面	現代世界の様態（１）：現代世界の多極構造	テキストの指定部分と配布資料を読んで、講義内容を整理する。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。	4 時間
第１３回	対面	現代世界の様態（２）：東アジアの奇跡	テキストの指定部分と配布資料を読んで、講義内容を整理する。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。	5 時間
第１４回	対面	現代世界の様態（３）：グローバル化する現代社会	テキストの指定部分と配布資料を読んで、講義内容を整理する。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。	5 時間
第１５回	オンデマンド	まとめ・期末試験復習	これまでの配布資料を整理したうえ、復習を行う。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。 ＊履修者の理解度を把握しながら、オンデマンド授業の実施時期を含む授業計画の調整することはありうる。	5 時間

科目名	世界史概論	開講年度	2025
担当者	中尾　恭三	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	現代世界形成の歴史		
授業の目的及び概要	現代社会の諸問題の形成に関わる歴史の大きな変化、とりわけ地域間・事件間の相関関係の変化に主眼を置き、異なる地域においての文化や文明の成長、とくにその相互間の交流によってそれぞれ変化していく歴史を大局的に捉え、歴史時期において国際社会に大きな影響を与えた代表的な事件の発生原因とその結果を中心に学修する。とくに、以下の２点に対し重点的に考察し説明する。それは、地球上には多様多種な文明や文化が存在し、それぞれ独自の発展変化を歩んできたこと、異なった文化背景をもつ民族間・人種間の絶え間ない移動・交易・交流によって地域、そして世界を形成されていたこと、である。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①シルクロードで代表される歴史上の東西交易、南米からの銀の流れによって地球規模の交流開始などといった歴史の大きな流れをつかむことができる。 ②時代のターニングポイントに重点を置き、時代変化を分析する方法を学ぶことができる。 ③現代社会の諸課題について考えるに際して、歴史的視点を用いることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の講義後、テーマにそった確認小テストを実施するとともに、ラーニング・ポータルのディスカッションやアンケートの機能を使って、学生の反応や質問を収集する。その後、学生の小テスト解答、質問、感想などを紹介しつつ、コメントと課題の解説を行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	『明解歴史総合図説シンフォニア』(四訂版)、帝国書院編集部、帝国書院、2025 年	ISBN	9784807167463
参考書	①『もういちど読む山川世界現代史』, 木谷勤, 山川出版社, 2015 年 ②『世界史年表・地図（2024 年版)』, 亀井高孝ほか, 吉川弘文館, 2024 年 ③『世界史用語集 改訂版』, 全国歴史教育研究協議会, 山川出版社, 2022 年	ISBN	①9784634640689 ②9784642095691 ③9784634033054

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	60
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	30
	その他（%）	0
	その他の内容	0
この科目の受講に	①パソコンを必携すること ②教員の説明を聞いて、自ら思考をすること	

あたって	＊歴史学は年表片手で丸暗記の学問ではない。歴史学は史料のもとで人類の歩みを分析・検討し、流動する現実と未来を見極めようとしている。諸君は授業に積極的に出席し、各々の時代の「何故？」「それで？」について探求してみよう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション：世界史概論って何を学修するのか、地域世界	テキストの指定部分と配布資料を読んで、講義内容を整理する。	1 時間
第２回	対面	近代以前の世界：銀の時代の到来、16、17 世界の地域世界間の交流	テキストの指定部分と配布資料を読んで、講義内容を整理する。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。	4 時間
第３回	対面	近代世界システム（１）：欧州の工業化	テキストの指定部分と配布資料を読んで、講義内容を整理する。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。	4 時間
第４回	対面	近代世界システム（２）：アジアの植民地化	テキストの指定部分と配布資料を読んで、講義内容を整理する。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。	4 時間
第５回	対面	近代世界システム（３）：アジア間貿易の展開	テキストの指定部分とと配布資料を読んで、講義内容を整理する。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。	4 時間
第６回	対面	帝国主義の時代（１）：第一次世界大戦の原因	テキストの指定部分とと配布資料を読んで、講義内容を整理する。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。	4 時間
第７回	対面	帝国主義の時代（２）：ヴェルサイユ体制と民族解放闘争	テキストの指定部分とと配布資料を読んで、講義内容を整理する。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。	4 時間
第８回	対面	国際秩序の変化（１）：世界恐慌と全体主義の台頭	テキストの指定部分と配布資料を読んで、講義内容を整理する。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。	4 時間
第９回	対面	国際秩序の変化（２）：太平洋戦争とアジア諸国の抵抗	テキストの指定部分と配布資料を読んで、講義内容を整理する。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。	4 時間
第１０回	対面	戦後国際秩序の変化（１）：第二次世界大戦後の国際秩序	テキストの指定部分と配布資料を読んで、講義内容を整理する。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。	4 時間
第１１回	対面	戦後国際秩序の変化（２）：植民地の独立と新たな課題	テキストの指定部分と配布資料を読んで、講義内容を整理する。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。	4 時間
第１２回	対面	現代世界の様態（１）：現代世界の多極構造	テキストの指定部分と配布資料を読んで、講義内容を整理する。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。	4 時間
第１３回	対面	現代世界の様態（２）：東アジアの奇跡	テキストの指定部分と配布資料を読んで、講義内容を整理する。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。	5 時間
第１４回	対面	現代世界の様態（３）：グローバル化する現代社会	テキストの指定部分と配布資料を読んで、講義内容を整理する。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。	5 時間
第１５回	オンデマンド	まとめ・期末試験復習	これまでの配布資料を整理したうえ、復習を行う。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。 ＊履修者の理解度を把握しながら、オンデマンド授業の実施時期を含む授業計画の調整することはありうる。	5 時間

科目名	日本史概論	開講年度	2025
担当者	北山　航	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日本史の諸問題		
授業の目的及び概要	日本をとりまく世界の動き、特に東アジア世界との相関関係を意識しながら、古代・中世・近世・近代および現代の歴史な変遷を大局的に捉え、現在の社会問題と繋がる論点やその背景を理解することを目標とします。具体的には、東アジア世界の影響を受けつつ展開する前近代の政治・文化や、国際社会へ参入していく近代日本の姿などを念頭に入れ、各時代ごとに重要と思われるトピックを取り上げ、それに関する問い・疑問について考えていく形で講義を行います。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①政治史・社会史を主線に、国際社会の変化をも留意しつつ、日本史の流れを構造的に把握することができる。 ②時代ごとのターニングポイントに重点を置き、それに関する問いを考察することができる。 ③現代社会の諸課題について、歴史的視点から考えることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業後に提出されたコメントや質問を翌週の授業で取り上げ、質問への回答や補足説明を行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	使用しません。レジュメを配付します。	ISBN	なし
参考書	①『もういちど読みなおす山川新日本史』上，大津透ほか，山川出版社，2022 年 ②『もういちど読みなおす山川新日本史』下，大津透ほか，山川出版社，2022 年	ISBN	①9784634591264 ②9784634591271

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	30
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	50
その他（%）	0
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第１回	対面	イントロダクション（授業の内容・進め方の説明）	授業後に、授業で配付したレジュメを読んで、ノートを整理して下さい。	1 時間
第２回	対面	奈良時代の東アジアと日本	参考書の奈良時代に関する記述と配布資料を読んで、授業内容の予習・復習を行う。	4 時間
第３回	対面	平安時代の貴族と文化・政治	参考書の平安時代に関する記述と配布資料を読んで、授業内容の予習・復習を行う。	4 時間
第４回	対面	源平の内乱と鎌倉幕府の成立	参考書の鎌倉時代に関する記述を読んで、授業内容の予習・復習を行う。	4 時間
第５回	対面	室町時代の政治と芸能	参考書の室町時代に関する記述と配布資料を読んで、授業内容の予習・復習を行う。	4 時間
第６回	対面	戦国大名の戦いと外交	参考書の戦国時代に関する記述を読んで、授業内容の予習・復習を行う。	4 時間
第７回	対面	江戸幕府の成り立ちと「鎖国」	参考書の江戸時代に関する記述と配布資料を読んで、授業内容の予習・復習を行う。	4 時間
第８回	対面	江戸時代の生活と都市	参考書の江戸時代に関する記述と配布資料を読んで、授業内容の予習・復習を行う。	4 時間
第９回	対面	幕末の開国と日本社会の変容	参考書の江戸時代後期に関する記述と配布資料を読んで、授業内容の予習・復習を行う。	4 時間
第１０回	対面	明治維新と日本の「近代化」	参考書の明治時代に関する記述と配布資料を読んで、授業内容の予習・復習を行う。	4 時間
第１１回	対面	日清・日露戦争	参考書の該当箇所と配布資料を読んで、授業内容の予習・復習を行う。	4 時間
第１２回	対面	第一次世界大戦と国内の政治・文化	参考書の大正時代に関する記述と配布資料を読んで、授業内容の予習・復習を行う。	4 時間
第１３回	対面	日中戦争から太平洋戦争へ	参考書の該当箇所と配布資料を読んで、授業内容の予習・復習を行う。	4 時間
第１４回	対面	戦後の東アジアと日本	参考書の該当箇所と配布資料を読んで、授業内容の予習・復習を行う。	4 時間
第１５回	オンデマンド	本授業のまとめ ＊学生の理解度などを把握しながら、オンデマンド授業の実施時期を含む上記の授業計画を調整する可能性がある。	授業後に、授業で配付したレジュメや参考文献を読んで復習して下さい。	5 時間

科目名	日本史概論	開講年度	2025
担当者	北山　航	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日本史の諸問題		
授業の目的及び概要	日本をとりまく世界の動き、特に東アジア世界との相関関係を意識しながら、古代・中世・近世・近代および現代の歴史な変遷を大局的に捉え、現在の社会問題と繋がる論点やその背景を理解することを目標とします。具体的には、東アジア世界の影響を受けつつ展開する前近代の政治・文化や、国際社会へ参入していく近代日本の姿などを念頭に入れ、各時代ごとに重要と思われるトピックを取り上げ、それに関する問い・疑問について考えていく形で講義を行います。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①政治史・社会史を主線に、国際社会の変化をも留意しつつ、日本史の流れを構造的に把握することができる。 ②時代ごとのターニングポイントに重点を置き、それに関する問いを考察することができる。 ③現代社会の諸課題について、歴史的視点から考えることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業後に提出されたコメントや質問を翌週の授業で取り上げ、質問への回答や補足説明を行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	使用しません。レジュメを配付します。	ISBN	なし
参考書	①『もういちど読みなおす山川新日本史』上，大津透ほか，山川出版社，2022 年 ②『もういちど読みなおす山川新日本史』下，大津透ほか，山川出版社，2022 年	ISBN	①9784634591264 ②9784634591271

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	30
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	50
その他（%）	0
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第１回	対面	イントロダクション（授業の内容・進め方の説明）	授業後に、授業で配付したレジュメを読んで、ノートを整理して下さい。	1 時間
第２回	対面	奈良時代の東アジアと日本	参考書の奈良時代に関する記述と配布資料を読んで、授業内容の予習・復習を行う。	4 時間
第３回	対面	平安時代の貴族と文化・政治	参考書の平安時代に関する記述と配布資料を読んで、授業内容の予習・復習を行う。	4 時間
第４回	対面	源平の内乱と鎌倉幕府の成立	参考書の鎌倉時代に関する記述を読んで、授業内容の予習・復習を行う。	4 時間
第５回	対面	室町時代の政治と芸能	参考書の室町時代に関する記述と配布資料を読んで、授業内容の予習・復習を行う。	4 時間
第６回	対面	戦国大名の戦いと外交	参考書の戦国時代に関する記述を読んで、授業内容の予習・復習を行う。	4 時間
第７回	対面	江戸幕府の成り立ちと「鎖国」	参考書の江戸時代に関する記述と配布資料を読んで、授業内容の予習・復習を行う。	4 時間
第８回	対面	江戸時代の生活と都市	参考書の江戸時代に関する記述と配布資料を読んで、授業内容の予習・復習を行う。	4 時間
第９回	対面	幕末の開国と日本社会の変容	参考書の江戸時代後期に関する記述と配布資料を読んで、授業内容の予習・復習を行う。	4 時間
第１０回	対面	明治維新と日本の「近代化」	参考書の明治時代に関する記述と配布資料を読んで、授業内容の予習・復習を行う。	4 時間
第１１回	対面	日清・日露戦争	参考書の該当箇所と配布資料を読んで、授業内容の予習・復習を行う。	4 時間
第１２回	対面	第一次世界大戦と国内の政治・文化	参考書の大正時代に関する記述と配布資料を読んで、授業内容の予習・復習を行う。	4 時間
第１３回	対面	日中戦争から太平洋戦争へ	参考書の該当箇所と配布資料を読んで、授業内容の予習・復習を行う。	4 時間
第１４回	対面	戦後の東アジアと日本	参考書の該当箇所と配布資料を読んで、授業内容の予習・復習を行う。	4 時間
第１５回	オンデマンド	本授業のまとめ ＊学生の理解度などを把握しながら、オンデマンド授業の実施時期を含む上記の授業計画を調整する可能性がある。	授業後に、授業で配付したレジュメや参考文献を読んで復習して下さい。	5 時間

科目名	ジェンダー論	開講年度	2025
担当者	保井　啓志	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	ジェンダー研究入門		
授業の目的及び概要	男／女の二分法はつねに「あたりまえ」や「自然」と考えられてきました。しかしそのような考え方は社会によってつくられ、私たちの日常生活や思考をも形作っています。就職活動のエントリシートの「性別」欄から日常的に使う言葉まで、性（ジェンダー・セクシュアリティ）に関する規範は影響を与えています。その帰結としてさまざまな性差別が生じています。性に関するさまざまな不平等や差別に抗い、フェミニズムやジェンダー研究と呼ばれる学術研究は私たちの社会を大きく変えてきました。 この授業では女性の歴史的位置付けや社会の捉え方の変遷を扱います。歴史や社会運動を振り返るだけではなく、ポップカルチャー（ディズニーやジブリなど）や経済・法学的な観点から、ジェンダー研究に関する知識や考え方を習得します。		
履修条件・留意点	本授業では、授業中に課題を設定しています。それらの課題は授業参加（30%）として評価されます。それとは別に、ラーニングポータルのアンケート機能を利用し、毎回の授業に対するコメントと質問を提出してもらいます。この部分はその他（30%）として評価されています。また最終的な評価は期末レポートで行います。提出には締切がありますので、時間管理に十分ご注意した上で履修ください。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この講義を通じて、以下のことを到達目標とします。 ①ジェンダー研究における基本概念を理解すること。 ②性が社会的に構築されていること、またその政治性を理解すること。 ③既存の社会規範を性の観点から批判的に考え直すこと。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回授業後にラーニングポータルを通してコメントを書いてもらいます。コメントの一部を翌週の授業で紹介し、質問への回答や補足説明をします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／クリッカー等の理解度把握システムの利用		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定しません。配布資料を用いて授業を行います。	ISBN	なし。
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	30
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	40
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	30
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	基本的に講義をもとにしますが、双方向的なコミュニケーションや学生の積極的な参加を促します。講師が一人で説明するのではなく、質問や授業中課題、ディスガッションを重視します。

	とりわけ、日常生活の経験をもとに、ジェンダーとセクシュアリティに関するテーマや問題を考え、議論します。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	【第一回　イントロダクション】 授業についての概要と基本的な概念を紹介します。	［予習］シラバスを事前に読み、調べて予習する。 ［復習］ガイダンス資料を読み直し、復習する。	4 時間
第２回	対面	【第二回　フェミニズムの歴史①】 ジェンダー研究の成立に大きな影響を与えてきたフェミニズムの歴史を概観します。①では、人権宣言から第一波フェミニズムの歴史を取り扱います。	［予習］シラバスを事前に読み、調べて予習する。 ［復習］ガイダンス資料を読み直し、復習する。	4 時間
第３回	対面	【第三回　フェミニズムの歴史②】 ジェンダー研究の成立に大きな影響を与えてきたフェミニズムの歴史を概観します。②では、第二波フェミニズムの歴史とジェンダー研究の登場を取り扱います。	［予習］シラバスを事前に読み、調べて予習する。 ［復習］ガイダンス資料を読み直し、復習する。	4 時間
第４回	対面	【第四回　フェミニズムの歴史③】 ジェンダー研究の成立に大きな影響を与えてきたフェミニズムの歴史を概観します。③では、第三波フェミニズムと複数のフェミニズムズの登場を取り扱います。	［予習］シラバスを事前に読み、調べて予習する。 ［復習］ガイダンス資料を読み直し、復習する。	4 時間
第５回	対面	【第五回　宗教とジェンダー】 宗教はジェンダー規範に大きな影響を与え続けています。その両者の関係を取り扱います。	［予習］シラバスを事前に読み、調べて予習する。 ［復習］ガイダンス資料を読み直し、復習する。	4 時間
第６回	対面	【第六回　近代社会と家父長制②】 私たちが済む社会の在り方と、ジェンダーがいかに交差するのか、それを語るうえで欠かせない「家庭」について、取り扱います。	［予習］シラバスを事前に読み、調べて予習する。 ［復習］ガイダンス資料を読み直し、復習する。	4 時間
第７回	対面	【第七回　近代社会と家父長制①】 私たちが済む社会の在り方と、ジェンダーがいかに交差するのか、それを語るうえで欠かせない「家庭」について、取り扱います。	［予習］シラバスを事前に読み、調べて予習する。 ［復習］ガイダンス資料を読み直し、復習する。	4 時間
第８回	対面	【第八回　本質主義と構築主義】 「男女に本質的な差異は存在するのか」という問いについてフェミニズムにおいてどのような議論があったのかを取り扱います。	［予習］シラバスを事前に読み、調べて予習する。 ［復習］ガイダンス資料を読み直し、復習する。	4 時間
第９回	対面	【第九回　男性性／女性性】 ジェンダー研究の中で行われてきた「らしさ」をめぐる議論について概観します。	［予習］シラバスを事前に読み、調べて予習する。 ［復習］ガイダンス資料を読み直し、復習する。	4 時間
第１０回	対面	【第十回　作品・表現とジェンダー】 文学や映像その他の表現において、女性・男性がどのように描かれているかは重要な問題です。この両者の関係性を概観します。	［予習］シラバスを事前に読み、調べて予習する。 ［復習］ガイダンス資料を読み直し、復習する。	4 時間
第１１回	対面	【第十一回　セクシュアリティ：性暴力と性産業】 セクシュアリティの議論において主要なトピックである性暴力や性産業、セックスワークについて、性的合意や労働、資本主義との関係性を学ぶ。	［予習］シラバスを事前に読み、調べて予習する。 ［復習］ガイダンス資料を読み直し、復習する。	4 時間

第１２回	対面	【第十二回　同性愛①】 同性愛はジェンダー研究の中でも重要なトピックとして扱われてきた。ゲイ解放運動やレズビアン・フェミニズムなどを中心にその歴史的変遷を学ぶ。	［予習］シラバスを事前に読み、調べて予習する。 ［復習］ガイダンス資料を読み直し、復習する。	4 時間
第１３回	対面	【第十三回　同性愛②】 同性愛はジェンダー研究の中でも重要なトピックとして扱われてきた。ゲイ解放運動やレズビアン・フェミニズムなどを中心にその歴史的変遷を学ぶ。	［予習］シラバスを事前に読み、調べて予習する。 ［復習］ガイダンス資料を読み直し、復習する。	4 時間
第１４回	対面	【第十四回　トランスジェンダー】 トランスジェンダーに関する事柄は、フェミニズムやジェンダー研究に新しい知見をもたらし、また課題を浮き彫りにしている。その両者について取り扱う。	［予習］シラバスを事前に読み、調べて予習する。 ［復習］ガイダンス資料を読み直し、復習する。	4 時間
第１５回	オンデマンド	【第十五回　振り返りとレポートの説明】 これまでの授業の内容を振り返る。またレポートの説明を行う。	［予習］シラバスを事前に読み、調べて予習する。 ［復習］ガイダンス資料を読み直し、復習する。	4 時間

科目名	Current World Events I	開講年度	2025
担当者	中西　亮太	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	世界で起きているホットなニュースを英語で学ぶことで語彙力や文法力を向上させ、アカデミックイングリッシュを理解し、発信する力を身に付けるとともに、英語報道の切り口から国際感覚を身に付ける。		
授業の目的及び概要	この科目は、主にマスメディアによって発信されている英語ニュースをリアルタイムで学ぶことで、正確な英語の読解力や聴解力を身につけます。メディアで使われる語彙や言い回し、語法などを学ぶことで、アカデミックイングリッシュスキルの向上を目指します。また、卒業論文執筆の際に英語の論文や記事を先行研究として購読するために必要な基礎的素養も身につけていきます。授業では、様々な分野のニュースを購読・視聴することで、専門知識や論理的思考力の高度化を図るとともに、幅広い視野を育みます。リサーチ、プレゼンテーション、ディスカッションを通して理解、発信、議論する力を身につけ、英語の総合的運用能力を高めながら、グローバルな視点を滋養し、世界で起こる事象について考察していきます。		
履修条件・留意点	第一回授業終了後にクラス分けを行います。第二回授業以降のクラスについては Learning Portal に掲示されますので、確認するようにしてください。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	アカデミックイングリッシュスキルの向上並びに国際社会への理解を深めるため、この科目の目標は語彙・長文・アウトプット・内容理解に関してそれぞれ以下の通り設定しています。 【語彙】 1. 授業で扱った語彙や表現の意味を理解し、正しく発音することができる。 【長文】 １．辞書を使えば、英語ニュースの記事を読むことができる。 【アウトプット】 １．CD や教員の発話を参考に、英語ニュースを正しく、英語らしく読むことができる。 ２．興味のあるニュースについて調査を行い、英語でスライドにまとめプレゼンテーションを行うことができる。 ３．興味のあるニュースについて、自身の考えを英語でレポートにまとめることができる。 ４．英語による報道内容の概要／趣旨を掴み、英語で他者に説明することができる。 【内容理解】 １．国際社会の問題について自らの意見を述べることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業で質問への回答や説明をします。 授業内で継続的に行なわれるアクティビティやクイズ、ディスカッションを行うなかで教員から講評を受けます。 学生により提出されるレポートは添削した上で返却します。 学生によるプレゼンテーションは、採点した上で、教員から講評を受けます。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	CBS NewsBreak 7 / CBS ニュースブレイク 7、熊井　信弘・Paul Daniels・Stephen Timson、 成美堂、2025	ISBN	9784791973095
参考書	なし	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	

	成果発表（口頭・実技）	40
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	世界では今何が起きて、どのようなことが注目されているでしょうか。皆さんが興味のあるニュースは何ですか。 この授業では、様々なニュースに触れ、考えていきます。ご自身の興味・関心のある分野についての知識を深め、これからの学修につなげてください。 メディアで使用されるアカデミックイングリッシュを学ぶことは、皆さんの英語を 1 段階レベルアップさせてくれるだけでなく、英語の資格試験にも大いに役立ちます。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	授業の概要や到達目標等について、ガイダンスを行います。	【復習】 シラバスとガイダンス資料を読み直し、講義で得た内容を確認してください。	1 時間
第２回	対面	Unit 2 Will Artificial Intelligence Take Your Job?	【予習】 Unit 2 の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 2 の語彙・表現の復習 小テストの準備	4 時間
第３回	対面	Unit 3 3D Chalk Art on Fourth of July Celebration	【予習】 Unit 3 の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 3 の語彙・表現の復習 小テストの準備	4 時間
第４回	対面	Unit 4 Youth Orchestra Works to Narrow Racial Gap	【予習】 Unit 4 の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 4 の語彙・表現の復習 小テストの準備	4 時間
第５回	対面	Unit 5 Can Robots and Humans Coexist?	【予習】 Unit 5 の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 5 の語彙・表現の復習 小テストの準備	4 時間
第６回	対面	Unit 6 Teens Help Seniors Learn How to Use Technology	【予習】 Unit 6 の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 6 の語彙・表現の復習 小テストの準備	4 時間
第７回	対面	中間発表会の実施及び講評	【予習】 中間発表会に向けた準備 【復習】 中間発表の振り返り（ミニレポートの作成）	4 時間
第８回	対面	Unit 7 Japanese Employees Take Part in Smile Classes	【予習】 Unit 7 の語彙や表現について分からないものをまと	4 時間

			めておく 【復習】 Unit 7 の語彙・表現の復習 小テストの準備	
第9回	対面	Unit 9 The Impact of ChatGPT on Education and Beyond	【予習】 Unit 9 の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 9 の語彙・表現の復習 小テストの準備	4 時間
第１０回	対面	Unit 10 Customers are Fed up with “Tipflation”	【予習】 Unit 1 の語彙や 0 表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 10 の語彙・表現の復習 小テストの準備	4 時間
第１１回	対面	Unit 11 Santa Claus in Atlanta Speaks Spanish, Sign Language, and English	【予習】 Unit 11 の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 11 の語彙・表現の復習 小テストの準備	4 時間
第１２回	対面	Unit 13 Sneaker Culture Comes to Congress	【予習】 Unit 13 の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 13 の語彙・表現の復習 小テストの準備	6 時間
第１３回	対面	期末発表会①の実施及び講評	【予習】 期末発表会に向けた準備 【復習】 期末発表の振り返り（期末レポートの作成）	4 時間
第１４回	対面	期末発表会②及び最終レポートの講評	【予習】 期末発表会に向けた準備 【復習】 最終レポートの訂正	4 時間
第１５回	オンデマンド	授業内容の振り返り及び最終レポート作成について	最終レポートの作成	6 時間

科目名	Current World Events I	開講年度	2025
担当者	中山　周作	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	世界で起きているホットなニュースを英語で学ぶことで語彙力や文法力を向上させ、アカデミックイングリッシュを理解し、発信する力を身に付けるとともに、英語報道の切り口から国際感覚を身に付ける。		
授業の目的及び概要	この科目は、主にマスメディアによって発信されている英語ニュースをリアルタイムで学ぶことで、正確な英語の読解力や聴解力を身につけます。メディアで使われる語彙や言い回し、語法などを学ぶことで、アカデミックイングリッシュスキルの向上を目指します。また、卒業論文執筆の際に英語の論文や記事を先行研究として購読するために必要な基礎的素養も身につけていきます。授業では、様々な分野のニュースを購読・視聴することで、専門知識や論理的思考力の高度化を図るとともに、幅広い視野を育みます。リサーチ、プレゼンテーション、ディスカッションを通して理解、発信、議論する力を身につけ、英語の総合的運用能力を高めながら、グローバルな視点を滋養し、世界で起こる事象について考察していきます。		
履修条件・留意点	第一回授業終了後にクラス分けを行います。第二回授業以降のクラスについては Learning Portal に掲示されますので、確認するようにしてください。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	アカデミックイングリッシュスキルの向上並びに国際社会への理解を深めるため、この科目の目標は語彙・長文・アウトプット・内容理解に関してそれぞれ以下の通り設定しています。 【語彙】 1. 授業で扱った語彙や表現の意味を理解し、正しく発音することができる。 【長文】 １．辞書を使えば、英語ニュースの記事を読むことができる。 【アウトプット】 １．CD や教員の発話を参考に、英語ニュースを正しく、英語らしく読むことができる。 ２．興味のあるニュースについて調査を行い、英語でスライドにまとめプレゼンテーションを行うことができる。 ３．興味のあるニュースについて、自身の考えを英語でレポートにまとめることができる。 ４．英語による報道内容の概要／趣旨を掴み、英語で他者に説明することができる。 【内容理解】 １．国際社会の問題について自らの意見を述べることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業で質問への回答や説明をします。 授業内で継続的に行なわれるアクティビティやクイズ、ディスカッションを行うなかで教員から講評を受けます。 学生により提出されるレポートは添削した上で返却します。 学生によるプレゼンテーションは、採点した上で、教員から講評を受けます。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	CBS NewsBreak 7 / CBS ニュースブレイク 7、熊井　信弘・Paul Daniels・Stephen Timson、 成美堂、2025	ISBN	9784791973095
参考書	なし	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	

	成果発表（口頭・実技）	40
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	世界では今何が起きて、どのようなことが注目されているでしょうか。皆さんが興味のあるニュースは何ですか。 この授業では、様々なニュースに触れ、考えていきます。ご自身の興味・関心のある分野についての知識を深め、これからの学修につなげてください。 メディアで使用されるアカデミックイングリッシュを学ぶことは、皆さんの英語を 1 段階レベルアップさせてくれるだけでなく、英語の資格試験にも大いに役立ちます。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	授業の概要や到達目標等について、ガイダンスを行います。	【復習】 シラバスとガイダンス資料を読み直し、講義で得た内容を確認してください。	1 時間
第２回	対面	Unit 2 Will Artificial Intelligence Take Your Job?	【予習】 Unit 2 の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 2 の語彙・表現の復習 小テストの準備	4 時間
第３回	対面	Unit 3 3D Chalk Art on Fourth of July Celebration	【予習】 Unit 3 の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 3 の語彙・表現の復習 小テストの準備	4 時間
第４回	対面	Unit 4 Youth Orchestra Works to Narrow Racial Gap	【予習】 Unit 4 の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 4 の語彙・表現の復習 小テストの準備	4 時間
第５回	対面	Unit 5 Can Robots and Humans Coexist?	【予習】 Unit 5 の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 5 の語彙・表現の復習 小テストの準備	4 時間
第６回	対面	Unit 6 Teens Help Seniors Learn How to Use Technology	【予習】 Unit 6 の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 6 の語彙・表現の復習 小テストの準備	4 時間
第７回	対面	中間発表会の実施及び講評	【予習】 中間発表会に向けた準備 【復習】 中間発表の振り返り（ミニレポートの作成）	4 時間
第８回	対面	Unit 7 Japanese Employees Take Part in Smile Classes	【予習】 Unit 7 の語彙や表現について分からないものをまと	4 時間

			めておく 【復習】 Unit 7 の語彙・表現の復習 小テストの準備	
第9回	対面	Unit 9 The Impact of ChatGPT on Education and Beyond	【予習】 Unit 9 の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 9 の語彙・表現の復習 小テストの準備	4 時間
第１０回	対面	Unit 10 Customers are Fed up with “Tipflation”	【予習】 Unit 1 の語彙や 0 表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 10 の語彙・表現の復習 小テストの準備	4 時間
第１１回	対面	Unit 11 Santa Claus in Atlanta Speaks Spanish, Sign Language, and English	【予習】 Unit 11 の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 11 の語彙・表現の復習 小テストの準備	4 時間
第１２回	対面	Unit 13 Sneaker Culture Comes to Congress	【予習】 Unit 13 の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 13 の語彙・表現の復習 小テストの準備	6 時間
第１３回	対面	期末発表会①の実施及び講評	【予習】 期末発表会に向けた準備 【復習】 期末発表の振り返り（期末レポートの作成）	4 時間
第１４回	対面	期末発表会②及び最終レポートの講評	【予習】 期末発表会に向けた準備 【復習】 最終レポートの訂正	4 時間
第１５回	オンデマンド	授業内容の振り返り及び最終レポート作成について	最終レポートの作成	6 時間

科目名	Current World Events I	開講年度	2025
担当者	木村　彩音	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	世界で起きているホットなニュースを英語で学ぶことで語彙力や文法力を向上させ、アカデミックイングリッシュを理解し、発信する力を身に付けるとともに、英語報道の切り口から国際感覚を身に付ける。		
授業の目的及び概要	この科目は、主にマスメディアによって発信されている英語ニュースをリアルタイムで学ぶことで、正確な英語の読解力や聴解力を身につけます。メディアで使われる語彙や言い回し、語法などを学ぶことで、アカデミックイングリッシュスキルの向上を目指します。また、卒業論文執筆の際に英語の論文や記事を先行研究として購読するために必要な基礎的素養も身につけていきます。授業では、様々な分野のニュースを購読・視聴することで、専門知識や論理的思考力の高度化を図るとともに、幅広い視野を育みます。リサーチ、プレゼンテーション、ディスカッションを通して理解、発信、議論する力を身につけ、英語の総合的運用能力を高めながら、グローバルな視点を滋養し、世界で起こる事象について考察していきます。		
履修条件・留意点	第一回授業終了後にクラス分けを行います。第二回授業以降のクラスについては Learning Portal に掲示されますので、確認するようにしてください。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	アカデミックイングリッシュスキルの向上並びに国際社会への理解を深めるため、この科目の目標は語彙・長文・アウトプット・内容理解に関してそれぞれ以下の通り設定しています。 【語彙】 1. 授業で扱った語彙や表現の意味を理解し、正しく発音することができる。 【長文】 １．辞書を使えば、英語ニュースの記事を読むことができる。 【アウトプット】 １．CD や教員の発話を参考に、英語ニュースを正しく、英語らしく読むことができる。 ２．興味のあるニュースについて調査を行い、英語でスライドにまとめプレゼンテーションを行うことができる。 ３．興味のあるニュースについて、自身の考えを英語でレポートにまとめることができる。 ４．英語による報道内容の概要／趣旨を掴み、英語で他者に説明することができる。 【内容理解】 １．国際社会の問題について自らの意見を述べることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業で質問への回答や説明をします。 授業内で継続的に行なわれるアクティビティやクイズ、ディスカッションを行うなかで教員から講評を受けます。 学生により提出されるレポートは添削した上で返却します。 学生によるプレゼンテーションは、採点した上で、教員から講評を受けます。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	CBS NewsBreak 7 / CBS ニュースブレイク 7、熊井　信弘・Paul Daniels・Stephen Timson、 成美堂、2025	ISBN	9784791973095
参考書	なし	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	

	成果発表（口頭・実技）	40
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	世界では今何が起きて、どのようなことが注目されているでしょうか。皆さんが興味のあるニュースは何ですか。 この授業では、様々なニュースに触れ、考えていきます。ご自身の興味・関心のある分野についての知識を深め、これからの学修につなげてください。 メディアで使用されるアカデミックイングリッシュを学ぶことは、皆さんの英語を 1 段階レベルアップさせてくれるだけでなく、英語の資格試験にも大いに役立ちます。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	授業の概要や到達目標等について、ガイダンスを行います。	【復習】 シラバスとガイダンス資料を読み直し、講義で得た内容を確認してください。	1 時間
第２回	対面	Unit 2 Will Artificial Intelligence Take Your Job?	【予習】 Unit 2 の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 2 の語彙・表現の復習 小テストの準備	4 時間
第３回	対面	Unit 3 3D Chalk Art on Fourth of July Celebration	【予習】 Unit 3 の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 3 の語彙・表現の復習 小テストの準備	4 時間
第４回	対面	Unit 4 Youth Orchestra Works to Narrow Racial Gap	【予習】 Unit 4 の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 4 の語彙・表現の復習 小テストの準備	4 時間
第５回	対面	Unit 5 Can Robots and Humans Coexist?	【予習】 Unit 5 の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 5 の語彙・表現の復習 小テストの準備	4 時間
第６回	対面	Unit 6 Teens Help Seniors Learn How to Use Technology	【予習】 Unit 6 の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 6 の語彙・表現の復習 小テストの準備	4 時間
第７回	対面	中間発表会の実施及び講評	【予習】 中間発表会に向けた準備 【復習】 中間発表の振り返り（ミニレポートの作成）	4 時間
第８回	対面	Unit 7 Japanese Employees Take Part in Smile Classes	【予習】 Unit 7 の語彙や表現について分からないものをまと	4 時間

			めておく 【復習】 Unit 7 の語彙・表現の復習 小テストの準備	
第9回	対面	Unit 9 The Impact of ChatGPT on Education and Beyond	【予習】 Unit 9 の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 9 の語彙・表現の復習 小テストの準備	4 時間
第１０回	対面	Unit 10 Customers are Fed up with “Tipflation”	【予習】 Unit 1 の語彙や 0 表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 10 の語彙・表現の復習 小テストの準備	4 時間
第１１回	対面	Unit 11 Santa Claus in Atlanta Speaks Spanish, Sign Language, and English	【予習】 Unit 11 の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 11 の語彙・表現の復習 小テストの準備	4 時間
第１２回	対面	Unit 13 Sneaker Culture Comes to Congress	【予習】 Unit 13 の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 13 の語彙・表現の復習 小テストの準備	6 時間
第１３回	対面	期末発表会①の実施及び講評	【予習】 期末発表会に向けた準備 【復習】 期末発表の振り返り（期末レポートの作成）	4 時間
第１４回	対面	期末発表会②及び最終レポートの講評	【予習】 期末発表会に向けた準備 【復習】 最終レポートの訂正	4 時間
第１５回	オンデマンド	授業内容の振り返り及び最終レポート作成について	最終レポートの作成	6 時間

科目名	コミュニケーション論	開講年度	2025
担当者	宋　南先	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	コミュニケーションの仕組みと生態をつかむ		
授業の目的及び概要	この授業では、自己が他者を理解し、他者に自己を理解させようとする行為としてのコミュニケーションが持つ仕組とその諸相について学修する。コミュニケーションという行為が目指す理解とは、自己や他者に対する「あるがまま」の理解ではなく、意図された特定の理解である。意図された理解は、コミュニケーション参与者間の関係のあり方によって多様な特徴を示す。 　この授業は、意図された伝達行為が持つ諸特徴を理解を目的とする。また、より適切なコミュニケーション参与者になるための素養を高めることもその目的とする。就業力育成の観点から論理的思考力や幅広い視野を養う。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	グローバル化と情報化が同時に進む現代社会においては、コミュニケーションの形態も急速に多様化していきます。このトレンドに対応するために以下の素養を培います。 　１．ヒトのコミュニケーションの基本的な仕組みを理解する。 　２．コミュニケーションの生物学的、認知的基盤を理解する。 　３．個対個、個対集団、集団間、個対不特定多数、不特定多数間、といった多様なコミュニケーション形態の特徴を把握する。 　４．言語、身体表現、映像、記号等のコミュニケーション手段についての理解を得る。 　５．説得、情報のゆがみ、デマ、広告、都市伝説等の考察を通して、実践的対応力を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業ごとに、授業の概要と、意見をコメントシートに書いてもらい、次回の授業の冒頭で内容を紹介し、教員がコメントを述べます。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	なし	ISBN	なし
参考書	辻大介、是永論、関谷直也『コミュニケーション論をつかむ』（有斐閣、2012 年）	ISBN	978-4-641-17720-8

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	20
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	80
その他（%）	0
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	授業の目的及び概要、授業の方法、授業計画をよく読んでおいてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	情報伝達、意図の理解、関係形成・維持という三つの観点からコミュニケーションを定義、考察します。	LMS 上に掲載した資料を読んで復習してください。（2 時間程度）	2 時間
第２回	対面	言語相対性仮説と言語普遍論を紹介し、言語とヒトの思考の関係について考えます。	LMS 上に掲載した資料を読んで復習してください。（2 時間程度）	2 時間
第３回	対面	ヒトがコミュニケーションにおいて、フレーム、スキーマと呼ばれる、構造化された認知能力をいかに駆使しているのかを考察します。	LMS 上に掲載した資料を読んで復習してください。（2 時間程度）	2 時間
第４回	対面	言語コミュニケーションがヒトの身体を中心とする空間概念の隠喩的拡張によって支えられていることを論じて、コミュニケーションの認知的基盤について考察します。	LMS 上に掲載した資料を読んで復習してください。（2 時間程度）	2 時間
第５回	対面	発話行為や言外の意味について概説し、情報がいかに語や文を超えたレベルで構造化されるのかを論じます。	LMS 上に掲載した資料を読んで復習してください。（2 時間程度）	2 時間
第６回	対面	刺激と反応、分節性という視点から、動物間の伝達とヒトのコミュニケーションの違いについて考えます。	LMS 上に掲載した資料を読んで復習してください。（2 時間程度）	2 時間
第７回	対面	ヒトの表情やジェスチャーがコミュニケーションにいかに使われるのかを概観し、非言語コミュニケーションの普遍性と文化差について論じます。	LMS 上に掲載した資料を読んで復習してください。（2 時間程度）	2 時間
第８回	対面	具体的な談話やテクストを分析し、談話の理解がどのような原則とルールによって成り立つのかを考察します。	LMS 上に掲載した資料を読んで復習してください。（2 時間程度）	2 時間
第９回	対面	近代史における消費社会形成過程をたどり、大量生産と大衆消費を支える広告の役割を考察します。	LMS 上に掲載した資料を読んで復習してください。（2 時間程度）	2 時間
第１０回	対面	広告のサンプルを読み解きながら、広告が持つ情報伝達機能と説得的伝達機能について考えます。	LMS 上に掲載した資料を読んで復習してください。（2 時間程度）	2 時間
第１１回	対面	流言、都市伝説、ゴシップ、デマ等が流布・普及するプロセスを分析し、情報が歪められていくパターンを論じます。	LMS 上に掲載した資料を読んで復習してください。（2 時間程度）	2 時間
第１２回	対面	国家的暴力や戦争、人々の消費行動、選挙行動等にメディアが果たしてきた歴史を概観し、その影響力について考えます。	LMS 上に掲載した資料を読んで復習してください。（2 時間程度）	2 時間
第１３回	対面	巧みに構造化されたコミュニケーション、説得的コミュニケーションの流れを考察します。また、それが言語トラップにいかに利用されているかも論じます。	LMS 上に掲載した資料を読んで復習してください。（2 時間程度）	2 時間
第１４回	対面	地球上のほとんどの文化に存在する共通項（エティック）と、ある特定の文化にのみ存在する特有の性質（イーミック）という区別を応用し、異文化間のコミュニケーションの在り方を考えます。	LMS 上に掲載した資料を読んで復習してください。（2 時間程度）	2 時間
第１５回	オンデマンド	授業全体のまとめを行います。（オンデマンド授業）	LMS 上に掲載した動画を視聴して学修してください。オンデマンド授業です。（2 時間程度）	2 時間

科目名	異文化コミュニケーション	開講年度	2025
担当者	荻田　朋子	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	文化についての理解を深め、異文化コミュニケーションにおける様々な問題について考察する。		
授業の目的及び概要	この授業は、今日のグローバル社会において、異文化に対する感受性と他者への共感性を高め、バランスの取れた異文化コミュニケーション能力を身につけることを目標とする。授業では、異文化コミュニケーションに関する諸問題を多面的に認識し、解決のための方法について考える。これらの学修を通して、異文化に対する適応、非言語メッセージの諸相、異文化間交渉における紛争解決及び共生、コミュニケーション能力、異文化コミュニケーションにおける言語技能の役割について理解を深める。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・「文化」という概念について批判的、多面的に考察できる。 ・コミュニケーションを通して自己と他者の言語行動の違いについて観察、考察、分析できる。 ・異文化コミュニケーションにおいて生じうる問題について考察することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業を受けて気づいたこと、学んだこと、疑問等ミニッツペーパーまたはラーニングポータルのアンケートで提出し、翌週の授業で講評や回答をします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	授業では一定のテキストは使用せずに、随時、配布資料を活用します。	ISBN	なし
参考書	①『異文化コミュニケーション・ワークブック』八代京子ほか著, 三修社, 2001 ②『ケースで学ぶ異文化コミュニケーション－誤解・失敗・すれ違い』久米昭元・長谷川典子著, 有斐閣, 2007 ③『よくわかる異文化コミュニケーション』池田　理知子編著, ミネルヴァネルヴァ書房, 2010 ④『言語の社会心理学 － 伝えたいことは伝わるのか』岡本真一郎著, 中央公論新社, 2013	ISBN	①9784384018516 ②9784641281080 ③9784623056095 ④9784121022028

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	20
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	30
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	30
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	私たちは日常生活において「文化」という概念を何気なく使っていますが、果たして「文化」とは何を意味しているのでしょうか？わかっているようでわからない概念である「文化」について深く考えてみることが、異文化コミュニケーションを学ぶための第一歩です。異文化コミ

	ュニケーションは外国で外国人とコミュニケーションをとる場面だけでなく、私たちのより身近な場面でも見出すこともできます。私たちの周りの多様性を理解し、自身も他者を尊重できるよう、授業を通してともに学んでいきたいと思います。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	授業の概要、評価方法の説明 文化とは？文化が異なるとは？コミュニケーションとは？の 3 つの問いについて考えます。	授業後は配布資料をもとに講義内容について復習し、それを踏まえ自身の日常生活や経験を振り返り、文化とコミュニケーションについて考える課題が課されます。(120 分) 次回の授業の予習として、文化についての配布資料を読む課題が課されます。(120 分)	4 時間
第２回	対面	文化の暫定的な定義について学び、私たちが普段行っているコミュニケーションの諸要素が文化の見える部分・見えにくい分のどちらに属しているかについて考えます。	授業後は配布資料をもとに講義内容について復習し、それを踏まえ自身がどのような文化に影響を受けているか考える課題が課されます。(120 分) 次回の授業の予習として、文化とコミュニケーションについての配布資料を読む課題が課されます。(120 分)	4 時間
第３回	対面	文化とコミュニケーションについて考えるために、コミュニケーションの構成要素について学びます。ペアあるいはグループで私たちのコミュニケーションと文化のつながりについて考えます。	授業後は配布資料をもとに講義内容について復習し、それを踏まえ私たちが行ってるコミュニケーションと文化がどのように関連しあっているかについて考える課題が課されます。(120 分) 次回の授業の予習として、コンテキストについての配布資料を読む課題が課されます。(120 分)	4 時間
第４回	対面	文化とコミュニケーションを考えるために、高コンテキスト・低コンテキストについて学びます。続けてパラ言語についても学び、ペアあるいはグループでコンテキストとパラ言語のそれぞれが文化とどのように関係しているかについて考えます。	授業後は配布資料をもとに講義内容について復習し、それを踏まえコンテキストあるいはパラ言語についての課題が課されます。(120 分) 次回の授業の予習として、自己開示についての配布資料を読む課題が課されます。(120 分)	4 時間
第５回	対面	文化とコミュニケーションについて考えるために、自己開示について学び、その後ターンテイキング（会話の順番取り）について学びます。その後、ペアあるいはグループで自己開示とターンテイキングのそれぞれが文化とどのように関係しているかについて考えます。	授業後は配布資料をもとに講義内容について復習し、それを踏まえ自己開示あるいはターンテイキングについての課題が課されます。(120 分) 次回の授業の予習として、価値観についての配布資料を読む課題が課されます。(120 分)	4 時間
第６回	対面	異なる文化に属する人と人が出会い、コミュニケーションをとると何が起こるのかを考えるため、価値観の違いについて考えます。実際にあった事例を通して文化による価値観の違いについて学び、ペアあるいはグループで自身が行っているコミュニケーションあるいは自身が経験したコミュニケーションについて考えます。	授業後は配布資料をもとに講義内容について復習し、それを踏まえ価値観の違いに関する課題が課されます。(120 分) 次回の授業の予習として、対立管理スタイル・異文化適応力チェック・共感（エンパシー）に関する配布資料を読む課題が課されます。(120 分)	4 時間
第７回	対面	異なる文化に属する人と人が出会い、コミュニケーションをとると何が起こるのかを考えるため自分に対する気づきを高めます。対立管理スタイル・異文化適応力チェック・共感（エンパシー）について学び、自身を内省します。	授業後は配布資料をもとに講義内容について復習し、自身に対する気づきに関する課題が課されます。(120 分) 次回の授業の予習として、異文化コミュニケーション・スキルについての配布資料を読む課題が課されます。(120 分)	4 時間
第８回	対面	異なる文化に属する人々を理解し、自分の考えや感じたことを相手に正確に伝えるために、異文化コミュニケーション・スキル（D. I. E. メソッド、アサーティブ・コミュニケーションなど）について学びます。	授業後は配布資料をもとに講義内容について復習し、アサーティブ・コミュニケーションついての課題が課されます。(120 分) 次回のグループワークのために、調査の方法と実施の計画について考える課題が課されます。(120 分)	4 時間

		ペアあるいはグループでアサーション・総合エクササイズを行い、実際にどのようにコミュニケーション・スキルを使って問題を解決するのか実践し、エクササイズを通して異文化コミュニケーション・スキルを高めます。		
第９回	対面	グループプロジェクト：二つ以上の異なる文化を比較し、それぞれの文化に属する人々のコミュニケーションの特徴について調査する。 まずは、グループごとに話し合い、調査したいこと（リサーチクエスチョン）を決定します。その後文献調査を行い、リサーチクエスチョンに関係するどのような先行研究が行われているかについて調べます。	授業中に行った文献調査を引き続き行い、その内容をまとめる課題がなされます。（120 分） 次回のグループワークのために、調査の方法と実施の計画について考える課題が課されます。（120 分）	6 時間
第１０回	対面	参考文献の探し方とまとめ方	授業の指示に沿って、参考文献を探し、まとめてみる（240 分）	4 時間
第１１回	対面	グループプロジェクト：二つ以上の異なる文化を比較し、それぞれの文化に属する人々のコミュニケーションの特徴について調査する。 グループで内それぞれの調査について報告しあい、その結果を考察します。その後、次回のグループ発表の準備をします。	必要ならば引き続き調査をし、その結果をまとめ、グループ発表をするための準備をする課題が課されます。（240 分）	4 時間
第１２回	対面	グループで発表資料の作成と発表の練習	発表の準備（180 分）	4 時間
第１３回	対面	グループ発表１	発表に対するコメントを参考にしながら、グループプロジェクトの概要をレポートとしてまとめる課題が個々人に課されます。（180 分）	4 時間
第１４回	対面	グループ発表２	発表に対するコメントを参考にしながら、グループプロジェクトの概要をレポートとしてまとめる課題が個々人に課されます。（180 分）	4 時間
第１５回	オンデマンド	総括	定期試験に向けた学修	4 時間

科目名	ことばと社会	開講年度	2025
担当者	宋　南先	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	言語現象を通して社会と文化の多様なあり方を理解する。		
授業の目的及び概要	この授業は、ことばが社会・文化にとってどのような意味をもっているのかについての考察を深めることを目的とする。授業では、日本語や英語、その他の言語を比較し、言語の文法体系は、それを使用する人々が相互に合意した共通の考え方（価値観）の表れであるということを認識する。その上で、何気なく使っている文法体系には、それぞれの言語圏における人間同士、あるいは人間と自然等との関係における一定の思考様式が深く作用しているということを理解する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	グローバル化する世界とは、単一の価値が共有される世界であると同時に、様々な文化が接触し、融合する一方で、互いにぶつかり合い、激しく対立する世界でもある。そこでは、「多文化共生」という考え方は、単に耳触りのよいスローガンや「与えられた現実」ではなく、国益優先と民族対立という厳しい現実から常に挑戦を受ける「政治的立場」であり「志向」であり続ける。この授業では、多文化共生志向を育む個人にとって必要と考えられる以下の素養を身につける。 １．言語の構造と特徴を理解する基礎的な知識と方法を学ぶ。 ２．人間の言語活動が社会において果たす様々な機能についての理解を得る。 ３．文化の諸特徴を理解するためのキーワードと主要概念を学ぶ。 ４．言語が持つ社会的機能をよく理解し、能動的な言語使用者としての能力を高める。 ３．文化のあり方と特徴を言語現象を通して理解する方法論を身につける。 ４．文化の多様性と等価性に対する理解を深める。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	各授業において、授業の概要と意見をコメントシートに書いて提出してもらいます。コメントシートの内容については次回授業の冒頭で紹介し、教員が意見を述べます。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	なし	ISBN	なし
参考書	岩田裕子、重光床由加、村田泰美著、「概説社会言語学 ― An Introduction to Sociolinguistics」（ひつじ書房，2013）	ISBN	978-4-89476-637-2

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	20
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	80
その他（%）	0
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	授業の目的、到達目標、授業計画を読んで、よく確認しておいてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	社会言語学の知見を概説し、言語と文化の関係を検証する。 文化を特定の集団内の態度、価値観、信条、規範、行動に関わるダイナミックなシステムとして理解する。	LMS 上に掲載した資料を読んで復習してください。（2 時間程度）	2 時間
第２回	対面	言語学における音声学、音韻論、形態論を概括し言語の構造を考察する。	LMS 上に掲載した資料を読んで復習してください。（2 時間程度）	2 時間
第３回	対面	言語学における統語論、意味論を概括し言語の構造を理解する。	LMS 上に掲載した資料を読んで復習してください。（2 時間程度）	2 時間
第４回	対面	ヒトの進化と言語獲得過程を概説し、言語使用の生物学的基盤を考察する。	LMS 上に掲載した資料を読んで復習してください。（2 時間程度）	2 時間
第５回	対面	ヒトの生得的言語能力と、言語の多様性を論じながら、言語使用の文化的基盤を考察する。	LMS 上に掲載した資料を読んで復習してください。（2 時間程度）	2 時間
第６回	対面	「円滑な人間関係を維持するための社会言語行動」としての丁寧表現（ポライトネス）の普遍的側面を概説する。	LMS 上に掲載した資料を読んで復習してください。（2 時間程度）	2 時間
第７回	対面	場面、状況による丁寧表現の差異、言語間の変異を検証することによって、ポライトネス行動の言語固有性を考察する。	LMS 上に掲載した資料を読んで復習してください。（2 時間程度）	2 時間
第８回	対面	社会言語学の立場から、言語がどのようにして生まれ、伝播し、変化していくのかを、日本語および他言語の例を挙げて解説する。	LMS 上に掲載した資料を読んで復習してください。（2 時間程度）	2 時間
第９回	対面	社会階級差に起因する言語変異について、アメリカ英語やイギリス社会での事例をもとに考察する。	LMS 上に掲載した資料を読んで復習してください。（2 時間程度）	2 時間
第１０回	対面	日本語および英語における性差を見ながら、言語の階層化・階級化のパターンとジェンダーとの関係を理解する。	LMS 上に掲載した資料を読んで復習してください。（2 時間程度）	2 時間
第１１回	対面	ヨーロッパの近代国家形成過程における言語の標準化と日本の言語標準化過程を比較検証することによって、方言、国家語、標準語、民族主義の相関を考える。	LMS 上に掲載した資料を読んで復習してください。（2 時間程度）	2 時間
第１２回	対面	個人における多言語使用、社会的な多言語使用の事例を概観しながら、多言語社会において言語選択がいかなる動機で行われるかを考察する。	LMS 上に掲載した資料を読んで復習してください。（2 時間程度）	2 時間
第１３回	対面	言語の標準化は少数者の言語の周辺化を伴う。近代国家における言語の標準化がもたらした新たな国民国家文化、国民教育の形成という肯定面と、言語差別という否定面を考察する。	LMS 上に掲載した資料を読んで復習してください。（2 時間程度）	2 時間
第１４回	対面	異文化コミュニケーションにおける様々な文化衝突の事例を扱い、その実相を考察し、克服の可能性を考える。。	LMS 上に掲載した資料を読んで復習してください。（2 時間程度）	2 時間
第１５回	オンデマンド	講義のまとめを行う。オンデマンド授業です。	LMS 上に掲載した動画を視聴して学修してください。（2 時間程度）	2 時間

科目名	異文化理解	開講年度	2025
担当者	本多　善	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	文化的背景の異なる国や地域、人々の価値観や習慣の違いを理解する		
授業の目的及び概要	この授業は、「国際学基礎 A」の「社会/文化から見る世界」で学修した社会/文化領域の基本的知識を使って、文化的背景の異なる国や地域、人々の価値観や習慣の違いの理解を深めることが目的です。具体的な事例を挙げながら、自国文化との違いを認識し、異なる文化を受容する力を身に付けます。またグローバル化の進む現代社会において、就業する上で必要となる国際理解力に必要な基礎となる考え方を涵養します。		
履修条件・留意点	「国際学基礎 A」の「社会/文化から見る世界」の上位科目であり、専門基礎科目です。異文化理解の基本的知識と考え方を深める科目であることから、2023 年度以降に入学した方で英語コミュニケーションコースを選択する予定の方は必ず履修しましょう。また、アジア太平洋コースを選択予定の方も、グローバル化が進む現代社会において身に付けるべき基礎知識と考え方を修得する科目であることから履修を推奨します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・文化的背景の異なる国や地域についての基本的な知識を修得した上で、人々の価値観や習慣の違いを理解することができる。 ・自国文化との違いを認識しながら異なる文化を受容する姿勢を身につけることができる。 ・文化学に関する手法を用いて、文化的特徴、文化的差異、固定観念や差別が生じる背景を理解することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	レポート課題、コメントシート、毎回の講義内容についてのフィードバックをおこなう。小テストについては、授業支援システム（Learning Portal）に解答と解説を掲載します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定しません。	ISBN	指定しません。
参考書	①『異文化理解入門』，原沢 伊都夫，岩波書店，2013 年	ISBN	①9784327377342

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	20
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	50
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	この授業では、異文化の諸概念を理解し、グローバル化の進む現代社会において、文化的背景の異なる国や地域、人々の価値観や習慣の違いを理解します。異文化について理解するためには、そのための事前事後学修が必要です。授業内で出された課題を学修し、授業内では、異文化理解に関する議論に積極的に関わってください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション（異文化理解の意義）	授業後に、授業の資料（レジュメなど）と、自分が授業で取ったメモをしっかり読み、復習をすること。次週のテーマである「世界と日本における多様化という潮流（異文化交流とコミュニケーション）」の資料を予習しておくこと。また、気になったトピックについて、図書館の参考書やインターネット等を活用し、更に積極的に調べること。	4 時間
第２回	対面	世界と日本における多様化という潮流（異文化交流とコミュニケーション）	授業後に、授業の資料（レジュメなど）と、自分が授業で取ったメモをしっかり読み、復習をすること。また、気になったトピックについて、図書館の参考書やインターネット等を活用し、更に積極的に調べること。「世界と日本における多様化という潮流（異文化交流とコミュニケーション）」を復習し、小テストを次回授業までに受けること。次週のテーマ「グローバリゼーションと文化（国際文化学からみる世界）」の資料を予習しておくこと。	4 時間
第３回	対面	グローバリゼーションと文化（国際文化学からみる世界）	授業後に、授業の資料（レジュメなど）と、自分が授業で取ったメモをしっかり読み、復習をすること。また、気になったトピックについて、図書館の参考書やインターネット等を活用し、更に積極的に調べること。「グローバリゼーションと文化（国際文化学からみる世界）」を復習し、小テストを次回授業までに受けること。次週のテーマ「文化とは何か①（見える文化/見えない文化、常識/非常識）」の資料を予習しておくこと。	4 時間
第４回	対面	文化とは何か①（見える文化/見えない文化、常識/非常識）	授業後に、授業の資料（レジュメなど）と、自分が授業で取ったメモをしっかり読み、復習をすること。また、気になったトピックについて、図書館の参考書やインターネット等を活用し、更に積極的に調べること。「文化とは何か①（見える文化/見えない文化、常識/非常識）」を復習し、小テストを次回授業までに受けること。次週のテーマ「文化とは何か②（6 つの文化的特徴）」の資料を予習しておくこと。	4 時間
第５回	対面	文化とは何か②（6 つの文化的特徴）	授業後に、授業の資料（レジュメなど）と、自分が授業で取ったメモをしっかり読み、復習をすること。また、気になったトピックについて、図書館の参考書やインターネット等を活用し、更に積極的に調べること。「文化とは何か②（6 つの文化的特徴）」を復習し、小テストを次回授業までに受けること。次週のテーマ「文化とは何か③（個人的側面/普遍的側面）」の資料を予習しておくこと。	4 時間
第６回	対面	文化とは何か③（個人的側面/普遍的側面）	授業後に、授業の資料（レジュメなど）と、自分が授業で取ったメモをしっかり読み、復習をすること。また、気になったトピックについて、図書館の参考書やインターネット等を活用し、更に積極的に調べること。「文化とは何か③（個人的側面/普遍的側面）」を復習し、小テストを次回授業までに受けること。次週のテーマ「異文化トレーニング（カルチャー・アシミレーター、シミュレーション）による異文化理解」の資料を予習しておくこと。	4 時間
第７回	対面	異文化トレーニング（カルチャー・アシミレーター、シミュレーション）による異文化理解	授業後に、授業の資料（レジュメなど）と、自分が授業で取ったメモをしっかり読み、復習をすること。また、気になったトピックについて、図書館の参考書やインターネット等を活用し、更に積極的に調べること。「異文化トレーニング（カルチャー・アシミレー	4 時間

			ター、シミュレーション）による異文化理解」を復習し、小テストを次回授業までに受けること。次週のテーマ「異文化適応（4 つの適応ステージ　①ハネムーン②カルチャーショック③適応の開始④適応期）」の資料を予習しておくこと。	
第８回	対面	異文化適応（4 つの適応ステージ　①ハネムーン②カルチャーショック③適応の開始④適応期）	授業後に、授業の資料（レジュメなど）と、自分が授業で取ったメモをしっかり読み、復習をすること。また、気になったトピックについて、図書館の参考書やインターネット等を活用し、更に積極的に調べること。「異文化適応（4 つの適応ステージ　①ハネムーン②カルチャーショック③適応の開始④適応期）」を復習し、小テストを次回授業までに受けること。次週の総括資料「多様化の潮流、グローバリゼーションと文化、文化とは何か、異文化トレーニング、異文化適応の総括」を予習しておくこと。	4 時間
第９回	対面	多様化の潮流、グローバリゼーションと文化、文化とは何か、異文化トレーニング、異文化適応の総括	授業後に、授業の資料（レジュメなど）と、自分が授業で取ったメモをしっかり読み、復習をすること。また、気になったトピックについて、図書館の参考書やインターネット等を活用し、更に積極的に調べること。「多様化の潮流、グローバリゼーションと文化、文化とは何か、異文化トレーニング、異文化適応の総括）による異文化理解」を復習し、小テストを次回授業までに受けること。次週のテーマ「違いへの気付き①四大文明と宗教（キリスト教文明・イスラム文明・ヒンデュー文明・儒教文明）」の資料を予習しておくこと。	4 時間
第１０回	対面	違いへの気付き①四大文明と宗教（キリスト教文明･イスラム文明･ヒンデュー文明･儒教文明）	授業後に、授業の資料（レジュメなど）と、自分が授業で取ったメモをしっかり読み、復習をすること。また、気になったトピックについて、図書館の参考書やインターネット等を活用し、更に積極的に調べること。「違いへの気付き①四大文明と宗教（キリスト教文明・イスラム文明・ヒンデュー文明・儒教文明）」を復習し、小テストを次回授業までに受けること。次週のテーマ「違いへの気付き（行動/視点/環境/発想）」の資料を予習しておくこと。	4 時間
第１１回	対面	違いへの気付き（行動/視点/環境/発想）	授業後に、授業の資料（レジュメなど）と、自分が授業で取ったメモをしっかり読み、復習をすること。また、気になったトピックについて、図書館の参考書やインターネット等を活用し、更に積極的に調べること。「違いへの気付き（行動/視点/環境/発想）」を復習し、小テストを次回授業までに受けること。次週のテーマ「異文化の認識①（固定観念/ファイリング/ステレオタイプ/エスノセントリズム）」の資料を予習しておくこと。	4 時間
第１２回	対面	異文化の認識①（固定観念/ファイリング/ステレオタイプ/エスノセントリズム）	授業後に、授業の資料（レジュメなど）と、自分が授業で取ったメモをしっかり読み、復習をすること。また、気になったトピックについて、図書館の参考書やインターネット等を活用し、更に積極的に調べること。「異文化の認識①（固定観念/ファイリング/ステレオタイプ/エスノセントリズム）」を復習し、小テストを次回授業までに受けること。次週のテーマ「異文化の認識②（差別：ドキュメンタリー映画の視聴）」の資料を予習しておくこと。	4 時間
第１３回	対面	異文化の認識②（差別：ドキュメンタリー映画の視聴）	授業後に、授業の資料（レジュメなど）と、自分が授業で取ったメモをしっかり読み、復習をすること。また、気になったトピックについて、図書館の参考書やインターネット等を活用し、更に積極的に調べるこ	4 時間

			と。「異文化の認識②（差別：ドキュメンタリー映画の視聴）」を復習し、小テストを次回授業までに受けること。次週のテーマ「多文化社会と文化的差異（異文化受容のために）」の資料を予習しておくこと。	
第１４回	対面	多文化社会と文化的差異（異文化受容のために）	授業後に、授業の資料（レジュメなど）と、自分が授業で取ったメモをしっかり読み、復習をすること。また、気になったトピックについて、図書館の参考書やインターネット等を活用し、更に積極的に調べること。「多文化社会と文化的差異（異文化受容のために）」を復習し、小テストを次回授業までに受けること。次週の総括資料「違いへの気付き、異文化の認識、多文化社会と文化的差異の総括」を予習しておくこと。	4 時間
第１５回	オンデマンド	違いへの気付き、異文化の認識、多文化社会と文化的差異の総括	授業後に、授業の資料（レジュメなど）と、自分が授業で取ったメモをしっかり読み、復習をすること。また、気になったトピックについて、図書館の参考書やインターネット等を活用し、更に積極的に調べること。定期試験に向けて学修すること。	4 時間

科目名	国際社会学	開講年度	2025
担当者	本多　善	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	事例研究に基づいて社会学の着眼点を理解した上で、国境を超えたグローバル社会の現状や課題について学ぶ		
授業の目的及び概要	本科目は、社会学の分析視座（方法論）や社会学の重要下位分野であり、また国際社会学の理解に資する社会学の各論を学修した上で、国際社会学の視点を通じて国境を超えたグローバル社会の現状や課題について把握することを目指すものです。本科目では、社会学の基礎的な分析視座を、家族やジェンダーや宗教といった国際社会学を理解する上でも重要な社会学の基本トピックから学修します。また、具体的な事例に対する国際社会学的視点を、国境を超える人の移動の原因や現状、対応策などから学んでいきます。本科目での学修を通じて、受講者のみなさんが将来活躍するであろう国際社会がいかなる状態にあり、そしてどのように改善することができるかを社会学的な視点で考察する力を育むことを目指します。 受講者の皆さんの授業への理解度を鑑みて、授業内容を適宜調整する可能性があります。		
履修条件・留意点	「国際学基礎 A」の「社会/文化から見る世界」の上位科目であり、専門基礎科目です。国際社会学の基本的知識と考え方を深める科目であることから、2023 年度以降に入学した方で英語コミュニケーションコースを選択する予定の方で、社会/文化領域に関心のある方の履修を推奨します。また、アジア太平洋コースを選択予定の方も、グローバル化が進む現代社会において身に付けるべき基礎知識と考え方を修得する科目であることから履修を推奨します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目では、以下の三点を到達目標とします。 ・社会学の基礎的な方法論を理解できること。 ・具体的な事例を分析する社会学的視点を理解し説明できること。 ・現代のグローバル社会における国境を超える人の移動とその帰結について、国際社会学の知識を踏まえて考察を展開できること。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・毎授業のディスカッションや質疑応答について、次回以降の授業でコメントします。 ・前回授業の内容について受講者の理解を確認する質疑応答を、毎授業行います。 ・必要に応じて、授業中に追加資料の配布や文献紹介を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	なし	ISBN	なし
参考書	①大学 4 年間の社会学が 10 時間でざっと学べる，出口剛司，KADOKAWA，2022 年. ②よくわかる国際社会学（第 2 版），樽本英樹，ミネルヴァ書房，2016 年.	ISBN	9784046059765 9784623075911

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	30
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	50

	その他（%）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	・大学での学修では、授業への参加だけでなく、関心をもった事柄について自ら情報を集めて思考を深める主体性が重要です。受講者の皆さんが本科目の履修を通じて、本科目で学んだ内容をテキスト以外の企業活動の事例の考察に応用したり、より専門的な内容について読書を行うなど、主体的な学修へ足を踏み出してください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	第１回　イントロダクション	［予習］シラバスの内容について概要を理解し、テキストの各章を概観することで本科目の全体像を適宜把握してください。 ［復習］授業の配布資料を参照して復習を行ってください。	4 時間
第２回	対面	第２回　社会、そして社会学的分析とは何か	［予習］テキストの講読範囲を事前に読み、予習を行ってください。 ［復習］授業の配布資料や提出したコメントシートの内容を振り返ることで、復習を行ってください。	4 時間
第３回	対面	第３回　家族と社会学	［予習］テキストの講読範囲を事前に読み、予習を行ってください。 ［復習］授業の配布資料や提出したコメントシートの内容を振り返ることで、復習を行ってください。	4 時間
第４回	対面	第４回　ジェンダーと社会学	［予習］テキストの講読範囲を事前に読み、予習を行ってください。 ［復習］授業の配布資料や提出したコメントシートの内容を振り返ることで、復習を行ってください。	4 時間
第５回	対面	第５回　労働と社会学	［予習］テキストの講読範囲を事前に読み、予習を行ってください。 ［復習］授業の配布資料や提出したコメントシートの内容を振り返ることで、復習を行ってください。	4 時間
第６回	対面	第６回　宗教と社会学	［予習］テキストの講読範囲を事前に読み、予習を行ってください。 ［復習］授業の配布資料や提出したコメントシートの内容を振り返ることで、復習を行ってください。	4 時間
第７回	対面	第７回　差別や犯罪と社会学	［予習］テキストの講読範囲を事前に読み、予習を行ってください。 ［復習］授業の配布資料や提出したコメントシートの内容を振り返ることで、復習を行ってください。	4 時間
第８回	対面	第８回　前半授業のまとめ	［予習］第 2 回から第 7 回授業で扱ったテキストの講読範囲を再度読み直し、予習を行ってください。 ［復習］授業の配布資料や提出したコメントシートの内容を振り返ることで、復習を行ってください。	4 時間
第９回	対面	第９回　サブカルチャーと社会学	［予習］テキストの講読範囲を事前に読み、予習を行ってください。 ［復習］授業の配布資料や提出したコメントシートの内容を振り返ることで、復習を行ってください。	4 時間
第１０回	対面	第 10 回　国際社会学の基礎的視座	［予習］テキストの講読範囲を事前に読み、予習を行ってください。 ［復習］授業の配布資料や提出したコメントシートの内容を振り返ることで、復習を行ってください。	4 時間
第１１回	対面	第 11 回　国際人口移動	［予習］テキストの講読範囲を事前に読み、予習を行ってください。 ［復習］授業の配布資料や提出したコメントシートの内容を振り返ることで、復習を行ってください。	4 時間
第１２回	対面	第 12 回　多文化社会	［予習］テキストの講読範囲を事前に読み、予習を行	4 時間

			ってください。 ［復習］授業の配布資料や提出したコメントシートの内容を振り返ることで、復習を行ってください。	
第１３回	対面	第 13 回　グローバルな集団と諸制度	［予習］テキストの講読範囲を事前に読み、予習を行ってください。 ［復習］授業の配布資料や提出したコメントシートの内容を振り返ることで、復習を行ってください。	4 時間
第１４回	対面	第 14 回　国際社会学に残された課題	［予習］テキストの講読範囲を事前に読み、予習を行ってください。 ［復習］授業の配布資料や提出したコメントシートの内容を振り返ることで、復習を行ってください。	4 時間
第１５回	オンデマンド	第 15 回　後半授業のまとめ	［予習］第 9 回から第 14 回授業で扱ったテキストの講読範囲を再度読み直し、予習を行ってください。 ［復習］授業の配布資料や提出したコメントシートの内容を振り返ることで、復習を行ってください。	4 時間

科目名	世界の宗教	開講年度	2025
担当者	本多　真	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	この講義では、多様な文化の背景にある宗教に焦点をあてる。		
授業の目的及び概要	宗教の基本的な構造を理解し、日常にある文化／慣習を取り上げながら、世界の宗教文化に触れることのできる寛容な姿勢と、それを客観的に理解／分析することのできる力を身に着けることを目指します。講義では、宗教の「教義」「行為様式（儀礼）」「社会規範」について、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教、ヒンドゥー教、仏教、神道を学修します。また、ジェンダー問題、イスラエル問題、ウクライナ侵攻、自死・自殺、結婚などの背景にある、宗教的動向／思想を解説します。異なる価値観や文化的背景をもつ他者と協力し、社会の一員として活躍できる能力と生涯にわたる就業力を身に着けることに寄与するものと位置付けます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	宗教の特徴について説明できるようになります。身のまわりにある宗教文化の背景について理解、説明できるようになります。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	フロアから寄せられた質問にその場で答えます。また講評についても授業時に対応します。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特にありません。	ISBN	特にありません。
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	20
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	60
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	「礼をする」「相槌を打つ」など、一見すると合理的ではないことが、日本では習慣的におこなわれています。また世界をみわたすと、合理的とは言い難い慣習がある他、理解しがたいモニュメントや集団行動が見られます。 人間社会の営みの理由や根拠をどこまでも問うていくと、宗教に行きつくことがあります。一方、宗教について多くの人はあまり知識を持っていません。この講義では、そんな宗教に目を向けます。 講義では、宗教の「教義」「行為様式（儀礼）」「社会規範」について、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教、ヒンドゥー教、仏教、神道を紹介します。また、ジェンダー問題、イスラエル問題、ウクライナ侵攻、自死・自殺、結婚などの背景にある、宗教的動向／思想を解説します。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション：宗教と文化のかかわり	・宗教と文化は強い結びつきがあります。 ・身のまわりにどんな「宗教」があるか、考えてみましょう。	4 時間
第２回	対面	一神教について	・前回講義の内容を復習しておきましょう。 ・一神教に該当する宗教はどれか、調べておきましょう。	4 時間
第３回	対面	一神教について：ユダヤ教	・前回講義の内容を復習しておきましょう。 ・ユダヤ教とはどのような宗教か、調べておきましょう。	4 時間
第４回	対面	一神教について：キリスト教	・前回講義の内容を復習しておきましょう。 ・キリスト教とはどのような宗教か、調べておきましょう。	4 時間
第５回	対面	一神教について：もう一つのキリスト教	・前回講義の内容を復習しておきましょう。 ・ウクライナの宗教、ギリシャ正教とはどのような宗教か、調べておきましょう。	4 時間
第６回	対面	一神教について：イスラム教	・前回講義の内容を復習しておきましょう。 ・イスラム教とはどのような宗教か、調べておきましょう。	4 時間
第７回	対面	一神教について：イスラエル、パレスチナの問題	・前回講義の内容を復習しておきましょう。 ・イスラエル、パレスチナのどういった点が問題なのか、調べておきましょう。	4 時間
第８回	対面	一神教について：キリスト教と妊娠中絶について	・前回講義の内容を復習しておきましょう。 ・人工妊娠中絶と宗教の関係について、考えてみましょう。	4 時間
第９回	対面	一神教について：イスラム教圏と民主化運動	・前回講義の内容を復習しておきましょう。 ・中東のイスラム教徒が大きく変わろうとしています。背景にある価値観について、調べておきましょう。	4 時間
第１０回	対面	多神教について：ヒンドゥー教	・前回講義の内容を復習しておきましょう。 ・ヒンドゥー教とはどのような宗教か、調べておきましょう。	4 時間
第１１回	対面	多神教について：神道	・前回講義の内容を復習しておきましょう。 ・神道とはどのような宗教か、調べておきましょう。	4 時間
第１２回	対面	多神教について：相撲はスポーツか	・前回講義の内容を復習しておきましょう。 ・相撲の特徴について、調べておきましょう。	4 時間
第１３回	対面	無神論：仏教	・前回講義の内容を復習しておきましょう。 ・仏教とはどのような宗教か、調べておきましょう。	4 時間
第１４回	対面	重なり合う「信仰」：グローバル下の宗教	・前回講義の内容を復習しておきましょう。 ・信仰の重層化が広がっています（キリスト教でありながらお遍路に参加する／仏教徒でありながらサンティアゴ巡礼に参拝する／正月は神社、葬儀は仏式でおこなう、など）。 ・こうした「信仰をまたぐ」ケースについて、他にどのような事例がありそうか、調べておきましょう。	4 時間
第１５回	オンデマンド	授業の総括	・前回講義の内容を復習しておきましょう。 ・この講義ではこれまでの講義について、質問や疑問にお答えします。質問できるように準備してきましょう。	4 時間

科目名	観光概論	開講年度	2025
担当者	山本　訓弘	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	少子高齢化が進む日本国において「観光」は成長戦略のひとつです。本講義では、観光学の基本から講義を始め、観光産業と観光政策等の現状分析を行い、その分析から課題の発見と解決を考えます。		
授業の目的及び概要	本講義では、観光の産業・政策・歴史・文化等の観点から総合的に「観光」を講義し、受講生各自が観光の基礎的知識を習得するできるようにします。特に、受講生がチームで「グループディスカッション」や「プレゼンテーション」を行い、観光の基礎的知識の習得とその定着を狙います。また、内閣府地域経済分析システム RESAS を使用し、データに基づいた観光分析を行います。		
履修条件・留意点	授業時間中に、今回の授業内容に基づいた「書き物」を執筆し、提出をします。第 1 回目、グループ討議の実施回（2 回）と発表（2 回）の 5 回の授業を除く授業（全 10 回）で書き物を課します。1 回 3%の合計 30%この提出で出欠を取ります。この書き物のペーパーは担当教員が 1 人 1 枚手渡しで配布します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	１．観光に関する産業・政策・歴史・文化等の観点から「観光とは何か」に答えられる学力を身に付けること。 ２．観光の基礎的知識を習得し、現代の観光に自分がどう関わることができるかを考え、答えを出せる学力を身に付けること。 ３．資料や事実を基にした考察を文章表現し、自分自身のオリジナルレポートとして執筆できること。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	１．グループディスカッション（GD）とプレゼンテーション内容（P 内容）を授業中に講評します。 ２．レポートの内容を授業中に講評します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、町の観光協会の役割を担う一般社団法人吉野ビジターズビューローにて、観光振興コンサルティングや調査を行う業務に 6 年間従事してきた。また、ビデオゲーム開発職に 18 年従事し、プロジェクトマネジメントを行う経験も有する。観光振興の実践的な知識に加え、情報管理など、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	なし。レジュメ（PDF）を Learning Portal で配布します。	ISBN	なし。
参考書	レジュメ等で紹介します。	ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	0
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	30
その他（%）	40
その他の内容	グループディスカッション 5%（グループへの貢

		献）+プレゼンテーション内容 15%（調査量と発表態度）＝20% それら 2 回で 40%
この科目の受講にあたって	観光の産業・政策・歴史・文化等の観点から総合的に「観光」を講義するので、日本国の観光の歴史から現代社会の観光の状況まで学ぶことができます。特に、観光は様々な分野と関わりますので、経済や経営等の学術的アプローチから、現代社会を知るきっかけ作りにもなります。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	第１回　「観光」を学ぶとは（オリエンテーション、ガイダンス） 〇担当教員の自己紹介 〇授業の受け方の説明（特に、グループディスカッション、プレゼンテーション） 〇授業内容の説明 〇単位認定の仕方の説明	復習：授業内容を振り返り、半期のスケジュールを自分なりに考えておくこと	1 時間
第２回	対面	第 2 回　観光の歴史と文化①　観光はいつから始まり、今にどうつながるのか？ 〇日本国での観光の歴史と文化（伊勢参り、熊野詣等）	予習：google 検索等で「伊勢参り」「熊野詣」「オンラインツーリズム」を調べておく 復習：授業内容を振り返り、自分が関心のあるテーマを探しておく	2 時間
第３回	対面	第 3 回　観光の歴史と文化②　近代の観光とは 〇近代の観光を歴史・文化・産業の３点から分析する（西洋化、文明開化）	予習：google 検索等で「近代の観光」を調べておく 復習：授業内容を振り返り、自分が関心のあるテーマを探しておく	2 時間
第４回	対面	第 4 回　観光の歴史と文化③　現在・今後の観光とは 〇現在（コロナ禍、ウィズコロナ）での観光「マイクロツーリズム」「オープンエアーを重視した観光」「インバウンドの現状」「オーバーツーリズム」「観光庁の施策」 〇今後（ICT、アバター）での観光	予習：google 検索等で「マイクロツーリズム」「オープンエアー」「アバター」を調べておく 復習：授業内容を振り返り、自分が関心のあるテーマを探しておく	2 時間
第５回	対面	第 5 回　観光の歴史と文化から考える観光による地域活性化 〇観光による地域振興のケーススタディ「京都府宮津市・天橋立」「島根県松江市・玉造温泉」等	予習：google 検索等で「天橋立」「玉造温泉」「長野県阿智村の夜景」を調べておく 復習：学習した内容から、自分に関係する場所にどう応用できるかを考え、メモを作る	3 時間
第６回	対面	第 6 回　観光の諸相①　地域がコンテンツの舞台地になる 〇コンテンツツーリズムの理論 〇コンツリイベントでのアンケート調査の分析	予習：google 検索で、コンテンツツーリズムを調べておく 復習：学習した内容から、自宅が舞台地になった時のコンテンツツーリズムの企画を考え、メモを作る	3 時間
第７回	対面	第 7 回　観光の諸相②　コンテンツツーリズムの実例 〇担当教員が奈良県吉野町でコンテンツツーリズム・コンツリイベントを企画・実施した事例紹介 〇中間レポートのお題発表	予習：google 検索等で「奈良県吉野町」について調べておく 復習：前回の企画に、今回学習した内容を足して、どう企画・実施できるかを考え、メモを作る。さらに、中間レポートのお題を発表するので、第 9 回目の授業始めまでに中間レポートを執筆し、本授業のラーニングポータルに提出すること。	6 時間
第８回	対面	第 8 回　観光の諸相③　注目されるツーリズム 〇ガストロノミーツーリズム（地産地消の美食＋地域観光） 〇医療ツーリズム（最新の医療＋地域町歩き観光）	予習：google 検索等で「ガストロノミーツーリズム」「医療ツーリズム」について調べておく 復習：今回学習した内容から、自宅近くで出来るガストロノミーツーリズムを考える	3 時間

第９回	対面	第 9 回　RESAS を使った観光情報の入手・分析・評価 〇RESAS を実際に使用し、観光情報を入手する 〇入手した観光情報の分析･評価の手法を学ぶ	予習：google 検索等で「RESAS」「RESAS の使い方」のサイトを見て、一度、RESAS の操作をしておく 復習：RESAS を使って、これまで作ってきたメモに観光情報を追加して、メモをレベルアップさせる	3 時間
第１０回	対面	第 10 回　中間レポートの講評・フォローアップ 〇中間レポートの講評を行う 〇情報を追加し、フォローアップを行う	予習：自分が執筆・提出した中間レポートを見直す 復習：講評・フォローアップの内容を参考に、中間レポートの加筆・修正を行う	6 時間
第１１回	対面	第 11 回　グループディスカッションの準備 〇グループディスカッションのやり方、お題の解題の仕方（問題の構造化）、解決提案の作り方 〇グループディスカッションの採点側の採点基準を知る	予習：google 検索等で「グループディスカッションのやり方」「問題の構造化」を調べておく 復習：グループディスカッションは単位認定の配点が大きく、就職活動にも必須なので、動画を繰り返し視聴して、主体的に取り組めるようにしておく	6 時間
第１２回	対面	第 12 回　グループディスカッション① 〇第 1 回目のグループディスカッションを行う 〇授業時間内に、チームでまとめた解決提案をリーダーが担当教員に紙で提出する	予習：前回のグループディスカッションのやり方等を見直しておく 復習：今回のグループディスカッションの内容を振り返り、解決提案の内容をプレゼンテーションできるようにしておく	6 時間
第１３回	対面	第 13 回　グループディスカッション①の講評とフォローアップ 〇前回行ったグループディスカッション①の講評を行う 〇情報を追加し、フォローアップを行う	予習：提出した解決提案のプレゼンテーションができるようにしておく 復習：講評・フォローアップの内容を参考に、解決提案の加筆・修正を行う	6 時間
第１４回	対面	第 14 回　グループディスカッション② 〇第 2 回目のグループディスカッションを行う 〇授業時間内に、チームでまとめた解決提案をリーダーが担当教員に紙で提出する	予習：第 1 回目のグループディスカッションのやり方・解決提案等を見直しておく 復習：今回のグループディスカッションの内容を振り返り、解決提案の内容をプレゼンテーションできるようにしておく	6 時間
第１５回	オンデマンド	第 15 回　まとめ、グループディスカッション②の講評とフォローアップ 〇前回行ったグループディスカッション②の講評を行う 〇情報を追加し、フォローアップを行う 〇本授業のまとめを行う	予習：提出した解決提案のプレゼンテーションができるようにしておく 復習：講評・フォローアップの内容を参考に、解決提案の加筆・修正を行う。また、これまでの授業内容を各自で振り返る	6 時間

科目名	国際政治学Ⅰ	開講年度	2025
担当者	井上　健太郎	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	国際政治の展開を追いながら「国家と国家の間の対立と協調」を考える		
授業の目的及び概要	本講義では，国際政治学の基礎的な概念と歴史的背景を広く学びます．		
履修条件・留意点	特になし．		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本授業において受講者に期待する到達目標は次のとおりです． （１）国際政治学の基礎的概念を理解できるようになる． （２）近現代の国際政治の歴史的展開を理解できるようになる． （３）国際政治学が対象とする多様なイシューについて，日々のニュースと合わせて自分の言葉で説明できるようになる． （４）国際学部の必須ツールである英語能力向上のために，国際政治学の専門用語を英語で理解できるようになる．		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	（1）リアクションペーパーを配布し，次回授業の冒頭でそれらをもとに受講生との質疑応答を行います． （2）中間テストは，授業中に解説及び講評を行います．		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定しない．	ISBN	指定しない．
参考書	①村田晃嗣・君塚直隆・石川卓・栗栖薫子・秋山信将『国際政治学をつかむ【第３版】』，有斐閣，2023 年 ②鈴木基史『グローバル・ガバナンス論講義』，東京大学出版会，2017 年 ③野林健・大芝亮・納家政嗣・山田敦・長尾悟『国際政治経済学・入門【第３版】』，有斐閣アルマ，2007 年	ISBN	① 978-4-641-17731-4 ②978-4-13-032226-3 ③978-4-641-12333-5

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	40
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	20
【定期試験】レポート試験	40
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	【授業の内容について】 ①各授業回で配布する資料・スライドをもとに予習と復習を十分に行ってください． ②各授業回にはキーワードがあります．授業後にキーワードを自分で説明できるよう，予習と復習を通じて，知識を深めてください． ③授業では教員の一方的な説明のみではなく，受講生と教員の対話を通じて，知識を深めてい

	きたいと思います． 【受講上のルールについて】 ①スマホ・タブレット等は，授業に関係のある事柄に関してのみ使用を認めます． ②授業には時間通りに来て，すべての回に参加してください．出席に関する不正が発覚した場合は，単位を付与しません． ③授業中の私語，授業と関係のない私的行為は禁止です． ④出席をとるための学生証を忘れた場合，授業日中（その日のうち）にメールで出席の連絡をしてください． ⑤必要と状況に応じて，対面／Zoom での面談を受け付けます．お気軽にお申し付けください．

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス：授業全体の説明と国際政治学を学ぶ意義	【予習】シラバスを事前に読んでおいてください． 【復習】シラバスと第 1 回のスライドを読み直し，講義で得た知識を確認してください．	4 時間
第２回	対面	国際政治学は何を研究対象とするのか？①：戦争と平和 〈キーワード：国益，力（パワー），国際連盟，国際連合〉	【予習】第 2 回のスライドと配布資料を事前に読んでおいてください． 【復習】第 2 回のスライドと配布資料を読み直し，講義で得た知識を確認してください．	4 時間
第３回	対面	国際政治学は何を研究対象とするのか？②：国際政治学と経済 〈キーワード：オイルショック，ハイ・ポリティックス，ロー・ポリティックス，相互依存〉	【予習】第 3 回のスライドと配布資料を事前に読んでおいてください． 【復習】第 3 回のスライドと配布資料を読み直し，講義で得た知識を確認してください．	4 時間
第４回	対面	国際政治学は何を研究対象とするのか？③：国際政治学とグローバル化 〈キーワード：グローバリゼーション，人間の安全保障〉	【予習】第 4 回のスライドと配布資料を事前に読んでおいてください． 【復習】第 4 回のスライドと配布資料を読み直し，講義で得た知識を確認してください．	4 時間
第５回	対面	国際政治学の世界観：イズムによる整理（第 2 回から第４回までのまとめを兼ねる） 〈キーワード：リアリズム， リベラリズム，コンストラクティビズム〉	【予習】第 5 回のスライドと配布資料を事前に読んでおいてください． 【復習】第 5 回のスライドと配布資料を読み直し，講義で得た知識を確認してください．	4 時間
第６回	対面	国際政治の歴史①：ウェストファリア体制から第一次世界大戦 〈キーワード：主権国家，総力戦〉	【予習】第 6 回のスライドと配布資料を事前に読んでおいてください． 【復習】第 6 回のスライドと配布資料を読み直し，講義で得た知識を確認してください．	4 時間
第７回	対面	国際政治の歴史②：戦間期から第二次世界大戦へ 〈キーワード：「危機の二十年」，大恐慌〉	【予習】第 7 回のスライドと配布資料を事前に読んでおいてください． 【復習】第 7 回のスライドと配布資料を読み直し，講義で得た知識を確認してください．	4 時間
第８回	対面	中間テスト	【予習】第 1 回～第 7 回までのスライドと配布資料（とくにキーワード）を事前に読み，中間テストに備えてください． 【復習】第 1 回～第 7 回までのスライドと配布資料（とくにキーワード）を読み直し，中間テスト出題範囲の知識を確認してください．	4 時間
第９回	対面	国際政治の歴史③：冷戦と第三世界 〈キーワード：東西冷戦，アジアにおける冷戦，第三世界〉	【予習】第 9 回のスライドと配布資料を事前に読んでおいてください． 【復習】第 9 回のスライドと配布資料を読み直し，講義で得た知識を確認してください．	4 時間
第１０回	対面	イシューごとの理論と歴史①：安全保障 〈キーワード：同盟，勢力均衡，バンドワゴン〉	【予習】第 10 回のスライドと配布資料を事前に読んでおいてください． 【復習】第 10 回のスライドと配布資料を読み直し，講義で得た知識を確認してください．	4 時間
第１１回	対面	イシューごとの理論と歴史②：貿易	【予習】第 11 回のスライドと配布資料を事前に読ん	4 時間

		〈キーワード：世界貿易機関（WTO），自由貿易協定（FTA），TPP〉	でおいてください. 【復習】第 11 回のスライドと配布資料を読み直し，講義で得た知識を確認してください.	
第１２回	対面	イシューごとの理論と歴史③：環境 〈キーワード：京都議定書，パリ条約〉	【予習】第 12 回のスライドと配布資料を事前に読んでおいてください. 【復習】第 12 回のスライドと配布資料を読み直し，講義で得た知識を確認してください.	4 時間
第１３回	対面	「国家と国家の対立と協調」を考える①：力と制度の視点から 〈キーワード：覇権安定論，レジーム論，（国際）公共財〉	【予習】第 13 回のスライドと配布資料を事前に読んでおいてください. 【復習】第 13 回のスライドと配布資料を読み直し，講義で得た知識を確認してください.	4 時間
第１４回	対面	「国家と国家の対立と協調」を考える②：実践としての地域統合の視点から 〈キーワード：EU，ASEAN，AU〉	【予習】第 14 回のスライドと配布資料を事前に読んでおいてください. 【復習】第 14 回のスライドと配布資料を読み直し，講義で得た知識を確認してください.	4 時間
第１５回	オンデマンド	総括 これまでの授業の振り返りを行い，レポート試験に向けたポイントをお話しします.	【予習】これまでのスライドと配布資料を再度読み直してください. 【復習】これまでのスライドと配布資料を再度読み直し，講義で得た知識を確認してください.	4 時間

科目名	国際政治学Ⅱ	開講年度	2025
担当者	張　雪斌	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	経済、ヒトと文化の側面から国際政治を学ぶ		
授業の目的及び概要	この授業の目的は国際政治学における経済、貿易、ヒトや文化といった「ソフト」な部分について学ぶことです。そして、この授業はグローバリゼーションの光の部分（豊かになった、便利になった）だけでなく、影の部分（越境する国際問題、多様化する対立と摩擦）にもスポットを当てます。 国家にとって、安全と平和はいつの時代でも至上命題です。そのため、軍事安全保障は国際政治、そして国際政治学の最重要課題であり続けてきました。一方、グローバル化が進むなか、国際政治における経済、貿易、ヒトや文化といった「ソフト」な部分の重要性が急激に増しています。この授業では、国際政治経済だけでなく、人間の安全保障、ソフト・パワーといったテーマについても学ぶことで、経済、貿易関係の深化と、ヒトや文化の越境への理解を深めます。なお、本講義は国際政治学を理解するために、アジア太平洋地域の事例や時事問題を多く扱う予定です。 受講者の皆さんの授業への理解度に合わせて、内容を調整する可能性があります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・国際政治学における経済、貿易、ヒトや文化といった「ソフト」な部分に関する基本的な知識を身につけること ・国際政治学や国際政治経済論の基本的な分析手法を理解すること ・国際社会における非伝統的な課題の存在を認識し、自分の意見を持つこと ・アジア太平洋地域に起きている時事問題に対して基本的な理解を得ること		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・コメントカードを使って皆さんから質問を集め、次週以降質問への回答やコメントをします ・授業中や授業終了後に質疑応答の時間を設けます ・必要な場合は補足資料を配布（あるいはラーニングポータルで公開）し、参考資料、文献を紹介します		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	国際政治学，中西寛、石田淳、田所昌幸，有斐閣，2013年	ISBN	978-4641053786
参考書	野林健、大芝亮、納家政嗣、山田敦、長尾悟『国際政治経済学・入門　第３版』（有斐閣、2007） その他の参考書と参考文献は適宜授業中に紹介します。	ISBN	978-4641123335

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	30
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	70

	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	国際政治学Ⅰと合わせて履修することをお勧めします（必須ではありません）。 この講義の内容には「正解」がありません。さまざまな情報を客観的に分析し、自分の考えとは異なる意見にも耳を傾ける姿勢を高く評価されます。 授業で学んだことと関連のあるニュース記事を見かけたら、ぜひそのニュースの要点と自分の意見をノートに書いてみてください。就職活動のときに必ず役に立ちます。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション：授業の目的、概要や成績評価などについて説明します。	【予習】事前にシラバスの内容を確認し、授業の概要を把握してください。テキストを購入し、その内容を把握してください。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。	4 時間
第２回	対面	国際政治、国際政治学のソフトなものとは何か、なぜそれらが重要なのか	【予習】配布資料を使い、事前予習をしてください。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください	4 時間
第３回	対面	政治学の論理と経済学の論理	事前事後学修 【予習】配布資料を使い、事前予習をしてください。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。	4 時間
第４回	対面	第二次世界大戦までの国際政治経済	【予習】配布資料を使い、事前予習をしてください。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。	4 時間
第５回	対面	冷戦期の国際政治経済：協力と協調のルール作り	【予習】配布資料を使い、事前予習をしてください。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。	4 時間
第６回	対面	グローバリゼーションと貿易摩擦、保護主義	【予習】配布資料を使い、事前予習をしてください。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。	4 時間
第７回	対面	リージョナル・レベルとナショナル・レベルの国際秩序	【予習】配布資料を使い、事前予習をしてください。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。	4 時間

第８回	対面	経済安全保障	【予習】配布資料を使い、事前予習をしてください。【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。	4 時間
第９回	対面	グローバリゼーションと安全保障の変容	【予習】配布資料を使い、事前予習をしてください。【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。	4 時間
第１０回	対面	エコノミック・ステーツクラフト（経済的手段による国益の追求）	【予習】配布資料を使い、事前予習をしてください。【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。	4 時間
第１１回	対面	国境を超える人の移動	【予習】配布資料を使い、事前予習をしてください。【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。	4 時間
第１２回	対面	人間の安全保障	【予習】配布資料を使い、事前予習をしてください。【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。	4 時間
第１３回	対面	地球環境問題	【予習】配布資料を使い、事前予習をしてください。【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。	4 時間
第１４回	対面	ソフト・パワーをめぐる新たな競争	【予習】配布資料を使い、事前予習をしてください。【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。15 回目の授業に向けて、質問をまとめて教員に伝えてください。	4 時間
第１５回	オンデマンド	授業のまとめ、振り返り、質疑応答	【予習】配布資料を使い、事前予習をしてください。【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。	4 時間

科目名	国際社会と法	開講年度	2025
担当者	菅原　絵美	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	国際社会のニュースを法の視点から考える		
授業の目的及び概要	グローバル化する社会で起こる諸現象を法（ルール）の観点から考察する基礎的な知識を学ぶ授業である。第 1 に法学の基礎知識（法の機能や種類、優劣関係等）を、第 2 に国内法及び国際法の基礎知識（条約の成立過程、裁判制度等）を、第 3 に国内法秩序と国際法秩序の相互関係を学修する。これら基礎知識を土台に、グローバルな課題（国籍、犯罪人の引渡し、テロ対策、感染症対策、金融危機等）を取り上げ、国内法と国際法のダイナミックな相互作用について検討を深める。将来のキャリアとして国際社会で活躍するために必要不可欠な「気づき」を得る力を養成することを目指す。		
履修条件・留意点	特になし		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	国際法を学ぶうえでの基本知識（法、国家、国際社会、国際法の規則等）を持っている。 「法」の視点から国際社会の多様性を具体的な事例から説明することができる（ルールを適用する際に生じる問題・課題から国際社会の多様性（価値観の相違など）を説明することができる）。 教員が授業で説明した国際法のルールを使って事例を説明することができる。 国際的な事例・問題を通じて、自分・自国とは異なる他者・他国の意見・主張を受け止めることができる。そのうえで、事例・問題について議論することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の授業では授業内容に関する問いを課し、授業中および授業終了時にリフレクションペーパーを提出してもらう。リフレクションペーパーは次回授業でフィードバックするとともに、授業の振り返りに活用し、授業の双方向性を確保する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定なし	ISBN	なし
参考書	①はてなの国際法，岩本誠吾・戸田五郎，晃洋書房、2022 年 ②18 歳から考える人権（第二版），宍戸常寿編，法律文化社，2020 年	ISBN	①9784771036673 ②9784589041173

成績評価の方法・基準		
	授業への積極的な参加度・取組み	10
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	50
	その他（%）	0
	その他の内容	特になし

この科目の受講に	国際社会は歴史、文化、制度などが非常に多様である約２００の国・地域によって構成されている（ちなみに日本にとっては１９６の国家が地球上には存在している）。一方で、この国際社

あたって	会を規律するのは普遍的な法（ルール）である。普遍的なルールと多様な国・地域との間で生じるダイナミックな動きに、今後の専門学修および海外体験・留学につながっていく「気づき」を得てほしい。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション 授業の目的、授業の進め方、成績評価の方法など、授業の概要を説明する。	ラーニングポータルに掲載した授業のレジュメを読み予習する。復習として授業のまとめでの出題にオンラインで回答する。	4 時間
第２回	対面	法とは何か① 日本の道路交通法を題材にルールの意味、読み方、解釈の仕方について考える。	ラーニングポータルに掲載した授業のレジュメを読み予習する。復習として授業のまとめでの出題にオンラインで回答する。	4 時間
第３回	対面	法とは何か② ケーキの分け方および借地借家法を題材に当事者の利益や紛争解決について考える。	ラーニングポータルに掲載した授業のレジュメを読み予習する。復習として授業のまとめでの出題にオンラインで回答する。	4 時間
第４回	対面	国家における法（国内法） 国家とは何か、その国家のなかではたらく法についての基礎知識を学ぶ。	ラーニングポータルに掲載した授業のレジュメを読み予習する。復習として授業のまとめでの出題にオンラインで回答する。	4 時間
第５回	対面	国際法の基礎知識①：武力行使禁止原則と武力紛争のルール 国際社会における法の役割・必要性や国際法（条約・慣習国際法）について具体的な事例を示しながら考察する。	ラーニングポータルに掲載した授業のレジュメを読み予習する。復習として授業のまとめでの出題にオンラインで回答する。	4 時間
第６回	対面	国際法の基礎知識②：国際的な人権保障 国際社会における法の役割・必要性や国際法（条約・慣習国際法）について具体的な事例を示しながら考察する。	ラーニングポータルに掲載した授業のレジュメを読み予習する。復習として授業のまとめでの出題にオンラインで回答する。	4 時間
第７回	対面	国際法秩序と国内法秩序の相互関係 環境問題（気候変動）に関する国際法（パリ協定）を題材に、国際社会のルールが国内社会のルールとなっていく過程を考察する。	ラーニングポータルに掲載した授業のレジュメを読み予習する。復習として授業のまとめでの出題にオンラインで回答する。	4 時間
第８回	対面	国際社会における紛争解決 国家間で問題が生じた場合はどのように解決するのか、平和的な紛争解決について考察する。	ラーニングポータルに掲載した授業のレジュメを読み予習する。復習として授業のまとめでの出題にオンラインで回答する。	4 時間
第９回	対面	事例の考察① 国際社会における人の越境移動（無国籍者、難民、移住労働者など）における法について考察する。	ラーニングポータルに掲載した授業のレジュメを読み予習する。復習として授業のまとめでの出題にオンラインで回答する。	4 時間
第１０回	対面	事例の考察② 国際社会における感染症（新型コロナウイルス感染症など）対策における法について考察する。	ラーニングポータルに掲載した授業のレジュメを読み予習する。復習として授業のまとめでの出題にオンラインで回答する。	4 時間
第１１回	対面	事例の考察③ 国境を越える犯罪行為（犯罪人引渡、越境組織犯罪、テロ対策など）に対する法について考察する。	ラーニングポータルに掲載した授業のレジュメを読み予習する。復習として授業のまとめでの出題にオンラインで回答する。	4 時間
第１２回	対面	事例の考察④ 世界経済における貿易の自由化における法について考察する。	ラーニングポータルに掲載した授業のレジュメを読み予習する。復習として授業のまとめでの出題にオンラインで回答する。	4 時間
第１３回	対面	事例の考察⑤ 国際社会における安全保障（軍事同盟、AI兵器の規制など）および人間の安全保障における法について考察する。	ラーニングポータルに掲載した授業のレジュメを読み予習する。復習として授業のまとめでの出題にオンラインで回答する。	4 時間

第１４回	対面	授業のまとめ 授業全体の総括を行う。	ラーニングポータルに掲載した授業のレジュメを読み予習する。復習として授業のまとめでの出題にオンラインで回答する。	4 時間
第１５回	オンデマンド	これまでの振り返り 定期試験にむけてこれまでの授業のポイントを振り返り、質疑応答を行う。	ラーニングポータルに掲載した授業のレジュメを読み予習する。復習として授業のまとめでの出題にオンラインで回答する。	4 時間

科目名	国際経済基礎	開講年度	2025
担当者	前鶴　政和	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	国際経済に関する経済学の基礎		
授業の目的及び概要	この授業は、経済学の基礎を学んだ上で、世界各国の経済が貿易や投資を通じて相互に影響し合っていることを理解することを目的とします。 　この授業を受講することにより、各国の経済諸事象を相互に関連づけて理解する経済学の基本的知識を身につけることができます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①需要・供給・余剰などのミクロ経済学の基本的な用語を説明できる。 ②ミクロ経済学の基本的な知識を用いて、貿易による利益や関税などの効果を説明できる。 ③GDP などのマクロ経済学の基本的な用語を説明できる。 ④外国為替市場と外国為替レート、国際収支などについて説明できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題については、授業中に講評、解説を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません。配布資料を用いて講義を行います。	ISBN	なし
参考書	①コンパクト　経済学　〔第 3 版〕，井堀利宏，新世社，2024 年 ②はじめまして、経済学，宿輪純一，ウェッジ，2024 年	ISBN	①9784883843893 ②9784863102712

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	30
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	50
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	授業に積極的に参加し、配布資料と参考書を用いながら予習と復習を行ってください。経済や社会の状況に関心を持ち、積極的に新聞・雑誌を読んだりテレビ・インターネットのニュースを見聞きしたりするように心がけてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	授業の進め方、成績評価等について、ガイダンスを行います。	【予習】シラバスとガイダンスの配布資料を事前に読んでおいてください。	2 時間

			【復習】シラバスとガイダンスの配布資料の内容を読み直し、復習しておいてください。	
第２回	対面	「経済学の考え方」について説明します。	【予習】「経済学の考え方」に関する配布資料及び参考書①（pp. 2-9）を事前に読んでおいてください。 【復習】「経済学の考え方」に関する配布資料及び参考書①（pp. 2-9）を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第３回	対面	「消費と貯蓄」について学修します。	【予習】「消費と貯蓄」に関する配布資料及び参考書①（pp. 22-25）を事前に読んでおいてください。 【復習】「消費と貯蓄」に関する配布資料及び参考書①（pp. 22-25）を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第４回	対面	「企業と生産活動」について説明します。	【予習】「企業と生産活動」に関する配布資料及び参考書①（pp. 42-43）を事前に読んでおいてください。 【復習】「企業と生産活動」に関する配布資料及び参考書①（pp. 42-43）を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第５回	対面	「費用と利潤」について説明します。	【予習】「費用と利潤」に関する配布資料および参考書①（pp. 44-47）を事前に読んでおいてください。 【復習】「費用と利潤」に関する配布資料および参考書①（pp. 44-47）を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第６回	対面	「完全競争市場の企業の行動」について説明します。	【予習】「完全競争市場の企業の行動」に関する配布資料および参考書①（pp. 48-51）を事前に読んでおいてください。 【復習】「完全競争市場の企業の行動」に関する配布資料および参考書①（pp. 48-51）を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第７回	対面	「完全競争」について説明します。	【予習】「完全競争」に関する配布資料及び参考書①（pp. 60-63）を事前に読んでおいてください。 【復習】「完全競争」に関する配布資料及び参考書①（pp. 60-63）を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第８回	対面	「GDP の概念」について説明します。	【予習】「GDP の概念」に関する配布資料および参考書①（pp. 132-135）を事前に読んでおいてください。 【復習】「GDP の概念」に関する配布資料および参考書①（pp. 132-135）を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第９回	対面	「GDP の決定」について説明します。	【予習】「GDP の決定」に関する配布資料および参考書①（pp. 136-137）を事前に読んでおいてください。 【復習】「GDP の決定」に関する配布資料および参考書①（pp. 136-137）を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第１０回	対面	「政府の役割」について説明します。	【予習】「政府の役割」に関する配布資料及び参考書①（pp. 98-105）を事前に読んでおいてください。 【復習】「政府の役割」に関する配布資料及び参考書①（pp. 98-105）を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第１１回	対面	「貿易」について説明します。	【予習】「貿易」に関する配布資料および参考書①（pp. 178-183）を事前に読んでおいてください。 【復習】「貿易」に関する配布資料および参考書①（pp. 178-183）を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第１２回	対面	「国際収支と為替レート」について説明します。	【予習】「国際収支と為替レート」に関する配布資料および参考書①（pp. 184-185）を事前に読んでおいてください。 【復習】「国際収支と為替レート」に関する配布資料および参考書①（pp. 184-185）を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第１３回	対面	「貿易と資本移動」について説明します。	【予習】「貿易と資本移動」に関する配布資料および	4 時間

			参考書①（pp.186-191）を事前に読んでおいてください。 【復習】「貿易と資本移動」に関する配布資料および参考書①（pp.186-191）を読み直し、復習しておいてください。	
第１４回	対面	「日本経済の国際化と円高／円安」について説明します。	【予習】「日本経済の国際化と円高／円安」に関する配布資料および参考書①（pp.192-193）を事前に読んでおいてください。 【復習】「日本経済の国際化と円高／円安」に関する配布資料および参考書①（pp.192-193）を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第１５回	オンデマンド	これまでの内容の総復習をオンデマンドで配信します。	【復習】オンデマンド動画を視聴した上で、これまでの学修内容の総復習を行ってください。	6 時間

科目名	国際経済概論	開講年度	2025
担当者	金子　治平	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	経済学の基礎理論を背景として，経済に関する統計資料と関連させながら各国の経済状況やその推移を説明します.		
授業の目的及び概要	この授業は，世界各国とくにアジア太平洋地域の状況やその推移を統計資料から読み解く力を習得すること，および，経済学の基本的な考え方を理解することを目的とします. この授業を受講することにより，新聞やテレビ・ラジオで話題となっている各国の経済諸事象を相互に関連づけて理解する基本的知識を身につけます.		
履修条件・留意点	この授業は対面授業です. 下記の事後学習を行う必要があります. ・授業後に，講義資料を何回も読み直して復習を行う（最低でも 30 分)(※1) ・その回の講義内容に対するアンケート(※2)に回答する（約 5 分） ・その前の回の講義内容に対する小テスト(※3)を受験する（約 15 分） 履修条件・留意点 ※ 1 各回の講義資料は，日本語で A4 判 4~8 ページあります．日本語の文章がすらすら読める人でも 30 分，日本語に習熟していない人だと 2 時間以上かかると思います. ※ 2 アンケートは，「Learning Portal」のテストの最後に記入することになります．アンケートへの回答は「わかった」「わからなかった」などではなく，その回の授業に対応した具体的なものを記述する必要があります. ※ 3 アンケートを含むテストの成績が，成績評価 100 点満点中 60 点分になります．15 回の授業なので，1 回あたりのテストによる加点は約 4 点分になります．つまり，毎回のテストでいい成績を取ることが，合格するための条件になります.		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・国際機関が公開している統計資料の代表的な項目を理解し，説明することができる. ・統計資料をもとに，世界各国の状況を理解し，説明することができる. ・上記の知見を使用して，新聞などのニュースで取り上げられることがらの内容を理解することができる.		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	teams 上で質問を受け付けて， ・受講生全員に関係する質問等であれば，翌週(あるいは翌々週)の授業で説明します. ・受講生全員には関係しない質問等であれば，2~3 日以内に teams あるいはメールで回答します.		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	使用しません. 資料は，授業支援システム「Learning Portal」にアップロードするとともに，授業時に配布します.	ISBN	なし
参考書	①『世界経済図説 第四版』(岩波新書)，宮崎勇・田谷禎三，岩波書店，2020 年 ②『新・世界経済入門』(岩波新書)，西川潤，岩波書店，2014 年	ISBN	①9784004318309 ②9784004314820
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	

	授業期間中の小テスト、レポート課題等	60
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	40
	その他（%）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	経済や社会の状況に関心を持ち，積極的に新聞・雑誌を読んだりテレビ・ラジオのニュースを見聞きしたりすようにこころがけてください.	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション シラバスに記載してある授業の目的，概要，授業を受ける際の留意点，学習目標，成績評価などについて説明します.	・事前学習として，授業支援システム「Learning Portal」にアップロードした資料に目を通しておいてくだ さい. ・事後学習として，講義資料を何回も読み直して，理解してください. ・理解した点や疑問点などを整理してください. ・「Learning Portal」のテストに，理解した点や疑問点などを回答してください.	4 時間
第２回	対面	世界各国の人口の推移（1） 国連の人口に関する統計をもとに，とくにアジア太平洋地域の諸国について，人口や年齢階級別人口の推移を説明します.	・事後学習として，講義資料を何回も読み直して，理解してください ・理解した点や疑問点などを整理してください. ・「Learning Portal」のテストで，第 1 回の講義内容についての理解度をチェックする問題を受験してください. このテストの中には，第 2 回の講義内容に対して理解した点や疑問点などへの回答も含みます.	4 時間
第３回	対面	世界各国の人口の推移（2） 生産年齢人口，合計特殊出生率，平均寿命について説明するとともに，これらの世界各国における推移を説明します.	・事後学習として，講義資料を何回も読み直して，理解してください ・理解した点や疑問点などを整理してください. ・「Learning Portal」のテストで，第 2 回の講義内容についての理解度をチェックする問題を受験してください. このテストの中には，第 3 回の講義内容に対して理解した点や疑問点などへの回答も含みます.	4 時間
第４回	対面	世界各国の GDP の推移（1） 国内総生産（GDP），市場価格表示の国民所得，要素費用表示の国民所得，国民可処分所得が，それぞれ何を示しているかを説明します.	・事後学習として，講義資料を何回も読み直して，理解してください ・理解した点や疑問点などを整理してください. ・「Learning Portal」のテストで，第 3 回の講義内容についての理解度をチェックする問題を受験してください. このテストの中には，第 4 回の講義内容に対して理解した点や疑問点などへの回答も含みます.	4 時間
第５回	対面	世界各国の GDP の推移（2） 国内総生産の支出側の項目について説明し，東アジア・東南アジアのいくつかの国の統計資料を提示します.	・事後学習として，講義資料を何回も読み直して，理解してください ・理解した点や疑問点などを整理してください. ・「Learning Portal」のテストで，第 4 回の講義内容についての理解度をチェックする問題を受験してください. このテストの中には，第 5 回の講義内容に対して理解した点や疑問点などへの回答も含みます.	4 時間
第６回	対面	世界各国の GDP の推移（3） 名目 GDP と実質 GDP の違いを説明するとともに，前回の講義資料で取り上げた統	・事後学習として，講義資料を何回も読み直して，理解してください ・理解した点や疑問点などを整理してください.	4 時間

		計をもとに各国の特徴を説明します.	・「Learning Portal」のテストで，第 5 回の講義内容についての理解度をチェックする問題を受験してください．このテストの中には，第 6 回の講義内容に対して理解した点や疑問点などへの回答も含みます.	
第７回	対面	世界各国の GDP の推移(4)と国際収支(１) 東アジア･東南アジアのいくつかの国を取り上げて，経済成長率とその内訳を寄与度で示す方法を説明します. 国際収支の基礎について説明します.	・事後学習として，講義資料を何回も読み直して，理解してください ・理解した点や疑問点などを整理してください. ・「Learning Portal」のテストで，第 6 回の講義内容についての理解度をチェックする問題を受験してください．このテストの中には，第 7 回の講義内容に対して理解した点や疑問点などへの回答も含みます.	4 時間
第８回	対面	世界各国の国際収支（2） 国際収支統計の各項目について，具体例をあげながら詳しく説明します.	・事後学習として，講義資料を何回も読み直して，理解してください ・理解した点や疑問点などを整理してください. ・「Learning Portal」のテストで，第 7 回の講義内容についての理解度をチェックする問題を受験してください．このテストの中には，第 8 回の講義内容に対して理解した点や疑問点などへの回答も含みます.	4 時間
第９回	対面	世界各国の国際収支（３） 国際収支統計に関するこれまでの説明を振り返るとともに，日本と中国の国際収支の推移をグラフで示し，日本と中国の経済成長の特徴を説明します.	・事後学習として，講義資料を何回も読み直して，理解してください ・理解した点や疑問点などを整理してください. ・「Learning Portal」のテストで，第 8 回の講義内容についての理解度をチェックする問題を受験してください．このテストの中には，第 9 回の講義内容に対して理解した点や疑問点などへの回答も含みます.	4 時間
第１０回	対面	世界各国の国際収支（4） ベトナムの国際収支の推移をグラフで示し，ベトナムの経済成長の特徴を説明します. また，国際収支の発展段階説について説明します.	・事後学習として，講義資料を何回も読み直して，理解してください ・理解した点や疑問点などを整理してください. ・「Learning Portal」のテストで，第 9 回の講義内容についての理解度をチェックする問題を受験してください．このテストの中には，第 10 回の講義内容に対して理解した点や疑問点などへの回答も含みます.	4 時間
第１１回	対面	国際金融（1） 通貨の安定が必要な理由や，ブレトン・ウッズ体制以降の国際金融システムの歴史について説明します.	・事後学習として，講義資料を何回も読み直して，理解してください ・理解した点や疑問点などを整理してください. ・「Learning Portal」のテストで，第 10 回の講義内容についての理解度をチェックする問題を受験してください．このテストの中には，第 11 回の講義内容に対して理解した点や疑問点などへの回答も含みます.	4 時間
第１２回	対面	国際金融（2） 為替レートの変化が経済に及ぼす影響，実質為替レート指数と実質実効為替レート指数について説明するとともに，統計資料を用いてその推移が意味することを説明します.	・事後学習として，講義資料を何回も読み直して，理解してください ・理解した点や疑問点などを整理してください. ・「Learning Portal」のテストで，第 11 回の講義内容についての理解度をチェックする問題を受験してください．このテストの中には，第 12 回の講義内容に対して理解した点や疑問点などへの回答も含みます.	4 時間
第１３回	対面	世界のエネルギー事情（1） 統計資料を用いながら，エネルギーの種類，一次エネルギーと二次エネルギーの違い，地域別･種類別エネルギー消費量の特徴，それぞれの一次エネルギーの特徴について説明します.	・事後学習として，講義資料を何回も読み直して，理解してください ・理解した点や疑問点などを整理してください. ・「Learning Portal」のテストで，第 12 回の講義内容についての理解度をチェックする問題を受験してください．このテストの中には，第 13 回の講義内容に対して理解した点や疑問点などへの回答も含みます.	4 時間

第１４回	対面	世界のエネルギー事情（2） 　世界各国の一次エネルギーの埋蔵量や，一次エネルギーの貿易の特徴について説明します．	・事後学習として，講義資料を何回も読み直して，理解してください ・理解した点や疑問点などを整理してください． ・「Learning Portal」のテストで，第 13 回の講義内容についての理解度をチェックする問題を受験してください．このテストの中には，第 14 回の講義内容に対して理解した点や疑問点などへの回答も含みます．	4 時間
第１５回	オンデマンド	全体の振り返り 　第 1～14 回の講義を振り返って，全体のまとめを行います．	これまでの講義資料を読み直すとともに，毎回のテストを使ってよく復習してください．	4 時間

科目名	国際経営基礎	開講年度	2025
担当者	福田　真也	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	国際学部においてベースとなる経営学全般について、基礎から専門科目にステップアップするための基本的な内容について学修します。		
授業の目的及び概要	本講義では、経営学全般に関する基礎知識を修得します。 アジア太平洋地域における企業活動の事例を通して、コーポレート・ガバナンスと企業の社会的責任・経営理念・企業戦略、競争戦略と事業システム・組織構造・組織文化等について学修します。		
履修条件・留意点	この授業科目は、専門基礎科目です。 国際的な視点で経営学を学修したい学生の履修を推奨します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・経営学全般に関する基礎知識を修得する。 ・組織論、戦略論、ガバナンス、リーダシップ、モチベーションなど、経営学という学問のなかで関心のある領域を見つける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業冒頭で前回の授業の振り返りを行います。 コメントシートや理解度テスト等については、適宜、授業内で解説しフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①経営学入門，藤田誠，中央経済社，2015 年	ISBN	①9784502133916
参考書	①テキスト経営学(第 3 版)，井原久光，ミネルヴァ書房，2008 年	ISBN	①9784623051298

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	20
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	60
その他（%）	0
その他の内容	0

この科目の受講にあたって
経営学の基礎理論を学修する中で、適宜、企業活動の事例を交えながら、関連する調査研究業務の経験を織り混ぜながら実践的な内容を提供します。 日頃から、インターネットやテレビ、新聞等を通じて、国際的な観点から経営事情に関する出来事について把握できるように心掛けてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	「ガイダンス」 本講義の目的・目標、授業の進め方、成績	（事前学修） 本講義のシラバスを読み込み、受講するにあたって	4 時間

		評価などについて、授業計画をもとに説明します。 「経営学とはどのような学問か」 経営の枠組みをはじめ、経営学の発展経緯、経営学の特徴を通じて、経営学を学修する意義について学修します。 「コーポレート・ガバナンスと企業の社会的責任(1)」 コーポレート・ガバナンスの基本的概念と企業倫理、企業の社会的責任（CSR）について理解するため、①コーポレート・ガバナンスと株式会社の機関設計、②コーポレート・ガバナンスの論点、③利害関係者の多様性とコーポレート・ガバナンスについて学修します。	のポイントについて確認しておいて下さい。 (事後学修) テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	
第２回	対面	「コーポレート・ガバナンスと企業の社会的責任(2)」 ④企業倫理、⑤企業の社会的責任（CSR）について学修します。	(事前学修) テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第３回	対面	「経営理念、目的と戦略(1)」 経営理念、ビジョン等の概念、企業・組織の目的（目標）、戦略の基本概念について理解するため、①経営理念・ビジョン、②コーポレート・ステートメント、③企業・組織の目的、④経営理念、目的と経営戦略の関連について学修します。	(事前学修) テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第４回	対面	「経営理念、目的と戦略(2)」 ⑤ドメインと経営戦略の概念、⑥CSR、企業倫理と経営戦略、⑦戦略計画から創発的戦略へについて学修します。	(事前学修) テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第５回	対面	「企業戦略(1)」 企業戦略（全社戦略）の基本概念、対象である事業、戦略の方法について理解するため、①成長ベクトル、②多角化、③事業とは何かについて学修します。	(事前学修) テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第６回	対面	「企業戦略(2)」 ④ライフ・サイクルとポートフォリオ・プランニング、⑤ポジショニングと経営資源・組織能力について学修します。	(事前学修) テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第７回	対面	「第 1 回～第 6 回の学修内容の再確認」 第 1 回～第 6 回までの学修内容を再確認します。これまでの講義内容を確認するとともに、実社会に実在する企業の取組み事例等を取り上げながら、これまで学修してきた理論について復習します。	(事前学修) テキストの該当部分を一読し、第 1 回～第 6 回までの学修内容について復習して下さい。 (事後学修) テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第８回	対面	「競争戦略と事業システム(1)」 事業戦略（競争戦略）の前提の考え方、基本的類型、事業システムの概念について理解するため、①経験効果・経験曲線、②ポーターのファイブ・フォーシーズ・モデル、	(事前学修) テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) テキストの該当部分を一読し、改めてポイントにな	4 時間

		③競争戦略の類型について学修します。	る点について復習して下さい。	
第９回	対面	「競争戦略と事業システム(2)」 ④事業システム、⑤経営戦略に関する概念について学修します。	(事前学修) テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第１０回	対面	第１０回 「組織構造(1)」 組織構造の諸概念と部門化に関する基本的類型, 組織間関係としてのネットワーク組織について理解するため, 主に①戦略と組織, ②組織構造の基本要因, ③官僚制, ④部門化の基本形について学修します。	(事前学修) テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第１１回	対面	「組織構造(2)」 ⑤カンパニー制と持株会社, ⑥マトリックス組織とプロジェクト組織, ⑦業務プロセスと部門の統合, ⑧組織間関係とネットワーク組織について学修します。	(事前学修) テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第１２回	対面	「組織文化(1)」 組織文化の概念と組織変革の基本的考え方について理解するため, 主に①組織文化の概念, ②思考様式, 行動様式と組織文化, ③強い組織文化と下位文化について学修します。	(事前学修) テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第１３回	対面	「組織文化(2)」 組織文化の概念と組織変革の基本的考え方について理解するため, 主に, ④組織文化の機能と逆機能, ⑤経営戦略, 組織構造と組織文化, ⑥組織文化の変革, ⑦機能主義と解釈主義について学修します。	(事前学修) テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第１４回	対面	「第 8 回～第 13 回の学修内容の再確認」 第 8 回～第 13 回までの学修内容を再確認します。これまでの講義内容を確認するとともに、実社会に実在する企業の取組み事例等を取り上げながら、これまで学修してきた理論について復習します。	(事前学修) テキストの該当部分を一読し、第 8 回～第 13 回までの学修内容について復習して下さい。 (事後学修) テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第１５回	オンデマンド	「全体のまとめ」 これまでの学修内容について振り返るとともに、改めて重要なポイントについて確認します。	(事前学修) テキストの該当部分を一読し、本講義の学修内容について復習して下さい。 (事後学修) テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間

科目名	国際ビジネス概論	開講年度	2025
担当者	高砂　謙二	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	国際ビジネスにおける全般的な知識の修得		
授業の目的及び概要	この授業は、国際ビジネスの知識を修得することを目標としています。具体的には、国際経営の分野である多国籍企業の歴史、企業の国際化の理論、M&A（合併と買収）戦略、国際戦略的提携、企業経営の職能からの国際化理論（国際経営戦略、マーケティング戦略、組織戦略、人的資源戦略等）といった中心的な課題について考察し、多国籍企業の経営行動の理解を深めます。また、各国固有の文化や慣習、政治体制といった進出先の経営環境等についても具体事例から解説します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・国際経営の概念を説明できる。 ・多国籍企業の経営と組織を説明できる。 ・国際経営の背後にある経営学の基本理論を説明できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	小テストについては、授業中に解説及び講評を行うこととする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、金融機関において営業店や外国部、審査部、経営企画等で 16 年間勤務し、銀行業務全般や国際業務（外国為替リーディング業務、外為与信審査業務、国際経営・貿易相談業務、輸出入貿易書類点検業務）、法務・市場調査・広報等の実務経験を積んできた。本科目では、国際的なマーケットの実態や外国為替相場の特性などについて、こうした実務経験を活かして解説するなど、実践的な教育を行う。		
テキスト	①はじめての国際経営，中川功一他，有斐閣，2015 年	ISBN	①9784641150171
参考書	なし	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	70	
	その他（%）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	この授業ではノートを必携し、必要に応じてメモを取るようにして下さい。また、近年の事例を取り上げるため、常日頃から新聞・ニュース等で関連の情報収集に努めること。事前に教科書で事前学修することが、復習については教科書、講義資料、ノートで授業外の学修を行うことが望まれます。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第１回	対面	ガイダンス 講義の概要と今後の授業の進め方について説明を行います。	【予習】事前学修として、この科目のシラバスを読み込むとともに、国際ビジネス概論を受講するにあたってのポイントについて確認しておいて下さい。 【復習】事後学修として、授業での説明部分について、ノートを読み返し、あらためてポイントになるところは何かを考えながら復習して下さい。	4 時間
第２回	対面	国際経営とは何かについて解説します。 ①国際経営の難しさ ②海外進出の理由 ③国際経営の理論と現実	【予習】事前学修として、教科書（4 頁-16 頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4 時間
第３回	対面	海外直接投資の理論について解説します。 ①日本企業の海外直接投資 ②海外直接投資の理論（OLI パラダイム）	【予習】事前学修として、教科書（18 頁-34 頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4 時間
第４回	対面	多国籍企業による国際競争の歴史について解説します。 ①第二次世界大戦前 ②第二次世界大戦後 ③現代のトレンド	【予習】事前学修として、教科書（38 頁-56 頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4 時間
第５回	対面	多国籍企業の組織デザインについて解説します。 ①国際経営のフェーズ ②グリッド組織（グローバル・マトリックス方式） ③ヘテラーキーと地域統括組織	【予習】事前学修として、教科書（60 頁-75 頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4 時間
第６回	対面	トランスナショナル経営について解説します。 ①I-R フレームワーク ②国際経営の 4 つのタイプ（グローバル経営、マルチナショナル経営、インターナショナル経営、トランスナショナル経営） ③4 つの国際経営と組織	【予習】事前学修として、教科書（78 頁-91 頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4 時間
第７回	対面	海外子会社の経営について解説します。 ①海外子会社の経営課題 ②海外子会社の役割 ③海外子会社の成長	【予習】事前学修として、教科書（94 頁-107 頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4 時間
第８回	対面	国際マーケティング（1）について解説します。 ①マーケティングの基本 ②国内マーケティングとの違い	【予習】事前学修として、教科書（114 頁-122 頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4 時間
第９回	対面	国際マーケティング（2）について解説します。 ①国際マーケティングのプロセス （市場機会の発見、マーケティング戦略、マーケティングミックス、制御）	【予習】事前学修として、教科書（122 頁-128 頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4 時間
第１０回	対面	ものづくりの国際拠点展開について解説します。 ①海外生産拠点の設立・運営（フィージビリティ・スタディ） ②国際生産ネットワーク（集中型・分散型）	【予習】事前学修として、教科書（132 頁-146 頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4 時間
第１１回	対面	研究開発の国際化について解説します。 ①HBE 型と HBA 型 ②海外研究開発拠点のマネジメント	【予習】事前学修として、教科書（150 頁-165 頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイン	4 時間

			トを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	
第１２回	対面	国際的な人的資源管理について解説します。 ①EPRG プロファイル ②海外駐在員のマネジメント ③現地従業員のマネジメント	【予習】事前学修として、教科書（170 頁-185 頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4 時間
第１３回	対面	国際パートナーシップについて解説します。 ①直接投資モデル ②国際パートナーシップ・モデル ③国際企業分業	【予習】事前学修として、教科書（188 頁-199 頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4 時間
第１４回	対面	日本企業のさらなる国際化について解説します。 ①日本企業の国際化（現状・問題） ②オープン・イノベーション ③多国籍企業の CSR	【予習】事前学修として、教科書（204 頁-211 頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4 時間
第１５回	オンデマンド	総括 授業全体の総括	【予習】事前学修として、教科書・ノートで事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4 時間

科目名	Advanced English Ⅲ	開講年度	2025
担当者	レギアー　クリストファー	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	さまざまなトピックについて英語で学修を進め、4 技能を統合した発展的な英語運用能力を身につける。		
授業の目的及び概要	本授業は 1 週間に 2 回行われ、①全体的な英語力強化と②TOEIC テストでのスコアアップを目的とします。 ①では、英語の理解に必要とされる高頻度語 3,000 語と基本的な文法項目の受容的知識の定着を図ります。授業では、教科書等の学修教材からのインプットにより知識を蓄え、演習問題やアウトプット活動を通じて知識を定着させ、単文や構造が明快な重文・複文であれば読み取れる、聞き取れるようになることを目指します。 ②では、TOEIC 問題演習に取り組むことで、①で身に付けた知識をテストで使える知識へと昇華していきます。また、就業力育成の観点から論理的思考力や幅広い視野を育み、国際通用力を図る基準として TOEIC を位置づけ、国際社会で使える英語技能を備えた英語運用能力を身に付けます。		
履修条件・留意点	2023 年度以降に入学し、英語コミュニケーションコースに所属する学生については必修科目となります。また、アジア太平洋コースに所属する学生については必修科目ではありませんが、国際学部の学修目標である英語運用能力の向上や TOEIC スコアアップに向けて、積極的に履修しましょう。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本授業の学修到達目標は、基礎レベルのアカデミックイングリッシュの修得に向けて、語彙・文法・長文・アウトプットに関してそれぞれ以下のように設定します。 【文法・語彙】 １．文章中に表れる授業で扱った文法・語彙に気づき、その意味が分かる。 ２．各授業で行われる高頻度語に関する小テストにおいて、70%以上正答することができる。 ３．授業で扱った文法・語彙・教科書内容に関する明示的知識を問うテストにおいて、70%以上正答することができる。 ３．授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を身に付け、他者に説明することができる。 ４．授業で扱った文法・語彙を使って、正しい文法・語法で文章やパッセージを作成することができる。 【長文】 １．授業で扱った文法・語彙で構成されたまとまりのある文章を理解し、その要約をすることができる。 ２．授業で扱った文法・語彙のみで構成されたまとまりのある文章を理解し、自分の意見を交えながら他者に伝えることができる。 【アウトプット】 １．授業で扱った語彙・文章を正確に英語らしく発音することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	学生からの質問への回答や解説を授業内で行うとともに、授業内で継続的に行なわれるアクティビティやクイズ、ディスカッションを行うなかで教員から講評を受けます。 学生により提出されるレポートは添削した上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスによって使用するテキストが異なるため注意してください。 ①In Focus 1、Charles Browne / Brent Culligan /	ISBN	①9784764741935 ②9784764742222

	Joseph Phillips、金星堂、2024 年 ②In Focus INTRO, Charles Browne / Brent Culligan / Joseph Phillips, 金星堂, 2025 年		
参考書	なし	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	60	
	その他の内容	①レビュークイズ：30%（15%×2 回） ②7 月 TOEIC IP テスト：20% ③7 月 PROGOS：10%	
この科目の受講にあたって	この授業では総合的な英語運用能力の向上を目標としています。総合的、つまり 4 技能の向上には自ら考え、自ら行動し、自ら学修する姿勢が欠かせません。授業を通して積極的に思考・発言し、「使える英語」を身につけるための学修を進めていきましょう。 英語をベースとした総合的な学修は皆さんの英語運用能力を一段階レベルアップさせてくれるだけでなく、国際社会で求められる人材となることに大いに役立ちます。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション：授業概要、評価方法、授業の進め方等の説明 ※クラスによって授業計画が異なります。必ず初回授業で確認してください。	事前学修：シラバスの熟読 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第２回	対面	イントロダクション：授業概要、評価方法、授業の進め方等の説明	事前学修：シラバスの熟読 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第３回	対面	リスニング・スピーキング演習（1）：U.1 The World of Advertising	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第４回	対面	ライティング・リーディング演習（1）：U.1 The World of Advertising	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第５回	対面	リスニング・スピーキング演習（2）：U.1 The World of Advertising	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第６回	対面	ライティング・リーディング演習（2）：U.1 The World of Advertising	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第７回	対面	リスニング・スピーキング演習（3）：U.2 Online Advertising: Making Our Lives Better?	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第８回	対面	ライティング・リーディング演習（3）：U.2 Online Advertising: Making Our Live	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む	2 時間

		s Better?	事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	
第９回	対面	リスニング・スピーキング演習（4）：U.2 Online Advertising: Making Our Lives Better?	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第１０回	対面	ライティング・リーディング演習（4）：U.2 Online Advertising: Making Our Lives Better?	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第１１回	対面	リスニング・スピーキング演習（5）：U.3 Going to Extremes	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）、中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の準備	2 時間
第１２回	対面	ライティング・リーディング演習（5）：U.3 Going to Extremes	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）、中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）の準備	6 時間
第１３回	対面	中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）	事前学修：中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）に向けた復習（学修した語彙・文法・表現を見直しておく）	2 時間
第１４回	対面	中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）	事前学修：中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）に向けた復習（学修した語彙・文法・表現を見直しておく）	2 時間
第１５回	対面	中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の見直し リスニング・スピーキング演習（6）：U.4 Winning at Any Cost	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の結果を見直す、授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第１６回	対面	中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）の見直し ライティング・リーディング演習（6）：U.4 Winning at Any Cost	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）の結果を見直す、授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第１７回	対面	リスニング・スピーキング演習（7）：U.4 Winning at Any Cost	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第１８回	対面	ライティング・リーディング演習（7）：U.4 Winning at Any Cost	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第１９回	対面	リスニング・スピーキング演習（8）：U.5 Our Aging Population	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第２０回	対面	ライティング・リーディング演習（8）：U.5 Our Aging Population	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第２１回	対面	リスニング・スピーキング演習（9）：U.5 Our Aging Population	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第２２回	対面	ライティング・リーディング演習（9）：U.	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現	2 時間

		5 Our Aging Population	を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	
第２３回	対面	リスニング・スピーキング演習（10）：U.6 Do You Want to Live Forever?	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）、中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の準備	2 時間
第２４回	対面	ライティング・リーディング演習（10）：U.6 Do You Want to Live Forever?	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）、中間レビュークイズ（ライティング、リーディング）の準備	2 時間
第２５回	対面	期末レビュークイズ（リスニング・スピーキング）	事前学修：中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）に向けた復習（学修した語彙・文法・表現を見直しておく）	2 時間
第２６回	対面	期末レビュークイズ（ライティング・リーディング）	事前学修：中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）に向けた復習（学修した語彙・文法・表現を見直しておく）	2 時間
第２７回	対面	期末レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の見直しと総復習	事後学修：中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の結果を見直す、授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第２８回	対面	期末レビュークイズ（ライティング・リーディング）の見直しと総復習	事後学修：中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）の結果を見直す、授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第２９回	オンデマンド	期末レビュークイズ（リスニング・スピーキング）に向けたポイント解説・復習	事後学修：期末レビュークイズ（リスニング・スピーキング）に向けた復習	2 時間
第３０回	オンデマンド	期末レビュークイズ（ライティング・リーディング）に向けたポイント解説・復習	事後学修：期末レビュークイズ（ライティング・リーディング）に向けた・復習	2 時間

科目名	Advanced English Ⅲ	開講年度	2025
担当者	ウェザビ・マーティン	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	さまざまなトピックについて英語で学修を進め、4 技能を統合した発展的な英語運用能力を身につける。		
授業の目的及び概要	本授業は 1 週間に 2 回行われ、①全体的な英語力強化と②TOEIC テストでのスコアアップを目的とします。 ①では、英語の理解に必要とされる高頻度語 3,000 語と基本的な文法項目の受容的知識の定着を図ります。授業では、教科書等の学修教材からのインプットにより知識を蓄え、演習問題やアウトプット活動を通じて知識を定着させ、単文や構造が明快な重文・複文であれば読み取れる、聞き取れるようになることを目指します。 ②では、TOEIC 問題演習に取り組むことで、①で身に付けた知識をテストで使える知識へと昇華していきます。また、就業力育成の観点から論理的思考力や幅広い視野を育み、国際通用力を図る基準として TOEIC を位置づけ、国際社会で使える英語技能を備えた英語運用能力を身に付けます。		
履修条件・留意点	2023 年度以降に入学し、英語コミュニケーションコースに所属する学生については必修科目となります。また、アジア太平洋コースに所属する学生については必修科目ではありませんが、国際学部の学修目標である英語運用能力の向上や TOEIC スコアアップに向けて、積極的に履修しましょう。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本授業の学修到達目標は、基礎レベルのアカデミックイングリッシュの修得に向けて、語彙・文法・長文・アウトプットに関してそれぞれ以下のように設定します。 【文法・語彙】 １．文章中に表れる授業で扱った文法・語彙に気づき、その意味が分かる。 ２．各授業で行われる高頻度語に関する小テストにおいて、70%以上正答することができる。 ３．授業で扱った文法・語彙・教科書内容に関する明示的知識を問うテストにおいて、70%以上正答することができる。 ３．授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を身に付け、他者に説明することができる。 ４．授業で扱った文法・語彙を使って、正しい文法・語法で文章やパッセージを作成することができる。 【長文】 １．授業で扱った文法・語彙で構成されたまとまりのある文章を理解し、その要約をすることができる。 ２．授業で扱った文法・語彙のみで構成されたまとまりのある文章を理解し、自分の意見を交えながら他者に伝えることができる。 【アウトプット】 １．授業で扱った語彙・文章を正確に英語らしく発音することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	学生からの質問への回答や解説を授業内で行うとともに、授業内で継続的に行なわれるアクティビティやクイズ、ディスカッションを行うなかで教員から講評を受けます。 学生により提出されるレポートは添削した上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスによって使用するテキストが異なるため注意してください。 ①In Focus 1、Charles Browne / Brent Culligan /	ISBN	①9784764741935 ②9784764742222

	Joseph Phillips、金星堂、2024 年 ②In Focus INTRO, Charles Browne / Brent Culligan / Joseph Phillips, 金星堂, 2025 年		
参考書	なし	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	60	
	その他の内容	①レビュークイズ：30%（15%×2 回） ②7 月 TOEIC IP テスト：20% ③7 月 PROGOS：10%	
この科目の受講にあたって	この授業では総合的な英語運用能力の向上を目標としています。総合的、つまり 4 技能の向上には自ら考え、自ら行動し、自ら学修する姿勢が欠かせません。授業を通して積極的に思考・発言し、「使える英語」を身につけるための学修を進めていきましょう。 英語をベースとした総合的な学修は皆さんの英語運用能力を一段階レベルアップさせてくれるだけでなく、国際社会で求められる人材となることに大いに役立ちます。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション：授業概要、評価方法、授業の進め方等の説明 ※クラスによって授業計画が異なります。必ず初回授業で確認してください。	事前学修：シラバスの熟読 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第２回	対面	イントロダクション：授業概要、評価方法、授業の進め方等の説明	事前学修：シラバスの熟読 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第３回	対面	リスニング・スピーキング演習（1）：U.1 The World of Advertising	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第４回	対面	ライティング・リーディング演習（1）：U.1 The World of Advertising	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第５回	対面	リスニング・スピーキング演習（2）：U.1 The World of Advertising	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第６回	対面	ライティング・リーディング演習（2）：U.1 The World of Advertising	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第７回	対面	リスニング・スピーキング演習（3）：U.2 Online Advertising: Making Our Lives Better?	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第８回	対面	ライティング・リーディング演習（3）：U.2 Online Advertising: Making Our Live	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む	2 時間

		s Better?	事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	
第９回	対面	リスニング・スピーキング演習（4）：U.2 Online Advertising: Making Our Lives Better?	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第１０回	対面	ライティング・リーディング演習（4）：U.2 Online Advertising: Making Our Lives Better?	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第１１回	対面	リスニング・スピーキング演習（5）：U.3 Going to Extremes	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）、中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の準備	2 時間
第１２回	対面	ライティング・リーディング演習（5）：U.3 Going to Extremes	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）、中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）の準備	6 時間
第１３回	対面	中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）	事前学修：中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）に向けた復習（学修した語彙・文法・表現を見直しておく）	2 時間
第１４回	対面	中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）	事前学修：中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）に向けた復習（学修した語彙・文法・表現を見直しておく）	2 時間
第１５回	対面	中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の見直し リスニング・スピーキング演習（6）：U.4 Winning at Any Cost	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の結果を見直す、授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第１６回	対面	中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）の見直し ライティング・リーディング演習（6）：U.4 Winning at Any Cost	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）の結果を見直す、授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第１７回	対面	リスニング・スピーキング演習（7）：U.4 Winning at Any Cost	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第１８回	対面	ライティング・リーディング演習（7）：U.4 Winning at Any Cost	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第１９回	対面	リスニング・スピーキング演習（8）：U.5 Our Aging Population	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第２０回	対面	ライティング・リーディング演習（8）：U.5 Our Aging Population	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第２１回	対面	リスニング・スピーキング演習（9）：U.5 Our Aging Population	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第２２回	対面	ライティング・リーディング演習（9）：U.	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現	2 時間

		5 Our Aging Population	を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	
第２３回	対面	リスニング・スピーキング演習（10）：U.6 Do You Want to Live Forever?	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）、中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の準備	2 時間
第２４回	対面	ライティング・リーディング演習（10）：U.6 Do You Want to Live Forever?	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）、中間レビュークイズ（ライティング、リーディング）の準備	2 時間
第２５回	対面	期末レビュークイズ（リスニング・スピーキング）	事前学修：中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）に向けた復習（学修した語彙・文法・表現を見直しておく）	2 時間
第２６回	対面	期末レビュークイズ（ライティング・リーディング）	事前学修：中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）に向けた復習（学修した語彙・文法・表現を見直しておく）	2 時間
第２７回	対面	期末レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の見直しと総復習	事後学修：中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の結果を見直す、授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第２８回	対面	期末レビュークイズ（ライティング・リーディング）の見直しと総復習	事後学修：中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）の結果を見直す、授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第２９回	オンデマンド	期末レビュークイズ（リスニング・スピーキング）に向けたポイント解説・復習	事後学修：期末レビュークイズ（リスニング・スピーキング）に向けた復習	2 時間
第３０回	オンデマンド	期末レビュークイズ（ライティング・リーディング）に向けたポイント解説・復習	事後学修：期末レビュークイズ（ライティング・リーディング）に向けた・復習	2 時間

科目名	Advanced English Ⅲ	開講年度	2025
担当者	オコン・オーリック	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	さまざまなトピックについて英語で学修を進め、4 技能を統合した発展的な英語運用能力を身につける。		
授業の目的及び概要	本授業は 1 週間に 2 回行われ、①全体的な英語力強化と②TOEIC テストでのスコアアップを目的とします。 ①では、英語の理解に必要とされる高頻度語 3,000 語と基本的な文法項目の受容的知識の定着を図ります。授業では、教科書等の学修教材からのインプットにより知識を蓄え、演習問題やアウトプット活動を通じて知識を定着させ、単文や構造が明快な重文・複文であれば読み取れる、聞き取れるようになることを目指します。 ②では、TOEIC 問題演習に取り組むことで、①で身に付けた知識をテストで使える知識へと昇華していきます。また、就業力育成の観点から論理的思考力や幅広い視野を育み、国際通用力を図る基準として TOEIC を位置づけ、国際社会で使える英語技能を備えた英語運用能力を身に付けます。		
履修条件・留意点	2023 年度以降に入学し、英語コミュニケーションコースに所属する学生については必修科目となります。また、アジア太平洋コースに所属する学生については必修科目ではありませんが、国際学部の学修目標である英語運用能力の向上や TOEIC スコアアップに向けて、積極的に履修しましょう。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本授業の学修到達目標は、基礎レベルのアカデミックイングリッシュの修得に向けて、語彙・文法・長文・アウトプットに関してそれぞれ以下のように設定します。 【文法・語彙】 １．文章中に表れる授業で扱った文法・語彙に気づき、その意味が分かる。 ２．各授業で行われる高頻度語に関する小テストにおいて、70%以上正答することができる。 ３．授業で扱った文法・語彙・教科書内容に関する明示的知識を問うテストにおいて、70%以上正答することができる。 ３．授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を身に付け、他者に説明することができる。 ４．授業で扱った文法・語彙を使って、正しい文法・語法で文章やパッセージを作成することができる。 【長文】 １．授業で扱った文法・語彙で構成されたまとまりのある文章を理解し、その要約をすることができる。 ２．授業で扱った文法・語彙のみで構成されたまとまりのある文章を理解し、自分の意見を交えながら他者に伝えることができる。 【アウトプット】 １．授業で扱った語彙・文章を正確に英語らしく発音することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	学生からの質問への回答や解説を授業内で行うとともに、授業内で継続的に行なわれるアクティビティやクイズ、ディスカッションを行うなかで教員から講評を受けます。 学生により提出されるレポートは添削した上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスによって使用するテキストが異なるため注意してください。 ①In Focus 1、Charles Browne / Brent Culligan /	ISBN	①9784764741935 ②9784764742222

	Joseph Phillips、金星堂、2024 年 ②In Focus INTRO, Charles Browne / Brent Culligan / Joseph Phillips, 金星堂, 2025 年		
参考書	なし	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	60	
	その他の内容	①レビュークイズ：30%（15%×2 回） ②7 月 TOEIC IP テスト：20% ③7 月 PROGOS：10%	
この科目の受講にあたって	この授業では総合的な英語運用能力の向上を目標としています。総合的、つまり 4 技能の向上には自ら考え、自ら行動し、自ら学修する姿勢が欠かせません。授業を通して積極的に思考・発言し、「使える英語」を身につけるための学修を進めていきましょう。 英語をベースとした総合的な学修は皆さんの英語運用能力を一段階レベルアップさせてくれるだけでなく、国際社会で求められる人材となることに大いに役立ちます。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション：授業概要、評価方法、授業の進め方等の説明 ※クラスによって授業計画が異なります。必ず初回授業で確認してください。	事前学修：シラバスの熟読 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第２回	対面	イントロダクション：授業概要、評価方法、授業の進め方等の説明	事前学修：シラバスの熟読 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第３回	対面	リスニング・スピーキング演習（1）：U.1 The World of Advertising	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第４回	対面	ライティング・リーディング演習（1）：U.1 The World of Advertising	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第５回	対面	リスニング・スピーキング演習（2）：U.1 The World of Advertising	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第６回	対面	ライティング・リーディング演習（2）：U.1 The World of Advertising	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第７回	対面	リスニング・スピーキング演習（3）：U.2 Online Advertising: Making Our Lives Better?	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第８回	対面	ライティング・リーディング演習（3）：U.2 Online Advertising: Making Our Live	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む	2 時間

		s Better?	事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	
第９回	対面	リスニング・スピーキング演習（4）：U.2 Online Advertising: Making Our Lives Better?	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第１０回	対面	ライティング・リーディング演習（4）：U.2 Online Advertising: Making Our Lives Better?	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第１１回	対面	リスニング・スピーキング演習（5）：U.3 Going to Extremes	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）、中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の準備	2 時間
第１２回	対面	ライティング・リーディング演習（5）：U.3 Going to Extremes	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）、中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）の準備	6 時間
第１３回	対面	中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）	事前学修：中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）に向けた復習（学修した語彙・文法・表現を見直しておく）	2 時間
第１４回	対面	中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）	事前学修：中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）に向けた復習（学修した語彙・文法・表現を見直しておく）	2 時間
第１５回	対面	中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の見直し リスニング・スピーキング演習（6）：U.4 Winning at Any Cost	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の結果を見直す、授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第１６回	対面	中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）の見直し ライティング・リーディング演習（6）：U.4 Winning at Any Cost	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）の結果を見直す、授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第１７回	対面	リスニング・スピーキング演習（7）：U.4 Winning at Any Cost	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第１８回	対面	ライティング・リーディング演習（7）：U.4 Winning at Any Cost	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第１９回	対面	リスニング・スピーキング演習（8）：U.5 Our Aging Population	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第２０回	対面	ライティング・リーディング演習（8）：U.5 Our Aging Population	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第２１回	対面	リスニング・スピーキング演習（9）：U.5 Our Aging Population	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第２２回	対面	ライティング・リーディング演習（9）：U.	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現	2 時間

		5 Our Aging Population	を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	
第２３回	対面	リスニング・スピーキング演習（10）：U.6 Do You Want to Live Forever?	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）、中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の準備	2 時間
第２４回	対面	ライティング・リーディング演習（10）：U.6 Do You Want to Live Forever?	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）、中間レビュークイズ（ライティング、リーディング）の準備	2 時間
第２５回	対面	期末レビュークイズ（リスニング・スピーキング）	事前学修：中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）に向けた復習（学修した語彙・文法・表現を見直しておく）	2 時間
第２６回	対面	期末レビュークイズ（ライティング・リーディング）	事前学修：中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）に向けた復習（学修した語彙・文法・表現を見直しておく）	2 時間
第２７回	対面	期末レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の見直しと総復習	事後学修：中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の結果を見直す、授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第２８回	対面	期末レビュークイズ（ライティング・リーディング）の見直しと総復習	事後学修：中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）の結果を見直す、授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第２９回	オンデマンド	期末レビュークイズ（リスニング・スピーキング）に向けたポイント解説・復習	事後学修：期末レビュークイズ（リスニング・スピーキング）に向けた復習	2 時間
第３０回	オンデマンド	期末レビュークイズ（ライティング・リーディング）に向けたポイント解説・復習	事後学修：期末レビュークイズ（ライティング・リーディング）に向けた・復習	2 時間

科目名	Advanced English Ⅲ	開講年度	2025
担当者	ミルズ・ジョナサン	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	さまざまなトピックについて英語で学修を進め、4 技能を統合した発展的な英語運用能力を身につける。		
授業の目的及び概要	本授業は 1 週間に 2 回行われ、①全体的な英語力強化と②TOEIC テストでのスコアアップを目的とします。 ①では、英語の理解に必要とされる高頻度語 3,000 語と基本的な文法項目の受容的知識の定着を図ります。授業では、教科書等の学修教材からのインプットにより知識を蓄え、演習問題やアウトプット活動を通じて知識を定着させ、単文や構造が明快な重文・複文であれば読み取れる、聞き取れるようになることを目指します。 ②では、TOEIC 問題演習に取り組むことで、①で身に付けた知識をテストで使える知識へと昇華していきます。また、就業力育成の観点から論理的思考力や幅広い視野を育み、国際通用力を図る基準として TOEIC を位置づけ、国際社会で使える英語技能を備えた英語運用能力を身に付けます。		
履修条件・留意点	2023 年度以降に入学し、英語コミュニケーションコースに所属する学生については必修科目となります。また、アジア太平洋コースに所属する学生については必修科目ではありませんが、国際学部の学修目標である英語運用能力の向上や TOEIC スコアアップに向けて、積極的に履修しましょう。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本授業の学修到達目標は、基礎レベルのアカデミックイングリッシュの修得に向けて、語彙・文法・長文・アウトプットに関してそれぞれ以下のように設定します。 【文法・語彙】 １．文章中に表れる授業で扱った文法・語彙に気づき、その意味が分かる。 ２．各授業で行われる高頻度語に関する小テストにおいて、70%以上正答することができる。 ３．授業で扱った文法・語彙・教科書内容に関する明示的知識を問うテストにおいて、70%以上正答することができる。 ３．授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を身に付け、他者に説明することができる。 ４．授業で扱った文法・語彙を使って、正しい文法・語法で文章やパッセージを作成することができる。 【長文】 １．授業で扱った文法・語彙で構成されたまとまりのある文章を理解し、その要約をすることができる。 ２．授業で扱った文法・語彙のみで構成されたまとまりのある文章を理解し、自分の意見を交えながら他者に伝えることができる。 【アウトプット】 １．授業で扱った語彙・文章を正確に英語らしく発音することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	学生からの質問への回答や解説を授業内で行うとともに、授業内で継続的に行なわれるアクティビティやクイズ、ディスカッションを行うなかで教員から講評を受けます。 学生により提出されるレポートは添削した上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスによって使用するテキストが異なるため注意してください。 ①In Focus 1、Charles Browne / Brent Culligan /	ISBN	①9784764741935 ②9784764742222

	Joseph Phillips、金星堂、2024 年 ②In Focus INTRO, Charles Browne / Brent Culligan / Joseph Phillips, 金星堂, 2025 年		
参考書	なし	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	60	
	その他の内容	①レビュークイズ：30%（15%×2 回） ②7 月 TOEIC IP テスト：20% ③7 月 PROGOS：10%	
この科目の受講にあたって	この授業では総合的な英語運用能力の向上を目標としています。総合的、つまり 4 技能の向上には自ら考え、自ら行動し、自ら学修する姿勢が欠かせません。授業を通して積極的に思考・発言し、「使える英語」を身につけるための学修を進めていきましょう。 英語をベースとした総合的な学修は皆さんの英語運用能力を一段階レベルアップさせてくれるだけでなく、国際社会で求められる人材となることに大いに役立ちます。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション：授業概要、評価方法、授業の進め方等の説明 ※クラスによって授業計画が異なります。必ず初回授業で確認してください。	事前学修：シラバスの熟読 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第２回	対面	イントロダクション：授業概要、評価方法、授業の進め方等の説明	事前学修：シラバスの熟読 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第３回	対面	リスニング・スピーキング演習（1）：U.1 The World of Advertising	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第４回	対面	ライティング・リーディング演習（1）：U.1 The World of Advertising	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第５回	対面	リスニング・スピーキング演習（2）：U.1 The World of Advertising	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第６回	対面	ライティング・リーディング演習（2）：U.1 The World of Advertising	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第７回	対面	リスニング・スピーキング演習（3）：U.2 Online Advertising: Making Our Lives Better?	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第８回	対面	ライティング・リーディング演習（3）：U.2 Online Advertising: Making Our Live	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む	2 時間

		s Better?	事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	
第９回	対面	リスニング・スピーキング演習（4）：U.2 Online Advertising: Making Our Lives Better?	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第１０回	対面	ライティング・リーディング演習（4）：U.2 Online Advertising: Making Our Lives Better?	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第１１回	対面	リスニング・スピーキング演習（5）：U.3 Going to Extremes	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）、中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の準備	2 時間
第１２回	対面	ライティング・リーディング演習（5）：U.3 Going to Extremes	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）、中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）の準備	6 時間
第１３回	対面	中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）	事前学修：中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）に向けた復習（学修した語彙・文法・表現を見直しておく）	2 時間
第１４回	対面	中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）	事前学修：中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）に向けた復習（学修した語彙・文法・表現を見直しておく）	2 時間
第１５回	対面	中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の見直し リスニング・スピーキング演習（6）：U.4 Winning at Any Cost	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の結果を見直す、授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第１６回	対面	中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）の見直し ライティング・リーディング演習（6）：U.4 Winning at Any Cost	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）の結果を見直す、授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第１７回	対面	リスニング・スピーキング演習（7）：U.4 Winning at Any Cost	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第１８回	対面	ライティング・リーディング演習（7）：U.4 Winning at Any Cost	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第１９回	対面	リスニング・スピーキング演習（8）：U.5 Our Aging Population	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第２０回	対面	ライティング・リーディング演習（8）：U.5 Our Aging Population	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第２１回	対面	リスニング・スピーキング演習（9）：U.5 Our Aging Population	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第２２回	対面	ライティング・リーディング演習（9）：U.	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現	2 時間

		5 Our Aging Population	を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	
第２３回	対面	リスニング・スピーキング演習（10）：U.6 Do You Want to Live Forever?	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）、中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の準備	2 時間
第２４回	対面	ライティング・リーディング演習（10）：U.6 Do You Want to Live Forever?	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）、中間レビュークイズ（ライティング、リーディング）の準備	2 時間
第２５回	対面	期末レビュークイズ（リスニング・スピーキング）	事前学修：中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）に向けた復習（学修した語彙・文法・表現を見直しておく）	2 時間
第２６回	対面	期末レビュークイズ（ライティング・リーディング）	事前学修：中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）に向けた復習（学修した語彙・文法・表現を見直しておく）	2 時間
第２７回	対面	期末レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の見直しと総復習	事後学修：中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の結果を見直す、授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第２８回	対面	期末レビュークイズ（ライティング・リーディング）の見直しと総復習	事後学修：中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）の結果を見直す、授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第２９回	オンデマンド	期末レビュークイズ（リスニング・スピーキング）に向けたポイント解説・復習	事後学修：期末レビュークイズ（リスニング・スピーキング）に向けた復習	2 時間
第３０回	オンデマンド	期末レビュークイズ（ライティング・リーディング）に向けたポイント解説・復習	事後学修：期末レビュークイズ（ライティング・リーディング）に向けた・復習	2 時間

科目名	Advanced English Ⅲ	開講年度	2025
担当者	ウェザビ・マーティン	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	さまざまなトピックについて英語で学修を進め、4 技能を統合した発展的な英語運用能力を身につける。		
授業の目的及び概要	本授業は 1 週間に 2 回行われ、①全体的な英語力強化（4 技能強化）と②TOEIC テストでのスコアアップを目的とします。①では、英語の理解に必要とされる高頻度語 3,000 語と基本的な文法項目の受容的知識の定着を図ります。授業では、教科書等の学修教材からのインプットにより知識を蓄え、演習問題やアウトプット活動を通じて知識を定着させ、単文や構造が明快な重文・複文であれば読み取れる、聞き取れるようになることを目指します。 ②では、TOEIC 問題演習に取り組むことで、①で身に付けた知識をテストで使える知識へと昇華していきます。また、就業力 育成の観点から論理的思考力や幅広い視野を育み、国際通用力を図る基準として TOEIC を位置づけ、国際社会で使える英語技能を備えた英語運用能力を身に付けます。		
履修条件・留意点	2023 年度以降に入学し、英語コミュニケーションコースに所属する学生については必修科目となります。また、アジア太平洋コースに所属する学生については必修科目ではありませんが、国際学部の学修目標である英語運用能力の向上や TOEIC スコアアップに向けて、積極的に履修しましょう。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本授業の学修到達目標は、基礎レベルのアカデミックイングリッシュの修得に向けて、語彙・文法・長文・アウトプットに関してそれぞれ以下のように設定します。 【文法・語彙】 １．文章中に表れる授業で扱った文法・語彙に気づき、その意味が分かる。 ２．各授業で行われる高頻度語に関する小テストにおいて、70%以上正答することができる。 ３．授業で扱った文法・語彙・教科書内容に関する明示的知識を問うテストにおいて、70%以上正答することができる。 ３．授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を身に付け、他者に説明することができる。 ４．授業で扱った文法・語彙を使って、正しい文法・語法で文章やパッセージを作成することができる。 【長文】 １．授業で扱った文法・語彙で構成されたまとまりのある文章を理解し、その要約をすることができる。 ２．授業で扱った文法・語彙のみで構成されたまとまりのある文章を理解し、自分の意見を交えながら他者に伝えることができる。 【アウトプット】 １．授業で扱った語彙・文章を正確に英語らしく発音することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	学生からの質問への回答や解説を授業内で行うとともに、授業内で継続的に行なわれるアクティビティやクイズ、ディスカッションを行うなかで教員から講評を受けます。 学生により提出されるレポートは添削した上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	Framework English A、Colin Thompson / Tim Woolstencroft、金星堂、2024 年	ISBN	9784764742000
参考書	なし	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	70
	その他の内容	①レビュークイズ：50%（25%×2 回） ②1 月 TOEIC IP テスト：10% ③1 月 PROGOS：10%
この科目の受講にあたって	この授業では総合的な英語運用能力の向上を目標としています。総合的、つまり 4 技能の向上には自ら考え、自ら行動し、自ら学修する姿勢が欠かせません。授業を通して積極的に思考・発言し、「使える英語」を身につけるための学修を進めていきましょう。 英語をベースとした総合的な学修は皆さんの英語運用能力を一段階レベルアップさせてくれるだけでなく、国際社会で求められる人材となることに大いに役立ちます。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	オンデマンド	イントロダクション：授業概要、評価方法、授業の進め方等の説明	事前学修：シラバスの熟読 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第２回	オンデマンド	イントロダクション：授業概要、評価方法、授業の進め方等の説明	事前学修：シラバスの熟読 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第３回	オンデマンド	リスニング・スピーキング演習（1）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第４回	オンデマンド	ライティング・リーディング演習（1）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第５回	オンデマンド	リスニング・スピーキング演習（2）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第６回	オンデマンド	ライティング・リーディング演習（2）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第７回	オンデマンド	リスニング・スピーキング演習（3）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第８回	オンデマンド	ライティング・リーディング演習（3）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第９回	オンデマンド	リスニング・スピーキング演習（4）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間

第１０回	オンデマンド	ライティング・リーディング演習（4）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第１１回	オンデマンド	リスニング・スピーキング演習（5）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第１２回	オンデマンド	ライティング・リーディング演習（5）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	6 時間
第１３回	オンデマンド	中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）	事前学修：中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）に向けた復習（学修した語彙・文法・表現を見直しておく）	2 時間
第１４回	オンデマンド	中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）	事前学修：中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）に向けた復習（学修した語彙・文法・表現を見直しておく）	2 時間
第１５回	オンデマンド	中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の見直し リスニング・スピーキング演習（6）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の結果を見直す、授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第１６回	オンデマンド	中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）の見直し ライティング・リーディング演習（6）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）の結果を見直す、授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第１７回	オンデマンド	リスニング・スピーキング演習（7）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第１８回	オンデマンド	ライティング・リーディング演習（7）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第１９回	オンデマンド	リスニング・スピーキング演習（8）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第２０回	オンデマンド	ライティング・リーディング演習（8）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第２１回	オンデマンド	リスニング・スピーキング演習（9）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第２２回	オンデマンド	ライティング・リーディング演習（9）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第２３回	オンデマンド	リスニング・スピーキング演習（10）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第２４回	オンデ	ライティング・リーディング演習（10）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現	2 時間

	マンド		を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	
第２５回	オンデマンド	期末レビュークイズ（リスニング・スピーキング）	事前学修：中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）に向けた復習（学修した語彙・文法・表現を見直しておく）	2 時間
第２６回	オンデマンド	期末レビュークイズ（ライティング・リーディング）	事前学修：中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）に向けた復習（学修した語彙・文法・表現を見直しておく）	2 時間
第２７回	オンデマンド	期末レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の見直し	事後学修：中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の結果を見直す、授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第２８回	オンデマンド	期末レビュークイズ（ライティング・リーディング）の見直し	事後学修：中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）の結果を見直す、授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第２９回	オンデマンド	春学期学修内容（リスニング・スピーキング）の総復習	事後学修：春学期学修内容（リスニング・スピーキング）に復習した語彙・文法・表現の定着度を確認し、学修内容全体を見直す（復習する）	2 時間
第３０回	オンデマンド	春学期学修内容（ライティング・リーディング）の総復習	事後学修：春学期学修内容（ライティング・リーディング）に復習した語彙・文法・表現の定着度を確認し、学修内容全体を見直す（復習する）	2 時間

科目名	Advanced English IV	開講年度	2025
担当者	ミルズ・ジョナサン	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	さまざまなトピックについて英語で学修を進め、4 技能を統合した発展的な英語運用能力を身につける。		
授業の目的及び概要	本授業は 1 週間に 2 回行われ、①全体的な英語力強化と②TOEIC テストでのスコアアップを目的とします。 ①では、英語の理解に必要とされる高頻度語 3,000 語と基本的な文法項目の受容的知識の定着を図ります。授業では、教科書等の学修教材からのインプットにより知識を蓄え、演習問題やアウトプット活動を通じて知識を定着させ、単文や構造が明快な重文・複文であれば読み取れる、聞き取れるようになることを目指します。 ②では、TOEIC 問題演習に取り組むことで、①で身に付けた知識をテストで使える知識へと昇華していきます。また、就業力育成の観点から論理的思考力や幅広い視野を育み、国際通用力を図る基準として TOEIC を位置づけ、国際社会で使える英語技能を備えた英語運用能力を身に付けます。		
履修条件・留意点	2023 年度以降に入学し、英語コミュニケーションコースに所属する学生については必修科目となります。また、アジア太平洋コースに所属する学生については必修科目ではありませんが、国際学部の学修目標である英語運用能力の向上や TOEIC スコアアップに向けて、積極的に履修しましょう。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本授業の学修到達目標は、基礎レベルのアカデミックイングリッシュの修得に向けて、語彙・文法・長文・アウトプットに関してそれぞれ以下のように設定します。 【文法・語彙】 １．文章中に表れる授業で扱った文法・語彙に気づき、その意味が分かる。 ２．各授業で行われる高頻度語に関する小テストにおいて、70%以上正答することができる。 ３．授業で扱った文法・語彙・教科書内容に関する明示的知識を問うテストにおいて、70%以上正答することができる。 ３．授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を身に付け、他者に説明することができる。 ４．授業で扱った文法・語彙を使って、正しい文法・語法で文章やパッセージを作成することができる。 【長文】 １．授業で扱った文法・語彙で構成されたまとまりのある文章を理解し、その要約をすることができる。 ２．授業で扱った文法・語彙のみで構成されたまとまりのある文章を理解し、自分の意見を交えながら他者に伝えることができる。 【アウトプット】 １．授業で扱った語彙・文章を正確に英語らしく発音することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	学生からの質問への回答や解説を授業内で行うとともに、授業内で継続的に行なわれるアクティビティやクイズ、ディスカッションを行うなかで教員から講評を受けます。 学生により提出されるレポートは添削した上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスによって使用するテキストが異なるため注意してください。 ①In Focus 1、Charles Browne / Brent Culligan /	ISBN	①9784764741935 ②9784764742222

	Joseph Phillips、金星堂、2024 年 ②In Focus INTRO, Charles Browne / Brent Culligan / Joseph Phillips, 金星堂, 2025 年		
参考書	なし	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	60	
	その他の内容	①レビュークイズ：30%（15%×2 回） ②7 月 TOEIC IP テスト：20% ③7 月 PROGOS：10%	
この科目の受講にあたって	この授業では総合的な英語運用能力の向上を目標としています。総合的、つまり 4 技能の向上には自ら考え、自ら行動し、自ら学修する姿勢が欠かせません。授業を通して積極的に思考・発言し、「使える英語」を身につけるための学修を進めていきましょう。 英語をベースとした総合的な学修は皆さんの英語運用能力を一段階レベルアップさせてくれるだけでなく、国際社会で求められる人材となることに大いに役立ちます。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション：授業概要、評価方法、授業の進め方等の説明 ※クラスによって授業計画が異なります。必ず初回授業で確認してください。	事前学修：シラバスの熟読 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第２回	対面	イントロダクション：授業概要、評価方法、授業の進め方等の説明	事前学修：シラバスの熟読 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第３回	対面	リスニング・スピーキング演習（1）：U.7 Robots in the Home	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第４回	対面	ライティング・リーディング演習（1）：U.7 Robots in the Home	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第５回	対面	リスニング・スピーキング演習（2）：U.7 Robots in the Home	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第６回	対面	ライティング・リーディング演習（2）：U.7 Robots in the Home	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第７回	対面	リスニング・スピーキング演習（3）：U.8 I Lost My Job to a Machine	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第８回	対面	ライティング・リーディング演習（3）：U.8 I Lost My Job to a Machine	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む	2 時間

			事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	
第９回	対面	リスニング・スピーキング演習（4）：U.8 I Lost My Job to a Machine	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第１０回	対面	ライティング・リーディング演習（4）：U.8 I Lost My Job to a Machine	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第１１回	対面	リスニング・スピーキング演習（5）：U.9 Animals: Our Research Partners?	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）、中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の準備	2 時間
第１２回	対面	ライティング・リーディング演習（5）：U.9 Animals: Our Research Partners?	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）、中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）の準備	6 時間
第１３回	対面	中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）	事前学修：中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）に向けた復習（学修した語彙・文法・表現を見直しておく）	2 時間
第１４回	対面	中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）	事前学修：中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）に向けた復習（学修した語彙・文法・表現を見直しておく）	2 時間
第１５回	対面	中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の見直し リスニング・スピーキング演習（6）：U.10 Treatment of Animals	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の結果を見直す、授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第１６回	対面	中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）の見直し ライティング・リーディング演習（6）：U.10 Treatment of Animals	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）の結果を見直す、授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第１７回	対面	リスニング・スピーキング演習（7）：U.10 Treatment of Animals	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第１８回	対面	ライティング・リーディング演習（7）：U.10 Treatment of Animals	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第１９回	対面	リスニング・スピーキング演習（8）：U.11 The Online (Dis)Information	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第２０回	対面	ライティング・リーディング演習（8）：U.11 The Online (Dis)Information	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第２１回	対面	リスニング・スピーキング演習（9）：U.11 The Online (Dis)Information	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第２２回	対面	ライティング・リーディング演習（9）：U.	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現	2 時間

		11 The Online (Dis)Information	を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	
第２３回	対面	リスニング・スピーキング演習（10）：U.12 News: Fact or Fake?	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）、中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の準備	2 時間
第２４回	対面	ライティング・リーディング演習（10）：U.12 News: Fact or Fake?	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）、中間レビュークイズ（ライティング、リーディング）の準備	2 時間
第２５回	対面	期末レビュークイズ（リスニング・スピーキング）	事前学修：中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）に向けた復習（学修した語彙・文法・表現を見直しておく）	2 時間
第２６回	対面	期末レビュークイズ（ライティング・リーディング）	事前学修：中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）に向けた復習（学修した語彙・文法・表現を見直しておく）	2 時間
第２７回	対面	期末レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の見直しと総復習	事後学修：中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の結果を見直す、授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第２８回	対面	期末レビュークイズ（ライティング・リーディング）の見直しと総復習	事後学修：中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）の結果を見直す、授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第２９回	オンデマンド	期末レビュークイズ（リスニング・スピーキング）に向けたポイント解説・復習	事後学修：期末レビュークイズ（リスニング・スピーキング）に向けた復習	2 時間
第３０回	オンデマンド	期末レビュークイズ（ライティング・リーディング）に向けたポイント解説・復習	事後学修：期末レビュークイズ（ライティング・リーディング）に向けた・復習	2 時間

科目名	Advanced English IV	開講年度	2025
担当者	岩本　朱未	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	さまざまなトピックについて英語で学修を進め、4 技能を統合した発展的な英語運用能力を身につける。		
授業の目的及び概要	本授業は 1 週間に 2 回行われ、①全体的な英語力強化と②TOEIC テストでのスコアアップを目的とします。 ①では、英語の理解に必要とされる高頻度語 3,000 語と基本的な文法項目の受容的知識の定着を図ります。授業では、教科書等の学修教材からのインプットにより知識を蓄え、演習問題やアウトプット活動を通じて知識を定着させ、単文や構造が明快な重文・複文であれば読み取れる、聞き取れるようになることを目指します。 ②では、TOEIC 問題演習に取り組むことで、①で身に付けた知識をテストで使える知識へと昇華していきます。また、就業力育成の観点から論理的思考力や幅広い視野を育み、国際通用力を図る基準として TOEIC を位置づけ、国際社会で使える英語技能を備えた英語運用能力を身に付けます。		
履修条件・留意点	2023 年度以降に入学し、英語コミュニケーションコースに所属する学生については必修科目となります。また、アジア太平洋コースに所属する学生については必修科目ではありませんが、国際学部の学修目標である英語運用能力の向上や TOEIC スコアアップに向けて、積極的に履修しましょう。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本授業の学修到達目標は、基礎レベルのアカデミックイングリッシュの修得に向けて、語彙・文法・長文・アウトプットに関してそれぞれ以下のように設定します。 【文法・語彙】 １．文章中に表れる授業で扱った文法・語彙に気づき、その意味が分かる。 ２．各授業で行われる高頻度語に関する小テストにおいて、70%以上正答することができる。 ３．授業で扱った文法・語彙・教科書内容に関する明示的知識を問うテストにおいて、70%以上正答することができる。 ３．授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を身に付け、他者に説明することができる。 ４．授業で扱った文法・語彙を使って、正しい文法・語法で文章やパッセージを作成することができる。 【長文】 １．授業で扱った文法・語彙で構成されたまとまりのある文章を理解し、その要約をすることができる。 ２．授業で扱った文法・語彙のみで構成されたまとまりのある文章を理解し、自分の意見を交えながら他者に伝えることができる。 【アウトプット】 １．授業で扱った語彙・文章を正確に英語らしく発音することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	学生からの質問への回答や解説を授業内で行うとともに、授業内で継続的に行なわれるアクティビティやクイズ、ディスカッションを行うなかで教員から講評を受けます。 学生により提出されるレポートは添削した上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスによって使用するテキストが異なるため注意してください。 ①In Focus 1、Charles Browne / Brent Culligan /	ISBN	①9784764741935 ②9784764742222

	Joseph Phillips、金星堂、2024 年 ②In Focus INTRO, Charles Browne / Brent Culligan / Joseph Phillips, 金星堂, 2025 年		
参考書	なし	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	60
	その他の内容	①レビュークイズ：30%（15%×2 回） ②7 月 TOEIC IP テスト：20% ③7 月 PROGOS：10%
この科目の受講にあたって	この授業では総合的な英語運用能力の向上を目標としています。総合的、つまり 4 技能の向上には自ら考え、自ら行動し、自ら学修する姿勢が欠かせません。授業を通して積極的に思考・発言し、「使える英語」を身につけるための学修を進めていきましょう。 英語をベースとした総合的な学修は皆さんの英語運用能力を一段階レベルアップさせてくれるだけでなく、国際社会で求められる人材となることに大いに役立ちます。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション：授業概要、評価方法、授業の進め方等の説明 ※クラスによって授業計画が異なります。必ず初回授業で確認してください。	事前学修：シラバスの熟読 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第２回	対面	イントロダクション：授業概要、評価方法、授業の進め方等の説明	事前学修：シラバスの熟読 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第３回	対面	リスニング・スピーキング演習（1）：U.7 Robots in the Home	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第４回	対面	ライティング・リーディング演習（1）：U.7 Robots in the Home	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第５回	対面	リスニング・スピーキング演習（2）：U.7 Robots in the Home	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第６回	対面	ライティング・リーディング演習（2）：U.7 Robots in the Home	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第７回	対面	リスニング・スピーキング演習（3）：U.8 I Lost My Job to a Machine	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第８回	対面	ライティング・リーディング演習（3）：U.8 I Lost My Job to a Machine	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む	2 時間

			事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	
第９回	対面	リスニング・スピーキング演習（4）：U.8 I Lost My Job to a Machine	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第１０回	対面	ライティング・リーディング演習（4）：U.8 I Lost My Job to a Machine	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第１１回	対面	リスニング・スピーキング演習（5）：U.9 Animals: Our Research Partners?	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）、中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の準備	2 時間
第１２回	対面	ライティング・リーディング演習（5）：U.9 Animals: Our Research Partners?	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）、中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）の準備	6 時間
第１３回	対面	中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）	事前学修：中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）に向けた復習（学修した語彙・文法・表現を見直しておく）	2 時間
第１４回	対面	中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）	事前学修：中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）に向けた復習（学修した語彙・文法・表現を見直しておく）	2 時間
第１５回	対面	中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の見直し リスニング・スピーキング演習（6）：U.10 Treatment of Animals	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の結果を見直す、授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第１６回	対面	中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）の見直し ライティング・リーディング演習（6）：U.10 Treatment of Animals	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）の結果を見直す、授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第１７回	対面	リスニング・スピーキング演習（7）：U.10 Treatment of Animals	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第１８回	対面	ライティング・リーディング演習（7）：U.10 Treatment of Animals	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第１９回	対面	リスニング・スピーキング演習（8）：U.11 The Online (Dis)Information	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第２０回	対面	ライティング・リーディング演習（8）：U.11 The Online (Dis)Information	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第２１回	対面	リスニング・スピーキング演習（9）：U.11 The Online (Dis)Information	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第２２回	対面	ライティング・リーディング演習（9）：U.	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現	2 時間

		11 The Online (Dis)Information	を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	
第２３回	対面	リスニング・スピーキング演習（10）：U.12 News: Fact or Fake?	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）、中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の準備	2 時間
第２４回	対面	ライティング・リーディング演習（10）：U.12 News: Fact or Fake?	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）、中間レビュークイズ（ライティング、リーディング）の準備	2 時間
第２５回	対面	期末レビュークイズ（リスニング・スピーキング）	事前学修：中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）に向けた復習（学修した語彙・文法・表現を見直しておく）	2 時間
第２６回	対面	期末レビュークイズ（ライティング・リーディング）	事前学修：中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）に向けた復習（学修した語彙・文法・表現を見直しておく）	2 時間
第２７回	対面	期末レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の見直しと総復習	事後学修：中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の結果を見直す、授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第２８回	対面	期末レビュークイズ（ライティング・リーディング）の見直しと総復習	事後学修：中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）の結果を見直す、授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第２９回	オンデマンド	期末レビュークイズ（リスニング・スピーキング）に向けたポイント解説・復習	事後学修：期末レビュークイズ（リスニング・スピーキング）に向けた復習	2 時間
第３０回	オンデマンド	期末レビュークイズ（ライティング・リーディング）に向けたポイント解説・復習	事後学修：期末レビュークイズ（ライティング・リーディング）に向けた・復習	2 時間

科目名	Advanced English IV	開講年度	2025
担当者	本多　善	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	さまざまなトピックについて英語で学修を進め、4 技能を統合した発展的な英語運用能力を身につける。		
授業の目的及び概要	本授業は 1 週間に 2 回行われ、①全体的な英語力強化と②TOEIC テストでのスコアアップを目的とします。 ①では、英語の理解に必要とされる高頻度語 3,000 語と基本的な文法項目の受容的知識の定着を図ります。授業では、教科書等の学修教材からのインプットにより知識を蓄え、演習問題やアウトプット活動を通じて知識を定着させ、単文や構造が明快な重文・複文であれば読み取れる、聞き取れるようになることを目指します。 ②では、TOEIC 問題演習に取り組むことで、①で身に付けた知識をテストで使える知識へと昇華していきます。また、就業力育成の観点から論理的思考力や幅広い視野を育み、国際通用力を図る基準として TOEIC を位置づけ、国際社会で使える英語技能を備えた英語運用能力を身に付けます。		
履修条件・留意点	2023 年度以降に入学し、英語コミュニケーションコースに所属する学生については必修科目となります。また、アジア太平洋コースに所属する学生については必修科目ではありませんが、国際学部の学修目標である英語運用能力の向上や TOEIC スコアアップに向けて、積極的に履修しましょう。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本授業の学修到達目標は、基礎レベルのアカデミックイングリッシュの修得に向けて、語彙・文法・長文・アウトプットに関してそれぞれ以下のように設定します。 【文法・語彙】 １．文章中に表れる授業で扱った文法・語彙に気づき、その意味が分かる。 ２．各授業で行われる高頻度語に関する小テストにおいて、70%以上正答することができる。 ３．授業で扱った文法・語彙・教科書内容に関する明示的知識を問うテストにおいて、70%以上正答することができる。 ３．授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を身に付け、他者に説明することができる。 ４．授業で扱った文法・語彙を使って、正しい文法・語法で文章やパッセージを作成することができる。 【長文】 １．授業で扱った文法・語彙で構成されたまとまりのある文章を理解し、その要約をすることができる。 ２．授業で扱った文法・語彙のみで構成されたまとまりのある文章を理解し、自分の意見を交えながら他者に伝えることができる。 【アウトプット】 １．授業で扱った語彙・文章を正確に英語らしく発音することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	学生からの質問への回答や解説を授業内で行うとともに、授業内で継続的に行なわれるアクティビティやクイズ、ディスカッションを行うなかで教員から講評を受けます。 学生により提出されるレポートは添削した上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスによって使用するテキストが異なるため注意してください。 ①In Focus 1、Charles Browne / Brent Culligan /	ISBN	①9784764741935 ②9784764742222

	Joseph Phillips、金星堂、2024 年 ②In Focus INTRO, Charles Browne / Brent Culligan / Joseph Phillips, 金星堂, 2025 年		
参考書	なし	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	60	
	その他の内容	①レビュークイズ：30%（15%×2 回） ②7 月 TOEIC IP テスト：20% ③7 月 PROGOS：10%	
この科目の受講にあたって	この授業では総合的な英語運用能力の向上を目標としています。総合的、つまり 4 技能の向上には自ら考え、自ら行動し、自ら学修する姿勢が欠かせません。授業を通して積極的に思考・発言し、「使える英語」を身につけるための学修を進めていきましょう。 英語をベースとした総合的な学修は皆さんの英語運用能力を一段階レベルアップさせてくれるだけでなく、国際社会で求められる人材となることに大いに役立ちます。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション：授業概要、評価方法、授業の進め方等の説明 ※クラスによって授業計画が異なります。必ず初回授業で確認してください。	事前学修：シラバスの熟読 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第２回	対面	イントロダクション：授業概要、評価方法、授業の進め方等の説明	事前学修：シラバスの熟読 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第３回	対面	リスニング・スピーキング演習（1）：U.7 Robots in the Home	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第４回	対面	ライティング・リーディング演習（1）：U.7 Robots in the Home	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第５回	対面	リスニング・スピーキング演習（2）：U.7 Robots in the Home	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第６回	対面	ライティング・リーディング演習（2）：U.7 Robots in the Home	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第７回	対面	リスニング・スピーキング演習（3）：U.8 I Lost My Job to a Machine	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第８回	対面	ライティング・リーディング演習（3）：U.8 I Lost My Job to a Machine	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む	2 時間

			事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	
第９回	対面	リスニング・スピーキング演習（4）：U.8 I Lost My Job to a Machine	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第１０回	対面	ライティング・リーディング演習（4）：U.8 I Lost My Job to a Machine	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第１１回	対面	リスニング・スピーキング演習（5）：U.9 Animals: Our Research Partners?	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）、中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の準備	2 時間
第１２回	対面	ライティング・リーディング演習（5）：U.9 Animals: Our Research Partners?	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）、中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）の準備	6 時間
第１３回	対面	中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）	事前学修：中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）に向けた復習（学修した語彙・文法・表現を見直しておく）	2 時間
第１４回	対面	中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）	事前学修：中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）に向けた復習（学修した語彙・文法・表現を見直しておく）	2 時間
第１５回	対面	中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の見直し リスニング・スピーキング演習（6）：U.10 Treatment of Animals	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の結果を見直す、授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第１６回	対面	中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）の見直し ライティング・リーディング演習（6）：U.10 Treatment of Animals	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）の結果を見直す、授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第１７回	対面	リスニング・スピーキング演習（7）：U.10 Treatment of Animals	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第１８回	対面	ライティング・リーディング演習（7）：U.10 Treatment of Animals	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第１９回	対面	リスニング・スピーキング演習（8）：U.11 The Online (Dis)Information	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第２０回	対面	ライティング・リーディング演習（8）：U.11 The Online (Dis)Information	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第２１回	対面	リスニング・スピーキング演習（9）：U.11 The Online (Dis)Information	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第２２回	対面	ライティング・リーディング演習（9）：U.	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現	2 時間

		11 The Online (Dis)Information	を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	
第２３回	対面	リスニング・スピーキング演習（10）：U.12 News: Fact or Fake?	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）、中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の準備	2 時間
第２４回	対面	ライティング・リーディング演習（10）：U.12 News: Fact or Fake?	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）、中間レビュークイズ（ライティング、リーディング）の準備	2 時間
第２５回	対面	期末レビュークイズ（リスニング・スピーキング）	事前学修：中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）に向けた復習（学修した語彙・文法・表現を見直しておく）	2 時間
第２６回	対面	期末レビュークイズ（ライティング・リーディング）	事前学修：中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）に向けた復習（学修した語彙・文法・表現を見直しておく）	2 時間
第２７回	対面	期末レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の見直しと総復習	事後学修：中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の結果を見直す、授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第２８回	対面	期末レビュークイズ（ライティング・リーディング）の見直しと総復習	事後学修：中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）の結果を見直す、授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第２９回	オンデマンド	期末レビュークイズ（リスニング・スピーキング）に向けたポイント解説・復習	事後学修：期末レビュークイズ（リスニング・スピーキング）に向けた復習	2 時間
第３０回	オンデマンド	期末レビュークイズ（ライティング・リーディング）に向けたポイント解説・復習	事後学修：期末レビュークイズ（ライティング・リーディング）に向けた・復習	2 時間

科目名	Advanced English IV	開講年度	2025
担当者	中西　亮太	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	さまざまなトピックについて英語で学修を進め、4 技能を統合した発展的な英語運用能力を身につける。		
授業の目的及び概要	本授業は 1 週間に 2 回行われ、①全体的な英語力強化と②TOEIC テストでのスコアアップを目的とします。 ①では、英語の理解に必要とされる高頻度語 3,000 語と基本的な文法項目の受容的知識の定着を図ります。授業では、教科書等の学修教材からのインプットにより知識を蓄え、演習問題やアウトプット活動を通じて知識を定着させ、単文や構造が明快な重文・複文であれば読み取れる、聞き取れるようになることを目指します。 ②では、TOEIC 問題演習に取り組むことで、①で身に付けた知識をテストで使える知識へと昇華していきます。また、就業力育成の観点から論理的思考力や幅広い視野を育み、国際通用力を図る基準として TOEIC を位置づけ、国際社会で使える英語技能を備えた英語運用能力を身に付けます。		
履修条件・留意点	2023 年度以降に入学し、英語コミュニケーションコースに所属する学生については必修科目となります。また、アジア太平洋コースに所属する学生については必修科目ではありませんが、国際学部の学修目標である英語運用能力の向上や TOEIC スコアアップに向けて、積極的に履修しましょう。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本授業の学修到達目標は、基礎レベルのアカデミックイングリッシュの修得に向けて、語彙・文法・長文・アウトプットに関してそれぞれ以下のように設定します。 【文法・語彙】 １．文章中に表れる授業で扱った文法・語彙に気づき、その意味が分かる。 ２．各授業で行われる高頻度語に関する小テストにおいて、70%以上正答することができる。 ３．授業で扱った文法・語彙・教科書内容に関する明示的知識を問うテストにおいて、70%以上正答することができる。 ３．授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を身に付け、他者に説明することができる。 ４．授業で扱った文法・語彙を使って、正しい文法・語法で文章やパッセージを作成することができる。 【長文】 １．授業で扱った文法・語彙で構成されたまとまりのある文章を理解し、その要約をすることができる。 ２．授業で扱った文法・語彙のみで構成されたまとまりのある文章を理解し、自分の意見を交えながら他者に伝えることができる。 【アウトプット】 １．授業で扱った語彙・文章を正確に英語らしく発音することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	学生からの質問への回答や解説を授業内で行うとともに、授業内で継続的に行なわれるアクティビティやクイズ、ディスカッションを行うなかで教員から講評を受けます。 学生により提出されるレポートは添削した上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスによって使用するテキストが異なるため注意してください。 ①In Focus 1、Charles Browne / Brent Culligan /	ISBN	①9784764741935 ②9784764742222

	Joseph Phillips、金星堂、2024 年 ②In Focus INTRO, Charles Browne / Brent Culligan / Joseph Phillips, 金星堂, 2025 年		
参考書	なし	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	60	
	その他の内容	①レビュークイズ：30%（15%×2 回） ②7 月 TOEIC IP テスト：20% ③7 月 PROGOS：10%	
この科目の受講にあたって	この授業では総合的な英語運用能力の向上を目標としています。総合的、つまり 4 技能の向上には自ら考え、自ら行動し、自ら学修する姿勢が欠かせません。授業を通して積極的に思考・発言し、「使える英語」を身につけるための学修を進めていきましょう。 英語をベースとした総合的な学修は皆さんの英語運用能力を一段階レベルアップさせてくれるだけでなく、国際社会で求められる人材となることに大いに役立ちます。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション：授業概要、評価方法、授業の進め方等の説明 ※クラスによって授業計画が異なります。必ず初回授業で確認してください。	事前学修：シラバスの熟読 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第２回	対面	イントロダクション：授業概要、評価方法、授業の進め方等の説明	事前学修：シラバスの熟読 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第３回	対面	リスニング・スピーキング演習（1）：U.7 Robots in the Home	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第４回	対面	ライティング・リーディング演習（1）：U.7 Robots in the Home	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第５回	対面	リスニング・スピーキング演習（2）：U.7 Robots in the Home	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第６回	対面	ライティング・リーディング演習（2）：U.7 Robots in the Home	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第７回	対面	リスニング・スピーキング演習（3）：U.8 I Lost My Job to a Machine	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第８回	対面	ライティング・リーディング演習（3）：U.8 I Lost My Job to a Machine	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む	2 時間

			事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	
第９回	対面	リスニング・スピーキング演習（4）：U.8 I Lost My Job to a Machine	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第１０回	対面	ライティング・リーディング演習（4）：U.8 I Lost My Job to a Machine	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第１１回	対面	リスニング・スピーキング演習（5）：U.9 Animals: Our Research Partners?	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）、中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の準備	2 時間
第１２回	対面	ライティング・リーディング演習（5）：U.9 Animals: Our Research Partners?	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）、中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）の準備	6 時間
第１３回	対面	中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）	事前学修：中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）に向けた復習（学修した語彙・文法・表現を見直しておく）	2 時間
第１４回	対面	中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）	事前学修：中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）に向けた復習（学修した語彙・文法・表現を見直しておく）	2 時間
第１５回	対面	中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の見直し リスニング・スピーキング演習（6）：U.10 Treatment of Animals	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の結果を見直す、授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第１６回	対面	中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）の見直し ライティング・リーディング演習（6）：U.10 Treatment of Animals	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）の結果を見直す、授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第１７回	対面	リスニング・スピーキング演習（7）：U.10 Treatment of Animals	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第１８回	対面	ライティング・リーディング演習（7）：U.10 Treatment of Animals	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第１９回	対面	リスニング・スピーキング演習（8）：U.11 The Online (Dis)Information	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第２０回	対面	ライティング・リーディング演習（8）：U.11 The Online (Dis)Information	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第２１回	対面	リスニング・スピーキング演習（9）：U.11 The Online (Dis)Information	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第２２回	対面	ライティング・リーディング演習（9）：U.	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現	2 時間

		11 The Online (Dis)Information	を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	
第２３回	対面	リスニング・スピーキング演習（10）：U.12 News: Fact or Fake?	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）、中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の準備	2 時間
第２４回	対面	ライティング・リーディング演習（10）：U.12 News: Fact or Fake?	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）、中間レビュークイズ（ライティング、リーディング）の準備	2 時間
第２５回	対面	期末レビュークイズ（リスニング・スピーキング）	事前学修：中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）に向けた復習（学修した語彙・文法・表現を見直しておく）	2 時間
第２６回	対面	期末レビュークイズ（ライティング・リーディング）	事前学修：中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）に向けた復習（学修した語彙・文法・表現を見直しておく）	2 時間
第２７回	対面	期末レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の見直しと総復習	事後学修：中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の結果を見直す、授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第２８回	対面	期末レビュークイズ（ライティング・リーディング）の見直しと総復習	事後学修：中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）の結果を見直す、授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第２９回	オンデマンド	期末レビュークイズ（リスニング・スピーキング）に向けたポイント解説・復習	事後学修：期末レビュークイズ（リスニング・スピーキング）に向けた復習	2 時間
第３０回	オンデマンド	期末レビュークイズ（ライティング・リーディング）に向けたポイント解説・復習	事後学修：期末レビュークイズ（ライティング・リーディング）に向けた・復習	2 時間

科目名	日本語９	開講年度	2025
担当者	赤城　永里子	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、アカデミックな場面、ビジネスの場面を含めた幅広い場面で使われる日本語への理解を目指す。		
授業の目的及び概要	本科目は、JLPT N2 以上を目指す学修者を対象に、レベル分けされたクラスで授業を行い、より高度な日本語の運用能力を養成することを目的とする。そのため、①JLPT N1 の合格に加え、②３年次以降の専門教育における卒業論文執筆過程で必須となる専門分野の書籍の講読や、③文章をまとめる力、④大学院進学あるいは就職をしていく上で必要なあるさまざまな読み方（速読や精読）やディスカッションの能力を身に着ける。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は以下のとおりです。 ①特に耳慣れない話し方をする話者の場合には、時々細部を確認しなければならない場合があるが、自分の専門外の抽象的で複雑な話題についての長い発話にも十分についていける。 ②また、幅の広い慣用表現や口語体表現が理解でき、言語の使用域の移行を正しく認識できる。 ③構造がはっきりしていない場合、または内容の関係性が暗示されているだけで、明示的でない場合でも、長い発話を理解できる。 ④複雑な話題について、明瞭にきちんとした構造を持ったテクストを書くことができる。関連性のある重要点を強調して、補助的事項、理由、関連する詳細な事例を付け加えて、論点を展開し、それを維持していくことができる。最後に適切な結論で終わることができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	中間テストを実施後には授業内でフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	プリントを配布する	ISBN	なし
参考書	適宜指示する	ISBN	適宜指示する

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	5
授業期間中の小テスト、レポート課題等	28
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	20
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	47
その他の内容	学期末復習テスト（30%） JLPT 受験（10%） 実力テスト/ハーフ模試（7%）

この科目の受講に	本科目を受講する学生は、JLPT の受験が必須です。本科目での学修を通して、N1 の合格を目指しますが、何度も N1 を失敗している学生は、①初級～N2 までの語彙、文法をまず確実に覚え

あたって	なおしてみてください。N2 までの内容が確実に覚えられていることが N1 合格につながります。学習量は絶対的に必要なものです。授業外での継続的な学習、ニュースや新聞など、積極帝に日本語で読む、聞く等の活動も毎日少しずつ取り入れていきましょう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス、語彙アセスメントテスト	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第２回	対面	読解①（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる）	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第３回	対面	読解②（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解①	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第４回	対面	読解③（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解②	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第５回	対面	読解④（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解③	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第６回	対面	読解⑤（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解④	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第７回	対面	読解⑥（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解⑤	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第８回	対面	読解⑦（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解⑥	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第９回	対面	読解⑧（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解⑦	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第１０回	対面	読解⑨（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解⑧	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第１１回	対面	前半の復習	中間テストに向けた学修	2 時間
第１２回	オンデマンド	前半の復習	中間テストに向けた学修	4 時間
第１３回	対面	中間テスト	小テストの学習	2 時間
第１４回	対面	JLPT 演習問題１	JLPT 演習問題１の類似問題をする	3 時間
第１５回	対面	JLPT 演習問題２	JLPT 演習問題２類似問題をする	2 時間
第１６回	対面	JLPT 演習問題３	JLPT 演習問題３類似問題をする	6 時間
第１７回	対面	JLPT 模試　読解	小テストの学習	2 時間
第１８回	対面	JLPT 演習問題４	JLPT 演習問題４類似問題をする	2 時間
第１９回	対面	JLPT 演習問題５	JLPT 演習問題５類似問題をする	2 時間
第２０回	対面	JLPT 演習問題６	JLPT 演習問題６類似問題をする	2 時間
第２１回	対面	JLPT 演習問題７	JLPT 演習問題７類似問題をする	2 時間
第２２回	対面	JLPT 演習問題８	JLPT 演習問題８類似問題をする	2 時間
第２３回	対面	JLPT 演習問題９	JLPT 演習問題９類似問題をする	2 時間

第２４回	対面	JLPT 演習問題 10	JLPT 演習問題 10 類似問題をする	2 時間
第２５回	対面	聴解とディスカッション１	小テストの学習 当日学んだ語彙を覚える	2 時間
第２６回	対面	聴解とディスカッション２	小テストの学習 当日学んだ語彙を覚える	2 時間
第２７回	対面	聴解とディスカッション３	小テストの学習 当日学んだ語彙を覚える	2 時間
第２８回	対面	総括（復習テストに向けた振り返り）	復習テストに向けた学修する	2 時間
第２９回	オンデマンド	総括（復習テストに向けた振り返り）	復習テストに向けた学修する	6 時間
第３０回	対面	復習テスト	学期中に学修した語彙を再度覚えなおす	6 時間

科目名	日本語９	開講年度	2025
担当者	李　光曦	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、アカデミックな場面、ビジネスの場面を含めた幅広い場面で使われる日本語への理解を目指す。		
授業の目的及び概要	本科目は、JLPT N2 以上を目指す学修者を対象に、レベル分けされたクラスで授業を行い、より高度な日本語の運用能力を養成することを目的とする。そのため、①JLPT N1 の合格に加え、②３年次以降の専門教育における卒業論文執筆過程で必須となる専門分野の書籍の講読や、③文章をまとめる力、④大学院進学あるいは就職をしていく上で必要なあるさまざまな読み方（速読や精読）やディスカッションの能力を身に着ける。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は以下のとおりです。 ①特に耳慣れない話し方をする話者の場合には、時々細部を確認しなければならない場合があるが、自分の専門外の抽象的で複雑な話題についての長い発話にも十分についていける。 ②また、幅の広い慣用表現や口語体表現が理解でき、言語の使用域の移行を正しく認識できる。 ③構造がはっきりしていない場合、または内容の関係性が暗示されているだけで、明示的でない場合でも、長い発話を理解できる。 ④複雑な話題について、明瞭にきちんとした構造を持ったテクストを書くことができる。関連性のある重要点を強調して、補助的事項、理由、関連する詳細な事例を付け加えて、論点を展開し、それを維持していくことができる。最後に適切な結論で終わることができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	中間テストを実施後には授業内でフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	プリントを配布する	ISBN	なし
参考書	適宜指示する	ISBN	適宜指示する

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	5
授業期間中の小テスト、レポート課題等	28
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	20
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	47
その他の内容	学期末復習テスト（30%） JLPT 受験（10%） 実力テスト/ハーフ模試（7%）

この科目の受講に	本科目を受講する学生は、JLPT の受験が必須です。本科目での学修を通して、N1 の合格を目指しますが、何度も N1 を失敗している学生は、①初級～N2 までの語彙、文法をまず確実に覚え

あたって	なおしてみてください。N2 までの内容が確実に覚えられていることが N1 合格につながります。学習量は絶対的に必要なものです。授業外での継続的な学習、ニュースや新聞など、積極帝に日本語で読む、聞く等の活動も毎日少しずつ取り入れていきましょう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス、語彙アセスメントテスト	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第２回	対面	読解①（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる）	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第３回	対面	読解②（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解①	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第４回	対面	読解③（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解②	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第５回	対面	読解④（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解③	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第６回	対面	読解⑤（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解④	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第７回	対面	読解⑥（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解⑤	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第８回	対面	読解⑦（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解⑥	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第９回	対面	読解⑧（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解⑦	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第１０回	対面	読解⑨（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解⑧	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第１１回	対面	前半の復習	中間テストに向けた学修	2 時間
第１２回	オンデマンド	前半の復習	中間テストに向けた学修	4 時間
第１３回	対面	中間テスト	小テストの学習	2 時間
第１４回	対面	JLPT 演習問題１	JLPT 演習問題１の類似問題をする	3 時間
第１５回	対面	JLPT 演習問題２	JLPT 演習問題２類似問題をする	2 時間
第１６回	対面	JLPT 演習問題３	JLPT 演習問題３類似問題をする	6 時間
第１７回	対面	JLPT 模試　読解	小テストの学習	2 時間
第１８回	対面	JLPT 演習問題４	JLPT 演習問題４類似問題をする	2 時間
第１９回	対面	JLPT 演習問題５	JLPT 演習問題５類似問題をする	2 時間
第２０回	対面	JLPT 演習問題６	JLPT 演習問題６類似問題をする	2 時間
第２１回	対面	JLPT 演習問題７	JLPT 演習問題７類似問題をする	2 時間
第２２回	対面	JLPT 演習問題８	JLPT 演習問題８類似問題をする	2 時間
第２３回	対面	JLPT 演習問題９	JLPT 演習問題９類似問題をする	2 時間

第２４回	対面	JLPT 演習問題 10	JLPT 演習問題 10 類似問題をする	2 時間
第２５回	対面	聴解とディスカッション１	小テストの学習 当日学んだ語彙を覚える	2 時間
第２６回	対面	聴解とディスカッション２	小テストの学習 当日学んだ語彙を覚える	2 時間
第２７回	対面	聴解とディスカッション３	小テストの学習 当日学んだ語彙を覚える	2 時間
第２８回	対面	総括（復習テストに向けた振り返り）	復習テストに向けた学修する	2 時間
第２９回	オンデマンド	総括（復習テストに向けた振り返り）	復習テストに向けた学修する	6 時間
第３０回	対面	復習テスト	学期中に学修した語彙を再度覚えなおす	6 時間

科目名	日本語９	開講年度	2025
担当者	河﨑　絵美	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、アカデミックな場面、ビジネスの場面を含めた幅広い場面で使われる日本語への理解を目指す。		
授業の目的及び概要	本科目は、JLPT N2 以上を目指す学修者を対象に、レベル分けされたクラスで授業を行い、より高度な日本語の運用能力を養成することを目的とする。そのため、①JLPT N1 の合格に加え、②３年次以降の専門教育における卒業論文執筆過程で必須となる専門分野の書籍の講読や、③文章をまとめる力、④大学院進学あるいは就職をしていく上で必要なあるさまざまな読み方（速読や精読）やディスカッションの能力を身に着ける。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は以下のとおりです。 ①特に耳慣れない話し方をする話者の場合には、時々細部を確認しなければならない場合があるが、自分の専門外の抽象的で複雑な話題についての長い発話にも十分についていける。 ②また、幅の広い慣用表現や口語体表現が理解でき、言語の使用域の移行を正しく認識できる。 ③構造がはっきりしていない場合、または内容の関係性が暗示されているだけで、明示的でない場合でも、長い発話を理解できる。 ④複雑な話題について、明瞭にきちんとした構造を持ったテクストを書くことができる。関連性のある重要点を強調して、補助的事項、理由、関連する詳細な事例を付け加えて、論点を展開し、それを維持していくことができる。最後に適切な結論で終わることができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	中間テストを実施後には授業内でフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	プリントを配布する	ISBN	なし
参考書	適宜指示する	ISBN	適宜指示する

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	5
授業期間中の小テスト、レポート課題等	28
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	20
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	47
その他の内容	学期末復習テスト（30%） JLPT 受験（10%） 実力テスト/ハーフ模試（7%）

この科目の受講に	本科目を受講する学生は、JLPT の受験が必須です。本科目での学修を通して、N1 の合格を目指しますが、何度も N1 を失敗している学生は、①初級～N2 までの語彙、文法をまず確実に覚え

あたって	なおしてみてください。N2 までの内容が確実に覚えられていることが N1 合格につながります。学習量は絶対的に必要なものです。授業外での継続的な学習、ニュースや新聞など、積極帝に日本語で読む、聞く等の活動も毎日少しずつ取り入れていきましょう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス、語彙アセスメントテスト	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第２回	対面	読解①（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる）	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第３回	対面	読解②（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解①	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第４回	対面	読解③（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解②	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第５回	対面	読解④（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解③	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第６回	対面	読解⑤（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解④	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第７回	対面	読解⑥（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解⑤	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第８回	対面	読解⑦（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解⑥	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第９回	対面	読解⑧（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解⑦	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第１０回	対面	読解⑨（読解、読解内容について話す、読解内容をまとめる） 聴解⑧	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第１１回	対面	前半の復習	中間テストに向けた学修	2 時間
第１２回	オンデマンド	前半の復習	中間テストに向けた学修	4 時間
第１３回	対面	中間テスト	小テストの学習	2 時間
第１４回	対面	JLPT 演習問題１	JLPT 演習問題１の類似問題をする	3 時間
第１５回	対面	JLPT 演習問題２	JLPT 演習問題２類似問題をする	2 時間
第１６回	対面	JLPT 演習問題３	JLPT 演習問題３類似問題をする	6 時間
第１７回	対面	JLPT 模試　読解	小テストの学習	2 時間
第１８回	対面	JLPT 演習問題４	JLPT 演習問題４類似問題をする	2 時間
第１９回	対面	JLPT 演習問題５	JLPT 演習問題５類似問題をする	2 時間
第２０回	対面	JLPT 演習問題６	JLPT 演習問題６類似問題をする	2 時間
第２１回	対面	JLPT 演習問題７	JLPT 演習問題７類似問題をする	2 時間
第２２回	対面	JLPT 演習問題８	JLPT 演習問題８類似問題をする	2 時間
第２３回	対面	JLPT 演習問題９	JLPT 演習問題９類似問題をする	2 時間

第２４回	対面	JLPT 演習問題 10	JLPT 演習問題 10 類似問題をする	2 時間
第２５回	対面	聴解とディスカッション１	小テストの学習 当日学んだ語彙を覚える	2 時間
第２６回	対面	聴解とディスカッション２	小テストの学習 当日学んだ語彙を覚える	2 時間
第２７回	対面	聴解とディスカッション３	小テストの学習 当日学んだ語彙を覚える	2 時間
第２８回	対面	総括（復習テストに向けた振り返り）	復習テストに向けた学修する	2 時間
第２９回	オンデマンド	総括（復習テストに向けた振り返り）	復習テストに向けた学修する	6 時間
第３０回	対面	復習テスト	学期中に学修した語彙を再度覚えなおす	6 時間

科目名	日本語１０	開講年度	2025
担当者	橋本　凜	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日本語９に引き続き、日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、アカデミックな場面、ビジネスの場面を含めた幅広い場面で使われる日本語への理解を目指す。		
授業の目的及び概要	本科目は、JLPT N2 以上を目指す学修者を対象に、レベル分けされたクラスで授業を行い、より高度な日本語の運用能力を養成することを目的とする。そのため、①JLPT N1 の合格に加え、②３年次以降の専門教育における卒業論文執筆過程で必須となる専門分野の書籍の講読や、③文章をまとめる力、④大学院進学あるいは就職をしていく上で必要なあるさまざまな読み方（速読や精読）やディスカッション能力を身につける。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は以下のとおりです。 ①特に耳慣れない話し方をする話者の場合には、時々細部を確認しなければならない場合があるが、自分の専門外の抽象的で複雑な話題についての長い発話にも十分についていける。 ②また、幅の広い慣用表現や口語体表現が理解でき、言語の使用域の移行を正しく認識できる。 ③構造がはっきりしていない場合、または内容の関係性が暗示されているだけで、明示的でない場合でも、長い発話を理解できる。 ④複雑な話題について、明瞭にきちんとした構造を持ったテクストを書くことができる。関連性のある重要点を強調して、補助的事項、理由、関連する詳細な事例を付け加えて、論点を展開し、それを維持していくことができる。最後に適切な結論で終わることができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	中間テストを実施後には授業内でフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	プリントを配布する。	ISBN	なし
参考書	適宜指示する	ISBN	適宜指示する

成績評価の方法・基準		
	授業への積極的な参加度・取組み	5
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	28
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	47
	その他の内容	JLPT 受験（10%） 学期末復習テスト（30%） 実力テスト/ハーフ模試（7%）

この科目の受講に	本科目を受講する学生は、JLPT の受験が必須です。本科目での学修を通して、N1 の合格を目指しますが、何度も N1 を失敗している学生は、①初級～N2 までの語彙、文法をまず確実に覚え

あたって	なおしてみてください。N2 までの内容が確実に覚えられていることが N1 合格につながります。学習量は絶対的に必要なものです。授業外での継続的な学習、ニュースや新聞など、積極帝に日本語で読む、聞く等の活動も毎日少しずつ取り入れていきましょう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス 模擬試験 文字語彙・読解	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第２回	対面	文法１ 聴解１	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第３回	対面	読解１ 聴解２	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第４回	対面	文法２ 聴解３	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第５回	対面	読解２ 聴解４	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第６回	対面	文法３ 聴解５	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第７回	対面	読解３ 聴解６	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第８回	対面	文法４ 聴解７	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第９回	対面	読解４ 聴解８	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	3 時間
第１０回	対面	文法５ 聴解９	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第１１回	対面	前半の復習	中間テストに向けた学修	2 時間
第１２回	オンデマンド	前半の復習	中間テストに向けた学修	6 時間
第１３回	対面	中間テスト	小テストの学習	2 時間
第１４回	対面	JLPT 練習問題１	JLPT 練習問題１類似問題	2 時間
第１５回	対面	JLPT 練習問題２	JLPT 練習問題２類似問題	2 時間
第１６回	対面	JLPT 練習問題３	JLPT 練習問題３類似問題	2 時間
第１７回	対面	JLPT 練習問題４	JLPT 練習問題４類似問題	2 時間
第１８回	対面	JLPT 練習問題５	JLPT 練習問題５類似問題	2 時間
第１９回	対面	JLPT 練習問題６	JLPT 練習問題６類似問題	2 時間
第２０回	対面	JLPT 練習問題７	JLPT 練習問題７類似問題	2 時間
第２１回	対面	JLPT 練習問題８	JLPT 練習問題８類似問題	2 時間
第２２回	対面	JLPT 練習問題９	JLPT 練習問題９類似問題	2 時間
第２３回	対面	JLPT 練習問題 10	JLPT 練習問題 10 類似問題	2 時間

第２４回	対面	聴解、ディスカッション、ミニレポート	授業で出てきた語彙を覚える	2 時間
第２５回	対面	聴解、ディスカッション、ミニレポート	授業で出てきた語彙を覚える	2 時間
第２６回	対面	聴解、ディスカッション、ミニレポート	授業で出てきた語彙を覚える	2 時間
第２７回	対面	聴解、ディスカッション、ミニレポート	授業で出てきた語彙を覚える	2 時間
第２８回	対面	総括（定期試験に向けた振り返り）	定期試験に向けた学修	2 時間
第２９回	オンデマンド	総括（定期試験に向けた振り返り）	定期試験に向けた学修	6 時間
第３０回	対面	学期末復習テスト	今学期学修した語彙などをもう一度覚えなおす	6 時間

科目名	日本語１０	開講年度	2025
担当者	河﨑　絵美	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日本語９に引き続き、日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、アカデミックな場面、ビジネスの場面を含めた幅広い場面で使われる日本語への理解を目指す。		
授業の目的及び概要	本科目は、JLPT N2 以上を目指す学修者を対象に、レベル分けされたクラスで授業を行い、より高度な日本語の運用能力を養成することを目的とする。そのため、①JLPT N1 の合格に加え、②３年次以降の専門教育における卒業論文執筆過程で必須となる専門分野の書籍の講読や、③文章をまとめる力、④大学院進学あるいは就職をしていく上で必要なあるさまざまな読み方（速読や精読）やディスカッション能力を身につける。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は以下のとおりです。 ①特に耳慣れない話し方をする話者の場合には、時々細部を確認しなければならない場合があるが、自分の専門外の抽象的で複雑な話題についての長い発話にも十分についていける。 ②また、幅の広い慣用表現や口語体表現が理解でき、言語の使用域の移行を正しく認識できる。 ③構造がはっきりしていない場合、または内容の関係性が暗示されているだけで、明示的でない場合でも、長い発話を理解できる。 ④複雑な話題について、明瞭にきちんとした構造を持ったテクストを書くことができる。関連性のある重要点を強調して、補助的事項、理由、関連する詳細な事例を付け加えて、論点を展開し、それを維持していくことができる。最後に適切な結論で終わることができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	中間テストを実施後には授業内でフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	プリントを配布する。	ISBN	なし
参考書	適宜指示する	ISBN	適宜指示する

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	5
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	28
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	47
	その他の内容	JLPT 受験（10%） 学期末復習テスト（30%） 実力テスト/ハーフ模試（7%）
この科目の受講に	本科目を受講する学生は、JLPT の受験が必須です。本科目での学修を通して、N1 の合格を目指しますが、何度も N1 を失敗している学生は、①初級～N2 までの語彙、文法をまず確実に覚え	

あたって	なおしてみてください。N2 までの内容が確実に覚えられていることが N1 合格につながります。学習量は絶対的に必要なものです。授業外での継続的な学習、ニュースや新聞など、積極帝に日本語で読む、聞く等の活動も毎日少しずつ取り入れていきましょう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス 模擬試験 文字語彙・読解	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第２回	対面	文法１ 聴解１	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第３回	対面	読解１ 聴解２	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第４回	対面	文法２ 聴解３	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第５回	対面	読解２ 聴解４	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第６回	対面	文法３ 聴解５	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第７回	対面	読解３ 聴解６	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第８回	対面	文法４ 聴解７	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第９回	対面	読解４ 聴解８	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	3 時間
第１０回	対面	文法５ 聴解９	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第１１回	対面	前半の復習	中間テストに向けた学修	2 時間
第１２回	オンデマンド	前半の復習	中間テストに向けた学修	6 時間
第１３回	対面	中間テスト	小テストの学習	2 時間
第１４回	対面	JLPT 練習問題１	JLPT 練習問題１類似問題	2 時間
第１５回	対面	JLPT 練習問題２	JLPT 練習問題２類似問題	2 時間
第１６回	対面	JLPT 練習問題３	JLPT 練習問題３類似問題	2 時間
第１７回	対面	JLPT 練習問題４	JLPT 練習問題４類似問題	2 時間
第１８回	対面	JLPT 練習問題５	JLPT 練習問題５類似問題	2 時間
第１９回	対面	JLPT 練習問題６	JLPT 練習問題６類似問題	2 時間
第２０回	対面	JLPT 練習問題７	JLPT 練習問題７類似問題	2 時間
第２１回	対面	JLPT 練習問題８	JLPT 練習問題８類似問題	2 時間
第２２回	対面	JLPT 練習問題９	JLPT 練習問題９類似問題	2 時間
第２３回	対面	JLPT 練習問題 10	JLPT 練習問題 10 類似問題	2 時間

第２４回	対面	聴解、ディスカッション、ミニレポート	授業で出てきた語彙を覚える	2 時間
第２５回	対面	聴解、ディスカッション、ミニレポート	授業で出てきた語彙を覚える	2 時間
第２６回	対面	聴解、ディスカッション、ミニレポート	授業で出てきた語彙を覚える	2 時間
第２７回	対面	聴解、ディスカッション、ミニレポート	授業で出てきた語彙を覚える	2 時間
第２８回	対面	総括（定期試験に向けた振り返り）	定期試験に向けた学修	2 時間
第２９回	オンデマンド	総括（定期試験に向けた振り返り）	定期試験に向けた学修	6 時間
第３０回	対面	学期末復習テスト	今学期学修した語彙などをもう一度覚えなおす	6 時間

科目名	日本語１０	開講年度	2025
担当者	柳　東汶	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日本語９に引き続き、日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、アカデミックな場面、ビジネスの場面を含めた幅広い場面で使われる日本語への理解を目指す。		
授業の目的及び概要	本科目は、JLPT N2 以上を目指す学修者を対象に、レベル分けされたクラスで授業を行い、より高度な日本語の運用能力を養成することを目的とする。そのため、①JLPT N1 の合格に加え、②３年次以降の専門教育における卒業論文執筆過程で必須となる専門分野の書籍の講読や、③文章をまとめる力、④大学院進学あるいは就職をしていく上で必要なあるさまざまな読み方（速読や精読）やディスカッション能力を身につける。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は以下のとおりです。 ①特に耳慣れない話し方をする話者の場合には、時々細部を確認しなければならない場合があるが、自分の専門外の抽象的で複雑な話題についての長い発話にも十分についていける。 ②また、幅の広い慣用表現や口語体表現が理解でき、言語の使用域の移行を正しく認識できる。 ③構造がはっきりしていない場合、または内容の関係性が暗示されているだけで、明示的でない場合でも、長い発話を理解できる。 ④複雑な話題について、明瞭にきちんとした構造を持ったテクストを書くことができる。関連性のある重要点を強調して、補助的事項、理由、関連する詳細な事例を付け加えて、論点を展開し、それを維持していくことができる。最後に適切な結論で終わることができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	中間テストを実施後には授業内でフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	プリントを配布する。	ISBN	なし
参考書	適宜指示する	ISBN	適宜指示する

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	5
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	28
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	47
	その他の内容	JLPT 受験（10%） 学期末復習テスト（30%） 実力テスト/ハーフ模試（7%）
この科目の受講に	本科目を受講する学生は、JLPT の受験が必須です。本科目での学修を通して、N1 の合格を目指しますが、何度も N1 を失敗している学生は、①初級～N2 までの語彙、文法をまず確実に覚え	

あたって	なおしてみてください。N2 までの内容が確実に覚えられていることが N1 合格につながります。学習量は絶対的に必要なものです。授業外での継続的な学習、ニュースや新聞など、積極帝に日本語で読む、聞く等の活動も毎日少しずつ取り入れていきましょう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス 模擬試験 文字語彙・読解	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第２回	対面	文法１ 聴解１	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第３回	対面	読解１ 聴解２	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第４回	対面	文法２ 聴解３	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第５回	対面	読解２ 聴解４	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第６回	対面	文法３ 聴解５	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第７回	対面	読解３ 聴解６	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第８回	対面	文法４ 聴解７	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第９回	対面	読解４ 聴解８	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	3 時間
第１０回	対面	文法５ 聴解９	小テストの学習 次回内容の語彙調べ 予習プリント	2 時間
第１１回	対面	前半の復習	中間テストに向けた学修	2 時間
第１２回	オンデマンド	前半の復習	中間テストに向けた学修	6 時間
第１３回	対面	中間テスト	小テストの学習	2 時間
第１４回	対面	JLPT 練習問題１	JLPT 練習問題１類似問題	2 時間
第１５回	対面	JLPT 練習問題２	JLPT 練習問題２類似問題	2 時間
第１６回	対面	JLPT 練習問題３	JLPT 練習問題３類似問題	2 時間
第１７回	対面	JLPT 練習問題４	JLPT 練習問題４類似問題	2 時間
第１８回	対面	JLPT 練習問題５	JLPT 練習問題５類似問題	2 時間
第１９回	対面	JLPT 練習問題６	JLPT 練習問題６類似問題	2 時間
第２０回	対面	JLPT 練習問題７	JLPT 練習問題７類似問題	2 時間
第２１回	対面	JLPT 練習問題８	JLPT 練習問題８類似問題	2 時間
第２２回	対面	JLPT 練習問題９	JLPT 練習問題９類似問題	2 時間
第２３回	対面	JLPT 練習問題 10	JLPT 練習問題 10 類似問題	2 時間

第２４回	対面	聴解、ディスカッション、ミニレポート	授業で出てきた語彙を覚える	2 時間
第２５回	対面	聴解、ディスカッション、ミニレポート	授業で出てきた語彙を覚える	2 時間
第２６回	対面	聴解、ディスカッション、ミニレポート	授業で出てきた語彙を覚える	2 時間
第２７回	対面	聴解、ディスカッション、ミニレポート	授業で出てきた語彙を覚える	2 時間
第２８回	対面	総括（定期試験に向けた振り返り）	定期試験に向けた学修	2 時間
第２９回	オンデマンド	総括（定期試験に向けた振り返り）	定期試験に向けた学修	6 時間
第３０回	対面	学期末復習テスト	今学期学修した語彙などをもう一度覚えなおす	6 時間

科目名	Exam Prep. IV	開講年度	2025
担当者	本多　善	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	TOEIC 或いは TOEFL 学習素材を活用して英語力を強化し、コミュニケーションに必要な英語運用力の土台を作る。		
授業の目的及び概要	本講義は、英語の 4 技能を総合的に強化し、TOEIC L&R で 500（クラスにより 600）以上、TOEFL クラスについては、Listening/SWE(Structure and Written Expression)/Reading において B1 以上を目標とする。 ・TOEIC 或いは TOEFL テスト形式の問題を解き、対策を学んで、スコアアップを図る。 ・TOEIC 或いは TOEFL スコアアップに必須となる自己学習法を修得する。 ・頻出語彙の強化のため毎回語彙テストを実施し語彙の用法や音声まで修得する。 ・本学担当教員の授業計画のもと、水 2 のクラス 2・3、水 2 のクラス①（留学生＋TOEFL クラス）・クラス②・クラス②（留学生クラス＋一般学生クラス）は、株式会社アルクの英語講師が授業を実施する。		
履修条件・留意点	この授業科目は、TOEIC®L &R、TOEFL® ITP に対応した科目であり、英語力の向上を目指す学生を対象とします。国際学部生はこれまでの TOEIC スコアを基に事前にクラス分けを実施し事前登録します。また経済・経営・法学部生も履修が可能です。1 年次の必修英語で中級クラスは水 2 クラス 1、初級クラスは水 2 クラス 2、基礎クラスは水 2 クラス 3 を推奨します。また、水 2 クラス②（留学生クラス＋一般学生クラス）は、留学生及び一部クラス分けにより事前登録した学生のクラスです。経済・経営・法・国際学部の留学生の方で英語を学修したい方は、積極的に水 2 クラス②（留学生クラス＋一般学生クラス）を履修しましょう。また、水 2 クラス①（TOEFL、一般学生＋留学生クラス、交換留学を希望する学生）は Advanced クラスとして、TOEFL を学修します。交換留学を目指す学生の方、並びに今後、TOEFL 学修をしたい方、英語力が高い留学生の方は積極的に履修ください。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①～④への取組を通して、TOEIC L&R で 500（クラスにより 600）以上、TOEFL クラスについては、Listening/SWE/Reading において B1 以上を達成する。 ①語彙力と文法力の強化 小テスト(TOEIC 頻出単語)において、毎回８０%以上の正答率を達成する。 ②TOEIC・TOEFL に対応したリスニング力の向上 TOEIC リスニングセクションで、約 60%程度の主要な情報（登場人物の行動、場面の設定、話題の概要など）を理解することができる。 ③TOEIC・TOEFL に対応したリーディング力の向上 TOEIC・TOEFL で出題される文章の形式に慣れて約 60%程度の要点を理解することができる。 ④自立的な学修 必ず目標スコアを達成するという強い目的意識を持ち、課題を着実にこなし、主体的かつ計画的に学修に取り組む。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の確認テストについてフィードバックをおこなう。課題、発表、総括テストについて、各自へのフィードバックを実施する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	当該科目は習熟度別クラスであり、テキストについては第一回目の授業並びに教科書販売リストにおいて、各クラス別に指示する。	ISBN	完全攻略！TOEFL ITP テスト模試 4 回分　改訂

	水２ クラス１・２・３ 書名：TOEIC(R) L&R テスト 至高の模試 600 問（通年使用）、著者名：ヒロ前田、出版社：ALC、出版年：2017 書名：TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック（通年使用）、著者：ETS、出版社：IIBC、出版年：2019 水２ クラス①（TOEFL、一般学生＋留学生クラス、交換留学を希望する学生） 書名：完全攻略！TOEFL ITP テスト模試４回分 改訂版（通年使用）、著者名：ワーデン，ポール他、出版社：ALC、出版年：2022 書名：完全攻略！完全攻略 TOEFL ITP(R)テストリーディング（通年使用）、著者名：田中真紀子、出版社：ALC、出版年：2016 水２ クラス②（留学生クラス＋一般学生クラス） 書名：【別冊模試・音声 DL 付】TOEIC(R) L&R テスト「直前」模試３回分（通年使用）、著者名：テッド 寺倉他、出版社：ALC、出版年： 2019		版 ISBN 9784757426221 完全攻略！完全攻略 TOEFL ITP(R)テストリーディング ISBN 9784757426702 【別冊模試・音声 DL 付】TOEIC(R) L&R テスト「直前」模試 3 回分 ISBN 9784757433540 TOEIC(R) L&R テスト 至高の模試 600 問（通年）ISBN 9784757428997 TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック（通年）ISBN 978490
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	60
	その他の内容	レビュークイズ：20% TOEIC®L＆R（TOEFL クラスは TOEIC 或いは TOEFL 試験結果）：40%
この科目の受講にあたって	授業中は、携帯電話、スマートフォン及び通信機能を持つ機器のアプリ使用は、一切禁止する（カバンの中にしまった状態）。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	授業概要、計画、成績評価についての説明。テキストの内容、学習方法の説明、また一部使用テキストが習熟度により違うため指定教材を説明する。	事後学修： ・至高の模試 TEST2 を初回授業内で説明する３回チャレンジ法の受験１回目のやり方で、時間制限内で受験する	4 時間
第２回	対面	TOEIC Part １自己学習法実践、文法：品詞の見分け復習	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙復習、Part １指定の箇所を自己学習法で練習	4 時間
第３回	対面	語彙テスト①、TOEIC Part １自己学習法実践、文法:名詞、代名詞問題	事後学修： ・語彙のテスト指定範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙復習、Part １指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第４回	対面	語彙テスト②、TOEIC Part ２自己学習法実践、文法:動詞問題	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙復習、Part２指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間

第５回	対面	語彙テスト③、TOEIC Part 2 自己学習法実践、文法：形容詞、副詞問題	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙復習、Part２指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第６回	対面	語彙テスト④、TOEIC Part 3 自己学習法実践、文法：前置詞、接続詞	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 3 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第７回	対面	語彙テスト⑤、TOEIC Part ３ 自己学習法実践、Part 5 文法問題強化	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 3 指定の箇所を自己学習法で練習、Part 5 復習	4 時間
第８回	対面	語彙テスト⑥、TOEIC Part 4 自己学習法実践、Part 5 文法問題強化	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 4 指定の箇所を自己学習法で練習、Part 5 復習	4 時間
第９回	対面	語彙テスト⑦、TOEIC Part 4 自己学習法実践、Part 6/7 読解力強化	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 4 指定の箇所を自己学習法で練習、Part 6/7 復習	4 時間
第１０回	対面	語彙テスト⑧、リスニング全般強化、 Part 6/7 読解力強化	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、リスニングセクション 指定の箇所を自己学習法で練習、Part 6/7 復習	4 時間
第１１回	対面	語彙テスト⑨、リスニング力全般強化、Part 7 速読力強化	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、リスニングセクション 指定の箇所を自己学習法で練習、Part 7 復習	4 時間
第１２回	対面	語彙テスト⑩、リスニング力全般強化、Part 7 速読力強化	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 4 指定の箇所を自己学習法で練習、Part 7 復習	4 時間
第１３回	対面	リスニングのまとめ	事後学修： ・TEST 2 リスニングセクション の総復習	4 時間
第１４回	対面	リーディングのまとめ、レビュークイズ	事後学修： ・TEST 2 リーディングセクションの総復習	4 時間
第１５回	オンデマンド	学習の総まとめ	事後学修： ・至高の模試 TEST 2 の３回チャレンジ法の受験３回目のやり方で、制限時間内で受験する、間違えた問題を復習する	4 時間

科目名	Exam Prep. IV	開講年度	2025
担当者	本多　善	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	TOEIC 或いは TOEFL 学習素材を活用して英語力を強化し、コミュニケーションに必要な英語運用力の土台を作る。		
授業の目的及び概要	本講義は、英語の 4 技能を総合的に強化し、TOEIC L&R で 500（クラスにより 600）以上、TOEFL クラスについては、Listening/SWE(Structure and Written Expression)/Reading において B1 以上を目標とする。 ・TOEIC 或いは TOEFL テスト形式の問題を解き、対策を学んで、スコアアップを図る。 ・TOEIC 或いは TOEFL スコアアップに必須となる自己学習法を修得する。 ・頻出語彙の強化のため毎回語彙テストを実施し語彙の用法や音声まで修得する。 ・本学担当教員の授業計画のもと、水 2 のクラス 2・3、水 2 のクラス①（留学生＋TOEFL クラス）・クラス②・クラス②（留学生クラス＋一般学生クラス）は、株式会社アルクの英語講師が授業を実施する。		
履修条件・留意点	この授業科目は、TOEIC®L &R、TOEFL® ITP に対応した科目であり、英語力の向上を目指す学生を対象とします。国際学部生はこれまでの TOEIC スコアを基に事前にクラス分けを実施し事前登録します。また経済・経営・法学部生も履修が可能です。1 年次の必修英語で中級クラスは水 2 クラス 1、初級クラスは水 2 クラス 2、基礎クラスは水 2 クラス 3 を推奨します。また、水 2 クラス②（留学生クラス＋一般学生クラス）は、留学生及び一部クラス分けにより事前登録した学生のクラスです。経済・経営・法・国際学部の留学生の方で英語を学修したい方は、積極的に水 2 クラス②（留学生クラス＋一般学生クラス）を履修しましょう。また、水 2 クラス①（TOEFL、一般学生＋留学生クラス、交換留学を希望する学生）は Advanced クラスとして、TOEFL を学修します。交換留学を目指す学生の方、並びに今後、TOEFL 学修をしたい方、英語力が高い留学生の方は積極的に履修ください。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①～④への取組を通して、TOEIC L&R で 500（クラスにより 600）以上、TOEFL クラスについては、Listening/SWE/Reading において B1 以上を達成する。 ①語彙力と文法力の強化 小テスト(TOEIC 頻出単語)において、毎回８０%以上の正答率を達成する。 ②TOEIC・TOEFL に対応したリスニング力の向上 TOEIC リスニングセクションで、約 60%程度の主要な情報（登場人物の行動、場面の設定、話題の概要など）を理解することができる。 ③TOEIC・TOEFL に対応したリーディング力の向上 TOEIC・TOEFL で出題される文章の形式に慣れて約 60%程度の要点を理解することができる。 ④自立的な学修 必ず目標スコアを達成するという強い目的意識を持ち、課題を着実にこなし、主体的かつ計画的に学修に取り組む。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の確認テストについてフィードバックをおこなう。課題、発表、総括テストについて、各自へのフィードバックを実施する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	当該科目は習熟度別クラスであり、テキストについては第一回目の授業並びに教科書販売リストにおいて、各クラス別に指示する。	ISBN	完全攻略！TOEFL ITP テスト模試 4 回分　改訂

	水２ クラス１・２・３ 書名：TOEIC(R) L&R テスト 至高の模試 600 問（通年使用）、著者名：ヒロ前田、出版社：ALC、出版年：2017 書名：TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック（通年使用）、著者：ETS、出版社：IIBC、出版年：2019 水２ クラス①（TOEFL、一般学生＋留学生クラス、交換留学を希望する学生） 書名：完全攻略！TOEFL ITP テスト模試４回分 改訂版（通年使用）、著者名：ワーデン，ポール他、出版社：ALC、出版年：2022 書名：完全攻略！完全攻略 TOEFL ITP(R)テストリーディング（通年使用）、著者名：田中真紀子、出版社：ALC、出版年：2016 水２ クラス②（留学生クラス＋一般学生クラス） 書名：【別冊模試・音声 DL 付】TOEIC(R) L&R テスト「直前」模試３回分（通年使用）、著者名：テッド 寺倉他、出版社：ALC、出版年： 2019		版 ISBN 9784757426221 完全攻略！完全攻略 TOEFL ITP(R)テストリーディング ISBN 9784757426702 【別冊模試・音声 DL 付】TOEIC(R) L&R テスト「直前」模試 3 回分 ISBN 9784757433540 TOEIC(R) L&R テスト 至高の模試 600 問（通年）ISBN 9784757428997 TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック（通年）ISBN 978490
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	60
	その他の内容	レビュークイズ：20% TOEIC®L＆R（TOEFL クラスは TOEIC 或いは TOEFL 試験結果）：40%
この科目の受講にあたって	授業中は、携帯電話、スマートフォン及び通信機能を持つ機器のアプリ使用は、一切禁止する（カバンの中にしまった状態）。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	授業概要、計画、成績評価についての説明。テキストの内容、学習方法の説明、また一部使用テキストが習熟度により違うため指定教材を説明する。	事後学修： ・至高の模試 TEST2 を初回授業内で説明する３回チャレンジ法の受験１回目のやり方で、時間制限内で受験する	4 時間
第２回	対面	TOEIC Part １自己学習法実践、文法：品詞の見分け復習	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙復習、Part １指定の箇所を自己学習法で練習	4 時間
第３回	対面	語彙テスト①、TOEIC Part １自己学習法実践、文法:名詞、代名詞問題	事後学修： ・語彙のテスト指定範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙復習、Part １指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第４回	対面	語彙テスト②、TOEIC Part ２自己学習法実践、文法:動詞問題	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙復習、Part２指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間

第５回	対面	語彙テスト③、TOEIC Part 2 自己学習法実践、文法：形容詞、副詞問題	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙復習、Part２指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第６回	対面	語彙テスト④、TOEIC Part 3 自己学習法実践、文法：前置詞、接続詞	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 3 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第７回	対面	語彙テスト⑤、TOEIC Part ３ 自己学習法実践、Part 5 文法問題強化	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 3 指定の箇所を自己学習法で練習、Part 5 復習	4 時間
第８回	対面	語彙テスト⑥、TOEIC Part 4 自己学習法実践、Part 5 文法問題強化	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 4 指定の箇所を自己学習法で練習、Part 5 復習	4 時間
第９回	対面	語彙テスト⑦、TOEIC Part 4 自己学習法実践、Part 6/7 読解力強化	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 4 指定の箇所を自己学習法で練習、Part 6/7 復習	4 時間
第１０回	対面	語彙テスト⑧、リスニング全般強化、 Part 6/7 読解力強化	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、リスニングセクション 指定の箇所を自己学習法で練習、Part 6/7 復習	4 時間
第１１回	対面	語彙テスト⑨、リスニング力全般強化、Part 7 速読力強化	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、リスニングセクション 指定の箇所を自己学習法で練習、Part 7 復習	4 時間
第１２回	対面	語彙テスト⑩、リスニング力全般強化、Part 7 速読力強化	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 4 指定の箇所を自己学習法で練習、Part 7 復習	4 時間
第１３回	対面	リスニングのまとめ	事後学修： ・TEST 2 リスニングセクション の総復習	4 時間
第１４回	対面	リーディングのまとめ、レビュークイズ	事後学修： ・TEST 2 リーディングセクションの総復習	4 時間
第１５回	オンデマンド	学習の総まとめ	事後学修： ・至高の模試 TEST 2 の３回チャレンジ法の受験３回目のやり方で、制限時間内で受験する、間違えた問題を復習する	4 時間

科目名	Exam Prep. IV	開講年度	2025
担当者	本多　善	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	TOEIC 或いは TOEFL 学習素材を活用して英語力を強化し、コミュニケーションに必要な英語運用力の土台を作る。		
授業の目的及び概要	本講義は、英語の 4 技能を総合的に強化し、TOEIC L&R で 500（クラスにより 600）以上、TOEFL クラスについては、Listening/SWE(Structure and Written Expression)/Reading において B1 以上を目標とする。 ・TOEIC 或いは TOEFL テスト形式の問題を解き、対策を学んで、スコアアップを図る。 ・TOEIC 或いは TOEFL スコアアップに必須となる自己学習法を修得する。 ・頻出語彙の強化のため毎回語彙テストを実施し語彙の用法や音声まで修得する。 ・本学担当教員の授業計画のもと、水 2 のクラス 2・3、水 2 のクラス①（留学生＋TOEFL クラス）・クラス②・クラス②（留学生クラス＋一般学生クラス）は、株式会社アルクの英語講師が授業を実施する。		
履修条件・留意点	この授業科目は、TOEIC®L &R、TOEFL® ITP に対応した科目であり、英語力の向上を目指す学生を対象とします。国際学部生はこれまでの TOEIC スコアを基に事前にクラス分けを実施し事前登録します。また経済・経営・法学部生も履修が可能です。1 年次の必修英語で中級クラスは水 2 クラス 1、初級クラスは水 2 クラス 2、基礎クラスは水 2 クラス 3 を推奨します。また、水 2 クラス②（留学生クラス＋一般学生クラス）は、留学生及び一部クラス分けにより事前登録した学生のクラスです。経済・経営・法・国際学部の留学生の方で英語を学修したい方は、積極的に水 2 クラス②（留学生クラス＋一般学生クラス）を履修しましょう。また、水 2 クラス①（TOEFL、一般学生＋留学生クラス、交換留学を希望する学生）は Advanced クラスとして、TOEFL を学修します。交換留学を目指す学生の方、並びに今後、TOEFL 学修をしたい方、英語力が高い留学生の方は積極的に履修ください。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①～④への取組を通して、TOEIC L&R で 500（クラスにより 600）以上、TOEFL クラスについては、Listening/SWE/Reading において B1 以上を達成する。 ①語彙力と文法力の強化 小テスト(TOEIC 頻出単語)において、毎回８０%以上の正答率を達成する。 ②TOEIC・TOEFL に対応したリスニング力の向上 TOEIC リスニングセクションで、約 60%程度の主要な情報（登場人物の行動、場面の設定、話題の概要など）を理解することができる。 ③TOEIC・TOEFL に対応したリーディング力の向上 TOEIC・TOEFL で出題される文章の形式に慣れて約 60%程度の要点を理解することができる。 ④自立的な学修 必ず目標スコアを達成するという強い目的意識を持ち、課題を着実にこなし、主体的かつ計画的に学修に取り組む。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の確認テストについてフィードバックをおこなう。課題、発表、総括テストについて、各自へのフィードバックを実施する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	当該科目は習熟度別クラスであり、テキストについては第一回目の授業並びに教科書販売リストにおいて、各クラス別に指示する。	ISBN	完全攻略！TOEFL ITP テスト模試 4 回分　改訂

	水２ クラス１・２・３ 書名：TOEIC(R) L&R テスト 至高の模試 600 問（通年使用）、著者名：ヒロ前田、出版社：ALC、出版年：2017 書名：TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック（通年使用）、著者：ETS、出版社：IIBC、出版年：2019 水２ クラス①（TOEFL、一般学生＋留学生クラス、交換留学を希望する学生） 書名：完全攻略！TOEFL ITP テスト模試４回分 改訂版（通年使用）、著者名：ワーデン，ポール他、出版社：ALC、出版年：2022 書名：完全攻略！完全攻略 TOEFL ITP(R)テストリーディング（通年使用）、著者名：田中真紀子、出版社：ALC、出版年：2016 水２ クラス②（留学生クラス＋一般学生クラス） 書名：【別冊模試・音声 DL 付】TOEIC(R) L&R テスト「直前」模試３回分（通年使用）、著者名：テッド 寺倉他、出版社：ALC、出版年： 2019		版 ISBN 9784757426221 完全攻略！完全攻略 TOEFL ITP(R)テストリーディング ISBN 9784757426702 【別冊模試・音声 DL 付】TOEIC(R) L&R テスト「直前」模試 3 回分 ISBN 9784757433540 TOEIC(R) L&R テスト 至高の模試 600 問（通年）ISBN 9784757428997 TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック（通年）ISBN 978490
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	60
	その他の内容	レビュークイズ：20% TOEIC®L＆R（TOEFL クラスは TOEIC 或いは TOEFL 試験結果）：40%
この科目の受講にあたって	授業中は、携帯電話、スマートフォン及び通信機能を持つ機器のアプリ使用は、一切禁止する（カバンの中にしまった状態）。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	授業概要、計画、成績評価についての説明。テキストの内容、学習方法の説明、また一部使用テキストが習熟度により違うため指定教材を説明する。	事後学修： ・至高の模試 TEST2 を初回授業内で説明する３回チャレンジ法の受験１回目のやり方で、時間制限内で受験する	4 時間
第２回	対面	TOEIC Part １自己学習法実践、文法：品詞の見分け復習	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙復習、Part １指定の箇所を自己学習法で練習	4 時間
第３回	対面	語彙テスト①、TOEIC Part １自己学習法実践、文法:名詞、代名詞問題	事後学修： ・語彙のテスト指定範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙復習、Part １指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第４回	対面	語彙テスト②、TOEIC Part ２自己学習法実践、文法:動詞問題	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙復習、Part２指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間

第５回	対面	語彙テスト③、TOEIC Part 2 自己学習法実践、文法：形容詞、副詞問題	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙復習、Part２指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第６回	対面	語彙テスト④、TOEIC Part 3 自己学習法実践、文法：前置詞、接続詞	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 3 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第７回	対面	語彙テスト⑤、TOEIC Part ３ 自己学習法実践、Part 5 文法問題強化	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 3 指定の箇所を自己学習法で練習、Part 5 復習	4 時間
第８回	対面	語彙テスト⑥、TOEIC Part 4 自己学習法実践、Part 5 文法問題強化	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 4 指定の箇所を自己学習法で練習、Part 5 復習	4 時間
第９回	対面	語彙テスト⑦、TOEIC Part 4 自己学習法実践、Part 6/7 読解力強化	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 4 指定の箇所を自己学習法で練習、Part 6/7 復習	4 時間
第１０回	対面	語彙テスト⑧、リスニング全般強化、 Part 6/7 読解力強化	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、リスニングセクション 指定の箇所を自己学習法で練習、Part 6/7 復習	4 時間
第１１回	対面	語彙テスト⑨、リスニング力全般強化、Part 7 速読力強化	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、リスニングセクション 指定の箇所を自己学習法で練習、Part 7 復習	4 時間
第１２回	対面	語彙テスト⑩、リスニング力全般強化、Part 7 速読力強化	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 4 指定の箇所を自己学習法で練習、Part 7 復習	4 時間
第１３回	対面	リスニングのまとめ	事後学修： ・TEST 2 リスニングセクション の総復習	4 時間
第１４回	対面	リーディングのまとめ、レビュークイズ	事後学修： ・TEST 2 リーディングセクションの総復習	4 時間
第１５回	オンデマンド	学習の総まとめ	事後学修： ・至高の模試 TEST 2 の３回チャレンジ法の受験３回目のやり方で、制限時間内で受験する、間違えた問題を復習する	4 時間

科目名	Exam Prep. IV	開講年度	2025
担当者	ウェザビ・マーティン	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	TOEIC 或いは TOEFL 学習素材を活用して英語力を強化し、コミュニケーションに必要な英語運用力の土台を作る。		
授業の目的及び概要	本講義は、英語の 4 技能を総合的に強化し、TOEIC L&R で 500（クラスにより 600）以上、TOEFL クラスについては、Listening/SWE(Structure and Written Expression)/Reading において B1 以上を目標とする。 ・TOEIC 或いは TOEFL テスト形式の問題を解き、対策を学んで、スコアアップを図る。 ・TOEIC 或いは TOEFL スコアアップに必須となる自己学習法を修得する。 ・頻出語彙の強化のため毎回語彙テストを実施し語彙の用法や音声まで修得する。 ・本学担当教員の授業計画のもと、水 2 のクラス 2・3、水 2 のクラス①（留学生＋TOEFL クラス）・クラス②・クラス②（留学生クラス＋一般学生クラス）は、株式会社アルクの英語講師が授業を実施する。		
履修条件・留意点	この授業科目は、TOEIC®L &R、TOEFL® ITP に対応した科目であり、英語力の向上を目指す学生を対象とします。国際学部生はこれまでの TOEIC スコアを基に事前にクラス分けを実施し事前登録します。また経済・経営・法学部生も履修が可能です。1 年次の必修英語で中級クラスは水 2 クラス 1、初級クラスは水 2 クラス 2、基礎クラスは水 2 クラス 3 を推奨します。また、水 2 クラス②（留学生クラス＋一般学生クラス）は、留学生及び一部クラス分けにより事前登録した学生のクラスです。経済・経営・法・国際学部の留学生の方で英語を学修したい方は、積極的に水 2 クラス②（留学生クラス＋一般学生クラス）を履修しましょう。また、水 2 クラス①（TOEFL、一般学生＋留学生クラス、交換留学を希望する学生）は Advanced クラスとして、TOEFL を学修します。交換留学を目指す学生の方、並びに今後、TOEFL 学修をしたい方、英語力が高い留学生の方は積極的に履修ください。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①～④への取組を通して、TOEIC L&R で 500（クラスにより 600）以上、TOEFL クラスについては、Listening/SWE/Reading において B1 以上を達成する。 ①語彙力と文法力の強化 小テスト(TOEIC 頻出単語)において、毎回８０％以上の正答率を達成する。 ②TOEIC・TOEFL に対応したリスニング力の向上 TOEIC リスニングセクションで、約 60%程度の主要な情報（登場人物の行動、場面の設定、話題の概要など）を理解することができる。 ③TOEIC・TOEFL に対応したリーディング力の向上 TOEIC・TOEFL で出題される文章の形式に慣れて約 60%程度の要点を理解することができる。 ④自立的な学修 必ず目標スコアを達成するという強い目的意識を持ち、課題を着実にこなし、主体的かつ計画的に学修に取り組む。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の確認テストについてフィードバックをおこなう。課題、発表、総括テストについて、各自へのフィードバックを実施する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	当該科目は習熟度別クラスであり、テキストについては第一回目の授業並びに教科書販売リストにおいて、各クラス別に指示する。	ISBN	完全攻略！TOEFL ITP テスト模試 4 回分　改訂

	水２ クラス１・２・３ 書名：TOEIC(R) L&R テスト 至高の模試 600 問（通年使用）、著者名：ヒロ前田、出版社：ALC、出版年：2017 書名：TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック（通年使用）、著者：ETS、出版社：IIBC、出版年：2019 水２ クラス①（TOEFL、一般学生＋留学生クラス、交換留学を希望する学生） 書名：完全攻略！TOEFL ITP テスト模試４回分 改訂版（通年使用）、著者名：ワーデン，ポール他、出版社：ALC、出版年：2022 書名：完全攻略！完全攻略 TOEFL ITP(R)テストリーディング（通年使用）、著者名：田中真紀子、出版社：ALC、出版年：2016 水２ クラス②（留学生クラス＋一般学生クラス） 書名：【別冊模試・音声 DL 付】TOEIC(R) L&R テスト「直前」模試３回分（通年使用）、著者名：テッド 寺倉他、出版社：ALC、出版年： 2019		版 ISBN 9784757426221 完全攻略！完全攻略 TOEFL ITP(R)テストリーディング ISBN 9784757426702 【別冊模試・音声 DL 付】TOEIC(R) L&R テスト「直前」模試 3 回分 ISBN 9784757433540 TOEIC(R) L&R テスト 至高の模試 600 問（通年）ISBN 9784757428997 TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック（通年）ISBN 978490
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	60
	その他の内容	レビュークイズ：20% TOEIC®L＆R（TOEFL クラスは TOEIC 或いは TOEFL 試験結果）：40%
この科目の受講にあたって	授業中は、携帯電話、スマートフォン及び通信機能を持つ機器のアプリ使用は、一切禁止する（カバンの中にしまった状態）。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	授業概要、計画、成績評価についての説明。テキストの内容、学習方法の説明、また一部使用テキストが習熟度により違うため指定教材を説明する。	事後学修： ・至高の模試 TEST2 を初回授業内で説明する３回チャレンジ法の受験１回目のやり方で、時間制限内で受験する	4 時間
第２回	対面	TOEIC Part １自己学習法実践、文法：品詞の見分け復習	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙復習、Part １指定の箇所を自己学習法で練習	4 時間
第３回	対面	語彙テスト①、TOEIC Part １自己学習法実践、文法:名詞、代名詞問題	事後学修： ・語彙のテスト指定範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙復習、Part １指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第４回	対面	語彙テスト②、TOEIC Part ２自己学習法実践、文法:動詞問題	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙復習、Part２指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間

第５回	対面	語彙テスト③、TOEIC Part 2 自己学習法実践、文法：形容詞、副詞問題	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙復習、Part２指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第６回	対面	語彙テスト④、TOEIC Part 3 自己学習法実践、文法：前置詞、接続詞	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 3 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第７回	対面	語彙テスト⑤、TOEIC Part ３ 自己学習法実践、Part 5 文法問題強化	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 3 指定の箇所を自己学習法で練習、Part 5 復習	4 時間
第８回	対面	語彙テスト⑥、TOEIC Part 4 自己学習法実践、Part 5 文法問題強化	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 4 指定の箇所を自己学習法で練習、Part 5 復習	4 時間
第９回	対面	語彙テスト⑦、TOEIC Part 4 自己学習法実践、Part 6/7 読解力強化	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 4 指定の箇所を自己学習法で練習、Part 6/7 復習	4 時間
第１０回	対面	語彙テスト⑧、リスニング全般強化、 Part 6/7 読解力強化	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、リスニングセクション 指定の箇所を自己学習法で練習、Part 6/7 復習	4 時間
第１１回	対面	語彙テスト⑨、リスニング力全般強化、Part 7 速読力強化	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、リスニングセクション 指定の箇所を自己学習法で練習、Part 7 復習	4 時間
第１２回	対面	語彙テスト⑩、リスニング力全般強化、Part 7 速読力強化	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 4 指定の箇所を自己学習法で練習、Part 7 復習	4 時間
第１３回	対面	リスニングのまとめ	事後学修： ・TEST 2 リスニングセクション の総復習	4 時間
第１４回	対面	リーディングのまとめ、レビュークイズ	事後学修： ・TEST 2 リーディングセクションの総復習	4 時間
第１５回	オンデマンド	学習の総まとめ	事後学修： ・至高の模試 TEST 2 の３回チャレンジ法の受験３回目のやり方で、制限時間内で受験する、間違えた問題を復習する	4 時間

科目名	Exam Prep. IV	開講年度	2025
担当者	本多　善	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	TOEIC 或いは TOEFL 学習素材を活用して英語力を強化し、コミュニケーションに必要な英語運用力の土台を作る。		
授業の目的及び概要	本講義は、英語の 4 技能を総合的に強化し、TOEIC L&R で 500（クラスにより 600）以上、TOEFL クラスについては、Listening/SWE(Structure and Written Expression)/Reading において B1 以上を目標とする。 ・TOEIC 或いは TOEFL テスト形式の問題を解き、対策を学んで、スコアアップを図る。 ・TOEIC 或いは TOEFL スコアアップに必須となる自己学習法を修得する。 ・頻出語彙の強化のため毎回語彙テストを実施し語彙の用法や音声まで修得する。 ・本学担当教員の授業計画のもと、水 2 のクラス 2・3、水 2 のクラス①（留学生＋TOEFL クラス）・クラス②・クラス②（留学生クラス＋一般学生クラス）は、株式会社アルクの英語講師が授業を実施する。		
履修条件・留意点	この授業科目は、TOEIC®L &R、TOEFL® ITP に対応した科目であり、英語力の向上を目指す学生を対象とします。国際学部生はこれまでの TOEIC スコアを基に事前にクラス分けを実施し事前登録します。また経済・経営・法学部生も履修が可能です。1 年次の必修英語で中級クラスは水 2 クラス 1、初級クラスは水 2 クラス 2、基礎クラスは水 2 クラス 3 を推奨します。また、水 2 クラス②（留学生クラス＋一般学生クラス）は、留学生及び一部クラス分けにより事前登録した学生のクラスです。経済・経営・法・国際学部の留学生の方で英語を学修したい方は、積極的に水 2 クラス②（留学生クラス＋一般学生クラス）を履修しましょう。また、水 2 クラス①（TOEFL、一般学生＋留学生クラス、交換留学を希望する学生）は Advanced クラスとして、TOEFL を学修します。交換留学を目指す学生の方、並びに今後、TOEFL 学修をしたい方、英語力が高い留学生の方は積極的に履修ください。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①～④への取組を通して、TOEIC L&R で 500（クラスにより 600）以上、TOEFL クラスについては、Listening/SWE/Reading において B1 以上を達成する。 ①語彙力と文法力の強化 小テスト(TOEIC 頻出単語)において、毎回８０%以上の正答率を達成する。 ②TOEIC・TOEFL に対応したリスニング力の向上 TOEIC リスニングセクションで、約 60%程度の主要な情報（登場人物の行動、場面の設定、話題の概要など）を理解することができる。 ③TOEIC・TOEFL に対応したリーディング力の向上 TOEIC・TOEFL で出題される文章の形式に慣れて約 60%程度の要点を理解することができる。 ④自立的な学修 必ず目標スコアを達成するという強い目的意識を持ち、課題を着実にこなし、主体的かつ計画的に学修に取り組む。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の確認テストについてフィードバックをおこなう。課題、発表、総括テストについて、各自へのフィードバックを実施する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	当該科目は習熟度別クラスであり、テキストについては第一回目の授業並びに教科書販売リストにおいて、各クラス別に指示する。	ISBN	完全攻略！TOEFL ITP テスト模試 4 回分　改訂

	水２ クラス１・２・３ 書名：TOEIC(R) L&R テスト 至高の模試 600 問（通年使用）、著者名：ヒロ前田、出版社：ALC、出版年：2017 書名：TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック（通年使用）、著者：ETS、出版社：IIBC、出版年：2019 水２ クラス①（TOEFL、一般学生＋留学生クラス、交換留学を希望する学生） 書名：完全攻略！TOEFL ITP テスト模試４回分 改訂版（通年使用）、著者名：ワーデン，ポール他、出版社：ALC、出版年：2022 書名：完全攻略！完全攻略 TOEFL ITP(R)テストリーディング（通年使用）、著者名：田中真紀子、出版社：ALC、出版年：2016 水２ クラス②（留学生クラス＋一般学生クラス） 書名：【別冊模試・音声 DL 付】TOEIC(R) L&R テスト「直前」模試３回分（通年使用）、著者名：テッド 寺倉他、出版社：ALC、出版年： 2019		版 ISBN 9784757426221 完全攻略！完全攻略 TOEFL ITP(R)テストリーディング ISBN 9784757426702 【別冊模試・音声 DL 付】TOEIC(R) L&R テスト「直前」模試 3 回分 ISBN 9784757433540 TOEIC(R) L&R テスト 至高の模試 600 問（通年）ISBN 9784757428997 TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック（通年）ISBN 978490
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	60
	その他の内容	レビュークイズ：20% TOEIC®L＆R（TOEFL クラスは TOEIC 或いは TOEFL 試験結果）：40%
この科目の受講にあたって	授業中は、携帯電話、スマートフォン及び通信機能を持つ機器のアプリ使用は、一切禁止する（カバンの中にしまった状態）。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	授業概要、計画、成績評価についての説明。テキストの内容、学習方法の説明、また一部使用テキストが習熟度により違うため指定教材を説明する。	事後学修： ・至高の模試 TEST2 を初回授業内で説明する３回チャレンジ法の受験１回目のやり方で、時間制限内で受験する	4 時間
第２回	対面	TOEIC Part １自己学習法実践、文法：品詞の見分け復習	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙復習、Part １指定の箇所を自己学習法で練習	4 時間
第３回	対面	語彙テスト①、TOEIC Part １自己学習法実践、文法:名詞、代名詞問題	事後学修： ・語彙のテスト指定範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙復習、Part １指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第４回	対面	語彙テスト②、TOEIC Part ２自己学習法実践、文法:動詞問題	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙復習、Part２指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間

第５回	対面	語彙テスト③、TOEIC Part 2 自己学習法実践、文法：形容詞、副詞問題	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙復習、Part２指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第６回	対面	語彙テスト④、TOEIC Part 3 自己学習法実践、文法：前置詞、接続詞	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 3 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第７回	対面	語彙テスト⑤、TOEIC Part ３ 自己学習法実践、Part 5 文法問題強化	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 3 指定の箇所を自己学習法で練習、Part 5 復習	4 時間
第８回	対面	語彙テスト⑥、TOEIC Part 4 自己学習法実践、Part 5 文法問題強化	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 4 指定の箇所を自己学習法で練習、Part 5 復習	4 時間
第９回	対面	語彙テスト⑦、TOEIC Part 4 自己学習法実践、Part 6/7 読解力強化	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 4 指定の箇所を自己学習法で練習、Part 6/7 復習	4 時間
第１０回	対面	語彙テスト⑧、リスニング全般強化、 Part 6/7 読解力強化	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、リスニングセクション 指定の箇所を自己学習法で練習、Part 6/7 復習	4 時間
第１１回	対面	語彙テスト⑨、リスニング力全般強化、Part 7 速読力強化	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、リスニングセクション 指定の箇所を自己学習法で練習、Part 7 復習	4 時間
第１２回	対面	語彙テスト⑩、リスニング力全般強化、Part 7 速読力強化	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 4 指定の箇所を自己学習法で練習、Part 7 復習	4 時間
第１３回	対面	リスニングのまとめ	事後学修： ・TEST 2 リスニングセクション の総復習	4 時間
第１４回	対面	リーディングのまとめ、レビュークイズ	事後学修： ・TEST 2 リーディングセクションの総復習	4 時間
第１５回	オンデマンド	学習の総まとめ	事後学修： ・至高の模試 TEST 2 の３回チャレンジ法の受験３回目のやり方で、制限時間内で受験する、間違えた問題を復習する	4 時間

科目名	Exam Prep. Ⅴ	開講年度	2025
担当者	三戸　康世	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語運用能力の基礎を固め、TOEIC®L&R のスコアの向上を目指す。		
授業の目的及び概要	本科目は、英語 4 技能を総合的に強化し、TOEIC® L&R テストで 550 点以上のスコア取得を目標とします。授業では、スコア向上に不可欠な語彙や文法事項を着実に定着させるとともに、読解力・聴解力を重点的に強化します。さらに、ライティングやスピーキングなどのアウトプット練習を通して、実践的な英語運用能力を養います。		
履修条件・留意点	＜国際学部生＞受講生の過去の TOEIC L&R スコアを基にクラス分けを行い、事前登録を行います。習熟度別クラスとなっているため、事前登録がなく本項目の履修を希望する学生は下記の TOEIC スコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。 ＜経済・経営・法学部生＞ 各クラス数名程度の枠内で履修登録が可能です。本項目の履修希望する学生は、下記の TOEIC スコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。 ◆クラス分け：TOEIC スコアの目安 クラス１：TOEIC 500 点以上 クラス２：TOEIC 400 点以上 クラス３：TOEIC 350 点以上 クラス４：TOEIC 350 点未満		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①～④への取り組みを通じて、TOEIC L&R スコア５５０点以上を目指す。 ①語彙力と文法力の強化 小テスト(TOEIC 頻出単語)において、毎回８０％以上の正答率を達成する。 ②TOEIC に対応したリスニング力の向上 TOEIC リスニングセクション（Part 1-4）を通じて、話題の概要や主要なポイントを確実に捉えた上で、そのうち約 70%程度の詳細情報（登場人物同士の関係性、会話の背景、解決策や提案事項など）を的確に理解し、複雑なやり取りやスピーチからも大意を逃さず把握できる。 ③TOEIC に対応したリーディング力の向上 TOEIC で出題されるビジネス文書（広告や E メール、簡易な報告書など）の形式に慣れ、比較的短めの文書（シングルパッセージ）の趣旨や要点を把握した上で、そのうち約 60%程度の詳細情報（依頼内容、背景にある状況、重要なキーワードや条件）を的確に読み取れるようにします。 ④自律的な学修 必ず目標スコアを達成するという強い目的意識を持ち、課題を確実にこなし、主体的かつ計画的に学習に取り組む。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストの結果及び課題の提出状況について各自へのフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、キャリアコンサルタントや米国 CCE 認定グローバルキャリア開発ファシリテーターの資格を有しており、これまでに海外の法律事務所で翻訳・通訳や国内の民間企業でキャリア教育コーディネーター等の業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	クラス１～４共通 TOEIC® L&R TEST への総合アプローチ －Intermediate－吉塚　弘 / Graham Skerritt / Michael Schauerte 共著出版社：成美堂	ISBN	9784791972531

参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	0	
	その他の内容	統括テスト(各学期に実施される TOEIC IP)：40	
この科目の受講にあたって	本科目の受講生は、TOEIC スコアの向上および自身が設定する目標の達成に向けて、毎週約 4 時間程度の自学修（授業内容の復習、小テスト、課題への取り組みおよび予習）を行うことが求められます。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	授業概要・課題説明 目標スコア到達に必要な TOEIC 学習法ガイダンス 本科目は習熟度別クラスで構成され、クラスごとに学修範囲が異なります。そのため、具体的な授業計画や学修方法については、初回授業で各クラスに応じて説明します。本シラバスに記載した内容は、あくまで全クラスに共通するおおよその概要です。	事後学修： ・語彙、文法、読解、リスニングの予習（4 時間程度）	4 時間
第２回	対面	Listening Part 2　疑問詞を使った疑問文	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第３回	対面	Listening Part 3 日常場面での会話	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第４回	対面	Listening Part 4 アナウンス・ツアー	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第５回	対面	Listening Section 総合演習	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間
第６回	対面	TOEIC Mini Quiz Feedback of the Quiz	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第７回	対面	Reading Part 5 文法語彙語法問題	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第８回	対面	Reading Part 5 総合演習	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第９回	対面	Reading Part 6 総合演習	事後学修：	4 時間

			語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	
第１０回	対面	Reading　Part 7 広告・社内文書	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間
第１１回	対面	TOEIC Mini Quiz Feedback of the Quiz	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） 次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第１２回	対面	Reading Part 7 手紙・メール・チャット問題	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第１３回	対面	Reading Part 7 ダブルパッセージ･トリプルパッセージ対策	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第１４回	対面	Reading Section 総合演習	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間
第１５回	オンデマンド	TOEIC Mini Test Review	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（4 時間程度）	4 時間

科目名	Exam Prep. Ⅴ	開講年度	2025
担当者	鳥居　佳世	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語運用能力の基礎を固め、TOEIC®L&R のスコアの向上を目指す。		
授業の目的及び概要	本科目は、英語 4 技能を総合的に強化し、TOEIC® L&R テストで 550 点以上のスコア取得を目標とします。授業では、スコア向上に不可欠な語彙や文法事項を着実に定着させるとともに、読解力・聴解力を重点的に強化します。さらに、ライティングやスピーキングなどのアウトプット練習を通して、実践的な英語運用能力を養います。		
履修条件・留意点	＜国際学部生＞受講生の過去の TOEIC L&R スコアを基にクラス分けを行い、事前登録を行います。習熟度別クラスとなっているため、事前登録がなく本項目の履修を希望する学生は下記の TOEIC スコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。 ＜経済・経営・法学部生＞ 各クラス数名程度の枠内で履修登録が可能です。本項目の履修希望する学生は、下記の TOEIC スコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。 ◆クラス分け：TOEIC スコアの目安 クラス１：TOEIC 500 点以上 クラス２：TOEIC 400 点以上 クラス３：TOEIC 350 点以上 クラス４：TOEIC 350 点未満		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①～④への取り組みを通じて、TOEIC L&R スコア５５０点以上を目指す。 ①語彙力と文法力の強化 小テスト(TOEIC 頻出単語)において、毎回８０％以上の正答率を達成する。 ②TOEIC に対応したリスニング力の向上 TOEIC リスニングセクション（Part 1-4）を通じて、話題の概要や主要なポイントを確実に捉えた上で、そのうち約 70%程度の詳細情報（登場人物同士の関係性、会話の背景、解決策や提案事項など）を的確に理解し、複雑なやり取りやスピーチからも大意を逃さず把握できる。 ③TOEIC に対応したリーディング力の向上 TOEIC で出題されるビジネス文書（広告や E メール、簡易な報告書など）の形式に慣れ、比較的短めの文書（シングルパッセージ）の趣旨や要点を把握した上で、そのうち約 60%程度の詳細情報（依頼内容、背景にある状況、重要なキーワードや条件）を的確に読み取れるようにします。 ④自律的な学修 必ず目標スコアを達成するという強い目的意識を持ち、課題を確実にこなし、主体的かつ計画的に学習に取り組む。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストの結果及び課題の提出状況について各自へのフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラス１～４共通 TOEIC® L&R TEST への総合アプローチ －Intermediate－吉塚　弘 / Graham Skerritt / Michael Schauerte 共著出版社：成美堂	ISBN	9784791972531
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	統括テスト(各学期に実施される TOEIC IP)：40
この科目の受講にあたって	本科目の受講生は、TOEIC スコアの向上および自身が設定する目標の達成に向けて、毎週約 4 時間程度の自学修（授業内容の復習、小テスト、課題への取り組みおよび予習）を行うことが求められます。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業概要・課題説明 目標スコア到達に必要な TOEIC 学習法ガイダンス 本科目は習熟度別クラスで構成され、クラスごとに学修範囲が異なります。そのため、具体的な授業計画や学修方法については、初回授業で各クラスに応じて説明します。本シラバスに記載した内容は、あくまで全クラスに共通するおおよその概要です。	事後学修： ・語彙、文法、読解、リスニングの予習（4 時間程度）	4 時間
第2回	対面	Listening Part 2　疑問詞を使った疑問文	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第3回	対面	Listening Part 3 日常場面での会話	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第4回	対面	Listening Part 4 アナウンス・ツアー	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第5回	対面	Listening Section 総合演習	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間
第6回	対面	TOEIC Mini Quiz Feedback of the Quiz	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第7回	対面	Reading Part 5 文法語彙語法問題	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第8回	対面	Reading Part 5 総合演習	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第9回	対面	Reading Part 6 総合演習	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2	4 時間

			時間程度）	
第１０回	対面	Reading　Part 7 広告・社内文書	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間
第１１回	対面	TOEIC Mini Quiz Feedback of the Quiz	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） 次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第１２回	対面	Reading Part 7 手紙・メール・チャット問題	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第１３回	対面	Reading Part 7 ダブルパッセージ･トリプルパッセージ対策	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第１４回	対面	Reading Section 総合演習	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間
第１５回	オンデマンド	TOEIC Mini Test Review	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（4 時間程度）	4 時間

科目名	Exam Prep. Ⅴ	開講年度	2025
担当者	三戸　康世	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語運用能力の基礎を固め、TOEIC®L&R のスコアの向上を目指す。		
授業の目的及び概要	本科目は、英語 4 技能を総合的に強化し、TOEIC® L&R テストで 550 点以上のスコア取得を目標とします。授業では、スコア向上に不可欠な語彙や文法事項を着実に定着させるとともに、読解力・聴解力を重点的に強化します。さらに、ライティングやスピーキングなどのアウトプット練習を通して、実践的な英語運用能力を養います。		
履修条件・留意点	＜国際学部生＞受講生の過去の TOEIC L&R スコアを基にクラス分けを行い、事前登録を行います。習熟度別クラスとなっているため、事前登録がなく本項目の履修を希望する学生は下記の TOEIC スコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。 ＜経済・経営・法学部生＞ 各クラス数名程度の枠内で履修登録が可能です。本項目の履修希望する学生は、下記の TOEIC スコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。 ◆クラス分け：TOEIC スコアの目安 クラス１：TOEIC 500 点以上 クラス２：TOEIC 400 点以上 クラス３：TOEIC 350 点以上 クラス４：TOEIC 350 点未満		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①～④への取り組みを通じて、TOEIC L&R スコア５５０点以上を目指す。 ①語彙力と文法力の強化 小テスト(TOEIC 頻出単語)において、毎回８０％以上の正答率を達成する。 ②TOEIC に対応したリスニング力の向上 TOEIC リスニングセクション（Part 1-4）を通じて、話題の概要や主要なポイントを確実に捉えた上で、そのうち約 70%程度の詳細情報（登場人物同士の関係性、会話の背景、解決策や提案事項など）を的確に理解し、複雑なやり取りやスピーチからも大意を逃さず把握できる。 ③TOEIC に対応したリーディング力の向上 TOEIC で出題されるビジネス文書（広告や E メール、簡易な報告書など）の形式に慣れ、比較的短めの文書（シングルパッセージ）の趣旨や要点を把握した上で、そのうち約 60%程度の詳細情報（依頼内容、背景にある状況、重要なキーワードや条件）を的確に読み取れるようにします。 ④自律的な学修 必ず目標スコアを達成するという強い目的意識を持ち、課題を確実にこなし、主体的かつ計画的に学習に取り組む。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストの結果及び課題の提出状況について各自へのフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、キャリアコンサルタントや米国 CCE 認定グローバルキャリア開発ファシリテーターの資格を有しており、これまでに海外の法律事務所で翻訳・通訳や国内の民間企業でキャリア教育コーディネーター等の業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	クラス１～４共通 TOEIC® L&R TEST への総合アプローチ －Intermediate－吉塚　弘 / Graham Skerritt / Michael Schauerte 共著出版社：成美堂	ISBN	9784791972531

参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	0	
	その他の内容	統括テスト(各学期に実施される TOEIC IP)：40	
この科目の受講にあたって	本科目の受講生は、TOEIC スコアの向上および自身が設定する目標の達成に向けて、毎週約 4 時間程度の自学修（授業内容の復習、小テスト、課題への取り組みおよび予習）を行うことが求められます。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	授業概要・課題説明 目標スコア到達に必要な TOEIC 学習法ガイダンス 本科目は習熟度別クラスで構成され、クラスごとに学修範囲が異なります。そのため、具体的な授業計画や学修方法については、初回授業で各クラスに応じて説明します。本シラバスに記載した内容は、あくまで全クラスに共通するおおよその概要です。	事後学修： ・語彙、文法、読解、リスニングの予習（4 時間程度）	4 時間
第２回	対面	Listening Part 2　疑問詞を使った疑問文	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第３回	対面	Listening Part 3 日常場面での会話	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第４回	対面	Listening Part 4 アナウンス・ツアー	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第５回	対面	Listening Section 総合演習	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間
第６回	対面	TOEIC Mini Quiz Feedback of the Quiz	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第７回	対面	Reading Part 5 文法語彙語法問題	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第８回	対面	Reading Part 5 総合演習	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第９回	対面	Reading Part 6 総合演習	事後学修：	4 時間

			語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	
第１０回	対面	Reading　Part 7 広告・社内文書	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間
第１１回	対面	TOEIC Mini Quiz Feedback of the Quiz	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） 次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第１２回	対面	Reading Part 7 手紙・メール・チャット問題	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第１３回	対面	Reading Part 7 ダブルパッセージ･トリプルパッセージ対策	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第１４回	対面	Reading Section 総合演習	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間
第１５回	オンデマンド	TOEIC Mini Test Review	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（4 時間程度）	4 時間

科目名	Exam Prep. Ⅴ	開講年度	2025
担当者	鳥居　佳世	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語運用能力の基礎を固め、TOEIC®L&R のスコアの向上を目指す。		
授業の目的及び概要	本科目は、英語 4 技能を総合的に強化し、TOEIC® L&R テストで 550 点以上のスコア取得を目標とします。授業では、スコア向上に不可欠な語彙や文法事項を着実に定着させるとともに、読解力・聴解力を重点的に強化します。さらに、ライティングやスピーキングなどのアウトプット練習を通して、実践的な英語運用能力を養います。		
履修条件・留意点	＜国際学部生＞受講生の過去の TOEIC L&R スコアを基にクラス分けを行い、事前登録を行います。習熟度別クラスとなっているため、事前登録がなく本項目の履修を希望する学生は下記の TOEIC スコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。 ＜経済・経営・法学部生＞ 各クラス数名程度の枠内で履修登録が可能です。本項目の履修希望する学生は、下記の TOEIC スコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。 ◆クラス分け：TOEIC スコアの目安 クラス１：TOEIC 500 点以上 クラス２：TOEIC 400 点以上 クラス３：TOEIC 350 点以上 クラス４：TOEIC 350 点未満		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①～④への取り組みを通じて、TOEIC L&R スコア５５０点以上を目指す。 ①語彙力と文法力の強化 小テスト(TOEIC 頻出単語)において、毎回８０％以上の正答率を達成する。 ②TOEIC に対応したリスニング力の向上 TOEIC リスニングセクション（Part 1-4）を通じて、話題の概要や主要なポイントを確実に捉えた上で、そのうち約 70%程度の詳細情報（登場人物同士の関係性、会話の背景、解決策や提案事項など）を的確に理解し、複雑なやり取りやスピーチからも大意を逃さず把握できる。 ③TOEIC に対応したリーディング力の向上 TOEIC で出題されるビジネス文書（広告や E メール、簡易な報告書など）の形式に慣れ、比較的短めの文書（シングルパッセージ）の趣旨や要点を把握した上で、そのうち約 60%程度の詳細情報（依頼内容、背景にある状況、重要なキーワードや条件）を的確に読み取れるようにします。 ④自律的な学修 必ず目標スコアを達成するという強い目的意識を持ち、課題を確実にこなし、主体的かつ計画的に学習に取り組む。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストの結果及び課題の提出状況について各自へのフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラス１～４共通 TOEIC® L&R TEST への総合アプローチ －Intermediate－吉塚　弘 / Graham Skerritt / Michael Schauerte 共著出版社：成美堂	ISBN	9784791972531
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	統括テスト(各学期に実施される TOEIC IP)：40
この科目の受講にあたって	本科目の受講生は、TOEIC スコアの向上および自身が設定する目標の達成に向けて、毎週約 4 時間程度の自学修（授業内容の復習、小テスト、課題への取り組みおよび予習）を行うことが求められます。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業概要・課題説明 目標スコア到達に必要な TOEIC 学習法ガイダンス 本科目は習熟度別クラスで構成され、クラスごとに学修範囲が異なります。そのため、具体的な授業計画や学修方法については、初回授業で各クラスに応じて説明します。本シラバスに記載した内容は、あくまで全クラスに共通するおおよその概要です。	事後学修： ・語彙、文法、読解、リスニングの予習（4 時間程度）	4 時間
第2回	対面	Listening Part 2　疑問詞を使った疑問文	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第3回	対面	Listening Part 3 日常場面での会話	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第4回	対面	Listening Part 4 アナウンス・ツアー	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第5回	対面	Listening Section 総合演習	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間
第6回	対面	TOEIC Mini Quiz Feedback of the Quiz	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第7回	対面	Reading Part 5 文法語彙語法問題	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第8回	対面	Reading Part 5 総合演習	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第9回	対面	Reading Part 6 総合演習	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2	4 時間

			時間程度）	
第１０回	対面	Reading　Part 7 広告・社内文書	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間
第１１回	対面	TOEIC Mini Quiz Feedback of the Quiz	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） 次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第１２回	対面	Reading Part 7 手紙・メール・チャット問題	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第１３回	対面	Reading Part 7 ダブルパッセージ･トリプルパッセージ対策	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第１４回	対面	Reading Section 総合演習	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間
第１５回	オンデマンド	TOEIC Mini Test Review	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（4 時間程度）	4 時間

科目名	Exam Prep. VI	開講年度	2025
担当者	三戸　康世	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語運用能力の基礎を固め、TOEIC®L&R のスコアの向上を目指す。		
授業の目的及び概要	本科目は、英語 4 技能を総合的に強化し、TOEIC® L&R テストで 600 点以上のスコア取得を目標とします。授業では、スコア向上に不可欠な語彙や文法事項を着実に定着させるとともに、読解力・聴解力を重点的に強化します。さらに、ライティングやスピーキングなどのアウトプット練習を通して、実践的な英語運用能力を養います。		
履修条件・留意点	＜国際学部生＞受講生の過去の TOEIC L&R スコアを基にクラス分けを行い、事前登録を行います。習熟度別クラスとなっているため、事前登録がなく本項目の履修を希望する学生は下記の TOEIC スコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。 ＜経済・経営・法学部生＞ 各クラス数名程度の枠内で履修登録が可能です。本項目の履修希望する学生は、下記の TOEIC スコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。 ◆クラス分け：TOEIC スコアの目安 クラス１：TOEIC 500 点以上 クラス２：TOEIC 400 点以上 クラス３：TOEIC 350 点以上 クラス４：TOEIC 350 点未満		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①～④への取り組みを通じて、TOEIC L&R スコア 600 点以上を目指す。 ①語彙力と文法力の強化 小テスト(TOEIC 頻出単語)において、毎回８０％以上の正答率を達成する。 ②TOEIC に対応したリスニング力の向上 TOEIC リスニングセクション（Part 1-4）を通じて、話題の概要や主要なポイントを確実に捉えた上で、そのうち約 70%程度の詳細情報（登場人物同士の関係性、会話の背景、解決策や提案事項など）を的確に理解し、複雑なやり取りやスピーチからも大意を逃さず把握できる。 ③TOEIC に対応したリーディング力の向上 TOEIC で出題されるビジネス文書（広告、E メール、ビジネス通知、簡易なレポートなど）の形式に慣れ、比較的長めのシングルパッセージや短めのダブルパッセージにおいて、趣旨や要点を把握した上で、そのうち約 70%程度の詳細情報（細かな条件、登場人物や組織の役割、示唆される背景事情）を正しく読み取れるようにします。 ④自律的な学修 必ず目標スコアを達成するという強い目的意識を持ち、課題を確実にこなし、主体的かつ計画的に学習に取り組む。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストの結果及び課題の提出状況について各自へのフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、キャリアコンサルタントや米国 CCE 認定グローバルキャリア開発ファシリテーターの資格を有しており、これまでに海外の法律事務所で翻訳・通訳や国内の民間企業でキャリア教育コーディネーター等の業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	クラス１～４共通 TOEIC® L&R TEST 600 点への徹底演習 COMPREHENSIVE PRACTICE FOR THE TOEIC® L&R TEST Jonathan Lynch / 委文　光太郎 共著	ISBN	9784791973149

	出版社：成美堂		
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	0	
	その他の内容	統括テスト(各学期に実施される TOEIC IP)：40	
この科目の受講にあたって	本科目の受講生は、TOEIC スコアの向上および自身が設定する目標の達成に向けて、毎週約 4 時間程度の自学修（授業内容の復習、小テスト、課題への取り組みおよび予習）を行うことが求められます。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	授業概要・課題説明 目標スコア到達に必要な TOEIC 学習法ガイダンス 本科目は習熟度別クラスで構成され、クラスごとに学修範囲が異なります。そのため、具体的な授業計画や学修方法については、初回授業で各クラスに応じて説明します。本シラバスに記載した内容は、あくまで全クラスに共通するおおよその概要です。	事後学修： ・語彙、文法、読解、リスニングの予習（4 時間程度）	4 時間
第２回	対面	Listening Part 2　疑問詞を使った疑問文	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第３回	対面	Listening Part 3 日常場面での会話	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第４回	対面	Listening Part 4 アナウンス・ツアー	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第５回	対面	Listening Section 総合演習	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間
第６回	対面	TOEIC Mini Quiz Feedback of the Quiz	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第７回	対面	Reading Part 5 文法語彙語法問題	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第８回	対面	Reading Part 5 総合演習	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間

第９回	対面	Reading Part 6 総合演習	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第１０回	対面	Reading　Part 7 広告・社内文書	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間
第１１回	対面	TOEIC Mini Quiz Feedback of the Quiz	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） 次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第１２回	対面	Reading Part 7 手紙・メール・チャット問題	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第１３回	対面	Reading Part 7 ダブルパッセージ･トリプルパッセージ対策	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第１４回	対面	Reading Section 総合演習	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間
第１５回	オンデマンド	TOEIC Mini Test Review	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（4 時間程度）	4 時間

科目名	Exam Prep. VI	開講年度	2025
担当者	鳥居　佳世	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語運用能力の基礎を固め、TOEIC®L&R のスコアの向上を目指す。		
授業の目的及び概要	本科目は、英語 4 技能を総合的に強化し、TOEIC® L&R テストで 600 点以上のスコア取得を目標とします。授業では、スコア向上に不可欠な語彙や文法事項を着実に定着させるとともに、読解力・聴解力を重点的に強化します。さらに、ライティングやスピーキングなどのアウトプット練習を通して、実践的な英語運用能力を養います。		
履修条件・留意点	＜国際学部生＞受講生の過去の TOEIC L&R スコアを基にクラス分けを行い、事前登録を行います。習熟度別クラスとなっているため、事前登録がなく本項目の履修を希望する学生は下記の TOEIC スコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。 ＜経済・経営・法学部生＞ 各クラス数名程度の枠内で履修登録が可能です。本項目の履修希望する学生は、下記の TOEIC スコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。 ◆クラス分け：TOEIC スコアの目安 クラス１：TOEIC 500 点以上 クラス２：TOEIC 400 点以上 クラス３：TOEIC 350 点以上 クラス４：TOEIC 350 点未満		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①～④への取り組みを通じて、TOEIC L&R スコア 600 点以上を目指す。 ①語彙力と文法力の強化 小テスト(TOEIC 頻出単語)において、毎回８０％以上の正答率を達成する。 ②TOEIC に対応したリスニング力の向上 TOEIC リスニングセクション（Part 1-4）を通じて、話題の概要や主要なポイントを確実に捉えた上で、そのうち約 70%程度の詳細情報（登場人物同士の関係性、会話の背景、解決策や提案事項など）を的確に理解し、複雑なやり取りやスピーチからも大意を逃さず把握できる。 ③TOEIC に対応したリーディング力の向上 TOEIC で出題されるビジネス文書（広告、E メール、ビジネス通知、簡易なレポートなど）の形式に慣れ、比較的長めのシングルパッセージや短めのダブルパッセージにおいて、趣旨や要点を把握した上で、そのうち約 70%程度の詳細情報（細かな条件、登場人物や組織の役割、示唆される背景事情）を正しく読み取れるようにします。 ④自律的な学修 必ず目標スコアを達成するという強い目的意識を持ち、課題を確実にこなし、主体的かつ計画的に学習に取り組む。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストの結果及び課題の提出状況について各自へのフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラス１～４共通 TOEIC® L&R TEST 600 点への徹底演習 COMPREHENSIVE PRACTICE FOR THE TOEIC® L&R TEST Jonathan Lynch / 委文　光太郎 共著 出版社：成美堂	ISBN	9784791973149

参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	0	
	その他の内容	統括テスト(各学期に実施される TOEIC IP)：40	
この科目の受講にあたって	本科目の受講生は、TOEIC スコアの向上および自身が設定する目標の達成に向けて、毎週約 4 時間程度の自学修（授業内容の復習、小テスト、課題への取り組みおよび予習）を行うことが求められます。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	授業概要・課題説明 目標スコア到達に必要な TOEIC 学習法ガイダンス 本科目は習熟度別クラスで構成され、クラスごとに学修範囲が異なります。そのため、具体的な授業計画や学修方法については、初回授業で各クラスに応じて説明します。本シラバスに記載した内容は、あくまで全クラスに共通するおおよその概要です。	事後学修： ・語彙、文法、読解、リスニングの予習（4 時間程度）	4 時間
第２回	対面	Listening Part 2　疑問詞を使った疑問文	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第３回	対面	Listening Part 3 日常場面での会話	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第４回	対面	Listening Part 4 アナウンス・ツアー	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第５回	対面	Listening Section 総合演習	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間
第６回	対面	TOEIC Mini Quiz Feedback of the Quiz	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第７回	対面	Reading Part 5 文法語彙語法問題	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第８回	対面	Reading Part 5 総合演習	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第９回	対面	Reading Part 6 総合演習	事後学修：	4 時間

			語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	
第１０回	対面	Reading　Part 7 広告・社内文書	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間
第１１回	対面	TOEIC Mini Quiz Feedback of the Quiz	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） 次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第１２回	対面	Reading Part 7 手紙・メール・チャット問題	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第１３回	対面	Reading Part 7 ダブルパッセージ･トリプルパッセージ対策	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第１４回	対面	Reading Section 総合演習	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間
第１５回	オンデマンド	TOEIC Mini Test Review	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（4 時間程度）	4 時間

科目名	Exam Prep. VI	開講年度	2025
担当者	三戸　康世	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語運用能力の基礎を固め、TOEIC®L&R のスコアの向上を目指す。		
授業の目的及び概要	本科目は、英語 4 技能を総合的に強化し、TOEIC® L&R テストで 600 点以上のスコア取得を目標とします。授業では、スコア向上に不可欠な語彙や文法事項を着実に定着させるとともに、読解力・聴解力を重点的に強化します。さらに、ライティングやスピーキングなどのアウトプット練習を通して、実践的な英語運用能力を養います。		
履修条件・留意点	＜国際学部生＞受講生の過去の TOEIC L&R スコアを基にクラス分けを行い、事前登録を行います。習熟度別クラスとなっているため、事前登録がなく本項目の履修を希望する学生は下記の TOEIC スコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。 ＜経済・経営・法学部生＞ 各クラス数名程度の枠内で履修登録が可能です。本項目の履修希望する学生は、下記の TOEIC スコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。 ◆クラス分け：TOEIC スコアの目安 クラス１：TOEIC 500 点以上 クラス２：TOEIC 400 点以上 クラス３：TOEIC 350 点以上 クラス４：TOEIC 350 点未満		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①～④への取り組みを通じて、TOEIC L&R スコア 600 点以上を目指す。 ①語彙力と文法力の強化 小テスト(TOEIC 頻出単語)において、毎回８０％以上の正答率を達成する。 ②TOEIC に対応したリスニング力の向上 TOEIC リスニングセクション（Part 1-4）を通じて、話題の概要や主要なポイントを確実に捉えた上で、そのうち約 70%程度の詳細情報（登場人物同士の関係性、会話の背景、解決策や提案事項など）を的確に理解し、複雑なやり取りやスピーチからも大意を逃さず把握できる。 ③TOEIC に対応したリーディング力の向上 TOEIC で出題されるビジネス文書（広告、E メール、ビジネス通知、簡易なレポートなど）の形式に慣れ、比較的長めのシングルパッセージや短めのダブルパッセージにおいて、趣旨や要点を把握した上で、そのうち約 70%程度の詳細情報（細かな条件、登場人物や組織の役割、示唆される背景事情）を正しく読み取れるようにします。 ④自律的な学修 必ず目標スコアを達成するという強い目的意識を持ち、課題を確実にこなし、主体的かつ計画的に学習に取り組む。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストの結果及び課題の提出状況について各自へのフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、キャリアコンサルタントや米国 CCE 認定グローバルキャリア開発ファシリテーターの資格を有しており、これまでに海外の法律事務所で翻訳・通訳や国内の民間企業でキャリア教育コーディネーター等の業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	クラス１～４共通 TOEIC® L&R TEST 600 点への徹底演習 COMPREHENSIVE PRACTICE FOR THE TOEIC® L&R TEST Jonathan Lynch / 委文　光太郎 共著	ISBN	9784791973149

	出版社：成美堂		
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	0	
	その他の内容	統括テスト(各学期に実施される TOEIC IP)：40	
この科目の受講にあたって	本科目の受講生は、TOEIC スコアの向上および自身が設定する目標の達成に向けて、毎週約 4 時間程度の自学修（授業内容の復習、小テスト、課題への取り組みおよび予習）を行うことが求められます。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	授業概要・課題説明 目標スコア到達に必要な TOEIC 学習法ガイダンス 本科目は習熟度別クラスで構成され、クラスごとに学修範囲が異なります。そのため、具体的な授業計画や学修方法については、初回授業で各クラスに応じて説明します。本シラバスに記載した内容は、あくまで全クラスに共通するおおよその概要です。	事後学修： ・語彙、文法、読解、リスニングの予習（4 時間程度）	4 時間
第２回	対面	Listening Part 2　疑問詞を使った疑問文	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第３回	対面	Listening Part 3 日常場面での会話	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第４回	対面	Listening Part 4 アナウンス・ツアー	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第５回	対面	Listening Section 総合演習	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間
第６回	対面	TOEIC Mini Quiz Feedback of the Quiz	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第７回	対面	Reading Part 5 文法語彙語法問題	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第８回	対面	Reading Part 5 総合演習	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間

第９回	対面	Reading Part 6 総合演習	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第１０回	対面	Reading　Part 7 広告・社内文書	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間
第１１回	対面	TOEIC Mini Quiz Feedback of the Quiz	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） 次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第１２回	対面	Reading Part 7 手紙・メール・チャット問題	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第１３回	対面	Reading Part 7 ダブルパッセージ･トリプルパッセージ対策	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第１４回	対面	Reading Section 総合演習	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間
第１５回	オンデマンド	TOEIC Mini Test Review	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（4 時間程度）	4 時間

科目名	Exam Prep. VI	開講年度	2025
担当者	鳥居　佳世	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語運用能力の基礎を固め、TOEIC®L&R のスコアの向上を目指す。		
授業の目的及び概要	本科目は、英語 4 技能を総合的に強化し、TOEIC® L&R テストで 600 点以上のスコア取得を目標とします。授業では、スコア向上に不可欠な語彙や文法事項を着実に定着させるとともに、読解力・聴解力を重点的に強化します。さらに、ライティングやスピーキングなどのアウトプット練習を通して、実践的な英語運用能力を養います。		
履修条件・留意点	＜国際学部生＞受講生の過去の TOEIC L&R スコアを基にクラス分けを行い、事前登録を行います。習熟度別クラスとなっているため、事前登録がなく本項目の履修を希望する学生は下記の TOEIC スコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。 ＜経済・経営・法学部生＞ 各クラス数名程度の枠内で履修登録が可能です。本項目の履修希望する学生は、下記の TOEIC スコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。 ◆クラス分け：TOEIC スコアの目安 クラス１：TOEIC 500 点以上 クラス２：TOEIC 400 点以上 クラス３：TOEIC 350 点以上 クラス４：TOEIC 350 点未満		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①～④への取り組みを通じて、TOEIC L&R スコア 600 点以上を目指す。 ①語彙力と文法力の強化 小テスト(TOEIC 頻出単語)において、毎回８０％以上の正答率を達成する。 ②TOEIC に対応したリスニング力の向上 TOEIC リスニングセクション（Part 1-4）を通じて、話題の概要や主要なポイントを確実に捉えた上で、そのうち約 70%程度の詳細情報（登場人物同士の関係性、会話の背景、解決策や提案事項など）を的確に理解し、複雑なやり取りやスピーチからも大意を逃さず把握できる。 ③TOEIC に対応したリーディング力の向上 TOEIC で出題されるビジネス文書（広告、E メール、ビジネス通知、簡易なレポートなど）の形式に慣れ、比較的長めのシングルパッセージや短めのダブルパッセージにおいて、趣旨や要点を把握した上で、そのうち約 70%程度の詳細情報（細かな条件、登場人物や組織の役割、示唆される背景事情）を正しく読み取れるようにします。 ④自律的な学修 必ず目標スコアを達成するという強い目的意識を持ち、課題を確実にこなし、主体的かつ計画的に学習に取り組む。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストの結果及び課題の提出状況について各自へのフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラス１～４共通 TOEIC® L&R TEST 600 点への徹底演習 COMPREHENSIVE PRACTICE FOR THE TOEIC® L&R TEST Jonathan Lynch / 委文　光太郎 共著 出版社：成美堂	ISBN	9784791973149

参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	0	
	その他の内容	統括テスト(各学期に実施される TOEIC IP)：40	
この科目の受講にあたって	本科目の受講生は、TOEIC スコアの向上および自身が設定する目標の達成に向けて、毎週約 4 時間程度の自学修（授業内容の復習、小テスト、課題への取り組みおよび予習）を行うことが求められます。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	授業概要・課題説明 目標スコア到達に必要な TOEIC 学習法ガイダンス 本科目は習熟度別クラスで構成され、クラスごとに学修範囲が異なります。そのため、具体的な授業計画や学修方法については、初回授業で各クラスに応じて説明します。本シラバスに記載した内容は、あくまで全クラスに共通するおおよその概要です。	事後学修： ・語彙、文法、読解、リスニングの予習（4 時間程度）	4 時間
第２回	対面	Listening Part 2　疑問詞を使った疑問文	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第３回	対面	Listening Part 3 日常場面での会話	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第４回	対面	Listening Part 4 アナウンス・ツアー	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第５回	対面	Listening Section 総合演習	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間
第６回	対面	TOEIC Mini Quiz Feedback of the Quiz	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第７回	対面	Reading Part 5 文法語彙語法問題	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第８回	対面	Reading Part 5 総合演習	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第９回	対面	Reading Part 6 総合演習	事後学修：	4 時間

			語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	
第１０回	対面	Reading　Part 7 広告・社内文書	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間
第１１回	対面	TOEIC Mini Quiz Feedback of the Quiz	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） 次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第１２回	対面	Reading Part 7 手紙・メール・チャット問題	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第１３回	対面	Reading Part 7 ダブルパッセージ･トリプルパッセージ対策	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第１４回	対面	Reading Section 総合演習	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間
第１５回	オンデマンド	TOEIC Mini Test Review	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（4 時間程度）	4 時間

科目名	Current World Events Ⅱ	開講年度	2025
担当者	中山　周作	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	世界で起きているホットなニュースを英語で学ぶことで語彙力や文法力を向上させ、アカデミックイングリッシュを理解し、発信する力を身に付けるとともに、英語報道の切り口から国際感覚を身に付ける。		
授業の目的及び概要	この科目は、主にマスメディアによって発信されている英語ニュースをリアルタイムで学ぶことで、正確な英語の読解力や聴解力を身につけます。メディアで使われる語彙や言い回し、語法などを学ぶことで、アカデミックイングリッシュスキルの向上を目指します。また、卒業論文執筆の際に英語の論文や記事を先行研究として購読するために必要な基礎的素養も身につけていきます。授業では、様々な分野のニュースを購読・視聴することで、専門知識や論理的思考力の高度化を図るとともに、幅広い視野を育みます。リサーチ、プレゼンテーション、ディスカッションを通して理解、発信、議論する力を身につけ、英語の総合的運用能力を高めながら、グローバルな視点を滋養し、世界で起こる事象について考察していきます。		
履修条件・留意点	第一回授業終了後にクラス分けを行います。第二回授業以降のクラスについては Learning Portal に掲示されますので、確認するようにしてください。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	アカデミックイングリッシュスキルの向上並びに国際社会への理解を深めるため、この科目の目標は語彙・長文・アウトプット・内容理解に関してそれぞれ以下の通り設定しています。 【語彙】 1. 授業で扱った語彙や表現の意味を理解し、正しく発音することができる。 【長文】 １．辞書を使えば、英語ニュースの記事を読むことができる。 【アウトプット】 １．CD や教員の発話を参考に、英語ニュースを正しく、英語らしく読むことができる。 ２．興味のあるニュースについて調査を行い、英語でスライドにまとめプレゼンテーションを行うことができる。 ３．興味のあるニュースについて、自身の考えを英語でレポートにまとめることができる。 ４．英語による報道内容の概要／趣旨を掴み、英語で他者に説明することができる。 【内容理解】 １．国際社会の問題について自らの意見を述べることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業で質問への回答や説明をします。 授業内で継続的に行なわれるアクティビティやクイズ、ディスカッションを行うなかで教員から講評を受けます。 学生により提出されるレポートは添削した上で返却します。 学生によるプレゼンテーションは、採点した上で、教員から講評を受けます。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	Reuters Global News Feed / ロイターニュースが伝える世界の今、小林　敏彦・Bill Benfield、成美堂、2025	ISBN	9784791973118
参考書	なし	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	

	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
	成果発表（口頭・実技）	40
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	世界では今何が起きて、どのようなことが注目されているでしょうか。皆さんが興味のあるニュースは何ですか。 この授業では、様々なニュースに触れ、考えていきます。ご自身の興味・関心のある分野についての知識を深め、これからの学修につなげてください。 メディアで使用されるアカデミックイングリッシュを学ぶことは、皆さんの英語を 1 段階レベルアップさせてくれるだけでなく、英語の資格試験にも大いに役立ちます。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	授業の概要や到達目標等について、ガイダンスを行います。	【予習】 シラバスとガイダンス資料を事前に読んでおいてください。 【復習】 シラバスとガイダンス資料を読み直し、講義で得た内容を確認してください。	1 時間
第２回	対面	Unit 1 Female Rickshaw Pullers Wow Tourists in Japan	【予習】 Unit 1 の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 1 の語彙・表現の復習 小テストの準備	4 時間
第３回	対面	Unit 2 Tokyo’s Trash-Picking Samurais Keep Streets Clean	【予習】 Unit 2 の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 2 の語彙・表現の復習 小テストの準備	4 時間
第４回	対面	Unit 3 Japan Says “Overtourism” Is Spoiling Mt. Fuji	【予習】 Unit 3 の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 3 の語彙・表現の復習 小テストの準備	4 時間
第５回	対面	Unit 4 China Issues Rules to Curb Gaming Spend	【予習】 Unit 4 の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 4 の語彙・表現の復習 小テストの準備	4 時間
第６回	対面	Unit 5 McDonald’s Gets a Taste for China Growth	【予習】 Unit 5 の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 5 の語彙・表現の復習 小テストの準備	4 時間
第７回	対面	中間発表会の実施及び講評	【予習】	4 時間

			中間発表会に向けた準備 【復習】 中間発表の振り返り（ミニレポートの作成）	
第８回	対面	Unit 7 Customers Nap While Standing at a Tokyo “Sleep Cafe”	【予習】 Unit 7 の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 7 の語彙・表現の復習 小テストの準備	4 時間
第９回	対面	Unit 8 AI-Powered Facial Recognition System Reads Vital Signs	【予習】 Unit 8 の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 8 の語彙・表現の復習 小テストの準備	4 時間
第１０回	対面	Unit 9 Inside Gym Classes in the Metaverse	【予習】 Unit 9 の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 9 の語彙・表現の復習 小テストの準備	4 時間
第１１回	対面	Unit 12 World’s First Liquid Hydrogen-Powered Plane Unveiled	【予習】 Unit 12 の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 12 の語彙・表現の復習 小テストの準備	4 時間
第１２回	対面	Unit 14 Trafficked Wildlife Find Safe Haven at US Zoos	【予習】 Unit 14 の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 14 の語彙・表現の復習 小テストの準備	6 時間
第１３回	対面	期末発表会①の実施及び講評	【予習】 期末発表会に向けた準備 【復習】 期末発表の振り返り（期末レポートの作成）	4 時間
第１４回	対面	期末発表会②及び最終レポートの講評	【予習】 期末発表会に向けた準備 【復習】 最終レポートの訂正	4 時間
第１５回	オンデマンド	授業内容の振り返り及び最終レポート作成について	最終レポートの作成	6 時間

科目名	Current World Events Ⅱ	開講年度	2025
担当者	木村　彩音	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	世界で起きているホットなニュースを英語で学ぶことで語彙力や文法力を向上させ、アカデミックイングリッシュを理解し、発信する力を身に付けるとともに、英語報道の切り口から国際感覚を身に付ける。		
授業の目的及び概要	この科目は、主にマスメディアによって発信されている英語ニュースをリアルタイムで学ぶことで、正確な英語の読解力や聴解力を身につけます。メディアで使われる語彙や言い回し、語法などを学ぶことで、アカデミックイングリッシュスキルの向上を目指します。また、卒業論文執筆の際に英語の論文や記事を先行研究として購読するために必要な基礎的素養も身につけていきます。授業では、様々な分野のニュースを購読・視聴することで、専門知識や論理的思考力の高度化を図るとともに、幅広い視野を育みます。リサーチ、プレゼンテーション、ディスカッションを通して理解、発信、議論する力を身につけ、英語の総合的運用能力を高めながら、グローバルな視点を滋養し、世界で起こる事象について考察していきます。		
履修条件・留意点	第一回授業終了後にクラス分けを行います。第二回授業以降のクラスについては Learning Portal に掲示されますので、確認するようにしてください。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	アカデミックイングリッシュスキルの向上並びに国際社会への理解を深めるため、この科目の目標は語彙・長文・アウトプット・内容理解に関してそれぞれ以下の通り設定しています。 【語彙】 1. 授業で扱った語彙や表現の意味を理解し、正しく発音することができる。 【長文】 １．辞書を使えば、英語ニュースの記事を読むことができる。 【アウトプット】 １．CD や教員の発話を参考に、英語ニュースを正しく、英語らしく読むことができる。 ２．興味のあるニュースについて調査を行い、英語でスライドにまとめプレゼンテーションを行うことができる。 ３．興味のあるニュースについて、自身の考えを英語でレポートにまとめることができる。 ４．英語による報道内容の概要／趣旨を掴み、英語で他者に説明することができる。 【内容理解】 １．国際社会の問題について自らの意見を述べることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業で質問への回答や説明をします。 授業内で継続的に行なわれるアクティビティやクイズ、ディスカッションを行うなかで教員から講評を受けます。 学生により提出されるレポートは添削した上で返却します。 学生によるプレゼンテーションは、採点した上で、教員から講評を受けます。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	Reuters Global News Feed / ロイターニュースが伝える世界の今、小林　敏彦・Bill Benfield、成美堂、2025	ISBN	9784791973118
参考書	なし	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	

	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
	成果発表（口頭・実技）	40
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	世界では今何が起きて、どのようなことが注目されているでしょうか。皆さんが興味のあるニュースは何ですか。 この授業では、様々なニュースに触れ、考えていきます。ご自身の興味・関心のある分野についての知識を深め、これからの学修につなげてください。 メディアで使用されるアカデミックイングリッシュを学ぶことは、皆さんの英語を 1 段階レベルアップさせてくれるだけでなく、英語の資格試験にも大いに役立ちます。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	授業の概要や到達目標等について、ガイダンスを行います。	【予習】 シラバスとガイダンス資料を事前に読んでおいてください。 【復習】 シラバスとガイダンス資料を読み直し、講義で得た内容を確認してください。	1 時間
第２回	対面	Unit 1 Female Rickshaw Pullers Wow Tourists in Japan	【予習】 Unit 1 の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 1 の語彙・表現の復習 小テストの準備	4 時間
第３回	対面	Unit 2 Tokyo’s Trash-Picking Samurais Keep Streets Clean	【予習】 Unit 2 の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 2 の語彙・表現の復習 小テストの準備	4 時間
第４回	対面	Unit 3 Japan Says “Overtourism” Is Spoiling Mt. Fuji	【予習】 Unit 3 の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 3 の語彙・表現の復習 小テストの準備	4 時間
第５回	対面	Unit 4 China Issues Rules to Curb Gaming Spend	【予習】 Unit 4 の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 4 の語彙・表現の復習 小テストの準備	4 時間
第６回	対面	Unit 5 McDonald’s Gets a Taste for China Growth	【予習】 Unit 5 の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 5 の語彙・表現の復習 小テストの準備	4 時間
第７回	対面	中間発表会の実施及び講評	【予習】	4 時間

			中間発表会に向けた準備 【復習】 中間発表の振り返り（ミニレポートの作成）	
第８回	対面	Unit 7 Customers Nap While Standing at a Tokyo “Sleep Cafe”	【予習】 Unit 7 の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 7 の語彙・表現の復習 小テストの準備	4 時間
第９回	対面	Unit 8 AI-Powered Facial Recognition System Reads Vital Signs	【予習】 Unit 8 の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 8 の語彙・表現の復習 小テストの準備	4 時間
第１０回	対面	Unit 9 Inside Gym Classes in the Metaverse	【予習】 Unit 9 の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 9 の語彙・表現の復習 小テストの準備	4 時間
第１１回	対面	Unit 12 World’s First Liquid Hydrogen-Powered Plane Unveiled	【予習】 Unit 12 の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 12 の語彙・表現の復習 小テストの準備	4 時間
第１２回	対面	Unit 14 Trafficked Wildlife Find Safe Haven at US Zoos	【予習】 Unit 14 の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 14 の語彙・表現の復習 小テストの準備	6 時間
第１３回	対面	期末発表会①の実施及び講評	【予習】 期末発表会に向けた準備 【復習】 期末発表の振り返り（期末レポートの作成）	4 時間
第１４回	対面	期末発表会②及び最終レポートの講評	【予習】 期末発表会に向けた準備 【復習】 最終レポートの訂正	4 時間
第１５回	オンデマンド	授業内容の振り返り及び最終レポート作成について	最終レポートの作成	6 時間

科目名	Global Issues I	開講年度	2025
担当者	中山　周作	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	グローバル化が進む国際社会の諸問題を英語で理解・議論し、共存社会について考える。		
授業の目的及び概要	この授業では、グローバル化が進む社会の諸問題について、テキストやメディア情報を英語で講読することを目的としています。国連が設定し世界中が注目している持続可能な開発目標である SDGｓ（Sustainable Development Goals）を基軸として世界の諸課題を理解し議論することで、英語の４技能を向上させます。また、国際社会の一員としての問題意識を持ちながら諸問題を学ぶことによって、国際理解力、異文化理解力、国際感覚を養います。英語による運用能力の向上に加え、これからの共存社会を考え生き抜くための基本的な知識や背景、問題意識を身に付けることで、さまざまな問題において発展的に議論し活動できるようになり、海外におけるコミュニケーション能力が向上します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	グローバル化の進展に伴う世界情勢の変化、課題、解決策を英語で理解し、議論し、自分の考えを発信することができる。グローバルな視野を持ち、世界が抱える課題について多様な視点を学修することで、幅広い視野を持ちながら英語で世界の事象について話すことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業で行う活動や課題、および中間・最終発表について講評します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	CLIL 英語で学ぶ SDGs の基礎、笹島茂・高木由香里・工藤泰三・佐藤真久・Larry Joe・Curtis M. Revis Seubert、三修社、2022 年	ISBN	9784384335125
参考書	なし	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	20
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	30
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	30
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	グローバル化とは一体、何でしょうか。私たちの社会にどのような影響をもたらしているのでしょうか。国境を越えて地球規模で発生している諸問題について、情報を収集し、知識を獲得し、自分の考えをまとめることで、共存社会の中で自分はどのような行動をとればいいのかを考えていきましょう。十分に予習・復習をして授業に臨み、英語での読解、議論が自分のものになるように、積極的な取り組みを期待します。

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第１回	対面	イントロダクション（授業の進め方や目標、扱うトピック、成績評価の確認）	Unit 1: "Live together ともに生きる"の語彙・読解予習	4 時間
第２回	対面	Unit 1: "Live together ともに生きる"の読解演習	Unit 1: "Live together ともに生きる"の復習および当該トピックにおけるディスカッションに向けての予習・復習	4 時間
第３回	対面	Unit 1: "Live together ともに生きる"の読解演習および当該トピックにおけるディスカッション	Unit 1: "Live together ともに生きる"におけるディスカッション内容の復習 Unit 2: "Create inclusive society ともに生きる社会を築く"の語彙・読解予習	4 時間
第４回	対面	Unit 2: "Create inclusive society ともに生きる社会を築く"の読解演習	Unit 2: "Create inclusive society ともに生きる社会を築く"の復習および当該トピックにおけるディスカッションに向けての予習	4 時間
第５回	対面	Unit 2: "Create inclusive society ともに生きる社会を築く"の読解演習および当該トピックにおけるディスカッション	Unit 2: "Create inclusive society ともに生きる社会を築く"におけるディスカッション内容の復習 中間発表に向けた予習・準備	4 時間
第６回	対面	中間発表の実施および講評	Unit 3: "Think about food problems 食問題を考える"の語彙・読解予習	4 時間
第７回	対面	Unit 3: "Think about food problems 食問題を考える"の読解演習	Unit 3: "Think about food problems 食問題を考える"の復習および当該トピックにおけるディスカッションに向けての予習	4 時間
第８回	対面	Unit 3: "Think about food problems 食問題を考える"の読解演習および当該トピックにおけるディスカッション	Unit 3: "Think about food problems 食問題を考える"におけるディスカッション内容の復習 Unit 4: "Ensure quality education for all すべての人に質の高い教育を"の語彙・読解予習	4 時間
第９回	対面	Unit 4: "Ensure quality education for all すべての人に質の高い教育を"の読解演習	Unit 4: "Ensure quality education for all すべての人に質の高い教育を"の復習および当該トピックにおけるディスカッションに向けての予習	4 時間
第１０回	対面	Unit 4: "Ensure quality education for all すべての人に質の高い教育を"の読解演習および当該トピックにおけるディスカッション	Unit 4: "Ensure quality education for all すべての人に質の高い教育を"におけるディスカッション内容の復習 Unit 5: "Ensure clean water ans safe toilets きれいな水と安全なトイレを"の語彙・読解予習	4 時間
第１１回	対面	Unit 5: "Ensure clean water ans safe toilets きれいな水と安全なトイレを"の読解演習	Unit 5: "Ensure clean water ans safe toilets きれいな水と安全なトイレを"の復習および当該トピックにおけるディスカッションに向けての予習	4 時間
第１２回	対面	Unit 5: "Ensure clean water ans safe toilets きれいな水と安全なトイレを"の読解演習および当該トピックにおけるディスカッション	Unit 5: "Ensure clean water ans safe toilets きれいな水と安全なトイレを"におけるディスカッション内容の復習 Unit 6: "Don't use plastic プラスチックを使わない"の語彙・読解予習	4 時間
第１３回	対面	Unit 6: "Don't use plastic プラスチックを使わない"の読解演習およびミニレポート作成	Unit 6: "Don't use plastic プラスチックを使わない"の復習 最終発表に向けた予習・準備	4 時間
第１４回	対面	最終発表の実施	Unit 7: "Protect all living things すべての生き物を守る"の語彙・読解予習	4 時間
第１５回	オンデマンド	最終発表の講評 Unit 7: "Protect all living things すべての生き物を守る"の読解演習および当該トピックにおけるディスカッション	Unit 7 "Protect all living things すべての生き物を守る"におけるディスカッション内容の復習 Unit 1～Unit 7 で扱ったトピックの総復習	4 時間

科目名	Global Issues I	開講年度	2025
担当者	中西　亮太	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	グローバル化が進む国際社会の諸問題を英語で理解・議論し、共存社会について考える。		
授業の目的及び概要	この授業では、グローバル化が進む社会の諸問題について、テキストやメディア情報を英語で講読することを目的としています。国連が設定し世界中が注目している持続可能な開発目標である SDGｓ（Sustainable Development Goals）を基軸として世界の諸課題を理解し議論することで、英語の４技能を向上させます。また、国際社会の一員としての問題意識を持ちながら諸問題を学ぶことによって、国際理解力、異文化理解力、国際感覚を養います。英語による運用能力の向上に加え、これからの共存社会を考え生き抜くための基本的な知識や背景、問題意識を身に付けることで、さまざまな問題において発展的に議論し活動できるようになり、海外におけるコミュニケーション能力が向上します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	グローバル化の進展に伴う世界情勢の変化、課題、解決策を英語で理解し、議論し、自分の考えを発信することができる。グローバルな視野を持ち、世界が抱える課題について多様な視点を学修することで、幅広い視野を持ちながら英語で世界の事象について話すことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業で行う活動や課題、および中間・最終発表について講評します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	CLIL 英語で学ぶ SDGs の基礎、笹島茂・高木由香里・工藤泰三・佐藤真久・Larry Joe・Curtis M. Revis Seubert、三修社、2022 年	ISBN	9784384335125
参考書	なし	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	20
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	30
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	30
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	グローバル化とは一体、何でしょうか。私たちの社会にどのような影響をもたらしているのでしょうか。国境を越えて地球規模で発生している諸問題について、情報を収集し、知識を獲得し、自分の考えをまとめることで、共存社会の中で自分はどのような行動をとればいいのかを考えていきましょう。十分に予習・復習をして授業に臨み、英語での読解、議論が自分のものになるように、積極的な取り組みを期待します。

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第１回	対面	イントロダクション（授業の進め方や目標、扱うトピック、成績評価の確認）	Unit 1: "Live together ともに生きる"の語彙・読解予習	4 時間
第２回	対面	Unit 1: "Live together ともに生きる"の読解演習	Unit 1: "Live together ともに生きる"の復習および当該トピックにおけるディスカッションに向けての予習・復習	4 時間
第３回	対面	Unit 1: "Live together ともに生きる"の読解演習および当該トピックにおけるディスカッション	Unit 1: "Live together ともに生きる"におけるディスカッション内容の復習 Unit 2: "Create inclusive society ともに生きる社会を築く"の語彙・読解予習	4 時間
第４回	対面	Unit 2: "Create inclusive society ともに生きる社会を築く"の読解演習	Unit 2: "Create inclusive society ともに生きる社会を築く"の復習および当該トピックにおけるディスカッションに向けての予習	4 時間
第５回	対面	Unit 2: "Create inclusive society ともに生きる社会を築く"の読解演習および当該トピックにおけるディスカッション	Unit 2: "Create inclusive society ともに生きる社会を築く"におけるディスカッション内容の復習 中間発表に向けた予習・準備	4 時間
第６回	対面	中間発表の実施および講評	Unit 3: "Think about food problems 食問題を考える"の語彙・読解予習	4 時間
第７回	対面	Unit 3: "Think about food problems 食問題を考える"の読解演習	Unit 3: "Think about food problems 食問題を考える"の復習および当該トピックにおけるディスカッションに向けての予習	4 時間
第８回	対面	Unit 3: "Think about food problems 食問題を考える"の読解演習および当該トピックにおけるディスカッション	Unit 3: "Think about food problems 食問題を考える"におけるディスカッション内容の復習 Unit 4: "Ensure quality education for all すべての人に質の高い教育を"の語彙・読解予習	4 時間
第９回	対面	Unit 4: "Ensure quality education for all すべての人に質の高い教育を"の読解演習	Unit 4: "Ensure quality education for all すべての人に質の高い教育を"の復習および当該トピックにおけるディスカッションに向けての予習	4 時間
第１０回	対面	Unit 4: "Ensure quality education for all すべての人に質の高い教育を"の読解演習および当該トピックにおけるディスカッション	Unit 4: "Ensure quality education for all すべての人に質の高い教育を"におけるディスカッション内容の復習 Unit 5: "Ensure clean water ans safe toilets きれいな水と安全なトイレを"の語彙・読解予習	4 時間
第１１回	対面	Unit 5: "Ensure clean water ans safe toilets きれいな水と安全なトイレを"の読解演習	Unit 5: "Ensure clean water ans safe toilets きれいな水と安全なトイレを"の復習および当該トピックにおけるディスカッションに向けての予習	4 時間
第１２回	対面	Unit 5: "Ensure clean water ans safe toilets きれいな水と安全なトイレを"の読解演習および当該トピックにおけるディスカッション	Unit 5: "Ensure clean water ans safe toilets きれいな水と安全なトイレを"におけるディスカッション内容の復習 Unit 6: "Don't use plastic プラスチックを使わない"の語彙・読解予習	4 時間
第１３回	対面	Unit 6: "Don't use plastic プラスチックを使わない"の読解演習およびミニレポート作成	Unit 6: "Don't use plastic プラスチックを使わない"の復習 最終発表に向けた予習・準備	4 時間
第１４回	対面	最終発表の実施	Unit 7: "Protect all living things すべての生き物を守る"の語彙・読解予習	4 時間
第１５回	オンデマンド	最終発表の講評 Unit 7: "Protect all living things すべての生き物を守る"の読解演習および当該トピックにおけるディスカッション	Unit 7 "Protect all living things すべての生き物を守る"におけるディスカッション内容の復習 Unit 1～Unit 7 で扱ったトピックの総復習	4 時間

科目名	Global Issues Ⅱ	開講年度	2025
担当者	中山　周作	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	グローバル化が進む国際社会の諸問題を英語で理解・議論し、共存社会について考える。		
授業の目的及び概要	この授業では、グローバル化が進む社会の諸問題について、テキストやメディア情報を英語で講読することを目的としています。国連が設定し世界中が注目している持続可能な開発目標である SDGｓ（Sustainable Development Goals）を基軸として世界の諸課題を理解し議論することで、英語の４技能を向上させます。また、国際社会の一員としての問題意識を持ちながら諸問題を学ぶことによって、国際理解力、異文化理解力、国際感覚を養います。英語による運用能力の向上に加え、これからの共存社会を考え生き抜くための基本的な知識や背景、問題意識を身に付けることで、さまざまな問題において発展的に議論し活動できるようになり、海外におけるコミュニケーション能力が向上します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	グローバル化の進展に伴う世界情勢の変化、課題、解決策を英語で理解し、議論し、自分の考えを発信することができる。グローバルな視野を持ち、世界が抱える課題について多様な視点を学修することで、幅広い視野を持ちながら英語で世界の事象について話すことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業で行う活動や課題、および中間・最終発表について講評します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①SDGs×Discussion: SDGs で学ぶ英語ディスカッション，吉原令子・林千代・糸井江美・岩本典子・Audrey Morrell、金星堂、2022 年	ISBN	①9784764741508
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	20
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	30
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	30
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	グローバル化とは一体、何でしょうか。私たちの社会にどのような影響をもたらしているのでしょうか。国境を越えて地球規模で発生している諸問題について、情報を収集し、知識を獲得し、自分の考えをまとめることで、共存社会の中で自分はどのような行動をとればいいのかを考えていきましょう。十分に予習・復習をして授業に臨み、英語での読解、議論が自分のものになるように、積極的な取り組みを期待します。

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第１回	対面	オリエンテーション（授業の進め方や目標、扱うトピックの確認）	Unit 8: "Build sustainable cities and communities 災害に強くなる"の語彙・読解予習	4 時間
第２回	対面	Unit 8: "Build sustainable cities and communities 災害に強くなる"の読解演習	Unit 8: "Build sustainable cities and communities 災害に強くなる"の復習および当該トピックにおけるディスカッションに向けての予習・復習	4 時間
第３回	対面	Unit 8: "Build sustainable cities and communities 災害に強くなる"の読解演習および当該トピックにおけるディスカッション	Unit 8: "Build sustainable cities and communities 災害に強くなる"におけるディスカッション内容の復習 Unit 9: "Secure electricity resources 電力を確保する"の語彙・読解予習	4 時間
第４回	対面	Unit 9: "Secure electricity resources 電力を確保する"の読解演習	Unit 9: "Secure electricity resources 電力を確保する"の復習および当該トピックにおけるディスカッションに向けての予習	4 時間
第５回	対面	Unit 9: "Secure electricity resources 電力を確保する"の読解演習および当該トピックにおけるディスカッション	Unit 9: "Secure electricity resources 電力を確保する"におけるディスカッション内容の復習 中間発表に向けた予習・準備	4 時間
第６回	対面	中間発表の実施および講評	Unit 10: "Promote good health and well-being 健康な生活を送る"の語彙・読解予習	4 時間
第７回	対面	Unit 10: "Promote good health and well-being 健康な生活を送る"の読解演習	Unit 10: "Promote good health and well-being 健康な生活を送る"の復習および当該トピックにおけるディスカッションに向けての予習	4 時間
第８回	対面	Unit 10: "Promote good health and well-being 健康な生活を送る"の読解演習および当該トピックにおけるディスカッション	Unit 10: "Promote good health and well-being 健康な生活を送る"におけるディスカッション内容の復習 Unit 11: "Live in an aging society 高齢化社会を生きる"の語彙・読解予習	4 時間
第９回	対面	Unit 11: "Live in an aging society 高齢化社会を生きる"の読解演習	Unit 11: "Live in an aging society 高齢化社会を生きる"の復習および当該トピックにおけるディスカッションに向けての予習	4 時間
第１０回	対面	Unit 11: "Live in an aging society 高齢化社会を生きる"の読解演習および当該トピックにおけるディスカッション	Unit 11: "Live in an aging society 高齢化社会を生きる"におけるディスカッション内容の復習 Unit 12: "Promote our decent work 豊かな働き方をする"の語彙・読解予習	4 時間
第１１回	対面	Unit 12: "Promote our decent work 豊かな働き方をする"の読解演習	Unit 12: "Promote our decent work 豊かな働き方をする"の復習および当該トピックにおけるディスカッションに向けての予習	4 時間
第１２回	対面	Unit 12: "Promote our decent work 豊かな働き方をする"の読解演習および当該トピックにおけるディスカッション	Unit 12: "Promote our decent work 豊かな働き方をする"におけるディスカッション内容の復習 Unit 13: "Live well during climate change 気候に優しい生活をする"の語彙・読解予習	4 時間
第１３回	対面	Unit 13: "Live well during climate change 気候に優しい生活をする"の読解演習およびディスカッション	Unit 13: "Live well during climate change 気候に優しい生活をする"の復習 最終発表に向けた予習・準備	4 時間
第１４回	対面	最終発表の実施	Unit 14: "End child labour 児童労働をやめる"の語彙・読解予習	4 時間
第１５回	オンデマンド	最終発表の講評 Unit 14: "End child labour 児童労働をやめる"の読解演習および当該トピックにおけるディスカッション	Unit 14: "End child labour 児童労働をやめる"におけるディスカッション内容の復習 Unit 8～Unit 14 で扱ったトピックの総復習	4 時間

科目名	Global Issues Ⅱ	開講年度	2025
担当者	木村　彩音	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	グローバル化が進む国際社会の諸問題を英語で理解・議論し、共存社会について考える。		
授業の目的及び概要	この授業では、グローバル化が進む社会の諸問題について、テキストやメディア情報を英語で講読することを目的としています。国連が設定し世界中が注目している持続可能な開発目標である SDGｓ（Sustainable Development Goals）を基軸として世界の諸課題を理解し議論することで、英語の４技能を向上させます。また、国際社会の一員としての問題意識を持ちながら諸問題を学ぶことによって、国際理解力、異文化理解力、国際感覚を養います。英語による運用能力の向上に加え、これからの共存社会を考え生き抜くための基本的な知識や背景、問題意識を身に付けることで、さまざまな問題において発展的に議論し活動できるようになり、海外におけるコミュニケーション能力が向上します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	グローバル化の進展に伴う世界情勢の変化、課題、解決策を英語で理解し、議論し、自分の考えを発信することができる。グローバルな視野を持ち、世界が抱える課題について多様な視点を学修することで、幅広い視野を持ちながら英語で世界の事象について話すことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業で行う活動や課題、および中間・最終発表について講評します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	CLIL 英語で学ぶ SDGs の基礎、笹島茂・高木由香里・工藤泰三・佐藤真久・Larry Joe・Curtis M. Revis Seubert、三修社、2022 年	ISBN	9784384335125
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	20
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	30
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	30
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	グローバル化とは一体、何でしょうか。私たちの社会にどのような影響をもたらしているのでしょうか。国境を越えて地球規模で発生している諸問題について、情報を収集し、知識を獲得し、自分の考えをまとめることで、共存社会の中で自分はどのような行動をとればいいのかを考えていきましょう。十分に予習・復習をして授業に臨み、英語での読解、議論が自分のものになるように、積極的な取り組みを期待します。

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第１回	対面	オリエンテーション（授業の進め方や目標、扱うトピックの確認）	Unit 8: "Build sustainable cities and communities 災害に強くなる"の語彙・読解予習	4 時間
第２回	対面	Unit 8: "Build sustainable cities and communities 災害に強くなる"の読解演習	Unit 8: "Build sustainable cities and communities 災害に強くなる"の復習および当該トピックにおけるディスカッションに向けての予習・復習	4 時間
第３回	対面	Unit 8: "Build sustainable cities and communities 災害に強くなる"の読解演習および当該トピックにおけるディスカッション	Unit 8: "Build sustainable cities and communities 災害に強くなる"におけるディスカッション内容の復習 Unit 9: "Secure electricity resources 電力を確保する"の語彙・読解予習	4 時間
第４回	対面	Unit 9: "Secure electricity resources 電力を確保する"の読解演習	Unit 9: "Secure electricity resources 電力を確保する"の復習および当該トピックにおけるディスカッションに向けての予習	4 時間
第５回	対面	Unit 9: "Secure electricity resources 電力を確保する"の読解演習および当該トピックにおけるディスカッション	Unit 9: "Secure electricity resources 電力を確保する"におけるディスカッション内容の復習 中間発表に向けた予習・準備	4 時間
第６回	対面	中間発表の実施および講評	Unit 10: "Promote good health and well-being 健康な生活を送る"の語彙・読解予習	4 時間
第７回	対面	Unit 10: "Promote good health and well-being 健康な生活を送る"の読解演習	Unit 10: "Promote good health and well-being 健康な生活を送る"の復習および当該トピックにおけるディスカッションに向けての予習	4 時間
第８回	対面	Unit 10: "Promote good health and well-being 健康な生活を送る"の読解演習および当該トピックにおけるディスカッション	Unit 10: "Promote good health and well-being 健康な生活を送る"におけるディスカッション内容の復習 Unit 11: "Live in an aging society 高齢化社会を生きる"の語彙・読解予習	4 時間
第９回	対面	Unit 11: "Live in an aging society 高齢化社会を生きる"の読解演習	Unit 11: "Live in an aging society 高齢化社会を生きる"の復習および当該トピックにおけるディスカッションに向けての予習	4 時間
第１０回	対面	Unit 11: "Live in an aging society 高齢化社会を生きる"の読解演習および当該トピックにおけるディスカッション	Unit 11: "Live in an aging society 高齢化社会を生きる"におけるディスカッション内容の復習 Unit 12: "Promote our decent work 豊かな働き方をする"の語彙・読解予習	4 時間
第１１回	対面	Unit 12: "Promote our decent work 豊かな働き方をする"の読解演習	Unit 12: "Promote our decent work 豊かな働き方をする"の復習および当該トピックにおけるディスカッションに向けての予習	4 時間
第１２回	対面	Unit 12: "Promote our decent work 豊かな働き方をする"の読解演習および当該トピックにおけるディスカッション	Unit 12: "Promote our decent work 豊かな働き方をする"におけるディスカッション内容の復習 Unit 13: "Live well during climate change 気候に優しい生活をする"の語彙・読解予習	4 時間
第１３回	対面	Unit 13: "Live well during climate change 気候に優しい生活をする"の読解演習およびディスカッション	Unit 13: "Live well during climate change 気候に優しい生活をする"の復習 最終発表に向けた予習・準備	4 時間
第１４回	対面	最終発表の実施	Unit 14: "End child labour 児童労働をやめる"の語彙・読解予習	4 時間
第１５回	オンデマンド	最終発表の講評 Unit 14: "End child labour 児童労働をやめる"の読解演習および当該トピックにおけるディスカッション	Unit 14: "End child labour 児童労働をやめる"におけるディスカッション内容の復習 Unit 8～Unit 14 で扱ったトピックの総復習	4 時間

科目名	Readings for International Studies I	開講年度	2025
担当者	木村　彩音	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	国際学に関する学術的な文献を読み解き、アカデミックイングリッシュを身に付ける		
授業の目的及び概要	国際学に関する諸領域の基礎資料となる国連決議、経済白書、学術論文等を英語で正確に読み解いていきます。英語で書かれた様々な学術的文書を扱うことで、アカデミックイングリッシュ力を向上させ、自身の専門領域に関する知識の深化に向けて、幅広い参考資料を利用できるようになることを目的とします。授業では文献講読に加え、英語で書かれた学術文書の探し方や基本的な論理の組み立てられ方についても学ぶとともに、ジェネラルイングリッシュと比較しながらどのような語彙や言い回しが使われているのかについても考え、アカデミックイングリッシュ独特の表現方法を身に付けていきます。		
履修条件・留意点	以下のとおり、TOEIC スコア 600 を基準に２クラス開講します。自分のスコアに合わせて履修をしてください。 クラス①：TOEIC 600 以上 Using another person’s ideas or work & pretending that it is your own, or using content produced by ChatGPT, Grammarly’s AI writer, or another generative AI tool for writing & content creation you will be given unsatisfactory（不可）grade. 英語を主体とする授業ですが、適宜日本語も用います。 クラス②：TOEIC 600 未満		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・学術的文書で使われる基本的な語彙や言い回しを理解することができる ・自身の関心があるトピックに関する英語で書かれた学術的文書を探すことができる ・辞書などを用いれば、英語で書かれた学術的文書を読み解くことができる ・英語で書かれた学術的文書の内容を要約することができる		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回、授業後に Reflection Sheet を記入し提出。翌週の授業冒頭で共有し、質問への回答や補足説明を行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラス① International Relations, McGlinchey＆Stephen, E-International Relations, 2017 クラス② 国際情勢を考える 国連ニュースで読む世界 From the UN News Centre, 武藤 克彦他, 三修社, 2015 年	ISBN	クラス① 978-1-910814-18-5 クラス② 978-4-384-33450-0
参考書	資料は適宜、配布します。	ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	10
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0

	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	90
	その他の内容	授業専用ノートの提出（10%×4 回） 中間レビュークイズ・期末レビュークイズ（25%×2 回）
この科目の受講にあたって	授業内ではテキストを使用し、英語で書かれた学術的文書を読んでいきます。難しい語彙が多く出てくるため、専用ノートを一冊用意し、毎回新しい用語を自分の語彙リストに書き込むこと、また毎回授業のメモをノートに書く事が求められます。テキストを使ったリーディングに慣れてから、自身の専門領域に関する資料を探し、最新の情報を読んでいきます。授業内では英語による積極的な参加が求められます。しっかりとした準備が必要となりますが、間違いを恐れず、ディスカッションに活発に参加してください。 授業中スマートフォンの使用は禁止です。許可なく使用していると、クラスから退席することになります。 盗用・剽窃、また、オンライン/自動翻訳の使用は固く禁止されています。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	（授業計画は、授業を進める中で変更される事があります。） ＜クラス①＞ Introduction to the course 科目の紹介 ＜クラス②＞ オリエンテーション	＜クラス①＞ 【予習】 ・read the course syllabus ・シラバスを読んでおくこと。 ・教科書の 1-6 頁を読んでおく。 【復習】 ・シラバスを読み直し、講義で得た内容を確認しておくこと。 教科書の 1-6 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第１回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用に授業で聞きたい質問を書き留めておく。 ＜クラス②＞ 〇事前学修 ・シラバスを読んでおくこと。 ・教科書の 1-9 頁を読んでおく。 〇事後学修 ・シラバスを読み直し、講義で得た内容を確認しておくこと。 ・第１回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用に授業で聞きたい質問を書き留めておく。	4 時間
第２回	対面	＜クラス①＞ 現代世界の成り立ち（1） ＜クラス②＞ Unit 1 Peace and Security ―平和・安全保障― Part A：国連ニュースを読む　Security Council, senior UN officials say conflict parties must respect, protect civilians 語彙テスト	＜クラス①＞ 【予習】 ・教科書の 8-11 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 【復習】 ・教科書の 8-11 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 2 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。	4 時間

			・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。 ＜クラス②＞ 〇事前学修 ・教科書の 11-12 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・語彙テストに向けた学修を行う。 〇事後学修 ・教科書の 10-13 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 2 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	
第３回	対面	＜クラス①＞ 現代世界の成り立ち（2） ＜クラス②＞ Unit 1 Peace and Security ―平和・安全保障― Part B：The Japan Times を読む　New map shines light on Tokyo air raid horrors: Scholars record wartime history politicians would rather forget 語彙テスト	＜クラス①＞ 【予習】 ・教科書の 12-15 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 【復習】 ・教科書の 12-15 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 3 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。 ＜クラス②＞ 〇事前学修 ・教科書の 14-15 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・語彙テストに向けた学修を行う。 〇事後学修 ・教科書の 14-17 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 3 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	4 時間
第４回	対面	＜クラス①＞ 現代世界の成り立ち（3） ＜クラス②＞ Unit 2 Economic Development ―経済開発― Part A：国連ニュースを読む　Illicit financial outflows from Africa crippling continent’s development - UN 語彙テスト	＜クラス①＞ 【予習】 ・教科書の 16-19 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 【復習】 ・教科書の 16-19 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 4 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。 ＜クラス②＞ 〇事前学修	4 時間

			・教科書の 19-20 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・語彙テストに向けた学修を行う。 〇事後学修 ・教科書の 18-21 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 4 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	
第５回	対面	＜クラス①＞ 外交（1） ●第 1 回授業専用ノートの提出 （第 1 回目の授業から第 4 回目の授業までに学んだことや質問を書いた自分のノートを提出しなければなりません。） 成績評価の 10% 「成績評価の方法・基準」の「その他の内容」を確認する。 ＜クラス②＞ Unit 2 Economic Development ―経済開発― Part B : The Japan Times を読む　Britain to target multinationals evading tax 語彙テスト ●第 1 回授業専用ノートの提出 （第 2 回～第 4 回授業）	＜クラス①＞ 【予習】 ・教科書の 20-25 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 【復習】 ・教科書の 20-25 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 5 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。 ＜クラス②＞ 〇事前学修 ・教科書の 22-23 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・語彙テストに向けた学修を行う。 〇事後学修 ・教科書の 22-25 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 5 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	4 時間
第６回	対面	＜クラス①＞ 外交（2） ＜クラス②＞ Unit 3 Humanitarian Aid ―人道支援― Part A : 国連ニュースを読む　Philippines: UN humanitarian chief urges donors to increase aid for typhoon recovery 語彙テスト	＜クラス①＞ 【予習】 ・教科書の 26-31 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 【復習】 ・教科書の 26-31 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 6 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。 ＜クラス②＞ 〇事前学修 ・教科書の 27-28 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・語彙テストに向けた学修を行う。	4 時間

			○事後学修 ・教科書の 26-29 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 6 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	
第７回	対面	＜クラス①＞ Mid-semester review and quiz 第 1 回 － 第 6 回：授業のまとめと振り返り。 ●第 2 回授業専用ノートの提出 （第 5 回目の授業と第 6 回目の授業で学んだことや質問を書いた自分のノートを提出しなければなりません。） 成績評価の 10% 「成績評価の方法・基準」の「その他の内容」を確認する。 ＜クラス②＞ 中間レビュークイズ	＜クラス①＞ 【予習】 ・第 1 回 － 第 6 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・教科書の 1-31 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 【復習】 ・第 7 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を復習する。 ・授業で得た知識を確認する。 ＜クラス②＞ ○事前学修 ・中間レビュークイズに向けた学修を行う。 ○事後学修 ・中間レビュークイズで分からなかったことを授業専用ノートにまとめておく。	4 時間
第８回	対面	＜クラス①＞ 1 つの世界、多くの主体（1） ＜クラス②＞ Unit 3 Humanitarian Aid ―人道支援― Part B : The Japan Times を読む　North aid contingent on abductees 語彙テスト ●第 2 回授業専用ノートの提出 （第 5 回～第 7 回授業）	＜クラス①＞ 【予習】 ・教科書の 32-37 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 【復習】 ・教科書の 32-37 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 8 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。 ＜クラス②＞ ○事前学修 ・教科書の 30-31 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・語彙テストに向けた学修を行う。 ○事後学修 ・教科書の 30-33 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 8 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	4 時間
第９回	対面	＜クラス①＞ 1 つの世界、多くの主体（2） ＜クラス②＞ Unit 4 Environment ―環境― Part A : 国連ニュースを読む　Former	＜クラス①＞ 【予習】 ・教科書の 38-41 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。	4 時間

		New York Mayor Bloomberg named Ban’s envoy for cities and climate change 語彙テスト	【復習】 ・教科書の 38-41 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 9 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。 ＜クラス②＞ 〇事前学修 ・教科書の 35 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・語彙テストに向けた学修を行う。 〇事後学修 ・教科書の 34-37 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 9 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	
第１０回	対面	＜クラス①＞ 1 つの世界、多くの主体（3） ＜クラス②＞ Unit 4 Environment ―環境― Part B : The Japan Times を読む　Tokyo cuts CO2 emissions but hoards credits 語彙テスト	＜クラス①＞ 【予習】 ・教科書の 41-44 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 【復習】 ・教科書の 41-44 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 10 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。 ＜クラス②＞ 〇事前学修 ・教科書の 38-39 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・語彙テストに向けた学修を行う。 〇事後学修 ・教科書の 38-41 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 10 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	4 時間
第１１回	対面	＜クラス①＞ 国際関係理論（1） ●第 3 回授業専用ノートの提出 （第 8 回目の授業から第 10 回目の授業で学んだことや質問を書いた自分のノートを提出しなければなりません。） 成績評価の 10% 「成績評価の方法・基準」の「その他の内容」を確認する。	＜クラス①＞ 【予習】 ・教科書の 46-49 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 【復習】 ・教科書の 46-49 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 11 回授業の自分のメモを完成させて復習する。	4 時間

		＜クラス②＞ Unit 5 Human Rights ―人権― Part A : 国連ニュースを読む　DPR Korea human rights report elicits concern from senior UN Officials 語彙テスト ●第 3 回授業専用ノートの提出 （第 8 回～第 10 回授業）	・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。 ＜クラス②＞ 〇事前学修 ・教科書の 43-44 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・語彙テストに向けた学修を行う。 〇事後学修 ・教科書の 42-45 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 11 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	
第１２回	対面	＜クラス①＞ 国際関係理論（2） ＜クラス②＞ Unit 5 Human Rights ―人権― Part B : The Japan Times を読む　Malala’s fight for girls’ education 語彙テスト	＜クラス①＞ 【予習】 ・教科書の 50-53 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 【復習】 ・教科書の 50-53 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 12 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。 ＜クラス②＞ 〇事前学修 ・教科書の 46-47 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・語彙テストに向けた学修を行う。 〇事後学修 ・教科書の 46-49 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 12 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	4 時間
第１３回	対面	＜クラス①＞ 国際関係理論（3） ＜クラス②＞ 「国連ニュース」を読む	＜クラス①＞ 【予習】 ・教科書の 54-56 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 【復習】 ・教科書の 54-56 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 13 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	4 時間

			＜クラス②＞ 〇事前学修 ・UN News（ https://www.un.org/en/）を閲覧しておく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 〇事後学修 ・興味のある国連ニュースを選び、読んで内容を理解する。 ・第 13 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	
第１４回	対面	＜クラス①＞ 国際法（1） ●第 4 回授業専用ノートの提出 （第 11 回目の授業から第 13 回目の授業で学んだことや質問を書いた自分のノートを提出しなければなりません。） 成績評価の 10% 「成績評価の方法・基準」の「その他の内容」を確認する。 ＜クラス②＞ 期末レビュークイズ ●第 4 回授業専用ノートの提出 （第 11 回～第 13 回授業）	＜クラス①＞ 【予習】 ・教科書の 57-61 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 【復習】 ・教科書の 57-61 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 14 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。 ＜クラス②＞ 〇事前学修 ・期末レビュークイズに向けた学修を行う。 〇事後学修 ・期末レビュークイズで分からなかったことを授業専用ノートにまとめておく。	4 時間
第１５回	オンデマンド	＜クラス①＞ End-semester review and quiz 第 11 回 － 第 14 回：授業のまとめと振り返り。 ＜クラス②＞ 総復習	＜クラス①＞ 授業のまとめ 【予習】 ・第 11 回から第 14 回まで授業の自分のメモを復習する。 ・第 11 回から第 14 回までの語彙リストを復習する。 【復習】 ・第 15 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業で得た知識を確認する。 ＜クラス②＞ 授業のまとめ 〇事前学修 ・第 2 回から第 14 回まで授業の自分のメモを復習する。 ・第 2 回から第 14 回までの語彙リストを復習する。 〇事後学修 ・第 15 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業で得た知識を確認する。	4 時間

科目名	Readings for International Studies I	開講年度	2025
担当者	ボイキン　舞	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	国際学に関する学術的な文献を読み解き、アカデミックイングリッシュを身に付ける		
授業の目的及び概要	国際学に関する諸領域の基礎資料となる国連決議、経済白書、学術論文等を英語で正確に読み解いていきます。英語で書かれた様々な学術的文書を扱うことで、アカデミックイングリッシュ力を向上させ、自身の専門領域に関する知識の深化に向けて、幅広い参考資料を利用できるようになることを目的とします。授業では文献講読に加え、英語で書かれた学術文書の探し方や基本的な論理の組み立てられ方についても学ぶとともに、ジェネラルイングリッシュと比較しながらどのような語彙や言い回しが使われているのかについても考え、アカデミックイングリッシュ独特の表現方法を身に付けていきます。		
履修条件・留意点	以下のとおり、TOEIC スコア 600 を基準に２クラス開講します。自分のスコアに合わせて履修をしてください。 クラス①：TOEIC 600 以上 Only English is used in class & for assessment. Using another person’s ideas or work & pretending that it is your own, or using content produced by ChatGPT, Grammarly’s AI writer, or another generative AI tool for writing & content creation you will be given unsatisfactory（不可）grade. ※授業や評価を含め全て英語で行われます クラス②：TOEIC 600 未満		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・学術的文書で使われる基本的な語彙や言い回しを理解することができる ・自身の関心があるトピックに関する英語で書かれた学術的文書を探すことができる ・辞書などを用いれば、英語で書かれた学術的文書を読み解くことができる ・英語で書かれた学術的文書の内容を要約することができる		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回、授業後に Reflection Sheet を記入し提出。翌週の授業冒頭で共有し、質問への回答や補足説明を行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラス① International Relations, McGlinchey＆Stephen, E-International Relations,　2017 クラス② 国際情勢を考える 国連ニュースで読む世界 From the UN News Centre,　武藤　克彦他, 三修社,　2015 年	ISBN	クラス① 978-1-910814-18-5 クラス② 978-4-384-33450-0
参考書	資料は適宜、配布します。	ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
	成果発表（口頭・実技）	0

	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	90
	その他の内容	授業専用ノートの提出（10%×4 回） 中間レビュークイズ・期末レビュークイズ（25%×2 回）
この科目の受講にあたって	授業内ではテキストを使用し、英語で書かれた学術的文書を読んでいきます。難しい語彙が多く出てくるため、専用ノートを一冊用意し、毎回新しい用語を自分の語彙リストに書き込むこと、また毎回授業のメモをノートに書く事が求められます。テキストを使ったリーディングに慣れてから、自身の専門領域に関する資料を探し、最新の情報を読んでいきます。授業内では英語による積極的な参加が求められます。しっかりとした準備が必要となりますが、間違いを恐れず、ディスカッションに活発に参加してください。 授業中スマートフォンの使用は禁止です。許可なく使用していると、クラスから退席することになります。 盗用・剽窃、また、オンライン/自動翻訳の使用は固く禁止されています。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	（授業計画は、授業を進める中で変更される事があります。） ＜クラス①＞ Introduction to the course 科目の紹介 ＜クラス②＞ オリエンテーション	＜クラス①＞ 【予習】 ・read the course syllabus ・シラバスを読んでおくこと。 ・教科書の 1-6 頁を読んでおく。 【復習】 ・シラバスを読み直し、講義で得た内容を確認しておくこと。 教科書の 1-6 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第１回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用に授業で聞きたい質問を書き留めておく。 ＜クラス②＞ 〇事前学修 ・シラバスを読んでおくこと。 ・教科書の 1-9 頁を読んでおく。 〇事後学修 ・シラバスを読み直し、講義で得た内容を確認しておくこと。 ・第１回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用に授業で聞きたい質問を書き留めておく。	4 時間
第２回	対面	＜クラス①＞ 現代世界の成り立ち（1） ＜クラス②＞ Unit 1 Peace and Security ―平和・安全保障― Part A：国連ニュースを読む　Security Council, senior UN officials say conflict parties must respect, protect civilians	＜クラス①＞ 【予習】 ・教科書の 8-11 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 【復習】 ・教科書の 8-11 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 2 回授業の自分のメモを完成させて復習する。	4 時間

		語彙テスト	・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。 ＜クラス②＞ 〇事前学修 ・教科書の 11-12 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・語彙テストに向けた学修を行う。 〇事後学修 ・教科書の 10-13 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 2 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	
第３回	対面	＜クラス①＞ 現代世界の成り立ち（2） ＜クラス②＞ Unit 1 Peace and Security ―平和・安全保障― Part B：The Japan Times を読む　New map shines light on Tokyo air raid horrors: Scholars record wartime history politicians would rather forget 語彙テスト	＜クラス①＞ 【予習】 ・教科書の 12-15 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 【復習】 ・教科書の 12-15 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 3 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。 ＜クラス②＞ 〇事前学修 ・教科書の 14-15 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・語彙テストに向けた学修を行う。 〇事後学修 ・教科書の 14-17 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 3 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	4 時間
第４回	対面	＜クラス①＞ 現代世界の成り立ち（3） ＜クラス②＞ Unit 2 Economic Development ―経済開発― Part A：国連ニュースを読む　Illicit financial outflows from Africa crippling continent’s development - UN 語彙テスト	＜クラス①＞ 【予習】 ・教科書の 16-19 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 【復習】 ・教科書の 16-19 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 4 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	4 時間

			＜クラス②＞ 〇事前学修 ・教科書の 19-20 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・語彙テストに向けた学修を行う。 〇事後学修 ・教科書の 18-21 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 4 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	
第５回	対面	＜クラス①＞ 外交（1） ●第 1 回授業専用ノートの提出 （第 1 回目の授業から第 4 回目の授業までに学んだことや質問を書いた自分のノートを提出しなければなりません。） 成績評価の 10% 「成績評価の方法・基準」の「その他の内容」を確認する。 ＜クラス②＞ Unit 2 Economic Development ―経済開発― Part B : The Japan Times を読む　Britain to target multinationals evading tax 語彙テスト ●第 1 回授業専用ノートの提出 （第 2 回～第 4 回授業）	＜クラス①＞ 【予習】 ・教科書の 20-25 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 【復習】 ・教科書の 20-25 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 5 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。 ＜クラス②＞ 〇事前学修 ・教科書の 22-23 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・語彙テストに向けた学修を行う。 〇事後学修 ・教科書の 22-25 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 5 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	4 時間
第６回	対面	＜クラス①＞ 外交（2） ＜クラス②＞ Unit 3 Humanitarian Aid ―人道支援― Part A : 国連ニュースを読む　Philippines: UN humanitarian chief urges donors to increase aid for typhoon recovery 語彙テスト	＜クラス①＞ 【予習】 ・教科書の 26-31 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 【復習】 ・教科書の 26-31 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 6 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。 ＜クラス②＞ 〇事前学修 ・教科書の 27-28 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き	4 時間

			込む。 ・語彙テストに向けた学修を行う。 〇事後学修 ・教科書の 26-29 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 6 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	
第７回	対面	＜クラス①＞ Mid-semester review and quiz 第 1 回 － 第 6 回：授業のまとめと振り返り。 ●第 2 回授業専用ノートの提出 （第 5 回目の授業と第 6 回目の授業で学んだことや質問を書いた自分のノートを提出しなければなりません。） 成績評価の 10% 「成績評価の方法・基準」の「その他の内容」を確認する。 ＜クラス②＞ 中間レビュークイズ	＜クラス①＞ 【予習】 ・第 1 回 － 第 6 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・教科書の 1-31 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 【復習】 ・第 7 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を復習する。 ・授業で得た知識を確認する。 ＜クラス②＞ 〇事前学修 ・中間レビュークイズに向けた学修を行う。 〇事後学修 ・中間レビュークイズで分からなかったことを授業専用ノートにまとめておく。	4 時間
第８回	対面	＜クラス①＞ 1 つの世界、多くの主体（1） ＜クラス②＞ Unit 3 Humanitarian Aid ―人道支援― Part B : The Japan Times を読む　North aid contingent on abductees 語彙テスト ●第 2 回授業専用ノートの提出 （第 5 回～第 7 回授業）	＜クラス①＞ 【予習】 ・教科書の 32-37 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 【復習】 ・教科書の 32-37 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 8 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。 ＜クラス②＞ 〇事前学修 ・教科書の 30-31 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・語彙テストに向けた学修を行う。 〇事後学修 ・教科書の 30-33 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 8 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	4 時間
第９回	対面	＜クラス①＞ 1 つの世界、多くの主体（2） ＜クラス②＞	＜クラス①＞ 【予習】 ・教科書の 38-41 頁を読んでおく。	4 時間

		Unit 4 Environment ―環境― Part A : 国連ニュースを読む　Former New York Mayor Bloomberg named Ban's envoy for cities and climate change 語彙テスト	・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 【復習】 ・教科書の 38-41 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 9 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。 ＜クラス②＞ 〇事前学修 ・教科書の 35 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・語彙テストに向けた学修を行う。 〇事後学修 ・教科書の 34-37 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 9 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	
第１０回	対面	＜クラス①＞ 1 つの世界、多くの主体（3） ＜クラス②＞ Unit 4 Environment ―環境― Part B : The Japan Times を読む　Tokyo cuts CO2 emissions but hoards credits 語彙テスト	＜クラス①＞ 【予習】 ・教科書の 41-44 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 【復習】 ・教科書の 41-44 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 10 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。 ＜クラス②＞ 〇事前学修 ・教科書の 38-39 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・語彙テストに向けた学修を行う。 〇事後学修 ・教科書の 38-41 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 10 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	4 時間
第１１回	対面	＜クラス①＞ 国際関係理論（1） ●第 3 回授業専用ノートの提出 （第 8 回目の授業から第 10 回目の授業で学んだことや質問を書いた自分のノートを提出しなければなりません。） 成績評価の 10%	＜クラス①＞ 【予習】 ・教科書の 46-49 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 【復習】 ・教科書の 46-49 頁を復習し、授業で得た知識を確認	4 時間

		「成績評価の方法・基準」の「その他の内容」を確認する。 ＜クラス②＞ Unit 5 Human Rights ―人権― Part A : 国連ニュースを読む　DPR Korea human rights report elicits concern from senior UN Officials 語彙テスト ●第 3 回授業専用ノートの提出 （第 8 回～第 10 回授業）	する。 ・第 11 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。 ＜クラス②＞ 〇事前学修 ・教科書の 43-44 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・語彙テストに向けた学修を行う。 〇事後学修 ・教科書の 42-45 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 11 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	
第１２回	対面	＜クラス①＞ 国際関係理論（2） ＜クラス②＞ Unit 5 Human Rights ―人権― Part B : The Japan Times を読む　Malala’s fight for girls’ education 語彙テスト	＜クラス①＞ 【予習】 ・教科書の 50-53 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 【復習】 ・教科書の 50-53 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 12 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。 ＜クラス②＞ 〇事前学修 ・教科書の 46-47 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・語彙テストに向けた学修を行う。 〇事後学修 ・教科書の 46-49 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 12 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	4 時間
第１３回	対面	＜クラス①＞ 国際関係理論（3） ＜クラス②＞ 「国連ニュース」を読む	＜クラス①＞ 【予習】 ・教科書の 54-56 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 【復習】 ・教科書の 54-56 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 13 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。	4 時間

			・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。 ＜クラス②＞ 〇事前学修 ・UN News（https://www.un.org/en/）を閲覧しておく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 〇事後学修 ・興味のある国連ニュースを選び、読んで内容を理解する。 ・第 13 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	
第１４回	対面	＜クラス①＞ 国際法（1） ●第 4 回授業専用ノートの提出 （第 11 回目の授業から第 13 回目の授業で学んだことや質問を書いた自分のノートを提出しなければなりません。） 成績評価の 10% 「成績評価の方法・基準」の「その他の内容」を確認する。 ＜クラス②＞ 期末レビュークイズ ●第 4 回授業専用ノートの提出 （第 11 回～第 13 回授業）	＜クラス①＞ 【予習】 ・教科書の 57-61 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 【復習】 ・教科書の 57-61 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 14 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。 ＜クラス②＞ 〇事前学修 ・期末レビュークイズに向けた学修を行う。 〇事後学修 ・期末レビュークイズで分からなかったことを授業専用ノートにまとめておく。	4 時間
第１５回	オンデマンド	＜クラス①＞ End-semester review and quiz 第 11 回 － 第 14 回：授業のまとめと振り返り。 ＜クラス②＞ 総復習	＜クラス①＞ 授業のまとめ 【予習】 ・第 11 回から第 14 回まで授業の自分のメモを復習する。 ・第 11 回から第 14 回までの語彙リストを復習する。 【復習】 ・第 15 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業で得た知識を確認する。 ＜クラス②＞ 授業のまとめ 〇事前学修 ・第 2 回から第 14 回まで授業の自分のメモを復習する。 ・第 2 回から第 14 回までの語彙リストを復習する。 〇事後学修 ・第 15 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業で得た知識を確認する。	4 時間

科目名	Readings for International Studies Ⅱ	開講年度	2025
担当者	木村　彩音	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	国際学に関する学術的な文献を読み解き、アカデミックイングリッシュを身に付ける		
授業の目的及び概要	この授業は春学期に引き続き、国際学に関する諸領域の基礎資料となる国連決議、経済白書、学術論文等を英語で正確に読み解いていきます。英語で書かれた様々な学術的文書を扱うことで、アカデミックイングリッシュ力を向上させ、自身の専門領域に関する知識の深化に向けて、幅広い参考資料を利用できるようになることを目的とします。授業では文献講読に加え、英語で書かれた学術文書の探し方や基本的な論理の組み立てられ方についても学ぶとともに、ジェネラルイングリッシュと比較しながらどのような語彙や言い回しが使われているのかについても考え、アカデミックイングリッシュ独特の表現方法を身に付けていきます。 ※「Readings for International Studies Ⅰ」を履修していることが望ましい。		
履修条件・留意点	以下のとおり、TOEIC スコア 600 を基準に２クラス開講します。自分のスコアに合わせて履修をしてください。 クラス①：TOEIC 600 以上 Only English is used in class & for assessment. Using another person’s ideas or work & pretending that it is your own, or using content produced by ChatGPT, Grammarly’s AI writer, or another generative AI tool for writing & content creation you will be given unsatisfactory（不可）grade. 英語を主体とする授業ですが、適宜日本語も用います。 クラス②：TOEIC 600 未満		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・学術的文書で使われる基本的な語彙や言い回しを理解することができる ・自身の関心があるトピックに関する英語で書かれた学術的文書を探すことができる ・辞書などを用いれば、英語で書かれた学術的文書を読み解くことができる ・英語で書かれた学術的文書の内容を要約することができる		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回、授業後に Reflection Sheet を記入し提出。翌週の授業冒頭で共有し、質問への回答や補足説明を行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラス① International Relations, McGlinchey＆Stephen, E-International Relations, 2017 クラス② 国際情勢を考える 国連ニュースで読む世界 From the UN News Centre, 武藤 克彦他, 三修社, 2015 年	ISBN	クラス① 978-1-910814-18-5 クラス② 978-4-384-33450-0
参考書	資料は適宜、配布します。	ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
	成果発表（口頭・実技）	0

	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	90
	その他の内容	授業専用ノートの提出（10%×4 回） 中間レビュークイズ・期末レビュークイズ（25%×2 回）
この科目の受講にあたって	授業内ではテキストを使用し、英語で書かれた学術的文書を読んでいきます。難しい語彙が多く出てくるため、専用ノートを一冊用意し、毎回新しい用語を自分の語彙リストに書き込むこと、また毎回授業のメモをノートに書く事が求められます。テキストを使ったリーディングに慣れてから、自身の専門領域に関する資料を探し、最新の情報を読んでいきます。授業内では英語による積極的な参加が求められます。しっかりとした準備が必要となりますが、間違いを恐れず、ディスカッションに活発に参加してください。 授業中スマートフォンの使用は禁止です。許可なく使用していると、クラスから退席することになります。 盗用・剽窃、また、オンライン/自動翻訳の使用は固く禁止されています。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	（授業計画は、授業を進める中で変更される事があります。） ＜クラス①＞ Introduction to the course 科目の紹介 ＜クラス②＞ オリエンテーション	＜クラス①＞ 【予習】 ・read the course syllabus ・シラバスを読んでおくこと。 ・教科書の 1-6 頁を読んでおく。 【復習】 ・シラバスを読み直し、講義で得た内容を確認しておくこと。 教科書の 1-6 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第１回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。 ＜クラス②＞ 〇事前学修 ・シラバスを読んでおくこと。 ・教科書の 1-9 頁を読んでおく。 〇事後学修 ・シラバスを読み直し、講義で得た内容を確認しておくこと。 ・第１回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用に授業で聞きたい質問を書き留めておく。	4 時間
第２回	対面	＜クラス①＞ 国際機関（1） ＜クラス②＞ Unit 6 UN Affairs, Secretary-General ―国連活動・国連事務総長― Part A ： 国連ニュースを読む　Launching scientific advisory board, Ban urges bridging gap between science, poli	＜クラス①＞ 【予習】 ・教科書の 71-73 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 【復習】 ・教科書の 71-73 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。	4 時間

		cy 語彙テスト	・第 2 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。 ＜クラス②＞ 〇事前学修 ・教科書の 51-52 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・語彙テストに向けた学修を行う。 〇事後学修 ・教科書の 50-53 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 2 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	
第３回	対面	＜クラス①＞ 国際機関（2） ＜クラス②＞ Unit 6 UN Affairs, Secretary-General ―国連活動・国連事務総長― Part B : The Japan Times を読む　Tepco tech chief disputes Abe's 'under control' assertion 語彙テスト	＜クラス①＞ 【予習】 ・教科書の 74-77 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 【復習】 ・教科書の 74-77 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 3 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。 ＜クラス②＞ 〇事前学修 ・教科書の 54-55 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・語彙テストに向けた学修を行う。 〇事後学修 ・教科書の 54-57 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 3 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	4 時間
第４回	対面	＜クラス①＞ グローバルな市民社会（1） ＜クラス②＞ Unit 7 Women, Children, Population ―女性・子ども・人口― Part A : 国連ニュースを読む　Ban pledges UN commitment to advancing gender equality, women's empowerment	＜クラス①＞ 【予習】 ・教科書の 78-81 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 【復習】 ・教科書の 78-81 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 4 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き	4 時間

		語彙テスト	留めておく。 ＜クラス②＞ 〇事前学修 ・教科書の 59-60 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・語彙テストに向けた学修を行う。 〇事後学修 ・教科書の 58-61 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 4 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	
第５回	対面	＜クラス①＞ グローバルな市民社会（2） ＜クラス②＞ Unit 7 Women, Children, Population ―女性・子ども・人口― Part B : The Japan Times を読む　Hiring more women seen as answer to economic malaise: 'Womenomics' pushed as fix for population woes 語彙テスト ●第 1 回授業専用ノートの提出 （第 2 回～第 4 回授業）	＜クラス①＞ 【予習】 ・教科書の 82-85 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 【復習】 ・教科書の 82-85 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 5 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。 ＜クラス②＞ 〇事前学修 ・教科書の 62-63 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・語彙テストに向けた学修を行う。 〇事後学修 ・教科書の 62-65 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 5 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	4 時間
第６回	対面	＜クラス①＞ グローバル政治経済（1） ●第 1 回授業専用ノートの提出 （第 1 回目の授業から第 5 回目の授業までに学んだことや質問を書いた自分のノートを提出しなければなりません。） 成績評価の 10% 「成績評価の方法・基準」の「その他の内容」を確認する。 ＜クラス②＞ Unit 8 Law, Crime Prevention ―法律・犯罪防止― Part A : 国連ニュースを読む　New UN campaign spotlights links between organized crime and counterfeit goods	＜クラス①＞ 【予習】 ・教科書の 26-31 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 【復習】 ・教科書の 26-31 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 6 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。 ＜クラス②＞ 〇事前学修 ・教科書の 67-68 頁を読んでおく。	4 時間

		語彙テスト	・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・語彙テストに向けた学修を行う。 〇事後学修 ・教科書の 66-69 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 6 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	
第７回	対面	＜クラス①＞ グローバル政治経済（2） ＜クラス②＞ 中間レビュークイズ	＜クラス①＞ 【予習】 ・教科書の 32-37 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 【復習】 ・教科書の 32-37 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 8 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。 ＜クラス②＞ 〇事前学修 ・中間レビュークイズに向けた学修を行う。 〇事後学修 ・中間レビュークイズで分からなかったことを授業専用ノートにまとめておく。	4 時間
第８回	対面	＜クラス①＞ Mid-semester review and quiz 第 1 回 － 第 7 回：授業のまとめとむけた振り返り。 ●第 2 回授業専用ノートの提出 （第 6 回目の授業と第 7 回目の授業で学んだことや質問を書いた自分のノートを提出しなければなりません。） 成績評価の 10% 「成績評価の方法・基準」の「その他の内容」を確認する。 ＜クラス②＞ Unit 8 Law, Crime Prevention ―法律・犯罪防止― Part B : The Japan Times を読む　Afghan opium output soars to record: UNODC 語彙テスト ●第 2 回授業専用ノートの提出 （第 5 回～第 7 回授業）	＜クラス①＞ 【予習】 ・第 1 回 － 第 7 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストを完成させて復習する。 ・教科書の 1-31 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 【復習】 ・第 8 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を復習する。 ・授業で得た知識を確認する。 ＜クラス②＞ 〇事前学修 ・教科書の 70-71 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・語彙テストに向けた学修を行う。 〇事後学修 ・教科書の 70-73 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 8 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	4 時間
第９回	対面	＜クラス①＞ グローバル政治経済（1）	＜クラス①＞ 【予習】	4 時間

		＜クラス②＞ Unit 9 Health ―健康・医療― Part A : 国連ニュースを読む　On World Diabetes Day, Ban urges greater access to healthy foods, physical activity 語彙テスト	・教科書の 87-89 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 【復習】 ・教科書の 87-89 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 9 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。 ＜クラス②＞ 〇事前学修 ・教科書の 75 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・語彙テストに向けた学修を行う。 〇事後学修 ・教科書の 74-77 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 9 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	
第１０回	対面	＜クラス①＞ グローバル政治経済（2） ＜クラス②＞ Unit 9 Health ―健康・医療― Part B : The Japan Times を読む　Veggie-heavy diet and yoga shown to slow cell aging 語彙テスト	＜クラス①＞ 【予習】 ・教科書の 90-93 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 【復習】 ・教科書の 90-93 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 10 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。 ＜クラス②＞ 〇事前学修 ・教科書の 78-79 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・語彙テストに向けた学修を行う。 〇事後学修 ・教科書の 78-81 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 10 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	4 時間
第１１回	対面	＜クラス①＞ グローバル政治経済（3） ＜クラス②＞ Unit 10 Culture, Education ―文化・教育― Part A : 国連ニュースを読む　On Inte	＜クラス①＞ 【予習】 ・教科書の 94-97 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 【復習】	4 時間

		rnational Day, UN urges support for ‘Mother Languages’, linguistic diversity 語彙テスト ●第 3 回授業専用ノートの提出 （第 8 回～第 10 回授業）	・教科書の 94-97 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 11 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。 ＜クラス②＞ 〇事前学修 ・教科書の 83-84 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・語彙テストに向けた学修を行う。 〇事後学修 ・教科書の 82-85 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 11 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	
第１２回	対面	＜クラス①＞ 宗教と文化（1） ●第 3 回授業専用ノートの提出 （第 8 回目の授業から第 11 回目の授業で学んだことや質問を書いた自分のノートを提出しなければなりません。） 成績評価の 10% 「成績評価の方法・基準」の「その他の内容」を確認する。 ＜クラス②＞ Unit 10 Culture, Education ―文化・教育― Part B : The Japan Times を読む　English-language education proposal has French up in arms 語彙テスト	＜クラス①＞ 【予習】 ・教科書の 98-101 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 【復習】 ・教科書の 98-101 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 12 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。 ＜クラス②＞ 〇事前学修 ・教科書の 86-87 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・語彙テストに向けた学修を行う。 〇事後学修 ・教科書の 86-89 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 12 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	4 時間
第１３回	対面	＜クラス①＞ 宗教と文化（2） ＜クラス②＞ 「国連ニュース」を読む	＜クラス①＞ 【予習】 ・教科書の 102-105 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 【復習】 ・教科書の 102-105 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 13 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き	4 時間

			込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。 ＜クラス②＞ 〇事前学修 ・UN News（ https://www.un.org/en/）を閲覧しておく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 〇事後学修 ・興味のある国連ニュースを選び、読んで内容を理解する。 ・第 13 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	
第１４回	対面	＜クラス①＞ 宗教と文化（3） ●第 4 回授業専用ノートの提出 （第 12 回目の授業から第 13 回目の授業で学んだことや質問を書いた自分のノートを提出しなければなりません。） 成績評価の 10% 「成績評価の方法・基準」の「その他の内容」を確認する。 ＜クラス②＞ 期末レビュークイズ ●第 4 回授業専用ノートの提出 （第 11 回～第 13 回授業）	＜クラス①＞ 【予習】 ・教科書の 106-111 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 【復習】 ・教科書の 106-111 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 14 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。 ＜クラス②＞ 〇事前学修 ・期末レビュークイズに向けた学修を行う。 〇事後学修 ・期末レビュークイズで分からなかったことを授業専用ノートにまとめておく。	4 時間
第１５回	オンデマンド	＜クラス①＞ End-semester review and quiz 第 9 回 – 第 14 回：授業のまとめと振り返り。 ＜クラス②＞ 総復習	授業のまとめ ＜クラス①＞ 【予習】 ・第 9 回から第 14 回まで授業の自分のメモを復習する。 ・第 9 回から第 14 回までの語彙リストを復習する。 【復習】 ・第 15 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業で得た知識を確認する。 ＜クラス②＞ 〇事前学修 ・第 2 回から第 14 回まで授業の自分のメモを復習する。 ・第 2 回から第 14 回までの語彙リストを復習する。 〇事後学修 ・第 15 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業で得た知識を確認する。	4 時間

科目名	Readings for International Studies Ⅱ	開講年度	2025
担当者	ボイキン　舞	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	国際学に関する学術的な文献を読み解き、アカデミックイングリッシュを身に付ける		
授業の目的及び概要	この授業は春学期に引き続き、国際学に関する諸領域の基礎資料となる国連決議、経済白書、学術論文等を英語で正確に読み解いていきます。英語で書かれた様々な学術的文書を扱うことで、アカデミックイングリッシュ力を向上させ、自身の専門領域に関する知識の深化に向けて、幅広い参考資料を利用できるようになることを目的とします。授業では文献講読に加え、英語で書かれた学術文書の探し方や基本的な論理の組み立てられ方についても学ぶとともに、ジェネラルイングリッシュと比較しながらどのような語彙や言い回しが使われているのかについても考え、アカデミックイングリッシュ独特の表現方法を身に付けていきます。 ※「Readings for International Studies Ⅰ」を履修していることが望ましい。		
履修条件・留意点	以下のとおり、TOEIC スコア 600 を基準に２クラス開講します。自分のスコアに合わせて履修をしてください。 クラス①：TOEIC 600 以上　※授業や評価を含め全て英語で行われます Only English is used in class & for assessment. Using another person’s ideas or work & pretending that it is your own, or using content produced by ChatGPT, Grammarly’s AI writer, or another generative AI tool for writing & content creation you will be given unsatisfactory（不可）grade. ※授業や評価を含め全て英語で行われます クラス②：TOEIC 600 未満		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・学術的文書で使われる基本的な語彙や言い回しを理解することができる ・自身の関心があるトピックに関する英語で書かれた学術的文書を探すことができる ・辞書などを用いれば、英語で書かれた学術的文書を読み解くことができる ・英語で書かれた学術的文書の内容を要約することができる		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回、授業後に Reflection Sheet を記入し提出。翌週の授業冒頭で共有し、質問への回答や補足説明を行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラス① International Relations, McGlinchey＆Stephen, E-International Relations,　2017 クラス② 国際情勢を考える 国連ニュースで読む世界 From the UN News Centre,　武藤　克彦他, 三修社,　2015 年	ISBN	クラス① 978-1-910814-18-5 クラス② 978-4-384-33450-0
参考書	資料は適宜、配布します。	ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
	成果発表（口頭・実技）	0

	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	90
	その他の内容	授業専用ノートの提出（10%×4 回） 中間レビュークイズ・期末レビュークイズ（25%×2 回）
この科目の受講にあたって	授業内ではテキストを使用し、英語で書かれた学術的文書を読んでいきます。難しい語彙が多く出てくるため、専用ノートを一冊用意し、毎回新しい用語を自分の語彙リストに書き込むこと、また毎回授業のメモをノートに書く事が求められます。テキストを使ったリーディングに慣れてから、自身の専門領域に関する資料を探し、最新の情報を読んでいきます。授業内では英語による積極的な参加が求められます。しっかりとした準備が必要となりますが、間違いを恐れず、ディスカッションに活発に参加してください。 授業中スマートフォンの使用は禁止です。許可なく使用していると、クラスから退席することになります。 盗用・剽窃、また、オンライン/自動翻訳の使用は固く禁止されています。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	（授業計画は、授業を進める中で変更される事があります。） ＜クラス①＞ Introduction to the course 科目の紹介 ＜クラス②＞ オリエンテーション	＜クラス①＞ 【予習】 ・read the course syllabus ・シラバスを読んでおくこと。 ・教科書の 1-6 頁を読んでおく。 【復習】 ・シラバスを読み直し、講義で得た内容を確認しておくこと。 教科書の 1-6 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第１回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。 ＜クラス②＞ 〇事前学修 ・シラバスを読んでおくこと。 ・教科書の 1-9 頁を読んでおく。 〇事後学修 ・シラバスを読み直し、講義で得た内容を確認しておくこと。 ・第１回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用に授業で聞きたい質問を書き留めておく。	4 時間
第２回	対面	＜クラス①＞ 国際機関（1） ＜クラス②＞ Unit 6 UN Affairs, Secretary-General ―国連活動・国連事務総長― Part A ： 国連ニュースを読む　Launching scientific advisory board, Ban urges bridging gap between science, poli	＜クラス①＞ 【予習】 ・教科書の 71-73 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 【復習】 ・教科書の 71-73 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。	4 時間

		cy 語彙テスト	・第 2 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。 ＜クラス②＞ 〇事前学修 ・教科書の 51-52 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・語彙テストに向けた学修を行う。 〇事後学修 ・教科書の 50-53 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 2 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	
第３回	対面	＜クラス①＞ 国際機関（2） ＜クラス②＞ Unit 6 UN Affairs, Secretary-General ―国連活動・国連事務総長― Part B : The Japan Times を読む　Tepco tech chief disputes Abe's 'under control' assertion 語彙テスト	＜クラス①＞ 【予習】 ・教科書の 74-77 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 【復習】 ・教科書の 74-77 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 3 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。 ＜クラス②＞ 〇事前学修 ・教科書の 54-55 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・語彙テストに向けた学修を行う。 〇事後学修 ・教科書の 54-57 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 3 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	4 時間
第４回	対面	＜クラス①＞ グローバルな市民社会（1） ＜クラス②＞ Unit 7 Women, Children, Population ―女性・子ども・人口― Part A : 国連ニュースを読む　Ban pledges UN commitment to advancing gender equality, women's empowerment	＜クラス①＞ 【予習】 ・教科書の 78-81 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 【復習】 ・教科書の 78-81 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 4 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き	4 時間

		語彙テスト	留めておく。 ＜クラス②＞ 〇事前学修 ・教科書の 59-60 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・語彙テストに向けた学修を行う。 〇事後学修 ・教科書の 58-61 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 4 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	
第５回	対面	＜クラス①＞ グローバルな市民社会（2） ＜クラス②＞ Unit 7 Women, Children, Population ―女性・子ども・人口― Part B : The Japan Times を読む　Hiring more women seen as answer to economic malaise: 'Womenomics' pushed as fix for population woes 語彙テスト ●第 1 回授業専用ノートの提出 （第 2 回～第 4 回授業）	＜クラス①＞ 【予習】 ・教科書の 82-85 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 【復習】 ・教科書の 82-85 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 5 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。 ＜クラス②＞ 〇事前学修 ・教科書の 62-63 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・語彙テストに向けた学修を行う。 〇事後学修 ・教科書の 62-65 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 5 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	4 時間
第６回	対面	＜クラス①＞ グローバル政治経済（1） ●第 1 回授業専用ノートの提出 （第 1 回目の授業から第 5 回目の授業までに学んだことや質問を書いた自分のノートを提出しなければなりません。） 成績評価の 10% 「成績評価の方法・基準」の「その他の内容」を確認する。 ＜クラス②＞ Unit 8 Law, Crime Prevention ―法律・犯罪防止― Part A : 国連ニュースを読む　New UN campaign spotlights links between organized crime and counterfeit goods	＜クラス①＞ 【予習】 ・教科書の 26-31 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 【復習】 ・教科書の 26-31 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 6 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。 ＜クラス②＞ 〇事前学修 ・教科書の 67-68 頁を読んでおく。	4 時間

		語彙テスト	・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・語彙テストに向けた学修を行う。 〇事後学修 ・教科書の 66-69 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 6 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	
第７回	対面	＜クラス①＞ グローバル政治経済（2） ＜クラス②＞ 中間レビュークイズ	＜クラス①＞ 【予習】 ・教科書の 32-37 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 【復習】 ・教科書の 32-37 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 8 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。 ＜クラス②＞ 〇事前学修 ・中間レビュークイズに向けた学修を行う。 〇事後学修 ・中間レビュークイズで分からなかったことを授業専用ノートにまとめておく。	4 時間
第８回	対面	＜クラス①＞ Mid-semester review and quiz 第 1 回 － 第 7 回：授業のまとめとむけた振り返り。 ●第 2 回授業専用ノートの提出 （第 6 回目の授業と第 7 回目の授業で学んだことや質問を書いた自分のノートを提出しなければなりません。） 成績評価の 10% 「成績評価の方法・基準」の「その他の内容」を確認する。 ＜クラス②＞ Unit 8 Law, Crime Prevention ―法律・犯罪防止― Part B : The Japan Times を読む　Afghan opium output soars to record: UNODC 語彙テスト ●第 2 回授業専用ノートの提出 （第 5 回～第 7 回授業）	＜クラス①＞ 【予習】 ・第 1 回 － 第 7 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストを完成させて復習する。 ・教科書の 1-31 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 【復習】 ・第 8 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を復習する。 ・授業で得た知識を確認する。 ＜クラス②＞ 〇事前学修 ・教科書の 70-71 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・語彙テストに向けた学修を行う。 〇事後学修 ・教科書の 70-73 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 8 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	4 時間
第９回	対面	＜クラス①＞ グローバル政治経済（1）	＜クラス①＞ 【予習】	4 時間

		＜クラス②＞ Unit 9 Health ―健康・医療― Part A : 国連ニュースを読む　On World Diabetes Day, Ban urges greater access to healthy foods, physical activity 語彙テスト	・教科書の 87-89 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 【復習】 ・教科書の 87-89 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 9 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。 ＜クラス②＞ 〇事前学修 ・教科書の 75 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・語彙テストに向けた学修を行う。 〇事後学修 ・教科書の 74-77 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 9 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	
第１０回	対面	＜クラス①＞ グローバル政治経済（2） ＜クラス②＞ Unit 9 Health ―健康・医療― Part B : The Japan Times を読む　Veggie-heavy diet and yoga shown to slow cell aging 語彙テスト	＜クラス①＞ 【予習】 ・教科書の 90-93 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 【復習】 ・教科書の 90-93 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 10 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。 ＜クラス②＞ 〇事前学修 ・教科書の 78-79 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・語彙テストに向けた学修を行う。 〇事後学修 ・教科書の 78-81 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 10 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	4 時間
第１１回	対面	＜クラス①＞ グローバル政治経済（3） ＜クラス②＞ Unit 10 Culture, Education ―文化・教育― Part A : 国連ニュースを読む　On Inte	＜クラス①＞ 【予習】 ・教科書の 94-97 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 【復習】	4 時間

		rnational Day, UN urges support for ‘Mother Languages’, linguistic diversity 語彙テスト ●第 3 回授業専用ノートの提出 （第 8 回～第 10 回授業）	・教科書の 94-97 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 11 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。 ＜クラス②＞ 〇事前学修 ・教科書の 83-84 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・語彙テストに向けた学修を行う。 〇事後学修 ・教科書の 82-85 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 11 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	
第１２回	対面	＜クラス①＞ 宗教と文化（1） ●第 3 回授業専用ノートの提出 （第 8 回目の授業から第 11 回目の授業で学んだことや質問を書いた自分のノートを提出しなければなりません。） 成績評価の 10% 「成績評価の方法・基準」の「その他の内容」を確認する。 ＜クラス②＞ Unit 10 Culture, Education ―文化・教育― Part B : The Japan Times を読む　English-language education proposal has French up in arms 語彙テスト	＜クラス①＞ 【予習】 ・教科書の 98-101 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 【復習】 ・教科書の 98-101 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 12 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。 ＜クラス②＞ 〇事前学修 ・教科書の 86-87 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・語彙テストに向けた学修を行う。 〇事後学修 ・教科書の 86-89 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 12 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	4 時間
第１３回	対面	＜クラス①＞ 宗教と文化（2） ＜クラス②＞ 「国連ニュース」を読む	＜クラス①＞ 【予習】 ・教科書の 102-105 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 【復習】 ・教科書の 102-105 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 13 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き	4 時間

			込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。 ＜クラス②＞ 〇事前学修 ・UN News（https://www.un.org/en/）を閲覧しておく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 〇事後学修 ・興味のある国連ニュースを選び、読んで内容を理解する。 ・第 13 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	
第１４回	対面	＜クラス①＞ 宗教と文化（3） ●第 4 回授業専用ノートの提出 （第 12 回目の授業から第 13 回目の授業で学んだことや質問を書いた自分のノートを提出しなければなりません。） 成績評価の 10% 「成績評価の方法・基準」の「その他の内容」を確認する。 ＜クラス②＞ 期末レビュークイズ ●第 4 回授業専用ノートの提出 （第 11 回～第 13 回授業）	【予習】 ・教科書の 106-111 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 【復習】 ・教科書の 106-111 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 14 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。 ＜クラス②＞ 〇事前学修 ・期末レビュークイズに向けた学修を行う。 〇事後学修 ・期末レビュークイズで分からなかったことを授業専用ノートにまとめておく。	4 時間
第１５回	オンデマンド	＜クラス①＞ End-semester review and quiz 第 9 回 - 第 14 回：授業のまとめと振り返り。 ＜クラス②＞ 総復習	授業のまとめ ＜クラス①＞ 【予習】 ・第 9 回から第 14 回まで授業の自分のメモを復習する。 ・第 9 回から第 14 回までの語彙リストを復習する。 【復習】 ・第 15 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業で得た知識を確認する。 ＜クラス②＞ 〇事前学修 ・第 2 回から第 14 回まで授業の自分のメモを復習する。 ・第 2 回から第 14 回までの語彙リストを復習する。 〇事後学修 ・第 15 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業で得た知識を確認する。	4 時間

科目名	Business Communication　I	開講年度	2025
担当者	オコン・オーリック	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	スピーキングに特化したビジネス実践英語（1）		
授業の目的及び概要	本授業は、ビジネスの場で使える実践的な英語コミュニケーション能力の向上を目的とします。自己紹介、ビジネス会食、挨拶、アポイントメント、電話対応など、職場でよく使われる表現や語彙を学びます。また、異文化理解を深め、国際的なビジネスパートナーとの円滑なコミュニケーションができるようになることを目指します。ロールプレイやディスカッションを通じて、実際に使える英語を身につけます。ある程度の英語学習経験があることが望ましいですが、幅広いレベルの学生が参加できる内容となっています。		
履修条件・留意点	授業に出席することには、主に以下の 2 つの目的があります： 1. 先生や他の生徒に対して、宿題や英語一般に関する質問を尋ねるため。 2. 宿題をする中で得られた知識を実際に使うため。 生徒の授業における目標は、学習すること、また他の人達とお互いに学習の手助けをし合うことです。教師の役割は、生徒の学習を支援することにあります。 注意点： 学習する意欲がなければ、教師は強制的に学習させることはできません。また、学習意欲のある人の妨げになる行動は控えてください。積極的に学習に取り組む姿勢を持ちましょう。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	ビジネス英語の基礎となる英語を学び、英語力 TOEIC400 点相当以上を目指す。 このクラスは、英語 4 技能の中でも特にスピーキングに特化した技能を育てることを目標としている。さらに、獲得した知識や技能を活用し、国内外において価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に貢献できる能力の育成を目指す。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	フィードバックは毎回の授業で行います。教師は、個別指導やクラス全体への講評を通じて、生徒に具体的で建設的なフィードバックを提供します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／反転授業／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	本授業で使用するテキストは、Learning Portal を通じて無料で提供されます。教材の大部分は担当教員が作成したオリジナル資料であり、ビジネス英語の基礎や実践的な表現を学ぶための内容を含みます。その他、補助的なオンラインリソースや指定された PDF 資料も使用します。具体的な教材名や参考資料については、授業内で案内します。	ISBN	なし
参考書	なし	ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	80
	成果発表（口頭・実技）	10
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0

	その他（%）	0
	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	全授業の 70%以上に出席する必要があります。たとえば、15 回の授業の場合は、11 回以上の出席が求められます。欠席は 4 回まで許容されますが、5 回以上欠席すると自動的に落第となります。 届出を行った欠席であっても、欠席は欠席として扱われますので注意してください。クラブ活動や体調不良などの理由で欠席する場合も同様です。授業には時間通りに出席し、責任を持って参加してください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	講師は生徒一人ひとりの一般的な英語力を確認します。 このクラスは、以下の流れに沿って進めます： あいさつ出席確認とペア練習 – 出席確認の間、ペアになって練習を行います。スピーキング・リスニングテスト – 技能向上を目的としたテストを実施します。宿題の進捗確認 – 宿題に関する質問に回答します。質問内容は通常、最低 1 時間分の宿題の進捗や未完了の部分についてです。Q&A セッション – 宿題や英語一般に関する質問を受け付けます。必要に応じて授業の最後まで続く可能性もあります。ペアアクティビティ – さまざまなアクティビティを通じてペア練習を行います。 選択肢 選択肢 1 – 1 人が生徒役となり、もう 1 人が回答を確認します。選択肢 2 – 両方の生徒がハンドアウトを見ながら進めても構いません。選択肢 3 – 会話練習を行います。プレゼンテーション – 練習したものを発表します。	授業での説明を踏まえ、各自で年度内の英語関連試験計画を立てる。次回授業のテキスト範囲を予習し、疑問点があれば解決しておく。与えられた課題に取り組む。 宿題について： 毎回の授業後は、宿題に最低 1.5 時間取り組んでください。学習スピードが速い場合は 60 分で十分ですが、遅い場合は 90 分以上を目安としましょう。学習スピードには個人差がありますが、追いつく努力を怠らないようにしましょう。	2 時間
第２回	対面	授業中の活動は、生徒の英語力や進度に応じて異なります。 レベル別アクティビティ： 学生の理解度やスキルに合わせた練習や課題を用意します。柔軟なアプローチ：必要に応じてグループワーク、ペアワーク、個別指導を取り入れます。応用練習：実際のビジネスシーンを想定したロールプレイやディスカッションを行います。活動は、生徒のスキル向上を目的に調整されるため、積極的に参加し、フィードバックを活用してください。	授業内容の復習： 今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノートを整理し、要点をまとめる。次回授業の予習： 次回授業のテキスト範囲を予習し、疑問点があれば事前に解決しておく。質問準備： 予習の過程で理解しにくかった箇所をマークし、授業中に質問できるよう準備する。課題への取り組み： 与えられた課題を丁寧に仕上げる。	2 時間
第３回	対面	授業中の活動は、生徒の英語力や進度に応じて異なります。 レベル別アクティビティ： 学生の理解度やスキルに合わせた練習や課題を用意します。柔軟なアプローチ：必要に応じてグループワーク、ペアワーク、個別指導を取り入れます。応用練習：実際のビジネスシーンを想定したロールプレイやディスカッションを行います。活動は、生徒のスキ	・授業内容の復習：今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノートを整理し、要点をまとめる。 ・次回授業の予習： 次回授業のテキスト範囲を予習し、疑問点があれば事前に解決しておく。 ・質問準備： 予習の過程で理解しにくかった箇所をマークし、授業中に質問できるよう準備する。 ・課題への取り組み： 与えられた課題を丁寧に仕上げる。	2 時間

		ル向上を目的に調整されるため、積極的に参加し、フィードバックを活用してください。		
第４回	対面	授業中の活動は、生徒の英語力や進度に応じて異なります。 レベル別アクティビティ： 学生の理解度やスキルに合わせた練習や課題を用意します。柔軟なアプローチ：必要に応じてグループワーク、ペアワーク、個別指導を取り入れます。応用練習：実際のビジネスシーンを想定したロールプレイやディスカッションを行います。活動は、生徒のスキル向上を目的に調整されるため、積極的に参加し、フィードバックを活用してください。	・授業内容の復習：今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノートを整理し、要点をまとめる。 ・次回授業の予習： 次回授業のテキスト範囲を予習し、疑問点があれば事前に解決しておく。 ・質問準備： 予習の過程で理解しにくかった箇所をマークし、授業中に質問できるよう準備する。 ・課題への取り組み： 与えられた課題を丁寧に仕上げる。	2 時間
第５回	対面	授業中の活動は、生徒の英語力や進度に応じて異なります。 レベル別アクティビティ： 学生の理解度やスキルに合わせた練習や課題を用意します。柔軟なアプローチ：必要に応じてグループワーク、ペアワーク、個別指導を取り入れます。応用練習：実際のビジネスシーンを想定したロールプレイやディスカッションを行います。活動は、生徒のスキル向上を目的に調整されるため、積極的に参加し、フィードバックを活用してください。	・授業内容の復習：今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノートを整理し、要点をまとめる。 ・次回授業の予習： 次回授業のテキスト範囲を予習し、疑問点があれば事前に解決しておく。 ・質問準備： 予習の過程で理解しにくかった箇所をマークし、授業中に質問できるよう準備する。 ・課題への取り組み： 与えられた課題を丁寧に仕上げる。	2 時間
第６回	対面	授業中の活動は、生徒の英語力や進度に応じて異なります。 レベル別アクティビティ： 学生の理解度やスキルに合わせた練習や課題を用意します。柔軟なアプローチ：必要に応じてグループワーク、ペアワーク、個別指導を取り入れます。応用練習：実際のビジネスシーンを想定したロールプレイやディスカッションを行います。活動は、生徒のスキル向上を目的に調整されるため、積極的に参加し、フィードバックを活用してください。	・授業内容の復習：今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノートを整理し、要点をまとめる。 ・次回授業の予習： 次回授業のテキスト範囲を予習し、疑問点があれば事前に解決しておく。 ・質問準備： 予習の過程で理解しにくかった箇所をマークし、授業中に質問できるよう準備する。 ・課題への取り組み： 与えられた課題を丁寧に仕上げる。	2 時間
第７回	対面	授業中の活動は、生徒の英語力や進度に応じて異なります。 レベル別アクティビティ： 学生の理解度やスキルに合わせた練習や課題を用意します。柔軟なアプローチ：必要に応じてグループワーク、ペアワーク、個別指導を取り入れます。応用練習：実際のビジネスシーンを想定したロールプレイやディスカッションを行います。活動は、生徒のスキル向上を目的に調整されるため、積極的に参加し、フィードバックを活用してください。	・授業内容の復習：今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノートを整理し、要点をまとめる。 ・次回授業の予習： 次回授業のテキスト範囲を予習し、疑問点があれば事前に解決しておく。 ・質問準備： 予習の過程で理解しにくかった箇所をマークし、授業中に質問できるよう準備する。 ・課題への取り組み： 与えられた課題を丁寧に仕上げる。	1 時間
第８回	対面	授業中の活動は、生徒の英語力や進度に応じて異なります。 レベル別アクティビティ： 学生の理解度やスキルに合わせた練習や課題を用意します。柔軟なアプローチ：必要に応じてグループワーク、ペアワーク、個別指導を取	・授業内容の復習：今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノートを整理し、要点をまとめる。 ・次回授業の予習： 次回授業のテキスト範囲を予習し、疑問点があれば事前に解決しておく。 ・質問準備： 予習の過程で理解しにくかった箇所をマークし、授業中に質問できるよう準備する。	2 時間

		り入れます。応用練習：実際のビジネスシーンを想定したロールプレイやディスカッションを行います。活動は、生徒のスキル向上を目的に調整されるため、積極的に参加し、フィードバックを活用してください。	・課題への取り組み： 与えられた課題を丁寧に仕上げる。	
第９回	対面	授業中の活動は、生徒の英語力や進度に応じて異なります。 レベル別アクティビティ： 学生の理解度やスキルに合わせた練習や課題を用意します。柔軟なアプローチ：必要に応じてグループワーク、ペアワーク、個別指導を取り入れます。応用練習：実際のビジネスシーンを想定したロールプレイやディスカッションを行います。活動は、生徒のスキル向上を目的に調整されるため、積極的に参加し、フィードバックを活用してください。	・授業内容の復習：今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノートを整理し、要点をまとめる。 ・次回授業の予習： 次回授業のテキスト範囲を予習し、疑問点があれば事前に解決しておく。 ・質問準備： 予習の過程で理解しにくかった箇所をマークし、授業中に質問できるよう準備する。 ・課題への取り組み： 与えられた課題を丁寧に仕上げる。	2 時間
第１０回	対面	授業中の活動は、生徒の英語力や進度に応じて異なります。 レベル別アクティビティ： 学生の理解度やスキルに合わせた練習や課題を用意します。柔軟なアプローチ：必要に応じてグループワーク、ペアワーク、個別指導を取り入れます。応用練習：実際のビジネスシーンを想定したロールプレイやディスカッションを行います。活動は、生徒のスキル向上を目的に調整されるため、積極的に参加し、フィードバックを活用してください。	・授業内容の復習：今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノートを整理し、要点をまとめる。 ・次回授業の予習： 次回授業のテキスト範囲を予習し、疑問点があれば事前に解決しておく。 ・質問準備： 予習の過程で理解しにくかった箇所をマークし、授業中に質問できるよう準備する。 ・課題への取り組み： 与えられた課題を丁寧に仕上げる。	2 時間
第１１回	対面	授業中の活動は、生徒の英語力や進度に応じて異なります。 レベル別アクティビティ： 学生の理解度やスキルに合わせた練習や課題を用意します。柔軟なアプローチ：必要に応じてグループワーク、ペアワーク、個別指導を取り入れます。応用練習：実際のビジネスシーンを想定したロールプレイやディスカッションを行います。活動は、生徒のスキル向上を目的に調整されるため、積極的に参加し、フィードバックを活用してください。	・授業内容の復習：今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノートを整理し、要点をまとめる。 ・次回授業の予習： 次回授業のテキスト範囲を予習し、疑問点があれば事前に解決しておく。 ・質問準備： 予習の過程で理解しにくかった箇所をマークし、授業中に質問できるよう準備する。 ・課題への取り組み： 与えられた課題を丁寧に仕上げる。	2 時間
第１２回	対面	復習と振り返り 授業内容の確認： これまでの授業で学んだ内容を振り返り、重要なポイントを整理する。理解度チェック：授業中に扱った課題や演習問題を見直し、理解が不十分な箇所を特定して補強する。質疑応答：学習内容に関する質問を解決し、不明点をクリアにする。実践練習：習得した知識やスキルを活用し、ロールプレイやプレゼンテーション練習を行う。課題提出と準備：次回授業に向けた課題を確認し、計画的に取り組む。	・授業内容の復習：今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノートを整理し、要点をまとめる。 ・次回授業の予習： 次回授業のテキスト範囲を予習し、疑問点があれば事前に解決しておく。 ・質問準備： 予習の過程で理解しにくかった箇所をマークし、授業中に質問できるよう準備する。 ・課題への取り組み： 与えられた課題を丁寧に仕上げる。	2 時間
第１３回	対面	筆記試験とスピーキングテスト 筆記試験:語彙、文法、構文に関する問題を中心に、理解度を測定する。時間配分と	・授業内容の復習：今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノートを整理し、要点をまとめる。 ・次回授業の予習： 次回授業のテキスト範囲を予習	2 時間

		試験形式については、事前に説明を行う。スピーキングテスト:指定されたテーマについて短いスピーチを行う。ペアまたはグループでのロールプレイも含まれる場合がある。発音、流暢さ、表現力に重点を置いた評価を行う。	し、疑問点があれば事前に解決しておく。 ・質問準備： 予習の過程で理解しにくかった箇所をマークし、授業中に質問できるよう準備する。 ・課題への取り組み： 与えられた課題を丁寧に仕上げる。	
第１４回	対面	筆記試験とスピーキングテスト 筆記試験:語彙、文法、構文に関する問題を中心に、理解度を測定する。時間配分と試験形式については、事前に説明を行う。スピーキングテスト:指定されたテーマについて短いスピーチを行う。ペアまたはグループでのロールプレイも含まれる場合がある。発音、流暢さ、表現力に重点を置いた評価を行う。	・授業内容の復習：今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノートを整理し、要点をまとめる。 ・次回授業の予習： 次回授業のテキスト範囲を予習し、疑問点があれば事前に解決しておく。 ・質問準備： 予習の過程で理解しにくかった箇所をマークし、授業中に質問できるよう準備する。 ・課題への取り組み： 与えられた課題を丁寧に仕上げる。	2 時間
第１５回	オンデマンド	復習と振り返り 授業内容の確認： これまでの授業で学んだ内容を振り返り、重要なポイントを整理する。理解度チェック：授業中に扱った課題や演習問題を見直し、理解が不十分な箇所を特定して補強する。質疑応答：学習内容に関する質問を解決し、不明点をクリアにする。実践練習：習得した知識やスキルを活用し、ロールプレイやプレゼンテーション練習を行う。課題提出と準備：次回授業に向けた課題を確認し、計画的に取り組む。	1. 授業内容の整理: 今学期のすべての授業内容を振り返り、授業中に取ったノートを参考に要点をまとめて整理する。 2. 強化ポイントの確認: 今学期の内容を復習し、自分が強化すべき項目を特定し、今後の課題や学習計画を立てる。 3. 課題の見直し: 返却された課題を再確認し、改善点や取り組むべき項目を明確にする。	1 時間

科目名	Business Communication　I	開講年度	2025
担当者	ハモンズ・ジョアンナ	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	Studying the Business Communication I course will help you acquire Business Skills for your professional life.		
授業の目的及び概要	The purpose of this class is to develop English language skills that will enable students to communicate in the business field. By becoming familiar with business English, students will improve their practical English language skills that are directly related to their work. Specifically, students will learn expressions and vocabulary used in business situations, such as basic conversations as a business person (self-introductions, greetings) and communication with outside parties (appointments, phone calls, etc.). Students will also learn about cultural aspects such as the customs of other countries, with the aim of acquiring the ability to communicate smoothly with business partners.		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	The goals of this course are to improve the following points below. 1. Business English vocabulary 2. TOEIC score 3. Understanding international business situations 4. Giving presentations in English 5. Working as a team and communicating in English		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	Feedback will be given during class and after tests.		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	Communication Spotlight Business 2 Alistair Graham-Marr & Bradford Lee ABAX ELT PUBLISHERS	ISBN	978-1-78547-066-0
参考書	None	ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	20
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	30
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	30
その他の内容	Review Quiz 1：15% Review Quiz 2：15%

この科目の受講に	Let’s enjoy learning English together in a way that will help you have a bright future

あたって	in international business!

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	Orientation	An introduction to the course, textbook, expectations, and each other.	2 時間
第２回	対面	Unit 1 Pleased to meet you	Introducing people	2 時間
第３回	対面	Unit 2 Who do you work for?	Describing companies	2 時間
第４回	対面	Unit 3 What do you do?	Describing occupations	2 時間
第５回	対面	Presentation Preparation	Deciding on groups and products.	2 時間
第６回	対面	Review	Review Units 1 – 3	2 時間
第７回	対面	Review / Review Quiz 1	Review Quiz on Units 1-3	1 時間
第８回	対面	Unit 4	Can I leave a message?	2 時間
第９回	対面	Unit 5	Describing time and schedules	2 時間
第１０回	対面	Unit 6	What do you call that thing?	2 時間
第１１回	対面	Presentation Preparation	Final preparation of scripts and slides	2 時間
第１２回	対面	Review	Review of Units 4 – 6	2 時間
第１３回	対面	Review Quiz 2	Review Quiz of Units 4 – 6	2 時間
第１４回	オンデマンド	Presentations	Presentations	2 時間
第１５回	対面	Presentations	Presentations	1 時間

科目名	Business Communication Ⅱ	開講年度	2025
担当者	オコン・オーリック	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	スピーキングに特化したビジネス実践英語（2）		
授業の目的及び概要	本授業は、ビジネスの場で使える実践的な英語コミュニケーション能力の向上を目的とします。自己紹介、ビジネス会食、挨拶、アポイントメント、電話対応など、職場でよく使われる表現や語彙を学びます。また、異文化理解を深め、国際的なビジネスパートナーとの円滑なコミュニケーションができるようになることを目指します。ロールプレイやディスカッションを通じて、実際に使える英語を身につけます。ある程度の英語学習経験があることが望ましいですが、幅広いレベルの学生が参加できる内容となっています。		
履修条件・留意点	授業に出席することには、主に以下の 2 つの目的があります： 1. 先生や他の生徒に対して、宿題や英語一般に関する質問を尋ねるため。 2. 宿題をする中で得られた知識を実際に使うため。 生徒の授業における目標は、学習すること、また他の人達とお互いに学習の手助けをし合うことです。教師の役割は、生徒の学習を支援することにあります。 注意点： 学習する意欲がなければ、教師は強制的に学習させることはできません。また、学習意欲のある人の妨げになる行動は控えてください。積極的に学習に取り組む姿勢を持ちましょう。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	ビジネス英語の基礎となる英語を学び、英語力 TOEIC400 点相当以上を目指す。 このクラスは、英語 4 技能の中でも特にスピーキングに特化した技能を育てることを目標としている。さらに、獲得した知識や技能を活用し、国内外において価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に貢献できる能力の育成を目指す。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	フィードバックは毎回の授業で行います。教師は、個別指導やクラス全体への講評を通じて、生徒に具体的で建設的なフィードバックを提供します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／反転授業／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	本授業で使用するテキストは、Learning Portal を通じて無料で提供されます。教材の大部分は担当教員が作成したオリジナル資料であり、ビジネス英語の基礎や実践的な表現を学ぶための内容を含みます。その他、補助的なオンラインリソースや指定された PDF 資料も使用します。具体的な教材名や参考資料については、授業内で案内します。	ISBN	なし
参考書	なし	ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	10
授業期間中の小テスト、レポート課題等	80
成果発表（口頭・実技）	10
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0

	その他（%）	0
	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	全授業の 70%以上に出席する必要があります。たとえば、15 回の授業の場合は、11 回以上の出席が求められます。欠席は 4 回まで許容されますが、5 回以上欠席すると自動的に落第となります。 届出を行った欠席であっても、欠席は欠席として扱われますので注意してください。クラブ活動や体調不良などの理由で欠席する場合も同様です。授業には時間通りに出席し、責任を持って参加してください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	講師は生徒一人ひとりの一般的な英語力を確認します。 このクラスは、以下の流れに沿って進めます： あいさつ出席確認とペア練習 – 出席確認の間、ペアになって練習を行います。スピーキング・リスニングテスト – 技能向上を目的としたテストを実施します。宿題の進捗確認 – 宿題に関する質問に回答します。質問内容は通常、最低 1 時間分の宿題の進捗や未完了の部分についてです。Q&A セッション – 宿題や英語一般に関する質問を受け付けます。必要に応じて授業の最後まで続く可能性もあります。ペアアクティビティ – さまざまなアクティビティを通じてペア練習を行います。 選択肢 選択肢 1 – 1 人が生徒役となり、もう 1 人が回答を確認します。選択肢 2 – 両方の生徒がハンドアウトを見ながら進めても構いません。選択肢 3 – 会話練習を行います。プレゼンテーション – 練習したものを発表します。	授業での説明を踏まえ、各自で年度内の英語関連試験計画を立てる。次回授業のテキスト範囲を予習し、疑問点があれば解決しておく。与えられた課題に取り組む。 宿題について： 毎回の授業後は、宿題に最低 1.5 時間取り組んでください。学習スピードが速い場合は 60 分で十分ですが、遅い場合は 90 分以上を目安としましょう。学習スピードには個人差がありますが、追いつく努力を怠らないようにしましょう。	2 時間
第２回	対面	授業中の活動は、生徒の英語力や進度に応じて異なります。 レベル別アクティビティ： 学生の理解度やスキルに合わせた練習や課題を用意します。柔軟なアプローチ：必要に応じてグループワーク、ペアワーク、個別指導を取り入れます。応用練習：実際のビジネスシーンを想定したロールプレイやディスカッションを行います。活動は、生徒のスキル向上を目的に調整されるため、積極的に参加し、フィードバックを活用してください。	授業内容の復習： 今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノートを整理し、要点をまとめる。次回授業の予習： 次回授業のテキスト範囲を予習し、疑問点があれば事前に解決しておく。質問準備： 予習の過程で理解しにくかった箇所をマークし、授業中に質問できるよう準備する。課題への取り組み： 与えられた課題を丁寧に仕上げる。	2 時間
第３回	対面	授業中の活動は、生徒の英語力や進度に応じて異なります。 レベル別アクティビティ： 学生の理解度やスキルに合わせた練習や課題を用意します。柔軟なアプローチ：必要に応じてグループワーク、ペアワーク、個別指導を取り入れます。応用練習：実際のビジネスシーンを想定したロールプレイやディスカッションを行います。活動は、生徒のスキ	・授業内容の復習：今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノートを整理し、要点をまとめる。 ・次回授業の予習： 次回授業のテキスト範囲を予習し、疑問点があれば事前に解決しておく。 ・質問準備： 予習の過程で理解しにくかった箇所をマークし、授業中に質問できるよう準備する。 ・課題への取り組み： 与えられた課題を丁寧に仕上げる。	2 時間

		ル向上を目的に調整されるため、積極的に参加し、フィードバックを活用してください。		
第４回	対面	授業中の活動は、生徒の英語力や進度に応じて異なります。 レベル別アクティビティ： 学生の理解度やスキルに合わせた練習や課題を用意します。柔軟なアプローチ：必要に応じてグループワーク、ペアワーク、個別指導を取り入れます。応用練習：実際のビジネスシーンを想定したロールプレイやディスカッションを行います。活動は、生徒のスキル向上を目的に調整されるため、積極的に参加し、フィードバックを活用してください。	・授業内容の復習：今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノートを整理し、要点をまとめる。 ・次回授業の予習： 次回授業のテキスト範囲を予習し、疑問点があれば事前に解決しておく。 ・質問準備： 予習の過程で理解しにくかった箇所をマークし、授業中に質問できるよう準備する。 ・課題への取り組み： 与えられた課題を丁寧に仕上げる。	2 時間
第５回	対面	授業中の活動は、生徒の英語力や進度に応じて異なります。 レベル別アクティビティ： 学生の理解度やスキルに合わせた練習や課題を用意します。柔軟なアプローチ：必要に応じてグループワーク、ペアワーク、個別指導を取り入れます。応用練習：実際のビジネスシーンを想定したロールプレイやディスカッションを行います。活動は、生徒のスキル向上を目的に調整されるため、積極的に参加し、フィードバックを活用してください。	・授業内容の復習：今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノートを整理し、要点をまとめる。 ・次回授業の予習： 次回授業のテキスト範囲を予習し、疑問点があれば事前に解決しておく。 ・質問準備： 予習の過程で理解しにくかった箇所をマークし、授業中に質問できるよう準備する。 ・課題への取り組み： 与えられた課題を丁寧に仕上げる。	2 時間
第６回	対面	授業中の活動は、生徒の英語力や進度に応じて異なります。 レベル別アクティビティ： 学生の理解度やスキルに合わせた練習や課題を用意します。柔軟なアプローチ：必要に応じてグループワーク、ペアワーク、個別指導を取り入れます。応用練習：実際のビジネスシーンを想定したロールプレイやディスカッションを行います。活動は、生徒のスキル向上を目的に調整されるため、積極的に参加し、フィードバックを活用してください。	・授業内容の復習：今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノートを整理し、要点をまとめる。 ・次回授業の予習： 次回授業のテキスト範囲を予習し、疑問点があれば事前に解決しておく。 ・質問準備： 予習の過程で理解しにくかった箇所をマークし、授業中に質問できるよう準備する。 ・課題への取り組み： 与えられた課題を丁寧に仕上げる。	2 時間
第７回	対面	授業中の活動は、生徒の英語力や進度に応じて異なります。 レベル別アクティビティ： 学生の理解度やスキルに合わせた練習や課題を用意します。柔軟なアプローチ：必要に応じてグループワーク、ペアワーク、個別指導を取り入れます。応用練習：実際のビジネスシーンを想定したロールプレイやディスカッションを行います。活動は、生徒のスキル向上を目的に調整されるため、積極的に参加し、フィードバックを活用してください。	・授業内容の復習：今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノートを整理し、要点をまとめる。 ・次回授業の予習： 次回授業のテキスト範囲を予習し、疑問点があれば事前に解決しておく。 ・質問準備： 予習の過程で理解しにくかった箇所をマークし、授業中に質問できるよう準備する。 ・課題への取り組み： 与えられた課題を丁寧に仕上げる。	1 時間
第８回	対面	授業中の活動は、生徒の英語力や進度に応じて異なります。 レベル別アクティビティ： 学生の理解度やスキルに合わせた練習や課題を用意します。柔軟なアプローチ：必要に応じてグループワーク、ペアワーク、個別指導を取	・授業内容の復習：今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノートを整理し、要点をまとめる。 ・次回授業の予習： 次回授業のテキスト範囲を予習し、疑問点があれば事前に解決しておく。 ・質問準備： 予習の過程で理解しにくかった箇所をマークし、授業中に質問できるよう準備する。	2 時間

		り入れます。応用練習：実際のビジネスシーンを想定したロールプレイやディスカッションを行います。活動は、生徒のスキル向上を目的に調整されるため、積極的に参加し、フィードバックを活用してください。	・課題への取り組み： 与えられた課題を丁寧に仕上げる。	
第９回	対面	授業中の活動は、生徒の英語力や進度に応じて異なります。 レベル別アクティビティ： 学生の理解度やスキルに合わせた練習や課題を用意します。柔軟なアプローチ：必要に応じてグループワーク、ペアワーク、個別指導を取り入れます。応用練習：実際のビジネスシーンを想定したロールプレイやディスカッションを行います。活動は、生徒のスキル向上を目的に調整されるため、積極的に参加し、フィードバックを活用してください。	・授業内容の復習：今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノートを整理し、要点をまとめる。 ・次回授業の予習： 次回授業のテキスト範囲を予習し、疑問点があれば事前に解決しておく。 ・質問準備： 予習の過程で理解しにくかった箇所をマークし、授業中に質問できるよう準備する。 ・課題への取り組み： 与えられた課題を丁寧に仕上げる。	2 時間
第１０回	対面	授業中の活動は、生徒の英語力や進度に応じて異なります。 レベル別アクティビティ： 学生の理解度やスキルに合わせた練習や課題を用意します。柔軟なアプローチ：必要に応じてグループワーク、ペアワーク、個別指導を取り入れます。応用練習：実際のビジネスシーンを想定したロールプレイやディスカッションを行います。活動は、生徒のスキル向上を目的に調整されるため、積極的に参加し、フィードバックを活用してください。	・授業内容の復習：今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノートを整理し、要点をまとめる。 ・次回授業の予習： 次回授業のテキスト範囲を予習し、疑問点があれば事前に解決しておく。 ・質問準備： 予習の過程で理解しにくかった箇所をマークし、授業中に質問できるよう準備する。 ・課題への取り組み： 与えられた課題を丁寧に仕上げる。	2 時間
第１１回	対面	授業中の活動は、生徒の英語力や進度に応じて異なります。 レベル別アクティビティ： 学生の理解度やスキルに合わせた練習や課題を用意します。柔軟なアプローチ：必要に応じてグループワーク、ペアワーク、個別指導を取り入れます。応用練習：実際のビジネスシーンを想定したロールプレイやディスカッションを行います。活動は、生徒のスキル向上を目的に調整されるため、積極的に参加し、フィードバックを活用してください。	・授業内容の復習：今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノートを整理し、要点をまとめる。 ・次回授業の予習： 次回授業のテキスト範囲を予習し、疑問点があれば事前に解決しておく。 ・質問準備： 予習の過程で理解しにくかった箇所をマークし、授業中に質問できるよう準備する。 ・課題への取り組み： 与えられた課題を丁寧に仕上げる。	2 時間
第１２回	対面	復習と振り返り 授業内容の確認： これまでの授業で学んだ内容を振り返り、重要なポイントを整理する。理解度チェック：授業中に扱った課題や演習問題を見直し、理解が不十分な箇所を特定して補強する。質疑応答：学習内容に関する質問を解決し、不明点をクリアにする。実践練習：習得した知識やスキルを活用し、ロールプレイやプレゼンテーション練習を行う。課題提出と準備：次回授業に向けた課題を確認し、計画的に取り組む。	・授業内容の復習：今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノートを整理し、要点をまとめる。 ・次回授業の予習： 次回授業のテキスト範囲を予習し、疑問点があれば事前に解決しておく。 ・質問準備： 予習の過程で理解しにくかった箇所をマークし、授業中に質問できるよう準備する。 ・課題への取り組み： 与えられた課題を丁寧に仕上げる。	2 時間
第１３回	対面	筆記試験とスピーキングテスト 筆記試験:語彙、文法、構文に関する問題を中心に、理解度を測定する。時間配分と	・授業内容の復習：今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノートを整理し、要点をまとめる。 ・次回授業の予習： 次回授業のテキスト範囲を予習	2 時間

		試験形式については、事前に説明を行う。スピーキングテスト:指定されたテーマについて短いスピーチを行う。ペアまたはグループでのロールプレイも含まれる場合がある。発音、流暢さ、表現力に重点を置いた評価を行う。	し、疑問点があれば事前に解決しておく。 ・質問準備： 予習の過程で理解しにくかった箇所をマークし、授業中に質問できるよう準備する。 ・課題への取り組み： 与えられた課題を丁寧に仕上げる。	
第１４回	対面	筆記試験とスピーキングテスト 筆記試験:語彙、文法、構文に関する問題を中心に、理解度を測定する。時間配分と試験形式については、事前に説明を行う。スピーキングテスト:指定されたテーマについて短いスピーチを行う。ペアまたはグループでのロールプレイも含まれる場合がある。発音、流暢さ、表現力に重点を置いた評価を行う。	・授業内容の復習：今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノートを整理し、要点をまとめる。 ・次回授業の予習： 次回授業のテキスト範囲を予習し、疑問点があれば事前に解決しておく。 ・質問準備： 予習の過程で理解しにくかった箇所をマークし、授業中に質問できるよう準備する。 ・課題への取り組み： 与えられた課題を丁寧に仕上げる。	2 時間
第１５回	オンデマンド	復習と振り返り 授業内容の確認： これまでの授業で学んだ内容を振り返り、重要なポイントを整理する。理解度チェック：授業中に扱った課題や演習問題を見直し、理解が不十分な箇所を特定して補強する。質疑応答：学習内容に関する質問を解決し、不明点をクリアにする。実践練習：習得した知識やスキルを活用し、ロールプレイやプレゼンテーション練習を行う。課題提出と準備：次回授業に向けた課題を確認し、計画的に取り組む。	1. 授業内容の整理: 今学期のすべての授業内容を振り返り、授業中に取ったノートを参考に要点をまとめて整理する。 2. 強化ポイントの確認: 今学期の内容を復習し、自分が強化すべき項目を特定し、今後の課題や学習計画を立てる。 3. 課題の見直し: 返却された課題を再確認し、改善点や取り組むべき項目を明確にする。	1 時間

科目名	Business Communication Ⅱ	開講年度	2025
担当者	ハモンズ・ジョアンナ	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	Studying the Business Communication II course will help you acquire Business Skills for your professional life.		
授業の目的及び概要	The purpose of this class is to develop English language skills that will enable students to communicate in the business field. By becoming familiar with business English, students will improve their practical English language skills that are directly related to their work. Specifically, students will learn expressions and vocabulary used in business situations, such as basic conversations as a business person (self-introductions, greetings) and communication with outside parties (appointments, phone calls, etc.). Students will also learn about cultural aspects such as the customs of other countries, with the aim of acquiring the ability to communicate smoothly with business partners.		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	The goals of this course are to improve the following points below. 1. Business English vocabulary 2. TOEIC score 3. Understanding international business situations 4. Giving presentations in English 5. Working as a team and communicating in Englis		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	Feedback will be given during the class and after tests.		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	Business Communication 2 Alistair Graham-Marr & Bradford Lee ABAX ELT PUBLISHERS	ISBN	978-1-78547-066-0
参考書	None	ISBN	None

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	20
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	30
中間試験	15
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	15
その他の内容	Mid Term Quiz - Conducted in Class Final Quiz -Conducted in Class

この科目の受講に	Let's enjoy learning English together in a way that will help us to have bright futures

あたって	in international business!

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	Orientation	Getting to know you	2 時間
第２回	対面	Unit 7 How much is that in Korean Won?	Talking about money	2 時間
第３回	対面	Unit 8 You need to download a form	Giving instructions	2 時間
第４回	対面	Unit 9 Do you like Indonesian food?	Describing food	2 時間
第５回	対面	Presentation Preparation	Decide on groups and topics for presentation.	2 時間
第６回	オンデマンド	Review Units 7 – 9	Review	2 時間
第７回	対面	Review Quiz 1	Review of Units 7 – 9	2 時間
第８回	対面	Unit 10 Do you have the sales figures?	Working with large numbers	2 時間
第９回	対面	Unit 11 Make sure you keep all receipts.	Giving advice / Business Trips	2 時間
第１０回	対面	Unit 12 When’s the trade for?	Describing future plans	2 時間
第１１回	対面	Presentation Preparation	Presentation scripts and slides	2 時間
第１２回	対面	Review	Review of Units 10 –12	2 時間
第１３回	対面	Review Quiz 2	Review Quiz on Units 10 –12	2 時間
第１４回	対面	Presentations	Presentations	2 時間
第１５回	対面	Presentations	Presentations	1 時間

科目名	English for Tourism	開講年度	2025
担当者	ボイキン　舞	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	観光業務、旅行業務に必要な英語を身につけよう		
授業の目的及び概要	観光立国が日本における重要な成長戦略の柱とされ、様々な改革が行われる中、海外から来日する外国人の数も飛躍的に増加している。この授業は、海外からの観光客やゲストに対応する旅行・観光・航空・ホテル・飲食等のサービス業において業務にあたるための英語運用能力を身につけることを目標とする。一般的な英語運用能力に加え、業界専門用語や独特の言い回し等、プロフェッショナルかつ業務遂行に必要な英語運用能語力を養成する。同時に日本の文化や観光について、造詣を深め英語で発信出来る能力を培う。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	旅行や観光におけるさまざまな場面で使用される独特な英語表現を習得する。 具体的には、空港、ホテル、レストラン、公共交通機関、観光名所などでの会話や、苦情対応・問題解決に関する実践的な「観光英語」を身につけ「観光・旅行業界で必要とされる英語」を修得する（インプット）。そして、ペアワークをとおして実際に英語でのやり取りを行い（アウトプット）、グローバルな場面で英語で接遇する際に求められる英語運用能力を効果的に身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	定期的に課題を出して、提出されたものを修正し、学生に返却する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	English for Tourism 101 一から学ぶ観光英語の基礎～日本から世界へ～，津田　晶子，南雲堂，2014 年	ISBN	ISBN 9784523177609
参考書	Enjoy Your Trip! 旅英語の心得，　竹内 真澄他，　南雲堂，　2015 年	ISBN	ISBN 9784523177838

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	40
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	30
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって
担当教員の経験を基に豆知識を交えながら海外旅行に必要な英語表現と文化など基礎的知識を学び、積極的にコミュニケーションを図る態度を身につけます。海外旅行に行きたい人はもちろん、外国人に日本の観光案内をしたい人も履修してください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第１回	対面	ガイダンス、自己紹介。 Unit 1 Japan (Hokkaido) 北海道の観光名所、名産品、観光業の英語の略語を学ぶ。 Pair Work with Numbers "Flight Numbers"	Unit 1 Japan (Hokkaido) 語彙、表現の予習。 今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノート内容を整理する。 与えられた課題に取り組む。	4 時間
第２回	対面	Unit 2 Japan (Kyoto) 京都の観光名所、世界遺産、また日本の伝統文化について英語でどう表現するかを学ぶ。 Pair Work with Numbers "Seat Numbers"	Unit 2 Japan (Kyoto) 語彙、表現の予習。 今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノート内容を整理する。 与えられた課題に取り組む。	4 時間
第３回	対面	Unit 3 Japan (Yufuin) 日本の温泉、ホテル業務種類についての英語を学ぶ。 Pair Work with Numbers "Durations of Time"	Unit 3 Japan (Yufuin) 語彙、表現の予習。 今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノート内容を整理する。 与えられた課題に取り組む。	4 時間
第４回	対面	Unit 5 ASEAN (Singapore) シンガポール、入国カードで必要となる英語を学ぶ。 Pair Work with Numbers "Dates"	Unit 5 ASEAN (Singapore) 語彙、表現の予習。 今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノート内容を整理する。 与えられた課題に取り組む。	4 時間
第５回	対面	Unit 6 ASEAN (Bali, Indonesia) インドネシア、バリとアジアの国々で必要となる英語を学ぶ。 Pair Work with Numbers "Times 1"	Unit 6 ASEAN (Bali, Indonesia) 語彙、表現の予習。 今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノート内容を整理する。 与えられた課題に取り組む。	4 時間
第６回	対面	Unit 7 Oceania (Sydney, Australia) オーストラリアの観光名所で使用される英語を学ぶ。 Pair Work with Numbers "Fractions"	Unit 7 Oceania (Sydney, Australia) 語彙、表現の予習。 今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノート内容を整理する。 与えられた課題に取り組む。	4 時間
第７回	対面	Unit 8 The Pacific Rim (Hawaii, the USA) ハワイの観光において必要となる英語を学ぶ。 Pair Work with Numbers "Prices 1"	Unit 8 The Pacific Rim (Hawaii, the USA) 語彙、表現の予習。 今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノート内容を整理する。 与えられた課題に取り組む。	4 時間
第８回	対面	Unit 9 Europe (London, the UK) ロンドンの観光名所で使用する英語を学ぶ。 Pair Work with Numbers "Prices 2"	Unit 9 Europe (London, the UK) 語彙、表現の予習。 今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノート内容を整理する。 与えられた課題に取り組む。	4 時間
第９回	対面	Unit 10 Europe (France) 観光大国、フランスの観光名所で必要な英語を学ぶ。 Pair Work with Numbers "Phone Numbers"	Unit 10 Europe (France) 語彙と表現の予習。 今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノート内容を整理する。 与えられた課題に取り組む。	4 時間
第１０回	対面	Unit 11 Europe (Museums in Europe) ヨーロッパの美術館、芸術に関する英語を学ぶ。 Pair Work with Numbers "Street Names"	Unit 11 Europe (Museums in Europe) 語彙と表現の予習。 今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノート内容を整理する。 与えられた課題に取り組む。	4 時間
第１１回	対面	Unit 12 North America (New York, the USA) ニューヨークでのショービジネスの英語を学ぶ。 Pair Work with Numbers "Money (U.S.)"	Unit 12 North America (New York, the USA) 語彙、表現の予習。 今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノート内容を整理する。 与えられた課題に取り組む。	4 時間
第１２回	対面	Unit 13 North America (Boston, the US	Unit 13 North America (Boston, the USA)	4 時間

		A) アメリカのスポーツ、歴史を学ぶ。 Pair Work with Numbers ”Distances”	語彙、表現の予習。 今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノート内容を整理する。 与えられた課題に取り組む。	
第１３回	対面	Unit14 North America (Canada) カナダ観光の英語、宿泊施設について学ぶ。 Pair Work with Numbers ”Four or More Digits”	Unit14 North America (Canada) 語彙、表現の予習。 今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノート内容を整理する。 与えられた課題に取り組む。	4 時間
第１４回	対面	Unit15 Latin America （Rio de Janeiro, Brazil) ブラジル観光の英語、中南米の首都・公用語・通貨について、世界地理を学ぶ。 Pair Work with Numbers ”Frequencies”	Unit15 Latin America （Rio de Janeiro, Brazil) 語彙、表現の予習。 今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノート内容を整理する。 与えられた課題に取り組む。	4 時間
第１５回	オンデマンド	第 1 回～第 15 回の授業の総復習を行う。	授業内容を復習し、理解を深める。	4 時間

科目名	翻訳実践	開講年度	2025
担当者	岡村　徹	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	翻訳に不可欠な基本的英語力を養う。		
授業の目的及び概要	この授業は、翻訳の基礎概念を修得すると同時に、英語の読解力及び、日本語における表現力を高めることを目標とする。翻訳の基本として、正確な原文理解が必須となるが、実際には、原文を解釈する力だけでなく、高度な日本語運用能力と翻訳的思考が必要とされる。授業では、様々な英語を、それぞれの場面や状況に相応しい日本語に翻訳する能力を身につけることを目指す。また、具体的な翻訳作業の分析を通して、日本語と英語の根本的な発想・認識パターンの違いについて理解する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	特に書き言葉において、発信するのに必要な基本的言語能力を踏まえた上で、日英/英日翻訳の手順としての基本的英文を組み合わせて応用し、より自然な日本語/英語表現で発信できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された課題を添削して、返却する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	認知言語学的発想！英日翻訳の技術，鍋島弘治朗，マイケル・ブルックス，くろしお出版，2020 年	ISBN	9784874248324
参考書	英語の論理・日本語の論理，安藤貞雄，大修館書店，1986 年	ISBN	4469240931

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	10
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	10
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	60
その他（%）	
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	
	皆さんが知りたいこと、興味のあること、それを毎日コツコツと英文で読みましょう！

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	翻訳者になるために	・テキスト pp.7-16 に目を通しておく。 ・与えられた課題に取り組む。	4 時間
第２回	対面	優れた翻訳とは	・今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノート	4 時間

			内容を参考に纏めて整理する。 ・次回テキスト pp.26-32 を予習し、問題を解いておく。	
第３回	対面	代名詞について考えます。	・今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノート内容を参考に纏めて整理する。 ・次回テキスト pp.37-42 を予習し、問題を解いておく。	4 時間
第４回	対面	数量詞について考えます。	・今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノート内容を参考に纏めて整理する。 ・次回テキスト pp.51-56 を予習し、問題を解いておく。	4 時間
第５回	対面	比較級と最上級について考えます。	・今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノート内容を参考に纏めて整理する。 ・次回テキスト pp.65-70 を予習し、問題を解いておく。	4 時間
第６回	対面	無生物主語 I について考えます。	・今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノート内容を参考に纏めて整理する。 ・次回テキスト pp.78-84 を予習し、問題を解いておく。	4 時間
第７回	対面	無生物主語 II について考えます。	・今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノート内容を参考に纏めて整理する。 ・次回テキスト pp.89-92 を予習し、問題を解いておく。	4 時間
第８回	対面	名詞句について考えます。	・今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノート内容を参考に纏めて整理する。 ・次回テキスト pp.100-102 を予習し、問題を解いておく。	4 時間
第９回	対面	順行訳について考えます。	・今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノート内容を参考に纏めて整理する。 ・次回テキスト pp.115-118 を予習し、問題を解いておく。	4 時間
第１０回	対面	話法について考えます。	・今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノート内容を参考に纏めて整理する。 ・次回テキスト pp.126-128 を予習し、問題を解いておく。	4 時間
第１１回	対面	レトリックについて考えます。	・今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノート内容を参考に纏めて整理する。 ・次回テキスト pp.136-142 を予習し、問題を解いておく。	4 時間
第１２回	対面	イディオムについて考えます。	・今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノート内容を参考に纏めて整理する。 ・次回テキスト pp.154-158 を予習し、問題を解いておく。	4 時間
第１３回	対面	肯定表現と否定表現について考えます。	・今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノート内容を参考に纏めて整理する。 ・次回テキスト pp. 167-170 を予習し、問題を解いておく。	4 時間
第１４回	対面	「は」「が」構文について考えます。	・今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノート内容を参考に纏めて整理する。 ・次回テキスト pp. 178-181 を予習し、問題を解いておく。	4 時間
第１５回	オンデマンド	オンデマンドで、「翻訳の深さ： もっと勉強したい人のために」について授業します。	・今学期の全ての授業内容を振り返り、授業中に取ったノート内容を参考に纏めて整理する。 ・今学期の全ての授業内容を振り返り、自分が強化すべき項目を確認して今後の課題とする。 ・返却された今学期全ての課題を見直し、今後取り組むべき課題を認識する。	4 時間

科目名	通訳実践	開講年度	2025
担当者	三戸　康世	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	基礎的な通訳技術の習得・英語スピーキング力の向上		
授業の目的及び概要	本科目は、ビジネス通訳者や観光案内士（通訳ガイド）等を希望進路とする学生に限らず、海外営業職などの高度な英語力を必要とする職種を目指す学生も積極的に対象とする。授業では、通訳者が実際に行う訓練方法（シャドーイング、サイトトランスレーション、パラフレージング、ノートテーキングなど）を取り入れ、ビジネスや観光業の現場で求められる逐次通訳の基礎スキルを習得することを目的とする。また、AI による瞬時の通訳・翻訳が普及する現代において、通訳者が担うべき役割や、AI では代替できない人間特有の文脈理解力や感情に寄り添った表現の重要性についても考察する。		
履修条件・留意点	本科目の受講生は、自身の希望進路の実現及び設定する目標の達成に向けて、毎週約 4 時間程度の自学修（授業内容の復習、小テスト、課題への取り組みおよび予習）を行うことが求められます。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1.通訳の基礎的な訓練を通じて、ビジネスや観光業の現場で求められる英語運用力の習得を目指す。 2.日常会話やビジネスの現場において、適切な語彙表現を用いて迅速に英語⇔日本語を切り替える反応力を高める。 3.グローバルかつプロフェッショナルな視点を持ち、相手の母語に関わらず円滑なコミュニケーションを行うために必要な通訳者の役割、スキル、素養について理解を深める。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストの結果及び課題の提出状況について各自へのフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、キャリアコンサルタントや米国 CCE 認定グローバルキャリア開発ファシリテーターの資格を有しており、これまでに海外の法律事務所で翻訳・通訳や国内の民間企業でキャリア教育コーディネーター等の業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	①Interpreting Skills for the World Beyond Borders/授業で学ぶ〈通訳〉入門　ボーダレスな世界を目指して，水野真木子，松柏社，2022 年	ISBN	①9784881987797
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	20
授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
成果発表（口頭・実技）	40
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	本科目の受講生は、希望進路の実現および自身が設定する目標の達成に向けて、毎週約 4 時間程度の自学修（授業内容の復習、小テスト、課題への取り組みおよび予習）を行うことが求められます。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	オリエンテーション・通訳の基礎概念 通訳者の役割と求められるスキルセットを概観する。通訳と翻訳の違いや、逐次通訳の基本プロセスを理解する。	授業内容の復習と自主トレーニング（語彙及び表現力の強化・発音・音読・シャドーイング等の訓練）4時間程度	4時間
第２回	対面	発声･発音トレーニングとスピーキング基礎 英語スピーキング力向上のため、発声や発音、イントネーション調整の基本練習を行う。スクリプトを用い、明瞭で自然な英語音声を目指す。通訳準備に不可欠なリスニング強化も並行して行う。	テキスト Unit 1 授業内容の復習と自主トレーニング（語彙及び表現力の強化・発音・音読・シャドーイング等の訓練）4時間程度	4時間
第３回	対面	リスニング強化とシャドーイング訓練 ネイティブスピーカーの音声素材を用い、シャドーイングの基本練習を行う。素早く正確に音声を捉え、再現する力を養う。	テキスト Unit ２授業内容の復習と自主トレーニング（語彙及び表現力の強化・発音・音読・シャドーイング等の訓練）4時間程度	4時間
第４回	対面	サイトトランスレーション（視訳）の導入 視覚的に提示された英文本を即座に口頭で訳すサイトトランスレーションを実践する。文法的構造の素早い理解と自然な表現力を鍛える。	テキスト Unit ３授業内容の復習と自主トレーニング（語彙及び表現力の強化・発音・音読・シャドーイング等の訓練）4時間程度	4時間
第５回	対面	パラフレージング訓練 与えられた英文を、文意を変えずに別の表現で言い換える訓練を行う。直訳を避け、意味を的確かつ流暢に伝えるスキルを磨く。	テキスト Unit ４授業内容の復習と自主トレーニング（語彙及び表現力の強化・発音・音読・シャドーイング等の訓練）4時間程度	4時間
第６回	対面	ノートテーキング基礎 通訳者にとって重要なノートテーキングの基本手法（記号、略語、レイアウト）を学ぶ。聴取情報を整理・構造化する練習を行う。	テキスト Unit ５授業内容の復習と自主トレーニング（語彙及び表現力の強化・発音・音読・シャドーイング等の訓練）4時間程度	4時間
第７回	対面	ビジネス現場想定による逐次通訳演習（基礎編） ビジネス会議や商談を想定した短い英語スピーチ素材を用いて逐次通訳を実践する。ノートを用いつつ、時間差で英語から日本語へ自然な流れで伝達する訓練を行う。発話速度や用語選択の最適化も図る。	テキスト Unit ６授業内容の復習と自主トレーニング（語彙及び表現力の強化・発音・音読・シャドーイング等の訓練）4時間程度	4時間
第８回	対面	観光ガイドを想定した通訳演習 観光ガイドを想定し、観光地での説明を日本語（英語）で行うする実践練習を行う。状況に応じた丁寧さや親しみやすさの表現力も強化する。	テキスト Unit ７授業内容の復習と自主トレーニング（語彙及び表現力の強化・発音・音読・シャドーイング等の訓練）4時間程度	4時間
第９回	対面	長めのスピーチ素材を用いたノートテーキング強化 これまで学んだノートテーキング技法を長めの英語スピーチ素材に適用する。情報量が増えた環境で要点整理と再構築力を鍛える。正確性と流暢性のバランスを模索し、定着を図る。	テキスト Unit ８授業内容の復習と自主トレーニング（語彙及び表現力の強化・発音・音読・シャドーイング等の訓練）4時間程度	4時間
第１０回	対面	パラフレージングとトーンコントロールの応用 異なるトーン（カジュアル、フォーマル、ビジネス的）で提示される英文を活用し、	テキスト Unit ９授業内容の復習と自主トレーニング（語彙及び表現力の強化・発音・音読・シャドーイング等の訓練）4時間程度	4時間

		状況に応じた日英間パラフレーズを実行する。話し手の意図や雰囲気を適切な日本語表現に転換する訓練を積む。		
第１１回	対面	AI 通訳ツールの特性理解と比較演習 一般的な AI 通訳・翻訳ツールを用い、同様の素材でツール出力との比較を行う。AIでは難しいニュアンスや文脈理解を人間通訳者がどのように補完できるか考察する。	テキスト Unit　１０授業内容の復習と自主トレーニング（語彙及び表現力の強化・発音・音読・シャドーイング等の訓練）4 時間程度	4 時間
第１２回	対面	専門用語･業界用語への対応とグロッサリー作成 ビジネスや観光など特定領域の専門用語集(グロッサリー)を作成する演習を行う。事前準備によって通訳精度を高める方法を学び、業界固有の表現への対応力を強化する。	テキスト Unit　１１　授業内容の復習と自主トレーニング（語彙及び表現力の強化・発音・音読・シャドーイング等の訓練）4 時間程度	4 時間
第１３回	対面	総合演習（ビジネス＋観光場面の逐次通訳） これまで学んだスキルを総合的に発揮し、長めかつ複合的な内容の英語スピーチを逐次通訳する。ノートテーキング、パラフレージング、トーン調整など、統合的な能力を検証する。自己評価とフィードバックを通じ、最終成果物へ向けて改善点を洗い出す。	テキスト Unit 1~11 の総復習及び自主トレーニング（語彙及び表現力の強化・発音・音読・シャドーイング等の訓練）4 時間程度	4 時間
第１４回	対面	期末試験（通訳実践テスト） 実際の業務現場を想定した逐次通訳テストを行う。これまでの練習成果を確認し、正確性・流暢性・表現力・ノート活用力を評価対象とする。	テキスト Unit 1~11 の総復習及び自主トレーニング（語彙及び表現力の強化・発音・音読・シャドーイング等の訓練）4 時間程度	4 時間
第１５回	オンデマンド	まとめとフィードバック これまでの授業内容を振り返り、受講生へのフィードバックを行う。	通訳実践のふりかえり（自身の課題と今後の目標）・これまでの総復習　4 時間程度	4 時間

科目名	コミュニケーション技法Ⅰ	開講年度	2025
担当者	橋本　凜	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	的確にかつ効果的に自分の考えを伝えることができるようになろう		
授業の目的及び概要	本授業では、ビジネスや社会生活等、様々な場面に応じた日本語によるコミュニケーションを円滑に行うための技法を修得することを目的に、正確な語彙や、慣用句等を正しく使用する表現力を養成します。コミュニケーションは情報のやりとりを行ったり、人間関係を維持・構築する相互交流です。本科科目では、主に情報のやりとりに着目し、自分の意見を適切に他者に伝えることができる能力とともに、相手を説得し、理解してもらえるように伝える能力を養成する。授業では、同じ伝達内容が、場面や立場によりいかに変化するのか、どのように変化させる必要があるのか等を、具体的な事例や、ロールプレイを用いた能動的な手法により身につけます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目では、以下の４点を到達目標とします。 １．情報を与える相手（の理解度）に配慮して話すことができる ２．相手に伝わるように、話のまとまりを意識することの大切さに気付く ３．自分の意見を説得力を持って明確に伝えることができる ４．プレゼンテーションの技術が、書くことにも応用できることを理解する		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業を受けて気づいたこと、学んだこと、疑問等ミニッツペーパーにで提出し、翌週の授業で講評や回答します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	教材は、教員が作成した PPT を中心に進め、受講生にはハンドアウトを配布します。ハンドアウトは教科書の代わりになりますので、必ずファイルなどを準備して、資料を紛失しないようにしてください。(ラーニングポータルにもアップします。)	ISBN	なし
参考書	授業中に参考になる資料（論文等）を適時配布します。 ①『学生のためのプレゼンテーション・トレーニング：伝える力を高める 14 ユニット』，プレゼンテーション研究会，実教出版，2015 年	ISBN	①9784407337433

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	20
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	30
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	30
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	自分の考えを的確にかつ効果的に伝える技術は、プレゼンテーションや就職活動等の面接で非常に役に立つ技術です。ぜひ身につけてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	授業の概要説明、成績評価の説明 初対面の会話で自分をアピールする	事後学修：授業後に課す質問について、①授業での話をまとめる、②本などで調べて答える。（120 分） 事前学習：次回授業に向けて課す質問について、①自分の日常の言語使用を振り返る、②本などで調べて答える。（120 分）	4 時間
第２回	対面	初対面の会話からコミュニケーションを深める	事後学修：授業後に課す質問について、①授業での話をまとめる、②本などで調べて答える。（120 分） 事前学習：次回授業に向けて課す質問について、①自分の日常の言語使用を振り返る、②本などで調べて答える。（120 分）	4 時間
第３回	対面	自分の言いたい事を明確に伝える 相手の関心を引き、納得させることができる	事後学修：授業後に課す質問について、①授業での話をまとめる、②本などで調べて答える。（120 分） 事前学習：次回授業に向けて課す質問について、①自分の日常の言語使用を振り返る、②本などで調べて答える。（120 分）	4 時間
第４回	対面	言葉以外の方法で自分の伝えたいことを相手に訴える コミュニケーション時における自分の印象を変える	事後学修：授業後に課す質問について、①授業での話をまとめる、②本などで調べて答える。（120 分） 事前学習：次回授業に向けて課す質問について、①自分の日常の言語使用を振り返る、②本などで調べて答える。（120 分）	4 時間
第５回	対面	自由な発想でアイディアを生み出す 状況に応じて様々な発想方法を使いこなす	事後学修：授業後に課す質問について、①授業での話をまとめる、②本などで調べて答える。（120 分） 事前学習：次回授業に向けて課す質問について、①自分の日常の言語使用を振り返る、②本などで調べて答える。（120 分）	4 時間
第６回	対面	プレゼンテーションの骨組みを理解し、構成する 説得力のあるプレゼンテーションについて学ぶ	事後学修：授業後に課す質問について、①授業での話をまとめる、②本などで調べて答える。（120 分） 事前学習：次回授業に向けて課す質問について、①自分の日常の言語使用を振り返る、②本などで調べて答える。（120 分）	4 時間
第７回	対面	自分の主張の正当性を裏付ける 主張の根拠を強化し、説得力のあるプレゼンテーションについて学ぶ	事後学修：授業後に課す質問について、①授業での話をまとめる、②本などで調べて答える。（120 分） 事前学習：次回授業に向けて課す質問について、①自分の日常の言語使用を振り返る、②本などで調べて答える。（120 分）	4 時間
第８回	対面	文章をプレゼンテーションの発展形として捉えることができる プレゼンテーションの準備（PPT・原稿作成）をする	事後学修：授業後に課す質問について、①授業での話をまとめる、②本などで調べて答える。（120 分） 事前学習：引き続きプレゼンテーションの準備をする。（120 分）	4 時間
第９回	対面	中間試験：今まで習った技法を使い、自分の専門分野に関連した内容をプレゼンテーションする 他者のプレゼンテーションを聞いて評価する ※中間試験としてプレゼンテーション（口頭発表）を実施します	事後学修：自分のプレゼンテーションに関して自己評価する。（120 分） 事前学習：次回授業に向けて課す質問について、①自分の日常の言語使用を振り返る、②本などで調べて答える。（120 分）	4 時間
第１０回	対面	賛否が分かれる問題について自分の意見をまとめる 自分の意見を効果的に主張する	事後学修：授業後に課す質問について、①授業での話をまとめる、②本などで調べて答える。（120 分） 事前学習：次回授業に向けて課す質問について、①自分の日常の言語使用を振り返る、②本などで調べて	4 時間

			答える。(120 分)	
第１１回	対面	話のあらすじを面白く展開する 話のあらすじに臨場感を持たせる	事後学修：授業後に課す質問について、①授業での話をまとめる、②本などで調べて答える。(120 分) 事前学習：次回授業に向けて課す質問について、①自分の日常の言語使用を振り返る、②本などで調べて答える。(120 分)	4 時間
第１２回	対面	抽象的な事物を具体的に説明する 論理的に物事を説明する	事後学修：授業後に課す質問について、①授業での話をまとめる、②本などで調べて答える。(120 分) 事前学習：次回授業に向けて課す質問について、①自分の日常の言語使用を振り返る、②本などで調べて答える。(120 分)	4 時間
第１３回	対面	特定の問題について、集団の中でそれぞれの立場から意見を交換して、解決策を導き出したり、新たな提案をおこなったりする	事後学修：授業後に課す質問について、①授業での話をまとめる、②本などで調べて答える。(120 分) 事前学習：第 14・15 回授業での発表に向けて準備する。(120 分)	4 時間
第１４回	対面	日本語コミュニケーションⅠで学んだ知識を使って、論理的に話す課題をして短いプレゼンテーション（口頭発表）する	事前学習：口頭発表に向けての準備をする。(120 分) 事後学習：レポート作成に向けて、これまでの授業の内容を振り返る。(120 分)	4 時間
第１５回	オンデマンド	レポート作成に向け、これまでの授業内容を振り返る。	学期末レポートに取り組む（240 分）	4 時間

科目名	コミュニケーション技法Ⅱ	開講年度	2025
担当者	荻田　朋子	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	円滑な人間関係が築ける会話の仕組みを知ろう		
授業の目的及び概要	本授業では、ビジネスや社会生活等、様々な場面に応じた日本語によるコミュニケーションを円滑に行うための技法を修得することを目的に、正確な語彙や、慣用句等を正しく使用する表現力を養成します。コミュニケーションは情報のやりとりを行ったり、人間関係を維持・構築する相互交流です。春学期は、人間関係の維持・構築に着目して、日本文化と深く結びついた敬語や謙譲語およびあらゆる言語に通ずる普遍的なポライトネス（Politeness）の理論を知り、相手に応じて「丁寧に話す」ということについての理解を深めます。それにより、場面に応じ適切な表現を用いて、自らの思いを相手に伝えられる能力を養成します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本授業では、以下の４点を到達目標とします。 １．あなたなりのコミュニケーションの定義を持つ ２．コミュニケーションに関わる要素を学修する ３．日常の自分自身、周りの人の言語使用に興味を持つ ４．良好な人間関係を維持・構築するための方法を学ぶ		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の授業後に、各回での学びや疑問点をミニッツペーパーに記入してもらい、翌週の授業で講評します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	授業では一定のテキストは使用せずに、随時、配布資料を活用します。	ISBN	なし
参考書	授業では一定の参考書は使用せずに、随時、配布資料を適時紹介します。	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	20
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	30
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	30
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	上手な話し手になるためには、自分自身の言語使用をいかに内省できるか、自分の発話に対する聞き手の反応をよく見ることが必要です。ぜひ、この機会に内省してみてください。

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第１回	対面	授業の概要、評価方法の説明	事前学習：コミュニケーションとは何か、自分なりに本などを用いて調べて考える。	2 時間
第２回	対面	コミュニケーションのモデル、種類、本質的な特徴の説明 本科目でのコミュニケーションの定義	事後学修：授業後に課す質問について、①授業での話をまとめる、②本などで調べて答える。（必要時間 120 分） 事前学習：次回授業に向けて課す質問について、①自分の日常の言語使用を振り返る、②本などで調べて答える。（必要時間 120 分）	4 時間
第３回	対面	言語的要素（語彙の選択）が与える印象について知る。ジェンダーと言葉について知る。	事後学修：授業後に課す質問について、①授業での話をまとめる、②本などで調べて答える。（必要時間 120 分） 事前学習：次回授業に向けて課す質問について、①自分の日常の言語使用を振り返る、②本などで調べて答える。（必要時間 120 分）	4 時間
第４回	対面	非言語的要素が与える印象について考える	事後学修：授業後に課す質問について、①授業での話をまとめる、②本などで調べて答える。（必要時間 120 分） 事前学習：次回授業に向けて課す質問について、①自分の日常の言語使用を振り返る、②本などで調べて答える。（必要時間 120 分）	4 時間
第５回	対面	言語形式と文脈、言語の含みについて知る	事後学修：授業後に課す質問について、①授業での話をまとめる、②本などで調べて答える。（必要時間 120 分） 事前学習：次回授業に向けて課す質問について、①自分の日常の言語使用を振り返る、②本などで調べて答える。（必要時間 120 分）	4 時間
第６回	対面	言語形式＋文脈＝発話の意味の具体例を見てみる	学修：授業後に課す質問について、①授業での話をまとめる、②本などで調べて答える。（必要時間 120 分） 事前学習：次回授業に向けて課す質問について、①自分の日常の言語使用を振り返る、②本などで調べて答える。（必要時間 120 分）	4 時間
第７回	対面	敬語とは何なのか 敬語の体系（１） 相手との関係の認識	事後学修：授業後に課す質問について、①授業での話をまとめる、②本などで調べて答える。（必要時間 120 分） 事前学習：次回授業に向けて課す質問について、①自分の日常の言語使用を振り返る、②本などで調べて答える。（必要時間 120 分）	4 時間
第８回	対面	敬語とは何なのか 敬語の体系（２） 場の認識	事後学修：授業後に課す質問について、①授業での話をまとめる、②本などで調べて答える。（必要時間 120 分） 事前学習：次回授業に向けて課す質問について、①自分の日常の言語使用を振り返る、②本などで調べて答える。（必要時間 120 分）	4 時間
第９回	対面	ポライトネス理論についての説明（１）	事後学修：授業後に課す質問について、①授業での話をまとめる、②本などで調べて答える。（必要時間 120 分） 事前学習：次回授業に向けて課す質問について、①自分の日常の言語使用を振り返る、②本などで調べて答える。（必要時間 120 分）	4 時間
第１０回	対面	ポライトネス理論についての説明（２）	事後学修：授業後に課す質問について、①授業での話をまとめる、②本などで調べて答える。（必要時間 120 分） 事前学習：次回授業に向けて課す質問について、①自分の日常の言語使用を振り返る、②本などで調べて答える。（必要時間 120 分）	4 時間

第１１回	対面	ポライトネスと配慮表現についての説明（１）	事後学修：授業後に課す質問について、①授業での話をまとめる、②本などで調べて答える。（必要時間 120 分） 事前学習：次回授業に向けて課す質問について、①自分の日常の言語使用を振り返る、②本などで調べて答える。（必要時間 120 分）	4 時間
第１２回	対面	ポライトネスと配慮表現についての説明（2）	事後学修：授業後に課す質問について、①授業での話をまとめる、②本などで調べて答える。（必要時間 120 分） 事前学習：次回授業に向けて課す質問について、①自分の日常の言語使用を振り返る、②本などで調べて答える。（必要時間 120 分）	4 時間
第１３回	対面	言語文化の異なりによる差異について知る（1）	事後学修：授業後に課す質問について、①授業での話をまとめる、②本などで調べて答える。（必要時間 120 分） 事前学習：次回授業に向けて課す質問について、①自分の日常の言語使用を振り返る、②本などで調べて答える。（必要時間 120 分）	4 時間
第１４回	対面	言語文化の異なりによる差異について知る（2）	事後学修：授業後に課す質問について、①授業での話をまとめる、②本などで調べて答える。（必要時間 120 分） 事前学習：次回授業に向けて課す質問について、①自分の日常の言語使用を振り返る、②本などで調べて答える。（必要時間 120 分）	4 時間
第１５回	オンデマンド	総括	学期中の講義を踏まえて定期試験（レポート）を作成する。	6 時間

科目名	アカデミックライティング	開講年度	2025
担当者	浅見　緑	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	論文やレポート作成に必要なロジカルシンキングの技法を修得しよう。		
授業の目的及び概要	この授業は論文やレポートの作成に必要な学術的文章の特性を理解し、アカデミックな論述能力を向上させることを目標とする。まず、論文やレポートを書くということは、物事を合理的に考え、それを説得力ある言葉で表現することであるを理解する。そのうえで、ロジカルシンキングの技法について、練習問題に取り組みながら理解を深め、文章作成に活用できるようにする。毎回の授業後振り返りシートを提出し、授業で学修した技法の理解を深める。また、各自が作成した文章に対する自己点検や受講生相互の意見交換、教員の講評などを通して、推敲能力を向上させる。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	（1）学術的文章の特性を理解し、文章作成に活用することができる。 （2）情報収集と読解の技法を身につけ、文章作成に活用することができる。 （3）物事を論理的かつ合理的に考える技法を身につけ、文章作成に活用することができる。 （4）作成した文章を複数回推敲し、文章作成の改善につなげることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	振り返りシート、練習問題などの課題に対して、授業時に教員が紹介や解説を行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	酒井浩二『伝わる！ロジカル文章術　レポートの質を極める　How to write a report effectively 』ナカニシヤ出版　2021 年	ISBN	978－4－7795－1566－8
参考書	授業時に必要に応じて紹介する。	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	30
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	40
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	大学生になって、これまで何らかのレポートを書いた経験があると思います。これまで書いたレポートをもとに、より本格的なレポートや論文にするには、何が必要か考えていきましょう。不十分な点に気づくことから、まず始めましょう。この授業を通じて、レポートや論文に必要な技法を身につけ、何が重要か意識しながら文章を作成できるようになりましょう。

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第１回	対面	ガイダンス：テキスト第 1 章　授業の目的、進め方の説明 受講生の構成や人数により、授業内容や進め方については、変更を行うことがある。	事前学習：テキスト第 1 章を予習する。できればテキストを購入する。 事後学修：第 1 回の振り返りシートを提出する。次回の授業に向けて、教員が課した課題をする。テキストをまだ購入していない人は次回までに購入する。	4 時間
第２回	対面	情報収集：テキスト第 2 章　レポートの作成にとって、どのような情報が必要かを考えて選び取る。	事前学修：テキスト第 2 章および授業内容に関して、教員が課した課題をする。 事後学修：第 2 回の振り返りシートを提出する。次回の授業に向けて、教員が課した課題をする。	4 時間
第３回	対面	読解内容の思考：テキスト第 3 章　情報収集した文献の要点を必要に応じて読解してまとめる方法として、要約、レジメのまとめ方、クリティカルシンキングの技法を身につける。	事前学修：テキスト第 3 章および授業内容に関して、教員が課した課題をする。 事後学修：第 3 回の振り返りシートを提出する。次回の授業に向けて、教員が課した課題をする。	4 時間
第４回	対面	多角的思考：テキスト第 4 章　多様な観点からテーマについて考え、その中から焦点を絞ってレポート題目を設定できるようにする。多様な観点を見いだす方法としてマインドマップ、多様な観点から多角的に思考する型として「10 個の質問＆回答」「疑問の連鎖」について学ぶ。	事前学修：テキスト第 4 章および授業内容に関して、教員が課した課題をする。 事後学修：第 4 回の振り返りシートを提出する。次回の授業に向けて、教員が課した課題をする。第 1 章から第 4 章までの復習を行い、小テスト 1 の準備をする。	4 時間
第５回	対面	第 1 章から第 4 章までの復習：テキスト第 1 章～第 4 章　第 1 章から第 4 章までの復習を行う。小テスト 1 を実施する。	事前学修：テキスト第 1 章から第 4 章までの授業内容を復習し、小テスト 1 の準備をする。 事後学修：第 5 回の振り返りシートを提出する。テキスト第 1 章から第 4 章まで、小テスト 1 でできなかったところを復習する。次回の授業に向けて、教員が課した課題をする。	4 時間
第６回	対面	演繹法と帰納法：テキスト第 5 章　ロジカルシンキングの基幹となる技法である演繹法と帰納法を理解して、今後活用できるようにする。	事前学修：テキスト第 5 章および授業内容に関して、教員が課した課題をする。 事後学修：第 6 回の振り返りシートを提出する。次回の授業に向けて、教員が課した課題をする。	4 時間
第７回	対面	ロジックツリー：テキスト第 6 章　論じたい内容の全体構造を把握するため、3 種類のロジックツリー（構造把握ツリー、原因分析ツリー、課題解決ツリー）と、作成するうえでの MECE（ミッシー）について理解し、今後活用できるようにする。	事前学修：テキスト第 6 章および授業内容に関して、教員が課した課題をする。 事後学修：第 7 回の振り返りシートを提出する。次回の授業に向けて、教員が課した課題をする。	4 時間
第８回	対面	マトリクス図表：テキスト第 7 章　物事を 2 つの観点で思考し図表で表現するため、代表的なマトリクス図表（テーブル型のマトリクスズ、ポジショニング型のマトリクス、SHOT スウォットのマトリクス、緊急度・重要度マトリクス）を理解して、今後活用できるようにする。	事前学修：テキスト第 7 章および授業内容に関して、教員が課した課題をする。 事後学修：第 8 回の振り返りシートを提出する。次回の授業に向けて、教員が課した課題をする。	4 時間
第９回	対面	プロセス図：テキスト第 8 章　個人、組織、社会にまつわる情報、物流、お金など、時間軸に沿って変化する変化過程の要点を過不足なく捉えることのできるプロセス図とフローチャートを理解し、今度活用できるようにする。	事前学修：テキスト第 8 章および授業内容に関して、教員が課した課題をする。 事後学修：第 9 回の振り返りシートを提出する。次回の授業内容に向けて、教員が課した課題をする。第 5 章から第 8 章の復習を行い、小テスト 2 の準備をする。	4 時間
第１０回	対面	テキスト第 5 章から第 8 章の復習：テキスト第 5 章～第 8 章までの復習を行う、小テスト 2 を実施する。	事前学修：テキスト第 5 章から第 8 章を復習する。小テスト 2 の準備をする。 事後学修：第 10 回の振り返りシートを提出する。テキスト第 5 章から第 8 章まで、小テスト 2 のできなかったところを復習する。次回の授業に向けて、教員が課した課題をする。	4 時間

第１１回	対面	レポート課題の理解：テキスト第 9 章 レポート課題の要綱、レポートの構成、レポートの評価観点について理解する。	事前学修：テキスト第 9 章および授業内容に関して、教員が課した課題をする。 事後学修：第 11 回の振り返りシートを提出する。次回の授業に向けて、教員が課した課題をする。	4 時間
第１２回	対面	レポートテーマに関する読解内容の思考：テキスト第 10 章　レポート要綱に沿ったレポート作成の準備をする。テキスト第Ⅰ部の技法を使って、情報、文献を収集し、その要点をまとめたり、批判的に読解したりする。	事前学修:テキスト第 10 章および授業内容に関して、教員が課した課題をする。 事後学修：第 12 回の振り返りシートを提出する。テ次回の授業に向けて、教員が課した課題をする。	4 時間
第１３回	対面	レポート題目に関する多角的思考：テキスト第 11 章　第 12 回に設定したレポートの仮題目について、第 4 章および第 10 章で学修した内容を使って、レポート題目を決定する。 レポート題目に関する論理構造の表現：テキスト第 12 章　第Ⅰ部で学修した 4 つのロジカルシンキング法を使って、決定した題目での筆者の主張について論理構造を表現する。	事前学修：テキスト第 11 章・第 12 章および授業内容に関して、教員が課した課題をする。 事後学修：第 13 回の振り返りシートを提出する。次回の授業に向けて、レポートの作成を進める。	4 時間
第１４回	対面	レポートの作成と推敲：テキスト第 13 章 レポートの共有と発表：テキスト第 14 章 レポート評価結果の活用：テキスト第 15 章 テキスト第 13 章から第 15 章に関しては、受講生の数、進行状況によって、取捨選択する。	事前学修：テキスト第 13 章・第 14 章・第 15 章および授業内容に関して、教員が課した課題をする。 事後学修：第 14 回の振り返りシートを提出する。レポートを推敲する。	4 時間
第１５回	オンデマンド	まとめ：テキスト第 16 章　秋学期の授業内容を振り返る。 振り返りシートに取り組み、秋学期の授業で知ったこと、取り組んだこと、考えたことをを通じてどのようなこ修得修得したか確認する。	事前学修：作成中のレポートを複数回推敲しながら改善する。 事後学修：振り返りシートを提出する。レポートの最終確認を行い、期限を守って提出する。	4 時間

科目名	テクニカルライティング	開講年度	2025
担当者	浅見　緑	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	社会人として必要になるビジネス文書の技法と日本語表現を修得しよう。		
授業の目的及び概要	この授業では、仕事を円滑に進めるために必要なビジネス文書の特徴や種類、基本的な書き方など、ビジネス文書に関する一般的な知識について学修する。学修を通じて、論理的に物事を考え文章を構成するという、社会で必要とされる能力を身につけることを目標とする。また、グループワークを通じて、協働する方法や姿勢を身につけると同時に、グローバルビジネスの場で起こりうる、非日本語母語話者との日本語に関連するトラブル等のケーススタディーを通し、異文化コミュニケーションや異文化理解の能力を育成する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	（1）社会に出てから必要な文書（ビジネス文書）の特徴を理解し、文書の作成に活用することができる。 （2）インターネットの特徴を理解し、ビジネスメールの作成に活用することができる。 （3）社会に出てから求められる語彙力、表現力を修得し、文書の作成に活用できる。 （4）根拠のある資料と論理的な分析と適切な文章表現を使って、提案書や企画書を作成することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	取り組んだ課題については、授業時に学生間で合評したり教員から講評を行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	富士通エフ・オー・エム　(2010)『よくわかる自信がつくビジネス文書』富士通オフィス機器	ISBN	978-4893118738
参考書	必要に応じて授業時に紹介します。	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	30
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	40
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって
社会に出ると、いろいろな機会に様々な文書を書くことが求められます。仕事を始めてから困らないように、社会人として必要になる文書について学修します。文書作成の心構えや基本、思考法などは、レポートや論文の作成に通じるものがあります。この授業での学修を通して、学生時代の文章作成での経験が社会に出て生かされるということが実感できるように、卒業論文やレポートの作成にも挑戦しましょう。

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第１回	対面	ガイダンス;テキスト　本書をご利用いただく前に 授業の目的、進め方等の説明を行う。 受講生の構成、人数により、授業内容や進め方は変更することがあります。	事前学修：シラバスを確認し、できればテキストを購入する。 事後学修：第１回の振り返りシートに取り組む。テキストを購入していない人は、次回までにテキストを購入する。	４時間
第２回	対面	ビジネス文書の基本：テキスト第１章 社会に出てから必要とされる文書の種類について学修する。	事前学修：テキスト第１章を予習する。 事後学修：振り返りシートを提出する。次回に授業に向けて、予習プリントに取り組む。	４時間
第３回	対面	ビジネス文　書作成のポイント：テキスト第１章　STEP3　ビジネス文書作成のポイント ビジネス文書の作成手順、書き方の基本、読みやすい文書を作成するポイントについて、学修する。	事前学修：テキスト第１章 STEP3 を予習する。 事後学修：振り返りシートを提出する。次回に授業に向けて、予習プリントに取り組む。	４時間
第４回	対面	ビジネス文書の最終チェック：テキスト第１章　STEP4　作成後の最終チェック 校正の重要性や主なチェックポイントについて学修する。	事前学修：テキスト第１章 STEP4 を予習する。 事後学修：振り返りシートを提出する。次回に授業に向けて、予習プリントに取り組む。	４時間
第５回	対面	通知書・依頼書：テキスト第２章　用件を明確に伝える通知書・依頼書を作ろう 通知書・依頼書の目的や役割、構成する要素、書き方のポイントなどについて学修する。	事前学修：テキスト第２章を予習する。 事後学修：振り返りシートを提出する。次回に授業に向けて、予習プリントに取り組む。	４時間
第６回	対面	議事録：テキスト第３章　社内会議の議事録を作ろう 議事録の目的や役割、構成する要素、書き方のポイントなどを学修する。	事前学修：テキスト第３章を予習する。 事後学修：振り返りシートを提出する。次回に授業に向けて、予習プリントに取り組む。	４時間
第７回	対面	報告書：テキスト第４章　仕事の状況を正確に伝える報告書を作ろう 報告書の目的や役割、構成する要素、書き方のポイントなどを学修する。	事前学修：テキスト第４章を予習する。 事後学修：振り返りシートを提出する。次回に授業に向けて、予習プリントに取り組む。	４時間
第８回	対面	企画書・提案書：テキスト第５章 提案書・企画書の目的や役割、構成する要素、書き方のポイントなどを学修する。	事前学修：テキスト第５章を予習する。 事後学修：振り返りシートを提出する。次回に授業に向けて、予習プリントに取り組む。	４時間
第９回	対面	案内状・通知状：テキスト第６章　社外に情報を発信する案内状・通知状を作ろう。 案内状・通知状の目的や役割、構成する要素、書き方のポイントなどを学修する。	事前学修：テキスト第６章を予習する。 事後学修：振り返りシートを提出する。次回に授業に向けて、予習プリントに取り組む。	４時間
第１０回	対面	お礼状・お詫び状：テキスト第８章 お詫び状の目的や役割、構成する要素、書き方のポイントなどについて、実例をもとに学修する。 小テスト１ テキスト付録１　言葉の常識・非常識から出題する。	事前学修：テキスト第８章を予習する。小テスト１に向けて、付録１を復習する。 事後学修：振り返りシートを提出する。次回に授業に向けて、予習プリントに取り組む。	４時間
第１１回	対面	ビジネスメール：テキスト第９章　メールでビジネス文書を作ろう。 ビジネスメールを構成する要素、書き方のポイント、ルールとマナーなど、ビジネスメールの書き方について学修する。 小テスト２ テキスト付録１　言葉の常識・非常識から出題する。	事前学修：テキスト第９章を予習する。小テスト２に向けて、付録１を復習する。 事後学修：振り返りシートを提出する。次回に授業に向けて、予習プリントに取り組む。	４時間
第１２回	対面	定期試験レポートの準備（1）：定期試験レポート作成に向けて、テキスト第５章を参	事前学修：テキスト第５章を復習しておく。次回授業に向けて、教員が課した課題に取り組む。	４時間

		考にして、各自提案書・企画書の題材を探す。	事後学修：振り返りシートを提出する。定期試験レポートに向けて題材を確定する。	
第１３回	対面	定期試験レポートの準備（2）：定期試験レポート作成に向けて、テキスト第 5 章を参考にして、各自提案書・企画書の構成を考える。	事前学修：テキスト第 5 章の復習をする。次回授業に向けて、教員が課した課題に取り組む。 事後学修：振り返りシートを提出する。作成した構成にもとづき、資料を集める。	4 時間
第１４回	対面	定期試験レポートの準備（3）：定期試験レポート作成に向けて、テキスト第 5 章を参考にして、提案書・企画書を構成にもとづき作成する。 受講生間で、作成した文章をもとに、意見交換する。	事前学修：定期試験レポートとして、提案書・企画書の準備を進める。次回授業に向けて、教員が課した課題を提出する。 事後学修：振り返りシートを提出する。定期試験レポートの推敲をする。	4 時間
第１５回	オンデマンド	まとめ：秋学期の授業内容を振り返る。 「学修の到達目標」をもとに、秋学期の授業で知ったこと、取り組んだこと、考えたことを確認する。	事前学修：定期試験レポートとして、提案書・企画書の作成を進める。 事後学修：定期試験レポートを複数回推敲しながら、完成させ、期限を守って提出する。	4 時間

科目名	プレゼンテーション実践	開講年度	2025
担当者	石川　靖之	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	プレゼンテーション能力の養成		
授業の目的及び概要	就職後はプレゼンテーションする機会が増えます。この授業では、プレゼンテーションソフト（Microsoft PowerPoint）の使い方に加え、プレゼンテーションのコツを学び、実際にプレゼンテーション資料を作成することで、他者と差別化された効果的なプレゼンテーションができるようになることを目標とします。		
履修条件・留意点	PowerPoint を使って自分プレゼンテーションを作成していただきますので、各自の PC を持参してください。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	相手の記憶に残る効果的なプレゼンテーションができるようになることを目標とします。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	講義授業の翌週は前回の復習を行います。また、実践課題はラーニングポータルにアップしていただき、後日受講者にコメント等でフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、リクルートで採用広告制作を 5 年、制作会社でイベントや各種広告・販促物・音楽の企画制作等で 15 年の勤務経験を経た後、自らの会社を起業。大手企業から行政、中小企業まで幅広いクライアントを対象に広告･マーケティング分野で 30 年以上の実務経験を有しており、現在も現役プランナーとして活動している。本科目では、これらの実務経験を活かして、具体的な事例を挙げながら、メディアと広告の関連性や機能、課題、今後の可能性について解説する。		
テキスト	指定のテキストはありません。ラーニングポータルにアップする講義資料（パワーポイント等）を用いて行います。	ISBN	なし
参考書	①一生使える 見やすい資料のデザイン入門，森重湧太，インプレス，2024	ISBN	①9784295018513

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	50
授業期間中の小テスト、レポート課題等	50
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	「約束を守る」こと。これが社会人になってまず問われる能力です。授業を通して約束を守る習慣を身につけながら、いかに自ら積極的に行動できるかがポイントです。課題が多い授業のため、全授業の出席はもとより、受講者自身の積極的な参加と継続的な向上心が必要。単位取得のみの目的ではついてこれません。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第１回	対面	●ガイダンス 教員自己紹介。授業の進め方・注意点について説明	事前：本授業で達成したい目標を決めておくこと（1.5 時間程度） 事後：自分プレゼン内容を考えておくこと（1.5 時間程度）	3 時間
第２回	対面	●プレゼンとは？ プレゼンとはいかに他者と違って、相手にとってプラスになることを伝えるか。 受講生全員に、自分プレゼンしていただきます。	事前：当日の授業で達成したい目標と自分プレゼン内容を決めておくこと（1 時間程度） 事後：「Learning Portal」に掲載した授業資料に目を通し、不明点をなくしておくこと（2 時間程度）	3 時間
第３回	対面	●プレゼンテーションのコツ 人前で話すことが苦にならなくなる 10 個のポイントをお教えします。	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1 時間程度） 事後：「Learning Portal」に掲載した授業資料に目を通し、不明点をなくしておくこと。(3 時間程度)	4 時間
第４回	対面	●自分キャッチフレーズ制作 自分の強みを中心に自分キャッチフレーズを制作し、ラーニングポータルに提出していただきます。	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1 時間程度)。 事後：「Learning Portal」に掲載した授業資料に目を通し、不明点をなくしておくこと。発表課題作成（3 時間程度）	4 時間
第５回	対面	●自分キャッチフレーズ解説 提出された自分キャッチフレーズの発表・講評・解説をします。	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1 時間程度） 事後：授業で解説した内容を復習すること（2 時間程度）	3 時間
第６回	対面	●採用されるプレゼン資料の作り方 実際に採用されるプレゼン資料を作成するための 5 つのポイントをお教えします	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1 時間程度） 事後：「Learning Portal」に掲載した授業資料に目を通し、不明点をなくしておくこと（2 時間程度）	3 時間
第７回	対面	●効果的なパワーポイントでのスライド作成技術① 作成手順／スライドマスター／使用フォント	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1 時間程度） 事後：「Learning Portal」に掲載した授業資料に目を通し、授業で実施した方法を実際に操作できるようにしておくこと（3 時間程度）	4 時間
第８回	対面	●効果的なパワーポイントでのスライド作成技術② 作成手順／スライドマスター／使用フォント（続き）	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1 時間程度） 事後：「Learning Portal」に掲載した授業資料に目を通し、授業で実施した方法を実際に操作できるようにしておくこと（3 時間程度）	4 時間
第９回	対面	●効果的なパワーポイントでのスライド作成技術③ レイアウト、画像、表紙	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1 時間程度） 事後：「Learning Portal」に掲載した授業資料に目を通し、不明点をなくしておくこと。授業中にできなかった課題は次週までの宿題（3 時間程度）	4 時間
第１０回	対面	●効果的なパワーポイントでのスライド作成技術④ レイアウト、画像、表紙（続き）	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1 時間程度） 事後：「Learning Portal」に掲載した授業資料に目を通し、授業で実施した方法を実際に操作できるようにしておくこと（3 時間程度）	4 時間
第１１回	対面	●効果的なパワーポイントでのスライド作成技術⑤ グラフ、アニメーション、加工	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1 時間程度） 事後：「Learning Portal」に掲載した授業資料に目を通し、授業で実施した方法を実際に操作できるようにしておくこと（4 時間程度）	5 時間
第１２回	対面	●効果的なパワーポイントでのスライド作成技術⑥ グラフ、アニメーション、加工（続き）	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1 時間程度） 事後：「Learning Portal」に掲載した授業資料に目を通し、授業で実施した方法を実際に操作できるようにしておくこと（4 時間程度）	5 時間
第１３回	対面	●自分プレゼン（ワーク）	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこ	6 時間

		これまで学んだことを使って、次週から始まる自分プレゼンテーションのためのスライド作成ワーク。ラーニングポータルにアップ。	と（1 時間程度） 事後：課題作成（5 時間程度）	
第１４回	対面	●自分プレゼンテーション 提出されたパワーポイントについての発表・解説。 ※受講人数によりますが、全員発表を予定	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1 時間程度） 事後：解説を聞いて感じたことで、自分のプレゼンテーションの改善を考える（2 時間程度）	3 時間
第１５回	オンデマンド	●総括 オンデマンド動画で、これまで授業で学んできたことのおさらいをします。	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1 時間程度） 事後：授業全体で学んだことを復習すること（4 時間程度）	5 時間

科目名	比較文化論	開講年度	2025
担当者	ミルズ・ジョナサン	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	比較文化の視点を養う		
授業の目的及び概要	この授業では、日本文化と異文化の中から具体的な題材を取り上げ、それらの比較を通して、文化が個別的性格と普遍的性格を持つことを理解し、個別文化の価値を認識する力を養うことを目指します。従来の専門分野にとらわれず、比較という手法を用いながら、学際的・総合的な文化研究を目指していく考え方を身に付けます。就業力育成の観点から論理的思考力や幅広い視野を育みます。コースの前半（第１～８回）は、職場等での異文化コミュニケーションを背景とした文化比較とその対応策を学修し、後半（第９～１４回）は、前半に紹介した事象の背景にある〈文化〉と〈歴史〉をより深く考えます。		
履修条件・留意点	当該科目は「異文化理解」の発展科目であり、英語コミュニケーションにおける「社会/文化」領域の発展科目です。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 文化の個別的側面の特性について理解できる。 2. 文化の違いをなるべく客観的に分析できる。 3. 社会規範を決定する歴史と文化の役割を理解できる。 4. 異なる文化の共通点・相違点を理解し、具体例を挙げることができる。 5. 特に、日本の文化と他の文化の類似点・相違点を把握し、説明できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	レポートは、添削した上で返却します。小テストは、採点した上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	『異文化理解力――相手と自分の真意がわかる ビジネスパーソン必須の教養』エリン・メイヤー著、英治出版、2015 ※ 授業の予習・復習、およびレポート作成の時に使用します。	ISBN	9784862762085
参考書	”The Culture Map: Decoding How People Think, Lead, and Get Things Done Across Cultures”, Erin Mayer, Public Affairs, 2015 ※ これは教科書の英語版（原文）です。	ISBN	9781610392761

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	40
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	0
この科目の受講に	国際学部の皆さんにとっては「異文化理解」は大変重要な課題です。日々の積極的な交流や、	

あたって	海外体験を通じて、国際感覚を身に付けることも重要ですが、それに加えて本科目に紹介される理論と具体例の学修によって、異文化理解が更に深まることが期待されます。授業中の積極的な参加（ノート手―キング、クループワーク、質疑応答など）および予習・復習によって、紹介されるアイデアや具体例をよく学修しましょう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	日本･外国における｢コミュニケーション｣について （ハイ・コンテクスト文化 vs. ロー・コンテクスト文化）	復習（レジュメ、テキストの第１章、47-84 頁）と予習（テキスト第２章、85-118 頁）を行うこと。	4 時間
第２回	対面	日本・外国における「評価」について （直接的ネガティブ･フィードバック vs. 関節的なネガティブ・フィードバック）	復習（レジュメ、テキストの第２章、85-118 頁）と予習（テキスト第３章、119-146 頁）を行うこと。	4 時間
第３回	対面	日本・外国における「説得」について （原理優先 vs. 応用優先、包括的思考 vs. 特定的思考）	復習（レジュメ、テキストの第３章、119-146 頁）と予習（テキスト第４章、147-180 頁）を行うこと。	4 時間
第４回	対面	日本・外国における「指導」について （平等主義 vs. 階層主義）	復習（レジュメ、テキストの第４章、147-180 頁）と予習（テキスト第５章、181-202 頁）を行うこと。	4 時間
第５回	対面	日本・外国における「決定」について （合意志向 vs. トップダウン式）	復習（レジュメ、テキストの第５章、181-202 頁）と予習（テキスト第６章、203-240 頁）を行うこと。	4 時間
第６回	対面	日本・外国における「信用」について （タスクベース vs. 関係ベース）	復習（レジュメ、テキストの第 6 章、203-240 頁）と予習（テキスト第７章、241-268 頁）を行うこと。	4 時間
第７回	対面	日本・外国における「意見の違い」について （対立型 vs. 対立回避型）	復習（レジュメ、テキストの第７章、241-268 頁）と予習（テキスト第８章、269-294 頁）を行うこと。	4 時間
第８回	対面	日本・外国における「予定」について （直線的な時間 vs. 柔軟な時間）	復習（レジュメ、テキストの第８章、269-294 頁）と予習（第９回のレジュメ）を行うこと。	4 時間
第９回	対面	トピック（１）演劇 日本の伝統芸能について（能・歌舞伎・文楽を中心に）	第９回レジュメ・資料の復習、第１０回レジュメの予習（全てラーニング・ポータルに掲載）を行うこと。	4 時間
第１０回	対面	トピック（１）演劇 イギリスや西洋の演劇について（シェークスピアを中心に）・古典演劇の特徴の比較	第１０回レジュメ・資料の復習、第１１回レジュメの予習（全てラーニング・ポータルに掲載）を行うこと。	4 時間
第１１回	対面	トピック（２）絵本 日本の絵本について（草双紙を中心に）	第１１回レジュメ・資料の復習、第１２回レジュメの予習（全てラーニング・ポータルに掲載）を行うこと。	4 時間
第１２回	対面	トピック（２）絵本 イギリスや西洋の絵本について（19 世紀の児童文学を中心に）・児童文学の特徴の比較	第１２回レジュメ・資料の復習、第１３回レジュメの予習（全てラーニング・ポータルに掲載）を行うこと。	4 時間
第１３回	対面	トピック（３）宗教と思想 日本の宗教と思想について（神道・仏教・儒教の思想家を中心に）	第１３回レジュメ・資料の復習、第１４回レジュメの予習（全てラーニング・ポータルに掲載）を行うこと。	4 時間
第１４回	対面	トピック（３）宗教と思想 イギリスの宗教と思想について（宗教改革・啓蒙時代を中心に）・宗教と思想の比較	第１４回レジュメ・資料の復習、第１５回レジュメの予習（全てラーニング・ポータルに掲載）を行うこと。	4 時間
第１５回	オンデマンド	まとめ（レポート試験の執筆へ向けて）	第１５回レジュメ・資料の復習を行うこと。	4 時間

科目名	多文化共生社会論	開講年度	2025
担当者	宮﨑　寛	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	多文化共生社会の基本的概念および現状を理解する。		
授業の目的及び概要	この授業では、①多文化共生論の基本的概念を正しく理解し、説明できるようになる、②事例を通じて、多文化共生社会の現状を理解する、③自らが多文化共生社会に置かれたときに、適切に振舞えるようになるための考え方を身につけることを目指す。事例として、日本社会に存在する外国人労働者、アイヌ民族、在日コリアン等の文化的マイノリティの状況とともに、世界に視野を広げ、先住民族、宗教的マイノリティ、移住労働者等の問題を取り上げ、これらの問題を解決する方法について検討する。		
履修条件・留意点	【2023 年以降入学生】当該科目は、「国 際学基礎 A」の 「社会 /文化から見る世界」、専門基礎科目「国際社会学」の上位科目であり、専門発展科目です。これまで学修した異文化理解、国際社会学の基本的知識を前提として多文化共生論の基本的概念を修得する科目であることから、 2 0 2 3 年度以降に入学 した方で英語コミュニケーションコースを選択した方の履修を推奨 します。また、アジア太平洋コースを選択予定の方も、グローバル化が進む現代社会において身に付けるべき多文化共生論に関する知識と考え方を修得する科目であることから履修を推奨しましょう。 【2022 年以前入学生】当該科目は、法政治文化領域の「異文化理解Ⅰ」「異文化理解 II」「異文化適応論」の上位科目であり、専門発展科目「国際理解科目群」です。多文化共生の基本的知識を習得する科目であることから積極的に履修ください。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	① 多文化共生社会の基本的概 念を理解することができる。 ② 日本並 びに海外における多文化共生の現状 を具体 的な事例から理解することができる。 ③ 自らが多文化共生社会に置かれたときに、適切に振舞えるようになるための考え方を身につけることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	原則として質問等について授業内にフィードバックする。必要に応じてメールやラーニングポータルを通じてフィードバックすることもある。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	使用しない。	ISBN	使用しない。
参考書	①「共生」の内実：批判的社会言語学からの問いかけ（新装版）、植田晃次・山下仁編著、三元社、2011 年。 ②批判的想像力のために：グローバル化時代の日本、モーリス＝スズキ，テッサ、平凡社、2013 年。 ③日本型多文化教育とは何か：「日本人性」を問い直す学びのデザイン、松尾知明、明石書店、2023 年。 ④「移民時代」の多文化共生論：想像力・創造力を育む 14 のレッスン、松尾知明、明石書店、2020 年。 その他、適宜授業中に紹介する。 ※授業で扱う「読み物」はすべてラーニングポータルにアップロードするので、各自それをダウンロードして読むこと。	ISBN	①9784883032884 ②9784582767810 ③9784750356822 ④9784750349671

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	30
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	「多文化」は日本社会においても日常的な現象です。この科目の特に後半においては、多文化共生を目指す具体的な取り組み事例を見ていきますので、「机の上のお勉強」に終わらせずに、身近に起きていること、自分に関係していることとしてとらえるようにしてください。その姿勢から、素朴な疑問が生まれてくるはずです。この科目ではそうした素朴な疑問を重視していきますので、気兼ねなく直接ないしメール等で担当教員に質問してください。疑問と好奇心を持って取り組めば、必要な知識と理解は自ずと後からついてきます。毎回の予習の読み物をラーニングポータルに掲載するので、事前に読んでから授業に臨むようにしましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション： 多文化共生社会論の履修にあたって、基本的な用語および考え方、世界的な潮流、学修する意義を理解する。	配布資料の予習および復習（3 時間程度）	3 時間
第２回	対面	多文化共生とは何か①：「文化」とは何か	配布資料の予習および復習（3~4 時間程度）： 松尾「4 章 文化とは何か」『多文化共生のためのテキストブック』（2011 年、明石書店）。	3.5 時間
第３回	対面	多文化共生とは何か②：「多文化」と「共生」	配布資料の予習および復習（3~4 時間程度）： 松尾「第 2 章　激しく変化する現代社会：多文化をめぐる見方・考え方」『「移民時代」の多文化共生論』（2020 年、明石書店）。 松尾「第 1 章　多文化主義をめぐる争点：多文化教育を支える理念とは」『日本型多文化教育とは何か』（2023 年、明石書店）。	3.5 時間
第４回	対面	多文化共生を批判的に読み解く視点	配布資料の予習および復習（3~4 時間程度）： モーリス＝スズキ「現代日本における移民と市民権―「コスメティック・マルチカルチャリズム」を克服するために」『批判的想像力のために：グローバル化時代の日本』（2013 年、平凡社）。 ハタノ「第３章　在日ブラジル人を取り巻く「多文化共生」の諸問題」植田・山下編『新装版 「共生」の内実：批判的社会言語学からの問いかけ』（2011 年、三元社）。	3.5 時間
第５回	対面	2～4 回目振り返りおよび確認テスト①	2~4 回で学習した資料の復習（3~4 時間程度）	3.5 時間
第６回	対面	日本社会の多文化状況：概論	過去 10 年にわたる日本の「在留外国人数」および出入国状況（推移）について自分で調べる。（3 時間程度）	3 時間
第７回	対面	日本の多文化の歴史的背景	配布資料の予習および復習（3~4 時間程度）： 宮島「第 1 章「移民国家」日本へ――なぜ、いかにして、を考える」『「移民国家」としての日本：共生への展望』（2022 年、岩波新書）。	3.5 時間
第８回	対面	日本の「移民」政策：「外国人管理」か「統合」か	配布資料の予習および復習（3~4 時間程度）： 松尾「第 8 章　移民時代の到来：入管法の改正」『「移民時代」の多文化共生論』（2020 年、明石書店）。	3.5 時間

			さらなる学習： 加藤丈太郎「序章　出入国在留管理庁の解体と移民庁の創設」、加藤編著『入管の解体と移民庁の創設：出入国在留管理から多文化共生への転換』（2023 年、明石書店）。	
第９回	対面	振り返りおよび中間テスト	6~8 回で学習した資料の復習（3 時間程度）	3 時間
第１０回	対面	多文化共生に向けた取り組み①：地域・自治体での実践	配布資料の予習および復習（3~4 時間程度）： 原めぐみ「第３章　紐帯はどのようにして育まれたか：大阪市中央区での多文化家族支援の実践から」髙谷ほか編著『多文化共生の実験室：大阪から考える』（2022 年、青弓社）。	3.5 時間
第１１回	対面	多文化共生に向けた取り組み②：「外国人労働者」にまつわる課題と実践	配布資料の予習および復習（3~4 時間程度）： 大久保・梅村「第 7 章　地方部の製造業と外国人労働者」徳田ほか編著『地方発　多文化共生のしくみづくり』（2023 年、晃洋書房）。	3.5 時間
第１２回	対面	多文化共生に向けた取り組み③：コロナ渦における実践	配布資料の予習および復習（3~4 時間程度）： 徳永智子「第 5 章　コロナ禍を生きる外国につながる若者とのアクションリサーチ：YPAR の試み」徳永ほか編著『外国につながる若者とつくる多文化共生の未来：協働によるエンパワメントとアドボカシー』（2023 年、明石書店）。	3.5 時間
第１３回	対面	諸外国における多文化共生①：米国	配布資料の予習および復習（3~4 時間程度）： 南川文里「第 8 章　多様性時代における「多からなる一」 」『アメリカ多文化社会論〔新版〕：「多からなる一」の系譜と現在』（2022 年、法律文化社）。	3.5 時間
第１４回	対面	諸外国における多文化共生②：オーストラリア、ドイツ、カナダ	配布資料の予習および復習（3~4 時間程度）：次のいずれかを読む： 梅村麦生「第 18 章　ドイツの「移民政策」：歴史的経緯と転換の過程から」徳田ほか編著『地方発　多文化共生のしくみづくり』（2023 年、晃洋書房）。 古地 順一郎「第 19 章　移民を地方へ：カナダの「移民政策」の動向」徳田ほか編著『地方発　多文化共生のしくみづくり』（2023 年、晃洋書房）。	3.5 時間
第１５回	オンデマンド	確認テスト②、および授業総括	第 1 回～第 14 回授業配布資料の復習（3~4 時間程度）	3.5 時間

科目名	多文化共生社会論	開講年度	2025
担当者	木村　彩音	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	多文化主義に関する基本的な考え方を身につけ、主要なトピックを取り巻く情勢を理解し異文化と接することを多角的に議論することを目指す。		
授業の目的及び概要	この授業では、①多文化共生論の基本的概念を正しく理解し、説明できるようになる、②事例を通じて、多文化共生社会の現状を理解する、③自らが多文化共生社会に置かれたときに、適切に振舞えるようになるための考え方を身につけることを目指す。事例として、日本および世界で最も成功した多文化主義社会とされるオーストラリアを取り上げ、移民、難民、先住民、そしてマジョリティなどそれぞれの角度から多文化主義とは何かを考えることを目指す。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	多文化主義の基本的な諸概念を理解し、主要な議論を理解し、異文化と接することを多角的な視点から捉える姿勢を身につけることを目指す。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回授業の終わりにコメント記入フォームを配布。次回の授業で復習、フィードバックに利用する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	使用しない。	ISBN	使用しない。
参考書	オーストラリア多文化社会論：移民・難民・先住民族との共生をめざして、関根政美、塩原良和、栗田梨津子、藤田智子編著、法律文化社、2020 年。オーストラリア先住民と日本：先住民学・交流・表象、山内由理子編、　御茶の水書房　、2014 年。 「移民時代」の多文化共生論：想像力・創造力を育む 14 のレッスン、明石書店、2020 年。 他適宜授業中に紹介します。	ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	30
授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	30
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	まず「文化」とは何でしょうか。具体的な例として慣習や言語、生活様式などを挙げることはできますが、それをたくさん集めれば「文化」という総体になるのでしょうか。また「多文化」はどうでしょうか。様々な国や地域出身の人々が集まると「多文化」状況であるといえるのでしょうか。そうしたなかで異文化と出会い、理解するとはどういうことなのでしょうか。この授業では、よく耳にするけれど改めて考えると捉えどころのない文化、そして異文化、多文化

	主義について改めて考え直していきます。唯一の正解はどこにもありませんが、一緒に悩んでみましょう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション：授業の基本的な構成と枠組みの解説	配布資料の復習およびノート整理（2 時間程度）	2 時間
第２回	対面	「文化」とは何か	配布資料の復習およびノート整理（2 時間程度）	2 時間
第３回	対面	「多文化主義」と「多文化共生」：日本とオーストラリアの対比①	配布資料の復習およびノート整理（2 時間程度）	2 時間
第４回	対面	「多文化主義」と「多文化共生」：日本とオーストラリアの対比②	配布資料の復習およびノート整理（2 時間程度）	2 時間
第５回	対面	これまでのまとめと小テスト	これまでの復習（3 時間程度）	3 時間
第６回	対面	人種、エスニシティ、民族①	配布資料の復習およびノート整理（2 時間程度）	2 時間
第７回	対面	人種、エスニシティ、民族②	配布資料の復習およびノート整理（2 時間程度）	2 時間
第８回	対面	移民を取り巻く状況	配布資料の復習およびノート整理（2 時間程度）	2 時間
第９回	対面	これまでのまとめと小テスト	これまでの復習（3 時間程度）	3 時間
第１０回	対面	先住民とは誰のこと？：日本とオーストラリアの先住民①	配布資料の復習およびノート整理（2 時間程度）	2 時間
第１１回	対面	先住民とは誰のこと？：日本とオーストラリアの先住民②	配布資料の復習およびノート整理（2 時間程度）	2 時間
第１２回	対面	海を渡る日本人移民	配布資料の復習およびノート整理（2 時間程度）	2 時間
第１３回	対面	これまでのまとめと小テスト	これまでの復習（3 時間程度）	3 時間
第１４回	対面	フィールドワークに入る-異文化との出会いは自分との出会い？	配布資料の復習およびノート整理（2 時間程度）	3 時間
第１５回	オンデマンド	授業総括	これまでの復習（3 時間程度）	3 時間

科目名	韓国社会論	開講年度	2025
担当者	徐　潤雅	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	韓国の社会・文化への理解を深め、国際交流の素養を培う。		
授業の目的及び概要	この授業では、韓国現代史における社会や文化の変遷について幅広く学ぶ。具体的には、韓国における反共主義、経済発展の過程、ジェンダーやセクシュアリティの問題、市民運動の歴史、美術史などのテーマを取り上げ、それぞれの社会現象や文化的産物の特徴、人々の経験を韓国現代史の文脈と関連付けながら考察する。 また、マクロな視点の講義内容を補い、韓国現代史を生きた人々のミクロな生き様を感じてもらうために、関連する小説・映画・ドラマ・漫画・書籍・ドキュメンタリーなどを紹介する。各授業では、O/X クイズ、学生自身の経験や視点を述べる討論（グループワーク）、コメントペーパーの作成などを必要に応じて取り入れる。		
履修条件・留意点	毎回の授業に積極的に参加しましょう。評価では、各授業での参加態度やコメントペーパー・ワークシートの作成を重視します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 韓国現代史における社会や文化の変遷を理解し、自分の言葉で説明できる。 2. 韓国と自国／母国の社会や文化を比較し、批判的に考察できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	皆さんが提出したコメントペーパーやワークシートへのコメント、授業前後の質問対応を通じてフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	使用しない。	ISBN	―
参考書	授業中に適宜紹介する。	ISBN	―

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	60
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	40
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	●対面授業を 14 回実施します（第 15 回の授業はオンデマンドで実施します）。 【成績評価の方法・基準の詳細】 ● 「授業への積極的な参加度・取り組み（60%）」は、授業での参加態度、コメントペーパーやワークシートの作成・提出をもとに評価します。毎回 60 点満点で採点し、その平均点（15 回分）を成績に反映します。 （※ 一度欠席すると、その回の点数は 0 点となりますのでご注意ください。やむを得ない事情で欠席する場合は、事前にご連絡ください。） ● 「定期試験：レポート（40%）」 は、授業中に紹介した作品から作品を選び（作品リストを配布）、レポート（感想文）を作成するものです。レポートの作成方法については、授業中に案

	内します。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	オリエンテーション ・【活動：自己紹介】私の文化的アイデンティティ・タイムライン（自分の成長の中で、どのような文化が影響を与えたかをタイムライン形式で紹介） ・授業概要の説明と目的意識のすり合わせ ・成績評価の方法と注意事項の説明、学習方法の説明 ・【活動：アンケート】私が気になる韓国社会と文化 ・Q&A	【予習】シラバスを熟読する。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習。ファイリング。	0.5 時間
第２回	対面	「自由主義の最前線」におかれた分断国家：反共主義から太陽政策まで１ キーワード：朝鮮戦争、李承福少年、スパイ事件、11・22 事件、反共主義と反共教育、反共文化の変遷、太陽政策、統一教育	【予習】授業資料欄にアップロードされた資料に目を通し、分からない点を確認しておく。 【復習】配布資料やノートを使って復習する。分からなかった点が解消されたか確認し、自分の言葉で整理してみる。	1.5 時間
第３回	対面	「自由主義の最前線」におかれた分断国家：反共主義から太陽政策まで２ キーワード：朝鮮戦争、李承福少年、スパイ事件、11・22 事件、反共主義と反共教育、反共文化の変遷、太陽政策、統一教育	【予習】授業資料欄にアップロードされた資料に目を通し、分からない点を確認しておく。 【復習】配布資料やノートを使って復習する。分からなかった点が解消されたか確認し、自分の言葉で整理してみる。	1.5 時間
第４回	対面	開発独裁と財閥の誕生、そして庶民の生活：経済発展の光と影１ キーワード：経済開発計画、政経癒着、貧困、海外養子縁組、キーセン観光、物価、国民年金と健康保険、都市開発、経済格差	【予習】授業資料欄にアップロードされた資料に目を通し、分からない点を確認しておく。 【復習】配布資料やノートを使って復習する。分からなかった点が解消されたか確認し、自分の言葉で整理してみる。	1.5 時間
第５回	対面	開発独裁と財閥の誕生、そして庶民の生活：経済発展の光と影２ キーワード：経済開発計画、政経癒着、貧困、海外養子縁組、キーセン観光、物価、国民年金と健康保険、都市開発、経済格差	【予習】授業資料欄にアップロードされた資料に目を通し、分からない点を確認しておく。 【復習】配布資料やノートを使って復習する。分からなかった点が解消されたか確認し、自分の言葉で整理してみる。	1.5 時間
第６回	対面	韓国の市民運動とその形成過程：4.19 からロウソクデモまで１ キーワード：民衆・民主運動の流れ、労働運動、女工、民主化以後の民主主義、4・19、釜馬抗争、5・18、6 月民主抗争、ロウソクデモ	【予習】授業資料欄にアップロードされた資料に目を通し、分からない点を確認しておく。 【復習】配布資料やノートを使って復習する。分からなかった点が解消されたか確認し、自分の言葉で整理してみる。	1.5 時間
第７回	対面	韓国の市民運動とその形成過程：4.19 からロウソクデモまで２ キーワード：民衆・民主運動の流れ、労働運動、女工、民主化以後の民主主義、4・19、釜馬抗争、5・18、6 月民主抗争、ロウソクデモ	【予習】授業資料欄にアップロードされた資料に目を通し、分からない点を確認しておく。 【復習】配布資料やノートを使って復習する。分からなかった点が解消されたか確認し、自分の言葉で整理してみる。	1.5 時間
第８回	対面	韓国で「女性」として生きるということ キーワード：女性運動の変遷、フェミニズム、性暴力、N 番部屋事件、#metoo 運動、momgorithm、男女葛藤、女性の人生を描いた映画・ドラマ	【予習】授業資料欄にアップロードされた資料に目を通し、分からない点を確認しておく。 【復習】配布資料やノートを使って復習する。分からなかった点が解消されたか確認し、自分の言葉で整理してみる。	1.5 時間
第９回	対面	韓国で「男性」として生きるということ キーワード：男児選好思想、軍隊形成史、徴兵制、軍隊文化、トラウマ、脱走兵、良	【予習】授業資料欄にアップロードされた資料に目を通し、分からない点を確認しておく。 【復習】配布資料やノートを使って復習する。分から	1.5 時間

		心的兵役拒否、軍加算点制度、男女葛藤、男性の人生を描いた映画・ドラマ	なかった点が解消されたか確認し、自分の言葉で整理してみる。	
第１０回	対面	韓国で LGBTQ として生きるということ キーワード:レズビアンとゲイのコミュニティ、明洞と鍾路、人権運動、トランスジェンダーと入学・兵役・トイレ問題、(包括的)差別禁止法制定、インタビュー動画、表象	【予習】授業資料欄にアップロードされた資料に目を通し、分からない点を確認しておく。 【復習】配布資料やノートを使って復習する。分からなかった点が解消されたか確認し、自分の言葉で整理してみる。	1.5 時間
第１１回	対面	韓国現代美術の変遷から見る韓国社会（１）:近代美術のはじまりから植民地期まで キーワード:朝鮮後期のリアリズム、西洋絵画との出会い、「美術」と近代国家、近代建築、美術制度、日本留学の朝鮮人美術家、官展、郷土色論争、前衛美術、戦争画、抽象画、絶筆	【予習】授業資料欄にアップロードされた資料に目を通し、分からない点を確認しておく。 【復習】配布資料やノートを使って復習する。分からなかった点が解消されたか確認し、自分の言葉で整理してみる。	1.5 時間
第１２回	対面	韓国現代美術の変遷から見る韓国社会（２）:解放後から 1960 年代まで キーワード:解放後の画家、越南・越北、避難地美術、国展、アンフォルメル、アバンギャルド（前衛）	【予習】授業資料欄にアップロードされた資料に目を通し、分からない点を確認しておく。 【復習】配布資料やノートを使って復習する。分からなかった点が解消されたか確認し、自分の言葉で整理してみる。	1.5 時間
第１３回	対面	韓国現代美術の変遷から見る韓国社会（３）:1970 年代以降 キーワード:モノクローム・アート（単色画)、伝統の再発見、民衆美術、広場美術、フェミニズム・アート、都市再生とアートプロジェクト、国際展	【予習】授業資料欄にアップロードされた資料に目を通し、分からない点を確認しておく。 【復習】配布資料やノートを使って復習する。分からなかった点が解消されたか確認し、自分の言葉で整理してみる。	1.5 時間
第１４回	対面	日本の中の朝鮮・韓国 キーワード:朝鮮通信使、在日コリアン(在日朝鮮・韓国人)、関西の主要な朝鮮半島ゆかりの場所	【予習】授業資料欄にアップロードされた資料に目を通し、分からない点を確認しておく。 【復習】配布資料やノートを使って復習する。分からなかった点が解消されたか確認し、自分の言葉で整理してみる。	1.5 時間
第１５回	オンデマンド	講義のまとめ、レポートの作成方法 ※動画の内容に対する理解度チェックを行います。	これまでの配布資料やノートを使って復習する。関心のあるテーマに関連する作品を読んだり視聴したりする。レポートの作成に取り掛かる。	3.5 時間

科目名	Japanese Culture	開講年度	2025
担当者	ミルズ・ジョナサン	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日本文化についての知識の修得		
授業の目的及び概要	この授業は英語のみで行われる。授業では、日本文化についての知識を修得することを目的とする。具体的には、授業を通して、現代の日本文化の基盤ともいえる、近世期の文化の理解を深めることを中心的な目標として設定したうえで説明・解説を行い、近世期を中心とする日本文化の特徴を英語で理解し、他者に発信する能力を修得する。さらに、世界から見た日本の文化の特徴を認識したうえ、それを認識するだけではなく、英語で伝えることができる英語力をも培うことを授業の目標とする。就業力育成の観点から論理的思考力や幅広い視野を育む。		
履修条件・留意点	当該科目は「異文化理解」の発展科目であり、英語コミュニケーションにおける「社会/文化」領域の発展科目です。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 日本の文化について、英語で説明できる。 2. 現代・近代・前近代を問わず、日本文化の重要な側面を認識し、それを説明できる。 3. 過去の文化が現代の日本文化に及ぼした影響を理解できる。 4. 日本文化が日本の「ソフト・パワー」に及ぼす影響を理解できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	レポートは、添削した上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特定しません。	ISBN	なし
参考書	① 『大江戸見聞録』、江戸文化歴史検定協会・編、小学館、2006 ② "Japan: History and Culture from Classical to Cool", Nancy J. Stalker, University of California Press, 2018, 9780520287778	ISBN	① 9784096266014 ② 9780520287778

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	30
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	40
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	国際学部の皆さんにとっては「異文化理解」は大変重要な課題です。日々の積極的な交流や、海外体験を通じて、国際感覚を身に付けることも重要ですが、それに加えて本科目に紹介される理論と具体例の学修によって、異文化理解が更に深まることが期待されます。授業中の積極的な参加（ノート手―キング、クループワーク、質疑応答など）および予習・復習によって、紹介されるアイデアや具体例をよく学修しましょう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	”Course Introduction: Kamigata and Edo” 近世期について考えるきっかけとして、近世の「上方」と「江戸」、それぞれの文化的・社会的・経済的な特徴について検討する。	授業後に、配った第１回のレジュメと、自分が授業で取ったメモをしっかり読み、復習をすること。また、Learning Portal に掲載する第２回授業資料を事前に読んでおくこと。	4 時間
第２回	対面	”People (1): The Townspeople” 身分社会のなかで、個人の将来はある程度、生まれた時点で定まっていた。しかし、当時の町人は一生懸命文化や学問に励んだ。非常に洗練された町人文化が生み出された背景として、町人文化の特徴について学ぶ。	授業後に、配った第２回のレジュメと、自分が授業で取ったメモをしっかり読み、復習をすること。また、Learning Portal に掲載する第３回授業資料を事前に読んでおくこと。	4 時間
第３回	対面	”People (2): The Warrior Class” 武士は近世社会の支配階級ではあったが、それでも大名レベルの裕福な武士と、下級武士との間の差が激しかった。戦争がない平和な時代に自己の「存在理由」をどう考えたかということも含め、武家の暮らしの特徴について学ぶ。	授業後に、配った第３回のレジュメと、自分が授業で取ったメモをしっかり読み、復習をすること。また、Learning Portal に掲載する第４回授業資料を事前に読んでおくこと。	4 時間
第４回	対面	People (3): The Shogun and the Daimyo Lords 徳川将軍は、事実上、国家の統治者であった。しかし、将軍の生活に焦点を合わせると、外国の統治者層の豪華な暮らしに比べて、将軍の日常は質素で、倹約的であった。このような点を踏まえ、将軍や大名の暮らしの特徴について学ぶ。	授業後に、配った第４回のレジュメと、自分が授業で取ったメモをしっかり読み、復習をすること。また、Learning Portal に掲載する第５回授業資料を事前に読んでおくこと。	4 時間
第５回	対面	”People (4): Women in Premodern Japan” 近世では、儒教の影響が強くなり、女性の権利と自由が束縛され、個性を見せる機会も非常に限られていた。「武家の女性」、「町人の女性」、「遊女」等のいくつかの生き方のパターンに焦点を合わせ、現代の社会への影響についても検討する。	授業後に、配った第５回のレジュメと、自分が授業で取ったメモをしっかり読み、復習をすること。また、Learning Portal に掲載する第６回授業資料を事前に読んでおくこと。	4 時間
第６回	対面	”People (5): Children in Premodern Japan” 義務教育がなかった時代とはいえ、「寺子屋」という教育機関が普及して、多くの庶民の子どもは読み書きができるようになった。その実態について学ぶ。また、江戸の子どもの遊びや玩具についても検討する。	授業後に、配った第６回のレジュメと、自分が授業で取ったメモをしっかり読み、復習をすること。また、Learning Portal に掲載する第７回授業資料を事前に読んでおくこと。	4 時間
第７回	対面	”Creativity (1): Ukiyoe Prints and Kusazoshi Picturebooks” フランスの印象派に大きな影響を及ぼした「浮世絵」、及び正月に刊行された「草双紙」（絵を主体とする読み物）の紹介を通して、近世人の創造性について学ぶ。	授業後に、配った第７回のレジュメと、自分が授業で取ったメモをしっかり読み、復習をすること。また、Learning Portal に掲載する第８回授業資料を事前に読んでおくこと。	4 時間
第８回	対面	”Creativity (2): The Kabuki Theatre” 歌舞伎は、単なる「劇」にとどまらず、老若男女を問わず皆の共通文化であり、現代のテレビのような存在であった。歌舞伎の人気俳優、有名な作品、興行等について学	授業後に、配った第８回のレジュメと、自分が授業で取ったメモをしっかり読み、復習をすること。また、Learning Portal に掲載する第９回授業資料を事前に読んでおくこと。	4 時間

		ぶ。		
第９回	対面	”Creativity (3): The Joruri Puppet Theatre” 浄瑠璃（現代の文楽）は特に近世中期に盛んであり、歌舞伎よりも人気が高い時代（「浄瑠璃の黄金時代」）もあった。時代が下ると人形や三味線の技術も発達し、現代の文楽として観客を魅了し続ける。このような歴史を踏まえ、浄瑠璃の発達と完成について学ぶ。	授業後に、配った第９回のレジュメと、自分が授業で取ったメモをしっかり読み、復習をすること。また、Learning Portal に掲載する第１０回授業資料を事前に読んでおくこと。	４時間
第１０回	対面	”Creativity (4): Dutch Studies in Japan” 蘭学は、ヨーロッパの科学・技術の学問で、徳川吉宗がこれを奨励した。緒方洪庵が大坂に開いた「適塾」は代表的な蘭学塾で、福沢諭吉等、多くの明治時代の思想家や政治家がここで学んだ。優秀な人材を世に出した理由について検討する。	授業後に、配った第１０回のレジュメと、自分が授業で取ったメモをしっかり読み、復習をすること。また、Learning Portal に掲載する第１１回授業資料を事前に読んでおくこと。	４時間
第１１回	対面	”Creativity (5): The Tokaido and its Culture” 東海道は、京都より太平洋に沿って東方に至る街道です。江戸時代における東海道の社会的・文化的な重要性と、東海道のロマンが生み出した浮世絵・出版物などについて学びます。	授業後に、配った第１１回のレジュメと、自分が授業で取ったメモをしっかり読み、復習をすること。また、Learning Portal に掲載する第１２回授業資料を事前に読んでおくこと。	４時間
第１２回	対面	”Heroes (1): The Scholar Sugawara no Michizane” 浄瑠璃の黄金時代の〈三大名作〉の一つ『菅原伝授手習鑑』に登場する菅原道真は、平安時代の政治家・文人・学者として名高いが、死後は「天神」として神格化した。「寺小屋」の神様として、庶民に親しまれた菅原道真の人物像について学ぶ。	授業後に、配った第１２回のレジュメと、自分が授業で取ったメモをしっかり読み、復習をすること。また、Learning Portal に掲載する第１３回授業資料を事前に読んでおくこと。	４時間
第１３回	対面	”Heroes (2): The Tragic Warrior Minamoto no Yoshitsune and Shizuka Gozen” 〈三大名作〉の一つ『義経千本桜』に登場する源義経は、日本の代表的なフォーク・ヒーローで、その伝説は『義経記』に記される。恋人の静御前も、能や浄瑠璃によく登場する白拍子である。義経に関する多くの浮世絵、草双紙、演劇作品等を通して、源義経と静御前の人物像について学ぶ。	授業後に、配った第１３回のレジュメと、自分が授業で取ったメモをしっかり読み、復習をすること。また、Learning Portal に掲載する第１４回授業資料を事前に読んでおくこと。	４時間
第１４回	対面	”Heroes (3): Oishi Kuranosuke, Leader of the Ako Ronin” 元禄期に起こった「赤穂浪士事件」は、ようやく平和になった徳川時代の日本の人に大きな衝撃を与え、当時の知識人は賛否両論であった。事件を描いた浄瑠璃『仮名手本忠臣蔵』等を通して、大石内蔵助と赤穂浪士の人物像について学ぶ。	授業後に、配った第１４回のレジュメと、自分が授業で取ったメモをしっかり読み、復習をすること。また、Learning Portal に掲載する第１５回授業資料を事前に読んでおくこと。	４時間
第１５回	オンデマンド	授業全体の総括を行う。	授業後に、配った第１５回のレジュメと、自分が授業で取ったメモをしっかり読み、復習をすること。	４時間

科目名	Cultural Studies	開講年度	2025
担当者	宮﨑　寛	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	How do we shape our life through cultural practices?		
授業の目的及び概要	This course explores intercultural issues and cultural theories that allow us to understand what we (usually) unconsciously do in everyday, cultural practices and framework, including popular music. At the same time, this course introduces such concepts as “hybridity”, “cultural industry”, “postcoloniality” and “westernisation/modernisation” which enable the students to grasp the cultural interactions and acculturations occurring across “national” border. In particular, the impact of American culture during the post-war period and the acculturation of American values in the context of Japan will be investigated in the last three classes of the course.		
履修条件・留意点	Note: There is a possibility of holding a fieldwork in one of the classes if all the enrolled students wish to do so. Note also that in case we do conduct fieldwork, there needs to be some preparation time in the class prior to it.		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	The goal of the class is twofold: (1) to expose students to the study of culture through works taken from a variety of disciplines as well as concrete examples of cultural pieces, and (2) through such endeavor, to have the students be able to analyse the everyday cultural practices in the broader context of cultural, historical interactions. In particular, the students will develop a self-reflexive awareness of Japanese culture and its position in East Asia, while also recognising the impact of Westernisation and modernisation. This will require the development of analytic tools to promote meaningful dialogue placed within theoretic frameworks. Topics that will be explored include cultural variables, communication norms and their differences, the potential problems that can arise during intercultural interaction, and ways in which these problems can be addressed.		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	The instructor will respond to and give some advice on any questions and comments raised during the class. Feedback to presentation: You will get feedback, including questions and comments, immediately after your presentation in class. Feedback to final essay: The mark and comments on your final essay will be posted on ”Report” section of Learning Portal webs.		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特になし。教材はこちらで用意します。	ISBN	特になし。
参考書	①Introducing Cultural Studies, Longhurst, Brian et al , London: Routledge , 2017. ②Cultural Studies: A Critical Introduction , During, Simon, New York: Routledge , 2005. ③The Black Atlantic: Modernity and Double Consciousness, Gilroy, Paul, Harvard University	ISBN	①9781138915725 ②0415246571 ③9780860916758 ④0094649502 ⑤0199393214

	Press , 1993. ④Sound Effects: Youth, Leisure and the Politics of Rock 'n' Roll, Frith, Simon, New York: Pantheon, 1981. ⑤A Vocabulary of Culture and Society, Williams, Raymond , Routledge (Routledge revivals), on "Culture" , 1976=2011.		
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	20	
	その他の内容	Presentation（プレゼンテーション）	
この科目の受講にあたって	The most challenging aspect of this class for the students will be to engage with critical thinking in English. To successfully to do so will require that they work in groups outside of class to analyse the readings in preparation of class discussion.		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	Introduction: Outline of the course explained. Self-introductions.	Please review the materials (outline paper and PPT file) posted on Learning Portal. If possible, also read the following reading material for preparing the next class: Page 4-7, "1.1 What is Culture?" in 'Chapter 1 Culture and Cultural Studies', in Longhurst (2017), Introducing Cultural Studies, London: Routledge.	4時間
第２回	対面	What is "culture"?: Different definitions of culture: its transition in multiple contexts	Please read the following materials beforehand. Page 4-7, "1.1 What is Culture?" in 'Chapter 1 Culture and Cultural Studies' in Brian Longhurst et al. (2017), Introducing Cultural Studies, London: Routledge. Raymond Williams (1976), Keywords: A Vocabulary of Culture and Society, Oxford Univ Press.	4時間
第３回	対面	Introduction to Cultural Studies Why and how of the discipline / culture as the production of meaning	Please read the following material beforehand. 'Chapter 1: Culture and Cultural Studies' in Brian Longhurst et al. (2017), Introducing Cultural Studies, London: Routledge, pp3-11.	4時間
第４回	対面	Case 1: cultural analysis Situating music piece(s) in historical, economic, political and social context	Seek and find a newspaper article on the issue of 'music and immigrants' or 'music and cultural diversity'.	4時間
第５回	対面	Case 2: more in-depth cultural analysis: Critical analysis of music in relation to the concept of "power", and in the context of music industry (from Fordism to Post-Fordism)	Please read the following material beforehand. 'Chapter 4: Identities" of Keith Negus, Popular Music in Theory: An Introduction. Cambridge: Polity Press, 1996. Instruction on the specific sections or pages on the chapter will be given in the class. (この章のどの部分を読むべ	4時間

			きかの具体的な指示は授業中に行う。）	
第６回	対面	Cultures and hybridity in Theory: Theories: Paul Gilroy and George Lipsitz	Please read the following material beforehand. 'Chapter1 Culture and Cultural Studies' in Brian Longhurst et al. (2017), Introducing Cultural Studies, London: Routledge, pp-11-17.	４時間
第７回	対面	Case1: analysis of cultural hybridity: Diaspora and hybridity Presentation Day 1	Please read and take notes on the reading material posted on Learning Portal. Be prepared to the presentation.	４時間
第８回	対面	Case2: more in-depth analysis of cultural hybridity in the political-historical nexus: "Black" music and Enka Presentation Day 2	Please read and take notes on the reading material posted on Learning Portal. Be prepared to the presentation.	４時間
第９回	対面	Colonialism and Culture: Problem of cultural representation	Please read the following material beforehand. '6.6 Discourses of Orientalism' in 'Chapter 6: Topographies of culture: geography, meaning and power' in Brian Longhurst et al. (2017), Introducing Cultural Studies, London: Routledge, pp.206-211.	４時間
第１０回	対面	Case Study of colonialism and culture: Okinawan Music	Please read the following material beforehand: James E. Robertson, "Uchina Pop: Place and Identity in Contemporary Okinawan Popular Music" in Laura Hein & Mark Selden eds., Islands of Discontent: Okinawan Responses to Japanese and American Power, Oxford: Rowman & Littlefield Publishers.	４時間
第１１回	対面	Western impact on Japan Critical perspective on the beginning of "modern" Japan	Please read and take notes on the reading material posted on Learning Portal.	４時間
第１２回	対面	Case1: From the end of Edo shogunate to the beginning of Meiji Production of "Japanese-ness" and its "value" through cultural practices	Please read and take notes on the reading material posted on Learning Portal.	４時間
第１３回	対面	Case2: critical analysis of post-war Japanese society The impact of "America" on the Japanese lifestyle and political view	Please read and take notes on the reading material posted on Learning Portal. Shunya, Yoshimi (2008), 'What Does "American" Mean in Postwar Japan?', Nanzan Review of American Studies (Vol. 30: 83-7).	４時間
第１４回	対面	Consumer Society in Japan and Beyond (cont. from the last class) Cultural consumption and 'comfortable' servitude	Please read and take notes on the reading material posted on Learning Portal. Mōri, Yoshitaka (2011), 'The Pitfall Facing the Cool Japan Project: The Transnational Development of the Anime Industry under the Condition of Post-Fordism', International Journal of Japanese Sociology, Nomber 20.	４時間
第１５回	オンデマンド	Wrapping up …and submission of final project (essay)	Make sure you finish writing your final essay. If you have any question on the essay, do ask me through Learning Portal or email.	４時間

科目名	Multicultural Society	開講年度	2025
担当者	木村　彩音	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	多文化主義、異文化理解に関する基本的な考え方を身につけ、主要なトピックを取り巻く情勢を知るとともに、それに関して英語で議論し自分の意見を述べられるようになる。		
授業の目的及び概要	多文化主義をめぐる各国、各トピックの事例をもとに、多文化主義に関する基本的な考え方を身につけ、異文化と接すること、多様な人々が共存することとはどういうことかを考察、議論し、自身の考えを深めることを目的とする。授業では国家単位での多文化主義に加え、集団や個人の単位での異なる文化との接触やその際に生じる様々な事象を議論の題材として扱う。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	多文化主義やそれに関する主要なトピックの基本的な内容を理解すること。 異文化理解に関する様々な課題について理解すること。 学習した内容を英語で説明すること。 学習した内容について、自身の考えを英語で述べ、また相手の意見に対して質問、コメントができるようになること。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回授業の終わりにコメント記入フォームを配布。次回の授業で復習、フィードバックに利用する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	Global Perspectives in the English-speaking World: Past and Present グローバル・マインドへの道：英語圏の歴史と文化、JA Kusaka、 Jesse Elam、 Dax Thomas 著、松柏社、2022 年。	ISBN	978-4-88198-776-6
参考書	Multiculturalism: A Very Short Introduction、 Ali Rattansi 著、Oxford University Press、2011 年。 その他適宜授業中に提示します。	ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	35
授業期間中の小テスト、レポート課題等	15
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	50
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第１回	対面	イントロダクション、自己紹介など。 Chapter 1 Colonialism: The English Language	予習として該当箇所を読み、単語の確認などをしておくこと。 今回の内容の小テスト向けに復習をしておくこと。	3 時間
第２回	対面	Chapter 2 Postcolonialism: Reclaiming Cultural Identity	予習として該当箇所を読み、単語の確認などをしておくこと。	3 時間
第３回	対面	Chapter 3 Neocolonialism: The North-South Divide	予習として該当箇所を読み、単語の確認などをしておくこと。	3 時間
第４回	対面	Chapter 4 The UK: Immigration and Nationalism	予習として該当箇所を読み、単語の確認などをしておくこと。	3 時間
第５回	対面	Chapter 5 Ireland: Religion and Repression	予習として該当箇所を読み、単語の確認などをしておくこと。	3 時間
第６回	対面	Chapter 6 Nigeria: Ethnic Conflict and Cultural Expression	予習として該当箇所を読み、単語の確認などをしておくこと。	3 時間
第７回	対面	Chapter 7 South Africa: Racism and Mythology	予習として該当箇所を読み、単語の確認などをしておくこと。	3 時間
第８回	対面	Chapter 8 New Zealand: Tradition and Cultural Resurgence	予習として該当箇所を読み、単語の確認などをしておくこと。	3 時間
第９回	対面	Chapter 9 Australia: Heritage and Acculturation	予習として該当箇所を読み、単語の確認などをしておくこと。	3 時間
第１０回	対面	Chapter 10 Singapore: Language and Cultural Hybridity	予習として該当箇所を読み、単語の確認などをしておくこと。	3 時間
第１１回	対面	Chapter 11 India: Education and Emigration	予習として該当箇所を読み、単語の確認などをしておくこと。	3 時間
第１２回	対面	Chapter 12 The Philippines: Imperialism and Exploitation	予習として該当箇所を読み、単語の確認などをしておくこと。	3 時間
第１３回	対面	Chapter 13 Jamaica: Slavery and Identity	予習として該当箇所を読み、単語の確認などをしておくこと。	3 時間
第１４回	オンデマンド	授業のまとめ	これまでの復習	4 時間
第１５回	対面	グループワーク：ディスカッションとグループレポートの作成 グループでこれまで扱ったトピックをひとつ選び、ディスカッションしてグループでまとめること。	これまで扱った内容を事前に復習し、自分の意見をまとめられるようにしておくこと。	3 時間

科目名	Multicultural Society	開講年度	2025
担当者	ボイキン　舞	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	多文化主義の基本的概念を深く考え、理解し、英語で説明できるようになる。		
授業の目的及び概要	多文化主義の基本的概念を理解し、英語で説明できるようになるとともに、事例を通じて多文化社会の現状と課題を考察することを目的とする。授業では、多文化主義を文化・経済・政治的側面から解説し、多文化の事例を紹介する。また、多文化社会における諸課題を考察するために、移民やマイノリティを取り巻く現状について調査し、種々の課題について英語で議論する。就業力育成の観点から論理的思考力や幅広い視野を育みます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①授業で取り上げる多文化主義の考え方や、授業で紹介する世界の多文化主義の概念や政策について英語で理解できるようになる。 ②多文化主義に関連する、人種、エスニシティ、マイノリティの基本的概念を英語で理解できるようになる。 ③多文化社会の実現に向けて何が必要で何が不足しているのかについて、議論することができる。 ④更に、多文化主義を文化・経済・政治的側面から理解することができる。 ⑤多文化社会の実現に向けて何が必要で何が不足しているのかについて、議論することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回、授業後に Reflection Sheet を記入し提出。翌週の授業冒頭で共有する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①Exploring Landscapes of Culture & Communication(英語で学ぶはじめての異文化コミュニケーション論), Michael Ruddick 他, 松柏社, 2018 年	ISBN	①978-4-88198-739-1
参考書	①異文化コミュニケーション・ ワークブック, 八代京子、荒木晶子、樋口容視子、山本志都、コミサロフ喜美(著), 三修社, 2001 年	ISBN	①9784384018516

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	40
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	40
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	オリエンテーション、自己紹介。 Unit 1 Essentialism ①Warm-Up ②Vocabulary Building ③Reading ④Listening	事前学修：教科書 Unit I 本文（pp.4）精読。語彙の予習。 事後学修：授業内で指示する課題に取り組む。	4 時間
第２回	対面	Unit 2 Non-essentialism ①Warm-Up ②Vocabulary Building ③Reading ④Listening	事前学修：教科書 Unit 2 本文（pp.12）精読。語彙の予習。 事後学修：授業内で指示する課題に取り組む。	4 時間
第３回	対面	Unit 3 Socialization ①Warm-Up ②Vocabulary Building ③Reading ④Listening	事前学修：教科書 Unit 3　本文（pp.18）精読。語彙の予習。 事後学修：授業内で指示する課題に取り組む。	4 時間
第４回	対面	Unit 4 Cultural Identity ①Warm-Up ②Vocabulary Building ③Reading ④Listening	事前学修：教科書 Unit 4 本文（pp.24）精読。語彙の予習。 事後学修：授業内で指示する課題に取り組む。	4 時間
第５回	対面	Unit 5 Cultural Hybridity ①Warm-Up ②Vocabulary Building ③Reading ④Listening	事前学修：教科書 Unit 5 本文（pp.32）精読。語彙の予習。 事後学修：授業内で指示する課題に取り組む。	4 時間
第６回	対面	Unit 6 Stereotypes ①Warm-Up ②Vocabulary Building ③Reading ④Listening	事前学修：教科書 Unit 6 本文（pp.38~39）精読。語彙の予習。 事後学修：授業内で指示する課題に取り組む。	4 時間
第７回	対面	Unit 7 Representation ①Warm-Up ②Vocabulary Building ③Reading ④Listening	事前学修：教科書 Unit 7　本文（pp.46~47）精読。語彙の予習。 事後学修：授業内で指示する課題に取り組む。	4 時間
第８回	対面	Unit 8 Time and Culture ①Warm-Up ②Vocabulary Building ③Reading ④Listening	事前学修：教科書 Unit 8 本文（pp.52~53）精読。語彙の予習。 事後学修：授業内で指示する課題に取り組む。	4 時間
第９回	対面	Unit 9 Discourse ①Warm-Up ②Vocabulary Building ③Reading ④Listening	事前学修：教科書 Unit 9 本文（pp.58~59）精読。語彙の予習。 事後学修：授業内で指示する課題に取り組む。	4 時間
第１０回	対面	Unit 10 Collectivism and Individualism ①Warm-Up ②Vocabulary Building ③Reading ④Listening	事前学修：教科書 Unit 10 本文（pp.66）精読。語彙の予習。 事後学修：授業内で指示する課題に取り組む。	4 時間
第１１回	対面	Unit 11 Masculine and Feminine Cultur	事前学修：教科書 Unit 11 本文（pp.72~73）精読。	4 時間

		e ①Warm-Up ②Vocabulary Building ③Reading ④Listening	語彙の予習。 事後学修：授業内で指示する課題に取り組む。	
第１２回	対面	Unit 12 High-context and Low-context Culture ①Warm-Up ②Vocabulary Building ③Reading ④Listening	事前学修：教科書 Unit 12 本文（pp.78~79）精読。 語彙の予習。 事後学修：授業内で指示する課題に取り組む。	4 時間
第１３回	対面	Unit 13 Power-distance ①Warm-Up ②Vocabulary Building ③Reading ④Listening	事前学修：教科書 Unit 13 本文（pp.86~87）精読。 語彙の予習。 事後学修：授業内で指示する課題に取り組む。	4 時間
第１４回	対面	総括、ディスカッション。 授業内でクラスメイトとの意見交換を行い、多文化主義について自分の考えをレポートにまとめる。	第１～14 回目の授業で学んだことを復習し、多文化主義について意見を述べられるよう準備をしておく。	4 時間
第１５回	オンデマンド	定期試験のレポートに向けた Unit 1 ～ Unit 13 の復習。	第１～14 回目の授業で学んだことを復習し、多文化主義について整理し、自分の意見を述べられるよう準備をしておく。	4 時間

科目名	International Migration	開講年度	2025
担当者	宮﨑　寛	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	グローバル社会における国際移民の潮流と課題を理論と事例から理解する。		
授業の目的及び概要	この授業は英語で行われます。この授業では、グローバル化に伴う人口移動の動向、移民と国民国家の問題、シティズンシップや文化、政治経済をめぐる移民の新潮流を理解することを目的とします。移民社会化の流れを、エスニシティの多様性、人種差別、多文化主義から読み解き、議論します。また、世界の移民社会について学修することで、グローバル社会で活躍するために必要な国際理解力、異文化理解力、国際感覚、英語運用能力を養います。就業力育成の観点から論理的思考力や幅広い視野を育みます。		
履修条件・留意点	この科目は法政治・文化領域の発展科目です。「国際社会と人の移動」、「多文化共生社会論」の上位科目であり、授業はすべて英語で実施されます。履修者の英語運用能力に合わせ、授業計画に沿って実施します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	国際移民の動向を英語で理解することを目標とします。具体的には、国際人口移動の動態、国際移民が社会にもたらす具体的変化を理解します。授業において使用する参考書、英文記事、PPT の資料を英語で理解し、国際移民に関する理論・政策・文化などの基礎知識を獲得します。授業の後半ではいくつかの課題について英語で議論します。これによって英語の 4 技能の向上が期待され、最終的には海外においてある事象について自分なりの意見を述べ、議論ができるだけの英語運用能力の修得を目指します。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	確認テスト及びグループワーク（プレゼンテーション）について講評と解説をおこなう。またレビュークイズについて採点及びコメントを記載した後、返却する。必要に応じてメールやラーニングポータルを通じてフィードバックすることもある。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	なし	ISBN	なし
参考書	①”The Age of Migration: International Population Movements in the Modern World (6th Edition)” Hein de Haas, Stephen Castles 他, Red Globe Press, 2019	ISBN	①9781352007121

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	20
授業期間中の小テスト、レポート課題等	60
成果発表（口頭・実技）	20
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講に	国境を越える国際移民は、決して新しい現象ではありません。人類は貧困、紛争、環境悪化のために新たなチャンスを求めて過去 2、3 世紀の間、移動してきました。国際移民として活躍す

あたって	る研究者、技術者、労働者が世界中に拡散する一方、国家と国際移民、マジョリティと移民との間で今なお紛争や問題が生じています。この授業では、英語で国際移民の潮流を理解し、国際移民がおかれている社会環境の課題と可能性について議論します。専門的な内容を理解するためには、そのための事前事後学修が必要です。授業内で出された課題を学修し、授業内では、移民に関する議論に積極的に関わってください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	授業概要の説明。国際移民のイントロダクション。 第 1 回目テーマ「国際移民とは何か」 １．国際移民とは何か。 ２．人が国境を越える要因は何か。 ３．或いは国境を越える要因は必要か。	事後課題：授業内で指定したテーマの配布資料 １．国際移民とは何か。 ２．人が国境を越える要因は何か。 ３．或いは国境を越える要因は必要か。 の復習（2 時間程度） 事後学修：次回扱うテーマの配布資料 １．グローバリゼーション：グローバル化と国際化の違い ２．移民：グローバル移民か国際移民か ３．地域別にみる国際移民の動態 の予習（2 時間程度）	4 時間
第２回	対面	第 2 回目テーマ「グローバル移民の挑戦」 １．グローバリゼーション：グローバル化と国際化の違い ２．移民：グローバル移民か国際移民か ３．地域別にみる国際移民の動態	事後課題：授業内で指定したテーマの配布資料 １．グローバリゼーション：グローバル化と国際化の違い ２．移民：グローバル移民か国際移民か ３．地域別にみる国際移民の動態 の復習（2 時間程度） 事後学修：次回扱うテーマの配布資料 １．プッシュ・プル理論、そして新たな潮流 ２．送出国、受入国、そして第三の潮流（ディアスポラ） ３．ディアスポラとは何か の予習（2 時間程度）	4 時間
第３回	対面	第 3 回目テーマ「現代の移民」 １．プッシュ・プル理論、そして新たな潮流 ２．送出国、受入国、そして第三の潮流（ディアスポラ） ３．ディアスポラとは何か	事後課題：授業内で指定したテーマの配布資料 １．プッシュ・プル理論、そして新たな潮流 ２．送出国、受入国、そして第三の潮流（ディアスポラ） ３．ディアスポラとは何か の復習（2 時間程度） 事後学修：次回扱うテーマの配布資料 １．移民のグローバル化/加速化 ２．移民の多様化 ２．１　ジェンダー ２．２　エスニシティ ２．２　政治 の予習（2 時間程度）	4 時間
第４回	対面	第 4 回目テーマ「現代の移民：その一般的傾向」 １．移民のグローバル化/加速化 ２．移民の多様化 ２．１　ジェンダー ２．２　エスニシティ ２．２　政治	事後課題：授業内で指定したテーマの配布資料 １．移民のグローバル化/加速化 ２．移民の多様化 ２．１　ジェンダー ２．２　エスニシティ ２．２　政治 の復習（2 時間程度） 事後学修：次回扱うテーマの配布資料 １．国際移民の規制問題：規制される移民 ２．エスニシティの多様性：移民国への影響と課題 の予習（2 時間程度）	4 時間
第５回	対面	第 5 回目テーマ「エスニシティの多様性、	事後課題：授業内で指定したテーマの配布資料	4 時間

		人種差別、そして多文化主義」 1．国際移民の規制問題：規制される移民 2．エスニシティの多様性：移民国への影響と課題	1．国際移民の規制問題：規制される移民 2．エスニシティの多様性：移民国への影響と課題 の復習（2 時間程度） 事後学修：次回扱うテーマの配布資料 1．事例を通してみる人種差別とマイノリティ：アメリカの場合 2． 事例を通してみる人種差別とマイノリティ：日本の場合 の予習（2 時間程度）	
第６回	対面	第 6 回目テーマ「エスニシティの多様性、人種差別、そして多文化主義」 1．事例を通してみる人種差別とマイノリティ：アメリカの場合 2． 事例を通してみる人種差別とマイノリティ：日本の場合	事後課題：授業内で指定したテーマの配布資料 1．事例を通してみる人種差別とマイノリティ：アメリカの場合 2． 事例を通してみる人種差別とマイノリティ：日本の場合 の復習（2 時間程度） 事後学修：次回扱うテーマの配布資料 1．人種差別とマイノリティ 2．人種という暴力 3．マイノリティとシティズンシップ：国籍取得の諸課題 の予習（2 時間程度）	4 時間
第７回	対面	第 7 回目テーマ「エスニシティの多様性、人種差別、そして多文化主義」 1．人種差別とマイノリティ 2．人種という暴力 3．マイノリティとシティズンシップ：国籍取得の諸課題	事後課題：授業内で指定したテーマの配布資料 1．人種差別とマイノリティ 2．人種という暴力 3．マイノリティとシティズンシップ：国籍取得の諸課題 の復習（2 時間程度） 事後学修：次回扱うテーマの配布資料 1．多文化主義とは何か 2．自由主義と多文化主義 3．多文化主義の事例：その特性と課題 の予習（2 時間程度）	4 時間
第８回	対面	確認テストの実施（第 1～第 7 回） 第 8 回目テーマ「エスニシティの多様性、人種差別、そして多文化主義」 1．多文化主義とは何か 2．自由主義と多文化主義 3．多文化主義の事例：その特性と課題	事後課題：授業内で指定したテーマの配布資料 1．多文化主義とは何か 2．自由主義と多文化主義 3．多文化主義の事例：その特性と課題 の復習（2 時間程度） 事後学修：次回扱うテーマの配布資料 「国際移民の潮流、エスニシティ、多文化主義について復習とディスカッション」 の復習と準備（2 時間程度）	4 時間
第９回	対面	第 9 回目テーマ「国際移民の潮流、エスニシティ、多文化主義について復習とディスカッション」	事後学修：次回扱うテーマの配布資料 1．国民と国家 2．トランスナショナリズム理論 3．シティズンシップ理論 の予習（4 時間程度）	4 時間
第１０回	対面	第 10 回目テーマ「移民理論」 1．国民と国家 2．トランスナショナリズム理論 3．シティズンシップ理論	事後課題：授業内で指定したテーマの配布資料 1．国民と国家 2．トランスナショナリズム理論 3．シティズンシップ理論 の復習（2 時間程度） 事後学修：次回扱うテーマの配布資料 1．グローバルな移民の流れ 2．西欧主要国内の移民マイノリティの人口：1950～1970 3．2000 年以降の動態 の予習（2 時間程度）	4 時間

第１１回	対面	第 11 回目テーマ「1945 年以降のヨーロッパへの移民」 １．グローバルな移民の流れ ２．西欧主要国内の移民マイノリティの人口：1950～1970 ３．2000 年以降の動態	事後課題：授業内で指定したテーマの配布資料 １．グローバルな移民の流れ ２．西欧主要国内の移民マイノリティの人口：1950～1970 ３．2000 年以降の動態 の復習（2 時間程度） 事後学修：次回扱うテーマの配布資料 １．グローバルな移民の流れ ２．現代のエスニシティとマイノリティ：アメリカの場合 ３．現代のエスニシティとマイノリティ：カナダの場合 の予習（2 時間程度）	4 時間
第１２回	対面	第 12 回目テーマ「南北アメリカへの移民」 １．グローバルな移民の流れ ２．現代のエスニシティとマイノリティ：アメリカの場合 ３．現代のエスニシティとマイノリティ：カナダの場合	事後課題：授業内で指定したテーマの配布資料 １．グローバルな移民の流れ ２．現代のエスニシティとマイノリティ：アメリカの場合 ３．現代のエスニシティとマイノリティ：カナダの場合 の復習（2 時間程度） 事後学修：次回扱うテーマの配布資料 １．グローバルな移民の流れ ２．アジアから西洋への移民の特徴 ３．アジア内部での労働移民とその課題 の予習（2 時間程度）	4 時間
第１３回	対面	第 13 回目テーマ「アジア太平洋地域への移民」 １．グローバルな移民の流れ ２．アジアから西洋への移民の特徴 ３．アジア内部での労働移民とその課題	事後課題：授業内で指定したテーマの配布資料 １．グローバルな移民の流れ ２．アジアから西洋への移民の特徴 ３．アジア内部での労働移民とその課題 の復習（2 時間程度） 事後学修：次回扱うテーマの配布資料 １．マイノリティと受入社会 ２．新たなエスニック・マイノリティの形成 ３．日本におけるエスニック・マイノリティのコミュニティ の予習（2 時間程度）	4 時間
第１４回	対面	第 14 回目テーマ「新たなエスニック・マイノリティが織りなす社会」 １．マイノリティと受入社会 ２．新たなエスニック・マイノリティの形成 ３．日本におけるエスニック・マイノリティのコミュニティ	事後課題：授業内で指定したテーマの配布資料 １．マイノリティと受入社会 ２．新たなエスニック・マイノリティの形成 ３．日本におけるエスニック・マイノリティのコミュニティ の復習（2 時間程度） 事後学修：次回扱うテーマの配布資料 「国際移民の潮流、理論、エスニシティ、地域について復習とディスカッション」 の復習と準備（2 時間程度）	4 時間
第１５回	オンデマンド	第 15 回目テーマ「国際移民の潮流、理論、エスニシティ、地域について復習とディスカッション」の総括	事後課題：授業内で指定したテーマの配布資料 「国際移民の潮流、理論、エスニシティ、地域について復習とディスカッション」 の復習 Final Essay の提出	4 時間

科目名	言語習得と文化	開講年度	2025
担当者	李　光曦	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	言語教育や第二言語習得の基礎知識を学び、それを自身の学修に活用する力を養う。知識を得るだけでなく、自らの経験と結びつけて考察し、多様な視点から言語教育の在り方を考えることを目的とする。		
授業の目的及び概要	言語習得・言語教育に関する専門的基礎知識を学ぶことを通して、自分の言語学習に役立てる。マイノリティ言語に対する理解を深め、多様な視点から言語教育を考える力を養う。		
履修条件・留意点	こちらの科目がコミュニケーション科目の発展科目であり、「多文化共生社会論」「異文化コミュニケーション 」「コミュニケーション技法Ⅰ」「コミュニケーション技法Ⅱ」「多文化共生社会論」を履修していることが望ましいです。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	授業での取組をとおして、以下の到達目標の達成を目指します。 ① 学習者はどのように言語を学んでいるのか、どうしてその言語を学ぶのかについて理解している。 ② 「言語を習得する」とはどういうことか、どのような要因が関わっているのかについて理解している。 ③ 言語マイノリティに対する理解を深め、多様な視点から言語教育を考える力を養う。 ④ 「以上の課題に関して、自らの言語経験を踏まえて考えられる力及び基礎知識を身につけます。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題等に取り組み、それについて教員がコメントする等のフィードバックを実施します。 作成した課題等は学修ポートフォリオに蓄積し、学修の振り返りに役立てます。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定しない。	ISBN	指定しない。
参考書	森篤嗣［編著］『超基礎・日本語教育』くろしお出版	ISBN	978-4-87424-803-4 C1081

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	30
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	20
中間試験	10
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	20
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	第一回：オリエンテーション・第二言語習得（SLA）研究とは 内容：第二言語習得研究の定義や範囲について学び、その重要性や適用分野を理解する。 学生に期待される能力： ・　SLA（第二言語習得）の基本的な概念を理解し、第一言語習得との違いを区別できる。 ・　SLA が言語教育において果たす役割や影響を説明できる。	事後学修（復習）： ・　授業で学んだ内容をノートにまとめる。	2 時間
第２回	対面	第二回：言語教育そのものに関連する基礎的な知識を学ぶ 内容：言語教育の基本的な枠組みを学ぶ。教育の目的、言語習得のプロセス、評価方法などを取り上げる。 学生に期待される能力： ・　言語教育における基本理論と実践的な枠組みを理解する。 ・　言語教育における課題や問題点を分析できる。	事後学修（復習）： ・　授業で学んだ内容をノートにまとめる。	2 時間
第３回	対面	第三回：言語学習者（誰が、どこで、なぜ言語を勉強しているのか）に関連する基礎的な知識を学ぶ 内容：言語学習者の多様性について学ぶ。具体的には年齢、背景、学習動機などの要素を探求する。 学生に期待される能力： ・　言語学習者の異なる特徴やニーズを理解する。 ・　学習者の背景に応じた指導方法を調整できる。	事後学修（復習）： ・　授業で学んだ内容をノートにまとめる。	2 時間
第４回	対面	第四回：言語教師（どのような人、求められる素質や能力、仕事の将来性）に関連する基礎的な知識を学ぶ 内容：言語教師の役割や必要とされる能力、職業としての将来性を考える。 学生に期待される能力： ・　言語教師に求められる基本的な素質や能力を理解する。 ・　自身のキャリア形成について具体的な目標を設定できる。	事後学修（復習）： ・　授業で学んだ内容をノートにまとめる。	2 時間
第５回	対面	第五回：さまざまな学習法（歴史的変遷とどの背景にある言語学習観）に関連する基礎的な知識を学ぶ 内容：言語教育におけるさまざまな学習法とその理論的背景、歴史的変遷を学ぶ。 学生に期待される能力： ・　各学習法の利点と限界を理解する。 ・　実際の教育現場に応じた最適な学習法を選択できる。	事後学修（復習）： ・　授業で学んだ内容をノートにまとめる。	2 時間
第６回	対面	第六回：これからの言語教育を考える（教育とは何か、教師の役割、これから教師に求められるもの）	事後学修（復習）： ・　授業で学んだ内容をノートにまとめる。	2.5 時間

		内容：言語教育の未来について考察し、教師が果たす役割や直面する課題について議論する。 学生に期待される能力： ・　言語教育が直面する課題やトレンドを分析できる。 ・　今後の教育ニーズに対応するための創造的な思考を養う。		
第7回	オンデマンド	第七回：復習回 内容：これまでの授業内容を振り返り、言語教育や第二言語習得に関する基礎知識を整理する。重要な概念や理論を確認し、理解を深める。 学生に期待される能力： ・ 言語教育や第二言語習得に関する主要な概念や理論を整理し、説明できる。 ・ これまでの学習内容を振り返り、自身の理解を確認し、必要に応じて補強できる。	事後学修（復習）： ・　授業で学んだ内容をノートにまとめる。	4 時間
第8回	対面	第八回：学習者の目から言語を考える：第二言語習得に関連する基礎的な知識を学ぶ 内容：学習者の視点から言語学習のプロセスや直面する課題を探る。 学生に期待される能力： ・　学習者の視点で言語学習の障害を理解できる。 ・　学習者にとって適切な解決策を提供できる。	事後学修（復習）： ・　授業で学んだ内容をノートにまとめる。	2.5 時間
第9回	対面	第九回：第二言語習得の主な理論とモデルに関連する基礎的な知識を学ぶ 内容：第二言語習得における主要な理論（例：インプット仮説、モニター仮説、相互作用仮説）やモデル（例：Sociocultural Theory）を学ぶ。	事後学修（復習）： ・　授業で学んだ内容をノートにまとめる。	2.5 時間
第１０回	対面	第十回：第二言語習得に関わる①（個人差が第二言語習得に与える影響） 内容：年齢、性格、学習スタイル、動機づけ、学習者の背景など、個人差が第二言語習得に与える影響を探る。	事後学修（復習）： ・　授業で学んだ内容をノートにまとめる。	2.5 時間
第１１回	対面	第十一回：第二言語習得に関わる②（社会環境と教室環境が第二言語習得に与える影響） 内容：社会的・文化的背景や教室内の環境が第二言語習得にどのような影響を与えるかを検討する。	事後学修（復習）： ・　授業で学んだ内容をノートにまとめる。	2.5 時間
第１２回	対面	第十二回：複数の文化・言語の中で育つ子どもの二言語（多言語）習得（ことばとアイデンティティ） 内容：多文化・多言語環境で育つ子どもたちの言語習得プロセスと、その過程で形成されるアイデンティティについて学ぶ。	事後学修（復習）： ・　授業で学んだ内容をノートにまとめる。	2.5 時間
第１３回	対面	第十三回：第十二回：複数の文化・言語の中で育つ子どもの二言語(多言語)習得(ことばとアイデンティティ）② 内容：多文化・多言語環境で育つ子どもたちの言語習得プロセスと、その過程で形成されるアイデンティティについて学ぶ。	事後学修（復習）： ・　授業で学んだ内容をノートにまとめる。	2.5 時間

第１４回	対面	第十四回：複数の文化・言語の中で育つ子どもの二言語（多言語）習得（ことばとアイデンティティ）③ 内容：多文化・多言語環境で育つ子どもたちの言語習得プロセスと、その過程で形成されるアイデンティティについて学ぶ。	事後学修（復習）： ・　授業で学んだ内容をノートにまとめる。	2.5 時間
第１５回	対面	第十五回：まとめ・確認テスト 内容：これまでの学びを振り返り、総合的な確認テストを行う。また、受講生自身の今後の学習目標を設定する。	事前学修（予習）： ・　これまでの授業で取ったノートを整理し、確認テストの準備をする。重要な理論や概念を再確認する。	6 時間

科目名	多言語社会と言語政策	開講年度	2025
担当者	赤城　永里子	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	現在の日本社会における言語に関わる課題や政策を知る。		
授業の目的及び概要	世界には 6000 を超える言語が存在するといわれています。どの言語を国（家）語ないしは公用語として選定し、普及させるのかは、近代国家の成立と国民統合の維持において重要な政策課題となってきました。同時に、地域語や少数言語はしばしば弾圧の対象となりました。しかし近年では、自ら望む言語を使うことができるとする「言語権」の尊重が謳われるようになり、地域語・少数言語の復興と保護が図られるようになっています。また、今日、社会の多言語多文化化が世界各地で進むなかで、多様化に対応した言語政策も求められています。本授業では、日本および海外における言語政策の動向を歴史的、社会的な背景も踏まえて学ぶつつ、主に多言語化が進むつつある日本社会において、現在の把握や今後必要な政策などについて学修します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・言語政策における政治性や言語と国家、社会との関係、言語政策の持つ文化的、社会的な影響力について理解する。 ・グローバルな視野から日本の言語政策の課題を発見し、考察する力をつける。 ・国際社会、そして日本でも進む多言語多文化状況に対応できる基礎知識を習得し、問題解決に向けた実践力を養う。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・授業後には、ミニッツペーパーを作成してもらいます。提出してもらったミニッツペーパーについて、次週の授業で、解説や説明を行う。 ・授業では、学生にグループワークとして、フィールドワークを通じたプレゼンテーションをしてもらいます。プレゼンテーションについて、講評を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	資料を配布する	ISBN	なし
参考書	１．村岡英裕・上村圭介 編（2024）「言語政策研究への案内」くろしお出版２．宮崎里司・杉村俊子 編著（2017）「グローバル化と言語政策」明石書店	ISBN	１．9784874249796 ２．9784750345796

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	10
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	30
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	40
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講に	言語政策というと、何かとても難しいような気がするかもしれません。しかし皆さんは、小学校ではいわゆる共通語で書かれた教科書で国語（日本語）を学んだことでしょう。小学校や中

あたって	学校では外国語として英語を学修したと思います。これらは全て言語政策のもとで行われています。多言語化が進んできている日本社会において、今後どのような言語政策が必要なのか、一緒に考えてみませんか。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	・ガイダンス：言語政策とは何か ・シラバスの確認	配布した資料を事前に読んでおく	2 時間
第２回	対面	言語の近代化と標準化をめぐる言語政策	配布した資料を事前に読んでおく	2 時間
第３回	対面	言語と国際標準	配布した資料を事前に読んでおく	2 時間
第４回	対面	外国語教育：諸外国における外国語教育と日本の外国語教育の違いを知る	配布した資料を事前に読んでおく	2 時間
第５回	対面	社会統合のための多言語主義・複言語主義：EU を中心とした多言語主義・複言語主義について知ろう	配布した資料を事前に読んでおく	2 時間
第６回	対面	言語権と少数言語コミュニティ：日本における地方方言、	配布した資料を事前に読んでおく	2 時間
第７回	対面	公共施設における言語サービス：自分の住んでいる自治体における言語サービスについて、調べてみよう。	配布した資料を事前に読んでおく	2 時間
第８回	対面	外国人移住者と日本語教育：日本語教育推進法、認定日本語教育機関などの施策や地域ボランティアでの取り組みについて知ろう。	配布した資料を事前に読んでおく	2.5 時間
第９回	対面	継承語教育：外国にルーツを持つ外国人・児童生徒について知ろう。	配布した資料を事前に読んでおく	2 時間
第１０回	対面	異文化接触①：観光接触場面での取り組みについて調べてみよう	配布した資料を事前に読んでおく	2 時間
第１１回	対面	異文化接触②：観光接触場面での取り組みについて調べたことをまとめて発表の準備をする。	発表の準備	4 時間
第１２回	対面	異文化接触③：観光接触場面での取り組みについて調べたことを発表する	配布した資料を事前に読んでおく	2 時間
第１３回	対面	異文化接触④：やさしい日本語について知り、実践者になろう。	配布した資料を事前に読んでおく	2 時間
第１４回	対面	差別と言語：メディアを通して配信された差別問題 、性差別や排除をなくすための言語教育の課題など	配布した資料を事前に読んでおく	2.5 時間
第１５回	オンデマンド	総括	定期試験に向けた準備	4 時間

科目名	言語文化論	開講年度	2025
担当者	橋本　凛	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	言語と文化の関わりについての基礎知識を得て、多文化共生社会の一員としての自己の在り方を考える。		
授業の目的及び概要	本講義においては、多角的な視点から言語と文化の関わりについて検討し、個別の言語や文化を相対的に位置付けることを目的とする。結果として、「〇〇人としての自分」という表象を乗り越え、多文化共生社会の一員として自己を捉え直し、さまざまな言語・文化の人々と円滑にコミュニケーションを取れるようになることが期待される。		
履修条件・留意点	全学生：授業を通じ、グループワークやペアワークなどを実施するため、口頭でのコミュニケーション能力が必要となる（※個々人の特性に応じた配慮可）。 留学生：文献の講読、グループワークにおいて N2 上位～N1 相当の日本語力が必要となる。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・文化の定義、および言語との文化の関係を明示的に説明することができる。 ・多様なバックグラウンドを持つ他者を理解する姿勢を身につけ、円滑にコミュニケーションを行うことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業内でリフレクションペーパー、課題に対するフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	なし ※授業内で適宜プリント等の配布を行う。	ISBN	なし
参考書	①異文化コミュニケーションのための基礎知識, 伊藤 明美. 大学教育出版 , 2020 年 ②記号論講義 ―日常生活批判のためのレッスン, 石田 英敬, 筑摩書房, 2020 年 ③構築主義とは何か, 上野千鶴子, 勁草書房, 2001 年 ④「対話」の文化～言語・宗教・文明～, 服部　英二・鶴見　和子, 藤原書店, 2006 年 ⑤翻訳語成立事情, 柳父　章, 岩波書店, 1982 年 ⑥日本人論再考, 船曳 建夫, 講談社, 1990 年	ISBN	①978-4866920849 ②978-4480099891 ③978-4326652457 ④978-4894345003 ⑤978-4004201892 ⑥978-4062919906

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	30
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	0
この科目の受講に	この授業は、異文化間交流の実践を目的とし、講義に加え、グループワーク・ペアワーク、デ	

あたって	ィスカッションなどを多く実施します。そのため、積極的な態度や発言が求められます。さまざまな国の学生たちとの交流を通じ、身近な「言語」と「文化」を遠くから眺めることによって新しい視点を獲得しましょう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	アイスブレイク ーことばと文化にまつわる経験を整理する	事前学修(2 時間)：「ことば」「文化」に関する経験を整理しておく。また、関連する新聞記事や書籍などを探し、実際に読んでみる。 事後学修(2 時間)：他の受講生とのグループワークの内容を整理し、授業スライドや資料の復習をする。	4 時間
第２回	対面	「文化」とは何か①	事前学修(2 時間)：「文化」に関連する新聞記事や書籍などを探し、実際に読んでみる（参考図書の一部を読むことも可）。 事後学修(2 時間)：他の受講生とのグループワークの内容を整理し、授業スライドや資料の復習をする。	4 時間
第３回	対面	「文化」とは何か②	事前学修(2 時間)：「文化」に関連する新聞記事や書籍などを探し、実際に読んでみる（参考図書の一部を読むことも可）。 事後学修(2 時間)：他の受講生とのグループワークの内容を整理し、授業スライドや資料の復習をする。	4 時間
第４回	対面	記号論と言語・文化①	事前学修(2 時間)：「記号論」に関連する新聞記事や書籍などを探し、実際に読んでみる（参考図書の一部を読むことも可）。 事後学修(2 時間)：他の受講生とのグループワークの内容を整理し、授業スライドや資料の復習をする。	4 時間
第５回	対面	記号論と言語・文化②	事前学修(2 時間)：「記号論」に関連する新聞記事や書籍などを探し、実際に読んでみる（参考図書の一部を読むことも可）。 事後学修(2 時間)：他の受講生とのグループワークの内容を整理し、授業スライドや資料の復習をする。	4 時間
第６回	対面	異文化コミュニケーションと言語① ー多文化社会と言語	事前学修(2 時間)：「多文化社会」に関連する新聞記事や書籍などを探し、実際に読んでみる（参考図書の一部を読むことも可）。 事後学修(2 時間)：他の受講生とのグループワークの内容を整理し、授業スライドや資料の復習をする。	4 時間
第７回	対面	異文化コミュニケーションと言語② ー移民と文化・言語	事前学修(2 時間)：「移民」に関連する新聞記事や書籍などを探し、実際に読んでみる（参考図書の一部を読むことも可）。 事後学修(2 時間)：他の受講生とのグループワークの内容を整理し、授業スライドや資料の復習をする。	4 時間
第８回	対面	宗教と言語・文化①	事前学修(2 時間)：「宗教」に関連する新聞記事や書籍などを探し、実際に読んでみる（参考図書の一部を読むことも可）。 事後学修(2 時間)：他の受講生とのグループワークの内容を整理し、授業スライドや資料の復習をする。	4 時間
第９回	対面	宗教と言語・文化②	事前学修(2 時間)：「宗教」に関連する新聞記事や書籍などを探し、実際に読んでみる（参考図書の一部を読むことも可）。 事後学修(2 時間)：他の受講生とのグループワークの内容を整理し、授業スライドや資料の復習をする。	4 時間
第１０回	対面	ステレオタイプと多様性① ーメディアと「〇〇人らしさ」	事前学修(2 時間)：「ステレオタイプ」に関連する新聞記事や書籍などを探し、実際に読んでみる（参考図書の一部を読むことも可）。 事後学修(2 時間)：他の受講生とのグループワークの内容を整理し、授業スライドや資料の復習をする。	4 時間

第１１回	対面	ステレオタイプと多様性② ー言説の構築から見るステレオタイプ	事前学修(2 時間)：「構築主義」に関連する新聞記事や書籍などを探し、実際に読んでみる（参考図書の一部を読むことも可)。 事後学修(2 時間)：他の受講生とのグループワークの内容を整理し、授業スライドや資料の復習をする。	4 時間
第１２回	対面	「日本人論」から見る世界と日本①	事前学修(2 時間)：「日本人論」に関連する新聞記事や書籍などを探し、実際に読んでみる（参考図書の一部を読むことも可)。 事後学修(2 時間)：他の受講生とのグループワークの内容を整理し、授業スライドや資料の復習をする。	4 時間
第１３回	対面	「日本人論」から見る世界と日本②	事前学修(2 時間)：「日本人論」に関連する新聞記事や書籍などを探し、実際に読んでみる（参考図書の一部を読むことも可)。 事後学修(2 時間)：他の受講生とのグループワークの内容を整理し、授業スライドや資料の復習をする。	4 時間
第１４回	対面	「日本人論」から見る世界と日本③	事前学修(2 時間)：「日本人」に関連する新聞記事や書籍などを探し、実際に読んでみる（参考図書の一部を読むことも可)。 事後学修(2 時間)：他の受講生とのグループワークの内容を整理し、授業スライドや資料の復習をする。	4 時間
第１５回	オンデマンド	まとめ	事前学修(2 時間)：これまでの授業の内容を復習し、「多文化共生社会」と自己の関わりについてまとめておく。 事後学修(2 時間)：レポート課題に取り組めるよう、授業スライドや資料の復習をする。	4 時間

科目名	観光資源論	開講年度	2025
担当者	山本　訓弘	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	本講義は、観光資源について、マクロ的に観光学の学理、ミクロ的にさまざまな観光地の歴史・文化、現状と発展可能性を事例として、マクロ・ミクロの両面から講義する。		
授業の目的及び概要	本講義は、観光資源を学理と事例から履修生が学べるようにし、かつ、コンテンツツーリズムや ICT といった新しい観光の知見を持つことができるようにする。そして、「観光資源をどう活用し、どう観光客を誘致するか」に自分自身の回答を出せるようにする。		
履修条件・留意点	授業時間中に、今回の授業内容に基づいた「書き物」を執筆し、提出をします。第 1 回目、第 2 回目とレポート（3 回）の 5 回の授業を除く授業（全 10 回）で書き物を課します。1 回 3%の合計 30%この提出で出欠を取ります。この書き物のペーパーは担当教員が 1 人 1 枚手渡しで配布します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	１．観光資源を発見・活用する提案を行うことができる。 ２．様々な学理や事例から、自分自身の生活エリアでの観光資源を考察し、観光資源に関する基礎的知識を習得して説明できる。 ３．資料や事実を基にした考察を文章表現し、自分自身のオリジナルレポートとして執筆できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出したレポートの内容を講評します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、町の観光協会の役割を担う一般社団法人にて、観光振興コンサルティングや調査を行う業務に 6 年間従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	なし。レジュメ（PDF）を Learning Portal で配布します。	ISBN	なし
参考書	なし	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	0
授業期間中の小テスト、レポート課題等	60
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	30
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	10
その他の内容	質問、授業への感想など教員とのコミュニケーションが 10%

この科目の受講にあたって	
	本講義は、①観光学や情報学等の諸学から「観光資源を考える基盤」、②コロナ禍で激変した観光関連産業の現状と発展可能性、の２つに大別する。その２つについて、マクロ的な観点から学理を説明し、ミクロ的な観点から各事例を説明する。

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第１回	オンデマンド	第１回　「観光資源」を学ぶとは（オリエンテーション、ガイダンス） 〇担当教員の自己紹介 〇授業の受け方の説明 〇授業内容の説明 〇観光を取り巻く環境の説明 〇単位認定の仕方の説明	復習：授業内容の振り返りを行う	1 時間
第２回	オンデマンド	第２回　観光資源を考える基盤① 〇観光とは、体験型観光とは（大阪の歴史や文化を活かした体験・コト消費）	予習：google 検索等で、観光とは・体験型観光とは何かについて調べておく 復習：授業内容の振り返り	2.5 時間
第３回	オンデマンド	第３回　観光資源を考える基盤② 〇コロナ禍でのオンラインツアーとは	予習：google 検索等で、オンラインツアーとは何かについて調べておく 復習：授業内容の振り返り	2.5 時間
第４回	オンデマンド	第４回　観光資源を考える基盤③ 〇コンテンツツーリズムとは	予習：google 検索等で、コンテンツツーリズムとは何かについて調べておく 復習：授業内容の振り返り	3 時間
第５回	オンデマンド	第５回　観光資源を考える基盤④ 〇地域で歴史・食文化のイベントを作る（大阪府全体を通したイベント作りを中心に）	予習：google 検索等で、奈良県吉野町や大阪城の歴史、岸和田城で宿泊体験、パイン＆ギルモアの経験経済、について調べておく 復習：授業内容の振り返り	3 時間
第６回	オンデマンド	第６回　観光資源を考える基盤⑤ 〇マイクロツーリズムとは	予習：google 検索等で、マイクロツーリズムとは何かについて調べておく 復習：授業内容の振り返り	3 時間
第７回	オンデマンド	第 7 回　地域の観光資源を活かしたイベントの企画・実施 〇地域の観光資源を活かして、地域の人々が中心になってイベントを開催しようとしている。その現状を分析し、どう企画・開催していくかを考える	予習：google 検索等で、奈良県吉野町のサブカルチャーイベントや夏祭を調べておく 復習：授業内容の振り返り・復習を行う	3 時間
第８回	オンデマンド	第 8 回　地方自治体の広報に見る地域の観光資源 〇地方自治体は地域の観光資源を広報し、交流人口を増やそうとしている。その現状を考える	予習：自宅のある地方自治体がどんな観光資源を活かした広報をしているか、観光から移住を推進する取り組みを調べておく 復習：授業内容の振り返り・復習を行う	3 時間
第９回	オンデマンド	第 9 回　地方自治体の取り組みが視察観光を呼び起こす 〇課題解決に挑戦する地方自治体の取り組みが視察観光を呼び起こす現状を説明し、その地域資源の有効性を考える	予習：青森市や富山市のコンパクトシティ、宮津市の副業人材の活用について、google 検索で調べておく 復習：授業内容の振り返り・復習を行う	4 時間
第１０回	オンデマンド	第 10 回　中間レポートの講評・フォローアップ 〇中間レポートの講評を行う 〇情報を追加し、フォローアップを行う	予習：自分が執筆・提出した中間レポートを見直す 復習：講評・フォローアップの内容を参考に、中間レポートの加筆・修正を行う	6 時間
第１１回	オンデマンド	第 11 回　観光政策について１ 〇観光政策とは 〇観光に関わる行政組織 〇観光に計画とは	予習：京都市や奈良市の観光政策を調べておく 復習：観光政策とそこに関わる行政の活動を調べる	6 時間
第１２回	オンデマンド	第 12 回　観光政策について２ 〇観光振興の組織 〇観光協会の役割、日本におけるＤＭＯについて	予習：観光協会、日本版 DMO について調べておく 復習：観光協会、日本版 DMO の課題を調べておく	6 時間
第１３回	オンデマンド	第 13 回　観光ビジネスの主体１ 〇観光ビジネスの分類 〇旅行業とは	予習：１年以内に観光で訪れた場所について、どのような交通手段を使ったか調べておく 復習：旅行業の特色、輸送業についての復習をおこな	6 時間

		○観光ビジネスと輸送業について	う	
第１４回	オンデマンド	第 14 回　観光ビジネスの主体２ ○宿泊業、ホテルと旅館の違い ○飲食業と観光ビジネス	予習：宿泊業について、自分の宿泊したことのあるホテルについて調べておく 復習：宿泊業、飲食業がどのように観光産業と関わっているのかを復習する	6 時間
第１５回	オンデマンド	第 15 回　まとめ、レポートの公表とフォローアップ ○レポートの公表、質問事項の返答を行う ○本授業のまとめを行う	予習：提出した解決提案の自身で発表できるようにしておく 復習：講評・フォローアップの内容を参考に、解決提案の加筆・修正を行う。また、これまでの授業内容を各自で振り返る	6 時間

科目名	国際観光論	開講年度	2025
担当者	宮﨑　友里	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	国際観光（インバウンドとアウトバウンド）の動向と観光政策、観光まちづくりの理論と手法を概観する。		
授業の目的及び概要	21 世紀は人々の移動が地球規模で行われる。観光が世界経済の大きな柱となってきた為、「国際観光の時代」といわれている。超高齢化社会を迎える日本において「観光」は注目を集める成長産業である。特に 2013 年以降、インバウンド観光客の増加は驚異的とも言える。本授業は、アウトバウンドとインバウンドの国際観光の概念を把握し、特に、今後日本経済の牽引役への成長期待も大きいインバウンド観光による地域創造ついて学ぶ。そして、外国人観光客を魅了する観光まちづくりの理論と手法も概観する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	１．少子高齢化時代におけるインバウンド観光振興の重要性を説明できる。 ２．持続可能な観光（サスティナブル・ツーリズム）を追求し、地域を再生させている地域の観光形態を理解する。 ３．今後の日本におけるインバウンド観光政策として、「量から質へ」の転換を図るには、どのような視点が重要か説明ができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	質問への回答や補足説明をします。 優秀なコメントは、授業中に紹介します。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特に指定しません。	ISBN	特に指定しません。
参考書	講義内で、各トピックに応じた参考書を紹介します。	ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	50
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	50
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	担当教員が作成した国際観光論についての理解を深めるための様々な資料やパワーポイント資料を提示します。社会のグローバル化の波を受ける国際観光の状況に興味と関心を抱き、積極的に国際観光を学んでください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第１回	オンデマンド	イントロダクション：講義方式、成績評価などについて説明する。	事前学習：観光に関連する新聞記事やニュース等を確認しておくこと。 事後学習：授業内容と、事前学習の内容がどのように繋がっているのかを考え、説明できるようになること。	4 時間
第２回	オンデマンド	世界における観光の歴史	事前学習：観光に関連する新聞記事やニュース等を確認しておくこと。 事後学習：授業内容と、事前学習の内容がどのように繋がっているのかを考え、説明できるようになること。	4 時間
第３回	オンデマンド	観光産業を支えるホテル産業の歴史（１）	事前学習：観光に関連する新聞記事やニュース等を確認しておくこと。 事後学習：授業内容と、事前学習の内容がどのように繋がっているのかを考え、説明できるようになること。	4 時間
第４回	オンデマンド	観光産業を支えるホテル産業の歴史（２）	事前学習：観光に関連する新聞記事やニュース等を確認しておくこと。 事後学習：授業内容と、事前学習の内容がどのように繋がっているのかを考え、説明できるようになること。	4 時間
第５回	オンデマンド	観光産業を支える旅行代理店業の歴史（１）	事前学習：観光に関連する新聞記事やニュース等を確認しておくこと。 事後学習：授業内容と、事前学習の内容がどのように繋がっているのかを考え、説明できるようになること。	4 時間
第６回	オンデマンド	観光産業を支えるホテル産業の歴史（２）	事前学習：観光に関連する新聞記事やニュース等を確認しておくこと。 事後学習：授業内容と、事前学習の内容がどのように繋がっているのかを考え、説明できるようになること。	4 時間
第７回	オンデマンド	国際観光ケーススタディ①	事前学習：観光に関連する新聞記事やニュース等を確認しておくこと。 事後学習：授業内容と、事前学習の内容がどのように繋がっているのかを考え、説明できるようになること。	4 時間
第８回	オンデマンド	観光の新しい役割：観光拡大の光と影	事前学習：観光に関連する新聞記事やニュース等を確認しておくこと。 事後学習：授業内容と、事前学習の内容がどのように繋がっているのかを考え、説明できるようになること。	4 時間
第９回	オンデマンド	エコツーリズム（１）	事前学習：観光に関連する新聞記事やニュース等を確認しておくこと。 事後学習：授業内容と、事前学習の内容がどのように繋がっているのかを考え、説明できるようになること。	4 時間
第１０回	オンデマンド	エコツーリズム（２）	事前学習：観光に関連する新聞記事やニュース等を確認しておくこと。 事後学習：授業内容と、事前学習の内容がどのように繋がっているのかを考え、説明できるようになること。	4 時間
第１１回	オンデマンド	文化施設と観光（１）	事前学習：観光に関連する新聞記事やニュース等を確認しておくこと。 事後学習：授業内容と、事前学習の内容がどのように繋がっているのかを考え、説明できるようになること。	4 時間
第１２回	オンデマンド	文化施設と観光（２）	事前学習：観光に関連する新聞記事やニュース等を確認しておくこと。	4 時間

			事後学習：授業内容と、事前学習の内容がどのように繋がっているのかを考え、説明できるようになること。	
第１３回	オンデマンド	国際観光のさらなる可能性（１）	事前学習：観光に関連する新聞記事やニュース等を確認しておくこと。 事後学習：授業内容と、事前学習の内容がどのように繋がっているのかを考え、説明できるようになること。	4 時間
第１４回	オンデマンド	国際観光のさらなる可能性（２）	事前学習：観光に関連する新聞記事やニュース等を確認しておくこと。 事後学習：授業内容と、事前学習の内容がどのように繋がっているのかを考え、説明できるようになること。	4 時間
第１５回	オンデマンド	総括	事前学習：観光に関連する新聞記事やニュース等を確認しておくこと。 事後学習：授業内容と、事前学習の内容がどのように繋がっているのかを考え、説明できるようになること。	4 時間

科目名	ホスピタリティ論	開講年度	2025
担当者	石井　里奈	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	ホスピタリティを理解し、日常的に実践する力を身につける。		
授業の目的及び概要	ホスピタリティは、当初はホテル、旅行、飲食店などの観光業界で実践されてきた理念でしたが、徐々に、サービス業を中心にあらゆる業界で取り入れられてきています。ホスピタリティが目指すのは、良好な人間関係の構築と維持です。そして、心から相手のことを考えて行動することがホスピタリティの実践です。この授業ではホスピタリティを理解し、どのような考え方でどのような言動を身につけるべきか、事例をもとに考察し、グループワークやプレゼンテーションを行います。また、日常生活に取り入れられるマナーを実践します。就職活動において評価され、社会人となってからも職場や顧客からも信頼され、良好な人間関係が構築できることを目指します。ホスピタリティの概念がどのような場面で実践されているかについても、現役のゲストスピーカーの講義で学ぶ機会を得ます。		
履修条件・留意点	授業は講義形式だけではなく毎回グループワークがあります。学年などシャッフルし、指定されたグループで発表、プレゼンテーションも行います。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	ホスピタリティの重要性を理解し、１ 人ひとりの個性や価値観の違いを受けとめて、敬い、ホスピタリティを実践する力を身につけます。他者との良好な人間関係を築くことができるコミュニケーションスキルを身につけ、今後の就職活動や社会活動にも活かせることを目指します。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業毎に「本日の気づき」を LearningPortal から提出します。このシートには毎回の授業についての自身の気づきや学び、質問等を書きます。次回授業の冒頭で質問への回答や補足説明をします。また良い気づきについても紹介します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、キャリアコンサルタント有資格者であり、専門学校での学生就職指導や民間企業での人事採用等の業務に携わってきた。本科目では、これらの実務経験を活かして、自己分析や業界・企業研究に関する実践的な教育を行う。		
テキスト	指定しません。配布資料やＰＰＴを用いて授業を行います。	ISBN	なし
参考書	授業時に適宜紹介します。	ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	20
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	20
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	40
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	授業ではホスピタリティを理論（ロジック）で理解するにとどまらず、実践（アクション）につなげていきます。 グループワークでは他者を受容し、積極的に自分の考えや経験を共有してください。またロールプレイングやプレゼンテーションにも前向きに取り組むことを期待します。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	・オリエンテーション 授業の概要や受講のルール、到達目標についてガイダンスを行います。	【予習】シラバスを事前に読んでおくこと。 【復習】シラバスとガイダンス資料を読み直し、授業への取り組み姿勢や目標を検討する。	1 時間
第２回	対面	・ホスピタリティとは ホスピタリティの概念・定義を理解します。	【予習】ホスピタリティの言葉の意味、同じ語源の言葉を調べる。 【復習】配布資料に基づき復習をする。	4 時間
第３回	対面	・自己理解と他者理解 自分の考え方のクセや他者との関わりについて考えます。 また、理想的な人との関わり方や自身の課題について理解します。	【予習】現状の自分のストロングポイント、ウイークポイントについて考えておく。 【復習】授業の内容をもとに振り返りを行う。	4 時間
第４回	対面	・ホスピタリティを実践する基本行動① 日常で実践できる行動を考え、実践練習します。	【予習】日常実践しているホスピタリティを考える。 【復習】学んだことを実践する。配布資料を基に復習をする。	4 時間
第５回	対面	・ホスピタリティを実践する基本行動② 必要となる様々な行動、気遣いについて考えます。	【予習】アルバイトなどで自分が実践しているサービスや気遣いをまとめる。 【復習】配布資料を基に振り返りを行い、改善点を考える。	4 時間
第６回	対面	・ホスピタリティの歴史とおもてなしの心 海外のホスピタリティや日本のおもてなしについて学びます。	【予習】日本のおもてなしで印象に残った経験などを考える。 【復習】資料や紹介された参考図書をもとに学びを深める。	4 時間
第７回	対面	・ホスピタリティとＣＳ（顧客満足） ロイヤルティやクレームについて具体的に事例研究をします。	【予習】自分が経験したクレーム（アルバイトや顧客として）について原因を考えておく。 【復習】配布資料や参考文献を基に復習をする。	4 時間
第８回	対面	・ホスピタリティ産業事例研究① 具体的な業界の特徴を理解します。	【予習】興味のあるホスピタリティ業界を調べてみる。 【復習】配布資料や参考文献を基に復習をする。	4 時間
第９回	対面	・ホスピタリティ産業事例研究② 具体的な業界の特徴を理解します。	【予習】周囲の社会人にホスピタリティについてインタビューを実施してみる。 【復習】配布資料や参考文献を基に復習をする。	4 時間
第１０回	対面	・ゲストスピーカーからの学び ホスピタリティ産業で、現役で活躍するゲストスピーカーを招き、その実際についてのお話を聞きます。 また、グループで検討した質問をインタビューします。	【予習】事前に質問事項を検討する。 【復習】今回の授業の学びを振り返り、新たに興味をもったことについて調べる。	4 時間
第１１回	対面	・ユニバーサルサービスの基本 ユニバーサルサービスについて理解し、実践するために必要なことを考えます。	【予習】ユニバーサルサービスの具体例について調べる。 【復習】授業内容を復習し、日常で実践できることを考える。	4 時間
第１２回	対面	・チーム力で働く力 求められるチームワーク、チームで成しえるホスピタリティを理解します。	【予習】チームで成しえた経験を振り返り、考える。 【復習】チームワークに必要な資質や自身の役割を再考する。	5.5 時間
第１３回	対面	・ホスピタリティ産業・事例調査プレゼンテーション① グループでホスピタリティ産業について、またホスピタリティサービスの事例についてを調査し、発表します。	【予習】役割分担や進行方法を決め、プレゼンテーション資料を完成させる。プレゼンテーションの練習を行う。 【復習】プレゼンテーションの内容を見直し、まとめる。	5.5 時間
第１４回	対面	・ホスピタリティ産業・事例調査プレゼンテーション② グループでホスピタリティ産業について、またホスピタリティサービスの事例についてを調査し、発表します。	【予習】役割分担や進行方法を決め、プレゼンテーション資料を完成させる。プレゼンテーションの練習を行う。 【復習】プレゼンテーションの内容を見直し、まとめる。	4 時間

第１５回	オンデマンド	・これまでのまとめ 授業の総復習とポイントをまとめ、定期試験の準備も行います。	【予習・復習】これまでの授業を振り返り、ポイントをまとめておく。	4 時間

科目名	ホスピタリティ論	開講年度	2025
担当者	石井　里奈	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	ホスピタリティを理解し、日常的に実践する力を身につける。		
授業の目的及び概要	ホスピタリティは、当初はホテル、旅行、飲食店などの観光業界で実践されてきた理念でしたが、徐々に、サービス業を中心にあらゆる業界で取り入れられてきています。ホスピタリティが目指すのは、良好な人間関係の構築と維持です。そして、心から相手のことを考えて行動することがホスピタリティの実践です。この授業ではホスピタリティを理解し、どのような考え方でどのような言動を身につけるべきか、事例をもとに考察し、グループワークやプレゼンテーションを行います。また、日常生活に取り入れられるマナーを実践します。就職活動において評価され、社会人となってからも職場や顧客からも信頼され、良好な人間関係が構築できることを目指します。ホスピタリティの概念がどのような場面で実践されているかについても、現役のゲストスピーカーの講義で学ぶ機会を得ます。		
履修条件・留意点	授業は講義形式だけではなく毎回グループワークがあります。学年などシャッフルし、指定されたグループで発表、プレゼンテーションも行います。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	ホスピタリティの重要性を理解し、１ 人ひとりの個性や価値観の違いを受けとめて、敬い、ホスピタリティを実践する力を身につけます。他者との良好な人間関係を築くことができるコミュニケーションスキルを身につけ、今後の就職活動や社会活動にも活かせることを目指します。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業毎に「本日の気づき」を LearningPortal から提出します。このシートには毎回の授業についての自身の気づきや学び、質問等を書きます。次回授業の冒頭で質問への回答や補足説明をします。また良い気づきについても紹介します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、キャリアコンサルタント有資格者であり、専門学校での学生就職指導や民間企業での人事採用等の業務に携わってきた。本科目では、これらの実務経験を活かして、自己分析や業界・企業研究に関する実践的な教育を行う。		
テキスト	指定しません。配布資料やＰＰＴを用いて授業を行います。	ISBN	なし
参考書	授業時に適宜紹介します。	ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	20
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	20
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	40
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	授業ではホスピタリティを理論（ロジック）で理解するにとどまらず、実践（アクション）につなげていきます。 グループワークでは他者を受容し、積極的に自分の考えや経験を共有してください。またロールプレイングやプレゼンテーションにも前向きに取り組むことを期待します。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	・オリエンテーション 授業の概要や受講のルール、到達目標についてガイダンスを行います。	【予習】シラバスを事前に読んでおくこと。 【復習】シラバスとガイダンス資料を読み直し、授業への取り組み姿勢や目標を検討する。	1 時間
第２回	対面	・ホスピタリティとは ホスピタリティの概念・定義を理解します。	【予習】ホスピタリティの言葉の意味、同じ語源の言葉を調べる。 【復習】配布資料に基づき復習をする。	4 時間
第３回	対面	・自己理解と他者理解 自分の考え方のクセや他者との関わりについて考えます。 また、理想的な人との関わり方や自身の課題について理解します。	【予習】現状の自分のストロングポイント、ウイークポイントについて考えておく。 【復習】授業の内容をもとに振り返りを行う。	4 時間
第４回	対面	・ホスピタリティを実践する基本行動① 日常で実践できる行動を考え、実践練習します。	【予習】日常実践しているホスピタリティを考える。 【復習】学んだことを実践する。配布資料を基に復習をする。	4 時間
第５回	対面	・ホスピタリティを実践する基本行動② 必要となる様々な行動、気遣いについて考えます。	【予習】アルバイトなどで自分が実践しているサービスや気遣いをまとめる。 【復習】配布資料を基に振り返りを行い、改善点を考える。	4 時間
第６回	対面	・ホスピタリティの歴史とおもてなしの心 海外のホスピタリティや日本のおもてなしについて学びます。	【予習】日本のおもてなしで印象に残った経験などを考える。 【復習】資料や紹介された参考図書をもとに学びを深める。	4 時間
第７回	対面	・ホスピタリティとＣＳ（顧客満足） ロイヤルティやクレームについて具体的に事例研究をします。	【予習】自分が経験したクレーム（アルバイトや顧客として）について原因を考えておく。 【復習】配布資料や参考文献を基に復習をする。	4 時間
第８回	対面	・ホスピタリティ産業事例研究① 具体的な業界の特徴を理解します。	【予習】興味のあるホスピタリティ業界を調べてみる。 【復習】配布資料や参考文献を基に復習をする。	4 時間
第９回	対面	・ホスピタリティ産業事例研究② 具体的な業界の特徴を理解します。	【予習】周囲の社会人にホスピタリティについてインタビューを実施してみる。 【復習】配布資料や参考文献を基に復習をする。	4 時間
第１０回	対面	・ゲストスピーカーからの学び ホスピタリティ産業で、現役で活躍するゲストスピーカーを招き、その実際についてのお話を聞きます。 また、グループで検討した質問をインタビューします。	【予習】事前に質問事項を検討する。 【復習】今回の授業の学びを振り返り、新たに興味をもったことについて調べる。	4 時間
第１１回	対面	・ユニバーサルサービスの基本 ユニバーサルサービスについて理解し、実践するために必要なことを考えます。	【予習】ユニバーサルサービスの具体例について調べる。 【復習】授業内容を復習し、日常で実践できることを考える。	4 時間
第１２回	対面	・チーム力で働く力 求められるチームワーク、チームで成しえるホスピタリティを理解します。	【予習】チームで成しえた経験を振り返り、考える。 【復習】チームワークに必要な資質や自身の役割を再考する。	5.5 時間
第１３回	対面	・ホスピタリティ産業・事例調査プレゼンテーション① グループでホスピタリティ産業について、またホスピタリティサービスの事例についてを調査し、発表します。	【予習】役割分担や進行方法を決め、プレゼンテーション資料を完成させる。プレゼンテーションの練習を行う。 【復習】プレゼンテーションの内容を見直し、まとめる。	5.5 時間
第１４回	対面	・ホスピタリティ産業・事例調査プレゼンテーション② グループでホスピタリティ産業について、またホスピタリティサービスの事例についてを調査し、発表します。	【予習】役割分担や進行方法を決め、プレゼンテーション資料を完成させる。プレゼンテーションの練習を行う。 【復習】プレゼンテーションの内容を見直し、まとめる。	4 時間

第１５回	オンデマンド	・これまでのまとめ 授業の総復習とポイントをまとめ、定期試験の準備も行います。	【予習・復習】これまでの授業を振り返り、ポイントをまとめておく。	4 時間

科目名	航空実務	開講年度	2025
担当者	中川　正秋	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	グローバル化が進む航空業界のマーケット戦略と、その仕事の種類、実務内容を理解する		
授業の目的及び概要	この授業では、航空産業に関する基本的な知識を修得し、航空会社や空港における実務について理解することを目的とする。具体的には航空会社（キャビンアテンダント、グランドスタッフ、予約・発券、経営管理、マーケティング）及び空港関係（空港入管・税関・検疫、ケータリング等）における様々な実務内容について理解する。また担当教員の長年培った航空会社での実務経験を紹介し、航空会社の実務について理解を深める。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	(1) 航空輸送の発展と歴史、航空自由化後の航空会社の政策・戦略を理解する。 (2) 航空業界の様々な仕事について学び、それぞれの実務内容を理解する。 (3) 基本的な航空用語が理解できる。 (4) 航空業界の様々な仕事の実務を理解し、将来の進路選択に役立てる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	(1) プレゼンやレポートに対し，適宜、改善点を指導する。 (2) 授業毎の質問は授業中に解説する。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、長年にわたり、各国の航空会社にて、営業課長や営業部長、執行役員等の役職を歴任し、エアライン・ビジネスに広く携わってきた。本科目では、これらの実務経験を活かして、自己分析や業界・企業研究に関する実践的な教育を行う。		
テキスト	テキスト：不要 担当教員が独自作成レジメを授業毎にラーニングポータルの教材に添付しますのでプリントアウトをして授業で使用すること。また参考資料（航空会社、IATA、JATA 等の報告書、インターネット記事等）も適宜配布する。	ISBN	なし
参考書	参考書：以下参照 ①「航空産業入門」（株）ANA 総研編集， 東洋新報社，2008 年 ②「エアライン/エアポート・ビジネス入門」 高橋望・横見宗樹， 株式会社法律文化社， 2011 年 ③ 「エアライン オペレーション入門」 （株）ANA 総合研究所，株式会社ぎょうせい，2015 年 ④「国土交通白書」国土交通省 ⑤ IATA 報告書 ⑥ JATA 報告書	ISBN	① 9784492761755 ② 9784589033376 ③ 9784324099698 ④ なし ⑤ なし ⑥ なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	20
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	30
【定期試験】レポート試験	30
【定期試験】筆記試験（対面）	0

	その他（%）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	近年の航空業界はグローバル化の発展と共に、世界の政治、経済の影響を受けやすいので、日頃から航空業界の動向に興味を持ち、主要新聞、航空業界のインターネット記事を注意深く読むことで理解を深めるようにする。 航空業界の様々な仕事の実務を理解することで、航空業界に興味を持ち、将来、多くの学生が航空業界に就かれることを期待します。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス 講義目的、全講義内容、評価基準、授業に際しての注意事項について説明	【予習】航空業界の最近の話題になっているニュースをインターネットで調べてくる。 【復習】次回以降の授業に向けた事前準備を行う。	4 時間
第２回	対面	世界の航空の歴史ー世界の航空産業の歴史、航空機の飛行方法と技術革新による進化	【予習】世界の航空機の歴史について、書籍や文献・インターネット等で調べてくる。 【復習】世界の航空の歴史と航空機の進化を振り返り、航空業界の発展を復習する。	4 時間
第３回	対面	グローバルアライアンスとローコストキャリア（LCC)の台頭	【予習】ワンワールドとスターアライアンスに加入しているのはどのような航空会社か。またどのような LCC があるのかを書籍や文献・インターネット等で調べてくる。 【復習】グローバルアライアンスに加入することによる航空会社と消費者のメリット。大手航空会社（FSC)に対抗する LCC の戦略を復習する。	4 時間
第４回	対面	航空会社の予約・発券業務　(1) 都市・空港の３レター、航空会社 2 レターコード、国際線航空時刻表の見方、乗り継ぎ所要時間（MCT)等	【予習】日本・世界にある有名な空港と航空会社名を書籍や文献・インターネット等で調べてくる。 【復習】航空会社の予約・発券業務の基礎知識を復習する。	4 時間
第５回	対面	航空会社の予約・発券業務（2）世界の航空会社予約システム、予約記録の作り方、国際線航空チケットの見方と発券、国際線航空運賃の仕組み、航空運賃の種類と計算の仕方、空港税及び燃油サーチャージ	【予習】JAL・ANA の国内線時刻表を見て、見方に慣れておく。 【復習】航空会社の予約の仕方、国際航空運賃の仕組みについて復習する。	4 時間
第６回	対面	空港ーハブ＆スポークとハブ空港の役割、空港組織（入管、税関、検疫、機内食ケータリング会社等）	【予習】アジアのハブ空港はどこか、空港で働く組織は何かを書籍や文献・インターネット等で調べてくる。 【復習】ハブ空港の役割と空港組織について復習する。	4 時間
第７回	対面	グランドスタッフ（1）空港旅客サービスの業務　チェックイン～出発まで、クラス別地上サービス、特殊サービス、空港ラウンジ グランドスタッフ（2）手荷物損失、クレーム処理、イレギュラー時の対応、ランプ作業	【予習】グランドスタッフの業務内容について書籍や文献・インターネット等で調べてくる。関西空港でグランドスタッフの業務を行っているのは何社あるのか会社名をインターネット等で調べてくる。 【復習】グランドスタッフの業務内容について復習する。グランドスタッフの業務とランプ作業の内容について復習する。	4 時間
第８回	対面	キャビンアテンダント（1）客室乗務員の業務内容、訓練の内容および採用	【予習】キャビンアテンダントの業務内容について書籍や文献・インターネット等で調べてくる。 【復習】キャビンアテンダントの業務内容について復習する。	4 時間
第９回	対面	キャビンアテンダント （2） 客室サービス、機内食の歴史、国際線機内食、クラス別機内食、機内食の種類、スペシャルミール等	【予習】どのような国内線・国際線機内食、クラス別機内食、機内食の種類、スペシャルミールがあるのか書籍や文献・インターネット等で調べてくる。 【復習】キャビンアテンダントのサービスと様々な機内食について復習する。	4 時間
第１０回	対面	9 回までのまとめと中間テスト	【復習】中間テストを行いますので９回までの復習	4 時間

			をすること。	
第１１回	対面	航空会社の戦略（１）航空会社の CS の重要性とブランド戦略	【予習】世界で有名な航空会社（LCC を含む）のブランド要素となる会社ロゴを書籍や文献・インターネット等で調べてくる。 【復習】航空会社がサービス、売上げを拡大するための、ブランド戦略、ネットワーク戦略、CRS 戦略を復習する。	4 時間
第１２回	対面	航空会社の戦略（２）ネットワーク戦略，CRS 戦略とインターネットの拡大 （３）マイレージとデーターベースマーケッティング、FFP の仕組み	【予習】JAL・ANA のマイレージプログラムの特典を各社の HP で調べてくる。 【復習】マイレージプログラムの歴史と仕組みについて復習する。	4 時間
第１３回	対面	① 民間航空機の進化と国際政治―航空機の技術革新、航空機製造と国際政治 ② 航空業界の未来像ー ①グローバル時代の航空事業の多様化と未来像	【予習】世界で運航されている様々な民間航空機を書籍や文献・インターネット等で調べてくる。 【復習】最新鋭の航空機販売と国際政治の関係について復習する。	4 時間
第１４回	対面	航空業界の未来像ー② 近隣アジアの緊密化、未来への望ましい方向性、航空業界とツーリズム（観光産業）の共存	【予習】アフターコロナの航空業界・旅行業界はどのように変わるのかを書籍や文献・インターネット等で調べて推測してくる。 【復習】コロナまでの航空業界を理解し、アフターコロナはどのように変わるのかを資料・データーを基に予測したことを復習する。	4 時間
第１５回	オンデマンド	航空実務の総括－1 回～15 回の授業内容の復習と質疑応答 期末試験の対策の説明	【予習】この授業の中での疑問点等、質問できるように準備してくる。 【復習】航空実務の総括の内容を復習する。	4 時間

科目名	航空経済論	開講年度	2025
担当者	中川　正秋	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	グローバル競争における世界の航空政策・航空各社の戦略		
授業の目的及び概要	この授業では、航空産業に関する基本的な知識修得を目的とする。航空業界は世界のグローバル化にともない著しく発展してきた。規制緩和後の航空自由化により、ローコストキャリア(LCC)の台頭が始まり、大手航空会社のグローバルアライアンス化が加速した民間航空の歴史に沿った授業をする。具体的には、航空事業と航空政策、空港、国際航空貨物、航空会社の経営と戦略について幅広く理解を深める。また担当教員の長年培った航空会社での実務経験を紹介し、Update のマーケット動向や航空会社戦略についても考察する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	(1) 航空輸送の発展と歴史を理解し、未来像についても説明することができる。 (2) 航空事業と航空政策についての基礎知識を習得する。 (3) グローバル競争における世界の航空会社の動向・戦略について理解する。 (4) JAL・ANA とローコストキャリア（LCC)の経営・戦略の違いについて理解する。 (5) 航空企業研究の深堀りを行い、将来の進路選択に役立てる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	(1) プレゼンやレポートに対し，適宜、改善点を指導する。 (2) 授業毎の質問は授業中に解説する。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、長年にわたり、各国の航空会社にて、営業課長や営業部長、執行役員等の役職を歴任し、エアライン・ビジネスに広く携わってきた。本科目では、これらの実務経験を活かして、自己分析や業界・企業研究に関する実践的な教育を行う。		
テキスト	テキスト：不要 担当教員が独自作成レジメを授業毎にラーニングポータルの教材に添付しますのでプリントアウトをして授業で使用すること。また参考資料（航空会社、IATA、JATA 等の報告書、インターネット記事等）も適宜配布する。	ISBN	なし
参考書	参考書：以下参照 ①「航空産業入門」（株）ANA 総研編集， 東洋新報社，2008 年 ②「エアライン/エアポート・ビジネス入門」 高橋望・横見宗樹， 株式会社法律文化社， 2011 年 ③「国土交通白書」国土交通省 ④ IATA 報告書 ⑤ JATA 報告書	ISBN	① 9784492761755 ② 9784589033376 ③ なし ④ なし ⑤ なし

成績評価の方法・基準		
	授業への積極的な参加度・取組み	20
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	30
	【定期試験】レポート試験	30
	【定期試験】筆記試験（対面）	0

	その他（%）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	近年の航空業界はグローバル化の発展と共に、世界の政治、経済の影響を受けやすいので、日頃から航空業界の動向に興味を持ち、主要新聞、航空業界のインターネット記事を注意深く読むことで理解を深めるようにする。 世界の航空会社の動向・現状を理解することで航空業界に興味を持ち、将来、多くの学生が航空業界に就かれることを期待します。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス 講義目的、全講義内容、評価基準、授業に際しての注意事項について説明	【予習】航空業界の最近の話題になっているニュースをインターネット等で調べてくる。 【復習】次回以降の授業に向けた事前準備を行う。	2.5 時間
第２回	対面	航空の歴史―ライト兄弟によって始めて動力飛行機が飛んだ１９０３年から日本の航空自由化までの歴史	【予習】ライト兄弟から始まり、航空自由化までの航空の歴史について、書籍や文献・インターネット等で調べてくる。 【復習】航空の歴史を振り返り、世界の航空会社の発展を復習する。	4 時間
第３回	対面	航空事業と航空政策（1）国家戦略とナショナルフラッグ・キャリア、ICAO、IATA	【予習】世界で有名なナショナルフラッグ・キャリアを最低 5 社、書籍や文献・インターネット等で調べてくる。 【復習】国家戦略としてのナショナルフラッグ・キャリアについて復習する。	4 時間
第４回	対面	航空事業と航空政策（2）自由化の流れ、規制緩和とオープン政策	【予習】航空自由化による航空会社と消費者のメリットは何かを書籍や文献・インターネット等で調べてくる。 【復習】規制緩和をすることによってグローバル航空マーケットはどのように発展したかを復習する。	4 時間
第５回	対面	アライアンス― グローバルアライアンスの誕生、発展、戦略	【予習】ワンワールドとスターアライアンスの加入航空会社を書籍や文献・インターネット等で調べてくる。 【復習】グローバルアライアンスに加入することによる航空会社と消費者のメリットを復習する。	4 時間
第６回	対面	ローコストキャリアの台頭― ＬＣＣの歴史と特徴	【予習】日本のローコストキャリア（LCC）と世界の有名なローコストキャリア５社を書籍や文献・インターネット等で調べて書き出してくる。 【復習】LCC のと既存大手航空会社(FSC)とのビジネスモデルの違いを復習する。	4 時間
第７回	対面	空港―日本の空港の現状と課題、ハブ＆スポーク、アジアのハブ空港戦争	【予習】日本の空港名、世界の空港名を書籍や文献・インターネット等で調べてくる。 【復習】アジアのハブ空港と空港民営化による収益拡大について復習する。	4 時間
第８回	対面	7 回までの授業のまとめと中間試験	【復習】中間試験を行いますので７回までの授業の復習をすること。	4 時間
第９回	対面	国際航空貨物―貨物輸送の特色、マーケット概況、AWB の説明	【予習】国際航空貨物について書籍や文献・インターネット等で調べてくる。 【復習】世界経済のグローバル化、ボーダレス化の進展で需要拡大となる国際航空貨物マーケットについて復習する。	4 時間
第１０回	対面	航空安全と地球環境 （1）航空保安対策、航空機の安全性を高めるシステム （2）地球温暖化と航空会社の環境対策、今後の環境経営	【予習】航空機の安全性を高めるシステムは何か、地球温暖化で航空会社が実施していることは何かを書籍や文献・インターネット等で調べてくる。 【復習】テロから守る航空保安対策、航空機を安全に運航するための、最新安全運航システムと航空会社の実施している温暖化対策について復習する。	4 時間

第１１回	対面	航空会社の経営（1）航空運送業の特徴、航空旅行需要の特性、航空機の生産性、航空運送の費用	【予習】新型コロナの影響で世界の航空会社が経営危機となっているが、具体例を書籍や文献・インターネット等で調べてくる。 【復習】航空機のオペレーションコスト、生産性を復習する。	4 時間
第１２回	対面	航空会社の経営（2）ＣＳの重要性、プライシングとレベニュー・マネージメント	【予習】自身が大阪ー札幌に旅行する場合、サービス・飛行時間を考慮し、いくらが適切な料金かを JAL・ANA の HP で調べてくる。 【復習】国際線運賃・国内線運賃の制度とプライシングの多様化、収益を上げるためのレベニュー・マネジメントについて復習する。	4 時間
第１３回	対面	航空会社の戦略（1）ブランド戦略、ネットワーク戦略、ＣＲＳ戦略とインターネットの拡大	【予習】世界で有名な航空会社（LCC を含む）のブランド要素となる会社ロゴを書籍や文献・インターネット等で調べてくる。 【復習】航空会社がサービス、売上げを拡大するための、ブランド戦略、ネットワーク戦略、CRS 戦略を復習する。	4 時間
第１４回	対面	航空会社の戦略（2）マイレージプログラム(FFP)の歴史、仕組みと特典、データーベースマーケッティング 航空業界の未来像ー航空機の進化、グローバル時代の航空事業の多様化、航空・観光業界の共存と未来像	【予習】JAL・ANA のマイレージプログラムの特典を各社の HP で調べてくる。アフターコロナの航空業界・旅行業界はどのように変わるのかを書籍や文献・インターネット等で調べてくる。 【復習】マイレージプログラムの歴史と仕組みについて復習する。コロナまでの航空業界を理解し、アフターコロナはどのように変わるのかを資料データーを基に予測したことを復習する。	4 時間
第１５回	オンデマンド	航空経済論の総括－1 回～15 回の授業内容の復習と質疑応答 期末試験の対策について説明	【予習】この授業の中での疑問点等、質問できるように準備してくる。 【復習】航空経済論の総括の内容を復習する。	4 時間

科目名	Tourism and World Heritages	開講年度	2025
担当者	ハモンズ・ジョアンナ	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	We will deepen our awareness of the relationship between tourism and the heritage that humanity should share, and consider.		
授業の目的及び概要	この授業は英語のみで行われる。具体的には、世界遺産という制度の創設と理念を理解し、国内外で登録された世界遺産がいかに基準を満たし、登録されることとなったか、その経緯について学修する。また、それぞれの遺産が持つ固有の価値及び観光化されることによるメリット・デメリット等を明らかにし、未来に向けて価値を損なわない持続可能な観光資源としてのあり方について、様々な事例を取り上げて考察。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	英語を通して： 世界遺産と観光について、多様な側面を理解し、自らがそれらの課題克服と持続可能な発展に向けて、国際社会の一員として如何に関わる事ができるかを考察する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	Assignments will be explained and reviewed during class.		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	None	ISBN	None
参考書	None	ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	25
授業期間中の小テスト、レポート課題等	25
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	25
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	25
その他の内容	Final Quiz -Conducted in Class

この科目の受講にあたって	授業は全て英語で行われ、学生も授業内は英語のみを使用する。授業で与えられたテーマについてプレゼンテーションを行うには、十分な準備（調査、論点整理能力、予想される反対意見への対応等）が必要となる。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	Course guidance Role Plays Airport 1 & 2	Review Course Guidance and Role Plays Airport 1 & 2 Research Tourism	4 時間
第２回	対面	Tourism	Review Tourism and Role Plays Airport 3 & 4	4 時間

		Role Plays Airport 3 & 4	Research UNESCO	
第３回	対面	UNESCO Role Plays Hotel 1 & 2	Review UNESCO and Role Plays Hotel 1 & 2 Research UNESCO Advisory Bodies	4 時間
第４回	対面	UNESCO Advisory Bodies Role Plays Hotel 3 & 4	Review UNESCO Advisory Bodies and Role Plays Hotel 3 & 4 Research List of World Heritage in Danger	4 時間
第５回	対面	List of World Heritage in Danger Role Plays Restaurant 1 & 2	Review List of World Heritage in Danger and Role Plays Restaurant 1 & 2 Prepare Review of Tourism and UNESCO	4 時間
第６回	対面	Review Tourism and UNESCO Prepare Review of Advisory Bodies and World Heritage in Danger	Review Advisory Bodies and World Heritage in Danger	4 時間
第７回	対面	On Demand Review of Advisory Bodies and World Heritage in Danger	Prepare for Review Quiz 1	4 時間
第８回	対面	Review Quiz 1	Research SDGs	4 時間
第９回	対面	SDGs Role Plays Restaurant 3 & 4	Review SDGs and Role Plays Restaurant 3 & 4 Research World Heritage and Indigenous Peoples	4 時間
第１０回	対面	World Heritage and Indigenous Peoples Role Plays Transportation	Presentation Preparation	4 時間
第１１回	対面	Presentation Preparation	Prepare for presentation	4 時間
第１２回	対面	Presentations	Prepare for Review Quiz 2 Prepare for Presentations	4 時間
第１３回	オンデマンド	Presentations	Prepare for Review Quiz 2	4 時間
第１４回	対面	Review Quiz 2	Review.	4 時間
第１５回	対面	Feedback on Review Quiz.	Summary of the course	4 時間

科目名	現代日本事情	開講年度	2025
担当者	田中　慎吾	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日本国の多角的考察		
授業の目的及び概要	本授業は、日本国について様々な側面から理解することを目的とする。 そのため各授業回において、外交や歴史、政治・司法制度、各種の社会・文化問題（教育、格差、移民、宗教等）など多様なトピックを取り扱うこととする。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本授業が受講生に求める到達点は以下の 2 点である。 １．日本について多面的な知識を習得し、日本という国がどのような特徴・課題を有するのかを、自らの言葉で表すことができる。 ２．日本が抱える問題点を他国との比較から理解し、日本の問題にどのような解決方法があり得るのかを、自らの言葉で表すことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・毎回の授業においてコメントシートを配布するので、質問や意見等を自由に記入してもらい、翌授業回に講師からのコメントを付して返却する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定なし	ISBN	指定なし
参考書	授業内にて適宜紹介する	ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	40
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	60
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	・シラバスを十分に熟読し、理解した上で授業に参加してください。 ・成績配分に鑑み、各授業回のコメントが最終成績に極めて重要であることを理解し、毎回授業に出席してください。 ・レポートの書き方について覚束ない場合は、独自に学修しておいてください。 ・また、定期試験レポートについては剽窃行為防止のため、様々な要件を設けるので遵守してください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	オリエンテーション	事前学習　シラバスを熟読する	5 時間

		・教員と受講生の自己紹介 ・授業概要の説明と問題意識のすり合わせ ・成績評価の方法と注意事項の説明	事後学習　シラバスと配付資料を読み返し、履修継続の有無を決める	
第２回	対面	日本の国内問題１（天皇とは何か）	事前学習　次回授業内容に関する新聞記事をデータベースを用いて検索して最低 3 つは読み、基礎知識を付ける。 事後学習　授業で配布したレジュメを読み返し、授業内で分からなかったところをリスト化し、次回の授業時に配布するコメントシートにかき込む準備をする。	4 時間
第３回	対面	日本の宗教（仏教と神道）	事前学習　次回授業内容に関する新聞記事をデータベースを用いて検索して最低 3 つは読み、基礎知識を付ける。 事後学習　授業で配布したレジュメを読み返し、授業内で分からなかったところをリスト化し、次回の授業時に配布するコメントシートにかき込む準備をする。	4 時間
第４回	対面	日本の憲法と議院内閣制	事前学習　次回授業内容に関する新聞記事をデータベースを用いて検索して最低 3 つは読み、基礎知識を付ける。 事後学習　授業で配布したレジュメを読み返し、授業内で分からなかったところをリスト化し、次回の授業時に配布するコメントシートにかき込む準備をする。	4 時間
第５回	対面	地方自治制度の特徴と課題	事前学習　次回授業内容に関する新聞記事をデータベースを用いて検索して最低 3 つは読み、基礎知識を付ける。 事後学習　授業で配布したレジュメを読み返し、授業内で分からなかったところをリスト化し、次回の授業時に配布するコメントシートにかき込む準備をする。	4 時間
第６回	対面	歴史問題１（靖国参拝はなぜ問題とされるのか）	事前学習　次回授業内容に関する新聞記事をデータベースを用いて検索して最低 3 つは読み、基礎知識を付ける。 事後学習　授業で配布したレジュメを読み返し、授業内で分からなかったところをリスト化し、次回の授業時に配布するコメントシートにかき込む準備をする。	4 時間
第７回	対面	歴史問題２（従軍慰安婦と日韓関係）	事前学習　次回授業内容に関する新聞記事をデータベースを用いて検索して最低 3 つは読み、基礎知識を付ける。 事後学習　授業で配布したレジュメを読み返し、授業内で分からなかったところをリスト化し、次回の授業時に配布するコメントシートにかき込む準備をする。	4 時間
第８回	対面	社会問題１（少子化と高齢化）	事前学習　次回授業内容に関する新聞記事をデータベースを用いて検索して最低 3 つは読み、基礎知識を付ける。 事後学習　授業で配布したレジュメを読み返し、授業内で分からなかったところをリスト化し、次回の授業時に配布するコメントシートにかき込む準備をする。	4 時間
第９回	対面	社会問題２（移民・難民の受け入れの現状と課題）	事前学習　次回授業内容に関する新聞記事をデータベースを用いて検索して最低 3 つは読み、基礎知識を付ける。 事後学習　授業で配布したレジュメを読み返し、授	4 時間

			業内で分からなかったところをリスト化し、次回の授業時に配布するコメントシートにかき込む準備をする。	
第１０回	対面	社会問題３（自殺問題または違法薬物問題を想定）	事前学習　次回授業内容に関する新聞記事をデータベースを用いて検索して最低 3 つは読み、基礎知識を付ける。 事後学習　授業で配布したレジュメを読み返し、授業内で分からなかったところをリスト化し、次回の授業時に配布するコメントシートにかき込む準備をする。	4 時間
第１１回	対面	外交・安全保障問題１（領土問題）	事前学習　次回授業内容に関する新聞記事をデータベースを用いて検索して最低 3 つは読み、基礎知識を付ける。 事後学習　授業で配布したレジュメを読み返し、授業内で分からなかったところをリスト化し、次回の授業時に配布するコメントシートにかき込む準備をする。	4 時間
第１２回	対面	外交･安全保障問題２（憲法 9 条と自衛隊）	事前学習　次回授業内容に関する新聞記事をデータベースを用いて検索して最低 3 つは読み、基礎知識を付ける。 事後学習　授業で配布したレジュメを読み返し、授業内で分からなかったところをリスト化し、次回の授業時に配布するコメントシートにかき込む準備をする。	4 時間
第１３回	対面	外交・安全保障補償問題３（日米同盟の現状と沖縄基地問題）	事前学習　次回授業内容に関する新聞記事をデータベースを用いて検索して最低 3 つは読み、基礎知識を付ける。 事後学習　授業で配布したレジュメを読み返し、授業内で分からなかったところをリスト化し、次回の授業時に配布するコメントシートにかき込む準備をする。	4 時間
第１４回	対面	日本の外交・防衛問題３（核武装の是非と原子力発電）	事前学習　次回授業内容に関する新聞記事をデータベースを用いて検索して最低 3 つは読み、基礎知識を付ける。 事後学習　授業で配布したレジュメを読み返し、授業内で分からなかったところをリスト化し、次回の授業時に配布するコメントシートにかき込む準備をする。	4 時間
第１５回	オンデマンド	授業の総括と定期試験レポートの説明	事前学習　これまでの配布資料を読み込む。 事後学習　期末レポートの作成に向けて準備を開始する。	5 時間

科目名	現代中国事情	開講年度	2025
担当者	池上　寛	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	中台関係を様々な視点から考える		
授業の目的及び概要	この授業では、中国（中華人民共和国）と台湾（中華民国）の関係について、歴史、政治および経済などの面から学習する。中国は台湾を不可侵の自国領土としている一方、台湾には中華民国という国が存在している。このような状況がどうして生まれたかを第 2 次大戦後に起きた国共内戦から最近の状況まで、歴史、政治、経済など様々な面から取り上げる。 2022 年に起きたロシアによるウクライナ侵攻によって、中国が台湾を侵攻するのではないか、あるいは台湾有事などの言葉が新聞やテレビなどで話題になっている。これを理解するためには、中台の歴史を知ることが必要である。本講義では台湾の歴史を取り上げつつ、中国との関係を概観し、今につながる中台関係について検討する。この授業を受講することによって、中台関係への理解、あるいは台湾への理解が深まるようになる。 なお、授業への理解度に合わせて、適宜内容を調整する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・台湾という島の歴史を概観し、理解すること ・戦後の中国や台湾について、とくに 1990 年代からの動きについて理解すること ・中台関係の状況について理解し、分析すること		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・コメントカードに講義に対する質問を募集し、次週以降にフィードバックする		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、JETRO・アジア経済研究所で 25 年以上に渡って調査研究職に従事しており、その間、在台北海外研究員、研究グループ長代理などを歴任している。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	特に指定しない ジェトロ・アジア経済研究所編刊『アジア動向年報』（各年版）は以下のサイトに創刊（1970 年）以来の全文が公開されている。中国・台湾の部分をダウンロードし、中台関係の部分をチェックしてもらいたい。 https://www.ide.go.jp/Japanese/Publish/Books/Doko.html	ISBN	なし
参考書	遠流台湾館 （著）， 呉 密察 （監修）， 横澤 泰夫(日本語版編訳)（翻訳）『台湾史小事典（第 3 版）』中国書店 松田康博・清水麗編著（2018）『現代台湾の政治経済と中台関係』晃洋書房	ISBN	9784903316529 9784771029880

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	30
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	30
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	40

	その他（%）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	可能であれば、中国の近現代（日清戦争（1894 年）から現在）について大まかな動きを予め学習すること 台湾については世界史で授業で取り上げられることは少ないと思うが、興味を持って授業に参加すること	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション：授業の概要や目的、成績評価などについて説明する。 中国と台湾について、現在の概要説明	【予習】事前にシラバスの内容を確認し、授業の概要を把握すること。疑問があれば、講義の際に質問すること。可能であれば、『アジア動向年報 2025』（最新版）の中国と台湾のページを読んでおくこと。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を実施すること。	4 時間
第２回	対面	日清戦争と下関条約	【予習】事前にシラバスの内容を確認し、授業の概要を把握すること。疑問があれば、講義の際に質問すること。可能であれば、日清戦争が起きた原因と下関条約の内容について調べておくこと。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を実施すること。	4 時間
第３回	対面	日中戦争と第 2 次国共合作	【予習】事前にシラバスの内容を確認し、授業の概要を把握すること。疑問があれば、講義の際に質問すること。可能であれば、世界史の教科書で「日中戦争」と「第 2 次国共合作」の部分を読んでおくこと。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を実施すること。	4 時間
第４回	対面	台湾の帰属問題を考える	【予習】事前にシラバスの内容を確認し、授業の概要を把握すること。疑問があれば、講義の際に質問すること。可能であれば、世界史の教科書で「サンフランシスコ講和条約」、「日華平和条約」の部分を読んでくること。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を実施すること。	4 時間
第５回	対面	国際連合常任理事国の地位と中国	【予習】事前にシラバスの内容を確認し、授業の概要を把握すること。疑問があれば、講義の際に質問すること。可能であれば、国際連合ができた経緯、アルバニア決議について調べておくこと。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を実施すること。	4 時間
第６回	対面	政治対立する中台関係：1945 年から 1980 年	【予習】事前にシラバスの内容を確認し、授業の概要を把握すること。疑問があれば、講義の際に質問すること。可能であれば、毛沢東と蒋介石について調べておくこと。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を実施すること。	4 時間
第７回	対面	中台の政治制度、中間テスト	【予習】事前にシラバスの内容を確認し、授業の概要を把握すること。疑問があれば、講義の際に質問すること。可能であれば、『アジア動向年報 2025』の中国と台湾の部分のうち、政治のところを読んでおくこと。中間テストのために、第 1 回から第 6 回の配布資料などを再度確認しておくこと。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を実施すること。	4 時間
第８回	対面	中台間の経済比較	【予習】事前にシラバスの内容を確認し、授業の概要	4 時間

			を把握すること。疑問があれば、講義の際に質問すること。過去 20 年間の『アジア動向年報』を使って中国と台湾の経済統計をチェックしておくこと。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を実施すること。	
第９回	対面	中台間における貿易	【予習】事前にシラバスの内容を確認し、授業の概要を把握すること。疑問があれば、講義の際に質問すること。台湾・財政部のウェブサイトから中国との貿易統計をダウンロードしておくこと。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を実施すること。	4 時間
第１０回	対面	中台間の外国直接投資	【予習】事前にシラバスの内容を確認し、授業の概要を把握すること。疑問があれば、講義の際に質問すること。台湾・経済部投資審議司のウェブサイトから台湾から中国への外国直接投資、中国から台湾への直接投資に関するデータを見ておくこと。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を実施すること。	4 時間
第１１回	対面	三通問題とその解決	【予習】事前にシラバスの内容を確認し、授業の概要を把握すること。疑問があれば、講義の際に質問すること。『アジア動向年報 2009』の中国と台湾の部分に「三通」のことが書かれているので、その部分を読んでおくこと。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を実施すること。	4 時間
第１２回	対面	中台間の人的交流	【予習】事前にシラバスの内容を確認し、授業の概要を把握すること。疑問があれば、講義の際に質問すること。台湾の観光統計を調べて、中国から訪問客統計を調べておくこと。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を実施すること。	4 時間
第１３回	対面	中台における外交競争および 2008 年以降中台間で合意した取り決めについて	【予習】事前にシラバスの内容を確認し、授業の概要を把握すること。疑問があれば、講義の際に質問すること。可能であれば、蔡英文時代に断交した国について調べておくこと。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を実施すること。	4 時間
第１４回	対面	台湾有事について	【予習】事前にシラバスの内容を確認し、授業の概要を把握すること。疑問があれば、講義の際に質問すること。また、新聞のデータベースなどを使って台湾有事を調べておくこと。可能であれば、第 1 次台湾危機、第 2 次台湾危機について調べておくこと 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を実施すること。	4 時間
第１５回	オンデマンド	講義のまとめと定期試験について	【予習】事前にこれまでに配布された配布資料を見て復習する形で予習をしておくこと。疑問があれば、メールで先に問い合わせすること。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を実施すること。	4 時間

科目名	現代アメリカ事情	開講年度	2025
担当者	田中　慎吾	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	現代アメリカ合衆国についての多角的考察		
授業の目的及び概要	本授業は、アメリカ合衆国について様々な側面から理解することを目的とするものである。 そのため各授業回において、歴史、政治・司法制度、各種の社会・文化問題（教育、医療、福祉、宗教等）、外交・防衛問題といった様々なトピックを取り扱う。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本授業が受講生に求める到達点は以下の 2 点である。 １．アメリカ合衆国に関する知識を多面的に習得し、同国がどのような特徴を持ち、どのような課題を抱えているのかを自らの言葉で表すことができる。 ２．１を踏まえて、アメリカと自国（母国）がどのように違うのかを把握し、アメリカまたは自国（母国）が何を学ぶべきかを言葉に表すことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・毎回の授業においてコメントシートを配布するので、質問や意見等を自由に記入してもらい、翌授業回に講師からのコメントを付して返却する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定なし	ISBN	指定なし
参考書	授業内にて適宜紹介する	ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	40
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	60
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって
本授業の成績配分を十分に理解すること。 つまりは各授業回のコメントが極めて重要であることを理解し、毎回出席してください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	オリエンテーション ・教員と受講生の自己紹介 ・授業概要の説明と目的意識のすり合わせ	事前学習　シラバスを熟読する 事後学習　シラバスと配付資料を読み返し履修するかを決める	5 時間

		・成績評価の方法と注意事項の説明 ・アメリカを数字と地理から理解する		
第２回	対面	アメリカ合衆国の独立と建国の経緯	事前学習　自らアメリカに関する新聞記事を検索し、歴史や社会問題に関する記事を読むこと。 事後学習　授業で配布したレジュメを読み返す。授業内で分からなかったところをリスト化し、次回の授業時に配布するコメントシートにかき込む準備をする。	4 時間
第３回	対面	憲法と連邦制度の特徴	事前学習　自らアメリカに関する新聞記事を検索し、歴史や社会問題に関する記事を読むこと。 事後学習　授業で配布したレジュメを読み返す。授業内で分からなかったところをリスト化し、次回の授業時に配布するコメントシートにかき込む準備をする。	4 時間
第４回	対面	大統領制度および大統領選挙の特徴と課題	事前学習　自らアメリカに関する新聞記事を検索し、歴史や社会問題に関する記事を読むこと。 事後学習　授業で配布したレジュメを読み返す。授業内で分からなかったところをリスト化し、次回の授業時に配布するコメントシートにかき込む準備をする。	4 時間
第５回	対面	司法制度の特徴と課題	事前学習　自らアメリカに関する新聞記事を検索し、歴史や社会問題に関する記事を読むこと。 事後学習　授業で配布したレジュメを読み返す。授業内で分からなかったところをリスト化し、次回の授業時に配布するコメントシートにかき込む準備をする。	4 時間
第６回	対面	社会問題１（銃犯罪と銃規制問題）	事前学習　自らアメリカに関する新聞記事を検索し、歴史や社会問題に関する記事を読むこと。 事後学習　授業で配布したレジュメを読み返す。授業内で分からなかったところをリスト化し、次回の授業時に配布するコメントシートにかき込む準備をする。	4 時間
第７回	対面	社会問題２（キリスト教と中絶）	事前学習　自らアメリカに関する新聞記事を検索し、歴史や社会問題に関する記事を読むこと。 事後学習　授業で配布したレジュメを読み返す。授業内で分からなかったところをリスト化し、次回の授業時に配布するコメントシートにかき込む準備をする。	4 時間
第８回	対面	社会問題３（インディアンと黒人の境遇）	事前学習　自らアメリカに関する新聞記事を検索し、歴史や社会問題に関する記事を読むこと。 事後学習　授業で配布したレジュメを読み返す。授業内で分からなかったところをリスト化し、次回の授業時に配布するコメントシートにかき込む準備をする。	4 時間
第９回	対面	社会問題４（LGBT）	事前学習　自らアメリカに関する新聞記事を検索し、歴史や社会問題に関する記事を読むこと。 事後学習　授業で配布したレジュメを読み返す。授業内で分からなかったところをリスト化し、次回の授業時に配布するコメントシートにかき込む準備をする。	4 時間
第１０回	対面	社会問題５（不法移民）	事前学習　自らアメリカに関する新聞記事を検索し、歴史や社会問題に関する記事を読むこと。 事後学習　授業で配布したレジュメを読み返す。授業内で分からなかったところをリスト化し、次回の授業時に配布するコメントシートにかき込む準備をする。	4 時間
第１１回	対面	社会問題６（格差と識字率）	事前学習　自らアメリカに関する新聞記事を検索	4 時間

			し、歴史や社会問題に関する記事を読むこと。 事後学習　授業で配布したレジュメを読み返す。授業内で分からなかったところをリスト化し、次回の授業時に配布するコメントシートにかき込む準備をする。	
第１２回	対面	社会問題７（違法薬物と大麻の解禁問題）	事前学習　自らアメリカに関する新聞記事を検索し、歴史や社会問題に関する記事を読むこと。 事後学習　授業で配布したレジュメを読み返す。授業内で分からなかったところをリスト化し、次回の授業時に配布するコメントシートにかき込む準備をする。	4 時間
第１３回	対面	外交・安全保障問題１（日米安保）	事前学習　自らアメリカに関する新聞記事を検索し、歴史や社会問題に関する記事を読むこと。 事後学習　授業で配布したレジュメを読み返す。授業内で分からなかったところをリスト化し、次回の授業時に配布するコメントシートにかき込む準備をする。	4 時間
第１４回	対面	外交・安全保障問題２（グローバル課題への対応）	事前学習　自らアメリカに関する新聞記事を検索し、歴史や社会問題に関する記事を読むこと。 事後学習　授業で配布したレジュメを読み返す。授業内で分からなかったところをリスト化し、次回の授業時に配布するコメントシートにかき込む準備をする。	4 時間
第１５回	オンデマンド	授業の総括と定期試験レポートについての解説	事前学習　前回配布したレジュメを読み込み、授業内で質問する点をリスト化する。 事後学習　定期試験レポートの作成に向けて準備を開始する。	5 時間

科目名	現代韓国事情	開講年度	2025
担当者	徐　潤雅	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	現代韓国について多角的に考察する。		
授業の目的及び概要	この授業では、韓国に関連する身近なトピックや最近の社会的なイシューを切り口に、それらの背景にある社会状況について理解を深めることを目的とする。 前半では、現代韓国の地理・社会・経済・文化の全体像を把握し、後半では、いくつかの具体的な話題を設定し、韓国社会の「現在」や「これから」について考察する。 これにより、韓国が抱えるさまざまな課題や社会の変化について俯瞰的・多角的な視点から理解を深め、思考力の向上を図る。 各授業では、O/X クイズ、学生自身の経験や視点を述べる討論（グループワーク）、コメントペーパーの作成などを必要に応じて取り入れる。		
履修条件・留意点	毎回の授業に積極的に参加しましょう。評価では、各授業での参加態度やコメントペーパーの作成を重視します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 現代韓国の地理・社会・経済・文化の全体像を把握できる。 2. 韓国社会が抱える社会的イシューについて考察しながら、自分自身を取り巻く社会や状況にも関心を向け、思考力を高め、言語化できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	皆さんが提出したコメントペーパーへのコメントや、授業前後の質問対応を通じてフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	使用しない。	ISBN	―
参考書	授業中に適宜紹介する。	ISBN	―

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	40
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	40
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	●対面授業を 14 回実施します（第 15 回の授業はオンデマンドで実施します）。 【成績評価の方法・基準の詳細】 ●「授業への積極的な参加度・取り組み（40%）」は、対面授業への参加態度やコメントペーパーの作成・提出をもとに評価し、毎回 40 点満点で採点します。その平均点を 14 回分算出します。 （※ 一度欠席するとその回の点数は 0 点となるため、ご注意ください。やむを得ない事情で欠席する場合は、事前にご連絡ください。） ●「授業期間中のレポート（20%）」は、「韓国紹介のオリジナル Wikipedia（My Own Original

	Wikipedia Page Introducing Korea)」という課題です。詳細は授業内で説明します。 ●「定期試験（40%）」は論述式の筆記試験です。（資料の持ち込み可。詳細は授業内で説明します。）

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	オリエンテーション ・【活動】教員と受講生の自己紹介（私のタグは？：＃キーワードで自己紹介） ・授業概要の説明と目的意識のすり合わせ ・成績評価の方法と注意事項、学習方法の説明 ・【活動】韓国といえば？：あなたの知っている韓国（やそのイメージなど）についてシェアしてください ・Q&A	【予習】シラバスを熟読する。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習。ファイリング。	1時間
第２回	対面	時間的・空間的特徴：韓国現代史の概観（「解放」から現在まで）、韓国の地理的特徴、都市と地方、各地域の特色	【予習】授業資料欄にアップロードされた資料に目を通し、分からない点を確認しておく。 【復習】配布資料やノートを使って復習する。分からなかった点が解消されたか確認し、自分の言葉で整理してみる。	1.5時間
第３回	対面	人口的・産業的特徴：人口構成（男女比、高齢化、出生率）およびその変遷、在留外国人の動向、経済・産業構造とその変遷、物価の推移など	【予習】授業資料欄にアップロードされた資料に目を通し、分からない点を確認しておく。 【復習】配布資料やノートを使って復習する。分からなかった点が解消されたか確認し、自分の言葉で整理してみる。	1.5時間
第４回	対面	政治：冷戦と南北分断、独裁政治、選挙制度と投票率の変遷、大統領制、韓国の政党の特徴、日本との違い、現状と課題	【予習】授業資料欄にアップロードされた資料に目を通し、分からない点を確認しておく。 【復習】配布資料やノートを使って復習する。分からなかった点が解消されたか確認し、自分の言葉で整理してみる。	1.5時間
第５回	対面	韓国の新聞･ニュースに見る最近の社会的イシュー：韓国のメディア事情と最近の話題 （皆さんも、最近気になったニュースがあれば紹介してください。） 【活動：授業期間中のレポート】「韓国紹介のオリジナルWikipedia（My Own Original Wikipedia Page Introducing Korea)」に関する案内、下書き作成	【予習】授業資料欄にアップロードされた資料に目を通し、分からない点を確認しておく。 【復習】配布資料やノートを使って復習する。分からなかった点が解消されたか確認し、自分の言葉で整理してみる。	1.5時間
第６回	対面	言語：韓国語の文字（ハングル）の誕生とその歴史的･思想的背景、ハングルの特徴と構造、普及の過程、漢字離れ、方言	【予習】授業資料欄にアップロードされた資料に目を通し、分からない点を確認しておく。 【復習】配布資料やノートを使って復習する。分からなかった点が解消されたか確認し、自分の言葉で整理してみる。	1.5時間
第７回	対面	宗教：韓国の宗教構成の特徴、民間信仰、近年の宗教をめぐる問題 【活動：授業期間中のレポート】「韓国紹介のオリジナルWikipedia（My Own Original Wikipedia Page Introducing Korea)」を発表	【予習】授業資料欄にアップロードされた資料に目を通し、分からない点を確認しておく。 【復習】配布資料やノートを使って復習する。分からなかった点が解消されたか確認し、自分の言葉で整理してみる。	1.5時間
第８回	対面	韓国の外交と近隣諸国１：日本、北朝鮮（朝鮮民主主義人民共和国）との関係、対日政策、対北政策の変遷と最近の課題	【予習】授業資料欄にアップロードされた資料に目を通し、分からない点を確認しておく。 【復習】配布資料やノートを使って復習する。分からなかった点が解消されたか確認し、自分の言葉で整	1.5時間

			理してみる。	
第９回	対面	韓国の外交と近隣諸国２：中国、台湾、ベトナムとの関係、歴史的な事件、最近の状況と課題	【予習】授業資料欄にアップロードされた資料に目を通し、分からない点を確認しておく。 【復習】配布資料やノートを使って復習する。分からなかった点が解消されたか確認し、自分の言葉で整理してみる。	1.5 時間
第１０回	対面	ドラマ・映画に見る最近の社会的イシュー（皆さんも、好きなドラマや映画があれば紹介してください。）	【予習】授業資料欄にアップロードされた資料に目を通し、分からない点を確認しておく。 【復習】配布資料やノートを使って復習する。分からなかった点が解消されたか確認し、自分の言葉で整理してみる。	1.5 時間
第１１回	対面	衣食住：ファッション文化、韓服、食文化の特徴と変遷、農業、食料問題、住居問題、韓屋	【予習】授業資料欄にアップロードされた資料に目を通し、分からない点を確認しておく。 【復習】配布資料やノートを使って復習する。分からなかった点が解消されたか確認し、自分の言葉で整理してみる。	1.5 時間
第１２回	対面	映画・ドラマ、漫画・webtoon：エンターテインメント産業の変遷、文化振興計画、文化芸術政策、時代を物語る名作、OTT 産業	【予習】授業資料欄にアップロードされた資料に目を通し、分からない点を確認しておく。 【復習】配布資料やノートを使って復習する。分からなかった点が解消されたか確認し、自分の言葉で整理してみる。	1.5 時間
第１３回	対面	K-Pop で見る韓国：K-Pop の起源、アイドル産業とインディーズ、時代を象徴する名曲、伝統音楽の再発見	【予習】授業資料欄にアップロードされた資料に目を通し、分からない点を確認しておく。 【復習】配布資料やノートを使って復習する。分からなかった点が解消されたか確認し、自分の言葉で整理してみる。	1.5 時間
第１４回	対面	音楽・歌詞に見る最近の社会的イシュー（皆さんも、好きな歌や歌詞があれば紹介してください。）	【予習】授業資料欄にアップロードされた資料に目を通し、分からない点を確認しておく。 【復習】配布資料やノートを使って復習する。分からなかった点が解消されたか確認し、自分の言葉で整理してみる。	1.5 時間
第１５回	オンデマンド	講義のまとめと定期試験について	【予習】授業資料欄にアップロードされた資料に目を通し、分からない点を確認しておく。 【復習】これまで集めてきた配布資料やノートを使って復習する。分からなかった点が解消されたか確認し、自分の言葉で整理してみる。	2.5 時間

科目名	現代韓国事情	開講年度	2025
担当者	徐　潤雅	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	現代韓国について多角的に考察する。		
授業の目的及び概要	この授業では、韓国に関連する身近なトピックや最近の社会的なイシューを切り口に、それらの背景にある社会状況について理解を深めることを目的とする。 前半では、現代韓国の地理・社会・経済・文化の全体像を把握し、後半では、いくつかの具体的な話題を設定し、韓国社会の「現在」や「これから」について考察する。 これにより、韓国が抱えるさまざまな課題や社会の変化について俯瞰的・多角的な視点から理解を深め、思考力の向上を図る。 各授業では、O/X クイズ、学生自身の経験や視点を述べる討論（グループワーク）、コメントペーパーの作成などを必要に応じて取り入れる。		
履修条件・留意点	毎回の授業に積極的に参加しましょう。評価では、各授業での参加態度やコメントペーパーの作成を重視します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 現代韓国の地理・社会・経済・文化の全体像を把握できる。 2. 韓国社会が抱える社会的イシューについて考察しながら、自分自身を取り巻く社会や状況にも関心を向け、思考力を高め、言語化できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	皆さんが提出したコメントペーパーへのコメントや、授業前後の質問対応を通じてフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	使用しない。	ISBN	―
参考書	授業中に適宜紹介する。	ISBN	―

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	40
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	40
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	●対面授業を 14 回実施します（第 15 回の授業はオンデマンドで実施します）。 【成績評価の方法・基準の詳細】 ●「授業への積極的な参加度・取り組み（40%）」は、対面授業への参加態度やコメントペーパーの作成・提出をもとに評価し、毎回 40 点満点で採点します。その平均点を 14 回分算出します。 （※ 一度欠席するとその回の点数は 0 点となるため、ご注意ください。やむを得ない事情で欠席する場合は、事前にご連絡ください。） ●「授業期間中のレポート（20%）」は、「韓国紹介のオリジナル Wikipedia（My Own Original

	Wikipedia Page Introducing Korea)」という課題です。詳細は授業内で説明します。 ●「定期試験（40%）」は論述式の筆記試験です。（資料の持ち込み可。詳細は授業内で説明します。）

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	オリエンテーション ・【活動】教員と受講生の自己紹介（私のタグは？：＃キーワードで自己紹介） ・授業概要の説明と目的意識のすり合わせ ・成績評価の方法と注意事項、学習方法の説明 ・【活動】韓国といえば？：あなたの知っている韓国（やそのイメージなど）についてシェアしてください ・Q&A	【予習】シラバスを熟読する。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習。ファイリング。	1時間
第２回	対面	時間的・空間的特徴：韓国現代史の概観（「解放」から現在まで）、韓国の地理的特徴、都市と地方、各地域の特色	【予習】授業資料欄にアップロードされた資料に目を通し、分からない点を確認しておく。 【復習】配布資料やノートを使って復習する。分からなかった点が解消されたか確認し、自分の言葉で整理してみる。	1.5時間
第３回	対面	人口的・産業的特徴：人口構成（男女比、高齢化、出生率）およびその変遷、在留外国人の動向、経済・産業構造とその変遷、物価の推移など	【予習】授業資料欄にアップロードされた資料に目を通し、分からない点を確認しておく。 【復習】配布資料やノートを使って復習する。分からなかった点が解消されたか確認し、自分の言葉で整理してみる。	1.5時間
第４回	対面	政治：冷戦と南北分断、独裁政治、選挙制度と投票率の変遷、大統領制、韓国の政党の特徴、日本との違い、現状と課題	【予習】授業資料欄にアップロードされた資料に目を通し、分からない点を確認しておく。 【復習】配布資料やノートを使って復習する。分からなかった点が解消されたか確認し、自分の言葉で整理してみる。	1.5時間
第５回	対面	韓国の新聞・ニュースに見る最近の社会的イシュー：韓国のメディア事情と最近の話題 （皆さんも、最近気になったニュースがあれば紹介してください。） 【活動：授業期間中のレポート】「韓国紹介のオリジナルWikipedia（My Own Original Wikipedia Page Introducing Korea)」に関する案内、下書き作成	【予習】授業資料欄にアップロードされた資料に目を通し、分からない点を確認しておく。 【復習】配布資料やノートを使って復習する。分からなかった点が解消されたか確認し、自分の言葉で整理してみる。	1.5時間
第６回	対面	言語：韓国語の文字（ハングル）の誕生とその歴史的・思想的背景、ハングルの特徴と構造、普及の過程、漢字離れ、方言	【予習】授業資料欄にアップロードされた資料に目を通し、分からない点を確認しておく。 【復習】配布資料やノートを使って復習する。分からなかった点が解消されたか確認し、自分の言葉で整理してみる。	1.5時間
第７回	対面	宗教：韓国の宗教構成の特徴、民間信仰、近年の宗教をめぐる問題 【活動：授業期間中のレポート】「韓国紹介のオリジナルWikipedia（My Own Original Wikipedia Page Introducing Korea)」を発表	【予習】授業資料欄にアップロードされた資料に目を通し、分からない点を確認しておく。 【復習】配布資料やノートを使って復習する。分からなかった点が解消されたか確認し、自分の言葉で整理してみる。	1.5時間
第８回	対面	韓国の外交と近隣諸国１：日本、北朝鮮（朝鮮民主主義人民共和国）との関係、対日政策、対北政策の変遷と最近の課題	【予習】授業資料欄にアップロードされた資料に目を通し、分からない点を確認しておく。 【復習】配布資料やノートを使って復習する。分からなかった点が解消されたか確認し、自分の言葉で整	1.5時間

			理してみる。	
第９回	対面	韓国の外交と近隣諸国２：中国、台湾、ベトナムとの関係、歴史的な事件、最近の状況と課題	【予習】授業資料欄にアップロードされた資料に目を通し、分からない点を確認しておく。 【復習】配布資料やノートを使って復習する。分からなかった点が解消されたか確認し、自分の言葉で整理してみる。	1.5 時間
第１０回	対面	ドラマ・映画に見る最近の社会的イシュー（皆さんも、好きなドラマや映画があれば紹介してください。）	【予習】授業資料欄にアップロードされた資料に目を通し、分からない点を確認しておく。 【復習】配布資料やノートを使って復習する。分からなかった点が解消されたか確認し、自分の言葉で整理してみる。	1.5 時間
第１１回	対面	衣食住：ファッション文化、韓服、食文化の特徴と変遷、農業、食料問題、住居問題、韓屋	【予習】授業資料欄にアップロードされた資料に目を通し、分からない点を確認しておく。 【復習】配布資料やノートを使って復習する。分からなかった点が解消されたか確認し、自分の言葉で整理してみる。	1.5 時間
第１２回	対面	映画・ドラマ、漫画・webtoon：エンターテインメント産業の変遷、文化振興計画、文化芸術政策、時代を物語る名作、OTT 産業	【予習】授業資料欄にアップロードされた資料に目を通し、分からない点を確認しておく。 【復習】配布資料やノートを使って復習する。分からなかった点が解消されたか確認し、自分の言葉で整理してみる。	1.5 時間
第１３回	対面	K-Pop で見る韓国：K-Pop の起源、アイドル産業とインディーズ、時代を象徴する名曲、伝統音楽の再発見	【予習】授業資料欄にアップロードされた資料に目を通し、分からない点を確認しておく。 【復習】配布資料やノートを使って復習する。分からなかった点が解消されたか確認し、自分の言葉で整理してみる。	1.5 時間
第１４回	対面	音楽・歌詞に見る最近の社会的イシュー（皆さんも、好きな歌や歌詞があれば紹介してください。）	【予習】授業資料欄にアップロードされた資料に目を通し、分からない点を確認しておく。 【復習】配布資料やノートを使って復習する。分からなかった点が解消されたか確認し、自分の言葉で整理してみる。	1.5 時間
第１５回	オンデマンド	講義のまとめと定期試験について	【予習】授業資料欄にアップロードされた資料に目を通し、分からない点を確認しておく。 【復習】これまで集めてきた配布資料やノートを使って復習する。分からなかった点が解消されたか確認し、自分の言葉で整理してみる。	2.5 時間

科目名	現代東南アジア事情	開講年度	2025
担当者	久納　源太	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	現代の東南アジアを巡る国内及び国際情勢を理解する。		
授業の目的及び概要	この授業では、現代の東南アジアを巡る国内及び国際的な政治経済情勢への関心を高め、俯瞰的でバランスの取れた理解が得られることを目指す。具体的には、東南アジアの主要国の文化・歴史・社会、経済や政治の仕組、法制度等の基礎的な知識を学んだ上で、地域の特性としての多民族多宗教性、近年各国で顕著になっている都市化・デジタル化など現代的なトピックを取り上げる。さらに、日本との文化・経済・政治上の関係についても学修する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	受講生は、現代東南アジアの基礎的な知識、地域の特性、現代的なトピック、日本との関係等の学修を通し、当該地域を総合的に理解することを目指す。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業内および授業時間前後に個別にフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	使用しない。	ISBN	-
参考書	授業中に紹介する。	ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	40
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	40
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	履修にあたって、基本的な用語および理論を学修し、学修する意義を理解した上で受講生の関心について聞き取りを行う。	配布レジュメ等を用いて基本的な用語および理論を復習する。	3 時間
第２回	対面	「東南アジア」という地理的概念の成り立ちについて理解した上で、熱帯地帯に位置する東南アジアの地理的特徴および環境	配布レジュメ等を用いて東南アジアの地理的特徴および環境問題を復習する。	3 時間

		問題を学修する。		
第３回	対面	農業と食文化の多様性に着目し、東南アジア社会の特徴を学修する。	配布レジュメ等を用いて東南アジアの食文化の特徴を復習する。	3 時間
第４回	対面	東南アジアと中国およびインドとの関わりを歴史的に遡って考察する。	配布レジュメ等を用いて東南アジアと中国およびインドとの歴史を復習する。	3 時間
第５回	対面	欧米列強による東南アジア植民地支配とナショナリズムの高揚を時系列に考察する。	配布レジュメ等を用いて欧米列強による東南アジア植民地支配について復習する。	3 時間
第６回	対面	東南アジアにおける脱植民地支配の過程について学修する。	配布レジュメ等を用いて東南アジアにおける脱植民地支配について復習する。	3 時間
第７回	対面	東南アジアにおける国家建設と経済開発について学修する。	配布レジュメ等を用いて各国の国家建設と経済開発について復習する。	3 時間
第８回	対面	民族と文化をキーワードとして、東南アジアにおける多様性について学修する。	配布レジュメ等を用いて東南アジアにおける多様性を復習する。	3 時間
第９回	対面	宗教と文化をキーワードとして、東南アジアにおける多様性を学修する。	配布レジュメ等を用いて東南アジアにおける多様性について復習する。	3 時間
第１０回	対面	民主化をキーワードとして、東南アジア諸国の政治体制について学修する。	配布レジュメ等を用いて東南アジア諸国の政治体制を復習する。	3 時間
第１１回	対面	1～10 回目の授業を振り返り中間総括とする。	1～10 回目の配布資料等を復習する。	3 時間
第１２回	対面	人口動態に着目し、東南アジアにおける社会の流動化を学修する。	配布レジュメ等を用いて東南アジアにおける社会の流動化について復習する。	3 時間
第１３回	対面	都市問題の諸相に着目し、東南アジアにおける格差の特徴を学修する。	配布レジュメ等を用いて東南アジアの都市問題の特徴を学修する。	3 時間
第１４回	対面	デジタル化に着目し、東南アジアの都市社会について学修する。	配布レジュメ等を用いて東南アジア都市におけるデジタル化について復習する。	3 時間
第１５回	オンデマンド	授業の総括を行う。	各回の配布レジュメ等を用いて授業内容を総括する。	3 時間

科目名	アジア太平洋地域研究Ａ	開講年度	2025
担当者	今井　健一	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日本の開発協力：アジア太平洋地域を中心に		
授業の目的及び概要	本授業では、戦後から現在に至るまでアジア太平洋地域諸国の経済社会発展に大きな貢献をしてきた日本の開発協力について学んでいく。開発協力とは、途上国における人づくり、インフラ整備、自然災害、環境問題、平和構築など多分野にわたる開発問題に対して行われる支援であるが、その中心となるのが ODA（Official Development Assistance：政府開発援助）である。ODA の具体的な支援方法としては、円借款、技術協力、無償資金協力などがある。本授業では、太平洋の小さな島嶼国も含むアジア太平洋地域に焦点を当て、１）日本の ODA の時代背景とその特色について、そして、２）ODA がどのように途上国の経済発展、持続可能な発展に貢献してきたか、について学んでいく。以上の内容に加えて、日本の ODA に関わる国際機関、自治体、企業、NGO/NPO の役割、そして途上国から高く評価されている日本の若者が参加する「青年海外協力隊」の活動についても触れていく。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 日本の開発協力がどのような分野（例えば、人づくり）において行われているかを説明することができる。 2. 日本の開発協力がアジア太平洋地域の途上国における経済発展そして持続可能な発展にどのように貢献してきたか、その時代背景と共に説明することができる。 3. 支援する側の国にとっての開発協力の意義（何故、開発協力を行なうのか）について、日本あるいは自国を事例に説明し、議論することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	学生自らが、授業内容が理解できているかを確認するため、そして授業内容の理解を深めるため、以下の(1)~(3)を実施する。 (1) 授業で出題する質問や課題について、“自ら能動的に調べ、考え、その結果の概要を書く。” (2) 左記の質問や課題の回答については、授業において解説・質疑応答・ディスカッションを行い、さらに理解を深める。 (3) 中間試験については、採点した上で講評・解答解説・質疑応答を行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定なし。	ISBN	なし。
参考書	① シリーズ「日本の開発協力史を問いなおす」<1> 日本型開発協力の形成，下村恭民，　東京大学出版会，2020 年 ② シリーズ「日本の開発協力史を問いなおす」<2> 最大ドナー日本の登場とその後，　下村恭民，　東京大学出版会，　2022 年 ③ ODA の国際政治経済学：戦後日本外交と対外援助 1952-2022，　保城 広至，　千倉書房，　2024 年	ISBN	① 9784130342209 ② 9784130343213 ③ 9784805113301

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
	成果発表（口頭・実技）	0

	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	40
	その他（%）	0
	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	本授業では、特にアジア太平洋地域に焦点を当てますが、おそらく、アジア太平洋地域と聞いて、太平洋の小さな島嶼国を思い浮かべる人はあまりいないのではないでしょうか？ SDGs（持続可能な開発目標）における 17 の目標に共通する概念として、「誰一人取り残さない」（No one left behind)があります。この概念に従えば、開発協力においても、これらの小さな島嶼国の存在を見過ごしてはいけないということです。この点を踏まえ、本授業では、これらの国々についてもスポットを当てていきたいと思います。このような些細に見えるような存在を忘れずに、広い視野から開発協力について一緒に考えていきましょう！	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	・授業の目的及び概要、学修の到達目標、授業計画等についてのガイダンス ・初回授業「開発協力とは：開発協力の意義 ～何故、開発協力を行なうのか？～」	【予習】シラバスおよびテキスト序章を事前に読んでおくこと。	2 時間
第２回	対面	第１回～第７回：第二次世界大戦後から冷戦期における日本の開発協力 「被援助国から援助国へ（1）：賠償協定調印とコロンボ・プラン加盟」	【予習】Learning Portal に掲載される授業用資料を事前に読む。 【復習】講義で学んだ重要ポイントを確認する。	4 時間
第３回	対面	①「被援助国から援助国へ（2）： 高度経済成長と OECD 加盟」 ② 課題１についての説明	【予習】Learning Portal に掲載される授業用資料を事前に読む。 【復習】課題１に取り組む。	4 時間
第４回	対面	「援助大国への道（1）：国際協力の急速な拡大」	【予習】Learning Portal に掲載される授業用資料を事前に読む。 【復習】講義で学んだ重要ポイントを確認する。	4 時間
第５回	対面	「援助大国への道（2）： 東南アジアの反日と開発協力政策の変容」	【予習】Learning Portal に掲載される授業用資料を事前に読む。 【復習】講義で学んだ重要ポイントを確認する。	4 時間
第６回	対面	①「援助大国への道（3）： 日米経済摩擦と開発協力政策の変容」 ② 中間試験についての説明	【予習】Learning Portal に掲載される授業用資料を事前に読む。 【復習】中間試験に備えて第２回～第６回授業内容を振り返る。	5 時間
第７回	対面	① 中間試験の実施 ②「21 世紀的なドナー国を求めて」	【復習】講義で学んだ重要ポイントを確認する。	4 時間
第８回	対面	第８回～第 14 回：冷戦後の日本の開発協力 ① 中間試験結果について：解答説明と講評 ② 「トップドナー日本の国際貢献（1）：国際平和協力と平和構築」	【予習】Learning Portal に掲載される授業用資料を事前に読む。 【復習】講義で学んだ重要ポイントを確認する。	4 時間
第９回	対面	「トップドナー日本の国際貢献（2）： 貧困への取り組み」	【予習】Learning Portal に掲載される授業用資料を事前に読む。 【復習】講義で学んだ重要ポイントを確認する。	4 時間
第１０回	対面	「トップドナー日本の国際貢献（3）： アフリカ支援への取り組み」	【予習】Learning Portal に掲載される授業用資料を事前に読む。 【復習】講義で学んだ重要ポイントを確認する。	4 時間
第１１回	対面	「トップドナー日本の国際貢献（4）： 地球環境問題への取り組み」	【予習】Learning Portal に掲載される授業用資料を事前に読む。 【復習】講義で学んだ重要ポイントを確認する。	4 時間

第１２回	対面	①「市民参加の潮流」 ② 課題２についての説明	【予習】Learning Portal に掲載される授業用資料を事前に読む。 【復習】課題２に取り組む。	4 時間
第１３回	対面	「巨大ドナー中国」	【予習】Learning Portal に掲載される授業用資料を事前に読む。 【復習】講義で学んだ重要ポイントを確認する。	4 時間
第１４回	対面	「援助協調の時代」と「人間の安全保障」	【予習】Learning Portal に掲載される授業用資料を事前に読む。 【復習】講義で学んだ重要ポイントを確認する。	4 時間
第１５回	オンデマンド	定期筆記試験に備えて、中間試験後の第 7 回～第 14 回授業（課題内容も含む）を振り返り、重要項目についての理解度を確認する。	【予習】事前に配布した資料に目を通し、第 7 回～第 14 回授業の重点ポイントを再度確認する。理解が不十分である項目や質問についてはリストアップし、第 15 回オンデマンド授業前に Learning Portral より提出する。	5 時間

科目名	アジア太平洋地域研究Ｂ	開講年度	2025
担当者	張　雪斌	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	アジア太平洋地域国際関係を学ぶ		
授業の目的及び概要	本講義は戦後アジア太平洋地域の政治、外交、安全保障上の対立と競争、そして協力関係について体系的に学修し、政治的な概念としてのアジア太平洋地域が形成されてきた背景と、近年アジア太平洋を取って代わる地域概念（インド太平洋など）が現れた要因について学びます。 21 世紀のアジア太平洋地域は国際関係における中心的な存在になりつつあります。この政治的に作られた地域には軍事、経済の大国による競争だけでなく、多様な文化、宗教を持つ国々による協力も同時に存在します。これからのアジア太平洋地域における安定と共存を模索するために、これまでの地域の歴史と現状について一緒に学びましょう。		
履修条件・留意点	・国際関係論、政治地理学などの国際関係・国際政治系の授業と合わせて履修することをお勧めします（必須ではありません） ・国際関係・国際政治系の大学院を目指す方には強くお勧めします ・この講義の内容には「正解」がありません。さまざまな情報を客観的に分析し、自分の考えと異なる意見にも耳を傾ける姿勢を高く評価されます ・授業で学んだことと関連のあるニュース記事を見かけたら、ぜひそのニュースの要点と自分の意見をノートに書いてみてください。就職活動のときに必ず役に立ちます		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	受講者が授業終了時に以下の知識を身につけていることを目標とします ・冷戦期とポスト冷戦期におけるアジア太平洋地域諸国・地域間の対立、競争の歴史を理解できる ・アジア太平洋地域における主な対立イシューと協力枠組みについて説明できる ・グローバリゼーションと米中競争を背景とするアジア太平洋地域の秩序変容について説明できる		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・コメントカードを使って皆さんから質問を集め、次週以降質問への回答やコメントをします ・授業中や授業終了後に質疑応答の時間を設けます ・必要な場合は補足資料を配布（あるいはラーニングポータルで公開）し、参考資料、文献を紹介します		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定がありません。レジュメやパワーポイント資料を利用して授業を行いますが、適宜参考文献を紹介します。	ISBN	なし
参考書	・家近亮子（2020）『現代東アジアの政治と社会』放送大学教育振興会。 ・大庭三枝（2014）『重層的地域としてのアジア―対立と共存の構図』有斐閣。 ・宮城大蔵（2015）『戦後日本のアジア外交』ミネルヴァ書房。 ・増原綾子他（2018）『はじめての東南アジア政治』有斐閣。	ISBN	・978-4595322044 ・978-4641149106 ・978-4623072163 ・978-4641150584
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	

	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	70
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	【授業の内容について】 ・各授業回で配布する資料・スライドをもとに予習と復習を十分に行ってください ・授業では教員の一方的な説明のみではなく，受講生同士でのディスカッションを通じて，知識を深めていきたいと思います	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション：授業の目的、概要や成績評価などについて説明します	【予習】シラバスを事前に読んでおいてください. 【復習】シラバスと第 1 回のガイダンス資料を読み直し，講義で得た知識を確認してください.	4 時間
第２回	対面	アジア太平洋地域の概要：地理的概念と政治的概念としてのアジア太平洋	【予習】配布資料やテキストを事前に読んでおいてください. 【復習】配布資料を読み直し，講義で得た知識を確認してください.	4 時間
第３回	対面	第 2 次世界大戦以前のアジア太平洋地域：反植民地支配と近代国家への道	【予習】配布資料やテキストを事前に読んでおいてください. 【復習】配布資料を読み直し，講義で得た知識を確認してください.	4 時間
第４回	対面	第 2 次世界大戦：戦争とそれが地域に与えた影響	【予習】配布資料やテキストを事前に読んでおいてください. 【復習】配布資料を読み直し，講義で得た知識を確認してください.	4 時間
第５回	対面	冷戦①：中国の内戦、台湾問題、中ソ対立	【予習】配布資料やテキストを事前に読んでおいてください. 【復習】配布資料を読み直し，講義で得た知識を確認してください.	4 時間
第６回	対面	冷戦②：朝鮮戦争、南北分断、日韓関係	【予習】配布資料やテキストを事前に読んでおいてください. 【復習】配布資料を読み直し，講義で得た知識を確認してください.	4 時間
第７回	対面	冷戦③：ベトナム戦争、米中接近、地域協力の萌芽	【予習】配布資料やテキストを事前に読んでおいてください. 【復習】配布資料を読み直し，講義で得た知識を確認してください.	4 時間
第８回	対面	冷戦④：米ソ新冷戦、経済大国日本の対アジア外交	【予習】配布資料を事前に読んでおいてください. 【復習】配布資料を読み直し，講義で得た知識を確認してください.	4 時間
第９回	対面	ポスト冷戦期のアジア太平洋：地域協力の加速と新たな摩擦	【予習】配布資料を事前に読んでおいてください. 【復習】配布資料を読み直し，講義で得た知識を確認してください.	4 時間
第１０回	対面	大国化する中国の周辺外交	【予習】配布資料やテキストを事前に読んでおいてください. 【復習】配布資料を読み直し，講義で得た知識を確認してください.	4 時間
第１１回	対面	地域協力枠組みにおける協力と競争	【予習】配布資料やテキストを事前に読んでおいてください.	4 時間

			【復習】配布資料を読み直し，講義で得た知識を確認してください.	
第１２回	対面	米中競争時代のアジア太平洋地域①：一帯一路構想と各国の反応	【予習】配布資料やテキストを事前に読んでおいてください. 【復習】配布資料を読み直し，講義で得た知識を確認してください.	4 時間
第１３回	対面	米中競争時代のアジア太平洋地域②：自由で開かれたアジア太平洋構想	【予習】配布資料やテキストを事前に読んでおいてください. 【復習】配布資料を読み直し，講義で得た知識を確認してください.	4 時間
第１４回	対面	アジア太平洋地域における文化交流：人々の交流と政府の戦略	【予習】配布資料やテキストを事前に読んでおいてください. 【復習】配布資料を読み直し，講義で得た知識を確認してください.	4 時間
第１５回	オンデマンド	授業の総括・復習	【予習】これまでの授業回の配布資料を再度読んでおいてください。 【復習】これまでの授業回の配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間

科目名	アジア太平洋地域研究C	開講年度	2025
担当者	池上　寛	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	アジア太平洋地域における経済および経済統合を知る		
授業の目的及び概要	この授業ではアジア太平洋地域における経済について焦点を当て、その概況や特徴を明らかにする。また、この地域では様々な経済統合が進められている。この地域における経済統合の動きや各国・地域で締結されている主な経済協定を取り上げて、どのような経済協力が進んでいるかを考える。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・アジア太平洋地域における経済概況や特徴を理解する。 ・経済協定を締結する背景、その特徴、効果や課題を知り、なぜアジア太平洋地域では積極的に経済協定を締結されているかを理解する。 ・アジア太平洋地域で締結されている主要な経済協定を知り、基本的内容を理解する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメントシートに疑問を書いてもらい、翌週以降の授業でフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、JETRO・アジア経済研究所で 25 年以上に渡って調査研究職に従事しており、その間、在台北海外研究員、研究グループ長代理などを歴任している。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	特に指定しない。	ISBN	なし
参考書	授業内で適宜指示する。	ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	30
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	50
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	この科目はアジア太平洋地域の経済や経済統合について取り上げます。経済統合を理解をよりよく進めるために、アジア太平洋地域研究（A）（春学期開講）と（B）（秋学期開講）もぜひ受講し、様々な面からアジア太平洋地域を知る機会にしてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション 各回の講義内容 アジア太平洋地域の範囲とは	（事前学修）アジア太平洋地域について調べておく。 （事後学修）授業で配布したレジュメを使って復習をする。	4 時間
第２回	対面	アジア太平洋地域の経済概況（１）	（事前学修）アジア太平洋地域の人口、国土など各国地域の概況を国際機関統計などを使って調べてお	4 時間

			く。 （事後学修）授業で配布したレジュメを使って復習をする。	
第３回	対面	アジア太平洋地域の経済概況（２）	（事前学修）アジア太平洋地域の経済概況について調べておく。 （事後学修）授業で配布したレジュメを使って復習をする。	4 時間
第４回	対面	アジア太平洋地域の経済概況（３）	（事前学修）アジア太平洋地域の各国・地域の貿易について調べておく。 （事後学修）授業で配布したレジュメを使って復習をする。	4 時間
第５回	対面	経済統合とは何か	（事前学修）経済統合（FTA、EPA など）について調べておく。 （事後学修）授業で配布したレジュメを使って復習をする。	4 時間
第６回	対面	ASEAN について（１）	（事前学修）ASEAN の歴史について、ASEAN のウェブサイトから調べておく。 （事後学修）授業で配布したレジュメを使って復習をする。	4 時間
第７回	対面	ASEAN について（２）	（事前学修）ASEAN 加盟国で行われている経済協力について調べておく。 （事後学修）授業で配布したレジュメを使って復習をする。	4 時間
第８回	対面	前半部分のまとめ、小テスト①	（事前学修）前半部分のレジュメを使って中間テストに備えること。 （事後学修）出た問題について、復習すること。	4 時間
第９回	対面	ARF について	（事前学修）ARF の概要について調べておくこと。 （事後学修）授業で配布したレジュメを使って復習をする。	4 時間
第１０回	対面	APEC について	（事前学修）APEC と加盟国拡大の歴史について、ウェブサイトから調べておく。また、APEC で決まったことについて調べておく。 （事後学修）授業で配布したレジュメを使って復習をする。	4 時間
第１１回	対面	TPP12 について（１）	（事前学修）TPP 加盟国と加盟申請中の国・地域、TPP ができた過程、TPP の内容とメリットについて調べておく。 （事後学修）授業で配布したレジュメを使って復習をする。	4 時間
第１２回	対面	RCEP について	（事前学修）RCEP の概要、参加国について調べておく。 （事後学修）授業で配布したレジュメを使って復習をする。	4 時間
第１３回	対面	アジアにおける個別経済協力について	（事前学修）アジア諸国における経済協力協定の締結状況を調べておく。 （事後学修）授業で配布したレジュメを使って復習をする。	4 時間
第１４回	対面	日本における個別経済協力協定について、小テスト②	（事前学修）日本が締結している経済協力協定について調べておく。 （事後学修）授業で配布したレジュメを使って復習をする。	4 時間
第１５回	オンデマンド	本講義のまとめ、定期試験について	（事前学修）これまでの講義内容を振り返る。 （事後学修）授業で配布したレジュメを使って復習し、定期試験に備える。	4 時間

科目名	ＳＤＧｓ特別講義Ａ	開講年度	2025
担当者	今井　健一	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	気候変動および生物多様性を国際関係、経済、ビジネスから考える。		
授業の目的及び概要	持続可能な開発目標（SDGs）が解消を目指すグローバル課題を、国際関係、国際経済、国際ビジネスが共通の対象とする「経済」「社会」「環境」という切り口から整理し分野横断的な視点から学ぶとともに、国内・地域およびグローバルといった多層的な視点から理解を深める。加えて、ゲストスピーカーの講演を通じて、多様なアクター（国家、国際機関、市民社会、企業センター等）が SDGs の達成にむけてどのように取組んでいるのかについて具体的に学ぶ。		
履修条件・留意点	SDGs 特別講義は、本講義「SDGs 特別講義 A」（環境）の他に、「SDGs 特別講義 B」・「SDGs 特別講義 C」（社会・経済）と 3 つの授業があり、3 つの授業を通じて、17 の目標が示すグローバル課題を学んでいく講義です。卒業要件上、SDGs 特別講義は選択必修であり、3 つの授業うち１つ以上の授業を履修してください。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①気候変動問題、生物多様性問題とは何かを説明できる。 ②気候変動および生物多様性について、国際経済および国際関係の視点から何がポイントになるのかを理解し説明することができる。 ③気候変動および生物多様性の課題に対して、行政、企業、市民社会がどのように取組んでいるのかについての知識を修得し、その概要を説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業冒頭に前回の授業の振り返りを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定しない。	ISBN	なし。
参考書	指定しない。（適宜授業のなかで指示する。）	ISBN	なし。

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	20
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	50
その他（%）	0
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	本講義「SDGs 特別講義 A」は、地球規模の環境問題、特に気候変動問題と生物多様性減少問題にスポットを当てます。授業をとおして、これらの問題の概要が理解出来たら、是非、特に関心をもった具体的なテーマを自分自身で見つけて下さい。このような具体的テーマを通してより理解が深まるはずです。			

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第１回	対面	イントロダクション 授業目的・進め方（今井） SDGs とは何か、気候変動問題および生物多様性問題とは何かなど、本講義を通じて登場するキーワードを理解する。	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。	4 時間
第２回	対面	国際経済から気候変動問題①：北極圏で何が起きているか（今井） 北極圏における温暖化の現状と将来予測、そしてその自然と世界経済への影響について学ぶ。	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第３回	対面	国際経済から気候変動問題②：グリーンテクノロジーは地球を救えるか（今井） 再生可能エネルギーなど気候変動緩和関連技術（グリーンテクノロジー）の国際移転・伝播がもたらす気候変動緩和への効果や課題について学ぶ。	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第４回	対面	講演①（今井） 企業/自治体/市民社会からのゲストスピーカーによる講義（気候変動の取組みを中心に）	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。	4 時間
第５回	対面	国際経済から生物多様性減少の問題①：生物多様性の経済的価値と非経済的価値（今井） まず、生物多様性とは何かについて理解した後、生物多様性が人間に提供してくれている多様なサービス機能とその価値について学ぶ。	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第６回	対面	国際経済から生物多様性減少の問題②：遺伝資源の市場価値（今井） 遺伝資源が有する経済的価値（例えば、農業分野や医療分野での利用価値が高いと見込まれる新たな遺伝子の価値）とそれを巡る国際市場・国家間競争について学ぶ。	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第７回	対面	講演②（今井） 企業/自治体/市民社会からのゲストスピーカーによる講義（生物多様性の取組みを中心に）	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。	4 時間
第８回	対面	国際関係から国際環境法の構造（稲垣） 成立までの歴史的経緯、国際環境法の基本原則、国際環境法の特徴	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第９回	対面	国際関係から気候変動（稲垣） 気候変動枠組条約、京都議定書、パリ協定	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第１０回	対面	講演③（今井） 金融機関からのゲストスピーカーによる講義（投融資の視点（特に「公正な移行」（Just Transition）から）	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。	4 時間
第１１回	対面	国際関係から生物多様性（稲垣） 生物多様性条約、カルタヘナ議定書、名古屋・クアラルンプール補足議定書、名古屋議定書	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第１２回	対面	国際関係から海洋生物資源の持続可能な利用（稲垣） 国連海洋法条約、国連公海漁業実施協定、IUU 漁業問題、BBNJ 協定	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間

第１３回	対面	講演④（今井） 市民社会からのゲストスピーカーによる講義（気候変動/生物多様性の視点から）	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。	4 時間
第１４回	対面	これまでの授業のまとめ（今井）。 ゲストスピーカーの講演についてのフィードバック（グループディスカッション）。	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。	4 時間
第１５回	オンデマンド	授業のふりかえりと学期末試験に備えて重点項目等の理解を再確認（稲垣）。 各教員が 15 分程度の解説動画を作成する。	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。	4 時間

科目名	ＳＤＧｓ特別講義Ｂ	開講年度	2025
担当者	菅原　絵美	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	サステナビリティの社会課題（貧困、健康、教育、ジェンダー等）を国際関係、経済、ビジネスから考える。		
授業の目的及び概要	持続可能な開発目標（SDGs）が解消を目指すグローバル課題を、国際関係、国際経済、国際ビジネスが共通の対象とする「経済」「社会」「環境」という切り口から整理し分野横断的な視点から学ぶとともに、国内・地域およびグローバルといった多層的な視点から理解を深める。加えて、ゲストスピーカーの講演を通じて、多様なアクター（国家、国際機関、市民社会、企業センター等）が SDGs の達成にむけてどのように取組んでいるのかについて具体的に学ぶ。		
履修条件・留意点	とくになし		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	１．SDGs において取り上げられている社会課題について説明することができる。 ２．SDGs の社会課題について、国際経済および国際関係の視点から何がポイントになるのかを理解し説明することができる。 ３．SDGs の社会課題に対して、行政、企業、市民社会がどのように取組んでいるのかについての知識を修得する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業冒頭に前回の授業の振り返りを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定しない。	ISBN	なし。
参考書	指定しない。（適宜授業のなかで指示する。）	ISBN	なし。

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	20
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	50
その他（%）	0
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	SDGs 特別講義は、本講義「SDGs 特別講義 B」（社会・開発）の他に、「SDGs 特別講義 A」・「SDGs 特別講義 C」（環境と平和・経済）と 3 つの授業があり、3 つの授業を通じて、17 の目標が示すグローバル課題を学んでいく講義です。卒業要件上、SDGs 特別講義は選択必修であり、3 つの授業うち１つ以上の授業を履修してください。 現在の日本の状況とは異なった社会・経済のなかで、SDGs の目標が相互に関連していることを理解するように想像力を働かせてください。（金子） SDGs における社会課題を人権の視点から考えていきます。政府（自治体含む）、国際機関、企業、NGO などがどのように課題に向き合っているのかを学び、自分はどう向き合っていくのかと考えて深めていってもらえると嬉しいです。（菅原）

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション（菅原） 授業目的・進め方 SDGs とは何か、SDGs において取り上げられている社会課題（貧困、健康、教育、ジェンダー等）とは何かなど、本講義を通じて登場するキーワードを理解する。	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第２回	対面	貧困と飢餓（菅原） 難民問題を切り口に、食料・水への権利と国際的な人権保障を考える。	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第３回	対面	健康と教育（菅原） 児童労働の撲滅と企業・市民社会・コミュニティの役割を考える	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第４回	対面	ジェンダー平等（菅原） 日本におけるジェンダー平等実現と政府・企業・市民社会の役割と課題を考える。	事前学修としてラーニングポータルにアップした資料を読んで予習を行う。事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第５回	対面	働きがいと経済成長（菅原） ディーセントワーク（働きがいのある人間らしい仕事）の実現と ILO の役割を考える	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第６回	対面	講演①（菅原） 企業・市民社会からのゲストスピーカーによる講義（児童労働の視点から）	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第７回	対面	講演②（菅原） 企業・国際機関からのゲストスピーカーによる講義（ディーセントワークの実現の取組みを中心に）	事前学修としてラーニングポータルにアップした資料を読んで予習を行う。事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第８回	対面	経済発展と労働力（金子） 労働力の質と経済発展の関係ー日本とインドの事例ー	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第９回	対面	労働力の質と教育・健康（金子） 学歴と賃金、教育と新しい技術の受容	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第１０回	対面	講演③（金子） 企業・市民社会からのゲストスピーカーによる講義（経済発展と労働力のテーマを中心に）	事前学修としてラーニングポータルにアップした資料を読んで予習を行う。事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第１１回	対面	教育と貧困（金子） 就業状況と社会階層、社会階層と信用	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第１２回	対面	健康と貧困（金子） 水・栄養状態と乳幼児死亡、食料安全保障、都市の貧困と農村の貧困	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第１３回	対面	講演④（金子） 開発 NGO からのゲストスピーカーによる講義（途上国（特に農村の状況）の状況と課題を中心に）	事前学修としてラーニングポータルにアップした資料を読んで予習を行う。事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第１４回	対面	授業のまとめ（菅原） これまでの授業のまとめ	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第１５回	オンデマンド	振り返り（オンデマンド）（金子） これまでの授業の振り返りを、確認テストの解説を含めて行う。各教員が 15 分程度の解説動画を作成する。	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間

科目名	ＳＤＧｓ特別講義Ｃ	開講年度	2025
担当者	福田　真也	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	サステナビリティの経済と平和・公正に関わる課題を国際関係、経済、ビジネスから考える。		
授業の目的及び概要	持続可能な開発目標（SDGs）が解消を目指すグローバル課題を、国際関係、国際経済、国際ビジネスが共通の対象とする「経済」「社会」「環境」という切り口から整理し分野横断的な視点から学ぶとともに、国内・地域およびグローバルといった多層的な視点から理解を深める。加えて、ゲストスピーカーの講演を通じて、多様なアクター（国家、国際機関、市民社会、企業センター等）が SDGs の達成にむけてどのように取組んでいるのかについて具体的に学ぶ。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	１．SDGs において取り上げられている経済と平和・公正について説明することができる。 ２．SDGs の経済と平和・公正について、経済・ビジネスおよび国際関係の視点から何がポイントになるのかを理解し説明することができる。 ３．SDGs の経済と平和・公正に関して、行政、企業、市民社会がどのように取組んでいるのかについての知識を修得する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業冒頭に前回の授業の振り返りを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定しない。	ISBN	なし。
参考書	指定しない。（適宜授業のなかで指示する。）	ISBN	なし。

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	20
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	50
その他（%）	0
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	SDGs 特別講義は、本講義「SDGs 特別講義 C」（経済と平和・公正）の他に、「SDGs 特別講義 A」・「SDGs 特別講義 B」（環境と社会・開発）と 3 つの授業があり、3 つの授業を通じて、17 の目標が示すグローバル課題を学んでいく講義です。卒業要件上、SDGs 特別講義は選択必修であり、3 つの授業うち１つ以上の授業を履修してください。 SDGs は、これからの未来を担う皆さんにとって、持続可能な未来を築いていく上でとても重要な概念です。本授業では、脱炭素化の実現に向けた事例やまちづくりの観点から SDGs を学びます。さまざまな視点でこれからの未来について考える機会となれば嬉しいです。 SDGs が取り上げる「平和」は紛争（暴力）がない状況をつくることはもちろんですが、まさに社会のサステナビリティの基盤づくりが含まれてきます。政府（自治体含む）、国際機関、企業、市民社会など多様なアクターがこの課題にどう向き合っているかを知り、自分はどう向き合う

	のかと考えを深めてもらえたらと思います。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション（島本） 授業目的・進め方 SDGs とは何か、SDGs が取り上げる経済・平和に関わる課題とは何かなど、本講義を通じて登場するキーワードを理解する。	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第２回	対面	クリーンエネルギーと技術革新の基盤づくり（福田） 脱炭素社会の実現に向けた政府の政策について、自治体が実践する事例を示しながら、「省エネ設備の導入」「再エネ（再生可能エネルギー）の導入」「適切な森林管理・植林・森林再生（再造林）」などの観点から学ぶ。	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第３回	対面	産業と技術革新の基盤づくり（福田） 物流業界が直面する SDGs 関連の課題をはじめ、グリーン物流・スマート物流の推進、物流効率の最適化などの取組みを通じて、物流業界が産業全体の発展と持続可能な社会の実現に対してどのような影響を与えているのかについて学ぶ。	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第４回	対面	講演①（福田） 企業または自治体による講義（脱炭素社会の実現に向けた取組みの視点から）	事前学修としてラーニングポータルにアップした資料を読んで予習を行う。事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第５回	対面	住み続けられるまちづくりと自治体の役割（福田） 各自治体の総合計画・都市計画の策定における過密（または過疎）、住宅不足（もしくは空き家対策）、インフラの劣化などの対策について学ぶ。	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第６回	対面	住み続けられるまちづくり（自然災害対策と交通機関の充実）（福田） 高頻度化する自然災害に対する対策や、充実した交通ネットワークの構築は、住み続けられるまちづくりを実践する上で欠かせないポイントである。各地の事例を交えながら、その実情と今後の方向性について考察する。	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第７回	対面	講演②（福田） 自治体による講義（地方自治体による総合計画・都市計画の策定の視点から）	事前学修としてラーニングポータルにアップした資料を読んで予習を行う。事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第８回	対面	平和とは（島本） SDGs ゴール 16 の解説（平和と暴力、人身取引等とのつながり）、国家安全保障の観点から国際社会における安全保障の仕組みを考える。	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第９回	対面	人間の安全保障（島本） ビジネスと平和の視点から、紛争鉱物や製品・サービスの軍事利用などの事例を検討しつつ、人間の安全保障における企業の役割を考える。	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第１０回	対面	講演③（島本） 企業からのゲストスピーカーによる講義	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。事後学修としてラーニ	4 時間

		（紛争鉱物の視点から）	ングポータルのテストを受ける。	
第１１回	対面	暴力、人身取引、テロの防止（島本） 暴力や人身取引を巡る現状を確認したのちに、国際機関、政府、企業（ANA など航空業界の取り組み）、NGO の取り組みと課題を考える。	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第１２回	対面	法の支配と民主主義（島本） 法の支配、民主主義がサステナビリティの実現にどのように重要なのかを確認したのちに、子ども・女性などマイノリティをめぐる事例を取り上げその保護と参加を考える。	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第１３回	対面	講演④（島本） 国際機関（UNDP）による講義（平和構築の視点から）	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第１４回	対面	授業のまとめ（福田） これまでの授業のまとめ	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第１５回	オンデマンド	振り返り（オンデマンド）（福田） これまでの授業の振り返りを、確認テストの解説を含めて行う。各教員が 15 分程度の解説動画を作成する。	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間

科目名	比較政治学	開講年度	2025
担当者	山口　治男	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	政治体制の違いはどこから生まれ、何を生み出すのか		
授業の目的及び概要	近年の国際ニュースを見ていると、「なぜそんなことになってしまうのか？」という疑問が多く湧いてくると思います。そこには様々な要因がありますが、この講義では様々な国を取り上げて政治体制の共通点や差異を知っていくことで、その問いに対しての考察を深めていきます。 政治体制について理解する上では、経済や文化についての理解も不可欠です。またそれらを理解していくことは、国境を超えてつながっていくこれからの世界に出ていく上で必須でもあります。全ての国や政治体制を取り上げることは不可能ですが、この講義では日本などとのつながりの深いアジアの国々を事例としながら、具体的な文脈からそこに迫っていきます。 激動する現代の国際社会で今まさに起きている現実の問題を通じて、比較政治学を一緒に学んでいきましょう。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・様々な国の政治体制を経済や文化と共に学ぶことで基礎的な知識を獲得する。 ・具体的な歴史や現状の事実に基づき、それらについて考察する視点を持てるようにする。 ・そのほかの国や地域で起こっている事例に対しても応用できる力を身につけていく。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	講義中および前後の質問を積極的に受け付ける。それぞれの質問やコメントペーパー、レポート課題に対しては個別に応答や添削を行うが、必要な情報に関しては全体へフィードバックしていく。		
アクティブ・ラーニングの取組み	クリッカー等の理解度把握システムの利用		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは原則として使用しない	ISBN	なし
参考書	毎回の講義で当日の講義内容をより深く学ぶための参考文献を指示する。	ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	10
授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	50
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	・この講義では様々な国や地域を扱っていく予定です。情報量は多くなるかと思いますが、講義内容を全て覚えるようなことは想定していません。一回一回の講義を集中して受講し、それらを理解し、自分の頭で考え、言葉にする力を身につけていってください。 ・復習は主にショートレポートの作成を通じて行なってもらいます。講義を普通に受けていれば分かる程度の内容について、キーワードを中心に整理・考察してもらいます。 ・現実の世界を理解することが目的ですので、日頃ニュースを見ておくと講義の理解が深まり、

	実学にもつながります。 ・扱う国や地域は、学生の理解度や関心に応じて変更することがありますので、分からない点はもちろん、分かったこと、興味を持ったことなど、積極的な発言を歓迎します。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	比較政治学とは何か	授業後に、この講義で学ぶ比較政治学の概要についてレジュメやノートを用いて確認し、取り上げる国々について予習すること	4 時間
第２回	対面	政治と地理	この講義で扱う地理的な要素が何であるかを確認し、それぞれの重要性について説明できるようにしておくこと	4 時間
第３回	対面	政治と歴史	各国の固有の文脈の多様性を踏まえた上で、「共通の歴史」が果たす役割について整理し、具体的な事例に適用できるようにしていくこと	4 時間
第４回	対面	インドネシア	冷戦についての基礎的な知識を整理し、国内政治に与える影響について論述できるようにすること	4 時間
第５回	対面	マレーシア	民族政治の概要について整理し、その現状と課題について考察できるようにすること	4 時間
第６回	対面	ベトナム	冷戦とベトナム戦争についての基礎的な知識を十分に整理した上で、改めて現在の発展について考察できるようにすること	4 時間
第７回	対面	カンボジア	ベトナム戦争との関係性について整理した上で、なぜその後の発展に違いが生じているのかを政治体制と国際関係から理解できるようにすること	4 時間
第８回	対面	タイ	他の国々との歴史的な差異を踏まえつつ、政治体制と教育の関係について整理し、その功罪について考察できるようにすること	4 時間
第９回	対面	ミャンマー	軍と政治との関わりについてタイトの比較から考察し、また、民族主義と軍、政治が交差する現実について整理できるようにすること	4 時間
第１０回	対面	フィリピン	言語教育が果たす役割について確認した上で、フィリピン特有の発展について多角的に考察できるようにすること	4 時間
第１１回	対面	ラオス	地理的・歴史的な要素と国際関係が政治体制と発展にどのように働きかけるのかをこれまでの国々との比較から理解し、新たな発展の萌芽について自身の考察を加えられるようにすること	4 時間
第１２回	対面	シンガポール	民族政治と都市国家の関係について復習した上で、フィリピンやラオスとも異なる政治・経済的発展の文脈について整理できるようにする	4 時間
第１３回	対面	ブルネイ	地理と経済、宗教と政治の関わりについてそれぞれ復習した上で、世界のその他の地域も含めた政教分離の現状と今後について考察できるようにする	4 時間
第１４回	対面	改めて、政治を比較することの意義とは何か	講義全体を通して重要だった共通点についてよく復習した上で、自身の選んだ国や地域における政治体制の分析に適用できるようにしていく	4 時間
第１５回	オンデマンド	講義のポイントとレポートについての確認	多様な国家の政治体制に通底するポイントや特色についてまとめた上で、自身でレポートとしてまとめられるようにする。 なお、レポートに不慣れな学生が非常に多いことも踏まえ、オンデマンドで複数回確認できるようにしておく。	4 時間

科目名	国際関係論	開講年度	2025
担当者	張　雪斌	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	理論的な分析視点から国際関係を学ぶ		
授業の目的及び概要	この授業では、国際社会の過去、現在、そして未来を理解するために必要な分析枠組み、方法や知識を学ぶことを目的とします。 国際関係論は私たちの日常生活と深い関係を持つ学問です。グローバリゼーションが進む中、異なる国で生活する人々の間の交流（ポジティブな交流もネガティブな交流も）が絶えず増えています。そして、国際社会の出来事は私たちの生活に大きな影響を与えています。戦争、紛争は言うまでもありませんが、貿易摩擦、パンデミック、資源エネルギー問題、気候変動なども私たちの日常生活や経済活動に大きな影響を与えています。したがって、国際関係論を学ぶことはただ学問を探究するだけでなく、私たちが住む社会をよりよくするために、そして私たちの生活をより良くするために必要な活動だと言えるでしょう。 しかし、日々起きている国際問題をウォッチするだけでは、国際関係を理解できるわけではありません。断片的な情報を繋げて、体系的に国際関係を理解するためには、国際関係の理論的な分析枠組みが必要です。この授業では、国際関係の理論的な分析枠組みを学びながら、国際関係の過去、現在と未来について皆さんと一緒に考えます。 ＊受講者の皆さんの授業への理解度に合わせて、内容を調整する可能性があります。		
履修条件・留意点	国際政治学Ⅰ、国際政治学Ⅱ、対外政策論、比較政治学、政治地理学などの国際関係・国際政治系の授業と合わせて履修することをお勧めします（必須ではありません）。 国際関係・国際政治系の大学院を目指す方には強くお勧めします。 この講義の内容には「正解」がありません。さまざまな情報を客観的に分析し、自分の考えと異なる意見にも耳を傾ける姿勢を高く評価されます。 授業で学んだことと関連のあるニュース記事を見かけたら、ぜひそのニュースの要点と自分の意見をノートに書いてみてください。就職活動のときに必ず役に立ちます。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・国際関係の歴史と現在起こっている重要な出来事について理解できること ・断片的な情報だけでなく、理論的な観点から国際関係を捉えて、理解できること ・国際関係が自分の生活や仕事にどのような影響を与えるかを理解すること		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・コメントカードを使って皆さんから質問を集め、次週以降質問への回答やコメントをします ・授業中や授業終了後に質疑応答の時間を設けます ・必要な場合は補足資料を配布（あるいはラーニングポータルで公開）し、参考資料、文献を紹介します		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	『国際関係入門』、草野大希・小川裕子・藤田泰昌、2023、ミネルヴァ書房	ISBN	978-4623095773
参考書	・滝田賢治、大芝亮、都留康子（2024）『国際関係学－地球社会を理解するために［第３版補訂版］』、有信堂。	ISBN	・978-4842055862
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	

	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	70
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	【授業の内容について】 ・各授業回で配布する資料・スライドをもとに予習と復習を十分に行ってください ・授業では教員の一方的な説明のみではなく，受講生同士でのディスカッションを通じて，知識を深めていきたいと思います	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション：授業の目的、概要や成績評価などについて説明します。	【予習】シラバスを事前に読んでおいてください. 【復習】シラバスと第 1 回のガイダンス資料を読み直し，講義で得た知識を確認してください.	4 時間
第２回	対面	国際関係論の基本的な分析対象と分析の前提	【予習】配布資料やテキスト(序章・第 1 章を中心に)を事前に読んでおいてください. 【復習】配布資料を読み直し，講義で得た知識を確認してください.	4 時間
第３回	対面	国際関係の歴史と国際関係史の分析	【予習】配布資料やテキストを事前に読んでおいてください. 【復習】配布資料を読み直し，講義で得た知識を確認してください.	4 時間
第４回	対面	リアリズム：自分のことは自分で守る	【予習】配布資料やテキスト（第 2 章を中心に）を事前に読んでおいてください. 【復習】配布資料を読み直し，講義で得た知識を確認してください.	4 時間
第５回	対面	リベラリズム：平和と繁栄のためのルール作り	【予習】配布資料やテキスト（第 3 章を中心に）を事前に読んでおいてください. 【復習】配布資料を読み直し，講義で得た知識を確認してください.	4 時間
第６回	対面	ラショナリズム：国家は合理的に行動する	【予習】配布資料やテキスト（第 4 章を中心に）を事前に読んでおいてください. 【復習】配布資料を読み直し，講義で得た知識を確認してください.	4 時間
第７回	対面	コンストラクティビズム：世界は「構築」されたものである	【予習】配布資料やテキスト（第 5 章を中心に）を事前に読んでおいてください. 【復習】配布資料を読み直し，講義で得た知識を確認してください.	4 時間
第８回	対面	国際関係（核戦争）に関連する映画を鑑賞（映画を見ながらメモを取り、国際関係論の理論かはどのように説明できるかを考える)。	【予習】配布資料を事前に読んでおいてください. 【復習】配布資料を読み直し，自分のメモをおもとに論点をまとめる.	4 時間
第９回	対面	先週見た映画の内容をベースにディスカッションを行う（論点を整理しながら、理論や分析手法のについて考える）	【予習】配布資料を事前に読んでおいてください. 【復習】配布資料を読み直し，自分のメモをおもとに論点をまとめる.	4 時間
第１０回	対面	抑止、戦争と停戦のメカニズム	【予習】配布資料やテキスト（第 6 章を中心に）を事前に読んでおいてください. 【復習】配布資料を読み直し，講義で得た知識を確認してください.	4 時間
第１１回	対面	内戦と軍事介入、平和構築	【予習】配布資料やテキスト（第 7 章を中心に）を事前に読んでおいてください. 【復習】配布資料を読み直し，講義で得た知識を確認してください.	4 時間

第１２回	対面	国際貿易や国際金融をめぐる協力と競争	【予習】配布資料やテキスト（第 8 章を中心に）を事前に読んでおいてください. 【復習】配布資料を読み直し，講義で得た知識を確認してください.	4 時間
第１３回	対面	新たな戦争の形：テロやハイブリッド戦争	【予習】配布資料やテキストを事前に読んでおいてください. 【復習】配布資料を読み直し，講義で得た知識を確認してください.	4 時間
第１４回	対面	今後の国際関係論：伝統的な関係と非伝統的な関係	【予習】配布資料やテキスト（第 13 章を中心に）を事前に読んでおいてください. 【復習】配布資料を読み直し，講義で得た知識を確認してください.	4 時間
第１５回	オンデマンド	授業の総括・復習	【予習】これまでの授業回の配布資料を再度読んでおいてください。 【復習】これまでの授業回の配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間

科目名	対外政策論	開講年度	2025
担当者	張　雪斌	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	だれが、何のために、どのように国家の対外政策を決めて実施しているのか		
授業の目的及び概要	この授業では、国家の対外政策が形成、実施される仕組みについて理解することを目的とします。 国際政治学では、国家が最も基本的な行為主体として捉えられており、観察と分析の対象となっています。さらに、国家は合理的に国益を追求し、他国と協力したり対立したりするものだと考えられていますが、現実世界では国家という行為主体は存在しません。国家の対外政策を決定、実施しているのは常に人間であり、人間により構成される組織です。人間である以上、合理的行動するときもあればそうでないときもあります。そして、人間と人間で構成される組織の活動には違いもあれば、共通点も多いのです。この授業は国家という単位を意識しつつ、人間と人間で構成される組織にも注目し、対外政策が形成、実施されるメカニズムについて皆さんと議論を進めていきます。授業の後半では、アジア太平洋地域の秩序を左右するアメリカ、日本、中国の対外政策を事例に取り上げて分析を行います。なお、授業中にアジア太平洋地域の時事問題をも紹介する予定です。 受講者の皆さんの授業への理解度に合わせて、内容を調整する可能性があります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・対外政策（とりわけ事例として挙げるアメリカ、日本、中国）の政策実施主体に関する基本的な知識を身につけること ・戦後アメリカ、日本、中国の対外政策の特徴に関する基本的な知識を身につけること ・対外政策論の基本的な分析手法を理解すること		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・コメントカードを使って皆さんから質問を集め、次週以降質問への回答やコメントをします ・授業中や授業終了後に質疑応答の時間を設けます ・必要な場合は補足資料を配布（あるいはラーニングポータルで公開）し、参考資料、文献を紹介します		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	中西寛、石田淳、田所昌幸『国際政治学』(有斐閣、2013)	ISBN	978-464105378
参考書	加茂具樹編著『中国対外行動の源泉』(慶應義塾大学出版会、2017) グレアム・アリソン『決定の本質 キューバ・ミサイル危機の分析 第 2 版』(日経 BP 社、2016) 信田智人『冷戦後の日本外交―安全保障政策の国内政治過程』(ミネルヴァ書房、2006) 信田智人編著『アメリカの外交政策―歴史・アクター・メカニズム』(ミネルヴァ書房、2010) その他の参考書や参考資料は授業中に適宜紹介します。	ISBN	978-4766424089 978-4822251284 978-4623047017 978-4623055821
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	

	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	70
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	国際関係論と合わせて履修することをお勧めします（必須ではありません）。 この講義の内容には「正解」がありません。さまざまな情報を客観的に分析し、自分の考えと異なる意見にも耳を傾ける姿勢を高く評価されます。 授業で学んだことと関連のあるニュース記事を見かけたら、ぜひそのニュースの要点と自分の意見をノートに書いてみてください。就職活動のときに必ず役に立ちます。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション：授業の目的、概要や成績評価などについて説明します。	【予習】事前にシラバスの内容から概要を理解し、指定したテキストを読んでおいてください。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。	4 時間
第２回	対面	対外政策とは何か、対外政策と国内政策とはどう違うのか、なぜ対外政策を学ぶのが重要なのかについて説明します。	【予習】配布資料を使い、予習をしてください。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。	4 時間
第３回	対面	対外政策論の分析手法について学びます。	【予習】配布資料を使い、予習をしてください。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。	4 時間
第４回	対面	キューバ・ミサイル危機を事例に、対外政策決定について学びます。	【予習】配布資料を使い、予習をしてください。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください	4 時間
第５回	対面	対外政策の決定と実施について学びます。	【予習】配布資料を使い、予習をしてください。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください	4 時間
第６回	対面	対外政策決定に関連する映画を見ます（映画を見ながらメモを取ってください）。	【予習】配布資料を使い、予習をしてください。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。	4 時間
第７回	対面	・対外政策論の視点から、先週見た映画の内容についてディスカッションを行います。	【予習】配布資料を使い、予習をしてください。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポ	4 時間

		・映画と国際関係、外交の関係	イント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。	
第８回	対面	対外政策における国内政治と国際政治の相互作用について学びます。	【予習】配布資料を使い、予習をしてください。【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください	4 時間
第９回	対面	戦後アメリカの対外政策①（アメリカ外交の歴史と、アメリカ外交を左右する重要な概念）について学びます。	【予習】配布資料を使い、予習をしてください。【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください	4 時間
第１０回	対面	戦後アメリカの対外政策②（冷戦後のアメリカ外交と、アメリカ外交を立案、実施するアクター）について学びます。	【予習】配布資料を使い、予習をしてください。【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。	4 時間
第１１回	対面	戦後日本の対外政策①（戦後日本外交を左右する重要な概念と戦後日本外交の歴史）について学びます。	【予習】配布資料を使い、予習をしてください。【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。	4 時間
第１２回	対面	戦後日本の対外政策②（冷戦後の日本外交のダイナミクス）について学びます。	【予習】配布資料を使い、予習をしてください。【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。	4 時間
第１３回	対面	戦後中国の対外政策①（建国後の中国外交の歴史）について学びます。	【予習】配布資料を使い、予習をしてください。【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。	4 時間
第１４回	対面	戦後中国の対外政策②（大国化する中国外交のダイナミズム）について学びます。	【予習】配布資料を使い、予習をしてください。【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。15 回目の授業に向けて、質問をまとめて教員に伝えてください。	4 時間
第１５回	オンデマンド	授業の総括と質疑応答	【予習】配布資料を使い、事前予習をしてください。【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。	4 時間

科目名	政治地理学	開講年度	2025
担当者	張　雪斌	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	地政学の観点から国際政治と地理の接点を探る		
授業の目的及び概要	この授業の目的は、地理と空間の観点から国際政治を理解する方法を学ぶことです。 皆さんはきっとどこかで地政学という単語を耳にしたことがあるのではないでしょうか。普段深く考えずに使っている「地政学」には実はさまざまな立場からの解釈と分析が存在します。極端に単純化すると、地政学とは地理と空間の観点から権力の行使や利益の分配を説明する学問です。平面的な国際政治を立体的に捉えることにより、地政学が紛争や対立を説明する単純明快な答えを提供してくれるときもあれば、政策や戦略の妥当性を恣意的に説明するための道具にもされます。 この授業は皆さんに地政学の歴史、理論や方法について学び、そして議論をする場を提供します。具体的には、授業の前半は担当者がテキストや参考書の内容を基に講義を行います。後半では、受講者の皆さんがグローバルな問題を地政学の分析視点から分析し、発表とディスカッションを行います。事例の選び方や発表の順番などについては授業中に皆さんと相談して決めます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・地政学の歴史や学派に関する基本的な知識を身につけること ・地政学の基本的な分析手法を理解すること ・地政学の分析方法を用いて、グローバルな問題を分析し、自分の意見を持つこと		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・コメントカードを使って皆さんから質問を集め、次週以降質問への回答やコメントをします ・授業中や授業終了後に質疑応答の時間を設けます ・必要な場合は補足資料を配布（あるいはラーニングポータルで公開）し、参考資料、文献を紹介します		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	庄司潤一郎、石津朋之編著『地政学原論』（日経 BP、2020）	ISBN	978-4532176822
参考書	アレクサンダー・C・ディーナー、ジョシュア・ヘーガン『境界から世界を見る―ボーダースタディーズ入門』（岩波書店、2017） コーリン・フリント『現代地政学―グローバル時代の新しいアプローチ』（原書房、2014） コリン・S・グレイ、ジェフリー・スローン編著『地政学 ―地理と戦略―』（五月書房、2021） その他の参考文献は適宜授業中に紹介します。	ISBN	978-4000610438 978-4562091973 978-4909542373

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0

	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	70
	その他（%）	0
	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	この講義の内容には「正解」がありません。さまざまな情報を客観的に分析し、自分の考えと異なる意見にも耳を傾ける姿勢を高く評価されます。 授業で学んだことと関連のあるニュース記事を見かけたら、ぜひそのニュースの要点と自分の意見をノートに書いてみてください。就職活動のときに必ず役に立ちます。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション：授業の目的、概要や成績評価などについて説明します。	【予習】事前にシラバスの内容から概要を理解し、指定したテキストを読んでおいてください。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。	4 時間
第２回	対面	地政学、政治地理学と国際政治学の関係について学びます。	【予習】配布資料を使い、予習をしてください。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください	4 時間
第３回	対面	地政学を理解するための枠組みについて学びます。	【予習】配布資料を使い、予習をしてください。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください	4 時間
第４回	対面	場所と政治、地政的コードについて学びます	【予習】配布資料を使い、予習をしてください。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください	4 時間
第５回	対面	地政学の古典的なアプローチ①ランドパワーについて学びます。	【予習】配布資料を使い、予習をしてください。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください	4 時間
第６回	対面	地政学の古典的なアプローチ②シーパワーについて学びます。	【予習】配布資料を使い、予習をしてください。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください	4 時間
第７回	対面	地政学の古典的なアプローチ③エアパワーについて学びます。	【予習】配布資料を使い、予習をしてください。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。	4 時間

第８回	対面	地政学の視点から見るキューバミサイル危機	【予習】配布資料を使い、予習をしてください。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。 発表とディスカッションのための準備を行ってください。	4 時間
第９回	対面	地政学から見る国境	【予習】配布資料を使い、予習をしてください。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。 発表とディスカッションのための準備を行ってください。	4 時間
第１０回	対面	地政学的な観点からの事例分析（アジア太平洋における米中の競争）について学びます。	【予習】配布資料を使い、予習をしてください。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。 発表とディスカッションのための準備を行ってください。	4 時間
第１１回	対面	地政学的な観点からの事例分析（アジア太平洋におけるパワーシフトと日本の対応）について学びます。	【予習】配布資料を使い、予習をしてください。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。 発表とディスカッションのための準備を行ってください。	4 時間
第１２回	対面	地政学的な観点からの事例分析（開かれたインド太平洋構想）について学びます。	【予習】配布資料を使い、予習をしてください。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。 発表とディスカッションのための準備を行ってください。	4 時間
第１３回	対面	受講者による発表とディスカッション①	【予習】配布資料を使い、予習をしてください。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。 発表とディスカッションのための準備を行ってください。	4 時間
第１４回	対面	受講者による発表とディスカッション②	【予習】配布資料を使い、予習をしてください。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。 発表とディスカッションのための準備を行ってください。 15 回目の授業に向けて、質問をまとめて教員に伝え	4 時間

			てください。	
第１５回	オンデマンド	授業の総括、質問応答	【予習】配布資料を使い、予習をしてください。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。	4 時間

科目名	国際協力法	開講年度	2025
担当者	菅原　絵美	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	国際法の基礎知識を身につけ、日本・世界のニュースを読み解こう。		
授業の目的及び概要	この授業は、国際法の基礎知識を学ぶ授業である「国際社会と法」の発展科目です。授業の前半では、グローバルな課題に直接関わる分野（領土や海洋、環境、国際犯罪、国際経済等）の基礎知識を学修する。そのうえで、後半では基本知識の活用として、具体的な国・地域・テーマを取り上げる。例えば、ヘイトクライムの事例は国際人権法、国際人道法、国際刑事法等複数分野からの対応が可能である。このように問題解決を第一とした、実践的かつ柔軟な法の解釈、適用、救済について考察する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	１．国際法の基礎知識を身につける。 ２．国際法の基礎知識をつかって、国際法の視点から事例を説明することができる。 ３．国際法やその制度を複合的に活用した課題解決の可能性と限界を考察・分析することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の授業では授業内容に関する問いを課し、授業終了時にリフレクションペーパーを提出する。リフレクションペーパーは次回授業時の振り返りに活用し、授業の双方向性を確保する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	ビジュアルテキスト国際法（第 3 版），加藤信行・植木俊哉・真山全・森川幸一・酒井啓亘・立松美也子編著，有斐閣，2022 年	ISBN	9784641046924
参考書	国際条約集，植木俊哉･中谷和弘(編集代表)，有斐閣，2024 年	ISBN	9784641001619

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	30
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	50
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	国際学基礎 B および国際社会と法の授業内容のうち、とりわけ、国際社会の仕組みや国際法を扱った箇所を復習しておいてください。 学生ひとりひとりが「問い」を持ち、授業を通じて自分なりの「答え」を探していくような、参加型の講義を目指します。そのため、授業のなかで感じた疑問や興味は積極的に発言してください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション 授業及び成績評価に関するガイダンスを行った後、国際法とは何かについて時事問題を取り上げながら議論する。	最近のニュースのなか国際法が登場したものをひとつ選び、概要を説明できるようにしておく。また復習として授業のまとめでの出題にオンラインで回答する。	4 時間
第２回	対面	国際法の基礎知識（１） 国際法の法源、国際法主体性、国際法と国内法の関係を学ぶ。	テキスト第２章を読み予習を行う。また復習として授業のまとめでの出題にオンラインで回答する。 上記範囲に加えてテキスト第１章を読むことを推奨する。	4 時間
第３回	対面	国際法の基礎知識（２） 国家管轄権とその制限、国家・政府の誕生と内戦について学ぶ。	テキスト第 3 章を読み予習を行う。また復習として授業のまとめでの出題にオンラインで回答する。	4 時間
第４回	対面	武力紛争 武力行使禁止原則とその例外（自衛権及び集団安全保障）、武力紛争下における文民の保護を学ぶ。	テキスト第 13・14 章を読み予習を行う。また復習として授業のまとめでの出題にオンラインで回答する。	4 時間
第５回	対面	国際社会の空間秩序（１） 領域使用、宇宙及び南極、日本の領土紛争等について学ぶ。	テキスト第 5 章を読み予習を行う。また復習として授業のまとめでの出題にオンラインで回答する。	4 時間
第６回	対面	国際社会の空間秩序（２） 海洋法の構造（海上管轄権含む）に関するルール及び諸問題について学ぶ。	テキスト第 6 章を読み予習を行う。また復習として授業のまとめでの出題にオンラインで回答する。	4 時間
第７回	対面	環境 環境問題と無過失責任、国際環境法の基本原則、環境損害及びリスクの事前防止と事後的救済を学ぶ。	テキスト第 11 章を読み予習を行う。また復習として授業のまとめでの出題にオンラインで回答する。	4 時間
第８回	対面	国際犯罪 国際犯罪の構成要件、国際司法共助と犯罪人引渡、テロの規制、国際刑事裁判所を学ぶ。	テキスト第 9 章を読み予習を行う。また復習として授業のまとめでの出題にオンラインで回答する。	4 時間
第９回	対面	経済 第二次世界大戦後の世界経済秩序、世界貿易機構（WTO）、地域経済統合を学ぶ。	テキスト第 10 章を読み予習を行う。また復習として授業のまとめでの出題にオンラインで回答する。	4 時間
第１０回	対面	事例検討（１）アフリカにおける内戦と鉱物資源 武力紛争及び経済の分野に関わる事例を学び、関連する国際法規を用いて解決策を検討する。	テキストや事前配布資料を読み予習を行う。また復習として授業のまとめでの出題にオンラインで回答する。	4 時間
第１１回	対面	事例検討（２）米州における生物多様性と遺伝子資源 環境及び経済の分野に関わる事例を学び、関連する国際法規を用いて解決策を検討する	テキストや事前配布資料を読み予習を行う。また復習として授業のまとめでの出題にオンラインで回答する。	4 時間
第１２回	対面	事例検討（３）ヨーロッパにおける民族多様性とヘイトクライム・ヘイトスピーチ 武力紛争、人権、国際犯罪の分野に関わる事例を学び、関連する国際法規を用いて解決策を検討する。	テキストや事前配布資料を読み予習を行う。また復習として授業のまとめでの出題にオンラインで回答する。	4 時間
第１３回	対面	事例検討（４）アジアにおける海洋資源の保護と海賊対策 国際社会の空間秩序、国際犯罪、環境、経済の分野に関わる事例を学び、関連する国際法規を用いて解決策を検討する。	テキストや事前配布資料を読み予習を行う。また復習として授業のまとめでの出題にオンラインで回答する。	4 時間
第１４回	対面	事例検討（５）日本が関わるグローバル課題	テキストや事前配布資料を読み予習を行う。また復習として授業のまとめでの出題にオンラインで回答	4 時間

		日本が関わるグローバル課題で、国際法の複数分野にわたる時事問題を取り上げ、関連する国際法規を用いて解決策を検討する。	する。	
第１５回	オンデマンド	授業のまとめ（オンデマンド）	テキストや事前配布資料を読み予習を行う。また復習として授業のまとめでの出題にオンラインで回答する。	6 時間

科目名	国際人権法	開講年度	2025
担当者	菅原　絵美	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	わたしたちの生活での「なぜ」を国際人権法から考える		
授業の目的及び概要	この授業では、国際人権法に関する基礎知識を得るとともに、市民生活および企業活動等具体的場面への適用を考察する。具体的には、第 1 に国際人権法の基礎知識として人権に関する国際文書（宣言・条約等）の全体像とその仕組みを、第 2 に国際人権法が規定する内容を、自由権、社会権、差別の撤廃（人種および女性）、外国人の権利、子どもの権利、障がい者の権利等個別分野を、第 3 に、日本および世界での具体的事例を取り上げ、国内基準と国際基準のギャップ、侵害の防止及び救済策等について学ぶ。		
履修条件・留意点	特になし		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この授業では、国際人権法の課題解決に向けて構築されてきた規範および制度を学び、国際社会でのキャリア形成に必要となる柔軟な問題解決型の思考を修得することを目標とする。国際的な協力枠組を必要とする分野で、どのような国際人権法規範が形成され、どのような制度が確立されてきたのかを学び、これらを複合的に活用し課題を解決するための可能性と限界を理解する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の授業では授業内容に関する問いを課し、授業終了時にリフレクションペーパーを提出する。リフレクションペーパーは次回授業でフィードバックするとともに、振り返りに活用し、授業の双方向性を確保する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	国際人権法の考え方，川島聡・菅原絵美・山崎公士，法律文化社，2021 年	ISBN	9784589041449
参考書	国際条約集，植木俊哉･中谷和弘(編集代表)，有斐閣，2024 年	ISBN	9784641001619

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	30
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	50
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	国際社会は歴史、文化、制度などが非常に多様である約２００の国・地域によって構成されている（ちなみに日本にとっては１９６の国家が地球上には存在している）。一方で、この国際社会を規律するのは普遍的な法（ルール）である。普遍的なルールと多様な国・地域との間で生じるダイナミックな動きに、今後の専門学修および海外体験・留学につながっていく「気づき」を得てほしい。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション 国際人権法の概要を事例を交えながら紹介し議論する。	テキストのプロローグを読み予習する（その際、ラーニングポータルに掲載したキーワード集を手元に置きながら予習してください）。また授業後はテキスト該当部分およびレジュメを読み復習する。	4 時間
第２回	対面	権利と義務は誰のもの？〔権利と義務の主体〕	テキスト第 1 章を読み予習を行う（その際、ラーニングポータルに掲載したキーワード集を手元に置きながら予習してください）。また復習として授業のまとめとして出題した問いにオンラインで回答する。	4 時間
第３回	対面	なぜ自由権と社会権は分けられないの？〔人権の不可分性〕	テキスト第 2 章を読み予習を行う（その際、ラーニングポータルに掲載したキーワード集を手元に置きながら予習してください）。また復習として授業のまとめとして出題した問いにオンラインで回答する。	4 時間
第４回	対面	まったく同じように扱っても差別？〔差別の禁止〕	テキスト第 3 章を読み予習を行う（その際、ラーニングポータルに掲載したキーワード集を手元に置きながら予習してください）。また復習として授業のまとめとして出題した問いにオンラインで回答する。	4 時間
第５回	対面	ジェンダーは女性のことではありません！〔女性差別撤廃条約〕	テキスト第 4 章を読み予習を行う（その際、ラーニングポータルに掲載したキーワード集を手元に置きながら予習してください）。また復習として授業のまとめとして出題した問いにオンラインで回答する。	4 時間
第６回	対面	国籍と人種、その違いが分かりますか？〔人種差別撤廃条約〕	テキスト第 5 章を読み予習を行う（その際、ラーニングポータルに掲載したキーワード集を手元に置きながら予習してください）。また復習として授業のまとめとして出題した問いにオンラインで回答する。	4 時間
第７回	対面	不登校は何が問題？〔子どもの権利条約〕	テキスト第 6 章を読み予習を行う（その際、ラーニングポータルに掲載したキーワード集を手元に置きながら予習してください）。また復習として授業のまとめとして出題した問いにオンラインで回答する。	4 時間
第８回	対面	障害って何だろう？〔障害者権利条約〕	テキスト第 7 章を読み予習を行う（その際、ラーニングポータルに掲載したキーワード集を手元に置きながら予習してください）。また復習として授業のまとめとして出題した問いにオンラインで回答する。	4 時間
第９回	対面	仕事の内容が同じなのに賃金が違う？〔国際労働機関（ILO）条約〕	テキスト第 8 章を読み予習を行う（その際、ラーニングポータルに掲載したキーワード集を手元に置きながら予習してください）。また復習として授業のまとめとして出題した問いにオンラインで回答する。	4 時間
第１０回	対面	帰るに帰れない！〔拷問等禁止条約と難民条約〕	テキスト第 9 章を読み予習を行う（その際、ラーニングポータルに掲載したキーワード集を手元に置きながら予習してください）。また復習として授業のまとめとして出題した問いにオンラインで回答する。	4 時間
第１１回	対面	国境を越えた者同士なのに何が違う？〔難民条約と移住労働者権利条約〕	テキスト第 10 章を読み予習を行う（その際、ラーニングポータルに掲載したキーワード集を手元に置きながら予習してください）。また復習として授業のまとめとして出題した問いにオンラインで回答する。	4 時間
第１２回	対面	条約は日本の裁判でも使えるの？〔国内裁判〕	テキスト第 11 章を読み予習を行う（その際、ラーニングポータルに掲載したキーワード集を手元に置きながら予習してください）。また復習として授業のまとめとして出題した問いにオンラインで回答する。	4 時間
第１３回	対面	国家報告に効き目はあるの？〔国家報告〕	テキスト第 12 章を読み予習を行う（その際、ラーニングポータルに掲載したキーワード集を手元に置きながら予習してください）。また復習として授業のまとめとして出題した問いにオンラインで回答する。	4 時間
第１４回	対面	日本人も個人通報できるの？〔個人通報〕と授業のまとめ	テキスト第 13 章を読み予習を行う（その際、ラーニングポータルに掲載したキーワード集を手元に置き	4 時間

			ながら予習してください)。また復習として授業のまとめとして出題した問いにオンラインで回答する。	
第１５回	オンデマンド	授業の振り返り 国際人権法はなぜ必要か、15 回の授業を振り返り、まとめを行う。	テキストエピローグを読み予習を行う（その際、ラーニングポータルに掲載したキーワード集を手元に置きながら予習してください)。また復習として授業のまとめとして出題した問いにオンラインで回答する。	4 時間

科目名	比較税制論	開講年度	2025
担当者	伍　躍	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	租税の基礎知識を修得しより公平かつ最適な税制を考えよう		
授業の目的及び概要	この授業では、税に関する基本的な考え方や知識を学修し、日本と諸外国の税制や租税政策の比較を通じて、日本の税制への理解を深めることを目的とする。具体的には、税に関する公平・中立・簡素といった基本原則のほか、日本を含むアジア主要国及び OECD 加盟諸国の税制と租税政策を横断的に比較することを通じて、日本及び諸外国における既存の税制（特に、個人所得税や消費税等）の問題点を把握し、各国の社会状況に応じた適切な税制について検討する能力を養う。また、多角的な観察力を修得し、アジア主要国の社会を理解する能力を修得することも目的の１つとする。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	税制とは、国家が政治・経済・外交・教育等の様々な活動を行うために必要な財力を調達し、管理・使用するための財政制度の一環として存在する必要不可欠な制度である。各国の歴史文化や政治経済の発展が異なることにより、税制も様々な形態がある。税に関する公平、中立、簡素といった基本原則をはじめとする税制に関する考え方や、日本を含むアジア主要国及び OECD 加盟国の税制と租税政策を横断的に比較することを通じて、その問題点を把握し、税制の整備と改革に重点を置きながら、税制の基礎知識を修得する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	①学生が提出した小テストやリアクションペーパーを添削してフィードバックをする。 ②毎回、授業中にて代表的な小テストやリアクションペーパーについて講評することをもって学生にフィードバックをする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは不使用。必要な資料は事前にラーニングポータルにて配布します。	ISBN	なし
参考書	参考書： ①三木義一『日本の税金 第３版』岩波新書 1359 ②河本光博 『図説 日本の税制』(財経詳報社、令和５年度版、2024 年) ③伏見俊行『アジア税の基礎知識』(税務研究会出版局、2016 年) ④諸富徹『私たちはなぜ税金を納めるのか -租税の経済思想史』(新潮社、2013 年)	ISBN	①9784004317371 ②9784881779071 ③9784793121821 ④9784106037276

成績評価の方法・基準		
	授業への積極的な参加度・取組み	10
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	40
	その他（%）	0

	その他の内容	詳細については、授業中にて指示する。
この科目の受講にあたって	①日々の生活において自ら納めた税金を意識してほしい。 ②日々の生活において税金で賄ったことを意識してほしい。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	授業の趣旨を説明する	復習：授業の配布資料を読んで復習しておくこと（2時間程度）。 予習：参考書①序章の「民主主義と税」を読んでおくこと（2時間程度）。	4時間
第２回	対面	租税の意義と機能について説明する。	復習：前回授業の配布資料を読んで復習しておくこと（2時間程度）。 予習：参考書②の「税制の概要」の３「税制の役割」を読んで予習しておくこと（2時間程度）。	4時間
第３回	対面	租税原則等の租税に関する考え方について説明する。	復習：前回授業の配布資料を読んで復習しておくこと（2時間程度）。 予習：参考書②の「税制の概要」の７「租税原則」を読んで予習しておくこと（2時間程度）。	4時間
第４回	対面	租税体系、租税法律主義、租税法律主義の国際比較を行う。	復習：前回授業の配布資料を読んで復習しておくこと（2時間程度）。 予習：参考書②の「租税の歴史」、とくに各国憲法における租税に関する条項を読んで予習しておくこと（2時間程度）。	4時間
第５回	対面	租税の国民負担率、租税の国民負担率の国際比較を行う。	復習：前回授業の配布資料を読んで復習しておくこと（2時間程度）。 予習：参考書②の「税制の概要」の５「租税負担率」を読んで予習しておくこと（2時間程度）。	4時間
第６回	対面	日本における近代租税制度の確立と発展、日本における既存の租税制度の構造と特徴について解説する。	復習：前回授業の配布資料を読んで復習しておくこと（2時間程度）。 予習：参考書②の「わが国の租税制度の変遷と今後の課題」の８「シャウプ勧告による税制」以後の部分を読んで予習しておくこと（2時間程度）。	4時間
第７回	対面	個人所得税の定義と由来、日本における現行の個人所得税制の基本構造について解説する。	復習：前回授業の配布資料を読んで復習しておくこと（2時間程度）。 予習：参考書①の第１章第１～２節を読んで予習しておくこと（2時間程度）。	4時間
第８回	対面	日本における個人所得税制の現状と個人所得税制改革のあり方について解説する。	復習：前回授業の配布資料を読んで復習しておくこと（2時間程度）。 予習：参考書①の第１章第３～４節を読んで予習しておくこと（2時間程度）。	4時間
第９回	対面	個人所得税制の国際比較を行う。	復習：前回授業の配布資料を読んで復習しておくこと（2時間程度）。 予習：参考書①の第１章第５節、参考書②の「租税制度の国際比較」の５「所得税制度」を読んで予習しておくこと（2時間程度）。	4時間
第１０回	対面	消費税制の基本事項について説明する。	復習：前回授業の配布資料を読んで復習しておくこと（2時間程度）。 予習：参考書①の第３章第１節を読んで予習しておくこと（2時間程度）。	4時間
第１１回	対面	日本における現行の一般消費税制の形成、及びその基本構造について説明する。	復習：前回授業の配布資料を読んで復習しておくこと（2時間程度）。 予習：参考書①の第１章第２～３節を読んで予習しておくこと（2時間程度）。	4時間
第１２回	対面	OECD主要国の消費税・付加価値税の概要、日本における一般消費税制の特徴、消費税	復習：前回授業の配布資料を読んで復習しておくこと（2時間程度）。	4時間

		制がもつ逆進性について解説する。	予習：参考書参考書②の「租税制度の国際比較状」の９「付加価値税」を読んで予習しておくこと（2 時間程度）。	
第１３回	対面	日本における法人税制とアジア主要国やOECD 主要国との比較、租税特別措置について解説	復習：前回授業の配布資料を読んで復習しておくこと（2 時間程度）。 予習：参考書①の第２章第１～３節を読んで予習しておくこと（2 時間程度）。	4 時間
第１４回	対面	世界の動向と環境関連課税の考え方について解説する。	復習：前回授業の配布資料を読んで復習しておくこと（2 時間程度）。 予習：参考書②の「わが国の税制の現状」の７「その他の国税」の（３）を読んで予習しておくこと（2 時間程度）。	4 時間
第１５回	オンデマンド	授業全体の総括を行い、期末試験の復習内容を指示する。	復習：これまで配布した資料を読んで復習して定期試験に向けて準備すること（4 時間程度）。 ＊以上の授業計画は受講生の理解度を配慮し必要に応じて、オンデマンド授業の実施時期を含めて微調整を行う可能性はある。	4 時間

科目名	ＮＰＯ・ＮＧＯ論	開講年度	2025
担当者	金森　康	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	世界や日本の NPO の動向，企業の社会責任（CSR）の事例などを通じて，関連分野の最新動向を学ぶ		
授業の目的及び概要	State（国家や地方政府），Market（市場），Third Sector（NPO/NGO），Community という社会経済システムの４領域の相互関係をふまえて，NPO や社会的起業家の現状理解，地域政策における位置づけ，地域開発における役割について考えていく． ・事例の解説を中心に行う． ・講義ビデオを適宜使用し，最新の動向の紹介を中心に講義を行う． ・ケーススタディを通じて NPO・NGO の基礎を理解する． ・民間企業，公務員，起業などの職業選択において，また，社会貢献やボランティアを行う場合にも，本講義は基礎的な内容となっているので，先進国における自己成長のための基礎知識を理解する．		
履修条件・留意点	・定期試験は実施しません．講義中の小テスト・レポート・質疑応答等で総合的に評価します．		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・NPO（Not-for-Profit Organization）や社会起業家が果たす社会的役割について理解する． ・最新事例のケーススタディを通じて，NPO の最新動向をつかむ ・ケーススタディを通じて，社会課題の深刻度の認識と先進各国の解決策を理解することで，様々な社会課題・経済課題・政策課題に対する理解力を学修する		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	講義内容→小テストまたはレポート→小テストの解説とこれまでの講義内容の再解説→次の講義内容→小テストまたはレポート→小テストの解説とこれまでの講義内容の再解説→次の内容，という様に，ひとつの講義テーマが終了する毎に小テストと解説・振り返り行う．		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません． 講師作成講義資料にて行う．	ISBN	テキスト無し
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	30
授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
成果発表（口頭・実技）	10
中間試験	20
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	サークルやゼミで学外活動，特に社会貢献・地域貢献系を希望する方に受講していただきたいと思います．

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	世界の NPO の現状を解説し，日本の現状を理解する.	授業計画 1 では，講義全体を通じたキーワードを説明するので，キーワードの意味や重要度を復習する.	4 時間
第２回	対面	社会システム論，ウェルフェアミックス，政策評価，協働	授業計画 2 では，理論的背景を説明するので，NPO の社会的位置づけや理論的背景について整理し，復習する.	4 時間
第３回	対面	社会政策論，地域政策論，地域経営，地域マーケティング	授業計画 3 では，理論的背景を説明するので，NPO の社会的位置づけや理論的背景について整理し，復習する.	4 時間
第４回	対面	社会保障，政策評価，PPP（Public Private Partnership），地方分権	授業計画 4 では，理論的背景を説明するので，NPO の社会的位置づけや理論的背景について整理し，復習する.	4 時間
第５回	対面	社会保障，政策評価，PPP（Public Private Partnership），地方分権	授業計画 5 では，理論的背景を説明するので，NPO の社会的位置づけや理論的背景について整理し，復習する. 授業計画 4-5 で解説する英国の若者失業者対策の仕組みは特に重要なので，制度の主旨と運営面での効率性を理解すること.	4 時間
第６回	対面	NPO・NGO・社会起業家の世界的動向	授業計画 6 では，ビデオ教材を使用して，先進事例のケーススタディを行うので，参考モデルとなる要素について整理し，復習する. 先進事例のケーススタディに関するレポート課題を予定している. これまでの講義内容を復習したうえで，講義を受講すること. なお，講義の進捗によっては，レポート課題実施が前後することがある.	4 時間
第７回	対面	NPO・NGO・社会起業家の世界的動向	授業計画 7 では，ビデオ教材を使用して，先進事例のケーススタディを行うので，参考モデルとなる要素について整理し，復習する.	2 時間
第８回	対面	NPO・NGO・社会起業家の世界的動向	授業計画 8 では，ビデオ教材を使用して，先進事例のケーススタディを行うので，参考モデルとなる要素について整理し，復習する. 先進事例のケーススタディに関するレポート課題を予定している. これまでの講義内容を復習したうえで，講義を受講すること. なお，講義の進捗によっては，レポート課題実施が前後することがある.	4 時間
第９回	対面	NPO・NGO・社会起業家の世界的動向	授業計画 9 では，ビデオ教材を使用して，先進事例のケーススタディを行うので，参考モデルとなる要素について整理し，復習する.	4 時間
第１０回	対面	NPO・NGO・社会起業家の世界的動向	授業計画 10 では，ビデオ教材を使用して，先進事例のケーススタディを行うので，参考モデルとなる要素について整理し，復習する. 先進事例のケーススタディに関するレポート課題を予定している. これまでの講義内容を復習したうえで，講義を受講すること. なお，講義の進捗によっては，レポート課題実施が前後することがある.	4 時間
第１１回	対面	企業の社会的責任（CSR），社会的マーケティング，社会的責任投資（SRI）	授業計画 11 では，企業の社会的責任（CSR）に関する理論的背景を説明するので，キーワードを整理し，復習する.	4 時間
第１２回	対面	企業の社会的責任（CSR），社会的マーケティング，社会的責任投資（SRI）	先進事例のケーススタディに関するレポート課題を予定している.	4 時間

			これまでの講義内容を復習したうえで，講義を受講すること. なお，講義の進捗によっては，レポート課題実施が前後することがある.	
第１３回	対面	企業の社会的責任（CSR），社会的マーケティング，社会的責任投資（SRI）	先進事例のケーススタディに関するレポート課題を予定している. これまでの講義内容を復習したうえで，講義を受講すること. なお，講義の進捗によっては，レポート課題実施が前後することがある.	4 時間
第１４回	対面	テストまたはグループワーク	これまでの講義内容にもとづき，総括的な講義中テストを実施する. これまでの講義内容の復習をおこない，受講すること.	5 時間
第１５回	オンデマンド	総括テスト解説 講義の総括	これまでの講義内容について復習を行い，疑問点や質問事項をまとめたうえで受講すること.	5 時間

科目名	地方自治と国際協力	開講年度	2025
担当者	菅原　絵美	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	多文化共生社会の実現 地球市民の課題ー高齢化とケアエコノミー、ファストファッション、気候変動を地方自治を通じて考える		
授業の目的及び概要	我が国は、移民受け入れの体制を確立せずに 322 万人(2023 年 6 月）もの外国人を受け入れており総務省も地方自治体に対し、外国籍住民との多文化共生指針の策定を要請している。 1 在日コリアンの人権保障運動や 1982 年難民条約批准という歴史に触れつつ、外国籍の子どもの日本語と母語の保障、多文化共生のための行政施策など近年の課題を検討する。 2 自治体版 ODA として、ごみの分別、上下水道の技術、交通や環境分野の都市間の協力が国境を超えて行われており、新たな国際協力として意義を学ぶ。 3 高齢化、ファストファッション、気候変動を地球市民の立場から考える。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	異なる価値観や文化的背景をもつ他者と協力し、社会の一員として活躍できる能力を身につける。 日本人学生と留学生が授業を通じて交流し、フレンドリーな関係を築く。 多文化共生や自治体 ODA について理解を深め、外国籍住民との共生社会に貢献する意識を持つ。 特に留学生が日本の国際貢献に関心を持ち、日系企業への就職の動機付けとする。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	小テストやレポート課題についてラーニングポータル上で実施し、講評する。 留学生を最初に出会う異文化の他者として捉え、交流やグループワークによる相互理解により、多文化共生を体験する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特に指定しない。	ISBN	なし
参考書	①戦後補償から考える日本とアジア（日本史リブレット)内海 愛子　山川出版　2002 年 ②友達を助けるための国際人権法入門　申 恵丰(著/文)桂川 潤(イラスト）　影書房 2020 年 ③ヘイト・スピーチとは何か　師岡康子　岩波新書 2013 年	ISBN	①　ISBN:978-4-634-54680-6 ②　ISBN:978-4-87714-486-9 ③　ISBN:978-400431-460-8

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	50
授業期間中の小テスト、レポート課題等	50
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	国際学部菅原がコーディネーターをし、西脇邦雄氏（元大阪府議会議員）と元大阪市の区長経験者である金谷一郎氏のゲスト講義によるオムニバス授業で、西脇氏および金谷氏はそれぞれの現場での活動を伝える実践的な授業。 日本もかっては移民国家だった。沖縄だけで１６万人の人々がブラジルやペルーに移民し、日系人社会を築いてきた。 過去の歴史に学ぶとともに、地方自治体の取り組む多文化共生施策や自治体 ODA と言われる国際協力の取り組みにも関心を持ってほしい。 多文化共生の考え方を身につけてることは、国際水準の人権間感覚を養うことでもある。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション（菅原絵美） ・授業の概要説明、成績評価の方法 ・地方自治とは、国際協力とは、そして自治体（コミュニティ）による国際協力とは	予習 2 時間　総務省地域の国際化の推進を読む https://www.soumu.go.jp/kokusai/ 復習 2 時間　授業のレジュメを振り返る	4 時間
第２回	対面	国家、国民、民族とは（菅原絵美） ・国民、民族、エスニシティという概念をどう捉えるのか。 ・日本人意識の形成と周縁化された人々、民族は作られる ・在日コリアンの人権保障の歴史から外国籍住民の人権課題を考える	予習 2 時間　フィンランド教育 PISA 調査の振り返り。フランス革命、近代国家の成立について調べる。 復習 2 時間　在日コリアンの存在と何が問題となってきたのか授業の復習を行う。	4 時間
第３回	対面	「多文化共生１マイクロアグレッション」（金谷一郎） ・日常生活に埋め込まれた自分自身のマイクロアグレッション【小さな(マイクロ)攻撃性（アグレッション)】を発見し、その言葉や行動における人種や文化背景、性別、障害、価値観など、自分と異なる人に対する無意識の偏見や無理解、差別心が含まれていることを実例を用いて体験する。 ・各自の発見や気付き共有し、各自の意識の違いも含め議論し合うことで、多文化共生の重要性を再確認する。	予習２時間　マイクロアグレッションの意味と事例について予習する。 復習２時間　授業を振り返り、自身の体験から気づきや克服の方策を考える。	4 時間
第４回	対面	「多文化共生２出会いと気づき」（金谷一郎） ・2022 年 2 月に実施された私立中学校の入試問題で出題された日本の外国人問題の歴史や多文化共生の課題を自分自身で実際に解き、最先端の小学校教育の現状と課題を再認識し、各自の発見や気付きを共有する。 ・各自の発見や気付き共有することで、自分が受けてきた教育との違いを再認識し、現代社会の課題・問題点を議論することで、多文化共生の重要性を再認識し、解決策について議論・考察する。	予習 2 時間　ヘイトスピーチについて調べ、東京川崎大阪の事例について調べる。 復習 2 時間　小中学校での多文化共生教育の事例の資料を読み、これまでの教育で不足してた点を考える。	4 時間
第５回	対面	「多文化共生３コミュニティの活性化」（金谷一郎） ・学生自身（特に留学生）のコミュニティについて ・相談相手や困った時の支援などについて、自分自身の体験を共有することで、コミュニティの活性化特に留学生が関わるコミュニティの活性化について議論する。	予習２時間　自身の住んでいる地域のコミュニティとしてどのような活動があるか調べる。 復習２時間　留学生の体験から困りごとの解決や支援について、また、留学生がいることが地域の活性化につながるか、行政の視点も踏まえて考える。	4 時間

		母語・母国文化の重要性はもちろん、日本人・行政の認識の不十分性などを共有化して、解決策について議論し考察する。		
第６回	対面	「多文化共生 4 生野区のおける多文化共生のまちづくり」（金谷一郎） ・大阪市生野区における最先端の多文化共生社会の実現に向けた取り組みを紹介し、 在日韓国・朝鮮人問題はもとより、多くの国から来ている外国人（海外にルーツのある日本人を含む）問題に対する多くの課題を、 講師が研究した事例（「大阪市生野区における多文化共生のまちづくり拠点に関わる検討」コミュニティ政策１９　P137-161：コミュニティ政策学会編 2021 年 10 月発行）を紹介して 具体的な事例について、解決策を議論し考察する。	予習 2 時間　外国籍住民が多く暮らす大阪市生野区コリアタウンについて調べる。 復習 2 時間　講師の論文を読み多文化共生のまちづくりの課題を考える。	4 時間
第７回	対面	「多文化共生 5 教育行政の課題」（金谷一郎） ・講師が在職していた大阪市の教育現場での多文化共生の取り組みの経過と現状を紹介する。 ・地域や各種支援団体と連携した取り組みを紹介することで、国・自治体の多文化共生施策の限界と可能性を議論し、解決策について考察する。	予習 2 時間　文科省や大阪府の web サイトから、外国籍の子どもの教育課題について調べる。 復習 2 時間　国、自治体の多文化共生施策の課題と限界について検討された内容を振り返る。	4 時間
第８回	対面	外国ルーツの子どもの教育（菅原絵美） ゲストスピーカー：西脇邦雄氏 外国ルーツの子どもの置かれている現状、問題点が取り上げられたのは最近のことである。 移民の受け入れを認めていない日本では、日本語の教育を政府の責任で行う仕組みがありません。 多様化、多国籍になる子どもたちと、学習言語と生活言語の問題、高校進学の問題など、多くの外国人を受け入れる日本の課題を考えていきます。	予習 2 時間　日本における外国ルーツの子どもの実態を文部科学省 web などで調べる。 復習 2 時間　生活言語と学習言語の違いを理解し、母語の喪失や考える力と言語の関係を復習する。	4 時間
第９回	対面	人口の高齢化と介護保険制度（菅原絵美） ゲストスピーカー：西脇邦雄氏 人口のピラミッドが日本、韓国、そして中国でも崩れていっています。 ベトナムも若い人の出生率が減ってきました。 高齢化といわれる現実はどのような問題が起きるのでしょうか。 日本の介護保険の現状と課題を考えます。	予習 2 時間　人口減少社会や介護保険について厚生労働省 HP から調べる。 復習 2 時間　新型コロナ感染で課題となったケアエコノミーの考え方について調べ理解を深める。	4 時間
第１０回	対面	生活インフラの輸出　安全な水とトイレを世界中に（菅原絵美） ゲストスピーカー：西脇邦雄氏 北九州市の先進的な取り組みを学ぶとともに、日本の ODA 政府開発援助を学びます。 そして中心的な役割を担っている JICA についても理解しましょう。	予習 2 時間　北九州市の HP から自治体 ODA の取り組みを調べる。 復習 2 時間　北九州市のベトナム、ハイフォン市における水道事業、インドネシア、スラバヤ市におけるゴミの分別リサイクル事業について配布資料からその仕組みを理解する。	4 時間

		国連の定めた SDGs には安全な水とトイレを世界中にという目標があります。 水道、そしてあまり知られていない下水道の歴史や仕組みを学びます。		
第１１回	対面	ゴミは宝　ゴミ発電やゴミゼロの町に学ぶ（菅原絵美） ゲストスピーカー：西脇邦雄氏 世界でも有数のゴミを燃やして処分している国が日本です。 しかし戦後は焼却施設も間に合わず、地面を掘ってゴミで埋めるやり方でした。 焼却施設をたくさん作りましたが、東京では人口が増えすぎた 1960～70 年台、ゴミ戦争が起こりました。 しかし、今ではゴミゼロの街が出てきました。また、ゴミは宝、発電や資源が出てきます。 みなさんの地域ではゴミをどのように扱っていますか。	予習 2 時間　東京のゴミ戦争、大阪市舞洲ゴミ焼却施設や上勝町のゼロウエスト宣言を web で調べ、自身の住む自治体のごみ処理の仕組みについて調べる。 復習 2 時間　日本のゴミ処理も埋め立てから焼却、そして分別リサイクル、さらには減量化へと進展してきた。配布資料からその仕組みを理解する。	4 時間
第１２回	対面	ファストファッションを考える（菅原絵美） ゲストスピーカー：西脇邦雄氏 SHEIN のビデオを見て、作っている工場の問題、安く作るために働く人の権利が犠牲になっていないかを考えましょう。 またガーナにたどりつく大量の古着、海に流れ込む繊維やプラスティックゴミの問題を考えます。	予習 2 時間　身近で愛用しているファストファッションの何が問題になっているか調べる。 復習２時間　大量消費社会でないファッション業界のあり方、エシカル消費について調べる。	4 時間
第１３回	対面	メガイベントとサステナビリティ（菅原絵美） 2020 東京オリンピックパラリンピック、2024 大阪・関西万博を通じて、自治体によるメガイベントとサステナビリティの関係を考えます。	予習２時間　大阪・関西万博におけるサステナビリティの取り組み（https://www.expo2025.or.jp/overview/sustainability/）について予習する。 復習２時間　授業で配布したレジュメ等を復習しておく。	4 時間
第１４回	対面	国連による課題解決と地方自治（菅原絵美） 国連持続可能な開発目標の実現と自治体、国連グローバル・コンパクトと地方自治（川崎市およびメルボルン市の取り組み）を考えます。	予習２時間　国連グローバル・コンパクト（https://www.ungcjn.org/index.html）、川崎市の取り組み（https://www.city.kawasaki.jp/300/page/0000071862.html）について予習しておく。 復習２時間　授業で配布したレジュメ等を復習しておく。	4 時間
第１５回	オンデマンド	授業の振り返り（菅原絵美）	これまで授業で配布されたレジュメ・資料を基に復習をする。	4 時間

科目名	国際経済学Ⅰ	開講年度	2025
担当者	前鶴　政和	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	国際貿易の基礎理論と貿易政策の効果		
授業の目的及び概要	この講義では、国際貿易の基礎理論と貿易政策の効果等について学修します。国際貿易に焦点を当てて、まず、国際貿易の拡大とその背景や相互依存関係等について説明します。また、比較優位、保護主義、貿易政策の効果や国際貿易ルール等について説明した上で、現在の国際経済情勢について学修します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①国際貿易に関する基本的な知識について説明することができる。 ②貿易政策の効果や国際貿易ルール等について説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題については、授業中に講評、解説を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません。配布資料を用いて講義を行います。	ISBN	なし
参考書	①現実からまなぶ国際経済学，伊藤萬里・田中鮎夢，有斐閣，2023 年 ②国際経済論，　奥和義・内藤友紀，ミネルヴァ書房，2023 年	ISBN	①9784641200012 ②9784623095766

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	30
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	50
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	授業に積極的に参加し、配布資料と参考書を用いながら予習と復習を行ってください。予習・復習のために参考書①を購入することを推奨します。この授業を履修する前に、国際経済基礎を履修することを推奨します。また、世界経済情勢に関する新聞記事やテレビ・インターネットのニュースについても日頃から見るようにしておいてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	授業の進め方、成績評価等について、ガイダンスを行います。	【予習】シラバスとガイダンスの配布資料を事前に読んでおいてください。 【復習】シラバスとガイダンスの配布資料の内容を	2 時間

			読み直し、復習しておいてください。	
第２回	対面	「国際貿易の拡大とその背景」について説明します。	【予習】「国際貿易の拡大とその背景」に関する配布資料及び参考書①（pp. 20-28）を事前に読んでおいてください。 【復習】「国際貿易の拡大とその背景」に関する配布資料及び参考書①（pp. 20-28）を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第３回	対面	「相互依存関係の強まり」について学修します。	【予習】「相互依存関係の強まり」に関する配布資料及び参考書①（pp. 29-34）を事前に読んでおいてください。 【復習】「相互依存関係の強まり」に関する配布資料及び参考書①（pp. 29-34）を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第４回	対面	「生産要素の移動と国際経済取引の新しい形態」について説明します。	【予習】「生産要素の移動と国際経済取引の新しい形態」に関する配布資料及び参考書①（pp. 34-49）を事前に読んでおいてください。 【復習】「生産要素の移動と国際経済取引の新しい形態」に関する配布資料及び参考書①（pp. 34-49）を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第５回	対面	「保護主義の歴史」について説明します。	【予習】「保護主義の歴史」に関する配布資料および参考書①（pp. 54-57）を事前に読んでおいてください。 【復習】「保護主義の歴史」に関する配布資料および参考書①（pp. 54-57）を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第６回	対面	「保護主義が台頭する背景」について説明します。	【予習】「保護主義が台頭する背景」に関する配布資料および参考書①（pp. 58-63）を事前に読んでおいてください。 【復習】「保護主義が台頭する背景」に関する配布資料および参考書①（pp. 58-63）を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第７回	対面	「保護主義の政治経済学」について説明します。	【予習】「保護主義の政治経済学」に関する配布資料及び参考書①（pp. 63-71）を事前に読んでおいてください。 【復習】「保護主義の政治経済学」に関する配布資料及び参考書①（pp. 63-71）を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第８回	対面	「保護主義の新しい展開」について説明します。	【予習】「保護主義の新しい展開」に関する配布資料および参考書①（pp. 71-81）を事前に読んでおいてください。 【復習】「保護主義の新しい展開」に関する配布資料および参考書①（pp. 71-81）を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第９回	対面	「比較優位」について説明します。	【予習】「比較優位」に関する配布資料および参考書①（pp. 116-119）を事前に読んでおいてください。 【復習】「比較優位」に関する配布資料および参考書①（pp. 116-119）を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第１０回	対面	「貿易の部分均衡分析」について説明します。	【予習】「貿易の部分均衡分析」に関する配布資料及び参考書①（pp. 210-214）を事前に読んでおいてください。 【復習】「貿易の部分均衡分析」に関する配布資料及び参考書①（pp. 210-214）を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第１１回	対面	「輸入に対する政策の効果」について説明します。	【予習】「輸入に対する政策の効果」に関する配布資料及び参考書①（pp. 214-221）を事前に読んでおいてください。	4 時間

			【復習】「輸入に対する政策の効果」に関する配布資料及び参考書①（pp.214-221）を読み直し、復習しておいてください。	
第１２回	対面	「国際貿易ルール」について説明します。	【予習】「国際貿易ルール」に関する配布資料および参考書①（pp.258-268）を事前に読んでおいてください。 【復習】「国際貿易ルール」に関する配布資料および参考書①（pp.258-268）を読み直し、復習しておいてください。	4時間
第１３回	対面	「地域貿易協定」について説明します。	【予習】「地域貿易協定」に関する配布資料および参考書①（pp.268-275）を事前に読んでおいてください。 【復習】「地域貿易協定」に関する配布資料および参考書①（pp.268-275）を読み直し、復習しておいてください。	4時間
第１４回	対面	「地域貿易協定や貿易障壁の影響」について説明します。	【予習】「地域貿易協定や貿易障壁の影響」に関する配布資料および参考書①（pp.275-281）を事前に読んでおいてください。 【復習】「地域貿易協定や貿易障壁の影響」に関する配布資料および参考書①（pp.275-281）を読み直し、復習しておいてください。	4時間
第１５回	オンデマンド	これまでの内容の総復習をオンデマンドで配信します。	【復習】オンデマンド動画を視聴した上で、これまでの学修内容の総復習を行ってください。	6時間

科目名	国際経済学Ⅱ	開講年度	2025
担当者	高砂　謙二	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	国際金融における全般的な知識の修得		
授業の目的及び概要	この授業では、国際金融論の基礎知識を身につけることを目標とします。グローバル化が進む現代の経済情勢において、金融に関わるグローバル化の現象について理解することは、重要な意味を持ちます。特にリーマンショックや欧州債務危機等について理解するためには国際金融論の知識が必要です。具体的には、国際収支と基礎理論、国際通貨、為替制度、国際金融市場とデリバティブ等について学修します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・国際金融の全体構造を説明できる。 ・国際金融市場の役割を説明できる。 ・国際通貨制度変遷を説明できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	小テストについては、授業中に解説及び講評を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、金融機関において営業店や外国部、審査部、経営企画等で 16 年間勤務し、銀行業務全般や国際業務（外国為替リーディング業務、外為与信審査業務、国際経営・貿易相談業務、輸出入貿易書類点検業務）、法務・市場調査・広報等の実務経験を積んできた。本科目では、国際的なマーケットの実態や外国為替相場の特性などについて、こうした実務経験を活かして解説するなど、実践的な教育を行う。		
テキスト	①身近に感じる国際金融, 飯島寛之他, 有斐閣, 2020 年	ISBN	①9784641150447
参考書	なし	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	0
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	70
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	この授業ではノートを必携し、必要に応じてメモを取るようにして下さい。また、近年の事例を取り上げるため、常日頃から新聞・ニュース等で関連の情報収集に努めること。事前に教科書で事前学修することが、復習については教科書、講義資料、ノートで授業外の学修を行うことが望まれます。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	講義の概要と今後の授業の進め方について説明を行います。	【予習】事前学修として、この科目のシラバスを読み込むとともに、国際経済学Ⅱ ＜国際金融概論＞を受	4 時間

			講するにあたってのポイントについて確認しておいて下さい。 【復習】事後学修として、授業での説明部分について、ノートを読み返し、あらためてポイントになるところは何かを考えながら復習して下さい。	
第２回	対面	外国為替市場と外国為替相場（1）について解説します。 ①外国為替市場と外国為替 ②外国為替相場の影響	【予習】事前学修として、教科書（8 頁-24 頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4 時間
第３回	対面	外国為替市場と外国為替相場（2）について解説します。 ①インフレ率と外国為替相場（購買力平価説） ②金利と外国為替相場（金利平価説）	【予習】事前学修として、教科書（24 頁-34 頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4 時間
第４回	対面	国際収支と対外資産負債残高（1）について解説します。 ①国際収支統計の枠組み ②経常収支分析の枠組み	【予習】事前学修として、教科書（36 頁-53 頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4 時間
第５回	対面	国際収支と対外資産負債残高（2）について解説します。 ①国際投資と国際資本移動 ②通貨・金融危機と国際収支、対外資産負債残高	【予習】事前学修として、教科書（53 頁-62 頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4 時間
第６回	対面	国際金融市場（1）について解説します。 ①国際金融市場の定義 ②国際金融市場の参加者と目的 ③デリバティブ市場	【予習】事前学修として、教科書（66 頁-81 頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4 時間
第７回	対面	国際金融市場（2）について解説します。 ①ユーロ市場とオフショア市場 ②国際金融市場と投機 ③タックスヘイブン	【予習】事前学修として、教科書（81 頁-93 頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4 時間
第８回	対面	為替相場制度と経済政策（1）について解説します。 ①為替相場制度 ②外国為替介入	【予習】事前学修として、教科書（96 頁-110 頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4 時間
第９回	対面	為替相場制度と経済政策（2）について解説します。 ①為替相場制度とマクロ経済政策 ②資本規制と為替相場制度	【予習】事前学修として、教科書（110 頁-122 頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4 時間
第１０回	対面	国際通貨制度の歴史（1）について解説します。 ①国際通貨、基軸通貨、時代区分 ②金本位制 ③再建金本位制	【予習】事前学修として、教科書（110 頁-139 頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4 時間
第１１回	対面	国際通貨制度の歴史（2）について解説します。 ①通貨ブロック ②ブレトンウッズ体制	【予習】事前学修として、教科書（140 頁-148 頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4 時間
第１２回	対面	金融危機への対応（1）について解説します。	【予習】事前学修として、教科書（152 頁-162 頁）を読み事前に予習して下さい。	4 時間

		①通貨危機と金融危機	【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	
第１３回	対面	金融危機への対応（2）について解説します。 ①金融危機への対応 ②国際金融機関の役割	【予習】事前学修として、教科書（162 頁-177 頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4 時間
第１４回	対面	新しい国際通貨体制の模索について解説します。 ①ドル体制 ②新興国の台頭 ③人民元とユーロ	【予習】事前学修として、教科書（182 頁-207 頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4 時間
第１５回	オンデマンド	授業全体の総括	【予習】事前学修として、教科書・ノートで事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4 時間

科目名	国際経済学Ⅱ	開講年度	2025
担当者	高砂　謙二	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	国際金融における全般的な知識の修得		
授業の目的及び概要	この授業では、国際金融論の基礎知識を身につけることを目標とします。グローバル化が進む現代の経済情勢において、金融に関わるグローバル化の現象について理解することは、重要な意味を持ちます。特にリーマンショックや欧州債務危機等について理解するためには国際金融論の知識が必要です。具体的には、国際収支と基礎理論、国際通貨、為替制度、国際金融市場とデリバティブ等について学修します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・国際金融の全体構造を説明できる。 ・国際金融市場の役割を説明できる。 ・国際通貨制度変遷を説明できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	小テストについては、授業中に解説及び講評を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、金融機関において営業店や外国部、審査部、経営企画等で 16 年間勤務し、銀行業務全般や国際業務（外国為替リーディング業務、外為与信審査業務、国際経営・貿易相談業務、輸出入貿易書類点検業務）、法務・市場調査・広報等の実務経験を積んできた。本科目では、国際的なマーケットの実態や外国為替相場の特性などについて、こうした実務経験を活かして解説するなど、実践的な教育を行う。		
テキスト	①身近に感じる国際金融, 飯島寛之他, 有斐閣, 2020 年	ISBN	①9784641150447
参考書	なし	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	0
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	70
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	この授業ではノートを必携し、必要に応じてメモを取るようにして下さい。また、近年の事例を取り上げるため、常日頃から新聞・ニュース等で関連の情報収集に努めること。事前に教科書で事前学修することが、復習については教科書、講義資料、ノートで授業外の学修を行うことが望まれます。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	講義の概要と今後の授業の進め方について説明を行います。	【予習】事前学修として、この科目のシラバスを読み込むとともに、国際経済学Ⅱ ＜国際金融概論＞を受	4 時間

			講するにあたってのポイントについて確認しておいて下さい。 【復習】事後学修として、授業での説明部分について、ノートを読み返し、あらためてポイントになるところは何かを考えながら復習して下さい。	
第２回	対面	外国為替市場と外国為替相場（1）について解説します。 ①外国為替市場と外国為替 ②外国為替相場の影響	【予習】事前学修として、教科書（8 頁-24 頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4 時間
第３回	対面	外国為替市場と外国為替相場（2）について解説します。 ①インフレ率と外国為替相場（購買力平価説） ②金利と外国為替相場（金利平価説）	【予習】事前学修として、教科書（24 頁-34 頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4 時間
第４回	対面	国際収支と対外資産負債残高（1）について解説します。 ①国際収支統計の枠組み ②経常収支分析の枠組み	【予習】事前学修として、教科書（36 頁-53 頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4 時間
第５回	対面	国際収支と対外資産負債残高（2）について解説します。 ①国際投資と国際資本移動 ②通貨・金融危機と国際収支、対外資産負債残高	【予習】事前学修として、教科書（53 頁-62 頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4 時間
第６回	対面	国際金融市場（1）について解説します。 ①国際金融市場の定義 ②国際金融市場の参加者と目的 ③デリバティブ市場	【予習】事前学修として、教科書（66 頁-81 頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4 時間
第７回	対面	国際金融市場（2）について解説します。 ①ユーロ市場とオフショア市場 ②国際金融市場と投機 ③タックスヘイブン	【予習】事前学修として、教科書（81 頁-93 頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4 時間
第８回	対面	為替相場制度と経済政策（1）について解説します。 ①為替相場制度 ②外国為替介入	【予習】事前学修として、教科書（96 頁-110 頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4 時間
第９回	対面	為替相場制度と経済政策（2）について解説します。 ①為替相場制度とマクロ経済政策 ②資本規制と為替相場制度	【予習】事前学修として、教科書（110 頁-122 頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4 時間
第１０回	対面	国際通貨制度の歴史（1）について解説します。 ①国際通貨、基軸通貨、時代区分 ②金本位制 ③再建金本位制	【予習】事前学修として、教科書（110 頁-139 頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4 時間
第１１回	対面	国際通貨制度の歴史（2）について解説します。 ①通貨ブロック ②ブレトンウッズ体制	【予習】事前学修として、教科書（140 頁-148 頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4 時間
第１２回	対面	金融危機への対応（1）について解説します。	【予習】事前学修として、教科書（152 頁-162 頁）を読み事前に予習して下さい。	4 時間

		①通貨危機と金融危機	【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	
第１３回	対面	金融危機への対応（2）について解説します。 ①金融危機への対応 ②国際金融機関の役割	【予習】事前学修として、教科書（162 頁-177 頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4 時間
第１４回	対面	新しい国際通貨体制の模索について解説します。 ①ドル体制 ②新興国の台頭 ③人民元とユーロ	【予習】事前学修として、教科書（182 頁-207 頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4 時間
第１５回	オンデマンド	授業全体の総括	【予習】事前学修として、教科書・ノートで事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4 時間

科目名	環境経済論	開講年度	2025
担当者	前鶴　政和	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	環境経済学の基礎		
授業の目的及び概要	この授業は、大気汚染や地球温暖化など、日本や世界が直面する環境問題の原因について、経済学的アプローチから理解し、解決策を考えることを目的とします。この授業では、様々な環境問題を対象とし、環境問題の原因や解決策について、環境経済学の基礎理論を用いて説明します。また、企業に就職する際に必要となる、企業の環境配慮経営についても説明します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①環境経済学の基本的な用語について説明できる。 ②環境問題とは何か、そして環境問題はどのようにして生じるのかについて、経済学の視点から説明できる。 ③将来の環境問題解決のために経済活動の中でどのような環境保護の取組が必要かを説明できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題については、授業中に講評、解説を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません。配布資料を用いて講義を行います。	ISBN	なし
参考書	①環境経済学の第一歩，大沼あゆみ・柘植隆宏，有斐閣，2021 年 ②入門環境経済学〔新版〕，有村俊秀・日引聡，中央公論社，2023 年 ③環境経済学をつかむ〔第 4 版〕，栗山浩一・馬奈木俊介，有斐閣，2020 年	ISBN	①9784641150898 ②9784121027511 ③9784641177291

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	30
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	50
その他（%）	0
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	環境経済学は、経済学の応用分野の 1 つです。よって、この授業で環境経済学を学ぶにあたっては、経済学の入門レベルの知識が役立ちますが、経済学を学んだことがない人でも理解できるよう、できるだけわかりやすく説明していきます。授業に積極的に参加し、配布資料と参考書を用いながら予習と復習を行い、環境問題に関する新聞記事についても日頃から目を通しておいてください。予習・復習のために参考書①を購入することを推奨します。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	授業の進め方、成績評価等について、ガイダンスを行います。	【予習】シラバスとガイダンスの配布資料を事前に読んでおいてください。 【復習】シラバスとガイダンスの配布資料の内容を読み直し、復習しておいてください。	2 時間
第２回	対面	「経済と環境」について説明します。	【予習】「経済と環境」に関する配布資料及び参考書①（pp. 1-9）を事前に読んでおいてください。 【復習】「経済と環境」に関する配布資料及び参考書①（pp. 1-9）を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第３回	対面	「環境経済学の視点と分析方法」について学修します。	【予習】「環境経済学の視点と分析方法」に関する配布資料及び参考書①（pp. 9-18）を事前に読んでおいてください。 【復習】「環境経済学の視点と分析方法」に関する配布資料及び参考書①（pp. 9-18）を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第４回	対面	引き続き、「環境経済学の視点と分析方法」について学修します。	【予習】「環境経済学の視点と分析方法」に関する配布資料及び参考書①（pp. 9-18）を事前に読んでおいてください。 【復習】「環境経済学の視点と分析方法」に関する配布資料及び参考書①（pp. 9-18）を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第５回	対面	「外部効果とは何か」及び「なぜ市場に任せると失敗するのか？」について説明します。	【予習】「外部効果とは何か」及び「なぜ市場に任せると失敗するのか？」に関する配布資料及び参考書①（pp. 23-28）を事前に読んでおいてください。 【復習】「外部効果とは何か」及び「なぜ市場に任せると失敗するのか？」に関する配布資料及び参考書①（pp. 23-28）を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第６回	対面	「社会的最適を実現する方法」について説明します。	【予習】「社会的最適を実現する方法」に関する配布資料および参考書①（pp. 28-35）を事前に読んでおいてください。 【復習】「社会的最適を実現する方法」に関する配布資料および参考書①（pp. 28-35）を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第７回	対面	「大気汚染の現状」について説明します。	【予習】「大気汚染の現状」に関する配布資料及び参考書①（pp. 38-41）を事前に読んでおいてください。 【復習】「大気汚染の現状」に関する配布資料及び参考書①（pp. 38-41）を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第８回	対面	「日本の大気汚染政策の歴史」について説明します。	【予習】「日本の大気汚染政策の歴史」に関する配布資料および参考書②（pp. 152-157）を事前に読んでおいてください。 【復習】「日本の大気汚染政策の歴史」に関する配布資料および参考書②（pp. 152-157）を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第９回	対面	「汚染の経済分析」について説明します。	【予習】「汚染の経済分析」に関する配布資料および参考書①（pp. 41-55）を事前に読んでおいてください。 【復習】「汚染の経済分析」に関する配布資料および参考書①（pp. 41-55）を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第１０回	対面	「地球温暖化の現状と歩み」について説明します。	【予習】「地球温暖化の現状と歩み」に関する配布資料及び参考書①（pp. 64-68）を事前に読んでおいてください。 【復習】「地球温暖化の現状と歩み」に関する配布資料及び参考書①（pp. 64-68）を読み直し、復習してお	4 時間

			いてください。	
第１１回	対面	「地球温暖化に関する制度と政策」について説明します。	【予習】「地球温暖化に関する制度と政策」に関する配布資料および参考書①（pp. 72-78）を事前に読んでおいてください。 【復習】「地球温暖化に関する制度と政策」に関する配布資料および参考書①（pp. 72-78）を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第１２回	対面	「排出量取引の経済分析」について説明します。	【予習】「排出量取引の経済分析」に関する配布資料および参考書①（pp. 68-71）を事前に読んでおいてください。 【復習】「排出量取引の経済分析」に関する配布資料および参考書①（pp. 68-71）を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第１３回	対面	「企業の環境配慮経営」について説明します。	【予習】「企業の環境配慮経営」に関する配布資料および参考書①（pp. 190-195）を事前に読んでおいてください。 【復習】「企業の環境配慮経営」に関する配布資料および参考書①（pp. 190-195）を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第１４回	対面	「環境配慮型製品の需要と供給」について説明します。	【予習】「環境配慮型製品の需要と供給」に関する配布資料および参考書①（pp. 196-205）を事前に読んでおいてください。 【復習】「環境配慮型製品の需要と供給」に関する配布資料および参考書①（pp. 196-205）を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第１５回	オンデマンド	これまでの内容の総復習をオンデマンドで配信します。	【復習】オンデマンド動画を視聴した上で、これまでの学修内容の総復習を行ってください。	6 時間

科目名	開発経済論	開講年度	2025
担当者	金子　治平	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	開発途上国における貧困と関連する経済・社会上の問題を明らかにして，どのような手段を講じれば経済発展が実現するのかを考える		
授業の目的及び概要	この授業は，開発途上国における貧困をもたらしている社会・経済的な問題を理解し，その解決策を検討するための基礎知識を身につけることを目的とします． 各回の講義は各授業回の授業計画に沿って進めますが，受講者が持つ事前の知識や理解度に応じて適宜変更することもあります．		
履修条件・留意点	この授業は対面授業です． 下記の事後学習を行う必要があります． ・授業後に，講義資料を何回も読み直して復習を行う（最低でも 30 分)(※1) ・その回の講義内容に対するアンケート(※2)に回答する（約 5 分） ・その前の回の講義内容に対する小テスト(※3)を受験する（約 15 分） ※ 1 各回の講義資料は，日本語で A4 判 4~8 ページあります．日本語の文章がすらすら読める人でも 30 分，日本語に習熟していない人だと 2 時間以上かかると思います． ※ 2 アンケートは，「Learning Portal」のテストの最後に記入することになります．アンケートへの回答は「わかった」「わからなかった」などではなく，その回の授業に対応した具体的なものを記述する必要があります． ※ 3 アンケートを含むテストの成績が，成績評価 100 点満点中 60 点分になります．15 回の授業なので，1 回あたりのテストによる加点は約 4 点分になります．つまり，毎回のテストでいい成績を取ることが，合格するための条件になります．		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・開発途上国における GDP などのマクロ経済的な指標の特徴を説明することができる． ・開発途上国における資本，労働，技術それぞれの側面での現状と課題を，ミクロ・マクロの両面から理解し，説明することができる． ・上記の知見を使用して，開発途上国の貧困を削減する方策を検討することができる．		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	teams 上で質問を受け付けて， ・受講生全員に関係する質問等であれば，翌週(あるいは翌々週)の授業で説明します． ・受講生全員には関係しない質問等であれば，2~3 日以内に teams あるいはメールで回答します．		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	使用しません． 資料は，授業支援システム「Learning Portal」にアップロードするとともに，授業時に配布します．	ISBN	なし
参考書	①黒崎卓(2016)『ストーリーで学ぶ開発経済学』有斐閣 ②大塚啓二郎 (2020)『なぜ貧しい国はなくならないのか』日本経済新聞出版	ISBN	①978-4641704435 ②978-4532358488
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	60	

	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	40
	その他（%）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	開発途上国で暮らす人々の生活について，想像力を働かせてください． また，新聞・雑誌，テレビ・ラジオなどのメディアから，開発途上国に関する情報を積極的に入手して欲しいと思います．	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション シラバスに記載してある授業の目的，概要，授業を受ける際の留意点，学習目標，成績評価などについて説明します．	・事前学習として，授業支援システム「Learning Portal」にアップロードした資料に目を通しておいてください． ・事後学習として，講義資料を何回も読み直して，理解してください． ・理解した点や疑問点などを整理してください． ・「Learning Portal」のテストに，理解した点や疑問点などを回答してください．	4 時間
第２回	対面	開発途上国の現状 世界各国の人口や一人あたり GDP などのマクロ指標，所得格差などのグラフを示して開発途上国の特徴を説明するとともに，開発途上国の発展にとって農業・農村の発展が不可欠であることを説明します．	・事後学習として，講義資料を何回も読み直して，理解してください ・理解した点や疑問点などを整理してください． ・「Learning Portal」のテストで，第 1 回の講義内容についての理解度をチェックする問題を受験してください．このテストの中には，第 2 回の講義内容に対する理解した点や疑問点なども含みます．	4 時間
第３回	対面	農業生産と小作制度 「緑の革命」，農業技術の発展・普及の難しさ，土地所有制度（分益小作）などについて説明します．	・事後学習として，講義資料を何回も読み直して，理解してください ・理解した点や疑問点などを整理してください． ・「Learning Portal」のテストで，第 2 回の講義内容についての理解度をチェックする問題を受験してください．このテストの中には，第 3 回の講義内容に対する理解した点や疑問点なども含みます．	4 時間
第４回	対面	農村信用市場 農村における非農業就業，マイクロファイナンス，信用制約などについて説明します．	・事後学習として，講義資料を何回も読み直して，理解してください ・理解した点や疑問点などを整理してください． ・「Learning Portal」のテストで，第 3 回の講義内容についての理解度をチェックする問題を受験してください．このテストの中には，第 4 回の講義内容に対する理解した点や疑問点なども含みます．	4 時間
第５回	対面	農村の教育 人的資本としての労働力と人的投資としての教育の関係，識字率の格差や教育機関の課題について説明します．	・事後学習として，講義資料を何回も読み直して，理解してください ・理解した点や疑問点などを整理してください． ・「Learning Portal」のテストで，第 4 回の講義内容についての理解度をチェックする問題を受験してください．このテストの中には，第 5 回の講義内容に対する理解した点や疑問点なども含みます．	4 時間
第６回	対面	健康 平均寿命と乳幼児死亡率，水を含む保健衛生や栄養状態などの問題について説明します．	・事後学習として，講義資料を何回も読み直して，理解してください ・理解した点や疑問点などを整理してください． ・「Learning Portal」のテストで，第 5 回の講義内容についての理解度をチェックする問題を受験してください．このテストの中には，第 6 回の講義内容に対	4 時間

			する理解した点や疑問点なども含みます.	
第7回	対面	労働移動 農村の出稼ぎや偽装失業，都市のスラム，国際的労働移動，および送金が農村の経済に与える影響などについて説明します.	・事後学習として，講義資料を何回も読み直して，理解してください ・理解した点や疑問点などを整理してください. ・「Learning Portal」のテストで，第 6 回の講義内容についての理解度をチェックする問題を受験してください. このテストの中には，第 7 回の講義内容に対する理解した点や疑問点なども含みます.	4 時間
第8回	対面	前半のまとめ 第 1～7 回の講義で理解が不十分だと考えられる点について補充説明を行うとともに，これまでの講義を振り返ります.	・事後学習として，講義資料を何回も読み直して，理解してください ・理解した点や疑問点などを整理してください. ・「Learning Portal」のテストで，第 7 回の講義内容についての理解度をチェックする問題を受験してください. このテストの中には，第 8 回の講義内容に対する理解した点や疑問点なども含みます.	4 時間
第9回	対面	経済成長と工業化 マクロ的視点から，工業化，雁行型発展，中進国の罠などについて説明します.	・事後学習として，講義資料を何回も読み直して，理解してください ・理解した点や疑問点などを整理してください. ・「Learning Portal」のテストで，第 1～8 回の講義内容についての理解度をチェックする問題を受験してください. このテストの中には，第 9 回の講義内容に対する理解した点や疑問点なども含みます.	4 時間
第１０回	対面	先進国からの技術の移転と普及 先進国からの技術移転のパターンとして，開発援助，外国直接投資，スピルオーバーなどについて説明します.	・事後学習として，講義資料を何回も読み直して，理解してください ・理解した点や疑問点などを整理してください. ・「Learning Portal」のテストで，第 9 回の講義内容についての理解度をチェックする問題を受験してください. このテストの中には，第 10 回の講義内容に対する理解した点や疑問点なども含みます.	4 時間
第１１回	対面	金融 金融の基礎知識を説明した後に，IMF と世界銀行，輸入工業代替化，輸出指向型工業化などについて説明します.	・事後学習として，講義資料を何回も読み直して，理解してください ・理解した点や疑問点などを整理してください. ・「Learning Portal」のテストで，第 10 回の講義内容についての理解度をチェックする問題を受験してください. このテストの中には，第 11 回の講義内容に対する理解した点や疑問点なども含みます.	4 時間
第１２回	対面	世界と日本の開発援助 国際機関や日本の開発援助，具体的には，無償資金協力，技術協力，円借款などについて説明します.	・事後学習として，講義資料を何回も読み直して，理解してください ・理解した点や疑問点などを整理してください. ・「Learning Portal」のテストで，第 11 回の講義内容についての理解度をチェックする問題を受験してください. このテストの中には，第 12 回の講義内容に対する理解した点や疑問点なども含みます.	4 時間
第１３回	対面	経済発展と環境 石炭への依存，大気汚染，環境クズネッツ曲線，地球温暖化対策などについて説明します.	・事後学習として，講義資料を何回も読み直して，理解してください ・理解した点や疑問点などを整理してください. ・「Learning Portal」のテストで，第 13 回の講義内容についての理解度をチェックする問題を受験してください. このテストの中には，第 13 回の講義内容に対する理解した点や疑問点なども含みます.	4 時間
第１４回	対面	南アジア・アフリカの開発途上国と，開発経済学の方法 南アジアやアフリカの開発途上国の違い，開発経済学の研究方法について，その概要を説明します.	・事後学習として，講義資料を何回も読み直して，理解してください ・理解した点や疑問点などを整理してください. ・「Learning Portal」のテストで，第 13 回の講義内容についての理解度をチェックする問題を受験してください. このテストの中には，第 14 回の講義内容に対する理解した点や疑問点なども含みます.	4 時間

第１５回	オンデマンド	この講義のまとめ 　第 9～14 回の講義で理解が不十分だと考えられる点について補充説明を行うとともに，全体の講義を振り返ります．	・事後学習として，講義資料を何回も読み直して，理解してください ・理解した点や疑問点などを整理してください． ・「Learning Portal」のテストで，第 2～14 回の講義内容についての理解度をチェックする問題を受験してください．	4 時間

科目名	比較経済論	開講年度	2025
担当者	池上　寛	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	韓国およびマレーシアの歴史、社会、政治、経済を学ぶ		
授業の目的及び概要	この授業では、2025 年夏休み期間中に実施予定のフィールド・プロジェクト対象国である韓国とマレーシアを取り上げ、両国の歴史、政治、経済、社会について総合的な学習を行います。講義では受講生によるグループワークや発表なども積極的に取り組む予定です。なお、現時点では韓国とマレーシアについてそれぞれ 6 回取り上げる予定ですが、対象国が追加された場合には、取り上げる回数を調整します。		
履修条件・留意点	この授業は 2025 年夏休みのフィールド・プロジェクト対象国に焦点を当てますが、このプロジェクトに参加予定の学生だけではなく、すでにフィールド・プロジェクトに参加した学生、また韓国とマレーシアに興味がある学生も受講できます。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	フィールド・プロジェクト対象国である韓国とマレーシアに対する興味を持つことで、両国に対する基礎知識の習得することができます。また、異文化や多文化共生社会への理解、地域研究を知ることができます。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	講義内での教員と学生によるディスカッション、およびコメントシートの提出によって、フィードバックを行います。なお、コメントシートに書かれている内容については、原則次回授業でフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、JETRO・アジア経済研究所で 25 年以上に渡って調査研究職に従事しており、その間、在台北海外研究員、研究グループ長代理などを歴任している。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	特に指定しない。	ISBN	なし
参考書	韓国、マレーシアに関する書籍は多く出版されている。必要に応じて適宜紹介するが、韓国とマレーシアに関してそれぞれ 2 冊ずつ挙げる。 （韓国） 現代韓国を知るための 60 章【第 2 版】，石坂浩一・福島みのり編，明石書店，2014 年 韓国学ハンマダン，緒方義広・古橋綾，岩波書店，2022 年 （マレーシア） マレーシアに学ぶ経済発展戦略：「中所得国の罠」を克服するヒント，熊谷聡・中村正志，作品社，2023 年 マレーシアを知るための 58 章，鳥居高編，明石書店，2023 年 ジェトロ・アジア経済研究所編刊『アジア動向年報』（各年版）は以下のサイトに創刊（1970 年）以来の全文が公開されている。韓国およびマレーシアの部分をダウンロードしてチェックしてもらいたい。 https://www.ide.go.jp/Japanese/Publish/Books/Doko.html	ISBN	978-4750340821 978-4000615693 978-4867930038 978-4750356396

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	60
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
	成果発表（口頭・実技）	0

	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	40
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	地域研究の第一歩は対象とする国・地域への興味が必要です。国際学部では 2025 年夏休みに韓国とマレーシアにフィールド・プロジェクトを行う予定です。フィールド・プロジェクトに行く前に対象国について知っておくことは必要なことです。意欲をもって出席してください。 この科目では、積極的な授業態度と学期末のレポートで成績を出します。 学期末のレポートは、授業を通じて韓国またはマレーシアの政治、経済、社会、文化のいずれかに興味を持ったこと、フィールド・プロジェクトで調べたいこと（わかったこと）などを 4000 字程度書いて提出してもらいます。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス、授業の進め方について	【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を実施すること。	4 時間
第２回	対面	フィールドワークとは何か	【予習】事前にシラバスの内容を確認し、授業の概要を把握すること。疑問があれば、講義の際に質問すること。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を実施すること。	4 時間
第３回	対面	韓国の歴史・政治・経済・社会（１）	【予習】事前にシラバスの内容を確認し、授業の概要を把握すること。疑問があれば、講義の際に質問すること。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を実施すること。	4 時間
第４回	対面	韓国の歴史・政治・経済・社会（２）	【予習】事前にシラバスの内容を確認し、授業の概要を把握すること。疑問があれば、講義の際に質問すること。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を実施すること。	4 時間
第５回	対面	韓国の歴史・政治・経済・社会（３）	【予習】事前にシラバスの内容を確認し、授業の概要を把握すること。疑問があれば、講義の際に質問すること。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を実施すること。	4 時間
第６回	対面	韓国の歴史・政治・経済・社会（４）	【予習】事前にシラバスの内容を確認し、授業の概要を把握すること。疑問があれば、講義の際に質問すること。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を実施すること。	4 時間
第７回	対面	韓国の歴史・政治・経済・社会（５）	【予習】事前にシラバスの内容を確認し、授業の概要を把握すること。疑問があれば、講義の際に質問すること。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を実施すること。	4 時間
第８回	対面	韓国の歴史・政治・経済・社会（５）	【予習】事前にシラバスの内容を確認し、授業の概要を把握すること。疑問があれば、講義の際に質問すること。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を実施すること。	4 時間
第９回	対面	マレーシアの歴史・政治・経済・社会（１）	【予習】事前にシラバスの内容を確認し、授業の概要を把握すること。疑問があれば、講義の際に質問する	4 時間

			こと。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を実施すること。	
第１０回	対面	マレーシアの歴史・政治・経済・社会（２）	【予習】事前にシラバスの内容を確認し、授業の概要を把握すること。疑問があれば、講義の際に質問すること。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を実施すること。	4 時間
第１１回	対面	マレーシアの歴史・政治・経済・社会（３）	【予習】事前にシラバスの内容を確認し、授業の概要を把握すること。疑問があれば、講義の際に質問すること。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を実施すること。	4 時間
第１２回	対面	マレーシアの歴史・政治・経済・社会（４）	【予習】事前にシラバスの内容を確認し、授業の概要を把握すること。疑問があれば、講義の際に質問すること。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を実施すること。	4 時間
第１３回	対面	マレーシアの歴史・政治・経済・社会（５）	【予習】事前にシラバスの内容を確認し、授業の概要を把握すること。疑問があれば、講義の際に質問すること。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を実施すること。	4 時間
第１４回	対面	マレーシアの歴史・政治・経済・社会（６）	【予習】事前にシラバスの内容を確認し、授業の概要を把握すること。疑問があれば、講義の際に質問すること。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を実施すること。	4 時間
第１５回	オンデマンド	本講義のまとめ	【予習】事前にシラバスの内容を確認し、授業の概要を把握すること。疑問があれば、講義の際に質問すること。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を実施すること。	4 時間

科目名	比較経済論	開講年度	2025
担当者	池上　寛	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	韓国およびマレーシアの歴史、社会、政治、経済を学ぶ		
授業の目的及び概要	この授業では、2025 年夏休み期間中に実施予定のフィールド・プロジェクト対象国である韓国とマレーシアを取り上げ、両国の歴史、政治、経済、社会について総合的な学習を行います。講義では受講生によるグループワークや発表なども積極的に取り組む予定です。なお、現時点では韓国とマレーシアについてそれぞれ 6 回取り上げる予定ですが、対象国が追加された場合には、取り上げる回数を調整します。		
履修条件・留意点	この授業は 2025 年夏休みのフィールド・プロジェクト対象国に焦点を当てますが、このプロジェクトに参加予定の学生だけではなく、すでにフィールド・プロジェクトに参加した学生、また韓国とマレーシアに興味がある学生も受講できます。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	フィールド・プロジェクト対象国である韓国とマレーシアに対する興味を持つことで、両国に対する基礎知識の習得することができます。また、異文化や多文化共生社会への理解、地域研究を知ることができます。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	講義内での教員と学生によるディスカッション、およびコメントシートの提出によって、フィードバックを行います。なお、コメントシートに書かれている内容については、原則次回授業でフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、JETRO・アジア経済研究所で 25 年以上に渡って調査研究職に従事しており、その間、在台北海外研究員、研究グループ長代理などを歴任している。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	特に指定しない。	ISBN	なし
参考書	韓国、マレーシアに関する書籍は多く出版されている。必要に応じて適宜紹介するが、韓国とマレーシアに関してそれぞれ 2 冊ずつ挙げる。 （韓国） 現代韓国を知るための 60 章【第 2 版】，石坂浩一・福島みのり編，明石書店，2014 年 韓国学ハンマダン，緒方義広・古橋綾，岩波書店，2022 年 （マレーシア） マレーシアに学ぶ経済発展戦略：「中所得国の罠」を克服するヒント，熊谷聡・中村正志，作品社，2023 年 マレーシアを知るための 58 章，鳥居高編，明石書店，2023 年 ジェトロ・アジア経済研究所編刊『アジア動向年報』（各年版）は以下のサイトに創刊（1970 年）以来の全文が公開されている。韓国およびマレーシアの部分をダウンロードしてチェックしてもらいたい。 https://www.ide.go.jp/Japanese/Publish/Books/Doko.html	ISBN	978-4750340821 978-4000615693 978-4867930038 978-4750356396

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	60
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
	成果発表（口頭・実技）	0

	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	40
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	地域研究の第一歩は対象とする国・地域への興味が必要です。国際学部では 2025 年夏休みに韓国とマレーシアにフィールド・プロジェクトを行う予定です。フィールド・プロジェクトに行く前に対象国について知っておくことは必要なことです。意欲をもって出席してください。 この科目では、積極的な授業態度と学期末のレポートで成績を出します。 学期末のレポートは、授業を通じて韓国またはマレーシアの政治、経済、社会、文化のいずれかに興味を持ったこと、フィールド・プロジェクトで調べたいこと（わかったこと）などを 4000 字程度書いて提出してもらいます。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス、授業の進め方について	【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を実施すること。	4 時間
第２回	対面	フィールドワークとは何か	【予習】事前にシラバスの内容を確認し、授業の概要を把握すること。疑問があれば、講義の際に質問すること。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を実施すること。	4 時間
第３回	対面	韓国の歴史・政治・経済・社会（１）	【予習】事前にシラバスの内容を確認し、授業の概要を把握すること。疑問があれば、講義の際に質問すること。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を実施すること。	4 時間
第４回	対面	韓国の歴史・政治・経済・社会（２）	【予習】事前にシラバスの内容を確認し、授業の概要を把握すること。疑問があれば、講義の際に質問すること。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を実施すること。	4 時間
第５回	対面	韓国の歴史・政治・経済・社会（３）	【予習】事前にシラバスの内容を確認し、授業の概要を把握すること。疑問があれば、講義の際に質問すること。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を実施すること。	4 時間
第６回	対面	韓国の歴史・政治・経済・社会（４）	【予習】事前にシラバスの内容を確認し、授業の概要を把握すること。疑問があれば、講義の際に質問すること。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を実施すること。	4 時間
第７回	対面	韓国の歴史・政治・経済・社会（５）	【予習】事前にシラバスの内容を確認し、授業の概要を把握すること。疑問があれば、講義の際に質問すること。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を実施すること。	4 時間
第８回	対面	韓国の歴史・政治・経済・社会（５）	【予習】事前にシラバスの内容を確認し、授業の概要を把握すること。疑問があれば、講義の際に質問すること。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を実施すること。	4 時間
第９回	対面	マレーシアの歴史・政治・経済・社会（１）	【予習】事前にシラバスの内容を確認し、授業の概要を把握すること。疑問があれば、講義の際に質問する	4 時間

			こと。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を実施すること。	
第１０回	対面	マレーシアの歴史・政治・経済・社会（２）	【予習】事前にシラバスの内容を確認し、授業の概要を把握すること。疑問があれば、講義の際に質問すること。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を実施すること。	4 時間
第１１回	対面	マレーシアの歴史・政治・経済・社会（３）	【予習】事前にシラバスの内容を確認し、授業の概要を把握すること。疑問があれば、講義の際に質問すること。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を実施すること。	4 時間
第１２回	対面	マレーシアの歴史・政治・経済・社会（４）	【予習】事前にシラバスの内容を確認し、授業の概要を把握すること。疑問があれば、講義の際に質問すること。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を実施すること。	4 時間
第１３回	対面	マレーシアの歴史・政治・経済・社会（５）	【予習】事前にシラバスの内容を確認し、授業の概要を把握すること。疑問があれば、講義の際に質問すること。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を実施すること。	4 時間
第１４回	対面	マレーシアの歴史・政治・経済・社会（６）	【予習】事前にシラバスの内容を確認し、授業の概要を把握すること。疑問があれば、講義の際に質問すること。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を実施すること。	4 時間
第１５回	オンデマンド	本講義のまとめ	【予習】事前にシラバスの内容を確認し、授業の概要を把握すること。疑問があれば、講義の際に質問すること。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を実施すること。	4 時間

科目名	Contemporary Economic Issues	開講年度	2025
担当者	今井　健一	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語で日本国内外における経済の動向とその背景について学ぶ。		
授業の目的及び概要	本授業では、英語で日本国内外における経済の動向とその背景について学ぶ。具体的には、”物価”、”雇用”、”消費・貯蓄”、”投資”、”金融機関”、そして”外国為替”などを含む日常の暮らしの中で見聞きする基礎的な経済用語の意味を英語で理解していく。このように基礎的な経済用語を英語で修得していくと同時に、それらに関連して日本国内外で起きている身近な経済現象とその背景について英語で学んでいく。授業では、日本を事例とした国内において起きている様々な経済現象のみでなく、視野をアジアあるいは世界に広げて、地域・世界における経済の動向についても学んでいく。		
履修条件・留意点	（履修条件）：本科目は、 英語力が TOEIC　600 点以上、あるいはこれに相当する英語力（例えば、400 単語程度の経済関連の英語ネットニュース内容を読み理解でき、そのサマリーを３行程度の英語で簡潔に書くことが出来る）を有することを履修条件とします。本条件を満たしているか、いないかがわからない場合は、第１回目の授業において担当教員に相談して下さい。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この授業の学修の主な目標は以下の通りである。 1. 基本的な経済用語の意味を理解し、その意味を簡潔に英語で説明することが出来る。 2. 経済に関連した英語による図表を正確に理解し、かつ作成することが出来る。 3. 日々の暮らしの中で見聞きする日本における経済の動向とその背景を理解し、その概要について英語で説明できる。 4. 日本の事例を応用して、自国における経済の動向とその背景を調査・分析し、その結果をレポートとしてまとめ（英語で 400 単語程度）、かつ英語で説明できる。 5. 自身が関心のあるアジア地域あるいは世界における経済の動向とその背景を調査・分析し、その結果をレポートとしてまとめ（英語で 800 字程度）、かつ英語で説明できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業で出題される課題テーマについて、調査、分析、調査・分析結果の英語サマリー作成、そして英語プレゼンテーション（Q&A、ディスカッションを含む）を行う。このようなプロセスを通して、英語力を高めると共に、授業で学んだ経済テーマについての理解を深めていくと共に、他の学生によるプレゼンテーションを聞くことでテーマについての視野を広げていく。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	なし。　必要に応じ、授業用資料を配布する。	ISBN	なし。
参考書	①Studying the Japanese and World Economies（英語で学ぶやさしい経済）， 栗原　裕 他， 朝日出版社， 2006 年 ②The Japanese Economy, second edition, Takatoshi Ito・Takeo Hoshi, The MIT Press, 2020 ③THE Asian Economy, Kenta Goto, Tamaki Endo, and Asei Ito, Routledge, 2021	ISBN	①9784255154244 ②9780262538244 ③9780367203719

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50
	成果発表（口頭・実技）	0

	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	30
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	この科目は英語で日本国内外の経済の動きを学びます。このように英語で特定の分野を学ぶことを一般的に「Content-based English」と呼びます。皆さん、本科目で「日本と世界の経済を学び、そして英語力も高める」一石二鳥の実現にチャレンジしましょう！	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	①授業の目的及び概要、学修の到達目標、テキスト、授業計画等について、ガイダンスを行う。 ②授業開始に先立っての簡単なアンケート調査および英語力テスト（読解と英作文）の実施。	【予習】シラバスと配布資料：”Studying the Japanese and World Economies”の「はじめに」と「Contents」（目次）を事前に読んでおく。 【復習】シラバスを読み直し、講義で得た内容を確認する。	2 時間
第２回	対面	What Is Inflation?（物価が上がる、下がるーインフレーションとは？）	【予習】配布資料の Chapter 2 を事前に熟読し、内容を理解する。 【復習】講義で得た重要ポイントを確認すると共に、講義で質問が出題された場合はその答えを考えておくこと。	4 時間
第３回	対面	What Is Unemployment?（仕事を得る、仕事を失うー失業とは？）	【予習】配布資料の Chapter 3 を事前に熟読し、内容を理解する。 【復習】講義で得た重要ポイントを確認すると共に、講義で質問が出題された場合はその答えを考えておくこと。	4 時間
第４回	対面	Consumption and Saving （お金を使う、お金を貯めるー消費と貯蓄）	【予習】配布資料の Chapter４を事前に熟読し、内容を理解する。 【復習】講義で得た重要ポイントを確認すると共に、講義で質問が出題された場合はその答えを考えておくこと。	4 時間
第５回	対面	What Is Investment?（企業がお金を使うー投資とは？）	【予習】配布資料の Chapter５を事前に熟読し、内容を理解する。 【復習】講義で得た重要ポイントを確認すると共に、講義で質問が出題された場合はその答えを考えておくこと。	4 時間
第６回	対面	What Is the Bank of Japan？（「金融政策」の実施ー日本銀行とは？）	【予習】配布資料の Chapter６を事前に熟読し、内容を理解する。 【復習】講義で得た重要ポイントを確認すると共に、講義で質問が出題された場合はその答えを考えておく。	4 時間
第７回	対面	①What Do Banks Do?（お金を預ける、お金を借りる、振込みをするー銀行の仕事は？） ②グループ・プレゼンテーションについて：説明、グループ・メンバーの選出 【グループワーク】：発表テーマについて打ち合わせ	【予習】配布資料の Chapter７を事前に熟読し、内容を理解する。 【復習】グループ・プレゼンテーションの発表テーマを検討する。	6 時間
第８回	対面	【グループワーク】：グループ・プレゼンテーションのパワーポイント資料（案）の作成。	【復習】グループ・プレゼンテーションのパワーポイント資料作成・提出。＊各グループ代表はプレゼンテーションの前日までにパワーポイント資料を LP より提出のこと。	6 時間
第９回	対面	グループ・プレゼンテーションの実施。	【予習】グループ・プレゼンテーションの準備。	4 時間

第１０回	対面	What Is Exchange Rate?（円をドルに交換したい一為替レートとは？）	【予習】配布資料の Chapter８を事前に熟読し、内容を理解する。 【復習】講義で得た重要ポイントを確認すると共に、講義で質問が出題された場合はその答えを考えておく。	4 時間
第１１回	対面	① Financial Policy and Fiscal Policy（景気を良くしたい一金融政策と財政政策） ② 【課題１】の説明：課題内容、調査・分析結果のサマリー作成	【予習】配布資料の Chapter 10 を事前に熟読し、内容を理解する。 【復習】【課題１】について調べ、その調査・分析結果のサマリーを作成し、次回の授業でのディスカッションに備える。	4 時間
第１２回	対面	① 【課題１】についてのディスカッション ② Trade Policy（経済摩擦の原因にも一貿易政策）および WTO and IMF（貿易と金融の世界的なルールーWTO と IMF）	【予習】配布資料の Chapter 11 & Chapter 12 を事前に熟読し、内容を理解する。 【復習】講義で得た重要ポイントを確認すると共に、講義で質問が出題された場合はその答えを考えておく。	4 時間
第１３回	対面	Asia’s Development（成長するアジア）(1 回目)	【予習】配布資料を事前に熟読し、内容を理解する。 【復習】講義で得た重要ポイントを確認すると共に、講義で質問が出題された場合はその答えを考えておく。	4 時間
第１４回	対面	Asia’s Development（成長するアジア）(2 回目)	【予習】配布資料を事前に熟読し、内容を理解する。 【復習】講義で得た重要ポイントを確認すると共に、講義で質問が出題された場合はその答えを考えておく。	4 時間
第１５回	オンデマンド	① 第 1 回～第 14 回授業の内容を振り返り、理解の確認を行なう。 ② レポート試験（定期試験）についての説明	【予習】事前に配布される“レポート試験”説明資料を読んでおく。	4 時間

科目名	経営管理論	開講年度	2025
担当者	福田　真也	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	実在する企業活動の事例を取り上げながら、経営管理について学修します。 経営学領域の専門科目にステップアップするための内容を学修します。		
授業の目的及び概要	本講義では、各地域に実在する企業活動を事例に取り上げながら、「古典的管理論」と「近代管理論」について学修します。経営管理論の全体像を明らかにした上で、モティベーションやリーダーシップについても学修します。 本講義を受講することによって、企業や行政、NGO などでマネジメント能力を発揮しながら、グローバルの視野を持って地域や企業の発展に貢献しうる基礎知識を修得することを目的とします。		
履修条件・留意点	この授業科目は、専門発展科目です。 国際ビジネスの視点で経営管理について学修したい学生の履修を推奨します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	国際的なビジネスを担う人材に必要な素養を身につけるとともに、実際に実社会で行われている事象について、経営学的な観点から分析することができるようになることを目標とします。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業冒頭で前回の授業の振り返りを行います。 コメントシートや理解度テスト等については、適宜、授業内で解説しフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①経営管理論，上野恭裕・馬場大治編著，中央経済社，2016 年	ISBN	①9784502190612
参考書	①マネジメント　基本と原則，P・ドラッカー著・上田惇生訳 ，ダイヤモンド社，2001 年	ISBN	①9784478410233

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	20
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	60
その他（%）	0
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	本講義は、国際ビジネス科目群に位置付けられており、アジア太平洋地域における企業活動を事例に、実学としての経営学を学修することを目指しています。 調査研究の実務経験を織り混ぜながら、具体的な組織マネジメントについて実践的に学修します。 日頃から、インターネットやテレビ、新聞等を通じて、国際的な観点から経営事情に関する出来事について把握できるように心掛けてください。

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第１回	対面	「ガイダンス」 本講義の目的・目標、授業の進め方、成績評価などについて、授業計画をもとに説明します。 「経営管理論とはどのような学問か(1)」 ①現代社会における基本問題、②管理とは何か、について学修します。	(事前学修) 本講義のシラバスを読み込み、受講するにあたってのポイントについて確認しておいて下さい。 (事後学修) テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第２回	対面	「経営管理論とはどのような学問か(2)」 ③経営管理の担い手、④経営管理論の歴史、について学修します。	(事前学修) テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第３回	対面	「企業とはどのような存在か(1)」 ①企業と会社、②株式会社の特徴、について学修します。	(事前学修) テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第４回	対面	「企業とはどのような存在か(2)」 ③株式会社におけるトップ・マネジメントの構造、④株式会社の実際、について学修します。	(事前学修) テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第５回	対面	「マネジメントの誕生(1)」 ①科学的管理法について学修します。	(事前学修) テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第６回	対面	「マネジメントの誕生(2)」 ②人間関係論、③マネジメントへの役立ち、について学修します。	(事前学修) テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第７回	対面	「第 1 回～第 6 回の学修内容の再確認」 第 1 回～第 6 回までの学修内容を再確認します。これまでの講義内容を確認するとともに、実社会に実在する企業の取組み事例等を取り上げながら、これまで学修してきた理論について復習します。	(事前学修) テキストの該当部分を一読し、第 1 回～第 6 回までの学修内容について復習して下さい。 (事後学修) テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第８回	対面	「組織マネジメントの展開(1)」 ①個人と組織、②組織の存続条件、について学修します。	(事前学修) テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第９回	対面	「組織マネジメントの展開(2)」 ③意思決定のマネジメント、④組織マネジメントの価値、について学修します。	(事前学修) テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間

第１０回	対面	「モティベーション論(1)」 ①モティベーションとは、②実体理論　―人は何によって意欲が生まれるのか―、について学修します。	(事前学修) テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第１１回	対面	「モティベーション論(2)」 ③プロセス理論、④モティベーションを生み出すマネジメント、について学修します。	(事前学修) テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第１２回	対面	「リーダーシップ論(1)」 ①リーダーシップの基礎、②リーダーシップのコンティンジェンシー理論、について学修します。	(事前学修) テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第１３回	対面	「リーダーシップ論(2)」 ③トップとミドルのリーダーシップ、④リーダーシップ研究の新展開、について学修します。	(事前学修) テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第１４回	対面	「第 8 回～第 13 回の学修内容の再確認」 第 8 回～第 13 回までの学修内容を再確認します。これまでの講義内容を確認するとともに、実社会に実在する企業の取組み事例等を取り上げながら、これまで学修してきた理論について復習します。	(事前学修) テキストの該当部分を一読し、第 8 回～第 13 回までの学修内容について復習して下さい。 (事後学修) テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第１５回	オンデマンド	「全体のまとめ」 これまでの学修内容について振り返るとともに、改めて重要なポイントについて確認します。	(事前学修) テキストの該当部分を一読し、本講義の学修内容について復習して下さい。 (事後学修) テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間

科目名	経営戦略論	開講年度	2025
担当者	福田　真也	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	実在する企業活動の事例を取り上げながら、組織の環境適応と経営戦略について学修します。 経営学領域の専門科目にステップアップするための内容を学修します。		
授業の目的及び概要	企業は常に変化する事業環境に対して適切に対応していくことができなければ維持・存続することができません。 組織の環境適応行動は、その枠組みとしての「環境変化（E）・経営戦略（S）・組織構造（S）・管理過程（P）＝ESSP モデル」によって説明されますが、 これら諸要因のうち、組織の環境適応行動に最も強い影響を与えているものは、経営戦略だといえます。 本講義では、経営戦略の基礎的な概念や理論を学修し、環境・戦略・組織・管理を総合的にとらえながら経営戦略について学修します。 それによって、企業行動の理解とその改善に役立てることを目的とします。		
履修条件・留意点	この授業科目は、専門発展科目です。 国際的な視点で経営戦略について学修したい学生の履修を推奨します。 また、ご自身で予め経営管理論や経営組織論などの基礎知識を習得することをおすすめします。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・経営戦略に関する基礎的な概念と理論を用いて専門的に説明できる。 ・企業の多様な戦略行動の是非を判断し、改善の提案ができる。 ・戦略行動と環境動向・組織構造・経営管理との関係を分析できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業冒頭で前回の授業の振り返りを行います。 コメントシートや理解度テスト等については、適宜、授業内で解説しフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①経営学入門キーコンセプト，井原久光編著，ミネルヴァ書房，2013 年	ISBN	①9784623064410
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	20
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	60
その他（%）	0
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	経営戦略は、企業行動を説明する上で最も重要な要因です。経営者が策定する経営戦略によって企業生存の成否が決まると言っても過言ではないからです。 経営戦略は、環境変化（外部要因）と自社の組織能力（内部要因）の双方をどのように認知し、解釈・判断するかという能力が求められます。

	そのため、組織の外部要因と内部要因への十分な理解・洞察力が必要になります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	「ガイダンス」 本講義の目的・目標、授業の進め方、成績評価などについて、授業計画をもとに説明します。 「組織の環境適応行動の枠組みと経営戦略の位置づけ」 経営戦略は、事業環境の大きな変化に直面する企業の対応行動（環境適応行動）の模索から生まれました。 第１回目の講義では、これまでの経営学の流れの中から経営戦略について学修します。	（事前学修） 本講義のシラバスを読み込み、受講するにあたってのポイントについて確認しておいて下さい。 （事後学修） テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第２回	対面	「ESSP モデルによる企業行動の統合的理解」 「環境変化（E）－経営戦略（S）－組織構造（S）－管理過程（P）：ESSP モデル」と各要素を統合するための「適合」概念について学修します。	（事前学修） テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 （事後学修） テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第３回	対面	「環境適応理論の登場」 経営戦略は、組織の環境適応行動を模索する中から生まれましたが、この適応行動については、まず組織論領域で議論され、環境変化を受け入れやすい組織特性を追究するコンティンジェンシー理論へと発展しました。それらの議論に言及しながら、経営戦略の重要性について学修します。	（事前学修） テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 （事後学修） テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第４回	対面	「戦略選択論の意義」 組織論において環境適応の議論の不十分さを批判したのが、「戦略選択論」である。経営戦略論の基礎論ともいえる戦略選択論の意義について学修します。	（事前学修） テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 （事後学修） テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第５回	対面	「経営戦略論の生成」 経営戦略を定義し、そこに含まれるいくつかの要素、戦略と戦術、戦略の機能などについて学修します。	（事前学修） テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 （事後学修） テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第６回	対面	「経営戦略の構造」 経営戦略の構造として企業戦略、事業戦略、職能戦略を取り上げながら、これらの戦略間の関係とこれらをまとめるトップの役割の重要性について学修します。 「企業戦略の策定と事業ポートフォリオ・マネジメント（PPM）」 全社レベルの企業戦略として SWOT 分析、事業ポートフォリオ・マネジメントを取り上げながら、これらについて総合的に学修します。	（事前学修） テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 （事後学修） テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第７回	対面	「第１回～第６回の学修内容の再確認」 第 1 回～第 6 回までの学修内容を再確認します。これまでの講義内容を確認すると	（事前学修） テキストの該当部分を一読し、第 1 回～第 6 回までの学修内容について復習して下さい。	4 時間

		ともに、実社会に実在する企業の取組み事例等を取り上げながら、これまで学修してきた理論について復習します。	（事後学修） テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	
第８回	対面	「事業戦略の策定と製品－市場戦略」 事業レベルの戦略として「製品－市場戦略」を取り上げながら、いくつかの具体例について学修します。	（事前学修） テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 （事後学修） テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第９回	対面	「多角化戦略（1）－関連多角化を中心として－」。 関連多角化戦略について、多角化の意義、範囲の経済、シナジー効果、利益とコストなどついて学修します。	（事前学修） テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 （事後学修） テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第１０回	対面	「多角化戦略（2）－非関連多角化を中心として－」 非関連多角化戦略について、非関連多角化の意義、その利点とリスクについて学修します。	（事前学修） テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 （事後学修） テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第１１回	対面	「競争戦略(1)－持続的競争優位性の２つの源泉－」。 持続的競争優位の２つの源泉、つまり市場ポジショニング・アプローチと資源ベース・アプローチを取り上げながら、両者の相互関係について学修します。	（事前学修） テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 （事後学修） テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第１２回	対面	「競争戦略（2）－3 つの基本競争戦略－」。 コスト・リーダーシップ（低コスト）、差別化、集中という３つの基本競争戦略ついて言及し、合わせて、「低コスト戦略」と「差別化戦略」の両立可能性（「スタック・イン・ザ・ミドル」論）についても学修します。	（事前学修） テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 （事後学修） テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第１３回	対面	「垂直統合戦略－市場と組織－」。 垂直構造、垂直統合、メイク・オア・バイの決定、川上統合、川下統合などついて言及し、合わせて、中間組織の効果についても学修します。 「経営戦略から戦略経営へ」。 経営戦略と戦略経営の違い、戦略経営のタイプの違いを示す「戦略型経営」ついて学修します。	（事前学修） テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 （事後学修） テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第１４回	対面	「第 8 回～第 13 回の学修内容の再確認」 第 8 回～第 13 回までの学修内容を再確認します。これまでの講義内容を確認するとともに、実社会に実在する企業の取組み事例等を取り上げながら、これまで学修してきた理論について復習します。	（事前学修） テキストの該当部分を一読し、第 8 回～第 13 回までの学修内容について復習して下さい。 （事後学修） テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第１５回	オンデマンド	「全体のまとめ」 これまでの学修内容について振り返るとともに、改めて重要なポイントについて確認します。	（事前学修） テキストの該当部分を一読し、本講義の学修内容について復習して下さい。 （事後学修） テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間

科目名	経営組織論	開講年度	2025
担当者	福田　真也	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	アジア太平洋地域における企業活動を事例に取り上げながら、現代社会における経営組織について学修します。 経営学領域の専門科目へステップアップするための内容を学修します。		
授業の目的及び概要	アジア太平洋地域における企業活動を事例に取り上げながら、「組織内部・外部のマネジメント」について言及し、経営組織の理論の全体像を明らかにします。 本講義を受講することによって、企業や行政、NGO などでマネジメント能力を発揮しながら、グローバルの視野を持って地域や企業の発展に貢献しうる基礎知識を修得することを目的とします。		
履修条件・留意点	この授業科目は、専門発展科目です。 国際的な視点で経営組織について学修したい学生の履修を推奨します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	経営内部・外部のマネジメント等について、基本的な知識を身につけることができます。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業冒頭で前回の授業の振り返りを行います。 コメントシートや理解度テスト等については、適宜、授業内で解説しフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①経営管理論，上野恭裕・馬場大治編著，中央経済社，2016 年	ISBN	①9784502190612
参考書	①マネジメント　基本と原則，P・ドラッカー著，上田惇生訳，ダイヤモンド社，2001 年	ISBN	①9784478410233

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	20
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	60
その他（%）	0
その他の内容	0

この科目の受講にあたって
日頃から、インターネットやテレビ、新聞等を通じて、国際的な観点から経営事情に関する出来事について把握できるように心掛けてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	「ガイダンス」 この科目の目的・目標、授業の進め方・受	（事前学修） 本講義のシラバスを読み込み、受講するにあたって	4 時間

		け方、成績評価などについて、授業計画の詳細とともに説明します。 「組織構造のマネジメント(1)」 ①組織構造とは何か、②官僚制組織について学修します。	のポイントについて確認しておいて下さい。 (事後学修) テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	
第２回	対面	「組織構造のマネジメント(2)」 ③組織形態、④組織構造の発展について学修します。	(事前学修) テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第３回	対面	「組織文化のマネジメント(1)」 ①組織文化とは何か、②組織文化の機能と逆機能、③組織文化の形成と変革について学修します。	(事前学修) テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第４回	対面	「組織文化のマネジメント(2)」 ③組織文化の形成と変革について学修します。	(事前学修) テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第５回	対面	「経営組織の環境適応(1)」 ①環境適応の必要性、②コンティンジェンシー理論の誕生について学修します。	(事前学修) テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第６回	対面	「経営組織の環境適応(2)」 ③コンティンジェンシー理論の発展、④コンティンジェンシー理論の意義と限界について学修します。	(事前学修) テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第７回	対面	「第 1 回～第 6 回の学修内容の再確認」 第 1 回～第 6 回までの学修内容を再確認します。これまでの講義内容を確認するとともに、実社会に実在する企業の取組み事例等を取り上げながら、これまで学修してきた理論について復習します。	(事前学修) テキストの該当部分を一読し、第 1 回～第 6 回までの学修内容について復習して下さい。 (事後学修) テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第８回	対面	「企業戦略のマネジメント(1)」 ①経営戦略とは何か、②ドメインの設定について学修します。	(事前学修) テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第９回	対面	「企業戦略のマネジメント(2)」 ③多角化、④多角化企業の資源配分について学修します。	(事前学修) テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第１０回	対面	「競争優位のマネジメント(1)」 ①競争優位とは何か、②ポジショニング・アプローチについて学修します。	(事前学修) テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修)	4 時間

			テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	
第１１回	対面	「競争優位のマネジメント(2)」 ③経営資源アプローチ、④競争優位のタイプについて学修します。	(事前学修) テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第１２回	対面	「イノベーションのマネジメント(1)」 ①イノベーションとは何か、②イノベーションの発生について学修します。	(事前学修) テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第１３回	対面	「イノベーションのマネジメント(2)」 ③イノベーションの全体像、④イノベーション・メカニズムの解明に向けて、について学修します。	(事前学修) テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第１４回	対面	「第 8 回～第 13 回の学修内容の再確認」 第 8 回～第 13 回までの学修内容を再確認します。これまでの講義内容を確認するとともに、実社会に実在する企業の取組み事例等を取り上げながら、これまで学修してきた理論について復習します。	(事前学修) テキストの該当部分を一読し、第 8 回～第 13 回までの学修内容について復習して下さい。 (事後学修) テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第１５回	オンデマンド	「全体のまとめ」 これまでの学修内容について振り返るとともに、改めて重要なポイントについて確認します。	(事前学修) テキストの該当部分を一読し、本講義の学修内容について復習して下さい。 (事後学修) テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間

科目名	人的資源管理論	開講年度	2025
担当者	垣谷　幸介	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日本企業等の組織において、人が仕事をすること、人に仕事をさせることに関する管理について、学修します。		
授業の目的及び概要	人生において、働くことは大きな部分を占めています。職場における仕組み、制度、経営者や働く者の意識を学ぶことは、社会に出る前の準備として必要となります。また、就職活動をする上でも参考となります。大学卒業後、社会に出て働く際に、職場において生じている様々な問題、現象について理解し、解決する能力を身につけることを授業の目的とします。皆さんが実際に就職し働く現場では、様々な人にまつわる悩ましい問題に１年目からぶつかることと思います。その際に、「使える知識・考え方」を学修します。		
履修条件・留意点	同時に、キャリア形成科目を受講することを強くお薦めします。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	（１）人的資源管理の理論を理解し、説明することができる。 （２）人的資源管理の仕組み、現状、課題について、理解し説明することができる。 （３）日本的な働き方について、理解し、説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	中間テストは、採点した上で返却します。頂いたコメントには、適宜、回答・補足説明をします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、大手自動車会社で 35 年以上勤務し 5 回の海外駐在経験があり、中国での現地法人設立及び営業企画や国際貿易に加え、生産管理や人事労務管理の業務に従事するなどの実務経験を有している。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	①人的資源管理，上林憲雄編著，中央経済社，2025 年	ISBN	①9784502532412
参考書	経営学入門キーコンセプト，井原久光編著，ミネルヴァ書房，2013 年	ISBN	9784623064410

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	0
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	30
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	50
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	「働くこと」について、知ることは、これから社会に出る学生にとって重要です。インターンシップ、就職活動にも役立ちます。また、業種によっては、若い頃から様々な人を動かしながら仕事をしていかなければならない場合もあり、経営学の科目 の中でも、就職後実践で最も活用するものです。新聞、雑誌、ニュース、ドキュメンタリーなどでも「働くこと」は頻繁に取り上げられる題材です。これらにも広く関心を持つとともに、身近な働いている人に「職場がどのようなものなのか」を色々な機会に聞いておいてください。 授業では、履修人数によりますが、各回のテーマについて１人、１人と対話をしながら、始めて行きたいと思っていますので、各回のテーマについての予習は欠かさないようにしていてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス 授業の進め方、概要、成績評価の方法など、ガイダンスを行ないます。 第 1 章人的資源管理入門、人的資源管理とは何か、役割、特徴	【予習】先ず、シラバスを熟読し理解のこと。更に、テキスト第 1 章を一読し、わからない用語などを調べておきます。(2 時間) 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。(2 時間)	4 時間
第２回	対面	第 2 章人間モデル 人間モデル、経済人モデル、社会人モデル、テイラーの科学的管理法、ホーソン実験	【予習】テキスト第 2 章を一読し、わからない用語などを調べておきます。(2 時間) 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。(2 時間)	4 時間
第３回	対面	第 3 章戦略的人的資源管理 企業の戦略と人の管理との関係 第 4 章組織能力 戦略と競争優位、人的資源管理の関係性	【予習】テキスト第 3・4 章を一読し、わからない用語などを調べておきます。(2 時間) 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。(2 時間)	4 時間
第４回	対面	第 5 章組織構造 組織設計、職務設計、分業と調整 第 6 章モチベーション マズローの欲求階層説、ハーズバーグの動機付け－衛生理論、マグレガーの X 理論・Y 理論	【予習】テキスト第 5・6 章を一読し、わからない用語などを調べておきます。(2 時間) 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。(2 時間)	4 時間
第５回	対面	第 7 章リーダーシップ リーダーシップの意義、資質、行動パターン	【予習】テキスト第 7 章を一読し、わからない用 語などを調べておきます。(2 時間) 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。(2 時間)	4 時間
第６回	対面	第 8 章コミットメント 情緒的コミットメント、功利的コミットメント	【予習】テキスト第 8 章を一読し、わからない用 語などを調べておきます。(2 時間) 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。(2 時間)	4 時間
第７回	対面	中間総括 第 1 章～第 8 章までの復習 中間テスト	【予習】テキスト第 1～8 章までを授業を思い出し復習し、学修した知識の整理をしておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで知識の定着を図ります。	4 時間
第８回	対面	第 9 章雇用 人と職務のマッチング、採用、異動、昇進・昇格、退職	【予習】テキスト第 9 章を一読し、わからない用語などを調べておきます。(2 時間) 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。(2 時間)	4 時間
第９回	対面	第 10 章人材育成 OJT、Off -JT、自己啓発、キャリア	【予習】テキスト第 10 章を一読し、わからない用語などを調べておきます。(2 時間) 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。(2 時間)	4 時間
第１０回	対面	第 11 章評価 目標管理、評価の 4 要素、評価バイアス	【予習】第 11 章を一読し、わからない用語などを調べておきます。(2 時間) 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。(2 時間)	4 時間
第１１回	対面	第 12 章昇進 昇進競争、昇進ルール、キャリアプラトー	【予習】テキスト第 12 章を一読し、わからない用語などを調べておきます。(2 時間) 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。(2 時間)	4 時間
第１２回	対面	第 13 章賃金 職能給、職務給	【予習】テキスト第 13 章を一読し、わからない用語などを調べておきます。(2 時間) 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。(2 時間)	4 時間
第１３回	対面	第 14 章労使関係 労働組合、労使交渉、労使協議制	【予習】テキスト第 14 章を一読し、わからない用語などを調べておきます。(2 時間)	4 時間

			【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。(2 時間)	
第１４回	対面	第 15 章国際人的資源管理 多国籍企業、海外派遣者、日本的働き方の仕組み	【予習】テキスト第 15 章を一読し、わからない用語などを調べておきます。(2 時間) 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。(2 時間)	4 時間
第１５回	オンデマンド	全体の総復習。特に日本的な働き方の復習。	【予習】テキストおよび配付資料を使ってこれまでの授業を思い出し、学修した知識の整理をしておきます。(2 時間) 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで知識の定着を図ります。(2 時間)	4 時間

科目名	マーケティング論	開講年度	2025
担当者	福田　真也	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	経営学の基礎的知識を身につけながら、国際的な視点でマーケティングを学修します。		
授業の目的及び概要	マーケティングとは、顧客が欲しているものに関する情報を会社に送り込み、それに合うように開発された製品やサービスを顧客に送り出す双方向の行為をいう。その中でグローバル・マーケティングとは、企業と顧客の間で、このような双方向の行為が世界的規模で展開されることを意味している。本講義では、グローバル・マーケティングが形成されるプロセスを解明するとともに、その実践事例について考察します。		
履修条件・留意点	この授業科目は、専門発展科目です。 国際的な視点でマーケティングを学修したい学生の履修を推奨します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・マーケティングの課題と新たな展開について、十分に理解し説明できること。 ・グローバル・マーケティングと通常のマーケティングの差異について、十分に理解し説明できること。 ・グローバル企業の事例を取り上げ、その特質を分析できること。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業冒頭で前回の授業の振り返りを行います。 コメントシートや理解度テスト等については、適宜、授業内で解説しフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	新流通・マーケティング入門，金弘錫・美藤信也・吉岡秀輝・田中敦之，成山堂書店，2017 年.	ISBN	978-4-425-92561-2
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	20
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	60
その他（%）	0
その他の内容	0

この科目の受講にあたって
日頃から、インターネットやテレビ、新聞等を通じて、国際的な観点から経営事情に関する出来事について把握できるように心掛けてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	「ガイダンス」 本講義の目的・目標、授業の進め方、成績	（事前学修） 本講義のシラバスを読み込み、受講するにあたって	4 時間

		評価などについて、授業計画をもとに説明します。 また、グローバル・マーケティング論の方法論や、国際化とグローバル化の違いついて学修します。	のポイントについて確認しておいて下さい。 （事後学修） テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	
第２回	対面	「マーケティングの基礎概念 」 マーケティングの定義をはじめ、セオドア・レビットによる概念規定やマーケティング・コンセプトの変遷、価値方程式などについて学修します。	（事前学修） 本講義のシラバスを読み込み、受講するにあたってのポイントについて確認しておいて下さい。 （事後学修） テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第３回	対面	「グローバル・マーケティングの範囲 」 グローバル・マーケティングの類型と戦略をはじめ、ブランド・ネーム、製品デザイン、製品ポジショニング、包装、流通、顧客サービス、部品調達などについて学修します。	（事前学修） 本講義のシラバスを読み込み、受講するにあたってのポイントについて確認しておいて下さい。 （事後学修） テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第４回	対面	「なぜグローバル・マーケティングなのか 」 グローバル・マーケティングの重要性と市場潜在力の意味、『フォーチュン』のグローバル企業 500 社の含意、市場規模の決定要因などについて学修します。	（事前学修） 本講義のシラバスを読み込み、受講するにあたってのポイントについて確認しておいて下さい。 （事後学修） テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第５回	対面	「経営志向の概念」 経営志向の意味をはじめ、H. V. パールミュッターの所説、本国志向、現地志向、地域志向、世界志向について学修します。	（事前学修） 本講義のシラバスを読み込み、受講するにあたってのポイントについて確認しておいて下さい。 （事後学修） テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第６回	対面	「グローバル化の推進力（１）」 グローバル化の推進力について、テクノロジーや地域経済協定、市場のニーズと欲求、世界経済の趨勢などの観点から学修します。	（事前学修） 本講義のシラバスを読み込み、受講するにあたってのポイントについて確認しておいて下さい。 （事後学修） テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第７回	対面	「グローバル化の推進力（２）」 グローバル化の推進力について、梃子（レバレッジ）作用（経験の移転、規模の経済、資源利用、グローバル戦略）を中心に学修します。	（事前学修） テキストの該当部分を一読し、第 1 回～第 6 回までの学修内容について復習して下さい。 （事後学修） テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第８回	対面	「グローバル化の抑制力について」 グローバル化の抑制力について、経営的近視眼と組織文化、国家管理と障壁、「タイタニック」・シンドロームなどの観点から学修します。	（事前学修） テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 （事後学修） テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第９回	対面	「海外進出する上での考慮事項」 国際ビジネスの決定基準や決定事項、生産拠点の移転、政治的リスクなどの観点から学修します。	（事前学修） テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 （事後学修） テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第１０回	対面	「進出先市場の選択基準について」 市場選択の基準について、市場潜在力、市場アクセス、集荷コストと時間、潜在的競争、サービス要件、商品の適合性などの観	（事前学修） テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 （事後学修）	4 時間

		点から学修します。	テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	
第１１回	対面	「海外進出の諸形態について」 直接投資と国際ライセンス契約、合弁事業、100%出資現地子会社、本国製造商品と現地製造商品の違いなどについて学修します。	(事前学修) テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第１２回	対面	「日本企業の比較優位性」 比較優位の概念をはじめ、国際分業による貿易利益の変化、リカードの比較生産費説について学修します。	(事前学修) テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第１３回	対面	「グローバル・マーケティングとロジスティクス」 調達の意義と重要性をはじめ、オーバーフローの危機可能性、物流の定義・機能について学修します。	(事前学修) テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第１４回	対面	「グローバル・サプライチェーン・マネジメントについて」 サプライチェーン・マネジメント（SCM）について、SCM の起源や経営問題について国際的な視点から学修します。	(事前学修) テキストの該当部分を一読し、第 8 回～第 13 回までの学修内容について復習して下さい。 (事後学修) テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第１５回	オンデマンド	「全体のまとめ」 これまでの学修内容について振り返るとともに、改めて重要なポイントについて確認します。	(事前学修) テキストの該当部分を一読し、本講義の学修内容について復習して下さい。 (事後学修) テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間

科目名	経営情報論	開講年度	2025
担当者	呉原　志賢	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	企業経営における情報システムの役割とその活用方法を学ぶ		
授業の目的及び概要	この授業は、情報の基本的概念から始まり、情報技術や情報システムの発展の歴史とこれからの展望、実際の企業経営で用いられている事例（経営情報システムの設計・開発、経営情報システムの管理、情報セキュリティとシステム監査、プロセス革新と企業戦略等）等を学ぶ。情報システムの企業経営における位置づけや、情報技術とコンピュータがどのように企業経営に生かされ、その安定化と企業競争力の強化・発展に役立っているかを理解することを目標とする。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	授業では以下の到達目標を掲げる。 ①　経営情報に関する基本的な知識を備えている。 ②　企業における ICT（情報通信技術）活用の基本的な考え方を理解している。 ③　企業において情報システムをどのように活用すれば有効かを考えることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業において課したレポート等について解説する。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	現代経営情報論，遠山 暁，村田 潔，古賀 広志，有斐閣，2021	ISBN	978-4641221789
参考書	ー	ISBN	—

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	0
授業期間中の小テスト、レポート課題等	50
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	50
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	ー

この科目の受講にあたって	大学での学修では、授業への参加だけでなく、関心をもった事柄について自ら情報を集めて思考を深める主体性が重要です。受講者の皆さんが本科目の履修を通じて、本科目で学んだ内容をテキスト以外の企業活動の事例の考察に応用したり、より専門的な内容について読書を行うなど、主体的な学修へ足を踏み出してください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	オンデ	講義に関するガイダンスと企業経営にお	授業で配布した企業経営における情報システムに関	4 時間

	マンド	ける情報システムについて説明する。	するレジュメを読ん予習・復習しておくこと	
第2回	オンデマンド	情報社会とネットワーク革命を中心に、経営情報の基礎を学ぶ。	授業で配布した経営情報の基礎に関するレジュメを読ん予習・復習しておくこと	4時間
第3回	オンデマンド	経営資源としての情報がどのように位置付けられ、組織の中でどのように活用されるかを考える。	授業で配布した経営資源としての情報に関するレジュメを読ん予習・復習しておくこと	4時間
第4回	オンデマンド	経営組織と情報処理に関して、組織における意思決定と情報の関係について考える。	授業で配布した経営組織と情報処理に関するレジュメを読ん予習・復習しておくこと	4時間
第5回	オンデマンド	経営戦略のなかで情報がどのように活用されるかを考える。	授業で配布した経営戦略における情報活用に関するレジュメを読ん予習・復習しておくこと	4時間
第6回	オンデマンド	意思決定支援や戦略策定、ビジネスプロセスを再構築する上で、情報システムがどのように用いられたか、その変遷をたどる。	授業で配布したビジネスプロセスの再構築に関するレジュメを読ん予習・復習しておくこと	4時間
第7回	オンデマンド	汎用コンピュータやパーソナルコンピュータの歴史等を振り返る。	授業で配布したコンピュータの歴史に関するレジュメを読ん予習・復習しておくこと	4時間
第8回	オンデマンド	データベースの発展と今後期待される技術を紹介する。	授業で配布したデータベースに関するレジュメを読ん予習・復習しておくこと	4時間
第9回	オンデマンド	ネットワーク技術とそれをめぐる新たな展開を追う。	授業で配布したネットワーク技術に関するレジュメを読ん予習・復習しておくこと	4時間
第10回	オンデマンド	経営情報システムの設計･開発についての基本的な考え方を学ぶ。	授業で配布した経営情報システムの設計・開発に関するレジュメを読ん予習・復習しておくこと	4時間
第11回	オンデマンド	スパイラルモデル等、現代の情報システム開発の方法論を説明する。	授業で配布した現代の情報システム開発の方法論に関するレジュメを読ん予習・復習しておくこと	4時間
第12回	オンデマンド	情報化推進の組織体制や情報化投資の評価について考える。	授業で配布した情報化推進の組織体制に関するレジュメを読ん予習・復習しておくこと	4時間
第13回	オンデマンド	企業経営における情報セキュリティの運用とシステム監査の方法について学ぶ。	授業で配布した情報セキュリティに関するレジュメを読ん予習・復習しておくこと	4時間
第14回	オンデマンド	現代の企業の競争環境とプロセスの戦略的重要性、ビジネスのパラダイムシフトについて考える。	授業で配布したビジネスのパラダイムシフトに関するレジュメを読ん予習・復習しておくこと	4時間
第15回	オンデマンド	授業全体の総括を行う。	授業で配布した授業全体の総括に関するレジュメを読ん予習・復習しておくこと	4時間

科目名	流通システム論	開講年度	2025
担当者	二替　大輔	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	流通の存在意義について理解し，企業の流通戦略を理論的に検討する。		
授業の目的及び概要	本講義では，流通の存在根拠を理解し，企業の流通戦略を理論的に検討することを目的とします。具体的には，流通の構造，流通の登場人物間の関係および流通の経済理論を用いた分析手法について学習していきます。講義では，流通に関する基本的な事項，卸売業，小売業の構造，流通現象を経済学的に考えるための基礎知識を解説します。そして，流通に関わる卸売業者や小売業者の戦略，および流通現象の経済学的評価方法について検討していきます。また，講義内容の理解を深めるために問題演習を実施します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	流通の存在根拠を理解し，説明することができる。 生産者，卸売業者，小売業者の関係性について理解し，説明することができる。 現実に見られる流通に関わる企業の行動について，理論的に説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	問題演習については，採点した上で返却します 期末試験については，UNIVERSAL PASSPORT で解答・解説を公開します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	はじめての流通　新版，崔容熏　・原頼利・東伸一，有斐閣，2022 年	ISBN	9784641151031
参考書	①1 からの流通論（第 2 版），石原武政・竹村正明・細井謙一（編著），2018 年 ②現代商業学 新版，高嶋克義，2012 年	ISBN	①9784502283611 ②9784641124646

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	0
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	70
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって
新聞等で流通に関する記事について関心を持ってください。講義内容の理解が進みます。 また，この講義を学ぶことで，様々な流通に関わる現象を理論的に考えられるようになります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	流通とはなにか：流通の定義と流通を学ぶ	【予習】：テキスト第 0 章を読んで商業の基本的な内	4 時間

		必要性について理解する。	容について予習すること 【復習】：授業で配布した資料とテキスト第 0 章を読み直し授業内容の復習をすること	
第２回	対面	流通の役割：流通の登場人物と存在意義について理解する。	【予習】：テキスト第 1 章を読んで流通の基礎について予習すること 【復習】：授業で配布した資料とテキスト第 1 章を読み直し授業内容の復習をすること	4 時間
第３回	対面	小売業の役割：小売業の社会的役割について理解する。	【予習】：テキスト第 2 章を読んで小売業の特徴について予習すること 【復習】：授業で配布した資料とテキスト第 2 章を読み直し授業内容の復習をすること	4 時間
第４回	対面	商品を買う場の形（1）：様々な小売店舗の形態について理解する。	【予習】：テキスト第 3 章第 1 節から第 3 節を読んで小売店舗の形態について予習すること 【復習】：授業で配布した資料とテキスト第 3 章第 1 節から第 3 節を読み直し授業内容の復習をすること	4 時間
第５回	対面	商品を買う場の形（2）：代表的な小売店舗の形態及び小売店舗形態発展論について理解する。	【予習】：テキスト第 3 章第 4 節を読んで代表的な小売店舗の形態及び小売店舗形態発展論について予習すること 【復習】：授業で配布した資料とテキスト第 3 章第 4 節を読み直し授業内容の復習をすること	4 時間
第６回	対面	プライベート・ブランド（PB）の展開：小売業者の PB の開発の目的とその条件について理解する。	【予習】：テキスト第 4 章を読んで PB の仕組みについて予習すること 【復習】：授業で配布した資料とテキスト第 4 章を読み直し授業内容の復習をすること	4 時間
第７回	対面	卸売業の役割：卸売業者の役割について理解する。	【予習】：テキスト第 5 章を読んで卸売業者の役割について予習すること 【復習】：授業で配布した資料とテキスト第 5 章を読み直し授業内容の復習をすること	4 時間
第８回	対面	マーケティング・チャネルの役割：流通における生産者（メーカー）の行動について理解する。	【予習】：テキスト第 6 章を読んでマーケティング・チャネルについて予習すること 【復習】：授業で配布した資料とテキスト第 6 章を読み直し授業内容の復習をすること	4 時間
第９回	対面	情報技術の発達と流通：流通における情報技術の影響について理解する。	【予習】：テキスト第 7 章を読んで流通と情報技術の関係について予習すること 【復習】：授業で配布した資料とテキスト第 7 章を読み直し授業内容の復習をすること	4 時間
第１０回	対面	物流の役割：流通過程における商品の流れ（物流）の流通過程に与える影響を理解する。	【予習】：テキスト第 8 章を読んで物流管理について予習すること 【予習】：授業で配布した資料とテキスト第 8 章を読み直し授業内容の復習をすること	4 時間
第１１回	対面	グローバル流通：流通における国際化の問題について理解する。	【予習】：テキスト第 9 章を読んで流通における国際化について予習すること 【復習】：授業で配布した資料とテキスト第 9 章を読み直し授業内容の復習をすること	4 時間
第１２回	対面	サービス財の流通：無形の商品（サービス財）に流通について理解する。	【予習】：テキスト第 10 章を読んでサービス財について予習すること 【復習】：授業で配布した資料とテキスト第 10 章を読み直し授業内容の復習をすること	4 時間
第１３回	対面	産業財の流通：企業や組織向けに販売される商品（産業財）の流通について理解する。	【予習】：テキスト第 11 章を読んで産業財について予習すること 【復習】：授業で配布した資料とテキスト第 11 章を読み直し授業内容の復習をすること	4 時間
第１４回	対面	流通政策とまちづくり：流通の社会的役割と流通政策について理解する。	【予習】：テキスト 12 章を読んで流通の社会的役割と流通政策について予習すること 【復習】：テキスト 12 章を読み直し授業内容の復習をすること	4 時間
第１５回	オンデ	講義内容のまとめ：講義全体のまとめを行	【予習】：テキスト第 1 章～第 12 章および配布資料	4 時間

	マンド	う。	を読んで理解できなかったところをまとめておくこと 【復習】：授業で配布した資料を使って，後半の内容を復習すること	

科目名	企業の社会的責任論	開講年度	2025
担当者	垣谷　幸介	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	企業の社会的責任とは何か、CSR や SDGs の観点から学び、同時に企業の不祥事や不正についてその要因と防止策を修得する。		
授業の目的及び概要	・現在企業は、経済的視角だけではなく、社会的な視角が重要視されている。従来はメセナといった文化的な視角に重点が置かれていたが、現代企業は CSR（Corporate Social Responsibility,企業の社会的責任)の重要性が問われ､直面する SDGs(Sustainable Developing Goals)や ESG（Enverament・Social・Government，環境・社会・統治）投資が経営課題となる。具体的には、これまでの歴史経緯を学び、①環境、②人権、③労働、④企業倫理と不正、⑤ジェンダー、⑥マイノリティと LGBT、⑦ハラスメント等、⑧不正や不祥事など現代企業が直面する問題を取り上げ、ディスカッションしながら進めたい。 ・よって前半は基礎知識の修得を中心とし、後半は現代企業が直面する課題を取り上げ、ディスカッションしながら進める。課題に対しては、記事や文献を読み、自分の意見を持って授業に参加してほしい。		
履修条件・留意点	・基礎知識は修得するが、絶対的な「正義」は存在しないことを理解していること。 ・現在的な課題に対して、真摯に向き合う気持ちのあること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①CSR の基礎知識を理解し、CSR とは何かを説明できること。 ②関連するメセナ、ESG 投資、SDGs、企業倫理について説明でき、課題を明確にして自分自身の意見とその理由を主張できること。 ③企業の経済性に加え、なぜ社会性が重要なのか、説明できること。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・基礎知識は、中間テストまたは小テストを実施し、各自にフィードバックする。 ・ディスカッション上の技法は、授業中に具体的にフィードバックする。 ・レポート上の課題（構成、表現等）は、別途フィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、大手自動車会社で 35 年以上勤務し 5 回の海外駐在経験があり、中国での現地法人設立及び営業企画や国際貿易に加え、生産管理や人事労務管理の業務に従事するなどの実務経験を有している。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	なし ＊講義資料を配布	ISBN	なし
参考書	①SDGs の経営学　経営問題の解決に向けて，上林憲雄・小松章編著，千倉書房，2022 年 ②企業倫理入門，高浦康有・藤野真也，白桃書房，2022 年	ISBN	①9784805112601 ②9784561257493

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	30
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	40
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0

	その他の内容	
この科目の受講にあたって	企業の持つ「社会性」に焦点を当てて、進めます。CSR、ESG 投資、SDGs、企業倫理に関心のある方に、受講をお勧めします。また本授業を受講することによって、日々報道される企業の環境問題、人権問題、労働問題（過労死や児童労働など）、不正問題、差別問題など、企業を取り巻く課題とそのステークホルダー（株主、顧客、調達先、従業員、政府機関、NPO/NGO 等）との関係を理解し、自分自身の意見（主張）を身に付けてもらいたいと思います。小生はこれまで、企業の内部にいながらこれら課題に対峙していましたので、その経験知を形式知化しながら、進めたいと思います。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	オリエンテーション ①講師の自己紹介、②講義の進め方（講義、アジェンダ別ディスカッション）、③評価方法の説明、④頭の体操（トロッコ問題）	事前学修：シラバスを一読して、何に一番関心があるのか、準備して来てください。 事後学修：トロッコ問題を復習して、なぜ自分自身はそう判断するのか、再考してください（正解はありません）。	4 時間
第２回	対面	＜基礎知識①＞CSR（企業の社会的責任）とは何か、その基本知識を学ぶ。	事前学修：講義資料を一読し、疑問点を持つこと 事後学修：国際社会の情勢や、日本の立ち位置を理解し、企業の関わる経営課題を理解すること	4 時間
第３回	対面	＜基礎知識②＞メセナとは何か、これまでの日本企業の文化的活動を振り返りながら、学ぶ。	事前学修：講義資料を一読し、疑問点を持つこと 事後学修：国際社会の情勢や、日本の立ち位置を理解し、企業の関わる経営課題を理解すること	4 時間
第４回	対面	＜基本知識③＞SDGs とは何か、国連が採択した SDGs を理解の上、何か国際社会及び企業に問われているのかを学ぶ	事前学修：講義資料を一読し、疑問点を持つこと 事後学修：国際社会の情勢や、日本の立ち位置を理解し、企業の関わる経営課題を理解すること	4 時間
第５回	対面	＜基礎知識④＞ESG 投資とは何か、企業評価として特に機関投資家が ESG に注目している点や課題を学ぶ。	事前学修：講義資料を一読し、疑問点を持つこと 事後学修：国際社会の情勢や、日本の立ち位置を理解し、企業の関わる経営課題を理解すること	4 時間
第６回	対面	＜基礎知識③＞ビジネス倫理その１、市民や企業の価値判断がどこから来ているのか、学ぶ。 功利主義、義務論	事前学修：講義資料を一読し、疑問点を持つこと 事後学修：国際社会の情勢や、日本の立ち位置を理解し、企業の関わる経営課題を理解すること	4 時間
第７回	対面	＜基礎知識⑤＞ビジネス倫理その２ 正義論、徳の倫理	事前学修：講義資料を一読し、疑問点を整理しておくこと。 事後学修：講義中のディスカッションによって、どのような観点から判断されるべきか、それぞれの立場や理論を理解する。	4 時間
第８回	対面	中間テスト、または口頭によるディスカッションを実施予定（受講者数の多寡によって、中間評価方法を決める予定です）。	事前学修：事前に文献を読み、論点を整理し、疑問点を明確にしておく。 事後学修：講義中のディスカッションによって、どのような観点から判断されるべきか、それぞれの立場や理論を理解する。	4 時間
第９回	対面	＜ケース①：児童労働／囚人労働＞ 文献：「リーバイ・ストラウス社：世界での調達」『ハーバードのケースで学ぶ企業倫理』，リン・シャープ・ペイン，慶應義塾大学出版社，1999 年 ＊文献は，別途配布	事前学修：事前に文献を読み、論点を整理し、疑問点を明確にしておく。 事後学修：講義中のディスカッションによって、どのような観点から判断されるべきか、それぞれの立場や理論を理解する。	4 時間
第１０回	対面	＜ケース②：労働＞過労死問題を考える 文献：過労死問題の事例、＊別途配布。	事前学修：各自調査の上、論点を整理し、改善点や疑問点を明確にしておく。 事後学修：講義中のディスカッションによって、どのような観点から判断されるべきか、それぞれの立場や理論を理解する。	4 時間
第１１回	対面	＜ケース③：ダイバシティ、女性労働＞ 文献：「第 6 章　日本企業における女性役員登用と企業業績」『SDGs の経営学』，「第	事前学修：事前に文献を読み、論点を整理し、疑問点を明確にしておく。 事後学修：講義中のディスカッションによって、どの	4 時間

		8 章　従業員関連の倫理」『ビジネスの倫理学』（参考書を参照） ＊文献は、別途配布	ようか観点から判断されるべきか、それぞれの立場や理論を理解する。	
第１２回	対面	＜ケース④：事故＞JR 西日本の福知山線脱線事故と新幹線台車亀裂問題 文献：ケースを配布の上、使用予定	事前学修：事前に文献を読み、論点を整理し、疑問点を明確にしておく。 事後学修：講義中のディスカッションによって、どのようか観点から判断されるべきか、それぞれの立場や理論を理解する。	4 時間
第１３回	対面	＜ケース⑤：地球温暖化問題＞ COP の歴史的展開と、パリ協定について理解の上、その解決のための企業行動を考える。その上で、電気自動車（EV)は、どう評価すべきかをディスカッションする。	事前学修：事前に文献を読み、論点を整理し、疑問点を明確にしておく。 事後学修：講義中のディスカッションによって、どのようか観点から判断されるべきか、それぞれの立場や理論を理解する。	4 時間
第１４回	対面	＜ケース⑥：原子力発電と福島原発事故＞ 日本のエネルギー政策を理解の上、福島原発事故に対する社会的責任を考える。	事前学修：事前に文献を読み、論点を整理し、疑問点を明確にしておく。 事後学修：講義中のディスカッションによって、どのようか観点から判断されるべきか、それぞれの立場や理論を理解する。	4 時間
第１５回	オンデマンド	これまでの学修内容を、オンデマンドで復習し、今後の行動指針を考える	事前学修：不要 事後学修：自分自身で理解度を復習	4 時間

科目名	会計学	開講年度	2025
担当者	川口　将輝	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	会計学に関する基礎的な知識、財務諸表分析の手法の修得。		
授業の目的及び概要	本科目は、会計学の初学者を対象に開設されるものであり、会計学に関する基礎的な知識や考え方について学修することが目的です。具体的には、会計学分野の主要な領域である簿記、財務会計、管理会計、国際会計、監査について学修し、企業会計の意義と役割を理解します。さらに、財務諸表分析の基礎的な手法について学修し、何を読み取ることができるか理解することを目指します。		
履修条件・留意点	－		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①会計学に関する基礎的な知識や企業会計の役割について理解し、説明することができる。 ②財務諸表分析の基礎的な手法を使用し、その結果から何が読み取れるか説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	中間試験は返却し、解説・講評を行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、公認会計士（日本公認会計士協会会員）であり、監査法人にて様々な監査業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	会計・ファイナンスの基礎・基本　改訂版，島本克彦・片上孝洋・粂井淳子・引地夏奈子・藤原大花，創成社，2025 年	ISBN	9784794416025
参考書	－	ISBN	－

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	0
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	40
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	60
その他（%）	0
その他の内容	－

この科目の受講にあたって	国際的なビジネスの場における共通言語は英語だけではありません。「会計」もまた国際的なビジネスの場における共通言語と呼ばれます。会計は、企業の活動を金額という数値で表し、それを必要とする人々に情報提供を行うものです。細部は異なるものの、基本的な項目は多くの国でほぼ共通しており、また、数字で表されるため、項目さえ理解できれば母国語が何であろうと企業の活動を読み取ることができます。そのため、国際的なビジネスの場で活躍するためには「会計」は極めて重要な知識になります。国際的なビジネスの場で活躍したい学生は受講してください。

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第１回	対面	ガイダンス後、会計の本質・役割について学びます。	【事前学修】テキストの序章「会計の本質・役割・計算基礎」（pp. 2-4）を事前に読んでおくこと。 【事後学修】テキスト等を読み直し、授業で説明した内容とともに復習しておくこと。	4 時間
第２回	対面	複式簿記について学びます。	【事前学修】テキストの第１章「複式簿記」を事前に読んでおくこと。 【事後学修】テキスト等を読み直し、授業で説明した内容とともに復習しておくこと。	4 時間
第３回	対面	財務会計について学びます。	【事前学修】テキストの第２章「財務会計」を事前に読んでおくこと。 【事後学修】テキスト等を読み直し、授業で説明した内容とともに復習しておくこと。	4 時間
第４回	対面	企業会計を支える仕組みについて学びます。	【事前学修】テキストの第３章「企業会計を支える仕組み」を事前に読んでおくこと。 【事後学修】テキスト等を読み直し、授業で説明した内容とともに復習しておくこと。	4 時間
第５回	対面	国際会計について学びます。	【事前学修】テキストの第 14 章「国際会計」（pp. 168-172）を事前に読んでおくこと。 【事後学修】テキスト等を読み直し、授業で説明した内容とともに復習しておくこと。	4 時間
第６回	対面	監査について学びます。	【事前学修】テキストの第 13 章「監査」を事前に読んでおくこと。 【事後学修】テキスト等を読み直し、授業で説明した内容とともに復習しておくこと。	4 時間
第７回	対面	管理会計について学びます。	【事前学修】テキストの第８章「管理会計」を事前に読んでおくこと。 【事後学修】テキスト等を読み直し、授業で説明した内容とともに復習しておくこと。	4 時間
第８回	対面	中間試験	【事前学修】中間試験に向けてテキスト等を読み直し、授業で説明した内容とともに復習しておくこと。	4 時間
第９回	対面	中間試験について解説します。	【事後学習】中間試験で間違えた箇所について、テキスト等を読み直し、授業での説明とともに復習しておくこと。	4 時間
第１０回	対面	財務諸表分析の基礎について学びます。	【事前学修】テキストの第９章「財務諸表分析の基礎」を事前に読んでおくこと。 【事後学修】テキスト等を読み直し、授業での説明とともに復習しておくこと。	4 時間
第１１回	対面	財務諸表分析（収益性の分析、安全性の分析）について学びます。	【事前学修】テキストの第 10 章「財務諸表分析」（pp. 120-125）を事前に読んでおくこと。 【事後学修】テキスト等を読み直し、授業での説明とともに復習しておくこと。	4 時間
第１２回	対面	財務諸表分析（キャッシュ・フローに関する分析）について学びます。	【事前学修】テキストの第 10 章「財務諸表分析」（pp. 127-128）を事前に読んでおくこと。 【事後学修】テキスト等を読み直し、授業での説明とともに復習しておくこと。	4 時間
第１３回	対面	財務諸表分析（事例①）について学びます。	【事前学修】テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。 【事後学修】配布された演習問題を繰り返くこと。	4 時間
第１４回	対面	財務諸表分析（事例②）について学びます。	【事前学修】テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。 【事後学修】配布された演習問題を繰り返くこと。	4 時間
第１５回	オンデマンド	まとめ	【復習】定期試験に向けてテキスト等を読み直し、授業で説明した内容とともに復習しておくこと。	4 時間

科目名	アントレプレナーシップ論	開講年度	2025
担当者	竹田　次郎	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	アントレプレナーシップとは何か。アントレプレナーとはどういう人か。歴史的・社会的背景と関連させて学修します。		
授業の目的及び概要	事業を立ち上げ、発展させるためには、アントレプレナーシップが必要とされます。アントレプレナーとは、独創性と冒険性に富んだ企業家または起業家のことを指します。本科目は、将来みずから起業したり、企業等の就職先で新しいことに挑戦したいという志のある受講生に向け、基礎理論に加え、実践につながる知識・方法論を提供するものです。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・アントレプレナーシップの概念を歴史的・社会的背景と関連させて理解している。 ・事例を通してアントレプレナーシップの要諦を理解し、経営学やマーケティングの理論にどう関連しているか理解している。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメント・シート等を通じて意見や疑問を出してもらい、授業内でリプライします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、セメントメーカーで 20 年以上に渡って人事部門や会計部門で業務に従事しており、人事課長の経験も有している。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	１からのアントレプレナーシップ〔第二版〕,山田幸三・江島由裕，碩学社，2020 年	ISBN	9784502493416
参考書	参考書は、授業中に適宜指示します。	ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	0
授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	60
その他（%）	0
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	会社での実務経験に基づいて、理論や事例をわかりやすく説明していきます。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	【ガイダンス：アントレプレナーシップとは】　テキスト第１章 　この講義の進め方や評価方法を説明します。また、基礎理論について学びます。	授業での説明の内容を基に復習してください。	2 時間

第２回	対面	【アントレプレナーシップの社会的意義と教育】　テキスト第２、３章 　アントレプレナーの果たす役割や、そのために何が必要かを学びます。	授業での説明や授業配布資料を基に復習してください。	4 時間
第３回	対面	【エキスパート・アントレプレナーシップ】　テキスト第４章 　アントレプレナーは如何にして新事業を創造するか。松下電器器具製作所などの事例を通じ、学びます。	授業での説明や授業配布資料を基に復習してください。	4 時間
第４回	対面	【多彩なアントレプレナーシップ①（ファミリーアントレプレナー）】　第５章 　ファミリーアントレプレナーにはどういう特徴があるか。武田薬品などを事例に学びます。	授業での説明や授業配布資料を基に復習してください。	4 時間
第５回	対面	【多彩なアントレプレナーシップ②（コーポレート・アントレプレナー）】第６章 　社内からアントレプレナーを生み出すには何が必要かを学びます。	授業での説明や授業配布資料を基に復習してください。	4 時間
第６回	対面	【多彩なアントレプレナーシップ③（アカデミック・アントレプレナー）】第７章 　大学の研究現場からアントレプレナーは生まれるのか、そのためには何が必要かを学びます。	授業での説明や授業配布資料を基に復習してください。	4 時間
第７回	対面	【多彩なアントレプレナーシップ④（ソーシャル・アントレプレナー）】　第８章 　アントレプレナーは社会的課題を解決できるのか、ソーシャル・アントレプレナーの概念を通して学びます。	授業での説明や授業配布資料を基に復習してください。	4 時間
第８回	対面	【ライフステージとアントレプレナーシップ①（アントレプレナーシップとイノベーション】　第９章 　如何にしてイノベーションを実現するのか、有効なのは持続的イノベーションかイノベーションか、等を学びます。	授業での説明や授業配布資料を基に復習してください。	4 時間
第９回	対面	【ライフステージとアントレプレナーシップ②（誕生・成長初期のアントレプレナーシップ）】　第１０章 　アントレプレナーは、どのように事業機会を見つけ、どのようなビジネスモデルで勝負するのか、学びます。	授業での説明や授業配布資料を基に復習してください。	4 時間
第１０回	対面	【ライフステージとアントレプレナーシップ③（成長期のビジネスと外部資源・内部資源）】　第１１章 　経営資源をどのように獲得して、それを如何に蓄積して組織を強くするのかを学びます。	授業での説明や授業配布資料を基に復習してください。	4 時間
第１１回	対面	【ライフステージとアントレプレナーシップ④（長寿企業とベンチャービジネス）】　第１２章 　ビジネスシステムは伝統産業を如何に存続させたのかを学びます。	授業での説明や授業配布資料を基に復習してください。	4 時間
第１２回	対面	【地域とアントレプレナーシップ①（エスニック・マイノリティ）】　第１３章 　コミュニティはアントレプレナーの活力を如何に生み出すのか、神戸長田のケミカルシューズ産業などを事例に学びます。	授業での説明や授業配布資料を基に復習してください。	4 時間

第１３回	対面	【地域とアントレプレナーシップ②(グローバル)】　第１４章 　新興国企業はいかにグローバルするのかを学びます。	授業での説明や授業配布資料を基に復習してください。	4 時間
第１４回	対面	【地域とアントレプレナーシップ③(エコシステム)】　第１５章 　なぜシリコンバレーはアントレプレナーを輩出し続けるのか、そのメカニズムを学びます。	授業での説明や授業配布資料を基に復習してください。	4 時間
第１５回	オンデマンド	【振り返りとまとめ】 　第 1 回～14 回の授業に関する補足説明と振り返り及び定期試験の説明を行います。	授業での説明や授業配布資料を基に復習してください。	6 時間

科目名	貿易実務	開講年度	2025
担当者	高砂　謙二	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	貿易取引における全体像の理解		
授業の目的及び概要	この授業は、貿易取引の基礎について理解させることを目的としています。そのために、国内取引とは異なる諸規則や商慣習を前提とした、国際商取引に関する契約や規則、商慣習等の知識も修得します。具体的には、貿易取引の各段階を説明し、一連の貿易取引（信用状ベース取引、信用状なし取引、送金ベース取引等）の流れを把握したのち、貿易実務に必要な知識について解説します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・貿易取引の全体構造を説明できる。 ・貿易取引に必要な諸規則や商慣習を説明できる。 ・信用状取引の有用性を説明できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	小テストについては、授業中に解説及び講評を行うこととする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、金融機関において営業店や外国部、審査部、経営企画等で 16 年間勤務し、銀行業務全般や国際業務（外国為替リーディング業務、外為与信審査業務、国際経営・貿易相談業務、輸出入貿易書類点検業務）、法務・市場調査・広報等の実務経験を積んできた。本科目では、国際的なマーケットの実態や外国為替相場の特性などについて、こうした実務経験を活かして解説するなど、実践的な教育を行う。		
テキスト	①よくわかる貿易実務入門（改訂 4 版），片山 立志, 日本能率協会マネジメントセンター, 2022 年	ISBN	①9784800590169
参考書	なし	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	0
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	70
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	授業用にノートを 1 冊準備し、毎回持参して、必要に応じてメモを取るようにして下さい。また、近年の事例を取り上げるため、常日頃から新聞・ニュース等で関連の情報収集に努めて下さい。また、事前に教科書で事前学修することが、復習については教科書、講義資料、ノートで授業外の学修を行うことが望まれます。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	講義の概要と今後の授業の進め方につい	【予習】事前学修として、この科目のシラバスを読み	4 時間

		て説明を行う。	込むとともに、 貿易実務 ＜貿易商務論＞を受講するにあたってのポイントについて確認しておいて下さい。 【復習】事後学修として、授業での説明部分について、ノートを読み返し、あらためてポイントになるところは何かを考えながら復習して下さい。	
第２回	対面	貿易取引と貿易取引の取引形態について解説します。 ①貿易取引 ②貿易取引の取引形態	【予習】事前学修として、教科書（10-15 頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4 時間
第３回	対面	貿易取引の流れ（1）について解説します。 ①貿易取引の流れ ②オファー	【予習】事前学修として、教科書（16-24 頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4 時間
第４回	対面	貿易取引の流れ（2）について解説します。 ①契約・信用状発行・輸出業務・荷為替手形 ②代金の支払いから貨物の引き渡しまで	【予習】事前学修として、教科書（26-35 頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4 時間
第５回	対面	信用状と信用状統一規則について解説します。 ①信用状と代金決済 ②信用状統一規則	【予習】事前学修として、教科書（36-39 頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4 時間
第６回	対面	信用状の種類と信用状発行依頼について解説します。 ①信用状の種類 ②信用状発行依頼	【予習】事前学修として、教科書（74-75 頁、86-91 頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4 時間
第７回	対面	輸入取引の代金決済について解説します。 ①荷為替手形の決済 ②代金決済方法	【予習】事前学修として、教科書（102-103 頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4 時間
第８回	対面	荷物引取保証と為替予約について解説します。 ①荷物引取保証 ②為替予約	【予習】事前学修として、教科書（114-117 頁、104-105 頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4 時間
第９回	対面	取引条件とインコタームズの概要について解説します。 ①取引条件 ②インコタームズの概要	【予習】事前学修として、教科書（44-51 頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4 時間
第１０回	対面	インコタームズの解説（1）について解説します。 ①インコタームズの解説（1）	【予習】事前学修として、教科書（44-55 頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4 時間
第１１回	対面	インコタームズの解説（2）と輸出入貨物の価格について解説します。 ①インコタームズの解説（2） ②輸出入貨物の価格	【予習】事前学修として、教科書（56-61 頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4 時間
第１２回	対面	輸送形態と海上コンテナ輸送を解説しま	【予習】事前学修として、教科書（62-71 頁）を読み	4 時間

		す。 ①輸送形態 ②海上コンテナ輸送	事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	
第１３回	対面	輸出実務の流れと貿易書類（1）を解説します。 ①輸出実務の流れ ②貿易書類	【予習】事前学修として、教科書（140-141 頁、146-147 頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4 時間
第１４回	対面	輸出実務の流れと貿易書類②について解説する ①貿易書類	【予習】事前学修として、教科書（152-155 頁、184-185 頁、188-193 頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4 時間
第１５回	オンデマンド	授業全体の総括	【予習】事前学修として、教科書・ノートで事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4 時間

科目名	基礎演習 A	開講年度	2025
担当者	姜　若冰	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	世界への関心を持つとともに大学での学びについて知る		
授業の目的及び概要	この授業は、大学での学修に必要な学修態度や技能等を身につけることを目的とします。授業を通して、自ら学び、行動する主体性と学修技法を身につけさせるとともに、グローバル社会の諸課題への興味を喚起し、大学での学修の動機づけ等を行います。また、大学における良好な人間関係を構築し、他者を理解してコミュニケーションを図る能力の向上、グループワークを通じた協働力とリーダーシップの育成、将来に向けたキャリア意識の形成も図ります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	授業での取組をとおして、以下の到達目標の達成を目指します。 ① 大学という場（自律性）を理解している。 ② 積極的で能動的な学修態度と大学で学修を行うための基礎的な技能を身につけている。 ③ 異なる価値観や文化的背景をもつ他者と協働する大切さを知っている。 ④ 「世界を知る」ことに対する意欲と異文化に対する「気づき」を持っている。 ⑤ 国際キャリアにおける幅の広いキャリア像を持っている。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題等に取り組み、それについて教員がコメントする等のフィードバックを実施します。作成した課題等は学修ポートフォリオに蓄積し、学修の振り返りに役立てます。		
アクティブ・ラーニングの取組み	プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定しない。	ISBN	なし
参考書	参考文献は基礎演習のなかで適宜指示する。	ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	50
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	20
その他の内容	リフレクションペーパー

この科目の受講にあたって
授業での取組に積極的に参加して、課せられた課題に取り組んでください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクションと学修目標の設定	復習　卒業までの期間を視野に入れて、各年次の目	2 時間

		授業の概要と今後の進め方について説明する。 国際学部における留学･体験科目の説明を行う。	標を想定した上で、１年間、さらには春学期の現実的な目標を立てる。	
第２回	対面	ノート・テイキングについて学ぶ（１） アカデミックスキルとして、ノート・テイキングについて学ぶ。 大学の授業の特徴を知り、講義資料にもとづくメモの取り方と、復習としての整理ノートの作り方を説明する。 海外体験について詳細な説明を行う。	復習　授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	3 時間
第３回	対面	ノート・テイキングについて学ぶ（２） 作成した整理ノートの相互批評を行い、教員からのフィードバックを得る。その後、各自整理ノートを改善する。 また、遠隔（オンデマンド型）授業を受ける際の注意点を説明する。	復習 授業後に、学んだ内容を活かして、整理ノートを作成する。	2 時間
第４回	対面	授業コメントのまとめ方 講義において課される授業コメントの意義と、成績評価との関係を説明する。その後、各自授業コメントを執筆する。	復習 授業後に、授業で学んだ内容について授業コメントを作成する。	4 時間
第５回	対面	文献の内容を読み解く（1） 課題文献を輪読し、専門用語を調べる。その後、文献の精読の仕方について解説を行う。	予習　課題文献を事前に読む。 復習　　学んだ内容内容について授業コメントを作成する。	4 時間
第６回	対面	文献の内容を読み解く（2） 課題文献に基づき、要点ノートの作成方法と要約の仕方を説明する。	復習　授業中に配布される課題文献を読み、要点ノートを作成する。	4 時間
第７回	対面	文献の内容を読み解く（3） 課題文献の精読を行う。作成した要点ノートの加筆修正を行い、要約を作成する。	復習　課題文献の要約を完成させる。	6 時間
第８回	対面	研究発表（プレゼンテーション）について学ぶ（1） 課題文献の内容についてプレゼンテーションを作成する。周辺の研究を調べることを目的に、文献の探し方と参考文献リストの作成方法について学ぶ。	復習　　参考文献リストを完成させる。	6 時間
第９回	対面	研究発表（プレゼンテーション）について学ぶ（２） 図書館ガイダンスを行い。本学図書館の利用方法について学ぶ。	復習　参考文献リストを更新し、最新版を作成する。	6 時間
第１０回	対面	研究発表（プレゼンテーション）について学ぶ（３） インターネットを利用した文献の収集方法について説明する。その後、各自参考文献リストを更新する。	復習　参考文献リストを更新し、最新版を作成する。	2 時間
第１１回	対面	研究発表（プレゼンテーション）について学ぶ（4） PowerPoint を使用したプレゼンテーション資料の作り方、プレゼンテーションの仕方および聞き方を説明する。その後、各自資料を作成する。	復習　プレゼンテーション資料を完成させる。	4 時間
第１２回	対面	クラス内研究発表（プレゼンテーション）（１）	復習　授業コメントを作成する。	4 時間
第１３回	対面	クラス内研究発表（プレゼンテーション）（2）	復習　授業コメントを作成する。	4 時間
第１４回	対面	クラス内研究発表（プレゼンテーション）	復習　各自のプレゼンテーション発表資料を加筆・	4 時間

		を振り返る。	修正し、完成させる。	
第１５回	オンデマンド	春学期学修内容の総括。 期末試験の注意事項について指導を行う。	復習　春学期全体について振り返る。完成版のプレゼンテーション資料を提出する。	2 時間

科目名	基礎演習 A	開講年度	2025
担当者	ボイキン　舞	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	世界への関心を持つとともに大学での学びについて知る		
授業の目的及び概要	この授業は、大学での学修に必要な学修態度や技能等を身につけることを目的とします。授業を通して、自ら学び、行動する主体性と学修技法を身につけさせるとともに、グローバル社会の諸課題への興味を喚起し、大学での学修の動機づけ等を行います。また、大学における良好な人間関係を構築し、他者を理解してコミュニケーションを図る能力の向上、グループワークを通じた協働力とリーダーシップの育成、将来に向けたキャリア意識の形成も図ります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	授業での取組をとおして、以下の到達目標の達成を目指します。 ① 高校とは異なる大学という場（自律性）を理解している。 ② 積極的で能動的な学修態度と大学で学修を行うための基礎的な技能を身につけている。 ③ 異なる価値観や文化的背景をもつ他者と協働する大切さを知っている。 ④ 「世界を知る」ことに対する意欲と異文化に対する「気づき」を持っている。 ⑤ 国際キャリアにおける幅の広いキャリア像を持っている。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題等に取り組み、それについて教員がコメントする等のフィードバックを実施します。作成した課題等は学修ポートフォリオに蓄積し、学修の振り返りに役立てます。		
アクティブ・ラーニングの取組み	プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定しない。	ISBN	なし
参考書	参考文献は基礎演習のなかで適宜指示する。	ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	50
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	20
その他の内容	リフレクションペーパー

この科目の受講にあたって	
	授業での取組に積極的に参加して、課せられた課題に取り組んでください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクションと学修目標の設定	復習　4 年間を視野に入れて、各年次の目標を想定し	2 時間

		授業の概要と今後の進め方について説明する。スチューデントアシスタントによる春学期の目標の経験談などを通じて、具体的かつバックキャスティングによる目標の設定の仕方を学ぶ。 1学期間に何をどれほど学ばなければならないのかを確認し、1週間のタイムスケジュールを作成する。	た上で、1年間、さらには春学期の現実的な目標を立てる。	
第2回	対面	大学で学ぶための基礎づくり 国際学部における留学・体験科目と2年次以降のコース選択について説明を行う。 大学の成績評価やシラバスの読み方について解説する。 アイスブレーキングの実施により、クラス内での良好な人間関係を構築し、協働力を高める。	復習　保護者とも相談しながら、2年次以降のコース選択をどうするのか検討しておくこと。 復習　授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	2時間
第3回	対面	ノートの整理（1） アカデミックスキルとして、ノート・テイキングについて学ぶ。大学の授業の特徴を知り、講義資料に基づくメモの取り方と、復習としての整理ノートの作り方を説明する。	復習　基礎演習で学んだ内容の復習として、国際学基礎A・Bの整理ノートを作成する。	6時間
第4回	対面	ノートの整理（2） 作成した整理ノートの相互批評を行い、教員からのフィードバックを得る。 その後、各自整理ノートを改善する。	復習　基礎演習で学んだ内容の復習として、国際学基礎A・Bの整理ノートを作成する。	6時間
第5回	対面	授業コメントのまとめ方 講義において課される授業コメントの意義と、成績評価との関係を説明する。 その後、各自授業コメントを執筆する。	復習　基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第6回	対面	文献の内容を読み解く（1） 課題文献を輪読し、専門用語を調べる。 その後、文献の精読の仕方について解説を行う。	予習　課題文献を事前に読む。 復習　基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第7回	対面	文献の内容を読み解く（2） 課題文献に基づき、要点ノートの作成方法と要約の仕方を説明する。	復習　授業中に配布される課題文献を読み、要点ノートを作成する。	4時間
第8回	対面	文献の内容を読み解く（3） 課題文献の精読を行う。作成した要点ノートの加筆修正を行い、要約を作成する。	復習　課題文献の要約を完成させ、提出する。	4時間
第9回	対面	プレゼンテーションの作り方（1） 課題文献の内容についてプレゼンテーションを作成する。 周辺の研究を調べることを目的に、文献の探し方と参考文献リストの作成方法について学ぶ。	復習　参考文献リストを完成させ、提出する。	4時間
第10回	対面	プレゼンテーションの作り方（2） 図書館ガイダンスを行い、本学図書館の利用方法について学ぶ。	復習　参考文献リストを更新し、最新版を提出する。	4時間
第11回	対面	プレゼンテーションの作り方（3） インターネットを利用した文献の収集方法について説明する。 その後、各自参考文献リストを更新する。	復習　参考文献リストを更新し、最新版を提出する。	4時間
第12回	対面	プレゼンテーションの作り方（4） PowerPoint を使用したプレゼンテーション資料の作り方、プレゼンテーションの仕方および聞き方を説明する。	復習　プレゼンテーションを完成させ、提出する。	4時間

		その後、各自資料を作成する。		
第１３回	対面	クラス内プレゼンテーションコンテスト	復習　授業コメントを作成し、提出する。	4 時間
第１４回	対面	1 年生プレゼンテーションコンテスト	復習　授業コメントを作成し、提出する。	4 時間
第１５回	オンデマンド	春学期の振り返り 春学期学修したことのまとめ、夏休み・秋学期に向けて説明を行った上で、期末試験の注意点について指導を行う。	復習　授業のまとめについて振り返りを行う。	4 時間

科目名	基礎演習 A	開講年度	2025
担当者	池上　寛	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	世界への関心を持つとともに大学での学びについて知る		
授業の目的及び概要	この授業は、大学での学修に必要な学修態度や技能等を身につけることを目的とします。授業を通して、自ら学び、行動する主体性と学修技法を身につけさせるとともに、グローバル社会の諸課題への興味を喚起し、大学での学修の動機づけ等を行います。また、大学における良好な人間関係を構築し、他者を理解してコミュニケーションを図る能力の向上、グループワークを通じた協働力とリーダーシップの育成、将来に向けたキャリア意識の形成も図ります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	授業での取組をとおして、以下の到達目標の達成を目指します。 ① 高校とは異なる大学という場（自律性）を理解している。 ② 積極的で能動的な学修態度と大学で学修を行うための基礎的な技能を身につけている。 ③ 異なる価値観や文化的背景をもつ他者と協働する大切さを知っている。 ④ 「世界を知る」ことに対する意欲と異文化に対する「気づき」を持っている。 ⑤ 国際キャリアにおける幅の広いキャリア像を持っている。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題等に取り組み、それについて教員がコメントする等のフィードバックを実施します。作成した課題等は学修ポートフォリオに蓄積し、学修の振り返りに役立てます。		
アクティブ・ラーニングの取組み	プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、JETRO・アジア経済研究所で 25 年以上に渡って調査研究職に従事しており、その間、在台北海外研究員、研究グループ長代理などを歴任している。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	指定しない。	ISBN	なし
参考書	参考文献は基礎演習のなかで適宜指示する。	ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	50
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	20
その他の内容	リフレクションペーパー

この科目の受講にあたって	授業での取組に積極的に参加して、課せられた課題に取り組んでください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクションと学修目標の設定	復習　4 年間を視野に入れて、各年次の目標を想定し	2 時間

		授業の概要と今後の進め方について説明する。スチューデントアシスタントによる春学期の目標の経験談などを通じて、具体的かつバックキャスティングによる目標の設定の仕方を学ぶ。 1学期間に何をどれほど学ばなければならないのかを確認し、1週間のタイムスケジュールを作成する。	た上で、1年間、さらには春学期の現実的な目標を立てる。	
第2回	対面	大学で学ぶための基礎づくり 国際学部における留学・体験科目と2年次以降のコース選択について説明を行う。 大学の成績評価やシラバスの読み方について解説する。 アイスブレーキングの実施により、クラス内での良好な人間関係を構築し、協働力を高める。	復習　保護者とも相談しながら、2年次以降のコース選択をどうするのか検討しておくこと。 復習　授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	2時間
第3回	対面	ノートの整理（1） アカデミックスキルとして、ノート・テイキングについて学ぶ。大学の授業の特徴を知り、講義資料に基づくメモの取り方と、復習としての整理ノートの作り方を説明する。	復習　基礎演習で学んだ内容の復習として、国際学基礎A・Bの整理ノートを作成する。	6時間
第4回	対面	ノートの整理（2） 作成した整理ノートの相互批評を行い、教員からのフィードバックを得る。 その後、各自整理ノートを改善する。	復習　基礎演習で学んだ内容の復習として、国際学基礎A・Bの整理ノートを作成する。	6時間
第5回	対面	授業コメントのまとめ方 講義において課される授業コメントの意義と、成績評価との関係を説明する。 その後、各自授業コメントを執筆する。	復習　基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第6回	対面	文献の内容を読み解く（1） 課題文献を輪読し、専門用語を調べる。 その後、文献の精読の仕方について解説を行う。	予習　課題文献を事前に読む。 復習　基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第7回	対面	文献の内容を読み解く（2） 課題文献に基づき、要点ノートの作成方法と要約の仕方を説明する。	復習　授業中に配布される課題文献を読み、要点ノートを作成する。	4時間
第8回	対面	文献の内容を読み解く（3） 課題文献の精読を行う。作成した要点ノートの加筆修正を行い、要約を作成する。	復習　課題文献の要約を完成させ、提出する。	4時間
第9回	対面	プレゼンテーションの作り方（1） 課題文献の内容についてプレゼンテーションを作成する。 周辺の研究を調べることを目的に、文献の探し方と参考文献リストの作成方法について学ぶ。	復習　参考文献リストを完成させ、提出する。	4時間
第10回	対面	プレゼンテーションの作り方（2） 図書館ガイダンスを行い、本学図書館の利用方法について学ぶ。	復習　参考文献リストを更新し、最新版を提出する。	4時間
第11回	対面	プレゼンテーションの作り方（3） インターネットを利用した文献の収集方法について説明する。 その後、各自参考文献リストを更新する。	復習　参考文献リストを更新し、最新版を提出する。	4時間
第12回	対面	プレゼンテーションの作り方（4） PowerPoint を使用したプレゼンテーション資料の作り方、プレゼンテーションの仕方および聞き方を説明する。	復習　プレゼンテーションを完成させ、提出する。	4時間

		その後、各自資料を作成する。		
第１３回	対面	クラス内プレゼンテーションコンテスト	復習　授業コメントを作成し、提出する。	4 時間
第１４回	対面	1 年生プレゼンテーションコンテスト	復習　授業コメントを作成し、提出する。	4 時間
第１５回	オンデマンド	春学期の振り返り 春学期学修したことのまとめ、夏休み・秋学期に向けて説明を行った上で、期末試験の注意点について指導を行う。	復習　授業のまとめについて振り返りを行う。	4 時間

科目名	基礎演習 A	開講年度	2025
担当者	三戸　康世	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	世界への関心を持つとともに大学での学びについて知る		
授業の目的及び概要	この授業は、大学での学修に必要な学修態度や技能等を身につけることを目的とします。授業を通して、自ら学び、行動する主体性と学修技法を身につけさせるとともに、グローバル社会の諸課題への興味を喚起し、大学での学修の動機づけ等を行います。また、大学における良好な人間関係を構築し、他者を理解してコミュニケーションを図る能力の向上、グループワークを通じた協働力とリーダーシップの育成、将来に向けたキャリア意識の形成も図ります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	授業での取組をとおして、以下の到達目標の達成を目指します。 ① 高校とは異なる大学という場（自律性）を理解している。 ② 積極的で能動的な学修態度と大学で学修を行うための基礎的な技能を身につけている。 ③ 異なる価値観や文化的背景をもつ他者と協働する大切さを知っている。 ④ 「世界を知る」ことに対する意欲と異文化に対する「気づき」を持っている。 ⑤ 国際キャリアにおける幅の広いキャリア像を持っている。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題等に取り組み、それについて教員がコメントする等のフィードバックを実施します。作成した課題等は学修ポートフォリオに蓄積し、学修の振り返りに役立てます。		
アクティブ・ラーニングの取組み	プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、キャリアコンサルタントや米国 CCE 認定グローバルキャリア開発ファシリテーターの資格を有しており、これまでに海外の法律事務所で翻訳・通訳や国内の民間企業でキャリア教育コーディネーター等の業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	指定しない。	ISBN	なし
参考書	参考文献は基礎演習のなかで適宜指示する。	ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	50
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	20
その他の内容	リフレクションペーパー

この科目の受講にあたって	授業での取組に積極的に参加して、課せられた課題に取り組んでください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第１回	対面	イントロダクションと学修目標の設定 授業の概要と今後の進め方について説明する。スチューデントアシスタントによる春学期の目標の経験談などを通じて、具体的かつバックキャスティングによる目標の設定の仕方を学ぶ。 1学期間に何をどれほど学ばなければならないのかを確認し、1週間のタイムスケジュールを作成する。	復習　4年間を視野に入れて、各年次の目標を想定した上で、1年間、さらには春学期の現実的な目標を立てる。	2時間
第２回	対面	大学で学ぶための基礎づくり 国際学部における留学・体験科目と2年次以降のコース選択について説明を行う。 大学の成績評価やシラバスの読み方について解説する。 アイスブレーキングの実施により、クラス内での良好な人間関係を構築し、協働力を高める。	復習　保護者とも相談しながら、2年次以降のコース選択をどうするのか検討しておくこと。 復習　授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	2時間
第３回	対面	ノートの整理（1） アカデミックスキルとして、ノート・テイキングについて学ぶ。大学の授業の特徴を知り、講義資料に基づくメモの取り方と、復習としての整理ノートの作り方を説明する。	復習　基礎演習で学んだ内容の復習として、国際学基礎A・Bの整理ノートを作成する。	6時間
第４回	対面	ノートの整理（2） 作成した整理ノートの相互批評を行い、教員からのフィードバックを得る。 その後、各自整理ノートを改善する。	復習　基礎演習で学んだ内容の復習として、国際学基礎A・Bの整理ノートを作成する。	6時間
第５回	対面	授業コメントのまとめ方 講義において課される授業コメントの意義と、成績評価との関係を説明する。 その後、各自授業コメントを執筆する。	復習　基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第６回	対面	文献の内容を読み解く（1） 課題文献を輪読し、専門用語を調べる。 その後、文献の精読の仕方について解説を行う。	予習　課題文献を事前に読む。 復習　基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第７回	対面	文献の内容を読み解く（2） 課題文献に基づき、要点ノートの作成方法と要約の仕方を説明する。	復習　授業中に配布される課題文献を読み、要点ノートを作成する。	4時間
第８回	対面	文献の内容を読み解く（3） 課題文献の精読を行う。作成した要点ノートの加筆修正を行い、要約を作成する。	復習　課題文献の要約を完成させ、提出する。	4時間
第９回	対面	プレゼンテーションの作り方（1） 課題文献の内容についてプレゼンテーションを作成する。 周辺の研究を調べることを目的に、文献の探し方と参考文献リストの作成方法について学ぶ。	復習　参考文献リストを完成させ、提出する。	4時間
第１０回	対面	プレゼンテーションの作り方（2） 図書館ガイダンスを行い、本学図書館の利用方法について学ぶ。	復習　参考文献リストを更新し、最新版を提出する。	4時間
第１１回	対面	プレゼンテーションの作り方（3） インターネットを利用した文献の収集方法について説明する。 その後、各自参考文献リストを更新する。	復習　参考文献リストを更新し、最新版を提出する。	4時間
第１２回	対面	プレゼンテーションの作り方（4） PowerPoint を使用したプレゼンテーション資料の作り方、プレゼンテーションの仕	復習　プレゼンテーションを完成させ、提出する。	4時間

		方および聞き方を説明する。 その後、各自資料を作成する。		
第１３回	対面	クラス内プレゼンテーションコンテスト	復習　授業コメントを作成し、提出する。	4 時間
第１４回	対面	1 年生プレゼンテーションコンテスト	復習　授業コメントを作成し、提出する。	4 時間
第１５回	オンデマンド	春学期の振り返り 春学期学修したことのまとめ、夏休み・秋学期に向けて説明を行った上で、期末試験の注意点について指導を行う。	復習　授業のまとめについて振り返りを行う。	4 時間

科目名	基礎演習 A	開講年度	2025
担当者	徐　潤雅	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	世界への関心を持つとともに大学での学びについて知る		
授業の目的及び概要	この授業は、大学での学修に必要な学修態度や技能等を身につけることを目的とします。授業を通して、自ら学び、行動する主体性と学修技法を身につけさせるとともに、グローバル社会の諸課題への興味を喚起し、大学での学修の動機づけ等を行います。また、大学における良好な人間関係を構築し、他者を理解してコミュニケーションを図る能力の向上、グループワークを通じた協働力とリーダーシップの育成、将来に向けたキャリア意識の形成も図ります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	授業での取組をとおして、以下の到達目標の達成を目指します。 ① 高校とは異なる大学という場（自律性）を理解している。 ② 積極的で能動的な学修態度と大学で学修を行うための基礎的な技能を身につけている。 ③ 異なる価値観や文化的背景をもつ他者と協働する大切さを知っている。 ④ 「世界を知る」ことに対する意欲と異文化に対する「気づき」を持っている。 ⑤ 国際キャリアにおける幅の広いキャリア像を持っている。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題等に取り組み、それについて教員がコメントする等のフィードバックを実施します。作成した課題等は学修ポートフォリオに蓄積し、学修の振り返りに役立てます。		
アクティブ・ラーニングの取組み	プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定しない。	ISBN	なし
参考書	参考文献は基礎演習のなかで適宜指示する。	ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	50
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	20
その他の内容	リフレクションペーパー

この科目の受講にあたって	
	授業での取組に積極的に参加して、課せられた課題に取り組んでください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクションと学修目標の設定	復習　4 年間を視野に入れて、各年次の目標を想定し	2 時間

		授業の概要と今後の進め方について説明する。スチューデントアシスタントによる春学期の目標の経験談などを通じて、具体的かつバックキャスティングによる目標の設定の仕方を学ぶ。 1学期間に何をどれほど学ばなければならないのかを確認し、1週間のタイムスケジュールを作成する。	た上で、1年間、さらには春学期の現実的な目標を立てる。	
第2回	対面	大学で学ぶための基礎づくり 国際学部における留学・体験科目と2年次以降のコース選択について説明を行う。 大学の成績評価やシラバスの読み方について解説する。 アイスブレーキングの実施により、クラス内での良好な人間関係を構築し、協働力を高める。	復習　保護者とも相談しながら、2年次以降のコース選択をどうするのか検討しておくこと。 復習　授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	2時間
第3回	対面	ノートの整理（1） アカデミックスキルとして、ノート・テイキングについて学ぶ。大学の授業の特徴を知り、講義資料に基づくメモの取り方と、復習としての整理ノートの作り方を説明する。	復習　基礎演習で学んだ内容の復習として、国際学基礎A・Bの整理ノートを作成する。	6時間
第4回	対面	ノートの整理（2） 作成した整理ノートの相互批評を行い、教員からのフィードバックを得る。 その後、各自整理ノートを改善する。	復習　基礎演習で学んだ内容の復習として、国際学基礎A・Bの整理ノートを作成する。	6時間
第5回	対面	授業コメントのまとめ方 講義において課される授業コメントの意義と、成績評価との関係を説明する。 その後、各自授業コメントを執筆する。	復習　基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第6回	対面	文献の内容を読み解く（1） 課題文献を輪読し、専門用語を調べる。 その後、文献の精読の仕方について解説を行う。	予習　課題文献を事前に読む。 復習　基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第7回	対面	文献の内容を読み解く（2） 課題文献に基づき、要点ノートの作成方法と要約の仕方を説明する。	復習　授業中に配布される課題文献を読み、要点ノートを作成する。	4時間
第8回	対面	文献の内容を読み解く（3） 課題文献の精読を行う。作成した要点ノートの加筆修正を行い、要約を作成する。	復習　課題文献の要約を完成させ、提出する。	4時間
第9回	対面	プレゼンテーションの作り方（1） 課題文献の内容についてプレゼンテーションを作成する。 周辺の研究を調べることを目的に、文献の探し方と参考文献リストの作成方法について学ぶ。	復習　参考文献リストを完成させ、提出する。	4時間
第10回	対面	プレゼンテーションの作り方（2） 図書館ガイダンスを行い、本学図書館の利用方法について学ぶ。	復習　参考文献リストを更新し、最新版を提出する。	4時間
第11回	対面	プレゼンテーションの作り方（3） インターネットを利用した文献の収集方法について説明する。 その後、各自参考文献リストを更新する。	復習　参考文献リストを更新し、最新版を提出する。	4時間
第12回	対面	プレゼンテーションの作り方（4） PowerPoint を使用したプレゼンテーション資料の作り方、プレゼンテーションの仕方および聞き方を説明する。	復習　プレゼンテーションを完成させ、提出する。	4時間

		その後、各自資料を作成する。		
第１３回	対面	クラス内プレゼンテーションコンテスト	復習　授業コメントを作成し、提出する。	4 時間
第１４回	対面	1 年生プレゼンテーションコンテスト	復習　授業コメントを作成し、提出する。	4 時間
第１５回	オンデマンド	春学期の振り返り 春学期学修したことのまとめ、夏休み・秋学期に向けて説明を行った上で、期末試験の注意点について指導を行う。	復習　授業のまとめについて振り返りを行う。	4 時間

科目名	基礎演習 A	開講年度	2025
担当者	福田　真也	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	世界への関心を持つとともに大学での学びについて知る		
授業の目的及び概要	この授業は、大学での学修に必要な学修態度や技能等を身につけることを目的とします。授業を通して、自ら学び、行動する主体性と学修技法を身につけさせるとともに、グローバル社会の諸課題への興味を喚起し、大学での学修の動機づけ等を行います。また、大学における良好な人間関係を構築し、他者を理解してコミュニケーションを図る能力の向上、グループワークを通じた協働力とリーダーシップの育成、将来に向けたキャリア意識の形成も図ります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	授業での取組をとおして、以下の到達目標の達成を目指します。 ① 高校とは異なる大学という場（自律性）を理解している。 ② 積極的で能動的な学修態度と大学で学修を行うための基礎的な技能を身につけている。 ③ 異なる価値観や文化的背景をもつ他者と協働する大切さを知っている。 ④ 「世界を知る」ことに対する意欲と異文化に対する「気づき」を持っている。 ⑤ 国際キャリアにおける幅の広いキャリア像を持っている。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題等に取り組み、それについて教員がコメントする等のフィードバックを実施します。作成した課題等は学修ポートフォリオに蓄積し、学修の振り返りに役立てます。		
アクティブ・ラーニングの取組み	プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定しない。	ISBN	なし
参考書	参考文献は基礎演習のなかで適宜指示する。	ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	50
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	20
その他の内容	リフレクションペーパー

この科目の受講にあたって	
	授業での取組に積極的に参加して、課せられた課題に取り組んでください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクションと学修目標の設定	復習　4 年間を視野に入れて、各年次の目標を想定し	2 時間

		授業の概要と今後の進め方について説明する。スチューデントアシスタントによる春学期の目標の経験談などを通じて、具体的かつバックキャスティングによる目標の設定の仕方を学ぶ。 1学期間に何をどれほど学ばなければならないのかを確認し、1週間のタイムスケジュールを作成する。	た上で、1年間、さらには春学期の現実的な目標を立てる。	
第2回	対面	大学で学ぶための基礎づくり 国際学部における留学・体験科目と2年次以降のコース選択について説明を行う。 大学の成績評価やシラバスの読み方について解説する。 アイスブレーキングの実施により、クラス内での良好な人間関係を構築し、協働力を高める。	復習　保護者とも相談しながら、2年次以降のコース選択をどうするのか検討しておくこと。 復習　授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	2時間
第3回	対面	ノートの整理（1） アカデミックスキルとして、ノート・テイキングについて学ぶ。大学の授業の特徴を知り、講義資料に基づくメモの取り方と、復習としての整理ノートの作り方を説明する。	復習　基礎演習で学んだ内容の復習として、国際学基礎A・Bの整理ノートを作成する。	6時間
第4回	対面	ノートの整理（2） 作成した整理ノートの相互批評を行い、教員からのフィードバックを得る。 その後、各自整理ノートを改善する。	復習　基礎演習で学んだ内容の復習として、国際学基礎A・Bの整理ノートを作成する。	6時間
第5回	対面	授業コメントのまとめ方 講義において課される授業コメントの意義と、成績評価との関係を説明する。 その後、各自授業コメントを執筆する。	復習　基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第6回	対面	文献の内容を読み解く（1） 課題文献を輪読し、専門用語を調べる。 その後、文献の精読の仕方について解説を行う。	予習　課題文献を事前に読む。 復習　基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第7回	対面	文献の内容を読み解く（2） 課題文献に基づき、要点ノートの作成方法と要約の仕方を説明する。	復習　授業中に配布される課題文献を読み、要点ノートを作成する。	4時間
第8回	対面	文献の内容を読み解く（3） 課題文献の精読を行う。作成した要点ノートの加筆修正を行い、要約を作成する。	復習　課題文献の要約を完成させ、提出する。	4時間
第9回	対面	プレゼンテーションの作り方（1） 課題文献の内容についてプレゼンテーションを作成する。 周辺の研究を調べることを目的に、文献の探し方と参考文献リストの作成方法について学ぶ。	復習　参考文献リストを完成させ、提出する。	4時間
第10回	対面	プレゼンテーションの作り方（2） 図書館ガイダンスを行い、本学図書館の利用方法について学ぶ。	復習　参考文献リストを更新し、最新版を提出する。	4時間
第11回	対面	プレゼンテーションの作り方（3） インターネットを利用した文献の収集方法について説明する。 その後、各自参考文献リストを更新する。	復習　参考文献リストを更新し、最新版を提出する。	4時間
第12回	対面	プレゼンテーションの作り方（4） PowerPoint を使用したプレゼンテーション資料の作り方、プレゼンテーションの仕方および聞き方を説明する。	復習　プレゼンテーションを完成させ、提出する。	4時間

		その後、各自資料を作成する。		
第１３回	対面	クラス内プレゼンテーションコンテスト	復習　授業コメントを作成し、提出する。	4 時間
第１４回	対面	1 年生プレゼンテーションコンテスト	復習　授業コメントを作成し、提出する。	4 時間
第１５回	オンデマンド	春学期の振り返り 春学期学修したことのまとめ、夏休み・秋学期に向けて説明を行った上で、期末試験の注意点について指導を行う。	復習　授業のまとめについて振り返りを行う。	4 時間

科目名	基礎演習 A	開講年度	2025
担当者	高砂　謙二	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	世界への関心を持つとともに大学での学びについて知る		
授業の目的及び概要	この授業は、大学での学修に必要な学修態度や技能等を身につけることを目的とします。授業を通して、自ら学び、行動する主体性と学修技法を身につけさせるとともに、グローバル社会の諸課題への興味を喚起し、大学での学修の動機づけ等を行います。また、大学における良好な人間関係を構築し、他者を理解してコミュニケーションを図る能力の向上、グループワークを通じた協働力とリーダーシップの育成、将来に向けたキャリア意識の形成も図ります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	授業での取組をとおして、以下の到達目標の達成を目指します。 ① 高校とは異なる大学という場（自律性）を理解している。 ② 積極的で能動的な学修態度と大学で学修を行うための基礎的な技能を身につけている。 ③ 異なる価値観や文化的背景をもつ他者と協働する大切さを知っている。 ④ 「世界を知る」ことに対する意欲と異文化に対する「気づき」を持っている。 ⑤ 国際キャリアにおける幅の広いキャリア像を持っている。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題等に取り組み、それについて教員がコメントする等のフィードバックを実施します。作成した課題等は学修ポートフォリオに蓄積し、学修の振り返りに役立てます。		
アクティブ・ラーニングの取組み	プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、金融機関において営業店や外国部、審査部、経営企画等で 16 年間勤務し、銀行業務全般や国際業務（外国為替リーディング業務、外為与信審査業務、国際経営・貿易相談業務、輸出入貿易書類点検業務）、法務・市場調査・広報等の実務経験を積んできた。本科目では、国際的なマーケットの実態や外国為替相場の特性などについて、こうした実務経験を活かして解説するなど、実践的な教育を行う。		
テキスト	指定しない。	ISBN	なし
参考書	参考文献は基礎演習のなかで適宜指示する。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	20	
	その他の内容	リフレクションペーパー	
この科目の受講にあたって	授業での取組に積極的に参加して、課せられた課題に取り組んでください。		

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第１回	対面	イントロダクションと学修目標の設定 授業の概要と今後の進め方について説明する。スチューデントアシスタントによる春学期の目標の経験談などを通じて、具体的かつバックキャスティングによる目標の設定の仕方を学ぶ。 1学期間に何をどれほど学ばなければならないのかを確認し、1週間のタイムスケジュールを作成する。	復習　4年間を視野に入れて、各年次の目標を想定した上で、1年間、さらには春学期の現実的な目標を立てる。	2時間
第２回	対面	大学で学ぶための基礎づくり 国際学部における留学・体験科目と2年次以降のコース選択について説明を行う。 大学の成績評価やシラバスの読み方について解説する。 アイスブレーキングの実施により、クラス内での良好な人間関係を構築し、協働力を高める。	復習　保護者とも相談しながら、2年次以降のコース選択をどうするのか検討しておくこと。 復習　授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	2時間
第３回	対面	ノートの整理（1） アカデミックスキルとして、ノート・テイキングについて学ぶ。大学の授業の特徴を知り、講義資料に基づくメモの取り方と、復習としての整理ノートの作り方を説明する。	復習　基礎演習で学んだ内容の復習として、国際学基礎A・Bの整理ノートを作成する。	6時間
第４回	対面	ノートの整理（2） 作成した整理ノートの相互批評を行い、教員からのフィードバックを得る。 その後、各自整理ノートを改善する。	復習　基礎演習で学んだ内容の復習として、国際学基礎A・Bの整理ノートを作成する。	6時間
第５回	対面	授業コメントのまとめ方 講義において課される授業コメントの意義と、成績評価との関係を説明する。 その後、各自授業コメントを執筆する。	復習　基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第６回	対面	文献の内容を読み解く（1） 課題文献を輪読し、専門用語を調べる。 その後、文献の精読の仕方について解説を行う。	予習　課題文献を事前に読む。 復習　基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第７回	対面	文献の内容を読み解く（2） 課題文献に基づき、要点ノートの作成方法と要約の仕方を説明する。	復習　授業中に配布される課題文献を読み、要点ノートを作成する。	4時間
第８回	対面	文献の内容を読み解く（3） 課題文献の精読を行う。作成した要点ノートの加筆修正を行い、要約を作成する。	復習　課題文献の要約を完成させ、提出する。	4時間
第９回	対面	プレゼンテーションの作り方（1） 課題文献の内容についてプレゼンテーションを作成する。 周辺の研究を調べることを目的に、文献の探し方と参考文献リストの作成方法について学ぶ。	復習　参考文献リストを完成させ、提出する。	4時間
第１０回	対面	プレゼンテーションの作り方（2） 図書館ガイダンスを行い、本学図書館の利用方法について学ぶ。	復習　参考文献リストを更新し、最新版を提出する。	4時間
第１１回	対面	プレゼンテーションの作り方（3） インターネットを利用した文献の収集方法について説明する。 その後、各自参考文献リストを更新する。	復習　参考文献リストを更新し、最新版を提出する。	4時間
第１２回	対面	プレゼンテーションの作り方（4） PowerPoint を使用したプレゼンテーショ	復習　プレゼンテーションを完成させ、提出する。	4時間

		ン資料の作り方、プレゼンテーションの仕方および聞き方を説明する。 その後、各自資料を作成する。		
第１３回	対面	クラス内プレゼンテーションコンテスト	復習　授業コメントを作成し、提出する。	4 時間
第１４回	対面	1 年生プレゼンテーションコンテスト	復習　授業コメントを作成し、提出する。	4 時間
第１５回	オンデマンド	春学期の振り返り 春学期学修したことのまとめ、夏休み・秋学期に向けて説明を行った上で、期末試験の注意点について指導を行う。	復習　授業のまとめについて振り返りを行う。	4 時間

科目名	基礎演習 A	開講年度	2025
担当者	荻田　朋子	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	世界への関心を持つとともに大学での学びについて知る		
授業の目的及び概要	この授業は、大学での学修に必要な学修態度や技能等を身につけることを目的とします。授業を通して、自ら学び、行動する主体性と学修技法を身につけさせるとともに、グローバル社会の諸課題への興味を喚起し、大学での学修の動機づけ等を行います。また、大学における良好な人間関係を構築し、他者を理解してコミュニケーションを図る能力の向上、グループワークを通じた協働力とリーダーシップの育成、将来に向けたキャリア意識の形成も図ります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	授業での取組をとおして、以下の到達目標の達成を目指します。 ① 高校とは異なる大学という場（自律性）を理解している。 ② 積極的で能動的な学修態度と大学で学修を行うための基礎的な技能を身につけている。 ③ 異なる価値観や文化的背景をもつ他者と協働する大切さを知っている。 ④ 「世界を知る」ことに対する意欲と異文化に対する「気づき」を持っている。 ⑤ 国際キャリアにおける幅の広いキャリア像を持っている。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題等に取り組み、それについて教員がコメントする等のフィードバックを実施します。作成した課題等は学修ポートフォリオに蓄積し、学修の振り返りに役立てます。		
アクティブ・ラーニングの取組み	プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定しない。	ISBN	なし
参考書	参考文献は基礎演習のなかで適宜指示する。	ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	50
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	20
その他の内容	リフレクションペーパー

この科目の受講にあたって	
	授業での取組に積極的に参加して、課せられた課題に取り組んでください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクションと学修目標の設定	復習　4 年間を視野に入れて、各年次の目標を想定し	2 時間

		授業の概要と今後の進め方について説明する。スチューデントアシスタントによる春学期の目標の経験談などを通じて、具体的かつバックキャスティングによる目標の設定の仕方を学ぶ。 1学期間に何をどれほど学ばなければならないのかを確認し、1週間のタイムスケジュールを作成する。	た上で、1年間、さらには春学期の現実的な目標を立てる。	
第2回	対面	大学で学ぶための基礎づくり 国際学部における留学・体験科目と2年次以降のコース選択について説明を行う。 大学の成績評価やシラバスの読み方について解説する。 アイスブレーキングの実施により、クラス内での良好な人間関係を構築し、協働力を高める。	復習　保護者とも相談しながら、2年次以降のコース選択をどうするのか検討しておくこと。 復習　授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	2時間
第3回	対面	ノートの整理（1） アカデミックスキルとして、ノート・テイキングについて学ぶ。大学の授業の特徴を知り、講義資料に基づくメモの取り方と、復習としての整理ノートの作り方を説明する。	復習　基礎演習で学んだ内容の復習として、国際学基礎A・Bの整理ノートを作成する。	6時間
第4回	対面	ノートの整理（2） 作成した整理ノートの相互批評を行い、教員からのフィードバックを得る。 その後、各自整理ノートを改善する。	復習　基礎演習で学んだ内容の復習として、国際学基礎A・Bの整理ノートを作成する。	6時間
第5回	対面	授業コメントのまとめ方 講義において課される授業コメントの意義と、成績評価との関係を説明する。 その後、各自授業コメントを執筆する。	復習　基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第6回	対面	文献の内容を読み解く（1） 課題文献を輪読し、専門用語を調べる。 その後、文献の精読の仕方について解説を行う。	予習　課題文献を事前に読む。 復習　基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第7回	対面	文献の内容を読み解く（2） 課題文献に基づき、要点ノートの作成方法と要約の仕方を説明する。	復習　授業中に配布される課題文献を読み、要点ノートを作成する。	4時間
第8回	対面	文献の内容を読み解く（3） 課題文献の精読を行う。作成した要点ノートの加筆修正を行い、要約を作成する。	復習　課題文献の要約を完成させ、提出する。	4時間
第9回	対面	プレゼンテーションの作り方（1） 課題文献の内容についてプレゼンテーションを作成する。 周辺の研究を調べることを目的に、文献の探し方と参考文献リストの作成方法について学ぶ。	復習　参考文献リストを完成させ、提出する。	4時間
第10回	対面	プレゼンテーションの作り方（2） 図書館ガイダンスを行い、本学図書館の利用方法について学ぶ。	復習　参考文献リストを更新し、最新版を提出する。	4時間
第11回	対面	プレゼンテーションの作り方（3） インターネットを利用した文献の収集方法について説明する。 その後、各自参考文献リストを更新する。	復習　参考文献リストを更新し、最新版を提出する。	4時間
第12回	対面	プレゼンテーションの作り方（4） PowerPoint を使用したプレゼンテーション資料の作り方、プレゼンテーションの仕方および聞き方を説明する。	復習　プレゼンテーションを完成させ、提出する。	4時間

		その後、各自資料を作成する。		
第１３回	対面	クラス内プレゼンテーションコンテスト	復習　授業コメントを作成し、提出する。	4 時間
第１４回	対面	1 年生プレゼンテーションコンテスト	復習　授業コメントを作成し、提出する。	4 時間
第１５回	オンデマンド	春学期の振り返り 春学期学修したことのまとめ、夏休み・秋学期に向けて説明を行った上で、期末試験の注意点について指導を行う。	復習　授業のまとめについて振り返りを行う。	4 時間

科目名	基礎演習 A	開講年度	2025
担当者	中山　周作	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	世界への関心を持つとともに大学での学びについて知る		
授業の目的及び概要	この授業は、大学での学修に必要な学修態度や技能等を身につけることを目的とします。授業を通して、自ら学び、行動する主体性と学修技法を身につけさせるとともに、グローバル社会の諸課題への興味を喚起し、大学での学修の動機づけ等を行います。また、大学における良好な人間関係を構築し、他者を理解してコミュニケーションを図る能力の向上、グループワークを通じた協働力とリーダーシップの育成、将来に向けたキャリア意識の形成も図ります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	授業での取組をとおして、以下の到達目標の達成を目指します。 ① 高校とは異なる大学という場（自律性）を理解している。 ② 積極的で能動的な学修態度と大学で学修を行うための基礎的な技能を身につけている。 ③ 異なる価値観や文化的背景をもつ他者と協働する大切さを知っている。 ④ 「世界を知る」ことに対する意欲と異文化に対する「気づき」を持っている。 ⑤ 国際キャリアにおける幅の広いキャリア像を持っている。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題等に取り組み、それについて教員がコメントする等のフィードバックを実施します。作成した課題等は学修ポートフォリオに蓄積し、学修の振り返りに役立てます。		
アクティブ・ラーニングの取組み	プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定しない。	ISBN	なし
参考書	参考文献は基礎演習のなかで適宜指示する。	ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	50
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	20
その他の内容	リフレクションペーパー

この科目の受講にあたって	
	授業での取組に積極的に参加して、課せられた課題に取り組んでください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクションと学修目標の設定	復習　4 年間を視野に入れて、各年次の目標を想定し	2 時間

		授業の概要と今後の進め方について説明する。スチューデントアシスタントによる春学期の目標の経験談などを通じて、具体的かつバックキャスティングによる目標の設定の仕方を学ぶ。 1学期間に何をどれほど学ばなければならないのかを確認し、1週間のタイムスケジュールを作成する。	た上で、1年間、さらには春学期の現実的な目標を立てる。	
第2回	対面	大学で学ぶための基礎づくり 国際学部における留学・体験科目と2年次以降のコース選択について説明を行う。 大学の成績評価やシラバスの読み方について解説する。 アイスブレーキングの実施により、クラス内での良好な人間関係を構築し、協働力を高める。	復習　保護者とも相談しながら、2年次以降のコース選択をどうするのか検討しておくこと。 復習　授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	2時間
第3回	対面	ノートの整理（1） アカデミックスキルとして、ノート・テイキングについて学ぶ。大学の授業の特徴を知り、講義資料に基づくメモの取り方と、復習としての整理ノートの作り方を説明する。	復習　基礎演習で学んだ内容の復習として、国際学基礎A・Bの整理ノートを作成する。	6時間
第4回	対面	ノートの整理（2） 作成した整理ノートの相互批評を行い、教員からのフィードバックを得る。 その後、各自整理ノートを改善する。	復習　基礎演習で学んだ内容の復習として、国際学基礎A・Bの整理ノートを作成する。	6時間
第5回	対面	授業コメントのまとめ方 講義において課される授業コメントの意義と、成績評価との関係を説明する。 その後、各自授業コメントを執筆する。	復習　基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第6回	対面	文献の内容を読み解く（1） 課題文献を輪読し、専門用語を調べる。 その後、文献の精読の仕方について解説を行う。	予習　課題文献を事前に読む。 復習　基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第7回	対面	文献の内容を読み解く（2） 課題文献に基づき、要点ノートの作成方法と要約の仕方を説明する。	復習　授業中に配布される課題文献を読み、要点ノートを作成する。	4時間
第8回	対面	文献の内容を読み解く（3） 課題文献の精読を行う。作成した要点ノートの加筆修正を行い、要約を作成する。	復習　課題文献の要約を完成させ、提出する。	4時間
第9回	対面	プレゼンテーションの作り方（1） 課題文献の内容についてプレゼンテーションを作成する。 周辺の研究を調べることを目的に、文献の探し方と参考文献リストの作成方法について学ぶ。	復習　参考文献リストを完成させ、提出する。	4時間
第10回	対面	プレゼンテーションの作り方（2） 図書館ガイダンスを行い、本学図書館の利用方法について学ぶ。	復習　参考文献リストを更新し、最新版を提出する。	4時間
第11回	対面	プレゼンテーションの作り方（3） インターネットを利用した文献の収集方法について説明する。 その後、各自参考文献リストを更新する。	復習　参考文献リストを更新し、最新版を提出する。	4時間
第12回	対面	プレゼンテーションの作り方（4） PowerPoint を使用したプレゼンテーション資料の作り方、プレゼンテーションの仕方および聞き方を説明する。	復習　プレゼンテーションを完成させ、提出する。	4時間

		その後、各自資料を作成する。		
第１３回	対面	クラス内プレゼンテーションコンテスト	復習　授業コメントを作成し、提出する。	4 時間
第１４回	対面	1 年生プレゼンテーションコンテスト	復習　授業コメントを作成し、提出する。	4 時間
第１５回	オンデマンド	春学期の振り返り 春学期学修したことのまとめ、夏休み・秋学期に向けて説明を行った上で、期末試験の注意点について指導を行う。	復習　授業のまとめについて振り返りを行う。	4 時間

科目名	基礎演習 A	開講年度	2025
担当者	尹　恵彦	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	世界への関心を持つとともに大学での学びについて知る		
授業の目的及び概要	この授業は、大学での学修に必要な学修態度や技能等を身につけることを目的とします。授業を通して、自ら学び、行動する主体性と学修技法を身につけさせるとともに、グローバル社会の諸課題への興味を喚起し、大学での学修の動機づけ等を行います。また、大学における良好な人間関係を構築し、他者を理解してコミュニケーションを図る能力の向上、グループワークを通じた協働力とリーダーシップの育成、将来に向けたキャリア意識の形成も図ります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	授業での取組をとおして、以下の到達目標の達成を目指します。 ① 高校とは異なる大学という場（自律性）を理解している。 ② 積極的で能動的な学修態度と大学で学修を行うための基礎的な技能を身につけている。 ③ 異なる価値観や文化的背景をもつ他者と協働する大切さを知っている。 ④ 「世界を知る」ことに対する意欲と異文化に対する「気づき」を持っている。 ⑤ 国際キャリアにおける幅の広いキャリア像を持っている。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題等に取り組み、それについて教員がコメントする等のフィードバックを実施します。作成した課題等は学修ポートフォリオに蓄積し、学修の振り返りに役立てます。		
アクティブ・ラーニングの取組み	プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定しない。	ISBN	なし
参考書	参考文献は基礎演習のなかで適宜指示する。	ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	50
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	20
その他の内容	リフレクションペーパー

この科目の受講にあたって	
	授業での取組に積極的に参加して、課せられた課題に取り組んでください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクションと学修目標の設定	復習　4 年間を視野に入れて、各年次の目標を想定し	2 時間

		授業の概要と今後の進め方について説明する。スチューデントアシスタントによる春学期の目標の経験談などを通じて、具体的かつバックキャスティングによる目標の設定の仕方を学ぶ。 1学期間に何をどれほど学ばなければならないのかを確認し、1週間のタイムスケジュールを作成する。	た上で、1年間、さらには春学期の現実的な目標を立てる。	
第2回	対面	大学で学ぶための基礎づくり 国際学部における留学・体験科目と2年次以降のコース選択について説明を行う。 大学の成績評価やシラバスの読み方について解説する。 アイスブレーキングの実施により、クラス内での良好な人間関係を構築し、協働力を高める。	復習　保護者とも相談しながら、2年次以降のコース選択をどうするのか検討しておくこと。 復習　授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	2時間
第3回	対面	ノートの整理（1） アカデミックスキルとして、ノート・テイキングについて学ぶ。大学の授業の特徴を知り、講義資料に基づくメモの取り方と、復習としての整理ノートの作り方を説明する。	復習　基礎演習で学んだ内容の復習として、国際学基礎A・Bの整理ノートを作成する。	6時間
第4回	対面	ノートの整理（2） 作成した整理ノートの相互批評を行い、教員からのフィードバックを得る。 その後、各自整理ノートを改善する。	復習　基礎演習で学んだ内容の復習として、国際学基礎A・Bの整理ノートを作成する。	6時間
第5回	対面	授業コメントのまとめ方 講義において課される授業コメントの意義と、成績評価との関係を説明する。 その後、各自授業コメントを執筆する。	復習　基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第6回	対面	文献の内容を読み解く（1） 課題文献を輪読し、専門用語を調べる。 その後、文献の精読の仕方について解説を行う。	予習　課題文献を事前に読む。 復習　基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第7回	対面	文献の内容を読み解く（2） 課題文献に基づき、要点ノートの作成方法と要約の仕方を説明する。	復習　授業中に配布される課題文献を読み、要点ノートを作成する。	4時間
第8回	対面	文献の内容を読み解く（3） 課題文献の精読を行う。作成した要点ノートの加筆修正を行い、要約を作成する。	復習　課題文献の要約を完成させ、提出する。	4時間
第9回	対面	プレゼンテーションの作り方（1） 課題文献の内容についてプレゼンテーションを作成する。 周辺の研究を調べることを目的に、文献の探し方と参考文献リストの作成方法について学ぶ。	復習　参考文献リストを完成させ、提出する。	4時間
第10回	対面	プレゼンテーションの作り方（2） 図書館ガイダンスを行い、本学図書館の利用方法について学ぶ。	復習　参考文献リストを更新し、最新版を提出する。	4時間
第11回	対面	プレゼンテーションの作り方（3） インターネットを利用した文献の収集方法について説明する。 その後、各自参考文献リストを更新する。	復習　参考文献リストを更新し、最新版を提出する。	4時間
第12回	対面	プレゼンテーションの作り方（4） PowerPoint を使用したプレゼンテーション資料の作り方、プレゼンテーションの仕方および聞き方を説明する。	復習　プレゼンテーションを完成させ、提出する。	4時間

		その後、各自資料を作成する。		
第１３回	対面	クラス内プレゼンテーションコンテスト	復習　授業コメントを作成し、提出する。	4 時間
第１４回	対面	1 年生プレゼンテーションコンテスト	復習　授業コメントを作成し、提出する。	4 時間
第１５回	オンデマンド	春学期の振り返り 春学期学修したことのまとめ、夏休み・秋学期に向けて説明を行った上で、期末試験の注意点について指導を行う。	復習　授業のまとめについて振り返りを行う。	4 時間

科目名	基礎演習 A	開講年度	2025
担当者	李　光曦	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	世界への関心を持つとともに大学での学びについて知る		
授業の目的及び概要	この授業は、大学での学修に必要な学修態度や技能等を身につけることを目的とします。授業を通して、自ら学び、行動する主体性と学修技法を身につけさせるとともに、グローバル社会の諸課題への興味を喚起し、大学での学修の動機づけ等を行います。また、大学における良好な人間関係を構築し、他者を理解してコミュニケーションを図る能力の向上、グループワークを通じた協働力とリーダーシップの育成、将来に向けたキャリア意識の形成も図ります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	授業での取組をとおして、以下の到達目標の達成を目指します。 ① 高校とは異なる大学という場（自律性）を理解している。 ② 積極的で能動的な学修態度と大学で学修を行うための基礎的な技能を身につけている。 ③ 異なる価値観や文化的背景をもつ他者と協働する大切さを知っている。 ④ 「世界を知る」ことに対する意欲と異文化に対する「気づき」を持っている。 ⑤ 国際キャリアにおける幅の広いキャリア像を持っている。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題等に取り組み、それについて教員がコメントする等のフィードバックを実施します。作成した課題等は学修ポートフォリオに蓄積し、学修の振り返りに役立てます。		
アクティブ・ラーニングの取組み	プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定しない。	ISBN	なし
参考書	参考文献は基礎演習のなかで適宜指示する。	ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	50
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	20
その他の内容	リフレクションペーパー

この科目の受講にあたって	
	授業での取組に積極的に参加して、課せられた課題に取り組んでください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクションと学修目標の設定	復習　4 年間を視野に入れて、各年次の目標を想定し	2 時間

		授業の概要と今後の進め方について説明する。スチューデントアシスタントによる春学期の目標の経験談などを通じて、具体的かつバックキャスティングによる目標の設定の仕方を学ぶ。 1学期間に何をどれほど学ばなければならないのかを確認し、1週間のタイムスケジュールを作成する。	た上で、1年間、さらには春学期の現実的な目標を立てる。	
第2回	対面	大学で学ぶための基礎づくり 国際学部における留学・体験科目と2年次以降のコース選択について説明を行う。 大学の成績評価やシラバスの読み方について解説する。 アイスブレーキングの実施により、クラス内での良好な人間関係を構築し、協働力を高める。	復習　保護者とも相談しながら、2年次以降のコース選択をどうするのか検討しておくこと。 復習　授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	2時間
第3回	対面	ノートの整理（1） アカデミックスキルとして、ノート・テイキングについて学ぶ。大学の授業の特徴を知り、講義資料に基づくメモの取り方と、復習としての整理ノートの作り方を説明する。	復習　基礎演習で学んだ内容の復習として、国際学基礎A・Bの整理ノートを作成する。	6時間
第4回	対面	ノートの整理（2） 作成した整理ノートの相互批評を行い、教員からのフィードバックを得る。 その後、各自整理ノートを改善する。	復習　基礎演習で学んだ内容の復習として、国際学基礎A・Bの整理ノートを作成する。	6時間
第5回	対面	授業コメントのまとめ方 講義において課される授業コメントの意義と、成績評価との関係を説明する。 その後、各自授業コメントを執筆する。	復習　基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第6回	対面	文献の内容を読み解く（1） 課題文献を輪読し、専門用語を調べる。 その後、文献の精読の仕方について解説を行う。	予習　課題文献を事前に読む。 復習　基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第7回	対面	文献の内容を読み解く（2） 課題文献に基づき、要点ノートの作成方法と要約の仕方を説明する。	復習　授業中に配布される課題文献を読み、要点ノートを作成する。	4時間
第8回	対面	文献の内容を読み解く（3） 課題文献の精読を行う。作成した要点ノートの加筆修正を行い、要約を作成する。	復習　課題文献の要約を完成させ、提出する。	4時間
第9回	対面	プレゼンテーションの作り方（1） 課題文献の内容についてプレゼンテーションを作成する。 周辺の研究を調べることを目的に、文献の探し方と参考文献リストの作成方法について学ぶ。	復習　参考文献リストを完成させ、提出する。	4時間
第10回	対面	プレゼンテーションの作り方（2） 図書館ガイダンスを行い、本学図書館の利用方法について学ぶ。	復習　参考文献リストを更新し、最新版を提出する。	4時間
第11回	対面	プレゼンテーションの作り方（3） インターネットを利用した文献の収集方法について説明する。 その後、各自参考文献リストを更新する。	復習　参考文献リストを更新し、最新版を提出する。	4時間
第12回	対面	プレゼンテーションの作り方（4） PowerPoint を使用したプレゼンテーション資料の作り方、プレゼンテーションの仕方および聞き方を説明する。	復習　プレゼンテーションを完成させ、提出する。	4時間

		その後、各自資料を作成する。		
第１３回	対面	クラス内プレゼンテーションコンテスト	復習　授業コメントを作成し、提出する。	4 時間
第１４回	対面	1 年生プレゼンテーションコンテスト	復習　授業コメントを作成し、提出する。	4 時間
第１５回	オンデマンド	春学期の振り返り 春学期学修したことのまとめ、夏休み・秋学期に向けて説明を行った上で、期末試験の注意点について指導を行う。	復習　授業のまとめについて振り返りを行う。	4 時間

科目名	基礎演習 B	開講年度	2025
担当者	姜　若冰	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	世界への関心を持つとともに大学での学びについて知る。		
授業の目的及び概要	この授業は、大学での学修に必要な学修態度や技能等を身につけることを目的とします。授業を通して、自ら学び、行動する主体性と学修技法を身につけさせるとともに、グローバル社会の諸課題への興味を喚起し、大学での学修の動機づけ等を行います。また、大学における良好な人間関係を構築し、他者を理解してコミュニケーションを図る能力の向上、グループワークを通じた協働力とリーダーシップの育成、将来に向けたキャリア意識の形成も図ります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	授業での取組をとおして、以下の到達目標の達成を目指します。 ① 大学三～四年次学修の特徴を理解している。 ② 積極的で能動的な学修態度と大学で学修を行うための基礎的な技能を身につけている。 ③ 異なる価値観や文化的背景をもつ他者と協働する大切さを知っている。 ④ 「世界を知る」ことに対する意欲と異文化に対する「気づき」を持っている。 ⑤ 国際キャリアにおける幅の広いキャリア像を持っている。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	取り組んだ課題について教員がコメントする等のフィードバックを実施します。作成した課題等は学修ポートフォリオに蓄積し、学修の振り返りに役立てます。		
アクティブ・ラーニングの取組み	プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定しない。	ISBN	なし
参考書	参考書は基礎演習のなかで適宜指示する。	ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	50
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	30
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	20
その他の内容	リフレクションペーパー

この科目の受講にあたって	授業での取組に積極的に参加して、課せられた課題に取り組み、必ず単位を修得するようにしてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション	①海外体験プログラムの渡航先について調べて、保	2 時間

		①授業の概要と今後の進め方について説明を行う。 ②海外体験プログラムについての説明をし、申込手続きなどの流れを確認する。 ③秋学期の学修目標を設定する。	護者と相談した上で手続きを進めること。 ②卒業を視野に入れて、秋学期の現実的な目標を立てる。	
第２回	対面	レポートの書き方について学ぶ（１） レポートのテーマに基づき、レポートを完成させるまでのプロセス全体を学ぶ。 自身で検索した文献をもとに、情報整理の仕方を学ぶ。	復習　配布資料をもとに収集した情報を整理し、文献リストを作成する。	4 時間
第３回	対面	レポートの書き方について学ぶ（２） レポートの書き方やレポートの構成を学ぶ。 自身で収集・整理した情報をもとに、実際にレポートの構成を考える。	復習　配布資料をもとにレポートを作成し、提出する。	6 時間
第４回	対面	レポートの書き方について学ぶ（３） 提出されたレポートを講評し、よりよいレポートを書くためのポイントを振り返る。	復習　配布資料をもとにレポート作成の要領を再確認し、レポートを修正する。	6 時間
第５回	対面	専門的に読み解く 研究発表に向けてトピックの構想を開始するため、課題文献を精読し、要点ノートと要約を作成する。	復習　課題文献の要約を完成させる。	4 時間
第６回	対面	批判的に読む（1） クリティカル・リーディングの方法について学ぶ。	復習　授業で配布された課題文献を読み、要点ノートを作成する。	6 時間
第７回	対面	批判的に読み（2） 課題文献を精読し、学術的な批判を行う。 課題文献から得られた情報をもとに、研究発表の構造をグループや個人で検討する。	復習　授業後に、配布資料を読んで復習しておく。	4 時間
第８回	対面	問いを立てる 「調査・分析・研究のための問いの立て方」について講義を行うとともに、研究発表のトピックを練る。 研究発表に向けてグループを作り、役割分担などを説明する。	復習　資料をもとに、プレゼンテーションの意義・構成についてを再確認し、プレゼンテーションの資料を準備する。	4 時間
第９回	対面	調べる・議論する 図書館やデータベースを用い、トピックに関する情報を収集する。グループ内で資料情報を共有する。発表資料の作成を開始する。	復習　プレゼンテーション発表の資料を作成する。	4 時間
第１０回	対面	クラス内での発表（1）	復習　発表内容を振り返る。	4 時間
第１１回	対面	クラス内での発表（2）	復習　発表内容を振り返る。	4 時間
第１２回	対面	クラス内での発表（3） 発表を振り返る。各自発表資料を再確認し、修正する。	復習　発表内容を振り返る。	4 時間
第１３回	対面	自由トーク 国際学部での学びについて語り合う。	期末試験の要項を確認し、復習のスケジュールを考える。	2 時間
第１４回	対面	秋学期を振り返り、自己点検シートを作成する。3 年次の成果を確認し、就職など将来の計画を考える。	秋学期に受講した各科目の学習内容を振り返り、期末試験に向けての準備をする。	4 時間
第１５回	オンデマンド	秋学期総括。	3 年次の一年間を振り返り、4 年次に向けて目標を立てる。	6 時間

科目名	基礎演習 B	開講年度	2025
担当者	伍　躍	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	大学での学修の基礎を形成し日本で留学生活に慣れよう。		
授業の目的及び概要	この授業は、次年度の４月から、大学の一年生としての学修に必要な学修態度や技能等を身につけることを目的とします。演習を通して、日本語能力を磨き、特に読解能力の向上を目指して、日本社会および出身国・地域の社会が抱える諸課題への興味を喚起し、大学での学修の動機づけ等を行 います。また、大学における良好な人間関係を構築し、他者を理解してコミュニケーションを図る能力の向上、グループワークを通じた協働力の養成も図ります。		
履修条件・留意点	この演習は、科目等履修生を対象とするものです。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	当該演習では、以下の目標の達成を目指します。 ① 自律性を求めるという大学教育の特徴を理解することができること。 ② 積極的で能動的な学修態度と大学で学修を行うための基礎的な技能を身につけることができること。 ③ 異なる価値観や文化的背景をもつ他者と協働する大切さを知ることができること。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	取り組んだ課題について教員がコメントする等のフィードバックを実施します。作成した課題等は学修ポートフォリオに蓄積し、学修の振り返りに役立てます。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定しない。	ISBN	なし
参考書	指定しない。	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	30
授業期間中の小テスト、レポート課題等	70
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	１年生としての勉学生活をスムーズに適応させるための科目ですので、授業での取組に積極的に参加して、課せられた課題に取り組み、よい成績で修得するようにしてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクションと秋学期の目標設定	復習 秋学期の目標のワークシートを完成させる。 予習 資料（2025 年度大学パンフレット）の指定ペー	4 時間

			ジを予習する（語彙調べ）。	
第２回	対面	①目標のワークシートの講評 ②国際学部の教育特徴・教育内容・進路について説明	復習 目標ワークシートの修正（必要に応じて） 予習 資料（2025 年度大学履修の手引き）の指定ページを予習する（語彙調べ）。	4 時間
第３回	対面	大学の授業・単位・成績評価を確認し、目標達成計画の重要性について説明する	復習 各自、目標達成の計画を検証して修正する（対象：すでに作成した人）か作成する（対象：未作成の人） 予習　新聞を読む①（教員が提示する資料）	4 時間
第４回	対面	新聞を読む①の確認（音読・語彙説明・議論）	復習　　新聞を読む①についての説明内容を整理する 予習　新聞を読む②（教員が提示する資料）	4 時間
第５回	対面	新聞を読む②の確認（音読・語彙説明・議論）	復習　　新聞を読む②についての説明内容を整理する 予習　新聞を読む③（教員が提示する資料）	4 時間
第６回	対面	新聞を読む③の確認（音読・語彙説明・議論）	復習　　新聞を読む③についての説明内容を整理する 予習　新聞を読む④（教員が提示する資料）	4 時間
第７回	対面	新聞を読む④の確認（音読・語彙説明・議論）	復習　　新聞を読む④についての説明内容を整理する 予習　新聞を読む⑤（教員が提示する資料）	4 時間
第８回	対面	新聞を読む⑤の確認（音読・語彙説明・議論） ノートテイキングの要点に関する資料を説明し、予習のポイントを指示する	復習　新聞を読む⑤についての説明内容を整理する 予習　ノートテイキングの要点に関する資料を読んで確認する（語彙調べ）	4 時間
第９回	対面	動画資料：「講義ノートのとり方」「ノートテイキングの必要文房具」 ノートテイキング実践：教員のミニ講義を聞いてノートを取ってみよう。	復習と予習：ノートテイキング実践のノートを整理し、「私がこのようにノートを取りました」ということについての説明を準備する。	4 時間
第１０回	対面	クラス発表会①：私のノート	復習 クラス発表会の講評と意見交換をもとに、ノートを修正する。 学生研究発表大会の見学を準備する。	4 時間
第１１回	対面	学生研究発表大会の見学	復習 学生研究発表大会の見学感想文をまとめる	4 時間
第１２回	対面	クラス発表会②：学生研究発表大会の感想	復習 クラス発表会の講評と意見交換をもとに、見学感想文を修正する。	4 時間
第１３回	対面	協働して目標を達成しよう：グループ作業（与えられたテーマについての調査・まとめ） 実施方法についての教員説明・チームビルディング	復習と予習　グループ作業の内容および各自 の役割を確認して、下調べをする。	4 時間
第１４回	対面	期末試験試験の実施方法・復習の重要性と大学の成績評価について	復習 授業後に、期末試験についての配布資料を読んで復習しておくこと。	4 時間
第１５回	オンデマンド	秋学期の振り返り 秋学期振り返りシートの記入、春休みの学習、新学期のスケジュールの確認だとを行 う。	復習　授業のまとめについて振り返りを行 う。 ＊上記の授業計画は演習の進捗状況により微調整する可能性はあります。	4 時間

科目名	基礎演習 B	開講年度	2025
担当者	池上　寛	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	大学での学修の基礎を形成し日本で留学生活に慣れよう。		
授業の目的及び概要	この授業は、次年度の４月から、大学の一年生としての学修に必要な学修態度や技能等を身につけることを目的とします。演習を通して、日本語能力を磨き、特に読解能力の向上を目指して、日本社会および出身国・地域の社会が抱える諸課題への興味を喚起し、大学での学修の動機づけ等を行 います。また、大学における良好な人間関係を構築し、他者を理解してコミュニケーションを図る能力の向上、グループワークを通じた協働力の養成も図ります。		
履修条件・留意点	この演習は、科目等履修生を対象とするものです。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	当該演習では、以下の目標の達成を目指します。 ① 自律性を求めるという大学教育の特徴を理解することができること。 ② 積極的で能動的な学修態度と大学で学修を行うための基礎的な技能を身につけることができること。 ③ 異なる価値観や文化的背景をもつ他者と協働する大切さを知ることができること。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	取り組んだ課題について教員がコメントする等のフィードバックを実施します。作成した課題等は学修ポートフォリオに蓄積し、学修の振り返りに役立てます。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、JETRO・アジア経済研究所で 25 年以上に渡って調査研究職に従事しており、その間、在台北海外研究員、研究グループ長代理などを歴任している。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	指定しない。	ISBN	なし
参考書	指定しない。	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	30
授業期間中の小テスト、レポート課題等	70
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	１年生としての勉学生活をスムーズに適応させるための科目ですので、授業での取組に積極的に参加して、課せられた課題に取り組み、よい成績で修得するようにしてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクションと秋学期の目標設定	復習 秋学期の目標のワークシートを完成させる。 予習 資料（2025 年度大学パンフレット）の指定ペー	4 時間

			ジを予習する（語彙調べ）。	
第２回	対面	①目標のワークシートの講評 ②国際学部の教育特徴・教育内容・進路について説明	復習 目標ワークシートの修正（必要に応じて） 予習 資料（2025 年度大学履修の手引き）の指定ページを予習する（語彙調べ）。	4 時間
第３回	対面	大学の授業・単位・成績評価を確認し、目標達成計画の重要性について説明する	復習 各自、目標達成の計画を検証して修正する（対象：すでに作成した人）か作成する（対象：未作成の人） 予習　新聞を読む①（教員が提示する資料）	4 時間
第４回	対面	新聞を読む①の確認（音読・語彙説明・議論）	復習　　新聞を読む①についての説明内容を整理する 予習　新聞を読む②（教員が提示する資料）	4 時間
第５回	対面	新聞を読む②の確認（音読・語彙説明・議論）	復習　　新聞を読む②についての説明内容を整理する 予習　新聞を読む③（教員が提示する資料）	4 時間
第６回	対面	新聞を読む③の確認（音読・語彙説明・議論）	復習　　新聞を読む③についての説明内容を整理する 予習　新聞を読む④（教員が提示する資料）	4 時間
第７回	対面	新聞を読む④の確認（音読・語彙説明・議論）	復習　　新聞を読む④についての説明内容を整理する 予習　新聞を読む⑤（教員が提示する資料）	4 時間
第８回	対面	新聞を読む⑤の確認（音読・語彙説明・議論） ノートテイキングの要点に関する資料を説明し、予習のポイントを指示する	復習　新聞を読む⑤についての説明内容を整理する 予習　ノートテイキングの要点に関する資料を読んで確認する（語彙調べ）	4 時間
第９回	対面	動画資料：「講義ノートのとり方」「ノートテイキングの必要文房具」 ノートテイキング実践：教員のミニ講義を聞いてノートを取ってみよう。	復習と予習：ノートテイキング実践のノートを整理し、「私がこのようにノートを取りました」ということについての説明を準備する。	4 時間
第１０回	対面	クラス発表会①：私のノート	復習 クラス発表会の講評と意見交換をもとに、ノートを修正する。 学生研究発表大会の見学を準備する。	4 時間
第１１回	対面	学生研究発表大会の見学	復習 学生研究発表大会の見学感想文をまとめる	4 時間
第１２回	対面	クラス発表会②：学生研究発表大会の感想	復習 クラス発表会の講評と意見交換をもとに、見学感想文を修正する。	4 時間
第１３回	対面	協働して目標を達成しよう：グループ作業（与えられたテーマについての調査・まとめ） 実施方法についての教員説明・チームビルディング	復習と予習　グループ作業の内容および各自 の役割を確認して、下調べをする。	4 時間
第１４回	対面	期末試験試験の実施方法・復習の重要性と大学の成績評価について	復習 授業後に、期末試験についての配布資料を読んで復習しておくこと。	4 時間
第１５回	オンデマンド	秋学期の振り返り 秋学期振り返りシートの記入、春休みの学習、新学期のスケジュールの確認だとを行 う。	復習　授業のまとめについて振り返りを行 う。 ＊上記の授業計画は演習の進捗状況により微調整する可能性はあります。	4 時間

科目名	基礎演習 B	開講年度	2025
担当者	三戸　康世	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	世界への関心を持つとともに大学での学びについて知る。		
授業の目的及び概要	この授業は、大学での学修に必要な学修態度や技能等を身につけることを目的とします。授業を通して、自ら学び、行動する主体性と学修技法を身につけさせるとともに、グローバル社会の諸課題への興味を喚起し、大学での学修の動機づけ等を行います。また、大学における良好な人間関係を構築し、他者を理解してコミュニケーションを図る能力の向上、グループワークを通じた協働力とリーダーシップの育成、将来に向けたキャリア意識の形成も図ります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	授業での取組をとおして、以下の到達目標の達成を目指します。 ① 高校とは異なる大学という場（自律性）を理解している。 ② 積極的で能動的な学修態度と大学で学修を行うための基礎的な技能を身につけている。 ③ 異なる価値観や文化的背景をもつ他者と協働する大切さを知っている。 ④ 「世界を知る」ことに対する意欲と異文化に対する「気づき」を持っている。 ⑤ 国際キャリアにおける幅の広いキャリア像を持っている。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	取り組んだ課題について教員がコメントする等のフィードバックを実施します。作成した課題等は学修ポートフォリオに蓄積し、学修の振り返りに役立てます。		
アクティブ・ラーニングの取組み	プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、キャリアコンサルタントや米国 CCE 認定グローバルキャリア開発ファシリテーターの資格を有しており、これまでに海外の法律事務所で翻訳・通訳や国内の民間企業でキャリア教育コーディネーター等の業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	指定しない。	ISBN	なし
参考書	参考書は基礎演習のなかで適宜指示する。	ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	50
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	20
その他の内容	リフレクションペーパー

この科目の受講にあたって	
	授業での取組に積極的に参加して、課せられた課題に取り組んでください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第１回	対面	イントロダクションと秋学期の目標設定（学生研究発表大会に向けて） 夏休みの振り返り&秋学期目標シート作成を作成する。 秋学期の基礎演習 B は、学生研究発表大会がテーマとなる。研究発表の目的（世界への関心と国際共修）とスケジュールについて説明する。	復習　授業中に配布される課題文献を事前に読み、要点ノートを作成する。	4 時間
第２回	対面	専門的に読み解く 研究発表に向けてトピックの構想を開始するため、課題文献を精読し、事前に作成してきた要点ノートの加筆修正を行う。 その後、各自要約を作成する。	復習　課題文献の要約を完成させ、提出する。	4 時間
第３回	対面	批判的に読む（1） クリティカル・リーディングの方法について学ぶ。	復習　授業で配布された課題文献を読み、要点ノートを作成する。	4 時間
第４回	対面	批判的に読む（2） 課題文献を精読し、学術的な批判を行う。 課題文献から得られた情報をもとに、研究発表の構想をグループで検討する。	復習 授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	4 時間
第５回	対面	問いを立てる 「調査・分析・研究のための問いの立て方」についての講義を行うとともに、研究発表のトピックを練る。 研究発表大会に向けたグループ分けを行い、役割分担などを説明する。	復習　発表資料を完成させ、提出する。	4 時間
第６回	対面	調べる・議論する 図書館やデータベースを用い、トピックに関する情報を収集する。グループ内で資料情報を共有する。 発表資料の作成を開始する。	復習　発表資料を完成させ、提出する。	4 時間
第７回	対面	発表する 研究発表の中間報告・教員の講評（クラス全体）、分かりやすい発表の方法（話し方や効果的な図表の使い方）を指導する。教員によるグループ面談を行う。	復習　発表資料を完成させ、提出する。	4 時間
第８回	対面	クラス内発表会	復習　授業コメントを作成し、提出する。	4 時間
第９回	オンデマンド	3・4 年生の学生研究発表大会に参加する。	復習　学生研究発表大会での学びについてミニレポートを提出する。	4 時間
第１０回	対面	1 年生学生研究発表大会	復習　授業コメントを作成し、提出する。	4 時間
第１１回	対面	学生研究発表大会の振り返り 振り返りシートの記入を行い、専門演習Ⅰの演習募集に先立ち、国際学部コース制の説明を行う。 これまでに行ってきた発表のための調査内容に基づき、レポートを執筆するため、レポートの形式や構成要素を学ぶ。	復習　レポートの下書きを完成させ、提出する。	4 時間
第１２回	対面	レポートの書き方 相互批評を行い、各自加筆修正を行う。 専門演習Ⅰの演習募集に先立ち、国際学部コース制の説明を行う。	復習　レポートを完成させ、提出する。	4 時間
第１３回	対面	シャッフル演習① 専門演習とコース選択に関する説明を実施し、それぞれの教員の演習ではどのような分野・トピックが学べるのかを示す。	復習　授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	4 時間
第１４回	対面	シャッフル演習②	復習　授業後に、授業で配布した資料を読んで復習	4 時間

		専門演習とコース選択に関する説明を実施し、それぞれの教員の演習ではどのような分野・トピックが学べるのかを示す。	しておくこと。	
第１５回	対面	１年間の振り返り 秋学期振り返りシートの記入、春休みの学習、新学期のスケジュールの確認を行う。 レポートの講評を行う。	復習　授業のまとめについて振り返りを行う。	4 時間

科目名	基礎演習 B	開講年度	2025
担当者	池上　寛	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	世界への関心を持つとともに大学での学びについて知る。		
授業の目的及び概要	この授業は、大学での学修に必要な学修態度や技能等を身につけることを目的とします。授業を通して、自ら学び、行動する主体性と学修技法を身につけさせるとともに、グローバル社会の諸課題への興味を喚起し、大学での学修の動機づけ等を行います。また、大学における良好な人間関係を構築し、他者を理解してコミュニケーションを図る能力の向上、グループワークを通じた協働力とリーダーシップの育成、将来に向けたキャリア意識の形成も図ります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	授業での取組をとおして、以下の到達目標の達成を目指します。 ① 高校とは異なる大学という場（自律性）を理解している。 ② 積極的で能動的な学修態度と大学で学修を行うための基礎的な技能を身につけている。 ③ 異なる価値観や文化的背景をもつ他者と協働する大切さを知っている。 ④ 「世界を知る」ことに対する意欲と異文化に対する「気づき」を持っている。 ⑤ 国際キャリアにおける幅の広いキャリア像を持っている。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	取り組んだ課題について教員がコメントする等のフィードバックを実施します。作成した課題等は学修ポートフォリオに蓄積し、学修の振り返りに役立てます。		
アクティブ・ラーニングの取組み	プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、JETRO・アジア経済研究所で 25 年以上に渡って調査研究職に従事しており、その間、在台北海外研究員、研究グループ長代理などを歴任している。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	指定しない。	ISBN	なし
参考書	参考書は基礎演習のなかで適宜指示する。	ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	50
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	20
その他の内容	リフレクションペーパー

この科目の受講にあたって	
	授業での取組に積極的に参加して、課せられた課題に取り組んでください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクションと秋学期の目標設定	復習　授業中に配布される課題文献を事前に読み、	4 時間

		（学生研究発表大会に向けて） 夏休みの振り返り&秋学期目標シート作成を作成する。 秋学期の基礎演習 B は、学生研究発表大会がテーマとなる。研究発表の目的（世界への関心と国際共修）とスケジュールについて説明する。	要点ノートを作成する。	
第２回	対面	専門的に読み解く 研究発表に向けてトピックの構想を開始するため、課題文献を精読し、事前に作成してきた要点ノートの加筆修正を行う。 その後、各自要約を作成する。	復習　課題文献の要約を完成させ、提出する。	4 時間
第３回	対面	批判的に読む（1） クリティカル・リーディングの方法について学ぶ。	復習　授業で配布された課題文献を読み、要点ノートを作成する。	4 時間
第４回	対面	批判的に読む（2） 課題文献を精読し、学術的な批判を行う。 課題文献から得られた情報をもとに、研究発表の構想をグループで検討する。	復習 授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	4 時間
第５回	対面	問いを立てる 「調査・分析・研究のための問いの立て方」についての講義を行うとともに、研究発表のトピックを練る。 研究発表大会に向けたグループ分けを行い、役割分担などを説明する。	復習　発表資料を完成させ、提出する。	4 時間
第６回	対面	調べる・議論する 図書館やデータベースを用い、トピックに関する情報を収集する。グループ内で資料情報を共有する。 発表資料の作成を開始する。	復習　発表資料を完成させ、提出する。	4 時間
第７回	対面	発表する 研究発表の中間報告・教員の講評（クラス全体）、分かりやすい発表の方法（話し方や効果的な図表の使い方）を指導する。教員によるグループ面談を行う。	復習　発表資料を完成させ、提出する。	4 時間
第８回	対面	クラス内発表会	復習　授業コメントを作成し、提出する。	4 時間
第９回	オンデマンド	3・4 年生の学生研究発表大会に参加する。	復習　学生研究発表大会での学びについてミニレポートを提出する。	4 時間
第１０回	対面	1 年生学生研究発表大会	復習　授業コメントを作成し、提出する。	4 時間
第１１回	対面	学生研究発表大会の振り返り 振り返りシートの記入を行い、専門演習Ⅰの演習募集に先立ち、国際学部コース制の説明を行う。 これまでに行ってきた発表のための調査内容に基づき、レポートを執筆するため、レポートの形式や構成要素を学ぶ。	復習　レポートの下書きを完成させ、提出する。	4 時間
第１２回	対面	レポートの書き方 相互批評を行い、各自加筆修正を行う。 専門演習Ⅰの演習募集に先立ち、国際学部コース制の説明を行う。	復習　レポートを完成させ、提出する。	4 時間
第１３回	対面	シャッフル演習① 専門演習とコース選択に関する説明を実施し、それぞれの教員の演習ではどのような分野・トピックが学べるのかを示す。	復習　授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	4 時間
第１４回	対面	シャッフル演習② 専門演習とコース選択に関する説明を実	復習　授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	4 時間

		施し、それぞれの教員の演習ではどのような分野・トピックが学べるのかを示す。		
第１５回	対面	１年間の振り返り 秋学期振り返りシートの記入、春休みの学習、新学期のスケジュールの確認を行う。 レポートの講評を行う。	復習　授業のまとめについて振り返りを行う。	4 時間

科目名	基礎演習 B	開講年度	2025
担当者	ボイキン　舞	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	世界への関心を持つとともに大学での学びについて知る。		
授業の目的及び概要	この授業は、大学での学修に必要な学修態度や技能等を身につけることを目的とします。授業を通して、自ら学び、行動する主体性と学修技法を身につけさせるとともに、グローバル社会の諸課題への興味を喚起し、大学での学修の動機づけ等を行います。また、大学における良好な人間関係を構築し、他者を理解してコミュニケーションを図る能力の向上、グループワークを通じた協働力とリーダーシップの育成、将来に向けたキャリア意識の形成も図ります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	授業での取組をとおして、以下の到達目標の達成を目指します。 ① 高校とは異なる大学という場（自律性）を理解している。 ② 積極的で能動的な学修態度と大学で学修を行うための基礎的な技能を身につけている。 ③ 異なる価値観や文化的背景をもつ他者と協働する大切さを知っている。 ④ 「世界を知る」ことに対する意欲と異文化に対する「気づき」を持っている。 ⑤ 国際キャリアにおける幅の広いキャリア像を持っている。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	取り組んだ課題について教員がコメントする等のフィードバックを実施します。作成した課題等は学修ポートフォリオに蓄積し、学修の振り返りに役立てます。		
アクティブ・ラーニングの取組み	プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定しない。	ISBN	なし
参考書	参考書は基礎演習のなかで適宜指示する。	ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	50
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	20
その他の内容	リフレクションペーパー

この科目の受講にあたって	授業での取組に積極的に参加して、課せられた課題に取り組んでください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクションと秋学期の目標設定	復習　授業中に配布される課題文献を事前に読み、	4 時間

		（学生研究発表大会に向けて） 夏休みの振り返り&秋学期目標シート作成を作成する。 秋学期の基礎演習 B は、学生研究発表大会がテーマとなる。研究発表の目的（世界への関心と国際共修）とスケジュールについて説明する。	要点ノートを作成する。	
第２回	対面	専門的に読み解く 研究発表に向けてトピックの構想を開始するため、課題文献を精読し、事前に作成してきた要点ノートの加筆修正を行う。 その後、各自要約を作成する。	復習　課題文献の要約を完成させ、提出する。	4 時間
第３回	対面	批判的に読む（1） クリティカル・リーディングの方法について学ぶ。	復習　授業で配布された課題文献を読み、要点ノートを作成する。	4 時間
第４回	対面	批判的に読む（2） 課題文献を精読し、学術的な批判を行う。 課題文献から得られた情報をもとに、研究発表の構想をグループで検討する。	復習 授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	4 時間
第５回	対面	問いを立てる 「調査・分析・研究のための問いの立て方」についての講義を行うとともに、研究発表のトピックを練る。 研究発表大会に向けたグループ分けを行い、役割分担などを説明する。	復習　発表資料を完成させ、提出する。	4 時間
第６回	対面	調べる・議論する 図書館やデータベースを用い、トピックに関する情報を収集する。グループ内で資料情報を共有する。 発表資料の作成を開始する。	復習　発表資料を完成させ、提出する。	4 時間
第７回	対面	発表する 研究発表の中間報告・教員の講評（クラス全体）、分かりやすい発表の方法（話し方や効果的な図表の使い方）を指導する。教員によるグループ面談を行う。	復習　発表資料を完成させ、提出する。	4 時間
第８回	対面	クラス内発表会	復習　授業コメントを作成し、提出する。	4 時間
第９回	オンデマンド	3・4 年生の学生研究発表大会に参加する。	復習　学生研究発表大会での学びについてミニレポートを提出する。	4 時間
第１０回	対面	1 年生学生研究発表大会	復習　授業コメントを作成し、提出する。	4 時間
第１１回	対面	学生研究発表大会の振り返り 振り返りシートの記入を行い、専門演習Ⅰの演習募集に先立ち、国際学部コース制の説明を行う。 これまでに行ってきた発表のための調査内容に基づき、レポートを執筆するため、レポートの形式や構成要素を学ぶ。	復習　レポートの下書きを完成させ、提出する。	4 時間
第１２回	対面	レポートの書き方 相互批評を行い、各自加筆修正を行う。 専門演習Ⅰの演習募集に先立ち、国際学部コース制の説明を行う。	復習　レポートを完成させ、提出する。	4 時間
第１３回	対面	シャッフル演習① 専門演習とコース選択に関する説明を実施し、それぞれの教員の演習ではどのような分野・トピックが学べるのかを示す。	復習　授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	4 時間
第１４回	対面	シャッフル演習② 専門演習とコース選択に関する説明を実	復習　授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	4 時間

		施し、それぞれの教員の演習ではどのような分野・トピックが学べるのかを示す。		
第１５回	対面	１年間の振り返り 秋学期振り返りシートの記入、春休みの学習、新学期のスケジュールの確認を行う。 レポートの講評を行う。	復習　授業のまとめについて振り返りを行う。	4 時間

科目名	基礎演習 B	開講年度	2025
担当者	徐　潤雅	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	世界への関心を持つとともに大学での学びについて知る。		
授業の目的及び概要	この授業は、大学での学修に必要な学修態度や技能等を身につけることを目的とします。授業を通して、自ら学び、行動する主体性と学修技法を身につけさせるとともに、グローバル社会の諸課題への興味を喚起し、大学での学修の動機づけ等を行います。また、大学における良好な人間関係を構築し、他者を理解してコミュニケーションを図る能力の向上、グループワークを通じた協働力とリーダーシップの育成、将来に向けたキャリア意識の形成も図ります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	授業での取組をとおして、以下の到達目標の達成を目指します。 ① 高校とは異なる大学という場（自律性）を理解している。 ② 積極的で能動的な学修態度と大学で学修を行うための基礎的な技能を身につけている。 ③ 異なる価値観や文化的背景をもつ他者と協働する大切さを知っている。 ④ 「世界を知る」ことに対する意欲と異文化に対する「気づき」を持っている。 ⑤ 国際キャリアにおける幅の広いキャリア像を持っている。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	取り組んだ課題について教員がコメントする等のフィードバックを実施します。作成した課題等は学修ポートフォリオに蓄積し、学修の振り返りに役立てます。		
アクティブ・ラーニングの取組み	プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定しない。	ISBN	なし
参考書	参考書は基礎演習のなかで適宜指示する。	ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	50
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	20
その他の内容	リフレクションペーパー

この科目の受講にあたって	授業での取組に積極的に参加して、課せられた課題に取り組んでください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクションと秋学期の目標設定	復習　授業中に配布される課題文献を事前に読み、	4 時間

		（学生研究発表大会に向けて） 夏休みの振り返り&秋学期目標シート作成を作成する。 秋学期の基礎演習 B は、学生研究発表大会がテーマとなる。研究発表の目的（世界への関心と国際共修）とスケジュールについて説明する。	要点ノートを作成する。	
第２回	対面	専門的に読み解く 研究発表に向けてトピックの構想を開始するため、課題文献を精読し、事前に作成してきた要点ノートの加筆修正を行う。 その後、各自要約を作成する。	復習　課題文献の要約を完成させ、提出する。	4 時間
第３回	対面	批判的に読む（1） クリティカル・リーディングの方法について学ぶ。	復習　授業で配布された課題文献を読み、要点ノートを作成する。	4 時間
第４回	対面	批判的に読む（2） 課題文献を精読し、学術的な批判を行う。 課題文献から得られた情報をもとに、研究発表の構想をグループで検討する。	復習 授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	4 時間
第５回	対面	問いを立てる 「調査・分析・研究のための問いの立て方」についての講義を行うとともに、研究発表のトピックを練る。 研究発表大会に向けたグループ分けを行い、役割分担などを説明する。	復習　発表資料を完成させ、提出する。	4 時間
第６回	対面	調べる・議論する 図書館やデータベースを用い、トピックに関する情報を収集する。グループ内で資料情報を共有する。 発表資料の作成を開始する。	復習　発表資料を完成させ、提出する。	4 時間
第７回	対面	発表する 研究発表の中間報告・教員の講評（クラス全体）、分かりやすい発表の方法（話し方や効果的な図表の使い方）を指導する。教員によるグループ面談を行う。	復習　発表資料を完成させ、提出する。	4 時間
第８回	対面	クラス内発表会	復習　授業コメントを作成し、提出する。	4 時間
第９回	オンデマンド	3・4 年生の学生研究発表大会に参加する。	復習　学生研究発表大会での学びについてミニレポートを提出する。	4 時間
第１０回	対面	1 年生学生研究発表大会	復習　授業コメントを作成し、提出する。	4 時間
第１１回	対面	学生研究発表大会の振り返り 振り返りシートの記入を行い、専門演習Ⅰの演習募集に先立ち、国際学部コース制の説明を行う。 これまでに行ってきた発表のための調査内容に基づき、レポートを執筆するため、レポートの形式や構成要素を学ぶ。	復習　レポートの下書きを完成させ、提出する。	4 時間
第１２回	対面	レポートの書き方 相互批評を行い、各自加筆修正を行う。 専門演習Ⅰの演習募集に先立ち、国際学部コース制の説明を行う。	復習　レポートを完成させ、提出する。	4 時間
第１３回	対面	シャッフル演習① 専門演習とコース選択に関する説明を実施し、それぞれの教員の演習ではどのような分野・トピックが学べるのかを示す。	復習　授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	4 時間
第１４回	対面	シャッフル演習② 専門演習とコース選択に関する説明を実	復習　授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	4 時間

		施し、それぞれの教員の演習ではどのような分野・トピックが学べるのかを示す。		
第１５回	対面	１年間の振り返り 秋学期振り返りシートの記入、春休みの学習、新学期のスケジュールの確認を行う。 レポートの講評を行う。	復習　授業のまとめについて振り返りを行う。	4 時間

科目名	基礎演習 B	開講年度	2025
担当者	福田　真也	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	世界への関心を持つとともに大学での学びについて知る。		
授業の目的及び概要	この授業は、大学での学修に必要な学修態度や技能等を身につけることを目的とします。授業を通して、自ら学び、行動する主体性と学修技法を身につけさせるとともに、グローバル社会の諸課題への興味を喚起し、大学での学修の動機づけ等を行います。また、大学における良好な人間関係を構築し、他者を理解してコミュニケーションを図る能力の向上、グループワークを通じた協働力とリーダーシップの育成、将来に向けたキャリア意識の形成も図ります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	授業での取組をとおして、以下の到達目標の達成を目指します。 ① 高校とは異なる大学という場（自律性）を理解している。 ② 積極的で能動的な学修態度と大学で学修を行うための基礎的な技能を身につけている。 ③ 異なる価値観や文化的背景をもつ他者と協働する大切さを知っている。 ④ 「世界を知る」ことに対する意欲と異文化に対する「気づき」を持っている。 ⑤ 国際キャリアにおける幅の広いキャリア像を持っている。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	取り組んだ課題について教員がコメントする等のフィードバックを実施します。作成した課題等は学修ポートフォリオに蓄積し、学修の振り返りに役立てます。		
アクティブ・ラーニングの取組み	プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定しない。	ISBN	なし
参考書	参考書は基礎演習のなかで適宜指示する。	ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	50
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	20
その他の内容	リフレクションペーパー

この科目の受講にあたって	授業での取組に積極的に参加して、課せられた課題に取り組んでください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクションと秋学期の目標設定	復習　授業中に配布される課題文献を事前に読み、	4 時間

		（学生研究発表大会に向けて） 夏休みの振り返り&秋学期目標シート作成を作成する。 秋学期の基礎演習 B は、学生研究発表大会がテーマとなる。研究発表の目的（世界への関心と国際共修）とスケジュールについて説明する。	要点ノートを作成する。	
第２回	対面	専門的に読み解く 研究発表に向けてトピックの構想を開始するため、課題文献を精読し、事前に作成してきた要点ノートの加筆修正を行う。 その後、各自要約を作成する。	復習　課題文献の要約を完成させ、提出する。	4 時間
第３回	対面	批判的に読む（1） クリティカル・リーディングの方法について学ぶ。	復習　授業で配布された課題文献を読み、要点ノートを作成する。	4 時間
第４回	対面	批判的に読む（2） 課題文献を精読し、学術的な批判を行う。 課題文献から得られた情報をもとに、研究発表の構想をグループで検討する。	復習 授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	4 時間
第５回	対面	問いを立てる 「調査・分析・研究のための問いの立て方」についての講義を行うとともに、研究発表のトピックを練る。 研究発表大会に向けたグループ分けを行い、役割分担などを説明する。	復習　発表資料を完成させ、提出する。	4 時間
第６回	対面	調べる・議論する 図書館やデータベースを用い、トピックに関する情報を収集する。グループ内で資料情報を共有する。 発表資料の作成を開始する。	復習　発表資料を完成させ、提出する。	4 時間
第７回	対面	発表する 研究発表の中間報告・教員の講評（クラス全体）、分かりやすい発表の方法（話し方や効果的な図表の使い方）を指導する。教員によるグループ面談を行う。	復習　発表資料を完成させ、提出する。	4 時間
第８回	対面	クラス内発表会	復習　授業コメントを作成し、提出する。	4 時間
第９回	オンデマンド	3・4 年生の学生研究発表大会に参加する。	復習　学生研究発表大会での学びについてミニレポートを提出する。	4 時間
第１０回	対面	1 年生学生研究発表大会	復習　授業コメントを作成し、提出する。	4 時間
第１１回	対面	学生研究発表大会の振り返り 振り返りシートの記入を行い、専門演習Ⅰの演習募集に先立ち、国際学部コース制の説明を行う。 これまでに行ってきた発表のための調査内容に基づき、レポートを執筆するため、レポートの形式や構成要素を学ぶ。	復習　レポートの下書きを完成させ、提出する。	4 時間
第１２回	対面	レポートの書き方 相互批評を行い、各自加筆修正を行う。 専門演習Ⅰの演習募集に先立ち、国際学部コース制の説明を行う。	復習　レポートを完成させ、提出する。	4 時間
第１３回	対面	シャッフル演習① 専門演習とコース選択に関する説明を実施し、それぞれの教員の演習ではどのような分野・トピックが学べるのかを示す。	復習　授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	4 時間
第１４回	対面	シャッフル演習② 専門演習とコース選択に関する説明を実	復習　授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	4 時間

		施し、それぞれの教員の演習ではどのような分野・トピックが学べるのかを示す。		
第１５回	対面	１年間の振り返り 秋学期振り返りシートの記入、春休みの学習、新学期のスケジュールの確認を行う。 レポートの講評を行う。	復習　授業のまとめについて振り返りを行う。	4 時間

科目名	基礎演習 B	開講年度	2025
担当者	高砂　謙二	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	世界への関心を持つとともに大学での学びについて知る。		
授業の目的及び概要	この授業は、大学での学修に必要な学修態度や技能等を身につけることを目的とします。授業を通して、自ら学び、行動する主体性と学修技法を身につけさせるとともに、グローバル社会の諸課題への興味を喚起し、大学での学修の動機づけ等を行います。また、大学における良好な人間関係を構築し、他者を理解してコミュニケーションを図る能力の向上、グループワークを通じた協働力とリーダーシップの育成、将来に向けたキャリア意識の形成も図ります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	授業での取組をとおして、以下の到達目標の達成を目指します。 ① 高校とは異なる大学という場（自律性）を理解している。 ② 積極的で能動的な学修態度と大学で学修を行うための基礎的な技能を身につけている。 ③ 異なる価値観や文化的背景をもつ他者と協働する大切さを知っている。 ④ 「世界を知る」ことに対する意欲と異文化に対する「気づき」を持っている。 ⑤ 国際キャリアにおける幅の広いキャリア像を持っている。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	取り組んだ課題について教員がコメントする等のフィードバックを実施します。作成した課題等は学修ポートフォリオに蓄積し、学修の振り返りに役立てます。		
アクティブ・ラーニングの取組み	プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、金融機関において営業店や外国部、審査部、経営企画等で 16 年間勤務し、銀行業務全般や国際業務（外国為替リーディング業務、外為与信審査業務、国際経営・貿易相談業務、輸出入貿易書類点検業務）、法務・市場調査・広報等の実務経験を積んできた。本科目では、国際的なマーケットの実態や外国為替相場の特性などについて、こうした実務経験を活かして解説するなど、実践的な教育を行う。		
テキスト	指定しない。	ISBN	なし
参考書	参考書は基礎演習のなかで適宜指示する。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	20	
	その他の内容	リフレクションペーパー	
この科目の受講にあたって	授業での取組に積極的に参加して、課せられた課題に取り組んでください。		

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第１回	対面	イントロダクションと秋学期の目標設定（学生研究発表大会に向けて） 夏休みの振り返り&秋学期目標シート作成を作成する。 秋学期の基礎演習 B は、学生研究発表大会がテーマとなる。研究発表の目的（世界への関心と国際共修）とスケジュールについて説明する。	復習　授業中に配布される課題文献を事前に読み、要点ノートを作成する。	4 時間
第２回	対面	専門的に読み解く 研究発表に向けてトピックの構想を開始するため、課題文献を精読し、事前に作成してきた要点ノートの加筆修正を行う。 その後、各自要約を作成する。	復習　課題文献の要約を完成させ、提出する。	4 時間
第３回	対面	批判的に読む（1） クリティカル・リーディングの方法について学ぶ。	復習　授業で配布された課題文献を読み、要点ノートを作成する。	4 時間
第４回	対面	批判的に読む（2） 課題文献を精読し、学術的な批判を行う。 課題文献から得られた情報をもとに、研究発表の構想をグループで検討する。	復習 授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	4 時間
第５回	対面	問いを立てる 「調査・分析・研究のための問いの立て方」についての講義を行うとともに、研究発表のトピックを練る。 研究発表大会に向けたグループ分けを行い、役割分担などを説明する。	復習　発表資料を完成させ、提出する。	4 時間
第６回	対面	調べる・議論する 図書館やデータベースを用い、トピックに関する情報を収集する。グループ内で資料情報を共有する。 発表資料の作成を開始する。	復習　発表資料を完成させ、提出する。	4 時間
第７回	対面	発表する 研究発表の中間報告・教員の講評（クラス全体）、分かりやすい発表の方法（話し方や効果的な図表の使い方）を指導する。教員によるグループ面談を行う。	復習　発表資料を完成させ、提出する。	4 時間
第８回	対面	クラス内発表会	復習　授業コメントを作成し、提出する。	4 時間
第９回	オンデマンド	3・4 年生の学生研究発表大会に参加する。	復習　学生研究発表大会での学びについてミニレポートを提出する。	4 時間
第１０回	対面	1 年生学生研究発表大会	復習　授業コメントを作成し、提出する。	4 時間
第１１回	対面	学生研究発表大会の振り返り 振り返りシートの記入を行い、専門演習Ⅰの演習募集に先立ち、国際学部コース制の説明を行う。 これまでに行ってきた発表のための調査内容に基づき、レポートを執筆するため、レポートの形式や構成要素を学ぶ。	復習　レポートの下書きを完成させ、提出する。	4 時間
第１２回	対面	レポートの書き方 相互批評を行い、各自加筆修正を行う。 専門演習Ⅰの演習募集に先立ち、国際学部コース制の説明を行う。	復習　レポートを完成させ、提出する。	4 時間
第１３回	対面	シャッフル演習① 専門演習とコース選択に関する説明を実施し、それぞれの教員の演習ではどのような分野・トピックが学べるのかを示す。	復習　授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	4 時間

第１４回	対面	シャッフル演習② 専門演習とコース選択に関する説明を実施し、それぞれの教員の演習ではどのような分野・トピックが学べるのかを示す。	復習　授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	4 時間
第１５回	対面	１年間の振り返り 秋学期振り返りシートの記入、春休みの学習、新学期のスケジュールの確認を行う。 レポートの講評を行う。	復習　授業のまとめについて振り返りを行う。	4 時間

科目名	基礎演習 B	開講年度	2025
担当者	荻田　朋子	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	世界への関心を持つとともに大学での学びについて知る。		
授業の目的及び概要	この授業は、大学での学修に必要な学修態度や技能等を身につけることを目的とします。授業を通して、自ら学び、行動する主体性と学修技法を身につけさせるとともに、グローバル社会の諸課題への興味を喚起し、大学での学修の動機づけ等を行います。また、大学における良好な人間関係を構築し、他者を理解してコミュニケーションを図る能力の向上、グループワークを通じた協働力とリーダーシップの育成、将来に向けたキャリア意識の形成も図ります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	授業での取組をとおして、以下の到達目標の達成を目指します。 ① 高校とは異なる大学という場（自律性）を理解している。 ② 積極的で能動的な学修態度と大学で学修を行うための基礎的な技能を身につけている。 ③ 異なる価値観や文化的背景をもつ他者と協働する大切さを知っている。 ④ 「世界を知る」ことに対する意欲と異文化に対する「気づき」を持っている。 ⑤ 国際キャリアにおける幅の広いキャリア像を持っている。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	取り組んだ課題について教員がコメントする等のフィードバックを実施します。作成した課題等は学修ポートフォリオに蓄積し、学修の振り返りに役立てます。		
アクティブ・ラーニングの取組み	プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定しない。	ISBN	なし
参考書	参考書は基礎演習のなかで適宜指示する。	ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	50
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	20
その他の内容	リフレクションペーパー

この科目の受講にあたって	
	授業での取組に積極的に参加して、課せられた課題に取り組んでください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクションと秋学期の目標設定	復習　授業中に配布される課題文献を事前に読み、	4 時間

		（学生研究発表大会に向けて） 夏休みの振り返り&秋学期目標シート作成を作成する。 秋学期の基礎演習 B は、学生研究発表大会がテーマとなる。研究発表の目的（世界への関心と国際共修）とスケジュールについて説明する。	要点ノートを作成する。	
第２回	対面	専門的に読み解く 研究発表に向けてトピックの構想を開始するため、課題文献を精読し、事前に作成してきた要点ノートの加筆修正を行う。 その後、各自要約を作成する。	復習　課題文献の要約を完成させ、提出する。	4 時間
第３回	対面	批判的に読む（1） クリティカル・リーディングの方法について学ぶ。	復習　授業で配布された課題文献を読み、要点ノートを作成する。	4 時間
第４回	対面	批判的に読む（2） 課題文献を精読し、学術的な批判を行う。 課題文献から得られた情報をもとに、研究発表の構想をグループで検討する。	復習 授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	4 時間
第５回	対面	問いを立てる 「調査・分析・研究のための問いの立て方」についての講義を行うとともに、研究発表のトピックを練る。 研究発表大会に向けたグループ分けを行い、役割分担などを説明する。	復習　発表資料を完成させ、提出する。	4 時間
第６回	対面	調べる・議論する 図書館やデータベースを用い、トピックに関する情報を収集する。グループ内で資料情報を共有する。 発表資料の作成を開始する。	復習　発表資料を完成させ、提出する。	4 時間
第７回	対面	発表する 研究発表の中間報告・教員の講評（クラス全体）、分かりやすい発表の方法（話し方や効果的な図表の使い方）を指導する。教員によるグループ面談を行う。	復習　発表資料を完成させ、提出する。	4 時間
第８回	対面	クラス内発表会	復習　授業コメントを作成し、提出する。	4 時間
第９回	オンデマンド	3・4 年生の学生研究発表大会に参加する。	復習　学生研究発表大会での学びについてミニレポートを提出する。	4 時間
第１０回	対面	1 年生学生研究発表大会	復習　授業コメントを作成し、提出する。	4 時間
第１１回	対面	学生研究発表大会の振り返り 振り返りシートの記入を行い、専門演習Ⅰの演習募集に先立ち、国際学部コース制の説明を行う。 これまでに行ってきた発表のための調査内容に基づき、レポートを執筆するため、レポートの形式や構成要素を学ぶ。	復習　レポートの下書きを完成させ、提出する。	4 時間
第１２回	対面	レポートの書き方 相互批評を行い、各自加筆修正を行う。 専門演習Ⅰの演習募集に先立ち、国際学部コース制の説明を行う。	復習　レポートを完成させ、提出する。	4 時間
第１３回	対面	シャッフル演習① 専門演習とコース選択に関する説明を実施し、それぞれの教員の演習ではどのような分野・トピックが学べるのかを示す。	復習　授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	4 時間
第１４回	対面	シャッフル演習② 専門演習とコース選択に関する説明を実	復習　授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	4 時間

		施し、それぞれの教員の演習ではどのような分野・トピックが学べるのかを示す。		
第１５回	対面	１年間の振り返り 秋学期振り返りシートの記入、春休みの学習、新学期のスケジュールの確認を行う。 レポートの講評を行う。	復習　授業のまとめについて振り返りを行う。	4 時間

科目名	基礎演習 B	開講年度	2025
担当者	中山　周作	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	世界への関心を持つとともに大学での学びについて知る。		
授業の目的及び概要	この授業は、大学での学修に必要な学修態度や技能等を身につけることを目的とします。授業を通して、自ら学び、行動する主体性と学修技法を身につけさせるとともに、グローバル社会の諸課題への興味を喚起し、大学での学修の動機づけ等を行います。また、大学における良好な人間関係を構築し、他者を理解してコミュニケーションを図る能力の向上、グループワークを通じた協働力とリーダーシップの育成、将来に向けたキャリア意識の形成も図ります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	授業での取組をとおして、以下の到達目標の達成を目指します。 ① 高校とは異なる大学という場（自律性）を理解している。 ② 積極的で能動的な学修態度と大学で学修を行うための基礎的な技能を身につけている。 ③ 異なる価値観や文化的背景をもつ他者と協働する大切さを知っている。 ④ 「世界を知る」ことに対する意欲と異文化に対する「気づき」を持っている。 ⑤ 国際キャリアにおける幅の広いキャリア像を持っている。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	取り組んだ課題について教員がコメントする等のフィードバックを実施します。作成した課題等は学修ポートフォリオに蓄積し、学修の振り返りに役立てます。		
アクティブ・ラーニングの取組み	プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定しない。	ISBN	なし
参考書	参考書は基礎演習のなかで適宜指示する。	ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	50
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	20
その他の内容	リフレクションペーパー

この科目の受講にあたって	授業での取組に積極的に参加して、課せられた課題に取り組んでください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクションと秋学期の目標設定	復習　授業中に配布される課題文献を事前に読み、	4 時間

		（学生研究発表大会に向けて） 夏休みの振り返り&秋学期目標シート作成を作成する。 秋学期の基礎演習 B は、学生研究発表大会がテーマとなる。研究発表の目的（世界への関心と国際共修）とスケジュールについて説明する。	要点ノートを作成する。	
第２回	対面	専門的に読み解く 研究発表に向けてトピックの構想を開始するため、課題文献を精読し、事前に作成してきた要点ノートの加筆修正を行う。 その後、各自要約を作成する。	復習　課題文献の要約を完成させ、提出する。	4 時間
第３回	対面	批判的に読む（1） クリティカル・リーディングの方法について学ぶ。	復習　授業で配布された課題文献を読み、要点ノートを作成する。	4 時間
第４回	対面	批判的に読む（2） 課題文献を精読し、学術的な批判を行う。 課題文献から得られた情報をもとに、研究発表の構想をグループで検討する。	復習 授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	4 時間
第５回	対面	問いを立てる 「調査・分析・研究のための問いの立て方」についての講義を行うとともに、研究発表のトピックを練る。 研究発表大会に向けたグループ分けを行い、役割分担などを説明する。	復習　発表資料を完成させ、提出する。	4 時間
第６回	対面	調べる・議論する 図書館やデータベースを用い、トピックに関する情報を収集する。グループ内で資料情報を共有する。 発表資料の作成を開始する。	復習　発表資料を完成させ、提出する。	4 時間
第７回	対面	発表する 研究発表の中間報告・教員の講評（クラス全体）、分かりやすい発表の方法（話し方や効果的な図表の使い方）を指導する。教員によるグループ面談を行う。	復習　発表資料を完成させ、提出する。	4 時間
第８回	対面	クラス内発表会	復習　授業コメントを作成し、提出する。	4 時間
第９回	オンデマンド	3・4 年生の学生研究発表大会に参加する。	復習　学生研究発表大会での学びについてミニレポートを提出する。	4 時間
第１０回	対面	1 年生学生研究発表大会	復習　授業コメントを作成し、提出する。	4 時間
第１１回	対面	学生研究発表大会の振り返り 振り返りシートの記入を行い、専門演習Ⅰの演習募集に先立ち、国際学部コース制の説明を行う。 これまでに行ってきた発表のための調査内容に基づき、レポートを執筆するため、レポートの形式や構成要素を学ぶ。	復習　レポートの下書きを完成させ、提出する。	4 時間
第１２回	対面	レポートの書き方 相互批評を行い、各自加筆修正を行う。 専門演習Ⅰの演習募集に先立ち、国際学部コース制の説明を行う。	復習　レポートを完成させ、提出する。	4 時間
第１３回	対面	シャッフル演習① 専門演習とコース選択に関する説明を実施し、それぞれの教員の演習ではどのような分野・トピックが学べるのかを示す。	復習　授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	4 時間
第１４回	対面	シャッフル演習② 専門演習とコース選択に関する説明を実	復習　授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	4 時間

		施し、それぞれの教員の演習ではどのような分野・トピックが学べるのかを示す。		
第１５回	対面	１年間の振り返り 秋学期振り返りシートの記入、春休みの学習、新学期のスケジュールの確認を行う。 レポートの講評を行う。	復習　授業のまとめについて振り返りを行う。	4 時間

科目名	基礎演習 B	開講年度	2025
担当者	尹　恵彦	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	世界への関心を持つとともに大学での学びについて知る。		
授業の目的及び概要	この授業は、大学での学修に必要な学修態度や技能等を身につけることを目的とします。授業を通して、自ら学び、行動する主体性と学修技法を身につけさせるとともに、グローバル社会の諸課題への興味を喚起し、大学での学修の動機づけ等を行います。また、大学における良好な人間関係を構築し、他者を理解してコミュニケーションを図る能力の向上、グループワークを通じた協働力とリーダーシップの育成、将来に向けたキャリア意識の形成も図ります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	授業での取組をとおして、以下の到達目標の達成を目指します。 ① 高校とは異なる大学という場（自律性）を理解している。 ② 積極的で能動的な学修態度と大学で学修を行うための基礎的な技能を身につけている。 ③ 異なる価値観や文化的背景をもつ他者と協働する大切さを知っている。 ④ 「世界を知る」ことに対する意欲と異文化に対する「気づき」を持っている。 ⑤ 国際キャリアにおける幅の広いキャリア像を持っている。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	取り組んだ課題について教員がコメントする等のフィードバックを実施します。作成した課題等は学修ポートフォリオに蓄積し、学修の振り返りに役立てます。		
アクティブ・ラーニングの取組み	プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定しない。	ISBN	なし
参考書	参考書は基礎演習のなかで適宜指示する。	ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	50
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	20
その他の内容	リフレクションペーパー

この科目の受講にあたって	
	授業での取組に積極的に参加して、課せられた課題に取り組んでください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクションと秋学期の目標設定	復習　授業中に配布される課題文献を事前に読み、	4 時間

		（学生研究発表大会に向けて） 夏休みの振り返り&秋学期目標シート作成を作成する。 秋学期の基礎演習 B は、学生研究発表大会がテーマとなる。研究発表の目的（世界への関心と国際共修）とスケジュールについて説明する。	要点ノートを作成する。	
第２回	対面	専門的に読み解く 研究発表に向けてトピックの構想を開始するため、課題文献を精読し、事前に作成してきた要点ノートの加筆修正を行う。 その後、各自要約を作成する。	復習　課題文献の要約を完成させ、提出する。	4 時間
第３回	対面	批判的に読む（1） クリティカル・リーディングの方法について学ぶ。	復習　授業で配布された課題文献を読み、要点ノートを作成する。	4 時間
第４回	対面	批判的に読む（2） 課題文献を精読し、学術的な批判を行う。 課題文献から得られた情報をもとに、研究発表の構想をグループで検討する。	復習 授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	4 時間
第５回	対面	問いを立てる 「調査・分析・研究のための問いの立て方」についての講義を行うとともに、研究発表のトピックを練る。 研究発表大会に向けたグループ分けを行い、役割分担などを説明する。	復習　発表資料を完成させ、提出する。	4 時間
第６回	対面	調べる・議論する 図書館やデータベースを用い、トピックに関する情報を収集する。グループ内で資料情報を共有する。 発表資料の作成を開始する。	復習　発表資料を完成させ、提出する。	4 時間
第７回	対面	発表する 研究発表の中間報告・教員の講評（クラス全体）、分かりやすい発表の方法（話し方や効果的な図表の使い方）を指導する。教員によるグループ面談を行う。	復習　発表資料を完成させ、提出する。	4 時間
第８回	対面	クラス内発表会	復習　授業コメントを作成し、提出する。	4 時間
第９回	オンデマンド	3・4 年生の学生研究発表大会に参加する。	復習　学生研究発表大会での学びについてミニレポートを提出する。	4 時間
第１０回	対面	1 年生学生研究発表大会	復習　授業コメントを作成し、提出する。	4 時間
第１１回	対面	学生研究発表大会の振り返り 振り返りシートの記入を行い、専門演習Ⅰの演習募集に先立ち、国際学部コース制の説明を行う。 これまでに行ってきた発表のための調査内容に基づき、レポートを執筆するため、レポートの形式や構成要素を学ぶ。	復習　レポートの下書きを完成させ、提出する。	4 時間
第１２回	対面	レポートの書き方 相互批評を行い、各自加筆修正を行う。 専門演習Ⅰの演習募集に先立ち、国際学部コース制の説明を行う。	復習　レポートを完成させ、提出する。	4 時間
第１３回	対面	シャッフル演習① 専門演習とコース選択に関する説明を実施し、それぞれの教員の演習ではどのような分野・トピックが学べるのかを示す。	復習　授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	4 時間
第１４回	対面	シャッフル演習② 専門演習とコース選択に関する説明を実	復習　授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	4 時間

		施し、それぞれの教員の演習ではどのような分野・トピックが学べるのかを示す。		
第１５回	対面	１年間の振り返り 秋学期振り返りシートの記入、春休みの学習、新学期のスケジュールの確認を行う。 レポートの講評を行う。	復習　授業のまとめについて振り返りを行う。	4 時間

科目名	基礎演習 B	開講年度	2025
担当者	李　光曦	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	世界への関心を持つとともに大学での学びについて知る。		
授業の目的及び概要	この授業は、大学での学修に必要な学修態度や技能等を身につけることを目的とします。授業を通して、自ら学び、行動する主体性と学修技法を身につけさせるとともに、グローバル社会の諸課題への興味を喚起し、大学での学修の動機づけ等を行います。また、大学における良好な人間関係を構築し、他者を理解してコミュニケーションを図る能力の向上、グループワークを通じた協働力とリーダーシップの育成、将来に向けたキャリア意識の形成も図ります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	授業での取組をとおして、以下の到達目標の達成を目指します。 ① 高校とは異なる大学という場（自律性）を理解している。 ② 積極的で能動的な学修態度と大学で学修を行うための基礎的な技能を身につけている。 ③ 異なる価値観や文化的背景をもつ他者と協働する大切さを知っている。 ④ 「世界を知る」ことに対する意欲と異文化に対する「気づき」を持っている。 ⑤ 国際キャリアにおける幅の広いキャリア像を持っている。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	取り組んだ課題について教員がコメントする等のフィードバックを実施します。作成した課題等は学修ポートフォリオに蓄積し、学修の振り返りに役立てます。		
アクティブ・ラーニングの取組み	プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定しない。	ISBN	なし
参考書	参考書は基礎演習のなかで適宜指示する。	ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	50
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	20
その他の内容	リフレクションペーパー

この科目の受講にあたって	
	授業での取組に積極的に参加して、課せられた課題に取り組んでください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクションと秋学期の目標設定	復習　授業中に配布される課題文献を事前に読み、	4 時間

		（学生研究発表大会に向けて） 夏休みの振り返り&秋学期目標シート作成を作成する。 秋学期の基礎演習 B は、学生研究発表大会がテーマとなる。研究発表の目的（世界への関心と国際共修）とスケジュールについて説明する。	要点ノートを作成する。	
第２回	対面	専門的に読み解く 研究発表に向けてトピックの構想を開始するため、課題文献を精読し、事前に作成してきた要点ノートの加筆修正を行う。 その後、各自要約を作成する。	復習　課題文献の要約を完成させ、提出する。	4 時間
第３回	対面	批判的に読む（1） クリティカル・リーディングの方法について学ぶ。	復習　授業で配布された課題文献を読み、要点ノートを作成する。	4 時間
第４回	対面	批判的に読む（2） 課題文献を精読し、学術的な批判を行う。 課題文献から得られた情報をもとに、研究発表の構想をグループで検討する。	復習 授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	4 時間
第５回	対面	問いを立てる 「調査・分析・研究のための問いの立て方」についての講義を行うとともに、研究発表のトピックを練る。 研究発表大会に向けたグループ分けを行い、役割分担などを説明する。	復習　発表資料を完成させ、提出する。	4 時間
第６回	対面	調べる・議論する 図書館やデータベースを用い、トピックに関する情報を収集する。グループ内で資料情報を共有する。 発表資料の作成を開始する。	復習　発表資料を完成させ、提出する。	4 時間
第７回	対面	発表する 研究発表の中間報告・教員の講評（クラス全体）、分かりやすい発表の方法（話し方や効果的な図表の使い方）を指導する。教員によるグループ面談を行う。	復習　発表資料を完成させ、提出する。	4 時間
第８回	対面	クラス内発表会	復習　授業コメントを作成し、提出する。	4 時間
第９回	オンデマンド	3・4 年生の学生研究発表大会に参加する。	復習　学生研究発表大会での学びについてミニレポートを提出する。	4 時間
第１０回	対面	1 年生学生研究発表大会	復習　授業コメントを作成し、提出する。	4 時間
第１１回	対面	学生研究発表大会の振り返り 振り返りシートの記入を行い、専門演習Ⅰの演習募集に先立ち、国際学部コース制の説明を行う。 これまでに行ってきた発表のための調査内容に基づき、レポートを執筆するため、レポートの形式や構成要素を学ぶ。	復習　レポートの下書きを完成させ、提出する。	4 時間
第１２回	対面	レポートの書き方 相互批評を行い、各自加筆修正を行う。 専門演習Ⅰの演習募集に先立ち、国際学部コース制の説明を行う。	復習　レポートを完成させ、提出する。	4 時間
第１３回	対面	シャッフル演習① 専門演習とコース選択に関する説明を実施し、それぞれの教員の演習ではどのような分野・トピックが学べるのかを示す。	復習　授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	4 時間
第１４回	対面	シャッフル演習② 専門演習とコース選択に関する説明を実	復習　授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	4 時間

		施し、それぞれの教員の演習ではどのような分野・トピックが学べるのかを示す。		
第１５回	対面	１年間の振り返り 秋学期振り返りシートの記入、春休みの学習、新学期のスケジュールの確認を行う。 レポートの講評を行う。	復習　授業のまとめについて振り返りを行う。	4 時間

科目名	専門演習ＩA	開講年度	2025
担当者	木村　彩音	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	グローバル社会の諸課題を多角的な視点から知る		
授業の目的及び概要	この授業は、グローバル社会の諸課題に関する調査・検討を行い、その過程を通じて主体的に行動する態度およびアカデミックスキルを身につけ、協働力とリーダーシップ、創造的思考力の向上を図ることを目的とする。そのため、1 年次に修得した基本的な調査、発表、討論、文章表現等の能力とグローバル社会の諸課題への関心を一層高めながら、個人やグループ等で様々な課題に取り組む。 授業では、教員が履修生とのコミュニケーションを十分に図りながら、社会に対する視野を拡げ、課題発見能力を涵養する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	授業での取組をとおして、以下の到達目標の達成を目指す。 ① 積極的な学修姿勢を身につけ、基本的なアカデミックスキルを活用できる。 ② 国際理解・多文化共生志向を深める。 ③ 互いの価値観の相違を尊重したうえで、教員からのガイドを受けて、与えられた課題を協力して完成することができる。”		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	発表資料・レジュメについては事前にラーニングポータルに提出してもらい、教員・学生から授業のなかでフィードバックする。そのほか提出された課題についてもラーニングポータルを通じて、また授業のなかでフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①オセアニアで学ぶ人類学，風間計博・梅崎昌裕，昭和堂，2020 年	ISBN	①9784812220054
参考書	なし	ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	60
授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	国際学部 2 年次の学びは「広く知る」がテーマであり、世界に対する興味・関心を高める 1 年次から一歩進んで、世界に対する自身の知識の幅を広げてほしい。そのためにも、学生は「広く知る」ことを意識し、演習内でのテーマ設定を行っていってほしい。自身で自身の知識の幅を広げていく積極的姿勢が重要である。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション 教員および学生の自己紹介、アイスブレイキング。 授業の目的や目標、進め方など授業の概要を説明する 。	授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	4 時間
第２回	対面	輪読とは（１） 入門書の１章を教員が指定し輪読を行う。担当教員が適宜内容を解説しながら、輪読のやり方を身に付ける。また、精読との違いについても学ぶ。次週から始まる輪読の実践に向けてグループ分けを行う。	教員が教科書の指定した部分を読み、わからない言葉などについては調べておく。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	4 時間
第３回	対面	輪読とは（２） グループで教員が入門書の指定した部分を読む。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	教員が教科書の指定した部分を読む。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	4 時間
第４回	対面	輪読とは（３） グループで教員が入門書の指定した部分を読む。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	教員が教科書の指定した部分を読む。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	4 時間
第５回	対面	要約・発表資料（レジュメ）の作成（１） 入門書の該当章の要約および発表資料（レジュメ）の作成方法を学ぶ。	要約および発表資料（レジュメ）の作成方法を復習し、作成する。	4 時間
第６回	対面	要約・発表資料（レジュメ）の作成（２） ひとりひとりが作成した発表資料をピア・レビューする。	ピア・レビューを基に担当章の発表資料の見直しを行い、仕上げる。	4 時間
第７回	対面	クラスでの実践（１） 入門書の担当章の発表資料を作り発表する（発表 10 分、質疑５分）。聞き手は発表のわかりやすさ、改善点を意識しながら発表の内容をノートにまとめ、内容に基づく議論点を示しクラスメイトと議論する（10 分）。	クラスメイトが提出したレジュメを事前に確認し、疑問点を整理しておく。課題に取り組み、次回授業で報告する。	4 時間
第８回	対面	クラスでの実践（２） 前週の発表と議論を基に講評を行い、各グループの発表内容の振り返りを行う。また発表を聞く態度や質問の仕方等、発表方法についても振り返り、改善点をまとめる。	発表資料の修正を行う。また発表の仕方を復習し、練習を行うことで身につける。	4 時間
第９回	対面	精読とは（１） 入門書の 1 章を教員が指定し輪読との違いを説明した上で精読を行う。担当教員が適宜内容を解説しながら、精読のやり方を身に付ける。	教員が教科書の指定した部分を読み、わからない言葉などについては調べておく。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	4 時間
第１０回	対面	精読とは（２） グループで教員が入門書の指定した部分を精読する。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	教員が教科書の指定した部分を読む。そして要約を行う。	4 時間
第１１回	対面	精読とは（３） グループで教員が入門書の指定した部分を精読する。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	教員が教科書の指定した部分を読む。そして要約を行う。	4 時間
第１２回	対面	クラスでの実践（３）・問いや議論点の設定 入門書の担当章の発表資料を作り発表（1	要約および発表資料（レジュメ）の作成方法を復習し、作成する。	4 時間

		0 分）する。内容に基づく議論点を示しクラスメイトと議論する（10 分）。		
第１３回	対面	レポート作成に向けて（１） 教員がレポートの書き方を見本を提示ながら説明する。	レポートの書き方を復習し、これまで実践した精読から導き出した問いや議論点について整理をしておく。	4 時間
第１４回	対面	レポート作成に向けて（２） レポートの書き方について復習を行い、これまで実践した精読から導き出した問いや議論点をまとめレポート執筆を行う。	レポートの書き方について復習を行い、レポート執筆を始める。	4 時間
第１５回	オンデマンド	総括 授業全体の総括を行う。	教員の指示に従いこれまでの授業の振り返りを行う。授業後に、授業で配布した資料を読んで復習する。	4 時間

科目名	専門演習ＩA	開講年度	2025
担当者	姜　若冰	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	グローバル社会の諸課題を多角的な視点から知る		
授業の目的及び概要	この授業は、グローバル社会の諸課題に関する調査・検討を行い、その過程を通じて主体的に行動する態度およびアカデミックスキルを身につけ、協働力とリーダーシップ、創造的思考力の向上を図ることを目的とする。そのため、1 年次に修得した基本的な調査、発表、討論、文章表現等の能力とグローバル社会の諸課題への関心を一層高めながら、個人やグループ等で様々な課題に取り組む。 授業では、教員が履修生とのコミュニケーションを十分に図りながら、社会に対する視野を拡げ、課題発見能力を涵養する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	授業での取組をとおして、以下の到達目標の達成を目指す。 ① 積極的な学修姿勢を身につけ、基本的なアカデミックスキルを活用できる。 ② 国際理解・多文化共生志向を深める。 ③ 互いの価値観の相違を尊重したうえで、教員からのガイドを受けて、与えられた課題を協力して完成することができる。”		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	発表資料・レジュメについては事前にラーニングポータルに提出してもらい、教員・学生から授業のなかでフィードバックする。そのほか提出された課題についてもラーニングポータルを通じて、また授業のなかでフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①ジェンダー視点で学ぶ女性史，澤田季江，日本機関紙出版センター，2021 年	ISBN	①9784889002607
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	60
授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	国際学部 2 年次の学びは「広く知る」がテーマであり、世界に対する興味・関心を高める 1 年次から一歩進んで、世界に対する自身の知識の幅を広げてほしい。そのためにも、学生は「広く知る」ことを意識し、演習内でのテーマ設定を行っていってほしい。自身で自身の知識の幅を広げていく積極的姿勢が重要である。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション 教員および学生の自己紹介、アイスブレイキング。 授業の目的や目標、進め方など授業の概要を説明する 。	授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	4 時間
第２回	対面	輪読とは（１） 入門書の１章を教員が指定し輪読を行う。担当教員が適宜内容を解説しながら、輪読のやり方を身に付ける。また、精読との違いについても学ぶ。次週から始まる輪読の実践に向けてグループ分けを行う。	教員が教科書の指定した部分を読み、わからない言葉などについては調べておく。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	4 時間
第３回	対面	輪読とは（２） グループで教員が入門書の指定した部分を読む。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	教員が教科書の指定した部分を読む。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	4 時間
第４回	対面	輪読とは（３） グループで教員が入門書の指定した部分を読む。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	教員が教科書の指定した部分を読む。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	4 時間
第５回	対面	要約・発表資料（レジュメ）の作成（１） 入門書の該当章の要約および発表資料（レジュメ）の作成方法を学ぶ。	要約および発表資料（レジュメ）の作成方法を復習し、作成する。	4 時間
第６回	対面	要約・発表資料（レジュメ）の作成（２） ひとりひとりが作成した発表資料をピア・レビューする。	ピア・レビューを基に担当章の発表資料の見直しを行い、仕上げる。	4 時間
第７回	対面	クラスでの実践（１） 入門書の担当章の発表資料を作り発表する（発表 10 分、質疑５分）。聞き手は発表のわかりやすさ、改善点を意識しながら発表の内容をノートにまとめ、内容に基づく議論点を示しクラスメイトと議論する（10 分）。	クラスメイトが提出したレジュメを事前に確認し、疑問点を整理しておく。課題に取り組み、次回授業で報告する。	4 時間
第８回	対面	クラスでの実践（２） 前週の発表と議論を基に講評を行い、各グループの発表内容の振り返りを行う。また発表を聞く態度や質問の仕方等、発表方法についても振り返り、改善点をまとめる。	発表資料の修正を行う。また発表の仕方を復習し、練習を行うことで身につける。	4 時間
第９回	対面	精読とは（１） 入門書の １ 章を教員が指定し輪読との違いを説明した上で精読を行う。担当教員が適宜内容を解説しながら、精読のやり方を身に付ける。	教員が教科書の指定した部分を読み、わからない言葉などについては調べておく。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	4 時間
第１０回	対面	精読とは（２） グループで教員が入門書の指定した部分を精読する。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	教員が教科書の指定した部分を読む。そして要約を行う。	4 時間
第１１回	対面	精読とは（３） グループで教員が入門書の指定した部分を精読する。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	教員が教科書の指定した部分を読む。そして要約を行う。	4 時間
第１２回	対面	クラスでの実践（３）・問いや議論点の設定 入門書の担当章の発表資料を作り発表（1	要約および発表資料（レジュメ）の作成方法を復習し、作成する。	4 時間

		0 分）する。内容に基づく議論点を示しクラスメイトと議論する（10 分）。		
第１３回	対面	レポート作成に向けて（１） 教員がレポートの書き方を見本を提示ながら説明する。	レポートの書き方を復習し、これまで実践した精読から導き出した問いや議論点について整理をしておく。	4 時間
第１４回	対面	レポート作成に向けて（２） レポートの書き方について復習を行い、これまで実践した精読から導き出した問いや議論点をまとめレポート執筆を行う。	レポートの書き方について復習を行い、レポート執筆を始める。	4 時間
第１５回	オンデマンド	総括 授業全体の総括を行う。	教員の指示に従いこれまでの授業の振り返りを行う。授業後に、授業で配布した資料を読んで復習する。	4 時間

科目名	専門演習ＩA	開講年度	2025
担当者	田中　慎吾	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	グローバル社会の諸課題を多角的な視点から知る		
授業の目的及び概要	この授業は、グローバル社会の諸課題に関する調査・検討を行い、その過程を通じて主体的に行動する態度およびアカデミックスキルを身につけ、協働力とリーダーシップ、創造的思考力の向上を図ることを目的とする。そのため、1 年次に修得した基本的な調査、発表、討論、文章表現等の能力とグローバル社会の諸課題への関心を一層高めながら、個人やグループ等で様々な課題に取り組む。 授業では、教員が履修生とのコミュニケーションを十分に図りながら、社会に対する視野を拡げ、課題発見能力を涵養する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	授業での取組をとおして、以下の到達目標の達成を目指す。 ① 積極的な学修姿勢を身につけ、基本的なアカデミックスキルを活用できる。 ② 国際理解・多文化共生志向を深める。 ③ 互いの価値観の相違を尊重したうえで、教員からのガイドを受けて、与えられた課題を協力して完成することができる。”		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	発表資料・レジュメについては事前にラーニングポータルに提出してもらい、教員・学生から授業のなかでフィードバックする。そのほか提出された課題についてもラーニングポータルを通じて、また授業のなかでフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①国際政治とは何か－地域社会における人間と秩序，中西　寛，中央公論新聞社，2003 年	ISBN	①9784121016867
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	60
授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	国際学部 2 年次の学びは「広く知る」がテーマであり、世界に対する興味・関心を高める 1 年次から一歩進んで、世界に対する自身の知識の幅を広げてほしい。そのためにも、学生は「広く知る」ことを意識し、演習内でのテーマ設定を行っていってほしい。自身で自身の知識の幅を広げていく積極的姿勢が重要である。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション 教員および学生の自己紹介、アイスブレイキング。 授業の目的や目標、進め方など授業の概要を説明する 。	授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	4 時間
第２回	対面	輪読とは（１） 入門書の１章を教員が指定し輪読を行う。担当教員が適宜内容を解説しながら、輪読のやり方を身に付ける。また、精読との違いについても学ぶ。次週から始まる輪読の実践に向けてグループ分けを行う。	教員が教科書の指定した部分を読み、わからない言葉などについては調べておく。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	4 時間
第３回	対面	輪読とは（２） グループで教員が入門書の指定した部分を読む。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	教員が教科書の指定した部分を読む。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	4 時間
第４回	対面	輪読とは（３） グループで教員が入門書の指定した部分を読む。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	教員が教科書の指定した部分を読む。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	4 時間
第５回	対面	要約・発表資料（レジュメ）の作成（１） 入門書の該当章の要約および発表資料（レジュメ）の作成方法を学ぶ。	要約および発表資料（レジュメ）の作成方法を復習し、作成する。	4 時間
第６回	対面	要約・発表資料（レジュメ）の作成（２） ひとりひとりが作成した発表資料をピア・レビューする。	ピア・レビューを基に担当章の発表資料の見直しを行い、仕上げる。	4 時間
第７回	対面	クラスでの実践（１） 入門書の担当章の発表資料を作り発表する（発表 10 分、質疑５分）。聞き手は発表のわかりやすさ、改善点を意識しながら発表の内容をノートにまとめ、内容に基づく議論点を示しクラスメイトと議論する（10 分）。	クラスメイトが提出したレジュメを事前に確認し、疑問点を整理しておく。課題に取り組み、次回授業で報告する。	4 時間
第８回	対面	クラスでの実践（２） 前週の発表と議論を基に講評を行い、各グループの発表内容の振り返りを行う。また発表を聞く態度や質問の仕方等、発表方法についても振り返り、改善点をまとめる。	発表資料の修正を行う。また発表の仕方を復習し、練習を行うことで身につける。	4 時間
第９回	対面	精読とは（１） 入門書の 1 章を教員が指定し輪読との違いを説明した上で精読を行う。担当教員が適宜内容を解説しながら、精読のやり方を身に付ける。	教員が教科書の指定した部分を読み、わからない言葉などについては調べておく。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	4 時間
第１０回	対面	精読とは（２） グループで教員が入門書の指定した部分を精読する。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	教員が教科書の指定した部分を読む。そして要約を行う。	4 時間
第１１回	対面	精読とは（３） グループで教員が入門書の指定した部分を精読する。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	教員が教科書の指定した部分を読む。そして要約を行う。	4 時間
第１２回	対面	クラスでの実践（３）・問いや議論点の設定 入門書の担当章の発表資料を作り発表（1	要約および発表資料（レジュメ）の作成方法を復習し、作成する。	4 時間

		0 分）する。内容に基づく議論点を示しクラスメイトと議論する（10 分）。		
第１３回	対面	レポート作成に向けて（１） 教員がレポートの書き方を見本を提示ながら説明する。	レポートの書き方を復習し、これまで実践した精読から導き出した問いや議論点について整理をしておく。	4 時間
第１４回	対面	レポート作成に向けて（２） レポートの書き方について復習を行い、これまで実践した精読から導き出した問いや議論点をまとめレポート執筆を行う。	レポートの書き方について復習を行い、レポート執筆を始める。	4 時間
第１５回	オンデマンド	総括 授業全体の総括を行う。	教員の指示に従いこれまでの授業の振り返りを行う。授業後に、授業で配布した資料を読んで復習する。	4 時間

科目名	専門演習ＩA	開講年度	2025
担当者	今井　健一	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	グローバル社会の諸課題を多角的な視点から知る		
授業の目的及び概要	この授業は、グローバル社会の諸課題に関する調査・検討を行い、その過程を通じて主体的に行動する態度およびアカデミックスキルを身につけ、協働力とリーダーシップ、創造的思考力の向上を図ることを目的とする。そのため、1 年次に修得した基本的な調査、発表、討論、文章表現等の能力とグローバル社会の諸課題への関心を一層高めながら、個人やグループ等で様々な課題に取り組む。 授業では、教員が履修生とのコミュニケーションを十分に図りながら、社会に対する視野を拡げ、課題発見能力を涵養する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	授業での取組をとおして、以下の到達目標の達成を目指す。 ① 積極的な学修姿勢を身につけ、基本的なアカデミックスキルを活用できる。 ② 国際理解・多文化共生志向を深める。 ③ 互いの価値観の相違を尊重したうえで、教員からのガイドを受けて、与えられた課題を協力して完成することができる。”		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	発表資料・レジュメについては事前にラーニングポータルに提出してもらい、教員・学生から授業のなかでフィードバックする。そのほか提出された課題についてもラーニングポータルを通じて、また授業のなかでフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定のテキストはありません。必要な資料を適宜配布します。	ISBN	なし
参考書	①世界の現場から実践 SDGs： 格差・環境・食料問題の現実解,日経サイエンス編集部 編,日経サイエンス,2022 年	ISBN	①9784296114719

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	60
授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	国際学部 2 年次の学びは「広く知る」がテーマであり、世界に対する興味・関心を高める 1 年次から一歩進んで、世界に対する自身の知識の幅を広げてほしい。そのためにも、学生は「広く知る」ことを意識し、演習内でのテーマ設定を行っていってほしい。自身で自身の知識の幅を広げていく積極的姿勢が重要である。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション 教員および学生の自己紹介、アイスブレイキング。 授業の目的や目標、進め方など授業の概要を説明する 。	授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	4 時間
第２回	対面	輪読とは（１） 入門書の１章を教員が指定し輪読を行う。担当教員が適宜内容を解説しながら、輪読のやり方を身に付ける。また、精読との違いについても学ぶ。次週から始まる輪読の実践に向けてグループ分けを行う。	教員が教科書の指定した部分を読み、わからない言葉などについては調べておく。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	4 時間
第３回	対面	輪読とは（２） グループで教員が入門書の指定した部分を読む。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	教員が教科書の指定した部分を読む。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	4 時間
第４回	対面	輪読とは（３） グループで教員が入門書の指定した部分を読む。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	教員が教科書の指定した部分を読む。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	4 時間
第５回	対面	要約・発表資料（レジュメ）の作成（１） 入門書の該当章の要約および発表資料（レジュメ）の作成方法を学ぶ。	要約および発表資料（レジュメ）の作成方法を復習し、作成する。	4 時間
第６回	対面	要約・発表資料（レジュメ）の作成（２） ひとりひとりが作成した発表資料をピア・レビューする。	ピア・レビューを基に担当章の発表資料の見直しを行い、仕上げる。	4 時間
第７回	対面	クラスでの実践（１） 入門書の担当章の発表資料を作り発表する（発表 10 分、質疑５分）。聞き手は発表のわかりやすさ、改善点を意識しながら発表の内容をノートにまとめ、内容に基づく議論点を示しクラスメイトと議論する（10 分）。	クラスメイトが提出したレジュメを事前に確認し、疑問点を整理しておく。課題に取り組み、次回授業で報告する。	4 時間
第８回	対面	クラスでの実践（２） 前週の発表と議論を基に講評を行い、各グループの発表内容の振り返りを行う。また発表を聞く態度や質問の仕方等、発表方法についても振り返り、改善点をまとめる。	発表資料の修正を行う。また発表の仕方を復習し、練習を行うことで身につける。	4 時間
第９回	対面	精読とは（１） 入門書の 1 章を教員が指定し輪読との違いを説明した上で精読を行う。担当教員が適宜内容を解説しながら、精読のやり方を身に付ける。	教員が教科書の指定した部分を読み、わからない言葉などについては調べておく。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	4 時間
第１０回	対面	精読とは（２） グループで教員が入門書の指定した部分を精読する。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	教員が教科書の指定した部分を読む。そして要約を行う。	4 時間
第１１回	対面	精読とは（３） グループで教員が入門書の指定した部分を精読する。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	教員が教科書の指定した部分を読む。そして要約を行う。	4 時間
第１２回	対面	クラスでの実践（３）・問いや議論点の設定	要約および発表資料（レジュメ）の作成方法を復習し、作成する。	4 時間

		入門書の担当章の発表資料を作り発表（10分）する。内容に基づく議論点を示しクラスメイトと議論する（10分）。		
第１３回	対面	レポート作成に向けて（１） 教員がレポートの書き方を見本を提示ながら説明する。	レポートの書き方を復習し、これまで実践した精読から導き出した問いや議論点について整理をしておく。	4時間
第１４回	対面	レポート作成に向けて（２） レポートの書き方について復習を行い、これまで実践した精読から導き出した問いや議論点をまとめレポート執筆を行う。	レポートの書き方について復習を行い、レポート執筆を始める。	4時間
第１５回	オンデマンド	総括 授業全体の総括を行う。	教員の指示に従いこれまでの授業の振り返りを行う。授業後に、授業で配布した資料を読んで復習する。	4時間

科目名	専門演習ＩA	開講年度	2025
担当者	徐　潤雅	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	グローバル社会の諸課題を多角的な視点から知る		
授業の目的及び概要	この授業は、グローバル社会の諸課題に関する調査・検討を行い、その過程を通じて主体的に行動する態度およびアカデミックスキルを身につけ、協働力とリーダーシップ、創造的思考力の向上を図ることを目的とする。そのため、1 年次に修得した基本的な調査、発表、討論、文章表現等の能力とグローバル社会の諸課題への関心を一層高めながら、個人やグループ等で様々な課題に取り組む。 授業では、教員が履修生とのコミュニケーションを十分に図りながら、社会に対する視野を拡げ、課題発見能力を涵養する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	授業での取組をとおして、以下の到達目標の達成を目指す。 ① 積極的な学修姿勢を身につけ、基本的なアカデミックスキルを活用できる。 ② 国際理解・多文化共生志向を深める。 ③ 互いの価値観の相違を尊重したうえで、教員からのガイドを受けて、与えられた課題を協力して完成することができる。”		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	発表資料・レジュメについては事前にラーニングポータルに提出してもらい、教員・学生から授業のなかでフィードバックする。そのほか提出された課題についてもラーニングポータルを通じて、また授業のなかでフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①日韓スタディーズ：日本と韓国をつなぐ新たな研究と学び，山本浄邦・金敬黙，ナカニシヤ出版，2024 年	ISBN	①9784779518164
参考書	①現代韓国を知るための 61 章（第 3 版），石坂浩一・福島みのり，明石書店，2024 年	ISBN	①9784750357058

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	60
授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	国際学部 2 年次の学びは「広く知る」がテーマであり、世界に対する興味・関心を高める 1 年次から一歩進んで、世界に対する自身の知識の幅を広げてほしい。そのためにも、学生は「広く知る」ことを意識し、演習内でのテーマ設定を行っていってほしい。自身で自身の知識の幅を広げていく積極的姿勢が重要である。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション 教員および学生の自己紹介、アイスブレイキング。 授業の目的や目標、進め方など授業の概要を説明する 。	授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	4 時間
第２回	対面	輪読とは（１） 入門書の１章を教員が指定し輪読を行う。担当教員が適宜内容を解説しながら、輪読のやり方を身に付ける。また、精読との違いについても学ぶ。次週から始まる輪読の実践に向けてグループ分けを行う。	教員が教科書の指定した部分を読み、わからない言葉などについては調べておく。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	4 時間
第３回	対面	輪読とは（２） グループで教員が入門書の指定した部分を読む。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	教員が教科書の指定した部分を読む。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	4 時間
第４回	対面	輪読とは（３） グループで教員が入門書の指定した部分を読む。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	教員が教科書の指定した部分を読む。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	4 時間
第５回	対面	要約・発表資料（レジュメ）の作成（１） 入門書の該当章の要約および発表資料（レジュメ）の作成方法を学ぶ。	要約および発表資料（レジュメ）の作成方法を復習し、作成する。	4 時間
第６回	対面	要約・発表資料（レジュメ）の作成（２） ひとりひとりが作成した発表資料をピア・レビューする。	ピア・レビューを基に担当章の発表資料の見直しを行い、仕上げる。	4 時間
第７回	対面	クラスでの実践（１） 入門書の担当章の発表資料を作り発表する（発表 10 分、質疑５分）。聞き手は発表のわかりやすさ、改善点を意識しながら発表の内容をノートにまとめ、内容に基づく議論点を示しクラスメイトと議論する（10 分）。	クラスメイトが提出したレジュメを事前に確認し、疑問点を整理しておく。課題に取り組み、次回授業で報告する。	4 時間
第８回	対面	クラスでの実践（２） 前週の発表と議論を基に講評を行い、各グループの発表内容の振り返りを行う。また発表を聞く態度や質問の仕方等、発表方法についても振り返り、改善点をまとめる。	発表資料の修正を行う。また発表の仕方を復習し、練習を行うことで身につける。	4 時間
第９回	対面	精読とは（１） 入門書の 1 章を教員が指定し輪読との違いを説明した上で精読を行う。担当教員が適宜内容を解説しながら、精読のやり方を身に付ける。	教員が教科書の指定した部分を読み、わからない言葉などについては調べておく。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	4 時間
第１０回	対面	精読とは（２） グループで教員が入門書の指定した部分を精読する。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	教員が教科書の指定した部分を読む。そして要約を行う。	4 時間
第１１回	対面	精読とは（３） グループで教員が入門書の指定した部分を精読する。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	教員が教科書の指定した部分を読む。そして要約を行う。	4 時間
第１２回	対面	クラスでの実践（３）・問いや議論点の設定 入門書の担当章の発表資料を作り発表（1	要約および発表資料（レジュメ）の作成方法を復習し、作成する。	4 時間

		0 分）する。内容に基づく議論点を示しクラスメイトと議論する（10 分）。		
第１３回	対面	レポート作成に向けて（１） 教員がレポートの書き方を見本を提示ながら説明する。	レポートの書き方を復習し、これまで実践した精読から導き出した問いや議論点について整理をしておく。	4 時間
第１４回	対面	レポート作成に向けて（２） レポートの書き方について復習を行い、これまで実践した精読から導き出した問いや議論点をまとめレポート執筆を行う。	レポートの書き方について復習を行い、レポート執筆を始める。	4 時間
第１５回	オンデマンド	総括 授業全体の総括を行う。	教員の指示に従いこれまでの授業の振り返りを行う。授業後に、授業で配布した資料を読んで復習する。	4 時間

科目名	専門演習ＩA	開講年度	2025
担当者	ボイキン　舞	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	グローバル社会の諸課題を多角的な視点から知る		
授業の目的及び概要	この授業は、グローバル社会の諸課題に関する調査・検討を行い、その過程を通じて主体的に行動する態度およびアカデミックスキルを身につけ、協働力とリーダーシップ、創造的思考力の向上を図ることを目的とする。そのため、1 年次に修得した基本的な調査、発表、討論、文章表現等の能力とグローバル社会の諸課題への関心を一層高めながら、個人やグループ等で様々な課題に取り組む。 授業では、教員が履修生とのコミュニケーションを十分に図りながら、社会に対する視野を拡げ、課題発見能力を涵養する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	授業での取組をとおして、以下の到達目標の達成を目指す。 ① 積極的な学修姿勢を身につけ、基本的なアカデミックスキルを活用できる。 ② 国際理解・多文化共生志向を深める。 ③ 互いの価値観の相違を尊重したうえで、教員からのガイドを受けて、与えられた課題を協力して完成することができる。”		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	発表資料・レジュメについては事前にラーニングポータルに提出してもらい、教員・学生から授業のなかでフィードバックする。そのほか提出された課題についてもラーニングポータルを通じて、また授業のなかでフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①アメリカ文学入門[新版], 諏訪部　浩一他, 三修社, 2023 年	ISBN	①9784384057485
参考書	なし	ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	60
授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	国際学部 2 年次の学びは「広く知る」がテーマであり、世界に対する興味・関心を高める 1 年次から一歩進んで、世界に対する自身の知識の幅を広げてほしい。そのためにも、学生は「広く知る」ことを意識し、演習内でのテーマ設定を行っていってほしい。自身で自身の知識の幅を広げていく積極的姿勢が重要である。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション 教員および学生の自己紹介、アイスブレイキング。 授業の目的や目標、進め方など授業の概要を説明する 。	授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	4 時間
第２回	対面	輪読とは（１） 入門書の１章を教員が指定し輪読を行う。担当教員が適宜内容を解説しながら、輪読のやり方を身に付ける。また、精読との違いについても学ぶ。次週から始まる輪読の実践に向けてグループ分けを行う。	教員が教科書の指定した部分を読み、わからない言葉などについては調べておく。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	4 時間
第３回	対面	輪読とは（２） グループで教員が入門書の指定した部分を読む。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	教員が教科書の指定した部分を読む。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	4 時間
第４回	対面	輪読とは（３） グループで教員が入門書の指定した部分を読む。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	教員が教科書の指定した部分を読む。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	4 時間
第５回	対面	要約・発表資料（レジュメ）の作成（１） 入門書の該当章の要約および発表資料（レジュメ）の作成方法を学ぶ。	要約および発表資料（レジュメ）の作成方法を復習し、作成する。	4 時間
第６回	対面	要約・発表資料（レジュメ）の作成（２） ひとりひとりが作成した発表資料をピア・レビューする。	ピア・レビューを基に担当章の発表資料の見直しを行い、仕上げる。	4 時間
第７回	対面	クラスでの実践（１） 入門書の担当章の発表資料を作り発表する（発表 10 分、質疑５分）。聞き手は発表のわかりやすさ、改善点を意識しながら発表の内容をノートにまとめ、内容に基づく議論点を示しクラスメイトと議論する（10 分）。	クラスメイトが提出したレジュメを事前に確認し、疑問点を整理しておく。課題に取り組み、次回授業で報告する。	4 時間
第８回	対面	クラスでの実践（２） 前週の発表と議論を基に講評を行い、各グループの発表内容の振り返りを行う。また発表を聞く態度や質問の仕方等、発表方法についても振り返り、改善点をまとめる。	発表資料の修正を行う。また発表の仕方を復習し、練習を行うことで身につける。	4 時間
第９回	対面	精読とは（１） 入門書の 1 章を教員が指定し輪読との違いを説明した上で精読を行う。担当教員が適宜内容を解説しながら、精読のやり方を身に付ける。	教員が教科書の指定した部分を読み、わからない言葉などについては調べておく。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	4 時間
第１０回	対面	精読とは（２） グループで教員が入門書の指定した部分を精読する。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	教員が教科書の指定した部分を読む。そして要約を行う。	4 時間
第１１回	対面	精読とは（３） グループで教員が入門書の指定した部分を精読する。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	教員が教科書の指定した部分を読む。そして要約を行う。	4 時間
第１２回	対面	クラスでの実践（３）・問いや議論点の設定 入門書の担当章の発表資料を作り発表（1	要約および発表資料（レジュメ）の作成方法を復習し、作成する。	4 時間

		0 分）する。内容に基づく議論点を示しクラスメイトと議論する（10 分）。		
第１３回	対面	レポート作成に向けて（１） 教員がレポートの書き方を見本を提示ながら説明する。	レポートの書き方を復習し、これまで実践した精読から導き出した問いや議論点について整理をしておく。	4 時間
第１４回	対面	レポート作成に向けて（２） レポートの書き方について復習を行い、これまで実践した精読から導き出した問いや議論点をまとめレポート執筆を行う。	レポートの書き方について復習を行い、レポート執筆を始める。	4 時間
第１５回	オンデマンド	総括 授業全体の総括を行う。	教員の指示に従いこれまでの授業の振り返りを行う。授業後に、授業で配布した資料を読んで復習する。	4 時間

科目名	専門演習ＩA	開講年度	2025
担当者	橋本　凜	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	グローバル社会の諸課題を多角的な視点から知る		
授業の目的及び概要	この授業は、グローバル社会の諸課題に関する調査・検討を行い、その過程を通じて主体的に行動する態度およびアカデミックスキルを身につけ、協働力とリーダーシップ、創造的思考力の向上を図ることを目的とする。そのため、1 年次に修得した基本的な調査、発表、討論、文章表現等の能力とグローバル社会の諸課題への関心を一層高めながら、個人やグループ等で様々な課題に取り組む。 授業では、教員が履修生とのコミュニケーションを十分に図りながら、社会に対する視野を拡げ、課題発見能力を涵養する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	授業での取組をとおして、以下の到達目標の達成を目指す。 ① 積極的な学修姿勢を身につけ、基本的なアカデミックスキルを活用できる。 ② 国際理解・多文化共生志向を深める。 ③ 互いの価値観の相違を尊重したうえで、教員からのガイドを受けて、与えられた課題を協力して完成することができる。”		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	発表資料・レジュメについては事前にラーニングポータルに提出してもらい、教員・学生から授業のなかでフィードバックする。そのほか提出された課題についてもラーニングポータルを通じて、また授業のなかでフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①現代文化論:社会理論で読み解くポップカルチャー，遠藤　英樹，ミネルヴァ書房，2011 年	ISBN	①9784623060078
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	60
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	国際学部 2 年次の学びは「広く知る」がテーマであり、世界に対する興味・関心を高める 1 年次から一歩進んで、世界に対する自身の知識の幅を広げてほしい。そのためにも、学生は「広く知る」ことを意識し、演習内でのテーマ設定を行っていってほしい。自身で自身の知識の幅を広げていく積極的姿勢が重要である。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション 教員および学生の自己紹介、アイスブレイキング。 授業の目的や目標、進め方など授業の概要を説明する 。	授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	4 時間
第２回	対面	輪読とは（１） 入門書の１章を教員が指定し輪読を行う。担当教員が適宜内容を解説しながら、輪読のやり方を身に付ける。また、精読との違いについても学ぶ。次週から始まる輪読の実践に向けてグループ分けを行う。	教員が教科書の指定した部分を読み、わからない言葉などについては調べておく。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	4 時間
第３回	対面	輪読とは（２） グループで教員が入門書の指定した部分を読む。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	教員が教科書の指定した部分を読む。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	4 時間
第４回	対面	輪読とは（３） グループで教員が入門書の指定した部分を読む。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	教員が教科書の指定した部分を読む。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	4 時間
第５回	対面	要約・発表資料（レジュメ）の作成（１） 入門書の該当章の要約および発表資料（レジュメ）の作成方法を学ぶ。	要約および発表資料（レジュメ）の作成方法を復習し、作成する。	4 時間
第６回	対面	要約・発表資料（レジュメ）の作成（２） ひとりひとりが作成した発表資料をピア・レビューする。	ピア・レビューを基に担当章の発表資料の見直しを行い、仕上げる。	4 時間
第７回	対面	クラスでの実践（１） 入門書の担当章の発表資料を作り発表する（発表 10 分、質疑５分）。聞き手は発表のわかりやすさ、改善点を意識しながら発表の内容をノートにまとめ、内容に基づく議論点を示しクラスメイトと議論する（10 分）。	クラスメイトが提出したレジュメを事前に確認し、疑問点を整理しておく。課題に取り組み、次回授業で報告する。	4 時間
第８回	対面	クラスでの実践（２） 前週の発表と議論を基に講評を行い、各グループの発表内容の振り返りを行う。また発表を聞く態度や質問の仕方等、発表方法についても振り返り、改善点をまとめる。	発表資料の修正を行う。また発表の仕方を復習し、練習を行うことで身につける。	4 時間
第９回	対面	精読とは（１） 入門書の 1 章を教員が指定し輪読との違いを説明した上で精読を行う。担当教員が適宜内容を解説しながら、精読のやり方を身に付ける。	教員が教科書の指定した部分を読み、わからない言葉などについては調べておく。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	4 時間
第１０回	対面	精読とは（２） グループで教員が入門書の指定した部分を精読する。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	教員が教科書の指定した部分を読む。そして要約を行う。	4 時間
第１１回	対面	精読とは（３） グループで教員が入門書の指定した部分を精読する。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	教員が教科書の指定した部分を読む。そして要約を行う。	4 時間
第１２回	対面	クラスでの実践（３）・問いや議論点の設定 入門書の担当章の発表資料を作り発表（1	要約および発表資料（レジュメ）の作成方法を復習し、作成する。	4 時間

		0 分）する。内容に基づく議論点を示しクラスメイトと議論する（10 分）。		
第１３回	対面	レポート作成に向けて（１） 教員がレポートの書き方を見本を提示ながら説明する。	レポートの書き方を復習し、これまで実践した精読から導き出した問いや議論点について整理をしておく。	4 時間
第１４回	対面	レポート作成に向けて（２） レポートの書き方について復習を行い、これまで実践した精読から導き出した問いや議論点をまとめレポート執筆を行う。	レポートの書き方について復習を行い、レポート執筆を始める。	4 時間
第１５回	オンデマンド	総括 授業全体の総括を行う。	教員の指示に従いこれまでの授業の振り返りを行う。授業後に、授業で配布した資料を読んで復習する。	4 時間

科目名	専門演習ＩA	開講年度	2025
担当者	浅見　緑	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	グローバル社会の諸課題を多角的な視点から知る		
授業の目的及び概要	この授業は、グローバル社会の諸課題に関する調査・検討を行い、その過程を通じて主体的に行動する態度およびアカデミックスキルを身につけ、協働力とリーダーシップ、創造的思考力の向上を図ることを目的とする。そのため、1 年次に修得した基本的な調査、発表、討論、文章表現等の能力とグローバル社会の諸課題への関心を一層高めながら、個人やグループ等で様々な課題に取り組む。 授業では、教員が履修生とのコミュニケーションを十分に図りながら、社会に対する視野を拡げ、課題発見能力を涵養する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	授業での取組をとおして、以下の到達目標の達成を目指す。 ① 積極的な学修姿勢を身につけ、基本的なアカデミックスキルを活用できる。 ② 国際理解・多文化共生志向を深める。 ③ 互いの価値観の相違を尊重したうえで、教員からのガイドを受けて、与えられた課題を協力して完成することができる。”		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	発表資料・レジュメについては事前にラーニングポータルに提出してもらい、教員・学生から授業のなかでフィードバックする。そのほか提出された課題についてもラーニングポータルを通じて、また授業のなかでフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①英語対訳で読む日本のことわざ 日英の発想の違いが面白い!，牧野　高吉，実業之日本社，2017 年	ISBN	①9784408337456
参考書	必要な資料を適宜配布します。	ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	60
授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	国際学部 2 年次の学びは「広く知る」がテーマであり、世界に対する興味・関心を高める 1 年次から一歩進んで、世界に対する自身の知識の幅を広げてほしい。そのためにも、学生は「広く知る」ことを意識し、演習内でのテーマ設定を行っていってほしい。自身で自身の知識の幅を広げていく積極的姿勢が重要である。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション 教員および学生の自己紹介、アイスブレイキング。 授業の目的や目標、進め方など授業の概要を説明する 。	授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	4 時間
第２回	対面	輪読とは（１） 入門書の１章を教員が指定し輪読を行う。担当教員が適宜内容を解説しながら、輪読のやり方を身に付ける。また、精読との違いについても学ぶ。次週から始まる輪読の実践に向けてグループ分けを行う。	教員が教科書の指定した部分を読み、わからない言葉などについては調べておく。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	4 時間
第３回	対面	輪読とは（２） グループで教員が入門書の指定した部分を読む。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	教員が教科書の指定した部分を読む。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	4 時間
第４回	対面	輪読とは（３） グループで教員が入門書の指定した部分を読む。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	教員が教科書の指定した部分を読む。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	4 時間
第５回	対面	要約・発表資料（レジュメ）の作成（１） 入門書の該当章の要約および発表資料（レジュメ）の作成方法を学ぶ。	要約および発表資料（レジュメ）の作成方法を復習し、作成する。	4 時間
第６回	対面	要約・発表資料（レジュメ）の作成（２） ひとりひとりが作成した発表資料をピア・レビューする。	ピア・レビューを基に担当章の発表資料の見直しを行い、仕上げる。	4 時間
第７回	対面	クラスでの実践（１） 入門書の担当章の発表資料を作り発表する（発表 10 分、質疑５分）。聞き手は発表のわかりやすさ、改善点を意識しながら発表の内容をノートにまとめ、内容に基づく議論点を示しクラスメイトと議論する（10 分）。	クラスメイトが提出したレジュメを事前に確認し、疑問点を整理しておく。課題に取り組み、次回授業で報告する。	4 時間
第８回	対面	クラスでの実践（２） 前週の発表と議論を基に講評を行い、各グループの発表内容の振り返りを行う。また発表を聞く態度や質問の仕方等、発表方法についても振り返り、改善点をまとめる。	発表資料の修正を行う。また発表の仕方を復習し、練習を行うことで身につける。	4 時間
第９回	対面	精読とは（１） 入門書の 1 章を教員が指定し輪読との違いを説明した上で精読を行う。担当教員が適宜内容を解説しながら、精読のやり方を身に付ける。	教員が教科書の指定した部分を読み、わからない言葉などについては調べておく。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	4 時間
第１０回	対面	精読とは（２） グループで教員が入門書の指定した部分を精読する。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	教員が教科書の指定した部分を読む。そして要約を行う。	4 時間
第１１回	対面	精読とは（３） グループで教員が入門書の指定した部分を精読する。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	教員が教科書の指定した部分を読む。そして要約を行う。	4 時間
第１２回	対面	クラスでの実践（３）・問いや議論点の設定 入門書の担当章の発表資料を作り発表（1	要約および発表資料（レジュメ）の作成方法を復習し、作成する。	4 時間

		0 分）する。内容に基づく議論点を示しクラスメイトと議論する（10 分）。		
第１３回	対面	レポート作成に向けて（１） 教員がレポートの書き方を見本を提示ながら説明する。	レポートの書き方を復習し、これまで実践した精読から導き出した問いや議論点について整理をしておく。	4 時間
第１４回	対面	レポート作成に向けて（２） レポートの書き方について復習を行い、これまで実践した精読から導き出した問いや議論点をまとめレポート執筆を行う。	レポートの書き方について復習を行い、レポート執筆を始める。	4 時間
第１５回	オンデマンド	総括 授業全体の総括を行う。	教員の指示に従いこれまでの授業の振り返りを行う。授業後に、授業で配布した資料を読んで復習する。	4 時間

科目名	専門演習ＩA	開講年度	2025
担当者	中山　周作	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	グローバル社会の諸課題を多角的な視点から知る		
授業の目的及び概要	この授業は、グローバル社会の諸課題に関する調査・検討を行い、その過程を通じて主体的に行動する態度およびアカデミックスキルを身につけ、協働力とリーダーシップ、創造的思考力の向上を図ることを目的とする。そのため、1 年次に修得した基本的な調査、発表、討論、文章表現等の能力とグローバル社会の諸課題への関心を一層高めながら、個人やグループ等で様々な課題に取り組む。 授業では、教員が履修生とのコミュニケーションを十分に図りながら、社会に対する視野を拡げ、課題発見能力を涵養する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	授業での取組をとおして、以下の到達目標の達成を目指す。 ① 積極的な学修姿勢を身につけ、基本的なアカデミックスキルを活用できる。 ② 国際理解・多文化共生志向を深める。 ③ 互いの価値観の相違を尊重したうえで、教員からのガイドを受けて、与えられた課題を協力して完成することができる。”		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	発表資料・レジュメについては事前にラーニングポータルに提出してもらい、教員・学生から授業のなかでフィードバックする。そのほか提出された課題についてもラーニングポータルを通じて、また授業のなかでフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①実例で学ぶ英語学入門，多々良　直弘，朝倉書店，2022 年	ISBN	①9784254510720
参考書	適宜配布します。	ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	60
授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	国際学部 2 年次の学びは「広く知る」がテーマであり、世界に対する興味・関心を高める 1 年次から一歩進んで、世界に対する自身の知識の幅を広げてほしい。そのためにも、学生は「広く知る」ことを意識し、演習内でのテーマ設定を行っていってほしい。自身で自身の知識の幅を広げていく積極的姿勢が重要である。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション 教員および学生の自己紹介、アイスブレイキング。 授業の目的や目標、進め方など授業の概要を説明する 。	授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	4 時間
第２回	対面	輪読とは（１） 入門書の１章を教員が指定し輪読を行う。担当教員が適宜内容を解説しながら、輪読のやり方を身に付ける。また、精読との違いについても学ぶ。次週から始まる輪読の実践に向けてグループ分けを行う。	教員が教科書の指定した部分を読み、わからない言葉などについては調べておく。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	4 時間
第３回	対面	輪読とは（２） グループで教員が入門書の指定した部分を読む。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	教員が教科書の指定した部分を読む。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	4 時間
第４回	対面	輪読とは（３） グループで教員が入門書の指定した部分を読む。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	教員が教科書の指定した部分を読む。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	4 時間
第５回	対面	要約・発表資料（レジュメ）の作成（１） 入門書の該当章の要約および発表資料（レジュメ）の作成方法を学ぶ。	要約および発表資料（レジュメ）の作成方法を復習し、作成する。	4 時間
第６回	対面	要約・発表資料（レジュメ）の作成（２） ひとりひとりが作成した発表資料をピア・レビューする。	ピア・レビューを基に担当章の発表資料の見直しを行い、仕上げる。	4 時間
第７回	対面	クラスでの実践（１） 入門書の担当章の発表資料を作り発表する（発表 10 分、質疑５分）。聞き手は発表のわかりやすさ、改善点を意識しながら発表の内容をノートにまとめ、内容に基づく議論点を示しクラスメイトと議論する（10 分）。	クラスメイトが提出したレジュメを事前に確認し、疑問点を整理しておく。課題に取り組み、次回授業で報告する。	4 時間
第８回	対面	クラスでの実践（２） 前週の発表と議論を基に講評を行い、各グループの発表内容の振り返りを行う。また発表を聞く態度や質問の仕方等、発表方法についても振り返り、改善点をまとめる。	発表資料の修正を行う。また発表の仕方を復習し、練習を行うことで身につける。	4 時間
第９回	対面	精読とは（１） 入門書の １ 章を教員が指定し輪読との違いを説明した上で精読を行う。担当教員が適宜内容を解説しながら、精読のやり方を身に付ける。	教員が教科書の指定した部分を読み、わからない言葉などについては調べておく。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	4 時間
第１０回	対面	精読とは（２） グループで教員が入門書の指定した部分を精読する。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	教員が教科書の指定した部分を読む。そして要約を行う。	4 時間
第１１回	対面	精読とは（３） グループで教員が入門書の指定した部分を精読する。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	教員が教科書の指定した部分を読む。そして要約を行う。	4 時間
第１２回	対面	クラスでの実践（３）・問いや議論点の設定 入門書の担当章の発表資料を作り発表（1	要約および発表資料（レジュメ）の作成方法を復習し、作成する。	4 時間

		0 分）する。内容に基づく議論点を示しクラスメイトと議論する（10 分）。		
第１３回	対面	レポート作成に向けて（１） 教員がレポートの書き方を見本を提示ながら説明する。	レポートの書き方を復習し、これまで実践した精読から導き出した問いや議論点について整理をしておく。	4 時間
第１４回	対面	レポート作成に向けて（２） レポートの書き方について復習を行い、これまで実践した精読から導き出した問いや議論点をまとめレポート執筆を行う。	レポートの書き方について復習を行い、レポート執筆を始める。	4 時間
第１５回	オンデマンド	総括 授業全体の総括を行う。	教員の指示に従いこれまでの授業の振り返りを行う。授業後に、授業で配布した資料を読んで復習する。	4 時間

科目名	専門演習ＩA	開講年度	2025
担当者	三戸　康世	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	グローバル社会の諸課題を多角的な視点から知る		
授業の目的及び概要	この授業は、グローバル社会の諸課題に関する調査・検討を行い、その過程を通じて主体的に行動する態度およびアカデミックスキルを身につけ、協働力とリーダーシップ、創造的思考力の向上を図ることを目的とする。そのため、1 年次に修得した基本的な調査、発表、討論、文章表現等の能力とグローバル社会の諸課題への関心を一層高めながら、個人やグループ等で様々な課題に取り組む。 授業では、教員が履修生とのコミュニケーションを十分に図りながら、社会に対する視野を拡げ、課題発見能力を涵養する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	授業での取組をとおして、以下の到達目標の達成を目指す。 ① 積極的な学修姿勢を身につけ、基本的なアカデミックスキルを活用できる。 ② 国際理解・多文化共生志向を深める。 ③ 互いの価値観の相違を尊重したうえで、教員からのガイドを受けて、与えられた課題を協力して完成することができる。”		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	発表資料・レジュメについては事前にラーニングポータルに提出してもらい、教員・学生から授業のなかでフィードバックする。そのほか提出された課題についてもラーニングポータルを通じて、また授業のなかでフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、キャリアコンサルタントや米国 CCE 認定グローバルキャリア開発ファシリテーターの資格を有しており、これまでに海外の法律事務所で翻訳・通訳や国内の民間企業でキャリア教育コーディネーター等の業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	テキストなし（資料を配布します）	ISBN	なし
参考書	なし（適宜資料配布）	ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	60
授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	国際学部 2 年次の学びは「広く知る」がテーマであり、世界に対する興味・関心を高める 1 年次から一歩進んで、世界に対する自身の知識の幅を広げてほしい。そのためにも、学生は「広く知る」ことを意識し、演習内でのテーマ設定を行っていってほしい。自身で自身の知識の幅を広げていく積極的姿勢が重要である。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション 教員および学生の自己紹介、アイスブレイキング。 授業の目的や目標、進め方など授業の概要を説明する 。	授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	4 時間
第２回	対面	輪読とは（１） 入門書の１章を教員が指定し輪読を行う。担当教員が適宜内容を解説しながら、輪読のやり方を身に付ける。また、精読との違いについても学ぶ。次週から始まる輪読の実践に向けてグループ分けを行う。	教員が教科書の指定した部分を読み、わからない言葉などについては調べておく。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	4 時間
第３回	対面	輪読とは（２） グループで教員が入門書の指定した部分を読む。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	教員が教科書の指定した部分を読む。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	4 時間
第４回	対面	輪読とは（３） グループで教員が入門書の指定した部分を読む。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	教員が教科書の指定した部分を読む。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	4 時間
第５回	対面	要約・発表資料（レジュメ）の作成（１） 入門書の該当章の要約および発表資料（レジュメ）の作成方法を学ぶ。	要約および発表資料（レジュメ）の作成方法を復習し、作成する。	4 時間
第６回	対面	要約・発表資料（レジュメ）の作成（２） ひとりひとりが作成した発表資料をピア・レビューする。	ピア・レビューを基に担当章の発表資料の見直しを行い、仕上げる。	4 時間
第７回	対面	クラスでの実践（１） 入門書の担当章の発表資料を作り発表する（発表 10 分、質疑５分）。聞き手は発表のわかりやすさ、改善点を意識しながら発表の内容をノートにまとめ、内容に基づく議論点を示しクラスメイトと議論する（10 分）。	クラスメイトが提出したレジュメを事前に確認し、疑問点を整理しておく。課題に取り組み、次回授業で報告する。	4 時間
第８回	対面	クラスでの実践（２） 前週の発表と議論を基に講評を行い、各グループの発表内容の振り返りを行う。また発表を聞く態度や質問の仕方等、発表方法についても振り返り、改善点をまとめる。	発表資料の修正を行う。また発表の仕方を復習し、練習を行うことで身につける。	4 時間
第９回	対面	精読とは（１） 入門書の 1 章を教員が指定し輪読との違いを説明した上で精読を行う。担当教員が適宜内容を解説しながら、精読のやり方を身に付ける。	教員が教科書の指定した部分を読み、わからない言葉などについては調べておく。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	4 時間
第１０回	対面	精読とは（２） グループで教員が入門書の指定した部分を精読する。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	教員が教科書の指定した部分を読む。そして要約を行う。	4 時間
第１１回	対面	精読とは（３） グループで教員が入門書の指定した部分を精読する。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	教員が教科書の指定した部分を読む。そして要約を行う。	4 時間
第１２回	対面	クラスでの実践（３）・問いや議論点の設定 入門書の担当章の発表資料を作り発表（1	要約および発表資料（レジュメ）の作成方法を復習し、作成する。	4 時間

		0 分）する。内容に基づく議論点を示しクラスメイトと議論する（10 分）。		
第１３回	対面	レポート作成に向けて（１） 教員がレポートの書き方を見本を提示ながら説明する。	レポートの書き方を復習し、これまで実践した精読から導き出した問いや議論点について整理をしておく。	4 時間
第１４回	対面	レポート作成に向けて（２） レポートの書き方について復習を行い、これまで実践した精読から導き出した問いや議論点をまとめレポート執筆を行う。	レポートの書き方について復習を行い、レポート執筆を始める。	4 時間
第１５回	オンデマンド	総括 授業全体の総括を行う。	教員の指示に従いこれまでの授業の振り返りを行う。授業後に、授業で配布した資料を読んで復習する。	4 時間

科目名	専門演習ＩB	開講年度	2025
担当者	徐　潤雅	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	グローバル社会の諸課題を多角的な視点から知る		
授業の目的及び概要	「専門演習ＩA」に引き続き本演習においても、以下の各項目の獲得および向上を目指す。 ・基礎的な調査・発表・討論・文章作成に関する能力 ・グローバル社会における諸課題に対する興味関心 ・他者と協働して課題に取り組むためのコミュニケーション能力		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	演習における様々な取組をとおして、以下の目標の達成を目指してほしい。 ① 積極的な学修姿勢を身につけると同時に、基本的なアカデミックスキルを体得する。 ② 国際理解・多文化共生とは何かを理解し、実践できる。 ③文化や価値観の相違を尊重しつつ、演習内での課題を他者と協力して完遂できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	輪読や発表については演習内においてフィードバックをおこなう。 その他、レポートなどの提出課題についてはラーニングポータルなどを利用して適宜フィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①日韓スタディーズ：日本と韓国をつなぐ新たな研究と学び，山本浄邦・金敬黙，ナカニシヤ出版，2024 年	ISBN	①9784779518164
参考書	①現代韓国を知るための 61 章（第 3 版），石坂浩一・福島みのり，明石書店，2024 年	ISBN	①9784750357058

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	60
授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	国際学部 2 年次の学びは「広く知る」がテーマであり、世界に対する興味・関心を高める 1 年次から一歩進んで、世界に対する自身の知識の幅を広げてほしい。そのためにも、学生は「広く知る」ことを意識し、演習内でのテーマ設定を行っていってほしい。自身で自身の知識の幅を広げていく積極的姿勢が重要である。なお毎回の出席が単位取得の大前提である。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	オリエンテーション（演習の目的や目標、	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を	4 時間

		進め方、評価方法などを説明）	次の演習までに纏める。	
第２回	対面	「研究」の全体像を知る（担当教員が自身の研究を例として、着想から調査、執筆までの全体の流れを説明）	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間
第３回	対面	グループ毎に研究のテーマと問いを議論・選定する（担当教員の承認を受けた後に決定）	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間
第４回	対面	・教員による資料の検索方法についての説明 ・その後、グループ毎に資料の検索と収集を試みる ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集したものを読み進める	4 時間
第５回	対面	・グループ毎に収集した文献について話し合い、研究の問いやテーマを適宜見直す ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間
第６回	対面	・グループ毎に収集した文献について更なる話し合いを行い、問いへの答えを模索する ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める	4 時間
第７回	対面	・教員よりプレゼンテーション用のスライド作成に際する諸注意説明（引用や参考文献の示し方、剽窃行為） ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める	4 時間
第８回	対面	・グループ毎にスライド資料の作成（１） ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める	4 時間
第９回	対面	・グループ毎にスライド資料の作成（２） ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める	4 時間
第１０回	対面	・グループ毎にスライド資料の作成（3） ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める	4 時間
第１１回	対面	グループ毎の研究発表（クラス内）	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間
第１２回	対面	2 年生研究発表大会への参加	大会で得た自分の学びについてレポートを作成し、提出する。	4 時間
第１３回	対面	研究大会の振り返りと来年度の演習選定	配布資料の読み直し	4 時間
第１４回	対面	レポート課題についての説明	授業で配布した資料を読み復習する。	4 時間
第１５回	オンデマンド	1 年間の学びについて振り返りを行う	授業で配布した資料を読み直し、レポートの準備	4 時間

科目名	専門演習ＩB	開講年度	2025
担当者	今井　健一	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	グローバル社会の諸課題を多角的な視点から知る		
授業の目的及び概要	「専門演習ＩA」に引き続き本演習においても、以下の各項目の獲得および向上を目指す。 ・基礎的な調査・発表・討論・文章作成に関する能力 ・グローバル社会における諸課題に対する興味関心 ・他者と協働して課題に取り組むためのコミュニケーション能力		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	演習における様々な取組をとおして、以下の目標の達成を目指してほしい。 ① 積極的な学修姿勢を身につけると同時に、基本的なアカデミックスキルを体得する。 ② 国際理解・多文化共生とは何かを理解し、実践できる。 ③文化や価値観の相違を尊重しつつ、演習内での課題を他者と協力して完遂できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	輪読や発表については演習内においてフィードバックをおこなう。 その他、レポートなどの提出課題についてはラーニングポータルなどを利用して適宜フィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定のテキストはありません。必要な資料を適宜配布します。	ISBN	なし
参考書	①世界の現場から実践 SDGs： 格差・環境・食料問題の現実解,日経サイエンス編集部 編,日経サイエンス,2022 年	ISBN	①9784296114719

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	60
授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	国際学部 2 年次の学びは「広く知る」がテーマであり、世界に対する興味・関心を高める 1 年次から一歩進んで、世界に対する自身の知識の幅を広げてほしい。そのためにも、学生は「広く知る」ことを意識し、演習内でのテーマ設定を行っていってほしい。自身で自身の知識の幅を広げていく積極的姿勢が重要である。なお毎回の出席が単位取得の大前提である。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第１回	対面	オリエンテーション（演習の目的や目標、進め方、評価方法などを説明）	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間
第２回	対面	「研究」の全体像を知る（担当教員が自身の研究を例として、着想から調査、執筆までの全体の流れを説明）	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間
第３回	対面	グループ毎に研究のテーマと問いを議論・選定する（担当教員の承認を受けた後に決定）	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間
第４回	対面	・教員による資料の検索方法についての説明 ・その後、グループ毎に資料の検索と収集を試みる ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集したものを読み進める	4 時間
第５回	対面	・グループ毎に収集した文献について話し合い、研究の問いやテーマを適宜見直す ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間
第６回	対面	・グループ毎に収集した文献について更なる話し合いを行い、問いへの答えを模索する ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める	4 時間
第７回	対面	・教員よりプレゼンテーション用のスライド作成に際する諸注意説明（引用や参考文献の示し方、剽窃行為） ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める	4 時間
第８回	対面	・グループ毎にスライド資料の作成（１） ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める	4 時間
第９回	対面	・グループ毎にスライド資料の作成（２） ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める	4 時間
第１０回	対面	・グループ毎にスライド資料の作成（3） ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める	4 時間
第１１回	対面	グループ毎の研究発表（クラス内）	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間
第１２回	対面	2 年生研究発表大会への参加	大会で得た自分の学びについてレポートを作成し、提出する。	4 時間
第１３回	対面	研究大会の振り返りと来年度の演習選定	配布資料の読み直し	4 時間
第１４回	対面	レポート課題についての説明	授業で配布した資料を読み復習する。	4 時間
第１５回	オンデマンド	1 年間の学びについて振り返りを行う	授業で配布した資料を読み直し、レポートの準備	4 時間

科目名	専門演習ＩB	開講年度	2025
担当者	田中　慎吾	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	グローバル社会の諸課題を多角的な視点から知る		
授業の目的及び概要	「専門演習ＩA」に引き続き本演習においても、以下の各項目の獲得および向上を目指す。 ・基礎的な調査・発表・討論・文章作成に関する能力 ・グローバル社会における諸課題に対する興味関心 ・他者と協働して課題に取り組むためのコミュニケーション能力		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	演習における様々な取組をとおして、以下の目標の達成を目指してほしい。 ① 積極的な学修姿勢を身につけると同時に、基本的なアカデミックスキルを体得する。 ② 国際理解・多文化共生とは何かを理解し、実践できる。 ③文化や価値観の相違を尊重しつつ、演習内での課題を他者と協力して完遂できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	輪読や発表については演習内においてフィードバックをおこなう。 その他、レポートなどの提出課題についてはラーニングポータルなどを利用して適宜フィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①国際政治とは何か－地域社会における人間と秩序，中西　寛，中央公論新聞社，2003 年	ISBN	①9784121016867
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	60
授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって
国際学部 2 年次の学びは「広く知る」がテーマであり、世界に対する興味・関心を高める 1 年次から一歩進んで、世界に対する自身の知識の幅を広げてほしい。そのためにも、学生は「広く知る」ことを意識し、演習内でのテーマ設定を行っていってほしい。自身で自身の知識の幅を広げていく積極的姿勢が重要である。なお毎回の出席が単位取得の大前提である。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	オリエンテーション（演習の目的や目標、進め方、評価方法などを説明）	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間

第２回	対面	「研究」の全体像を知る（担当教員が自身の研究を例として、着想から調査、執筆までの全体の流れを説明）	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間
第３回	対面	グループ毎に研究のテーマと問いを議論・選定する（担当教員の承認を受けた後に決定）	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間
第４回	対面	・教員による資料の検索方法についての説明 ・その後、グループ毎に資料の検索と収集を試みる ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集したものを読み進める	4 時間
第５回	対面	・グループ毎に収集した文献について話し合い、研究の問いやテーマを適宜見直す ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間
第６回	対面	・グループ毎に収集した文献について更なる話し合いを行い、問いへの答えを模索する ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める	4 時間
第７回	対面	・教員よりプレゼンテーション用のスライド作成に際する諸注意説明（引用や参考文献の示し方、剽窃行為） ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める	4 時間
第８回	対面	・グループ毎にスライド資料の作成（１） ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める	4 時間
第９回	対面	・グループ毎にスライド資料の作成（２） ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める	4 時間
第１０回	対面	・グループ毎にスライド資料の作成（3） ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める	4 時間
第１１回	対面	グループ毎の研究発表（クラス内）	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間
第１２回	対面	2 年生研究発表大会への参加	大会で得た自分の学びについてレポートを作成し、提出する。	4 時間
第１３回	対面	研究大会の振り返りと来年度の演習選定	配布資料の読み直し	4 時間
第１４回	対面	レポート課題についての説明	授業で配布した資料を読み復習する。	4 時間
第１５回	オンデマンド	1 年間の学びについて振り返りを行う	授業で配布した資料を読み直し、レポートの準備	4 時間

科目名	専門演習ＩB	開講年度	2025
担当者	姜　若冰	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	グローバル社会の諸課題を多角的な視点から知る		
授業の目的及び概要	「専門演習ＩA」に引き続き本演習においても、以下の各項目の獲得および向上を目指す。 ・基礎的な調査・発表・討論・文章作成に関する能力 ・グローバル社会における諸課題に対する興味関心 ・他者と協働して課題に取り組むためのコミュニケーション能力		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	演習における様々な取組をとおして、以下の目標の達成を目指してほしい。 ① 積極的な学修姿勢を身につけると同時に、基本的なアカデミックスキルを体得する。 ② 国際理解・多文化共生とは何かを理解し、実践できる。 ③文化や価値観の相違を尊重しつつ、演習内での課題を他者と協力して完遂できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	輪読や発表については演習内においてフィードバックをおこなう。 その他、レポートなどの提出課題についてはラーニングポータルなどを利用して適宜フィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①ジェンダー視点で学ぶ女性史，澤田季江，日本機関紙出版センター，2021 年	ISBN	①9784889002607
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	60
授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって
国際学部 2 年次の学びは「広く知る」がテーマであり、世界に対する興味・関心を高める 1 年次から一歩進んで、世界に対する自身の知識の幅を広げてほしい。そのためにも、学生は「広く知る」ことを意識し、演習内でのテーマ設定を行っていってほしい。自身で自身の知識の幅を広げていく積極的姿勢が重要である。なお毎回の出席が単位取得の大前提である。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	オリエンテーション（演習の目的や目標、進め方、評価方法などを説明）	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間

第２回	対面	「研究」の全体像を知る（担当教員が自身の研究を例として、着想から調査、執筆までの全体の流れを説明）	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間
第３回	対面	グループ毎に研究のテーマと問いを議論・選定する（担当教員の承認を受けた後に決定）	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間
第４回	対面	・教員による資料の検索方法についての説明 ・その後、グループ毎に資料の検索と収集を試みる ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集したものを読み進める	4 時間
第５回	対面	・グループ毎に収集した文献について話し合い、研究の問いやテーマを適宜見直す ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間
第６回	対面	・グループ毎に収集した文献について更なる話し合いを行い、問いへの答えを模索する ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める	4 時間
第７回	対面	・教員よりプレゼンテーション用のスライド作成に際する諸注意説明（引用や参考文献の示し方、剽窃行為） ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める	4 時間
第８回	対面	・グループ毎にスライド資料の作成（１） ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める	4 時間
第９回	対面	・グループ毎にスライド資料の作成（２） ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める	4 時間
第１０回	対面	・グループ毎にスライド資料の作成（3） ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める	4 時間
第１１回	対面	グループ毎の研究発表（クラス内）	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間
第１２回	対面	2 年生研究発表大会への参加	大会で得た自分の学びについてレポートを作成し、提出する。	4 時間
第１３回	対面	研究大会の振り返りと来年度の演習選定	配布資料の読み直し	4 時間
第１４回	対面	レポート課題についての説明	授業で配布した資料を読み復習する。	4 時間
第１５回	オンデマンド	1 年間の学びについて振り返りを行う	授業で配布した資料を読み直し、レポートの準備	4 時間

科目名	専門演習ＩB	開講年度	2025
担当者	ボイキン　舞	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	グローバル社会の諸課題を多角的な視点から知る		
授業の目的及び概要	「専門演習ＩA」に引き続き本演習においても、以下の各項目の獲得および向上を目指す。 ・基礎的な調査・発表・討論・文章作成に関する能力 ・グローバル社会における諸課題に対する興味関心 ・他者と協働して課題に取り組むためのコミュニケーション能力		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	演習における様々な取組をとおして、以下の目標の達成を目指してほしい。 ① 積極的な学修姿勢を身につけると同時に、基本的なアカデミックスキルを体得する。 ② 国際理解・多文化共生とは何かを理解し、実践できる。 ③文化や価値観の相違を尊重しつつ、演習内での課題を他者と協力して完遂できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	輪読や発表については演習内においてフィードバックをおこなう。 その他、レポートなどの提出課題についてはラーニングポータルなどを利用して適宜フィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①アメリカ文学入門[新版], 諏訪部　浩一他, 三修社, 2023 年	ISBN	①9784384057485
参考書	なし	ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	60
授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって
国際学部 2 年次の学びは「広く知る」がテーマであり、世界に対する興味・関心を高める 1 年次から一歩進んで、世界に対する自身の知識の幅を広げてほしい。そのためにも、学生は「広く知る」ことを意識し、演習内でのテーマ設定を行っていってほしい。自身で自身の知識の幅を広げていく積極的姿勢が重要である。なお毎回の出席が単位取得の大前提である。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	オリエンテーション（演習の目的や目標、進め方、評価方法などを説明）	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間

第２回	対面	「研究」の全体像を知る（担当教員が自身の研究を例として、着想から調査、執筆までの全体の流れを説明）	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間
第３回	対面	グループ毎に研究のテーマと問いを議論・選定する（担当教員の承認を受けた後に決定）	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間
第４回	対面	・教員による資料の検索方法についての説明 ・その後、グループ毎に資料の検索と収集を試みる ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集したものを読み進める	4 時間
第５回	対面	・グループ毎に収集した文献について話し合い、研究の問いやテーマを適宜見直す ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間
第６回	対面	・グループ毎に収集した文献について更なる話し合いを行い、問いへの答えを模索する ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める	4 時間
第７回	対面	・教員よりプレゼンテーション用のスライド作成に際する諸注意説明（引用や参考文献の示し方、剽窃行為） ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める	4 時間
第８回	対面	・グループ毎にスライド資料の作成（１） ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める	4 時間
第９回	対面	・グループ毎にスライド資料の作成（２） ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める	4 時間
第１０回	対面	・グループ毎にスライド資料の作成（3） ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める	4 時間
第１１回	対面	グループ毎の研究発表（クラス内）	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間
第１２回	対面	2 年生研究発表大会への参加	大会で得た自分の学びについてレポートを作成し、提出する。	4 時間
第１３回	対面	研究大会の振り返りと来年度の演習選定	配布資料の読み直し	4 時間
第１４回	対面	レポート課題についての説明	授業で配布した資料を読み復習する。	4 時間
第１５回	オンデマンド	1 年間の学びについて振り返りを行う	授業で配布した資料を読み直し、レポートの準備	4 時間

科目名	専門演習ＩB	開講年度	2025
担当者	木村　彩音	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	グローバル社会の諸課題を多角的な視点から知る		
授業の目的及び概要	「専門演習ＩA」に引き続き本演習においても、以下の各項目の獲得および向上を目指す。 ・基礎的な調査・発表・討論・文章作成に関する能力 ・グローバル社会における諸課題に対する興味関心 ・他者と協働して課題に取り組むためのコミュニケーション能力		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	演習における様々な取組をとおして、以下の目標の達成を目指してほしい。 ① 積極的な学修姿勢を身につけると同時に、基本的なアカデミックスキルを体得する。 ② 国際理解・多文化共生とは何かを理解し、実践できる。 ③文化や価値観の相違を尊重しつつ、演習内での課題を他者と協力して完遂できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	輪読や発表については演習内においてフィードバックをおこなう。 その他、レポートなどの提出課題についてはラーニングポータルなどを利用して適宜フィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①オセアニアで学ぶ人類学，風間計博・梅崎昌裕，昭和堂，2020 年	ISBN	①9784812220054
参考書	なし	ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	60
授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって
国際学部 2 年次の学びは「広く知る」がテーマであり、世界に対する興味・関心を高める 1 年次から一歩進んで、世界に対する自身の知識の幅を広げてほしい。そのためにも、学生は「広く知る」ことを意識し、演習内でのテーマ設定を行っていってほしい。自身で自身の知識の幅を広げていく積極的姿勢が重要である。なお毎回の出席が単位取得の大前提である。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	オリエンテーション（演習の目的や目標、進め方、評価方法などを説明）	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間

第２回	対面	「研究」の全体像を知る（担当教員が自身の研究を例として、着想から調査、執筆までの全体の流れを説明）	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間
第３回	対面	グループ毎に研究のテーマと問いを議論・選定する（担当教員の承認を受けた後に決定）	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間
第４回	対面	・教員による資料の検索方法についての説明 ・その後、グループ毎に資料の検索と収集を試みる ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集したものを読み進める	4 時間
第５回	対面	・グループ毎に収集した文献について話し合い、研究の問いやテーマを適宜見直す ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間
第６回	対面	・グループ毎に収集した文献について更なる話し合いを行い、問いへの答えを模索する ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める	4 時間
第７回	対面	・教員よりプレゼンテーション用のスライド作成に際する諸注意説明（引用や参考文献の示し方、剽窃行為） ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める	4 時間
第８回	対面	・グループ毎にスライド資料の作成（１） ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める	4 時間
第９回	対面	・グループ毎にスライド資料の作成（２） ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める	4 時間
第１０回	対面	・グループ毎にスライド資料の作成（3） ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める	4 時間
第１１回	対面	グループ毎の研究発表（クラス内）	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間
第１２回	対面	2 年生研究発表大会への参加	大会で得た自分の学びについてレポートを作成し、提出する。	4 時間
第１３回	対面	研究大会の振り返りと来年度の演習選定	配布資料の読み直し	4 時間
第１４回	対面	レポート課題についての説明	授業で配布した資料を読み復習する。	4 時間
第１５回	オンデマンド	1 年間の学びについて振り返りを行う	授業で配布した資料を読み直し、レポートの準備	4 時間

科目名	専門演習ＩB	開講年度	2025
担当者	橋本　凜	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	グローバル社会の諸課題を多角的な視点から知る		
授業の目的及び概要	「専門演習ＩA」に引き続き本演習においても、以下の各項目の獲得および向上を目指す。 ・基礎的な調査・発表・討論・文章作成に関する能力 ・グローバル社会における諸課題に対する興味関心 ・他者と協働して課題に取り組むためのコミュニケーション能力		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	演習における様々な取組をとおして、以下の目標の達成を目指してほしい。 ① 積極的な学修姿勢を身につけると同時に、基本的なアカデミックスキルを体得する。 ② 国際理解・多文化共生とは何かを理解し、実践できる。 ③文化や価値観の相違を尊重しつつ、演習内での課題を他者と協力して完遂できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	輪読や発表については演習内においてフィードバックをおこなう。 その他、レポートなどの提出課題についてはラーニングポータルなどを利用して適宜フィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①現代文化論:社会理論で読み解くポップカルチャー，遠藤　英樹，ミネルヴァ書房，2011 年	ISBN	①9784623060078
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	60
授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって
国際学部 2 年次の学びは「広く知る」がテーマであり、世界に対する興味・関心を高める 1 年次から一歩進んで、世界に対する自身の知識の幅を広げてほしい。そのためにも、学生は「広く知る」ことを意識し、演習内でのテーマ設定を行っていってほしい。自身で自身の知識の幅を広げていく積極的姿勢が重要である。なお毎回の出席が単位取得の大前提である。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	オリエンテーション（演習の目的や目標、進め方、評価方法などを説明）	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間

第２回	対面	「研究」の全体像を知る（担当教員が自身の研究を例として、着想から調査、執筆までの全体の流れを説明）	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間
第３回	対面	グループ毎に研究のテーマと問いを議論・選定する（担当教員の承認を受けた後に決定）	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間
第４回	対面	・教員による資料の検索方法についての説明 ・その後、グループ毎に資料の検索と収集を試みる ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集したものを読み進める	4 時間
第５回	対面	・グループ毎に収集した文献について話し合い、研究の問いやテーマを適宜見直す ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間
第６回	対面	・グループ毎に収集した文献について更なる話し合いを行い、問いへの答えを模索する ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める	4 時間
第７回	対面	・教員よりプレゼンテーション用のスライド作成に際する諸注意説明（引用や参考文献の示し方、剽窃行為） ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める	4 時間
第８回	対面	・グループ毎にスライド資料の作成（１） ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める	4 時間
第９回	対面	・グループ毎にスライド資料の作成（２） ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める	4 時間
第１０回	対面	・グループ毎にスライド資料の作成（3） ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める	4 時間
第１１回	対面	グループ毎の研究発表（クラス内）	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間
第１２回	対面	2 年生研究発表大会への参加	大会で得た自分の学びについてレポートを作成し、提出する。	4 時間
第１３回	対面	研究大会の振り返りと来年度の演習選定	配布資料の読み直し	4 時間
第１４回	対面	レポート課題についての説明	授業で配布した資料を読み復習する。	4 時間
第１５回	オンデマンド	1 年間の学びについて振り返りを行う	授業で配布した資料を読み直し、レポートの準備	4 時間

科目名	専門演習ＩB	開講年度	2025
担当者	浅見　緑	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	グローバル社会の諸課題を多角的な視点から知る		
授業の目的及び概要	「専門演習ＩA」に引き続き本演習においても、以下の各項目の獲得および向上を目指す。 ・基礎的な調査・発表・討論・文章作成に関する能力 ・グローバル社会における諸課題に対する興味関心 ・他者と協働して課題に取り組むためのコミュニケーション能力		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	演習における様々な取組をとおして、以下の目標の達成を目指してほしい。 ① 積極的な学修姿勢を身につけると同時に、基本的なアカデミックスキルを体得する。 ② 国際理解・多文化共生とは何かを理解し、実践できる。 ③文化や価値観の相違を尊重しつつ、演習内での課題を他者と協力して完遂できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	輪読や発表については演習内においてフィードバックをおこなう。 その他、レポートなどの提出課題についてはラーニングポータルなどを利用して適宜フィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①英語対訳で読む日本のことわざ 日英の発想の違いが面白い!，牧野　高吉，実業之日本社，2017 年	ISBN	①9784408337456
参考書	必要な資料を適宜配布します。	ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	60
授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって
国際学部 2 年次の学びは「広く知る」がテーマであり、世界に対する興味・関心を高める 1 年次から一歩進んで、世界に対する自身の知識の幅を広げてほしい。そのためにも、学生は「広く知る」ことを意識し、演習内でのテーマ設定を行っていってほしい。自身で自身の知識の幅を広げていく積極的姿勢が重要である。なお毎回の出席が単位取得の大前提である。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	オリエンテーション（演習の目的や目標、進め方、評価方法などを説明）	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間

第２回	対面	「研究」の全体像を知る（担当教員が自身の研究を例として、着想から調査、執筆までの全体の流れを説明）	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間
第３回	対面	グループ毎に研究のテーマと問いを議論・選定する（担当教員の承認を受けた後に決定）	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間
第４回	対面	・教員による資料の検索方法についての説明 ・その後、グループ毎に資料の検索と収集を試みる ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集したものを読み進める	4 時間
第５回	対面	・グループ毎に収集した文献について話し合い、研究の問いやテーマを適宜見直す ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間
第６回	対面	・グループ毎に収集した文献について更なる話し合いを行い、問いへの答えを模索する ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める	4 時間
第７回	対面	・教員よりプレゼンテーション用のスライド作成に際する諸注意説明（引用や参考文献の示し方、剽窃行為） ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める	4 時間
第８回	対面	・グループ毎にスライド資料の作成（１） ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める	4 時間
第９回	対面	・グループ毎にスライド資料の作成（２） ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める	4 時間
第１０回	対面	・グループ毎にスライド資料の作成（3） ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める	4 時間
第１１回	対面	グループ毎の研究発表（クラス内）	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間
第１２回	対面	2 年生研究発表大会への参加	大会で得た自分の学びについてレポートを作成し、提出する。	4 時間
第１３回	対面	研究大会の振り返りと来年度の演習選定	配布資料の読み直し	4 時間
第１４回	対面	レポート課題についての説明	授業で配布した資料を読み復習する。	4 時間
第１５回	オンデマンド	1 年間の学びについて振り返りを行う	授業で配布した資料を読み直し、レポートの準備	4 時間

科目名	専門演習ＩB	開講年度	2025
担当者	三戸　康世	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	グローバル社会の諸課題を多角的な視点から知る		
授業の目的及び概要	「専門演習ＩA」に引き続き本演習においても、以下の各項目の獲得および向上を目指す。 ・基礎的な調査・発表・討論・文章作成に関する能力 ・グローバル社会における諸課題に対する興味関心 ・他者と協働して課題に取り組むためのコミュニケーション能力		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	演習における様々な取組をとおして、以下の目標の達成を目指してほしい。 ① 積極的な学修姿勢を身につけると同時に、基本的なアカデミックスキルを体得する。 ② 国際理解・多文化共生とは何かを理解し、実践できる。 ③文化や価値観の相違を尊重しつつ、演習内での課題を他者と協力して完遂できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	輪読や発表については演習内においてフィードバックをおこなう。 その他、レポートなどの提出課題についてはラーニングポータルなどを利用して適宜フィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、キャリアコンサルタントや米国 CCE 認定グローバルキャリア開発ファシリテーターの資格を有しており、これまでに海外の法律事務所で翻訳・通訳や国内の民間企業でキャリア教育コーディネーター等の業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	テキストなし（資料を配布します）	ISBN	なし
参考書	なし（適宜資料配布）	ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	60
授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	国際学部 2 年次の学びは「広く知る」がテーマであり、世界に対する興味・関心を高める 1 年次から一歩進んで、世界に対する自身の知識の幅を広げてほしい。そのためにも、学生は「広く知る」ことを意識し、演習内でのテーマ設定を行っていってほしい。自身で自身の知識の幅を広げていく積極的姿勢が重要である。なお毎回の出席が単位取得の大前提である。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	オリエンテーション（演習の目的や目標、	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を	4 時間

		進め方、評価方法などを説明）	次の演習までに纏める。	
第２回	対面	「研究」の全体像を知る（担当教員が自身の研究を例として、着想から調査、執筆までの全体の流れを説明）	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間
第３回	対面	グループ毎に研究のテーマと問いを議論・選定する（担当教員の承認を受けた後に決定）	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間
第４回	対面	・教員による資料の検索方法についての説明 ・その後、グループ毎に資料の検索と収集を試みる ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集したものを読み進める	4 時間
第５回	対面	・グループ毎に収集した文献について話し合い、研究の問いやテーマを適宜見直す ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間
第６回	対面	・グループ毎に収集した文献について更なる話し合いを行い、問いへの答えを模索する ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める	4 時間
第７回	対面	・教員よりプレゼンテーション用のスライド作成に際する諸注意説明（引用や参考文献の示し方、剽窃行為） ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める	4 時間
第８回	対面	・グループ毎にスライド資料の作成（１） ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める	4 時間
第９回	対面	・グループ毎にスライド資料の作成（２） ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める	4 時間
第１０回	対面	・グループ毎にスライド資料の作成（3） ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める	4 時間
第１１回	対面	グループ毎の研究発表（クラス内）	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間
第１２回	対面	2 年生研究発表大会への参加	大会で得た自分の学びについてレポートを作成し、提出する。	4 時間
第１３回	対面	研究大会の振り返りと来年度の演習選定	配布資料の読み直し	4 時間
第１４回	対面	レポート課題についての説明	授業で配布した資料を読み復習する。	4 時間
第１５回	オンデマンド	1 年間の学びについて振り返りを行う	授業で配布した資料を読み直し、レポートの準備	4 時間

科目名	専門演習ＩB	開講年度	2025
担当者	中山　周作	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	グローバル社会の諸課題を多角的な視点から知る		
授業の目的及び概要	「専門演習ＩA」に引き続き本演習においても、以下の各項目の獲得および向上を目指す。 ・基礎的な調査・発表・討論・文章作成に関する能力 ・グローバル社会における諸課題に対する興味関心 ・他者と協働して課題に取り組むためのコミュニケーション能力		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	演習における様々な取組をとおして、以下の目標の達成を目指してほしい。 ① 積極的な学修姿勢を身につけると同時に、基本的なアカデミックスキルを体得する。 ② 国際理解・多文化共生とは何かを理解し、実践できる。 ③文化や価値観の相違を尊重しつつ、演習内での課題を他者と協力して完遂できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	輪読や発表については演習内においてフィードバックをおこなう。 その他、レポートなどの提出課題についてはラーニングポータルなどを利用して適宜フィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①実例で学ぶ英語学入門，多々良　直弘，朝倉書店，2022 年	ISBN	①9784254510720
参考書	適宜配布します。	ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	60
授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって
国際学部 2 年次の学びは「広く知る」がテーマであり、世界に対する興味・関心を高める 1 年次から一歩進んで、世界に対する自身の知識の幅を広げてほしい。そのためにも、学生は「広く知る」ことを意識し、演習内でのテーマ設定を行っていってほしい。自身で自身の知識の幅を広げていく積極的姿勢が重要である。なお毎回の出席が単位取得の大前提である。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	オリエンテーション（演習の目的や目標、進め方、評価方法などを説明）	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間

第２回	対面	「研究」の全体像を知る（担当教員が自身の研究を例として、着想から調査、執筆までの全体の流れを説明）	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間
第３回	対面	グループ毎に研究のテーマと問いを議論・選定する（担当教員の承認を受けた後に決定）	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間
第４回	対面	・教員による資料の検索方法についての説明 ・その後、グループ毎に資料の検索と収集を試みる ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集したものを読み進める	4 時間
第５回	対面	・グループ毎に収集した文献について話し合い、研究の問いやテーマを適宜見直す ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間
第６回	対面	・グループ毎に収集した文献について更なる話し合いを行い、問いへの答えを模索する ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める	4 時間
第７回	対面	・教員よりプレゼンテーション用のスライド作成に際する諸注意説明（引用や参考文献の示し方、剽窃行為） ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める	4 時間
第８回	対面	・グループ毎にスライド資料の作成（１） ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める	4 時間
第９回	対面	・グループ毎にスライド資料の作成（２） ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める	4 時間
第１０回	対面	・グループ毎にスライド資料の作成（3） ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める	4 時間
第１１回	対面	グループ毎の研究発表（クラス内）	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間
第１２回	対面	2 年生研究発表大会への参加	大会で得た自分の学びについてレポートを作成し、提出する。	4 時間
第１３回	対面	研究大会の振り返りと来年度の演習選定	配布資料の読み直し	4 時間
第１４回	対面	レポート課題についての説明	授業で配布した資料を読み復習する。	4 時間
第１５回	オンデマンド	1 年間の学びについて振り返りを行う	授業で配布した資料を読み直し、レポートの準備	4 時間

科目名	専門演習ⅡA	開講年度	2025
担当者	張　雪斌	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	国際政治学の理論と現実を学ぶ		
授業の目的及び概要	本演習は国際政治学の観点からさまざまな国際問題を分析し、国際社会の過去、現在と未来について学ぶ。演習の中心的な分析対象はアジア太平洋地域の国際関係だが、それ以外の地域や新領域の国際問題（サイバーセキュリティなど）についても扱う。 　国際政治学、とりわけ東アジアの国際関係は私たちの生活に深く関連している。グローバリゼーションが深化している今日では、公的機関や企業の活動だけでなく、我々個人の安全と安心も国際情勢の変動に影響されている。日々起こっている時事問題を知ることが極めて重要だが、情報を手に入れるだけでは国際政治を理解できるわけではない。本演習では、受講者は国際政治学の専門書や論文集を講読し、ディスカッションを重ねることで国際政治に関連する知識を学ぶのと同時に国際政治学の分析手法を習得する。 　受講者の理解度と要望に合わせて、内容を調整する可能性がある。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・国際政治の過去、現在と未来に関する基本的な知識を身につけること ・国際政治学の基本的な分析手法を理解し、習得すること ・国際社会におけるさまざまな課題の存在を認識し、自分の意見を持つこと ・積極的な学修姿勢を身に着け、基本的なアカデミックスキルを応用できること		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・授業中や授業終了後に質疑応答の時間を設ける ・Microsoft Teams を活用して受講者と情報共有や個別指導を行う ・必要な場合は補足資料を配布（あるいはラーニングポータルで公開）し、参考資料、文献を紹介する		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	日本国際政治学会学会誌『国際政治』各号 ・受講者が発表で使用する論文を選択し、クラスメイトと情報共有する ・『国際政治』各号の論文は国際政治学会ホームページからダウンロードできるため、製本されたものを購入する必要がない ・新たな文献を追加する場合は受講者と相談して決定する	ISBN	0454-2215
参考書	中西寛、石田淳、田所昌幸『国際政治学』(有斐閣、2013)	ISBN	978-4641053786

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	60
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	40
【定期試験】筆記試験（対面）	0

	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	・普段積極的に国際政治に関連する新聞記事、書籍や論文を読むこと ・国際政治学Ⅰ・Ⅱ、国際関係論、対外政策論、政治地理学など関連科目の履修をお勧めします（必須ではありません）。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション 授業の概要、目的、教材について説明する。	授業の概要とテキスト『国際政治』の内容を確認し、予習を行う	4 時間
第２回	対面	自己紹介、班分け、発表内容の確認	・授業の概要とテキスト『国際政治』の内容を確認し、予習、復習を行う ・発表の日程を確定し、自らの興味関心に合わせて発表論文を決定する ・論文の内容を読み、発表の準備を行う	4 時間
第３回	対面	国際政治の理論や分析手法について担当者が説明を行い、クラス全体でディスカッションを行う	・授業の内容への復習を行う ・発表の日程を確定し、自らの興味関心に合わせて発表論文を決定する ・論文の内容を読み、発表の準備を行う	4 時間
第４回	対面	国際政治の現状、課題について担当者が説明を行い、クラス全体でディスカッションを行う	・授業の内容への復習を行う ・発表の日程を確定し、自らの興味関心に合わせて発表論文を決定する ・論文の内容を読み、発表とディスカッションの準備を行う	4 時間
第５回	対面	受講者発表・ディスカッション	・授業の内容への復習を行う ・論文の内容を読み、発表とディスカッションの準備を行う	4 時間
第６回	対面	受講者発表・ディスカッション	・授業の内容への復習を行う ・論文の内容を読み、発表とディスカッションの準備を行う	4 時間
第７回	対面	受講者発表・ディスカッション	・授業の内容への復習を行う ・論文の内容を読み、発表とディスカッションの準備を行う	4 時間
第８回	対面	受講者発表・ディスカッション	・授業の内容への復習を行う ・論文の内容を読み、発表とディスカッションの準備を行う	4 時間
第９回	対面	受講者発表・ディスカッション	・授業の内容への復習を行う ・論文の内容を読み、発表とディスカッションの準備を行う	4 時間
第１０回	対面	受講者発表・ディスカッション	・授業の内容への復習を行う ・論文の内容を読み、発表とディスカッションの準備を行う	4 時間
第１１回	対面	受講者発表・ディスカッション	・授業の内容への復習を行う ・論文の内容を読み、発表とディスカッションの準備を行う	4 時間
第１２回	対面	受講者発表・ディスカッション	・授業の内容への復習を行う ・論文の内容を読み、発表とディスカッションの準備を行う	4 時間
第１３回	対面	受講者発表・ディスカッション	・授業の内容への復習を行う ・論文の内容を読み、発表とディスカッションの準備を行う	4 時間
第１４回	対面	受講者発表・ディスカッション	・授業の内容への復習を行う ・論文の内容を読み、発表とディスカッションの準備を行う	4 時間
第１５回	オンデ	授業全体の総括、質疑応答	・授業の内容への復習を行う	4 時間

	マンド		・レポートの執筆	

科目名	専門演習ⅡA	開講年度	2025
担当者	伍　躍	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	グローバル・ヒストリー(global history)の観点から政治・経済・社会を学修する。		
授業の目的及び概要	これまでの演習・講義・海外体験などの科目で学修した政治・経済・社会に関する知識や理論を、グローバル・ヒストリーの観点から、批判的・検証的な分析・考察をする総合的学修を行うことを目的とする。具体的には以下の 2 点である。 ①基本資料などの輪読などを通して、3 年次学生としての文章解読力・理解力・課題発見力・プレゼン力を磨く。 ②グローバル・ヒストリーの観点から政治・経済・社会に関するテーマを調査・分析を行う。そのうえ、教員や履修生間でディスカッションを行うことで、調査・分析の内容についての理解を深め、学修内容を定着する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①この授業は、「専門演習Ⅰ」に引き続き、秋学期の学生研究発表大会の出場・次年度の卒業研究の完成を目指して、各自の研究テーマを絞り込んでいくとともに考察を深めていくことを目的とする。 ②資料の解読・テーマの発見と構想・分析や論証の仕方・資料の扱い方等の基本的なアカデミック・スキルを向上させたうえ、口頭発表にとどまらず、自らの学修成果や思考内容を論理的な文章にまとめる。 ③グループワークを通して、社会人基礎力としてのコミュニケーション能力・協働力とリーダーシップ等のさらなる向上を目指す。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	①レポートなど：添削して学生にフィードバックをする。 ②発表・プレゼンテーション：授業中にて講評することをもって学生にフィードバックをする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	不使用。	ISBN	なし
参考書	①大阪大学歴史教育研究会『市民のための世界史』、大阪大学出版会、2018 ②水島司『グローバル・ヒストリー入門』、山川出版社、2010 ③妹尾達彦『グローバル・ヒストリー』、中央大学出版部、2018	ISBN	①9784872594690 ②9784634349650 ③9784805741511

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	60
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	40
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0

	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	読む・考える・まとめる・発表することを求める。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション	シラバスを読んで、本演習のねらい・目標・授業方法を確認する。(2 時間)	2 時間
第２回	対面	アカデミック・スキルの再確認：資料調査・精読について	①指定したテーマに関する資料（図書）を調査する。（2 時間） ②精読や読書ノートのポイントを再確認する。(1 時間) ③輪読の準備を行う。(2 時間)	5 時間
第３回	対面	指定図書の輪読（個人・１）	①輪読した図書を使って復習をする（2 時間） ②輪読の準備を行う。(2 時間)	4 時間
第４回	対面	指定図書の輪読（個人・２）	①輪読した図書を使って復習をする（2 時間） ②輪読の準備を行う。(2 時間)	4 時間
第５回	対面	指定図書の輪読（個人・３）	①輪読した図書を使って復習をする（2 時間） ②輪読の準備を行う。(2 時間)	4 時間
第６回	対面	指定図書の輪読（個人・４）	①輪読した図書を使って復習をする（2 時間） ②輪読の準備を行う。(2 時間)	4 時間
第７回	対面	指定図書の輪読（個人・５）	①輪読した図書を使って復習をする（2 時間） ②グループ輪読の準備を行う。(2 時間)	4 時間
第８回	対面	グループ輪読のポイントを説明し、グループを結成しスケジュールを決める。	①グループ輪読のポイントを復習する。(2 時間) ②グループ輪読の準備を行う。(2 時間)	4 時間
第９回	対面	指定図書の輪読（グループ・１）	①輪読した図書を使って復習をする（2 時間） ②グループ輪読の準備を行う。(2 時間)	4 時間
第１０回	対面	指定図書の輪読（グループ・２）	①輪読した図書を使って復習をする（2 時間） ②グループ輪読の準備を行う。(2 時間)	4 時間
第１１回	対面	指定図書の輪読（グループ・３）	①輪読した図書を使って復習をする（2 時間） ②グループ輪読の準備を行う。(2 時間)	4 時間
第１２回	対面	指定図書の輪読（グループ・４）	①輪読した図書を使って復習をする（2 時間） ②グループ輪読の準備を行う。(2 時間)	4 時間
第１３回	対面	指定図書の輪読（グループ・５）	①輪読した図書を使って復習をする（2 時間） ②グループ輪読の準備を行う。(2 時間)	4 時間
第１４回	対面	指定図書の輪読（グループ・６）	輪読した図書を使って復習をする（2 時間） 期末レポートの準備を行う。(3 時間)	5 時間
第１５回	オンデマンド	まとめ	期末レポートの作成を行う。(5 時間) ＊以上の授業計画は輪読の進捗状況などを勘案しながら、オンデマンド授業の実施時期を含めて微調整を行う可能性はある。	5 時間

科目名	専門演習ⅡA	開講年度	2025
担当者	ミルズ・ジョナサン	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日本文化および比較文化について学修する。		
授業の目的及び概要	現代はグローバル社会が進んでおり、国境を越えたやり取りが年々増えています。これから日本の職場で活動する人にとっては、日本文化の特徴をより深く理解し、かつ外国人に対して英語で説明することは非常に重要な課題です。この専門演習では、日本文化の特徴について考えます。現在の文化の現象もちろん、近代以前の時代の文化も視野に入れ、より深く考えます。また、国際共修の観点から、他国（または自国）の文化との比較を行います。この演習は主に英語で行われます。教材は、日本文化に関する文献からの文章を精読し、英語でのペアワーク、グループワーク、学生発表等を実施します。この専門演習の学修と実践を通じて、現代の職場に求められている強い「異文化理解力」も築くことを望んでいます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	授業の前半では、日本文化・比較文化に関する教材に基づいて個々の履修生が説明を行う。授業の後半では、グループに分かれ、特定のテーマに関する調査を行い、発表に向けて内容をまとめあげる。グループディスカッション等のグループでの取組を通して、主体性やチームワーク、リーダーシップ等を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業内および授業時間前後に個別にフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	Japanese Popular Culture in English: Discussions and Critical Thinking, Robert Sheridan et al., 南雲堂, 2024.（通年使用。）	ISBN	9784523179641
参考書	①"The Japanese Mind: Understanding Contemporary Japanese Culture", Roger J. Davis and Osamu Ikeno, Tuttle Publishing 2002 ②“Japan: History and Culture from Classical to Cool”, Nancy J. Stalker, University of California Press, 2018	ISBN	① 9780804832953 ② 9780520287778

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	40
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	40
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	0

この科目の受講に	グループワークを中心に授業を進めるので、積極的に授業に参加する学生を歓迎する。

あたって	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション 授業の目的や目標、進め方など授業の概要を説明する	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2 時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2 時間程度）。	4 時間
第２回	対面	調査方法 資料収集や調査の方法について検討する。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2 時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2 時間程度）。	4 時間
第３回	対面	発表方法 調査した内容をまとめあげ、発表する方法を検討する。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2 時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2 時間程度）。	4 時間
第４回	対面	テーマの検討（1） 教材の講読、履修生による発表を行い、調査テーマの検討を行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2 時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2 時間程度）。	4 時間
第５回	対面	テーマの検討（2） 教材の講読、履修生による発表を行い、調査テーマの検討を行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2 時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2 時間程度）。	4 時間
第６回	対面	テーマの検討（3） 教材の講読、履修生による発表を行い、調査テーマの検討を行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2 時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2 時間程度）。	4 時間
第７回	対面	グループ調査（1） グループに分かれ、各テーマについて調査し、発表に向けての取組を行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2 時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2 時間程度）。	4 時間
第８回	対面	グループ調査（2） グループに分かれ、各テーマについて調査し、発表に向けての取組を行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2 時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2 時間程度）。	4 時間
第９回	対面	グループ調査（3） グループに分かれ、各テーマについて調査し、発表に向けての取組を行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2 時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2 時間程度）。	4 時間
第１０回	対面	グループ調査（4） グループに分かれ、各テーマについて調査し、発表に向けての取組を行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2 時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2 時間程度）。	4 時間
第１１回	対面	グループ調査（5） グループに分かれ、各テーマについて調査し、発表に向けての取組を行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2 時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2 時間程度）。	4 時間
第１２回	対面	発表・ディスカッション（1） グループで調査した内容を発表し、教員と履修生がディスカッションを行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2 時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2 時間程度）。	4 時間
第１３回	対面	発表・ディスカッション（2） グループで調査した内容を発表し、教員と履修生がディスカッションを行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2 時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2 時間程度）。	4 時間

第１４回	対面	発表・ディスカッション（3） グループで調査した内容を発表し、教員と履修生がディスカッションを行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2 時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2 時間程度）。	4 時間
第１５回	オンデマンド	総括 授業全体の総括を行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2 時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2 時間程度）。	4 時間

科目名	専門演習ⅡA	開講年度	2025
担当者	金子　治平	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	アジア太平洋地域の経済を中心とする文献を読みこなすようになるとともに，卒業研究課題を決定する		
授業の目的及び概要	専門演習ⅡA・B では，経済事象に関する資料や文献を読み解く能力，表や図から経済事象を理解する能力，データを表や図でわかりやすく表示する能力，データを通して経済事象を考察する能力を身につけることを目的とします． 具体的には， ・知らない用語を調べながら文献をていねいに読むことによって，経済を中心とする社会事象の理解を深めること ・本や論文を読むことによって，興味を持った事象について深く学び，課題を発見することを通じて，卒業研究のテーマと課題を決定することを行います． また，必要に応じて， ・データを表や図でわかりやすく表すことができるようにパソコンの使い方を学ぶこと ・既存のアンケート調査データから，表や図を作成することができることを学ぶこと ・アンケート調査の方法を学ぶこと も目的とします． とくにデータの扱いやアンケート調査について学びたい学生には，授業時間外に学習を行いますので申し出てください．		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	授業の目的に対応して，専門演習ⅡA・B を通した主な目標は， （１）関心のある経済事象に関する文献を読むことができるようになること であり，必要に応じて （２）関心のある経済事象に関連する既存の統計データやアンケート調査データを使用して，適切な表やグラフを作成し，経済事象を考察することができるようになること （３）関心のある経済事象に関連するアンケート調査を，みずから実施できるようになることも目標とします． また， （４）（１）～（３）を通して，卒業研究のテーマを設定し研究を進めることができるようになること です． とくに専門演習ⅡA では，（１）が主な目標です．		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業内および授業時間外に，グループあるいは個別にフィードバックします．		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特定のテキストは使用しない予定ですが，必要に応じて授業内で指示させていただきます．	ISBN	なし
参考書	必要があれば，授業中に紹介します．	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	

	成果発表（口頭・実技）	40
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	・授業には必ず出席してください. ・やむをえず欠席する場合には，直前でもいいので事前に連絡してください. ・出席しなかった場合には，次回までに補習を行いますので出席してください.	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション 授業の概要を説明します.	授業資料を読んで復習してください.	4 時間
第２回	対面	輪読の発表と，それを元にしたディスカッション（１）	・輪読する文献を繰り返し読んで，メモを取るなど，文献の理解を深めてください. ・授業内でわからなかった言葉を復習して，定義などをノートに書いてください.	4 時間
第３回	対面	輪読の発表と，それを元にしたディスカッション（２）	・輪読する文献を繰り返し読んで，メモを取るなど，文献の理解を深めてください. ・授業内でわからなかった言葉を復習して，定義などをノートに書いてください.	4 時間
第４回	対面	輪読の発表と，それを元にしたディスカッション（３）	・輪読する文献を繰り返し読んで，メモを取るなど，文献の理解を深めてください. ・授業内でわからなかった言葉を復習して，定義などをノートに書いてください.	4 時間
第５回	対面	輪読の発表と，それを元にしたディスカッション（４）	・輪読する文献を繰り返し読んで，メモを取るなど，文献の理解を深めてください. ・授業内でわからなかった言葉を復習して，定義などをノートに書いてください.	4 時間
第６回	対面	輪読の発表と，それを元にしたディスカッション（５）	・輪読する文献を繰り返し読んで，メモを取るなど，文献の理解を深めてください. ・授業内でわからなかった言葉を復習して，定義などをノートに書いてください.	4 時間
第７回	対面	輪読の発表と，それを元にしたディスカッション（６）	・輪読する文献を繰り返し読んで，メモを取るなど，文献の理解を深めてください. ・授業内でわからなかった言葉を復習して，定義などをノートに書いてください.	4 時間
第８回	オンデマンド	卒業研究の課題設定のための文献の探し方・読み方	・講義内容のメモを読み返して理解を深めてください. ・授業内でわからなかった言葉を復習して，定義などをノートに書いてください.	4 時間
第９回	対面	輪読の発表と，それを元にしたディスカッション（７）	・輪読する文献を繰り返し読んで，メモを取るなど，文献の理解を深めてください. ・授業内でわからなかった言葉を復習して，定義などをノートに書いてください.	4 時間
第１０回	対面	輪読の発表と，それを元にしたディスカッション（８）	・輪読する文献を繰り返し読んで，メモを取るなど，文献の理解を深めてください. ・授業内でわからなかった言葉を復習して，定義などをノートに書いてください.	4 時間
第１１回	対面	卒業研究課題の検討（１）	・新聞，書籍，論文などを読んで，卒業研究課題を何にするかを事前に検討しておいてください.	4 時間
第１２回	対面	卒業研究課題の検討（２）	・新聞，書籍，論文などを読んで，卒業研究課題を何	4 時間

			にするかを事前に検討しておいてください.	
第１３回	対面	卒業研究課題の検討（３）	・新聞，書籍，論文などを読んで，卒業研究課題を何にするかを事前に検討しておいてください.	4 時間
第１４回	対面	卒業研究課題の検討（４）	・新聞，書籍，論文などを読んで，卒業研究課題を何にするかを事前に検討しておいてください.	4 時間
第１５回	対面	総括 授業全体の総括を行います.	卒業研究課題の概要をまとめてください.	4 時間

科目名	専門演習ⅡA	開講年度	2025
担当者	橋本　凜	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常におけるさまざまな文化事象を客観的な視点から捉え、これからの人生を生きる上での複眼的な思考を育む。		
授業の目的及び概要	この授業では、専門分野における特定のテーマに関する知識を学修し、調査・研究に取り組むことによって、テーマの設定、資料調査、分析、そして研究成果の発表にいたるまでの、一連のプロセスを学ぶことを目的とする。履修生は、各自の問題関心に基づきテーマを選択する。また、グループワークを通して、コミュニケーション能力、協働力とリーダーシップ、課題発見能力等を身につけさせることを目指す。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	さまざまな文化を相対的に位置付け、多様な価値観を受け入れることができる。ひいては、他者の多様な思考、価値観を自然と尊重できる態度を身につけ、日常的なコミュニケーションの中で示すことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメントシートに対してのフィードバックを授業内で適宜行う。また、レポートや発表に対しては教員からアドバイスを実施する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	なし	ISBN	なし
参考書	①現代文化論, 遠藤英樹, ミネルヴァ書房, 2011 年 ②創られた伝統, エリック・ホブズボウム、テレンス・レンジャー（編）, 前川啓治他（翻訳）, 紀伊國屋書店, 1992 年 ③日本文化論キーワード, 遠山 淳他（編）, 有斐閣出版, 2009	ISBN	①978-4623060078 ②978-4314005722 ③978-4641058873

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	60
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	20
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	この授業の受講を通じ、人間は「国家」や「人種」の代表ではなく、それぞれ「個人」としての価値観を持っており、それらはいずれも等しく尊重すべきであるという文化的態度を身につけていってほしいと思っています。その上で、各グループにおける文化がメディア等を通じてどのように表象されるのか、そしてその表象がどのような効果をもたらすのかを一緒に考えていきましょう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロタクション 授業の目標、成績配分、１学期間の授業計画などの概要を説明する。	事後学修として、１学期間を通じて自分がどのような学修プランを立てるのか、そしてそれが実現可能かどうかを精査する。また、新聞、書籍などから興味のあるキーワードを探し、それに関する情報を集める。	４時間
第２回	対面	「文化」の研究に向けて① 各々の実体験を踏まえながら、さまざまな研究者の示す「文化」の定義について検討を行う。	授業前：配布したレジュメを事前に読んでおく。 授業後：レジュメの内容を復習し、「文化」の定義について、自分なりの文章でまとめる。	４時間
第３回	対面	「文化」の研究に向けて② メディアを通じて「表象」が形成される過程について検討する。	授業前：配布したレジュメを事前に読んでおく。 授業後：レジュメの内容を復習し、文化的な「表象」の形成について、自分なりの文章でまとめる。	４時間
第４回	対面	「文化」の研究に向けて③ 「文化」研究のイメージをつかむために、実際の論文の内容を紹介する。	授業前：配布したレジュメを事前に読んでおく。 授業後：レジュメの内容を復習し、文章の主要な箇所を自分なりに要約する。	４時間
第５回	対面	担当文献の発表(1)「文化」に関する課題文献を講読する。具体的には履修生による発表を行い、グループワークを通じて諸課題に関する検討を行う。	授業内で指示する課題文献を読み、発表者は授業内での発表に備え、他の学生は質問や分からないところをまとめておく。復習として、課題文献および発表者の報告資料の振り返りを行う。	４時間
第６回	対面	担当文献の発表(2)「文化」に関する課題文献を講読する。具体的には履修生による発表を行い、グループワークを通じて諸課題に関する検討を行う。	授業内で指示する課題文献を読み、発表者は授業内での発表に備え、他の学生は質問や分からないところをまとめておく。復習として、課題文献および発表者の報告資料の振り返りを行う。	４時間
第７回	対面	担当文献の発表(3)「文化」に関する課題文献を講読する。具体的には履修生による発表を行い、グループワークを通じて諸課題に関する検討を行う。	授業内で指示する課題文献を読み、発表者は授業内での発表に備え、他の学生は質問や分からないところをまとめておく。復習として、課題文献および発表者の報告資料の振り返りを行う。	４時間
第８回	対面	担当文献の発表(3)「文化」に関する課題文献を講読する。具体的には履修生による発表を行い、グループワークを通じて諸課題に関する検討を行う。	授業内で指示する課題文献を読み、発表者は授業内での発表に備え、他の学生は質問や分からないところをまとめておく。復習として、課題文献および発表者の報告資料の振り返りを行う。	４時間
第９回	対面	担当文献の発表(4)「文化」に関する課題文献を講読する。具体的には履修生による発表を行い、グループワークを通じて諸課題に関する検討を行う。	授業内で指示する課題文献を読み、発表者は授業内での発表に備え、他の学生は質問や分からないところをまとめておく。復習として、課題文献および発表者の報告資料の振り返りを行う。	４時間
第１０回	対面	担当文献の発表(5)「文化」に関する課題文献を講読する。具体的には履修生による発表を行い、グループワークを通じて諸課題に関する検討を行う。	授業内で指示する課題文献を読み、発表者は授業内での発表に備え、他の学生は質問や分からないところをまとめておく。復習として、課題文献および発表者の報告資料の振り返りを行う。	４時間
第１１回	対面	担当文献の発表(6)「文化」に関する課題文献を講読する。具体的には履修生による発表を行い、グループワークを通じて諸課題に関する検討を行う。	授業内で指示する課題文献を読み、発表者は授業内での発表に備え、他の学生は質問や分からないところをまとめておく。復習として、課題文献および発表者の報告資料の振り返りを行う。	４時間
第１２回	対面	担当文献の発表(7)「文化」に関する課題文献を講読する。具体的には履修生による発表を行い、グループワークを通じて諸課	授業内で指示する課題文献を読み、発表者は授業内での発表に備え、他の学生は質問や分からないところをまとめておく。復習として、課題文献および発表	４時間

		題に関する検討を行う。	者の報告資料の振り返りを行う。	
第１３回	対面	担当文献の発表(8)「文化」に関する課題文献を講読する。具体的には履修生による発表を行い、グループワークを通じて諸課題に関する検討を行う。	授業内で指示する課題文献を読み、発表者は授業内での発表に備え、他の学生は質問や分からないところをまとめておく。復習として、課題文献および発表者の報告資料の振り返りを行う。	4 時間
第１４回	対面	担当文献の発表(9)「文化」に関する課題文献を講読する。具体的には履修生による発表を行い、グループワークを通じて諸課題に関する検討を行う。	授業内で指示する課題文献を読み、発表者は授業内での発表に備え、他の学生は質問や分からないところをまとめておく。復習として、課題文献および発表者の報告資料の振り返りを行う。	4 時間
第１５回	オンデマンド	授業のまとめ	事前学修：これまでの授業内容をレジュメやノートを通じて振り返る。 事後学修：レポートを作成して提出する。詳細は授業内で指示する。	4 時間

科目名	専門演習ⅡA	開講年度	2025
担当者	菅原　絵美	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	さまざまなグローバル課題（人種やジェンダーに基づく差別、現代奴隷や児童労働、難民、子ども兵士、気候変動や海洋プラスチック問題など）を国際法の視点から考える。		
授業の目的及び概要	この授業では、専門分野における特定のテーマに関する知識を学修し、調査・研究に取り組むことによって、テーマの設定、資料調査、分析、そして研究成果の発表にいたるまでの、一連のプロセスを学ぶことを目的とする。履修生は、各自の問題関心に基づきテーマを選択する。また、グループワークを通して、コミュニケーション能力、協働力とリーダーシップ、課題発見能力等を身につけさせることを目指す。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	講義科目等で学修した法・政治に関する知識や理論を地球的課題（人権、環境、国際犯罪、腐敗防止、武力紛争等）に対して応用し、分析・考察を行うことで理解を深める。 グループに分かれ、特定のテーマに関する調査を行い、発表に向けて内容をまとめあげるために、グループディスカッション等のグループでの取組を通して、主体性やチームワーク、リーダーシップ等を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	発表資料・レジュメについては発表の 1 週間前にラーニングポータルに提出してもらい、教員が確認・添削を行いフィードバックする。そのほか提出された課題についてもラーニングポータルを通じて、また授業のなかでフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	必要な文献は演習内で指示する。	ISBN	なし
参考書	①国際人権法の考え方，川島聡・菅原絵美・山崎公士，法律文化社，2021 年 ②〈改訂版〉国際社会を学ぶ，戸田真紀子・三上貴教・勝間靖，晃洋書房、2019 年 ③21 世紀国際社会を考える：多層的な世界を読み解く 38 章，渋谷淳一・本多量久(編著)，旬報社，2017 年 ④国際法で世界がわかる：ニュースを読み解く 32 講，森川幸一他，岩波書店，2016 年 ⑤国際条約集，植木俊哉・中谷和弘(編集代表)，有斐閣，2024 年	ISBN	①9784589041449 ②9784771032767 ③9784845115167 ④9784000229555 ⑤9784641001619

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	60
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
	成果発表（口頭・実技）	20
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0

	その他の内容	
この科目の受講にあたって	学生ひとりひとりが「問い」を持ち、授業を通じて自分なりの「答え」を探していくような、参加型の講義にしたいと思っているので、授業のなかで感じた疑問や興味は積極的に発言してほしい。 国際社会の法や政治に関する基礎知識を身につけて、日本や世界で生じる様々な課題を基礎知識をつかって解説できるようになろう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション 授業の目的や目標、進め方など授業の概要を説明する。	事前学修として、テキストに目を通し、関心のあるテーマを見つけておく。事後学修は授業のなかで指示する（ラーニングポータルを通じた課題の提出を予定）。	4 時間
第２回	対面	国際法の視点からの研究にむけて①	予習として指定した文献を読む。演習後は配付レジュメを復習する。	4 時間
第３回	対面	国際法の視点からの研究にむけて②	予習として指定した文献を読む。演習後は配付レジュメを復習する。	4 時間
第４回	対面	国際法の視点からの研究にむけて③	予習として指定した文献を読む。演習後は配付レジュメを復習する。	4 時間
第５回	対面	担当文献の発表（1） さまざまなグローバル課題に関する課題文献の講読、履修生による発表を行い、検討を行う。	授業内で指示する課題文献を読み、発表者は授業内での発表に備え、他の学生は質問や分からないところをまとめておく。復習として、課題文献および発表者の報告資料の振り返りを行う。	4 時間
第６回	対面	担当文献の発表（2） さまざまなグローバル課題に関する課題文献の講読、履修生による発表を行い、検討を行う。	授業内で指示する課題文献を読み、発表者は授業内での発表に備え、他の学生は質問や分からないところをまとめておく。復習として、課題文献および発表者の報告資料の振り返りを行う。	4 時間
第７回	対面	担当文献の発表（3） さまざまなグローバル課題に関する課題文献の講読、履修生による発表を行い、検討を行う。	授業内で指示する課題文献を読み、発表者は授業内での発表に備え、他の学生は質問や分からないところをまとめておく。復習として、課題文献および発表者の報告資料の振り返りを行う。	4 時間
第８回	対面	担当文献の発表（4） さまざまなグローバル課題に関する課題文献の講読、履修生による発表を行い、検討を行う。	授業内で指示する課題文献を読み、発表者は授業内での発表に備え、他の学生は質問や分からないところをまとめておく。復習として、課題文献および発表者の報告資料の振り返りを行う。	4 時間
第９回	対面	担当文献の発表（5） さまざまなグローバル課題に関する課題文献の講読、履修生による発表を行い、検討を行う。	授業内で指示する課題文献を読み、発表者は授業内での発表に備え、他の学生は質問や分からないところをまとめておく。復習として、課題文献および発表者の報告資料の振り返りを行う。	4 時間
第１０回	対面	担当文献の発表（6） さまざまなグローバル課題に関する課題文献の講読、履修生による発表を行い、検討を行う。	授業内で指示する課題文献を読み、発表者は授業内での発表に備え、他の学生は質問や分からないところをまとめておく。復習として、課題文献および発表者の報告資料の振り返りを行う。	4 時間
第１１回	対面	担当文献の発表（7） さまざまなグローバル課題に関する課題文献の講読、履修生による発表を行い、検討を行う。	授業内で指示する課題文献を読み、発表者は授業内での発表に備え、他の学生は質問や分からないところをまとめておく。復習として、課題文献および発表者の報告資料の振り返りを行う。	4 時間
第１２回	対面	担当文献の発表（8） さまざまなグローバル課題に関する課題文献の講読、履修生による発表を行い、検討を行う。	授業内で指示する課題文献を読み、発表者は授業内での発表に備え、他の学生は質問や分からないところをまとめておく。復習として、課題文献および発表者の報告資料の振り返りを行う。	4 時間
第１３回	対面	担当文献の発表（9） さまざまなグローバル課題に関する課題文献の講読、履修生による発表を行い、検討を行う。	授業内で指示する課題文献を読み、発表者は授業内での発表に備え、他の学生は質問や分からないところをまとめておく。復習として、課題文献および発表者の報告資料の振り返りを行う。	4 時間

第１４回	対面	担当文献の発表（10） さまざまなグローバル課題に関する課題文献の講読、履修生による発表を行い、検討を行う。	授業内で指示する課題文献を読み、発表者は授業内での発表に備え、他の学生は質問や分からないところをまとめておく。復習として、課題文献および発表者の報告資料の振り返りを行う。	4 時間
第１５回	オンデマンド	授業全体の総括を行う。	ラーニングポータルを通じた事前学修・事後学修を行う。詳しくは授業のなかで指示する。	4 時間

科目名	専門演習ⅡA	開講年度	2025
担当者	本多　善	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	異文化理解・国際関係学・国際文化学並びに国際社会学に関する知識や理論からグローバリゼーションと文化について考察する		
授業の目的及び概要	この授業では、異文化理解・国際関係学・国際文化学をてがかりに、移民・アイデンティティ・格差等の分析方法並びに知識を修得すると同時に、社会学の手法を用いて、調査・研究に取り組む。また、各自のテーマの設定、資料調査、分析、そして研究成果の発表にいたるまでの、一連のプロセスを学ぶことを目的とする。グループワークを通して、コミュニケーション能力、協働力とリーダーシップ、課題発見能力等を身につけると同時に、卒業論文執筆に向けて学修する。		
履修条件・留意点	講義科目等で学修した知識や理論をグローバル社会の諸課題に対して応用し、分析・考察を行うことで総合的学修を行う科目として「演習科目」があります。自らの興味・関心に応じて特定のテーマに関する調査・研究を行い、その過程を通して主体的に行動する態度・志向性を身につけ、創造的思考力の向上を図ります。演習においては、体験型学修やアクティブ・ラーニングを積極的に取り入れ、主体性やチームワーク、リーダーシップ、行動力等の「国際協働力」を身につけます。「演習科目」は、1 年次に「基礎演習 A」、「基礎演習 B」、2 年次に「専門演習ⅠA」、「専門演習ⅠB」、3 年次に「専門演習ⅡA」、「専門演習ⅡB」、4 年次に「専門演習ⅢA」、「専門演習ⅢB」を配当し、グローバル人材に求められる能力を向上させることを重視しつつ、履修指導やキャリア指導も行い、最終的に卒業論文を執筆します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	講義科目等で学修した異文化理解・国際関係学・国際文化学に関する知識や理論をグローバリゼーションと文化に対して応用し、分析・考察を行うことで理解を深める。 各自のテーマ、資料調査、分析、そして研究成果の発表にいたるまでの一連のプロセスを学び、卒業テーマを決定し、3000 字の調査レポートを執筆する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	グループでの調査については、その方法論と調査方法について、適切なコメントやアドバイスをし、フィードバックをおこなう。また発表・レポートについてはコメントや改善点を提示する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	使用しない。	ISBN	使用しない。
参考書	①書名：'The Sociology Book: Big Ideas Simply Explained'、著者：Sarah Tomley and Mitchell Hobs, 出版社：DK、出版年：2015 ②書名：『質的社会調査の方法：他者の合理性の理解社会学』、著者：岸政彦ほか、出版社：有斐閣、出版年：2016 ③書名：『リキッド化する世界の文化論』、著者：ジグムント・バウマン、訳伊藤茂、出版社：青土社、出版年：2014	ISBN	①978-1465436504 ②978-4641150379 ③978-4791768073
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	

	成果発表（口頭・実技）	30
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	国際関係学、国際文化学、世界の文化的な事象に感心のある学生さんの履修を歓迎します。授業では専門書を読みながら、国際関係や世界の見方、文化について考えていきます。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション： 授業の目的・意義・方法・評価について 世界/国際関係/国際文化について考える① ・指定された章の解説 ・ディスカッション	指定された章を熟読し、発表に向けた準備をおこなう。(所要時間 2 時間) TOEIC, SPI 学修（2 時間）	4 時間
第２回	対面	世界/国際関係/国際文化について考える② ・指定された章のグループ発表 ・指定された章の解説 ・ディスカッション	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。(所要時間 1 時間) 指定された章を熟読し、発表に向けた準備をおこなう。(所要時間 1 時間) TOEIC, SPI 学修（2 時間）	4 時間
第３回	対面	世界/国際関係/国際文化について考える③ ・指定された章のグループ発表 ・指定された章の解説 ・ディスカッション	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。(所要時間 1 時間) 指定された章を熟読し、発表に向けた準備をおこなう。(所要時間 1 時間) TOEIC, SPI 学修（2 時間）	4 時間
第４回	対面	世界/国際関係/国際文化について考える④ ・指定された章のグループ発表 ・指定された章の解説 ・ディスカッション	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。(所要時間 1 時間) 指定された章を熟読し、発表に向けた準備をおこなう。(所要時間 1 時間) TOEIC, SPI 学修をおこなう。(2 時間)	4 時間
第５回	対面	世界/国際関係/国際文化について考える⑤ ・指定された章のグループ発表 ・指定された章の解説 ・ディスカッション	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。(所要時間 1 時間) 指定された章を熟読し、発表に向けた準備をおこなう。(所要時間 1 時間) TOEIC, SPI 学修をおこなう。(所要時間 2 時間)	4 時間
第６回	対面	質的・量的調査とは①： ・調査の目的と意義 ・仮設の提示 ・調査方法の妥当性 ・分析方法 について理解する。	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。(所要時間 1 時間) 指定された章を熟読し、自身の研究及び発表に向けた準備をおこなう。(所要時間 1 時間) TOEIC, SPI 学修をおこなう。(所要時間 2 時間)	4 時間
第７回	対面	質的・量的調査とは②： ・調査の目的と意義 ・仮設の提示 ・調査方法の妥当性 ・分析方法 について理解する。	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。(所要時間 1 時間) 指定された章を熟読し、自身の研究及び発表に向けた準備をおこなう。(所要時間 1 時間) TOEIC, SPI 学修をおこなう。(所要時間 2 時間)	4 時間
第８回	対面	社会調査及び自身の研究①： 社会調査及び自身の研究発表をおこなう。	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。(所要時間 1 時間) 指定された章を熟読し、発表向に向けた準備をおこなう。(所要時間 1 時間)	4 時間

			TOEIC, SPI 学修をおこなう。(所要時間 2 時間)	
第９回	対面	社会調査及び自身の研究②： 社会調査及び自身の発表をおこなう。	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。(所要時間 1 時間) 指定された章を熟読し、社会調査及び発表に向けた準備をおこなう。(所要時間 1 時間) TOEIC, SPI 学修をおこなう。(所要時間 2 時間)	4 時間
第１０回	対面	社会調査及び自身の研究③： 社会調査及び自身の発表をおこなう。	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。(所要時間 1 時間) 報告に向けた準備をおこなう。(所要時間 1 時間) TOEIC, SPI 学修をおこなう。(所要時間 2 時間)	4 時間
第１１回	対面	社会調査及び自身の研究④： 社会調査及び自身の発表をおこなう。	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。(所要時間 1 時間) 報告に向けた準備をおこなう。(所要時間 1 時間) TOEIC, SPI 学修をおこなう。(所要時間 2 時間)	4 時間
第１２回	対面	グローバリゼーションと文化に関する考察①	前回授業を復習し、自身の研究と課題を明らかにする。(所要時間 2 時間) TOEIC, SPI 学修をおこなう。(所要時間 2 時間)	4 時間
第１３回	対面	グローバリゼーションと文化に関する考察②	前回授業を復習し、自身の研究と課題を明らかにする。(所要時間 2 時間) TOEIC, SPI 学修をおこなう。(所要時間 2 時間)	4 時間
第１４回	対面	グローバリゼーションと文化に関する考察③	前回授業を復習し、自身の研究と課題を明らかにする。(所要時間 2 時間) TOEIC, SPI 学修をおこなう。(所要時間 2 時間)	4 時間
第１５回	オンデマンド	グローバリゼーションと文化に関する考察④ 春学期総括	3000 字の卒業レポート（未完成でもよい）を提出する。	4 時間

科目名	専門演習ⅡA	開講年度	2025
担当者	中西　亮太	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	言語そのものを研究対象として扱う言語学を概観し、言語現象をさまざまな分野・観点から分析する。		
授業の目的及び概要	この授業では、専門分野における特定のテーマに関する知識を学修し、調査・研究に取り組むことによって、テーマの設定、資料調査、分析、そして研究成果の発表に至るまでの、一連のプロセスを学ぶことを目的とする。履修生は、各自の問題関心に基づきテーマを選択する。また、グループワークを通して、コミュニケーション能力、協働力とリーダーシップ、課題の発見能力や解決能力等を身につけさせることを目指す。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	講義科目等で学修した言語や文化に関する知識を具体的な言語現状に対して応用し、分析・考察を行うことで理解を深める。 卒業研究に向けては学生一人ひとりが興味や関心に応じて設定したテーマについて調査・研究を進め、内容をレポートや発表としてまとめる力を養う。また、グループディスカッション等のグループでの取り組みを通して、主体性や協働性、リーダーシップ等を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	卒業研究については、理論や分析・考察方法に対して適切なコメントやアドバイスをし、フィードバックを行う。また、発表・レポートについてはコメントや改善点を提示する形でフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	授業で講読および参照する論文等の文献情報については適宜配布および共有します。	ISBN	授業で講読および参照する論文等の文献情報については適宜配布および共有します。
参考書	The Study of Language、George Yule、Cambridge University Press、2020 年	ISBN	9781108730709

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	20
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	20
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	30
その他の内容	卒業研究報告レポート 30%

この科目の受講にあたって	世界中の様々な言語そのものや言語にまつわる現象に関心がある学生を歓迎します。授業では論文や専門書などの精読を通して、研究対象としての言語の捉え方や研究方法などについて考えていきます。学生ひとりひとりが「問い」を持ち、授業を通じて自分ならではの「答え」を探していくことを期待します。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション 授業の目的や目標、進め方などの概要を説明する。	事前にシラバスを読み、特に授業のテーマや到達目標を理解しておく。演習後は配布する資料を概観し、自分の関心があるテーマについて考えておく。	4 時間
第２回	対面	言語そのものを対象とする研究について①	事前学習として、配布する資料を熟読しておく。演習後は、扱った内容を自分なりにまとめる事後学修に取り組む。	4 時間
第３回	対面	言語そのものを対象とする研究について②	事前学習として、配布する資料を熟読しておく。演習後は、扱った内容を自分なりにまとめる事後学修に取り組む。	4 時間
第４回	対面	言語そのものを対象とする研究について③	事前学習として、配布する資料を熟読しておく。演習後は、扱った内容を自分なりにまとめる事後学修に取り組む。	4 時間
第５回	対面	担当文献の発表① 言語を対象とした研究の分野・手法に関する文献の精読・発表を履修生が行い、全体で共有・検討を行う。	授業内で指示する課題文献を読み、発表担当者は発表に備えて事前に他の履修生と協働して内容をまとめておく。事後学修として、課題文献および発表担当者の発表の振り返りを行う。	4 時間
第６回	対面	担当文献の発表② 言語を対象とした研究の分野・手法に関する文献の精読・発表を履修生が行い、全体で共有・検討を行う。	授業内で指示する課題文献を読み、発表担当者は発表に備えて事前に他の履修生と協働して内容をまとめておく。事後学修として、課題文献および発表担当者の発表の振り返りを行う。	4 時間
第７回	対面	担当文献の発表③ 言語を対象とした研究の分野・手法に関する文献の精読・発表を履修生が行い、全体で共有・検討を行う。	授業内で指示する課題文献を読み、発表担当者は発表に備えて事前に他の履修生と協働して内容をまとめておく。事後学修として、課題文献および発表担当者の発表の振り返りを行う。	4 時間
第８回	対面	担当文献の発表④ 言語を対象とした研究の分野・手法に関する文献の精読・発表を履修生が行い、全体で共有・検討を行う。	授業内で指示する課題文献を読み、発表担当者は発表に備えて事前に他の履修生と協働して内容をまとめておく。事後学修として、課題文献および発表担当者の発表の振り返りを行う。	4 時間
第９回	対面	担当文献の発表⑤ 言語を対象とした研究の分野・手法に関する文献の精読・発表を履修生が行い、全体で共有・検討を行う。	授業内で指示する課題文献を読み、発表担当者は発表に備えて事前に他の履修生と協働して内容をまとめておく。事後学修として、課題文献および発表担当者の発表の振り返りを行う。	4 時間
第１０回	対面	担当文献の発表⑥ 言語を対象とした研究の分野・手法に関する文献の精読・発表を履修生が行い、全体で共有・検討を行う。	授業内で指示する課題文献を読み、発表担当者は発表に備えて事前に他の履修生と協働して内容をまとめておく。事後学修として、課題文献および発表担当者の発表の振り返りを行う。	4 時間
第１１回	対面	担当文献の発表⑦ 言語を対象とした研究の分野・手法に関する文献の精読・発表を履修生が行い、全体で共有・検討を行う。	授業内で指示する課題文献を読み、発表担当者は発表に備えて事前に他の履修生と協働して内容をまとめておく。事後学修として、課題文献および発表担当者の発表の振り返りを行う。	4 時間
第１２回	対面	先行研究の探し方・まとめ方①	事前学修として、先行研究を探し読み込んでおく。 事後学修として、読み込んだ先行研究を考察を踏まえてまとめておく。	4 時間
第１３回	対面	卒業研究に向けたテーマ選択・考察 担当教員による言語学に関する概説を踏まえて、履修生自身が卒業研究に向けたテーマを設定する。	事前学習として、第 13 回までに授業で扱った言語に関する分野・手法を復習しておく。 事後学修として、履修生自身が興味・関心を持ったテーマを設定し、適切な分野・手法の視点から分析・考察する。	4 時間
第１４回	対面	先行研究の探し方・まとめ方②	事前学修として、先行研究を探し読み込んでおく。 事後学修として、読み込んだ先行研究を考察を踏まえてまとめておく。	4 時間
第１５回	オンデマンド	授業全体の総括（どのような言語現象が存在し、どのような分野・手法での分析・考	第 15 回までに扱った研究分野・手法全体を振り返り、具体的な言語現象と合わせて考察を進めておく。	4 時間

		察が可能か）を行う。	事後学修として、履修生独自の分析・考察をまとめ、3000 字程度のレポートとして提出する。	

科目名	専門演習ⅡA	開講年度	2025
担当者	浅見　緑	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日本と世界とのつながりに目を向け、その背景にある社会状況や考え方について関心をもち、自分のテーマを見つける。		
授業の目的及び概要	この科目は、英語コミュニケーションコースに所属する学生のための演習です。 演習での学修を通じて、異文化に対する理解と多文化共生を育み、世界各国・地域の文化、歴史、および現代の社会事情に精通した能力を身につけることを目標にしています。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	（1）文化（宗教、芸術も）、ことば、文学（アニメ、漫画、映画も）を題材にして、世界とのつながりに目を向けることができる。 （2）その背景にある社会状況や考え方を理解し、関心をもつ中から、自身のテーマを見つけることができる。 （3）演習での活動を通して、論文作成に必要な技術を身につけ、活用することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業時または次回の授業時に、振り返り、コメント、添削などによってフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特定のテキストは使用しません。資料を配布します。	ISBN	なし
参考書	授業時に必要に応じて紹介します。	ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	40
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	30
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	1・2 年次に講義科目で得た知識や理論、留学・体験などの経験を結びつけ、学生研究発表大会や卒業論文につながる自身のテーマを見つけましょう。難しく考える必要はありません。関心をもったことをきっかけに、研究を深めていきましょう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション	シラバスを読み、授業の目的、目標、進め方等について確認する。	4 時間
第２回	対面	テーマを探る（1）	これまでの学修で関心をもった分野や 2 年次に所属していた演習での取り組みについて確認する。	4 時間

第３回	対面	テーマを探る（2）	関心ある分野やテーマについて、ブックレポートに使用する参考資料を探す。	4 時間
第４回	対面	基本資料の輪読（１）	今回輪読した資料を復習する。 次回の輪読の準備をする。	4 時間
第５回	対面	基本資料の輪読（２）	今回輪読した資料を復習する。 次回の輪読の準備をする。	4 時間
第６回	対面	基本資料の輪読（３）	今回輪読した資料を復習する。 次回の輪読の準備をする。	4 時間
第７回	対面	基本資料の輪読（４）	今回輪読した資料を復習する。 次回の輪読の準備をする。	4 時間
第８回	対面	基本資料の輪読（５）	輪読した資料を復習する。 次回の輪読の準備をする。	4 時間
第９回	対面	基本資料の輪読（6）	輪読した資料を復習する。 次回の輪読の準備をする。	4 時間
第１０回	対面	基本資料の輪読（7） ブックレポートの準備（発表の確認）	ブックレポートの準備をする。 輪読した資料を復習する。	4 時間
第１１回	対面	ブックレポート（1） クラス発表と意見交換	発表のための資料を準備する。	4 時間
第１２回	対面	ブックレポート（2） クラス発表と意見交換	発表のための資料を準備する。	4 時間
第１３回	対面	ブックレポート（3） クラス発表と意見交換	発表のための資料を準備する。	4 時間
第１４回	対面	ブックレポート（4） クラス発表と意見交換	発表のための資料を準備する。	4 時間
第１５回	オンデマンド	まとめ	ブックレポートを推敲して提出する準備を行う。	4 時間

科目名	専門演習ⅡB	開講年度	2025
担当者	張　雪斌	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	国際政治学の理論と現実を学ぶ		
授業の目的及び概要	本演習は国際政治学の観点からさまざまな国際問題を分析し、国際社会の過去、現在と未来について学ぶ。演習の中心的な分析対象はアジア太平洋地域の国際関係だが、それ以外の地域や新領域の国際問題（サイバーセキュリティなど）についても扱う。 　国際政治学、とりわけ東アジアの国際関係は私たちの生活に深く関連している。グローバリゼーションが深化している今日では、公的機関や企業の活動だけでなく、我々個人の安全と安心も国際情勢の変動に影響されている。日々起こっている時事問題を知ることが極めて重要だが、情報を手に入れるだけでは国際政治を理解できるわけではない。本演習では、受講者は国際政治学の専門書や論文集を講読し、ディスカッションを重ねることで国際政治に関連する知識を学ぶのと同時に国際政治学の分析手法を習得する。 　受講者の理解度と要望に合わせて、内容を調整する可能性がある。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・国際政治の過去、現在と未来に関する基本的な知識を身につけること ・国際政治学の基本的な分析手法を理解し、習得すること ・国際社会におけるさまざまな課題の存在を認識し、自分の意見を持つこと ・積極的な学修姿勢を身に着け、基本的なアカデミックスキルを応用できること		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・授業中や授業終了後に質疑応答の時間を設ける ・Microsoft Teams を活用して受講者と情報共有や個別指導を行う ・必要な場合は補足資料を配布（あるいはラーニングポータルで公開）し、参考資料、文献を紹介する		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	日本国際政治学会学会誌『国際政治』各号 ・受講者が発表で使用する論文を選択し、クラスメイトと情報共有する ・新たな文献を追加する場合は受講者と相談して決定する	ISBN	0454-2215
参考書	中西寛、石田淳、田所昌幸『国際政治学』(有斐閣、2013)	ISBN	978-4641053786

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	60
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	40
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	・普段積極的に国際政治に関連する新聞記事、書籍や論文を読むこと ・国際政治学Ⅰ・Ⅱ、国際関係論、対外政策論、政治地理学など関連科目の履修をお勧めします（必須ではありません）。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション 授業の概要、目的、教材について説明する。	授業の概要とテキスト『国際政治』の内容を確認し、予習を行う	4 時間
第２回	対面	自己紹介、班分け、発表内容の確認	・授業の概要とテキスト『国際政治』の内容を確認し、予習、復習を行う ・発表の日程を確定し、自らの興味関心に合わせて発表論文を決定する ・論文の内容を読み、発表の準備を行う	4 時間
第３回	対面	国際政治の理論や分析手法について担当者が説明を行い、クラス全体でディスカッションを行う	・授業の内容への復習を行う ・発表の日程を確定し、自らの興味関心に合わせて発表論文を決定する ・論文の内容を読み、発表の準備を行う	4 時間
第４回	対面	国際政治の現状、課題について担当者が説明を行い、クラス全体でディスカッションを行う	・授業の内容への復習を行う ・発表の日程を確定し、自らの興味関心に合わせて発表論文を決定する ・論文の内容を読み、発表とディスカッションの準備を行う	4 時間
第５回	対面	受講者発表・ディスカッション	・授業の内容への復習を行う ・論文の内容を読み、発表とディスカッションの準備を行う	4 時間
第６回	対面	受講者発表・ディスカッション	・授業の内容への復習を行う ・論文の内容を読み、発表とディスカッションの準備を行う	4 時間
第７回	対面	受講者発表・ディスカッション	・授業の内容への復習を行う ・論文の内容を読み、発表とディスカッションの準備を行う	4 時間
第８回	対面	受講者発表・ディスカッション	・授業の内容への復習を行う ・論文の内容を読み、発表とディスカッションの準備を行う	4 時間
第９回	対面	受講者発表・ディスカッション	・授業の内容への復習を行う ・論文の内容を読み、発表とディスカッションの準備を行う	4 時間
第１０回	対面	受講者発表・ディスカッション	・授業の内容への復習を行う ・論文の内容を読み、発表とディスカッションの準備を行う	4 時間
第１１回	対面	受講者発表・ディスカッション	・授業の内容への復習を行う ・論文の内容を読み、発表とディスカッションの準備を行う	4 時間
第１２回	対面	受講者発表・ディスカッション	・授業の内容への復習を行う ・論文の内容を読み、発表とディスカッションの準備を行う	4 時間
第１３回	対面	受講者発表・ディスカッション	・授業の内容への復習を行う ・論文の内容を読み、発表とディスカッションの準備を行う	4 時間
第１４回	対面	受講者発表・ディスカッション	・授業の内容への復習を行う ・論文の内容を読み、発表とディスカッションの準備を行う	4 時間
第１５回	オンデマンド	授業全体の総括	・授業の内容への復習を行う ・レポートの執筆	4 時間

科目名	専門演習ⅡB	開講年度	2025
担当者	伍　躍	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	グローバル・ヒストリー(global history)の観点から政治・経済・社会を学修する。		
授業の目的及び概要	これまでの演習・講義・海外体験などの科目で学修した政治・経済・社会に関する知識や理論を、グローバル・ヒストリーの観点から、批判的・検証的な分析・考察をする総合的学修を行うことを目的とする。具体的には以下の 2 点である。 ①基本資料などの輪読などを通して、3 年次学生としての文章解読力・理解力・課題発見力・プレゼン力を磨く。 ②グローバル・ヒストリーの観点から政治・経済・社会に関するテーマを調査・分析を行う。そのうえ、教員や履修生間でディスカッションを行うことで、調査・分析の内容についての理解を深め、学修内容を定着する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①この授業は、「専門演習Ⅰ」A と B および「専門演習Ⅱ」A に引き続き、秋学期の学生研究発表大会の出場・次年度の卒業研究の完成を目指して、各自の研究テーマを絞り込んでいくとともに考察を深めていくことを目的とする。 ②資料の解読・テーマの発見と構想・分析や論証の仕方・資料の扱い方等の基本的なアカデミック・スキルを向上させたうえ、口頭発表にとどまらず、自らの学修成果や思考内容を論理的な文章にまとめる。 ③グループワークを通して、社会人基礎力としてのコミュニケーション能力・協働力とリーダーシップ等のさらなる向上を目指す。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	①レポートなど：添削して学生にフィードバックをする。 ②発表・プレゼンテーション：授業中にて講評することをもって学生にフィードバックをする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	不使用。	ISBN	なし
参考書	①大阪大学歴史教育研究会『市民のための世界史』、大阪大学出版会、2018 ②水島司『グローバル・ヒストリー入門』、山川出版社、2010 ③妹尾達彦『グローバル・ヒストリー』、中央大学出版部、2018	ISBN	①9784872594690 ②9784634349650 ③9784805741511

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	60
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	40
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0

	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	読む・考える・まとめる・発表することを求める。 学生研究発表大会への出場を薦める。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション	シラバスを読んで、本演習のねらい・目標・授業方法を確認する。(3 時間)	3 時間
第２回	対面	グループ研究のポイントを説明する。	①グループの結成について自由に意見交換をする。（2 時間） ②グループ研究のテーマについて意見交換をする。（2 時間）	4 時間
第３回	対面	グループ研究のテーマ・スケジュールを決定する。	グループ研究の準備を行う（4 時間）	4 時間
第４回	対面	グループ・プレゼンテーション（１）	グループ研究の準備を行う（4 時間）	4 時間
第５回	対面	グループ・プレゼンテーション（２）	グループ研究の準備を行う（4 時間）	4 時間
第６回	対面	グループ・プレゼンテーション（３）	グループ研究の準備を行う（4 時間）	4 時間
第７回	対面	グループ・プレゼンテーション（４）	グループ研究の準備を行う（4 時間）	4 時間
第８回	対面	グループ・プレゼンテーション（５） 学生研究発表大会の出場者を決める。	①グループ・プレゼンテーションの総括を行う。(2 時間) ②学生研究発表大会の出場者へのアドバイスについて意見交換をする。(3 時間)	5 時間
第９回	対面	卒業研究に向けての準備作業について	各自、卒業研究の仮テーマ・内容について考えて説明の準備を行う。(4 時間)	4 時間
第１０回	対面	卒業研究の仮テーマについての報告準備・資料調査の方法	学期末レポート作成に向けての準備（4 時間）	4 時間
第１１回	対面	卒業研究の仮テーマについての報告（１）	学期末レポート作成に向けての準備（4 時間）	4 時間
第１２回	対面	卒業研究の仮テーマについての報告（２）	学期末レポート作成に向けての準備（4 時間）	4 時間
第１３回	対面	卒業研究の仮テーマについての報告(３)・講評	学期末提出物・卒業研究中間レポートの作成の準備（4 時間）	4 時間
第１４回	対面	学期末提出物・卒業研究中間レポート作成の進捗状況報告	学期末提出物・卒業研究中間レポート作成に向けての準備（4 時間）	4 時間
第１５回	オンデマンド	まとめ。	学期末・卒業研究中間レポートの最終確認・提出（6 時間）	6 時間

科目名	専門演習ⅡB	開講年度	2025
担当者	ミルズ・ジョナサン	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日本文化および比較文化について学修する。		
授業の目的及び概要	この授業は、「専門演習ⅡA」に引き続き、各自が取り組むテーマを絞り込んでいくとともに考察を深めていくことを目的とする。現代はグローバル社会が進んでおり、国境を越えたやり取りが年々増えています。これから日本の職場で活動する人にとっては、日本文化の特徴をより深く理解し、かつ外国人に対して英語で説明することは非常に重要な課題です。この専門演習では、日本文化の特徴について考えます。現在の文化の現象もちろん、近代以前の時代の文化も視野に入れ、より深く考えます。また、国際共修の観点から、他国（または自国）の文化との比較を行います。この演習は主に英語で行われます。教材は、日本文化に関する文献からの文章を精読し、英語でのペアワーク、グループワーク、学生発表等を実施します。この専門演習の学修と実践を通じて、現代の職場に求められている強い「異文化理解力」も築くことを望んでいます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	授業の前半では、日本文化・比較文化に関する教材に基づいて個々の履修生が説明を行う。授業の後半では、グループに分かれ、特定のテーマに関する調査を行い、発表に向けて内容をまとめあげる。グループディスカッション等のグループでの取組を通して、主体性やチームワーク、リーダーシップ等を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業内および授業時間前後に個別にフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	Japanese Popular Culture in English: Discussions and Critical Thinking, Robert Sheridan et al., 南雲堂, 2024.（通年使用。）	ISBN	9784523179641
参考書	①"The Japanese Mind: Understanding Contemporary Japanese Culture", Roger J. Davis and Osamu Ikeno, Tuttle Publishing 2002 ②"Japan: History and Culture from Classical to Cool", Nancy J. Stalker, University of California Press, 2018	ISBN	① 9780804832953 ② 9780520287778

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	40
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	40
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	グループワークを中心に授業を進めるので、積極的に授業に参加する学生を歓迎する。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション 授業の目的や目標、進め方など授業の概要を説明する 。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2 時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2 時間程度）。	4 時間
第２回	対面	調査方法 資料収集や調査の方法について検討する。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2 時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2 時間程度）。	4 時間
第３回	対面	発表方法 調査した内容をまとめあげ、発表する方法を検討する。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2 時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2 時間程度）。	4 時間
第４回	対面	テーマの検討（1） 教材の講読、履修生による発表を行い、調査テーマの検討を行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2 時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2 時間程度）。	4 時間
第５回	対面	テーマの検討（2） 教材の講読、履修生による発表を行い、調査テーマの検討を行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2 時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2 時間程度）。	4 時間
第６回	対面	テーマの検討（3） 教材の講読、履修生による発表を行い、調査テーマの検討を行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2 時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2 時間程度）。	4 時間
第７回	対面	グループ調査（1） グループに分かれ、各テーマについて調査し、発表に向けての取組を行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2 時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2 時間程度）。	4 時間
第８回	対面	グループ調査（2） グループに分かれ、各テーマについて調査し、発表に向けての取組を行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2 時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2 時間程度）。	4 時間
第９回	対面	グループ調査（3） グループに分かれ、各テーマについて調査し、発表に向けての取組を行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2 時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2 時間程度）。	4 時間
第１０回	対面	グループ調査（4） グループに分かれ、各テーマについて調査し、発表に向けての取組を行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2 時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2 時間程度）。	4 時間
第１１回	対面	グループ調査（5） グループに分かれ、各テーマについて調査し、発表に向けての取組を行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2 時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2 時間程度）。	4 時間
第１２回	対面	発表・ディスカッション（1） グループで調査した内容を発表し、教員と履修生がディスカッションを行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2 時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2 時間程度）。	4 時間
第１３回	対面	発表・ディスカッション（2） グループで調査した内容を発表し、教員と	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2 時間程度）。	4 時間

		履修生がディスカッションを行う。	教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2 時間程度）。	
第１４回	対面	発表・ディスカッション（3） グループで調査した内容を発表し、教員と履修生がディスカッションを行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2 時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2 時間程度）。	4 時間
第１５回	オンデマンド	総括 授業全体の総括を行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2 時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2 時間程度）。	4 時間

科目名	専門演習ⅡB	開講年度	2025
担当者	金子　治平	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	アジア太平洋地域の経済を中心とする文献を読みこなすようになるとともに，卒業研究に関連する文献を深く読み，検討する		
授業の目的及び概要	専門演習ⅡA・B では，経済事象に関する資料や文献を読み解く能力，表や図から経済事象を理解する能力，データを表や図でわかりやすく表示する能力，データを通して経済事象を考察する能力を身につけることを目的とします． 具体的には， ・知らない用語を調べながら文献をていねいに読むことによって，経済を中心とする社会事象の理解を深めること ・本や論文を読むことによって，興味を持った事象について深く学び，課題を発見することを通じて，卒業研究のテーマと課題を決定することを行います． また，必要に応じて， ・データを表や図でわかりやすく表すことができるようにパソコンの使い方を学ぶこと ・既存のアンケート調査データから，表や図を作成することができることを学ぶこと ・アンケート調査の方法を学ぶこと も目的とします． とくにデータの扱いやアンケート調査について学びたい学生には，授業時間外に学習を行いますので申し出てください．		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	授業の目的に対応して，専門演習ⅡA・B を通した主な目標は， （１）関心のある経済事象に関する文献を読むことができるようになること であり，必要に応じて （２）関心のある経済事象に関連する既存の統計データやアンケート調査データを使用して，適切な表やグラフを作成し，経済事象を考察することができるようになること （３）関心のある経済事象に関連するアンケート調査を，みずから実施できるようになることも目標とします． また， （４）（１）～（３）を通して，卒業研究のテーマを設定し研究を進めることができるようになること です． とくに専門演習ⅡB では，（１）と（４）が主な目標です．		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業内および授業時間外に，グループあるいは個別にフィードバックします．		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特定のテキストは使用しない予定ですが，必要に応じて授業内で指示させていただきます．	ISBN	なし
参考書	必要があれば，授業中に紹介します．	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	

	成果発表（口頭・実技）	40
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	・授業には必ず出席してください. ・やむをえず欠席する場合には，直前でもいいので事前に連絡してください. ・出席しなかった場合には，次回までに補習を行いますので出席してください.	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション 春学期の専門演習ⅡA を振り返るとともに，夏休み中の進捗状況について報告してもらいます.	事前学習として，夏休み中に，卒業研究に関連して行ったことをまとめておいてください.	4 時間
第２回	対面	卒業研究の進捗状況の発表と検討（１）	事前学習として，読んだ本や論文の要約を行うなど，各自の卒業研究の進捗状況についてまとめておいてください.	4 時間
第３回	対面	卒業研究の進捗状況の発表と検討（２）	事前学習として，読んだ本や論文の要約を行うなど，各自の卒業研究の進捗状況についてまとめておいてください.	4 時間
第４回	対面	卒業研究の進捗状況の発表と検討（３）	事前学習として，読んだ本や論文の要約を行うなど，各自の卒業研究の進捗状況についてまとめておいてください.	4 時間
第５回	対面	卒業研究の進捗状況の発表と検討（４）	事前学習として，読んだ本や論文の要約を行うなど，各自の卒業研究の進捗状況についてまとめておいてください.	4 時間
第６回	対面	卒業研究の進捗状況の発表と検討（５）	事前学習として，読んだ本や論文の要約を行うなど，各自の卒業研究の進捗状況についてまとめておいてください.	4 時間
第７回	対面	卒業研究の進捗状況の発表と検討（６）	事前学習として，読んだ本や論文の要約を行うなど，各自の卒業研究の進捗状況についてまとめておいてください.	4 時間
第８回	オンデマンド	卒業研究の進め方のコツ	オンデマンドで配信された内容をよく復習してください.	4 時間
第９回	対面	卒業研究の進捗状況の発表と検討（７）	事前学習として，読んだ本や論文の要約を行うなど，各自の卒業研究の進捗状況についてまとめておいてください.	4 時間
第１０回	対面	卒業研究の進捗状況の発表と検討（８）	事前学習として，読んだ本や論文の要約を行うなど，各自の卒業研究の進捗状況についてまとめておいてください.	4 時間
第１１回	対面	卒業研究の進捗状況の発表と検討（９）	事前学習として，読んだ本や論文の要約を行うなど，各自の卒業研究の進捗状況についてまとめておいてください.	4 時間
第１２回	対面	卒業研究の進捗状況の発表と検討（１０）	事前学習として，読んだ本や論文の要約を行うなど，各自の卒業研究の進捗状況についてまとめておいてください.	4 時間
第１３回	対面	卒業研究中間レポート執筆のための発表と検討（１）	事前・事後学習として，これまでの各自の卒業研究の進捗状況をふまえて，卒業研究中間レポートを執筆してください.	4 時間
第１４回	対面	卒業研究中間レポート執筆のための発表と検討（２）	事前・事後学習として，これまでの各自の卒業研究の進捗状況をふまえて，卒業研究中間レポートを執筆	4 時間

			してください.	
第１５回	対面	卒業研究中間レポート執筆のための発表と検討（３）	事前・事後学習として，これまでの各自の卒業研究の進捗状況をふまえて，卒業研究中間レポートを執筆してください.	4 時間

科目名	専門演習ⅡB	開講年度	2025
担当者	橋本　凜	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常におけるさまざまな文化事象を客観的な視点から捉え、これからの人生を生きる上での複眼的な思考を育む。		
授業の目的及び概要	この授業では、「専門演習 IIA」に引き続き、各自が選択したテーマについての理解を深め、日常生活におけるさまざまなヒントから「文化」の痕跡を発見する能力を身につけることを目的とする。また、①論理的な思考力を鍛え、根拠を持って自分の意見をアウトプットするためのトレーニング②国・地域・文化を超えたコミュニケーション能力や協働力を育むためのトレーニングを重点的に行う。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	さまざまな文化を相対的に位置付け、多様な価値観を受け入れることができる。ひいては、他者の多様な思考、価値観を自然と尊重できる態度を身につけ、日常的なコミュニケーションの中で示すことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメントシートに対してのフィードバックを授業内で適宜行う。また、レポートや発表に対しては教員からアドバイスを実施する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	なし	ISBN	なし
参考書	①現代文化論, 遠藤英樹, ミネルヴァ書房, 2011 年 ②創られた伝統, エリック・ホブズボウム、テレンス・レンジャー（編）, 前川啓治他（翻訳）, 紀伊國屋書店, 1992 年 ③日本文化論キーワード, 遠山 淳他（編）, 有斐閣出版, 2009	ISBN	①978-4623060078 ②978-4314005722 ③978-4641058873

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	30
授業期間中の小テスト、レポート課題等	60
成果発表（口頭・実技）	10
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	この授業の受講を通じ、人間は「国家」や「人種」の代表ではなく、それぞれ「個人」としての価値観を持っており、それらはいずれも等しく尊重すべきであるという文化的態度を身につけていってほしいと思っています。その上で、各グループにおける文化がメディア等を通じてどのように表象されるのか、そしてその表象がどのような効果をもたらすのかを一緒に考えていきましょう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロタクション 授業の目標、成績配分、１学期間の授業計画などの概要を説明する。	事後学修として、１学期間を通じて自分がどのような学修プランを立てるのか、そしてそれが実現可能かどうかを精査する。また、次回から始まるテーマの検討に際し、自分がどのような興味・関心を持っているのか、改めて整理し、新聞や書籍等から情報収集を行う。	４時間
第２回	対面	テーマの検討① 教員の提供するレジュメ、およびグループでのディスカッションにより、個々のおおまかな調査テーマを策定する。	授業前：配布したレジュメを事前に読んでおく。 授業後：研究テーマに関するワークシートに記入し、提出する。	４時間
第３回	対面	テーマの検討② 教員の提供するレジュメ、およびグループでのディスカッションにより、前回仮決定したテーマについて再検討を加え、最終決定を行う。	授業前：配布したレジュメを事前に読んでおく。 授業後：研究テーマに関するワークシートに記入し、提出する。	４時間
第４回	対面	調査・分析(1) 調査・分析の手法について、教員が講義を行う。その後、実際にデータベースを活用して個々のテーマに関する情報を収集・整理する。	調査・分析の内容をワークシートにまとめ、整理した形で提出する。	４時間
第５回	対面	調査・分析(2) 調査・分析の手法について、教員が講義を行う。その後、実際にデータベースを活用して個々のテーマに関する情報を収集・整理する。	調査・分析の内容をワークシートにまとめ、整理した形で提出する。	４時間
第６回	対面	調査・分析(3) 個々が設定した「文化」にまつわるテーマに関する調査を行い、所定のワークシートを作成する。	調査・分析の内容をワークシートにまとめ、整理した形で提出する。	４時間
第７回	対面	調査・分析(4) 個々が設定した「文化」にまつわるテーマに関する調査を行い、所定のワークシートを作成する。	調査・分析の内容をワークシートにまとめ、整理した形で提出する。	４時間
第８回	対面	発表・報告資料の取りまとめとレポート作成指導（1） 調査・分析した内容を発表し、教員と履修生かディスカッションを行う。また、その内容を資料として取りまとめる方法を学び、レポート作成に向けた準備を行う。	発表者の発表資料および関連文献を読み、発表に際しての疑問点等を整理しておく。 授業後は、授業での履修者・教員からの指摘を踏まえ、レポート作成を行う。	４時間
第９回	対面	発表・報告資料の取りまとめとレポート作成指導（2） 調査・分析した内容を発表し、教員と履修生かディスカッションを行う。また、その内容を資料として取りまとめる方法を学び、レポート作成に向けた準備を行う。	発表者の発表資料および関連文献を読み、発表に際しての疑問点等を整理しておく。 授業後は、授業での履修者・教員からの指摘を踏まえ、レポート作成を行う。	４時間
第１０回	対面	発表・報告資料の取りまとめとレポート作成指導（3） 調査・分析した内容を発表し、教員と履修生かディスカッションを行う。また、その内容を資料として取りまとめる方法を学び、レポート作成に向けた準備を行う。	発表者の発表資料および関連文献を読み、発表に際しての疑問点等を整理しておく。 授業後は、授業での履修者・教員からの指摘を踏まえ、レポート作成を行う。	４時間
第１１回	対面	レポート発表(1) 各自か作成したレポートをプレゼンテ	発表者の発表資料および関連文献を読み、発表に際しての疑問点等を整理しておく。	４時間

		ーション形式で発表し、教員と履修生がそれについてのディスカッション・講評を行う。 発表者は、それらの内容を通じ、レポートをより精緻なものに修正する。	授業後は、授業での履修者・教員からの指摘を踏まえ、レポートを修正する。	
第１２回	対面	レポ゜ート発表(2) 各自か作成したレポ゜ートをプレゼンテーション形式で発表し、教員と履修生がそれについてのディスカッション・講評を行う。 発表者は、それらの内容を通じ、レポートをより精緻なものに修正する。	発表者の発表資料および関連文献を読み、発表に際しての疑問点等を整理しておく。 授業後は、授業での履修者・教員からの指摘を踏まえ、レポートを修正する。	4 時間
第１３回	対面	レポ゜ート発表(3) 各自か作成したレポ゜ートをプレゼンテーション形式で発表し、教員と履修生がそれについてのディスカッション・講評を行う。 発表者は、それらの内容を通じ、レポートをより精緻なものに修正する。	発表者の発表資料および関連文献を読み、発表に際しての疑問点等を整理しておく。 授業後は、授業での履修者・教員からの指摘を踏まえ、レポートを修正する。	4 時間
第１４回	対面	レポ゜ート発表(4) 各自か作成したレポ゜ートをプレゼンテーション形式で発表し、教員と履修生がそれについてのディスカッション・講評を行う。 発表者は、それらの内容を通じ、レポートをより精緻なものに修正する。	発表者の発表資料および関連文献を読み、発表に際しての疑問点等を整理しておく。 授業後は、授業での履修者・教員からの指摘を踏まえ、レポートを修正する。	4 時間
第１５回	オンデマンド	授業のまとめ	事前学修：これまでの授業内容をレジュメやノートを通じて振り返る。 事後学修：レポートを作成して提出する。詳細は授業内で指示する。	4 時間

科目名	専門演習ⅡB	開講年度	2025
担当者	菅原　絵美	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	さまざまなグローバル課題（人種やジェンダーに基づく差別、現代奴隷や児童労働、難民、子ども兵士、気候変動や海洋プラスチック問題など）を国際法の視点から考える。		
授業の目的及び概要	この授業は、「専門演習ⅡA」に引き続き、各自が取り組むテーマを絞り込んでいくとともに考察を深めていくことを目的とする。特にテーマの構想、分析の仕方、資料の扱い方等の基本的な調査・分析のスキルを向上させるとともに、口頭発表にとどまらず、成果を論理的な文章にまとめる取組も行う。また、グループワークを通して、コミュニケーション能力、協働力とリーダーシップ、課題発見能力等のさらなる向上を目指す。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	講義科目等で学修した法・政治に関する知識や理論を地球的課題（難民、人権、環境、国際犯罪、腐敗防止、武力紛争等）に対し、さらなる分析・考察を行うことで深く理解する。 調査・分析した内容を資料として取りまとめ、教員や履修生間でディスカッションを行うことで、その内容についての自分なりの観点を持つ。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	発表資料・レジュメについては発表の 1 週間前にラーニングポータルに提出してもらい、教員が確認・添削を行いフィードバックする。そのほか提出された課題についてもラーニングポータルを通じて、また授業のなかでフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	必要な文献は演習内で指示する。	ISBN	特になし
参考書	①国際人権法の考え方，川島聡・菅原絵美・山崎公士，法律文化社，2021 年 ②〈改訂版〉国際社会を学ぶ，戸田真紀子・三上貴教・勝間靖，晃洋書房、2019 年 ③21 世紀国際社会を考える：多層的な世界を読み解く 38 章，渋谷淳一・本多量久(編著)，旬報社，2017 年 ④国際法で世界がわかる：ニュースを読み解く 32 講，森川幸一他，岩波書店，2016 年 ⑤国際条約集，植木俊哉・中谷和弘(編集代表)，有斐閣，2024 年	ISBN	①9784589041449 ②9784771032767 ③9784845115167 ④9784000229555 ⑤9784641001619

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	30
授業期間中の小テスト、レポート課題等	60
成果発表（口頭・実技）	10
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	学生ひとりひとりが「問い」を持ち、授業を通じて自分なりの「答え」を探していくような、参加型の講義にしたいと思っているので、授業のなかで感じた疑問や興味は積極的に発言してほしい。 国際社会の法や政治に関して、関心のある「自分のテーマ」を見つけよう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション 授業の目的や目標、進め方など授業の概要を説明する。	ラーニングポータルに国際法に関する記事を掲載するので事前に読み、概要を把握すること（必要時間 120 分）。また授業後には、事件に関する論点をまとめ、ラーニングポータルを通じて提出すること（必要時間 120 分）。	4 時間
第２回	対面	テーマの検討（1） 教員や履修生間でのディスカッションにより、個々の調査・分析のテーマを検討する。	研究テーマに関するワークシートに記入しラーニングポータルに提出する。また授業で学んだポイントから見直しをしシートを再提出する。	4 時間
第３回	対面	テーマの検討（2） 教員や履修生間でのディスカッションにより、個々の調査・分析のテーマを検討する。	研究テーマに関するワークシートに記入しラーニングポータルに提出する。また授業で学んだポイントから見直しをしシートを再提出する。	4 時間
第４回	対面	調査・分析（1） さまざまなグローバル課題に関する調査・分析を行う。	調査・分析の内容をシートにまとめラーニングポータルに提出する。授業後は、シートを加筆修正し再提出する。	4 時間
第５回	対面	調査・分析（2） さまざまなグローバル課題に関する調査・分析を行う。	調査・分析の内容をシートにまとめラーニングポータルに提出する。授業後は、シートを加筆修正し再提出する。	4 時間
第６回	対面	調査・分析（3） さまざまなグローバル課題に関する調査・分析を行う。	調査・分析の内容をシートにまとめラーニングポータルに提出する。授業後は、シートを加筆修正し再提出する。	4 時間
第７回	対面	調査・分析（4） さまざまなグローバル課題に関する調査・分析を行う。	調査・分析の内容をシートにまとめラーニングポータルに提出する。授業後は、シートを加筆修正し再提出する。	4 時間
第８回	対面	発表･報告資料の取りまとめとレポート作成指導（1） 調査・分析した内容を発表し、教員と履修生がディスカッションを行った内容を資料として取りまとめ、レポート作成に向けた指導を行う。	発表者の発表資料および関連文献をラーニングポータルに掲載するので予習を行う。授業後は、授業での指摘を受けて、自身の研究の修正を行う。	4 時間
第９回	対面	発表･報告資料の取りまとめとレポート作成指導（2） 調査・分析した内容を発表し、教員と履修生がディスカッションを行った内容を資料として取りまとめ、レポート作成に向けた指導を行う。	発表者の発表資料および関連文献をラーニングポータルに掲載するので予習を行う。授業後は、授業での指摘を受けて、自身の研究の修正を行う。	4 時間
第１０回	対面	発表･報告資料の取りまとめとレポート作成指導（3） 調査・分析した内容を発表し、教員と履修生がディスカッションを行った内容を資料として取りまとめ、レポート作成に向けた指導を行う。	発表者の発表資料および関連文献をラーニングポータルに掲載するので予習を行う。授業後は、授業での指摘を受けて、自身の研究の修正を行う。	4 時間
第１１回	対面	レポート発表（1） 各自が作成したレポートと資料を発表し、教員と履修生がディスカッションを行い、完成度の高いレポート作成指導を行う。	発表者の発表資料および関連文献をラーニングポータルに掲載するので予習を行う。授業後は、授業での指摘を受けて、自身の研究の修正を行う。	4 時間
第１２回	対面	レポート発表（2） 各自が作成したレポートと資料を発表し、	発表者の発表資料および関連文献をラーニングポータルに掲載するので予習を行う。授業後は、授業での	4 時間

		教員と履修生がディスカッションを行い、完成度の高いレポート作成指導を行う。	指摘を受けて、自身の研究の修正を行う。	
第１３回	対面	レポート発表（3） 各自が作成したレポートと資料を発表し、教員と履修生がディスカッションを行い、完成度の高いレポート作成指導を行う。	発表者の発表資料および関連文献をラーニングポータルに掲載するので予習を行う。授業後は、授業での指摘を受けて、自身の研究の修正を行う。	4 時間
第１４回	対面	レポート発表（4） 各自が作成したレポートと資料を発表し、教員と履修生がディスカッションを行い、完成度の高いレポート作成指導を行う。	発表者の発表資料および関連文献をラーニングポータルに掲載するので予習を行う。授業後は、授業での指摘を受けて、自身の研究の修正を行う。	4 時間
第１５回	オンデマンド	総括 授業全体の総括を行う。	ラーニングポータルを通じた事前学修・事後学修を行う。詳しくは授業のなかで指示する。	4 時間

科目名	専門演習ⅡB	開講年度	2025
担当者	本多　善	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	異文化理解・国際関係学・国際文化学に関する知識や理論からグローバリゼーションと文化について考察する		
授業の目的及び概要	この授業は、「専門演習 IIA」に引き続き、専門分野における特定のテーマに関する知識を学修し、調査・研究に取り組むことによって、テーマの設定、資料調査、分析、そして研究成果の発表にいたるまでの、一連のプロセスを学ぶことを目的とする。履修生は、各自の問題関心に基づきテーマを選択し、それに向けた調査報告をおこなう。また、グループワークを通して、コミュニケーション能力、協働力とリーダーシップ、課題発見能力等を身につけることを目指す。		
履修条件・留意点	講義科目等で学修した知識や理論をグローバル社会の諸課題に対して応用し、分析・考察を行うことで総合的学修を行う科目として「演習科目」があります。自らの興味・関心に応じて特定のテーマに関する調査・研究を行い、その過程を通して主体的に行動する態度・志向性を身につけ、創造的思考力の向上を図ります。演習においては、体験型学修やアクティブ・ラーニングを積極的に取り入れ、主体性やチームワーク、リーダーシップ、行動力等の「国際協働力」を身につけます。「演習科目」は、1 年次に「基礎演習 A」、「基礎演習 B」、2 年次に「専門演習ⅠA」、「専門演習ⅠB」、3 年次に「専門演習ⅡA」、「専門演習ⅡB」、4 年次に「専門演習ⅢA」、「専門演習ⅢB」を配当し、グローバル人材に求められる能力を向上させることを重視しつつ、履修指導やキャリア指導も行い、最終的に卒業論文を執筆します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	講義科目等で学修した異文化理解・国際関係学・国際文化学に関する知識や理論をグローバリゼーションと文化に対して応用し、分析・考察を行うことができる。 各自のテーマ、資料調査、分析、そして研究成果の発表にいたるまでの一連のプロセスを学び、卒業テーマを決定し、5000 字の卒業レポートを執筆する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	グループでの調査については、その方法論と調査方法について、適切なコメントやアドバイスをし、フィードバックをおこなう。また発表・レポートについてはコメントや改善点を提示する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定しない。	ISBN	使用しない。
参考書	①書名：'The Sociology Book: Big Ideas Simply Explained'、著者：Sarah Tomley and Mitchell Hobs, 出版社：DK、出版年：2015 ②書名：『質的社会調査の方法：他者の合理性の理解社会学』、著者：岸政彦ほか、出版社：有斐閣、出版年：2016 ③書名：『リキッド化する世界の文化論』、著者：ジグムント・バウマン、訳伊藤茂、出版社：青土社、出版年：2014	ISBN	①978-1465436504 ②978-4641150379 ③978-4791768073
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	

	成果発表（口頭・実技）	30
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	国際関係学、国際文化学、国際社会学から、世界の文化的な事象の捉え方について学びます。そして自身のテーマについて、問の立て方の妥当性、研究方法の妥当性、論の展開について研究指導します。授業では専門書を読みながら、国際関係や世界の見方、文化について考えていきます。洋書の読解を通じてグローバル社会を理解することにも挑戦します。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション： 授業の目的・意義・方法・評価について 世界/国際関係/国際文化について考える⑥ ・指定された章の解説 ・ディスカッション	指定された章を熟読し、発表に向けた準備をおこなう。(所要時間 2 時間) TOEIC、SPI の学修をおこなう。(所要時間 2 時間)	4 時間
第２回	対面	世界/国際関係/国際文化について考える⑦ ・指定された章のグループ発表 ・指定された章の解説 ・ディスカッション	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。(所要時間 1 時間) 指定された章を熟読し、発表に向けた準備をおこなう。(所要時間 1 時間) TOEIC、SPI の学修をおこなう。(所要時間 2 時間)	4 時間
第３回	対面	世界/国際関係/国際文化について考える⑧ ・指定された章のグループ発表 ・指定された章の解説 ・ディスカッション	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。(所要時間 1 時間) 指定された章を熟読し、発表に向けた準備をおこなう。(所要時間 1 時間) TOEIC、SPI の学修をおこなう。(所要時間 2 時間)	4 時間
第４回	対面	世界/国際関係/国際文化について考える⑨ ・指定された章のグループ発表 ・指定された章の解説 ・ディスカッション	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。(所要時間 1 時間) 指定された章を熟読し、発表に向けた準備をおこなう。(所要時間 1 時間) TOEIC、SPI の学修をおこなう。(所要時間 2 時間)	4 時間
第５回	対面	世界/国際関係/国際文化について考える⑩ ・指定された章のグループ発表 ・指定された章の解説 ・ディスカッション	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。(所要時間 1 時間) 指定された章を熟読し、発表に向けた準備をおこなう。(所要時間 1 時間) TOEIC、SPI の学修をおこなう。(所要時間 2 時間)	4 時間
第６回	対面	質的・量的調査とは③： ・調査の目的と意義 ・仮設の提示 ・調査方法の妥当性 ・分析方法 について理解する。	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。(所要時間 1 時間) 指定された章を熟読し、社会調査に向けた準備をおこなう。(所要時間 1 時間) TOEIC、SPI の学修をおこなう。(所要時間 2 時間)	4 時間
第７回	対面	質的・量的調査とは④： ・調査の目的と意義 ・仮設の提示 ・調査方法の妥当性 ・分析方法 について理解する。	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。(所要時間 1 時間) 指定された章を熟読し、社会調査に向けた準備をおこなう。(所要時間 1 時間) TOEIC、SPI の学修をおこなう。(所要時間 2 時間)	4 時間
第８回	対面	社会調査の実践③： 自身のテーマによる社会調査実践	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。(所要時間 1 時間) 指定された章を熟読し、社会調査に向けた準備をお	4 時間

			こなう。(所要時間 1 時間) TOEIC、SPI の学修をおこなう。(所要時間 2 時間)	
第９回	対面	社会調査の実践④： 自身のテーマによる社会調査実践	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。(所要時間 1 時間) 指定された章を熟読し、社会調査に向けた準備をおこなう。(所要時間 1 時間) TOEIC、SPI の学修をおこなう。(所要時間 2 時間)	4 時間
第１０回	対面	社会調査の報告⑤： 自身のテーマによる社会調査報告	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。(所要時間 1 時間) 報告に向けた準備をおこなう。(所要時間 1 時間) TOEIC、SPI の学修をおこなう。(所要時間 2 時間)	4 時間
第１１回	対面	社会調査の報告⑥： 自身のテーマによる社会調査報告	報告に向けた準備をおこなう。(所要時間 2 時間) TOEIC、SPI の学修をおこなう。(所要時間 2 時間)	4 時間
第１２回	対面	グローバリゼーションと文化に関するテーマと論の展開①： ・論文の構成 ・根拠の提示 に関する講義	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。(所要時間 1 時間) 指定された章を熟読し、自身のテーマ設定が妥当かどうか、論の展開について調査研究する。(所要時間 1 時間) TOEIC、SPI の学修をおこなう。(所要時間 2 時間)	4 時間
第１３回	対面	グローバリゼーションと文化に関するテーマと論の展開②： ・論文の構成 ・根拠の提示 に関する講義 ・TOEIC、SPI の学修	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。(所要時間 1 時間) 指定された章を熟読し、自身のテーマ設定が妥当かどうか、論の展開について調査研究する。(所要時間 1 時間) TOEIC、SPI の学修をおこなう。(所要時間 2 時間)	4 時間
第１４回	対面	グローバリゼーションと文化に関する自身の研究発表①： ・先行研究 ・論文の展開 の発表 ・TOEIC、SPI の学修	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。(所要時間 2 時間) 自身の研究発表に向けた準備をする。(所要時間 1 時間) TOEIC、SPI の学修をおこなう。(所要時間 2 時間)	4 時間
第１５回	オンデマンド	グローバリゼーションと文化に関する総括	5000 字のレポートを提出する。(所要時間 4 時間)	4 時間

科目名	専門演習ⅡB	開講年度	2025
担当者	中西　亮太	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	言語そのものを研究対象として扱う言語学を概観し、言語現象をさまざまな分野・観点から分析する。		
授業の目的及び概要	この授業では、「専門演習 IIA」に引き続き、専門分野における特定のテーマに関する知識を学修し、調査・研究に取り組むことによって、テーマの設定、資料調査、分析、そして研究成果の発表に至るまでの、一連のプロセスを学ぶことを目的とする。履修生は、各自の問題関心に基づきテーマを選択する。また、グループワークを通して、コミュニケーション能力、協働力とリーダーシップ、課題発見能力等を身につけさせることを目指す。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	講義科目等で学修した言語や文化に関する知識を具体的な言語現状に対して応用し、分析・考察を行うことで理解を深める。 卒業研究に向けては学生一人ひとりが興味や関心に応じて設定したテーマについて調査・研究を進め、内容をレポートや発表としてまとめる力を養う。また、グループディスカッション等のグループでの取り組みを通して、主体性や協働性、リーダーシップ等を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	卒業研究については、理論や分析・考察方法に対して適切なコメントやアドバイスをし、フィードバックを行う。また、発表・レポートについてはコメントや改善点を提示する形でフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定のテキストはありません。適宜論文等の文献資料を配布します。	ISBN	なし
参考書	なし	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	20
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	20
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	30
その他の内容	卒業研究報告レポート 30%

この科目の受講にあたって	世界中の様々な言語そのものや言語にまつわる現象に関心がある学生を歓迎します。授業では論文や専門書などの精読を通して、研究対象としての言語の捉え方や研究方法などについて考えていきます。学生ひとりひとりが「問い」を持ち、授業を通じて自分ならではの「答え」を探していくことを期待します。

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第１回	対面	イントロダクション 授業の目的や目標、進め方などの概要を説明する。	事前学修として、ラーニングポータルに言語学に関する課題論文を掲載するので、事前に読み概要を把握しておく。 事後学修として、概要をレポートとしてまとめ、ラーニングポータルに提出する。	4 時間
第２回	対面	テーマの検討① 履修生による発表やディスカッションを通して、個々の調査・分析・考察のテーマを検討する。	事前に個々の興味・関心に基づいたテーマを掘り下げ、設定しているテーマに具体性を持たせておく。 授業でのディスカッション内容を個々のテーマの検討に反映させ、自身の研究の軌道修正を行う。	4 時間
第３回	対面	テーマの検討② 履修生による発表やディスカッションを通して、個々の調査・分析・考察のテーマを検討する。	発表担当者は発表する内容をまとめたレジュメを事前に作成・提出しておく。 授業後は、授業でのディスカッションやコメント等を踏まえて、自身の研究の軌道修正を行う。	4 時間
第４回	対面	テーマの検討③ 履修生による発表やディスカッションを通して、個々の調査・分析・考察のテーマを検討する。	発表担当者は発表する内容をまとめたレジュメを事前に作成・提出しておく。 授業後は、授業でのディスカッションやコメント等を踏まえて、自身の研究の軌道修正を行う。	4 時間
第５回	対面	テーマの検討④ 履修生による発表やディスカッションを通して、個々の調査・分析・考察のテーマを検討する。	発表担当者は発表する内容をまとめたレジュメを事前に作成・提出しておく。 授業後は、授業でのディスカッションやコメント等を踏まえて、自身の研究の軌道修正を行う。	4 時間
第６回	対面	テーマの検討⑤ 履修生による発表やディスカッションを通して、個々の調査・分析・考察のテーマを検討する。	発表担当者は発表する内容をまとめたレジュメを事前に作成・提出しておく。 授業後は、授業でのディスカッションやコメント等を踏まえて、自身の研究の軌道修正を行う。	4 時間
第７回	対面	テーマの検討⑥ 履修生による発表やディスカッションを通して、個々の調査・分析・考察のテーマを検討する。	発表担当者は発表する内容をまとめたレジュメを事前に作成・提出しておく。 授業後は、授業でのディスカッションやコメント等を踏まえて、自身の研究の軌道修正を行う。	4 時間
第８回	対面	テーマの検討⑦ 履修生による発表やディスカッションを通して、個々の調査・分析・考察のテーマを検討する。	発表担当者は発表する内容をまとめたレジュメを事前に作成・提出しておく。 授業後は、授業でのディスカッションやコメント等を踏まえて、自身の研究の軌道修正を行う。	4 時間
第９回	対面	テーマの検討⑧ 履修生による発表やディスカッションを通して、個々の調査・分析・考察のテーマを検討する。	発表担当者は発表する内容をまとめたレジュメを事前に作成・提出しておく。 授業後は、授業でのディスカッションやコメント等を踏まえて、自身の研究の軌道修正を行う。	4 時間
第１０回	対面	テーマの検討⑨ 履修生による発表やディスカッションを通して、個々の調査・分析・考察のテーマを検討する。	発表担当者は発表する内容をまとめたレジュメを事前に作成・提出しておく。 授業後は、授業でのディスカッションやコメント等を踏まえて、自身の研究の軌道修正を行う。	4 時間
第１１回	対面	テーマの検討⑩ 履修生による発表やディスカッションを通して、個々の調査・分析・考察のテーマを検討する。	発表担当者は発表する内容をまとめたレジュメを事前に作成・提出しておく。 授業後は、授業でのディスカッションやコメント等を踏まえて、自身の研究の軌道修正を行う。	4 時間
第１２回	対面	テーマの検討⑪ 履修生による発表やディスカッションを通して、個々の調査・分析・考察のテーマを検討する。	発表担当者は発表する内容をまとめたレジュメを事前に作成・提出しておく。 授業後は、授業でのディスカッションやコメント等を踏まえて、自身の研究の軌道修正を行う。	4 時間
第１３回	対面	個々の研究の振り返り 担当教員による研究の方向性や手法･分析のポイント等に関する概説を踏まえて、自身の研究を再検討する。	事前学習として、第 13 回までに授業で検討したテーマを踏まえて、自身の研究の要点をまとめておく。 事後学修として、担当教員による概説や第 13 回までに授業で実施したディスカッションを踏まえて、自身の軌道修正を行う。	4 時間
第１４回	対面	テーマの検討⑫ 履修生による発表やディスカッションを	発表担当者は発表する内容をまとめたレジュメを事前に作成・提出しておく。	4 時間

		通して、個々の調査・分析・考察のテーマを検討する。	授業後は、授業でのディスカッションやコメント等を踏まえて、自身の研究の軌道修正を行う。	
第１５回	オンデマンド	授業全体の総括を行う。	自身で設定したテーマについて、背景、先行研究、課題、分析・考察、今後の研究の計画を 6000 字程度でまとめる。	6 時間

科目名	専門演習ⅡB	開講年度	2025
担当者	浅見　緑	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	世界とのつながりに目を向け、その背景にある社会状況や考え方について関心をもち、自分のテーマを見つける。		
授業の目的及び概要	この科目は、英語コミュニケーションコースに所属する学生のための演習です。 「専門演習ⅡB」に引き続き、演習での学修を通じて、異文化に対する理解と多文化共生を育み、世界各国・地域の文化、歴史、および現代の社会事情に精通した能力を身につけることを目標にしています。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	（1）文化（宗教、芸術も）、ことば、文学（アニメ、漫画、映画も）などを題材として、世界とのつながりに目を向けることができる。 （2）その背景にある社会状況や考え方を理解し、関心をもつ中から、自身のテーマを見つけることができる。 （3）演習での活動を通して、論文作成に必要な技術を身につけ、活用することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業時または次回の授業時に、振り返り、コメント、添削などによってフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特定のテキストは使用しません。	ISBN	なし
参考書	授業時に必要に応じて紹介します。	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	40
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	30
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって
1・2 年次に講義科目で得た知識や理論、留学・体験などの経験を結びつけ、学生研究発表大会や卒業論文につながる自身のテーマを見つけましょう。難しく考える必要はありません。関心をもったことをきっかけに、研究を深めていきましょう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション	シラバスを読み、秋学期の授業の目的、目標、進め方等について、確認する。 夏季休暇の課題報告（学生研究発表大会に向けて参	4 時間

			考資料を複数探す）の準備をする。	
第２回	対面	学生研究発表大会クラス選考会の準備（1） 学生研究発表大会に向けて、グループ（個人でも可）を決め、テーマについて意見交換する。	学生研究発表大会クラス選考会に向けて、必要な準備をする。	4 時間
第３回	対面	学生研究発表大会クラス選考会の準備（2） グループ（個人でも可）ごとに決めたテーマについて、クラスで共有する。	学生研究発表大会クラス選考会に向けて、必要な準備をする。	4 時間
第４回	対面	学生研究発表大会クラス選考会の準備（3）	学生研究発表大会クラス選考会に向けて、必要な準備をする。	4 時間
第５回	対面	学生研究発表大会クラス選考会の準備（4）	学生研究発表大会クラス選考会に向けて、必要な準備をする。	4 時間
第６回	対面	学生研究発表大会クラス選考会の準備（5）	学生研究発表大会クラス選考会に向けて、必要な準備をする。	4 時間
第７回	対面	学生研究発表大会クラス選考会（1） クラス発表と意見交換	学生研究発表大会クラス選考会に向けて、必要な準備をする。	4 時間
第８回	対面	学生研究発表大会クラス選考会（2） クラス発表と意見交換	学生研究発表大会選考会に向けて、必要な準備をする。	4 時間
第９回	対面	卒業論文の準備（1） 卒業論文に向けてのレポート作成	レポート作成に向けて、必要な準備を行う。	4 時間
第１０回	対面	卒業論文の準備（2） 卒業論文に向けてのレポート作成	レポート作成に向けて、必要な準備を行う。	4 時間
第１１回	対面	卒業論文の準備（3） 卒業論文に向けてのレポート作成	レポート作成に向けて、必要な準備を行う。	4 時間
第１２回	対面	卒業論文の準備（4） 卒業論文に向けてのレポート作成	レポート作成に向けて、必要な準備を行う。	4 時間
第１３回	対面	卒業論文の準備（5） 受講生によるレポートの相互点検と意見交換	レポートの推敲を行う。	4 時間
第１４回	対面	卒業論文の準備（6） 受講生によるレポートの相互点検と意見交換	レポートの推敲を行う。	4 時間
第１５回	オンデマンド	まとめ	レポートを推敲して完成させる。	4 時間

科目名	専門演習ⅢA	開講年度	2025
担当者	呉原　志賢	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	グローバル化する企業経営における情報の利活用について考察する。		
授業の目的及び概要	この授業では、相互に意見を交換しながら、各自が取り組む課題研究を発展させることを目的とする。テーマに関連する文献調査に当たり、それに基づき考察することで、課題研究を深めていく。課題研究の成果は、授業において報告を行い、履修生間で討論する。授業での取組を通して、これまでの学修で修得した、調査、分析、発表といった一連のプロセスを行う能力と筋道を立てて考える力等を向上させる。。授業では、教員が履修生とのコミュニケーションを十分に図りながら、社会に対する視野を拡げ、課題発見能力を涵養する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	講義科目等で学修した知識や理論をグローバル化する企業経営における情報の利活用についての諸課題に対して応用し、分析・考察を行うことで理解を深める。 特定のテーマに関する調査を行い、発表に向けて内容をまとめあげるために、グループディスカッション等のグループでの取組を通して、主体性やチームワーク、リーダーシップ等を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課した課題に対して、授業内で講評する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しない。	ISBN	－
参考書	『情報通信白書』総務省（授業内での発表を行う際に参考にする。）	ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	60
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	40
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	0

この科目の受講にあたって
0

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション 授業の目的や目標、進め方など授業の概要	授業前後に、授業で配布した資料を読ん復習ておくこと	4 時間

		を説明する 。		
第２回	対面	調査方法 文献資料収集や調査の方法について検討する。	授業前後に、授業で配布した資料を読ん復習ておくこと	4 時間
第３回	対面	発表方法 調査した内容をまとめあげ、発表する方法を検討する。	授業前後に、授業で配布した資料を読ん復習ておくこと	4 時間
第４回	対面	テーマの検討（1） 経営情報に関する発表を行い、調査テーマの検討を行い、教員と履修生がディスカッションを行う。	課題に取り組み、次回授業で報告すること	4 時間
第５回	対面	テーマの検討（2） 経営情報に関する発表を行い、調査テーマの検討を行い、教員と履修生がディスカッションを行う。	課題に取り組み、次回授業で報告すること	4 時間
第６回	対面	テーマの検討（3） 経営情報に関する発表を行い、調査テーマの検討を行い、教員と履修生がディスカッションを行う。	課題に取り組み、次回授業で報告すること	4 時間
第７回	対面	テーマの検討（4） 経営情報に関する発表を行い、調査テーマの検討を行い、教員と履修生がディスカッションを行う。	課題に取り組み、次回授業で報告すること	4 時間
第８回	対面	テーマの検討（5） 経営情報に関する発表を行い、調査テーマの検討を行い、教員と履修生がディスカッションを行う。	課題に取り組み、次回授業で報告すること	4 時間
第９回	対面	経営情報に関する時事問題の考察とレポート資料作成指導（1） 個々に調査した内容を発表し、教員と履修生がディスカッションを行い、課題研究のレポート資料作成の指導を行う。	課題に取り組み、次回授業で報告すること	4 時間
第１０回	対面	経営情報に関する時事問題の考察とレポート資料作成指導（2） 個々に調査した内容を発表し、教員と履修生がディスカッションを行い、課題研究のレポート資料作成の指導を行う。	課題に取り組み、次回授業で報告すること	4 時間
第１１回	対面	経営情報に関する時事問題の考察とレポート資料作成指導（3） 個々に調査した内容を発表し、教員と履修生がディスカッションを行い、課題研究のレポート資料作成の指導を行う。	課題に取り組み、次回授業で報告すること	4 時間
第１２回	対面	経営情報に関する時事問題の考察とレポート資料作成指導（4） 個々に調査した内容を発表し、教員と履修生がディスカッションを行い、課題研究のレポート資料作成の指導を行う。	課題に取り組み、次回授業で報告すること	4 時間
第１３回	対面	課題研究中間発表（1） 課題研究を中間発表し、教員と履修生がディスカッションを行い、学修内容の定着と問題点の再検討を行う。	課題に取り組み、次回授業で報告すること	4 時間
第１４回	対面	課題研究中間発表（2） 課題研究を中間発表し、教員と履修生がディスカッションを行い、学修内容の定着と問題点の再検討を行う。	課題に取り組み、次回授業で報告すること	4 時間
第１５回	オンデマンド	総括 授業全体の総括を行う。	授業前後に、授業で配布した資料を読ん復習ておくこと	4 時間

科目名	専門演習ⅢA	開講年度	2025
担当者	赤城　永里子	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	コミュニケーションの面での国際的課題や地域的課題を研究する		
授業の目的及び概要	講義科目等で学修したコミュニケーションに関する知識や理論を国際的課題や地域的課題の課題の所在について分析・考察を行うことで総合的学修を行う。専門演習ⅡA から続けてきたテーマに沿って、履修者各々の研究を完成へと一歩ずつ進めて授業内で報告する。授業内では、その報告に基づいてディスカッションを行い、卒業研究の執筆へとつなげていく。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この授業では、相互に意見を交換しながら、各自が取り組む課題研究を発展させることを目的とする。テーマに関連する参考文献を踏まえて、自信の調査研究を深めていく。課題研究の成果は、授業において報告を行い、履修生間で討論する。授業での取組を通して、これまでの学修で修得した、調査、分析、発表といった一連のプロセスを行う能力と筋道を立てて考える力等を向上させる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	発表資料・レジュメについては発表の 1 週間前にラーニングポータルに提出してもらい、教員が確認・添削を行いフィードバックする。さらに卒業研究については、授業での中間発表後、クラスメイトおよび教員からフィードバックを行う。提出された課題についてもラーニングポータルを通じて、また授業のなかでフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	履修者の卒業研究に応じた論文などを提供する。	ISBN	なし
参考書	なし	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	20
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	40
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	40
その他の内容	学期末に卒業論文の研究概要まで書いたものを提出してもらい、それを評価する。

この科目の受講にあたって	学生ひとりひとりが「問い」を持ち、授業を通じて自分なりの「答え」を探していくような、参加型の講義にしたいと思っているので、授業のなかで感じた疑問や興味は積極的に発言してほしい。 卒業研究を完成させ、卒業論文または卒業レポートにまとめよう。 学期中に発表とレポート提出を求めます。また、発表とレポートが成績付与の条件となります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション 授業の目的や目標、進め方など授業の概要を説明する 。	個人発表の準備：例えば、調査の方法とそのスケジュール	2 時間
第２回	対面	教員や履修生間でのディスカッションにより、個々の調査・分析のテーマを検討する。	個人発表の準備：例えば、調査の方法とそのスケジュール	2 時間
第３回	対面	教員や履修生間でのディスカッションにより、個々の調査・分析のテーマを検討する。	個人発表の準備：例えば、調査の方法とそのスケジュール	2 時間
第４回	対面	教員や履修生間でのディスカッションにより、個々の調査・分析のテーマを検討する。	個人発表の準備：例えば、調査の方法とそのスケジュール	2 時間
第５回	対面	教員や履修生間でのディスカッションにより、個々の調査・分析のテーマを検討する。	個人発表の準備：例えば、調査の方法とそのスケジュール	2 時間
第６回	対面	教員や履修生間でのディスカッションにより、個々の調査・分析のテーマを検討する。	個人発表の準備：例えば、調査の方法とそのスケジュール	2 時間
第７回	オンデマンド	データの分析方法と考察の仕方	中間発表の準備：調査の結果や分析結果など	4 時間
第８回	対面	課題研究の中間発表（１） 課題研究の成果を中間発表し、教員と履修生がディスカッションを行い、学士課程の学修の締めくくりとして取り組む課題研究の成果の作成に向けて検討を行う。	中間発表の準備：調査の結果や分析結果など 授業後は、授業での指摘を受けて、自身の研究の修正を行う	6 時間
第９回	対面	課題研究の中間発表（２） 課題研究の成果を中間発表し、教員と履修生がディスカッションを行い、学士課程の学修の締めくくりとして取り組む課題研究の成果の作成に向けて検討を行う。	中間発表の準備：調査の結果や分析結果など 授業後は、授業での指摘を受けて、自身の研究の修正を行う	6 時間
第１０回	対面	課題研究の中間発表（３） 課題研究の成果を中間発表し、教員と履修生がディスカッションを行い、学士課程の学修の締めくくりとして取り組む課題研究の成果の作成に向けて検討を行う。	中間発表の準備：調査の結果や分析結果など 授業後は、授業での指摘を受けて、自身の研究の修正を行う	6 時間
第１１回	対面	課題研究の中間発表（４） 課題研究の成果を中間発表し、教員と履修生がディスカッションを行い、学士課程の学修の締めくくりとして取り組む課題研究の成果の作成に向けて検討を行う。	中間発表の準備：調査の結果や分析結果など 授業後は、授業での指摘を受けて、自身の研究の修正を行う	6 時間
第１２回	対面	課題研究の中間発表（５） 課題研究の成果を中間発表し、教員と履修生がディスカッションを行い、学士課程の学修の締めくくりとして取り組む課題研究の成果の作成に向けて検討を行う。	中間発表の準備：調査の結果や分析結果など 授業後は、授業での指摘を受けて、自身の研究の修正を行う	6 時間
第１３回	対面	課題研究の中間発表（６） 課題研究の成果を中間発表し、教員と履修生がディスカッションを行い、学士課程の学修の締めくくりとして取り組む課題研究の成果の作成に向けて検討を行う。	中間発表の準備：調査の結果や分析結果など 授業後は、授業での指摘を受けて、自身の研究の修正を行う	6 時間
第１４回	対面	課題研究の中間発表（７） 課題研究の成果を中間発表し、教員と履修生がディスカッションを行い、学士課程の学修の締めくくりとして取り組む課題研	中間発表の準備：調査の結果や分析結果など 授業後は、授業での指摘を受けて、自身の研究の修正を行う	6 時間

		究の成果の作成に向けて検討を行う。		
第１５回	対面	総括 授業全体の総括を行う。	学期中に進んだ箇所を文章化し、論文の作成を進める。（目標は 7000 字程度）	6 時間

科目名	専門演習ⅢA	開講年度	2025
担当者	菅原　絵美	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	人に関わるさまざまなグローバル課題（人種やジェンダーに基づく差別、現代奴隷や児童労働、難民、子ども兵士、気候変動や海洋プラスチック問題など）を国際法の視点から考える。		
授業の目的及び概要	講義科目等で学修した法・政治に関する知識や理論をグローバル課題（人権、環境、国際犯罪、腐敗防止、武力紛争等）の解決に向けた国際的な法政策に対して応用し、分析・考察を行うことで総合的学修を行う。授業の前半では、国際公共政策の内容やしくみについて、個々の履修生が説明を行い、課題研究に向けた調査テーマの検討を行う。授業の後半では、時事の地球的課題に関する国際公共政策に関する調査を行い、課題研究の中間発表に向けて内容をまとめあげる。ディスカッションを通じ、学修内容の定着と問題点の再検討を行い、課題研究のレポートを作成させる。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この授業では、相互に意見を交換しながら、各自が取り組む課題研究を発展させることを目的とする。テーマに関連する文献調査に当たり、それに基づき考察することで、課題研究を深めていく。課題研究の成果は、授業において報告を行い、履修生間で討論する。授業での取組を通して、これまでの学修で修得した、調査、分析、発表といった一連のプロセスを行う能力と筋道を立てて考える力等を向上させる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	発表資料・レジュメについては発表の 1 週間前にラーニングポータルに提出してもらい、教員が確認・添削を行いフィードバックする。さらに卒業研究については、授業での中間発表後、クラスメイトおよび教員からフィードバックを行う。提出された課題についてもラーニングポータルを通じて、また授業のなかでフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定なし。	ISBN	なし
参考書	①新グローバル公共政策（改定第 2 版），庄司真理子・宮脇昇・玉井雅隆（編），晃洋書房，2021 年 ②国際人権法の考え方，川島聡・菅原絵美・山崎公士，法律文化社，2021 年 ③国際条約集，植木俊哉・中谷和弘(編集代表)，有斐閣，2024 年	ISBN	①9784771034648 ②9784589041449 ③9784641001619

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	60
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	40
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	学生ひとりひとりが「問い」を持ち、授業を通じて自分なりの「答え」を探していくような、参加型の講義にしたいと思っているので、授業のなかで感じた疑問や興味は積極的に発言してほしい。 卒業研究のテーマを決定、研究を進め、夏までに研究の完成度８割を目指そう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション 授業の目的や目標、進め方など授業の概要を説明する.	卒業研究のテーマに関するワークシートに記入しラーニングポータルに提出する。また授業で学んだポイントから見直しをシートを再提出する。	4 時間
第２回	対面	卒業論文の進め方（１）	研究テーマに関する文献調査に関するワークシートに記入しラーニングポータルに提出する。また授業で学んだポイントから見直しをシートを再提出する。	4 時間
第３回	対面	卒業論文の進め方（２）	卒業研究のリサーチクエスチョンに関するワークシートに記入しラーニングポータルに提出する。また授業で学んだポイントから見直しをシートを再提出する。	4 時間
第４回	対面	卒業論文の進め方（３）	発表者の発表資料および関連文献をラーニングポータルに掲載するので予習を行う。授業後は、授業での指摘を受けて、自身の研究の修正を行う。	4 時間
第５回	対面	卒業研究の中間発表（１） グローバル課題の解決に向けた国際公共政策に関する発表を行い、調査テーマの検討を行い、教員と履修生がディスカッションを行う。	発表者の発表資料および関連文献をラーニングポータルに掲載するので予習を行う。授業後は、授業での指摘を受けて、自身の研究の修正を行う。	4 時間
第６回	対面	卒業研究の中間発表（２） グローバル課題の解決に向けた国際公共政策に関する発表を行い、調査テーマの検討を行い、教員と履修生がディスカッションを行う。	発表者の発表資料および関連文献をラーニングポータルに掲載するので予習を行う。授業後は、授業での指摘を受けて、自身の研究の修正を行う。	4 時間
第７回	対面	卒業研究の中間発表（３） グローバル課題の解決に向けた国際公共政策に関する発表を行い、調査テーマの検討を行い、教員と履修生がディスカッションを行う。	発表者の発表資料および関連文献をラーニングポータルに掲載するので予習を行う。授業後は、授業での指摘を受けて、自身の研究の修正を行う。	4 時間
第８回	対面	卒業研究の中間発表（４） グローバル課題の解決に向けた国際公共政策に関する発表を行い、調査テーマの検討を行い、教員と履修生がディスカッションを行う。	発表者の発表資料および関連文献をラーニングポータルに掲載するので予習を行う。授業後は、授業での指摘を受けて、自身の研究の修正を行う。	4 時間
第９回	対面	卒業研究の中間発表（５） グローバル課題の解決に向けた国際公共政策に関する発表を行い、調査テーマの検討を行い、教員と履修生がディスカッションを行う。	発表者の発表資料および関連文献をラーニングポータルに掲載するので予習を行う。授業後は、授業での指摘を受けて、自身の研究の修正を行う。	4 時間
第１０回	対面	卒業研究の中間発表（６） グローバル課題の解決に向けた国際公共政策に関する発表を行い、調査テーマの検討を行い、教員と履修生がディスカッションを行う。	発表者の発表資料および関連文献をラーニングポータルに掲載するので予習を行う。授業後は、授業での指摘を受けて、自身の研究の修正を行う。	4 時間
第１１回	対面	卒業研究の中間発表（７） グローバル課題の解決に向けた国際公共政策に関する発表を行い、調査テーマの検討を行い、教員と履修生がディスカッションを行う。	発表者の発表資料および関連文献をラーニングポータルに掲載するので予習を行う。授業後は、授業での指摘を受けて、自身の研究の修正を行う。	4 時間

第１２回	対面	卒業研究の中間発表（８） グローバル課題の解決に向けた国際公共政策に関する発表を行い、調査テーマの検討を行い、教員と履修生がディスカッションを行う。	発表者の発表資料および関連文献をラーニングポータルに掲載するので予習を行う。授業後は、授業での指摘を受けて、自身の研究の修正を行う。	4 時間
第１３回	対面	卒業研究の中間発表（９） グローバル課題の解決に向けた国際公共政策に関する発表を行い、調査テーマの検討を行い、教員と履修生がディスカッションを行う。	発表者の発表資料および関連文献をラーニングポータルに掲載するので予習を行う。授業後は、授業での指摘を受けて、自身の研究の修正を行う。	4 時間
第１４回	対面	卒業研究の中間発表（１０） グローバル課題の解決に向けた国際公共政策に関する発表を行い、調査テーマの検討を行い、教員と履修生がディスカッションを行う。	発表者の発表資料および関連文献をラーニングポータルに掲載するので予習を行う。授業後は、授業での指摘を受けて、自身の研究の修正を行う。	4 時間
第１５回	オンデマンド	総括 授業全体の総括を行う。	夏休みの卒業研究の課題・計画に関するワークシートを記入しラーニングポータルに提出する。授業後は、計画を再確認し、各自卒業研究を進めていく。	4 時間

科目名	専門演習ⅢA	開講年度	2025
担当者	本多　善	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	異文化理解・国際関係学・国際文化学に関する知識や理論からグローバリゼーションと文化について考察する		
授業の目的及び概要	この授業では、「専門演習 IIB」に引き続き、専門分野における特定のテーマに関する知識を学修し、自身の調査・研究に取り組むことによって、テーマの設定、資料調査、分析、そして研究成果の発表にいたるまでの、一連のプロセスを学ぶことを目的とする。履修生は、各自の問題関心に基づき研究を進める。また、グループワークを通して、コミュニケーション能力、協働力とリーダーシップ、課題発見能力等を身につける。		
履修条件・留意点	講義科目等で学修した知識や理論をグローバル社会の諸課題に対して応用し、分析・考察を行うことで総合的学修を行う科目として「演習科目」があります。自らの興味・関心に応じて特定のテーマに関する調査・研究を行い、その過程を通して主体的に行動する態度・志向性を身につけ、創造的思考力の向上を図ります。演習においては、体験型学修やアクティブ・ラーニングを積極的に取り入れ、主体性やチームワーク、リーダーシップ、行動力等の「国際協働力」を身につけます。「演習科目」は、1 年次に「基礎演習 A」、「基礎演習 B」、2 年次に「専門演習ⅠA」、「専門演習ⅠB」、3 年次に「専門演習ⅡA」、「専門演習ⅡB」、4 年次に「専門演習ⅢA」、「専門演習ⅢB」を配当し、グローバル人材に求められる能力を向上させることを重視しつつ、履修指導やキャリア指導も行い、最終的に卒業論文を執筆します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	3 年間で学修した異文化理解・国際関係学・国際文化学に関する知識や理論をグローバリゼーションと文化に対して応用し、分析・考察を行うことができる。 自身の研究テーマに関して、根拠を用いて発表することができる。 他者の研究テーマと発表について、自身の考え方を伝え議論することができる。 自身の発表に向けて内容をまとめあげ、8000 字の卒業論文を執筆する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	グループでの調査については、その方法論と調査方法について、適切なコメントやアドバイスをし、フィードバックをおこなう。また発表・レポートについてはコメントや改善点を提示する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	使用しない。	ISBN	使用しない。
参考書	①書名：'The Sociology Book: Big Ideas Simply Explained'、著者：Sarah Tomley and Mitchell Hobs, 出版社：DK、出版年：2015 ②書名：『質的社会調査の方法：他者の合理性の理解社会学』、著者：岸政彦ほか、出版社：有斐閣、出版年：2016 ③書名：『リキッド化する世界の文化論』、著者：ジグムント・バウマン、訳伊藤茂、出版社：青土社、出版年：2014	ISBN	①978-1465436504 ②978-4641150379 ③978-4791768073
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	

	成果発表（口頭・実技）	30
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	国際関係学、国際文化学、世界の文化的な事象を考察し、自身のテーマから研究を進め卒論完成を目指します。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション： 授業の目的・意義・方法・評価について 世界/国際関係/国際文化の省察 ・指定された章の解説 ・ディスカッション	指定された章を熟読し、発表に向けた準備をおこなう。（所要時間 2 時間） 各自の研究調査（資料調査・論文執筆）をおこなう。（所要 2 時間）	4 時間
第２回	対面	世界/国際関係/国際文化の省察 ・指定された章のグループ発表 ・指定された章の解説 ・ディスカッション ・個人発表	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。（所要時間 1 時間） 指定された章を熟読し、発表に向けた準備をおこなう。（所要時間 1 時間） 各自の研究調査（資料調査・論文執筆）をおこなう。（2 時間）	4 時間
第３回	対面	世界/国際関係/国際文化の省察 ・指定された章のグループ発表 ・指定された章の解説 ・ディスカッション ・個人発表	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。（所要時間 1 時間） 指定された章を熟読し、発表に向けた準備をおこなう。（所要時間 1 時間） 各自の研究調査（資料調査・論文執筆）をおこなう。（所要時間 2 時間）	4 時間
第４回	対面	世界/国際関係/国際文化の省察 ・指定された章のグループ発表 ・指定された章の解説 ・ディスカッション ・個人発表	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。（所要時間 1 時間） 指定された章を熟読し、発表に向けた準備をおこなう。（所要時間 1 時間） 各自の研究調査（資料調査・論文執筆）をおこなう。（2 時間）	4 時間
第５回	対面	世界/国際関係/国際文化の省察 ・指定された章のグループ発表 ・指定された章の解説 ・ディスカッション ・個人発表	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。（所要時間 1 時間） 指定された章を熟読し、発表に向けた準備をおこなう。（所要時間 1 時間） 各自の研究調査（資料調査・論文執筆）をおこなう。（所要時間 2 時間）	4 時間
第６回	対面	質的・量的調査の確認： ・調査の目的と意義 ・仮設の提示 ・調査方法の妥当性 ・分析方法	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。（所要時間 1 時間） 指定された章を熟読し、発表に向けた準備をおこなう。（所要時間 1 時間） 各自の研究調査（資料調査・論文執筆）をおこなう。（所要時間 2 時間）	4 時間
第７回	対面	質的・量的調査の確認： ・調査の目的と意義 ・仮設の提示 ・調査方法の妥当性 ・分析方法 について理解する。	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。（所要時間 1 時間） 指定された章を熟読し、自身の研究及び発表に向けた準備をおこなう。（所要時間 1 時間） 各自の研究調査（資料調査・論文執筆）をおこなう。（所要時間 2 時間）	4 時間

第８回	対面	社会調査及び自身の研究①： 社会調査及び自身の研究発表をおこなう。	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。（所要時間 1 時間） 指定された章を熟読し、発表向に向けた準備をおこなう。（所要時間 1 時間） 各自の研究調査（資料調査・論文執筆）をおこなう。（所要時間 2 時間）	4 時間
第９回	対面	社会調査及び自身の研究②： 社会調査及び自身の発表をおこなう。	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。（所要時間 1 時間） 指定された章を熟読し、社会調査及び発表に向けた準備をおこなう。（所要時間 1 時間） 各自の研究調査（資料調査・論文執筆）をおこなう。（所要時間 2 時間）	4 時間
第１０回	対面	社会調査及び自身の研究③： 社会調査及び自身の発表をおこなう。	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。（所要時間 1 時間） 報告に向けた準備をおこなう。（所要時間 1 時間） 各自の研究調査（資料調査・論文執筆）をおこなう。（所要時間 2 時間）	4 時間
第１１回	対面	社会調査及び自身の研究④： 社会調査及び自身の発表をおこなう。	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。（所要時間 1 時間） 報告に向けた準備をおこなう。（所要時間 1 時間） 各自の研究調査（資料調査・論文執筆）をおこなう。（所要時間 2 時間）	4 時間
第１２回	対面	グローバリゼーションと文化に関する省察	前回授業を復習し、自身の研究と課題を明らかにする。（所要時間 2 時間） 各自の研究調査（資料調査・論文執筆）をおこなう。（所要時間 2 時間）	4 時間
第１３回	対面	グローバリゼーションと文化に関する省察	前回授業を復習し、自身の研究と課題を明らかにする。（所要時間 2 時間） 各自の研究調査（資料調査・論文執筆）をおこなう。（所要時間 2 時間）	4 時間
第１４回	対面	グローバリゼーションと文化に関する省察	前回授業を復習し、自身の研究と課題を明らかにする。（所要時間 2 時間） 各自の研究調査（資料調査・論文執筆）をおこなう。（所要時間 2 時間）	4 時間
第１５回	オンデマンド	グローバリゼーションと文化に関する省察 春学期総括	8000 字のレポートを提出する。	4 時間

科目名	専門演習ⅢA	開講年度	2025
担当者	池上　寛	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	アジア各国・地域に関する諸問題についての要因や課題について卒業論文として取りまとめる		
授業の目的及び概要	専門演習ⅢA・B では、専門演習ⅡA・B を通じて決めた卒業論文の課題について、研究を進めて卒業研究としてまとめることを目的にします。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	学生本人が決めた卒業研究のテーマに関して統計について収集し、分析できるようにすること テーマに関する文献を収集し、検討を加えるようにすること 卒業論文を取りまとめること		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業時間中、あるいは授業時間外に行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、JETRO・アジア経済研究所で 25 年以上に渡って調査研究職に従事しており、その間、在台北海外研究員、研究グループ長代理などを歴任している。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	個別対応とし、特に指定しない。	ISBN	なし
参考書	個別対応とし、特に指定しない。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	40	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	理由なく欠席しないこと。 欠席する場合は、必ず連絡すること。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション 秋学期を振り返るとともに、卒業研究提出までのスケジュールの確認	卒業研究の進捗状況についてまとめておいてください。	4 時間
第２回	対面	卒業研究の進行状況についての発表と議論（１）	学生それぞれの卒業研究を進めるとともに、その状況についてまとめておくこと。	4 時間
第３回	対面	卒業研究の進行状況についての発表と議論（２）	学生それぞれの卒業研究を進めるとともに、その状況についてまとめておくこと。	4 時間

第４回	対面	卒業研究の進行状況についての発表と議論（３）	学生それぞれの卒業研究を進めるとともに、その状況についてまとめておくこと。	４時間
第５回	対面	卒業研究の進行状況についての発表と議論（４）	学生それぞれの卒業研究を進めるとともに、その状況についてまとめておくこと。	４時間
第６回	対面	卒業研究の進行状況についての発表と議論（５）	学生それぞれの卒業研究を進めるとともに、その状況についてまとめておくこと。	４時間
第７回	対面	卒業研究の進行状況についての発表と議論（６）	学生それぞれの卒業研究を進めるとともに、その状況についてまとめておくこと。	４時間
第８回	対面	卒業研究の進行状況についての発表と議論（７）	学生それぞれの卒業研究を進めるとともに、その状況についてまとめておくこと。	４時間
第９回	対面	卒業研究の進行状況についての発表と議論（８）	学生それぞれの卒業研究を進めるとともに、その状況についてまとめておくこと。	４時間
第１０回	対面	卒業研究の進行状況についての発表と議論（９）	学生それぞれの卒業研究を進めるとともに、その状況についてまとめておくこと。	４時間
第１１回	対面	卒業研究の進行状況についての発表と議論（１０）	学生それぞれの卒業研究を進めるとともに、その状況についてまとめておくこと。	４時間
第１２回	対面	卒業研究の進行状況についての発表と議論（１１）	学生それぞれの卒業研究を進めるとともに、その状況についてまとめておくこと。	４時間
第１３回	対面	今後の卒業研究の進め方について（１）	卒業研究に関して、夏休みに何をする予定かをまとめておいてください。	４時間
第１４回	対面	今後の卒業研究の進め方について（２）	卒業研究に関して、夏休みに何をする予定かをまとめておいてください。	４時間
第１５回	オンデマンド	論文の執筆ルールについて	事前に配布する卒業研究のルールについてよく読み、卒業研究の執筆をしてください。	４時間

科目名	専門演習ⅢA	開講年度	2025
担当者	ミルズ・ジョナサン	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日本文化および比較文化について学修する。		
授業の目的及び概要	この授業は、「専門演習ⅡB」に引き続き、各自が取り組むテーマを絞り込んでいくとともに考察を深めていくことを目的とする。現代はグローバル社会が進んでおり、国境を越えたやり取りが年々増えています。これから日本の職場で活動する人にとっては、日本文化の特徴をより深く理解し、かつ外国人に対して英語で説明することは非常に重要な課題です。この専門演習では、日本文化の特徴について考えます。現在の文化の現象もちろん、近代以前の時代の文化も視野に入れ、より深く考えます。また、国際共修の観点から、他国（または自国）の文化との比較を行います。この演習は主に英語で行われます。教材は、日本文化に関する文献からの文章を精読し、英語でのペアワーク、グループワーク、学生発表等を実施します。この専門演習の学修と実践を通じて、現代の職場に求められている強い「異文化理解力」も築くことを望んでいます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	授業の前半では、日本文化・比較文化に関する教材に基づいて個々の履修生が説明を行う。授業の後半では、グループに分かれ、特定のテーマに関する調査を行い、発表に向けて内容をまとめあげる。グループディスカッション等のグループでの取組を通して、主体性やチームワーク、リーダーシップ等を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業内および授業時間前後に個別にフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	Japanese Popular Culture in English: Discussions and Critical Thinking, Robert Sheridan et al., 南雲堂, 2024.（通年使用。）	ISBN	9784523179641
参考書	なし。	ISBN	なし。

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	40
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	40
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	４年間の集大成である卒業論文の執筆に励んでいただきたい。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション 授業の目的や目標、進め方など授業の概要を説明する。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2 時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2 時間程度）。	4 時間
第２回	対面	発表方法 調査した内容をまとめあげ、発表する方法を検討する。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2 時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2 時間程度）。	4 時間
第３回	対面	発表方法 調査した内容をまとめあげ、発表する方法を検討する。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2 時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2 時間程度）。	4 時間
第４回	対面	日本文化、比較文化に関する発表を行い、調査テーマの検討を行い、教員と履修生がディスカッションを行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2 時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2 時間程度）。	4 時間
第５回	対面	日本文化、比較文化に関する発表を行い、調査テーマの検討を行い、教員と履修生がディスカッションを行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2 時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2 時間程度）。	4 時間
第６回	対面	日本文化、比較文化に関する発表を行い、調査テーマの検討を行い、教員と履修生がディスカッションを行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2 時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2 時間程度）。	4 時間
第７回	対面	日本文化、比較文化に関する発表を行い、調査テーマの検討を行い、教員と履修生がディスカッションを行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2 時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2 時間程度）。	4 時間
第８回	対面	日本文化、比較文化に関する発表を行い、調査テーマの検討を行い、教員と履修生がディスカッションを行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2 時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2 時間程度）。	4 時間
第９回	対面	個々に調査した内容を発表し、教員と履修生がディスカッションを行い、課題研究のレポート作成の指導を行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2 時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2 時間程度）。	4 時間
第１０回	対面	個々に調査した内容を発表し、教員と履修生がディスカッションを行い、課題研究のレポート作成の指導を行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2 時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2 時間程度）。	4 時間
第１１回	対面	個々に調査した内容を発表し、教員と履修生がディスカッションを行い、課題研究のレポート作成の指導を行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2 時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2 時間程度）。	4 時間
第１２回	対面	個々に調査した内容を発表し、教員と履修生がディスカッションを行い、課題研究のレポート作成の指導を行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2 時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2 時間程度）。	4 時間
第１３回	対面	課題研究を発表し、教員と履修生がディスカッションを行い、学修内容の定着と問題点の再検討を行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2 時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2 時間程度）。	4 時間
第１４回	対面	課題研究を発表し、教員と履修生がディスカッションを行い、学修内容の定着と問題	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2 時間程度）。	4 時間

		点の再検討を行う。	教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2 時間程度）。	
第１５回	オンデマンド	授業全体の総括を行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2 時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2 時間程度）。	4 時間

科目名	専門演習ⅢA	開講年度	2025
担当者	金子　治平	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	卒業研究を行い，各国の経済発展の要因・現状・課題に関する卒寮研究論文を執筆する		
授業の目的及び概要	専門演習ⅢA･B では，専門演習ⅡA･B で各自が決定した卒業研究の課題についての研究を進め，卒業研究論文を執筆することを目的とします． とくにデータの扱いやアンケート調査について学びたい学生には，授業時間外に学習を行いますので申し出てください．		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	自ら卒業研究のテーマに関係する文献を収集し，批判的に読解することができる 自ら卒業研究のテーマに関係するデータを収集し，分析することができる 卒業研究論文を執筆することができる		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業内および授業時間外に，グループあるいは個別にフィードバックします．		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特定のテキストは使用しない予定ですが，必要に応じて授業内で指示させていただきます．	ISBN	なし
参考書	必要があれば，授業中に紹介します．	ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	60
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	40
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって
・授業には必ず出席してください． ・やむをえず欠席する場合には，直前でもいいので事前に連絡してください． ・出席しなかった場合には，次回までに補習を行いますので出席してください．

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション 秋学期の専門演習ⅡB を振り返るとともに，これからの研究の進め方について説明します．	事前学習として，春休み中に，卒業研究に関連して行ったことをまとめておいてください．	4 時間
第２回	対面	卒業研究の進捗状況の発表と検討（１）	事前学習として，各自の卒業研究の進捗状況につい	4 時間

			てまとめておいてください.	
第３回	対面	卒業研究の進捗状況の発表と検討（２）	事前学習として，各自の卒業研究を進展させて，各自の卒業研究の進捗状況についてまとめておいてください.	4 時間
第４回	対面	卒業研究の進捗状況の発表と検討（３）	事前学習として，各自の卒業研究を進展させて，各自の卒業研究の進捗状況についてまとめておいてください.	4 時間
第５回	対面	卒業研究の進捗状況の発表と検討（４）	事前学習として，各自の卒業研究を進展させて，各自の卒業研究の進捗状況についてまとめておいてください.	4 時間
第６回	対面	卒業研究の進捗状況の発表と検討（５）	事前学習として，各自の卒業研究を進展させて，各自の卒業研究の進捗状況についてまとめておいてください.	4 時間
第７回	対面	卒業研究の進捗状況の発表と検討（６）	事前学習として，各自の卒業研究を進展させて，各自の卒業研究の進捗状況についてまとめておいてください.	4 時間
第８回	対面	卒業研究の進捗状況の発表と検討（７）	事前学習として，各自の卒業研究を進展させて，各自の卒業研究の進捗状況についてまとめておいてください.	4 時間
第９回	対面	卒業研究の進捗状況の発表と検討（８）	事前学習として，各自の卒業研究を進展させて，各自の卒業研究の進捗状況についてまとめておいてください.	4 時間
第１０回	対面	卒業研究の進捗状況の発表と検討（９）	事前学習として，各自の卒業研究を進展させて，各自の卒業研究の進捗状況についてまとめておいてください.	4 時間
第１１回	対面	卒業研究の進捗状況の発表と検討（１０）	事前学習として，各自の卒業研究を進展させて，各自の卒業研究の進捗状況についてまとめておいてください.	4 時間
第１２回	対面	卒業研究の進捗状況の発表と検討（１１）	事前学習として，各自の卒業研究を進展させて，各自の卒業研究の進捗状況についてまとめておいてください.	4 時間
第１３回	対面	夏休みに向けての卒業研究の進め方の検討（1）	事前学習として，各自の卒業研究を進展させて，各自の卒業研究の進捗状況についてまとめて，夏休み中に何をすべきかをまとめておいてください.	4 時間
第１４回	対面	夏休みに向けての卒業研究の進め方の検討（2）	事前学習として，各自の卒業研究を進展させて，各自の卒業研究の進捗状況についてまとめて，夏休み中に何をすべきかをまとめておいてください.	4 時間
第１５回	オンデマンド	卒業研究の執筆方法についての説明	事前学習として，各自の卒業研究を進展させて，各自の卒業研究の進捗状況についてまとめて，夏休み中に何をすべきかをまとめておいてください.	4 時間

科目名	専門演習ⅢA	開講年度	2025
担当者	張　雪斌	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	国際政治学の理論と現実を学ぶ		
授業の目的及び概要	本演習は国際政治学の観点からさまざまな国際問題を分析し、国際社会の過去、現在と未来について学ぶ。演習の中心的な分析対象はアジア太平洋地域の国際関係だが、それ以外の地域や新領域の国際問題（サイバーセキュリティなど）についても扱う。 　国際政治学、とりわけ東アジアの国際関係は私たちの生活に深く関連している。グローバリゼーションが深化している今日では、公的機関や企業の活動だけでなく、我々個人の安全と安心も国際情勢の変動に影響されている。日々起こっている時事問題を知ることが極めて重要だが、情報を手に入れるだけでは国際政治を理解できるわけではない。本演習では、受講者は国際政治学の専門書や論文集を講読し、ディスカッションを重ねることで国際政治に関連する知識を学ぶのと同時に国際政治学の分析手法を習得する。 　受講者の理解度と要望に合わせて、内容を調整する可能性がある。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・国際政治の過去、現在と未来に関する基本的な知識を身につけること ・国際政治学の基本的な分析手法を理解し、習得すること ・国際社会におけるさまざまな課題の存在を認識し、批判的に分析できること ・積極的な学修姿勢を身に着け、専門的なアカデミックスキルを応用できること		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・授業中や授業終了後に質疑応答の時間を設ける ・Microsoft Teams を活用して受講者と情報共有や個別指導を行う ・必要な場合は補足資料を配布（あるいはラーニングポータルで公開）し、参考資料、文献を紹介する		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	日本国際政治学会学会誌『国際政治』各号（購入する必要がありません） ・受講者が発表で使用する論文を選択し、クラスメイトと情報を共有する ・新たな文献を追加する場合は受講者と相談して決定する ＊『国際政治』刊行後 2 年以降の号の論文については以下のウェブサイトで自由にダウンロードし、読むことができます。刊行２年以内の論文に関しては直接担当者に相談してください。 https://www.jstage.jst.go.jp/browse/kokusaiseiji/-char/ja	ISBN	0454-2215 （International Standard Serial Number）
参考書	国際政治学，中西寛、石田淳、田所昌幸，有斐閣，2013 年	ISBN	978-4641053786
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	

	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	40
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	・普段積極的に国際政治に関連する新聞記事、書籍や論文を読むこと	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション 授業の概要、目的、教材について説明する。	授業の概要とテキスト『国際政治』の内容を確認し、予習を行う	2 時間
第２回	対面	班分け、発表内容の確認、卒業研究進捗確認	・授業の概要とテキスト『国際政治』の内容を確認し、予習、復習を行う ・発表の日程を確定し、卒業研究の内容に合わせて発表論文を決定する ・論文の内容を読み、発表の準備を行う ・卒業研究の進捗を確認し、卒業研究を進める	4 時間
第３回	対面	卒業研究、卒業論文の進め方について	・授業の概要とテキスト『国際政治』の内容を確認し、予習、復習を行う ・発表の日程を確定し、卒業研究の内容に合わせて発表論文を決定する ・論文の内容を読み、発表の準備を行う ・卒業研究の進捗を確認し、卒業研究を進める	4 時間
第４回	対面	受講者発表・ディスカッション	・授業の概要とテキスト『国際政治』の内容を確認し、予習、復習を行う ・発表の日程を確定し、卒業研究の内容に合わせて発表論文を決定する ・論文の内容を読み、発表の準備を行う ・卒業研究の進捗を確認し、卒業研究を進める	4 時間
第５回	対面	受講者発表・ディスカッション	・授業の概要とテキスト『国際政治』の内容を確認し、予習、復習を行う ・発表の日程を確定し、卒業研究の内容に合わせて発表論文を決定する ・論文の内容を読み、発表の準備を行う ・卒業研究の進捗を確認し、卒業研究を進める	4 時間
第６回	対面	受講者発表・ディスカッション	・授業の概要とテキスト『国際政治』の内容を確認し、予習、復習を行う ・発表の日程を確定し、卒業研究の内容に合わせて発表論文を決定する ・論文の内容を読み、発表の準備を行う ・卒業研究の進捗を確認し、卒業研究を進める	4 時間
第７回	対面	受講者発表・ディスカッション	・授業の概要とテキスト『国際政治』の内容を確認し、予習、復習を行う ・発表の日程を確定し、卒業研究の内容に合わせて発表論文を決定する ・論文の内容を読み、発表の準備を行う ・卒業研究の進捗を確認し、卒業研究を進める	4 時間
第８回	対面	受講者発表・ディスカッション	・授業の概要とテキスト『国際政治』の内容を確認し、予習、復習を行う ・発表の日程を確定し、卒業研究の内容に合わせて発表論文を決定する ・論文の内容を読み、発表の準備を行う	4 時間

			・卒業研究の進捗を確認し、卒業研究を進める	
第９回	対面	受講者発表・ディスカッション	・授業の概要とテキスト『国際政治』の内容を確認し、予習、復習を行う ・発表の日程を確定し、卒業研究の内容に合わせて発表論文を決定する ・論文の内容を読み、発表の準備を行う ・卒業研究の進捗を確認し、卒業研究を進める	4 時間
第１０回	対面	受講者発表・ディスカッション	・授業の概要とテキスト『国際政治』の内容を確認し、予習、復習を行う ・発表の日程を確定し、卒業研究の内容に合わせて発表論文を決定する ・論文の内容を読み、発表の準備を行う ・卒業研究の進捗を確認し、卒業研究を進める	4 時間
第１１回	対面	受講者発表・ディスカッション	・授業の概要とテキスト『国際政治』の内容を確認し、予習、復習を行う ・発表の日程を確定し、卒業研究の内容に合わせて発表論文を決定する ・論文の内容を読み、発表の準備を行う ・卒業研究の進捗を確認し、卒業研究を進める	4 時間
第１２回	対面	受講者発表・ディスカッション	・授業の概要とテキスト『国際政治』の内容を確認し、予習、復習を行う ・発表の日程を確定し、卒業研究の内容に合わせて発表論文を決定する ・論文の内容を読み、発表の準備を行う ・卒業研究の進捗を確認し、卒業研究を進める	4 時間
第１３回	対面	受講者発表・ディスカッション	・授業の概要とテキスト『国際政治』の内容を確認し、予習、復習を行う ・発表の日程を確定し、卒業研究の内容に合わせて発表論文を決定する ・論文の内容を読み、発表の準備を行う ・卒業研究の進捗を確認し、卒業研究を進める	4 時間
第１４回	対面	受講者発表・ディスカッション	・授業の概要とテキスト『国際政治』の内容を確認し、予習、復習を行う ・発表の日程を確定し、卒業研究の内容に合わせて発表論文を決定する ・論文の内容を読み、発表の準備を行う ・卒業研究の進捗を確認し、卒業研究を進める	4 時間
第１５回	オンデマンド	授業のまとめ、質疑応答	・授業の復習を行う ・卒業研究の進捗を確認し、卒業研究を進める	4 時間

科目名	専門演習ⅢA	開講年度	2025
担当者	高砂　謙二	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	卒業研究を行い、グローバルビジネスにおける金融に問題に関する卒寮研究論文を執筆する。		
授業の目的及び概要	この授業では、相互に意見を交換しながら、各自が取り組む課題研究を発展させることを目的とする。テーマに関連する文献調査に当たり、それに基づき考察することで、課題研究を深めていく。課題研究の成果は、授業において報告を行い、履修生間で討論する。授業での取組を通して、これまでの学修で修得した、調査、分析、発表といった一連のプロセスを行う能力と筋道を立てて考える力等を向上させる。授業では、教員が履修生とのコミュニケーションを十分に図りながら、社会に対する視野を拡げ、課題発見能力を涵養する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	講義科目等で学修した知識や理論をグローバルビジネスにおける金融についての諸課題に対して応用し、分析・考察を行うことで理解を深める。 特定のテーマに関する調査を行い、発表に向けて内容をまとめあげるために、グループディスカッション等のグループでの取組を通して、主体性やチームワーク、リーダーシップ等を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業内および授業時間外に個別にフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、金融機関において営業店や外国部、審査部、経営企画等で 16 年間勤務し、銀行業務全般や国際業務（外国為替リーディング業務、外為与信審査業務、国際経営・貿易相談業務、輸出入貿易書類点検業務）、法務・市場調査・広報等の実務経験を積んできた。本科目では、国際的なマーケットの実態や外国為替相場の特性などについて、こうした実務経験を活かして解説するなど、実践的な教育を行う。		
テキスト	テキストは指定しないが、参考書を読んで、授業内容の理解を深めること。	ISBN	なし
参考書	①はじめて学ぶ金融のしくみ(第 4 版)，家森信善，中央経済社	ISBN	①4502480207

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	60
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	40
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	・授業には必ず出席してください。 ・やむをえず欠席する場合には、事前に連絡してください。 ・出席しなかった場合には、次回までに補充学修を行い、出席してください。

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第１回	対面	イントロダクション 授業の目的や目標、進め方など授業の概要を説明する 。	【予習】事前学修として、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。 【復習】事後学修として、授業で確認された重要ポイントを中心に参考書、ノートを読み返し、復習すること。	4 時間
第２回	対面	調査方法 文献資料収集や調査の方法について検討する。	【予習】事前学修として、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。 【復習】事後学修として、授業で確認された重要ポイントを中心に参考書、ノートを読み返し、復習すること。	4 時間
第３回	対面	発表方法 調査した内容をまとめあげ、発表する方法を検討する。	【予習】事前学修として、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。 【復習】事後学修として、授業で確認された重要ポイントを中心に参考書、ノートを読み返し、復習すること。	4 時間
第４回	対面	テーマの検討（1） 経営情報に関する発表を行い、調査テーマの検討を行い、教員と履修生がディスカッションを行う。	【予習】事前学修として、課題に取り組み、次回授業で報告すること。 【復習】事後学修として、授業で確認された重要ポイントを中心に参考書、ノートを読み返し、復習すること。	4 時間
第５回	対面	テーマの検討（2） 経営情報に関する発表を行い、調査テーマの検討を行い、教員と履修生がディスカッションを行う。	【予習】事前学修として、課題に取り組み、次回授業で報告すること。 【復習】事後学修として、授業で確認された重要ポイントを中心に参考書、ノートを読み返し、復習すること。	4 時間
第６回	対面	テーマの検討（3） 金融に関する発表を行い、調査テーマの検討を行い、教員と履修生がディスカッションを行う。	【予習】事前学修として、課題に取り組み、次回授業で報告すること。 【復習】事後学修として、授業で確認された重要ポイントを中心に参考書、ノートを読み返し、復習すること。	4 時間
第７回	対面	テーマの検討（4） 金融に関する発表を行い、調査テーマの検討を行い、教員と履修生がディスカッションを行う。	【予習】事前学修として、課題に取り組み、次回授業で報告すること。 【復習】事後学修として、授業で確認された重要ポイントを中心に参考書、ノートを読み返し、復習すること。	4 時間
第８回	対面	テーマの検討（5） 金融に関する発表を行い、調査テーマの検討を行い、教員と履修生がディスカッションを行う。	【予習】事前学修として、課題に取り組み、次回授業で報告すること。 【復習】事後学修として、授業で確認された重要ポイントを中心に参考書、ノートを読み返し、復習すること。	4 時間
第９回	対面	金融に関する時事問題の考察とレポート資料作成指導（1） 個々に調査した内容を発表し、教員と履修生がディスカッションを行い、課題研究のレポート資料作成の指導を行う。	【予習】事前学修として、課題に取り組み、次回授業で報告すること。 【復習】事後学修として、授業で確認された重要ポイントを中心に参考書、ノートを読み返し、復習すること。	4 時間
第１０回	対面	金融に関する時事問題の考察とレポート資料作成指導（2） 個々に調査した内容を発表し、教員と履修生がディスカッションを行い、課題研究のレポート資料作成の指導を行う。	【予習】事前学修として、課題に取り組み、次回授業で報告すること。 【復習】事後学修として、授業で確認された重要ポイントを中心に参考書、ノートを読み返し、復習すること。	4 時間
第１１回	対面	金融に関する時事問題の考察とレポート資料作成指導（3） 個々に調査した内容を発表し、教員と履修生がディスカッションを行い、課題研究のレポート資料作成の指導を行う。	【予習】事前学修として、課題に取り組み、次回授業で報告すること。 【復習】事後学修として、授業で確認された重要ポイントを中心に参考書、ノートを読み返し、復習すること。	4 時間

第１２回	対面	金融に関する時事問題の考察とレポート資料作成指導（4） 個々に調査した内容を発表し、教員と履修生がディスカッションを行い、課題研究のレポート資料作成の指導を行う。	【予習】事前学修として、課題に取り組み、次回授業で報告すること。 【復習】事後学修として、授業で確認された重要ポイントを中心に参考書、ノートを読み返し、復習すること。	4 時間
第１３回	対面	課題研究中間発表（1） 課題研究を中間発表し、教員と履修生がディスカッションを行い、学修内容の定着と問題点の再検討を行う。	【予習】事前学修として、課題に取り組み、次回授業で報告すること。 【復習】事後学修として、授業で確認された重要ポイントを中心に参考書、ノートを読み返し、復習すること。	4 時間
第１４回	対面	課題研究中間発表（2） 課題研究を中間発表し、教員と履修生がディスカッションを行い、学修内容の定着と問題点の再検討を行う。	【予習】事前学修として、課題に取り組み、次回授業で報告すること。 【復習】事後学修として、授業で確認された重要ポイントを中心に参考書、ノートを読み返し、復習すること。	4 時間
第１５回	オンデマンド	総括 授業全体の総括を行う。	【予習】事前学修として、課題に取り組み、次回授業で報告すること。 【復習】事後学修として、授業で確認された重要ポイントを中心に参考書、ノートを読み返し、復習すること。	4 時間

科目名	専門演習ⅢA	開講年度	2025
担当者	中西　亮太	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	言語そのものを研究対象として扱う言語学の観点から、言語にまつわる諸問題を研究する。		
授業の目的及び概要	今までに履修した講義科目等で学修した言語学に関する知識や理論を言語にまつわる諸問題に応用することで学術的な研究を進め、専門演習Ⅱから研究を進めてきたテーマに基づいて履修者それぞれの卒業研究の完成を目指す。授業ではその成果を適宜報告し、ディスカッション等を通じてより質の高い卒業論文の執筆へとつなげる。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	専門演習Ⅱから続けてきた研究を進め、より発展的な卒業研究な行うことを目的とする。これまでの学修で培ったさまざまな知識や理論を実践的に応用し、学生一人ひとりの課題に応じた分析や考察を行う力とそれを一つの成果としてまとめる力を養う。また、授業中のグループでの取り組みを通して、主体性や協働性、リーダーシップ等を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	卒業研究については、理論や分析・考察方法に対して適切なコメントやアドバイスをし、フィードバックを行う。また、発表・レポートについてはコメントや改善点を提示する形でフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	適宜論文等の文献資料を配布する。	ISBN	なし
参考書	なし	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	30
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	30
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	40
その他の内容	卒業研究報告レポート 40%

この科目の受講にあたって	
	授業でのさまざまなテーマのディスカッションや意見交換を通して、世界中の様々な言語そのものや言語にまつわる現象に対して熱心に取り組むことを期待します。学生一人ひとりが「問い」を持ち、授業を通じて自分ならではの「答え」を探していくことを期待します。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション（授業の目的や目標、進め方などの概要を説明する）	発表の準備（資料調査、論点や研究の整理、レジュメ作成など）	4 時間
第２回	対面	全体でのディスカッションを通じた個々	発表の準備（資料調査、論点や研究の整理、レジュメ	4 時間

		人の調査・研究の検討（1）	作成など）	
第３回	対面	全体でのディスカッションを通じた個々人の調査・研究の検討（2）	発表の準備（資料調査、論点や研究の整理、レジュメ作成など）	4 時間
第４回	対面	全体でのディスカッションを通じた個々人の調査・研究の検討（3）	発表の準備（資料調査、論点や研究の整理、レジュメ作成など）	4 時間
第５回	対面	全体でのディスカッションを通じた個々人の調査・研究の検討（4）	発表の準備（資料調査、論点や研究の整理、レジュメ作成など）	4 時間
第６回	対面	卒業研究中間発表について	卒業研究中間発表に向けた準備（論点整理やレジュメ作成など）	4 時間
第７回	対面	全体でのディスカッションを通じた個々人の調査・研究の検討（5）	発表の準備（資料調査、論点や研究の整理、レジュメ作成など）	4 時間
第８回	対面	卒業研究中間発表（1）	発表の準備（資料調査、論点や研究の整理、レジュメ作成など） 授業後は、授業中に受けた質問や指摘、コメントを踏まえて卒業研究の修正と推敲を行う。	4 時間
第９回	対面	卒業研究中間発表（2）	発表の準備（資料調査、論点や研究の整理、レジュメ作成など） 授業後は、授業中に受けた質問や指摘、コメントを踏まえて卒業研究の修正と推敲を行う。	4 時間
第１０回	対面	卒業研究中間発表（3）	発表の準備（資料調査、論点や研究の整理、レジュメ作成など） 授業後は、授業中に受けた質問や指摘、コメントを踏まえて卒業研究の修正と推敲を行う。	4 時間
第１１回	対面	卒業研究中間発表（4）	発表の準備（資料調査、論点や研究の整理、レジュメ作成など） 授業後は、授業中に受けた質問や指摘、コメントを踏まえて卒業研究の修正と推敲を行う。	4 時間
第１２回	対面	卒業研究中間発表（4）	発表の準備（資料調査、論点や研究の整理、レジュメ作成など） 授業後は、授業中に受けた質問や指摘、コメントを踏まえて卒業研究の修正と推敲を行う。	4 時間
第１３回	対面	卒業研究中間発表（5）	発表の準備（資料調査、論点や研究の整理、レジュメ作成など） 授業後は、授業中に受けた質問や指摘、コメントを踏まえて卒業研究の修正と推敲を行う。	4 時間
第１４回	対面	卒業研究中間発表（6）	発表の準備（資料調査、論点や研究の整理、レジュメ作成など） 授業後は、授業中に受けた質問や指摘、コメントを踏まえて卒業研究の修正と推敲を行う。	4 時間
第１５回	オンデマンド	卒業研究中間発表と授業全体の総括	授業での取り組みと総括を通して卒業研究を再整理し、卒業論文の執筆を進める（約 8000 字）。	4 時間

科目名	専門演習ⅢA	開講年度	2025
担当者	田中　慎吾	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	講和と安保の検討		
授業の目的及び概要	3 年次演習から引き続き本演習では、講和と安保について国際政治学の立場から検討する。とりわけ最終学年の本演習では卒業研究の完遂を一大目的とする。そのため 15 回の内、前半においては卒業研究のテーマを設定し、先行研究の読み込みを行う。そして読み込んだ各自の先行研究の概要について発表してもらい、その理解度を試問する。中間期以降は卒業研究の中間発表を行ってもらう。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・自らの卒業研究をどのように進めれば良いのかを理解し、着実に前に進めることができる。 ・他人の研究発表を真摯に聞くことができるようになり、その上で、単に批判するだけではない建設的な意見を述べれるようになる。 ・戦争と平和について包括な知識を獲得し、自らの意見を持てるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	全ての発表・レジュメについて演習内で教員が演習内でフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定なし	ISBN	指定なし
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	40
授業期間中の小テスト、レポート課題等	60
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	
	就職活動などで忙しいとは思うものの、学生最後の学びの集大成である卒業研究の着実な完遂のため、毎回の演習に出席をすること。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	オリエンテーション（今学期の進め方、目標、評価方法などについて）	配布資料を見直す	6 時間
第２回	対面	卒業研究(論文･レポ゜ート)の要件と進め方(1)	配布資料を見直す 先行研究の読み込み	4 時間

		先行研究の調査と入手		
第３回	対面	卒業研究(論文・レポ゜ート)の進め方(2) 卒業研究のテーマと問いの設定	配布資料を見直す 先行研究の読み込み	4 時間
第４回	対面	先行研究発表１	事前；クラスメイトが発表する対象研究の読み込み 事後；配布資料を見直す	4 時間
第５回	対面	先行研究発表２	事前；クラスメイトが発表する対象研究の読み込み 事後；配布資料を見直す	4 時間
第６回	対面	先行研究発表３	事前；クラスメイトが発表する対象研究の読み込み 事後；配布資料を見直す	4 時間
第７回	対面	先行研究発表４	事前；クラスメイトが発表する対象研究の読み込み 事後；配布資料を見直す	4 時間
第８回	対面	先行研究発表５	事前；クラスメイトが発表する対象研究の読み込み 事後；配布資料を見直す	4 時間
第９回	対面	卒業研究の問いの見直しとアウトラインの作成	配布資料を見直す	4 時間
第１０回	対面	中間発表１	事前；クラスメイトが発表するレジュメの読み込み 事後；配布資料を見直す配布資料を見直す	4 時間
第１１回	対面	中間発表２	事前；クラスメイトが発表するレジュメの読み込み 事後；配布資料を見直す配布資料を見直す	4 時間
第１２回	対面	中間発表３	事前；クラスメイトが発表するレジュメの読み込み 事後；配布資料を見直す配布資料を見直す	4 時間
第１３回	対面	中間発表４	事前；クラスメイトが発表するレジュメの読み込み 事後；配布資料を見直す配布資料を見直す	4 時間
第１４回	対面	中間発表５	事前；クラスメイトが発表するレジュメの読み込み 事後；配布資料を見直す配布資料を見直す	4 時間
第１５回	オンデマンド	演習の総括	配布資料の読み込み	4 時間

科目名	専門演習ⅢA	開講年度	2025
担当者	伍　躍	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	グローバル・ヒストリー(global history)の観点から政治・経済・社会を学修する。		
授業の目的及び概要	専門演習ⅡのAとBの内容に基づいて、歴史の視点から現代アジアの諸課題を学び、分析・考察を通して各自が取り組む課題研究を発展させることを目的とする。テーマに関連する文献調査を調査し、それに基づき考察することで、課題研究を深めていく。課題研究の成果は、授業において報告（個人かグループ）を行い、教員による指導のもと履修生間で討論を行う。		
履修条件・留意点			
DPとの関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下のURLから確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①現代アジアの諸課題を観察して、歴史の視点で理解し自らの見解をまとめることができる。 ②特定のテーマに関する調査・研究を行い、国際社会の多様性、異なる価値観や文化的背景をもつ他者との協働に資する有為な論点や処方を獲得することができる。 ③プレゼン力・協働力のさらなる向上を目指す。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	①提出物（コメントペーパーやレポート）は次回以降の授業で返却し、演習内で他の学生を交えて意見交換を行う。 ②ラーニング・ポータルのディスカッション機能を含むICT手段を活用する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	不使用	ISBN	なし
参考書	吉澤誠一郎編『論点・東洋史学:アジア・アフリカへの問い』、ミネルヴァ書房、2021	ISBN	978-4623092178

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	50
授業期間中の小テスト、レポート課題等	50
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	0

この科目の受講にあたって
大学における学修生活４年間の集大成と記念としての卒業論文の執筆に励んでいただきたい。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション	復習：配布資料をもとに、本学期のスケジュールを確認し、自らの履修計画を考える（2時間程度） 予習：配布資料をもとに、資料調査・収集のポイント	4時間

			を事前に確認する（2 時間程度）	
第２回	対面	図書資料･先行研究についての収集や調査入手の方法	復習：配布資料をもとに、資料調査・収集のポイントを再確認する（2 時間程度） 予習：配布資料をもとに、研究課題の選定／調整を行う（2 時間程度）	4 時間
第３回	対面	①現代アジアの諸課題に関する調査テーマの検討をする。 ②上記①のテーマについて、教員が先行研究調査と資料収集の指導を行う。 ③履修者が上記①のテーマについての発表を行い、教員と履修生がディスカッションをする。	復習：教員が指定した資料を使って事後学修すること （2 時間程度）。 予習：教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2 時間程度）。	4 時間
第４回	対面	①現代アジアの諸課題に関する調査テーマの検討をする。 ②上記①のテーマについて、教員が先行研究調査と資料収集の指導を行う。 ③履修者が上記①のテーマについての発表を行い、教員と履修生がディスカッションをする。	復習：教員が指定した資料を使って事後学修すること （2 時間程度）。 予習：教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2 時間程度）。	4 時間
第５回	対面	①現代アジアの諸課題に関する調査テーマの検討をする。 ②上記①のテーマについて、教員が先行研究調査と資料収集の指導を行う。 ③履修者が上記①のテーマについての発表を行い、教員と履修生がディスカッションをする。	復習：教員が指定した資料を使って事後学修すること （2 時間程度）。 予習：教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2 時間程度）。	4 時間
第６回	対面	①現代アジアの諸課題に関する調査テーマの検討をする。 ②上記①のテーマについて、教員が先行研究調査と資料収集の指導を行う。 ③履修者が上記①のテーマについての発表を行い、教員と履修生がディスカッションをする。	復習：教員が指定した資料を使って事後学修すること （2 時間程度）。 予習：教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2 時間程度）。	4 時間
第７回	対面	①現代アジアの諸課題に関する調査テーマの検討をする。 ②上記①のテーマについて、教員が先行研究調査と資料収集の指導を行う。 ③履修者が上記①のテーマについての発表を行い、教員と履修生がディスカッションをする。	復習：教員が指定した資料を使って事後学修すること （2 時間程度）。 予習：教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2 時間程度）。	4 時間
第８回	対面	①現代アジアの諸課題に関する調査テーマの検討をする。 ②上記①のテーマについて、教員が先行研究調査と資料収集の指導を行う。 ③履修者が上記①のテーマについての発表を行い、教員と履修生がディスカッションをする。	復習：教員が指定した資料を使って事後学修すること （2 時間程度）。 予習：教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2 時間程度）。	4 時間
第９回	対面	①現代アジアの諸課題に関する調査テーマの検討をする。 ②上記①のテーマについて、教員が先行研究調査と資料収集の指導を行う。 ③履修者が上記①のテーマについての発表を行い、教員と履修生がディスカッションをする。	復習：教員が指定した資料を使って事後学修すること （2 時間程度）。 予習：教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2 時間程度）。	4 時間
第１０回	対面	グループ研究１：要点説明	復習：教員が説明したグループ研究の要点を確認すること （2 時間程度）。 予習：興味関心をもとに研究テーマの案を考える（2	4 時間

			時間程度)。	
第１１回	対面	グループ研究２：研究テーマの決定	復習＋予習：グループ単位で資料を調査し、発表の準備をすること　(4 時間程度)。	4 時間
第１２回	対面	グループ研究３：発表	復習＋予習：グループ単位で資料を調査し、発表の準備をすること　(3 時間程度)。	4 時間
第１３回	対面	グループ研究４：発表	復習＋予習：グループ単位で資料を調査し、発表の準備をすること　(4 時間程度)。	4 時間
第１４回	対面	グループ研究５・発表	復習＋予習：グループ単位で資料を調査し、発表の準備をすること　(4 時間程度)。	4 時間
第１５回	オンデマンド	授業全体の総括 ＊以上の授業計画は卒業研究の進捗状況に応じて、オンデマンド授業の実施時期を含めて微調整を行う可能性はある。。	復習＋予習：卒業論文の一部としてのレポートを執筆すること　(4 時間程度)。	4 時間

科目名	専門演習ⅢB	開講年度	2025
担当者	呉原　志賢	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	グローバル化する企業経営における情報の利活用について考察する。		
授業の目的及び概要	この授業では、「専門演習ⅢA」に引き続き、専門テーマに基づく課題研究に取り組む。各自、課題の成果を中間発表し、授業での討論を通して、検討しなければならない具体的な課題を明確にする。また、調査、分析、発表といった一連のプロセスを行う能力と筋道を立てて考える力等をさらに向上させる。学士課程における学修の締めくくりとして、教員の指導のもとで研究成果を完成させる。授業では、教員が履修生とのコミュニケーションを十分に図りながら、社会に対する視野を拡げ、課題発見能力を涵養する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	講義科目等で学修した知識や理論をグローバル化する企業経営における情報の利活用についての諸課題に対して応用し、分析・考察を行うことで理解を深める。 特定のテーマに関する調査を行い、発表に向けて内容をまとめあげるために、グループディスカッション等のグループでの取組を通して、主体性やチームワーク、リーダーシップ等を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課した課題に対して、授業内で講評する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しない。	ISBN	－
参考書	『情報通信白書』総務省（授業内での発表を行う際に参考にする。）	ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	60
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	40
その他の内容	卒業研究

この科目の受講にあたって	目的意識を持って授業に望むようにすること。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション 授業の目的や目標、進め方など授業の概要	授業前後に、授業で配布した資料を読ん復習ておくこと	4 時間

		を説明する 。		
第２回	対面	テーマの検討（1） 教員や履修生間でのディスカッションにより、個々の課題研究に関連する調査・分析のテーマを検討する。	課題に取り組み、次回授業で報告すること	4 時間
第３回	対面	テーマの検討（2） 教員や履修生間でのディスカッションにより、個々の課題研究に関連する調査・分析のテーマを検討する。	課題に取り組み、次回授業で報告すること	4 時間
第４回	対面	課題研究に関連する調査・分析（1） グローバル化する企業経営における情報やそれを扱うシステムの活用と今後の進展についての諸課題に関する課題研究に関連する調査・分析を行う。	課題に取り組み、次回授業で報告すること	4 時間
第５回	対面	課題研究に関連する調査・分析（2） グローバル化する企業経営における情報やそれを扱うシステムの活用と今後の進展についての諸課題に関する課題研究に関連する調査・分析を行う。	課題に取り組み、次回授業で報告すること	4 時間
第６回	対面	課題研究に関連する調査・分析（3） グローバル化する企業経営における情報やそれを扱うシステムの活用と今後の進展についての諸課題に関する課題研究に関連する調査・分析を行う。	課題に取り組み、次回授業で報告すること	4 時間
第７回	対面	課題研究に関連する調査・分析（4） グローバル化する企業経営における情報やそれを扱うシステムの活用と今後の進展についての諸課題に関する課題研究に関連する調査・分析を行う。	課題に取り組み、次回授業で報告すること	4 時間
第８回	対面	課題研究に関連する調査・分析（5） グローバル化する企業経営における情報やそれを扱うシステムの活用と今後の進展についての諸課題に関する課題研究に関連する調査・分析を行う。	課題に取り組み、次回授業で報告すること	4 時間
第９回	対面	課題研究作成指導（1） これまでの研究成果の取りまとめと研究手法、レポート作成について指導を行う。	課題に取り組み、次回授業で報告すること	4 時間
第１０回	対面	課題研究作成指導（2） これまでの研究成果の取りまとめと研究手法、レポート作成について指導を行う。	課題に取り組み、次回授業で報告すること	4 時間
第１１回	対面	課題研究作成指導（3） これまでの研究成果の取りまとめと研究手法、レポート作成について指導を行う。	課題に取り組み、次回授業で報告すること	4 時間
第１２回	対面	課題研究発表（1） 個々の課題研究の内容を発表し、教員と履修生がディスカッションを行う。	課題に取り組み、次回授業で報告すること	4 時間
第１３回	対面	課題研究発表（2） 個々の課題研究の内容を発表し、教員と履修生がディスカッションを行う。	課題に取り組み、次回授業で報告すること	4 時間
第１４回	対面	課題研究発表（3） 個々の課題研究の内容を発表し、教員と履修生がディスカッションを行う。	課題に取り組み、次回授業で報告すること	4 時間
第１５回	オンデマンド	総括 授業全体の総括を行う。	授業前後に、授業で配布した資料を読ん復習ておくこと	4 時間

科目名	専門演習ⅢB	開講年度	2025
担当者	赤城　永里子	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	コミュニケーションの面での国際的課題や地域的課題を研究する		
授業の目的及び概要	講義科目等で学修したコミュニケーションに関する知識や理論を国際的課題や地域的課題の課題の所在について分析・考察を行うことで総合的学修を行う。「専門演習ⅢA」で学修した内容に基づき、個々の履修生がテーマに関連した調査・分析を行う。授業の後半では、調査・分析した内容を発表し、教員や履修生間でディスカッションを行うことで、その内容についての理解を深め、課題研究を完成させる。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この授業では、「専門演習ⅢA」に引き続き、専門テーマに基づく課題研究に取り組む。各自、課題研究の成果を中間発表し、授業での討論を通して、検討しなければならない具体的な課題を明確にする。また、調査、分析、発表といった一連のプロセスを行う能力と筋道を立てて考える力等をさらに向上させる。学士課程における学修の締めくくりとして、教員の指導のもとで研究成果を完成させる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	発表資料・レジュメについては発表の 1 週間前にラーニングポータルに提出してもらい、教員が確認・添削を行いフィードバックする。さらに卒業研究については、授業での最終発表後、クラスメイトおよび教員からフィードバックを行う。卒業論文・レポートについても適宜フィードバックを行い指導する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	授業中に指示する	ISBN	なし
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
	成果発表（口頭・実技）	30
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	50
	その他の内容	学期末に卒論研究の提出（その他の成績で評価）を求めます。
この科目の受講にあたって	大学時代の集大成です！学生ひとりひとりが「問い」を持ち、授業を通じて自分なりの「答え」を探していくような、参加型の講義にしたいと思っているので、授業のなかで感じた疑問や興味は積極的に発言してほしい。 卒業研究を完成させ、卒業論文または卒業レポートにまとめよう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション 授業の目的や目標、進め方など授業の概要を説明する 。	卒業研究を進めると同時に発表担当者は発表のためのレジュメの作成を行う。 授業後は、授業での指摘を受けて、自身の研究の修正を行う	4 時間
第２回	オンデマンド	結果の考察の方法	各自の調査結果の分析と考察を行う	4 時間
第３回	対面	卒業論文の発表	卒業研究を進めると同時に発表担当者は発表のためのレジュメの作成を行う。 授業後は、授業での指摘を受けて、自身の研究の修正を行う	4 時間
第４回	対面	卒業論文の発表	卒業研究を進めると同時に発表担当者は発表のためのレジュメの作成を行う。 授業後は、授業での指摘を受けて、自身の研究の修正を行う	4 時間
第５回	対面	卒業論文の発表	卒業研究を進めると同時に発表担当者は発表のためのレジュメの作成を行う。 授業後は、授業での指摘を受けて、自身の研究の修正を行う	4 時間
第６回	対面	卒業論文の発表	卒業研究を進めると同時に発表担当者は発表のためのレジュメの作成を行う。 授業後は、授業での指摘を受けて、自身の研究の修正を行う	4 時間
第７回	対面	卒業論文の発表	卒業研究を進めると同時に発表担当者は発表のためのレジュメの作成を行う。 授業後は、授業での指摘を受けて、自身の研究の修正を行う	4 時間
第８回	対面	卒業論文の発表	卒業研究を進めると同時に発表担当者は発表のためのレジュメの作成を行う。 授業後は、授業での指摘を受けて、自身の研究の修正を行う	4 時間
第９回	対面	卒業論文の発表	卒業研究を進めると同時に発表担当者は発表のためのレジュメの作成を行う。 授業後は、授業での指摘を受けて、自身の研究の修正を行う	4 時間
第１０回	対面	卒業論文集の編集	卒業研究を進める。 授業後は、授業での指摘を受けて、自身の研究の修正を行う	4 時間
第１１回	対面	卒業論文集の編集	卒業研究を進める。 授業後は、授業での指摘を受けて、自身の研究の修正を行う	4 時間
第１２回	対面	卒業論文集の編集	卒業研究を進める。 授業後は、授業での指摘を受けて、自身の研究の修正を行う	4 時間
第１３回	対面	卒業論文集の編集	卒業研究を進める。 授業後は、授業での指摘を受けて、自身の研究の修正を行う	4 時間
第１４回	対面	卒業論文集の編集	卒業研究を進める。 授業後は、授業での指摘を受けて、自身の研究の修正を行う	4 時間
第１５回	対面	総括 授業全体の総括を行う。	卒業研究を完成させる	6 時間

科目名	専門演習ⅢB	開講年度	2025
担当者	菅原　絵美	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	人に関わるさまざまなグローバル課題（人種やジェンダーに基づく差別、現代奴隷や児童労働、難民、子ども兵士、気候変動や海洋プラスチック問題など）を国際法の視点から考える。		
授業の目的及び概要	講義科目等で学修した法・政治に関する知識や理論をグローバル課題（人権、環境、国際犯罪、腐敗防止、武力紛争等）の解決に向けた国際的な法政策に対して応用し、さらなる分析・考察を行うことで総合的学修を行う。授業の前半では、「専門演習ⅢA」で学修した内容に基づき、個々の履修生がテーマに関連した調査・分析を行う。授業の後半では、調査・分析した内容を発表し、教員や履修生間でディスカッションを行うことで、その内容についての理解を深め、課題研究を完成させる。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この授業では、「専門演習ⅢA」に引き続き、専門テーマに基づく課題研究に取り組む。各自、課題研究の成果を中間発表し、授業での討論を通して、検討しなければならない具体的な課題を明確にする。また、調査、分析、発表といった一連のプロセスを行う能力と筋道を立てて考える力等をさらに向上させる。学士課程における学修の締めくくりとして、教員の指導のもとで研究成果を完成させる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	発表資料・レジュメについては発表の 1 週間前にラーニングポータルに提出してもらい、教員が確認・添削を行いフィードバックする。さらに卒業研究については、授業での最終発表後、クラスメイトおよび教員からフィードバックを行う。卒業論文・レポートについても適宜フィードバックを行い指導する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定なし	ISBN	なし
参考書	①新グローバル公共政策（改定第 2 版），庄司真理子・宮脇昇・玉井雅隆（編），晃洋書房，2021 年 ②国際人権法の考え方，川島聡・菅原絵美・山崎公士，法律文化社，2021 年 ③国際条約集，植木俊哉・中谷和弘(編集代表)，有斐閣，2024 年	ISBN	①9784771034648 ②9784589041449 ③9784641001619

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	20
授業期間中の小テスト、レポート課題等	60
成果発表（口頭・実技）	20
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講に	学生ひとりひとりが「問い」を持ち、授業を通じて自分なりの「答え」を探していくような、

あたって	参加型の講義にしたいと思っているので、授業のなかで感じた疑問や興味は積極的に発言してほしい。 卒業研究を完成させ、卒業論文または卒業レポートにまとめよう。そして、学生研究発表大会、さらに顕彰論文への応募とつなげていこう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション 授業の目的や目標、進め方など授業の概要を説明する 。	卒業研究の進捗に関するワークシートに記入しラーニングポータルに提出する。また授業で学んだポイントから見直しをシートを再提出する。	4 時間
第２回	対面	卒業論文の作成にあたって（1） 卒業研究ガイドを基に、卒業研究を完成させる際の実質面（国際法・政治の理論からの検証、先行研究の追加など）について確認する。	関連文献をラーニングポータルに掲載するので予習を行う。授業後は、授業での指摘を受けて、自身の研究の修正を行う。	4 時間
第３回	対面	卒業論文の作成にあたって（2） 卒業研究ガイドを基に、卒業研究を完成させる際の形式面（参考文献、脚注など）について確認する。	関連文献をラーニングポータルに掲載するので予習を行う。授業後は、授業での指摘を受けて、自身の研究の修正を行う。	4 時間
第４回	対面	卒業研究の最終発表（１） 個々の課題研究の内容を発表し、教員と履修生がディスカッションを行う。	発表者の発表資料および関連文献をラーニングポータルに掲載するので予習を行う。授業後は、授業での指摘を受けて、自身の研究の修正を行う。	4 時間
第５回	対面	卒業研究の最終発表（２） 個々の課題研究の内容を発表し、教員と履修生がディスカッションを行う。	発表者の発表資料および関連文献をラーニングポータルに掲載するので予習を行う。授業後は、授業での指摘を受けて、自身の研究の修正を行う。	4 時間
第６回	対面	卒業研究の最終発表（３） 個々の課題研究の内容を発表し、教員と履修生がディスカッションを行う。	発表者の発表資料および関連文献をラーニングポータルに掲載するので予習を行う。授業後は、授業での指摘を受けて、自身の研究の修正を行う。	4 時間
第７回	対面	卒業研究の最終発表（４） 個々の課題研究の内容を発表し、教員と履修生がディスカッションを行う。	発表者の発表資料および関連文献をラーニングポータルに掲載するので予習を行う。授業後は、授業での指摘を受けて、自身の研究の修正を行う。	4 時間
第８回	対面	卒業研究の最終発表（５） 個々の課題研究の内容を発表し、教員と履修生がディスカッションを行う。	発表者の発表資料および関連文献をラーニングポータルに掲載するので予習を行う。授業後は、授業での指摘を受けて、自身の研究の修正を行う。	4 時間
第９回	対面	卒業研究の最終発表（６） 個々の課題研究の内容を発表し、教員と履修生がディスカッションを行う。	発表者の発表資料および関連文献をラーニングポータルに掲載するので予習を行う。授業後は、授業での指摘を受けて、自身の研究の修正を行う。	4 時間
第１０回	対面	卒業研究の最終発表（７） 個々の課題研究の内容を発表し、教員と履修生がディスカッションを行う。	発表者の発表資料および関連文献をラーニングポータルに掲載するので予習を行う。授業後は、授業での指摘を受けて、自身の研究の修正を行う。	4 時間
第１１回	対面	卒業研究の最終発表（８） 個々の課題研究の内容を発表し、教員と履修生がディスカッションを行う。	発表者の発表資料および関連文献をラーニングポータルに掲載するので予習を行う。授業後は、授業での指摘を受けて、自身の研究の修正を行う。	4 時間
第１２回	対面	卒業研究の最終発表（９） 個々の課題研究の内容を発表し、教員と履修生がディスカッションを行う。	発表者の発表資料および関連文献をラーニングポータルに掲載するので予習を行う。授業後は、授業での指摘を受けて、自身の研究の修正を行う。	4 時間
第１３回	対面	卒業論文の見直し指導（１）	各自卒業論文の執筆を続ける。授業後は、授業での指摘を受けて、自身の研究の修正を行う。	4 時間
第１４回	対面	卒業論文の見直し指導（２）	各自卒業論文の執筆を続ける。授業後は、授業での指摘を受けて、自身の研究の修正を行う。	4 時間
第１５回	オンデマンド	総括 授業全体の総括を行う。	卒業研究をまとめた論文をラーニングポータルを通じて提出する。授業後は、授業での指摘を受けて、自身の研究の修正を行う。	4 時間

科目名	専門演習ⅢB	開講年度	2025
担当者	池上　寛	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	アジア各国・地域に関する諸問題についての要因や課題について卒業論文として取りまとめる		
授業の目的及び概要	専門演習ⅢA・B では、専門演習ⅡA・B を通じて決めた卒業論文の課題について、研究を進めて卒業研究としてまとめ、完成させることを目的にします。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	学生本人が決めた卒業研究のテーマに関して統計について収集し、分析できるようにすること テーマに関する文献を収集し、検討を加えるようにすること 卒業論文を取りまとめ、完成させること		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業時間中、あるいは授業時間外に行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、JETRO・アジア経済研究所で 25 年以上に渡って調査研究職に従事しており、その間、在台北海外研究員、研究グループ長代理などを歴任している。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	個別対応とし、特に指定しない。	ISBN	なし
参考書	個別対応とし、特に指定しない。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	30	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	40	
	その他の内容	卒業論文	
この科目の受講にあたって	理由なく欠席しないこと。 欠席する場合は、必ず連絡すること。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション 春学期を振り返るとともに、卒業研究提出までのスケジュールの再確認	夏休みの間に卒業研究がどれだけ進んだかをまとめておいてください。	4 時間
第２回	対面	卒業研究の進行状況についての発表と議論（１）	学生それぞれの卒業研究を進めるとともに、その状況についてまとめておくこと。	4 時間
第３回	対面	卒業研究の進行状況についての発表と議論（２）	学生それぞれの卒業研究を進めるとともに、その状況についてまとめておくこと。	4 時間

第４回	対面	卒業研究の進行状況についての発表と議論（３）	学生それぞれの卒業研究を進めるとともに、その状況についてまとめておくこと。	4 時間
第５回	対面	卒業研究の進行状況についての発表と議論（４）	学生それぞれの卒業研究を進めるとともに、その状況についてまとめておくこと。	4 時間
第６回	対面	卒業研究の進行状況についての発表と議論（５）	学生それぞれの卒業研究を進めるとともに、その状況についてまとめておくこと。	4 時間
第７回	対面	卒業研究の進行状況についての発表と議論（６）	学生それぞれの卒業研究を進めるとともに、その状況についてまとめておくこと。	4 時間
第８回	対面	卒業研究の進行状況についての発表と議論（７）	学生それぞれの卒業研究を進めるとともに、その状況についてまとめておくこと。	4 時間
第９回	対面	卒業研究の進行状況についての発表と議論（８）	学生それぞれの卒業研究を進めるとともに、その状況についてまとめておくこと。	4 時間
第１０回	対面	卒業研究の進行状況についての発表と議論（９）	学生それぞれの卒業研究を進めるとともに、その状況についてまとめておくこと。	4 時間
第１１回	対面	卒業研究の進行状況についての発表と議論（１０）	学生それぞれの卒業研究を進めるとともに、その状況についてまとめておくこと。	4 時間
第１２回	対面	卒業研究の進行状況についての発表と議論（１１）	学生それぞれの卒業研究を進めるとともに、その状況についてまとめておくこと。	4 時間
第１３回	対面	卒業研究（論文・レポート）の見直し指導（１）	提出された卒業研究（論文・レポート）を検討します。授業での指摘を受けて、授業後に卒業研究の修正をしてください。	4 時間
第１４回	対面	卒業研究（論文・レポート）の見直し指導（２）	提出された卒業研究（論文・レポート）を検討します。授業での指摘を受けて、授業後に卒業研究の修正をしてください。	4 時間
第１５回	オンデマンド	専門演習Ⅱ・Ⅲの振り返り	2 年間の学修を振り返ります。	4 時間

科目名	専門演習ⅢB	開講年度	2025
担当者	本多　善	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	異文化理解・国際関係学・国際文化学に関する知識や理論からグローバリゼーションと文化について考察する		
授業の目的及び概要	この授業では、「専門演習 IIIA」に引き続き、専門分野における特定のテーマに関する知識を学修し、自身の調査・研究に取り組むことによって、テーマの設定、資料調査、分析、そして研究成果の発表にいたるまでの、一連のプロセスを学ぶことを目的とする。履修生は、各自の問題関心に基づき研究を進める。12000 字の卒業論文を執筆する。		
履修条件・留意点	講義科目等で学修した知識や理論をグローバル社会の諸課題に対して応用し、分析・考察を行うことで総合的学修を行う科目として「演習科目」があります。学生は自らの興味・関心に応じて特定のテーマに関する調査・研究を行い、その過程を通して主体的に行動する態度・志向性を身につけ、創造的思考力の向上を図ります。演習においては、体験型学修やアクティブ・ラーニングを積極的に取り入れ、主体性やチームワーク、リーダーシップ、行動力等の「国際協働力」を身につけます。「演習科目」は、1 年次に「基礎演習 A」、「基礎演習 B」、2 年次に「専門演習ⅠA」、「専門演習ⅠB」、3 年次に「専門演習ⅡA」、「専門演習ⅡB」、4 年次に「専門演習ⅢA」、「専門演習ⅢB」を配当し、グローバル人材に求められる能力を向上させることを重視しつつ、履修指導やキャリア指導も行い、最終的に卒業論文を執筆します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	異文化理解・国際関係学・国際文化学に関する知識や理論をグローバリゼーションと文化に対して応用し、分析・考察を行うことができる。 自身の研究テーマに関して、根拠を用いて発表することができる。 他者の研究テーマと発表について、自身の考え方を伝え議論することができる。 自身の発表に向けて内容をまとめあげ、12000 字の卒業論文を執筆する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	グループでの調査については、その方法論と調査方法について、適切なコメントやアドバイスをし、フィードバックをおこなう。また発表・レポートについてはコメントや改善点を提示する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	使用しない。	ISBN	使用しない。
参考書	①書名：'The Sociology Book: Big Ideas Simply Explained'、著者：Sarah Tomley and Mitchell Hobs, 出版社：DK、出版年：2015 ②書名：『質的社会調査の方法：他者の合理性の理解社会学』、著者：岸政彦ほか、出版社：有斐閣、出版年：2016 ③書名：『リキッド化する世界の文化論』、著者：ジグムント・バウマン、訳伊藤茂、出版社：青土社、出版年：2014	ISBN	①978-1465436504 ②978-4641150379 ③978-4791768073

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
	成果発表（口頭・実技）	30

	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	国際関係学、国際文化学、世界の文化的な事象を考察し、自身のテーマから研究を進め卒業論文の完成を目指します。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション： 授業の目的・意義・方法・評価について 世界/国際関係/国際文化の省察 ・指定された章の解説 ・ディスカッション ・個人発表	指定された章を熟読し、発表に向けた準備をおこなう。（所要時間 2 時間） 各自の研究調査（資料調査・論文執筆）をおこなう。（2 時間）	4 時間
第２回	対面	世界/国際関係/国際文化の省察 ・指定された章のグループ発表 ・指定された章の解説 ・ディスカッション ・個人発表	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。（所要時間 1 時間） 指定された章を熟読し、発表に向けた準備をおこなう。（所要時間 1 時間） 各自の研究調査（資料調査・論文執筆）をおこなう。（2 時間）	4 時間
第３回	対面	世界/国際関係/国際文化の省察 ・指定された章のグループ発表 ・指定された章の解説 ・ディスカッション ・個人発表	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。（所要時間 1 時間） 指定された章を熟読し、発表に向けた準備をおこなう。（所要時間 1 時間） 各自の研究調査（資料調査・論文執筆）をおこなう。（2 時間）	4 時間
第４回	対面	世界/国際関係/国際文化の省察 ・指定された章のグループ発表 ・指定された章の解説 ・ディスカッション ・個人発表	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。（所要時間 1 時間） 指定された章を熟読し、発表に向けた準備をおこなう。（所要時間 1 時間） 各自の研究調査（資料調査・論文執筆）をおこなう。（2 時間）	4 時間
第５回	対面	世界/国際関係/国際文化の省察 ・指定された章のグループ発表 ・指定された章の解説 ・ディスカッション ・個人発表	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。（所要時間 1 時間） 指定された章を熟読し、発表に向けた準備をおこなう。（所要時間 1 時間） 各自の研究調査（資料調査・論文執筆）をおこなう。（所要時間 2 時間）	4 時間
第６回	対面	質的・量的調査の確認： ・調査の目的と意義 ・仮設の提示 ・調査方法の妥当性 ・個人発表	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。（所要時間 1 時間） 指定された章を熟読し、自身の研究及び発表に向けた準備をおこなう。（所要時間 1 時間） 各自の研究調査（資料調査・論文執筆）をおこなう。（所要時間 2 時間）	4 時間
第７回	対面	質的・量的調査の確認： ・調査の目的と意義 ・仮設の提示 ・調査方法の妥当性 ・分析方法 について理解する。	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。（所要時間 1 時間） 指定された章を熟読し、自身の研究及び発表に向けた準備をおこなう。（所要時間 1 時間） 各自の研究調査（資料調査・論文執筆）をおこなう。（所要時間 2 時間）	4 時間
第８回	対面	社会調査及び自身の研究①：	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこな	4 時間

		社会調査及び自身の研究発表をおこなう。	う。（所要時間 1 時間） 指定された章を熟読し、発表向に向けた準備をおこなう。（所要時間 1 時間） 各自の研究調査（資料調査・論文執筆）をおこなう。（所要時間 2 時間）	
第９回	対面	社会調査及び自身の研究②： 社会調査及び自身の発表をおこなう。	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。（所要時間 1 時間） 指定された章を熟読し、社会調査及び発表に向けた準備をおこなう。（所要時間 1 時間） 各自の研究調査（資料調査・論文執筆）をおこなう。（所要時間 2 時間）	4 時間
第１０回	対面	社会調査及び自身の研究③： 社会調査及び自身の発表をおこなう。	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。（所要時間 1 時間） 報告に向けた準備をおこなう。（所要時間 1 時間） 各自の研究調査（資料調査・論文執筆）をおこなう。（所要時間 2 時間）	4 時間
第１１回	対面	社会調査及び自身の研究④： 社会調査及び自身の発表をおこなう。	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。（所要時間 1 時間） 報告に向けた準備をおこなう。（所要時間 1 時間） 各自の研究調査（資料調査・論文執筆）をおこなう。（所要時間 2 時間）	4 時間
第１２回	対面	グローバリゼーションと文化に関する省察 個人発表	前回授業を復習し、自身の研究と課題を明らかにする。（所要時間 2 時間） 各自の研究調査（資料調査・論文執筆）をおこなう。（所要時間 2 時間）	4 時間
第１３回	対面	グローバリゼーションと文化に関する省察 個人発表	前回授業を復習し、自身の研究と課題を明らかにする。（所要時間 2 時間） 各自の研究調査（資料調査・論文執筆）をおこなう。（所要時間 2 時間）	4 時間
第１４回	対面	グローバリゼーションと文化に関する省察 個人発表	前回授業を復習し、自身の研究と課題を明らかにする。（所要時間 2 時間） 各自の研究調査（資料調査・論文執筆）をおこなう。（所要時間 2 時間）	4 時間
第１５回	オンデマンド	2 年間の総括と卒論の講評	卒論を提出する。	4 時間

科目名	専門演習ⅢB	開講年度	2025
担当者	張　雪斌	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	国際政治学の理論と現実を学ぶ		
授業の目的及び概要	本演習は国際政治学の観点からさまざまな国際問題を分析し、国際社会の過去、現在と未来について学ぶ。演習の中心的な分析対象はアジア太平洋地域の国際関係だが、それ以外の地域や新領域の国際問題（サイバーセキュリティなど）についても扱う。 　国際政治学、とりわけ東アジアの国際関係は私たちの生活に深く関連している。グローバリゼーションが深化している今日では、公的機関や企業の活動だけでなく、我々個人の安全と安心も国際情勢の変動に影響されている。日々起こっている時事問題を知ることが極めて重要だが、情報を手に入れるだけでは国際政治を理解できるわけではない。本演習では、受講者は国際政治学の専門書や論文集を講読し、ディスカッションを重ねることで国際政治に関連する知識を学ぶのと同時に国際政治学の分析手法を習得する。 　受講者の理解度と要望に合わせて、内容を調整する可能性がある。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・国際政治の過去、現在と未来に関する基本的な知識を身につけること ・国際政治学の基本的な分析手法を理解し、習得すること ・国際社会におけるさまざまな課題の存在を認識し、批判的に分析できること ・積極的な学修姿勢を身に着け、専門的なアカデミックスキルを応用できること ・4 年間の集大成である卒業論文を完成させること		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・授業中や授業終了後に質疑応答の時間を設ける ・Microsoft Teams を活用して受講者と情報共有や個別指導を行う ・必要な場合は補足資料を配布（あるいはラーニングポータルで公開）し、参考資料、文献を紹介する		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	日本国際政治学会学会誌『国際政治』各号（購入する必要がありません） ・受講者が発表で使用する論文を選択し、クラスメイトと情報を共有する ・新たな文献を追加する場合は受講者と相談して決定する ＊『国際政治』刊行後 2 年以降の号の論文については以下のウェブサイトで自由にダウンロードし、読むことができます。刊行２年以内の論文に関しては直接担当者に相談してください。 https://www.jstage.jst.go.jp/browse/kokusaiseiji/-char/ja	ISBN	0454-2215 （International Standard Serial Number）
参考書	国際政治学，中西寛、石田淳、田所昌幸，有斐閣，2013 年	ISBN	978-4641053786
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	

	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	60
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	・普段積極的に国際政治に関連する新聞記事、書籍や論文を読むこと	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション 授業の概要、目的、教材について説明する。	・授業の概要とテキスト『国際政治』の内容を確認し、予習を行う ・発表の日程を確定し、発表の準備を行う ・卒業研究の進捗を確認し、卒業研究を進める	2 時間
第２回	対面	班分け、発表内容の確認、卒業研究進捗確認	・授業の概要とテキスト『国際政治』の内容を確認し、予習、復習を行う ・発表の日程を確定し、発表の準備を行う ・卒業研究の進捗を確認し、卒業研究を進める	4 時間
第３回	対面	卒業研究、卒業論文の進め方について	・授業の概要とテキスト『国際政治』の内容を確認し、予習、復習を行う ・発表の日程を確定し、発表の準備を行う ・卒業研究の進捗を確認し、卒業研究を進める	4 時間
第４回	対面	受講者発表・ディスカッション	・授業の概要とテキスト『国際政治』の内容を確認し、予習、復習を行う ・発表の日程を確定し、発表の準備を行う ・卒業研究の進捗を確認し、卒業研究を進める	4 時間
第５回	対面	受講者発表・ディスカッション	・授業の概要とテキスト『国際政治』の内容を確認し、予習、復習を行う ・発表の日程を確定し、発表の準備を行う ・卒業研究の進捗を確認し、卒業研究を進める	4 時間
第６回	対面	受講者発表・ディスカッション	・授業の概要とテキスト『国際政治』の内容を確認し、予習、復習を行う ・発表の日程を確定し、発表の準備を行う ・卒業研究の進捗を確認し、卒業研究を進める	4 時間
第７回	対面	受講者発表・ディスカッション	・授業の概要とテキスト『国際政治』の内容を確認し、予習、復習を行う ・発表の日程を確定し、発表の準備を行う ・卒業研究の進捗を確認し、卒業研究を進める	4 時間
第８回	対面	受講者発表・ディスカッション	・授業の概要とテキスト『国際政治』の内容を確認し、予習、復習を行う ・発表の日程を確定し、発表の準備を行う ・卒業研究の進捗を確認し、卒業研究を進める	4 時間
第９回	対面	受講者発表・ディスカッション	・授業の概要とテキスト『国際政治』の内容を確認し、予習、復習を行う ・発表の日程を確定し、発表の準備を行う ・卒業研究の進捗を確認し、卒業研究を進める	4 時間
第１０回	対面	受講者発表・ディスカッション	・授業の概要とテキスト『国際政治』の内容を確認し、予習、復習を行う ・発表の日程を確定し、発表の準備を行う ・卒業研究の進捗を確認し、卒業研究を進める	4 時間
第１１回	対面	受講者発表・ディスカッション	・授業の概要とテキスト『国際政治』の内容を確認し、予習、復習を行う	4 時間

			・発表の日程を確定し、発表の準備を行う ・卒業研究の進捗を確認し、卒業研究を進める	
第１２回	対面	受講者発表・ディスカッション	・授業の概要とテキスト『国際政治』の内容を確認し、予習、復習を行う ・発表の日程を確定し、発表の準備を行う ・卒業研究の進捗を確認し、卒業研究を進める	4 時間
第１３回	対面	受講者発表・ディスカッション	・授業の概要とテキスト『国際政治』の内容を確認し、予習、復習を行う ・発表の日程を確定し、発表の準備を行う ・卒業研究の進捗を確認し、卒業研究を進める	4 時間
第１４回	対面	受講者発表・ディスカッション	・授業の概要とテキスト『国際政治』の内容を確認し、予習、復習を行う ・発表の日程を確定し、発表の準備を行う ・卒業研究の進捗を確認し、卒業研究を進める	4 時間
第１５回	オンデマンド	授業のまとめ、質疑応答	・授業の復習を行う ・卒業研究の進捗を確認し、卒業研究を進める	4 時間

科目名	専門演習ⅢB	開講年度	2025
担当者	金子　治平	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	卒業研究を行い，各国の経済発展の要因・現状・課題に関する卒寮研究論文を執筆する		
授業の目的及び概要	専門演習ⅢA･B では，専門演習ⅡA･B で各自が決定した卒業研究の課題についての研究を進め，卒業研究論文を執筆することを目的とします． とくにデータの扱いやアンケート調査について学びたい学生には，授業時間外に学習を行いますので申し出てください．		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	自ら卒業研究のテーマに関係する文献を収集し，批判的に読解することができる 自ら卒業研究のテーマに関係するデータを収集し，分析することができる 卒業研究論文を執筆することができる		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業内および授業時間外に，グループあるいは個別にフィードバックします．		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特定のテキストは使用しない予定ですが，必要に応じて授業内で指示させていただきます．	ISBN	なし
参考書	必要があれば，授業中に紹介します．	ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	40
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	30
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	30
その他の内容	卒業研究論文

この科目の受講にあたって	・授業には必ず出席してください． ・やむをえず欠席する場合には，直前でもいいので事前に連絡してください． ・出席しなかった場合には，次回までに補習を行いますので出席してください．

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション 専門演習ⅢA を踏まえて，これからの研究の進め方について説明します．	夏休み中の卒業研究の進捗状況をまとめておいてください．	4 時間
第２回	対面	卒業研究論文の執筆についての留意点	講義内容（特に，卒業研究論文の形式的な側面に関する説明）をよく復習して，しっかりと理解し，実践で	4 時間

			きるようにしてください.	
第３回	対面	卒業研究の進捗・卒業研究論文の執筆状況の発表と検討（１）	事前学習として，各自の卒業研究を進展させて，各自の卒業研究の進捗・卒業研究論文の執筆状況についてまとめておいてください.	４時間
第４回	対面	卒業研究の進捗・卒業研究論文の執筆状況の発表と検討（２）	事前学習として，各自の卒業研究を進展させて，各自の卒業研究の進捗・卒業研究論文の執筆状況についてまとめておいてください.	４時間
第５回	対面	卒業研究の進捗・卒業研究論文の執筆状況の発表と検討（３）	事前学習として，各自の卒業研究を進展させて，各自の卒業研究の進捗・卒業研究論文の執筆状況についてまとめておいてください.	４時間
第６回	対面	卒業研究の進捗・卒業研究論文の執筆状況の発表と検討（４）	事前学習として，各自の卒業研究を進展させて，各自の卒業研究の進捗・卒業研究論文の執筆状況についてまとめておいてください.	４時間
第７回	対面	卒業研究の進捗・卒業研究論文の執筆状況の発表と検討（５）	事前学習として，各自の卒業研究を進展させて，各自の卒業研究の進捗・卒業研究論文の執筆状況についてまとめておいてください.	４時間
第８回	対面	卒業研究の進捗・卒業研究論文の執筆状況の発表と検討（６）	事前学習として，各自の卒業研究を進展させて，各自の卒業研究の進捗・卒業研究論文の執筆状況についてまとめておいてください.	４時間
第９回	対面	卒業研究の進捗・卒業研究論文の執筆状況の発表と検討（７）	事前学習として，各自の卒業研究を進展させて，各自の卒業研究の進捗・卒業研究論文の執筆状況についてまとめておいてください.	４時間
第１０回	対面	卒業研究の進捗・卒業研究論文の執筆状況の発表と検討（８）	事前学習として，各自の卒業研究を進展させて，各自の卒業研究の進捗・卒業研究論文の執筆状況についてまとめておいてください.	４時間
第１１回	対面	卒業研究の進捗・卒業研究論文の執筆状況の発表と検討（９）	事前学習として，各自の卒業研究を進展させて，各自の卒業研究の進捗・卒業研究論文の執筆状況についてまとめておいてください.	４時間
第１２回	対面	卒業研究の進捗・卒業研究論文の執筆状況の発表と検討（１０）	事前学習として，各自の卒業研究を進展させて，各自の卒業研究の進捗・卒業研究論文の執筆状況についてまとめておいてください.	４時間
第１３回	対面	卒業研究の進捗・卒業研究論文の執筆状況の発表と検討（１１）	事前学習として，各自の卒業研究を進展させて，各自の卒業研究の進捗・卒業研究論文の執筆状況についてまとめておいてください.	４時間
第１４回	対面	卒業研究の進捗・卒業研究論文の執筆状況の発表と検討（１２）	事前学習として，各自の卒業研究を進展させて，各自の卒業研究の進捗・卒業研究論文の執筆状況についてまとめておいてください.	４時間
第１５回	オンデマンド	まとめ	事前学習として，各自の卒業研究を振り返ってください.	４時間

科目名	専門演習ⅢB	開講年度	2025
担当者	ミルズ・ジョナサン	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日本文化および比較文化について学修する。		
授業の目的及び概要	この授業は、「専門演習ⅢA」に引き続き、各自が取り組むテーマを絞り込んでいくとともに考察を深めていくことを目的とする。現代はグローバル社会が進んでおり、国境を越えたやり取りが年々増えています。これから日本の職場で活動する人にとっては、日本文化の特徴をより深く理解し、かつ外国人に対して英語で説明することは非常に重要な課題です。この専門演習では、日本文化の特徴について考えます。現在の文化の現象もちろん、近代以前の時代の文化も視野に入れ、より深く考えます。また、国際共修の観点から、他国（または自国）の文化との比較を行います。この演習は主に英語で行われます。教材は、日本文化に関する文献からの文章を精読し、英語でのペアワーク、グループワーク、学生発表等を実施します。この専門演習の学修と実践を通じて、現代の職場に求められている強い「異文化理解力」も築くことを望んでいます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	授業の前半では、日本文化・比較文化に関する教材に基づいて個々の履修生が説明を行う。授業の後半では、グループに分かれ、特定のテーマに関する調査を行い、発表に向けて内容をまとめあげる。グループディスカッション等のグループでの取組を通して、主体性やチームワーク、リーダーシップ等を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業内および授業時間前後に個別にフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	Japanese Popular Culture in English: Discussions and Critical Thinking, Robert Sheridan et al., 南雲堂, 2024.（通年使用。）	ISBN	9784523179641
参考書	なし。	ISBN	なし。

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	40
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	40
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	４年間の集大成である卒業論文の執筆に励んでいただきたい。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	授業の目的や目標、進め方など授業の概要を説明する 。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2 時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2 時間程度）。	4 時間
第２回	対面	教員や履修生間でのディスカッションにより、個々の課題研究に関連する調査・分析のテーマを検討する。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2 時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2 時間程度）。	4 時間
第３回	対面	教員や履修生間でのディスカッションにより、個々の課題研究に関連する調査・分析のテーマを検討する。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2 時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2 時間程度）。	4 時間
第４回	対面	日本文化、比較文化に関する課題研究に関連する調査・分析を行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2 時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2 時間程度）。	4 時間
第５回	対面	日本文化、比較文化に関する課題研究に関連する調査・分析を行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2 時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2 時間程度）。	4 時間
第６回	対面	日本文化、比較文化に関する課題研究に関連する調査・分析を行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2 時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2 時間程度）。	4 時間
第７回	対面	日本文化、比較文化に関する課題研究に関連する調査・分析を行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2 時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2 時間程度）。	4 時間
第８回	対面	日本文化、比較文化に関する課題研究に関連する調査・分析を行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2 時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2 時間程度）。	4 時間
第９回	対面	これまでの研究成果の取りまとめと研究手法、レポート作成について指導を行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2 時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2 時間程度）。	4 時間
第１０回	対面	これまでの研究成果の取りまとめと研究手法、レポート作成について指導を行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2 時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2 時間程度）。	4 時間
第１１回	対面	これまでの研究成果の取りまとめと研究手法、レポート作成について指導を行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2 時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2 時間程度）。	4 時間
第１２回	対面	個々の課題研究の内容を発表し、教員と履修生がディスカッションを行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2 時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2 時間程度）。	4 時間
第１３回	対面	個々の課題研究の内容を発表し、教員と履修生がディスカッションを行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2 時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2 時間程度）。	4 時間
第１４回	対面	個々の課題研究の内容を発表し、教員と履修生がディスカッションを行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2 時間程度）。	4 時間

			教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2 時間程度）。	
第１５回	オンデマンド	授業全体の総括を行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2 時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2 時間程度）。	4 時間

科目名	専門演習ⅢB	開講年度	2025
担当者	高砂　謙二	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	卒業研究を行い、グローバルビジネスにおける金融に問題に関する卒寮研究論文を執筆する。		
授業の目的及び概要	この授業では、「専門演習ⅢA」に引き続き、専門テーマに基づく課題研究に取り組む。各自、課題の成果を中間発表し、授業での討論を通して、検討しなければならない具体的な課題を明確にする。また、調査、分析、発表といった一連のプロセスを行う能力と筋道を立てて考える力等をさらに向上させる。学士課程における学修の締めくくりとして、教員の指導のもとで研究成果を完成させる。授業では、教員が履修生とのコミュニケーションを十分に図りながら、社会に対する視野を拡げ、課題発見能力を涵養する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	講義科目等で学修した知識や理論をグローバルビジネスにおける金融の諸課題に対して応用し、分析・考察を行うことで理解を深める。 特定のテーマに関する調査を行い、発表に向けて内容をまとめあげるために、グループディスカッション等のグループでの取組を通して、主体性やチームワーク、リーダーシップ等を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課した課題に対して、授業内で講評する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、金融機関において営業店や外国部、審査部、経営企画等で 16 年間勤務し、銀行業務全般や国際業務（外国為替リーディング業務、外為与信審査業務、国際経営・貿易相談業務、輸出入貿易書類点検業務）、法務・市場調査・広報等の実務経験を積んできた。本科目では、国際的なマーケットの実態や外国為替相場の特性などについて、こうした実務経験を活かして解説するなど、実践的な教育を行う。		
テキスト	教科書は指定しないが、参考書を読んで、授業内容の理解を深めること。	ISBN	なし
参考書	①はじめて学ぶ金融のしくみ(第 4 版)，家森信善，中央経済社	ISBN	①4502480207

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	20
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	20
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	60
その他の内容	卒業論文・卒業レポート

この科目の受講にあたって	・授業には必ず出席してください。 ・やむをえず欠席する場合には、事前に連絡してください。 ・出席しなかった場合には、次回までに補充学修を行い、出席してください。

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第１回	対面	イントロダクション 授業の目的や目標、進め方など授業の概要を説明する 。	【予習】事前学修として、課題に取り組み、次回授業で報告すること。 【復習】事後学修として、授業で確認された重要ポイントを中心に参考書、ノートを読み返し、復習すること。	4 時間
第２回	対面	テーマの検討（1） 教員や履修生間でのディスカッションにより、個々の課題研究に関連する調査・分析のテーマを検討する。	【予習】事前学修として、課題に取り組み、次回授業で報告すること。 【復習】事後学修として、授業で確認された重要ポイントを中心に参考書、ノートを読み返し、復習すること。	4 時間
第３回	対面	テーマの検討（2） 教員や履修生間でのディスカッションにより、個々の課題研究に関連する調査・分析のテーマを検討する。	【予習】事前学修として、課題に取り組み、次回授業で報告すること。 【復習】事後学修として、授業で確認された重要ポイントを中心に参考書、ノートを読み返し、復習すること。	4 時間
第４回	対面	課題研究に関連する調査・分析（1） グローバルビジネスにおける金融と今後の進展についての諸課題に関する課題研究に関連する調査・分析を行う。	【予習】事前学修として、課題に取り組み、次回授業で報告すること。 【復習】事後学修として、授業で確認された重要ポイントを中心に参考書、ノートを読み返し、復習すること。	4 時間
第５回	対面	課題研究に関連する調査・分析（2） グローバルビジネスにおける金融と今後の進展についての諸課題に関する課題研究に関連する調査・分析を行う。	【予習】事前学修として、課題に取り組み、次回授業で報告すること。 【復習】事後学修として、授業で確認された重要ポイントを中心に参考書、ノートを読み返し、復習すること。	4 時間
第６回	対面	課題研究に関連する調査・分析（3） グローバルビジネスにおける金融と今後の進展についての諸課題に関する課題研究に関連する調査・分析を行う。	【予習】事前学修として、課題に取り組み、次回授業で報告すること。 【復習】事後学修として、授業で確認された重要ポイントを中心に参考書、ノートを読み返し、復習すること。	4 時間
第７回	対面	課題研究に関連する調査・分析（4） グローバルビジネスにおける金融と今後の進展についての諸課題に関する課題研究に関連する調査・分析を行う。	【予習】事前学修として、課題に取り組み、次回授業で報告すること。 【復習】事後学修として、授業で確認された重要ポイントを中心に参考書、ノートを読み返し、復習すること。	4 時間
第８回	対面	課題研究に関連する調査・分析（5） グローバルビジネスにおける金融と今後の進展についての諸課題に関する課題研究に関連する調査・分析を行う。	【予習】事前学修として、課題に取り組み、次回授業で報告すること。 【復習】事後学修として、授業で確認された重要ポイントを中心に参考書、ノートを読み返し、復習すること。	4 時間
第９回	対面	課題研究作成指導（1） これまでの研究成果の取りまとめと研究手法、レポート作成について指導を行う。	【予習】事前学修として、課題に取り組み、次回授業で報告すること。 【復習】事後学修として、授業で確認された重要ポイントを中心に参考書、ノートを読み返し、復習すること。	4 時間
第１０回	対面	課題研究作成指導（2） これまでの研究成果の取りまとめと研究手法、レポート作成について指導を行う。	【予習】事前学修として、課題に取り組み、次回授業で報告すること。 【復習】事後学修として、授業で確認された重要ポイントを中心に参考書、ノートを読み返し、復習すること。	4 時間
第１１回	対面	課題研究作成指導（3） これまでの研究成果の取りまとめと研究手法、レポート作成について指導を行う。	【予習】事前学修として、課題に取り組み、次回授業で報告すること。 【復習】事後学修として、授業で確認された重要ポイントを中心に参考書、ノートを読み返し、復習すること。	4 時間

第１２回	対面	課題研究発表（1） 個々の課題研究の内容を発表し、教員と履修生がディスカッションを行う。	【予習】事前学修として、課題に取り組み、次回授業で報告すること。 【復習】事後学修として、授業で確認された重要ポイントを中心に参考書、ノートを読み返し、復習すること。	4 時間
第１３回	対面	課題研究発表（2） 個々の課題研究の内容を発表し、教員と履修生がディスカッションを行う。	【予習】事前学修として、課題に取り組み、次回授業で報告すること。 【復習】事後学修として、授業で確認された重要ポイントを中心に参考書、ノートを読み返し、復習すること。	4 時間
第１４回	対面	課題研究発表（3） 個々の課題研究の内容を発表し、教員と履修生がディスカッションを行う。	【予習】事前学修として、課題に取り組み、次回授業で報告すること。 【復習】事後学修として、授業で確認された重要ポイントを中心に参考書、ノートを読み返し、復習すること。	4 時間
第１５回	オンデマンド	総括 授業全体の総括を行う。	【予習】事前学修として、課題に取り組み、次回授業で報告すること。 【復習】事後学修として、授業で確認された重要ポイントを中心に参考書、ノートを読み返し、復習すること。	4 時間

科目名	専門演習ⅢB	開講年度	2025
担当者	中西　亮太	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	言語そのものを研究対象として扱う言語学の観点から、言語にまつわる諸問題を研究する。		
授業の目的及び概要	今までに履修した講義科目等で学修した言語学に関する知識や理論を言語にまつわる諸問題に応用することで学術的な研究を進め、専門演習ⅢA に引き続き、専門演習Ⅱから研究を進めてきたテーマに基づいて履修者それぞれの卒業研究の完成を目指す。授業ではその成果を適宜報告し、ディスカッション等を通じてより質の高い卒業論文の執筆へとつなげる。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	専門演習ⅢA に引き続き、専門演習Ⅱから続けてきた研究を進め、より発展的な卒業研究な行うことを目的とする。ディスカッション等を通じて得られた知見をもとに、発表で指摘された課題等について再検討を行ったうえで適宜修正を行い、4 年間の学修成果としての卒業論文を完成させる。また、授業中のグループでの取り組みを通して、主体性や協働性、リーダーシップ等を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	卒業研究については、理論や分析・考察方法に対して適切なコメントやアドバイスをし、フィードバックを行う。また、発表・レポートについてはコメントや改善点を提示する形でフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	適宜論文等の文献資料を配布する。	ISBN	なし
参考書	なし	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	30
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	30
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	40
その他の内容	卒業研究報告レポート 40%

この科目の受講にあたって	授業でのさまざまなテーマのディスカッションや意見交換を通して、世界中の様々な言語そのものや言語にまつわる現象に対して熱心に取り組むことを期待します。学生一人ひとりが「問い」を持ち、授業を通じて自分ならではの「答え」を探していくことを期待します。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション（授業の目的や目標、進め方などの概要を説明する）	発表の準備（資料調査、論点や研究の整理、レジュメ作成など）	4 時間

第２回	対面	卒業研究最終発表と卒業論文の完成に向けて	発表および執筆の準備（資料調査、論点や研究の整理、レジュメ作成など）	4 時間
第３回	対面	卒業研究最終発表（1）	発表の準備（資料調査、論点や研究の整理、レジュメ作成など） 授業後は、授業中に受けた質問や指摘、コメントを踏まえて卒業研究の修正と推敲を行う。	4 時間
第４回	対面	卒業研究最終発表（2）	発表の準備（資料調査、論点や研究の整理、レジュメ作成など） 授業後は、授業中に受けた質問や指摘、コメントを踏まえて卒業研究の修正と推敲を行う。	4 時間
第５回	対面	卒業研究最終発表（3）	発表の準備（資料調査、論点や研究の整理、レジュメ作成など） 授業後は、授業中に受けた質問や指摘、コメントを踏まえて卒業研究の修正と推敲を行う。	4 時間
第６回	対面	卒業研究最終発表（4）	発表の準備（資料調査、論点や研究の整理、レジュメ作成など） 授業後は、授業中に受けた質問や指摘、コメントを踏まえて卒業研究の修正と推敲を行う。	4 時間
第７回	対面	卒業研究最終発表（5）	発表の準備（資料調査、論点や研究の整理、レジュメ作成など） 授業後は、授業中に受けた質問や指摘、コメントを踏まえて卒業研究の修正と推敲を行う。	4 時間
第８回	対面	卒業研究最終発表（6）	発表の準備（資料調査、論点や研究の整理、レジュメ作成など） 授業後は、授業中に受けた質問や指摘、コメントを踏まえて卒業研究の修正と推敲を行う。	4 時間
第９回	対面	卒業研究最終発表（7）	発表の準備（資料調査、論点や研究の整理、レジュメ作成など） 授業後は、授業中に受けた質問や指摘、コメントを踏まえて卒業研究の修正と推敲を行う。	4 時間
第１０回	対面	卒業論文の編集（1）	卒業研究を進め、授業中に受けた質問や指摘、コメントを踏まえて卒業論文の修正と推敲を行う。	4 時間
第１１回	対面	卒業論文の編集（1）	卒業研究を進め、授業中に受けた質問や指摘、コメントを踏まえて卒業論文の修正と推敲を行う。	4 時間
第１２回	対面	卒業論文の編集（1）	卒業研究を進め、授業中に受けた質問や指摘、コメントを踏まえて卒業論文の修正と推敲を行う。	4 時間
第１３回	対面	卒業論文の編集（1）	卒業研究を進め、授業中に受けた質問や指摘、コメントを踏まえて卒業論文の修正と推敲を行う。	4 時間
第１４回	対面	卒業論文の編集（1）	卒業研究を進め、授業中に受けた質問や指摘、コメントを踏まえて卒業論文の修正と推敲を行う。	4 時間
第１５回	オンデマンド	授業全体の総括	授業での取り組みと総括を通して卒業研究を完成させる。	4 時間

科目名	専門演習ⅢB	開講年度	2025
担当者	田中　慎吾	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	講和と安保の検討		
授業の目的及び概要	3 年次演習から引き続き本演習では、講和と安保について国際政治学の立場から検討する。とりわけ最終学年の本演習では卒業研究の完遂を一大目的とする。そのため前半では卒業研究の進捗発表を行ってもらう。演習の後半では、卒業研究の成果を発表してもらい、論文の指導を行う。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・自らの卒業研究を完遂させることができる。 ・他人の研究発表を真摯に聞くことができるようになり、その上で、単に批判するだけではない建設的な意見を述べれるようになる。 ・戦争と平和について包括な知識を獲得し、自らの意見を持てるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	全ての発表・レジュメについて演習内で教員が演習内でフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定なし	ISBN	指定なし
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	40
授業期間中の小テスト、レポート課題等	60
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって
学生最後の学びの集大成である卒業研究の着実な完遂のため、毎回の演習に出席をすること。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	オリエンテーション（今学期の進め方、目標、評価方法などについて）	配布資料を見直す	6 時間
第２回	対面	卒業研究(論文･レポ゜ート)の要件再確認	配布資料を見直す	4 時間

第３回	対面	卒業研究(論文・レポ゜ート)の執筆に際しての諸注意	配布資料を見直す	4 時間
第４回	対面	卒業研究進捗発表１	事前；クラスメイトが発表するレジュメの読み込み 事後；配布資料を見直す	4 時間
第５回	対面	卒業研究進捗発表２	事前；クラスメイトが発表するレジュメの読み込み 事後；配布資料を見直す	4 時間
第６回	対面	卒業研究進捗発表３	事前；クラスメイトが発表するレジュメの読み込み 事後；配布資料を見直す	4 時間
第７回	対面	卒業研究進捗発表４	事前；クラスメイトが発表するレジュメの読み込み 事後；配布資料を見直す	4 時間
第８回	対面	卒業研究進捗発表５	事前；クラスメイトが発表するレジュメの読み込み 事後；配布資料を見直す	4 時間
第９回	対面	卒業研究最終発表１	事前；クラスメイトが発表するレジュメの読み込み 事後；配布資料を見直す	4 時間
第１０回	対面	卒業研究最終発表２	事前；クラスメイトが発表するレジュメの読み込み 事後；配布資料を見直す	4 時間
第１１回	対面	卒業研究最終発表３	事前；クラスメイトが発表するレジュメの読み込み 事後；配布資料を見直す	4 時間
第１２回	対面	卒業研究最終発表４	事前；クラスメイトが発表するレジュメの読み込み 事後；配布資料を見直す	4 時間
第１３回	対面	卒業研究最終発表５	事前；クラスメイトが発表するレジュメの読み込み 事後；配布資料を見直す	4 時間
第１４回	対面	卒論の見直し指導	事前；卒論執筆 事後；指摘箇所の修正	4 時間
第１５回	オンデマンド	演習の総括	配布資料の読み込み	4 時間

科目名	専門演習ⅢB	開講年度	2025
担当者	伍　躍	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	グローバル・ヒストリー(global history)の観点から政治・経済・社会を学修する。		
授業の目的及び概要	専門演習ⅢA の内容に基づいて、歴史の視点から現代アジアの諸課題を引き続き学び、分析・考察を通して各自が取り組む課題研究を発展させることを目的とする。テーマに関連する文献調査を調査し、それに基づき考察することで、課題研究を深めていく。課題研究の成果は、授業において報告（個人かグループ）を行い、教員による指導のもと履修生間で討論を行う。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①現代アジアの諸課題を観察して、歴史の視点で理解し自らの見解をまとめることができる。 ②特定のテーマに関する調査・研究を行い、国際社会の多様性、異なる価値観や文化的背景をもつ他者との協働に資する有為な論点や処方を獲得することができる。 ③プレゼン力・協働力のさらなる向上を目指す。 ④卒業論文を提出することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	①提出物（コメントペーパーやレポート）は次回以降の授業で返却し、演習内で他の学生を交えて意見交換を行う。 ②ラーニング・ポータルのディスカッション機能を含む ICT手段を活用する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	不使用	ISBN	なし
参考書	吉澤誠一郎編『論点・東洋史学:アジア・アフリカへの問い』、ミネルヴァ書房、2021	ISBN	9784623092178

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	50
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	50
その他（%）	0
その他の内容	0

この科目の受講にあたって
大学における学修生活４年間の集大成と記念としての卒業論文の執筆に励んでいただきたい。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション ①授業計画説明	復習：配布資料をもとに、本学期のスケジュールを確認し、自らの履修計画を考える（2 時間程度）	4 時間

		②卒業論文の進捗状況の確認 ③個人面談	予習：配布資料をもとに、資料調査・収集のポイントを事前に確認する（2 時間程度）	
第２回	対面	学位論文の構成と仕上げの方法	復習：配布資料をもとに、資料調査・収集のポイントを再確認する（2 時間程度） 予習：配布資料をもとに、研究課題の選定／調整を行う（2 時間程度）	4 時間
第３回	対面	現代アジアの諸課題に関する調査テーマの検討・発表をし、教員と履修生がディスカッションを行う。	復習：教員が指定した資料を使って事後学修すること （2 時間程度）。 予習：教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2 時間程度）。	4 時間
第４回	対面	現代アジアの諸課題に関する調査テーマの検討・発表をし、教員と履修生がディスカッションを行う。	復習：教員が指定した資料を使って事後学修すること （2 時間程度）。 予習：教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2 時間程度）。	4 時間
第５回	対面	現代アジアの諸課題に関する調査テーマの検討・発表をし、教員と履修生がディスカッションを行う。	復習：教員が指定した資料を使って事後学修すること （2 時間程度）。 予習：教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2 時間程度）。	4 時間
第６回	対面	現代アジアの諸課題に関する調査テーマの検討・発表をし、教員と履修生がディスカッションを行う。	復習：教員が指定した資料を使って事後学修すること （2 時間程度）。 予習：教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2 時間程度）。	4 時間
第７回	対面	現代アジアの諸課題に関する調査テーマの検討・発表をし、教員と履修生がディスカッションを行う。	復習：教員が指定した資料を使って事後学修すること （2 時間程度）。 予習：教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2 時間程度）。	4 時間
第８回	対面	現代アジアの諸課題に関する調査テーマの検討・発表をし、教員と履修生がディスカッションを行う。	復習：教員が指定した資料を使って事後学修すること （2 時間程度）。 予習：教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2 時間程度）。	4 時間
第９回	対面	卒業研究の仕上げに向けて	復習：教員が指定した資料を使って事後学修すること （2 時間程度）。 予習：教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2 時間程度）。	4 時間
第１０回	対面	卒業研究の最終発表１	復習：教員が指定した資料を使って事後学修すること （2 時間程度）。 予習：教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2 時間程度）。	4 時間
第１１回	対面	卒業研究の最終発表２	復習：教員が指定した資料を使って事後学修すること （2 時間程度）。 予習：教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2 時間程度）。	4 時間
第１２回	対面	卒業研究の最終発表３	復習：教員が指定した資料を使って事後学修すること （2 時間程度）。 予習：教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2 時間程度）。	4 時間
第１３回	対面	卒業研究の最終発表４	復習：教員が指定した資料を使って事後学修すること （2 時間程度）。 予習：教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2 時間程度）。	4 時間
第１４回	対面	卒業研究の最終発表５	復習：教員が指定した資料を使って事後学修すること （2 時間程度）。 予習：教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2 時間程度）。	4 時間
第１５回	オンデマンド	振り返り・まとめ ＊以上の授業計画は卒業研究の進捗状況に応じて、オンデマンド授業の実施時期を	復習＋予習：卒業論文を執筆すること（4 時間以上）	4 時間

		含めて微調整を行う可能性はある。		

科目名	卒業論文	開講年度	2025
担当者	演習ⅢA・B 担当教員	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	4 単位
グレード	G4	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	卒業論文の作成		
授業の目的及び概要	「専門演習ⅢＡ・Ｂ」での報告と教員の指導をもとに、卒業論文を完成させます。詳細について、年度初めに発行する『卒業研究ガイド』を必ず参照してください。 ３年次に選んだ自身の所属ゼミの専攻分野の中からテーマを選び、情報利活用力、文献理解力、検証・考察力、文章作成力、そして自分の集中力と忍耐力のすべてを使って完成させます。４年間にわたる国際学を中心とする大学の学びの集大成というべきものです。 卒業論文の執筆を通して、国際学の専門知識を深め、社会で活躍するために必要な現代社会の諸課題の解決に向けて取り組む力を身につけます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	自身が設定したテーマに関して、これまでにどのようなことが議論されてきたのかを整理し、残された課題や自身の意見を述べることができるようになること。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	論文の添削・指導を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	―	ISBN	―
参考書	―	ISBN	―

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	0
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	100
その他の内容	卒業論文

この科目の受講にあたって	12,000 字以上の卒業論文を執筆し、社会で活躍することができる力を身につけてください。合格作品は図書館で永久保存し、学内での閲覧に供します。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	―	―	6 時間
第２回	対面	―	―	6 時間
第３回	対面	―	―	6 時間

第４回	対面	ー	ー	6 時間
第５回	対面	ー	ー	6 時間
第６回	対面	ー	ー	6 時間
第７回	対面	ー	ー	6 時間
第８回	対面	ー	ー	6 時間
第９回	対面	ー	ー	6 時間
第１０回	対面	ー	ー	6 時間
第１１回	対面	ー	ー	6 時間
第１２回	対面	ー	ー	6 時間
第１３回	対面	ー	ー	6 時間
第１４回	対面	ー	ー	6 時間
第１５回	オンデマンド	ー	ー	6 時間

科目名	フィールド・プロジェクトＡ	開講年度	2025
担当者	高砂　謙二	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	実習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	世界に対する関心を高め、「気づき」を得る		
授業の目的及び概要	この授業は、国内における事前・事後学修と海外における約 1 週間の体験・研修から構成される。国内での集中的な学修と海外の研修先における、学修、交流活動、現地調査、ボランティア活動などの種々の学修及び体験を通して、異文化理解、コミュニケーション能力、協働力を養うことを目的とする。また、学修と体験の過程を通じて、国際感覚の涵養と学修動機の形成あるいは向上を図る。学修目標の達成度、プロジェクトレポートの内容、学修成果発表の結果などをもとに担当教員が成績評価を行う。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	学修、生活、交流、ボランティア活動等、学生たちの主体的な活動への参加を促し、異なる人々とのコミュニケーションや協働を通じて、1）言語運用能力とコミュニケーション能力の向上、2）国際理解と国際性の涵養、3）チームワーク、リーダーシップ、協働について学ぶこと、4）大学での学修への動機を形成あるいは深めることを目標とする。 （この科目の位置づけ、学位授与方針との関係等については、履修要項「国際学部教育課程の編成の考え方」及び「コース制と履修モデル」を参照。）		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業での発表、あるいは、現地での見学の総括後には、各見学地において学んだことを学生とディスカッションすると同時に、教員から適宜ポイントを伝える。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、金融機関において営業店や外国部、審査部、経営企画等で 16 年間勤務し、銀行業務全般や国際業務（外国為替リーディング業務、外為与信審査業務、国際経営・貿易相談業務、輸出入貿易書類点検業務）、法務・市場調査・広報等の実務経験を積んできた。本科目では、国際的なマーケットの実態や外国為替相場の特性などについて、こうした実務経験を活かして解説するなど、実践的な教育を行う。		
テキスト	参加するプログラムのなかで指示する。	ISBN	N.A.
参考書	参加するプログラムのなかで指示する。	ISBN	N.A.

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	10
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	60
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	なし

この科目の受講にあたって	アジア太平洋地域におけるひとつの国・地域をテーマとした地域研究を行うフィールド・プロジェクトです。事前学修のなかで、テーマである国・地域の文化・社会・経済を知りながら、日本や世界との関係、さらにはアジア太平洋における政治・経済・ビジネス上の重要性など、さまざまな視点から学んでいきます。そうすると、現地プログラムのなかで、その国・地域のさまざまな「顔」が見えてきます。自身の興味・関心を大切に、そして興味・関心を広げなが

	ら、卒業研究につなげていきましょう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	オリエンテーション プログラムの概要説明と理解、自己紹介、渡航に当たっての注意(危機管理オリエンテーション（1)、ビザ情報含む)、個人/チーム別プレゼンテーションの担当決めおよび説明	事前学修：分担になっている渡航先の社会について調べ、プレゼンの準備をする 事後学修：渡航先国について、図書を読み知識を深める	4 時間
第２回	対面	講義とディスカッション：研修先となる国・地域理解（1） 渡航先の社会・政治・経済課題の個人プレゼンテーション、プログラムの到達目標・意義、ボランティア・文化活動および交流イベントでのプレゼンテーション案などのディスカッション	事前学修：TOEIC IP に向けた学修 事後学修：渡航先国について、図書を読み知識を深める	4 時間
第３回	対面	TOEIC®IP 受験	事前学修：分担になっている渡航先の社会について、調べプレゼンの準備をする 事後学修：渡航先国について、図書と読み知識を深める	4 時間
第４回	対面	講義とディスカッション：研修先となる国・地域理解（2） 渡航先の社会・政治・経済課題の個人プレゼンテーション（1 人 5 分)、プログラムの到達目標・意義、ボランティア・文化活動および現地での交流でのプレゼンテーション案などのディスカッション	事前学修：現地プログラムを準備するために、自国と渡航先国の文化の差異を調べる 事後学修：渡航先国について、図書と読み知識を深める	4 時間
第５回	対面	語学授業(英語＋研修国･地域の言語基礎) 英語/現地言語講座、プログラムのなかで、ボランティア・文化紹介活動の企画、日本文化紹介の準備	事前学習：渡航に向けた準備として、グローバル化が渡航先国にもたらす現象について調べる。 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話ができるように準備しておく。	4 時間
第６回	対面	目標シートの作成 出発前のプログラムの最終確認、目標シートの作成と提出、危機管理オリエンテーション（2）	事前学習：渡航に向けた準備として、グローバル化が渡航先国にもたらす現象について調べる。 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話ができるように準備しておく。	4 時間
第７回	対面	オリエンテーション、英語と研修国・地域の言語基礎授業、研修中の活動に関わる準備（1） 1）オリエンテーション 計画書、目標シートに基づいた準備とディスカッション、危機管理オリエンテーション（3） 2） 英語と研修国・地域の言語基礎授業 3） 研修中の活動に関わる準備（1） 4） チームビルディング 5） 目標設定の確認、ディスカッション	事前学習：現地プログラムでの発表の最終準備 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話ができるように準備しておく。	4 時間
第８回	対面	イントロダクション オリエンテーション、歓迎会、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第９回	対面	フィールドワーク（1） 派遣国の社会、政治、経済に関するフィールドワーク、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第１０回	対面	フィールドワーク（2） フィールドワーク(日系企業、NGO の訪問・	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間

		インタビュー、社会文化施設見学など)、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成		
第１１回	対面	ボランティア・文化交流活動（1） 学校訪問と交流など 社会的弱者支援のボランティア・文化交流活動：学校、児童養護施設（孤児院）やまたは老人福祉施設など 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第１２回	対面	ボランティア・文化交流活動（2） 学校訪問と交流など、社会的弱者支援のボランティア・文化交流活動：学校、児童養護施設（孤児院）やまたは老人福祉施設など、総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第１３回	対面	成果発表と交流 プレゼンテーション：(1) 大学紹介、(2) 日本・大阪紹介、(3) 今回の Fld. P で学んだことなど、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第１４回	対面	課題発表準備 活動日誌の整理と提出、現地研修からの学びと課題についてのディスカッション、学修成果発表に向けてのプレゼンテーションの作成	事前・事後学習：報告会に向けた準備	6 時間
第１５回	対面	学修成果発表と TOEIC®IP 受験 フィールド・プロジェクト I を通じての学修成果についてのプレゼンテーションの発表、TOEIC®IP 受験	事後学修：現地での活動とそこでの体験の省察をレポートにまとめる	6 時間

科目名	フィールド・プロジェクトＡ	開講年度	2025
担当者	ミルズ・ジョナサン	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	実習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	Exploring Japanese Culture Past and Present（日本文化の過去と現在を見て考える）		
授業の目的及び概要	このフィールド・プロジェクトでは、日本文化の過去の文化と現在の文化の関連について深く考え、日本に関する知識とを増やすことによって、外国人として日本で活躍するために必要である「教養」と「常識」を育てる。主に日本の伝統文化を美術・文学・演劇・建築などの現象を実際に自分の目でみて、現在の文化との関連を考えることが学修の目的とする。また、学修の一つの柱として、関西と大阪の独特の文化である「上方文化」を考える。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 日本の文化について、英語で説明できる。 2. 現代・近代・前近代を問わず、日本文化、特に大阪の文化の重要な側面を認識し、それを説明できる。 3. 過去の文化が現代の日本文化に及ぼした影響を理解する。 4. 日本文化が日本の「ソフト・パワー」に及ぼす影響を理解する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業での発表、あるいは、見学の総括後には、各見学地において学んだことを学生とディスカッションすると同時に、教員から適宜ポイントを伝える。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	なし。	ISBN	なし。
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	10
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	60
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	なし

この科目の受講にあたって	国際学部の皆さんにとっては「異文化理解」は大変重要な課題です。日々の積極的な交流や、海外体験を通じて、国際感覚を身に付けることも重要ですが、それに加えて本科目に紹介される理論と具体例の学修によって、異文化理解が更に深まることが期待されます。授業中の積極的な参加（ノート手―キング、クループワーク、質疑応答など）および予習・復習によって、紹介されるアイデアや具体例をよく学修しましょう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第１回	対面	事前学修①　Orientation and Course Explanation	授業後に、配ったレジュメと、自分の授業でとったメモをしっかり読み、復習すること。また、Learning Portal に掲載する次回のレジュメを事前に読んでおくこと。	4 時間
第２回	対面	事前学修②　Exploring Pre-Modern Kamigata Culture (1): The Nara Period	授業後に、配ったレジュメと、自分の授業でとったメモをしっかり読み、復習すること。また、Learning Portal に掲載する次回のレジュメを事前に読んでおくこと。	4 時間
第３回	対面	事前学修③　Exploring Pre-Modern Kamigata Culture (2): The Heian Period	授業後に、配ったレジュメと、自分の授業でとったメモをしっかり読み、復習すること。また、Learning Portal に掲載する次回のレジュメを事前に読んでおくこと。	4 時間
第４回	対面	事前学修④　Exploring Pre-Modern Kamigata Culture (3): The Edo Period (1)	授業後に、配ったレジュメと、自分の授業でとったメモをしっかり読み、復習すること。また、Learning Portal に掲載する次回のレジュメを事前に読んでおくこと。	4 時間
第５回	対面	事前学修⑤　Exploring Pre-Modern Kamigata Culture (4): The Edo Period (2)	授業後に、配ったレジュメと、自分の授業でとったメモをしっかり読み、復習すること。また、Learning Portal に掲載する次回のレジュメを事前に読んでおくこと。	4 時間
第６回	対面	事前学修⑥　Discovering Modern Kamigata Culture (1): Meiji and the Twentieth Century	授業後に、配ったレジュメと、自分の授業でとったメモをしっかり読み、復習すること。また、Learning Portal に掲載する次回のレジュメを事前に読んでおくこと。	4 時間
第７回	対面	事前学修⑦　Discovering Modern Kamigata Culture (2): Contemporary Kansai	授業後に、配ったレジュメと、自分の授業でとったメモをしっかり読み、復習すること。また、Learning Portal に掲載する次回のレジュメを事前に読んでおくこと。	4 時間
第８回	対面	実地研修①　Visiting the Osaka Museum of History	授業後に、配ったレジュメと、自分の授業でとったメモをしっかり読み、復習すること。また、Learning Portal に掲載する次回のレジュメを事前に読んでおくこと。	4 時間
第９回	対面	実地研修②　Visiting Kansai’s Temples and Shrines (1)	授業後に、配ったレジュメと、自分の授業でとったメモをしっかり読み、復習すること。また、Learning Portal に掲載する次回のレジュメを事前に読んでおくこと。	4 時間
第１０回	対面	実地研修③　The Dotonbori and the National Bunraku Theatre	授業後に、配ったレジュメと、自分の授業でとったメモをしっかり読み、復習すること。また、Learning Portal に掲載する次回のレジュメを事前に読んでおくこと。	4 時間
第１１回	対面	実地研修④　Visiting sites associated with Osaka’s Pre-Modern Education	授業後に、配ったレジュメと、自分の授業でとったメモをしっかり読み、復習すること。また、Learning Portal に掲載する次回のレジュメを事前に読んでおくこと。	4 時間
第１２回	対面	実地研修⑤　Visiting Kansai’s Temples and Shrines (2)	授業後に、配ったレジュメと、自分の授業でとったメモをしっかり読み、復習すること。また、Learning Portal に掲載する次回のレジュメを事前に読んでおくこと。	4 時間
第１３回	対面	事後学修　Summary of the Course (Conducted Online)	授業後に、配ったレジュメと、自分の授業でとったメモをしっかり読み、復習すること。また、Learning Portal に掲載する次回のレジュメを事前に読んでおくこと。	4 時間
第１４回	対面	第 14 回	授業後に、配ったレジュメと、自分の授業でとったメモをしっかり読み、復習すること。また、Learning Portal に掲載する次回のレジュメを事前に読んでおくこと。	4 時間
第１５回	対面	第 15 回	授業後に、配ったレジュメと、自分の授業でとったメ	4 時間

			モをしっかり読み、復習すること。また、Learning Portal に掲載する次回のレジュメを事前に読んでおくこと。	

科目名	フィールド・プロジェクトＡ	開講年度	2025
担当者	張　雪斌	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	実習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	世界に対する関心を高め、「気づき」を得る		
授業の目的及び概要	この授業は、事前・事後学修と 5 回程度の体験・研修から構成される。集中的な事前・事後学修と現地体験、学修、見学、交流活動などを通して日本社会への理解を深め、異文化理解、コミュニケーション能力、協働力を養うことを目的とする。また、学修と体験の過程を通じて、国際感覚の涵養と学修動機の形成、向上を図る。学修目標の達成度、プロジェクトレポートの内容、学修成果発表の結果などをもとに担当教員が成績評価を行う。 なお、各プログラム（クラス）の学修内容、日程や成績評価に必要な提出物が異なるため、本科目を履修する際は必ず各プログラム（クラス）の紹介を確認すること。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	事前・事後学修と現地体験、学修、見学、交流活動などを通じて、1）日本の政治、経済、文化、社会への理解を深める、2）日本語をはじめとする言語運用能力とコミュニケーション能力の向上させる、3）国際理解と国際性の涵養、4）大学での専門学修への動機を形成し深めることを目標とする。（この科目の位置づけ、学位授与方針との関係等については、履修要項「国際学部教育課程の編成の考え方」及び「コース制と履修モデル」を参照。）		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業での発表、あるいは、現地体験・研修の総括後には、各見学地において学んだことを学生とディスカッションすると同時に、教員から適宜ポイントを伝える。 ミニレポート、感想文などの提出物に対し、教員が講評を行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	参加するプログラムのなかで指示する。	ISBN	N.A.
参考書	参加するプログラムのなかで指示する。	ISBN	N.A.

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	10
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	60
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	なし

この科目の受講にあたって	本科目は留学生が日本への理解を深めることを主たる目的とするフィールド・プロジェクトである。事前学修のなかで、日本の政治、経済、文化、社会を学びながら、日本とアジア太平洋地域、世界との関係、さらには自分の出身国との関係についてさまざまな視点から学んでいく。自身の興味・関心を大切にし、そして興味・関心を広げながら、卒業研究につなげていくことが大切である。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	オリエンテーション プログラムの概要説明、自己紹介、個人/チーム別プレゼンテーションの担当決めおよび説明	事前学修：ガイダンスでの配布物などを中心に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第２回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第３回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第４回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第５回	対面	講義とディスカッション：現地体験・研修の内容に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第６回	対面	講義とディスカッション：現地体験・研修の内容に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第７回	対面	講義とディスカッション：現地体験・研修の内容に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第８回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第９回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第１０回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第１１回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を復習し、参考資料を使って知識を深める事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第１２回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第１３回	対面	現地体験・研修で学んだ知識をまとめ、グループ発表の準備を行う	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第１４回	対面	現地体験・研修で学んだ知識をまとめ、グループ発表を行う	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を復習し、参考資料を使って知識を深める	6 時間
第１５回	対面	現地体験・研修で学んだ知識をまとめ、グループ発表を行う	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を復習し、参考資料を使って知識を深める	6 時間

科目名	フィールド・プロジェクトＡ	開講年度	2025
担当者	木村　彩音	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	実習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	世界に対する関心を高め、「気づき」を得る。		
授業の目的及び概要	この授業は、国内における事前・事後学修と海外における約 1 週間の体験・研修から構成される。国内での集中的な学修と海外の研修先における、学修、交流活動、現地調査、ボランティア活動などの種々の学修及び体験を通して、異文化理解、コミュニケーション能力、協働力を養うことを目的とする。また、学修と体験の過程を通じて、国際感覚の涵養と学修動機の形成あるいは向上を図る。学修目標の達成度、プロジェクトレポートの内容、学修成果発表の結果などをもとに担当教員が成績評価を行う。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	学修、生活、交流、ボランティア活動等、学生たちの主体的な活動への参加を促し、異なる人々とのコミュニケーションや協働を通じて、1）言語運用能力とコミュニケーション能力の向上、2）国際理解と国際性の涵養、3）チームワーク、リーダーシップ、協働について学ぶこと、4）大学での学修への動機を形成あるいは深めることを目標とする。 （この科目の位置づけ、学位授与方針との関係等については、履修要項「国際学部教育課程の編成の考え方」及び「コース制と履修モデル」を参照。）		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業での発表、あるいは、現地での見学の総括後には、各見学地において学んだことを学生とディスカッションすると同時に、教員から適宜ポイントを伝える。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	参加するプログラムのなかで指示する。	ISBN	N.A.
参考書	参加するプログラムのなかで指示する。	ISBN	N.A.

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	10
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	60
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	なし

この科目の受講にあたって	アジア太平洋地域におけるひとつの国・地域をテーマとした地域研究を行うフィールド・プロジェクトです。事前学修のなかで、テーマである国・地域の文化・社会・経済を知りながら、日本や世界との関係、さらにはアジア太平洋における政治・経済・ビジネス上の重要性など、さまざまな視点から学んでいきます。そうすると、現地プログラムのなかで、その国・地域のさまざまな「顔」が見えてきます。自身の興味・関心を大切に、そして興味・関心を広げながら、卒業研究につなげていきましょう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	オリエンテーション プログラムの概要説明と理解、自己紹介、渡航に当たっての注意(危機管理オリエンテーション（1)、ビザ情報含む)、個人/チーム別プレゼンテーションの担当決めおよび説明	事前学修：分担になっている渡航先の社会について調べ、プレゼンの準備をする 事後学修：渡航先国について、図書を読み知識を深める	4 時間
第２回	対面	講義とディスカッション：研修先となる国・地域理解（1） 渡航先の社会・政治・経済課題の個人プレゼンテーション、プログラムの到達目標・意義、ボランティア・文化活動および交流イベントでのプレゼンテーション案などのディスカッション	事前学修：TOEIC IP に向けた学修 事後学修：渡航先国について、図書を読み知識を深める	4 時間
第３回	対面	TOEIC®IP 受験	事前学修：分担になっている渡航先の社会について、調べプレゼンの準備をする 事後学修：渡航先国について、図書と読み知識を深める	4 時間
第４回	対面	講義とディスカッション：研修先となる国・地域理解（2） 渡航先の社会・政治・経済課題の個人プレゼンテーション（1 人 5 分)、プログラムの到達目標・意義、ボランティア・文化活動および現地での交流でのプレゼンテーション案などのディスカッション	事前学修：現地プログラムを準備するために、自国と渡航先国の文化の差異を調べる 事後学修：渡航先国について、図書と読み知識を深める	4 時間
第５回	対面	語学授業(英語＋研修国･地域の言語基礎) 英語/現地言語講座、プログラムのなかで、ボランティア・文化紹介活動の企画、日本文化紹介の準備	事前学習：渡航に向けた準備として、グローバル化が渡航先国にもたらす現象について調べる。 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話ができるように準備しておく。	4 時間
第６回	対面	目標シートの作成 出発前のプログラムの最終確認、目標シートの作成と提出、危機管理オリエンテーション（2）	事前学習：渡航に向けた準備として、グローバル化が渡航先国にもたらす現象について調べる。 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話ができるように準備しておく。	4 時間
第７回	対面	オリエンテーション、英語と研修国・地域の言語基礎授業、研修中の活動に関わる準備（1） 1）オリエンテーション 計画書、目標シートに基づいた準備とディスカッション、危機管理オリエンテーション（3） 2） 英語と研修国・地域の言語基礎授業 3） 研修中の活動に関わる準備（1） 4） チームビルディング 5） 目標設定の確認、ディスカッション	事前学習：現地プログラムでの発表の最終準備 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話ができるように準備しておく。	4 時間
第８回	対面	イントロダクション オリエンテーション、歓迎会、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第９回	対面	フィールドワーク（1） 派遣国の社会、政治、経済に関するフィールドワーク、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第１０回	対面	フィールドワーク（2） フィールドワーク(日系企業、NGO の訪問・インタビュー、社会文化施設見学など)、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間

第１１回	対面	ボランティア・文化交流活動（1） 学校訪問と交流など 社会的弱者支援のボランティア･文化交流活動：学校、児童養護施設（孤児院）やまたは老人福祉施設など 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第１２回	対面	ボランティア・文化交流活動（2） 学校訪問と交流など、社会的弱者支援のボランティア・文化交流活動：学校、児童養護施設（孤児院）やまたは老人福祉施設など、総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第１３回	対面	成果発表と交流 プレゼンテーション：(1) 大学紹介、(2) 日本・大阪紹介、(3) 今回の Fld. P で学んだことなど、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第１４回	対面	課題発表準備 活動日誌の整理と提出、現地研修からの学びと課題についてのディスカッション、学修成果発表に向けてのプレゼンテーションの作成	事前・事後学習：報告会に向けた準備	6 時間
第１５回	対面	学修成果発表と TOEIC®IP 受験 フィールド・プロジェクト I を通じての学修成果についてのプレゼンテーションの発表、TOEIC®IP 受験	事後学修：現地での活動とそこでの体験の省察をレポートにまとめる	6 時間

科目名	フィールド・プロジェクトＡ	開講年度	2025
担当者	池上　寛	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	実習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	台湾に対する関心を高め、「気づき」を得る		
授業の目的及び概要	このフィールド・プロジェクトでは台湾について学び、国内における事前・事後学修と海外における約 1 週間の体験・研修から構成される。国内での集中的な学修と海外の研修先における、学修、交流活動、現地フィールドワークなどの種々の学修及び体験を通して、異文化理解、コミュニケーション能力、協働力を養うことを目的とする。また、学修と体験の過程を通じて、国際感覚の涵養と学修動機の形成あるいは向上を図る。学修目標の達成度、プロジェクトレポートの内容、学修成果発表の結果などをもとに担当教員が成績評価を行う。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	学修、生活、交流等、学生たちの主体的な活動への参加を促し、異なる人々とのコミュニケーションや協働を通じて、1）言語運用能力とコミュニケーション能力の向上、2）国際理解と国際性の涵養、3）チームワーク、リーダーシップ、協働について学ぶこと、4）大学での学修への動機を形成あるいは深めることを目標とする。 （この科目の位置づけ、学位授与方針との関係等については、履修要項「国際学部教育課程の編成の考え方」及び「コース制と履修モデル」を参照。）		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	事前学習や現地でのグループによるフィールドワークについての発表、あるいは帰国後の個人発表などを通じて、学生とディスカッションすると同時に、教員から適宜ポイントを伝える。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、独立行政法人日本貿易振興機構（JETRO）で 20 年以上に渡って業務に従事しており、在台北海外派遣員、産業研究グループ長代理、開発研究センター経済統合研究グループ長代理などを歴任している。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	参加するプログラムのなかで指示する。	ISBN	N.A.
参考書	参加するプログラムのなかで指示する。	ISBN	N.A.

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	30
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	35
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	15
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	20
その他の内容	現地活動

この科目の受講にあたって	このフィールド・プロジェクトはアジア太平洋地域におけるひとつの国・地域をテーマとした地域研究を行うものである。このフィールド・プロジェクトでは台湾を取り上げ、台湾の文化・社会・経済などを知りながら、日本や世界との関係、さらにはアジア太平洋における政治・経済・ビジネス上の重要性など、さまざまな視点から学ぶ。また、輔仁大学との学生交流を通じて、国際的な感覚も養う機会とする。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	事前学習（１） オリエンテーション プログラムの概要説明と理解、自己紹介を行うとともに、輔仁大学について学ぶ。また、前回実施したフィールド・プロジェクト（台湾）を振り返る。 渡航に当たっての注意（危機管理オリエンテーション（1)、ビザ情報含む）について説明する。	事前学修：台湾について調べるとともに、自己紹介の準備をする 事後学修：台湾について、図書やインターネットを通じて知識を深める	4 時間
第２回	対面	事前学修（２） 輔仁大学の学生と一緒に行うフィールドワークのグループ分けについて発表し、オンラインで輔仁大学とつないで交流を行い、今後の活動について説明する。 また、成績評価、グループ発表（事前事後）、個人発表、最終レポートについて説明する。	事前学修：台湾について、図書やインターネットを通じて理解を深める。 事後学修：渡航してから行うフィールドワークについて、グループ内で調査内容や行き先について議論し、決定する。	4 時間
第３回	対面	事前学修（３） 現地訪問先について、学修する。	事前学修：フィールドワークについての議論を進めておく。 事後学修：現地訪問先について、さらに調べるとともに、訪問した際の質問を考える。	4 時間
第４回	対面	事前学修（４） 台湾についての基本情報、簡単な中国語についての講義 渡航準備についての説明	事前学修：台湾の基本的な情報を調べる 事後学修：学修した中国語の復習、渡航準備を進める	4 時間
第５回	対面	事前学修（５） フィールドワークについての事前報告 各グループ 5 分程度の発表を行う。	事前学習：グループで行うフィールドワークについての発表準備をすること。 事後学修：教職員からのコメントを踏まえて、グループ内でフィールドワークの調整を行うこと。	4 時間
第６回	対面	事前学修（６） 出発前のプログラムの最終確認、電子入境申請、渡航についての注意事項について講義する。	事前学習：グループワークの最終調整をすること 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話ができるように準備しておく。渡航の最終確認をすること。	4 時間
第７回	対面	現地活動（１）移動、顔合わせ	事前学習：輔仁大学の学生とフィールドワークについての議論 事後学修：フィールドワークの成果発表の準備	4 時間
第８回	対面	現地活動（２）	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第９回	対面	現地活動（３） 輔仁大学生とともに、フィールドワークを実施する。	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第１０回	対面	現地活動（４） 輔仁大学生とともに、フィールドワークを実施する。	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第１１回	対面	現地活動（５）	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第１２回	対面	現地活動（６） グループによるフィールドワークの成果発表	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第１３回	対面	事後学修（１） フィールド・プロジェクトの振り返り 輔仁大学とオンライン接続して、活動の振り返り	事前学習：フィールド・プロジェクト全体についての振り返りをしておくこと 事後学修：個人発表の準備、最終レポートの準備	4 時間
第１４回	対面	事後学修（２）	報告会の準備を行うとともに、個人最終レポートの	6 時間

		個人成果発表①	準備	
第１５回	対面	事後学修（３） 個人成果発表②	報告会の準備を行うとともに、個人最終レポートの準備	6 時間

科目名	フィールド・プロジェクトＡ	開講年度	2025
担当者	徐　潤雅	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	実習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	世界に対する関心を高め、「気づき」を得る		
授業の目的及び概要	この授業は、国内における事前・事後学修と海外における約 1 週間の体験・研修から構成される。国内での集中的な学修と海外の研修先における、学修、交流活動、現地調査、ボランティア活動などの種々の学修及び体験を通して、異文化理解、コミュニケーション能力、協働力を養うことを目的とする。また、学修と体験の過程を通じて、国際感覚の涵養と学修動機の形成あるいは向上を図る。学修目標の達成度、プロジェクトレポートの内容、学修成果発表の結果などをもとに担当教員が成績評価を行う。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	学修、生活、交流、ボランティア活動等、学生たちの主体的な活動への参加を促し、異なる人々とのコミュニケーションや協働を通じて、1）言語運用能力とコミュニケーション能力の向上、2）国際理解と国際性の涵養、3）チームワーク、リーダーシップ、協働について学ぶこと、4）大学での学修への動機を形成あるいは深めることを目標とする。 （この科目の位置づけ、学位授与方針との関係等については、履修要項「国際学部教育課程の編成の考え方」及び「コース制と履修モデル」を参照。）		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業での発表、あるいは、現地での見学の総括後には、各見学地において学んだことを学生とディスカッションすると同時に、教員から適宜ポイントを伝える。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	参加するプログラムのなかで指示する。	ISBN	N.A.
参考書	参加するプログラムのなかで指示する。	ISBN	N.A.

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	10
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	60
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	なし

この科目の受講にあたって	アジア太平洋地域におけるひとつの国・地域をテーマとした地域研究を行うフィールド・プロジェクトです。事前学修のなかで、テーマである国・地域の文化・社会・経済を知りながら、日本や世界との関係、さらにはアジア太平洋における政治・経済・ビジネス上の重要性など、さまざまな視点から学んでいきます。そうすると、現地プログラムのなかで、その国・地域のさまざまな「顔」が見えてきます。自身の興味・関心を大切に、そして興味・関心を広げながら、卒業研究につなげていきましょう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	オリエンテーション プログラムの概要説明と理解、自己紹介、渡航に当たっての注意(危機管理オリエンテーション（1)、ビザ情報含む)、個人/チーム別プレゼンテーションの担当決めおよび説明	事前学修：分担になっている渡航先の社会について調べ、プレゼンの準備をする 事後学修：渡航先国について、図書を読み知識を深める	4 時間
第２回	対面	講義とディスカッション：研修先となる国・地域理解（1） 渡航先の社会・政治・経済課題の個人プレゼンテーション、プログラムの到達目標・意義、ボランティア・文化活動および交流イベントでのプレゼンテーション案などのディスカッション	事前学修：TOEIC IP に向けた学修 事後学修：渡航先国について、図書を読み知識を深める	4 時間
第３回	対面	TOEIC®IP 受験	事前学修：分担になっている渡航先の社会について、調べプレゼンの準備をする 事後学修：渡航先国について、図書と読み知識を深める	4 時間
第４回	対面	講義とディスカッション：研修先となる国・地域理解（2） 渡航先の社会・政治・経済課題の個人プレゼンテーション（1 人 5 分)、プログラムの到達目標・意義、ボランティア・文化活動および現地での交流でのプレゼンテーション案などのディスカッション	事前学修：現地プログラムを準備するために、自国と渡航先国の文化の差異を調べる 事後学修：渡航先国について、図書と読み知識を深める	4 時間
第５回	対面	語学授業(英語＋研修国･地域の言語基礎) 英語/現地言語講座、プログラムのなかで、ボランティア・文化紹介活動の企画、日本文化紹介の準備	事前学習：渡航に向けた準備として、グローバル化が渡航先国にもたらす現象について調べる。 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話ができるように準備しておく。	4 時間
第６回	対面	目標シートの作成 出発前のプログラムの最終確認、目標シートの作成と提出、危機管理オリエンテーション（2）	事前学習：渡航に向けた準備として、グローバル化が渡航先国にもたらす現象について調べる。 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話ができるように準備しておく。	4 時間
第７回	対面	オリエンテーション、英語と研修国・地域の言語基礎授業、研修中の活動に関わる準備（1） 1）オリエンテーション 計画書、目標シートに基づいた準備とディスカッション、危機管理オリエンテーション（3） 2） 英語と研修国・地域の言語基礎授業 3） 研修中の活動に関わる準備（1） 4） チームビルディング 5） 目標設定の確認、ディスカッション	事前学習：現地プログラムでの発表の最終準備 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話ができるように準備しておく。	4 時間
第８回	対面	イントロダクション オリエンテーション、歓迎会、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第９回	対面	フィールドワーク（1） 派遣国の社会、政治、経済に関するフィールドワーク、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第１０回	対面	フィールドワーク（2） フィールドワーク(日系企業、NGO の訪問・インタビュー、社会文化施設見学など)、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間

第１１回	対面	ボランティア・文化交流活動（1） 学校訪問と交流など 社会的弱者支援のボランティア･文化交流活動：学校、児童養護施設（孤児院）やまたは老人福祉施設など 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第１２回	対面	ボランティア・文化交流活動（2） 学校訪問と交流など、社会的弱者支援のボランティア・文化交流活動：学校、児童養護施設（孤児院）やまたは老人福祉施設など、総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第１３回	対面	成果発表と交流 プレゼンテーション：(1) 大学紹介、(2) 日本・大阪紹介、(3) 今回の Fld. P で学んだことなど、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第１４回	対面	課題発表準備 活動日誌の整理と提出、現地研修からの学びと課題についてのディスカッション、学修成果発表に向けてのプレゼンテーションの作成	事前・事後学習：報告会に向けた準備	6 時間
第１５回	対面	学修成果発表と TOEIC®IP 受験 フィールド・プロジェクト I を通じての学修成果についてのプレゼンテーションの発表、TOEIC®IP 受験	事後学修：現地での活動とそこでの体験の省察をレポートにまとめる	6 時間

科目名	フィールド・プロジェクトＡ	開講年度	2025
担当者	福田　真也	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	実習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	世界に対する関心を高め、「気づき」を得る。		
授業の目的及び概要	この授業は、国内における事前・事後学修と海外における約 1 週間の体験・研修から構成される。国内での集中的な学修と海外の研修先における、学修、交流活動、現地調査、ボランティア活動などの種々の学修及び体験を通して、異文化理解、コミュニケーション能力、協働力を養うことを目的とする。また、学修と体験の過程を通じて、国際感覚の涵養と学修動機の形成あるいは向上を図る。学修目標の達成度、プロジェクトレポートの内容、学修成果発表の結果などをもとに担当教員が成績評価を行う。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	学修、生活、交流、ボランティア活動等、学生たちの主体的な活動への参加を促し、異なる人々とのコミュニケーションや協働を通じて、1）言語運用能力とコミュニケーション能力の向上、2）国際理解と国際性の涵養、3）チームワーク、リーダーシップ、協働について学ぶこと、4）大学での学修への動機を形成あるいは深めることを目標とする。 （この科目の位置づけ、学位授与方針との関係等については、履修要項「国際学部教育課程の編成の考え方」及び「コース制と履修モデル」を参照。）		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業での発表、あるいは、現地での見学の総括後には、各見学地において学んだことを学生とディスカッションすると同時に、教員から適宜ポイントを伝える。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	参加するプログラムのなかで指示する。	ISBN	N.A.
参考書	参加するプログラムのなかで指示する。	ISBN	N.A.

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	10
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	60
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	なし

この科目の受講にあたって	アジア太平洋地域におけるひとつの国・地域をテーマとした地域研究を行うフィールド・プロジェクトです。事前学修のなかで、テーマである国・地域の文化・社会・経済を知りながら、日本や世界との関係、さらにはアジア太平洋における政治・経済・ビジネス上の重要性など、さまざまな視点から学んでいきます。そうすると、現地プログラムのなかで、その国・地域のさまざまな「顔」が見えてきます。自身の興味・関心を大切に、そして興味・関心を広げながら、卒業研究につなげていきましょう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	オリエンテーション プログラムの概要説明と理解、自己紹介、渡航に当たっての注意(危機管理オリエンテーション（1)、ビザ情報含む)、個人/チーム別プレゼンテーションの担当決めおよび説明	事前学修：分担になっている渡航先の社会について調べ、プレゼンの準備をする 事後学修：渡航先国について、図書を読み知識を深める	4 時間
第２回	対面	講義とディスカッション：研修先となる国・地域理解（1） 渡航先の社会・政治・経済課題の個人プレゼンテーション、プログラムの到達目標・意義、ボランティア・文化活動および交流イベントでのプレゼンテーション案などのディスカッション	事前学修：TOEIC IP に向けた学修 事後学修：渡航先国について、図書を読み知識を深める	4 時間
第３回	対面	TOEIC®IP 受験	事前学修：分担になっている渡航先の社会について、調べプレゼンの準備をする 事後学修：渡航先国について、図書と読み知識を深める	4 時間
第４回	対面	講義とディスカッション：研修先となる国・地域理解（2） 渡航先の社会・政治・経済課題の個人プレゼンテーション（1 人 5 分)、プログラムの到達目標・意義、ボランティア・文化活動および現地での交流でのプレゼンテーション案などのディスカッション	事前学修：現地プログラムを準備するために、自国と渡航先国の文化の差異を調べる 事後学修：渡航先国について、図書と読み知識を深める	4 時間
第５回	対面	語学授業(英語＋研修国･地域の言語基礎) 英語/現地言語講座、プログラムのなかで、ボランティア・文化紹介活動の企画、日本文化紹介の準備	事前学習：渡航に向けた準備として、グローバル化が渡航先国にもたらす現象について調べる。 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話ができるように準備しておく。	4 時間
第６回	対面	目標シートの作成 出発前のプログラムの最終確認、目標シートの作成と提出、危機管理オリエンテーション（2）	事前学習：渡航に向けた準備として、グローバル化が渡航先国にもたらす現象について調べる。 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話ができるように準備しておく。	4 時間
第７回	対面	オリエンテーション、英語と研修国・地域の言語基礎授業、研修中の活動に関わる準備（1） 1）オリエンテーション 計画書、目標シートに基づいた準備とディスカッション、危機管理オリエンテーション（3） 2） 英語と研修国・地域の言語基礎授業 3） 研修中の活動に関わる準備（1） 4） チームビルディング 5） 目標設定の確認、ディスカッション	事前学習：現地プログラムでの発表の最終準備 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話ができるように準備しておく。	4 時間
第８回	対面	イントロダクション オリエンテーション、歓迎会、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第９回	対面	フィールドワーク（1） 派遣国の社会、政治、経済に関するフィールドワーク、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第１０回	対面	フィールドワーク（2） フィールドワーク(日系企業、NGO の訪問・インタビュー、社会文化施設見学など)、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間

第１１回	対面	ボランティア・文化交流活動（1） 学校訪問と交流など 社会的弱者支援のボランティア･文化交流活動：学校、児童養護施設（孤児院）やまたは老人福祉施設など 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第１２回	対面	ボランティア・文化交流活動（2） 学校訪問と交流など、社会的弱者支援のボランティア・文化交流活動：学校、児童養護施設（孤児院）やまたは老人福祉施設など、総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第１３回	対面	成果発表と交流 プレゼンテーション：(1) 大学紹介、(2) 日本・大阪紹介、(3) 今回の Fld. P で学んだことなど、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第１４回	対面	課題発表準備 活動日誌の整理と提出、現地研修からの学びと課題についてのディスカッション、学修成果発表に向けてのプレゼンテーションの作成	事前・事後学習：報告会に向けた準備	6 時間
第１５回	対面	学修成果発表と TOEIC®IP 受験 フィールド･プロジェクト I を通じての学修成果についてのプレゼンテーションの発表、TOEIC®IP 受験	事後学修：現地での活動とそこでの体験の省察をレポートにまとめる	6 時間

科目名	フィールド・プロジェクトＡ	開講年度	2025
担当者	田中　慎吾	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	実習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	世界に対する関心を高め、「気づき」を得る		
授業の目的及び概要	この授業は、国内における事前・事後学修と海外における約 1 週間の体験・研修から構成される。国内での集中的な学修と海外の研修先における、学修、交流活動、現地調査、ボランティア活動などの種々の学修及び体験を通して、異文化理解、コミュニケーション能力、協働力を養うことを目的とする。また、学修と体験の過程を通じて、国際感覚の涵養と学修動機の形成あるいは向上を図る。学修目標の達成度、プロジェクトレポートの内容、学修成果発表の結果などをもとに担当教員が成績評価を行う。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	学修、生活、交流、ボランティア活動等、学生たちの主体的な活動への参加を促し、異なる人々とのコミュニケーションや協働を通じて、1）言語運用能力とコミュニケーション能力の向上、2）国際理解と国際性の涵養、3）チームワーク、リーダーシップ、協働について学ぶこと、4）大学での学修への動機を形成あるいは深めることを目標とする。 （この科目の位置づけ、学位授与方針との関係等については、履修要項「国際学部教育課程の編成の考え方」及び「コース制と履修モデル」を参照。）		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業での発表、あるいは、現地での見学の総括後には、各見学地において学んだことを学生とディスカッションすると同時に、教員から適宜ポイントを伝える。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	参加するプログラムのなかで指示する。	ISBN	N.A.
参考書	参加するプログラムのなかで指示する。	ISBN	N.A.

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	10
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	60
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	なし

この科目の受講にあたって	アジア太平洋地域におけるひとつの国・地域をテーマとした地域研究を行うフィールド・プロジェクトです。事前学修のなかで、テーマである国・地域の文化・社会・経済を知りながら、日本や世界との関係、さらにはアジア太平洋における政治・経済・ビジネス上の重要性など、さまざまな視点から学んでいきます。そうすると、現地プログラムのなかで、その国・地域のさまざまな「顔」が見えてきます。自身の興味・関心を大切に、そして興味・関心を広げながら、卒業研究につなげていきましょう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	オリエンテーション プログラムの概要説明と理解、自己紹介、渡航に当たっての注意(危機管理オリエンテーション（1)、ビザ情報含む)、個人/チーム別プレゼンテーションの担当決めおよび説明	事前学修：分担になっている渡航先の社会について調べ、プレゼンの準備をする 事後学修：渡航先国について、図書を読み知識を深める	4 時間
第２回	対面	講義とディスカッション：研修先となる国・地域理解（1） 渡航先の社会・政治・経済課題の個人プレゼンテーション、プログラムの到達目標・意義、ボランティア・文化活動および交流イベントでのプレゼンテーション案などのディスカッション	事前学修：TOEIC IP に向けた学修 事後学修：渡航先国について、図書を読み知識を深める	4 時間
第３回	対面	TOEIC®IP 受験	事前学修：分担になっている渡航先の社会について、調べプレゼンの準備をする 事後学修：渡航先国について、図書と読み知識を深める	4 時間
第４回	対面	講義とディスカッション：研修先となる国・地域理解（2） 渡航先の社会・政治・経済課題の個人プレゼンテーション（1 人 5 分)、プログラムの到達目標・意義、ボランティア・文化活動および現地での交流でのプレゼンテーション案などのディスカッション	事前学修：現地プログラムを準備するために、自国と渡航先国の文化の差異を調べる 事後学修：渡航先国について、図書と読み知識を深める	4 時間
第５回	対面	語学授業(英語＋研修国･地域の言語基礎) 英語/現地言語講座、プログラムのなかで、ボランティア・文化紹介活動の企画、日本文化紹介の準備	事前学習：渡航に向けた準備として、グローバル化が渡航先国にもたらす現象について調べる。 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話ができるように準備しておく。	4 時間
第６回	対面	目標シートの作成 出発前のプログラムの最終確認、目標シートの作成と提出、危機管理オリエンテーション（2）	事前学習：渡航に向けた準備として、グローバル化が渡航先国にもたらす現象について調べる。 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話ができるように準備しておく。	4 時間
第７回	対面	オリエンテーション、英語と研修国・地域の言語基礎授業、研修中の活動に関わる準備（1） 1）オリエンテーション 計画書、目標シートに基づいた準備とディスカッション、危機管理オリエンテーション（3） 2） 英語と研修国・地域の言語基礎授業 3） 研修中の活動に関わる準備（1） 4） チームビルディング 5） 目標設定の確認、ディスカッション	事前学習：現地プログラムでの発表の最終準備 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話ができるように準備しておく。	4 時間
第８回	対面	イントロダクション オリエンテーション、歓迎会、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第９回	対面	フィールドワーク（1） 派遣国の社会、政治、経済に関するフィールドワーク、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第１０回	対面	フィールドワーク（2） フィールドワーク(日系企業、NGO の訪問・インタビュー、社会文化施設見学など)、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間

第１１回	対面	ボランティア・文化交流活動（1） 学校訪問と交流など 社会的弱者支援のボランティア･文化交流活動：学校、児童養護施設（孤児院）やまたは老人福祉施設など 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第１２回	対面	ボランティア・文化交流活動（2） 学校訪問と交流など、社会的弱者支援のボランティア・文化交流活動：学校、児童養護施設（孤児院）やまたは老人福祉施設など、総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第１３回	対面	成果発表と交流 プレゼンテーション：(1) 大学紹介、(2) 日本・大阪紹介、(3) 今回の Fld. P で学んだことなど、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第１４回	対面	課題発表準備 活動日誌の整理と提出、現地研修からの学びと課題についてのディスカッション、学修成果発表に向けてのプレゼンテーションの作成	事前・事後学習：報告会に向けた準備	6 時間
第１５回	対面	学修成果発表と TOEIC®IP 受験 フィールド・プロジェクト I を通じての学修成果についてのプレゼンテーションの発表、TOEIC®IP 受験	事後学修：現地での活動とそこでの体験の省察をレポートにまとめる	6 時間

科目名	フィールド・プロジェクトＢ	開講年度	2025
担当者	張　雪斌	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	実習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	世界に対する関心を高め、「気づき」を得る		
授業の目的及び概要	この授業は、事前・事後学修と 5 回程度の体験・研修から構成される。集中的な事前・事後学修と現地体験、学修、見学、交流活動などを通して日本社会への理解を深め、異文化理解、コミュニケーション能力、協働力を養うことを目的とする。また、学修と体験の過程を通じて、国際感覚の涵養と学修動機の形成、向上を図る。学修目標の達成度、プロジェクトレポートの内容、学修成果発表の結果などをもとに担当教員が成績評価を行う。 なお、各プログラム（クラス）の学修内容、日程や成績評価に必要な提出物が異なるため、本科目を履修する際は必ず各プログラム（クラス）の紹介を確認すること。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	事前・事後学修と現地体験、学修、見学、交流活動などを通じて、1）日本の政治、経済、文化、社会への理解を深める、2）日本語をはじめとする言語運用能力とコミュニケーション能力の向上させる、3）国際理解と国際性の涵養、4）大学での専門学修への動機を形成し深めることを目標とする。（この科目の位置づけ、学位授与方針との関係等については、履修要項「国際学部教育課程の編成の考え方」及び「コース制と履修モデル」を参照。）		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業での発表、あるいは、現地体験・研修の総括後には、各見学地において学んだことを学生とディスカッションすると同時に、教員から適宜ポイントを伝える。 ミニレポート、感想文などの提出物に対し、教員が講評を行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	参加するプログラムのなかで指示する。	ISBN	N.A.
参考書	参加するプログラムのなかで指示する。	ISBN	N.A.

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	10
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	60
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	なし

この科目の受講にあたって	本科目は留学生が日本への理解を深めることを主たる目的とするフィールド・プロジェクトである。事前学修のなかで、日本の政治、経済、文化、社会を学びながら、日本とアジア太平洋地域、世界との関係、さらには自分の出身国との関係についてさまざまな視点から学んでいく。自身の興味・関心を大切にし、そして興味・関心を広げながら、卒業研究につなげていくことが大切である。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	オリエンテーション プログラムの概要説明、自己紹介、個人/チーム別プレゼンテーションの担当決めおよび説明	事前学修：ガイダンスでの配布物などを中心に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第２回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第３回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第４回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第５回	対面	講義とディスカッション：現地体験・研修の内容に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第６回	対面	講義とディスカッション：現地体験・研修の内容に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第７回	対面	講義とディスカッション：現地体験・研修の内容に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第８回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第９回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第１０回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第１１回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を復習し、参考資料を使って知識を深める事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第１２回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第１３回	対面	現地体験・研修で学んだ知識をまとめ、グループ発表の準備を行う	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第１４回	対面	現地体験・研修で学んだ知識をまとめ、グループ発表を行う	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を復習し、参考資料を使って知識を深める	6 時間
第１５回	対面	現地体験・研修で学んだ知識をまとめ、グループ発表を行う	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を復習し、参考資料を使って知識を深める	6 時間

科目名	フィールド・プロジェクトＢ	開講年度	2025
担当者	木村　彩音	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	実習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	世界に対する関心を高め、「気づき」を得る。		
授業の目的及び概要	この授業は、国内における事前・事後学修と海外における約 1 週間の体験・研修から構成される。国内での集中的な学修と海外の研修先における、学修、交流活動、現地調査、ボランティア活動などの種々の学修及び体験を通して、異文化理解、コミュニケーション能力、協働力を養うことを目的とする。また、学修と体験の過程を通じて、国際感覚の涵養と学修動機の形成あるいは向上を図る。学修目標の達成度、プロジェクトレポートの内容、学修成果発表の結果などをもとに担当教員が成績評価を行う。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	学修、生活、交流、ボランティア活動等、学生たちの主体的な活動への参加を促し、異なる人々とのコミュニケーションや協働を通じて、1）言語運用能力とコミュニケーション能力の向上、2）国際理解と国際性の涵養、3）チームワーク、リーダーシップ、協働について学ぶこと、4）大学での学修への動機を形成あるいは深めることを目標とする。 （この科目の位置づけ、学位授与方針との関係等については、履修要項「国際学部教育課程の編成の考え方」及び「コース制と履修モデル」を参照。）		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業での発表、あるいは、現地での見学の総括後には、各見学地において学んだことを学生とディスカッションすると同時に、教員から適宜ポイントを伝える。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	参加するプログラムのなかで指示する。	ISBN	N.A.
参考書	参加するプログラムのなかで指示する。	ISBN	N.A.

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	10
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	60
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	なし

この科目の受講にあたって	アジア太平洋地域におけるひとつの国・地域をテーマとした地域研究を行うフィールド・プロジェクトです。事前学修のなかで、テーマである国・地域の文化・社会・経済を知りながら、日本や世界との関係、さらにはアジア太平洋における政治・経済・ビジネス上の重要性など、さまざまな視点から学んでいきます。そうすると、現地プログラムのなかで、その国・地域のさまざまな「顔」が見えてきます。自身の興味・関心を大切に、そして興味・関心を広げながら、卒業研究につなげていきましょう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	オリエンテーション プログラムの概要説明と理解、自己紹介、渡航に当たっての注意(危機管理オリエンテーション（1)、ビザ情報含む)、個人/チーム別プレゼンテーションの担当決めおよび説明	事前学修：分担になっている渡航先の社会について調べ、プレゼンの準備をする 事後学修：渡航先国について、図書を読み知識を深める	4 時間
第２回	対面	講義とディスカッション：研修先となる国・地域理解（1） 渡航先の社会・政治・経済課題の個人プレゼンテーション、プログラムの到達目標・意義、ボランティア・文化活動および交流イベントでのプレゼンテーション案などのディスカッション	事前学修：TOEIC IP に向けた学修 事後学修：渡航先国について、図書を読み知識を深める	4 時間
第３回	対面	TOEIC®IP 受験	事前学修：分担になっている渡航先の社会について、調べプレゼンの準備をする 事後学修：渡航先国について、図書と読み知識を深める	4 時間
第４回	対面	講義とディスカッション：研修先となる国・地域理解（2） 渡航先の社会・政治・経済課題の個人プレゼンテーション（1 人 5 分)、プログラムの到達目標・意義、ボランティア・文化活動および現地での交流でのプレゼンテーション案などのディスカッション	事前学修：現地プログラムを準備するために、自国と渡航先国の文化の差異を調べる 事後学修：渡航先国について、図書と読み知識を深める	4 時間
第５回	対面	語学授業(英語＋研修国･地域の言語基礎) 英語/現地言語講座、プログラムのなかで、ボランティア・文化紹介活動の企画、日本文化紹介の準備	事前学習：渡航に向けた準備として、グローバル化が渡航先国にもたらす現象について調べる。 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話ができるように準備しておく。	4 時間
第６回	対面	目標シートの作成 出発前のプログラムの最終確認、目標シートの作成と提出、危機管理オリエンテーション（2）	事前学習：渡航に向けた準備として、グローバル化が渡航先国にもたらす現象について調べる。 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話ができるように準備しておく。	4 時間
第７回	対面	オリエンテーション、英語と研修国・地域の言語基礎授業、研修中の活動に関わる準備（1） 1）オリエンテーション 計画書、目標シートに基づいた準備とディスカッション、危機管理オリエンテーション（3） 2） 英語と研修国・地域の言語基礎授業 3） 研修中の活動に関わる準備（1） 4） チームビルディング 5） 目標設定の確認、ディスカッション	事前学習：現地プログラムでの発表の最終準備 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話ができるように準備しておく。	4 時間
第８回	対面	イントロダクション オリエンテーション、歓迎会、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第９回	対面	フィールドワーク（1） 派遣国の社会、政治、経済に関するフィールドワーク、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第１０回	対面	フィールドワーク（2） フィールドワーク(日系企業、NGO の訪問・インタビュー、社会文化施設見学など)、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間

第１１回	対面	ボランティア・文化交流活動（1） 学校訪問と交流など 社会的弱者支援のボランティア･文化交流活動：学校、児童養護施設（孤児院）やまたは老人福祉施設など 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第１２回	対面	ボランティア・文化交流活動（2） 学校訪問と交流など、社会的弱者支援のボランティア・文化交流活動：学校、児童養護施設（孤児院）やまたは老人福祉施設など、総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第１３回	対面	成果発表と交流 プレゼンテーション：(1) 大学紹介、(2) 日本・大阪紹介、(3) 今回の Fld. P で学んだことなど、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第１４回	対面	課題発表準備 活動日誌の整理と提出、現地研修からの学びと課題についてのディスカッション、学修成果発表に向けてのプレゼンテーションの作成	事前・事後学習：報告会に向けた準備	6 時間
第１５回	対面	学修成果発表と TOEIC®IP 受験 フィールド・プロジェクト I を通じての学修成果についてのプレゼンテーションの発表、TOEIC®IP 受験	事後学修：現地での活動とそこでの体験の省察をレポートにまとめる	6 時間

科目名	フィールド・プロジェクトＢ	開講年度	2025
担当者	福田　真也	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	実習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	世界に対する関心を高め、「気づき」を得る		
授業の目的及び概要	この授業は、国内における事前・事後学修と海外における約 1 週間の体験・研修から構成される。国内での集中的な学修と海外の研修先における、学修、交流活動、現地調査、ボランティア活動などの種々の学修及び体験を通して、異文化理解、コミュニケーション能力、協働力を養うことを目的とする。また、学修と体験の過程を通じて、国際感覚の涵養と学修動機の形成あるいは向上を図る。学修目標の達成度、プロジェクトレポートの内容、学修成果発表の結果などをもとに担当教員が成績評価を行う。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	学修、生活、交流、ボランティア活動等、学生たちの主体的な活動への参加を促し、異なる人々とのコミュニケーションや協働を通じて、1）言語運用能力とコミュニケーション能力の向上、2）国際理解と国際性の涵養、3）チームワーク、リーダーシップ、協働について学ぶこと、4）大学での学修への動機を形成あるいは深めることを目標とする。 （この科目の位置づけ、学位授与方針との関係等については、履修要項「国際学部教育課程の編成の考え方」及び「コース制と履修モデル」を参照。）		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業での発表、あるいは、現地での見学の総括後には、各見学地において学んだことを学生とディスカッションすると同時に、教員から適宜ポイントを伝える。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	参加するプログラムのなかで指示する。	ISBN	N.A.
参考書	参加するプログラムのなかで指示する。	ISBN	N.A.

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	10
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	60
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	なし

この科目の受講にあたって	アジア太平洋地域におけるひとつの国・地域をテーマとした地域研究を行うフィールド・プロジェクトです。事前学修のなかで、テーマである国・地域の文化・社会・経済を知りながら、日本や世界との関係、さらにはアジア太平洋における政治・経済・ビジネス上の重要性など、さまざまな視点から学んでいきます。そうすると、現地プログラムのなかで、その国・地域のさまざまな「顔」が見えてきます。自身の興味・関心を大切に、そして興味・関心を広げながら、卒業研究につなげていきましょう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	オリエンテーション プログラムの概要説明と理解、自己紹介、渡航に当たっての注意(危機管理オリエンテーション（1)、ビザ情報含む)、個人/チーム別プレゼンテーションの担当決めおよび説明	事前学修：分担になっている渡航先の社会について調べ、プレゼンの準備をする 事後学修：渡航先国について、図書を読み知識を深める	4 時間
第２回	対面	講義とディスカッション：研修先となる国・地域理解（1） 渡航先の社会・政治・経済課題の個人プレゼンテーション、プログラムの到達目標・意義、ボランティア・文化活動および交流イベントでのプレゼンテーション案などのディスカッション	事前学修：TOEIC IP に向けた学修 事後学修：渡航先国について、図書を読み知識を深める	4 時間
第３回	対面	TOEIC®IP 受験	事前学修：分担になっている渡航先の社会について、調べプレゼンの準備をする 事後学修：渡航先国について、図書と読み知識を深める	4 時間
第４回	対面	講義とディスカッション：研修先となる国・地域理解（2） 渡航先の社会・政治・経済課題の個人プレゼンテーション（1 人 5 分)、プログラムの到達目標・意義、ボランティア・文化活動および現地での交流でのプレゼンテーション案などのディスカッション	事前学修：現地プログラムを準備するために、自国と渡航先国の文化の差異を調べる 事後学修：渡航先国について、図書と読み知識を深める	4 時間
第５回	対面	語学授業(英語＋研修国･地域の言語基礎) 英語/現地言語講座、プログラムのなかで、ボランティア・文化紹介活動の企画、日本文化紹介の準備	事前学習：渡航に向けた準備として、グローバル化が渡航先国にもたらす現象について調べる。 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話ができるように準備しておく。	4 時間
第６回	対面	目標シートの作成 出発前のプログラムの最終確認、目標シートの作成と提出、危機管理オリエンテーション（2）	事前学習：渡航に向けた準備として、グローバル化が渡航先国にもたらす現象について調べる。 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話ができるように準備しておく。	4 時間
第７回	対面	オリエンテーション、英語と研修国・地域の言語基礎授業、研修中の活動に関わる準備（1） 1）オリエンテーション 計画書、目標シートに基づいた準備とディスカッション、危機管理オリエンテーション（3） 2） 英語と研修国・地域の言語基礎授業 3） 研修中の活動に関わる準備（1） 4） チームビルディング 5） 目標設定の確認、ディスカッション	事前学習：現地プログラムでの発表の最終準備 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話ができるように準備しておく。	4 時間
第８回	対面	イントロダクション オリエンテーション、歓迎会、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第９回	対面	フィールドワーク（1） 派遣国の社会、政治、経済に関するフィールドワーク、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第１０回	対面	フィールドワーク（2） フィールドワーク(日系企業、NGO の訪問・インタビュー、社会文化施設見学など)、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間

第１１回	対面	ボランティア・文化交流活動（1） 学校訪問と交流など 社会的弱者支援のボランティア･文化交流活動：学校、児童養護施設（孤児院）やまたは老人福祉施設など 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第１２回	対面	ボランティア・文化交流活動（2） 学校訪問と交流など、社会的弱者支援のボランティア・文化交流活動：学校、児童養護施設（孤児院）やまたは老人福祉施設など、総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第１３回	対面	成果発表と交流 プレゼンテーション：(1) 大学紹介、(2) 日本・大阪紹介、(3) 今回の Fld. P で学んだことなど、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第１４回	対面	課題発表準備 活動日誌の整理と提出、現地研修からの学びと課題についてのディスカッション、学修成果発表に向けてのプレゼンテーションの作成	事前・事後学習：報告会に向けた準備	6 時間
第１５回	対面	学修成果発表と TOEIC®IP 受験 フィールド･プロジェクト I を通じての学修成果についてのプレゼンテーションの発表、TOEIC®IP 受験	事後学修：現地での活動とそこでの体験の省察をレポートにまとめる	6 時間

科目名	フィールド・プロジェクトＢ	開講年度	2025
担当者	田中　慎吾	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	実習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	世界に対する関心を高め、「気づき」を得る		
授業の目的及び概要	この授業は、国内における事前・事後学修と海外における約 1 週間の体験・研修から構成される。国内での集中的な学修と海外の研修先における、学修、交流活動、現地調査、ボランティア活動などの種々の学修及び体験を通して、異文化理解、コミュニケーション能力、協働力を養うことを目的とする。また、学修と体験の過程を通じて、国際感覚の涵養と学修動機の形成あるいは向上を図る。学修目標の達成度、プロジェクトレポートの内容、学修成果発表の結果などをもとに担当教員が成績評価を行う。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	学修、生活、交流、ボランティア活動等、学生たちの主体的な活動への参加を促し、異なる人々とのコミュニケーションや協働を通じて、1）言語運用能力とコミュニケーション能力の向上、2）国際理解と国際性の涵養、3）チームワーク、リーダーシップ、協働について学ぶこと、4）大学での学修への動機を形成あるいは深めることを目標とする。 （この科目の位置づけ、学位授与方針との関係等については、履修要項「国際学部教育課程の編成の考え方」及び「コース制と履修モデル」を参照。）		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業での発表、あるいは、現地での見学の総括後には、各見学地において学んだことを学生とディスカッションすると同時に、教員から適宜ポイントを伝える。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	参加するプログラムのなかで指示する。	ISBN	N.A.
参考書	参加するプログラムのなかで指示する。	ISBN	N.A.

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	10
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	60
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	なし

この科目の受講にあたって	アジア太平洋地域におけるひとつの国・地域をテーマとした地域研究を行うフィールド・プロジェクトです。事前学修のなかで、テーマである国・地域の文化・社会・経済を知りながら、日本や世界との関係、さらにはアジア太平洋における政治・経済・ビジネス上の重要性など、さまざまな視点から学んでいきます。そうすると、現地プログラムのなかで、その国・地域のさまざまな「顔」が見えてきます。自身の興味・関心を大切に、そして興味・関心を広げながら、卒業研究につなげていきましょう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	オリエンテーション プログラムの概要説明と理解、自己紹介、渡航に当たっての注意(危機管理オリエンテーション（1)、ビザ情報含む)、個人/チーム別プレゼンテーションの担当決めおよび説明	事前学修：分担になっている渡航先の社会について調べ、プレゼンの準備をする 事後学修：渡航先国について、図書を読み知識を深める	4 時間
第２回	対面	講義とディスカッション：研修先となる国・地域理解（1） 渡航先の社会・政治・経済課題の個人プレゼンテーション、プログラムの到達目標・意義、ボランティア・文化活動および交流イベントでのプレゼンテーション案などのディスカッション	事前学修：TOEIC IP に向けた学修 事後学修：渡航先国について、図書を読み知識を深める	4 時間
第３回	対面	TOEIC®IP 受験	事前学修：分担になっている渡航先の社会について、調べプレゼンの準備をする 事後学修：渡航先国について、図書と読み知識を深める	4 時間
第４回	対面	講義とディスカッション：研修先となる国・地域理解（2） 渡航先の社会・政治・経済課題の個人プレゼンテーション（1 人 5 分)、プログラムの到達目標・意義、ボランティア・文化活動および現地での交流でのプレゼンテーション案などのディスカッション	事前学修：現地プログラムを準備するために、自国と渡航先国の文化の差異を調べる 事後学修：渡航先国について、図書と読み知識を深める	4 時間
第５回	対面	語学授業(英語＋研修国･地域の言語基礎) 英語/現地言語講座、プログラムのなかで、ボランティア・文化紹介活動の企画、日本文化紹介の準備	事前学習：渡航に向けた準備として、グローバル化が渡航先国にもたらす現象について調べる。 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話ができるように準備しておく。	4 時間
第６回	対面	目標シートの作成 出発前のプログラムの最終確認、目標シートの作成と提出、危機管理オリエンテーション（2）	事前学習：渡航に向けた準備として、グローバル化が渡航先国にもたらす現象について調べる。 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話ができるように準備しておく。	4 時間
第７回	対面	オリエンテーション、英語と研修国・地域の言語基礎授業、研修中の活動に関わる準備（1） 1）オリエンテーション 計画書、目標シートに基づいた準備とディスカッション、危機管理オリエンテーション（3） 2） 英語と研修国・地域の言語基礎授業 3） 研修中の活動に関わる準備（1） 4） チームビルディング 5） 目標設定の確認、ディスカッション	事前学習：現地プログラムでの発表の最終準備 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話ができるように準備しておく。	4 時間
第８回	対面	イントロダクション オリエンテーション、歓迎会、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第９回	対面	フィールドワーク（1） 派遣国の社会、政治、経済に関するフィールドワーク、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第１０回	対面	フィールドワーク（2） フィールドワーク(日系企業、NGO の訪問・インタビュー、社会文化施設見学など)、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間

第１１回	対面	ボランティア・文化交流活動（1） 学校訪問と交流など 社会的弱者支援のボランティア･文化交流活動：学校、児童養護施設（孤児院）やまたは老人福祉施設など 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第１２回	対面	ボランティア・文化交流活動（2） 学校訪問と交流など、社会的弱者支援のボランティア・文化交流活動：学校、児童養護施設（孤児院）やまたは老人福祉施設など、総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第１３回	対面	成果発表と交流 プレゼンテーション：(1) 大学紹介、(2) 日本・大阪紹介、(3) 今回の Fld. P で学んだことなど、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第１４回	対面	課題発表準備 活動日誌の整理と提出、現地研修からの学びと課題についてのディスカッション、学修成果発表に向けてのプレゼンテーションの作成	事前・事後学習：報告会に向けた準備	6 時間
第１５回	対面	学修成果発表と TOEIC®IP 受験 フィールド・プロジェクト I を通じての学修成果についてのプレゼンテーションの発表、TOEIC®IP 受験	事後学修：現地での活動とそこでの体験の省察をレポートにまとめる	6 時間

科目名	フィールド・プロジェクトＢ	開講年度	2025
担当者	高砂　謙二	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	実習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	世界に対する関心を高め、「気づき」を得る		
授業の目的及び概要	この授業は、国内における事前・事後学修と海外における約 1 週間の体験・研修から構成される。国内での集中的な学修と海外の研修先における、学修、交流活動、現地調査、ボランティア活動などの種々の学修及び体験を通して、異文化理解、コミュニケーション能力、協働力を養うことを目的とする。また、学修と体験の過程を通じて、国際感覚の涵養と学修動機の形成あるいは向上を図る。学修目標の達成度、プロジェクトレポートの内容、学修成果発表の結果などをもとに担当教員が成績評価を行う。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	学修、生活、交流、ボランティア活動等、学生たちの主体的な活動への参加を促し、異なる人々とのコミュニケーションや協働を通じて、1）言語運用能力とコミュニケーション能力の向上、2）国際理解と国際性の涵養、3）チームワーク、リーダーシップ、協働について学ぶこと、4）大学での学修への動機を形成あるいは深めることを目標とする。 （この科目の位置づけ、学位授与方針との関係等については、履修要項「国際学部教育課程の編成の考え方」及び「コース制と履修モデル」を参照。）		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業での発表、あるいは、現地での見学の総括後には、各見学地において学んだことを学生とディスカッションすると同時に、教員から適宜ポイントを伝える。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、金融機関において営業店や外国部、審査部、経営企画等で 16 年間勤務し、銀行業務全般や国際業務（外国為替リーディング業務、外為与信審査業務、国際経営・貿易相談業務、輸出入貿易書類点検業務）、法務・市場調査・広報等の実務経験を積んできた。本科目では、国際的なマーケットの実態や外国為替相場の特性などについて、こうした実務経験を活かして解説するなど、実践的な教育を行う。		
テキスト	参加するプログラムのなかで指示する。	ISBN	N.A.
参考書	参加するプログラムのなかで指示する。	ISBN	N.A.

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	10
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	60
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	なし

この科目の受講にあたって	アジア太平洋地域におけるひとつの国・地域をテーマとした地域研究を行うフィールド・プロジェクトです。事前学修のなかで、テーマである国・地域の文化・社会・経済を知りながら、日本や世界との関係、さらにはアジア太平洋における政治・経済・ビジネス上の重要性など、さまざまな視点から学んでいきます。そうすると、現地プログラムのなかで、その国・地域のさまざまな「顔」が見えてきます。自身の興味・関心を大切に、そして興味・関心を広げなが

	ら、卒業研究につなげていきましょう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	オリエンテーション プログラムの概要説明と理解、自己紹介、渡航に当たっての注意（危機管理オリエンテーション（1）、ビザ情報含む）、個人/チーム別プレゼンテーションの担当決めおよび説明	事前学修：分担になっている渡航先の社会について調べ、プレゼンの準備をする 事後学修：渡航先国について、図書を読み知識を深める	4 時間
第２回	対面	講義とディスカッション：研修先となる国・地域理解（1） 渡航先の社会・政治・経済課題の個人プレゼンテーション、プログラムの到達目標・意義、ボランティア・文化活動および交流イベントでのプレゼンテーション案などのディスカッション	事前学修：TOEIC IP に向けた学修 事後学修：渡航先国について、図書を読み知識を深める	4 時間
第３回	対面	TOEIC®IP 受験	事前学修：分担になっている渡航先の社会について、調べプレゼンの準備をする 事後学修：渡航先国について、図書と読み知識を深める	4 時間
第４回	対面	講義とディスカッション：研修先となる国・地域理解（2） 渡航先の社会・政治・経済課題の個人プレゼンテーション（1 人 5 分）、プログラムの到達目標・意義、ボランティア・文化活動および現地での交流でのプレゼンテーション案などのディスカッション	事前学修：現地プログラムを準備するために、自国と渡航先国の文化の差異を調べる 事後学修：渡航先国について、図書と読み知識を深める	4 時間
第５回	対面	語学授業（英語＋研修国・地域の言語基礎） 英語/現地言語講座、プログラムのなかで、ボランティア・文化紹介活動の企画、日本文化紹介の準備	事前学習：渡航に向けた準備として、グローバル化が渡航先国にもたらす現象について調べる。 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話ができるように準備しておく。	4 時間
第６回	対面	目標シートの作成 出発前のプログラムの最終確認、目標シートの作成と提出、危機管理オリエンテーション（2）	事前学習：渡航に向けた準備として、グローバル化が渡航先国にもたらす現象について調べる。 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話ができるように準備しておく。	4 時間
第７回	対面	オリエンテーション、英語と研修国・地域の言語基礎授業、研修中の活動に関わる準備（1） 1）オリエンテーション 計画書、目標シートに基づいた準備とディスカッション、危機管理オリエンテーション（3） 2） 英語と研修国・地域の言語基礎授業 3） 研修中の活動に関わる準備（1） 4） チームビルディング 5） 目標設定の確認、ディスカッション	事前学習：現地プログラムでの発表の最終準備 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話ができるように準備しておく。	4 時間
第８回	対面	イントロダクション オリエンテーション、歓迎会、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第９回	対面	フィールドワーク（1） 派遣国の社会、政治、経済に関するフィールドワーク、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第１０回	対面	フィールドワーク（2） フィールドワーク（日系企業、NGO の訪問・	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間

		インタビュー、社会文化施設見学など)、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成		
第１１回	対面	ボランティア・文化交流活動（1） 学校訪問と交流など 社会的弱者支援のボランティア・文化交流活動：学校、児童養護施設（孤児院）やまたは老人福祉施設など 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第１２回	対面	ボランティア・文化交流活動（2） 学校訪問と交流など、社会的弱者支援のボランティア・文化交流活動：学校、児童養護施設（孤児院）やまたは老人福祉施設など、総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第１３回	対面	成果発表と交流 プレゼンテーション：(1) 大学紹介、(2) 日本・大阪紹介、(3) 今回の Fld. P で学んだことなど、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第１４回	対面	課題発表準備 活動日誌の整理と提出、現地研修からの学びと課題についてのディスカッション、学修成果発表に向けてのプレゼンテーションの作成	事前・事後学習：報告会に向けた準備	6 時間
第１５回	対面	学修成果発表と TOEIC®IP 受験 フィールド・プロジェクト I を通じての学修成果についてのプレゼンテーションの発表、TOEIC®IP 受験	事後学修：現地での活動とそこでの体験の省察をレポートにまとめる	6 時間

科目名	フィールド・プロジェクトＢ	開講年度	2025
担当者	徐　潤雅	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	実習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	世界に対する関心を高め、「気づき」を得る		
授業の目的及び概要	この授業は、国内における事前・事後学修と海外における約 1 週間の体験・研修から構成される。国内での集中的な学修と海外の研修先における、学修、交流活動、現地調査、ボランティア活動などの種々の学修及び体験を通して、異文化理解、コミュニケーション能力、協働力を養うことを目的とする。また、学修と体験の過程を通じて、国際感覚の涵養と学修動機の形成あるいは向上を図る。学修目標の達成度、プロジェクトレポートの内容、学修成果発表の結果などをもとに担当教員が成績評価を行う。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	学修、生活、交流、ボランティア活動等、学生たちの主体的な活動への参加を促し、異なる人々とのコミュニケーションや協働を通じて、1）言語運用能力とコミュニケーション能力の向上、2）国際理解と国際性の涵養、3）チームワーク、リーダーシップ、協働について学ぶこと、4）大学での学修への動機を形成あるいは深めることを目標とする。 （この科目の位置づけ、学位授与方針との関係等については、履修要項「国際学部教育課程の編成の考え方」及び「コース制と履修モデル」を参照。）		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業での発表、あるいは、現地での見学の総括後には、各見学地において学んだことを学生とディスカッションすると同時に、教員から適宜ポイントを伝える。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	参加するプログラムのなかで指示する。	ISBN	N.A.
参考書	参加するプログラムのなかで指示する。	ISBN	N.A.

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	10
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	60
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	なし

この科目の受講にあたって	アジア太平洋地域におけるひとつの国・地域をテーマとした地域研究を行うフィールド・プロジェクトです。事前学修のなかで、テーマである国・地域の文化・社会・経済を知りながら、日本や世界との関係、さらにはアジア太平洋における政治・経済・ビジネス上の重要性など、さまざまな視点から学んでいきます。そうすると、現地プログラムのなかで、その国・地域のさまざまな「顔」が見えてきます。自身の興味・関心を大切に、そして興味・関心を広げながら、卒業研究につなげていきましょう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	オリエンテーション プログラムの概要説明と理解、自己紹介、渡航に当たっての注意(危機管理オリエンテーション（1)、ビザ情報含む)、個人/チーム別プレゼンテーションの担当決めおよび説明	事前学修：分担になっている渡航先の社会について調べ、プレゼンの準備をする 事後学修：渡航先国について、図書を読み知識を深める	4 時間
第２回	対面	講義とディスカッション：研修先となる国・地域理解（1） 渡航先の社会・政治・経済課題の個人プレゼンテーション、プログラムの到達目標・意義、ボランティア・文化活動および交流イベントでのプレゼンテーション案などのディスカッション	事前学修：TOEIC IP に向けた学修 事後学修：渡航先国について、図書を読み知識を深める	4 時間
第３回	対面	TOEIC®IP 受験	事前学修：分担になっている渡航先の社会について、調べプレゼンの準備をする 事後学修：渡航先国について、図書と読み知識を深める	4 時間
第４回	対面	講義とディスカッション：研修先となる国・地域理解（2） 渡航先の社会・政治・経済課題の個人プレゼンテーション（1 人 5 分)、プログラムの到達目標・意義、ボランティア・文化活動および現地での交流でのプレゼンテーション案などのディスカッション	事前学修：現地プログラムを準備するために、自国と渡航先国の文化の差異を調べる 事後学修：渡航先国について、図書と読み知識を深める	4 時間
第５回	対面	語学授業(英語＋研修国･地域の言語基礎) 英語/現地言語講座、プログラムのなかで、ボランティア・文化紹介活動の企画、日本文化紹介の準備	事前学習：渡航に向けた準備として、グローバル化が渡航先国にもたらす現象について調べる。 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話ができるように準備しておく。	4 時間
第６回	対面	目標シートの作成 出発前のプログラムの最終確認、目標シートの作成と提出、危機管理オリエンテーション（2）	事前学習：渡航に向けた準備として、グローバル化が渡航先国にもたらす現象について調べる。 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話ができるように準備しておく。	4 時間
第７回	対面	オリエンテーション、英語と研修国・地域の言語基礎授業、研修中の活動に関わる準備（1） 1）オリエンテーション 計画書、目標シートに基づいた準備とディスカッション、危機管理オリエンテーション（3） 2） 英語と研修国・地域の言語基礎授業 3） 研修中の活動に関わる準備（1） 4） チームビルディング 5） 目標設定の確認、ディスカッション	事前学習：現地プログラムでの発表の最終準備 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話ができるように準備しておく。	4 時間
第８回	対面	イントロダクション オリエンテーション、歓迎会、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第９回	対面	フィールドワーク（1） 派遣国の社会、政治、経済に関するフィールドワーク、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第１０回	対面	フィールドワーク（2） フィールドワーク(日系企業、NGO の訪問・インタビュー、社会文化施設見学など)、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間

第１１回	対面	ボランティア・文化交流活動（1） 学校訪問と交流など 社会的弱者支援のボランティア･文化交流活動：学校、児童養護施設（孤児院）やまたは老人福祉施設など 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第１２回	対面	ボランティア・文化交流活動（2） 学校訪問と交流など、社会的弱者支援のボランティア・文化交流活動：学校、児童養護施設（孤児院）やまたは老人福祉施設など、総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第１３回	対面	成果発表と交流 プレゼンテーション：(1) 大学紹介、(2) 日本・大阪紹介、(3) 今回の Fld. P で学んだことなど、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第１４回	対面	課題発表準備 活動日誌の整理と提出、現地研修からの学びと課題についてのディスカッション、学修成果発表に向けてのプレゼンテーションの作成	事前・事後学習：報告会に向けた準備	6 時間
第１５回	対面	学修成果発表と TOEIC®IP 受験 フィールド・プロジェクト I を通じての学修成果についてのプレゼンテーションの発表、TOEIC®IP 受験	事後学修：現地での活動とそこでの体験の省察をレポートにまとめる	6 時間

科目名	フィールド・プロジェクトＢ	開講年度	2025
担当者	池上　寛	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	実習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	台湾に対する関心を高め、「気づき」を得る		
授業の目的及び概要	このフィールド・プロジェクトでは台湾について学び、国内における事前・事後学修と海外における約 1 週間の体験・研修から構成される。国内での集中的な学修と海外の研修先における、学修、交流活動、現地フィールドワークなどの種々の学修及び体験を通して、異文化理解、コミュニケーション能力、協働力を養うことを目的とする。また、学修と体験の過程を通じて、国際感覚の涵養と学修動機の形成あるいは向上を図る。学修目標の達成度、プロジェクトレポートの内容、学修成果発表の結果などをもとに担当教員が成績評価を行う。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	学修、生活、交流等、学生たちの主体的な活動への参加を促し、異なる人々とのコミュニケーションや協働を通じて、1）言語運用能力とコミュニケーション能力の向上、2）国際理解と国際性の涵養、3）チームワーク、リーダーシップ、協働について学ぶこと、4）大学での学修への動機を形成あるいは深めることを目標とする。 （この科目の位置づけ、学位授与方針との関係等については、履修要項「国際学部教育課程の編成の考え方」及び「コース制と履修モデル」を参照。）		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	事前学習や現地でのグループによるフィールドワークについての発表、あるいは帰国後の個人発表などを通じて、学生とディスカッションすると同時に、教員から適宜ポイントを伝える。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、独立行政法人日本貿易振興機構（JETRO）で 20 年以上に渡って業務に従事しており、在台北海外派遣員、産業研究グループ長代理、開発研究センター経済統合研究グループ長代理などを歴任している。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	参加するプログラムのなかで指示する。	ISBN	N.A.
参考書	参加するプログラムのなかで指示する。	ISBN	N.A.

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	30
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	35
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	15
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	20
その他の内容	現地活動

この科目の受講にあたって	このフィールド・プロジェクトはアジア太平洋地域におけるひとつの国・地域をテーマとした地域研究を行うものである。このフィールド・プロジェクトでは台湾を取り上げ、台湾の文化・社会・経済などを知りながら、日本や世界との関係、さらにはアジア太平洋における政治・経済・ビジネス上の重要性など、さまざまな視点から学ぶ。また、輔仁大学との学生交流を通じて、国際的な感覚も養う機会とする。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	事前学習（１） オリエンテーション プログラムの概要説明と理解、自己紹介を行うとともに、輔仁大学について学ぶ。また、前回実施したフィールド・プロジェクト（台湾）を振り返る。 渡航に当たっての注意（危機管理オリエンテーション（1)、ビザ情報含む）について説明する。	事前学修：台湾について調べるとともに、自己紹介の準備をする 事後学修：台湾について、図書やインターネットを通じて知識を深める	4 時間
第２回	対面	事前学修（２） 輔仁大学の学生と一緒に行うフィールドワークのグループ分けについて発表し、オンラインで輔仁大学とつないで交流を行い、今後の活動について説明する。 また、成績評価、グループ発表（事前事後）、個人発表、最終レポートについて説明する。	事前学修：台湾について、図書やインターネットを通じて理解を深める。 事後学修：渡航してから行うフィールドワークについて、グループ内で調査内容や行き先について議論し、決定する。	4 時間
第３回	対面	事前学修（３） 現地訪問先について、学修する。	事前学修：フィールドワークについての議論を進めておく。 事後学修：現地訪問先について、さらに調べるとともに、訪問した際の質問を考える。	4 時間
第４回	対面	事前学修（４） 台湾についての基本情報、簡単な中国語についての講義 渡航準備についての説明	事前学修：台湾の基本的な情報を調べる 事後学修：学修した中国語の復習、渡航準備を進める	4 時間
第５回	対面	事前学修（５） フィールドワークについての事前報告 各グループ 5 分程度の発表を行う。	事前学習：グループで行うフィールドワークについての発表準備をすること。 事後学修：教職員からのコメントを踏まえて、グループ内でフィールドワークの調整を行うこと。	4 時間
第６回	対面	事前学修（６） 出発前のプログラムの最終確認、電子入境申請、渡航についての注意事項について講義する。	事前学習：グループワークの最終調整をすること 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話ができるように準備しておく。渡航の最終確認をすること。	4 時間
第７回	対面	現地活動（１）移動、顔合わせ	事前学習：輔仁大学の学生とフィールドワークについての議論 事後学修：フィールドワークの成果発表の準備	4 時間
第８回	対面	現地活動（２）	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第９回	対面	現地活動（３） 輔仁大学生とともに、フィールドワークを実施する。	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第１０回	対面	現地活動（４） 輔仁大学生とともに、フィールドワークを実施する。	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第１１回	対面	現地活動（５）	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第１２回	対面	現地活動（６） グループによるフィールドワークの成果発表	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第１３回	対面	事後学修（１） フィールド・プロジェクトの振り返り 輔仁大学とオンライン接続して、活動の振り返り	事前学習：フィールド・プロジェクト全体についての振り返りをしておくこと 事後学修：個人発表の準備、最終レポートの準備	4 時間
第１４回	対面	事後学修（２）	報告会の準備を行うとともに、個人最終レポートの	6 時間

		個人成果発表①	準備	
第１５回	対面	事後学修（３） 個人成果発表②	報告会の準備を行うとともに、個人最終レポートの準備	6 時間

科目名	フィールド・プロジェクトB	開講年度	2025
担当者	ミルズ・ジョナサン	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	実習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	Exploring Japanese Culture Past and Present（日本文化の過去と現在を見て考える）		
授業の目的及び概要	このフィールド・プロジェクトでは、日本文化の過去の文化と現在の文化の関連について深く考え、日本に関する知識とを増やすことによって、外国人として日本で活躍するために必要である「教養」と「常識」を育てる。主に日本の伝統文化を美術・文学・演劇・建築などの現象を実際に自分の目でみて、現在の文化との関連を考えることが学修の目的とする。また、学修の一つの柱として、関西と大阪の独特の文化である「上方文化」を考える。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 日本の文化について、英語で説明できる。 2. 現代・近代・前近代を問わず、日本文化、特に大阪の文化の重要な側面を認識し、それを説明できる。 3. 過去の文化が現代の日本文化に及ぼした影響を理解する。 4. 日本文化が日本の「ソフト・パワー」に及ぼす影響を理解する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業での発表、あるいは、見学の総括後には、各見学地において学んだことを学生とディスカッションすると同時に、教員から適宜ポイントを伝える。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	なし。	ISBN	なし。
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	10
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	60
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	なし

この科目の受講にあたって	国際学部の皆さんにとっては「異文化理解」は大変重要な課題です。日々の積極的な交流や、海外体験を通じて、国際感覚を身に付けることも重要ですが、それに加えて本科目に紹介される理論と具体例の学修によって、異文化理解が更に深まることが期待されます。授業中の積極的な参加（ノート手―キング、クループワーク、質疑応答など）および予習・復習によって、紹介されるアイデアや具体例をよく学修しましょう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第１回	対面	事前学修①　Orientation and Course Explanation	授業後に、配ったレジュメと、自分の授業でとったメモをしっかり読み、復習すること。また、Learning Portal に掲載する次回のレジュメを事前に読んでおくこと。	4 時間
第２回	対面	事前学修②　Exploring Pre-Modern Kamigata Culture (1): The Nara Period	授業後に、配ったレジュメと、自分の授業でとったメモをしっかり読み、復習すること。また、Learning Portal に掲載する次回のレジュメを事前に読んでおくこと。	4 時間
第３回	対面	事前学修③　Exploring Pre-Modern Kamigata Culture (2): The Heian Period	授業後に、配ったレジュメと、自分の授業でとったメモをしっかり読み、復習すること。また、Learning Portal に掲載する次回のレジュメを事前に読んでおくこと。	4 時間
第４回	対面	事前学修④　Exploring Pre-Modern Kamigata Culture (3): The Edo Period (1)	授業後に、配ったレジュメと、自分の授業でとったメモをしっかり読み、復習すること。また、Learning Portal に掲載する次回のレジュメを事前に読んでおくこと。	4 時間
第５回	対面	事前学修⑤　Exploring Pre-Modern Kamigata Culture (4): The Edo Period (2)	授業後に、配ったレジュメと、自分の授業でとったメモをしっかり読み、復習すること。また、Learning Portal に掲載する次回のレジュメを事前に読んでおくこと。	4 時間
第６回	対面	事前学修⑥　Discovering Modern Kamigata Culture (1): Meiji and the Twentieth Century	授業後に、配ったレジュメと、自分の授業でとったメモをしっかり読み、復習すること。また、Learning Portal に掲載する次回のレジュメを事前に読んでおくこと。	4 時間
第７回	対面	事前学修⑦　Discovering Modern Kamigata Culture (2): Contemporary Kansai	授業後に、配ったレジュメと、自分の授業でとったメモをしっかり読み、復習すること。また、Learning Portal に掲載する次回のレジュメを事前に読んでおくこと。	4 時間
第８回	対面	実地研修①　Visiting the Osaka Museum of History	授業後に、配ったレジュメと、自分の授業でとったメモをしっかり読み、復習すること。また、Learning Portal に掲載する次回のレジュメを事前に読んでおくこと。	4 時間
第９回	対面	実地研修②　Visiting Kansai’s Temples and Shrines (1)	授業後に、配ったレジュメと、自分の授業でとったメモをしっかり読み、復習すること。また、Learning Portal に掲載する次回のレジュメを事前に読んでおくこと。	4 時間
第１０回	対面	実地研修③　The Dotonbori and the National Bunraku Theatre	授業後に、配ったレジュメと、自分の授業でとったメモをしっかり読み、復習すること。また、Learning Portal に掲載する次回のレジュメを事前に読んでおくこと。	4 時間
第１１回	対面	実地研修④　Visiting sites associated with Osaka’s Pre-Modern Education	授業後に、配ったレジュメと、自分の授業でとったメモをしっかり読み、復習すること。また、Learning Portal に掲載する次回のレジュメを事前に読んでおくこと。	4 時間
第１２回	対面	実地研修⑤　Visiting Kansai’s Temples and Shrines (2)	授業後に、配ったレジュメと、自分の授業でとったメモをしっかり読み、復習すること。また、Learning Portal に掲載する次回のレジュメを事前に読んでおくこと。	4 時間
第１３回	対面	事後学修　Summary of the Course (Conducted Online)	授業後に、配ったレジュメと、自分の授業でとったメモをしっかり読み、復習すること。また、Learning Portal に掲載する次回のレジュメを事前に読んでおくこと。	4 時間
第１４回	対面	第 14 回	授業後に、配ったレジュメと、自分の授業でとったメモをしっかり読み、復習すること。また、Learning Portal に掲載する次回のレジュメを事前に読んでおくこと。	4 時間
第１５回	対面	第 15 回	授業後に、配ったレジュメと、自分の授業でとったメ	4 時間

			モをしっかり読み、復習すること。また、Learning Portal に掲載する次回のレジュメを事前に読んでおくこと。	

科目名	フィールド・プロジェクトC	開講年度	2025
担当者	木村　彩音	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	実習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	世界に対する関心を高め、「気づき」を得る。		
授業の目的及び概要	この授業は、国内における事前・事後学修と海外における約 1 週間の体験・研修から構成される。国内での集中的な学修と海外の研修先における、学修、交流活動、現地調査、ボランティア活動などの種々の学修及び体験を通して、異文化理解、コミュニケーション能力、協働力を養うことを目的とする。また、学修と体験の過程を通じて、国際感覚の涵養と学修動機の形成あるいは向上を図る。学修目標の達成度、プロジェクトレポートの内容、学修成果発表の結果などをもとに担当教員が成績評価を行う。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	学修、生活、交流、ボランティア活動等、学生たちの主体的な活動への参加を促し、異なる人々とのコミュニケーションや協働を通じて、1）言語運用能力とコミュニケーション能力の向上、2）国際理解と国際性の涵養、3）チームワーク、リーダーシップ、協働について学ぶこと、4）大学での学修への動機を形成あるいは深めることを目標とする。 （この科目の位置づけ、学位授与方針との関係等については、履修要項「国際学部教育課程の編成の考え方」及び「コース制と履修モデル」を参照。）		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業での発表、あるいは、現地での見学の総括後には、各見学地において学んだことを学生とディスカッションすると同時に、教員から適宜ポイントを伝える。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	参加するプログラムのなかで指示する。	ISBN	N.A.
参考書	参加するプログラムのなかで指示する。	ISBN	N.A.

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	10
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	60
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	なし

この科目の受講にあたって	アジア太平洋地域におけるひとつの国・地域をテーマとした地域研究を行うフィールド・プロジェクトです。事前学修のなかで、テーマである国・地域の文化・社会・経済を知りながら、日本や世界との関係、さらにはアジア太平洋における政治・経済・ビジネス上の重要性など、さまざまな視点から学んでいきます。そうすると、現地プログラムのなかで、その国・地域のさまざまな「顔」が見えてきます。自身の興味・関心を大切に、そして興味・関心を広げながら、卒業研究につなげていきましょう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	オリエンテーション プログラムの概要説明と理解、自己紹介、渡航に当たっての注意(危機管理オリエンテーション（1)、ビザ情報含む)、個人/チーム別プレゼンテーションの担当決めおよび説明	事前学修：分担になっている渡航先の社会について調べ、プレゼンの準備をする 事後学修：渡航先国について、図書を読み知識を深める	4 時間
第２回	対面	講義とディスカッション：研修先となる国・地域理解（1） 渡航先の社会・政治・経済課題の個人プレゼンテーション、プログラムの到達目標・意義、ボランティア・文化活動および交流イベントでのプレゼンテーション案などのディスカッション	事前学修：TOEIC IP に向けた学修 事後学修：渡航先国について、図書を読み知識を深める	4 時間
第３回	対面	TOEIC®IP 受験	事前学修：分担になっている渡航先の社会について、調べプレゼンの準備をする 事後学修：渡航先国について、図書と読み知識を深める	4 時間
第４回	対面	講義とディスカッション：研修先となる国・地域理解（2） 渡航先の社会・政治・経済課題の個人プレゼンテーション（1 人 5 分)、プログラムの到達目標・意義、ボランティア・文化活動および現地での交流でのプレゼンテーション案などのディスカッション	事前学修：現地プログラムを準備するために、自国と渡航先国の文化の差異を調べる 事後学修：渡航先国について、図書と読み知識を深める	4 時間
第５回	対面	語学授業(英語＋研修国･地域の言語基礎) 英語/現地言語講座、プログラムのなかで、ボランティア・文化紹介活動の企画、日本文化紹介の準備	事前学習：渡航に向けた準備として、グローバル化が渡航先国にもたらす現象について調べる。 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話ができるように準備しておく。	4 時間
第６回	対面	目標シートの作成 出発前のプログラムの最終確認、目標シートの作成と提出、危機管理オリエンテーション（2）	事前学習：渡航に向けた準備として、グローバル化が渡航先国にもたらす現象について調べる。 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話ができるように準備しておく。	4 時間
第７回	対面	オリエンテーション、英語と研修国・地域の言語基礎授業、研修中の活動に関わる準備（1） 1）オリエンテーション 計画書、目標シートに基づいた準備とディスカッション、危機管理オリエンテーション（3） 2） 英語と研修国・地域の言語基礎授業 3） 研修中の活動に関わる準備（1） 4） チームビルディング 5） 目標設定の確認、ディスカッション	事前学習：現地プログラムでの発表の最終準備 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話ができるように準備しておく。	4 時間
第８回	対面	イントロダクション オリエンテーション、歓迎会、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第９回	対面	フィールドワーク（1） 派遣国の社会、政治、経済に関するフィールドワーク、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第１０回	対面	フィールドワーク（2） フィールドワーク(日系企業、NGO の訪問・インタビュー、社会文化施設見学など)、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間

第１１回	対面	ボランティア・文化交流活動（1） 学校訪問と交流など 社会的弱者支援のボランティア･文化交流活動：学校、児童養護施設（孤児院）やまたは老人福祉施設など 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第１２回	対面	ボランティア・文化交流活動（2） 学校訪問と交流など、社会的弱者支援のボランティア・文化交流活動：学校、児童養護施設（孤児院）やまたは老人福祉施設など、総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第１３回	対面	成果発表と交流 プレゼンテーション：(1) 大学紹介、(2) 日本・大阪紹介、(3) 今回の Fld. P で学んだことなど、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第１４回	対面	課題発表準備 活動日誌の整理と提出、現地研修からの学びと課題についてのディスカッション、学修成果発表に向けてのプレゼンテーションの作成	事前・事後学習：報告会に向けた準備	6 時間
第１５回	対面	学修成果発表と TOEIC®IP 受験 フィールド・プロジェクト I を通じての学修成果についてのプレゼンテーションの発表、TOEIC®IP 受験	事後学修：現地での活動とそこでの体験の省察をレポートにまとめる	6 時間

科目名	フィールド・プロジェクトC	開講年度	2025
担当者	徐　潤雅	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	実習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	世界に対する関心を高め、「気づき」を得る		
授業の目的及び概要	この授業は、国内における事前・事後学修と海外における約 1 週間の体験・研修から構成される。国内での集中的な学修と海外の研修先における、学修、交流活動、現地調査、ボランティア活動などの種々の学修及び体験を通して、異文化理解、コミュニケーション能力、協働力を養うことを目的とする。また、学修と体験の過程を通じて、国際感覚の涵養と学修動機の形成あるいは向上を図る。学修目標の達成度、プロジェクトレポートの内容、学修成果発表の結果などをもとに担当教員が成績評価を行う。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	学修、生活、交流、ボランティア活動等、学生たちの主体的な活動への参加を促し、異なる人々とのコミュニケーションや協働を通じて、1）言語運用能力とコミュニケーション能力の向上、2）国際理解と国際性の涵養、3）チームワーク、リーダーシップ、協働について学ぶこと、4）大学での学修への動機を形成あるいは深めることを目標とする。 （この科目の位置づけ、学位授与方針との関係等については、履修要項「国際学部教育課程の編成の考え方」及び「コース制と履修モデル」を参照。）		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業での発表、あるいは、現地での見学の総括後には、各見学地において学んだことを学生とディスカッションすると同時に、教員から適宜ポイントを伝える。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	参加するプログラムのなかで指示する。	ISBN	N.A.
参考書	参加するプログラムのなかで指示する。	ISBN	N.A.

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	10
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	60
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	なし

この科目の受講にあたって	アジア太平洋地域におけるひとつの国・地域をテーマとした地域研究を行うフィールド・プロジェクトです。事前学修のなかで、テーマである国・地域の文化・社会・経済を知りながら、日本や世界との関係、さらにはアジア太平洋における政治・経済・ビジネス上の重要性など、さまざまな視点から学んでいきます。そうすると、現地プログラムのなかで、その国・地域のさまざまな「顔」が見えてきます。自身の興味・関心を大切に、そして興味・関心を広げながら、卒業研究につなげていきましょう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	オリエンテーション プログラムの概要説明と理解、自己紹介、渡航に当たっての注意（危機管理オリエンテーション（1）、ビザ情報含む）、個人/チーム別プレゼンテーションの担当決めおよび説明	事前学修：分担になっている渡航先の社会について調べ、プレゼンの準備をする 事後学修：渡航先国について、図書を読み知識を深める	4 時間
第２回	対面	講義とディスカッション：研修先となる国・地域理解（1） 渡航先の社会・政治・経済課題の個人プレゼンテーション、プログラムの到達目標・意義、ボランティア・文化活動および交流イベントでのプレゼンテーション案などのディスカッション	事前学修：TOEIC IP に向けた学修 事後学修：渡航先国について、図書を読み知識を深める	4 時間
第３回	対面	TOEIC®IP 受験	事前学修：分担になっている渡航先の社会について、調べプレゼンの準備をする 事後学修：渡航先国について、図書と読み知識を深める	4 時間
第４回	対面	講義とディスカッション：研修先となる国・地域理解（2） 渡航先の社会・政治・経済課題の個人プレゼンテーション（1 人 5 分）、プログラムの到達目標・意義、ボランティア・文化活動および現地での交流でのプレゼンテーション案などのディスカッション	事前学修：現地プログラムを準備するために、自国と渡航先国の文化の差異を調べる 事後学修：渡航先国について、図書と読み知識を深める	4 時間
第５回	対面	語学授業（英語＋研修国・地域の言語基礎） 英語/現地言語講座、プログラムのなかで、ボランティア・文化紹介活動の企画、日本文化紹介の準備	事前学習：渡航に向けた準備として、グローバル化が渡航先国にもたらす現象について調べる。 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話ができるように準備しておく。	4 時間
第６回	対面	目標シートの作成 出発前のプログラムの最終確認、目標シートの作成と提出、危機管理オリエンテーション（2）	事前学習：渡航に向けた準備として、グローバル化が渡航先国にもたらす現象について調べる。 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話ができるように準備しておく。	4 時間
第７回	対面	オリエンテーション、英語と研修国・地域の言語基礎授業、研修中の活動に関わる準備（1） 1）オリエンテーション 計画書、目標シートに基づいた準備とディスカッション、危機管理オリエンテーション（3） 2） 英語と研修国・地域の言語基礎授業 3） 研修中の活動に関わる準備（1） 4） チームビルディング 5） 目標設定の確認、ディスカッション	事前学習：現地プログラムでの発表の最終準備 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話ができるように準備しておく。	4 時間
第８回	対面	イントロダクション オリエンテーション、歓迎会、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第９回	対面	フィールドワーク（1） 派遣国の社会、政治、経済に関するフィールドワーク、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第１０回	対面	フィールドワーク（2） フィールドワーク（日系企業、NGO の訪問・インタビュー、社会文化施設見学など）、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間

第１１回	対面	ボランティア・文化交流活動（1） 学校訪問と交流など 社会的弱者支援のボランティア･文化交流活動：学校、児童養護施設（孤児院）やまたは老人福祉施設など 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第１２回	対面	ボランティア・文化交流活動（2） 学校訪問と交流など、社会的弱者支援のボランティア・文化交流活動：学校、児童養護施設（孤児院）やまたは老人福祉施設など、総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第１３回	対面	成果発表と交流 プレゼンテーション：(1) 大学紹介、(2) 日本・大阪紹介、(3) 今回の Fld. P で学んだことなど、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第１４回	対面	課題発表準備 活動日誌の整理と提出、現地研修からの学びと課題についてのディスカッション、学修成果発表に向けてのプレゼンテーションの作成	事前・事後学習：報告会に向けた準備	6 時間
第１５回	対面	学修成果発表と TOEIC®IP 受験 フィールド･プロジェクト I を通じての学修成果についてのプレゼンテーションの発表、TOEIC®IP 受験	事後学修：現地での活動とそこでの体験の省察をレポートにまとめる	6 時間

科目名	フィールド・プロジェクトC	開講年度	2025
担当者	張　雪斌	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	実習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	世界に対する関心を高め、「気づき」を得る		
授業の目的及び概要	この授業は、事前・事後学修と 5 回程度の体験・研修から構成される。集中的な事前・事後学修と現地体験、学修、見学、交流活動などを通して日本社会への理解を深め、異文化理解、コミュニケーション能力、協働力を養うことを目的とする。また、学修と体験の過程を通じて、国際感覚の涵養と学修動機の形成、向上を図る。学修目標の達成度、プロジェクトレポートの内容、学修成果発表の結果などをもとに担当教員が成績評価を行う。 なお、各プログラム（クラス）の学修内容、日程や成績評価に必要な提出物が異なるため、本科目を履修する際は必ず各プログラム（クラス）の紹介を確認すること。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	事前・事後学修と現地体験、学修、見学、交流活動などを通じて、1）日本の政治、経済、文化、社会への理解を深める、2）日本語をはじめとする言語運用能力とコミュニケーション能力の向上させる、3）国際理解と国際性の涵養、4）大学での専門学修への動機を形成し深めることを目標とする。（この科目の位置づけ、学位授与方針との関係等については、履修要項「国際学部教育課程の編成の考え方」及び「コース制と履修モデル」を参照。）		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業での発表、あるいは、現地体験・研修の総括後には、各見学地において学んだことを学生とディスカッションすると同時に、教員から適宜ポイントを伝える。 ミニレポート、感想文などの提出物に対し、教員が講評を行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	参加するプログラムのなかで指示する。	ISBN	N.A.
参考書	参加するプログラムのなかで指示する。	ISBN	N.A.

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	10
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	60
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	なし

この科目の受講にあたって	本科目は留学生が日本への理解を深めることを主たる目的とするフィールド・プロジェクトである。事前学修のなかで、日本の政治、経済、文化、社会を学びながら、日本とアジア太平洋地域、世界との関係、さらには自分の出身国との関係についてさまざまな視点から学んでいく。自身の興味・関心を大切にし、そして興味・関心を広げながら、卒業研究につなげていくことが大切である。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	オリエンテーション プログラムの概要説明、自己紹介、個人/チーム別プレゼンテーションの担当決めおよび説明	事前学修：ガイダンスでの配布物などを中心に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第２回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第３回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第４回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第５回	対面	講義とディスカッション：現地体験・研修の内容に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第６回	対面	講義とディスカッション：現地体験・研修の内容に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第７回	対面	講義とディスカッション：現地体験・研修の内容に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第８回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第９回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第１０回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第１１回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を復習し、参考資料を使って知識を深める事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第１２回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第１３回	対面	現地体験・研修で学んだ知識をまとめ、グループ発表の準備を行う	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第１４回	対面	現地体験・研修で学んだ知識をまとめ、グループ発表を行う	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を復習し、参考資料を使って知識を深める	6 時間
第１５回	対面	現地体験・研修で学んだ知識をまとめ、グループ発表を行う	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を復習し、参考資料を使って知識を深める	6 時間

科目名	フィールド・プロジェクトC	開講年度	2025
担当者	田中　慎吾	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	実習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	世界に対する関心を高め、「気づき」を得る		
授業の目的及び概要	この授業は、国内における事前・事後学修と海外における約 1 週間の体験・研修から構成される。国内での集中的な学修と海外の研修先における、学修、交流活動、現地調査、ボランティア活動などの種々の学修及び体験を通して、異文化理解、コミュニケーション能力、協働力を養うことを目的とする。また、学修と体験の過程を通じて、国際感覚の涵養と学修動機の形成あるいは向上を図る。学修目標の達成度、プロジェクトレポートの内容、学修成果発表の結果などをもとに担当教員が成績評価を行う。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	学修、生活、交流、ボランティア活動等、学生たちの主体的な活動への参加を促し、異なる人々とのコミュニケーションや協働を通じて、1）言語運用能力とコミュニケーション能力の向上、2）国際理解と国際性の涵養、3）チームワーク、リーダーシップ、協働について学ぶこと、4）大学での学修への動機を形成あるいは深めることを目標とする。 （この科目の位置づけ、学位授与方針との関係等については、履修要項「国際学部教育課程の編成の考え方」及び「コース制と履修モデル」を参照。）		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業での発表、あるいは、現地での見学の総括後には、各見学地において学んだことを学生とディスカッションすると同時に、教員から適宜ポイントを伝える。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	参加するプログラムのなかで指示する。	ISBN	N.A.
参考書	参加するプログラムのなかで指示する。	ISBN	N.A.

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	10
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	60
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	なし

この科目の受講にあたって	アジア太平洋地域におけるひとつの国・地域をテーマとした地域研究を行うフィールド・プロジェクトです。事前学修のなかで、テーマである国・地域の文化・社会・経済を知りながら、日本や世界との関係、さらにはアジア太平洋における政治・経済・ビジネス上の重要性など、さまざまな視点から学んでいきます。そうすると、現地プログラムのなかで、その国・地域のさまざまな「顔」が見えてきます。自身の興味・関心を大切に、そして興味・関心を広げながら、卒業研究につなげていきましょう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	オリエンテーション プログラムの概要説明と理解、自己紹介、渡航に当たっての注意(危機管理オリエンテーション（1)、ビザ情報含む)、個人/チーム別プレゼンテーションの担当決めおよび説明	事前学修：分担になっている渡航先の社会について調べ、プレゼンの準備をする 事後学修：渡航先国について、図書を読み知識を深める	4 時間
第２回	対面	講義とディスカッション：研修先となる国・地域理解（1） 渡航先の社会・政治・経済課題の個人プレゼンテーション、プログラムの到達目標・意義、ボランティア・文化活動および交流イベントでのプレゼンテーション案などのディスカッション	事前学修：TOEIC IP に向けた学修 事後学修：渡航先国について、図書を読み知識を深める	4 時間
第３回	対面	TOEIC®IP 受験	事前学修：分担になっている渡航先の社会について、調べプレゼンの準備をする 事後学修：渡航先国について、図書と読み知識を深める	4 時間
第４回	対面	講義とディスカッション：研修先となる国・地域理解（2） 渡航先の社会・政治・経済課題の個人プレゼンテーション（1 人 5 分)、プログラムの到達目標・意義、ボランティア・文化活動および現地での交流でのプレゼンテーション案などのディスカッション	事前学修：現地プログラムを準備するために、自国と渡航先国の文化の差異を調べる 事後学修：渡航先国について、図書と読み知識を深める	4 時間
第５回	対面	語学授業(英語＋研修国･地域の言語基礎) 英語/現地言語講座、プログラムのなかで、ボランティア・文化紹介活動の企画、日本文化紹介の準備	事前学習：渡航に向けた準備として、グローバル化が渡航先国にもたらす現象について調べる。 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話ができるように準備しておく。	4 時間
第６回	対面	目標シートの作成 出発前のプログラムの最終確認、目標シートの作成と提出、危機管理オリエンテーション（2）	事前学習：渡航に向けた準備として、グローバル化が渡航先国にもたらす現象について調べる。 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話ができるように準備しておく。	4 時間
第７回	対面	オリエンテーション、英語と研修国・地域の言語基礎授業、研修中の活動に関わる準備（1） 1）オリエンテーション 計画書、目標シートに基づいた準備とディスカッション、危機管理オリエンテーション（3） 2） 英語と研修国・地域の言語基礎授業 3） 研修中の活動に関わる準備（1） 4） チームビルディング 5） 目標設定の確認、ディスカッション	事前学習：現地プログラムでの発表の最終準備 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話ができるように準備しておく。	4 時間
第８回	対面	イントロダクション オリエンテーション、歓迎会、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第９回	対面	フィールドワーク（1） 派遣国の社会、政治、経済に関するフィールドワーク、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第１０回	対面	フィールドワーク（2） フィールドワーク(日系企業、NGO の訪問・インタビュー、社会文化施設見学など)、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間

第１１回	対面	ボランティア・文化交流活動（1） 学校訪問と交流など 社会的弱者支援のボランティア･文化交流活動：学校、児童養護施設（孤児院）やまたは老人福祉施設など 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第１２回	対面	ボランティア・文化交流活動（2） 学校訪問と交流など、社会的弱者支援のボランティア・文化交流活動：学校、児童養護施設（孤児院）やまたは老人福祉施設など、総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第１３回	対面	成果発表と交流 プレゼンテーション：(1) 大学紹介、(2) 日本・大阪紹介、(3) 今回の Fld. P で学んだことなど、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第１４回	対面	課題発表準備 活動日誌の整理と提出、現地研修からの学びと課題についてのディスカッション、学修成果発表に向けてのプレゼンテーションの作成	事前・事後学習：報告会に向けた準備	6 時間
第１５回	対面	学修成果発表と TOEIC®IP 受験 フィールド･プロジェクト I を通じての学修成果についてのプレゼンテーションの発表、TOEIC®IP 受験	事後学修：現地での活動とそこでの体験の省察をレポートにまとめる	6 時間

科目名	フィールド・プロジェクトC	開講年度	2025
担当者	高砂　謙二	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	実習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	世界に対する関心を高め、「気づき」を得る		
授業の目的及び概要	この授業は、国内における事前・事後学修と海外における約 1 週間の体験・研修から構成される。国内での集中的な学修と海外の研修先における、学修、交流活動、現地調査、ボランティア活動などの種々の学修及び体験を通して、異文化理解、コミュニケーション能力、協働力を養うことを目的とする。また、学修と体験の過程を通じて、国際感覚の涵養と学修動機の形成あるいは向上を図る。学修目標の達成度、プロジェクトレポートの内容、学修成果発表の結果などをもとに担当教員が成績評価を行う。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	学修、生活、交流、ボランティア活動等、学生たちの主体的な活動への参加を促し、異なる人々とのコミュニケーションや協働を通じて、1）言語運用能力とコミュニケーション能力の向上、2）国際理解と国際性の涵養、3）チームワーク、リーダーシップ、協働について学ぶこと、4）大学での学修への動機を形成あるいは深めることを目標とする。 （この科目の位置づけ、学位授与方針との関係等については、履修要項「国際学部教育課程の編成の考え方」及び「コース制と履修モデル」を参照。）		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業での発表、あるいは、現地での見学の総括後には、各見学地において学んだことを学生とディスカッションすると同時に、教員から適宜ポイントを伝える。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、金融機関において営業店や外国部、審査部、経営企画等で 16 年間勤務し、銀行業務全般や国際業務（外国為替リーディング業務、外為与信審査業務、国際経営・貿易相談業務、輸出入貿易書類点検業務）、法務・市場調査・広報等の実務経験を積んできた。本科目では、国際的なマーケットの実態や外国為替相場の特性などについて、こうした実務経験を活かして解説するなど、実践的な教育を行う。		
テキスト	参加するプログラムのなかで指示する。	ISBN	N.A.
参考書	参加するプログラムのなかで指示する。	ISBN	N.A.

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	10
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	60
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	なし

この科目の受講にあたって	アジア太平洋地域におけるひとつの国・地域をテーマとした地域研究を行うフィールド・プロジェクトです。事前学修のなかで、テーマである国・地域の文化・社会・経済を知りながら、日本や世界との関係、さらにはアジア太平洋における政治・経済・ビジネス上の重要性など、さまざまな視点から学んでいきます。そうすると、現地プログラムのなかで、その国・地域のさまざまな「顔」が見えてきます。自身の興味・関心を大切に、そして興味・関心を広げなが

	ら、卒業研究につなげていきましょう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	オリエンテーション プログラムの概要説明と理解、自己紹介、渡航に当たっての注意（危機管理オリエンテーション（1）、ビザ情報含む）、個人/チーム別プレゼンテーションの担当決めおよび説明	事前学修：分担になっている渡航先の社会について調べ、プレゼンの準備をする 事後学修：渡航先国について、図書を読み知識を深める	4 時間
第２回	対面	講義とディスカッション：研修先となる国・地域理解（1） 渡航先の社会・政治・経済課題の個人プレゼンテーション、プログラムの到達目標・意義、ボランティア・文化活動および交流イベントでのプレゼンテーション案などのディスカッション	事前学修：TOEIC IP に向けた学修 事後学修：渡航先国について、図書を読み知識を深める	4 時間
第３回	対面	TOEIC®IP 受験	事前学修：分担になっている渡航先の社会について、調べプレゼンの準備をする 事後学修：渡航先国について、図書と読み知識を深める	4 時間
第４回	対面	講義とディスカッション：研修先となる国・地域理解（2） 渡航先の社会・政治・経済課題の個人プレゼンテーション（1 人 5 分）、プログラムの到達目標・意義、ボランティア・文化活動および現地での交流でのプレゼンテーション案などのディスカッション	事前学修：現地プログラムを準備するために、自国と渡航先国の文化の差異を調べる 事後学修：渡航先国について、図書と読み知識を深める	4 時間
第５回	対面	語学授業（英語＋研修国・地域の言語基礎）英語/現地言語講座、プログラムのなかで、ボランティア・文化紹介活動の企画、日本文化紹介の準備	事前学習：渡航に向けた準備として、グローバル化が渡航先国にもたらす現象について調べる。 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話ができるように準備しておく。	4 時間
第６回	対面	目標シートの作成 出発前のプログラムの最終確認、目標シートの作成と提出、危機管理オリエンテーション（2）	事前学習：渡航に向けた準備として、グローバル化が渡航先国にもたらす現象について調べる。 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話ができるように準備しておく。	4 時間
第７回	対面	オリエンテーション、英語と研修国・地域の言語基礎授業、研修中の活動に関わる準備（1） 1）オリエンテーション 計画書、目標シートに基づいた準備とディスカッション、危機管理オリエンテーション（3） 2） 英語と研修国・地域の言語基礎授業 3） 研修中の活動に関わる準備（1） 4） チームビルディング 5） 目標設定の確認、ディスカッション	事前学習：現地プログラムでの発表の最終準備 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話ができるように準備しておく。	4 時間
第８回	対面	イントロダクション オリエンテーション、歓迎会、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第９回	対面	フィールドワーク（1） 派遣国の社会、政治、経済に関するフィールドワーク、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第１０回	対面	フィールドワーク（2） フィールドワーク（日系企業、NGO の訪問・	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間

		インタビュー、社会文化施設見学など)、総括ミーティング実施、各自活動日誌作成		
第１１回	対面	ボランティア・文化交流活動（1） 学校訪問と交流など 社会的弱者支援のボランティア・文化交流活動：学校、児童養護施設（孤児院）やまたは老人福祉施設など 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第１２回	対面	ボランティア・文化交流活動（2） 学校訪問と交流など、社会的弱者支援のボランティア・文化交流活動：学校、児童養護施設（孤児院）やまたは老人福祉施設など、総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第１３回	対面	成果発表と交流 プレゼンテーション：(1) 大学紹介、(2) 日本・大阪紹介、(3) 今回の Fld. P で学んだことなど、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第１４回	対面	課題発表準備 活動日誌の整理と提出、現地研修からの学びと課題についてのディスカッション、学修成果発表に向けてのプレゼンテーションの作成	事前・事後学習：報告会に向けた準備	6 時間
第１５回	対面	学修成果発表と TOEIC®IP 受験 フィールド・プロジェクト I を通じての学修成果についてのプレゼンテーションの発表、TOEIC®IP 受験	事後学修：現地での活動とそこでの体験の省察をレポートにまとめる	6 時間

科目名	フィールド・プロジェクトC	開講年度	2025
担当者	福田　真也	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	実習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	世界に対する関心を高め、「気づき」を得る		
授業の目的及び概要	この授業は、国内における事前・事後学修と海外における約 1 週間の体験・研修から構成される。国内での集中的な学修と海外の研修先における、学修、交流活動、現地調査、ボランティア活動などの種々の学修及び体験を通して、異文化理解、コミュニケーション能力、協働力を養うことを目的とする。また、学修と体験の過程を通じて、国際感覚の涵養と学修動機の形成あるいは向上を図る。学修目標の達成度、プロジェクトレポートの内容、学修成果発表の結果などをもとに担当教員が成績評価を行う。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	学修、生活、交流、ボランティア活動等、学生たちの主体的な活動への参加を促し、異なる人々とのコミュニケーションや協働を通じて、1）言語運用能力とコミュニケーション能力の向上、2）国際理解と国際性の涵養、3）チームワーク、リーダーシップ、協働について学ぶこと、4）大学での学修への動機を形成あるいは深めることを目標とする。 （この科目の位置づけ、学位授与方針との関係等については、履修要項「国際学部教育課程の編成の考え方」及び「コース制と履修モデル」を参照。）		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業での発表、あるいは、現地での見学の総括後には、各見学地において学んだことを学生とディスカッションすると同時に、教員から適宜ポイントを伝える。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	参加するプログラムのなかで指示する。	ISBN	N.A.
参考書	参加するプログラムのなかで指示する。	ISBN	N.A.

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	10
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	60
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	なし

この科目の受講にあたって	アジア太平洋地域におけるひとつの国・地域をテーマとした地域研究を行うフィールド・プロジェクトです。事前学修のなかで、テーマである国・地域の文化・社会・経済を知りながら、日本や世界との関係、さらにはアジア太平洋における政治・経済・ビジネス上の重要性など、さまざまな視点から学んでいきます。そうすると、現地プログラムのなかで、その国・地域のさまざまな「顔」が見えてきます。自身の興味・関心を大切に、そして興味・関心を広げながら、卒業研究につなげていきましょう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	オリエンテーション プログラムの概要説明と理解、自己紹介、渡航に当たっての注意(危機管理オリエンテーション（1)、ビザ情報含む)、個人/チーム別プレゼンテーションの担当決めおよび説明	事前学修：分担になっている渡航先の社会について調べ、プレゼンの準備をする 事後学修：渡航先国について、図書を読み知識を深める	4 時間
第２回	対面	講義とディスカッション：研修先となる国・地域理解（1） 渡航先の社会・政治・経済課題の個人プレゼンテーション、プログラムの到達目標・意義、ボランティア・文化活動および交流イベントでのプレゼンテーション案などのディスカッション	事前学修：TOEIC IP に向けた学修 事後学修：渡航先国について、図書を読み知識を深める	4 時間
第３回	対面	TOEIC®IP 受験	事前学修：分担になっている渡航先の社会について、調べプレゼンの準備をする 事後学修：渡航先国について、図書と読み知識を深める	4 時間
第４回	対面	講義とディスカッション：研修先となる国・地域理解（2） 渡航先の社会・政治・経済課題の個人プレゼンテーション（1 人 5 分)、プログラムの到達目標・意義、ボランティア・文化活動および現地での交流でのプレゼンテーション案などのディスカッション	事前学修：現地プログラムを準備するために、自国と渡航先国の文化の差異を調べる 事後学修：渡航先国について、図書と読み知識を深める	4 時間
第５回	対面	語学授業(英語＋研修国･地域の言語基礎) 英語/現地言語講座、プログラムのなかで、ボランティア・文化紹介活動の企画、日本文化紹介の準備	事前学習：渡航に向けた準備として、グローバル化が渡航先国にもたらす現象について調べる。 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話ができるように準備しておく。	4 時間
第６回	対面	目標シートの作成 出発前のプログラムの最終確認、目標シートの作成と提出、危機管理オリエンテーション（2）	事前学習：渡航に向けた準備として、グローバル化が渡航先国にもたらす現象について調べる。 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話ができるように準備しておく。	4 時間
第７回	対面	オリエンテーション、英語と研修国・地域の言語基礎授業、研修中の活動に関わる準備（1） 1）オリエンテーション 計画書、目標シートに基づいた準備とディスカッション、危機管理オリエンテーション（3） 2） 英語と研修国・地域の言語基礎授業 3） 研修中の活動に関わる準備（1） 4） チームビルディング 5） 目標設定の確認、ディスカッション	事前学習：現地プログラムでの発表の最終準備 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話ができるように準備しておく。	4 時間
第８回	対面	イントロダクション オリエンテーション、歓迎会、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第９回	対面	フィールドワーク（1） 派遣国の社会、政治、経済に関するフィールドワーク、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第１０回	対面	フィールドワーク（2） フィールドワーク(日系企業、NGO の訪問・インタビュー、社会文化施設見学など)、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間

第１１回	対面	ボランティア・文化交流活動（1） 学校訪問と交流など 社会的弱者支援のボランティア･文化交流活動：学校、児童養護施設（孤児院）やまたは老人福祉施設など 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第１２回	対面	ボランティア・文化交流活動（2） 学校訪問と交流など、社会的弱者支援のボランティア・文化交流活動：学校、児童養護施設（孤児院）やまたは老人福祉施設など、総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第１３回	対面	成果発表と交流 プレゼンテーション：(1) 大学紹介、(2) 日本・大阪紹介、(3) 今回の Fld. P で学んだことなど、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第１４回	対面	課題発表準備 活動日誌の整理と提出、現地研修からの学びと課題についてのディスカッション、学修成果発表に向けてのプレゼンテーションの作成	事前・事後学習：報告会に向けた準備	6 時間
第１５回	対面	学修成果発表と TOEIC®IP 受験 フィールド･プロジェクト I を通じての学修成果についてのプレゼンテーションの発表、TOEIC®IP 受験	事後学修：現地での活動とそこでの体験の省察をレポートにまとめる	6 時間

科目名	フィールド・プロジェクトC	開講年度	2025
担当者	池上　寛	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	実習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	台湾に対する関心を高め、「気づき」を得る		
授業の目的及び概要	このフィールド・プロジェクトでは台湾について学び、国内における事前・事後学修と海外における約 1 週間の体験・研修から構成される。国内での集中的な学修と海外の研修先における、学修、交流活動、現地フィールドワークなどの種々の学修及び体験を通して、異文化理解、コミュニケーション能力、協働力を養うことを目的とする。また、学修と体験の過程を通じて、国際感覚の涵養と学修動機の形成あるいは向上を図る。学修目標の達成度、プロジェクトレポートの内容、学修成果発表の結果などをもとに担当教員が成績評価を行う。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	学修、生活、交流等、学生たちの主体的な活動への参加を促し、異なる人々とのコミュニケーションや協働を通じて、1）言語運用能力とコミュニケーション能力の向上、2）国際理解と国際性の涵養、3）チームワーク、リーダーシップ、協働について学ぶこと、4）大学での学修への動機を形成あるいは深めることを目標とする。 （この科目の位置づけ、学位授与方針との関係等については、履修要項「国際学部教育課程の編成の考え方」及び「コース制と履修モデル」を参照。）		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	事前学習や現地でのグループによるフィールドワークについての発表、あるいは帰国後の個人発表などを通じて、学生とディスカッションすると同時に、教員から適宜ポイントを伝える。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、独立行政法人日本貿易振興機構（JETRO）で 20 年以上に渡って業務に従事しており、在台北海外派遣員、産業研究グループ長代理、開発研究センター経済統合研究グループ長代理などを歴任している。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	参加するプログラムのなかで指示する。	ISBN	N.A.
参考書	参加するプログラムのなかで指示する。	ISBN	N.A.

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	30
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	35
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	15
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	20
その他の内容	現地活動

この科目の受講にあたって	このフィールド・プロジェクトはアジア太平洋地域におけるひとつの国・地域をテーマとした地域研究を行うものである。このフィールド・プロジェクトでは台湾を取り上げ、台湾の文化・社会・経済などを知りながら、日本や世界との関係、さらにはアジア太平洋における政治・経済・ビジネス上の重要性など、さまざまな視点から学ぶ。また、輔仁大学との学生交流を通じて、国際的な感覚も養う機会とする。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	事前学習（１） オリエンテーション プログラムの概要説明と理解、自己紹介を行うとともに、輔仁大学について学ぶ。また、前回実施したフィールド・プロジェクト（台湾）を振り返る。 渡航に当たっての注意（危機管理オリエンテーション（1)、ビザ情報含む）について説明する。	事前学修：台湾について調べるとともに、自己紹介の準備をする 事後学修：台湾について、図書やインターネットを通じて知識を深める	4 時間
第２回	対面	事前学修（２） 輔仁大学の学生と一緒に行うフィールドワークのグループ分けについて発表し、オンラインで輔仁大学とつないで交流を行い、今後の活動について説明する。 また、成績評価、グループ発表（事前事後）、個人発表、最終レポートについて説明する。	事前学修：台湾について、図書やインターネットを通じて理解を深める。 事後学修：渡航してから行うフィールドワークについて、グループ内で調査内容や行き先について議論し、決定する。	4 時間
第３回	対面	事前学修（３） 現地訪問先について、学修する。	事前学修：フィールドワークについての議論を進めておく。 事後学修：現地訪問先について、さらに調べるとともに、訪問した際の質問を考える。	4 時間
第４回	対面	事前学修（４） 台湾についての基本情報、簡単な中国語についての講義 渡航準備についての説明	事前学修：台湾の基本的な情報を調べる 事後学修：学修した中国語の復習、渡航準備を進める	4 時間
第５回	対面	事前学修（５） フィールドワークについての事前報告 各グループ 5 分程度の発表を行う。	事前学習：グループで行うフィールドワークについての発表準備をすること。 事後学修：教職員からのコメントを踏まえて、グループ内でフィールドワークの調整を行うこと。	4 時間
第６回	対面	事前学修（６） 出発前のプログラムの最終確認、電子入境申請、渡航についての注意事項について講義する。	事前学習：グループワークの最終調整をすること 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話ができるように準備しておく。渡航の最終確認をすること。	4 時間
第７回	対面	現地活動（１）移動、顔合わせ	事前学習：輔仁大学の学生とフィールドワークについての議論 事後学修：フィールドワークの成果発表の準備	4 時間
第８回	対面	現地活動（２）	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第９回	対面	現地活動（３） 輔仁大学生とともに、フィールドワークを実施する。	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第１０回	対面	現地活動（４） 輔仁大学生とともに、フィールドワークを実施する。	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第１１回	対面	現地活動（５）	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第１２回	対面	現地活動（６） グループによるフィールドワークの成果発表	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第１３回	対面	事後学修（１） フィールド・プロジェクトの振り返り 輔仁大学とオンライン接続して、活動の振り返り	事前学習：フィールド・プロジェクト全体についての振り返りをしておくこと 事後学修：個人発表の準備、最終レポートの準備	4 時間
第１４回	対面	事後学修（２）	報告会の準備を行うとともに、個人最終レポートの	6 時間

		個人成果発表①	準備	
第１５回	対面	事後学修（３） 個人成果発表②	報告会の準備を行うとともに、個人最終レポートの準備	6 時間

科目名	フィールド・プロジェクトC	開講年度	2025
担当者	ミルズ・ジョナサン	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	実習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	Exploring Japanese Culture Past and Present（日本文化の過去と現在を見て考える）		
授業の目的及び概要	このフィールド・プロジェクトでは、日本文化の過去の文化と現在の文化の関連について深く考え、日本に関する知識とを増やすことによって、外国人として日本で活躍するために必要である「教養」と「常識」を育てる。主に日本の伝統文化を美術・文学・演劇・建築などの現象を実際に自分の目でみて、現在の文化との関連を考えることが学修の目的とする。また、学修の一つの柱として、関西と大阪の独特の文化である「上方文化」を考える。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 日本の文化について、英語で説明できる。 2. 現代・近代・前近代を問わず、日本文化、特に大阪の文化の重要な側面を認識し、それを説明できる。 3. 過去の文化が現代の日本文化に及ぼした影響を理解する。 4. 日本文化が日本の「ソフト・パワー」に及ぼす影響を理解する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業での発表、あるいは、見学の総括後には、各見学地において学んだことを学生とディスカッションすると同時に、教員から適宜ポイントを伝える。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	なし。	ISBN	なし。
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	10
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	60
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	なし

この科目の受講にあたって	国際学部の皆さんにとっては「異文化理解」は大変重要な課題です。日々の積極的な交流や、海外体験を通じて、国際感覚を身に付けることも重要ですが、それに加えて本科目に紹介される理論と具体例の学修によって、異文化理解が更に深まることが期待されます。授業中の積極的な参加（ノート手―キング、クループワーク、質疑応答など）および予習・復習によって、紹介されるアイデアや具体例をよく学修しましょう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第１回	対面	事前学修①　Orientation and Course Explanation	授業後に、配ったレジュメと、自分の授業でとったメモをしっかり読み、復習すること。また、Learning Portal に掲載する次回のレジュメを事前に読んでおくこと。	4 時間
第２回	対面	事前学修②　Exploring Pre-Modern Kamigata Culture (1): The Nara Period	授業後に、配ったレジュメと、自分の授業でとったメモをしっかり読み、復習すること。また、Learning Portal に掲載する次回のレジュメを事前に読んでおくこと。	4 時間
第３回	対面	事前学修③　Exploring Pre-Modern Kamigata Culture (2): The Heian Period	授業後に、配ったレジュメと、自分の授業でとったメモをしっかり読み、復習すること。また、Learning Portal に掲載する次回のレジュメを事前に読んでおくこと。	4 時間
第４回	対面	事前学修④　Exploring Pre-Modern Kamigata Culture (3): The Edo Period (1)	授業後に、配ったレジュメと、自分の授業でとったメモをしっかり読み、復習すること。また、Learning Portal に掲載する次回のレジュメを事前に読んでおくこと。	4 時間
第５回	対面	事前学修⑤　Exploring Pre-Modern Kamigata Culture (4): The Edo Period (2)	授業後に、配ったレジュメと、自分の授業でとったメモをしっかり読み、復習すること。また、Learning Portal に掲載する次回のレジュメを事前に読んでおくこと。	4 時間
第６回	対面	事前学修⑥　Discovering Modern Kamigata Culture (1): Meiji and the Twentieth Century	授業後に、配ったレジュメと、自分の授業でとったメモをしっかり読み、復習すること。また、Learning Portal に掲載する次回のレジュメを事前に読んでおくこと。	4 時間
第７回	対面	事前学修⑦　Discovering Modern Kamigata Culture (2): Contemporary Kansai	授業後に、配ったレジュメと、自分の授業でとったメモをしっかり読み、復習すること。また、Learning Portal に掲載する次回のレジュメを事前に読んでおくこと。	4 時間
第８回	対面	実地研修①　Visiting the Osaka Museum of History	授業後に、配ったレジュメと、自分の授業でとったメモをしっかり読み、復習すること。また、Learning Portal に掲載する次回のレジュメを事前に読んでおくこと。	4 時間
第９回	対面	実地研修②　Visiting Kansai’s Temples and Shrines (1)	授業後に、配ったレジュメと、自分の授業でとったメモをしっかり読み、復習すること。また、Learning Portal に掲載する次回のレジュメを事前に読んでおくこと。	4 時間
第１０回	対面	実地研修③　The Dotonbori and the National Bunraku Theatre	授業後に、配ったレジュメと、自分の授業でとったメモをしっかり読み、復習すること。また、Learning Portal に掲載する次回のレジュメを事前に読んでおくこと。	4 時間
第１１回	対面	実地研修④　Visiting sites associated with Osaka’s Pre-Modern Education	授業後に、配ったレジュメと、自分の授業でとったメモをしっかり読み、復習すること。また、Learning Portal に掲載する次回のレジュメを事前に読んでおくこと。	4 時間
第１２回	対面	実地研修⑤　Visiting Kansai’s Temples and Shrines (2)	授業後に、配ったレジュメと、自分の授業でとったメモをしっかり読み、復習すること。また、Learning Portal に掲載する次回のレジュメを事前に読んでおくこと。	4 時間
第１３回	対面	事後学修　Summary of the Course (Conducted Online)	授業後に、配ったレジュメと、自分の授業でとったメモをしっかり読み、復習すること。また、Learning Portal に掲載する次回のレジュメを事前に読んでおくこと。	4 時間
第１４回	対面	第 14 回	授業後に、配ったレジュメと、自分の授業でとったメモをしっかり読み、復習すること。また、Learning Portal に掲載する次回のレジュメを事前に読んでおくこと。	4 時間
第１５回	対面	第 15 回	授業後に、配ったレジュメと、自分の授業でとったメ	4 時間

			モをしっかり読み、復習すること。また、Learning Portal に掲載する次回のレジュメを事前に読んでおくこと。	

科目名	留学事前演習	開講年度	2025
担当者	中西　亮太	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	留学先の文化や社会背景を理解し、現地での円滑なコミュニケーションに必要な英語運用能力を身につける。		
授業の目的及び概要	この科目では、１セメスター留学に対応する科目として、留学に必要な基本的な知識、技能を身に付けます。 授業では、現地の文化や社会背景のリサーチやプレゼンテーションを行い、渡航先への理解を深めていきます。英語 4 技能の総合的な向上を目指しますが、現地でコミュニケーションをとるために必要最低限な英語力を身に付けるために、アウトプット強化に力点を置いた授業が展開されます。加えて、アカデミックイングリッシュにも触れることで留学先の授業を理解するための素地を培います。 また、留学体験が将来のキャリアにどのように寄与するのかを考え、議論し、これら 2 つを有機的に結び付けていくための意識付けを行います。		
履修条件・留意点	2025 年度英語圏 1 セメスター留学（夏渡航）参加予定の方は必ず履修してください。 授業への参加度が著しく低い場合は単位が認められない場合があります。 7 月 TOEIC を受験しなかった場合、単位が認められない場合があります。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この科目の目標は以下の通り設定しています。 １．留学先の文化や社会背景などについて、基本的な知識を身に付ける ２．基本的な語彙や表現を用いて、自分の考えを相手に伝えることができる ３．留学とキャリアを結び付けて考えることができる		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業で質問への回答や説明をします。 小テストは、採点した上で返却します。 授業内で継続的に行なわれるアクティビティやクイズ、ディスカッションを行うなかで教員から講評を受けます。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	必要な資料は適宜授業内で指示します。	ISBN	なし
参考書	なし	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	40
授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
成果発表（口頭・実技）	20
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講に	英語力や専門学修、これからのキャリアなど、留学は皆さんの成長に大いに貢献してくれるでしょう。しかし、留学でどれだけ成長できるかは皆さん次第です。限られた期間での留学を実

あたって	りあるものにするためには、しっかりとした準備が必要です。この授業では、現地にいち早く適応するための素地を培います。また、即興的な発話力の向上も期待できます。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	（2 クラス合同）英語圏 1 セメスター留学の全体概要について、チームビルディング（中西・中山）	【予習】(1 時間) シラバスとガイダンス資料を事前に読んでおいてください。 【復習】(1 時間) シラバスとガイダンス資料を読み直し、講義で得た内容を確認してください。	2 時間
第２回	対面	英語で学ぶ英語圏の社会・文化①（本多）	【予習】(2 時間) 留学先の社会・文化について調べ、まとめておく（渡航先別にペア、またはグループで） 【復習】(2 時間) 講義内容における重要箇所をまとめ、復習をする 講義内容に関する小テストに回答し、間違えた箇所を復習する	4 時間
第３回	対面	英語で学ぶ英語圏の社会・文化②（本多）	【予習】(2 時間) 第 4 回授業で学修した内容を基に、留学先の社会・文化についてまとめ、発表できるようにしておく（渡航先別にペア、またはグループで） 【復習】(2 時間) 講義内容における重要箇所をまとめ、復習をする 講義内容に関する小テストに回答し、間違えた箇所を復習する	4 時間
第４回	対面	英語学修の進め方について及び TOEIC 目標設定（中西）	【予習】(3 時間) アセスメントテスト・TOEIC の点数をメモしておく 自分の苦手な箇所、これまでの学修スタイル（学修方法、学修時間、使用教材）をまとめておく 留学前後の TOEIC 目標数値をメモしておく 【復習】(1 時間) これまでの学修スタイルを振り返りながら、今後の学修計画を立てる	4 時間
第５回	対面	留学をキャリアにどう結び付けるか（三戸）	【予習】(1 時間) 留学が自身のキャリアにどのように結びつくか考え、まとめておく 【復習】(3 時間) 講義内容を基に、自身のキャリアに留学をどのように結び付けることができるかについてレポートを作成する	4 時間
第６回	対面	留学経験を踏まえたキャリア目標設定（三戸）	【予習】(2 時間) 留学を踏まえた自身のキャリア目標について考え、まとめておく。 【復習】(2 時間) 講義内容を基に、自身のキャリア目標を設定し、目標達成に向けた行動計画を作成する。	4 時間
第７回	対面	英語重要語彙・表現の学修及びスピーキング演習①（ウェザビ）	【予習】(2 時間) Learning Portal に掲載されている重要語彙・表現を覚える 【復習】(2 時間) 授業で扱った語彙、表現に関する小テストに回答し、間違えた箇所を復習する	4 時間
第８回	対面	英語重要語彙・表現の学修及びスピーキング演習②（ウェザビ）	【予習】(2 時間) Learning Portal に掲載されている課題リーディングを読み、内容をまとめておく	4 時間

			【復習】(2 時間) 授業で扱った語彙、表現に関する小テストに回答し、間違えた箇所を復習する	
第９回	対面	TOEIC 公式問題集を用いたリーディング演習①（中西）	【予習】(2 時間) Learning Portal に掲載されている重要語彙・表現を覚える 【復習】(2 時間) 授業で扱った語彙、表現に関する小テストに回答し、間違えた箇所を復習する	4 時間
第１０回	対面	アカデミック分野の英語教材を用いたスピーキング・ライティング演習①（ウェザビ）	【予習】(2 時間) Learning Portal に掲載されている重要語彙・表現を覚える 【復習】(2 時間) 授業で扱った語彙、表現に関する小テストに回答し、間違えた箇所を復習する	4 時間
第１１回	対面	アカデミック分野の英語教材を用いたスピーキング・ライティング演習②（ウェザビ）	【予習】(2 時間) Learning Portal に掲載されている課題リーディングを読み、内容をまとめておく 【復習】(2 時間) 授業で扱った語彙、表現に関する小テストに回答し、間違えた箇所を復習する	4 時間
第１２回	対面	TOEIC 公式問題集を用いたリーディング演習②（中西）	【予習】(2 時間) Learning Portal に掲載されている重要語彙・表現を覚える 【復習】(2 時間) 授業で扱った語彙、表現に関する小テストに回答し、間違えた箇所を復習する	4 時間
第１３回	対面	キャリア目標達成に向けたディスカッション（三戸）	【予習】(2 時間) 留学を踏まえた自身のキャリア目標および行動計画を確認しておく。 【復習】(2 時間) 講義内容及びディスカッションを基に、自身の行動計画を修正する。	4 時間
第１４回	対面	学修内容の総括及び期末発表会（中西）	【予習】(4 時間) これまでの授業内容を基に、「渡航先について調べて分かったこと」、「留学先で何を学び何を身に付けたいのか」、「留学体験をキャリアにどのように結びつけることができるのか」に関する発表準備をする	4 時間
第１５回	オンデマンド	TOEIC 公式問題集を用いたリーディング強化学修③（中西）	【予習】(2 時間) Learning Portal に掲載されている課題リーディングを読み、内容をまとめておく 【復習】(2 時間) 授業で扱った語彙、表現に関する小テストに回答し、間違えた箇所を復習する	4 時間

科目名	留学事前演習	開講年度	2025
担当者	中山　周作	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	留学先の文化や社会背景を理解し、現地での円滑なコミュニケーションに必要な英語運用能力を身につける。		
授業の目的及び概要	この科目では、１セメスター留学に対応する科目として、留学に必要な基本的な知識、技能を身に付けます。 授業では、現地の文化や社会背景のリサーチやプレゼンテーションを行い、渡航先への理解を深めていきます。英語 4 技能の総合的な向上を目指しますが、現地でコミュニケーションをとるために必要最低限な英語力を身に付けるために、アウトプット強化に力点を置いた授業が展開されます。加えて、アカデミックイングリッシュにも触れることで留学先の授業を理解するための素地を培います。 また、留学体験が将来のキャリアにどのように寄与するのかを考え、議論し、これら 2 つを有機的に結び付けていくための意識付けを行います。		
履修条件・留意点	2025 年度英語圏 1 セメスター留学（夏渡航）参加予定の方は必ず履修してください。 授業への参加度が著しく低い場合は単位が認められない場合があります。 7 月 TOEIC を受験しなかった場合、単位が認められない場合があります。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この科目の目標は以下の通り設定しています。 １．留学先の文化や社会背景などについて、基本的な知識を身に付ける ２．基本的な語彙や表現を用いて、自分の考えを相手に伝えることができる ３．留学とキャリアを結び付けて考えることができる		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業で質問への回答や説明をします。 小テストは、採点した上で返却します。 授業内で継続的に行なわれるアクティビティやクイズ、ディスカッションを行うなかで教員から講評を受けます。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	必要な資料は適宜授業内で指示します。	ISBN	なし
参考書	なし	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	40
授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
成果発表（口頭・実技）	20
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講に	英語力や専門学修、これからのキャリアなど、留学は皆さんの成長に大いに貢献してくれるでしょう。しかし、留学でどれだけ成長できるかは皆さん次第です。限られた期間での留学を実

あたって	りあるものにするためには、しっかりとした準備が必要です。この授業では、現地にいち早く適応するための素地を培います。また、即興的な発話力の向上も期待できます。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	（2 クラス合同）英語圏 1 セメスター留学の全体概要について、チームビルディング（中西・中山）	【予習】(1 時間) シラバスとガイダンス資料を事前に読んでおいてください。 【復習】(1 時間) シラバスとガイダンス資料を読み直し、講義で得た内容を確認してください。	2 時間
第２回	対面	英語学修の進め方について及び TOEIC 目標設定（中山）	【予習】(3 時間) アセスメントテスト・TOEIC の点数をメモしておく 自分の苦手な箇所、これまでの学修スタイル（学修方法、学修時間、使用教材）をまとめておく 留学前後の TOEIC 目標数値をメモしておく 【復習】(1 時間) これまでの学修スタイルを振り返りながら、今後の学修計画を立てる	4 時間
第３回	対面	留学をキャリアにどう結び付けるか（三戸）	【予習】(1 時間) 留学が自身のキャリアにどのように結びつくか考え、まとめておく 【復習】(3 時間) 講義内容を基に、自身のキャリアに留学をどのように結び付けることができるかについてレポートを作成する	4 時間
第４回	対面	英語で学ぶ英語圏の社会・文化①（本多）	【予習】(2 時間) 留学先の社会・文化について調べ、まとめておく（渡航先別にペア、またはグループで） 【復習】(2 時間) 講義内容における重要箇所をまとめ、復習をする 講義内容に関する小テストに回答し、間違えた箇所を復習する	4 時間
第５回	対面	英語で学ぶ英語圏の社会・文化②（本多）	【予習】(2 時間) 第 4 回授業で学修した内容を基に、留学先の社会・文化についてまとめ、発表できるようにしておく（渡航先別にペア、またはグループで） 【復習】(2 時間) 講義内容における重要箇所をまとめ、復習をする 講義内容に関する小テストに回答し、間違えた箇所を復習する	4 時間
第６回	対面	留学経験を踏まえたキャリア目標設定（三戸）	【予習】(2 時間) 留学を踏まえた自身のキャリア目標について考え、まとめておく。 【復習】(2 時間) 講義内容を基に、自身のキャリア目標を設定し、目標達成に向けた行動計画を作成する。	4 時間
第７回	対面	英語重要語彙・表現の学修及びスピーキング演習①（ミルズ）	【予習】(2 時間) Learning Portal に掲載されている重要語彙・表現を覚える 【復習】(2 時間) 授業で扱った語彙、表現に関する小テストに回答し、間違えた箇所を復習する	4 時間
第８回	対面	英語重要語彙・表現の学修及びスピーキング演習②（ミルズ）	【予習】(2 時間) Learning Portal に掲載されている課題リーディングを読み、内容をまとめておく	4 時間

			【復習】(2 時間) 授業で扱った語彙、表現に関する小テストに回答し、間違えた箇所を復習する	
第９回	対面	TOEIC 公式問題集を用いたリーディング演習①（中山）	【予習】(2 時間) Learning Portal に掲載されている重要語彙・表現を覚える 【復習】(2 時間) 授業で扱った語彙、表現に関する小テストに回答し、間違えた箇所を復習する	4 時間
第１０回	対面	アカデミック分野の英語教材を用いたスピーキング・ライティング演習①(ミルズ)	【予習】(2 時間) Learning Portal に掲載されている重要語彙・表現を覚える 【復習】(2 時間) 授業で扱った語彙、表現に関する小テストに回答し、間違えた箇所を復習する	4 時間
第１１回	対面	アカデミック分野の英語教材を用いたスピーキング・ライティング演習②(ミルズ)	【予習】(2 時間) Learning Portal に掲載されている課題リーディングを読み、内容をまとめておく 【復習】(2 時間) 授業で扱った語彙、表現に関する小テストに回答し、間違えた箇所を復習する	4 時間
第１２回	対面	TOEIC 公式問題集を用いたリーディング演習②（中山）	【予習】(2 時間) Learning Portal に掲載されている重要語彙・表現を覚える 【復習】(2 時間) 授業で扱った語彙、表現に関する小テストに回答し、間違えた箇所を復習する	4 時間
第１３回	対面	キャリア目標達成に向けたディスカッション（三戸）	【予習】(2 時間) 留学を踏まえた自身のキャリア目標および行動計画を確認しておく。 【復習】(2 時間) 講義内容及びディスカッションを基に、自身の行動計画を修正する。	4 時間
第１４回	対面	学修内容の総括及び期末発表会（中山）	【予習】(4 時間) これまでの授業内容を基に、「渡航先について調べて分かったこと」、「留学先で何を学び何を身に付けたいのか」、「留学体験をキャリアにどのように結びつけることができるのか」に関する発表準備をする	4 時間
第１５回	オンデマンド	TOEIC 公式問題集を用いたリーディング強化学修③（中山）	【予習】(2 時間) Learning Portal に掲載されている課題リーディングを読み、内容をまとめておく 【復習】(2 時間) 授業で扱った語彙、表現に関する小テストに回答し、間違えた箇所を復習する	4 時間

科目名	留学事後演習Ａ	開講年度	2025
担当者	中西　亮太	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	留学で身に付けた英語力を伸長し、留学体験をキャリアとコース別専門学修に結び付ける。		
授業の目的及び概要	この科目では、英語圏 1 セメスター留学に対応する科目として、留学で培われた英語力の更なる向上を図るとともに、留学体験をキャリアやコース別専門学修にどのように結びつけることができるかを考えます。授業では、英語力の成長を測るため、また、留学を通じて身に付けた「使える英語」を伸長し資格取得や国際キャリアにつなげていくために、TOEIC テストに向けた学修を行います。したがって、リスニング及びリーディングに力点を置いた授業が展開されるだけでなく、留学体験に関するレポートの作成やディスカッション、ディベートなどを英語で行うことで、英語 4 技能を総合的に高めていきます。		
履修条件・留意点	2025 年夏英語圏 1 セメスター留学に参加した方は必ず履修してください。 授業への参加度が著しく低い場合は単位が認められない場合があります。 3 月 TOEIC を受験しなかった場合、単位が認められない場合があります。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この科目の目標は以下の通り設定しています。 １．留学先の文化や社会背景などについて、留学体験を基に説明することができる ２．複雑な文章や発話を概ね理解することができる ３．留学体験が自身のキャリアやコース別専門学修にどのように関係するかを説明することができる ４．留学体験をスライドを用いて英語で説明することができる		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業で質問への回答や説明をします。 小テストは、採点した上で返却します。 授業内で継続的に行なわれるアクティビティやクイズ、ディスカッションを行うなかで教員から講評を受けます。 授業で行われるプレゼンテーションに対し、教員から講評を受けます。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	必要な資料は適宜授業内で指示します。	ISBN	なし
参考書	なし	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	30
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	30
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	10
その他の内容	3 月 TOEIC：5% PROGOS：5%

この科目の受講にあたって	留学で身に付けた英語力も、何もしなければどんどん風化していきます。留学を終えた今の皆さんは、英語力も飛躍的に向上し、英語へのモチベーションも高まっていることかと思います。この授業で英語力にさらに磨きをかけ、TOEIC ハイスコアを獲得しましょう。TOEIC ハイスコアは将来の選択肢に広がりを持たせてくれるはずです。 また、留学で得た貴重な経験を将来のキャリアに活用しない手はありません。この授業を通して、留学体験とキャリアを有機的に結びつける方法を体得することができます。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	TOEIC 個別結果分析及び英語個別最適型学修（中西）	【予習】(2 時間) シラバスを予め確認しておく 渡航前後の TOEIC 受験結果を確認し、自分の弱点を分析しておく。 【復習】(2 時間) シラバスとガイダンス資料を読み直し、講義で得た内容を確認する 講義内容を基に、第 2 回授業に向けて英語学修の目標について考えをまとめておく。	4 時間
第２回	対面	英語学修プラニング（中山）	【予習】(2 時間) 第 1 回授業の内容を基に、英語学修の目標について考えをまとめておく。 【復習】(2 時間) 講義内容を基に、目標達成に向けた学修計画を立てる。	2 時間
第３回	対面	ライティング演習①（ウェザビ）	【予習】(1 時間) 留学を通じて学んだことや印象に残ったことまとめておく 【復習】(3 時間) 講義内容を基に、留学体験レポートを英語で作成する	3 時間
第４回	対面	スピーキング演習①（ウェザビ）	【予習】(2 時間) 第 4 回授業の事後学修で作成した英語レポートの音読練習 【復習】(2 時間) 授業で扱われた語彙、表現の復習する（発音も確認する）	4 時間
第５回	対面	TOEIC 公式問題集を用いたリスニング演習①（ミルズ）	【予習】(2 時間) Learning Portal に掲載されている重要語彙・表現を覚える 【復習】(2 時間) 授業で扱った語彙、表現に関する小テストに回答し、間違えた箇所を復習する	4 時間
第６回	対面	TOEIC 公式問題集を用いたリスニング演習②（ミルズ）	【予習】(2 時間) Learning Portal に掲載されている重要語彙・表現を覚える 【復習】(2 時間) 授業で扱った語彙、表現に関する小テストに回答し、間違えた箇所を復習する	4 時間
第７回	対面	TOEIC 公式問題集を用いたリスニング演習③（ウェザビ）	【予習】(2 時間) Learning Portal に掲載されている重要語彙・表現を覚える 【復習】(2 時間) 授業で扱った語彙、表現に関する小テストに回答し、間違えた箇所を復習する	4 時間
第８回	対面	TOEIC 公式問題集を用いたリスニング演習④（ウェザビ）	【予習】(2 時間) Learning Portal に掲載されている重要語彙・表現を	4 時間

			覚える 【復習】(2 時間) 授業で扱った語彙、表現に関する小テストに回答し、間違えた箇所を復習する	
第９回	対面	ライティング演習②（ミルズ）	【予習】(1 時間) 留学を通じて学んだことや印象に残ったことまとめておく 【復習】(3 時間) 講義内容を基に、留学体験レポートを英語で作成する	4 時間
第１０回	対面	スピーキング演習②（ミルズ）	【予習】(2 時間) 第 4 回授業の事後学修で作成した英語レポートの音読練習 【復習】(2 時間) 授業で扱われた語彙、表現の復習する（発音も確認する）	4 時間
第１１回	対面	TOEIC 公式問題集を用いたリスニング演習⑤（ウェザビ）	【予習】(2 時間) Learning Portal に掲載されている重要語彙・表現を覚える 【復習】(2 時間) 授業で扱った語彙、表現に関する小テストに回答し、間違えた箇所を復習する	4 時間
第１２回	対面	TOEIC 公式問題集を用いたリスニング演習⑥（ウェザビ）	【予習】(2 時間) Learning Portal に掲載されている重要語彙・表現を覚える 【復習】(2 時間) 授業で扱った語彙、表現に関する小テストに回答し、間違えた箇所を復習する	6 時間
第１３回	対面	TOEIC 公式問題集を用いたリスニング演習⑦（ミルズ）	【予習】(2 時間) Learning Portal に掲載されている重要語彙・表現を覚える 【復習】(2 時間) 授業で扱った語彙、表現に関する小テストに回答し、間違えた箇所を復習する	4 時間
第１４回	対面	TOEIC 公式問題集を用いたリスニング演習⑧（ミルズ）	【予習】(2 時間) Learning Portal に掲載されている重要語彙・表現を覚える 【復習】(2 時間) 授業で扱った語彙、表現に関する小テストに回答し、間違えた箇所を復習する	6 時間
第１５回	オンデマンド	留学全体の振り返り（中山）	【予習】(1 時間) 留学を通して得た経験や考えをまとめておく。 【復習】(3 時間) 今までの講義内容を基に、留学体験について英語でレポートを作成する	4 時間

科目名	留学事後演習Ｂ	開講年度	2025
担当者	中西　亮太	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	留学で身に付けた英語力を伸長し、留学体験をキャリアとコース別専門学修に結び付ける。		
授業の目的及び概要	この科目では、１セメスター留学に対応する科目として、留学で培われた英語力の更なる向上を図るとともに、留学体験をキャリアやコース別専門学修にどのように結びつけることができるかを考えます。授業では、英語力の成長を測るため、また、留学を通じて身に付けた「使える英語」を伸長し資格取得や国際キャリアにつなげていくために、TOEIC テストに向けた学修を行います。したがって、リスニング及びリーディングに力点を置いた授業が展開されるだけではなく、留学体験に関するレポートの作成やディスカッションやディベートなどを英語で行うことで、英語 4 技能を総合的に高めていきます。また、留学体験を通じた国際キャリアの形成に関するレポートの作成やディスカッションを通じて、これら２つを有機的に結び付け、授業終盤では留学プログラムの成果発表として、個人または渡航先別のグループによるプレゼンテーションを英語で行う。		
履修条件・留意点	2025 年英語圏 1 セメスター留学に参加した方は必ず履修してください。 授業への参加度が著しく低い場合は単位が認められない場合があります。 3 月 TOEIC を受験しなかった場合、単位が認められない場合があります。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この科目の目標は以下の通り設定しています。 １．留学先の文化や社会背景などについて、留学体験を基に説明することができる ２．複雑な文章や発話を概ね理解することができる ３．留学体験が自身のキャリアやコース別専門学修にどのように関係するかを説明することができる ４．留学体験をスライドを用いて英語で説明することができる		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業で質問への回答や説明をします。 小テストは、採点した上で返却します。 授業内で継続的に行なわれるアクティビティやクイズ、ディスカッションを行うなかで教員から講評を受けます。 授業で行われるプレゼンテーションに対し、教員から講評を受けます。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	必要な資料は適宜授業内で指示します。	ISBN	なし
参考書	なし	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	30
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	30
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	10

	その他の内容	3 月 TOEIC：5% PROGOS：5%
この科目の受講にあたって	留学で身に付けた英語力も、何もしなければどんどん風化していきます。留学を終えた今の皆さんは、英語力も飛躍的に向上し、英語へのモチベーションも高まっていることかと思います。この授業で英語力にさらに磨きをかけ、TOEIC ハイスコアを獲得しましょう。TOEIC ハイスコアは将来の選択肢に広がりを持たせてくれるはずです。 留学で得た貴重な経験を将来のキャリアに活用しない手はありません。この授業を受けることで、留学体験とキャリアを有機的に結びつける方法を体得することができます。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	留学体験の振り返り（中西）	【予習】(2 時間) シラバスを予め確認しておく 留学で印象に残ったことや身に付いたことをまとめ、発表できるようにしておく 【復習】(2 時間) シラバスとガイダンス資料を読み直し、講義で得た内容を確認する 講義内容を基に、第 11～14 回授業で行う発表に向けて考えをまとめておく	4 時間
第２回	対面	留学体験を通じた国際キャリアの形成①（三戸）	【予習】(2 時間) 留学で印象に残ったことや身に付いたことをまとめ、発表できるようにしておく。 【復習】(2 時間) 講義内容を基に、キャリアにおける達成目標を整理し、まとめておく。	2 時間
第３回	対面	留学体験談発表①（中西）	【予習】(2 時間) 留学を通して得た体験やスキルについてまとめ、発表できるようにしておく。 【復習】(2 時間) 授業内での発表の振り返りを行い、発表内容の見直しを行う。	4 時間
第４回	対面	留学体験談発表②（中西）	【予習】(2 時間) 留学を通して得た体験やスキルについてまとめ、発表できるようにしておく。 【復習】(2 時間) 授業内での発表の振り返りを行い、発表内容の見直しを行う。	4 時間
第５回	対面	留学体験を通じた国際キャリアの形成②（三戸）	【予習】(2 時間) 留学で印象に残ったことや身に付いたことをまとめ、発表できるようにしておく。 【復習】(2 時間) 講義内容を基に、キャリアにおける目標達成計画を立てる。	4 時間
第６回	対面	留学体験を通じた国際キャリアの形成③（三戸）	【予習】(2 時間) 留学で印象に残ったことや身に付いたことをまとめ、発表できるようにしておく。 【復習】(2 時間) 講義内容を基に、キャリアにおける目標達成計画を立てる。	4 時間
第７回	対面	TOEIC 公式問題集を用いたリーディング演習①（ボイキン）	【予習】(2 時間) Learning Portal に掲載されている重要語彙・表現を覚える 【復習】(2 時間) 授業で扱った語彙、表現に関する小テストに回答し、	4 時間

			間違えた箇所を復習する	
第８回	対面	TOEIC 公式問題集を用いたリーディング演習②（ボイキン）	【予習】(2 時間) Learning Portal に掲載されている重要語彙・表現を覚える 【復習】(2 時間) 授業で扱った語彙、表現に関する小テストに回答し、間違えた箇所を復習する	4 時間
第９回	対面	TOEIC 公式問題集を用いたリーディング演習③（ボイキン）	【予習】(2 時間) Learning Portal に掲載されている重要語彙・表現を覚える 【復習】(2 時間) 授業で扱った語彙、表現に関する小テストに回答し、間違えた箇所を復習する	4 時間
第１０回	対面	TOEIC 公式問題集を用いたリーディング演習④（ボイキン）	【予習】(2 時間) Learning Portal に掲載されている重要語彙・表現を覚える 【復習】(2 時間) 授業で扱った語彙、表現に関する小テストに回答し、間違えた箇所を復習する	4 時間
第１１回	対面	クラス内発表会①（中山・中西）	【予習】(2 時間) 今までの講義内容を基に発表準備を進め、発表できるようにしておく。 【復習】(2 時間) 授業内で得たフィードバックを基に、スライドの修正と発表内容の見直しを行う。	4 時間
第１２回	対面	クラス内発表会①（中山・中西）	【予習】(2 時間) 今までの講義内容を基に発表準備を進め、発表できるようにしておく。 【復習】(2 時間) 授業内で得たフィードバックを基に、スライドの修正と発表内容の見直しを行う。	6 時間
第１３回	対面	全体発表会①（中山・中西）	【予習】(2 時間) 第 11・12 回授業のクラス内発表で得たフィードバックを基に、スライドの修正と発表内容の見直しをしておく。 【復習】(2 時間) 他の学生の発表を見た感想と自分の発表の振り返りを行い、レポートにまとめる。	4 時間
第１４回	対面	全体発表会②（中山・中西）	【予習】(2 時間) 第 11・12 回授業のクラス内発表で得たフィードバックを基に、スライドの修正と発表内容の見直しをしておく。 【復習】(2 時間) 他の学生の発表を見た感想と自分の発表の振り返りを行い、レポートにまとめる。	6 時間
第１５回	オンデマンド	国際キャリア形成に向けた振り返り（三戸）	【予習】(1 時間) キャリア学修の内容を基に、目標達成に向けた行動計画を見直しておく。 【復習】(3 時間) 授業内容を基に、国際キャリア形成に向けたレポートを作成する。	4 時間

科目名	国際キャリア開発 A	開講年度	2025
担当者	池上　寛	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	卒業後のキャリア（生き方・学び方・働き方）を多面的に考察し、大学生活に活かす。		
授業の目的及び概要	本科目は、外国人留学生を対象に、卒業後の「生き方・学び方・働き方（＝キャリア）」を多面的に考察し、将来のキャリア形成に必要な視点について学びます。グローバル化が加速する現代社会において、留学生が自らのバックグラウンドや国際的な強みを活かしながら、日本および母国・海外で活躍するために、何を学び、どのように準備すべきかを明確化し、理解を深めることを目指します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 自己分析を通じて自分の強みと弱みを明確にし、それらを日本語で表現できる。 2. これまでの日本との関わりや留学の動機を踏まえ、将来の進路選択につながる具体的な考えを深めることができる。 3. 日本就職・大学院進学・母国就職など複数の進路を視野に入れ、それぞれに必要な準備や計画的なスケジュールを理解できる。 4. 日本の雇用環境と母国との相違点、業界・企業研究の基礎的知識を身につけ、進路検討に活用できる。 5. 国際社会で求められる日本語力・英語力や行動特性（コンピテンシー）を理解し、自身の大学生活に生かすことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）を課し、適宜授業にてフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、JETRO・アジア経済研究所で 25 年以上に渡って調査研究職に従事しており、その間、在台北海外研究員、研究グループ長代理などを歴任している。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	改訂版　留学生のための就職内定ワークブック（通年使用）	ISBN	978-4820729907
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	30
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	30
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	40
その他の内容	期末課題

この科目の受講にあたって	本授業では、卒業後の進路を見据えつつ、将来のキャリアデザインに主体的かつ前向きに取り組む姿勢・価値観を育むことを期待するともに、JLPT の取得を含めて日本語能力を積極的に磨く努力も求めます。本科目は、社会人として必要な基礎的素養を身につける場であり、社会で求められる基本的なルールやマナーを尊重しながら、積極的な参加を心がけてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	オリエンテーション ・授業の全体像や評価方法を説明し、到達目標を理解する。 ・学期中の学習テーマを示し、受講生同士の簡単な自己紹介を行う。	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2 時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2 時間)	4 時間
第２回	対面	自分と日本との接点を考える ・自身の留学動機や日本との関わりについて振り返る ・多様な背景を持つ受講生同士とのグループワークを通じて、自らの立ち位置を再認識する。	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2 時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2 時間)	4 時間
第３回	対面	日本の大学生活に必要な日本語力、国際学部での学び ・国際学部のコース制及び専門学修について ・就職・進学に必要とされる日本語レベル（JLPT 目安）について理解する	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2 時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2 時間)	4 時間
第４回	対面	自己分析（内的キャリアと外的キャリア） ・自分が将来何を大切にしたいか（内的キャリア：価値観や興味）と、社会が求める要素（外的キャリア：職種、条件）について考えを深める。 ・自己分析シートを用い、自身の強み・弱みを整理する。	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2 時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2 時間)	4 時間
第５回	対面	複数の進路について考える ・日本での就職、大学院進学、母国での就職といった多様な選択肢についてそれぞれ必要となる準備やスケジュールの概要を理解する。 ・各進路の利点・課題を整理し、検討の材料とする。	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2 時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2 時間)	4 時間
第６回	対面	これまでのふりかえり・ディスカッション ・第 1～5 回で扱った内容を整理し、各自のキャリア観や日本語学習計画を再確認する。 ・小グループで振り返りの意見交換を行い、学び合いを促す。	【復習】これまでの授業の内容を復習し、中間課題の準備をする。(4 時間)	6 時間
第７回	対面	中間課題（レポート）の作成	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2 時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2 時間)	4 時間
第８回	対面	日本で就職するということ①(日本の雇用環境、知っておきたい在留資格について) ・日本の労働市場や就業形態の基本を理解する。 ・留学生が日本で就職する際に必要な在留資格や取得条件等について理解する。	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2 時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2 時間)	4 時間
第９回	対面	日本で就職するということ② ・日本における外国人材の採用動向について知る。 ・日系企業特有の採用文化（新卒一括採用、OB/OG 訪問、礼儀・マナー）について理解する。	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2 時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2 時間)	4 時間
第１０回	対面	希望進路の実現のためにすべきこと①	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノート	4 時間

		・企業が求める留学生像について理解し、自身の大学生活や今後の目標設定に活かす。 ・大学院進学希望者については出願スケジュールや必要書類について理解する。	を見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2 時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2 時間)	
第１１回	対面	希望進路の実現のためにすべきこと② ・就職活動、進学準備の全体スケジュールを理解する。 ・卒業後の進路や自身の目標達成に向けた、学修計画・行動計画について考える。	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2 時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2 時間)	4 時間
第１２回	対面	希望進路の実現のためにすべきこと③ ・進学及び就職に必要とされる日本語能力（JLPT、ビジネス日本語能力）や職種別に求められる専門知識（IT スキル、簿記、語学）等について理解する。	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2 時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2 時間)	4 時間
第１３回	対面	まとめ・総括 ・これまでの授業内容を総合して、自分が将来の進路実現に向けてどのような行動・学修を行うべきか整理する。 ・アクションプラン（短期・中期・長期）を作成し、具体的な目標設定を行う。	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2 時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2 時間)	4 時間
第１４回	オンデマンド	春学期授業のふりかえり（これまでの学び・気づきをふりかえる）	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(4 時間)	4 時間
第１５回	対面	期末課題（レポート）の作成	総復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(4 時間)	4 時間

科目名	国際キャリア開発 A	開講年度	2025
担当者	尹　恵彦	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	卒業後のキャリア（生き方・学び方・働き方）を多面的に考察し、大学生活に活かす。		
授業の目的及び概要	本科目は、外国人留学生を対象に、卒業後の「生き方・学び方・働き方（＝キャリア）」を多面的に考察し、将来のキャリア形成に必要な視点について学びます。グローバル化が加速する現代社会において、留学生が自らのバックグラウンドや国際的な強みを活かしながら、日本および母国・海外で活躍するために、何を学び、どのように準備すべきかを明確化し、理解を深めることを目指します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 自己分析を通じて自分の強みと弱みを明確にし、それらを日本語で表現できる。 2. これまでの日本との関わりや留学の動機を踏まえ、将来の進路選択につながる具体的な考えを深めることができる。 3. 日本就職・大学院進学・母国就職など複数の進路を視野に入れ、それぞれに必要な準備や計画的なスケジュールを理解できる。 4. 日本の雇用環境と母国との相違点、業界・企業研究の基礎的知識を身につけ、進路検討に活用できる。 5. 国際社会で求められる日本語力・英語力や行動特性（コンピテンシー）を理解し、自身の大学生活に生かすことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）を課し、適宜授業にてフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	改訂版　留学生のための就職内定ワークブック（通年使用）	ISBN	978-4820729907
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	30
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	30
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	40
その他の内容	期末課題

この科目の受講にあたって	本授業では、卒業後の進路を見据えつつ、将来のキャリアデザインに主体的かつ前向きに取り組む姿勢・価値観を育むことを期待するともに、JLPT の取得を含めて日本語能力を積極的に磨く努力も求めます。本科目は、社会人として必要な基礎的素養を身につける場であり、社会で求められる基本的なルールやマナーを尊重しながら、積極的な参加を心がけてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	オリエンテーション ・授業の全体像や評価方法を説明し、到達目標を理解する。 ・学期中の学習テーマを示し、受講生同士の簡単な自己紹介を行う。	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2 時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2 時間)	4 時間
第２回	対面	自分と日本との接点を考える ・自身の留学動機や日本との関わりについて振り返る ・多様な背景を持つ受講生同士とのグループワークを通じて、自らの立ち位置を再認識する。	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2 時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2 時間)	4 時間
第３回	対面	日本の大学生活に必要な日本語力、国際学部での学び ・国際学部のコース制及び専門学修について ・就職・進学に必要とされる日本語レベル（JLPT 目安）について理解する	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2 時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2 時間)	4 時間
第４回	対面	自己分析（内的キャリアと外的キャリア） ・自分が将来何を大切にしたいか（内的キャリア：価値観や興味）と、社会が求める要素（外的キャリア：職種、条件）について考えを深める。 ・自己分析シートを用い、自身の強み・弱みを整理する。	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2 時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2 時間)	4 時間
第５回	対面	複数の進路について考える ・日本での就職、大学院進学、母国での就職といった多様な選択肢についてそれぞれ必要となる準備やスケジュールの概要を理解する。 ・各進路の利点・課題を整理し、検討の材料とする。	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2 時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2 時間)	4 時間
第６回	対面	これまでのふりかえり・ディスカッション ・第 1～5 回で扱った内容を整理し、各自のキャリア観や日本語学習計画を再確認する。 ・小グループで振り返りの意見交換を行い、学び合いを促す。	【復習】これまでの授業の内容を復習し、中間課題の準備をする。(4 時間)	6 時間
第７回	対面	中間課題（レポート）の作成	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2 時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2 時間)	4 時間
第８回	対面	日本で就職するということ①(日本の雇用環境、知っておきたい在留資格について) ・日本の労働市場や就業形態の基本を理解する。 ・留学生が日本で就職する際に必要な在留資格や取得条件等について理解する。	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2 時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2 時間)	4 時間
第９回	対面	日本で就職するということ② ・日本における外国人材の採用動向について知る。 ・日系企業特有の採用文化（新卒一括採用、OB/OG 訪問、礼儀・マナー）について理解する。	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2 時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2 時間)	4 時間
第１０回	対面	希望進路の実現のためにすべきこと①	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノート	4 時間

		・企業が求める留学生像について理解し、自身の大学生活や今後の目標設定に活かす。 ・大学院進学希望者については出願スケジュールや必要書類について理解する。	を見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2 時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2 時間)	
第１１回	対面	希望進路の実現のためにすべきこと② ・就職活動、進学準備の全体スケジュールを理解する。 ・卒業後の進路や自身の目標達成に向けた、学修計画・行動計画について考える。	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2 時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2 時間)	4 時間
第１２回	対面	希望進路の実現のためにすべきこと③ ・進学及び就職に必要とされる日本語能力（JLPT、ビジネス日本語能力）や職種別に求められる専門知識（IT スキル、簿記、語学）等について理解する。	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2 時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2 時間)	4 時間
第１３回	対面	まとめ・総括 ・これまでの授業内容を総合して、自分が将来の進路実現に向けてどのような行動・学修を行うべきか整理する。 ・アクションプラン（短期・中期・長期）を作成し、具体的な目標設定を行う。	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2 時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2 時間)	4 時間
第１４回	オンデマンド	春学期授業のふりかえり（これまでの学び・気づきをふりかえる）	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(4 時間)	4 時間
第１５回	対面	期末課題（レポート）の作成	総復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(4 時間)	4 時間

科目名	国際キャリア開発 A	開講年度	2025
担当者	福田　真也	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	将来を見据えた学生生活の設計		
授業の目的及び概要	国際キャリア開発Ａは、国際キャリア開発Ｂとともに、卒業後の生涯にわたる「生き方・学び方・働き方（＝キャリア）」を考えながら、社会人に求められる就業力を培う科目である。就業力とは、学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的・職業的自立を図るために必要な能力である。さらに、国際学部生の卒業後の進路を見据え、グローバル人材に求められる能力と態度について理解することを目標とする。 この授業では、日本の経済・社会情勢の変化やグローバル化の進展を踏まえ、卒業後の進路選択で重要となる社会観と職業観を養成するため、「社会理解、産業・企業理解、職業理解」をテーマとして、課題に取り組むことで就業力を培う。そして、これらの理解を通じて、将来のキャリア形成に向けた自己の目標を設定し、学生時代に取り組むべき諸課題を認識する。さらに、グローバル化における自らのキャリアデザインをイメージするため、①異文化理解と多文化共生を踏まえたワークスタイルの理解、②海外勤務の特性の理解、③日本国内におけるグローバルキャリアの理解、等の課題にも取り組む。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	国際キャリア開発Ａの学修到達目標は以下のとおりである。 ①キャリアの意味と領域を知り、働くことの意義と、職業が個人に及ぼす影響について理解する。 ②様々な職業を知り、自己の興味・適正と照らし合わせることで、関心を高める。 ③キャリアプランニングに着手し、自己のキャリア形成のため、大学生活の過ごし方を計画することができる。 ④自分自身の長所や短所について、根拠や具体的な経験に基づき論理的に表現できる。 ⑤学部の進路として想定される業界やその特色について、理解し説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）は採点し、翌週の授業にて総評を行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	学就 BOOK 改訂第 5 版，日経 HR 編集部，日経 HR，2023 年	ISBN	978-4-89112-167-9
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	30
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	30
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	40
その他の内容	期末課題

この科目の受講にあたって	授業を通じて、卒業後の進路に関する視野を広げ、キャリアデザインについて積極的に取り組む姿勢・価値観を培うことを期待する。 キャリア形成科目は、大学を出て社会で生きていくために必要な素養を身につける授業である。 社会では当たり前のルールとマナーを守り、積極的な授業参加が必要となる。 特に、授業中の私語は他の受講生の迷惑になるので、私語がやめられない場合は退室してもらう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	【自己理解】ガイダンス キャリアとは何か、本科目で何を学ぶかについてガイダンスを行う。	【復習】授業内で使用した配布資料などを読み直し、改めてこれまでの学生生活を振り返る。	4 時間
第２回	オンデマンド	【オンデマンド】【自己理解】大学生活を考えよう① 先輩学生のインタビュー動画を通して、学生生活の過ごし方のポイントを理解する。学生時代に「やって良かったこと・やれば良かったこと」を知り、今後の大学生活を考える。	【予習】学就 BOOK「4 章・5 章・6 章」を事前に読んでおく。 【復習】学就 BOOK「4 章・5 章・6 章」・パワーポイント資料を読み直し、大学生活の取り組みについて復習する。	4 時間
第３回	対面	【自己理解】大学生活を考えよう② サークル・部活、インターンシップ、留学の魅力を知り、今後の大学生活を考える。特に、インターンシップや資格の魅力について知り、今後の学修計画を立てる。	【予習】学就 BOOK「8 章」を事前に読んでおく。 【復習】学就 BOOK「8 章」・パワーポイント資料を読み直し、大学生活の取り組みについて復習する。	4 時間
第４回	対面	【自己理解】大学生活を考えよう③ キャリア理論（スーパーの理論）に基づいた客観的自己分析を行うことで、これまでの人生の棚卸を行い、今後の学修計画を考える。	【予習】学就 BOOK「8・9 章」を事前に読んでおく。 【復習】学就 BOOK「8・9 章」・パワーポイント資料を読み直し、大学生活の取り組みについて復習する。	4 時間
第５回	対面	【自己理解】大学生活を考えよう④ 論理的に考える力・書く力等のポイントを理解する。就活で役立つ『伝わる日本語表現』について学び、表現する力を養う。	【予習】学就 BOOK「スタディスキル」を事前に読んでおく。 【復習】学就 BOOK「スタディスキル」を読み直し、文章作成のポイントについて復習する。	4 時間
第６回	対面	【自己理解】大学生活を考えよう⑤ 論理的に考える力・書く力等のポイントを理解する。就活で役立つ『伝わる日本語表現』について学び、表現する力を養う。自己理解に基づいた自己 PR を作成する。	【予習】学就 BOOK「スタディスキル」を事前に読んでおく。 【復習】学就 BOOK「スタディスキル」を読み直し、文章作成のポイントについて復習する。	4 時間
第７回	対面	中間試験	【復習】これまでの学修についての中間試験を実施するので、第 6 回までの内容を復習する。	6 時間
第８回	対面	【職業理解】金融リテラシーの重要性について ファイナンシャルプランニングについて学び、お金・時間の使い方について理解を深める。	【予習】学就 BOOK「２章」を事前に読んでおく。 【復習】配布された資料を読み直し、ファイナンシャルプランニングについて復習する。	4 時間
第９回	対面	【職業理解】就職活動について知る① 就活生を取り巻く社会を知り、新規学卒労働市場と就職活動の流れについて理解する。	【予習】学就 BOOK「11 章」を事前に読んでおく。 【復習】学就 BOOK「11 章」、パワーポイント資料を読み直し、新規学卒労働市場と就職活動の流れについて復習する。	4 時間
第１０回	対面	【職業理解】就職活動について知る② 正規雇用・非正規雇用の違いを理解し、社会人基礎力についての理解を深める。	【予習】正規雇用・非正規雇用の違いについて自身で調べ、理解を深める。 【復習】配布された資料を読み直し、正規雇用・非正規雇用について復習する。	4 時間
第１１回	対面	【職業理解】就職活動について知る③ 就業力で求められる SPI 試験について理解し、具体的対策に向けて計画する。	【予習】SPI 試験に関する資料を読んでおく。 【復習】SPI 試験の自身の結果を踏まえて、自身がどのように対策を行うかを計画する。	4 時間

第１２回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】学部での学びとキャリア形成① 学部での学びを通じて、自身の未来や社会の未来を考える。（学部コンテンツ×キャリア）	【予習】学部での学習内容を見直し、学びについて振り返る。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、学部の学び・進路特性を踏まえた仕事について復習する。	4 時間
第１３回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】学部での学びとキャリア形成② 学部での学びを通じて、自身の未来や社会の未来を考える。（学部コンテンツ×キャリア）	【予習】学部での学習内容を見直し、学びについて振り返る。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、学部の学び・進路特性を踏まえた仕事について復習する。	4 時間
第１４回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】特別講演① ゲスト講師による特別講演を聞き、「企業が求める人材像」について知る。	【予習】講義内にて指示を受けた業界について事前に調べる。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、働く上で大切なこと・留意すべきポイントについて復習する。	4 時間
第１５回	対面	まとめ・期末課題	【予習】学期内の学修についての期末課題を授業内で実施するので、第 14 回までの内容を復習する。	4 時間

科目名	国際キャリア開発 B	開講年度	2025
担当者	池上　寛	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	卒業後のキャリア（生き方・学び方・働き方）を多面的に考察し、大学生活に活かす。		
授業の目的及び概要	本科目は、外国人留学生を対象に、卒業後の「生き方・学び方・働き方（＝キャリア）」を多面的に考察し、将来のキャリア形成に必要な視点について学びます。グローバル化が加速する現代社会において、留学生が自らのバックグラウンドや国際的な強みを活かしながら、日本および母国・海外で活躍するために、何を学び、どのように準備すべきかを明確化し、理解を深めることを目指します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 自己分析を通じて自分の強みと弱みを明確にし、それらを日本語で表現できる。 2. これまでの日本との関わりや留学の動機を踏まえ、将来の進路選択につながる具体的な考えを深めることができる。 3. 日本就職・大学院進学・母国就職など複数の進路を視野に入れ、それぞれに必要な準備や計画的なスケジュールを理解できる。 4. 日本の雇用環境と母国との相違点、業界・企業研究の基礎的知識を身につけ、進路検討に活用できる。 5. 国際社会で求められる日本語力・英語力や行動特性（コンピテンシー）を理解し、自身の大学生活に生かすことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）を課し、適宜授業にてフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、JETRO・アジア経済研究所で 25 年以上に渡って調査研究職に従事しており、その間、在台北海外研究員、研究グループ長代理などを歴任している。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	改訂版　留学生のための就職内定ワークブック（通年使用）	ISBN	978-4820729907
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	30
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	30
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	40
その他の内容	期末課題

この科目の受講にあたって	本授業では、卒業後の進路を見据えつつ、将来のキャリアデザインに主体的かつ前向きに取り組む姿勢・価値観を育むことを期待するともに、JLPT の取得を含めて日本語能力を積極的に磨く努力も求めます。本科目は、社会人として必要な基礎的素養を身につける場であり、社会で求められる基本的なルールやマナーを尊重しながら、積極的な参加を心がけてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	春学期のふりかえりと秋学期の目標設定 春学期に作成したアクションプランや達成状況を確認し、再度振り返る。秋学期の学習目標・行動計画を明確にする。	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2 時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2 時間)	4 時間
第２回	対面	国際学部での専門学修･大学院進学準備について 国際学部で扱う専門分野や関連研究領域を資料・事例を用いて紹介する。大学院進学を念頭に置いた研究計画立案や受験準備プロセスを示し、情報収集方法を確認する。	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2 時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2 時間)	4 時間
第３回	対面	ソーシャルスキル･大学生活におけるマナー・望ましい態度とは 学内外で求められるマナー（授業内外でのコミュニケーション、時間厳守、服装等）を具体例とともに提示する。春学期をふりかえって、自身の課題を整理し秋学期に活かす。	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2 時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2 時間)	4 時間
第４回	対面	業界を知る① 業界研究の目的や基本的な考え方を理解する。社会の動きや日頃のニュース等に興味関心を持って情報収集を行う。	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2 時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2 時間)	4 時間
第５回	対面	業界を知る② 日本の中小企業が持つ特徴や強みについて理解し、多角的な視点で業界・企業研究を進める。	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2 時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2 時間)	4 時間
第６回	オンデマンド	職場におけるダイバーシティについて（オンデマンド） オンデマンド教材を視聴し、職場での異文化理解や多様性尊重の重要性について理解を深める。	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2 時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2 時間)	4 時間
第７回	対面	業界を知る③ ・日本企業特有の雇用形態について整理を行う。 ・業界別の留学生採用動向について理解する。	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2 時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2 時間)	6 時間
第８回	対面	外部スピーカーによる特別講義 各業界の第一線で活躍する社会人をゲストに招き、実際の仕事内容や外国人材に期待される資質について学ぶ。	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(4 時間)	4 時間
第９回	対面	中間課題（レポート）の作成	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2 時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2 時間)	4 時間
第１０回	対面	業界を知る④ サプライチェーンや関連業界との結びつき、業界間連動など、複数業界が相互に影響し合う実例を挙げる。簡易なマッピング作業を行い、業界間のつながりを視覚的に整理する。	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2 時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2 時間)	4 時間
第１１回	対面	業界を知る⑤ 事前に設定したグループ課題（特定業界と関連業界のつながりを調べる）を発表する。フィードバックを行い、情報収集や分	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2 時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2 時間)	4 時間

		析の観点を補足する。		
第１２回	対面	企業の探し方、インターンシップへの参加方法 企業情報データベースや求人サイト、キャリアセンターの活用法を示し、効果的な企業探しの方法を整理する。インターンシップ募集情報や応募手順、面接対策などを具体的に紹介し、実践的な準備につなげる。	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2 時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2 時間)	4 時間
第１３回	対面	先輩とのパネルディスカッション～日本就職を実現した先輩との座談会～ 日本で就職を果たした先輩留学生を招き、経験談や成功要因、苦労話などを聞く。学生が自由に質問し、具体的な情報や実用的なアドバイスを得られる場を設ける。	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2 時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2 時間)	4 時間
第１４回	対面	秋学期総括・まとめ 秋学期で扱ったテーマや学修内容を整理し、要点を確認する。春学期・秋学期を通じた変化や成長を振り返り、今後の自身の目標を設定する。	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2 時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2 時間)	4 時間
第１５回	対面	期末課題（レポート）の作成	総復習：これまでの学修内容の復習を行う(4 時間)	4 時間

科目名	国際キャリア開発 B	開講年度	2025
担当者	尹　恵彦	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	卒業後のキャリア（生き方・学び方・働き方）を多面的に考察し、大学生活に活かす。		
授業の目的及び概要	本科目は、外国人留学生を対象に、卒業後の「生き方・学び方・働き方（＝キャリア）」を多面的に考察し、将来のキャリア形成に必要な視点について学びます。グローバル化が加速する現代社会において、留学生が自らのバックグラウンドや国際的な強みを活かしながら、日本および母国・海外で活躍するために、何を学び、どのように準備すべきかを明確化し、理解を深めることを目指します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 自己分析を通じて自分の強みと弱みを明確にし、それらを日本語で表現できる。 2. これまでの日本との関わりや留学の動機を踏まえ、将来の進路選択につながる具体的な考えを深めることができる。 3. 日本就職・大学院進学・母国就職など複数の進路を視野に入れ、それぞれに必要な準備や計画的なスケジュールを理解できる。 4. 日本の雇用環境と母国との相違点、業界・企業研究の基礎的知識を身につけ、進路検討に活用できる。 5. 国際社会で求められる日本語力・英語力や行動特性（コンピテンシー）を理解し、自身の大学生活に生かすことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）を課し、適宜授業にてフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	改訂版　留学生のための就職内定ワークブック（通年使用）	ISBN	978-4820729907
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	30
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	30
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	40
その他の内容	期末課題

この科目の受講にあたって	本授業では、卒業後の進路を見据えつつ、将来のキャリアデザインに主体的かつ前向きに取り組む姿勢・価値観を育むことを期待するともに、JLPT の取得を含めて日本語能力を積極的に磨く努力も求めます。本科目は、社会人として必要な基礎的素養を身につける場であり、社会で求められる基本的なルールやマナーを尊重しながら、積極的な参加を心がけてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	春学期のふりかえりと秋学期の目標設定 春学期に作成したアクションプランや達成状況を確認し、再度振り返る。秋学期の学習目標・行動計画を明確にする。	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2 時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2 時間)	4 時間
第２回	対面	国際学部での専門学修･大学院進学準備について 国際学部で扱う専門分野や関連研究領域を資料・事例を用いて紹介する。大学院進学を念頭に置いた研究計画立案や受験準備プロセスを示し、情報収集方法を確認する。	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2 時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2 時間)	4 時間
第３回	対面	ソーシャルスキル･大学生活におけるマナー・望ましい態度とは 学内外で求められるマナー（授業内外でのコミュニケーション、時間厳守、服装等）を具体例とともに提示する。春学期をふりかえって、自身の課題を整理し秋学期に活かす。	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2 時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2 時間)	4 時間
第４回	対面	業界を知る① 業界研究の目的や基本的な考え方を理解する。社会の動きや日頃のニュース等に興味関心を持って情報収集を行う。	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2 時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2 時間)	4 時間
第５回	対面	業界を知る② 日本の中小企業が持つ特徴や強みについて理解し、多角的な視点で業界・企業研究を進める。	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2 時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2 時間)	4 時間
第６回	オンデマンド	職場におけるダイバーシティについて（オンデマンド） オンデマンド教材を視聴し、職場での異文化理解や多様性尊重の重要性について理解を深める。	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2 時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2 時間)	4 時間
第７回	対面	業界を知る③ ・日本企業特有の雇用形態について整理を行う。 ・業界別の留学生採用動向について理解する。	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2 時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2 時間)	6 時間
第８回	対面	外部スピーカーによる特別講義 各業界の第一線で活躍する社会人をゲストに招き、実際の仕事内容や外国人材に期待される資質について学ぶ。	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(4 時間)	4 時間
第９回	対面	中間課題（レポート）の作成	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2 時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2 時間)	4 時間
第１０回	対面	業界を知る④ サプライチェーンや関連業界との結びつき、業界間連動など、複数業界が相互に影響し合う実例を挙げる。簡易なマッピング作業を行い、業界間のつながりを視覚的に整理する。	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2 時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2 時間)	4 時間
第１１回	対面	業界を知る⑤ 事前に設定したグループ課題（特定業界と関連業界のつながりを調べる）を発表する。フィードバックを行い、情報収集や分	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2 時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2 時間)	4 時間

		析の観点を補足する。		
第１２回	対面	企業の探し方、インターンシップへの参加方法 企業情報データベースや求人サイト、キャリアセンターの活用法を示し、効果的な企業探しの方法を整理する。インターンシップ募集情報や応募手順、面接対策などを具体的に紹介し、実践的な準備につなげる。	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2 時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2 時間)	4 時間
第１３回	対面	先輩とのパネルディスカッション～日本就職を実現した先輩との座談会～ 日本で就職を果たした先輩留学生を招き、経験談や成功要因、苦労話などを聞く。学生が自由に質問し、具体的な情報や実用的なアドバイスを得られる場を設ける。	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2 時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2 時間)	4 時間
第１４回	対面	秋学期総括・まとめ 秋学期で扱ったテーマや学修内容を整理し、要点を確認する。春学期・秋学期を通じた変化や成長を振り返り、今後の自身の目標を設定する。	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2 時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2 時間)	4 時間
第１５回	対面	期末課題（レポート）の作成	総復習：これまでの学修内容の復習を行う(4 時間)	4 時間

科目名	国際キャリア開発 B	開講年度	2025
担当者	福田　真也	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	将来を見据えた学生生活の設計		
授業の目的及び概要	国際キャリア開発 B は、国際キャリア開発 A に続き、卒業後の生涯にわたる「生き方・学び方・働き方（＝キャリア）」を考えながら、社会人に求められる就業力を培う科目である。就業力とは、学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的・職業的自立を図るために必要な能力となる。さらに、国際学部生の卒業後の進路を見据え、グローバル人材に求められる能力と態度について理解することを目標とする。 この授業では、日本の経済・社会情勢の変化やグローバル化の進展を踏まえ、卒業後の進路選択で重要となる社会観と職業観を養成するため、「様々な働き方を知る」「業界について考える」などをテーマとして、課題に取り組むことで就業力を培う。そして、将来のキャリアデザインをイメージしつつ、社会人として求められる能力とは何かを考えその養成を図る。そのため、最新のキャリア事情を踏まえて、様々なワーク課題に取り組みつつ、コミュニケーション能力をはじめとする汎用的基礎力を養成する。 さらに、グローバル化における自らのキャリアデザインをイメージするため、①異文化理解と多文化共生を踏まえたワークスタイルの理解、②海外勤務の特性の理解、③日本国内におけるグローバルキャリアの理解、等の課題にも取り組む。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	国際キャリア開発 B の具体的な到達目標は以下のとおりである。 ①自分自身の長所や短所について、根拠や具体的な経験に基づき論理的に表現できる。 ②社会課題や業界・企業について関心を持って情報収集ができる。 ③自身の将来や社会で働くことについて関心を持って行動計画を立てることができる。 ④学部の進路として想定される業界の特色、求められる人材について、理解し説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）は採点し、翌週の授業にて総評を行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	学就 BOOK 改訂第 5 版，日経 HR 編集部，日経 HR，2023 年	ISBN	978-4-89112-167-9
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	30
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	30
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	40
その他の内容	期末課題

この科目の受講にあたって	授業を通じて、卒業後の進路に関する視野を広げ、グローバルな観点とともに、キャリアデザインについて積極的に取り組む姿勢・価値観を培うことを期待する。 キャリア形成科目は、大学を出て社会で生きていくために必要な素養を身につける授業である。 社会では当たり前のルールとマナーを守り、積極的な授業参加が必要となる。 特に、授業中の私語は他の受講生の迷惑になるので、私語がやめられない場合は退室してもらう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	【自己理解】ガイダンス 社会人基礎力診断＋企業動向を知る	【予習】学就 BOOK「10 章」を事前に読んでおく。 【復習】学就 BOOK「10 章」、パワーポイント資料を読み直し、社会人基礎力について復習する。	4 時間
第２回	対面	【職業理解】社会人基礎力について考える① ビンゴゲームとディスカッションを通して、社会人基礎力について理解する。	【予習】社会人基礎力について調べ、ワークシートに記入する。 【復習】配布資料等を読み直し、社会人基礎力について再度確認する。	4 時間
第３回	対面	【職業理解】社会人基礎力について考える②（観察とディスカッション） 仕事の現場で奮闘する社会人の動画視聴を通して、仕事に向き合う姿勢や価値観について観察する。感想や意見などをグループでディスカッションすることで、社会人に求められる諸要素について考える。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】動画およびワークシートを振り返り、社会人基礎力を身につけるためには何が必要かを確認する。	4 時間
第４回	対面	【職業理解】就職活動について知る① キャリア理論（ホランドの理論）に基づき、自身の価値観（興味・関心）を知り、職業との理解を深める。	【予習】学就 BOOK「10 章」を事前に読んでおく。 【復習】配布資料等を読み直し、講義で得た知識を確認する。	4 時間
第５回	対面	【職業理解】就職活動について知る② 仕事観と働き方の変遷、多様な価値観に触れ、自身が大切にしたい生き方・働き方について考える。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】配布資料等を読み直し、講義で得た知識を確認する。	4 時間
第６回	オンデマンド	【オンデマンド】【職業理解】特別講演① 働き方改革やダイバーシティ＆インクルージョンの基本的知識を習得する。	【予習】働き方改革やダイバーシティ＆インクルージョンについて事前に調べる。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、働き方について復習する。	4 時間
第７回	対面	中間試験	【復習】これまでの学修についての中間試験を実施するので、第 6 回までの内容を復習する。	6 時間
第８回	対面	【職業理解】「職種」「業種」について理解する 職種・業種の体系、内容について理解し、各自の興味・関心・強みと重ねながら、今後の進路について考える。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】配布資料を読み直し、 「職種・業界」について再度確認する。	4 時間
第９回	対面	【職業理解】「業界」について考える①（ｻﾌﾟﾗｲﾁｪｰﾝと産業）グループワーク「チョコレートが消費者に届くまで」 グループワークを通じて、業界間のつながりを理解する。	【予習】様々な業界の種類について事前に調べる。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、業界の働き方について復習する。	4 時間
第１０回	対面	【職業理解】「業界」について考える②（ｻﾌﾟﾗｲﾁｪｰﾝと産業）　グループ発表 前回の取り組みのグループ発表及び講評・まとめ（サプライチェーンの観点を解説など）	【予習】前回の授業で使用したワークシートを提出（発表）できるよう事前準備をする。 【復習】グループ発表の振り返りと身の回りにある商品・サービスの業界間のつながりを検討し、理解を深める。	4 時間
第１１回	対面	【職業理解】特別講演② ゲスト講師による特別講演を聞き、「将来の進路と今後の大学生活」について考える。	【予習】講義で扱われる業界について事前に調べる。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、働き方について復習する。	4 時間

第１２回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】学部での学びとキャリア形成① 学部での学びを通じて、進路を見据えた 2 年生からの学修計画について考える。（学部コース選択）	【予習】学部での学習内容を見直し、学びについて振り返る。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、学部の学び・進路特性を踏まえた仕事について復習し、今後の学部コース選択について考える。	4 時間
第１３回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】学部での学びとキャリア形成② 先輩学生（企業内定者・公務員合格者）による特別講演を聞き、「めざす進路に向けた今後の大学生活」について考える。	【予習】学就 BOOK「7 章・8 章・9 章」を事前に読んでおく。 【復習】講演資料・学就 BOOK「7 章・8 章・9 章」を読み直し、成長する学生生活について復習する。	4 時間
第１４回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】学部での学びとキャリア形成③ 1 年間を振り返り、今後に向けた具体的学修計画を立てる。	【予習】学部での学習内容を見直し、学部での学びについて振り返る。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、学部の学び・進路特性を踏まえた仕事について復習する。	4 時間
第１５回	対面	まとめ・期末課題	【予習】学期内の学修についての期末課題を授業内で実施するので、第 14 回までの内容を復習する。	4 時間

科目名	国際キャリアデザイン A	開講年度	2025
担当者	尹　恵彦	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	・自己理解及び業界・職種への理解を深め、卒業後のキャリアを設計する。 ・就職活動本番に向けた実践的な対策を行うことで、就業力（文章・口頭表現）を養う。		
授業の目的及び概要	この授業では、これに続く国際キャリアデザインＢとともに、自分の将来の生き方・働き方を自分の興味や強みなどを見極めながら考え描き、その未来像を実現するために必要な技能と態度・姿勢について身につけることを目的とする。授業の目的を達成するために、講義をベースとしながらもペアワークやグループワークを適宜採り入れながら、授業を進める。 授業の概要としては、まず、「働くことの意義」について自分なりの価値観を見出し、それを具体的な進路に結びつけて考える。次に、 社会課題や業界・企業について関心を持って情報収集を行い、それに対する自身の考えを表現する。そして、「自己」について理解するとともに将来の目標を実現するために必要なことをまとめ、学部の進路として想定される業界についても、業界間のつながりや特色について理解したうえで他者へ説明する。		
履修条件・留意点	ー		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①「働くことの意義」について考え、希望する進路に結びつけて考えることができる。 ②社会課題や業界・企業について関心を持って情報収集を行い、それに対する自身の考えを表現することができる。 ③日本の雇用形態を理解することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）を課し、適宜授業にてフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	改訂版 留学生のための就職内定ワークブック	ISBN	978-4820729907
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	30
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	30
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	40
その他の内容	期末課題

この科目の受講にあたって	
	この授業での学修は将来の進路選択において重要な指標となるため、授業内で積極的に発言し、課題に取り組むことを期待する。

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第１回	対面	【職業理解】ガイダンス キャリアデザインに必要な素養･技能を修得することの意義を確認し、授業の概要を説明する。	【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	2 時間
第２回	対面	業界を知る①　業界・企業研究とは やりたい仕事とその業界・企業を知る。	【予習】Ch5-1、配布資料を事前に読んでおく。業界研究、企業研究の意義を理解する。 【復習】Ch5-1、授業内で使用した配布資料等を読み直し、自分のやりたい仕事の業界を調べる。	4 時間
第３回	対面	業界を知る②　業界研究の視点 業種・顧客・成長と安定性の 3 つの視点を理解する	【予習】Ch5-2、配布資料を事前に読んでおく。 【復習】Ch5-2、授業内で使用した配布資料等を読み直し、 習得した 3 つの視点をもとに興味ある業界の研究を行う。	4 時間
第４回	対面	業界を知る③　企業研究の視点① ・規模・資本関係・業態という 3 つの視点を理解する。 ・留学生の就職実績 ・グローバル・ニッチ企業、ジャパンブランドの存在	【予習】Ch5-3、配布資料を事前に読んでおく。配布資料を事前に読んでおく。留学生を採用している業界、企業を調べる。 【復習】Ch5-3、授業内で使用した配布資料等を読み直し、 身近にあるグローバル・ニッチ企業を調べる。	4 時間
第５回	対面	業界を知る④　企業研究の視点② 自分の興味のある企業を調査し、分析しよう。	【予習】Ch5-3、配布資料を事前に読んでおく。 【復習】Ch5-3、授業内で使用した配布資料等を読み直し、 興味ある企業を選んで分析する。	4 時間
第６回	対面	中間課題	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	6 時間
第７回	対面	業界を知る⑤　職種研究とは ・職種とは ・組織の中の職種について調べてみよう。	【予習】Ch5-4、配布資料を事前に読んでおく。 【復習】Ch5-4、授業内で使用した配布資料等を読み直し、 習得した知識を確認する。	4 時間
第８回	対面	業界を知る⑥　日本企業の雇用形態 ・日本企業の雇用形態と採用形態 ・正社員、契約社員、派遣社員の違い ・総合職、技術職、一般職の違い ・留学生の配属について ・在留資格変更時に審査される専攻と職種について	【予習】Ch5-5、配布資料を事前に読み、日本企業の雇用形態、採用形態を理解する。自国の雇用・採用システムと比較する。 【復習】Ch5-5、授業内で使用した配布資料等を読み直し、 留学生が活躍する職種について詳しく調べる。	4 時間
第９回	対面	業界を知る⑦　日本企業の雇用形態 自分の興味のある企業の雇用形態を調べてみよう。	【予習】Ch5-5、配布資料を事前に読んでおく。 【復習】Ch5-5、授業内で使用した配布資料等を読み直し、 雇用形態について自国と比較する。	4 時間
第１０回	対面	業界を知る⑧　業界研究の手順 業界研究のステップ　「1 から 5 の理解」	【予習】Ch5-6、配布資料を事前に読んでおく。 【復習】Ch5-6、授業内で使用した配布資料等を読み直し、 習得した知識を確認する。	4 時間
第１１回	対面	業界を知る⑨　自分の気になる業界を調べる 業界調べワークシート作成	【予習】Ch5-7、配布資料を事前に読んでおく。 【復習】Ch5-7、授業内で使用した配布資料等を読み直し、 ワークシートを完成する。	4 時間
第１２回	対面	業界を知る⑦　業界のつながり、周辺の業界をしらべる ワークシートに沿って、気になる業界のつながりを理解する。	【予習】Ch5-8、配布資料を事前に読んでおく。 【復習】Ch5-8、授業内で使用した配布資料等を読み直し、 習得した知識を確認する。	4 時間
第１３回	対面	業界を知る⑧　まとめ ワークシートでまとめたものを発表する。	【予習】Ch5-9、配布資料を事前に読み、ワークシートを完成させる。 【復習】Ch5-9、授業内で使用した配布資料等を読み直し、 習得した知識を確認する。	4 時間
第１４回	オンデマンド	1-13 回目までの総復習とふり返り（業界を知ることとやりたい仕事について）	【予習】これまでの資料を読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１５回	対面	まとめ・期末課題 これまで学修してきた内容について総括	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】春学期の授業を振り返り、秋学期に向け行動	4 時間

		し、夏休みに取り組むことを確認する。	計画を立てる。	

科目名	国際キャリアデザイン A	開講年度	2025
担当者	笠田　真由美	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	・自己理解及び業界・職種への理解を深め、卒業後のキャリアを設計する。 ・就職活動本番に向けた実践的な対策を行うことで、就業力（文章・口頭表現）を養う。		
授業の目的及び概要	この授業では、これに続く国際キャリアデザインＢとともに、自分の将来の生き方・働き方を自分の興味や強みなどを見極めながら考え描き、その未来像を実現するために必要な技能と態度・姿勢について身につけることを目的とする。授業の目的を達成するために、講義をベースとしながらもペアワークやグループワークを適宜採り入れながら、授業を進める。 授業の概要としては、まず、「働くことの意義」について自分なりの価値観を見出し、それを具体的な進路に結びつけて考える。次に、 社会課題や業界・企業について関心を持って情報収集を行い、それに対する自身の考えを表現する。そして、「自己」について理解するとともに将来の目標を実現するために必要なことをまとめ、学部の進路として想定される業界についても、業界間のつながりや特色について理解したうえで他者へ説明する。さらに、SPI 対策の徹底（１回１５分、年間２０回実施）により、採用選考への参加を確保出来る基礎力を固める。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①「働くことの意義」について自分なりの価値観を見出し、それを具体的な進路に結びつけて考えることができる。 ②社会課題や業界・企業について関心を持って情報収集を行い、それに対する自身の考えを表現することができる。 ③「自己」について理解するとともに、将来の目標を実現するために必要なことをまとめ、他者に説明することができる。 ④学部の進路として想定される業界について、業界間のつながりや特色について、理解し説明することができる。 ⑤SPI 対策の徹底（１回１５分、年間２０回実施）により、採用選考への参加を確保出来る基礎力を固める。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）については、翌週の授業で質問への回答や補足説明をする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、ＣＤＡ（キャリア・デベロップメント・アドバイザー）の資格を有し、民間企業での業務経験に加え、大学・企業での研修を多数実施してきた。本科目では、これらの実務経験を活かして、自己理解・社会理解・職業理解に関する具体的な指導を行う。		
テキスト	市販テキストは使用せず、動画の視聴やプリントを配付し、授業を進める。	ISBN	－
参考書	業界地図（マイナビ発刊）（WEB 版）	ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	30
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	30
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	40

	その他の内容	期末課題
この科目の受講にあたって	この授業での学修は将来の進路選択において重要な指標となるため、授業内で積極的に発言し、課題に取り組むことを期待する。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	【職業理解】ガイダンス キャリアデザインに必要な素養･技能を修得することの意義を確認し、授業の概要を紹介する。	【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	2 時間
第２回	対面	【自己理解】「自己」を理解し表現する①（自分の興味・関心・強みの認識） キャリア理論（ジョハリの窓、リフレーミング）に基づき、自己の経験を棚卸し、自己を分析する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第３回	対面	【自己理解】「自己」を理解し表現する②（キャリアアンカー） キャリアアンカーチェックシートを用い、自己の価値観について分析する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第４回	対面	【自己理解】「自己」を理解し表現する③（自己分析にどう向き合うか） 各種ツールを使って、自己の経験を棚卸し、自己を分析する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第５回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】「自己」を理解し表現する④（自分の興味・関心・強みの認識） 学部で学んだことを棚卸し、自己を分析し、他者に魅力的な人物として伝わるように説明する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第６回	対面	【自己理解】『「自己」を理解し表現する』まとめ ※中間課題	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	6 時間
第７回	対面	【自己理解】「働くことの意義」を考える①（ダイバーシティ） 「働き方改革」や「ダイバーシティ」をテーマに、講義とグループワークを通じて考え、議論し発表する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第８回	対面	【職業理解】「働くことの意義」を考える②（SDGs） 学部の主な進路先とこれからの企業選びのモノサシを理解し、各自の興味・関心、強みと重ねてみる。（SDGs）	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第９回	対面	【職業理解】「働くことの意義」を考える③（観察とディスカッション） 職場で奮闘する社会人の動画を視聴し、働くことの意義・価値観について考える。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１０回	対面	【職業理解】「働くことの意義」を考える④（特別講演） ゲストスピーカー／企業人による講話	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１１回	オンデマンド	■オンデマンド■ 【職業理解】業界･企業研究入門①（業界･職種理解） 外部講師（マイナビ）による業界解説講義を受講し、各業界の特徴･動向を理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間

第１２回	対面	【職業理解】業界研究入門②（グループワーク１） 興味関心のある業種毎にグループに分かれ、グループで特定の業界内企業の比較研究に取り組む。 特に当該企業の長所を的確に把握する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１３回	対面	【職業理解】業界研究入門③（グループワーク２） 前回につづき、グループワークを通して、特定の業界内企業の比較研究に取り組み、中間発表をする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１４回	対面	【職業理解】業界研究入門④（グループワーク３） 前回につづき、完成した業界内企業の比較研究成果を発表する。 特に当該企業の長所を的確に説明する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１５回	対面	まとめ・期末課題 これまで学修してきた内容について総括し、夏休みに取り組むことを確認する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】春学期の授業を振り返り、秋学期に向け行動計画を立てる。	4 時間

科目名	国際キャリアデザイン A	開講年度	2025
担当者	笠田　真由美	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	・自己理解及び業界・職種への理解を深め、卒業後のキャリアを設計する。 ・就職活動本番に向けた実践的な対策を行うことで、就業力（文章・口頭表現）を養う。		
授業の目的及び概要	この授業では、これに続く国際キャリアデザインＢとともに、自分の将来の生き方・働き方を自分の興味や強みなどを見極めながら考え描き、その未来像を実現するために必要な技能と態度・姿勢について身につけることを目的とする。授業の目的を達成するために、講義をベースとしながらもペアワークやグループワークを適宜採り入れながら、授業を進める。 授業の概要としては、まず、「働くことの意義」について自分なりの価値観を見出し、それを具体的な進路に結びつけて考える。次に、 社会課題や業界・企業について関心を持って情報収集を行い、それに対する自身の考えを表現する。そして、「自己」について理解するとともに将来の目標を実現するために必要なことをまとめ、学部の進路として想定される業界についても、業界間のつながりや特色について理解したうえで他者へ説明する。さらに、SPI 対策の徹底（１回１５分、年間２０回実施）により、採用選考への参加を確保出来る基礎力を固める。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①「働くことの意義」について自分なりの価値観を見出し、それを具体的な進路に結びつけて考えることができる。 ②社会課題や業界・企業について関心を持って情報収集を行い、それに対する自身の考えを表現することができる。 ③「自己」について理解するとともに、将来の目標を実現するために必要なことをまとめ、他者に説明することができる。 ④学部の進路として想定される業界について、業界間のつながりや特色について、理解し説明することができる。 ⑤SPI 対策の徹底（１回１５分、年間２０回実施）により、採用選考への参加を確保出来る基礎力を固める。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）については、翌週の授業で質問への回答や補足説明をする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、ＣＤＡ（キャリア・デベロップメント・アドバイザー）の資格を有し、民間企業での業務経験に加え、大学・企業での研修を多数実施してきた。本科目では、これらの実務経験を活かして、自己理解・社会理解・職業理解に関する具体的な指導を行う。		
テキスト	市販テキストは使用せず、動画の視聴やプリントを配付し、授業を進める。	ISBN	－
参考書	業界地図（マイナビ発刊）（WEB 版）	ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	30
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	30
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	40

	その他の内容	期末課題
この科目の受講にあたって	この授業での学修は将来の進路選択において重要な指標となるため、授業内で積極的に発言し、課題に取り組むことを期待する。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	【職業理解】ガイダンス キャリアデザインに必要な素養･技能を修得することの意義を確認し、授業の概要を紹介する。	【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	2 時間
第２回	対面	【自己理解】「自己」を理解し表現する①（自分の興味・関心・強みの認識） キャリア理論（ジョハリの窓、リフレーミング）に基づき、自己の経験を棚卸し、自己を分析する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第３回	対面	【自己理解】「自己」を理解し表現する②（キャリアアンカー） キャリアアンカーチェックシートを用い、自己の価値観について分析する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第４回	対面	【自己理解】「自己」を理解し表現する③（自己分析にどう向き合うか） 各種ツールを使って、自己の経験を棚卸し、自己を分析する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第５回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】「自己」を理解し表現する④（自分の興味・関心・強みの認識） 学部で学んだことを棚卸し、自己を分析し、他者に魅力的な人物として伝わるように説明する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第６回	対面	【自己理解】『「自己」を理解し表現する』まとめ ※中間課題	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	6 時間
第７回	対面	【自己理解】「働くことの意義」を考える①（ダイバーシティ） 「働き方改革」や「ダイバーシティ」をテーマに、講義とグループワークを通じて考え、議論し発表する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第８回	対面	【職業理解】「働くことの意義」を考える②（SDGs） 学部の主な進路先とこれからの企業選びのモノサシを理解し、各自の興味・関心、強みと重ねてみる。（SDGs）	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第９回	対面	【職業理解】「働くことの意義」を考える③（観察とディスカッション） 職場で奮闘する社会人の動画を視聴し、働くことの意義・価値観について考える。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１０回	対面	【職業理解】「働くことの意義」を考える④（特別講演） ゲストスピーカー／企業人による講話	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１１回	オンデマンド	■オンデマンド■ 【職業理解】業界･企業研究入門①（業界･職種理解） 外部講師（マイナビ）による業界解説講義を受講し、各業界の特徴･動向を理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間

第１２回	対面	【職業理解】業界研究入門②（グループワーク１） 興味関心のある業種毎にグループに分かれ、グループで特定の業界内企業の比較研究に取り組む。 特に当該企業の長所を的確に把握する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１３回	対面	【職業理解】業界研究入門③（グループワーク２） 前回につづき、グループワークを通して、特定の業界内企業の比較研究に取り組み、中間発表をする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１４回	対面	【職業理解】業界研究入門④（グループワーク３） 前回につづき、完成した業界内企業の比較研究成果を発表する。 特に当該企業の長所を的確に説明する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１５回	対面	まとめ・期末課題 これまで学修してきた内容について総括し、夏休みに取り組むことを確認する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】春学期の授業を振り返り、秋学期に向け行動計画を立てる。	4 時間

科目名	国際キャリアデザイン B	開講年度	2025
担当者	尹　恵彦	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	・自己理解及び業界・職種への理解を深め、卒業後のキャリアを設計する。 ・就職活動本番に向けた実践的な対策を行うことで、就業力（文章・口頭表現）を養う。		
授業の目的及び概要	この授業では、春学期の国際キャリアデザイン A に続き、自分の将来の生き方・働き方を自分の興味や強みなどを見極めながら考え描き、その未来像を実現するために必要な技能と態度・姿勢について身につけることを目的とする。授業の目的を達成するために、講義をベースとしながらもペアワークやグループワークを適宜採り入れながら、授業を進める。 授業の概要としては、春学期に実施した「自己分析・自己理解」を踏まえ、自身の長所・短所を客観的かつ印象的に他者に「自己表現」ができるようにする。また、同じく春学期に実施した「業界研究入門」を深化させ、社会課題や学部進路として想定された業界、業界間のつながり等の多角的な視点から、業界・企業の特長を捉えたうえで自身の希望進路を見出す。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①　就職活動に向けてどのように情報を収集するのか、企業担当者との接し方やマナーを理解することができる。 ②　就職活動に向けて目標を持って、業界研究に取り組むことができる。 ③　インターンシップに参加することの意義目的を理解し企業研究に取り組むことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）を課し、適宜授業にてフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	改訂版 留学生のための就職内定ワークブック	ISBN	978-4820729907
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	30
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	30
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	40
その他の内容	期末課題

この科目の受講にあたって	
	この授業での学修は将来の進路選択において重要な指標となるため、授業内で積極的に発言し、課題に取り組むことを期待する。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第１回	対面	【自己理解】ガイダンス 夏休みの振り返りを行い、授業概要についてガイダンスを実施する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	2 時間
第２回	対面	企業と出会う① 企業研究の方法とそのタイミング	【予習】Ch6-1、配布資料を事前に読んでおく。 【復習】Ch6-1、授業内で使用した配布資料等を読み直し、 習得した知識を確認する。	4 時間
第３回	対面	企業と出会う②　インターンシップとは ・インターンシップとは　そのメリット ・インターンシップと早期選考 ・留学生に特化したインターンシップ（外国人雇用センターの情報をみる）	【予習】Ch6-2、配布資料を事前に読んでおく。 【復習】Ch6-2、授業内で使用した配布資料等を読み直し、 習得した知識を確認する。	4 時間
第４回	対面	企業と出会う③　先輩の情報を活用する　アポイントとる ビジネス日本語　メール、電話などの相手に約束をとる日本語と断り方 メールの書き方やルール、マナーを知る	【予習】Ch6-3、配布資料を事前に読んでおく。 【復習】Ch6-3、授業内で使用した配布資料等を読み直し、 習得した知識を確認する。	4 時間
第５回	対面	企業と出会う④　プレエントリー 就活　プレエントリーとその方法　注意すること いくつエントリーすべきか、どうやって検索するか（企業と業界を調べる）	【予習】Ch6-4、配布資料を事前に読んでおく。 【復習】Ch6-4、授業内で使用した配布資料等を読み直し、 エントリーしたい企業を１０社考える。	4 時間
第６回	対面	【職業理解】特別講演 企業人による講話（学部進路に応じた業界の人事担当者による講演）	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第７回	対面	中間課題	【予習】これまでの授業内で使用した配布資料等を読み直し、 習得した知識を確認する。	6 時間
第８回	対面	企業と出会う⑤　会社説明会・セミナー ・会社説明会・セミナーとは ・会社説明会・セミナーの種類と内容 ・登録の注意点	【予習】Ch7-1、配布資料を事前に読んでおく。 【復習】Ch7-1、授業内で使用した配布資料等を読み直し、 留学生用セミナー開催情報をネット等で調べる。	4 時間
第９回	対面	企業を知る・選ぶ① ・企業を選ぶ 6 つの視点 ・企業 HP から得られる情報と確認する情報 6 つの視点で気になる企業を調査する　ワークシート作成	【予習】Ch7-2、Ch7-3、配布資料を事前に読んでおく。 【復習】Ch7-2、Ch7-3、授業内で使用した配布資料等を読み直し、 興味ある企業 HP から得られる 6 つの視点で情報を調べる。	4 時間
第１０回	対面	企業を知る・選ぶ② ・9 つの企業類型 ・経営視点の企業類型について ・職場視点の企業類型について ・企業類型をもとに調べて、分析してみよう	【予習】Ch7-4、配布資料を事前に読んでおく。 【復習】Ch7-4、授業内で使用した配布資料等を読み直し、 習得した知識を確認する。	4 時間
第１１回	対面	企業を知る・選ぶ③ 企業を分析するフレームワーク　3C 分析	【予習】Ch7-5、配布資料を事前に読んでおく。専門科目で学んだ 3C 分析を復習する。 【復習】Ch7-5、授業内で使用した配布資料等を読み直し、 興味ある企業を数社選択しフレームワーク（3C 分析）をおこなう。	4 時間
第１２回	対面	企業を知る・選ぶ④ ・業界・企業研究まとめ	【予習】Ch7-6、配布資料を事前に読んでおく。 【復習】Ch7-6、授業内で使用した配布資料等を読み直し、 習得した知識を確認する。	4 時間
第１３回	対面	企業を知る・選ぶ⑤ ・仕事選びの基準 ・志望企業とその理由”	【予習】Ch7-7・8・9、配布資料を事前に読んでおく。 【復習】Ch7-7・8・9、授業内で使用した配布資料等を読み直し、 習得した知識を確認する。	4 時間
第１４回	オンデマンド	復習 1-13 回目までの総復習	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】これまで授業内で使用した配布資料等を読み直し、 仕事選びの基準を明確にし、志望企業を 20 社挙げる。	4 時間

第１５回	対面	まとめ・期末課題 これまで学修してきた内容について振り返りを行い、総括する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】１年間の授業を振り返り、３年次の就職活動に備える。	4 時間

科目名	国際キャリアデザイン B	開講年度	2025
担当者	笠田　真由美	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	・自己理解及び業界・職種への理解を深め、卒業後のキャリアを設計する。 ・就職活動本番に向けた実践的な対策を行うことで、就業力（文章・口頭表現）を養う。		
授業の目的及び概要	この授業では、春学期の国際キャリアデザイン A に続き、自分の将来の生き方・働き方を自分の興味や強みなどを見極めながら考え描き、その未来像を実現するために必要な技能と態度・姿勢について身につけることを目的とする。授業の目的を達成するために、講義をベースとしながらもペアワークやグループワークを適宜採り入れながら、授業を進める。 授業の概要としては、春学期に実施した「自己分析・自己理解」を踏まえ、自身の長所・短所を客観的かつ印象的に他者に「自己表現」ができるようにする。また、同じく春学期に実施した「業界研究入門」を深化させ、社会課題や学部進路として想定された業界、業界間のつながり等の多角的な視点から、業界・企業の特長を捉えたうえで自身の希望進路を見出す。さらに、SPI 対策の徹底（１回１５分、年間２０回実施）により、採用選考への参加を確保出来る基礎力を固める。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①自分自身の長所や短所について客観性も踏まえて、他者に印象に残るように表現できる。 ②自身の将来や進路選択に主体性を持てており、希望進路を実現するための計画について具体的に考えることができる。 ③将来の進路選択に前向きであり、困難があっても適切なサポートを受けながら前に進む事ができる。 ④学部の進路として想定される業界について、業界間のつながりや特色について、理解し説明することができる。 ⑤社会課題や業界・企業について主体的に研究・探索を行うと共に、多角的な視点を持って思考することができる。 ⑥SPI 対策の徹底（１回１５分、年間２０回実施）により、採用選考への参加を確保出来る基礎力を固める。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）については、翌週の授業で質問への回答や補足説明をする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、ＣＤＡ（キャリア・デベロップメント・アドバイザー）の資格を有し、民間企業での業務経験に加え、大学・企業での研修を多数実施してきた。本科目では、これらの実務経験を活かして、自己理解・社会理解・職業理解に関する具体的な指導を行う。		
テキスト	テキストは使用せず､動画の視聴やプリントを配付し、授業を進める。	ISBN	－
参考書	業界地図（マイナビ発刊）(WEB 版)	ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	30
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0

	その他（%）	40
	その他の内容	期末課題
この科目の受講にあたって	この授業での学修は将来の進路選択において重要な指標となるため、授業内で積極的に発言し、課題に取り組むことを期待する。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	【自己理解】ガイダンス 夏休みの振り返りを行い、授業概要についてガイダンスを実施する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	2 時間
第２回	対面	【就業力】実践トレーニング①ES対策（１）ガクチカ 自分の経験を整理し、「学生時代に力を入れたこと」を、読み手・聞き手に印象に残るよう、文章および口頭で表現する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第３回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】実践トレーニング①ES 対策（２）自己 PR 自分の経験を整理し、「自己 PR」を、読み手・聞き手に印象に残るよう、文章および口頭で表現する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第４回	オンデマンド	■オンデマンド■ 【就業力】実践トレーニング①ES対策（３）文章表現力養成講座「読み手に伝わる文章を書こう」（特別講演） 報道記者や人事局などマスコミ業界で幅広い活躍経験をもつゲストスピーカーが、読み手に伝わる文章を書くためのポイントを具体的に解説する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第５回	対面	【就業力】実践トレーニング ES①ES 対策　まとめ ※中間課題	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	6 時間
第６回	対面	【職業理解】企業研究入門①業界・企業動向調査 興味のある業界に関して、新聞記事（インターネット含む）から最新の業界トピックスを調査し、企業情報も交えて発表する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第７回	対面	【職業理解】企業研究入門①企業の探し方、求人票の見方 ナビサイトを活用し、インターンシップ参加に向けて、企業の探し方を学び、企業・インターンシップ情報収集のポイントを理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第８回	対面	【職業理解】企業研究入門①２・３年生のインターンシップでターゲットにする業界・企業の選定 ２・３年生のインターンシップの応募先としてターゲットにする業界を複数、企業を●社（各クラスで指定された社数）選定する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第９回	対面	【就業力】実践トレーニング②グループディスカッション対策（１）アサーション 相手を尊重しつつ、自分自身の意見、気持ちを適切に伝える方法を学び、その大切さ	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間

		を認識する。ペアやグループでワークを行い、アサーションの有用性を体感する。		
第１０回	対面	【職業理解】実践トレーニング②グループディスカッション対策（２）業界・職種を知る 学部特性を踏まえ、企業が求める人材像を知り、グループディスカッション等を通じて、同業他社比較の重要性や職種を知り、情報収集の重要性を理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１１回	対面	【職業理解】実践トレーニング②グループディスカッション対策（３）業界・職種を知る 学部特性を踏まえ、企業が求める人材像を知り、グループディスカッション等を通じて、同業他社比較の重要性や職種を知り、情報収集の重要性を理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１２回	対面	【就業力】実践トレーニング③面接対策（１）簡潔な自己表現 自己分析、企業研究をもとに企業が求める人材像に沿って、簡潔に自己表現する力を養う。グループワークでの相互評価を通じて自身の課題に気づく。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１３回	対面	【就業力】実践トレーニング③面接対策（２）集団面接実践 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気に慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１４回	対面	【就業力】実践トレーニング③面接対策（３）集団面接実践 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気に慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１５回	対面	まとめ・期末課題 これまで学修してきた内容について振り返りを行い、総括する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】１年間の授業を振り返り、３年次の就職活動に備える。	4 時間

科目名	国際キャリアデザイン B	開講年度	2025
担当者	笠田　真由美	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	・自己理解及び業界・職種への理解を深め、卒業後のキャリアを設計する。 ・就職活動本番に向けた実践的な対策を行うことで、就業力（文章・口頭表現）を養う。		
授業の目的及び概要	この授業では、春学期の国際キャリアデザイン A に続き、自分の将来の生き方・働き方を自分の興味や強みなどを見極めながら考え描き、その未来像を実現するために必要な技能と態度・姿勢について身につけることを目的とする。授業の目的を達成するために、講義をベースとしながらもペアワークやグループワークを適宜採り入れながら、授業を進める。 授業の概要としては、春学期に実施した「自己分析・自己理解」を踏まえ、自身の長所・短所を客観的かつ印象的に他者に「自己表現」ができるようにする。また、同じく春学期に実施した「業界研究入門」を深化させ、社会課題や学部進路として想定された業界、業界間のつながり等の多角的な視点から、業界・企業の特長を捉えたうえで自身の希望進路を見出す。さらに、SPI 対策の徹底（１回１５分、年間２０回実施）により、採用選考への参加を確保出来る基礎力を固める。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①自分自身の長所や短所について客観性も踏まえて、他者に印象に残るように表現できる。 ②自身の将来や進路選択に主体性を持てており、希望進路を実現するための計画について具体的に考えることができる。 ③将来の進路選択に前向きであり、困難があっても適切なサポートを受けながら前に進む事ができる。 ④学部の進路として想定される業界について、業界間のつながりや特色について、理解し説明することができる。 ⑤社会課題や業界・企業について主体的に研究・探索を行うと共に、多角的な視点を持って思考することができる。 ⑥SPI 対策の徹底（１回１５分、年間２０回実施）により、採用選考への参加を確保出来る基礎力を固める。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）については、翌週の授業で質問への回答や補足説明をする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、ＣＤＡ（キャリア・デベロップメント・アドバイザー）の資格を有し、民間企業での業務経験に加え、大学・企業での研修を多数実施してきた。本科目では、これらの実務経験を活かして、自己理解・社会理解・職業理解に関する具体的な指導を行う。		
テキスト	テキストは使用せず､動画の視聴やプリントを配付し、授業を進める。	ISBN	－
参考書	業界地図（マイナビ発刊）(WEB 版)	ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	30
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	30
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0

	その他（%）	40
	その他の内容	期末課題
この科目の受講にあたって	この授業での学修は将来の進路選択において重要な指標となるため、授業内で積極的に発言し、課題に取り組むことを期待する。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	【自己理解】ガイダンス 夏休みの振り返りを行い、授業概要についてガイダンスを実施する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	2 時間
第２回	対面	【就業力】実践トレーニング①ES対策（１）ガクチカ 自分の経験を整理し、「学生時代に力を入れたこと」を、読み手・聞き手に印象に残るよう、文章および口頭で表現する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第３回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】実践トレーニング①ES 対策（２）自己 PR 自分の経験を整理し、「自己 PR」を、読み手・聞き手に印象に残るよう、文章および口頭で表現する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第４回	オンデマンド	■オンデマンド■ 【就業力】実践トレーニング①ES対策（３）文章表現力養成講座「読み手に伝わる文章を書こう」（特別講演） 報道記者や人事局などマスコミ業界で幅広い活躍経験をもつゲストスピーカーが、読み手に伝わる文章を書くためのポイントを具体的に解説する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第５回	対面	【就業力】実践トレーニング ES①ES 対策　まとめ ※中間課題	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	6 時間
第６回	対面	【職業理解】企業研究入門①業界・企業動向調査 興味のある業界に関して、新聞記事（インターネット含む）から最新の業界トピックスを調査し、企業情報も交えて発表する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第７回	対面	【職業理解】企業研究入門①企業の探し方、求人票の見方 ナビサイトを活用し、インターンシップ参加に向けて、企業の探し方を学び、企業・インターンシップ情報収集のポイントを理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第８回	対面	【職業理解】企業研究入門①２・３年生のインターンシップでターゲットにする業界・企業の選定 ２・３年生のインターンシップの応募先としてターゲットにする業界を複数、企業を●社（各クラスで指定された社数）選定する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第９回	対面	【就業力】実践トレーニング②グループディスカッション対策（１）アサーション 相手を尊重しつつ、自分自身の意見、気持ちを適切に伝える方法を学び、その大切さ	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間

		を認識する。ペアやグループでワークを行い、アサーションの有用性を体感する。		
第１０回	対面	【職業理解】実践トレーニング②グループディスカッション対策（２）業界・職種を知る 学部特性を踏まえ、企業が求める人材像を知り、グループディスカッション等を通じて、同業他社比較の重要性や職種を知り、情報収集の重要性を理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１１回	対面	【職業理解】実践トレーニング②グループディスカッション対策（３）業界・職種を知る 学部特性を踏まえ、企業が求める人材像を知り、グループディスカッション等を通じて、同業他社比較の重要性や職種を知り、情報収集の重要性を理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１２回	対面	【就業力】実践トレーニング③面接対策（１）簡潔な自己表現 自己分析、企業研究をもとに企業が求める人材像に沿って、簡潔に自己表現する力を養う。グループワークでの相互評価を通じて自身の課題に気づく。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１３回	対面	【就業力】実践トレーニング③面接対策（２）集団面接実践 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気に慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１４回	対面	【就業力】実践トレーニング③面接対策（３）集団面接実践 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気に慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１５回	対面	まとめ・期末課題 これまで学修してきた内容について振り返りを行い、総括する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】１年間の授業を振り返り、３年次の就職活動に備える。	4 時間

科目名	国際キャリア演習 A	開講年度	2025
担当者	中川　正秋	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	希望進路の実現に向けて、就業力の向上をはかる。		
授業の目的及び概要	国際キャリア演習 A では、卒業後の進路を主体的かつ能動的に決定するために必要な就業力を養成することを目的とし、演習の特性を活かしてグループワークを中心に授業を進める。この科目では、主に「自己分析」、「業界・企業研究」、「志望動機作成」に取り組む。希望進路の実現には個人に合わせた事前準備が重要となるため、演習形式の授業を通じて就活準備を始めておくことで、自己理解や企業理解が進み、納得のいく就職活動を進めることができる。 自己を客観的に捉え、論理的に表現する力を身に付けながら、企業研究や業界研究などを通じて産業への知識を深めることで、自らの強みと職業とをリンクさせる志望動機の素地を形成し、職業人となるための基礎力を養成する。 授業においては、双方向型実践型形式、課題解決型授業（PBL）を行う。例えば、グループディスカッション、志望動機形成力、集団面接など実践を通して学ぶ。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①自分自身の長所や短所について、根拠や具体的な経験に基づいて説明ができる。 ②社会課題や業界・企業について主体的に研究・探索を行うと共に、多角的な視点を持って思考することができる。 ③自身の希望進路を実現するための計画について、自律的且つ具体的に考え、行動することができる。 ④困難に直面した際も自身で乗り越えるマインドや戦略を持っており、ある程度自分で考え、対処ができる。又、必要な際は助言を求めることができる。 ⑤学部の進路として想定される業界の特色、求められる人材について、理解し説明することができる。 ⑥インターンシップに向けて具体的に業界・企業を絞り、戦略を立てて、活動することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）は、翌週の授業で返却し、質問への回答や補足説明をする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、長年にわたり、各国の航空会社にて、営業課長や営業部長、執行役員等の役職を歴任し、エアライン・ビジネスに広く携わってきた。本科目では、これらの実務経験を活かして、自己分析や業界・企業研究に関する実践的な教育を行う。		
テキスト	市販テキストは使用せず、動画の視聴やプリントを配付し、授業を進める。	ISBN	―
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	15
授業期間中の小テスト、レポート課題等	15
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	30
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	40

	その他の内容	期末課題
この科目の受講にあたって	本科目の学修にあたっては、課題への積極的取り組みと課題提出が不可欠である。これらの課題にしっかりと取り組んでいれば、就職活動や公務員採用試験に必要な汎用的基礎力が着実に身に付いてくる。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	【就業力】ガイダンス 雇用情勢、採用活動スケジュール、授業の流れ等についてガイダンスを行い、自らの経験の棚卸に取り組む。	【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	2 時間
第２回	対面	【職業理解】企業研究入門　業界理解 企業の採用説明会動画を視聴し、業界理解を深める。グループワークを通して、業界・企業研究の方法や情報収集の重要性について理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第３回	対面	【職業理解】企業研究入門 企業の探し方、求人票の見方 ナビサイトを活用し、インターンシップ参加に向けて、企業の探し方と求人票の見方を学ぶ。関心を持った企業へ実際にエントリーを行い、企業研究を行う。情報収集のポイントや調べ方を、実践を通して理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第４回	対面	【職業理解】インターンシップでターゲットにする業界・企業の選定 ターゲットにする業界を複数、企業や官公庁自治体を選定することについて、クラス内で発表する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第５回	対面	【就業力】対象企業へのアプローチ／ディスカッション インターンシップを公募している企業ばかりではないため、志望企業が公募していない場合に、就活も睨んでどのような企業にどのようにアプローチすべきかを考える。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第６回	対面	【自己理解】エントリーシートの作成に向けて① 就職活動で求められるエントリーシートの作成に向けて、自身の経験の棚卸し、言語化を行う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第７回	対面	【自己理解】志望動機を考える① 志望動機の評価ポイントを知り、採用者側の意図を理解する。応募企業を１社選び、志望動機の作成を進める。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第８回	対面	【就業力】文章表現力養成講座「読み手に伝わる文章を書こう」（特別講演） 報道記者や人事局などマスコミ業界で幅広い活躍経験をもつゲストスピーカーが、読み手に伝わる文章を書くためのポイントを具体的に解説する。 ※中間課題提出	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	6 時間
第９回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】実践トレーニング　グループディスカッション 学部特性に合わせ、採用選考で実施される	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間

		グループディスカッションのテーマを想定し、実践練習に取り組む。		
第１０回	オンデマンド	■オンデマンド■【就業力】適性検査対策 採用試験で実施される適性検査について理解する。（経法 SPI の受験）	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１１回	対面	【自己理解】エントリーシートの作成に向けて② 就職活動で求められるエントリーシートについて、読み手・聞き手に印象に残るよう推敲する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１２回	対面	【自己理解】志望動機を考える② 応募企業の選定と志望動機作成を進め、グループワークを通じて、作成した志望動機の足りない点や課題に気づき、改善を行う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１３回	対面	【就業力】実践トレーニング　集団面接① 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接（WEB 含む）特有の雰囲気に慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１４回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】実践トレーニング　集団面接② 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接（WEB 含む）特有の雰囲気に慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１５回	対面	まとめ 春学期全体を振り返り、自身の課題への対応や今後の就職活動、公務員試験準備に向けて、これからやるべきことについて整理する。 ※期末課題提出	【予習】春学期の学修に関する期末課題（エントリーシートの作成）を実施するので、第 14 回までの内容を復習する。 【復習】春学期の授業を振り返り、秋学期に向け行動計画を立てる。	4 時間

科目名	国際キャリア演習 A	開講年度	2025
担当者	南　美弥	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	希望進路の実現に向けて、就業力の向上をはかる。		
授業の目的及び概要	国際キャリア演習 A では、卒業後の進路を主体的かつ能動的に決定するために必要な就業力を養成することを目的とし、演習の特性を活かしてグループワークを中心に授業を進める。この科目では、主に「自己分析」、「業界・企業研究」、「志望動機作成」に取り組む。希望進路の実現には個人に合わせた事前準備が重要となるため、演習形式の授業を通じて就活準備を始めておくことで、自己理解や企業理解が進み、納得のいく就職活動を進めることができる。 自己を客観的に捉え、論理的に表現する力を身に付けながら、企業研究や業界研究などを通じて産業への知識を深めることで、自らの強みと職業とをリンクさせる志望動機の素地を形成し、職業人となるための基礎力を養成する。 授業においては、双方向型実践型形式、課題解決型授業（PBL）を行う。例えば、グループディスカッション、志望動機形成力、集団面接など実践を通して学ぶ。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①自分自身の長所や短所について、根拠や具体的な経験に基づいて説明ができる。 ②社会課題や業界・企業について主体的に研究・探索を行うと共に、多角的な視点を持って思考することができる。 ③自身の希望進路を実現するための計画について、自律的且つ具体的に考え、行動することができる。 ④困難に直面した際も自身で乗り越えるマインドや戦略を持っており、ある程度自分で考え、対処ができる。又、必要な際は助言を求めることができる。 ⑤学部の進路として想定される業界の特色、求められる人材について、理解し説明することができる。 ⑥インターンシップに向けて具体的に業界・企業を絞り、戦略を立てて、活動することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）は、翌週の授業で返却し、質問への回答や補足説明をする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、キャリアコンサルタントの資格を有し、民間企業での業務経験に加え、ビジネスマナー講師として活動してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	市販テキストは使用せず、動画の視聴やプリントを配付し、授業を進める。	ISBN	―
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	15
授業期間中の小テスト、レポート課題等	15
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	30
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	40

	その他の内容	期末課題
この科目の受講にあたって	本科目の学修にあたっては、課題への積極的取り組みと課題提出が不可欠である。これらの課題にしっかりと取り組んでいれば、就職活動や公務員採用試験に必要な汎用的基礎力が着実に身に付いてくる。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	【就業力】ガイダンス 雇用情勢、採用活動スケジュール、授業の流れ等についてガイダンスを行い、自らの経験の棚卸に取り組む。	【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	2 時間
第２回	対面	【職業理解】企業研究入門　業界理解 企業の採用説明会動画を視聴し、業界理解を深める。グループワークを通して、業界・企業研究の方法や情報収集の重要性について理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第３回	対面	【職業理解】企業研究入門 企業の探し方、求人票の見方 ナビサイトを活用し、インターンシップ参加に向けて、企業の探し方と求人票の見方を学ぶ。関心を持った企業へ実際にエントリーを行い、企業研究を行う。情報収集のポイントや調べ方を、実践を通して理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第４回	対面	【職業理解】インターンシップでターゲットにする業界・企業の選定 ターゲットにする業界を複数、企業や官公庁自治体を選定することについて、クラス内で発表する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第５回	対面	【就業力】対象企業へのアプローチ／ディスカッション インターンシップを公募している企業ばかりではないため、志望企業が公募していない場合に、就活も睨んでどのような企業にどのようにアプローチすべきかを考える。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第６回	対面	【自己理解】エントリーシートの作成に向けて① 就職活動で求められるエントリーシートの作成に向けて、自身の経験の棚卸し、言語化を行う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第７回	対面	【自己理解】志望動機を考える① 志望動機の評価ポイントを知り、採用者側の意図を理解する。応募企業を１社選び、志望動機の作成を進める。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第８回	対面	【就業力】文章表現力養成講座「読み手に伝わる文章を書こう」（特別講演） 報道記者や人事局などマスコミ業界で幅広い活躍経験をもつゲストスピーカーが、読み手に伝わる文章を書くためのポイントを具体的に解説する。 ※中間課題提出	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	6 時間
第９回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】実践トレーニング　グループディスカッション 学部特性に合わせ、採用選考で実施される	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間

		グループディスカッションのテーマを想定し、実践練習に取り組む。		
第１０回	オンデマンド	■オンデマンド■【就業力】適性検査対策 採用試験で実施される適性検査について理解する。（経法 SPI の受験）	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１１回	対面	【自己理解】エントリーシートの作成に向けて② 就職活動で求められるエントリーシートについて、読み手・聞き手に印象に残るよう推敲する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１２回	対面	【自己理解】志望動機を考える② 応募企業の選定と志望動機作成を進め、グループワークを通じて、作成した志望動機の足りない点や課題に気づき、改善を行う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１３回	対面	【就業力】実践トレーニング　集団面接① 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接（WEB 含む）特有の雰囲気に慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１４回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】実践トレーニング　集団面接② 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接（WEB 含む）特有の雰囲気に慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１５回	対面	まとめ 春学期全体を振り返り、自身の課題への対応や今後の就職活動、公務員試験準備に向けて、これからやるべきことについて整理する。 ※期末課題提出	【予習】春学期の学修に関する期末課題（エントリーシートの作成）を実施するので、第 14 回までの内容を復習する。 【復習】春学期の授業を振り返り、秋学期に向け行動計画を立てる。	4 時間

科目名	国際キャリア演習 A	開講年度	2025
担当者	石井　里奈	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	希望進路の実現に向けて、就業力の向上をはかる。		
授業の目的及び概要	国際キャリア演習 A では、卒業後の進路を主体的かつ能動的に決定するために必要な就業力を養成することを目的とし、演習の特性を活かしてグループワークを中心に授業を進める。この科目では、主に「自己分析」、「業界・企業研究」、「志望動機作成」に取り組む。希望進路の実現には個人に合わせた事前準備が重要となるため、演習形式の授業を通じて就活準備を始めておくことで、自己理解や企業理解が進み、納得のいく就職活動を進めることができる。 自己を客観的に捉え、論理的に表現する力を身に付けながら、企業研究や業界研究などを通じて産業への知識を深めることで、自らの強みと職業とをリンクさせる志望動機の素地を形成し、職業人となるための基礎力を養成する。 授業においては、双方向型実践型形式、課題解決型授業（PBL）を行う。例えば、グループディスカッション、志望動機形成力、集団面接など実践を通して学ぶ。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①自分自身の長所や短所について、根拠や具体的な経験に基づいて説明ができる。 ②社会課題や業界・企業について主体的に研究・探索を行うと共に、多角的な視点を持って思考することができる。 ③自身の希望進路を実現するための計画について、自律的且つ具体的に考え、行動することができる。 ④困難に直面した際も自身で乗り越えるマインドや戦略を持っており、ある程度自分で考え、対処ができる。又、必要な際は助言を求めることができる。 ⑤学部の進路として想定される業界の特色、求められる人材について、理解し説明することができる。 ⑥インターンシップに向けて具体的に業界・企業を絞り、戦略を立てて、活動することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）は、翌週の授業で返却し、質問への回答や補足説明をする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、キャリアコンサルタント有資格者であり、専門学校での学生就職指導や民間企業での人事採用等の業務に携わってきた。本科目では、これらの実務経験を活かして、自己分析や業界・企業研究に関する実践的な教育を行う。		
テキスト	市販テキストは使用せず、動画の視聴やプリントを配付し、授業を進める。	ISBN	―
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	15
授業期間中の小テスト、レポート課題等	15
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	30
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	40

	その他の内容	期末課題
この科目の受講にあたって	本科目の学修にあたっては、課題への積極的取り組みと課題提出が不可欠である。これらの課題にしっかりと取り組んでいれば、就職活動や公務員採用試験に必要な汎用的基礎力が着実に身に付いてくる。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	【就業力】ガイダンス 雇用情勢、採用活動スケジュール、授業の流れ等についてガイダンスを行い、自らの経験の棚卸に取り組む。	【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	2 時間
第２回	対面	【職業理解】企業研究入門　業界理解 企業の採用説明会動画を視聴し、業界理解を深める。グループワークを通して、業界・企業研究の方法や情報収集の重要性について理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第３回	対面	【職業理解】企業研究入門 企業の探し方、求人票の見方 ナビサイトを活用し、インターンシップ参加に向けて、企業の探し方と求人票の見方を学ぶ。関心を持った企業へ実際にエントリーを行い、企業研究を行う。情報収集のポイントや調べ方を、実践を通して理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第４回	対面	【職業理解】インターンシップでターゲットにする業界・企業の選定 ターゲットにする業界を複数、企業や官公庁自治体を選定することについて、クラス内で発表する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第５回	対面	【就業力】対象企業へのアプローチ／ディスカッション インターンシップを公募している企業ばかりではないため、志望企業が公募していない場合に、就活も睨んでどのような企業にどのようにアプローチすべきかを考える。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第６回	対面	【自己理解】エントリーシートの作成に向けて① 就職活動で求められるエントリーシートの作成に向けて、自身の経験の棚卸し、言語化を行う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第７回	対面	【自己理解】志望動機を考える① 志望動機の評価ポイントを知り、採用者側の意図を理解する。応募企業を１社選び、志望動機の作成を進める。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第８回	対面	【就業力】文章表現力養成講座「読み手に伝わる文章を書こう」（特別講演） 報道記者や人事局などマスコミ業界で幅広い活躍経験をもつゲストスピーカーが、読み手に伝わる文章を書くためのポイントを具体的に解説する。 ※中間課題提出	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	6 時間
第９回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】実践トレーニング　グループディスカッション 学部特性に合わせ、採用選考で実施される	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間

		グループディスカッションのテーマを想定し、実践練習に取り組む。		
第１０回	オンデマンド	■オンデマンド■【就業力】適性検査対策 採用試験で実施される適性検査について理解する。（経法 SPI の受験）	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１１回	対面	【自己理解】エントリーシートの作成に向けて② 就職活動で求められるエントリーシートについて、読み手・聞き手に印象に残るよう推敲する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１２回	対面	【自己理解】志望動機を考える② 応募企業の選定と志望動機作成を進め、グループワークを通じて、作成した志望動機の足りない点や課題に気づき、改善を行う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１３回	対面	【就業力】実践トレーニング　集団面接① 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接（WEB 含む）特有の雰囲気に慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１４回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】実践トレーニング　集団面接② 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接（WEB 含む）特有の雰囲気に慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１５回	対面	まとめ 春学期全体を振り返り、自身の課題への対応や今後の就職活動、公務員試験準備に向けて、これからやるべきことについて整理する。 ※期末課題提出	【予習】春学期の学修に関する期末課題（エントリーシートの作成）を実施するので、第 14 回までの内容を復習する。 【復習】春学期の授業を振り返り、秋学期に向け行動計画を立てる。	4 時間

科目名	国際キャリア演習 A	開講年度	2025
担当者	中川　正秋	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	希望進路の実現に向けて、就業力の向上をはかる。		
授業の目的及び概要	国際キャリア演習 A では、卒業後の進路を主体的かつ能動的に決定するために必要な就業力を養成することを目的とし、演習の特性を活かしてグループワークを中心に授業を進める。この科目では、主に「自己分析」、「業界・企業研究」、「志望動機作成」に取り組む。希望進路の実現には個人に合わせた事前準備が重要となるため、演習形式の授業を通じて就活準備を始めておくことで、自己理解や企業理解が進み、納得のいく就職活動を進めることができる。 自己を客観的に捉え、論理的に表現する力を身に付けながら、企業研究や業界研究などを通じて産業への知識を深めることで、自らの強みと職業とをリンクさせる志望動機の素地を形成し、職業人となるための基礎力を養成する。 授業においては、双方向型実践型形式、課題解決型授業（PBL）を行う。例えば、グループディスカッション、志望動機形成力、集団面接など実践を通して学ぶ。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①自分自身の長所や短所について、根拠や具体的な経験に基づいて説明ができる。 ②社会課題や業界・企業について主体的に研究・探索を行うと共に、多角的な視点を持って思考することができる。 ③自身の希望進路を実現するための計画について、自律的且つ具体的に考え、行動することができる。 ④困難に直面した際も自身で乗り越えるマインドや戦略を持っており、ある程度自分で考え、対処ができる。又、必要な際は助言を求めることができる。 ⑤学部の進路として想定される業界の特色、求められる人材について、理解し説明することができる。 ⑥インターンシップに向けて具体的に業界・企業を絞り、戦略を立てて、活動することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）は、翌週の授業で返却し、質問への回答や補足説明をする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、長年にわたり、各国の航空会社にて、営業課長や営業部長、執行役員等の役職を歴任し、エアライン・ビジネスに広く携わってきた。本科目では、これらの実務経験を活かして、自己分析や業界・企業研究に関する実践的な教育を行う。		
テキスト	市販テキストは使用せず、動画の視聴やプリントを配付し、授業を進める。	ISBN	―
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	15
授業期間中の小テスト、レポート課題等	15
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	30
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	40

	その他の内容	期末課題
この科目の受講にあたって	本科目の学修にあたっては、課題への積極的取り組みと課題提出が不可欠である。これらの課題にしっかりと取り組んでいれば、就職活動や公務員採用試験に必要な汎用的基礎力が着実に身に付いてくる。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	【就業力】ガイダンス 雇用情勢、採用活動スケジュール、授業の流れ等についてガイダンスを行い、自らの経験の棚卸に取り組む。	【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	2 時間
第２回	対面	【職業理解】企業研究入門　業界理解 企業の採用説明会動画を視聴し、業界理解を深める。グループワークを通して、業界・企業研究の方法や情報収集の重要性について理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第３回	対面	【職業理解】企業研究入門 企業の探し方、求人票の見方 ナビサイトを活用し、インターンシップ参加に向けて、企業の探し方と求人票の見方を学ぶ。関心を持った企業へ実際にエントリーを行い、企業研究を行う。情報収集のポイントや調べ方を、実践を通して理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第４回	対面	【職業理解】インターンシップでターゲットにする業界・企業の選定 ターゲットにする業界を複数、企業や官公庁自治体を選定することについて、クラス内で発表する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第５回	対面	【就業力】対象企業へのアプローチ／ディスカッション インターンシップを公募している企業ばかりではないため、志望企業が公募していない場合に、就活も睨んでどのような企業にどのようにアプローチすべきかを考える。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第６回	対面	【自己理解】エントリーシートの作成に向けて① 就職活動で求められるエントリーシートの作成に向けて、自身の経験の棚卸し、言語化を行う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第７回	対面	【自己理解】志望動機を考える① 志望動機の評価ポイントを知り、採用者側の意図を理解する。応募企業を１社選び、志望動機の作成を進める。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第８回	対面	【就業力】文章表現力養成講座「読み手に伝わる文章を書こう」（特別講演） 報道記者や人事局などマスコミ業界で幅広い活躍経験をもつゲストスピーカーが、読み手に伝わる文章を書くためのポイントを具体的に解説する。 ※中間課題提出	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	6 時間
第９回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】実践トレーニング　グループディスカッション 学部特性に合わせ、採用選考で実施される	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間

		グループディスカッションのテーマを想定し、実践練習に取り組む。		
第１０回	オンデマンド	■オンデマンド■【就業力】適性検査対策 採用試験で実施される適性検査について理解する。（経法 SPI の受験）	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１１回	対面	【自己理解】エントリーシートの作成に向けて② 就職活動で求められるエントリーシートについて、読み手・聞き手に印象に残るよう推敲する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１２回	対面	【自己理解】志望動機を考える② 応募企業の選定と志望動機作成を進め、グループワークを通じて、作成した志望動機の足りない点や課題に気づき、改善を行う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１３回	対面	【就業力】実践トレーニング　集団面接① 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接（WEB 含む）特有の雰囲気に慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１４回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】実践トレーニング　集団面接② 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接（WEB 含む）特有の雰囲気に慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１５回	対面	まとめ 春学期全体を振り返り、自身の課題への対応や今後の就職活動、公務員試験準備に向けて、これからやるべきことについて整理する。 ※期末課題提出	【予習】春学期の学修に関する期末課題（エントリーシートの作成）を実施するので、第 14 回までの内容を復習する。 【復習】春学期の授業を振り返り、秋学期に向け行動計画を立てる。	4 時間

科目名	国際キャリア演習 A	開講年度	2025
担当者	石井　里奈	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	希望進路の実現に向けて、就業力の向上をはかる。		
授業の目的及び概要	国際キャリア演習 A では、卒業後の進路を主体的かつ能動的に決定するために必要な就業力を養成することを目的とし、演習の特性を活かしてグループワークを中心に授業を進める。この科目では、主に「自己分析」、「業界・企業研究」、「志望動機作成」に取り組む。希望進路の実現には個人に合わせた事前準備が重要となるため、演習形式の授業を通じて就活準備を始めておくことで、自己理解や企業理解が進み、納得のいく就職活動を進めることができる。 自己を客観的に捉え、論理的に表現する力を身に付けながら、企業研究や業界研究などを通じて産業への知識を深めることで、自らの強みと職業とをリンクさせる志望動機の素地を形成し、職業人となるための基礎力を養成する。 授業においては、双方向型実践型形式、課題解決型授業（PBL）を行う。例えば、グループディスカッション、志望動機形成力、集団面接など実践を通して学ぶ。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①自分自身の長所や短所について、根拠や具体的な経験に基づいて説明ができる。 ②社会課題や業界・企業について主体的に研究・探索を行うと共に、多角的な視点を持って思考することができる。 ③自身の希望進路を実現するための計画について、自律的且つ具体的に考え、行動することができる。 ④困難に直面した際も自身で乗り越えるマインドや戦略を持っており、ある程度自分で考え、対処ができる。又、必要な際は助言を求めることができる。 ⑤学部の進路として想定される業界の特色、求められる人材について、理解し説明することができる。 ⑥インターンシップに向けて具体的に業界・企業を絞り、戦略を立てて、活動することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）は、翌週の授業で返却し、質問への回答や補足説明をする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、キャリアコンサルタント有資格者であり、専門学校での学生就職指導や民間企業での人事採用等の業務に携わってきた。本科目では、これらの実務経験を活かして、自己分析や業界・企業研究に関する実践的な教育を行う。		
テキスト	市販テキストは使用せず、動画の視聴やプリントを配付し、授業を進める。	ISBN	―
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	15
授業期間中の小テスト、レポート課題等	15
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	30
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	40

	その他の内容	期末課題
この科目の受講にあたって	本科目の学修にあたっては、課題への積極的取り組みと課題提出が不可欠である。これらの課題にしっかりと取り組んでいれば、就職活動や公務員採用試験に必要な汎用的基礎力が着実に身に付いてくる。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	【就業力】ガイダンス 雇用情勢、採用活動スケジュール、授業の流れ等についてガイダンスを行い、自らの経験の棚卸に取り組む。	【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	2 時間
第２回	対面	【職業理解】企業研究入門　業界理解 企業の採用説明会動画を視聴し、業界理解を深める。グループワークを通して、業界・企業研究の方法や情報収集の重要性について理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第３回	対面	【職業理解】企業研究入門 企業の探し方、求人票の見方 ナビサイトを活用し、インターンシップ参加に向けて、企業の探し方と求人票の見方を学ぶ。関心を持った企業へ実際にエントリーを行い、企業研究を行う。情報収集のポイントや調べ方を、実践を通して理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第４回	対面	【職業理解】インターンシップでターゲットにする業界・企業の選定 ターゲットにする業界を複数、企業や官公庁自治体を選定することについて、クラス内で発表する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第５回	対面	【就業力】対象企業へのアプローチ／ディスカッション インターンシップを公募している企業ばかりではないため、志望企業が公募していない場合に、就活も睨んでどのような企業にどのようにアプローチすべきかを考える。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第６回	対面	【自己理解】エントリーシートの作成に向けて① 就職活動で求められるエントリーシートの作成に向けて、自身の経験の棚卸し、言語化を行う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第７回	対面	【自己理解】志望動機を考える① 志望動機の評価ポイントを知り、採用者側の意図を理解する。応募企業を１社選び、志望動機の作成を進める。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第８回	対面	【就業力】文章表現力養成講座「読み手に伝わる文章を書こう」（特別講演） 報道記者や人事局などマスコミ業界で幅広い活躍経験をもつゲストスピーカーが、読み手に伝わる文章を書くためのポイントを具体的に解説する。 ※中間課題提出	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	6 時間
第９回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】実践トレーニング　グループディスカッション 学部特性に合わせ、採用選考で実施される	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間

		グループディスカッションのテーマを想定し、実践練習に取り組む。		
第１０回	オンデマンド	■オンデマンド■【就業力】適性検査対策 採用試験で実施される適性検査について理解する。（経法 SPI の受験）	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１１回	対面	【自己理解】エントリーシートの作成に向けて② 就職活動で求められるエントリーシートについて、読み手・聞き手に印象に残るよう推敲する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１２回	対面	【自己理解】志望動機を考える② 応募企業の選定と志望動機作成を進め、グループワークを通じて、作成した志望動機の足りない点や課題に気づき、改善を行う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１３回	対面	【就業力】実践トレーニング　集団面接① 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接（WEB 含む）特有の雰囲気に慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１４回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】実践トレーニング　集団面接② 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接（WEB 含む）特有の雰囲気に慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１５回	対面	まとめ 春学期全体を振り返り、自身の課題への対応や今後の就職活動、公務員試験準備に向けて、これからやるべきことについて整理する。 ※期末課題提出	【予習】春学期の学修に関する期末課題（エントリーシートの作成）を実施するので、第 14 回までの内容を復習する。 【復習】春学期の授業を振り返り、秋学期に向け行動計画を立てる。	4 時間

科目名	国際キャリア演習 A	開講年度	2025
担当者	南　美弥	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	希望進路の実現に向けて、就業力の向上をはかる。		
授業の目的及び概要	国際キャリア演習 A では、卒業後の進路を主体的かつ能動的に決定するために必要な就業力を養成することを目的とし、演習の特性を活かしてグループワークを中心に授業を進める。この科目では、主に「自己分析」、「業界・企業研究」、「志望動機作成」に取り組む。希望進路の実現には個人に合わせた事前準備が重要となるため、演習形式の授業を通じて就活準備を始めておくことで、自己理解や企業理解が進み、納得のいく就職活動を進めることができる。 自己を客観的に捉え、論理的に表現する力を身に付けながら、企業研究や業界研究などを通じて産業への知識を深めることで、自らの強みと職業とをリンクさせる志望動機の素地を形成し、職業人となるための基礎力を養成する。 授業においては、双方向型実践型形式、課題解決型授業（PBL）を行う。例えば、グループディスカッション、志望動機形成力、集団面接など実践を通して学ぶ。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①自分自身の長所や短所について、根拠や具体的な経験に基づいて説明ができる。 ②社会課題や業界・企業について主体的に研究・探索を行うと共に、多角的な視点を持って思考することができる。 ③自身の希望進路を実現するための計画について、自律的且つ具体的に考え、行動することができる。 ④困難に直面した際も自身で乗り越えるマインドや戦略を持っており、ある程度自分で考え、対処ができる。又、必要な際は助言を求めることができる。 ⑤学部の進路として想定される業界の特色、求められる人材について、理解し説明することができる。 ⑥インターンシップに向けて具体的に業界・企業を絞り、戦略を立てて、活動することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）は、翌週の授業で返却し、質問への回答や補足説明をする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、キャリアコンサルタントの資格を有し、民間企業での業務経験に加え、ビジネスマナー講師として活動してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	市販テキストは使用せず、動画の視聴やプリントを配付し、授業を進める。	ISBN	―
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	15
授業期間中の小テスト、レポート課題等	15
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	30
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	40

	その他の内容	期末課題
この科目の受講にあたって	本科目の学修にあたっては、課題への積極的取り組みと課題提出が不可欠である。これらの課題にしっかりと取り組んでいれば、就職活動や公務員採用試験に必要な汎用的基礎力が着実に身に付いてくる。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	【就業力】ガイダンス 雇用情勢、採用活動スケジュール、授業の流れ等についてガイダンスを行い、自らの経験の棚卸に取り組む。	【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	2 時間
第２回	対面	【職業理解】企業研究入門　業界理解 企業の採用説明会動画を視聴し、業界理解を深める。グループワークを通して、業界・企業研究の方法や情報収集の重要性について理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第３回	対面	【職業理解】企業研究入門 企業の探し方、求人票の見方 ナビサイトを活用し、インターンシップ参加に向けて、企業の探し方と求人票の見方を学ぶ。関心を持った企業へ実際にエントリーを行い、企業研究を行う。情報収集のポイントや調べ方を、実践を通して理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第４回	対面	【職業理解】インターンシップでターゲットにする業界・企業の選定 ターゲットにする業界を複数、企業や官公庁自治体を選定することについて、クラス内で発表する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第５回	対面	【就業力】対象企業へのアプローチ／ディスカッション インターンシップを公募している企業ばかりではないため、志望企業が公募していない場合に、就活も睨んでどのような企業にどのようにアプローチすべきかを考える。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第６回	対面	【自己理解】エントリーシートの作成に向けて① 就職活動で求められるエントリーシートの作成に向けて、自身の経験の棚卸し、言語化を行う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第７回	対面	【自己理解】志望動機を考える① 志望動機の評価ポイントを知り、採用者側の意図を理解する。応募企業を１社選び、志望動機の作成を進める。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第８回	対面	【就業力】文章表現力養成講座「読み手に伝わる文章を書こう」（特別講演） 報道記者や人事局などマスコミ業界で幅広い活躍経験をもつゲストスピーカーが、読み手に伝わる文章を書くためのポイントを具体的に解説する。 ※中間課題提出	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	6 時間
第９回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】実践トレーニング　グループディスカッション 学部特性に合わせ、採用選考で実施される	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間

		グループディスカッションのテーマを想定し、実践練習に取り組む。		
第１０回	オンデマンド	■オンデマンド■【就業力】適性検査対策 採用試験で実施される適性検査について理解する。（経法 SPI の受験）	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１１回	対面	【自己理解】エントリーシートの作成に向けて② 就職活動で求められるエントリーシートについて、読み手・聞き手に印象に残るよう推敲する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１２回	対面	【自己理解】志望動機を考える② 応募企業の選定と志望動機作成を進め、グループワークを通じて、作成した志望動機の足りない点や課題に気づき、改善を行う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１３回	対面	【就業力】実践トレーニング　集団面接① 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接（WEB 含む）特有の雰囲気に慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１４回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】実践トレーニング　集団面接② 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接（WEB 含む）特有の雰囲気に慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１５回	対面	まとめ 春学期全体を振り返り、自身の課題への対応や今後の就職活動、公務員試験準備に向けて、これからやるべきことについて整理する。 ※期末課題提出	【予習】春学期の学修に関する期末課題（エントリーシートの作成）を実施するので、第 14 回までの内容を復習する。 【復習】春学期の授業を振り返り、秋学期に向け行動計画を立てる。	4 時間

科目名	国際キャリア演習 B	開講年度	2025
担当者	南　美弥	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	・希望進路の実現に向けて、就業力の向上をはかる。		
授業の目的及び概要	国際キャリア演習 B では、卒業後の進路を主体的かつ能動的に決定するために必要な就業力を養成することをねらいとし、演習の特性を活かしてワークを中心に授業を進める。このうちこの科目では、就職活動に際しての実践力養成を行うことを目的とする。希望進路の実現には個人に合わせた事前準備が重要となるため、演習形式の授業を通じて就活準備を始めておくことで、自己理解や企業理解が進み、納得のいく就職活動を進めることができる。 授業において、双方向型実践型形式、課題解決型授業（PBL）を行う。例えば、グループディスカッション、志望動機形成力、集団面接、個人面接など実践を通して学ぶ。 また、授業後半には、進路を決定した 4 年生が「キャリアメンター」として参画し、アドバイス等を行う。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①自身の強みを将来どのように活かしたいか具体的且つ効果的に述べることができる。 ②社会課題や業界・企業について、主体的に研究・探索し、思考を深めると共に自身の志望動機や将来のキャリア展望と結びつけて表現ができる。 ③自身の希望進路を実現するための計画について、自律的且つ具体的に考え、行動ができる。 ④困難に直面した際も自身で乗り越えるマインドや戦略を持ち対処ができ、自身の体験談を基に周りに助言を行うことができる。 ⑤学部の進路として想定される業界の特色、求められる人材について理解し、説明することができる。 ⑥就活本番に向けて、具体的に業界・企業を絞り、戦略を立てて、活動することができる。 ⑦就活で、採用評価につながる発言を行うことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）等、質問への回答や補足説明をする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、キャリアコンサルタントの資格を有し、民間企業での業務経験に加え、ビジネスマナー講師として活動してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	市販テキストは使用せず、動画の視聴やプリントを配付し、授業を進める。	ISBN	ー
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	15
授業期間中の小テスト、レポート課題等	15
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	30
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	40
その他の内容	期末課題

この科目の受講にあたって	本科目の学修にあたっては、課題への積極的取り組みと課題提出が不可欠である。これらの課題にしっかりと取り組んでいれば、就職活動や公務員採用試験に必要な汎用的基礎力、就業力が着実に身に付いてくる。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	【就業力】ガイダンス・夏休みの振り返り 夏休み中の取り組みを振り返り、今後の就職活動の目標とスケジュールを確認し、実践力を高める。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	2 時間
第２回	対面	【就活戦略】就活本番に向けて、インターンシップの参加経験を踏まえて、ターゲットを再設定する。 ターゲットにする業界、企業を、インターンシップ経験を踏まえて、再設定する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第３回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解 】実践トレーニング　グループディスカッション① 学部特性に合わせ、採用選考で実施されるグループディスカッションのテーマを想定し、実践練習に取り組む。特に集団内で採用評価につながる発言ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第４回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解 】実践トレーニング　グループディスカッション② 学部特性に合わせ、採用選考で実施されるグループディスカッションのテーマを想定し、実践練習に取り組む。特に集団内で採用評価につながる発言ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第５回	オンデマンド	■オンデマンド■【就業力】特別講演：ビジネスマナーの基本（プロカメラマンによる「外見力」講座） プロの写真家が、動画選考や証明写真における表情・髪型等による印象の違いや、選考での印象面の重要性について講演を行う。業界・企業の特徴を踏まえ、外見力で自己表現する面白さ等について、具体的に解説する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第６回	対面	【就業力】実践トレーニング　集団面接① 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気に慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。特に集団内で採用評価につながる自己表現ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第７回	対面	【就業力】実践トレーニング　集団面接② 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気に慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。特に集団内で採用評価につながる自己表現ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第８回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】企業研究入門　企業実務家から業界・職種を知る（特別講演） 学部特性に合わせた企業実務家による特	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間

		別講演を行い、業界・職業理解と求められる人物像を知る。また、講演者の学生時代から現在までの職業観に触れることで、業界研究や同業他社比較などの情報収集の重要性を理解する。		
第９回	対面	【職業理解】就職活動とキャリア これまでの学習を通じて得られた学びから、自身の希望進路を実現するために必要なことについて内省し、まとめる。 ※中間課題提出	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	6 時間
第１０回	対面	【就業力】実践トレーニング　集団面接③ 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気に慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１１回	対面	【就業力】実践トレーニング 個人面接① 「個人面接」について、その意図や評価ポイントを理解する。実践練習を通して、個人面接における対話力をつける。特に採用評価につながる対話ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１２回	対面	【就業力】実践トレーニング 個人面接② 「個人面接」について、その意図や評価ポイントを理解する。実践練習を通して、個人面接における対話力をつける。特に採用評価につながる対話ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１３回	対面	【就業力】実践トレーニング 個人面接③ 「個人面接」について、その意図や評価ポイントを理解する。実践練習を通して、個人面接における対話力をつける。特に採用評価につながる対話ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１４回	対面	【職業理解】労働法について 内定後～入社まで、入社後の基本的な労働に関する法律に関して理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１５回	対面	まとめ これまで学修してきた内容について振り返りを行い、総括する。 ※期末課題提出	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】1 年間の授業を振り返り、今後の就職活動に備える。	4 時間

科目名	国際キャリア演習 B	開講年度	2025
担当者	石井　里奈	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	・希望進路の実現に向けて、就業力の向上をはかる。		
授業の目的及び概要	国際キャリア演習 B では、卒業後の進路を主体的かつ能動的に決定するために必要な就業力を養成することをねらいとし、演習の特性を活かしてワークを中心に授業を進める。このうちこの科目では、就職活動に際しての実践力養成を行うことを目的とする。希望進路の実現には個人に合わせた事前準備が重要となるため、演習形式の授業を通じて就活準備を始めておくことで、自己理解や企業理解が進み、納得のいく就職活動を進めることができる。 授業において、双方向型実践型形式、課題解決型授業（PBL）を行う。例えば、グループディスカッション、志望動機形成力、集団面接、個人面接など実践を通して学ぶ。 また、授業後半には、進路を決定した 4 年生が「キャリアメンター」として参画し、アドバイス等を行う。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①自身の強みを将来どのように活かしたいか具体的且つ効果的に述べることができる。 ②社会課題や業界・企業について、主体的に研究・探索し、思考を深めると共に自身の志望動機や将来のキャリア展望と結びつけて表現ができる。 ③自身の希望進路を実現するための計画について、自律的且つ具体的に考え、行動ができる。 ④困難に直面した際も自身で乗り越えるマインドや戦略を持ち対処ができ、自身の体験談を基に周りに助言を行うことができる。 ⑤学部の進路として想定される業界の特色、求められる人材について理解し、説明することができる。 ⑥就活本番に向けて、具体的に業界・企業を絞り、戦略を立てて、活動することができる。 ⑦就活で、採用評価につながる発言を行うことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）等、質問への回答や補足説明をする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、キャリアコンサルタント有資格者であり、専門学校での学生就職指導や民間企業での人事採用等の業務に携わってきた。本科目では、これらの実務経験を活かして、自己分析や業界・企業研究に関する実践的な教育を行う。		
テキスト	市販テキストは使用せず、動画の視聴やプリントを配付し、授業を進める。	ISBN	ー
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	15
授業期間中の小テスト、レポート課題等	15
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	30
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	40
その他の内容	期末課題

この科目の受講にあたって	本科目の学修にあたっては、課題への積極的取り組みと課題提出が不可欠である。これらの課題にしっかりと取り組んでいれば、就職活動や公務員採用試験に必要な汎用的基礎力、就業力が着実に身に付いてくる。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	【就業力】ガイダンス・夏休みの振り返り 夏休み中の取り組みを振り返り、今後の就職活動の目標とスケジュールを確認し、実践力を高める。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	2 時間
第２回	対面	【就活戦略】就活本番に向けて、インターンシップの参加経験を踏まえて、ターゲットを再設定する。 ターゲットにする業界、企業を、インターンシップ経験を踏まえて、再設定する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第３回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解 】実践トレーニング　グループディスカッション① 学部特性に合わせ、採用選考で実施されるグループディスカッションのテーマを想定し、実践練習に取り組む。特に集団内で採用評価につながる発言ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第４回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解 】実践トレーニング　グループディスカッション② 学部特性に合わせ、採用選考で実施されるグループディスカッションのテーマを想定し、実践練習に取り組む。特に集団内で採用評価につながる発言ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第５回	オンデマンド	■オンデマンド■【就業力】特別講演：ビジネスマナーの基本（プロカメラマンによる「外見力」講座） プロの写真家が、動画選考や証明写真における表情・髪型等による印象の違いや、選考での印象面の重要性について講演を行う。業界・企業の特徴を踏まえ、外見力で自己表現する面白さ等について、具体的に解説する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第６回	対面	【就業力】実践トレーニング　集団面接① 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気に慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。特に集団内で採用評価につながる自己表現ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第７回	対面	【就業力】実践トレーニング　集団面接② 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気に慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。特に集団内で採用評価につながる自己表現ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第８回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】企業研究入門　企業実務家から業界・職種を知る（特別講演） 学部特性に合わせた企業実務家による特	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間

		別講演を行い、業界・職業理解と求められる人物像を知る。また、講演者の学生時代から現在までの職業観に触れることで、業界研究や同業他社比較などの情報収集の重要性を理解する。		
第９回	対面	【職業理解】就職活動とキャリア これまでの学習を通じて得られた学びから、自身の希望進路を実現するために必要なことについて内省し、まとめる。 ※中間課題提出	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	6 時間
第１０回	対面	【就業力】実践トレーニング　集団面接③ 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気に慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１１回	対面	【就業力】実践トレーニング 個人面接① 「個人面接」について、その意図や評価ポイントを理解する。実践練習を通して、個人面接における対話力をつける。特に採用評価につながる対話ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１２回	対面	【就業力】実践トレーニング 個人面接② 「個人面接」について、その意図や評価ポイントを理解する。実践練習を通して、個人面接における対話力をつける。特に採用評価につながる対話ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１３回	対面	【就業力】実践トレーニング 個人面接③ 「個人面接」について、その意図や評価ポイントを理解する。実践練習を通して、個人面接における対話力をつける。特に採用評価につながる対話ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１４回	対面	【職業理解】労働法について 内定後～入社まで、入社後の基本的な労働に関する法律に関して理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１５回	対面	まとめ これまで学修してきた内容について振り返りを行い、総括する。 ※期末課題提出	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】1 年間の授業を振り返り、今後の就職活動に備える。	4 時間

科目名	国際キャリア演習 B	開講年度	2025
担当者	中川　正秋	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	・希望進路の実現に向けて、就業力の向上をはかる。		
授業の目的及び概要	国際キャリア演習 B では、卒業後の進路を主体的かつ能動的に決定するために必要な就業力を養成することをねらいとし、演習の特性を活かしてワークを中心に授業を進める。このうちこの科目では、就職活動に際しての実践力養成を行うことを目的とする。希望進路の実現には個人に合わせた事前準備が重要となるため、演習形式の授業を通じて就活準備を始めておくことで、自己理解や企業理解が進み、納得のいく就職活動を進めることができる。 授業において、双方向型実践型形式、課題解決型授業（PBL）を行う。例えば、グループディスカッション、志望動機形成力、集団面接、個人面接など実践を通して学ぶ。 また、授業後半には、進路を決定した 4 年生が「キャリアメンター」として参画し、アドバイス等を行う。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①自身の強みを将来どのように活かしたいか具体的且つ効果的に述べることができる。 ②社会課題や業界・企業について、主体的に研究・探索し、思考を深めると共に自身の志望動機や将来のキャリア展望と結びつけて表現ができる。 ③自身の希望進路を実現するための計画について、自律的且つ具体的に考え、行動ができる。 ④困難に直面した際も自身で乗り越えるマインドや戦略を持ち対処ができ、自身の体験談を基に周りに助言を行うことができる。 ⑤学部の進路として想定される業界の特色、求められる人材について理解し、説明することができる。 ⑥就活本番に向けて、具体的に業界・企業を絞り、戦略を立てて、活動することができる。 ⑦就活で、採用評価につながる発言を行うことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）等、質問への回答や補足説明をする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、長年にわたり、各国の航空会社にて、営業課長や営業部長、執行役員等の役職を歴任し、エアライン・ビジネスに広く携わってきた。本科目では、これらの実務経験を活かして、自己分析や業界・企業研究に関する実践的な教育を行う。		
テキスト	市販テキストは使用せず、動画の視聴やプリントを配付し、授業を進める。	ISBN	ー
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	15
授業期間中の小テスト、レポート課題等	15
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	30
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	40
その他の内容	期末課題

この科目の受講にあたって	本科目の学修にあたっては、課題への積極的取り組みと課題提出が不可欠である。これらの課題にしっかりと取り組んでいれば、就職活動や公務員採用試験に必要な汎用的基礎力、就業力が着実に身に付いてくる。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	【就業力】ガイダンス・夏休みの振り返り 夏休み中の取り組みを振り返り、今後の就職活動の目標とスケジュールを確認し、実践力を高める。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	2 時間
第２回	対面	【就活戦略】就活本番に向けて、インターンシップの参加経験を踏まえて、ターゲットを再設定する。 ターゲットにする業界、企業を、インターンシップ経験を踏まえて、再設定する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第３回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解 】実践トレーニング　グループディスカッション① 学部特性に合わせ、採用選考で実施されるグループディスカッションのテーマを想定し、実践練習に取り組む。特に集団内で採用評価につながる発言ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第４回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解 】実践トレーニング　グループディスカッション② 学部特性に合わせ、採用選考で実施されるグループディスカッションのテーマを想定し、実践練習に取り組む。特に集団内で採用評価につながる発言ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第５回	オンデマンド	■オンデマンド■【就業力】特別講演：ビジネスマナーの基本（プロカメラマンによる「外見力」講座） プロの写真家が、動画選考や証明写真における表情・髪型等による印象の違いや、選考での印象面の重要性について講演を行う。業界・企業の特徴を踏まえ、外見力で自己表現する面白さ等について、具体的に解説する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第６回	対面	【就業力】実践トレーニング　集団面接① 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気に慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。特に集団内で採用評価につながる自己表現ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第７回	対面	【就業力】実践トレーニング　集団面接② 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気に慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。特に集団内で採用評価につながる自己表現ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第８回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】企業研究入門　企業実務家から業界・職種を知る（特別講演） 学部特性に合わせた企業実務家による特	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間

		別講演を行い、業界・職業理解と求められる人物像を知る。また、講演者の学生時代から現在までの職業観に触れることで、業界研究や同業他社比較などの情報収集の重要性を理解する。		
第９回	対面	【職業理解】就職活動とキャリア これまでの学習を通じて得られた学びから、自身の希望進路を実現するために必要なことについて内省し、まとめる。 ※中間課題提出	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	6 時間
第１０回	対面	【就業力】実践トレーニング　集団面接③ 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気に慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１１回	対面	【就業力】実践トレーニング 個人面接① 「個人面接」について、その意図や評価ポイントを理解する。実践練習を通して、個人面接における対話力をつける。特に採用評価につながる対話ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１２回	対面	【就業力】実践トレーニング 個人面接② 「個人面接」について、その意図や評価ポイントを理解する。実践練習を通して、個人面接における対話力をつける。特に採用評価につながる対話ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１３回	対面	【就業力】実践トレーニング 個人面接③ 「個人面接」について、その意図や評価ポイントを理解する。実践練習を通して、個人面接における対話力をつける。特に採用評価につながる対話ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１４回	対面	【職業理解】労働法について 内定後～入社まで、入社後の基本的な労働に関する法律に関して理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１５回	対面	まとめ これまで学修してきた内容について振り返りを行い、総括する。 ※期末課題提出	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】1 年間の授業を振り返り、今後の就職活動に備える。	4 時間

科目名	国際キャリア演習 B	開講年度	2025
担当者	南　美弥	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	・希望進路の実現に向けて、就業力の向上をはかる。		
授業の目的及び概要	国際キャリア演習 B では、卒業後の進路を主体的かつ能動的に決定するために必要な就業力を養成することをねらいとし、演習の特性を活かしてワークを中心に授業を進める。このうちこの科目では、就職活動に際しての実践力養成を行うことを目的とする。希望進路の実現には個人に合わせた事前準備が重要となるため、演習形式の授業を通じて就活準備を始めておくことで、自己理解や企業理解が進み、納得のいく就職活動を進めることができる。 授業において、双方向型実践型形式、課題解決型授業（PBL）を行う。例えば、グループディスカッション、志望動機形成力、集団面接、個人面接など実践を通して学ぶ。 また、授業後半には、進路を決定した 4 年生が「キャリアメンター」として参画し、アドバイス等を行う。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①自身の強みを将来どのように活かしたいか具体的且つ効果的に述べることができる。 ②社会課題や業界・企業について、主体的に研究・探索し、思考を深めると共に自身の志望動機や将来のキャリア展望と結びつけて表現ができる。 ③自身の希望進路を実現するための計画について、自律的且つ具体的に考え、行動ができる。 ④困難に直面した際も自身で乗り越えるマインドや戦略を持ち対処ができ、自身の体験談を基に周りに助言を行うことができる。 ⑤学部の進路として想定される業界の特色、求められる人材について理解し、説明することができる。 ⑥就活本番に向けて、具体的に業界・企業を絞り、戦略を立てて、活動することができる。 ⑦就活で、採用評価につながる発言を行うことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）等、質問への回答や補足説明をする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、キャリアコンサルタントの資格を有し、民間企業での業務経験に加え、ビジネスマナー講師として活動してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	市販テキストは使用せず、動画の視聴やプリントを配付し、授業を進める。	ISBN	ー
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	15
授業期間中の小テスト、レポート課題等	15
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	30
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	40
その他の内容	期末課題

この科目の受講にあたって	本科目の学修にあたっては、課題への積極的取り組みと課題提出が不可欠である。これらの課題にしっかりと取り組んでいれば、就職活動や公務員採用試験に必要な汎用的基礎力、就業力が着実に身に付いてくる。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	【就業力】ガイダンス・夏休みの振り返り 夏休み中の取り組みを振り返り、今後の就職活動の目標とスケジュールを確認し、実践力を高める。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	2 時間
第２回	対面	【就活戦略】就活本番に向けて、インターンシップの参加経験を踏まえて、ターゲットを再設定する。 ターゲットにする業界、企業を、インターンシップ経験を踏まえて、再設定する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第３回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解 】実践トレーニング　グループディスカッション① 学部特性に合わせ、採用選考で実施されるグループディスカッションのテーマを想定し、実践練習に取り組む。特に集団内で採用評価につながる発言ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第４回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解 】実践トレーニング　グループディスカッション② 学部特性に合わせ、採用選考で実施されるグループディスカッションのテーマを想定し、実践練習に取り組む。特に集団内で採用評価につながる発言ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第５回	オンデマンド	■オンデマンド■【就業力】特別講演：ビジネスマナーの基本（プロカメラマンによる「外見力」講座） プロの写真家が、動画選考や証明写真における表情・髪型等による印象の違いや、選考での印象面の重要性について講演を行う。業界・企業の特徴を踏まえ、外見力で自己表現する面白さ等について、具体的に解説する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第６回	対面	【就業力】実践トレーニング　集団面接① 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気に慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。特に集団内で採用評価につながる自己表現ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第７回	対面	【就業力】実践トレーニング　集団面接② 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気に慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。特に集団内で採用評価につながる自己表現ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第８回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】企業研究入門　企業実務家から業界・職種を知る（特別講演） 学部特性に合わせた企業実務家による特	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間

		別講演を行い、業界・職業理解と求められる人物像を知る。また、講演者の学生時代から現在までの職業観に触れることで、業界研究や同業他社比較などの情報収集の重要性を理解する。		
第９回	対面	【職業理解】就職活動とキャリア これまでの学習を通じて得られた学びから、自身の希望進路を実現するために必要なことについて内省し、まとめる。 ※中間課題提出	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	6 時間
第１０回	対面	【就業力】実践トレーニング　集団面接③ 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気に慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１１回	対面	【就業力】実践トレーニング 個人面接① 「個人面接」について、その意図や評価ポイントを理解する。実践練習を通して、個人面接における対話力をつける。特に採用評価につながる対話ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１２回	対面	【就業力】実践トレーニング 個人面接② 「個人面接」について、その意図や評価ポイントを理解する。実践練習を通して、個人面接における対話力をつける。特に採用評価につながる対話ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１３回	対面	【就業力】実践トレーニング 個人面接③ 「個人面接」について、その意図や評価ポイントを理解する。実践練習を通して、個人面接における対話力をつける。特に採用評価につながる対話ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１４回	対面	【職業理解】労働法について 内定後～入社まで、入社後の基本的な労働に関する法律に関して理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１５回	対面	まとめ これまで学修してきた内容について振り返りを行い、総括する。 ※期末課題提出	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】1 年間の授業を振り返り、今後の就職活動に備える。	4 時間

科目名	国際キャリア演習 B	開講年度	2025
担当者	中川　正秋	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	・希望進路の実現に向けて、就業力の向上をはかる。		
授業の目的及び概要	国際キャリア演習 B では、卒業後の進路を主体的かつ能動的に決定するために必要な就業力を養成することをねらいとし、演習の特性を活かしてワークを中心に授業を進める。このうちこの科目では、就職活動に際しての実践力養成を行うことを目的とする。希望進路の実現には個人に合わせた事前準備が重要となるため、演習形式の授業を通じて就活準備を始めておくことで、自己理解や企業理解が進み、納得のいく就職活動を進めることができる。 授業において、双方向型実践型形式、課題解決型授業（PBL）を行う。例えば、グループディスカッション、志望動機形成力、集団面接、個人面接など実践を通して学ぶ。 また、授業後半には、進路を決定した 4 年生が「キャリアメンター」として参画し、アドバイス等を行う。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①自身の強みを将来どのように活かしたいか具体的且つ効果的に述べることができる。 ②社会課題や業界・企業について、主体的に研究・探索し、思考を深めると共に自身の志望動機や将来のキャリア展望と結びつけて表現ができる。 ③自身の希望進路を実現するための計画について、自律的且つ具体的に考え、行動ができる。 ④困難に直面した際も自身で乗り越えるマインドや戦略を持ち対処ができ、自身の体験談を基に周りに助言を行うことができる。 ⑤学部の進路として想定される業界の特色、求められる人材について理解し、説明することができる。 ⑥就活本番に向けて、具体的に業界・企業を絞り、戦略を立てて、活動することができる。 ⑦就活で、採用評価につながる発言を行うことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）等、質問への回答や補足説明をする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、長年にわたり、各国の航空会社にて、営業課長や営業部長、執行役員等の役職を歴任し、エアライン・ビジネスに広く携わってきた。本科目では、これらの実務経験を活かして、自己分析や業界・企業研究に関する実践的な教育を行う。		
テキスト	市販テキストは使用せず、動画の視聴やプリントを配付し、授業を進める。	ISBN	ー
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	15
授業期間中の小テスト、レポート課題等	15
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	30
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	40
その他の内容	期末課題

この科目の受講にあたって	本科目の学修にあたっては、課題への積極的取り組みと課題提出が不可欠である。これらの課題にしっかりと取り組んでいれば、就職活動や公務員採用試験に必要な汎用的基礎力、就業力が着実に身に付いてくる。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	【就業力】ガイダンス・夏休みの振り返り 夏休み中の取り組みを振り返り、今後の就職活動の目標とスケジュールを確認し、実践力を高める。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	2 時間
第２回	対面	【就活戦略】就活本番に向けて、インターンシップの参加経験を踏まえて、ターゲットを再設定する。 ターゲットにする業界、企業を、インターンシップ経験を踏まえて、再設定する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第３回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解 】実践トレーニング　グループディスカッション① 学部特性に合わせ、採用選考で実施されるグループディスカッションのテーマを想定し、実践練習に取り組む。特に集団内で採用評価につながる発言ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第４回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解 】実践トレーニング　グループディスカッション② 学部特性に合わせ、採用選考で実施されるグループディスカッションのテーマを想定し、実践練習に取り組む。特に集団内で採用評価につながる発言ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第５回	オンデマンド	■オンデマンド■【就業力】特別講演：ビジネスマナーの基本（プロカメラマンによる「外見力」講座） プロの写真家が、動画選考や証明写真における表情・髪型等による印象の違いや、選考での印象面の重要性について講演を行う。業界・企業の特徴を踏まえ、外見力で自己表現する面白さ等について、具体的に解説する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第６回	対面	【就業力】実践トレーニング　集団面接① 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気に慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。特に集団内で採用評価につながる自己表現ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第７回	対面	【就業力】実践トレーニング　集団面接② 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気に慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。特に集団内で採用評価につながる自己表現ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第８回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】企業研究入門　企業実務家から業界・職種を知る（特別講演） 学部特性に合わせた企業実務家による特	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間

		別講演を行い、業界・職業理解と求められる人物像を知る。また、講演者の学生時代から現在までの職業観に触れることで、業界研究や同業他社比較などの情報収集の重要性を理解する。		
第９回	対面	【職業理解】就職活動とキャリア これまでの学習を通じて得られた学びから、自身の希望進路を実現するために必要なことについて内省し、まとめる。 ※中間課題提出	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	6 時間
第１０回	対面	【就業力】実践トレーニング　集団面接③ 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気に慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１１回	対面	【就業力】実践トレーニング 個人面接① 「個人面接」について、その意図や評価ポイントを理解する。実践練習を通して、個人面接における対話力をつける。特に採用評価につながる対話ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１２回	対面	【就業力】実践トレーニング 個人面接② 「個人面接」について、その意図や評価ポイントを理解する。実践練習を通して、個人面接における対話力をつける。特に採用評価につながる対話ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１３回	対面	【就業力】実践トレーニング 個人面接③ 「個人面接」について、その意図や評価ポイントを理解する。実践練習を通して、個人面接における対話力をつける。特に採用評価につながる対話ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１４回	対面	【職業理解】労働法について 内定後～入社まで、入社後の基本的な労働に関する法律に関して理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１５回	対面	まとめ これまで学修してきた内容について振り返りを行い、総括する。 ※期末課題提出	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】1 年間の授業を振り返り、今後の就職活動に備える。	4 時間

科目名	国際キャリア演習 B	開講年度	2025
担当者	石井　里奈	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	・希望進路の実現に向けて、就業力の向上をはかる。		
授業の目的及び概要	国際キャリア演習 B では、卒業後の進路を主体的かつ能動的に決定するために必要な就業力を養成することをねらいとし、演習の特性を活かしてワークを中心に授業を進める。このうちこの科目では、就職活動に際しての実践力養成を行うことを目的とする。希望進路の実現には個人に合わせた事前準備が重要となるため、演習形式の授業を通じて就活準備を始めておくことで、自己理解や企業理解が進み、納得のいく就職活動を進めることができる。 授業において、双方向型実践型形式、課題解決型授業（PBL）を行う。例えば、グループディスカッション、志望動機形成力、集団面接、個人面接など実践を通して学ぶ。 また、授業後半には、進路を決定した 4 年生が「キャリアメンター」として参画し、アドバイス等を行う。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①自身の強みを将来どのように活かしたいか具体的且つ効果的に述べることができる。 ②社会課題や業界・企業について、主体的に研究・探索し、思考を深めると共に自身の志望動機や将来のキャリア展望と結びつけて表現ができる。 ③自身の希望進路を実現するための計画について、自律的且つ具体的に考え、行動ができる。 ④困難に直面した際も自身で乗り越えるマインドや戦略を持ち対処ができ、自身の体験談を基に周りに助言を行うことができる。 ⑤学部の進路として想定される業界の特色、求められる人材について理解し、説明することができる。 ⑥就活本番に向けて、具体的に業界・企業を絞り、戦略を立てて、活動することができる。 ⑦就活で、採用評価につながる発言を行うことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）等、質問への回答や補足説明をする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、キャリアコンサルタント有資格者であり、専門学校での学生就職指導や民間企業での人事採用等の業務に携わってきた。本科目では、これらの実務経験を活かして、自己分析や業界・企業研究に関する実践的な教育を行う。		
テキスト	市販テキストは使用せず、動画の視聴やプリントを配付し、授業を進める。	ISBN	ー
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	15
授業期間中の小テスト、レポート課題等	15
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	30
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	40
その他の内容	期末課題

この科目の受講にあたって	本科目の学修にあたっては、課題への積極的取り組みと課題提出が不可欠である。これらの課題にしっかりと取り組んでいれば、就職活動や公務員採用試験に必要な汎用的基礎力、就業力が着実に身に付いてくる。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	【就業力】ガイダンス・夏休みの振り返り 夏休み中の取り組みを振り返り、今後の就職活動の目標とスケジュールを確認し、実践力を高める。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	2 時間
第２回	対面	【就活戦略】就活本番に向けて、インターンシップの参加経験を踏まえて、ターゲットを再設定する。 ターゲットにする業界、企業を、インターンシップ経験を踏まえて、再設定する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第３回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解 】実践トレーニング　グループディスカッション① 学部特性に合わせ、採用選考で実施されるグループディスカッションのテーマを想定し、実践練習に取り組む。特に集団内で採用評価につながる発言ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第４回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解 】実践トレーニング　グループディスカッション② 学部特性に合わせ、採用選考で実施されるグループディスカッションのテーマを想定し、実践練習に取り組む。特に集団内で採用評価につながる発言ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第５回	オンデマンド	■オンデマンド■【就業力】特別講演：ビジネスマナーの基本（プロカメラマンによる「外見力」講座） プロの写真家が、動画選考や証明写真における表情・髪型等による印象の違いや、選考での印象面の重要性について講演を行う。業界・企業の特徴を踏まえ、外見力で自己表現する面白さ等について、具体的に解説する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第６回	対面	【就業力】実践トレーニング　集団面接① 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気に慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。特に集団内で採用評価につながる自己表現ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第７回	対面	【就業力】実践トレーニング　集団面接② 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気に慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。特に集団内で採用評価につながる自己表現ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第８回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】企業研究入門　企業実務家から業界・職種を知る（特別講演） 学部特性に合わせた企業実務家による特	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間

		別講演を行い、業界・職業理解と求められる人物像を知る。また、講演者の学生時代から現在までの職業観に触れることで、業界研究や同業他社比較などの情報収集の重要性を理解する。		
第９回	対面	【職業理解】就職活動とキャリア これまでの学習を通じて得られた学びから、自身の希望進路を実現するために必要なことについて内省し、まとめる。 ※中間課題提出	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	6 時間
第１０回	対面	【就業力】実践トレーニング　集団面接③ 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気に慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１１回	対面	【就業力】実践トレーニング 個人面接① 「個人面接」について、その意図や評価ポイントを理解する。実践練習を通して、個人面接における対話力をつける。特に採用評価につながる対話ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１２回	対面	【就業力】実践トレーニング 個人面接② 「個人面接」について、その意図や評価ポイントを理解する。実践練習を通して、個人面接における対話力をつける。特に採用評価につながる対話ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１３回	対面	【就業力】実践トレーニング 個人面接③ 「個人面接」について、その意図や評価ポイントを理解する。実践練習を通して、個人面接における対話力をつける。特に採用評価につながる対話ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１４回	対面	【職業理解】労働法について 内定後～入社まで、入社後の基本的な労働に関する法律に関して理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１５回	対面	まとめ これまで学修してきた内容について振り返りを行い、総括する。 ※期末課題提出	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】1 年間の授業を振り返り、今後の就職活動に備える。	4 時間

科目名	国際キャリア演習C	開講年度	2025
担当者	岩田　伽耶	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	希望進路の実現に向けて、就業力の向上をはかる。		
授業の目的及び概要	国際キャリア演習 C では、日本での就職をめざす留学生を対象に、卒業後の進路を主体的かつ能動的に決定するために必要な就業力を養成することを目的とし、演習の特性を活かしてグループワークを中心に授業を進める。この科目では、主に「日本特有の就活事情と方法論についての理解」「自己分析」「業界・企業研究」「志望動機作成」「面接対策」に取り組む。希望進路の実現には個人に合わせた事前準備が重要となるため、演習形式の授業を通じて就活準備を進め、自己理解・企業理解により、納得のいく就職活動と進路実現を果たすことを目的とする。 自己を客観的に捉え、論理的に日本語で表現する力を身に付けながら、企業研究や業界研究などを通じて産業への知識を深め、自らの強みと職業とをリンクさせる志望動機の素地を形成し、職業人となるための基礎力を養成する。 授業においては、双方向型実践型形式、課題解決型授業（PBL）を行う。例えば、グループディスカッション、志望動機形成力、集団面接など実践を通して学ぶ。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①自分自身の長所や短所について、根拠や具体的な経験に基づき文章化できる。 ②自身の強みを応募企業でどのように活かしたいのか、具体的且つ効果的に言語化できる。 ③内定獲得に向けて必要な計画力を身に着け、自律的に行動することができる。 ④日本特有の就活ルールに関する知識を身に着け、行動につなげることができる。 ⑤業界・企業研究を幅広く効果的に行うことで（業界理解と産業としてのつながり、特色理解）、留学生一人ひとりの個性を発揮した企業への内定獲得を実現できる力を身に着ける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）は、翌週の授業で返却し、質問への回答や補足説明をする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	市販テキストは使用せず、動画の視聴やプリントを配付し、授業を進める。	ISBN	―
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	15
授業期間中の小テスト、レポート課題等	15
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	30
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	40
その他の内容	期末課題

この科目の受講にあたって	本科目の学修にあたっては、グループワークへの積極的取組みと課題提出が不可欠である。これらの課題にしっかりと取り組んでいれば、就職活動に必要な汎用的基礎力を着実に身に付け、日本での希望進路実現をめざすことができる。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	【就業力】ガイダンス 雇用情勢、採用活動スケジュール、日本特有の就活ルール、授業の流れ等についてガイダンスを行い、希望進路の実現をめざしてスケジュールを理解する。	【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	2 時間
第２回	オンデマンド	■オンデマンド■【自己理解】「自己」を理解し具体的目標を設定する（自分の興味・関心・強みの認識） 進路決定した先輩学生のインタビュー動画を通して、進路選択で必要な素養と準備を理解し、目標設定と具体的計画を作成する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第３回	対面	【職業理解】 業界理解・企業研究① 業界･企業研究についての情報収集の重要性・方法論（企業の探し方と求人票の見方など）について理解する。講義を通して、自身の目標を明確化する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第４回	対面	【職業理解】 業界理解・企業研究② グループワークを通して目標を明確化し、具体的計画へと落とし込む。実際の行動力を高める。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第５回	対面	【自己理解】 エントリーシートの作成① 就職活動で求められるエントリーシートの作成に向けて、自己診断ツール等を活用しながら、自身の経験の棚卸を行う。読み手＝企業担当者を意識し、伝わる日本語での言語化を行う（自己 PR・ガクチカ）。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第６回	対面	【自己理解】 エントリーシートの作成② 就職活動で求められるエントリーシートの作成に向けて、自己診断ツール等を活用しながら、自身の経験の棚卸を行う。読み手＝企業担当者を意識し、伝わる日本語での言語化を行う（自己 PR・ガクチカ）。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第７回	対面	中間課題 ※授業内で中間課題提出	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	6 時間
第８回	対面	【自己理解】 エントリーシートの作成③ 就職活動で求められるエントリーシートの作成に向けて、自身の経験の棚卸し、言語化を行う（志望動機）。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第９回	対面	【自己理解】 エントリーシートの作成④ 就職活動で求められるエントリーシートの作成に向けて、自身の経験の棚卸し、言語化を行う（志望動機）。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１０回	対面	【就業力】面接実践トレーニング① 面接で必要な日本特有の基礎的マナー（言葉遣い、服装、所作等）について理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間

第１１回	対面	【就業力】面接実践トレーニング②　※集団面接編 面接で必要な日本特有の基礎的マナー（言葉遣い、服装、所作等）を学び、選考突破に向けた実践力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１２回	対面	【就業力】面接実践トレーニング③　※集団面接編 面接で必要な日本特有の基礎的マナー（言葉遣い、服装、所作等）を学び、簡潔な自己表現など、選考突破に向けた実践力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１３回	対面	【就業力】面接実践トレーニング④　※個人面接編 面接で必要な日本特有の基礎的マナー（言葉遣い、服装、所作等）を学び、選考突破に向けた実践力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１４回	対面	【就業力】適性検査対策 採用試験で実施される適性検査について理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１５回	対面	まとめ 春学期全体を振り返り、自身の課題への対応や今後の就職活動に向けて、具体的計画案の作成、実際の行動計画へとつなげる。 ※授業内で期末課題提出	【予習】春学期の学修に関する期末課題を実施するので、第 14 回までの内容を復習する。 【復習】春学期の授業を振り返り、秋学期に向け行動計画を立てる。	4 時間

科目名	インターンシップⅠ	開講年度	2025
担当者	前鶴　政和	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html/	単位数	1単位
グレード	G2	授業方法	実習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	インターンシップ（就業体験学習）を通じて社会、働く意味、そして自分を知る。		
授業の目的及び概要	インターンシップでは、授業のない夏季休暇期間（８・９月）や春季休暇期間（２・３月）において、企業や地方公共団体などでの実習（＝就業体験）を行うもので、実習を通じて社会や職業への理解を深め、将来の進路や職業の選択に向けた社会観・職業観を養成する。企業、団体、事業所等への派遣にあたっては、学内で事前のガイダンスもしくは研修を経て、インターンシップの意義・目的についての理解を深めた後、受入事業所において、1週間（実働５日間）以上の実習を行う。実習終了後、体験レポートを作成することで、インターンシップでの成果と課題を認識する。		
履修条件・留意点			
DPとの関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下のURLから確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	企業・団体・事業所等における一定期間の就業体験を行い、大学における学習と社会での実習経験を結びつけることで、将来の社会的・職業的自立を意識できるようになる。さらに、主体的な職業選択に向けた動機づけを行うとともに、社会観・職業観を含む就業力を育成し、希望進路の実現に不可欠な就職活動に対する意識を高めることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	企業担当者によって、実習中に作成する日誌へのコメントや口頭で行われる。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	なし	ISBN	指定テキストはありません。
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	50
授業期間中の小テスト、レポート課題等	—
成果発表（口頭・実技）	50
中間試験	—
【定期試験】レポート試験	—
【定期試験】筆記試験（対面）	—
その他（%）	—
その他の内容	—

この科目の受講にあたって	＜重要＞この科目を履修する際には、必ず、キャリアセンターで開催する説明会に参加して、インターンシップの基本的な意義目的について理解しておくこと。 なお、インターンシップは実習先において社会人としてのマナーが厳しく問われる。そのため、欠席・遅刻・早退は論外である。自覚して臨んでほしい。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第１回	対面	イントロダクション	【予習】事前学修として、シラバス等の内容を確認しておく。 【復習】事後学修として、説明があった内容について再確認しておく。	1 時間
第２回	対面	事前研修	【予習】事前学修として、社会人としての基本的な部分を事前に準備しておく。 【復習】事後学修として、事後学修として、講義とグループワークの内容について再確認しておく。	1 時間
第３回	対面	インターンシップ派遣先等において実習①（1 日目） インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、その内容を業務報告として実習日誌を作成することで、業務の理解や社会のしくみ、社会人としての行動規範を身に着け、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。	1 時間
第４回	対面	インターンシップ派遣先等において実習②（2 日目） インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身に着け、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。	1 時間
第５回	対面	インターンシップ派遣先等において実習③（3 日目） インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身に着け、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。	1 時間
第６回	対面	インターンシップ派遣先等において実習④（4 日目） インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身に着け、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。	1 時間
第７回	対面	インターンシップ派遣先等において実習⑤（5 日目） インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身に着け、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、これまでの実習内容の振り返りを行い、体験レポートの作成に活かす。	1 時間
第８回	対面	体験レポートの作成・提出 インターンシップ派遣先企業等にて行った就業体験について、体験レポートを作成し、インターンシップでの成果と課題を振り返り、社会人として必要なビジネススキル等について復習を行う。	【予習】事前学修として、これまでの実習内容の振り返りを行い、体験レポートの作成に活かす。 【復習】事後学修として、社会、働く意味、そして社会人としての自らのあり方について考える。	6 時間

科目名	インターンシップⅡ	開講年度	2025
担当者	前鶴　政和	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html/	単位数	1 単位
グレード	G2	授業方法	実習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	インターンシップ（就業体験学習）を通じて社会、働く意味、そして自分を知る。		
授業の目的及び概要	インターンシップでは、授業のない夏季休暇期間（８・９月）や春季休暇期間（２・３月）において、企業や地方公共団体などでの実習（＝就業体験）を行うもので、実習を通じて社会や職業への理解を深め、将来の進路や職業の選択に向けた社会観・職業観を養成する。企業、団体、事業所等への派遣にあたっては、学内で事前のガイダンスもしくは研修を経て、インターンシップの意義・目的についての理解を深めた後、受入事業所において、１週間（実働５日間）以上の実習を行う。実習終了後、体験レポートを作成することで、インターンシップでの成果と課題を認識する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	企業・団体・事業所等における一定期間の就業体験を行い、大学における学習と社会での実習経験を結びつけることで、将来の社会的・職業的自立を意識できるようになる。さらに、主体的な職業選択に向けた動機づけを行うとともに、社会観・職業観を含む就業力を育成し、希望進路の実現に不可欠な就職活動に対する意識を高めることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	企業担当者によって、実習中に作成する日誌へのコメントや口頭で行われる。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	なし	ISBN	指定テキストはありません。
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	50
授業期間中の小テスト、レポート課題等	—
成果発表（口頭・実技）	50
中間試験	—
【定期試験】レポート試験	—
【定期試験】筆記試験（対面）	—
その他（%）	—
その他の内容	—

この科目の受講にあたって	＜重要＞この科目を履修する際には、必ず、キャリアセンターで開催する説明会に参加して、インターンシップの基本的な意義目的について理解しておくこと。 なお、インターンシップは実習先において社会人としてのマナーが厳しく問われる。そのため、欠席・遅刻・早退は論外である。自覚して臨んでほしい。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第１回	対面	イントロダクション	【予習】事前学修として、シラバス等の内容を確認しておく。 【復習】事後学修として、説明があった内容について再確認しておく。	1 時間
第２回	対面	事前研修	【予習】事前学修として、社会人としての基本的な部分を事前に準備しておく。 【復習】事後学修として、事後学修として、講義とグループワークの内容について再確認しておく。	1 時間
第３回	対面	インターンシップ派遣先等において実習①（1 日目） インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、その内容を業務報告として実習日誌を作成することで、業務の理解や社会のしくみ、社会人としての行動規範を身に着け、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。	1 時間
第４回	対面	インターンシップ派遣先等において実習②（2 日目） インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身に着け、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。	1 時間
第５回	対面	インターンシップ派遣先等において実習③（3 日目） インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身に着け、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。	1 時間
第６回	対面	インターンシップ派遣先等において実習④（4 日目） インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身に着け、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。	1 時間
第７回	対面	インターンシップ派遣先等において実習⑤（5 日目） インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身に着け、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、これまでの実習内容の振り返りを行い、体験レポートの作成に活かす。	1 時間
第８回	対面	体験レポートの作成・提出 インターンシップ派遣先企業等にて行った就業体験について、体験レポートを作成し、インターンシップでの成果と課題を振り返り、社会人として必要なビジネススキル等について復習を行う。	【予習】事前学修として、これまでの実習内容の振り返りを行い、体験レポートの作成に活かす。 【復習】事後学修として、社会、働く意味、そして社会人としての自らのあり方について考える。	6 時間

科目名	海外インターンシップ	開講年度	2025
担当者	前鶴　政和	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	実習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	東南アジアやオーストラリアでの就業体験を通じて異文化理解を深め、グローバルマインドを養う。		
授業の目的及び概要	海外インターンシップは、授業のない夏季休暇期間（８・９月）において、東南アジア、オーストラリアにある日系企業等での就業体験するプログラムである。海外での実習を通じて将来の進路や職業の選択に向けた社会観・職業観を養成するとともに、グローバル人材で求められる素養や態度、価値観について理解を深める。海外の企業、団体、事業所等への派遣にあたっては、学内での事前ガイダンス受講を必須とする。 授業の目的は、海外の日系企業・事業所等における就業体験を行い、大学における学習と社会での実習経験を結びつけることで、将来の社会的・職業的自立を目指すことである。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	海外の日系企業・事業所等における就業体験を行い、大学における学習と社会での実習経験を結びつけることで、将来の社会的・職業的自立を意識できるようになる。さらに、異文化社会における就業体験により、海外でのワークスタイル、海外勤務の職務特性、現地スタッフとの協働について理解を深め、グローバル人材で求められる素養や態度、価値観を培う。また、英語コミュニケーション能力の向上、国際的視野の涵養、海外で活躍できるグローバル人材への準備、そして、最終的には日本国内外での広いフィールドで活躍できることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	実習中に作成する日誌は、提出後、担当者から返却する。返却した日誌を元に自身を振り返って、次の実習に活かすこと。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	なし	ISBN	指定テキストはありません。
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	50
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	20
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	海外現地での円滑なコミュニケーションには、一定レベルの英語コミュニケーション能力が必要。そのため、研修前か研修後の TOIEC®受験（IP も可）を必須とする。 この科目を履修する際には、必ず、キャリアセンターで開催する説明会に参加して、海外インターンシップの基本的な意義目的について理解しておくこと。 なお、海外インターンシップは国内でのインターンシップと同様に、社会人としてのマナーが

	厳しく問われる。さらに、派遣先地域・国の治安状況は比較的安定しているものの、日本国内とは異なることを肝に銘じておく。そのため、プログラム全般において、緊張感を持って臨むこと。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション・ガイダンス 授業の目的、授業の進め方、成績評価の方法など、授業の概要を説明する。併せて、インターンシップの意義と目的について概要を説明する。	【予習】事前学修として、シラバス等の内容を確認しておく。（30 分程度） 【復習】事後学修として、説明があった内容について再確認しておく。（30 分程度）	1 時間
第２回	対面	事前研修①（ビジネスマナー講座） ゲスト講師による講義とグループワークを通じて、ビジネス社会で求められる素養、ビジネスマナー、コミュニケーションスキルを養い、社会人にとって必要な素養・能力等を理解する。	【予習】事前学修として、社会人としての基本的な部分を事前に準備しておく。（30 分程度） 【復習】事後学修として、講義とグループワークの内容について再確認しておく。（30 分程度）	1 時間
第３回	対面	事前研修②（現地事情理解講座） ゲスト講師による講義を通じて渡航先の政治・経済事情、文化、歴史に関する理解を深める。	【予習】事前学修として、現地の歴史・文化・経済などの情報や治安に関する新聞・ニュースに接し、雇用や社会情勢に関心を高めておく。（30 分程度） 【復習】事後学修として、講義とグループワークの内容について再確認しておく。（30 分程度）	1 時間
第４回	対面	事前研修③（危機管理講座） 海外の治安状況を踏まえ、危機管理に対する基本事項を理解する。	【予習】事前学修として、現地の歴史・文化・経済などの情報や治安に関する新聞・ニュースに接し、雇用や社会情勢に関心を高めておく。（30 分程度） 【復習】事後学修として、講義とグループワークの内容について再確認しておく。（30 分程度）	1 時間
第５回	対面	海外インターンシップ派遣先企業等において実習①（1 日目） 海外インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身につけ、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。（30 分程度） 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。（30 分程度）	1 時間
第６回	対面	海外インターンシップ派遣先企業等において実習②（2 日目） 海外インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身につけ、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。（30 分程度） 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。（30 分程度）	1 時間
第７回	対面	海外インターンシップ派遣先企業等において実習③（3 日目） 海外インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身につけ、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。（30 分程度） 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。（30 分程度）	1 時間
第８回	対面	海外インターンシップ派遣先企業等において実習④（4 日目） 海外インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身につけ、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。（30 分程度） 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。（30 分程度）	1 時間
第９回	対面	海外インターンシップ派遣先企業等にお	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業	1 時間

		いて実習⑤（5 日目） 海外インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身につけ、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	界の最新動向や今後の展望などについて調べる。（30 分程度） 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。（30 分程度）	
第１０回	対面	海外インターンシップ派遣先企業等において実習⑥（6 日目） 海外インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身につけ、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。（30 分程度） 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。（30 分程度）	1 時間
第１１回	対面	海外インターンシップ派遣先企業等において実習⑦（7 日目） 海外インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身につけ、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。（30 分程度） 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。（30 分程度）	1 時間
第１２回	対面	海外インターンシップ派遣先企業等において実習⑧（8 日目） 海外インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身につけ、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。（30 分程度） 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。（30 分程度）	1 時間
第１３回	対面	海外インターンシップ派遣先企業等において実習⑨（9 日目） シップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身につけ、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。（30 分程度） 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。（30 分程度）	1 時間
第１４回	対面	海外インターンシップ派遣先企業等において実習⑩（10 日目） 海外インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身につけ、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。（30 分程度） 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、これまでの実習内容の振り返りを行い、体験レポートの作成に活かす。（30 分程度）	1 時間
第１５回	対面	レポート作成・提出 企業実習の総括を行うことで、海外インターンシップの成果と課題を認識する。	【予習】事前学習として、これまでの実習内容の振り返りを行い、体験レポートの作成に活かす。（30 分程度） 【復習】事後学修として、社会、働く意味、そして社会人としての自らのあり方について考える。（30 分程度）	1 時間

科目名	日本語文章表現Ⅰ	開講年度	2025
担当者	浅見　緑	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	身近な社会問題をテーマに、複数の資料の内容を統合し、効果的に使用して文章を書く力をつける。具体的には、大学の授業科目で作成するレポートが自信をもって書けるようになることを目指したい。		
授業の目的及び概要	この授業は、語彙力、思考力及び表現力等を養成し、論理的な思考に基づく日本語表現力（記述力）を修得することを目標とする。授業では、まずレポート、各種報告書、通信文等における文章構成の差異について理解する。次に、様々な種類の文章の事例を参考にしながら、文の構成や組立の分析・読解を実施し、論理的な文章を記述するための知識について学修する。さらに、より明確な文章を記述するための課題に取り組み、文章作成の能力を養成する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	（1）語彙力・表現力を強化し、主にレポートにおいて、適切に資料を用い、自身の意見を展開できるようになる。 （2）レポートを書くために必要な思考力を養い、論理的な思考に基づく日本語表現力を身につける。 （3）最終的にレポート（1000 字程度または A4.1 ページ程度）が作成できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	受講生の人数によって方法は異なる。たとえば個別の添削または授業内で注意箇所を共有するなどのフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定しない。配布資料を用いる。	ISBN	なし
参考書	宇野聖子・藤浦五月『大学生のための表現力トレーニング　あしか』ココ出版（2009）	ISBN	ISBN：978-4-904595-83-1

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	20
授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
成果発表（口頭・実技）	10
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	30
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	授業での積極的参加の積み重ねが、文章表現力を向上させることにつながります。講義をよく聴いて、そのうえで自分の手と頭をしっかり使って、文章を作成していきましょう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第１回	対面	授業の流れの説明 および　担当教員の自己紹介 文書の種類と文体について ※授業計画は目安です。受講生数により、授業の進め方や方法は変わる可能性があります。	事後学修：授業で学んだこと(文書の種類と文体について）に関するオリジナルプリント（2 時間） 事前学習：次回（好きな文章のジャンル、現在の問題意識などを含む自己紹介プレゼンテーション）の準備（2 時間）	4 時間
第２回	対面	１．自己紹介プレゼンテーション（好きな文章のジャンル、興味のある社会問題などを含む） ２．文末のスタイル（文体） ３．縮約・省略、文末表現	事後学修：授業で学んだこと（文末スタイル、縮約・省略表現などについて）に関するオリジナルプリント（2 時間） 事前学習：小テスト（第 2 回授業内容に関するもの）の学習（2 時間）	4 時間
第３回	対面	１．小テスト（文末スタイル、縮約・省略表現） ２．副詞 ３．文を続ける形式	事後学修：授業で学んだこと(副詞の使い方）に関するオリジナルプリント（2 時間） 事前学習：小テスト（第 3 回授業内容に関するもの）の学習（2 時間）	4 時間
第４回	対面	１．小テスト（副詞の使い方） ２．接続詞 ３．セットで使う表現（呼応表現）	事後学修：授業で学んだこと（接続詞・呼応表現）に関するオリジナルプリント（2 時間） 事前学習：小テスト（第 4 回授業内容に関するもの）の学習（2 時間）	4 時間
第５回	対面	１．小テスト（接続詞の使い方・呼応表現） ２．資料の探し方をマスターする ３．参考文献の書き方を身につける	事後学修：授業で学んだことに関する宿題…資料を検索する…（2 時間） 事前学習：プレゼンテーション（検索した資料について）の準備（2 時間）	4 時間
第６回	対面	１．プレゼンテーション…各自が見つけた資料について発表する ２．引用のしかたを身につける	事後学修：授業で学んだこと（引用のしかた）に関するオリジナルプリント（2 時間） 事前学習：小テスト（第 6 回授業内容に関するもの）の学習（2 時間）	4 時間
第７回	対面	１．小テスト（引用のしかたについて） ２．身近な社会問題について考え、テーマを決める ３．資料収集計画の立て方	事後学修：自身が選んだテーマについて調べる（2 時間） 事前学習：資料収集計画書の作成（2 時間）	4 時間
第８回	対面	１．資料収集計画書の提出 ２．関連する資料を整理する１ ①資料の読解 ②資料をまとめる	事後学修：資料の読解…つづき（2 時間） 事前学習：資料の整理・考察　および発表の準備（2 時間）	4 時間
第９回	対面	１．テーマについての発表　① ２．関連する資料を整理する２ ①資料の読解 ②資料をまとめる	事後学修：集めた資料の読解・要約など（2 時間） 事前学習：発表の準備（2 時間）	4 時間
第１０回	対面	１．個々のテーマについての発表　② ２．テーマの絞り込み・再検討 ３．「定義する」ことについて学ぶ	事後学修：集めた資料の要約・整理など（2 時間） 事前学習：個々のテーマについて考察・資料の補充（2 時間）	4 時間
第１１回	対面	１．段落構成について学ぶ ２．見本レポートを読んで、構成方法を学ぶ	事後学修：授業で学んだこと（段落構成）に関する宿題（2 時間） 事前学習：段落を意識した文章作成（2 時間）	4 時間
第１２回	対面	１．見本レポートを読んで、表現方法を学ぶ ２．文章作成	事後学修：文章の添削箇所の確認・修正（2 時間） 事前学習：文章作成の続き（2 時間）	4 時間
第１３回	対面	１．タイトル・アウトラインを作成する ２．アウトラインをチェックする	事後学修：アウトラインの添削箇所の確認・修正作業（2 時間） 事前学習：文章作成の続き（2 時間）	4 時間
第１４回	対面	１．これまでに書いた文章を一つのレポートにする方法を学ぶ ２。自身のテーマについて発表し、質疑応答をレポートに反映させる	事後学修：授業内で書いた文章の誤字脱字の修正（2 時間） 事前学習：発表で指摘された疑問点・質問点の確認（2 時間）	4 時間
第１５回	オンデマンド	発表時の質疑応答を考慮し、推敲し、よりよいレポートに仕上げる	事後学修：文章作成の続き　および　定期試験レポートの完成と提出	4 時間

		これまでの 14 回の授業で学んだことを定期試験レポートに反映させるための振り返りをオンデマンドで行う		

科目名	日本語文章表現Ⅱ	開講年度	2025
担当者	浅見　緑	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	身近な社会問題をテーマに、複数の資料の内容を統合し、効果的に使用して文章を書く力をつける。具体的には、大学の授業科目で作成するレポートが自信をもって書けるようになることを目指したい。		
授業の目的及び概要	この授業は、「日本語文章表現Ⅰ」で学修した内容の定着を図り、語彙力、思考力及び表現力等を養成し、論理的な思考に基づく日本語表現力（記述力）を修得することを目標とする。授業では、まずレポート、各種報告書、通信文等における文章構成の差異について理解する。次に、様々な種類の文章の事例を参考にしながら、文の構成や組立の分析・読解を実施し、論理的な文章を記述するための知識について学修する。さらに、より明確な文章を記述するための課題に取り組み、文章作成の能力を養成する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	（1）語彙力・表現力を強化し、主にレポートにおいて、適切に資料を用い、自身の意見を展開できるようになる。 （2）レポートを書くために必要な思考力を養い、論理的な思考に基づく日本語表現力を身につける。 （3）最終的に定期試験レポート（1200 字程度または A4.1 ページ程度）が作成できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	受講生の人数によって、方法は異なる。たとえば個別の添削または授業内で注意箇所を共有するなどのフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定しない。配布資料を用いる。	ISBN	なし
参考書	宇野聖子・藤浦五月『大学生のための表現力トレーニング　あしか』ココ出版（2009）	ISBN	ISBN:978-4-904595-83-1

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	20
授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
成果発表（口頭・実技）	10
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	30
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	授業での積極的参加の積み重ねが文章表現力を向上させることにつながります。講義をよく聴いて、そのうえで自分の手と頭をしっかり使って文章を作成していきましょう。

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第１回	対面	授業の流れの説明　および　担当教員の自己紹介 文書の種類と文体の復習 ※授業計画は目安です。受講生数により、授業の進め方や方法は変わる可能性があります。	事後学修：授業で学んだこと（文書の種類と文体）に関するオリジナルプリント（2 時間） 事前学習：次時（自己紹介文の作成）の材料集め、準備（2 時間）	4 時間
第２回	対面	１．自己紹介文作成 ２．文末のスタイル（文体）の復習 ３．縮約・省略、文末表現	事後学修：授業で学んだこと（文体、縮約・省略表現、文末表現）に関するオリジナルプリント（2 時間） 事前学習：小テスト（第 2 回授業内容に関するもの）の学習（2 時間）	4 時間
第３回	対面	１．小テスト（文体、縮約・省略表現、文末表現） ２．副詞の復習 ３．前回作文の添削修正箇所の共有 ４．資料①（時事問題）の配布と概要説明 ※資料はラーニングポータルに示すので確認すること	事後学修：資料①の確認・復習（2 時間） 事前学習：資料①の用語調べ、関連資料の検索など（2 時間）	4 時間
第４回	対面	１．資料①をもとに文章作成 ２．接続詞の復習	事後学修：授業で学んだこと（接続詞の使い方）に関するオリジナルプリント（2 時間） 事前学習：小テスト（第 4 回授業内容に関するもの）の学習（2 時間）	4 時間
第５回	対面	１．小テスト…200~400 字程度の説明文を書く ２．セットで使う表現（呼応表現）の復習 ３．提出作文の添削修正箇所を共有して学ぶ	事後学修：提出課題の添削箇所確認と修正作業（2 時間） 事前学習：小テスト（第 5 回授業内容に関するもの）の学習（2 時間）	4 時間
第６回	対面	１．小テスト（呼応表現） ２．引用の仕方を身につける ３．資料②（時事問題）の配布と概要説明 ※資料はラーニングポータルに示すので確認すること	事後学修：資料②の確認・復習（2 時間） 事前学習：資料②の用語調べ、関連資料の検索など（2 時間）	4 時間
第７回	対面	１．資料②をもとに文章作成 ２．資料の探し方をマスターする ３．参考文献の示し方を身につける	事後学修：資料の探し方・参考文献の示し方を確認・復習する（1 時間） 事前学習：資料を探す（3 時間）	4 時間
第８回	対面	１．関連する資料を整理する１ ①資料の読解 ②資料をまとめる ２．提出課題の添削修正箇所を共有して学ぶ	事後学修：資料の読解、まとめのつづき（2 時間） 事前学習：資料の整理・検討（2 時間）	4 時間
第９回	対面	１．関連する資料を整理する２ ①資料の読解 ②資料をまとめる ２．段落構成を学ぶ ①他者の意見に賛成するときの段落構成 ②他者の意見に反対するときの段落構成 ③自分の意見と他者の意見を明確に書くことの重要性について	事後学修：段落構成の要点を確認する（１時間） 事前学習：個々のテーマによるレポート作成の準備（３時間）	4 時間
第１０回	対面	１．文章を作成する ２．テーマの絞り込み ３．使用する用語を定義する	事後学修：自身のレポートで使用する用語の確認など（2 時間） 事前学習：文章作成の続き（2 時間）	4 時間
第１１回	対面	１．文章を作成する ２．見本レポートを読んで、段落構成を確認する ３．提出課題の添削・修正箇所を共有して	事後学修：提出課題の添削箇所確認、修正作業（2 時間） 事前学習：文章作成の続き（2 時間）	4 時間

		学ぶ		
第１２回	対面	１．文章を作成する ２．見本レポートを読んで、表現方法を確認する ３．提出課題の添削・修正箇所を共有して学ぶ	事後学修：提出課題の添削箇所確認、修正作業（2 時間） 事前学習：文章作成の続き（2 時間）	4 時間
第１３回	対面	１．文章を作成する ２．タイトル・アウトラインを作成する ３．アウトラインをチェックする	事後学修：提出課題の添削箇所確認、修正作業（2 時間） 事前学習：文章作成の続き　および　発表の準備（2 時間）	4 時間
第１４回	対面	１．個々のテーマについて発表する ２．質疑応答	事後学修：第一稿の誤字脱字の修正　および　質疑応答の反映を考える（2 時間） 事前学習：第二稿提出準備（2 時間）	4 時間
第１５回	オンデマンド	１．第二稿の添削修正箇所を共有して学ぶ ２．よりよいレポートに仕上げるための注意点、書式の確認など これまでの 14 回の授業で学んだことを定期試験レポートに反映させるために、注意点などの振り返りをオンデマンドで行う	事後学修：定期試験レポートの提出に向けて、推敲する	4 時間

科目名	情報セキュリティ論	開講年度	2025
担当者	岩見　真希	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	国内外の情報セキュリティ政策や脅威の動向から実践的取り組みの共通認識を涵養する		
授業の目的及び概要	社会的影響力の大きい事例や公開されている統計資料を参照しながら、近年の情報セキュリティインシデント状況及び脆弱性の現状と対策について学ぶ。また、情報セキュリティを支える基盤である政策や制度等、国内外の取組についても学ぶ。関連して、情報セキュリティシステムを安全に使うために欠かせない暗号技術のしくみ、安全性の根拠、コンピュータの計算能力向上に伴う安全な鍵長の変遷、実社会で利用されている公開鍵の問題点について学ぶ。これらにより、日常生活でセキュリティに関心を持ち、リスク感度を高められるようにする。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	近年の情報セキュリティインシデント及び脆弱性の現状と対策、情報セキュリティを支える基盤の動向を理解し、リスク感度を高めることが重要である。そのため、情報の機密性、完全性、可用性からなるセキュリティに関する知識を修得することを目標とする。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業支援システム（Learning Portal）に解答と講評を掲載します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	クリッカー等の理解度把握システムの利用		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	情報セキュリティ白書 2024　変革の波にひそむ脅威：リスクを見直し対策を　（IPA） https://www.ipa.go.jp/publish/wp-security/2024.html から PDF ファイルをダウンロードできます。	ISBN	978-4-905318-80-4
参考書	情報セキュリティ 10 大脅威 2025https://www.ipa.go.jp/security/10threats/10threats2025.html から PDF ファイルをダウンロードできます。	ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	15
授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	45
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講 に あたって	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	オンデマンド	・講義に関するガイダンス・情報セキュリティインシデント状況 世界で発生している情報セキュリティインシデントの状況及び国内のインシデント別の状況と事例について説明する。	【復習】授業で用いた資料を読んで復習すること。	4 時間
第２回	オンデマンド	・情報セキュリティインシデント別の手口と対策（1） ランサムウェア攻撃	【予習】テキストの情報セキュリティインシデント別の手口と対策のランサムウェア攻撃の部分を読んで予習すること。 【復習】授業で用いた資料を読んで復習すること。	4 時間
第３回	オンデマンド	・情報セキュリティインシデント別の手口と対策（2） 標的型攻撃	【予習】テキストの情報セキュリティインシデント別の手口と対策の標的型攻撃の部分を読んで予習すること 【復習】授業で用いた資料を読んで復習すること。	4 時間
第４回	オンデマンド	・情報セキュリティインシデント別の手口と対策（3） ビジネスメール詐欺（BEC）	【予習】テキストの情報セキュリティインシデント別の手口と対策のビジネスメール詐欺（BEC）の部分を読んで予習すること。 【復習】授業で用いた資料を読んで復習すること。	4 時間
第５回	オンデマンド	・情報セキュリティインシデント別の手口と対策（4） DDoS 攻撃	【予習】テキストの情報セキュリティインシデント別の手口と対策の DDoS 攻の部分を読んで予習すること。 【復習】授業で用いた資料を読んで復習すること。	4 時間
第６回	オンデマンド	・情報セキュリティインシデント別の手口と対策（5） ソフトウェアの脆弱性を悪用した攻撃	【予習】テキストの情報セキュリティインシデント別の手口と対策のソフトウェアの脆弱性を悪用した攻撃の部分を読んで予習すること。 【復習】授業で用いた資料を読んで復習すること。	4 時間
第７回	オンデマンド	・情報セキュリティインシデント別の手口と対策（6） 個人を狙う SMS・メールを悪用した手口	【予習】テキストの情報セキュリティインシデント別の手口と対策の個人を狙う SMS・メールを悪用した手口の部分を読んで予習すること。 【復習】授業で用いた資料を読んで復習すること。	4 時間
第８回	オンデマンド	・情報セキュリティインシデント別の手口と対策（7） 個人を狙う様々な騙しと悪用の手口	【予習】テキストの情報セキュリティインシデント別の手口と対策の個人を狙う様々な騙しと悪用の手口の部分を読んで予習すること。 【復習】授業で用いた資料を読んで復習すること。	4 時間
第９回	オンデマンド	・情報セキュリティインシデント別の手口と対策（8） 情報漏えいによる被害	【予習】テキストの情報セキュリティインシデント別の手口と対策の情報漏洩による被害の部分を読んで予習すること。 【復習】授業で用いた資料を読んで復習すること。	4 時間
第１０回	オンデマンド	・情報セキュリティ 10 大脅威 10 大脅威 2025 組織編・個人編	【予習】情報セキュリティ 10 大脅威 2025 を読んで予習すること。 【復習】授業で用いた資料を読んで復習すること。	4 時間
第１１回	オンデマンド	・情報システムの脆弱性の動向 JVN iPedia の登録情報から見る脆弱性の傾向 早期警戒パートナーシップの届出状況から見る脆弱性の動向	【予習】テキストの情報システムの脆弱性の動向の部分を読んで予習すること。 【復習】授業で用いた資料を読んで復習すること。	4.5 時間
第１２回	オンデマンド	・情報セキュリティを支える基盤の動向 国内外の情報セキュリティ政策の状況	【予習】テキストの情報セキュリティを支える基盤の動向の部分を読んで予習すること。 【復習】授業で用いた資料を読んで復習すること。	4 時間

第１３回	オンデマンド	・暗号技術の動向 CRYPTREC と暗号技術の動向	【予習】テキストの暗号技術の動向の部分を読んで予習すること。 【復習】授業で用いた資料を読んで復習すること。	4 時間
第１４回	オンデマンド	・IoT のセキュリティ IoT に対するセキュリティ脅威の動向	【予習】テキストの IoT のセキュリティの部分を読んで予習すること。 【復習】授業で用いた資料を読んで復習すること。	4 時間
第１５回	オンデマンド	・注目のトピック 虚偽を含む情報拡散の脅威と対策の動向 AI のセキュリティ	【予習】テキストの注目のトピックの部分を読んで予習すること。 【復習】授業で用いた資料を読んで復習すること。これまでの総復習をすること。	4 時間

科目名	データマイニング	開講年度	2025
担当者	岩見　真希	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	データ分析力を身につける。		
授業の目的及び概要	この授業では、データからある知見を抽出するための手法を修得する。情報化社会において、日々大量のデータが蓄積されている。このように蓄積されたデータには有用な情報や知識が多く含まれており、データマイニングによってそれらを掘り出すことが必要とされてきている。そのため、事象の背後にあると想定される多数の要因を分析し、データに含まれる構造を見出す方法を理解する。授業では、実践的な課題に取り組むことで、修得した知識の定着を図る。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	授業では以下の到達目標を掲げる。 ①　データマイニングに関する基本的な知識を備えている。 ②　データ分析を設計し、問題の要因を抽出することができる。 ③　データをどのように活用すれば有効かを考えることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業において課したレポート等について講評する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	本物のデータ分析力が身に付く本,河村 真一,日置 孝一, 野寺 綾, 日経 BP, 2016	ISBN	978-4822237721
参考書	ー	ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	10
授業期間中の小テスト、レポート課題等	45
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	45
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	
	事前事後の学修を行い、目的意識を持って授業に望むようにすること。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	オンデマンド	講義に関するガイダンスとデータマイニングについて説明する。	テキストデのータマイニングに関する部分を読んで予習・復習しておくこと	4 時間
第２回	オンデ	分析の概念図等について説明して、データ	テキストの分析の概念図に関する部分を読んで予	4 時間

	マンド	分析の基本的考え方を学ぶ。	習・復習しておくこと	
第３回	オンデマンド	問題領域と評価軸の設定等について説明して、データ分析の基本的考え方を学ぶ。	テキストの問題領域と評価軸の設定に関する部分を読んで予習・復習しておくこと	4 時間
第４回	オンデマンド	要因選択等について説明して、データ分析の基本的考え方を学ぶ。	テキストの要因選択に関する部分を読んで予習・復習しておくこと	4 時間
第５回	オンデマンド	欠損値、外れ値等を解説して、対象データの検証について理解を深める。	テキストの欠損値、外れ値に関する部分を読んで予習・復習しておくこと	4 時間
第６回	オンデマンド	データのクレンジング等を解説して、対象データの検証について理解を深める。	テキストのデータのクレンジングに関する部分を読んで予習・復習しておくこと	4 時間
第７回	オンデマンド	分析方法について解説を行い、選択の仕方を身につける。	テキストの分析方法に関する部分を読んで予習・復習しておくこと	4 時間
第８回	オンデマンド	データの特徴量について説明を行い、分析に活用する方法を身につける。	テキストのデータの特徴量に関する部分を読んで予習・復習しておくこと	4 時間
第９回	オンデマンド	分析結果のまとめ方等について理解を深める。	テキストの分析結果のまとめ方に関する部分を読んで予習・復習しておくこと	4 時間
第１０回	オンデマンド	分析結果の表現方法等について理解を深める。	テキストの分析結果の表現方法に関する部分を読んで予習・復習しておくこと	4 時間
第１１回	オンデマンド	実際の事例を用いてデータマイニングを行う。	実際の事例に関する課題に取り組み、次回授業で提出すること	4 時間
第１２回	オンデマンド	実際の事例を用いてデータマイニングを行う。	実際の事例に関する課題に取り組み、次回授業で提出すること	4 時間
第１３回	オンデマンド	実際の事例を用いてデータマイニングを行う。	実際の事例に関する課題に取り組み、次回授業で提出すること	4 時間
第１４回	オンデマンド	実際の事例を用いてデータマイニングを行う。	実際の事例に関する課題に取り組み、提出すること	4 時間
第１５回	オンデマンド	授業全体の総括を行う。	テキストのデータマイニングに関する部分を読んで復習しておくこと	4 時間

科目名	メディアと広告	開講年度	2025
担当者	石川　靖之	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	メディアと広告に関する知識と企画作成を通したメディアリテラシーの獲得		
授業の目的及び概要	情報通信技術の発壌により、SNS(Social Networking Service）等のメディアが多様化し、広告活動のあり方は大きく変化しています。この授業では、現代社会における広告の現状とあるべき姿、そして今後の課題について具体的な事例や実践を通して学修することで、メディアリテラシーを養成していただきます。 また、毎回授業前に達成すべき目標を「目標管理シート」を使って自ら設定。授業終了後に達成できたかを自己評価することで、目標達成の仕方と目標達成意識の醸成につなげます。		
履修条件・留意点	授業及び課題作成はマイクロソフト社のパワーポイントを使用しますので、パワーポイントがないと受講できません。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	広告の役割と多様化するメディアの特徴を学んだ後、実際のコミュニケーション企画や広告を作成することで、メディアリテラシーの習得を目標とします。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	講義授業の翌週は、前回の復習を行います。また、実践課題はラーニングポータルにアップしていただき、後日フィードバックいたします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、リクルートで採用広告制作を 5 年、制作会社でイベントや各種広告・販促物・音楽の企画制作等で 15 年の勤務経験を経た後、自らの会社を起業。大手企業から行政、中小企業まで幅広いクライアントを対象に広告･マーケティング分野で 30 年以上の実務経験を有しており、現在も現役プランナーとして活動している。本科目では、これらの実務経験を活かして、具体的な事例を挙げながら、メディアと広告の関連性や機能、課題、今後の可能性について解説する。		
テキスト	指定しません。ラーニングポータルにアップする講義資料（パワーポイント等）を用いて行います。	ISBN	指定しません。
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	50
授業期間中の小テスト、レポート課題等	50
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって
「約束を守る」こと。これが社会人になってまず問われる能力です。授業を通して約束を守る習慣を身につけながら、いかに自ら積極的に行動できるかがポイントです。受講者自身の積極的な参加と継続的な向上心が必要。出席と提出物だけでは単位取得はできません。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第１回	対面	●ガイダンス～教員自己紹介。授業の進め方・注意点について説明	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1 時間程度） 事後：「Learning Portal」に掲載した授業資料に目を通し、不明点をなくしておくこと（2 時間程度）	3 時間
第２回	対面	●メディア、広告とは？～メディアの定義、広告の種類や目的・機能、現状課題、実際に伝わる広告とは？	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1 時間程度） 事後：「Learning Portal」に掲載した授業資料に目を通し、不明点をなくしておくこと（2 時間程度）	3 時間
第３回	対面	●広告を取り巻く動向～広告が抱える課題や今後の可能性について	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1 時間程度） 事後：「Learning Portal」に掲載した授業資料に目を通し、不明点をなくしておくこと（2 時間程度）	3 時間
第４回	対面	●ネット時代のメディア分類～Triple Media（Paid、Owned、Earned）	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1 時間程度） 事後：「Learning Portal」に掲載した授業資料に目を通し、不明点をなくしておくこと（2 時間程度）	3 時間
第５回	対面	●メディアの種類と特徴①～マスメディア	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1 時間程度） 事後：「Learning Portal」に掲載した授業資料に目を通し、不明点をなくしておくこと（2 時間程度）	3 時間
第６回	対面	●メディアの種類と特徴②～インターネットメディア	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1 時間程度） 事後：「Learning Portal」に掲載した授業資料に目を通し、不明点をなくしておくこと（2 時間程度）	3 時間
第７回	対面	●メディアの種類と特徴③～インターネットメディア（動画広告）	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1 時間程度） 事後：「Learning Portal」に掲載した授業資料に目を通し、不明点をなくしておくこと（2 時間程度）	3 時間
第８回	対面	●メディアの種類と特徴④～プロモーションメディア	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1 時間程度） 事後：「Learning Portal」に掲載した授業資料に目を通し、不明点をなくしておくこと。気になる広告を探し提出（4 時間程度）	5 時間
第９回	対面	●これまでの復習／あなたの周りの広告提出物解説 ※提出された課題の中から一部を解説します。	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと。課題提出（1 時間程度） 事後：「Learning Portal」に掲載した授業資料に目を通し、不明点をなくしておくこと（2 時間程度）	3 時間
第１０回	対面	●AIDMA から AISAS へ～ネット時代の消費者の情報処理行動の変化、カスタマージャーニー	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1 時間程度） 事後：「Learning Portal」に掲載した授業資料に目を通し、不明点をなくしておくこと（4 時間程度）	5 時間
第１１回	対面	●コミュニケーション戦略企画 これまで学んだことを活用し、さまざまなメディアを組み合わせたコミュニケーション戦略企画の立て方をお教えします。	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1 時間程度） 事後：「Learning Portal」に掲載した授業資料に目を通し、不明点をなくしておくこと。提出課題作成（4 時間程度）	5 時間
第１２回	対面	●実践①～課題作成 提示した課題のコミュニケーション戦略（メディアの活用方法）を考えていただきます。	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと。課題提出（1 時間程度） 事後：次回課題に向け情報収集しておくこと（4 時間程度）	5 時間
第１３回	対面	●広告作成 前回に立案したコミュニケーション戦略で使われる各メディアごとの広告表現についてお教えします。	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと。発表準備（3 時間程度） 事後：課題作成（3 時間程度）	6 時間
第１４回	対面	●実践②～課題作成 コミュニケーション戦略の中での、各広告表現を考えていただきます。	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1 時間程度） 事後：「Learning Portal」に掲載したこれまでの授業	5 時間

			資料に目を通し、復習しておくこと（4 時間程度）	
第１５回	オンデマンド	●全体総括 オンデマンド動画で、これまで授業で学んできたことのおさらいをします。	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1 時間程度） 事後：最終のまとめを復習し、本科目で学んだことを身に着けること（4 時間程度）	5 時間

科目名	社会心理学	開講年度	2025
担当者	竹井　夏生	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	「私」、「他者」、「社会」とそのダイナミズムについて学びながら、共生社会の道のりを探る。		
授業の目的及び概要	この授業では、社会との関係における個人の心理を考察するとともに、社会のなかにある心理的な側面から、人々の心理や行動に対する理解を深めることを目標とする。また著名な社会心理学の研究を紹介しながら、社会的動物である人間の行動や認知、他者と共に生活することの意味やその影響について考察する。加えて、人間関係、集団過程と組織行動、説得的コミュニケーション、広告と消費行動等の関係性について、心理学的基本概念や臨床的問題、臨床的な援助法の具体事例から理解を深める。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・社会の「あたりまえ」を批判的・学問的に疑い、「とらわれ」や「思い込み」から自由になるためのものの見方を獲得することができる。 ・社会に出る準備段階にいる受講生が、「私」についての理解を深めながら、社会や集団の中で起こりうることについて知り、備え、しなやかに生き抜くことができるための洞察的視野を獲得することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	講義のリアクションペーパーについては、授業内で取り上げる。その他、講義内容の質問等は直接ないしメールで受け付ける。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しない（こちらでレジュメを準備する）。	ISBN	なし
参考書	・以下は参考書として、関心があれば手に取ってほしい。 ①現実の社会的構成―知識社会学論考，ピーター・バーガー・トーマス・ルックマン（著），山口節郎（訳），新曜社，2003 年 ②フーコー―知と権力，桜井哲夫（著），講談社，2003 年 ③ハンナ・アーレント―「戦争の世紀」を生きた政治哲学者，矢野久美子（著），中央公論新社，2014 年	ISBN	① ISBN：9784788508392 ② ISBN：9784062659260 ③ ISBN：9784121022578

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	40
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	60
	その他（%）	0

	その他の内容	
この科目の受講にあたって	受講生一人一人が、私―他者―社会という結びつきの中で生きていることに自覚的になりながら、その結びつきをよりよいものにしていくことができるよう、受講生とともに考えていく時間にしたい。価値観、立場、文化、国籍、言語などが異なる人々と関わる上で、私という存在を大切に保ちながら、他者をも重んじ、よりよい社会を築いていくための小さな礎となるような講義にしたい。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	社会心理学への導入（1） 「私」、他者、社会の縦横無尽の絡み合いについて、現代的なトピックを用いながら、社会心理学への導入を図る。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみること。	4 時間
第２回	対面	社会心理学への導入（2） 前回の内容を引き続き深めていく。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみること。	4 時間
第３回	対面	社会構成主義とナラティヴ（1） 社会構成主義的なものの見方について、またその臨床心理的な展開としてのナラティヴについて理解を深める。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみること。	4 時間
第４回	対面	社会構成主義とナラティヴ（2） 前回の内容を引き続き深めていく。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみること。	4 時間
第５回	対面	知･権力･言説―フーコーを手掛かりに(1) ミシェル・フーコーを手掛かりにして、「私」を取り巻き規定する、他者、社会、時代、「知」との絡み合いについて、精神疾患、性、犯罪、学校などをテーマに考える。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみること。	4 時間
第６回	対面	知･権力･言説―フーコーを手掛かりに(2) 前回の内容を引き続き深めていく。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみること。	4 時間
第７回	対面	社会集団における「私」―アーレントを手掛かりに（1） 社会心理学において有名ないわゆるミルグラム実験の背景にもなっているハンナ・アーレントの思想について、暴力、服従、集団、パーソナリティといった観点から考えてみる。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみること。	4 時間

第８回	対面	社会集団における「私」―アーレントを手掛かりに（2） 前回の内容を引き続き深めていく。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみること。	4 時間
第９回	対面	集団力動と家族療法（1） 集団に働く見えざる力について洞察する視点を学ぶ。またその展開としての家族療法についても扱う。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみること。	4 時間
第１０回	対面	集団力動と家族療法（2） 前回の内容を引き続き深めていく。 1	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみること。	4 時間
第１１回	対面	集団力動と家族療法（3） 前回の内容を引き続き深めていく。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみること。	4 時間
第１２回	対面	社会心理学の観点から現代を読み解く（1） 現代的なトピックも含め、さまざまなテーマについて社会心理学的な観点から読み解いていく。学校や会社などの組織集団について、ウェブ空間について、また古典や小説テキストも題材にしたい。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみること。	4 時間
第１３回	対面	社会心理学の観点から現代を読み解く（2） 前回の内容を引き続き深めていく。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみること。	4 時間
第１４回	対面	講義のまとめと振り返り（1） これまで学んだ内容を振り返り、その定着を図る。	学期を通して学んだことを総括すべく、これまで配布したレジュメ全体を振り返っておくこと。	4 時間
第１５回	オンデマンド	講義のまとめと振り返り（2） これまで学んだ内容を振り返り、その定着を図る。	学期を通して学んだことを総括すべく、これまで配布したレジュメ全体を振り返っておくこと。	4 時間

科目名	ビジネス交渉	開講年度	2025
担当者	福田　真也	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	経営ビジネスにおいて基礎となる「営業・交渉・提案」について学びます。「ハーバード流交渉学」、「行動経済学」等のエッセンスを通して学修します。		
授業の目的及び概要	本講義では、ビジネス交渉学全般に関する基礎知識を修得します。 ビジネスにおける交渉理論を学修し、提案力・交渉力について考察します。 具体的には、交渉のノウハウとして「ハーバード流交渉学」、「行動経済学」等のエッセンスを活用し、理解を深めます。		
履修条件・留意点	この授業科目は、専門発展科目（コミュニケーション科目群）です。 「交渉」に焦点を当てながら経営ビジネスを学修したい学生の履修を推奨します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・ビジネス過程において最も重要な「営業・交渉・提案」に関する基礎知識を修得します。 ・「ハーバード流交渉学」、「行動経済学」の体系について理解・実践できる。 ・本講義の学習内容を駆使して、実践交渉をすることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業冒頭で前回の授業の振り返りを行います。 コメントシートや理解度テスト等については、適宜、授業内で解説しフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定のテキストは使用しません。 本講義は、配布資料をもとに講義を進行します。	ISBN	.
参考書	交渉の達人ーハーバード流を学ぶ，ディーパック・マルホトラ、マックス・H・ベイザーマン，パンローリング，2016 年. 行動経済学入門，筒井義郎，東洋経済新報社，2017 年.	ISBN	978-4-7759-4163-8 978-4-4923-1497-5

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	20
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	60
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第１回	対面	「ガイダンス」 本講義の目的・目標・授業の進め方、成績評価などについて、授業計画をもとに説明します。 「営業・交渉とビジネス」 ビジネス交渉の基礎について学修します。	（事前学修） 本講義のシラバスを読み込み、受講するにあたってのポイントについて確認しておいて下さい。 （事後学修） テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第２回	対面	「交渉の基本」 自己アピール、会社アピール、商品アピールの実践演習と、「買わない 3 つの疑問」の演習を通じて交渉の基本を学修します。	（事前学修） テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 （事後学修） テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第３回	対面	「営業提案・交渉のプロセス」 ビジネスマナーやコミュニケーションスキルの向上など、営業提案・交渉の実践に必要となる知識を学修します。	（事前学修） テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 （事後学修） テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第４回	対面	「交渉とコミュニケーション」 相手の心の窓を開く話法について、交渉の観点から学修します。	（事前学修） テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 （事後学修） テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第５回	対面	「タイプと価値観」 信頼関係を構築するポイントや影響力を高める態度などについて考察し、タイプと価値観について体系的に学修します。	（事前学修） テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 （事後学修） テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第６回	対面	「ハーバード流交渉学（分配型交渉）」 分配型交渉について、アンカリング、ザッツ・イット・オール、ドア・イン・ザ・フェイスなどの観点から学修します。	（事前学修） テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 （事後学修） テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第７回	対面	「ハーバード流交渉学（統合型交渉）」 統合型交渉について、Win-Win の関係、成長マトリックス分析の観点から学修します。	（事前学修） テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 （事後学修） テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第８回	対面	「第 1 回～第 7 回の学修内容の再確認」 第 1 回～第 7 回までの学修内容を再確認します。これまでの講義内容を確認するとともに、実社会に実在する事例等を取り上げながら、これまで学修してきた理論について復習します。	（事前学修） テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 （事後学修） テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第９回	対面	「提案・交渉演習①」 キーマン分析、人間関係マップ、商品分析などについて学修します。	（事前学修） テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 （事後学修） テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第１０回	対面	「提案・交渉演習②」 仮説とゴール設定、交渉の戦略策定、プロセス確認、リスク分析などについて学修し	（事前学修） テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。	4 時間

		ます。	（事後学修） テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	
第１１回	対面	「提案・交渉演習③」 シナリオ作成や演劇法による提案演習を通じて提案・交渉について学修します。	（事前学修） テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 （事後学修） テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第１２回	対面	「行動経済学基礎」 ナッジ理論などを取り入れながら、行動経済学のノウハウについて学修します。	（事前学修） テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 （事後学修） テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第１３回	対面	「仕掛学基礎」 「つい行動したくなる」を研究する仕掛学を通じて、社会課題を解決するアイデアについて考察します。	（事前学修） テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 （事後学修） テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第１４回	対面	「ビジネス交渉総合」 上司を味方にするコミュニケーション・交渉演習について、事例を通じて学修します。	（事前学修） テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 （事後学修） テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第１５回	オンデマンド	「全体のまとめ」 これまでの学修内容について振り返るとともに、改めて重要なポイントについて確認します。	（事前学修） テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 （事後学修） テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間

科目名	日本経済論	開講年度	2025
担当者	金子　治平	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日本経済の現状を，歴史，制度，事実，理論を関連づけながら説明します．		
授業の目的及び概要	この授業は，日本経済のうちで課題となっているいくつかのトピックを，歴史，制度，事実，理論を組み合わせて理解できるようになることを目的とします．		
履修条件・留意点	授業では，教科書の重要な点などを指摘し，線を引いたり，マークしてもらったりします．かならず，授業には教科書を持参してください． 毎回の講義のあとに，課題として，教科書の各章の末尾にある問題の 1 つを指定してラーニング・ポータルで回答してもらいます．その回答の提出状況を「授業期間中の小テスト，レポート」として評価します．		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・新聞やテレビ・ラジオで報じられている基礎的な経済用語を理解し説明することができる． ・日本経済の現状を，歴史，制度，事実，理論を組み合わせて理解することができる． ・日本経済で課題となっていることがらを説明することができる． ・日本経済の課題を解決する方策について，議論することができる．		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業支援システム「Learning Portal」上で質問を受け付けて，翌週の授業で説明します．		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	大守隆・増島稔編『日本経済読本（第 23 版）』東洋経済新報社，2025 年	ISBN	9784492100400
参考書	宮崎勇・本庄真・田谷禎三（2021）『日本経済図説 第五版』（岩波新書）岩波書店	ISBN	9784004318781

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	0
授業期間中の小テスト、レポート課題等	60
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	40
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって
・テレビ・ラジオ，新聞などのマスコミの報道を，意識的に入手するようにしてください． ・すぐに入手できる断片的な知識よりも，いろいろな事実を関連づけて理解することが大切です．いろいろなことがらを関連づけて考えるように心がけてください．

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第１回	対面	イントロダクション シラバスに記載してある授業の目的，概要，授業を受ける際の留意点，学習目標，成績評価などについて説明します．	事前学習として，教科書の「はしがき」，目次に目を通しておいてください． 事後学習として，各自の講義ノートを読み直して，第 1 回の講義内容に関するラーニング・ポータルのテストを受験してください．	4 時間
第２回	対面	「第 1 章　追い抜かれ続けた 30 年」 教科書の第 1 章をもとに，主に 1990 年代以降の日本経済の特徴について説明します．	事前学習として，教科書の第 1 章を読んでおいてください． 事後学習として，講義ノートと教科書の第 1 章を読み直し，講義中に提示した課題をラーニングポータルで提出してください．	4 時間
第３回	対面	「第 2 章　日本経済の歩み」 教科書の第 2 章をもとに，明治維新から現在までの日本経済の歴史の概要を説明します．	事前学習として，教科書の第 2 章を読んでおいてください． 事後学習として，講義ノートと教科書の第 2 章を読み直し，講義中に提示した課題をラーニングポータルで提出してください．	4 時間
第４回	対面	「第 4 章　増加した政府債務と財政健全化への展望」 教科書の第 4 章をもとに，財政政策とは何か，日本の財政の仕組み，財政の現状と健全化への課題について説明します．	事前学習として，教科書の第 4 章を読んでおいてください． 事後学習として，講義ノートと教科書の第 4 章を読み直し，講義中に提示した課題をラーニングポータルで提出してください．	4 時間
第５回	対面	「第 5 章　異次元緩和の効果とその行方」 教科書の第 5 章をもとに，金融の役割，金融政策と日本銀行の関係，異次元の金融緩和の効果とリスクなどを説明します．	事前学習として，教科書の第 5 章を読んでおいてください． 事後学習として，講義ノートと教科書の第 5 章を読み直し，講義中に提示した課題をラーニングポータルで提出してください．	4 時間
第６回	対面	「第 7 章 日本企業の競争力低下と回復のための課題」 教科書の第 7 章をもとに，日本企業の競争力を貿易構造から確認し，貿易構造に対する海外生産の増加やデジタル化の影響を説明します．	事前学習として，教科書の第 7 章を読んでおいてください． 事後学習として，講義ノートと教科書の第 7 章を読み直し，講義中に提示した課題をラーニングポータルで提出してください．	4 時間
第７回	対面	「第 8 章　人手不足下での労働市場の課題」 教科書の第 8 章をもとに，人手不足と賃金の上昇圧力，働き方の変化と労働市場への影響，雇用慣行の変化と生産性向上に向けた課題を説明します．	事前学習として，教科書の第 8 章を読んでおいてください． 事後学習として，講義ノートと教科書の第 8 章を読み直し，講義中に提示した課題をラーニングポータルで提出してください．	4 時間
第８回	対面	「第 9 章　国民生活の現状と格差問題」 教科書の第 9 章をもとに，日本の家計消費や貯蓄の現状，家計の保有資産の特徴，所得格差と貧困などを説明します．	事前学習として，教科書の第 9 章を読んでおいてください． 事後学習として，講義ノートと教科書の第 9 章を読み直し，講義中に提示した課題をラーニングポータルで提出してください．	4 時間
第９回	対面	「第 10 章　少子高齢化時代の社会保障」 教科書の第 10 章をもとに，少子高齢化と社会保障の現状，年金・医療・介護分野や子育て支援における課題を説明します．	事前学習として，教科書の第 10 章を読んでおいてください． 事後学習として，講義ノートと教科書の第 10 章を読み直し，講義中に提示した課題をラーニングポータルで提出してください．	4 時間
第１０回	対面	「第 11 章　急回復したインバウンドと変動する貿易収支」 教科書の第 11 章をもとに，国際収支とは何か，日本の国際収支の動向，為替レートと日本経済の関係を説明します．	事前学習として，教科書の第 11 章を読んでおいてください． 事後学習として，講義ノートと教科書の第 11 章を読み直し，講義中に提示した課題をラーニングポータルで提出してください．	4 時間
第１１回	対面	「第 12 章　持続可能な社会の実現に向けて」 教科書の第 12 章をもとに，資源・エネルギー事情や環境問題と日本の政策，原子力	事前学習として，教科書の第 12 章を読んでおいてください． 事後学習として，講義ノートと教科書の第 12 章を読み直し，講義中に提示した課題をラーニングポータ	4 時間

		や再生可能エネルギーに関する政策を説明します.	ルで提出してください.	
第１２回	対面	「第 13 章　デジタル経済の進化と日本の課題」 教科書の第 13 章をもとに，デジタル経済の進展，DX（デジタル・トランスフォーメーション），デジタル空間の課題を説明します.	事前学習として，教科書の第 13 章を読んでおいてください. 事後学習として，講義ノートと教科書の第 13 章を読み直し，講義中に提示した課題をラーニングポータルで提出してください.	4 時間
第１３回	対面	「第 14 章　分断が進む世界経済の課題」 教科書の第 14 章をもとに，世界経済や各国・各地域別の経済の動向，グローバル経済の分断化を説明します.	事前学習として，教科書の第 14 章を読んでおいてください. 事後学習として，講義ノートと教科書の第 14 章を読み直し，講義中に提示した課題をラーニングポータルで提出してください.	4 時間
第１４回	対面	「第 15 章　日本経済の再生に向けて」 教科書の第 15 章をもとに，日本経済を再生させるための課題を説明します.	事前学習として，教科書の第 15 章を読んでおいてください. 事後学習として，講義ノートと教科書の第 15 章を読み直し，講義中に提示した課題をラーニングポータルで提出してください.	4 時間
第１５回	オンデマンド	全体の振り返りと定期試験対策	事前学習として，これまでの講義で理解できていない箇所を復習しておいてください. 事後学習として，定期試験に向けて，理解が定着するように繰り返し学習してください.	4 時間

科目名	経済政策概論	開講年度	2025
担当者	前鶴　政和	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日本経済とグローバル経済に関する経済政策の基礎		
授業の目的及び概要	この授業は、日本経済とグローバル経済を通して、一国の経済政策についての理解を深めること、また、世界各国の経済が貿易や投資を通じて相互に影響し合っていることを理解することを目的とします。 　この授業を受講することにより、新聞やテレビ・インターネット等で話題となっている各国の経済諸事象に影響を与える経済政策の知識を身につけ、国際ビジネスや国際機関を含むグローバルキャリアにおいて活かすことができます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①市場の失敗、政府の役割、貿易による利益や関税などの効果を説明できる。 ③GDP の概念や GDP の決定について説明できる。 ④外国為替市場と外国為替レート、国際収支などについて説明できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題については、授業中に講評、解説を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません。配布資料を用いて講義を行います。	ISBN	なし
参考書	①コンパクト　経済学　〔第 3 版〕，井堀利宏，新世社，2024 年 ②経済政策入門，藤川清史 編，法律文化社，2020 年	ISBN	①9784883843893 ②9784589040855

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	30
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	50
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって
授業に積極的に参加し、配布資料と参考書を用いながら予習と復習を行い、経済政策に関する新聞記事についても日頃から目を通しておいてください。参考書①を購入することを推奨します。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	授業の進め方、成績評価等について、ガイダンスを行います。	【予習】シラバスとガイダンスの配布資料を事前に読んでおいてください。	2 時間

			【復習】シラバスとガイダンスの配布資料の内容を読み直し、復習しておいてください。	
第２回	対面	「経済学の考え方」について説明します。	【予習】「経済学の考え方」に関する配布資料及び参考書①（pp. 2-9）を事前に読んでおいてください。 【復習】「経済学の考え方」に関する配布資料及び参考書①（pp. 2-9）を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第３回	対面	「完全競争」について説明します。	【予習】「完全競争」に関する配布資料及び参考書①（pp. 60-63）を事前に読んでおいてください。 【復習】「完全競争」に関する配布資料及び参考書①（pp. 60-63）を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第４回	対面	「市場の失敗：公害」について説明します。	【予習】「市場の失敗：公害」に関する配布資料及び参考書①（pp. 78-84）を事前に読んでおいてください。 【復習】「市場の失敗：公害」に関する配布資料及び参考書①（pp. 78-84）を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第５回	対面	「市場の失敗：情報」について説明します。	【予習】「市場の失敗：情報」に関する配布資料および参考書①（pp. 84-91）を事前に読んでおいてください。 【復習】「市場の失敗：情報」に関する配布資料および参考書①（pp. 84-91）を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第６回	対面	「独占と公的規制」について説明します。	【予習】「独占と公的規制」に関する配布資料および参考書①（pp. 92-96）を事前に読んでおいてください。 【復習】「独占と公的規制」に関する配布資料および参考書①（pp. 92-96）を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第７回	対面	「政府の役割」について説明します。	【予習】「政府の役割」に関する配布資料及び参考書①（pp. 98-105）を事前に読んでおいてください。 【復習】「政府の役割」に関する配布資料及び参考書①（pp. 98-105）を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第８回	対面	「税金の取り方」について説明します。	【予習】「税金の取り方」に関する配布資料及び参考書①（pp. 106-110）を事前に読んでおいてください。 【復習】「税金の取り方」に関する配布資料及び参考書①（pp. 106-110）を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第９回	対面	「GDP の概念」について説明します。	【予習】「GDP の概念」に関する配布資料および参考書①（pp. 132-135）を事前に読んでおいてください。 【復習】「GDP の概念」に関する配布資料および参考書①（pp. 132-135）を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第１０回	対面	「GDP の決定」について説明します。	【予習】「GDP の決定」に関する配布資料および参考書①（pp. 136-137）を事前に読んでおいてください。 【復習】「GDP の決定」に関する配布資料および参考書①（pp. 136-137）を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第１１回	対面	「貿易」について説明します。	【予習】「貿易」に関する配布資料および参考書①（pp. 178-183）を事前に読んでおいてください。 【復習】「貿易」に関する配布資料および参考書①（pp. 178-183）を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第１２回	対面	「国際収支と為替レート」について説明します。	【予習】「国際収支と為替レート」に関する配布資料および参考書①（pp. 184-185）を事前に読んでおいてください。 【復習】「国際収支と為替レート」に関する配布資料	4 時間

			および参考書①（pp.184-185）を読み直し、復習しておいてください。	
第１３回	対面	「貿易と資本移動」について説明します。	【予習】「貿易と資本移動」に関する配布資料および参考書①（pp.186-191）を事前に読んでおいてください。 【復習】「貿易と資本移動」に関する配布資料および参考書①（pp.186-191）を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第１４回	対面	「日本経済の国際化と政府の役割」について説明します。	【予習】「日本経済の国際化と政府の役割」に関する配布資料および参考書①（pp.192-193）を事前に読んでおいてください。 【復習】「日本経済の国際化と政府の役割」に関する配布資料および参考書①（pp.192-193）を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第１５回	オンデマンド	これまでの内容の総復習をオンデマンドで配信します。	【復習】オンデマンド動画を視聴した上で、これまでの学修内容の総復習を行ってください。	6 時間

科目名	外国為替論	開講年度	2025
担当者	高砂　謙二	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	外国為替における全般的な知識の修得		
授業の目的及び概要	この授業では、外国為替の基礎的な知識である外国為替相場の構造と変動要因、為替リスクに対する知識と対処方法について理解することを目標とします。また、外国為替の基礎的な知識に基づき、国際収支、デリバティブ、国際通貨体制等についても解説します。授業では、近年の世界金融危機、ユーロ危機等の国際通貨情勢、暗号資産等に関する事例も取り上げながら理解を深めます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・外国為替相場の構造と変動要因が説明できる。 ・外国為替リスクに対する知識と対処方法を説明できる。 ・外国為替と国際収支の関係を説明できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	小テストについては、授業中に解説及び講評を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、金融機関において営業店や外国部、審査部、経営企画等で 16 年間勤務し、銀行業務全般や国際業務（外国為替リーディング業務、外為与信審査業務、国際経営・貿易相談業務、輸出入貿易書類点検業務）、法務・市場調査・広報等の実務経験を積んできた。本科目では、国際的なマーケットの実態や外国為替相場の特性などについて、こうした実務経験を活かして解説するなど、実践的な教育を行う。		
テキスト	①外国為替の知識＜第 4 版＞，国際通貨研究所（編），日本経済新聞出版社，2018 年	ISBN	①9784532113872
参考書	なし	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	70	
	その他（%）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	この授業ではノートを必携し、必要に応じてメモを取るようにして下さい。また、近年の事例を取り上げるため、常日頃から新聞・ニュース等で関連の情報収集に努めること。事前に教科書で事前学修することが、復習については教科書、講義資料、ノートで授業外の学修を行うことが望まれます。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	講義の概要と今後の授業の進め方につい	【予習】事前学修として、この科目のシラバスを読み	4 時間

		て説明を行う。	込むとともに、外国為替論を受講するにあたってのポイントについて確認しておいて下さい。 【復習】事後学修として、授業での説明部分について、ノートを読み返し、あらためてポイントになるところは何かを考えながら復習して下さい。	
第２回	対面	外国為替の基礎（1）について解説を行います。 ①外国為替の特徴（内国為替と外国為替の違い） ②外国為替相場の読み方（外国為替相場の表示方法・クロスレート） ③直物相場と先物相場（直物為替取引・先物為替取引・直物相場と先物相場の関係）	【予習】事前学修として、教科書（14 頁-25 頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4 時間
第３回	対面	外国為替の基礎（2）について解説を行います。 ①銀行間相場と対顧客相場 ②為替ポジション ③実需取引と投機取引	【予習】事前学修として、教科書（25 頁-32 頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4 時間
第４回	対面	外国為替相場を決めるものについて解説を行います。 ①国際間の経常取引 ②国際間の資本取引 ③中央銀行の為替介入	【予習】事前学修として、教科書（34 頁-42 頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4 時間
第５回	対面	外国為替相場の変動要因について解説を行います。 ①経済的要因・政治的要因・市場心理要因 ②国際収支説・購買力平価説・為替心理説	【予習】事前学修として、教科書（42 頁-59 頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4 時間
第６回	対面	外国為替市場について解説を行います。 ①外国為替市場の参加者 ②外国為替市場の 24 時間取引 ③世界の主要外国為替市場	【予習】事前学修として、教科書（62 頁-72 頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4 時間
第７回	対面	日本の外国為替管理について解説を行います。 ①戦後日本の外国為替管理の歴史 ②国際決済システム（SWIFT 等）	【予習】事前学修として、教科書（72 頁-81 頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4 時間
第８回	対面	外国為替リスク（1）について解説を行います。 ①外国為替リスクとエクスポージャー ②外国為替リスクの種類	【予習】事前学修として、教科書（84 頁-93 頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4 時間
第９回	対面	外国為替リスク管理（2）について解説を行います。 ①外国為替リスクの管理体制 ②外国為替リスクの管理手法	【予習】事前学修として、教科書（94 頁-114 頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4 時間
第１０回	対面	国際収支と外国為替（1）について解説を行います。 ①国際収支統計の見方 ②経常収支と外国為替相場	【予習】事前学修として、教科書（116 頁-134 頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4 時間
第１１回	対面	国際収支と外国為替（2）について解説を行います。 ①国際収支の発展段階説 ②日本の経常収支の構造変化	【予習】事前学修として、教科書（134 頁-147 頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さ	4 時間

			い。	
第１２回	対面	国際通貨制度の変遷（1）について解説を行います。 ①ブレトンウッズ体制 ②固定相場から変動相場 ③変動相場制移行後の外国為替相場（アジア通貨危機、欧州単一通貨ユーロ）	【予習】事前学修として、教科書（150 頁-180 頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4 時間
第１３回	対面	国際通貨制度の変遷（2）について解説を行います。 ①世界金融危機 ②アジア地域金融協力と円の国際化 ③中国経済の台頭と人民元の国際化	【予習】事前学修として、教科書（180 頁-208 頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4 時間
第１４回	対面	暗号資産について解説を行います。 ①暗号資産（仮想通貨） ②ビットコイン事例	【予習】事前学修として、教科書（210 頁-255 頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4 時間
第１５回	オンデマンド	授業全体の総括	【予習】事前学修として、教科書・ノートで事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4 時間